

日本医科大学研究業績年報

第 60 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 60



平成 25 (2013) 年度

April 2013—March 2014

日本医科大学研究業績年報

第 60 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 60

平成 25 (2013) 年度

April 2013 — March 2014

まえがき

学長 田 尻 孝

2013年度の研究業績年報をお送りいたします。毎年この時期になると成績表を受け取る前のような心境でいるのは私だけではないと思います。言うまでもなく研究業績年報は本学の研究機関としての activity を公表するものでもあります。昨年と比較してどうなのか、業績は増えたのか減ったのか、どの教室がどんな仕事をしているのかなど、この年報を見れば一目瞭然です。2013年度の著書数384編は例年に比し激減し、欧文論文も805編と増加した昨年に比し減少し、例年並みとなっております。また和文論文963編、学会発表4,792題と、残念ながらいずれにおいても昨年度より少ないという結果でありました。次年度以降、より一層の努力を期待いたします。

今、エボラ出血熱やイスラム国の問題などの大きな脅威が世界を覆っております。わが国をみれば、隣国との関係や原発問題など山積する政治課題、巨大地震への不安、広島のと砂災害や御嶽山の噴火、年々大型化する台風など、これら全てがわれわれの意識に漠然とした翳りを落としています。しかしわれわれの先人達は古来より大規模な自然災害を幾度となく経験し、戦争などの度重なる国難をも乗り越え現在の発展を築き上げてきました。それは困難な状況の中でも自らがなすべきことをおれずに、ある意味愚直に進めていく、そのような日本人の特性が可能にしたことであると思います。今、本学に限らず研究者に求められているのは不安定な情勢の中でもやるべきことを肅々と進めていくことです。このような中で2014年度のノーベル物理学賞にまた3名の日本人が選ばれたことは私をはじめ日本人にとってこの上ない喜びであります。また本学の研究者にもそれに負けないという気概をもって日々研鑽を重ねていただくことを切に願います。

最後にこの業績年報の編集にご尽力下さいました高橋 浩研究部長ならびに関係各位に謝意を表します。

目 次

〔1〕 基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[医療心理学]	1
2. 自然科学	3
[数 学]	3
[物理学]	4
[化 学]	6
[生物学]	8
3. 外国語	11
[英語]	11
4. スポーツ科学	12
[スポーツ科学]	12

〔2〕 基礎医学

1. 解剖学 (分子解剖学)	17
2. 解剖学 (生体構造学)	22
3. 生理学 (システム生理学)	25
4. 生理学 (生体統御学)	27
5. 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)	29
6. 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	32
7. 薬理学	37
8. 病理学 (解析人体病理学)	41
9. 病理学 (統御機構・腫瘍学)	50
10. 微生物学・免疫学	57
11. 衛生学・公衆衛生学	62
12. 法医学	71
13. 医療管理学	76
14. 基礎医学共同研究利用施設	77
[実験動物管理室]	77
[形態解析共同研究施設]	78
[情報科学センター]	80
[基礎医学放射性同位元素研究室]	81

〔3〕 臨床医学

1. 内科学 (循環器内科学)	85
[付属病院循環器内科]	85
[付属病院老年内科]	108
[多摩永山病院内科、循環器内科]	110
[千葉北総病院循環器内科]	120

2.	内科学（神経内科学）	130
	[付属病院神経内科]	130
	[千葉北総病院神経・脳血管内科]	139
3.	内科学（腎臓内科学）	143
	[付属病院腎臓内科]	143
	[千葉北総病院腎臓内科]	148
4.	内科学（血液内科学）	150
	[付属病院血液内科]	150
	[千葉北総病院血液内科]	155
5.	内科学（消化器内科学）	158
	[付属病院消化器・肝臓内科]	158
	[千葉北総病院消化器内科]	169
6.	内科学（内分泌代謝内科学）	177
	[付属病院糖尿病・内分泌代謝内科]	177
	[千葉北総病院内分泌内科]	182
7.	内科学（呼吸器内科学）	184
	[付属病院呼吸器内科、化学療法科]	184
	[武蔵小杉病院腫瘍内科]	195
	[千葉北総病院呼吸器内科]	198
8.	精神医学	200
	[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]	200
9.	小児科学	209
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科、小児外科、新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	209
10.	放射線医学	220
	[付属病院放射線科、放射線治療科]	220
	[武蔵小杉病院放射線科]	232
	[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]	234
	[多摩永山病院放射線科]	237
	[多摩永山病院放射線治療科]	239
	[千葉北総病院放射線科]	240
11.	皮膚科学	243
	[付属病院皮膚科]	243
	[武蔵小杉病院皮膚科]	247
	[多摩永山病院皮膚科]	249
12.	リハビリテーション学	252
	[千葉北総病院リハビリテーション科]	252
13.	外科学（消化器外科学）	254
	[付属病院消化器外科，一般外科，移植外科]	254
	[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]	296
	[千葉北総病院外科]	306

14.	外科学（乳腺外科学）	316
	[付属病院乳腺科]	316
15.	外科学（内分泌外科学）	321
	[付属病院内分泌外科]	321
16.	外科学（心臓血管外科学）	326
	[付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科]	326
	[武蔵小杉病院心臓血管外科]	332
17.	外科学（呼吸器外科学）	333
	[付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科]	333
	[多摩永山病院呼吸器外科]	336
18.	脳神経外科学	338
	[付属病院脳神経外科]	338
	[武蔵小杉病院脳神経外科]	355
	[多摩永山病院脳神経外科]	361
	[千葉北総病院脳神経外科]	363
19.	整形外科	373
	[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・	
	千葉北総病院整形外科]	373
	[付属病院リウマチ科]	381
20.	産婦人科学	385
	[付属病院女性診療科・産科]	385
	[武蔵小杉病院女性診療科・産科]	395
	[多摩永山病院女性診療科・産科]	397
	[千葉北総病院女性診療科・産科]	404
21.	耳鼻咽喉科学	407
	[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・	
	千葉北総病院耳鼻咽喉科]	407
22.	泌尿器科学	416
	[付属病院泌尿器科]	416
	[武蔵小杉病院泌尿器科]	422
	[多摩永山病院泌尿器科]	424
	[千葉北総病院泌尿器科]	424
23.	眼科学	426
	[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]	426
	[千葉北総病院眼科]	432
24.	麻酔科学	434
	[付属病院麻酔科・ペインクリニック]	434
	[武蔵小杉病院麻酔科]	440
	[多摩永山病院麻酔科]	441
	[千葉北総病院麻酔科]	442

25.	救急医学	444
	[付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター]	444
	[武蔵小杉病院救命救急センター]	462
	[多摩永山病院救命救急センター]	464
	[千葉北総病院救命救急センター]	468
26.	形成外科学	475
	[付属病院形成外科・美容外科]	475
	[武蔵小杉病院形成外科]	490
	[千葉北総病院形成外科]	492
27.	付属病院付置施設等	495
	[付属病院遺伝診療科]	495
	[付属病院心臓血管集中治療科]	496
	[付属病院病理部]	502
	[付属病院中央検査部]	504
	[付属病院薬剤部]	506
	[付属病院生理機能センター]	508
	[付属病院看護部]	510
	[付属病院放射線科技師室]	512
	[付属病院 ME 部]	514
	[ワクチン療法研究施設]	515
	[付属病院東洋医学科]	516
	[ゲノム先端医療部]	523
	[付属病院総合診療センター]	524
28.	武蔵小杉病院付置施設等	526
	[武蔵小杉病院消化器病センター]	526
	[武蔵小杉病院循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、神経内科、動脈硬化・糖尿病・内分泌内科、消化器内科、腫瘍内科]	535
	[武蔵小杉病院心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、内分泌外科]	544
	[武蔵小杉病院中央検査室]	545
	[武蔵小杉病院薬剤部]	546
	[武蔵小杉病院看護部]	547
	[武蔵小杉病院認知症センター]	550
29.	多摩永山病院付置施設等	552
	[多摩永山病院病理部]	552
	[多摩永山病院中央検査室]	553
	[多摩永山病院薬剤部]	555
	[多摩永山病院看護部]	556
	[多摩永山病院消化器科]	558
30.	千葉北総病院付置施設等	569
	[千葉北総病院集中治療室]	569

[千葉北総病院病理部].....	573
[千葉北総病院中央検査室].....	574
[千葉北総病院薬剤部].....	575
[千葉北総病院放射線センター].....	577
[千葉北総病院歯科].....	579
[千葉北総病院看護部].....	580
〔4〕 付置研究施設	
1. 老人病研究所.....	585
[病理部門].....	585
[生化学部門].....	586
[免疫部門].....	588
[疫学部門].....	589
2. 呼吸ケアクリニック.....	593
3. 健診医療センター.....	596
〔5〕 その他	
1. 教育推進室.....	601
2. 学生部.....	602
付表：1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況.....	605
1) 平成 25 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金） 交付決定一覧.....	605
2) 平成 25 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金） 研究分担の交付決定一覧.....	606
3) 平成 25 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 交付決定一覧.....	607
4) 平成 25 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 研究分担の交付決定一覧.....	616
5) 平成 25 年度補助・委託一覧.....	617
6) 平成 25 年度学術賞受賞一覧.....	636
7) 平成 25 年度知的財産一覧（特許権）.....	639
2. 動物実験実施状況.....	641
1) 平成 25 年度教室別動物実験実施予定者数および実験計画書（課題）数 （平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）.....	641
2) 平成 25 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率 （ケージ数を基に算出（％））.....	642
3) 平成 25 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数.....	643
4) 平成 25 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数.....	644
5) 平成 25 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数.....	645

〔1〕 基 礎 科 学

1. 人文科学・社会科学

[医療心理学]

研究概要

医療心理学分野では、高齢者や認知症患者を対象として調査研究および臨床研究を行っている。武蔵小杉病院街ぐるみ認知症相談センターの活動に積極的に関与している。また、国立精神神経医療研究センターと共同研究を進めつつあり、同センターが推進している認知行動療法の普及に積極的に協力しスーパービジョン活動を行っている。社会精神医学、特に法と精神医学の関係を研究テーマとしており、労働災害の判定、医療観察法業務への参加、矯正施設における高齢受刑者の認知機能評価などの臨床研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 下田芳幸¹⁾, 石津憲一郎¹⁾, 樫村正美²⁾ (1) 富山大学, 2) 日本医科大学) : 中学生における感情への評価と学校適応感の関連性についての検討. 心理学研究 2014 ; 84 (6) : 576-584.
- 2) Ishimura I¹⁾, Yamaguchi M¹⁾, Nomura T, Sukigara N²⁾ (1) Tokyo Seitoku University, 2) Student Counselling School) : Effective self-compassionate task for enhancing mental health in japanese students. Internatinal Conference Proceedings of Cognitive and Behaviora Psychology 2014 ; 3 : 48-55.

(2) 総説：

- 1) 野村俊明, 奥村雄介¹⁾ (1) 府中刑務所) : 高齢受刑者の認知機能に関する研究. 矯正医学 2014 ; 62 : 78-79.
- 2) 野村俊明 : 医療倫理・臨床倫理・研究倫理. 生命倫理の教科書 2014 ; 223-257.

著書

- 1) 黒崎 剛¹⁾, 野村俊明 (1) 都留文科大学) : [編集] 生命倫理の教科書 何が問題なのか, 2014 ; ミネルヴァ書房.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 野村俊明 : 刑事施設における精神医療. 日本司法精神医学会 (第9回) (東京), 2013. 5.

(2) 一般講演：

- 1) 野村俊明, 奥村雄介¹⁾ (1) 府中刑務所) : 高齢受刑者の認知機能に関する研究. 日本矯正医学会 (第60回) (東京), 2013. 10.
- 2) Ishimura I¹⁾, Yamagushi M²⁾, Nomura T, Sukigara N³⁾ (1) Tokyou Shoutoku University, 2) Nipponn University, 4) Student Cousseling Room, Nippon school) : Effectiveness of a self-compassionate task for enhancing mental health in Japanese college students. 4th Annal Internatinal Conference on Coqnitue and Behavioral tpsychology (Knala Lumpur), 2014. 2.
- 3) 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 野村俊明, 北村 伸²⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院) : 地域における連携促進を目指して : かかりつけ医を対象とした川崎認知症ケアミーティング開催. 日本認知症予防学会 (第3回) (福岡), 2013. 9.
- 4) 川西智也¹⁾, 根本留美¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 野村俊明, 北村 伸²⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院) : 物忘れをめぐる高齢者とその家族の相互作用の問題に対し, 双方に配慮した家族

療法的介入を行った事例. 日本認知症予防学会 (第3回) (福岡), 2013. 9.

- 5) 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 野村俊明, 北村 伸²⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院): 健常高齢者における物忘れ/認知症ケアのニーズ. 日本認知症ケア学会 (第14回), 2013. 5.
- 6) 石村郁夫¹⁾, 羽鳥健司¹⁾, 山口正寛²⁾, 野村俊明, 鋤柄のぞみ³⁾ (1) 東京成徳大学, 2) 日本大学, 3) 日本医科大学学生相談室): 自己への思いやりを支える個人的特性に関する探索的研究. 日本心理学会 (第77回), 2013. 10.
- 7) 石村郁夫¹⁾, 羽鳥健司¹⁾, 山口正寛²⁾, 野村俊明, 鋤柄のぞみ³⁾ (1) 東京成徳大学, 2) 日本大学, 3) 日本医科大学学生相談室): 自己への思いやりの態度養成が自動思考や心配に及ぼす影響の検討. 日本ヒューマンケア学会 (第15回), 2013. 5.
- 8) Ishimura I¹⁾, Hatori K¹⁾, Asano K²⁾, Yamaguchi M³⁾, Nomura T, Sukigara N⁴⁾ (1) Tokyoo Shoutoku University, 2) Nipponn University, 3) Chiba Univercity, 4) Student Cousseling Room, Nippon Medica School): Effect of self-affermative task for self-compassion on automatic thoughts, perfectinism cognition and worry. The Asian Cognitive Bahavioral Therapy Conference.(12th) (Tokyo), 2013. 11.

2. 自然科学

[数学]

研究概要

偏微分方程式論及び数学的散乱理論が研究対象である。特に、波動方程式やシュレディンガー方程式の散乱現象を数学的に厳密に記述したり正当化したりすることが研究目的である。散乱理論では解の無限の過去と未来の状況を比較する。そのためには定常問題である固有値問題を支配する偏微分作用素のスペクトル構造を調べることが重要となる。次に、定常問題の解を記述する作用素（リゾルベント）の、スペクトルパラメータに関する実軸上への境界値の存在（極限吸収原理）を示し、スペクトル表現を構成して定常波動作用素の存在を示す必要がある。本年は昨年度までに得られた結果（2次元外部領域におけるヘルムホルツ方程式及びシュレディンガー方程式の一樣リゾルベント評価）を日本医科大学紀要に投稿し、2013年11月に出版された。その結果は数学的にはやや不完全な面もあり、その改良を考察してきたが、ようやく満足いく形で結果が得られた。現在専門誌に投稿中である。（中澤）

正の有界作用素に作用素凸な関数を施したとき、作用素不等式の意味で優加法性を持つための作用素の条件を考察した。それに関連して、フレッシュ微分 $Dg(sA)$ (B) が、作用素凸関数 g について、 s に関して増加となるための作用素の条件を考えた。確率、統計の本を執筆した。（儀我）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 中澤秀夫：Uniform Resolvent Estimates for Schrödinger Equations in an Exterior Domain in \mathbb{R}^2 and Their Applications to Scattering Problems. Bull. Lib. Arts & Sci. Nippon Med. Sch., 2013；42：1-12.

(2) 総説：

- 1) 儀我真理子：正規母集団，推定の考え方. 日本医科大学医学会雑誌 2014；10（1）：16-20.

(3) AMS Review：

- 1) 中澤秀夫：Review on the paper MR3023395；“A born approximation for live loads in Navier elasticity” by J.A. Barcelo, M. Folch-Gabayet, A. Ruiz, M.Vilela, S. Perez-Esteva, (SIAM J. Math. Anal. 44 (2012), no. 4, 2824-2846). American Mathematical Society, Math Sci Net, Mathematical Reviews 2014.
- 2) 中澤秀夫：Review on the paper MR3041540；“Inverse boundary value problem for the Schrodinger equation in a cylindrical domain by partial boundary data” by Imanuvilov, O. Yu. and Yamamoto, M. (Inverse Problems 29 (2013), no. 4). American Mathematical Society, Math Sci Net, Mathematical Reviews 2014.
- 3) 中澤秀夫：Review on the paper MR2962865；“A new formula relating localisation operators to time operators” by S. Richard, Tiedra de Aldecoa, Spectral analysis of quantum Hamiltonians, pp. 301-338, Oper. Theory Adv. Appl., 224, Birkh user/Springer Basel AG, Basel, 2012. American Mathematical Society, Math Sci Net, Mathematical Reviews 2013.

(4) 研究集会報告集 (Proceedings)：

- 1) 中澤秀夫：摩擦項を伴う波動方程式に関する注意. Seminar Notes of Mathematical Sciences 2013；14：64-73.

著書

- 1) 儀我真理子：〔自著〕確率・統計の基礎. 確率・統計の基礎, 2014；pp1-224, ムイスリ出版.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 中澤秀夫, 望月 清¹⁾ (1) 首都大学東京名誉教授, 中央大学理工学部) : 2次元外部領域における磁場付き Schrödinger 作用素に対する一様リゾルベント評価. 日本数学会 関数方程式論分科会 (学習院大学), 2014. 3.

[物理学]

研究概要

今年度の研究概要は以下の通りである. 1. キサンチン酸化還元酵素において, レセプターリガンド相互作用に関する研究を継続して行っている. これまでは, 日本発の阻害剤で新薬として認可されたばかりの Febuxostat をリガンドとして選んで研究を行ってきたが, 従来の研究を継続すると共に, 本年度より新たな structure-based のリガンドとして, BOF に着目した. 生化学的な実験 (共同研究者が担当) と分子動力学の計算の両面から, 「BOF と Febuxostat の阻害機構の共通点と相違点」という視点で研究を行っている. (菊地・藤崎) 2. 奈良女子大の戸田准教授と共同で SNase というタンパク質の分子動力学計算とその時系列解析を行い, その結果を奈良先端大の片岡教授らの実験グループの結果と比較している. また, 小さなタンパク質シニョリンのパスサンプリングを行い, その非平衡軌道から動的な反応座標を取り出すための解析を行っている. (藤崎) 3. 大きな分子に関する振動量子ダイナミクスを効率的に可能とする階層 (tier) モデルの開発を続けている. Telluride の研究会 (workshop) で口頭発表し, 実験家の Rubtsov 氏との議論も行った. 現在, 論文や解説記事をまとめている. (藤崎・菊地) 4. レアイベント研究会の立ち上げに参加し, 関連研究会 (@統計数理研究所) のオーガナイザーや雑誌 (統計数理) の企画などを行った. また, レアイベントの基礎理論を解説している Daniel Zuckerman の本の翻訳も行った. (藤崎) なお, 1 に関しては科研費基盤 C, 2 に関しては挑戦的萌芽研究の助成を受けている.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Fujisaki H¹⁾, Shiga M²⁾, Moritsugu K³⁾, Kidera A³⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) Japan Atomic Energy Agency, 3) Yokohama City University) : Multiscale enhanced path sampling based on the Onsager-Machlup action : Application to a model polymer. J. Chem. Phys. 2013 ; 139 : 054117-1-054117-9.

(2) 総説：

- 1) 藤崎弘士¹⁾ (1) 日本医科大学 物理学教室) : 分子系に対するパスサンプリングについて. 分子シミュレーション研究会会誌アンサンプル 2014 ; 16 (1) : 8-15.
- 2) 藤崎弘士¹⁾ (1) 日本医科大学 物理学教室) : 生体分子の構造変化に関する計算物理・化学的アプローチ. 日本医科大学医学会誌 2013 ; 9 (4) : 202-206.
- 3) 藤崎弘士¹⁾ (1) 日本医科大学 物理学教室) : タンパク質へのリガンド結合に関する計算物理・化学的アプローチ. 日本医科大学医学会誌 2013 ; 9 (2) : 135-139.

(3) 研究報告書：

- 1) 菊地浩人¹⁾ (1) 日本医科大学 物理学教室) : 汎用性のある分子振動の B 行列作成方法と力定数の座標変換方法に関する考察. 日本医科大学基礎科学紀要 2013 ; 43 : 37-85.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Fujisaki H¹⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School) : Theoretical approaches to vibrational quantum dynamics and conformational change of molecules. International workshop on vibrational Dynamics (Telluride Science Research Center, Colorado, USA), 2013. 7.
- 2) Fujisaki H¹⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School) : Path search and path sampling methods for rare events. レアイベントの理論科学ワークショップ (東京大学本郷キャンパス), 2014. 1.
- 3) Fujisaki H¹⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School) : Path search and path sampling problems for biomolecules. Workshop on Rare Event Sampling and Related Topics I (Institute for Mathematical Statistics, Tokyo), 2014. 3.

(2) 一般講演：

- 1) Fujisaki H¹⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School) : Theoretical investigation of vibrational energy transfer using the tier model with ab initio potential energy surfaces. Institute for Molecular Science Workshop on “Hierarchical Molecular Dynamics : From Ultrafast Spectroscopy to Single Molecule Measurements” (Okazaki Conference Center), 2013. 5.
- 2) 藤崎弘士¹⁾, 富士香奈²⁾, 戸田幹人²⁾ (1) 日本医科大学 物理学教室, ²⁾ 奈良女子大学) : タンパク質シニョリンの構造変化パスサンプリング. 日本物理学会秋季大会 (徳島大学), 2013. 9.
- 3) 富士香奈¹⁾, 関嶋政和²⁾, 藤崎弘士³⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 奈良女子大学, ²⁾ 東京工業大学, ³⁾ 日本医科大学 物理学教室) : 生体分子の分子動力学に対する時系列解析 : 集団運動の揺らぎと構造変化の関係を探る IV. 日本物理学会秋季大会 (徳島大学), 2013. 9.
- 4) 岸田直子¹⁾, 藤崎弘士²⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 奈良女子大学, ²⁾ 日本医科大学 物理学教室) : シグナル伝達に関与する PDZ ドメインの分子動力学に対する時系列解析 3. 日本物理学会秋季大会 (徳島大学), 2013. 9.
- 5) Kikuchi H¹⁾, Fujisaki H¹⁾, Furuta T²⁾, Okamoto K³⁾, Nishino T⁴⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School, ²⁾ Tokyo Institute of Technology, ³⁾ Department of Biochemistry, Nippon Medical School, ⁴⁾ University of Tokyo) : Mutation studies on the mammalian and the bacterial XORs with inhibitors. The 51st Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (Kyoto), 2013. 10.
- 6) Fuji K¹⁾, Sekijima M²⁾, Fujisaki H³⁾, Toda M¹⁾ (1) Nara Women's University, ²⁾ Tokyo Institute of Technology, ³⁾ Department of Physics, Nippon Medical School) : Time-series analysis of molecular dynamics : Conformational change and dynamics of collective behavior. The 51st Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (Kyoto), 2013. 10.
- 7) Fujisaki H¹⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School) : Multiscale ideas for path sampling. International Workshop on Modeling Rare Events in Complex Physical Systems (National University of Singapore), 2013. 11.
- 8) Fuji K¹⁾, Fujisaki H²⁾, Toda M¹⁾ (1) Nara Women's University, ²⁾ Department of Physics, Nippon Medical School) : Time series analysis of molecular dynamics simulation -Collective behavior and conformational change. Biophysical Society 58th Annual Meeting (San Francisco), 2014. 2.
- 9) 藤崎弘士¹⁾, 富士香奈²⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 日本医科大学 物理学教室, ²⁾ 奈良女子大学) : タンパク質シニョリンの構造変化パスサンプリング II. 日本物理学会総会 (東海大学), 2014. 3.
- 10) 高見利也¹⁾, 下川倫子²⁾, 藤崎弘士³⁾, 小林泰三¹⁾ (1) 九州大学, ²⁾ 千葉大学, ³⁾ 日本医科大学 物理学教室) : 身近な非線形現象からマルチスケール解析へ. 日本物理学会総会 (東海大学), 2014. 3.
- 11) 岸田直子¹⁾, 藤崎弘士²⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 奈良女子大学, ²⁾ 日本医科大学 物理学教室) : シグナル伝達に関与する PDZ ドメインの分子動力学データに対する時系列解析 4. 日本物理学会総会 (東海大学), 2014. 3.

- 12) 富士香奈¹⁾, 藤崎弘士²⁾, 古田忠臣³⁾, 芝 るみ⁴⁾, 山口真理子⁴⁾, 戸田幹人¹⁾ (¹⁾ 奈良女子大学, ²⁾ 日本医科大学 物理学教室, ³⁾ 東京工業大学, ⁴⁾ 奈良先端科学技術大学院大学): 核酸分解酵素 Staphylococcal nuclease の分子動力学に対する時系列解析 活性低下における水, リガンド, ループの関係性. 日本物理学会総会 (東海大学), 2014. 3.

[化学]

研究概要

中村: (1) フラーレン誘導体の合成及び, その HIV 逆転写酵素阻害, アポトーシス誘導などの生物活性に関する研究. (2) 薬物代謝酵素シトクロム P450 によるフェノール類の代謝反応機構の解明及び, 新規代謝物の探索. (3) 天然物を規範とした抗酸化物質のデザイン・合成及び, 抗酸化作用との構造活性相関. 菅原: アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルベン系化合物の合成及び, 不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成. (1) 生理活性を有するラクトン類の合成. (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成. 永井: 2, 2'-ビピリジンまたは 1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学. (1) 錯体の合成. (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構. (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究. (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究. 武田: イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究. (1) 弱酸性陽イオン交換体に対するアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動. (2) 弱酸性陽イオン交換体を用いるジルコニウム (IV), ハフニウム (IV), および他の金属の三成分分離 (3) イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の回収と定量.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Yasuda D¹⁾, Takahashi K¹⁾, Kakinoki T¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Ohe T¹⁾, Nakamura S, Mashino T¹⁾ (¹⁾ Dept Pharm Sci, Keio Univ): Synthesis, radical scavenging activity and structure-activity relationship of uric acid analogs. *Med Chem Commun* 2013; 4 (3): 527-529.
- 2) Shoji M¹⁾, Takahashi E²⁾, Hatakeyama D¹⁾, Iwai Y¹⁾, Morita Y¹⁾, Shirayama R¹⁾, Echigo N¹⁾, Kido K²⁾, Nakamura S, Mashino T³⁾, Okutani T¹⁾, Kuzuhara T¹⁾ (¹⁾ Fac Pharm Sci, Tokushima Bunri Univ, ²⁾ Inst Enz Res, Univ Tokushima, ³⁾ Dept Pharm Sci, Keio Univ): Anti-Influenza Activity of C60 Fullerene Derivatives. *PLOS ONE* 2013; 8 (6): e66337.
- 3) Yasuda D¹⁾, Takahashi K¹⁾, Ohe T¹⁾, Nakamura S, Mashino T¹⁾ (¹⁾ Dept Pharm Sci, Keio Univ): Antioxidant activities of 5-hydroxyoxindole and its 3-hydroxy-3-phenacyl derivatives: The suppression of lipid peroxidation and intracellular oxidative stress. *Bioorg Med Chem* 2013; 21 (24): 7709-7714.

(2) 総説:

- 1) 中村成夫: 活性酸素と抗酸化物質の化学. *日医大医会誌* 2013; 9 (3): 25-30.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Fujita R¹⁾, Maruyama K¹⁾, Ohe T¹⁾, Nakamura S, Mashino T¹⁾ (¹⁾ Dept Pharm Sci, Keio Univ): Radical scavenging and lipid peroxidation suppressive activity of 3-pyridinylinden-2-ols. *Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International (17th)* (Kyoto), 2014. 3.
- 2) 藤田亮輔¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (¹⁾ 慶應大・薬): 新規抗酸化剤 β -ケトエステル型

- インドール誘導体の創製. 日本酸化ストレス学会学術集会 (第 66 回) (名古屋), 2013. 6.
- 3) 安田大輔¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): アルキル置換フェナシル基を有する 5-ヒドロキシオキシインドール誘導体の H₂O₂ 誘発細胞死に対する細胞保護効果. 日本酸化ストレス学会学術集会 (第 66 回) (名古屋), 2013. 6.
 - 4) 片岡裕樹¹⁾, 黒須寛貴¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): 抗 HCV 薬を目指した立体異性体のないフラレン誘導体のデザインと合成. 日本薬学会関東支部大会 (第 57 回) (東京), 2013. 10.
 - 5) 安野拓実¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): 抗 HIV 及び抗がん活性を有する新規二置換型フラレン誘導体の創製. 日本薬学会関東支部大会 (第 57 回) (東京), 2013. 10.
 - 6) 安野拓実¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): 抗 HIV 薬を目指したピリジン側鎖を有するプロリン型フラレン誘導体の創製. メディシナルケミストリーシンポジウム (第 31 回) (広島), 2013. 11.
 - 7) 大江知之¹⁾, 北川原弓奈¹⁾, 中村文子¹⁾, 橘久美子¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): 肝毒性を示す医薬品の代謝的活性化を回避した創薬アプローチ: ベンズプロマロンおよびラベタロールの新規反応性代謝物の同定と肝毒性との関連. メディシナルケミストリーシンポジウム (第 31 回) (広島), 2013. 11.
 - 8) 藤田亮輔¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): 2-Pyridinylvinylalcohol 型抗酸化剤の合成と構造活性相関. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.
 - 9) 渡部匡史¹⁾, 中村成夫, 大江知之²⁾, 増野匡彦²⁾, 賀川裕貴¹⁾, 藤室雅弘¹⁾ (1) 京都薬大, ²⁾ 慶應大・薬, ³⁾ 山梨大・生命): カボジ肉腫関連ヘルペスウイルス誘導性リンパ腫を標的とした化学療法の探索. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.
 - 10) 亀山実佳子¹⁾, 小川香菜子¹⁾, 丸山しおり¹⁾, 安田大輔¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): 蛍光標識化フラレン誘導体の創製. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.
 - 11) 海東和麻¹⁾, 坂口智己¹⁾, 小野尚志¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 田崎嘉一²⁾, 増野匡彦 (1) 慶應大・薬, ²⁾ 旭川医大・病院薬): 抗パーキンソン病作用を有する新規オキシカム系化合物の合成. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.
 - 12) 中村文子¹⁾, 櫻井美希¹⁾, 北川原弓奈¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): ラベタロールの代謝活性化機構の解析. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.
 - 13) 安田大輔¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): 5-ヒドロキシオキシインドール誘導体の細胞内酸化ストレス抑制効果. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.
 - 14) 片岡裕樹¹⁾, 秋葉智紘¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): HCV RNA ポリメラーゼ阻害活性と抗酸化活性を有するフラレン誘導体の創製. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.
 - 15) 白山里久¹⁾, 庄司正樹¹⁾, Sriwilaijaroen N^{2,3)}, 蟹江 治⁴⁾, 中村成夫, 増野匡彦⁵⁾, 高橋悦久⁶⁾, 木戸 博⁶⁾, 森田由香¹⁾, 畠山 大¹⁾, 葛原 隆¹⁾ (1) 徳島文理大・薬, ²⁾ 中部大・生命健康科, ³⁾ サマサット大, ⁴⁾ 東海大・糖鎖科学研, ⁵⁾ 慶應大・薬, ⁶⁾ 徳島大・酵素研): 漢方薬, シアロ糖鎖を含む誘導体及びフラレンによるインフルエンザ RNA ポリメラーゼ PA エンドヌクレアーゼ活性の阻害. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.
 - 16) 池 貴幸¹⁾, 横田智史¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): 新規環状ジペプチド誘導体のラジカル消去活性. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.
 - 17) 安野拓実¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬): 抗 HIV 及び抗がん活性を有する新規ピリジニウム型フラレン誘導体の創製. 日本薬学会 (第 134 年会) (熊本), 2014. 3.

[生物学]

研究概要

本教室では、遺伝子操作が容易なアフリカツメガエルを実験動物として用い、組織幹細胞に焦点を当て、脊椎動物共通の器官再生の分子メカニズムの解明に取り組んでいる。この他に、植物生理学の分野でも継続した研究を行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。1) ツメガエルの消化管では、変態期に甲状腺ホルモンの作用により幹細胞のニッチが形成され、幼生上皮の一部が組織幹細胞へと脱分化する。このため、変態期の消化管は、幹細胞ニッチの研究に恰好なモデル系を提供している。今年度はニッチの分子的基盤を明らかにするため、幹細胞が出現する変態最盛期およびその前後の時期から小腸を摘出し、幹細胞が由来する上皮組織とそれ以外の間葉系組織とに分離し、各組織の遺伝子の発現変動を cDNA microarray により網羅的に解析した。その結果、幹細胞の出現と同時に発現が変化する複数の遺伝子を同定し、その多くが組織特異的な発現パターンを示すことを明らかにした (Endocrinology, 2013)。これらの中には Notch や Wnt などのシグナル伝達経路に関わるものが含まれている。さらに、*Hes* 相同遺伝子である *hairy-1* の幹細胞特異的発現と *hairy-2b* の結合組織特異的発現が、ともに甲状腺ホルモンにより Notch 経路を介して促進されることを確かめた。Notch 経路が幹細胞ニッチの形成に果たす役割をさらに追究するため、Notch のリガンドについても現在解析を進めている。(岡, 長谷部) 2) 近年開発が進んでいるトランスジェニック技術を使って、性決定の研究にも取り組んでいる。アンドロゲン受容体を発現するトランスジェニックカエルを作製し、ホルモンによる post-genetic な性決定機構について解析中である。(早稲田大学・中村正久教授らとの共同研究) 3) 紅藻の系統分類とカロテノイドの種類・分布との関係を研究している。シアノバクテリアが葉緑体として共生した紅藻は、 β -カロテンとゼアキササンチン、さらにアンテラキササンチンあるいはルテインを持つ三系統に分けられた。このカロテノイド分布は、最近確立した紅藻の系統分類とも一致することが判った。カロテノイドの差異は生合成の上で2~3個の酵素(遺伝子)の獲得で説明できるが、これらの遺伝子の由来はシアノバクテリアではなく、まだ不明である。古細菌が持つバクテリオルベリンの生合成遺伝子をほぼ同定できた。他にも国内外の数研究室とシアノバクテリアや植物などのカロテノイドの性質や機能に関する共同研究をしている。(高市)

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kim Y¹⁾, Kim S¹⁾, Um J¹⁾, Kim K¹⁾, Choi S²⁾, Um B³⁾, Kang S³⁾, Kim J⁴⁾, Takaichi S, Song S⁵⁾, Lee C⁶⁾, Kim H⁶⁾, Kim K⁷⁾, Nam K¹⁾, Lee S⁴⁾, et al. (1) Sookmyung Women's Univ, (2) Gangneung Science Industry Found, (3) KIST Gangneung Inst, (4) Seoul National Univ, (5) National Inst Crop Sci, (6) Pusan National Univ, (7) Kyungpook National Univ) : Functional implication of β -carotene hydroxylase in soybean nodulation. *Plant Physiol* 2013 ; 162 (3) : 1420-1433.
- 2) Tamiru M^{1,2)}, Abe A^{1,2)}, Yoshida K¹⁾, Takagi H¹⁾, Takagi H^{1,3)}, Fujisaki K¹⁾, Undan J^{1,3)}, Rakshit S¹⁾, Takaichi S, Jikumaru Y⁴⁾, Yokota T⁴⁾, Terry M^{1,5)}, Terauchi R¹⁾ (1) Iwate Biotechnol Res Center, (2) Iwate Agricultural Res Center, (3) Iwate Univ, (4) Teikyo Univ, (5) Univ Southampton) : The tillering phenotype of the rice plastid terminal oxidase (PTOX) loss-of-function mutant is associated with strigolactone deficiency. *New Phytologist* 2014 ; 204 (4) : 116-131.
- 3) Sun G¹⁾, Heimeier R¹⁾, Fu L¹⁾, Hasebe T, Das B¹⁾, Ishizuya-Oka A, Shi Y¹⁾ (1) LGRD/NICHD/NIH) : Expression profiling of intestinal tissues implicates tissue-specific genes and pathways essential for thyroid hormone-induced adult stem cell development. *Endocrinology* 2013 ; 154 (11) : 4396-4407.

(2) 総説:

- 1) Hasebe T, Fu L¹⁾, Miller T¹⁾, Zhang Y¹⁾, Shi Y¹⁾, Ishizuya-Oka A (1) LGRD/NICHD/NIH) : Thyroid

hormone-induced cell-cell interactions are required for the development of adult intestinal stem cells. *Cell Biosci* 2013 ; 3 (1) : e18.

著 書

- 1) Takaichi S, Murakami A¹, Mochimaru M² (¹ Kobe Univ, ² Komawa Univ) : [分担] All of *a*-carotene and its derivatives have a sole stereochemistry?. *Photosynthesis Research for Food, Fuel and Future* (T Kuang, C Lu, L Zhang), 2013 ; pp135-138, Springer & Zhejiang University Press.
- 2) Takaichi S : [共著] Tetraterpenes : Carotenoids. *Natural Products : Phytochemistry, Botany and Metabolism of Alkaloids, Phenolics and Terpenes* (KG Ramawat, JM Merillon), 2013 ; pp3251-3283, Springer.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 岡 敦子 : 甲状腺ホルモンが制御する小腸上皮幹細胞の発生 : 変態現象をモデルとした進化発生学的考察. 日本甲状腺学会学術集会 (第 56 回) (和歌山), 2013. 11.

(2) ワークショップ :

- 1) 高市真一 : カロテノイドと抗酸化作用 (活性酸素の生理機能とその制御機構). 日本遺伝学会 (第 85 回) (横浜), 2013. 9.

(3) 一般講演 :

- 1) 草間友里¹, 井上修平¹, 園池公毅², 高市真一, 西山佳孝¹ (¹ 埼玉大院理工, ² 早大教育) : シアノバクテリア光化学系 II の光防御機構におけるカロテノイドの役割. 日本光合成学会および公開シンポジウム (第 4 回) (名古屋), 2013. 5.
- 2) Yatsunami R¹, Ando A¹, Yang Y¹, Takaichi S, Kohno M¹, Matsubara Y¹, Fukui T¹, Nakasone K², Fujita N³, Sekine M³, Takashina T⁴, Nakamura S¹ (¹ Tokyo Inst Technol, ² Kinki Univ, ³ Natl Inst Technol Eval, ⁴ Toyo Univ) : Characterization of *crtI* homologs and antioxidant capacity of carotenoids from extremely halophilic archaeon *Haloarcula japonica*. 2013 Halophiles Conference (Storrs), 2013. 6.
- 3) 高市真一 : カロテノイドから見た光合成の進化. 光合成の色素系と反応中心に関するセミナー (第 21 回) (名古屋), 2013. 7.
- 4) 八波利恵¹, 安藤 藍¹, 楊 影¹, 高市真一, 河野雅弘¹, 松村有里子¹, 福居俊昭¹, 仲宗根薫², 高品知典³, 中村 聡¹ (¹ 東工大院生命理工, ² 近畿大工, ³ 東洋大生命科) : *Haloarcula japonica* のゲノム上に見出された 2 つのフィトエンデサチユラーゼ遺伝子ホモログの解析. 日本 Archaea 研究会 (第 26 回) (東京), 2013. 7.
- 5) Takaichi S, Ucida H¹, Hirose E², Mochimaru M³, Murakami A¹ (¹ Kobe Univ, Res Cent Inland Seas, ² Univ Ryukyus, ³ Komazawa Univ) : Carotenoid composition including *a*-carotene of unusual cyanobacteria with unique chlorophylls : *Acaryochloris* (Chl *a/d*), *Prochlorococcus* (DV-Chl *a/b*), *Prochlorothrix* (Chl *a/b*) and *Prochloron* (Chl *a/b*). International Congress on Photosynthesis Research (16th) (St. Louis), 2013. 8.
- 6) Sato R¹, Takaichi S, Ohta H¹, Masuda S¹ (¹ Tokyo Inst Technol) : Characterization of a novel gene LAP1 conserved in oxygenic phototrophs that involved in non-photochemical quenching. International Congress on Photosynthesis Research (16th) (St. Louis), 2013. 8.
- 7) 高市真一, 横山亜紀子¹, 内田博子², 村上明男² (¹ 筑波大・生命環境系, ² 神戸大・内海域センター) : 紅色植物門のカロテノイド組成と生合成経路. 日本植物学会 (第 77 回) (札幌), 2013. 9.
- 8) Furubayashi M¹, Ikezumi M¹, Takaichia S, Maoka T², Saito K¹, Tobias A³, Umeno D¹ (¹ Chiba Univ, ² Res Inst Production Develop, ³ DuPont Central Research Develop) : A highly specific synthetic metabolic

pathway assembled from promiscuous enzymes. *Enzyme Engineering : Emerging Topics in Enzyme Engineering* (22nd) (Toyama), 2013. 9.

- 9) 楊 影¹⁾, 八波利恵¹⁾, 安藤 藍¹⁾, 高市真一, 河野雅弘¹⁾, 松村有里子¹⁾, 福居俊昭¹⁾, 中村 聡¹⁾ (1) 東工大院生命理工) : 2つのフィトエンデサチュラーゼが関与する *Haloarcula japonica* カロテノイド生合成系. バイオ関連化学シンポジウム (第7回) (名古屋), 2013. 9.
- 10) 高市真一, 横山亜紀子¹⁾, 内田博子²⁾, 村上明男²⁾ (1) 筑波大・生命環境系, 2) 神戸大・内海域センター) : 紅藻のカロテノイド組成と生合成経路: カロテノイドと系統分類. カロテノイド研究談話会 (第27回) (津), 2013. 9.
- 11) 八波利恵¹⁾, 安藤 藍¹⁾, 楊 影¹⁾, 高市真一, 河野雅弘¹⁾, 松村有里子¹⁾, 福居俊昭¹⁾, 中村 聡¹⁾ (1) 東工大院生命理工) : 高度好塩性古細菌 *Haloarcula japonica* に存在する2つのカロテノイド生合成経路. カロテノイド研究談話会 (第27回) (津), 2013. 10.
- 12) 山田規子¹⁾, 田中 歩^{2,3)}, 堀口健雄¹⁾ (1) 北大院理, 2) 北大低温研, 3) JST/CREST) : 底生性渦鞭毛藻における生活形態依存的に生成される光合成色素の多様性とその機能. 日本藻類学会 (第38回) (船橋), 2014. 3.
- 13) 草間友里¹⁾, 井上修平¹⁾, 園池公毅²⁾, 高市真一, 西山佳孝¹⁾ (1) 埼玉大院理工, 2) 早大教育) : シアノバクテリアの光障害防御機構における熱放散の役割. 日本植物生理学会年会 (第55回) (富山), 2014. 3.
- 14) 楊 影¹⁾, 八波利恵¹⁾, 安藤 藍¹⁾, 三横伸弘¹⁾, 高市真一, 福居俊昭¹⁾, 中村 聡¹⁾ (1) 東工大院生命理工) : *Haloarcula japonica* の C₅₀ カロテノイド生合成機構の解析: c0507/c0506/c0507 遺伝子クラスターの役割. 日本農芸化学会 2014 年度大会 (川崎), 2014. 3.
- 15) 八波利恵¹⁾, 楊 影¹⁾, 安藤 藍¹⁾, 三横伸弘¹⁾, 高市真一, 福居俊昭¹⁾, 中村 聡¹⁾ (1) 東工大院生命理工) : 高度好塩性古細菌の C₅₀ カロテノイド生合成機構の解明: 遺伝子破壊株の構築と精製カロテノイドの分析. 日本化学会第94春期年会 (名古屋), 2014. 3.
- 16) 長谷部孝, 梶田満子¹⁾, 岡 敦子 (1) 老研・分子生物) : アフリカツメガエル変態期の小腸における Hairy1 と Hairy2b の発現は Notch シグナル依存的である. 日本動物学会大会 (第84回) (岡山), 2013. 9.
- 17) 岡 敦子, 長谷部孝: アフリカツメガエル小腸上皮の脱分化機構: Wnt5a/Ror2 シグナルの関与. 日本動物学会大会 (第84回) (岡山), 2013. 9.
- 18) 児玉万穂¹⁾, 藤井 淳²⁾, 松尾安希²⁾, 長谷部孝, 岡 敦子, 中村正久¹⁾ (1) 早大・教育・生物, 2) 早大院・先進理工・生命理工) : アンドロゲンとその受容体はツチガエルの性を決める?. 日本動物学会大会 (第84回) (岡山), 2013. 9.

3. 外国語

[英語]

研究概要

＜言語と表現＞言語表現に反映された思考様式のパターンを研究する。また、多様な分野における多様な目的に応じた言語表現のパターンを研究する。主に英語および英語文化を取り上げるが、副次的に、日本語および日本文化との比較を行う。事例の収集と観察に基づくテキスト分析の方法を採用する。＜文学研究＞科学研究費受領中のアイリッシュネスに関する研究課題を中心に展開した。小説と旅行記の描写をとおしてフィクションと現実との差異を読み込むことで、時代によって変化するアイリッシュネスの一側面を明らかにすることができた。研究総括の方向性を模索しながら、個別の問題を扱った年度となった。なお、国際アイルランド文学協会および日本アイルランド協会において、学会運営や雑誌編集にもかかわった。そのほか、19世紀小説の話法に注目した文学教育の方法について研究を進めており、来年度論考を公にする方向である。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Nakamura T : Urban Misery in Fiction and Reality during the Decade of Controversy over the Irish Poor Law. International Association for the Study of Irish Literatures (37th Conference) (Queen's University Belfast, Belfast, UK), 2013. 7.
- 2) Sakimura K, Parker M ⁽¹⁾ 京都工芸繊維大学) : Junior Faculty Members and the Help They Need (The Next Step in Writing Centers). The Symposium on Writing Centers in Asia (Fifth), International Writing Center Association (The National Graduate Institute for Policy Studies, Tokyo), 2013. 4.

4. スポーツ科学

研究概要

武藤：1) 日本における健康づくりに貢献しているラジオ体操の更なる普及・推進を目的に、ラジオ体操を継続的に実施した場合、身体諸機能、栄養等にどのような効果を与えるかについて、全国8地域においてラジオ体操を継続的に行っている高齢者を対象に、調査研究を実施した（(財)簡易保険加入協会より委託調査研究）。2) 「健康運動教室」に参加する高齢者を対象に、体格・生活活動力等を縦断的に調査している。運動習慣は生活活動力の維持または低下の遅延に役立ち、さらに脳の機能年齢にも好影響を及ぼすことが示唆された。3) カンボジア・シエムリアップにおいて青少年の体格・体力、生活習慣、生活環境等の調査研究を継続的に行っている。

研究業績

論文

(1) 研究報告書：

- 1) 武藤三千代，渡部隼二¹⁾，若山葉子²⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学)：今年度の形態・生活活動力測定結果について。平成25年度高齢者における健康維持増進のための総合的追及研究報告書 2013；3-7.
- 2) 若山葉子¹⁾，武藤三千代，勝又聖夫¹⁾，川田智之¹⁾ (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学)：高齢者の血圧・血液生化学値の検討：肥満の有無別による検討。平成25年度高齢者における健康維持増進のための総合的追及研究報告書 2013；8-10.

(2) 研究報告：

- 1) 川守田千秋¹⁾，渡部隼二¹⁾，武藤三千代 (1) 神奈川県立保健福祉大学)：高齢女性の生活活動力と主観的健康感との関係。運動とスポーツの科学 2013；19 (1)：177-183.

著書

- 1) 渡部隼二¹⁾，武藤三千代，渡部月子¹⁾，佐久間博子²⁾，荻山美知子³⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 横浜女子短期大学，³⁾ 体操指導者)：〔共著〕高齢者向けラジオ体操第1（立位）高齢者向けラジオ体操第1（座位）体操例。高齢者向けラジオ体操，2013；pp4-33，健康サポート研究会。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 武藤三千代：高齢者における体力測定の実際とデータの活用について（体力・運動能力テストを活かす工夫）。日本体育学会第64回大会（滋賀），2013. 8.

(2) 一般講演：

- 1) 武藤三千代，渡部隼二¹⁾，渡部月子¹⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学)：全国におけるラジオ体操実施の実態について。日本運動・スポーツ科学学会第20回記念大会（横浜），2013. 6.
- 2) 武藤三千代，渡部隼二¹⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学)：ラジオ体操が生理機能に与える効果について。日本体育学会第64回大会（滋賀），2013. 8.
- 3) 武藤三千代，渡部隼二¹⁾，渡部月子¹⁾，若山葉子²⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学)：全国におけるラジオ体操実施の実態と効果について。第72回日本公衆衛生学会総会（三重），2013. 10.

- 4) 若山葉子¹⁾, 勝又聖夫¹⁾, 川田智之¹⁾, 武藤三千代, 渡部録二²⁾, 川守田千秋²⁾, 渡部月子²⁾ (1) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, 2) 神奈川県立保健福祉大学): 中高年者を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績: 肥満の有無別による検討. 第72回日本公衆衛生学会総会(三重), 2013. 10.
- 5) 渡部月子¹⁾, 渡部録二¹⁾, 武藤三千代 (1) 神奈川県立保健福祉大学): 健康タウン推進モデル地域支援事業における「ラジオ体操・みんなの体操」の課題. 第72回日本公衆衛生学会総会(三重), 2013. 10.
- 6) 若山葉子¹⁾, 川田智之¹⁾, 武藤三千代, 渡部録二²⁾ (1) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, 2) 神奈川県立保健福祉大学): 中高年者を対象とした「運動教室」参加者の健康調査: 2006~2012年の調査成績の推移. 第78回日本民族衛生学会総会(佐賀), 2013. 11.

論文

[追加分]

追加分研究報告書:

- 1) 武藤三千代, 渡部録二¹⁾, 若山葉子²⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学, 2) 日本医科大学衛生学公衆衛生学): 今年度の形態計測・生活活動力測定結果について. 平成24年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究報告書 2012; 3-7.
- 2) 若山葉子¹⁾, 武藤三千代, 勝又聖夫¹⁾, 川田智之¹⁾ (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学): 高齢者の肥満・血液生化学値の検討: 運動継続群と一般住民参加者との比較. 平成24年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究報告書 2012; 17-20.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 武藤三千代, 渡部録二¹⁾, 若山葉子²⁾, 川守田千秋¹⁾, 渡部月子¹⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学, 2) 日本医科大学衛生学公衆衛生学): 高齢者におけるラジオ体操が生理機能に与える効果について. 日本運動・スポーツ科学学会第19回大会(東京), 2012. 6.
- 2) 川守田千秋¹⁾, 渡部録二¹⁾, 武藤三千代 (1) 神奈川県立保健福祉大学): 高齢女性の主観的健康感と運動機能および生活習慣の関係. 日本運動・スポーツ科学学会第19回大会(東京), 2012. 6.
- 3) 武藤三千代, 渡部録二¹⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学): 高齢者におけるラジオ体操が身体機能に与える影響について. 日本体育学会第63回大会(平塚市), 2012. 8.
- 4) 武藤三千代, 渡部録二¹⁾, 若山葉子²⁾, 川守田千秋¹⁾, 渡部月子¹⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学, 2) 日本医科大学衛生学公衆衛生学): 高齢者における生活活動力と健康関連QOLについて. 第71回日本公衆衛生学会総会(山口), 2012. 10.
- 5) 若山葉子¹⁾, 勝又聖夫¹⁾, 川田智之¹⁾, 武藤三千代, 渡部録二²⁾, 川守田千秋²⁾, 渡部月子²⁾ (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学, 2) 神奈川県立保健福祉大学): 中高年者を対象とした「運動教室」参加者の健康調査: 2006~2011年: 参加者の推移. 第71回日本公衆衛生学会総会(山口), 2012. 10.
- 6) 渡部月子¹⁾, 渡部録二¹⁾, 武藤三千代, 本田直子²⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学, 2) 横浜市港北区役所福祉保健センター): 全国建設業・運輸業関連企業におけるラジオ体操の普及状況. 第71回日本公衆衛生学会総会(山口), 2012. 10.

〔2〕 基 礎 医 学

1. 解剖学 (分子解剖学)

研究概要

(1) MicroRNA の分子解剖学的研究：a) 臓器・疾患における microRNA プロファイリングと機能解析 (吉武講師, 菊池講師, 瀧澤敬講師, 岩城助教, 弓削助教, 院生・軸園, 院生・倉品, 院生・神戸, 院生・竹内真, 院生・竹内純, 国内留学生 (自治医大)・高橋, 国内留学生 (自治医大)・石田, 技術員・小管, 技術員・山口), b) exosome についての分子解剖学的解析 (竹内真, 菊池, 吉武), c) 卵巣における microRNA の機能解析 (岩城, 瀧澤敬, 小管) を行った。(当大学院 消化器外科学, 内分泌外科学, 女性生殖発達病態学, 疼痛制御麻酔科学, および東京大学・程久美子准教授, 富山大学・齋藤滋教授との共同研究) (2) 胎盤の分子解剖学：a) ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内の IIb 型 Fc 受容体-小胞の解析 (岩城, 瀧澤敬), b) 栄養膜細胞の解析を進めた (高橋, 菊池, 吉武)。(当大学院女性生殖発達病態学, 米国オハイオ州立大学・John M Robinson 教授, 自治医科大学・松原茂樹教授, 屋代隆教授との共同研究) (3) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：GFP 融合分子発現ベクター作製と培養細胞での解析を行った (岩城)。(4) 生殖細胞特異的分子 TEX101 の解析：生化学的解析を進めた (吉武)。(順天堂大学・荒木慶彦准教授との共同研究)

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Akagi I^{1,2)}, Okayama H^{1,6)}, Schetter JA¹⁾, Robles IA¹⁾, Kohno T⁴⁾, Bowman DE¹⁾, Kazandjian D¹⁾, Welsh AJ¹⁾, Oue N⁷⁾, Saito M⁶⁾, Miyashita M²⁾, Uchida E²⁾, Takizawa T³⁾, Takenoshita S⁶⁾, Skaug V⁸⁾, et al. (1) Laboratory of Human Carcinogenesis, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, NIH, Bethesda, Maryland, 2) Division of Surgery for Organ Function and Biological Regulation and, 3) Division of Molecular Medicine and Anatomy, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School; Divisions of, 4) Genome Biology and, 5) Multistep Carcinogenesis, National Cancer Center Research Institute, Tokyo, 6) Department of Organ Regulatory Surgery, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima, 7) Department of Molecular Pathology, Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima, Japan, 8) Section for Toxicology, Department of Chemical and Biological Working Environment, National Institute of Occupational Health, Oslo, Norway) : Combination of protein coding and non-coding gene expression as a robust prognostic classifier in stage I lung adenocarcinoma. *Cancer Res* 2013 ; 73 (13) : 3821-3832.
- 2) Jikuzono T^{1,2)}, Kawamoto M^{3,4)}, Yoshitake H¹⁾, Kikuchi K¹⁾, Akasu H⁵⁾, Ishikawa H⁶⁾, Hirokawa M⁷⁾, Miyauchi A⁷⁾, Tsuchiya S³⁾, Shimizu K²⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Departments of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Departments of Surgery, Division of Endocrine Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, 4) Department of Clinical Pathology, University Hospital, Mizonokuchi, Teikyo University School of Medicine, Tokyo, Japan, 5) Division of Endocrine Surgery, Nippon Medical School Musashi-kosugi Hospital, Kanagawa, Japan, 6) Yamagata Saisei Hospital, Yamagata, Japan, 7) Kuma Hospital, Hyogo, Japan) : The miR-221/222 cluster, miR-10b and miR-92a are highly upregulated in metastatic minimally invasive follicular thyroid carcinoma. *Int J Oncol* 2013 ; 42 (6) : 1858-1868.
- 3) 瀧澤俊広¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 石川 源²⁾, 竹下俊行²⁾, 松原茂樹³⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 2) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学, 3) 自治医科大学 産婦人科学) : 胎盤の構造と機能. *産婦人科の実際* 2013 ;

62 (8) : 1025-1031.

- 4) Takahashi H^{1, 2)}, Takizawa T²⁾, Matsubara S¹⁾, Ohkuchi A¹⁾, Kuwata T¹⁾, Usui R¹⁾, Matsumoto H³⁾, Sato Y³⁾, Fujiwara H⁴⁾, Okamoto A⁵⁾, Suzuki M¹⁾, Takizawa T²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, 2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Graduate School of Medicine Science, Kanazawa University, Ishikawa, Japan, 5) Department of Obstetrics and Gynecology, Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan) : Extravillous trophoblast cell invasion is promoted by the CD44-hyaluronic acid interaction. *Placenta* 2014 ; 35 (3) : 163-170.
- 5) Kurashina R^{1, 2)}, Kikuchi K¹⁾, Iwaki J¹⁾, Yoshitake H¹⁾, Takeshita T²⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Placenta-specific miRNA (miR-512-3p) targets PPP3R1 encoding the calcineurin B regulatory subunit in BeWo cells. *J Obstet Gynaecol Res* 2014 ; 40 (3) : 650-660.
- 6) Mizuguchi Y^{1, 2)}, Isse K^{1, 2)}, Specht S^{1, 2)}, Lunz GJ III^{1, 2, 3)}, Corbitt N^{1, 2)}, Takizawa T⁴⁾, Demetris JA^{1, 2)} (1) Thomas E. Starzl Transplantation Institute, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, PA, 2) Department of Pathology, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, PA, 3) Department of Surgery, Divisions of Transplantation, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, PA, 4) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Small proline rich protein 2a in benign and malignant liver disease. *Hepatology* 2014 ; 59 (3) : 1130-1143.
- 7) Iwaki J^{1, 3)}, Kikuchi K^{1, 3)}, Mizuguchi Y²⁾, Kawahigashi Y²⁾, Yoshida H²⁾, Uchida E²⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Contributed equally) : MiR-376c down-regulation accelerates EGF-dependent migration by targeting GRB2 in the HuCCT1 human intrahepatic cholangiocarcinoma cell line. *PLoS One* 2013 ; 8 (7) : e69496.

著 書

- 1) 瀧澤俊広¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 弓削主哉¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 2) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学) : [分担] microRNA 研究の基礎と応用. *組織細胞化学* 2013 (日本組織細胞化学会編), 2013 ; pp169-179.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Takizawa T¹⁾, Yoshitake H¹⁾, Takeshita T²⁾, Saito S³⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, University of Toyama, Toyama, Japan) : Exosomes as carriers of placental-specific microRNAs. CTR (Centre for Trophoblast Research) Annual Trophoblast Meeting (Clare College, Memorial Court, Cambridge CB3 9AJ, UK), 2013. 7.

(2) 教育講演 :

- 1) 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学) : microRNA 研究の基礎と応用 (発表日 2013年8月2日 (金)). 第38回組織細胞化学講習会 (2013年 (平成25年) 8月1日 (木)~8月3日 (土)) (東京 (東京大学

伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール／東京)), 2013. 8.

(3) シンポジウム：

- 1) 瀧澤俊広¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 竹下俊行²⁾, 大口昭英³⁾, 齋藤 滋⁴⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 2) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学, 3) 自治医科大学 産婦人科学講座, 4) 富山大学医学部医学科 産科婦人科学)：妊娠高血圧症候群の病態における microRNA の関与 (シンポジウム I「妊娠高血圧症候群の病態に迫る」S1-4 / 発表日 2013年10月4日(金)). 第34回日本妊娠高血圧学会学術講演会 (2013年(平成25年)10月4日(金)~5日(日)) (富山(富山国際会議場/富山)), 2013. 10.

(4) ワークショップ：

- 1) 高橋宏典¹⁾, 菊池邦生²⁾, 大口昭英¹⁾, 松原茂樹¹⁾, 桑田知之¹⁾, 薄井里英¹⁾, 松本久宣³⁾, 佐藤幸保³⁾, 藤原 浩³⁾, 岡本愛光⁴⁾, 瀧澤俊広²⁾, 鈴木光明¹⁾ (1) 自治医科大学 産婦人科学講座, 2) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 3) 京都大学 婦人科産科, 4) 東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座)：MicroRNA を介した絨毛栄養膜細胞による絨毛外栄養膜細胞の浸潤制御 (ワークショップ2 妊娠成立と維持 WS-2-2 / 発表日 2013年5月10日(金)). 第65回日本産科婦人科学会学術講演会 (2013年(平成25年)5月10日(金)~12日(日)) (札幌(ロイトン札幌, ホテルさっぽろ芸文館, 札幌プリンスホテル/北海道)), 2013. 5.

(5) 一般講演：

- 1) 倉品隆平¹⁾, 菊池邦生²⁾, 吉武 洋²⁾, 瀧澤俊広²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学, 2) 日本医科大学大学院 分子解剖学)：胎盤特異的 miRNA, miR-512-3p は PPP3R1 を標的としている (高得点演題 13 周産期医学 4 K3-1-2 / 発表日 2013年5月12日(日)). 第65回日本産科婦人科学会学術講演会 (2013年(平成25年)5月10日(金)~12日(日)) (札幌(ロイトン札幌, ホテルさっぽろ芸文館, 札幌プリンスホテル/北海道)), 2013. 5.
- 2) 神戸沙織¹⁾, 吉武 洋²⁾, 石田洋一³⁾, 大口昭英³⁾, 松原茂樹³⁾, 鈴木光明³⁾, 齋藤 滋⁴⁾, 瀧澤俊広²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学, 2) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 3) 自治医科大学 産婦人科学講座, 4) 富山大学医学部医学科 産科婦人科学)：妊婦末梢血 natural killer 細胞における胎盤特異的のマイクロ RNA 標的の遺伝子候補の検索 (高得点演題 13 周産期医学 4 K3-1-2 / 発表日 2013年5月12日(日)). 第65回日本産科婦人科学会学術講演会 (2013年(平成25年)5月10日(金)~12日(日)) (札幌(ロイトン札幌, ホテルさっぽろ芸文館, 札幌プリンスホテル/北海道)), 2013. 5.
- 3) 軸菌智雄^{1, 2)}, 赤須東樹³⁾, 吉武 洋¹⁾, 川本雅司⁴⁾, 廣川満良⁵⁾, 宮内 昭⁵⁾, 土屋真一⁶⁾, 清水一雄²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 2) 日本医科大学付属病院 内分泌外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科, 4) 帝京大学医学部附属溝口病院 臨床病理科, 5) 神甲会 隈病院, 6) 日本医科大学付属病院 病理部)：術後遠隔転移を示す甲状腺微小浸潤型濾胞癌において miR-221/222 クラスター, miR-10b, miR-92a は高発現している (一般演題 3「細胞周期, バイオマーカー」O-13 / 発表日 2013年6月22日). 第23回日本サイトメトリ学会学術集会 (2013年(平成25年)6月22日(土)~23日(日)) (東京(日本医科大学 橋桜会館/東京)), 2013. 6.
- 4) 山野邊義晴¹⁾, 永原則之²⁾, 瀧澤俊広^{2, 3)} (1) 日本医科大学 医学部第4学年, 2) 日本医科大学 基礎医学 RI 研究室, 3) 日本医科大学大学院 分子解剖学)：マウスにおけるカドミウム蓄積の性差について (発表日 2013年9月7日(土)). 第81回日本医科大学医学会総会 (2013年(平成25年)9月7日(土)) (東京(日本医科大学 橋桜会館/東京)), 2013. 9.
- 5) 瀧澤俊広¹⁾, 軸菌智雄^{1, 2)}, 吉武 洋¹⁾, 川本雅司³⁾, 廣川満良⁴⁾, 宮内 昭⁴⁾, 赤須東樹⁵⁾, 清水一雄²⁾, 土屋真一⁶⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 2) 日本医科大学付属病院 内分泌外科, 3) 帝京大学医学部附属溝口病院 臨床病理科, 4) 神甲会隈病院, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科, 6) 日本医科大学付属病院 病理部)：Laser Microdissection による甲状腺微小浸潤型濾胞癌の予後不良因子解析 (「腫瘍管関連領域」P-22 / 発表日 2013年9月27日(金)). 第54回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (2013年(平成25年)9月27日(金)~

28日(土))(東京(航空会館/東京)), 2013. 9.

- 6) 高橋宏典¹⁾, 吉武 洋²⁾, 松原茂樹¹⁾, 大口昭英¹⁾, 桑田知之¹⁾, 薄井里英¹⁾, 岡本愛光³⁾, 鈴木光明¹⁾, 瀧澤俊広²⁾
(¹⁾ 自治医科大学 産科婦人科, ²⁾ 日本医科大学大学院 分子解剖学, ³⁾ 東京慈恵会医科大学 産婦人科): CD44 による絨毛外栄養膜細胞の浸潤機構: WNT シグナルによる促進 (一般演題 第1群 EVT の浸潤機構の解明/発表日 2013年10月25日(金)). 第21回日本胎盤学会学術集会/会期 2013年10月25日(金)~10月26日(土)(ウインクあいち(名古屋市)), 2013. 10.
- 7) 神戸沙織¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 石田洋一³⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 大口昭英³⁾, 松原茂樹³⁾, 鈴木光明³⁾, 竹下俊行²⁾, 齋藤 滋⁴⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 分子解剖学, ²⁾ 日本医科大学 産婦人科, ³⁾ 自治医科大学 産婦人科, ⁴⁾ 富山大学 産婦人科): エクソソームを介した胎盤特異的マイクロ RNA による胎盤・免疫細胞間情報伝達機構 (一般演題 第3群 マイクロ RNA などの分子学的解析/発表日 2013年10月26日(土)). 第21回日本胎盤学会学術集会/会期 2013年10月25日(金)~10月26日(土)(ウインクあいち(名古屋市)), 2013. 10.
- 8) 吉武 洋¹⁾, 弓削主哉¹⁾, 岩城 隼¹⁾, 稲田貢三子²⁾, 島 友子²⁾, 竹下俊行³⁾, 齋藤 滋²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 分子解剖学, ²⁾ 富山大学 医学部 産科婦人科学講座, ³⁾ 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学): 妊娠初期の脱落膜および末梢血 NK 細胞におけるマイクロ RNA の発現比較解析 (一般演題 第3群 マイクロ RNA などの分子学的解析/発表日 2013年10月26日(土)). 第21回日本胎盤学会学術集会/会期 2013年10月25日(金)~10月26日(土)(ウインクあいち(名古屋市)), 2013. 10.
- 9) 高橋宏典^{1, 2)}, 弓削主哉²⁾, 瀧澤敬美²⁾, 松原茂樹¹⁾, 大口昭英¹⁾, 桑田知之¹⁾, 薄井里英¹⁾, 松本久宜³⁾, 佐藤幸保³⁾, 藤原 浩⁴⁾, 岡本愛光⁵⁾, 鈴木光明¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (¹⁾ 自治医科大学 産科婦人科, ²⁾ 日本医科大学 分子解剖学, ³⁾ 京都大学 婦人科産科, ⁴⁾ 金沢大学 産科婦人科, ⁵⁾ 東京慈恵会医科大学 産婦人科): 絨毛外栄養膜細胞の内因性 miR-520c の発現抑制が CD44 を介した絨毛外栄養膜細胞の浸潤を促進している (セッション3: 着床・子宮内膜/発表日 2013年11月30日(土)). 第28回日本生殖免疫学会総会・学術集会/会期 2013年11月30日(土)~12月1日(日)(兵庫医科大学 平成記念会館(兵庫)), 2013. 11.
- 10) 神戸沙織^{1, 2)}, 石田洋一³⁾, 吉武 洋²⁾, 弓削主哉²⁾, 瀧澤敬美²⁾, 大口昭英³⁾, 齋藤 滋⁴⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 産婦人科, ²⁾ 日本医科大学 分子解剖学, ³⁾ 自治医科大学 産婦人科, ⁴⁾ 富山大学 産婦人科): エクソソームは胎盤特異的マイクロ RNA を妊婦末梢血免疫細胞に移行する (セッション7: 脱落膜・胎盤/発表日 2013年12月1日(日)). 第28回日本生殖免疫学会総会・学術集会/会期 2013年11月30日(土)~12月1日(日)(兵庫医科大学 平成記念会館(兵庫)), 2013. 12.
- 11) Yoshitake H, Endo S, Hasegawa A, Hashii N, Kawasaki N, Takamori K, Fujiwara H, Araki Y: Structure of the oligosacchari. SSR (Society for the Study of Reproduction) 46th Annual Meeting/24 July 2013 (Montreal, Quebec, Canada), 2013. 7.
- 12) 瀧澤俊広¹⁾, 弓削主哉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院分子解剖学): microRNA 研究のための組織細胞化学的方法論. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会(2014年3月27日(木)~29日(土))(自治医科大学キャンパス/栃木), 2014. 3.
- 13) 瀧澤敬美¹⁾, 弓削主哉¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院分子解剖学): 解剖学における臨床医によるミニ臨床講義導入の教育効果. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会(2014年3月27日(木)~29日(土))(自治医科大学キャンパス/栃木), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) Ahmed M¹⁾, Aleksunes L²⁾, Boeuf P^{3, 4)}, Chung M⁵⁾, Daoud G⁶⁾, Desoye G⁷⁾, Diaz P⁸⁾, Golos T⁹⁾, Illsley N¹⁰⁾, et al. (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynaecology, University of Texas Medical Branch, Galveston,

TX, USA, ²⁾ Department of Pharmacology and Toxicology, Ernest Mario School of Pharmacy, Rutgers University, Piscataway, NJ, USA, ³⁾ Department of Medicine (RMH), The University of Melbourne, Parkville, Victoria, Australia, ⁴⁾ Victorian Infections Disease Service, Melbourne Health, Melbourne, Victoria, Australia, ⁵⁾ Department of Obstetrics and Gynaecology, The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong, ⁶⁾ Department of Anatomy, Cell Biology and Physiology, Faculty of Medicine, American University of Beirut, Beirut, Lebanon, ⁷⁾ Department of Obstetrics and Gynaecology, Medical University of Graz, Graz, Austria, ⁸⁾ Maternal and Fetal Health Research Centre, University of Manchester, Manchester, UK, ⁹⁾ Department of Comparative Biosciences, School of Veterinary Medicine, University of Wisconsin Madison, Madison, WI, USA, ¹⁰⁾ Division of Maternal-Fetal Medicine and Surgery, Department of Obstetrics and Gynaecology, Hackensack University Medical Center, Hackensack, NJ, USA) : IFPA Meeting 2012 Workshop Report II : Epigenetics and imprinting in the placenta, growth factors and villous trophoblast differentiation, role of the placenta in regulating fetal exposure to xenobiotics during pregnancy, infection and the placenta. *Placenta* 2013 ; 34 (Suppl) : S6-S10.

- 2) Takizawa T¹⁾, Ohkuchi A²⁾, Matsubara S²⁾, Takeshita T³⁾, Uchida E⁴⁾, Miyashita M⁴⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, (3) Department of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Nippon Medical School, (4) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School) : MicroRNAs : Basic and clinical studies for medicine. *Shock* 2012 ; 27 (2) : 8-12.
- 3) 瀧澤俊広¹⁾, 大口昭英²⁾, 松原茂樹²⁾, 竹下俊行³⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, (2) 自治医科大学 産婦人科学, (3) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学) : マイクロ RNA 解析から見出された妊娠高血圧腎症の新規予知因子. *日本産婦人科・新生児血液学会誌* 2013 ; 22 (2) : 63-68.

追加分原著 :

- 1) Takahashi T¹⁾, Zenno S²⁾, Ishibashi O³⁾, Takizawa T³⁾, Saigo K¹⁾, Ui-Tei K¹⁾ (1) Department of Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo, (2) Department of Biotechnology, Faculty of Engineering, Maebashi Institute of Technology, (3) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School) : Interactions between the non-seed region of siRNA and RNA-binding RLC/RISC proteins, Ago and TRBP, in mammalian cells. *Nucleic Acids Res* 2014 ; 42 (8) : 5256-5269.
- 2) Takahashi H¹⁾, Matsubara S¹⁾, Kuwata T¹⁾, Saruyama M¹⁾, Usui R¹⁾, Ohkuchi A¹⁾, Takizawa T²⁾, Suzuki M¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, (2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Changes in expression of vascular endothelial growth factor D-related genes in placental mesenchymal dysplasia. *J Obstet Gynaecol Res* 2014 ; 40 (4) : 1145-1149.

2. 解剖学（生体構造学）

研究概要

思春期「puberty」は子供から大人へのゲートであり、これを通り抜けることによって、身体的にも、精神的にも成熟し、大人としての社会活動、行動に適応する身体の仕組みが構築されると定義される。この思春期が誘発される詳細な神経機能メカニズムであるが、視床下部-下垂体-性腺系への強い抑制はネガティブフィードバック機構だけでは説明がつかず、中枢性の強い抑制性制御が関わっていると考えられていた。近年、オーファン受容体 GPR54 のリガンドとして、新規生理活性物質 kisspeptin が同定され、kisspeptin による GnRH ニューロンの活性誘導に注目が集まりつつある。「脳内の神経ネットワーク」による思春期発動機序の解明については、未だ多くの課題を残している。我々はこれまでに「脳とホルモン」、「脳における神経回路形成とホルモン」といった課題を中心に、ステロイドホルモンとその受容体によって調節される神経細胞の機能と形態の変動を多角的に調べてきた。特に性ステロイドホルモンは、脳における性機能調節系の制御に深く関わっており、性機能発動の大きなターニングポイントである思春期が生じるメカニズムにはステロイドホルモンの役割が大きな意味を持つ。我々はこれまでの研究アプローチをより具体的な生理作用解明に適用させ、思春期発動と関わる「性」、「摂食」、「ストレス」といった神経制御機構の3次元神経ネットワークを明らかにし、ネットワークの相互作用、ネットワークの乱れと思春期前後の精神的、身体的な不安定の発生の関連を探求することを目指す研究を行っている。また GFP などの蛍光遺伝子の発現を利用して無麻酔下の living animal の神経活動を可視化する試みを進めており、行動と神経活動を一本化して観察するシステムの構築に関する研究を進行している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Mori K, Iijima N, Higo S, Aikawa S, Matsuo I, Takumi K, Sakamoto A, Ozawa H : Epigenetic Suppression of Mouse Per2 Expression in the Suprachiasmatic Nucleus by the Inhalational Anesthetic, Sevoflurane. PLOS ONE 2014 ; Volume9 (Issue1) : e87319.

(2) 総説：

- 1) 小澤一史：海馬に対するステロイドの作用. Clinical Neuroscience (別冊) 2013 ; Vol.31 (No.12) : 1406-1408.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 小澤一史：超高压電子顕微鏡を用いた神経細胞、神経膠細胞の3次元観察～ホルモン、ホルモン受容体と脳機能～：平成25年度生理学研究会「電子顕微鏡機能イメージングの医学・生物学への応用」2013.11（岡崎）、平成25年度生理学研究会「電子顕微鏡機能イメージングの医学・生物学への応用」（岡崎）、2013. 11.

(2) 招待講演：

- 1) Ozawa H, Iijima N, Takumi K, Iwata K : THE INTEGRATION OF REPRODUCTIVE REGULATION, ENERGY METABOLIC REGULATIONS, AND STRESS RESPONSE IN KISSPEPTIN NEURONS TO RELAY HPG-AXIS. A Sahct 2013 International Symposium Anatomical Science for advance in health and clinical therapy (Sendai), 2013. 8.

(3) 教育講演：

- 1) 小澤一史：解剖学研究・教育の現在と将来展望：特に若手教員における将来展望. 日本解剖学会関東支部学術集

会 (第 101 回) (東京), 2013. 11.

(4) シンポジウム :

- 1) 小澤一史 : Kisspeptin ニューロンを上位統合中枢とする新しい HPG 軸の構築. 日本動物学会 (第 84 回) (岡山), 2013. 9.

(5) 一般講演 :

- 1) Iijima N, Matsumoto K, Ueta Y, Ozawa H : IN VIVO AND REAL-TIME MONITORING OF GFP-EXPRESSION IN THE RAT HYPOTHALAMUS VIA OPTICAL FIBER. A Sahct 2013 International Symposium Anatomical Science for advance in health and clinical therapy (Sendai), 2013. 8.
- 2) Kunimura Y, Iwata K, Iijima N, Kobayashi M, Ozawa H : THE EFFECT OF SEX STEROID HORMONES ON THE EXPRESSION OF DORSAL RAPHE SEROTONIN NEURONS. A Sahct 2013 International Symposium Anatomical Science for advance in health and clinical therapy 2013.8 (Sendai) (Sendai), 2013. 8.
- 3) Ozawa H, Shimada K, Takumi K, Iijima N : The effect of maternal nutritional condition during lactation for the pubertal onset of offsprings of female Sprague-Dawley rats. NAITO CONFERENCE " Molecular Aspects of Energy Balance and Feeding Behavior " (THE 36th) 2013.9 (SAPPORO) (SAPPORO), 2013. 9.
- 4) 松尾いづみ, 飯島典生, 相川優子, 肥後心平, 坂本篤裕, 小澤一史 : 吸入麻酔薬 Sevoflurane に応答する視交叉上核の in vitro 発光イメージング. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 54 回) (東京), 2013. 9.
- 5) 國村有弓, 岩田衣世, 飯島典生, 小林牧人, 小澤一史 : 性ステロイドホルモンの変動と成熟ラット背側縫線核セロトニン作動性ニューロンの発現変化に関する組織化学的研究. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 54 回) (東京), 2013. 9.
- 6) 松尾いづみ, 飯島典生, 相川優子, 肥後心平, 坂本篤裕, 小澤一史 : 吸入麻酔薬 Sevoflurane による概日リズムへの影響は GABA 受容体を介する. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 40 回) (宮崎), 2013. 10.
- 7) 服部裕次郎, 石井寛高, 森田明夫, 小澤一史 : 新規ラット C 末端欠損型エストロゲン受容体 α 変異体の同定と機能解析. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 40 回) (宮崎), 2013. 10.
- 8) 岩田衣世, 國村有弓, 松本恵介, 小澤一史 : 長期高アンドロゲン暴露により誘発した多嚢胞性卵巣症候群モデルラットの脳内キスペプチン発現および黄体形成ホルモン分泌に関する研究. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 40 回) (宮崎), 2013. 10.
- 9) 荒井勇樹, 石井寛高, 小林牧人, 小澤一史 : GT1-7 細胞におけるアセチルコリン受容体の発現解析. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 40 回) (宮崎), 2013. 10.
- 10) 國村有弓, 岩田衣世, 飯島典生, 小林牧人, 小澤一史 : 成熟ラット背側縫線核セロトニンニューロンの発現における性ステロイドホルモンの働きに関する組織化学的研究. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 40 回) (宮崎), 2013. 10.
- 11) 石井寛高, 小澤一史 : 精巣特異的ヒトエストロゲン受容体 α 変異体の 5'-非翻訳領域は翻訳効率を著しく低減する. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 40 回) (宮崎), 2013. 10.
- 12) 飯島典生, 松本恵介, 上田陽一, 小澤一史 : AVP-eGFP トランスジェニックラットを用いた視床下部から AVP 遺伝子発現リアルタイムモニタリングの試み. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 40 回) (宮崎), 2013. 10.
- 13) 託見 健, 嶋田耕育, 飯島典生, 小澤一史 : 授乳期母体の高栄養状態が仔の生殖機能発達に及ぼす効果. 日本解剖学会関東支部学術集会 (第 101 回) (東京), 2013. 11.
- 14) 李 松子, 託見 健, 飯島典生, 小澤一史 : 性成熟に伴う GnRH ニューロンのスパインの解析. 日本解剖学会関東支部学術集会 (第 101 回) (東京), 2013. 11.
- 15) 飯島典生, 松本恵介, 上田陽一, 小澤一史 : 非拘束・無麻酔動物からのバソプレシン神経細胞の活性計測 : 光ファイバーを介した蛍光強度のモニタリングシステムの開発. バソプレシン研究会 (第 24 回) (東京), 2014. 1.

- 16) 飯島典生, 松本恵介, 上田陽一, 小澤一史: 光ファイバーを介した非拘束・無麻酔下の AVP-eGFP トランスジェニックラットの GFP 蛍光強度のモニタリング. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.
- 17) 松尾いづみ, 飯島典生, 相川優子, 肥後心平, 坂本篤裕, 小澤一史: 吸入麻酔薬 Sevoflurane の GABA 受容体を介した時計遺伝子への影響. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.
- 18) 楊 春英, 託見 健, 小澤一史: 視床下部正中隆起における GnRH ニューロン軸索終末とグリア細胞の機能形態連関に関する組織細胞化学的研究. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.
- 19) 李 松子, 託見 健, 飯島典生, 小澤一史: 性成熟に伴う GnRH ニューロンのスパインの変化. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.
- 20) 託見 健, 嶋田耕育, 飯島典生, 小澤一史: 授乳期母体の高脂肪摂取が仔の生殖機能発達に及ぼす影響. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.
- 21) 岩田衣世, 國村有弓, 松本恵介, 小澤一史: 高アンドゲン血症の雌ラットの脳内キスペプチン発現および黄体形成ホルモン分泌に関する研究. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.
- 22) 石井寛高, 服部裕次郎, 小澤一史: ラット N 末端欠損型エストロゲン受容体の局在・機能解析. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.
- 23) 友利祐二, 飯島典生, 日沼州司, 平井政彦, 石井寛高, 託見 健, 高井信朗, 小澤一史: 培養細胞によるリボソーム取り込みメカニズムノ解析. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.
- 24) 荒井勇樹, 石井寛高, 小林牧人, 小澤一史: GT1-7 細胞におけるアセチルコリン受容体の発現解析. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.
- 25) 服部裕次郎, 石井寛高, 森田明夫, 小澤一史: 新規ラット C 末端欠損型エストロゲン受容体 α 変異体の同定. 日本解剖学会総会 (第 119 回) (栃木), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Anzai M, Iijima N, Higo S, Takumi K, Matsuo I, Mori K, Ohe Y, Kadota K, Akimoto T, Sakamoto A, Ozawa H: Direct and Specific Effect of Sevoflurane Anesthesia on rat Per2 Expression in the Suprachiasmatic Nucleus. PLOS ONE 2013; Volume8 (Issue3): e59454.

3. 生理学（システム生理学）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Dilip R, Ishii T, Imada H¹⁾, Kiyama-Wada Y, Kiyama R²⁾, Miyachi E¹⁾, Kaneda M (¹⁾ Department of Physiology, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake, Aichi 470-1192, Japan, ²⁾ Biomedical Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Tsukuba, Ibaraki 305-8566, Japan) : Distribution and development of P2Y₁-purinoceptors in the mouse retina. *Journal of Molecular Histology* 2013 ; 44 (6) : 639-644.
- 2) 石井俊行, 世古裕子¹⁾, 金田 誠 (¹⁾ 国立障害者リハビリテーションセンター研究所感覚機能系障害研究部視覚機能障害研究室) : 網膜再生医学とパッチクランプ法. *日医大医会誌* 2014 ; 10 (1) : 4-5.
- 3) Seko Y^{1, 2)}, Azuma N³⁾, Ishii T, Komuta Y¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Miyagawa Y²⁾, Kaneda M, Umezawa A²⁾ (¹⁾ Visual Functions Section, Dep. of Rehabilitation for Sensory Functions, Research Institute, National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities, ²⁾ Department of Reproductive Biology, Center for Regenerative Medicine, National Institute for Child Health and Development, ³⁾ Department of Ophthalmology, National Center for Child Health and Development) : Derivation of human differential photoreceptor cells from adult human dermal fibroblasts by defined combinations of CRX, RAX, OTX2 and NEUROD. *Genes to Cells* 2014 ; 19 : 198-208.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 石井俊行, 金田 誠 : マウス網膜コリン作動性細胞における経路特異的入力応答. 日本生理学会大会 (第91回) (鹿児島), 2014. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 折笠千登世, 永岡謙太郎¹⁾, 近藤保彦²⁾, 佐久間康夫³⁾ (¹⁾ 東京農工大学大学院 農学部 動物生命科学学科, ²⁾ 帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科, ³⁾ 東京医療学院大学 保健医療学科) : 未経験雄における養育行動：単飼による効果. *Neuro 2013* (第36回日本神経科学大会) (京都), 2013. 6.
- 2) 折笠千登世, 永岡謙太郎¹⁾, 近藤保彦²⁾, 佐久間康夫³⁾ (¹⁾ 東京農工大学大学院 農学部 動物生命科学学科, ²⁾ 帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科, ³⁾ 東京医療学院大学 保健医療学科) : 性的未経験雄における養育行動. *日本動物心理学会* (第73回) (筑波), 2013. 9.
- 3) 本間耕平 : マウス網膜視細胞の網膜下細胞移植とiPS細胞由来視細胞の可能性. *日本医科大学医学会総会* (第81回) (東京), 2013. 7.
- 4) 本間耕平, Swaroop A¹⁾, 高橋政代²⁾ (¹⁾ National Eye Institute, ²⁾ 理化学) : 網膜桿体視細胞マーカー Nrlp-GFPを用いた網膜視細胞移植と細胞機能解析. *日本分子生物学会年会* (第36回) (神戸), 2013. 12.
- 5) 尹 成珠, 金田 誠 : マウス網膜双極細胞周辺部応答極性に対するGABAAとGABAC受容体の陰イオン透過性の影響. *日本生理学会大会* (第91回) (鹿児島), 2014. 3.

論文

{追加分}

追加分原著：

- 1) Kiyama-Wada Y, Suzuki C, Hamada T, Rai D, Kiyama R¹⁾, Kaneda M, Sakuma Y²⁾ (¹⁾ Biomedical Research

Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, ²⁾ University of Tokyo Health Science) : Estrogen-induced cell signaling in the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area : Potential involvement of cofilin in actin dynamics for cell migration. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2013 ; 434 : 287-292.

- 2) Honma K, Okamoto S¹⁾, Mandai M¹⁾, Gotoh N²⁾, K. Rajasimha H²⁾, Chang Y^{2, 3)}, Chen S⁴⁾, Li W⁴⁾, Cogliati T²⁾, Swaroop A²⁾, Takahashi M¹⁾ (¹⁾ Laboratory for Retinal Regeneration, Center for Developmental Biology, RIKEN, Kobe, Japan, ²⁾ Neurobiology-Neurodegeneration & Repair Laboratory, ³⁾ Department of Ophthalmology, National Cheng Kung University and Hospital, Tainan, Taiwan, ⁴⁾ Porter Neuroscience Research Center, National Eye Institute, National Institutes of Health, Bethesda, Maryland, USA) : Developing Rods Transplanted into the Degenerating Retina of Crx-Knockout Mice Exhibit Neural Activity Similar to Native Photoreceptors. *STEM CELLS REGENERATIVE MEDICINE* 2013 ; 31 (6) : 1149-1159.
- 3) Koyama M, Yin C, Ishii H, Sakuma Y, Kato M : Somatostatin Inhibition of GnRH Neuronal Activity and the Morphological Relationship between GnRH and Somatostatin Neurons in Rats. *Endocrinology* 2012 ; 153 (2) : 806-814.

4. 生理学（生体統御学）

研究概要

代表研究者は、細胞代謝をキーワードに細胞レベルの研究手法を用いてエネルギー代謝系の基質特異性のスイッチングに関わる領域研究をこれまで行ってきた。その中で、2009年FEBS J誌において、心筋細胞内アセチルコリン(ACh)産生系、non-neuronal cardiac cholinergic system, NNCSという概念を、代表研究者は世界で最初に発表した。この「心筋 NNCS」とは、心筋細胞が副交感神経系とは独立して自ら細胞レベルでAChを産生するシステムを意味する。その後種々の細胞レベルでACh産生系が見いだされたが、しかし、その生物学的役割として、恒常的にミトコンドリア機能を負に調節する分子ブレーキの役割を果たすことを明らかにしたのは代表研究者が最初である。それ以前までに代表者はAChによるギャップ結合機能維持機構、虚血耐性獲得機構、血管新生促進機構について重点的に研究を行ってきたが、代表者はまさにそのAChが心筋細胞に由来するという新規の発見を行った。以上の背景をもとに、ストレスおよびそれに対抗するcounterpartとしての細胞レベルのACh産生系、さらにストレス応答と代謝への影響など、本研究によって異種の側面からのアプローチが可能であり、これを基盤として、最近特にミクロレベルでの炎症反応の関与が指摘されている循環器疾患に対する集約的アプローチ方法としてのアンチストレスサー賦活化方法を近年探索しており、その1つの候補を見出しつつある。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kakinuma Y, Okada S¹⁾, Nogami M²⁾, Kumon Y³⁾ (1) Department of Pharmacology, Aichi Medical University, Nagakute, Aichi, Japan, 2) PET Center of Kochi Medical School Hospital, Nankoku, Japan, 3) Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Chikamori Hospital, Kochi, Japan) : The human female heart incorporates glucose more efficiently than the male heart. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 168 (3) : 2518-2521.
- 2) Sakurazawa N, Mano-Otagiri A, Nemoto T, Shibasaki T : Effects of intracerebroventricular ghrelin on food intake and Fos expression in the arcuate nucleus of the hypothalamus in female rats vary with estrous cycle phase. *Neuroscience Letter* 2013 ; 29 (541) : 204-208.
- 3) Watanabe K^{1,2)}, Nemoto T¹⁾, Akira S²⁾, Takeshita T²⁾, Shibasaki T¹⁾ (1) Departments of Physiology, Nippon Medical School, 2) Departments of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Estrogens down-regulate urocortin 2 expression in rat uterus. *J Endocrinol* 2013 ; 219 (3) : 269-278.
- 4) Nemoto T, Mano A, Shibasaki T : miR-449a contributes to glucocorticoid-induced CRF-R1 downregulation in the pituitary during stress. *Mol Endocrinol* 2013 ; 27 (10) : 1593-1602.
- 5) 根本崇宏, 芝崎 保 : 高脂肪食誘導肥満ラットでのストレス負荷後のHPA軸の変化. *ACTH RELATED PEPTIDES* 2014 ; 24 : 9-10.
- 6) Kurabayashi A¹⁾, Kakinuma Y, Morita T²⁾, Inoue K³⁾, Sato T⁴⁾, Furihata M¹⁾ (1) 高知大学医学部病理学, 2) 高知大学医学部小児科, 3) 高知大学医学部泌尿器科, 4) 高知大学医学部循環制御学) : Conditional VHL gene deletion causes hypoglycemic death associated with disproportionately increased glucose uptake by hepatocytes through an upregulated IGF-I receptor. *PLoS ONE* 2013 ; 8 (7) : e69139.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 根本崇宏, 芝崎 保：低出生体重ラット仔でみられる内分泌学的異常. 日本内分泌学会学術総会（第 85 回）（宮城県仙台市），2013. 4.
- 2) 根本崇宏, 芝崎 保：高脂肪食負荷ラットの視床下部室傍核におけるストレス負荷後の Hsp90 発現調節の異常. 間脳・下垂体・副腎系研究会（第 25 回）（東京都港区），2014. 3.
- 3) 柿沼由彦：たこつば心筋症と性差（シンポジウム 2：ストレス応答と性差：動物実験からヒトまで）. 日本自律神経学会総会（第 66 回）（名古屋），2013. 10.
- 4) 柿沼由彦, 津田正之¹⁾, 秋山 剛²⁾, 岡崎佳代³⁾, 池谷光江, 及川詩乃, 佐藤隆幸³⁾ ⁽¹⁾ 高知大学総合研究センター 生体・物質部門 動物実験施設, ⁽²⁾ 国立循環器病センター研究所 心臓生理機能部, ⁽³⁾ 高知大学医学部循環制御学：ストレス誘発性心筋症の新たな病態生理学的側面（シンポジウム 17：心筋組織の恒常性維持機構とその破綻）. 日本生理学会大会（第 91 回）（鹿児島），2014. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 眞野あすか, 芝崎 保：境界条床核における CRF1 型受容体の局在について. 日本内分泌学会学術総会（第 86 回）（仙台），2013. 4.
- 2) Nemoto T, Shibasaki T：Impairment of miR-142-3p-mediated downregulation of glucocorticoid receptor expression in high fat diet-induced obese rats. ENDO2013 (San Francisco, CA, USA), 2013. 6.
- 3) 根本崇宏, 柿沼由彦, 芝崎 保：高脂肪食負荷ラットでみられるストレス負荷後の海馬と視床下部でのグルココルチコイド受容体発現の発現異常への miRNA の関与の解明. 日本神経内分泌学会学術集会（第 40 回）（宮崎県宮崎市），2013. 10.
- 4) 洲鎌秀永：急性拘束ストレスモデルを用いた活性化型ミクログリアと cFos 発現ニューロンのトポグラフィー分析. 日本生理学会大会（第 91 回）（鹿児島），2014. 3.

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Kakinuma Y, Okada S¹⁾, Ikenoue N²⁾, Nogami M³⁾, Kumon Y⁴⁾ ⁽¹⁾ 愛知医科大学薬理学, ⁽²⁾ 高知大学医学部産婦人科, ⁽³⁾ 高知大学医学部附属病院 PET センター, ⁽⁴⁾ 近森病院 糖尿病・内分泌代謝内科・リウマチ・膠原病内科：Estrogen is involved in improvement of impaired cardiac glucose uptake in cancer patients. *Journal of Cardiology Cases* 2013 ; 7 (1) : e24-e26.
- 2) Kakinuma Y, Tsuda M¹⁾, Okazaki K²⁾, Akiyama T³⁾, Arikawa M²⁾, Noguchi T²⁾, Sato T²⁾ ⁽¹⁾ 高知大学総合研究センター 生命・機能物質部門 動物実験施設, ⁽²⁾ 高知大学医学部循環制御学, ⁽³⁾ 国立循環器病センター研究所 心臓生理機能部：Heart-specific overexpression of choline acetyltransferase gene protects murine heart against ischemia through hypoxia-inducible factor-1 α -related defense mechanisms. *Journal of the American Heart Association* 2013 ; 2 (1) : e004887.
- 3) Kakinuma Y, Noguchi T¹⁾, Okazaki K¹⁾, Oikawa S, Iketani M, Kurabayashi M²⁾, Furihata M²⁾, Sato T¹⁾ ⁽¹⁾ 高知大学医学部循環制御学, ⁽²⁾ 高知大学医学部病理学：Anti-muscle atrophy effect of nicotine targets muscle satellite cells partly through an α 7 nicotinic receptor in a murine hindlimb ischemia model. *Translational Research* 2014 ; 164 (1) : 32-45.

5. 生化学・分子生物学（代謝・栄養学）

研究概要

1. 石灰化の分子機構と組織非特異型アルカリホスファターゼ (TNAP) 7月に第10回 ALPS (アルカリホスファターゼ) 研究会を主宰した. 1) 低フォスファターゼ症 (HPP) をきたす変異 TNAP (p. F327del) の強制発現系による酵素活性, 石灰化能, 細胞内プロセッシングの解析: 免疫染色により細胞内局在を検討し, 細胞表面に輸送されないことを証明. 2) 他の HPP 変異体における糖鎖修飾を中心とするプロセッシングの解析. 3) 野生型 TNAP の構造解析に向けた大量発現系の検討. 4) 骨芽細胞系株化細胞による石灰化時の基質小胞産生機構解明と構成蛋白質のプロテオーム解析. 5) 血管壁異所性石灰化のモデルとしての血管平滑筋細胞培養を用いた分子機構の解析. 2. キサンチン酸化還元酵素 (XOR) 1) XOR と基質との結合モード, 反応機構, NO との反応性. 2) XOR の酸化酵素, 脱水素酵素型変異体遺伝子改変マウスの解析. 3) XOR と抗痛風薬の動的相互作用解析. 4) 全脳虚血モデルマウスの虚血再灌流障害における酸化ストレス応答と抗痛風薬の防護効果. 5) 国際宇宙ステーションでの高分解能蛋白質結晶構造解析 (JAXA 共同プロジェクト). 6) 活性酸素が関与する難治性疾患の治療薬評価. 3. 好熱菌等の鉄硫黄酵素金属クラスター電子構造に影響する周辺骨格領域解析を目指したアミノ酸要求性大腸菌株, 残基特異的安定同位体ラベル導入酵素の作成・解析 (国際化学研究協力事業), mitoNEET 構造機能研究など. 4. 進行性難聴の原因遺伝子産物 cochlin 内耳に発現する cochlin isoform の解析と外リンパ液の cochlin の ELISA 測定法の開発. 5. 1重項酸素の検出・定量法の開発と臨床研究への応用の検討. 以上の多くは国内外との共同研究であるが, 個別表示は割愛した.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Watanabe A^{1,2)}, Satoh S³⁾, Fujita A²⁾, Naing B²⁾, Orimo H, Shimada T^{1,2)} (1) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, 2) Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry & Molecular Biology, Nippon Medical School, 3) Aomori Prefectural Central Hospital) : Perinatal hypophosphatasia caused by uniparental isodisomy. *Bone* 2014 ; 59 : 93-97.
- 2) Okamoto K, Kusano T, Nishino T¹⁾ (1) Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : Chemical Nature and Reaction Mechanisms of the Molybdenum Cofactor of Xanthine Oxidoreductase. *Curr Pharm Des* 2013 ; 19 (14) : 2606-2614.
- 3) Hiraoka M¹⁾, Okamoto K, Ohguro H¹⁾, Abe A¹⁾ (1) 1. Department of Ophthalmology, School of Medicine, Sapporo Medical University) : Role of N-glycosylation of human lysosomal phospholipase A2 for the formation of catalytically active enzyme. *J Lipid Res* 2013 ; 54 (11) : 3098-3105.
- 4) Kurata T¹⁾, Katayama A³⁾, Hiramatsu M¹⁾, Kiguchi Y¹⁾, Takeuchi M¹⁾, Watanabe T¹⁾, Ogasawara H^{1,4)}, Ishihama A^{1,2)}, Yamamoto K^{1,2)} (1) Department of Frontier Bioscience ね Hosei University, 2) Research Center for Micro-Nano Technology, Hosei University, 3) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 4) Research Center for Human and Environmental Sciences, Shinshu University) : Identification of the set of genes, including non-annotated morA, the direct control of ModE in *Escherichia coli*. *J. Bacteriol* 2013 ; 195 (4505) : 4496.

(2) 総説:

- 1) 岡本 研, 西野武士¹⁾ (1) 東京大学大学院農学生命研究科・応用生命科学) : キサンチン酸化還元酵素研究 110年: 酵素蛋白の哺乳類における多面性; デヒドロゲナーゼからオキシダーゼへの変換とキサンチン酸化還元酵素

が触媒するさまざまな反応. 高尿酸血症と痛風 2013 ; 21 : 69-74.

著 書

- 1) Watanabe A¹⁾, Orimo H, Takeshita T²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Department of Obstetrics & Gynecology, Nippon Medical School) : [共著] Prenatal diagnosis of severe perinatal (lethal) hypophosphatasia. Prenatal diagnosis—Morphology scan and invasive methods (Choy, R. K. W. and Leung, T. Y.), 2012 ; pp27-32, Intech.
- 2) 岡本 研 : [翻訳] 第3~5章. イラストレイテッド ハーパー・生化学 第29版 (清水孝雄), 2013 ; pp17-50, 丸善出版.
- 3) Nishino T¹⁾, Okamoto K, Eger B²⁾, Pai E²⁾ (¹⁾ Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo, ²⁾ University of Toronto) : [分担] The xanthine oxidoreductase enzyme family : xanthine dehydrogenase, xanthine oxidase, and aldehyde oxidase. Hand book of flavoproteins Volume 2 (Hille R, Miller S M, Palfey B), 2013 ; pp103-124, de Gruyter, Germany.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Orimo H : Regulation of the human tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene. ALPS研究会 (第10回) (東京), 2013. 7.

(2) 一般講演 :

- 1) Kiyama A, Matsumura T, Orimo H : Characterization of a deletion in tissue-nonspecific alkaline phosphatase (p.F327del) found in Japanese patients with hypophosphatasia. IBMS-JSBMR 2013 (The 2nd Joint Meeting of the International Bone and Mineral Society and the Japanese Society for Bone and Mineral Research) (Kobe, Japan), 2013. 5.
- 2) Kuwabara Y¹⁾, Katayama A, Tomiyama R¹⁾, Piao H¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Hashimoto E¹⁾, Ono S¹⁾, Mine K¹⁾, Akira S¹⁾, Orimo H, Takeshita T¹⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics & Gynecology) : Marked upregulation of osteopontin in mouse ovary during periovulatory stages : Involvement in regulation of progesterone-synthesizing system in early corpus luteum phase. 12th Congress of International Society for Immunology of Reproduction (Boston, MA), 2013. 5.
- 3) Kiyama A, Matsumura T, Orimo H : Molecular characterization of a deletion in tissue-nonspecific alkaline phosphatase (p.F327del) found in hypophosphatasia patients. ALPS研究会 (第10回) (東京), 2013. 7.
- 4) Watanabe A^{1,2)}, Satoh S³⁾, Fujita A²⁾, Naing B¹⁾, Orimo H, Shimada T^{1,2)} (¹⁾ Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry & Molecular Biology, Nippon Medical School, ³⁾ Aomori Prefectural Central Hospital) : Perinatal (lethal) type of hypophosphatasia resulting from paternal isodisomy of chromosome 1. ALPS研究会 (第10回) (東京), 2013. 7.
- 5) Okamoto K, Kikuchi H¹⁾, Fujisaki H¹⁾, Furuta T²⁾, Nisino T³⁾ (¹⁾ Department of Physics, ²⁾ Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, ³⁾ Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : Molecular Dynamics and Free Energy Analysis of Xanthine Oxidoreductase-Ligand Interactions. 2013 Molybdenum & Tungsten Enzymes Conference (Sintra, Portugal), 2013. 7.
- 6) Matsushita S, Fukazawa R, Iwasaki T, Taguchi A¹⁾, Baldansuren A¹⁾, Dikanov-A S¹⁾ (¹⁾ Univ. Illinois at Urbana-Champaign) : 2D pulsed EPR analysis of histidine ligand residue (s) of the thermophile Rieske and mitoNEET type iron-sulfur proteins. 16th International Conference on Bioinorganic Chemistry (Grenoble, France), 2013. 7.

- 7) Iwasaki T, Miyajima-Nakano Y, Fukazawa R, Hagiuda E, Matsushita S, Hasegawa K¹, Kumasaka T¹, Baldansuren A², Dikanov AS² (¹ JASRI/SPring-8, ² Univ. Illinois at Urbana-Champaign) : Application of 2D pulsed EPR (HYSCORE) in the structural analysis of hydrogen bond network around a biological iron-sulfur cluster. 16th International Conference on Bioinorganic Chemistry (Grenoble, France), 2013. 7.
- 8) Fukazawa R, Lin TM¹, Miyajima-Nakano Y, Baldansuren A¹, Matsushita S, Dikanov AS¹, Gennis BR¹, Iwasaki T (¹ University of Illinois at Urbana-Champaign) : Expression host strains for selective isotope labeling of thermophile enzymes. Thermophiles 2013, 12th International Meeting at the University of Regensburg (Regensburg, Germany), 2013. 9.
- 9) Iwasaki T, Hagiuda E, Fukazawa R, Hayashi-Iwasaki Y¹, Oshima T¹, Dikanov AS², Hasegawa K³, Kumasaka T³ (¹ Inst. Env. Microbiol., Kyowa Kako Co., ² Univ. of Illinois at Urbana-Champaign, ³ JASRI/SPring-8) : Thermophile homolog of mitoNEET from *Thermus thermophilus* HB8. Thermophiles 2013, 12th International Meeting at the University of Regensburg (Regensburg, Germany), 2013. 9.

6. 生化学・分子生物学（分子遺伝学）

研究概要

島田は平成4年に当時の第二生化学教室の教授として赴任して以来、23年間に渡り遺伝子治療の基盤技術の開発を中心に、遺伝子解析、細胞治療、遺伝診療も含めた、ゲノム医学の包括的トランスレーショナルリサーチを目指し研究を進めてきた。ウイルスベクターの開発では、世界最初の組み換えエイズウイルスとして注目されたHIVベクターの改良を進め、エイズや白血病の遺伝子治療法の開発を行った。又、安全性が高く長期発現が可能なベクターとして期待されているアデノ随伴ウイルス(AAV)ベクターの実用化を目指し、作製法の改良を行うとともに遺伝性難病の治療法開発を行った。重篤な神経系脱髄疾患である異染性白質ジストロフィーの治療法として、様々な細胞・遺伝子治療の安全性と有効性をモデル動物を使った実験で治療戦略を提案した。致死的な骨系統疾患である重症乳児型低フォスファターゼ症(HPP)のモデルマウスの遺伝子治療に世界最初に成功し、胎児遺伝子治療の有用性も明らかにした。HPPは胎児期に発見されることが多く、将来的に行われるであろう胎児遺伝子治療の最も重要な対象となると考えている。平成10年には我々の提案がハイテクリサーチ整備事業の一つに採択された。ハイテクリサーチセンターは本格的な遺伝子解析共同研究施設として大学全体の研究基盤の整備に大きく貢献した。又、同じく平成10年には小児科、看護部と協力して付属病院で遺伝カウンセリングを開始し、平成15年には遺伝診療科として独立し、今では日本の遺伝診療の拠点の一つになっている。ハイテクリサーチセンターでは、遺伝診療科と協力して様々な疾患の遺伝子診断を行っている。又、個別化医療を担当するゲノム先端医療部と協力して薬剤感受性に関係した遺伝子検査を開始している。このような多岐にわたる医学研究を行うことができたのは研究室スタッフや大学院生のおかげであり、感謝している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hirai T¹, Enomoto M¹, Kaburagi H¹, Sotome S¹, Yoshida-Tanaka K², Ukegawa M¹, Kuwahara H², Yamamoto M², Tajiri M², Miyata H², Hirai Y, Tominaga M³, Shinomiya K¹, Mizusawa H², Okawa A¹, et al. ⁽¹⁾ 東京医科歯科大学整形外科, ⁽²⁾ 神経内科, ⁽³⁾ 自然科学研究機構) : Intrathecal AAV Serotype 9-mediated Delivery of shRNA Against TRPV1 Attenuates Thermal Hyperalgesia in a Mouse Model of Peripheral Nerve Injury. *Molecular Therapy* 2014 ; 22 (2) : 409-419.
- 2) Machida A¹, Kuwahara H¹, Mayra A¹, Kubodera T¹, Hirai T², Sunaga F¹, Tajiri M¹, Hirai Y, Shimada T, Mizusawa H¹, Yokota T^{1,3} ⁽¹⁾ Department of Neurology and Neurological Science, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, ⁽²⁾ Department of Orthopedic Surgery, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, ⁽³⁾ CREST, JST) : Intraperitoneal administration of AAV9-shRNA inhibits target gene expression in the dorsal root ganglia of neonatal mice. *Molecular Pain* 2013 ; 9 (1) : 36-46.
- 3) 一戸 唱¹, 五十嵐勉¹, 藤本千明¹, 飯島 修, 小野眞史¹, 高橋 浩¹ ⁽¹⁾ 付属病院眼科) : 1. 自発的開眼維持による涙液浸透圧の変化. *あたらしい眼科* 2014 ; 31 (2) : 97-99.
- 4) Igarashi T¹, Miyake K, Asakawa N, Miyake N, Shimada T, Takahashi H¹ ⁽¹⁾ Department of Ophthalmology, Nippon Medical School) : Direct comparison of administration routes for AAV8-mediated ocular gene therapy. *Curr Eye Res* 2013 ; 38 (5) : 569-577.
- 5) Terasaki Y¹, Terasaki M¹, Urushiyama H¹, Nagasaka S¹, Takahashi M¹, Kunugi S¹, Ishikawa A¹, Wakamatsu K¹, Kuwahara N¹, Miyake K, Fukuda Y¹ ⁽¹⁾ Department of Pathology (Analytic Human

Pathology), Nippon Medical School) : Role of survivin in acute lung injury : epithelial cells of mice and humans. *Lab Invest* 2013 ; 93 (10) : 1147-1163.

- 6) Sakai A¹⁾, Saitow F¹⁾, Miyake N, Miyake K, Shimada T, Suzuki H¹⁾ (1) 薬理学) : miR-7a alleviates the maintenance of neuropathic pain through regulation of neuronal excitability. *Brain* 2013 ; 136 (9) : 2738-2750.
- 7) Komiyama H, Miyake K, Asai K¹⁾, Mizuno K¹⁾, Shimada T (1) 附属病院循環器内科) : Cyclical mechanical stretch enhances degranulation and IL-4 secretion in RBL-2H3 mast cells. *Cell Biochem Funct* 2014 ; 32 (1) : 70-76.
- 8) Konno A¹⁾, Shuvaev A^{1,2)}, Miyake N, Miyake K, Iizuka A¹⁾, Matsuura S¹⁾, Huda F¹⁾, Nakamura K¹⁾, Yanagi S³⁾, Shimada T, Hirai H¹⁾ (1) 群馬大学神経生理学, 2) Department of Neurosurgery and Neurology, Krasnoyarsk State Medical University, 3) 東京薬科大学分子生化学) : Mutant ataxin-3 with an abnormally expanded polyglutamine chain disrupts dendritic development and metabotropic glutamate receptor signaling in mouse cerebellar purkinje cells. *Cerebellum* 2014 ; 13 (1) : 29-41.
- 9) Aoki M, Miyake K, Ogawa R¹⁾, Dohi T, Akaishi S¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Shimada T (1) 附属病院形成外科) : siRNA Knockdown of Tissue Inhibitor of Metalloproteinase-1 in Keloid Fibroblasts Leads to Degradation of Collagen Type I. *J Invest Dermatol* 2014 ; 134 (3) : 818-826.
- 10) Uchida N¹⁾, Hanawa H, Yamamoto M, Shimada T (1) 血液内科) : The chicken hypersensitivity site 4 core insulator blocks promoter interference in lentiviral vectors. *Hum. Gene Ther.* 2013 ; 24 (2) : 117-124.
- 11) Watanabe A, Satoh S¹⁾, Fujita A, Naing B, Orimo H, Shimada T (1) 青森県立中央病院) : Perinatal hypophosphatasia caused by uniparental isodisomy. *Bone* 2014 ; 60 : 93-97.

(2) 総説 :

- 1) Watanabe A¹⁾, Naing B¹⁾, Shimada T¹⁾ (1) 附属病院ゲノム先端医療部) : Systems-based approach to drug response. *Curr.Genet.Med.Rep.* 2013 ; 1 (3) : 171-174.
- 2) 渡邊 淳¹⁾, 佐々木元子¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 附属病院遺伝診療科) : Ehlers-Danlos 症候群. *小児科臨牀* 2013 ; 66 (増刊) : 1363-1367.

著 書

- 1) 渡邊 淳¹⁾ (1) 附属病院 ゲノム先端医療部) : [分担] テーラーメイド医療からみた SNP 遺伝子多型の戦略. 産婦人科における臨床遺伝学—ゲノム医療の展開 : 各論 研修ノート No92 (公益社団法人 日本産婦人科医学会), 2014 ; pp79-84, 公益社団法人 日本産婦人科医学会.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 附属病院 遺伝診療科, 2) 附属病院 ゲノム先端医療部) : ファーマコゲノミクス (PGx) 情報 (検査) を扱う時のキーポイント. 第4回遺伝カウンセリング研修会 (京都), 2013. 7.
- 2) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 附属病院 遺伝診療科, 2) 附属病院 ゲノム先端医療部) : 『ゲノム医療の現場では』 遺伝子の情報はどのように私たちのからだにかかわっているか. 文京アカデミア (東京), 2014. 2.
- 3) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 附属病院 遺伝診療科, 2) 附属病院 ゲノム先端医療部) : 「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」の改正と留意点について. 平成25年度 臨床研究講習会 (日本医科大学) (東京), 2013. 7.

(2) 招待講演 :

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 附属病院 遺伝診療科, 2) 附属病院 ゲノム先端医療部) : 新しいゲノム解析指針. 第1回ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する講習会 (東京理科大学) (野田), 2013. 4.

- 2) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 付属病院 ゲノム先端医療部) : ゲノム医療の現場では. 東京都高等学校生物研究会 (東京), 2013. 7.
- (3) シンポジウム :
- 1) 渡邊 淳¹⁾ (1) 付属病院 遺伝診療科) : Ehlers-Danlos 症候群. 第 37 回日本小児皮膚科学会学術集会 (東京), 2013. 7.
- 2) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 付属病院 ゲノム先端医療部) : 「人々の暮らしを支えるケア」臨床遺伝専門医の立場から. 日本遺伝看護学会 第 13 回学術大会 (盛岡), 2013. 10.
- 3) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 付属病院 ゲノム先端医療部) : 日本医科大学におけるオーダーメイド医療 研究成果を臨床現場へ. 日本医科大学 オーダーメイド医療 講演会 (東京), 2013. 5.
- (4) パネルディスカッション :
- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 付属病院 ゲノム先端医療部) : がんを対象にしたエクソーム解析の実用化と倫理的課題. 日本遺伝子診療学会 : 遺伝子診断・検査技術推進フォーラム公開シンポジウム 2013 (東京), 2013. 12.
- (5) セミナー :
- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 付属病院 ゲノム先端医療部) : 『DNA と私たちのからだ・病気』遺伝子の情報はどのように私たちのからだにかかわっているか. 第 8 回「私たちの DNA」(東京), 2013. 9.
- (6) 一般講演 :
- 1) Yamazaki Y, Hironaka K, Hirai Y, Miyake K, Shimada T : Targeted gene transfer into the ependymal cells and long-term enzyme replacement in the CSF by intraventricular injection of AAV vector serotype 1. 16th Annual Meeting of ASGCT (Salt Lake City), 2013. 5.
- 2) Igarashi T¹⁾, Miyake K, Miyake N, Iijima O, Yaguchi C¹⁾, Shimada T, Takahashi H¹⁾ (1) Department of Ophthalmology) : Adeno-Associated Vector (Type 8) -Mediated Expression of siRNA Targeting Vascular Endothelial Growth Factor Efficiently Inhibits Neovascularization in a Murine Choroidal Neovascularization Model. 16th Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy (Salt Lake City), 2013. 5.
- 3) Igarashi T¹⁾, Miyake N, Iijima O, Fujimoto C¹⁾, Shimada T, Takahashi H¹⁾, Miyake K (1) Department of Ophthalmology) : siRNA targeting vascular endothelial growth factor by adeno-associated vector (type 8) efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. 日本遺伝子治療学会学術集会 (第 19 回) (岡山), 2013. 7.
- 4) 飯島 修¹⁾, 三宅弘一¹⁾, 中村有希¹⁾, 鹿子田千津^{1,2)}, 五十嵐勉^{1,2)}, 渡邊 淳^{2,3)}, 島田 隆^{2,3)} (1) 日本医科大学 生化学・分子生物学講座 (分子遺伝学), 2) 日本医科大学付属病院 眼科, 3) 日本医科大学付属病院 遺伝診療科) : 低フォスファターゼ症マウスに対する ex vivo 遺伝子治療法の検討. 第 58 回日本人類遺伝学会大会 (仙台), 2013. 11.
- 5) Iijima O, Miyake K, Nakamura A, Igarashi T¹⁾, Kanokoda C, Watanabe A²⁾, Shimada T²⁾ (1) Department of Ophthalmology, 2) Division of Clinical Genetics) : Bone Marrow Cell Based Enzyme Replacement Prolongs Survival and Improves Disease Phenotypes In a Mouse Model Of Lethal Hypophosphatasia. 55th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition (New Orleans), 2013. 12.
- 6) Igarashi T¹⁾, Miyake K, Miyake N, Iijima O, Yaguchi C¹⁾, Shimada T, Takahashi H¹⁾ (1) Department of Ophthalmology) : Adeno-Associated Vector (Type 8) -Mediated Expression of siRNA Targeting Vascular Endothelial Growth Factor Efficiently Inhibits Neovascularization in a Murine Choroidal Neovascularization Model. 16th Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy (Salt Lake City), 2013. 5.
- 7) Miyake N, Miyake K, Yamamoto M, Shimada T : Long Term Secretion of Arylsulfatase A without Antibody Formation after AAV Mediated Neonatal Gene Transfer into MLD Model Mice. 16th Annual Meeting of the

- American Society of Gene & Cell Therapy (Salt Lake City), 2013. 5.
- 8) Miyake N, Miyake K, Shimada T : Minimally invasive gene therapy of MLD model mice by intrathecal and intravenous injection of AAV9 vector. 10th Annual WORLDS yposium 2014 (San Diego), 2014. 2.
 - 9) Igarashi T¹⁾, Miyake N, Iijima O, Yaguchi C¹⁾, Shimada T, Takahashi T¹⁾, Miyake K (¹⁾ Department of Ophthalmology) : siRNA Targeting Vascular Endothelial Growth Factor by adeno-associated vector (type 8) efficiently inhibits Neovascularization in a Murine Choroidal Neovascularization Model. Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (19th) (岡山), 2013. 7.
 - 10) Miyake N, Miyake K, Yamamoto M, Shimada T : Tolerance induction to arylsulfatase A by AAV mediated neonatal gene transfer into MLD model mice. Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (19th) (岡山), 2013. 7.
 - 11) Konno A¹⁾, Shuavaev A^{1, 2)}, Miyake N, Miyake K, Yanagi S³⁾, Shimada T, Hirai H¹⁾ (¹⁾ Department of Neurophysiology, Gunma University Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Neurosurgery and Neurology, Krasnoyarsk State Medical University, ³⁾ Laboratory of Molecular Biochemistry, Graduate School of Life Sciences, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences) : Disruption of metabotropic glutamate receptor signaling and rescue through intravascular administration of AAV9 in a mouse model of spinocerebellar ataxia type 3. Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (19th) (岡山), 2013. 7.
 - 12) Yamaguchi T¹⁾, Konno A¹⁾, Miyake N, Miyake K, Shimada T, Hirai H¹⁾ (¹⁾ Department of Neurophysiology, Gunma University Graduate School of Medicine) : robust and cell type-specific transgene expression by applying tetracycline-controlled system to AAV9. Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (19th) (岡山), 2013. 7.
 - 13) 三宅弘一, 藤倉輝道¹⁾, 渡辺 淳, 平井幸彦, 飯島 修, 山崎吉之, 三宅紀子, 山本基子, 竹下俊行²⁾, 島田 隆 (¹⁾ 日本医科大学教育推進室, ²⁾ 日本医科大学付属病院産婦人科学) : PBL チューリアル型基礎医学学生実習の導入 (第2報). 日本医学教育学会大会 (第45回) (千葉), 2013. 7.
 - 14) Miyake N¹⁾, Miyake K¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 生化学・分子生物) : T. Long-term secretion of arylsulfatase A without antibody formation after AAV mediated neonatal gene transfer into MLD model mice. 16th Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy.(Salt Lake City), 2013. 5.
 - 15) Igarashi T¹⁾, Miyake N¹⁾, Iijima O¹⁾, Yaguchi C¹⁾, Shimada T¹⁾, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 生化学・分子生物) : Adeno-associated vector (type8) -mediated expression of siRNA targeting vascular endothelial growth factor efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. 16th Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy.(Salt Lake City), 2013. 5.
 - 16) Iijima O¹⁾, Miyake K¹⁾, Nakamura A¹⁾, Igarashi T¹⁾, Kanekoda C¹⁾, Watanabe A¹⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 生化学・分子生物) : Bone marrow cell based enzyme replacement prolongs survival and improves disease phenotypes in a mouse model of lethal hypophosphatasia. 55th Annual Meeting of American Society of Hematology.(New Orleans), 2013. 12.
 - 17) Miyake N¹⁾, Miyake K¹⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 生化学・分子生物) : Gene therapy of MLD model mice by intrathecal and intravenous injection of AAV9 vector. 10th Annual WORLD Symposium 2014 (San Diego), 2014. 2.
 - 18) Miyake N¹⁾, Miyake K¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 生化学・分子生物) : Tolerance induction to arylsulfatase A by AAV mediated neonatal gene transfer into MLD model mice. 第19回日本遺伝子治療学会 (岡山), 2013. 7.
 - 19) Konno A¹⁾, Shuavaev A¹⁾, Miyake N¹⁾, Miyake K¹⁾, Yanagi S¹⁾, Shimada T¹⁾, Hirai H¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学

- 付属病院 生化学・分子生物) : Disruption of metabotropic glutamate receptor signaling and rescue through intravascular administration of AAV9 in a mouse model of spinocerebellar ataxia type 3. 第19回日本遺伝子治療学会(岡山), 2013. 7.
- 20) Yamaguchi T¹, Konno A¹, Miyake N¹, Miyake K¹, Shimada T¹, Hirai H¹ (1) 日本医科大学付属病院 生化学・分子生物) : Robust and cell type-specific transgene expression by applying tetracycline-controlled system to AAV9. 第19回日本遺伝子治療学会(岡山), 2013. 7.
- 21) Igarashi T¹, Miyake N¹, Iijima O¹, Fujimoto C¹, Shimada T¹, Takahashi H¹, Miyake K¹ (1) 日本医科大学付属病院 生化学・分子生物) : siRNA targeting vascularendothelial growth factor by adeno-associated vector (type 8) efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. 第19回日本遺伝子治療学会(岡山), 2013. 7.
- 22) 三宅弘一¹, 藤倉輝道¹, 渡辺 淳¹, 平井幸彦¹, 飯島 修¹, 山崎吉之¹, 三宅紀子¹, 山本基子¹, 竹下俊行¹, 島田 隆¹ (1) 日本医科大学付属病院 生化学・分子生物) : PBL チュートリアル型基礎医学学生実習の導入(第2報). 第45回日本医学教育学会大会(千葉), 2013. 7.
- 23) Banyar T¹, 藤田京志^{1,2}, 畠山未来³, 松本健一⁴, 島田 隆^{1,3}, 渡邊 淳^{1,3} (1) 日本医科大学大学院 分子遺伝医学, 2) 横浜市立大学, 3) 日本医科大学付属病院 遺伝診療科, 4) 島根大学) : テネイシン X 欠損型 Ehlers-Danlos 症候群の1例. 第58回日本人類遺伝学会(仙台), 2013. 11.
- 24) 佐々木元子¹, 伊藤昌晴², 矢内雅臣², 滝澤公子³, 室伏きみ子³, 櫻井晃洋⁴, 島田 隆¹, 渡邊 淳¹ (1) 日本医科大学付属病院 生化学・分子生物) : 新学習指導要領における中学校・高等学校の生物での遺伝教育変更と対応について: 1事例を通して. 第58回日本人類遺伝学会(仙台), 2013. 11.
- 25) Watanabe A¹, Satoh S S², Fujita A³, Naing B, Orimo H, Shimada T¹ (1) 付属病院遺伝診療科, 2) 青森県立中央病院, 3) 付属病院ゲノム先端医療部) : PERINATAL (LETHAL) TYPE OF HYPOPHOSPHATASIA RESULTING FROM PATERNAL ISODISOMY OF CHROMOSOME 1. ALPS 研究会(東京), 2013. 7.
- 26) Watanabe A¹, Ogawa R², Sasaki M³, Fujita A¹, Naing B, Akaishi S², Hyakusoku H², Shimada T¹ (1) 付属病院ゲノム先端医療部, 2) 付属病院形成外科, 3) 付属病院遺伝診療科) : A replication study for four keloid loci at 1q41, 3q22.3-23 and 15q21.3 in the Japanese population. European Society of Human Genetics (ESHG) Conference 2013 (Paris), 2013. 6.
- 27) 土佐真美子¹, 渡邊 淳², 村上正洋¹, モハマッドガジザデ³ (1) 武蔵小杉病院 形成外科, 2) 付属病院 ゲノム先端医療部, 3) 老人病研究所 病理部門) : ケロイド患者における IL-6 関連遺伝子多型パターンと臨床像との関連について. 第56回日本形成外科学会総会・学術集会(東京), 2013. 4.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) Miyake K, Shimada T : Development of muscle directed systemic cancer gene therapy. Gene Therapy/Book 1 (Edited by Ming Wei and David Good), InTech 2013 : 119-127.

7. 薬理学

研究概要

25年度は以下の成果を得た。a) 神経障害性疼痛モデルラットの後根神経節において、miR-17-92 クラスターの発現が上昇することを見出した。また、青斑核へのグリア細胞株由来神経栄養因子投与は下行性ノルアドレナリン神経伝達を介して持続的な鎮痛効果を発揮することを明らかにした。b) スティッフ・パーソン症候群の原因候補である抗グルタミン酸脱炭酸酵素 (GAD) 抗体を用いて、小脳皮質 GABA 作動性シナプスに対する効果を調べた。抗 GAD 抗体は野生型では有意にシナプス伝達抑制が生じたが、GAD65 欠損動物では抑制作用を認めなかった。このことから、抗 GAD 抗体は機械的あるいは生化学的作用によりシナプス前終末において GABA 放出抑制を起こすことが示唆された。c) ストレスホルモンであるコルチコステロンを慢性投与したマウスを用いて抗うつ薬フルオキセチン (FLX) の効果を解析した。低用量 FLX はコルチコステロン投与群で海馬の神経脱成熟などを誘導したが、対照群では効果が無かった。従って、慢性ストレス下などの病的状態では FLX の作用が促進されることが示唆された。d) 3-メルカプトピルビン酸硫黄転移酵素のノックアウトマウスでは、コントロール動物に比べ不安様行動を示し、前頭前野においてセロトニン含量が増加していることを見出した。e) ヒト iPS 細胞株を用いて神経幹細胞に分化誘導することにより向精神薬の神経分化に与える影響を評価する系を作製した。f) ヒトを対象にした脳機能画像研究において、モダフィニルが報酬予測に関わる側坐核の脳活動を増加させることを明らかにした。g) 小脳プルキンエ細胞における GABA 電流は脱分極により 20 分以上振幅が減少することを見出した。この現象は Ca^{2+} 依存性 Cl^- チャンネルとクロライドトランスポーターの活性化により、細胞内 Cl^- 濃度の上昇で起こることを明らかにした。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kobayashi K¹), Ikeda Y, Asada M, Inagaki H²), Kawada T²), Suzuki H¹) (1) JST, CREST, (2) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School) : Corticosterone Facilitates Fluoxetine-Induced Neuronal Plasticity in the Hippocampus. *PLoS ONE* 2013 ; 8 (5) : e63662.
- 2) Takao K^{1, 2, 3}), Kobayashi K³), Hagihara H^{1, 3}), Ohira K^{1, 3}), Shoji H^{1, 3}), Hattori S^{1, 3}), Koshimizu H^{1, 3}), Umemori J^{1, 3}), Toyama K^{1, 3}), Nakamura H^{1, 3}), Kuroiwa M^{3, 4}), Maeda J⁵), Atsuzawa K¹), Esaki K⁶), Yamaguchi S^{7, 8}), et al. (1) Fujita Health University, (2) National Institute for Physiological Sciences, (3) JST, CREST, (4) Kurume University School of Medicine, (5) National Institute of Radiological Sciences, (6) Kyushu University, (7) Gifu University, (8) JST, PRESTO) : Deficiency of Schnurri-2, an MHC Enhancer Binding Protein, Induces Mild Chronic Inflammation in the Brain and Confers Molecular, Neuronal, and Behavioral Phenotypes Related to Schizophrenia. *Neuropsychopharmacology* 2013 ; 38 (8) : 1409-1425.
- 3) Nagahara N¹), Nagano M, Ito T²), Shimamura K²), Akimoto T³), Suzuki H (1) Isotope Research Center, Nippon Medical School, (2) Kumamoto University, (3) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School) : Antioxidant enzyme, 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase-knockout mice exhibit increased anxiety-like behaviors : a model for human mercaptolactate-cysteine disulfiduria. *Scientific Reports* 2013 ; 3 : 1986.
- 4) Shin R¹), Kobayashi K²), Hagihara H³), Kogan JH¹), Miyake S¹), Tajinda K¹), Walton NM¹), Gross AK¹), Heusner CL¹), Chen Q¹), Tamura K¹), Miyakawa T³), Matsumoto M¹) (1) CNS, Astellas Research Institute of America LLC, (2) JST, CREST, (3) Fujita Health University,) : The Immature Dentate Gyrus represents a

Shared Phenotype of Mouse Models of Epilepsy and Psychiatric Disease. *Bipolar Disorders* 2013 ; 15 (4) : 405-421.

- 5) Sakai A, Suzuki H : Nerve injury-induced upregulation of miR-21 in the primary sensory neurons contributes to neuropathic pain in rats. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2013 ; 435 (2) : 176-181.
- 6) Saji K¹⁾, Ikeda Y, Kim W²⁾, Shingai Y²⁾, Tateno A²⁾, Takahashi H³⁾, Okubo Y²⁾, Fukayama H¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Tokyo Medical and Dental University, ²⁾ Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Kyoto University) : Acute NK₁ receptor antagonist administration affects reward incentive anticipation processing in healthy volunteers. *International Journal of Neuropsychopharmacology* 2013 ; 16 (7) : 1461-1471.
- 7) Sakai A, Saitow F, Miyake N¹⁾, Miyake K¹⁾, Shimada T¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : miR-7a alleviates the maintenance of neuropathic pain through regulation of neuronal excitability. *Brain* 2013 ; 136 (9) : 2738-2750.
- 8) Satoh H, Qu L¹⁾, Suzuki H²⁾, Saitow F²⁾ (¹⁾ Harbin Medical University, ²⁾ JST, CREST) : Depolarization-induced depression of inhibitory transmission in cerebellar Purkinje cells. *Physiological Reports* 2013 ; 1 (3) : e00061.

(2) 総説 :

- 1) 鈴木秀典 : スポーツ活動による薬物動態の変化. *臨床スポーツ医学* 2013 ; 30 (11) : 1023-1027.
- 2) 鈴木秀典 : 国際的なアンチ・ドーピング活動の新展開. *モダンメディア* 2013 ; 59 (10) : 261-264.
- 3) 小林克典 : 抗うつ薬の作用メカニズム : 最近の知見. *脳* 21 2013 ; 16 (3) : 305-309.
- 4) 小林克典 : 抗うつ作用と海馬神経可塑性. *日本医科大学医学会雑誌* 2014 ; 10 (1) : 6-12.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 小林克典 : Reversal of hippocampal neuronal maturation as a cellular mechanism of antidepressant action. 延世大学医学部 日本医科大学 学術交流協定締結 記念シンポジウム (日本医科大学・橘桜会館 (東京)), 2013. 6.
- 2) 小林克典 : 抗うつ作用の基盤としての海馬神経脱成熟. 専修大学心理科学研究センターシンポジウム・生理心理学のフロンティア (専修大学神田キャンパス (東京)), 2013. 11.
- 3) 鈴木秀典 : 東京オリンピック・パラリンピック (2020) とアンチ・ドーピング. 日本臨床スポーツ医学会 2014 年公開シンポジウム : 日本がめざすアンチ・ドーピング (東京ステーションコンファレンス (東京)), 2014. 2.
- 4) 小林克典 : 成体海馬における興奮抑制バランスによる神経成熟度の制御 Regulation of the state of neuronal maturation by excitation / inhibition balance in adult hippocampus. 第 91 回日本生理学会大会 (鹿児島大学 (鹿児島県)), 2014. 3.
- 5) 牛腸義宏, 齋藤文仁, 柳川右千夫¹⁾, 坂井 敦, 鈴木秀典 (¹⁾ 群馬大学) : マウス背側縫線核における GABA 作動性細胞の電気生理学的特性の解析. 第 91 回日本生理学会大会 : 入澤記念 JPS 優秀論文シンポジウム (鹿児島大学 (鹿児島県)), 2014. 3.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 鈴木秀典 : スポーツ基本法と弁護士の役割 : 体罰・セクハラ・スポーツ事故の防止 グッドガバナンスのために. 第 18 回弁護士業務改革シンポジウム (神戸ポートピアホテル (兵庫県)), 2013. 11.

(3) 一般講演 :

- 1) Nakayama A¹⁾, Arai Y¹⁾, Katayama A²⁾, Suzuki H, Shiba K¹⁾, Iijima S¹⁾ (¹⁾ Bunkyo Gakuin University, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Rapid and simple method of Tamm-Horsfall protein removal for urinary exosomal protein identification. Human Proteome Organization

- 12th Annual World Congress (Yokohama), 2013. 9.
- 2) Nagura H¹⁾, Kobayashi K, Suzuki H, Doi T²⁾, Fujiyoshi Y¹⁾ (¹⁾ Nagoya University, ²⁾ Kyoto University) : Characterization of enhanced LTP observed in the dentate gyrus of 1d2d-PSD-95 KI mice. The 43rd annual meeting of the Society for Neuroscience (San Diego, California, USA), 2013. 11.
 - 3) Karibe H¹⁾, Koeda M²⁾, Tateno A²⁾, Suzuki H, Okubo Y²⁾ (¹⁾ Nippon Dental University, ²⁾ Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Brain activity during the presentation of dental treatment sounds : an fMRI study. The 43rd annual meeting of the Society for Neuroscience (San Diego, California, USA), 2013. 11.
 - 4) Segi-Nishida E¹⁾, Imoto Y¹⁾, Kira T¹⁾, Kobayashi K (¹⁾ Kyoto University) : The role of 5-HT₄ receptor in hippocampal neurogenesis increased by chronic SSRI treatment. the 43rd annual meeting of the Society for Neuroscience (San Diego, California, USA), 2013. 11.
 - 5) 木村茉莉子¹⁾, 坂井 敦, 鈴木秀典, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院疼痛制御麻酔科学) : 青斑核へのグリア細胞株由来神経栄養因子の投与はノルアドレナリンによる下行性抑制を介して神経障害性疼痛を緩和する. 日本麻酔科学会第60回学術集会 (ロイトン札幌 (北海道)), 2013. 5.
 - 6) 木村茉莉子¹⁾, 坂井 敦, 坂本篤裕¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本医科大学大学院疼痛制御麻酔科学) : GDNFは青斑核において下行性ノルアドレナリン神経伝達を介して神経障害性疼痛を緩和する. Neuro2013 第36回日本神経科学大会 第56回日本神経化学会大会 第23回日本神経回路学会大会 合同大会 (国立京都国際会館 (京都府)), 2013. 6.
 - 7) 瀬木-西田恵里¹⁾, 吉良俊彦¹⁾, 井本有基¹⁾, 小林克典 (¹⁾ 京都大学大学院) : SSRI長期投与による海馬神経新生における5-HT₄受容体の役割. Neuro2013 第36回日本神経科学大会 第56回日本神経化学会大会 第23回日本神経回路学会大会 合同大会 (国立京都国際会館 (京都府)), 2013. 6.
 - 8) 小林克典¹⁾, 池田裕美子, 浅田 穰, 稲垣弘文²⁾, 川田智之²⁾, 鈴木秀典¹⁾ (¹⁾ JST, CREST, ²⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学) : コルチコステロンは抗うつ薬誘導性の海馬神経可塑性を促進する. Neuro2013 第36回日本神経科学大会 第56回日本神経化学会大会 第23回日本神経回路学会大会 合同大会 (国立京都国際会館 (京都府)), 2013. 6.
 - 9) 金 禹瑣¹⁾, 館野 周¹⁾, 坂寄 健¹⁾, 荒川亮介²⁾, 池田裕美子, 鈴木秀典, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院精神医学, ²⁾ 国立精神・神経医療研究センター) : PET検査を用いた向知性薬のドーピング効果評価. Neuro2013 第36回日本神経科学大会 第56回日本神経化学会大会 第23回日本神経回路学会大会 合同大会 (国立京都国際会館 (京都府)), 2013. 6.
 - 10) 佐治可奈子¹⁾, 池田裕美子, 高橋英彦²⁾, 深山治久¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院, ²⁾ 京都大学大学院) : NK₁受容体拮抗薬の単回投与が健常成人の報酬期待処理に及ぼす影響の検討-fMRI研究. 第128回日本薬理学会関東部会 (早稲田大学国際会議場 (東京)), 2013. 7.
 - 11) 永原則之¹⁾, 永野昌俊, 伊藤隆明²⁾, 嶋村健児²⁾, 秋元敏雄³⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本医科大学基礎医学放射性同位元素研究室, ²⁾ 熊本大学, ³⁾ 実験動物管理室) : Comprehensive analysis of MST knockout mouse : exhibition of increased anxiety-like behaviors. 第86回日本生化学会大会 (横浜), 2013. 9.
 - 12) 小川耕平¹⁾, 館野 周¹⁾, 荒川亮介²⁾, 坂寄 健¹⁾, 池田裕美子, 鈴木秀典, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院精神医学, ²⁾ 国立精神・神経医療研究センター) : [¹¹C] DASBを用いたトラマドールのセロトニントランスポーターの占有率についての陽電子放射断層撮影 (PET) 研究 : 鎮痛効果の作用機序と抗うつ作用の可能性. 第23回日本臨床精神神経薬理学会・第43回日本神経精神薬理学会合同年会 (沖縄コンベンションセンター (沖縄県)), 2013. 10.
 - 13) 鈴木智弓¹⁾, 赤間高雄²⁾, 奥脇 透³⁾, 川原 貴³⁾, 河野一郎⁴⁾, 土肥美智子³⁾, 西多昌規⁵⁾, 山澤文裕⁶⁾, 渡部厚一⁴⁾, 和田野安良⁷⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本アンチ・ドーピング機構, ²⁾ 早稲田大学, ³⁾ 国立スポーツ科学センター,

- 4) 筑波大学, 5) 自治医科大学, 6) 丸紅健康開発センター, 7) 茨城県立医療大学) : WADA 規定改訂に伴うドーピング禁止物質の治療目的使用の変化. 第 24 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (熊本市会館 (熊本県)), 2013. 10.
- 14) 高須久望子¹⁾, 山本真由美¹⁾, 浅川 伸¹⁾, 赤間高雄²⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本アンチ・ドーピング機構, ²⁾ 早稲田大学) : ドーピング防止教育におけるアスリートおよび指導者の意識変容について. 第 24 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (熊本市会館 (熊本県)), 2013. 10.
- 15) 山本真由美¹⁾, 高須久望子¹⁾, 浅川 伸¹⁾, 赤間高雄²⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本アンチ・ドーピング機構, ²⁾ 早稲田大学) : 大学生アスリートのサプリメントの使用実態について. 第 24 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (熊本市会館 (熊本県)), 2013. 10.
- 16) 中山亜紀¹⁾, 君野 舞¹⁾, 坂爪 実¹⁾, 片山 映²⁾, 鈴木秀典, 芝紀代子¹⁾, 飯島史朗¹⁾ (¹⁾ 文京学院大学, ²⁾ 日本医科大学大学生化学・分子生物学) : セルロースアセテート膜からのタンパク抽出法を用いた尿細管障害患者尿タンパク分画の同定. 第 64 回日本電気泳動学会総会 (東北福祉大学ステーションキャンパス (宮城県)), 2013. 11.
- 17) 齋藤文仁, 永野昌俊, 鈴木秀典 : 深部小脳核 GABA シナプス神経伝達の発達変化とその役割. 第 91 回日本生理学会大会 (鹿児島大学 (鹿児島県)), 2014. 3.
- 18) 佐藤寛栄, 齋藤文仁, 鈴木秀典 : プルキンエ細胞における脱分極による GABA シナプスの可塑性. 第 91 回日本生理学会大会 (鹿児島大学 (鹿児島県)), 2014. 3.
- 19) 坂井 敦, 鈴木秀典 : 神経障害性疼痛における一次感覚神経節での miR-17-92 クラスター発現上昇. 第 87 回日本薬理学会年会 (東北大学 (宮城県)), 2014. 3.
- 20) 池田裕美子, 船山拓也¹⁾, 館野 周²⁾, 高橋英彦³⁾, 大久保善朗²⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院, ²⁾ 日本医科大学大学院精神・行動医学分野, ³⁾ 京都大学大学院) : 健常成人における注意時の脳活動に対するモダフィニルの効果. 第 87 回日本薬理学会年会 (東北大学 (宮城県)), 2014. 3.
- 21) 船山拓也¹⁾, 池田裕美子, 館野 周²⁾, 高橋英彦³⁾, 大久保善朗²⁾, 深山治久¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院, ²⁾ 日本医科大学大学院精神・行動医学分野, ³⁾ 京都大学大学院) : 健常者における報酬処理に対するブプロピオンの効果 : 薬理的 fMRI 研究. 第 87 回日本薬理学会年会 (東北大学 (宮城県)), 2014. 3.

8. 病理学（解析人体病理学）

研究概要

基礎研究として腎、肺、移植、心、眼、泌尿器の病理を中心に行なわれた。腎では肝不全に伴う急性腎障害、腎臓の急性GVHD、ANCA関連血管炎、糸球体疾患のIV型コラーゲン α 鎖、糸球体密度、エンドキサンパルス療法や扁桃摘パルス+ミゾリピン併用療法、腎局在樹状細胞の応答性、糸球体上皮細胞特異的SIRT1ノックアウト、多重染色フローサイトメトリー法など、肺では抗酸化力を利用した水素分子治療、肺傷害とsurvivin、間質性肺炎の線維化巣の血管新生やIV型コラーゲンなど、移植ではラット肝移植、実験的臓器移植（心臓、腎臓、睪島）の長期生着や免疫寛容、自然抗原ノックアウトブタ、腎移植後蛋白尿に対するリツキサンなど、心では川崎病、眼ではPPAR点眼薬による角膜炎症抑制、泌尿器では膀胱尿路上皮癌のSnail、ERCC1、DYRK2の発現などが報告された。診断病理学に関しては、日本腎臓学会のレジストリー、ネフローゼ症候群、膜性増殖性糸球体腎炎、播種性血管内凝固症候群、菲薄基底膜病、早期膜性腎症、IgG4関連肺疾患やMulticentric Castleman Diseaseの肺病変、間質性肺炎の特長などが報告された。学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究、症例報告も行われた。B型肝炎関連腎症、腎糸球体のcrystal-storing histiocytosis、骨髄増殖性疾患に合併したIgA腎症や巣状分節性糸球体硬化症、血栓性微小血管症、Alport症候群、膠原病関連腎症や間質性腎炎、C1q腎症、家族性間質性肺炎、肺のmicronodular pneumocyte hyperplasia、肺嚢胞、NK/T cell lymphoma、結膜のMALTリンパ腫、唾液腺管癌、精母細胞性セミノーマ、子宮肉腫などの報告が行われた。また、臨床各科との臨床病理検討会が行われ、報告としてまとめられた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Terasaki M, Terasaki Y, Wakamatsu K, Takahashi M, Kunugi S, Urushiyama H, Sakanushi A¹⁾, Okubo K¹⁾, Fukuda Y (¹⁾ Department of Otorhinolaryngology) : A mucin-rich variant of salivary duct carcinoma with a prominent mucinous component, a tumor that mimics mucinous adenocarcinoma. *Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol* 2013 ; 116 (3) : e210-214.
- 2) Shimizu A, Ishii E, Masuda Y, Sato A¹⁾, Piao H¹⁾, Kunugi S, Takahashi M, Terasaki M, Terasaki Y, Ohashi R²⁾, Morioka T¹⁾, Fukuda Y (¹⁾ Department of Cellular Physiology, Institute of Nephrology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata, ²⁾ Division of Diagnostic Pathology) : Renal inflammatory changes in acute hepatic failure-associated acute kidney injury. *Am J Nephrol* 2013 ; 37 (4) : 378-388.
- 3) Ohashi R¹⁾, Fukuzawa R²⁾, Watanabe M²⁾, Tajima H²⁾, Nagi-Miura N³⁾, Ohno N³⁾, Tsuchiya S¹⁾, Fukuda Y, Ogawa S²⁾, Itoh Y²⁾ (¹⁾ Division of Diagnostic Pathology, ²⁾ Department of Pediatrics, ³⁾ Laboratory for Immunopharmacology of Microbial Products, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences) : Etanercept suppresses arteritis in a murine model of kawasaki disease : a comparative study involving different biological agents. *Int J Vasc Med* 2013 ; Article ID 543141 : 10.
- 4) Shimizu A, Ishii E, Kuwahara N, Arai T, Kanzaki G, Higo S, Kajimoto Y, Nagasaka S, Masuda Y, Fukuda Y : Chronic antibody-mediated responses may mediate chronic rejection in rat orthotopic liver transplantation. *Transplant Proc* 2013 ; 45 (5) : 1743-1747.
- 5) Ishii E, Shimizu A, Kuwahara N, Kanzaki G, Higo S, Kajimoto Y, Arai T, Nagasaka S, Masuda Y, Fukuda Y : Hepatic artery reconstruction prevents ischemic graft injury, inhibits graft rejection, and medi-

- ates long-term graft acceptance in rat liver transplantation. *Transplant Proc* 2013 ; 45 (5) : 1748-1753.
- 6) Takahashi M, Kunugi S, Terasaki Y, Terasaki M, Urushiyama H, Kuwahara N, Wakamatsu K, Nakayama T, Fukuda Y : The difference of neovascularization in early intra-alveolar fibrosis between nonspecific interstitial pneumonia and usual interstitial pneumonia. *Pathol Int* 2013 ; 63 (5) : 237-244.
 - 7) Terasaki Y, Terasaki M, Urushiyama H, Nagasaka S, Takahashi M, Kunugi S, Ishikawa A, Wakamatsu K, Kuwahara N, Miyake K¹⁾, Fukuda Y (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology) : Role of survivin in acute lung injury : epithelial cells of mice and humans. *Lab Invest* 2013 ; 93 (10) : 1147-1163.
 - 8) Vallabhajosyula P¹⁾, Hirakata A¹⁾, Shimizu A, Okumi M¹⁾, Tchiphashvili V¹⁾, Hong H¹⁾, Yamada K¹⁾, Sachs D¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Assessing the effect of immunosuppression on engraftment of pancreatic islets. *Transplantation* 2013 ; 96 (4) : 372-378.
 - 9) Kaneko T¹⁾, Shimizu A, Tsuruoka S¹⁾, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Efficacy of steroid pulse therapy in combination with mizoribine following tonsillectomy for immunoglobulin A nephropathy in renally impaired patients. *Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (4) : 279-286.
 - 10) Uchiyama M, Shimizu A, Masuda Y, Nagasaka S, Fukuda Y, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Ophthalmology) : An ophthalmic solution of a peroxisome proliferator-activated receptor gamma agonist prevents corneal inflammation in a rat alkali burn model. *Mol Vis* 2013 ; 1 (19) : 2135-2150.
 - 11) Madariaga M¹⁾, Michel S^{1, 2)}, Tasaki M¹⁾, Villa V¹⁾, La Muraglia G¹⁾, Sihag S¹⁾, Gottschall J¹⁾, Farkash E³⁾, Shimizu A, Allan J⁴⁾, Sachs D¹⁾, Yamada K¹⁾, Madsen J^{1, 5)} (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Department of Surgery, Massachusetts General Hospital, Boston, MA, ²⁾ Department of Cardiac Surgery, Ludwig-Maximilians- Universität, Munich, Germany, ³⁾ Department of Pathology, Massachusetts General Hospital, Boston, MA, ⁴⁾ Division of Thoracic Surgery, Department of Surgery, Massachusetts General Hospital, Boston, MA, ⁵⁾ Division of Cardiac Surgery, Department of Surgery, Massachusetts General Hospital, Boston, MA) : Induction of cardiac allograft tolerance across a full MHC barrier in miniature swine by donor kidney cotransplantation. *Am J Transplant* 2013 ; 13 (10) : 2558-2566.
 - 12) Cetrulo CL Jr¹⁾, Torabi R¹⁾, Scalea JR¹⁾, Shimizu A, Leto Barone AA¹⁾, Gillon BC¹⁾, Tasaki M¹⁾, Leonard DA¹⁾, Cormack TA¹⁾, Villani V¹⁾, Randolph MA¹⁾, Sachs DH¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, USA) : Vascularized composite allograft transplant survival in miniature swine : Is MHC tolerance sufficient for acceptance of epidermis?. *Transplantation* 2013 ; 96 (11) : 966-974.
 - 13) Nomura S, Suzuki Y¹⁾, Takahashi R¹⁾, Terasaki M, Kimata R¹⁾, Hamasaki T¹⁾, Kimura G¹⁾, Shimizu A, Kondo Y¹⁾ (¹⁾ Department of Urology) : Snail expression and outcome in T1 high-grade and T2 bladder cancer : a retrospective immunohistochemical analysis. *BMC Urol* 2013 ; 13 (1) : 73-78.
 - 14) Kanzaki G, Tsuboi N¹⁾, Utsunomiya Y¹⁾, Ikegami M²⁾, Shimizu A, Hosoya T¹⁾ (¹⁾ Division of Kidney and Hypertension, Department of Internal Medicine, Jikei University School of Medicine, ²⁾ Department of Pathology, Jikei University School of Medicine) : Distribution of glomerular density in different cortical zones of the human kidney. *Pathol Int* 2013 ; 63 (3) : 169-175.
 - 15) Okumi M¹⁾, J-Scalea R¹⁾, B-Gillon C¹⁾, Tasaki M¹⁾, Villani V¹⁾, Cormack T¹⁾, Hirakata A¹⁾, Shimizu A, D-Sachs H¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : The induction of tolerance of renal allografts by adoptive transfer in miniature swine. *Am J Transplant* 2013 ; 63 (3) : 169-175.

- 16) Kuse N¹⁾, Abe S¹⁾, Hayashi H¹⁾, Kamio K¹⁾, Saito Y¹⁾, Azuma K¹⁾, Kudoh S²⁾, Kunugi S, Fukuda Y, Setoguchi Y³⁾, Gemma A¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, ²⁾ Department of Respiratory and Internal Medicine, Double-Barred Cross Hospital, JATA, Tokyo, ³⁾ Department of Pulmonary Medicine, Tokyo Medical University) : Familial interstitial pneumonia in an adolescent boy with surfactant protein C gene (Y104H) mutation. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis* 2013 ; 30 (1) : 73-7.
- 17) Shimatsu Y¹⁾, Yamada K^{2, 3)}, Horii W¹⁾, Hrakata A²⁾, Sakamoto Y¹⁾, Waki S²⁾, Sano J¹⁾, Saitoh T¹⁾, Sahara H²⁾, Shimizu A, Yazawa H³⁾, Sachs D⁴⁾, Nunoya T³⁾ (¹⁾ Research & Development Department, Nippon Institute for Biological Science, Hokuto, ²⁾ Division of Organ Replacement and Xenotransplantation Surgery, Center for Advanced Biomedical Science and Swine Research, Kagoshima Univ, ³⁾ Transplantation Biology Research Center, Harvard Medical School, Massachusetts General Hospital, Boston, MA, USA, ⁴⁾ Headquarters, Nippon Institute for Biological Science, Tokyo) : Production of cloned NIBS (Nippon Institute for Biological Science) and α -1, 3-galactosyltransferase knockout MGH miniature pigs by somatic cell nuclear transfer using the NIBS breed as surrogates. *Xenotransplantation* 2013 ; 20 (3) : 157-64.
- 18) Sugiyama H¹⁾, Yokoyama H²⁾, Sato H³⁾, Saito T⁴⁾, Kohda Y⁵⁾, Nishi S⁶⁾, Tsuruya K⁷⁾, Kiyomoto H⁸⁾, Iida H⁹⁾, Sasaki T¹⁰⁾, Shimizu A, Makino A¹⁾, et al. (¹⁾ Department of Medicine and Clinical Science, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry, and Pharmaceutical Sciences, Okayama, ²⁾ Division of Nephrology, Kanazawa Medical University School of Medicine, Ishikawa, ³⁾ Division of Nephrology, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai, ⁴⁾ Division of Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, Fukuoka University School of Medicine, Fukuoka, ⁵⁾ Department of Nephrology, Faculty of Life Sciences, Kumamoto University, Kumamoto, ⁶⁾ Division of Nephrology and Kidney Center, Kobe University School of Medicine, Kobe, ⁷⁾ Department of Integrated Therapy for Chronic Kidney Disease, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, Fukuoka, ⁸⁾ Division of Integrated Nephrology and Telemedicine, Department of Community Medical Supports, Tohoku Medical Megabank Organization, Tohoku Univ, ⁹⁾ Department of Internal Medicine, Toyama Prefectural Central Hospital, Toyama, ¹⁰⁾ Division of Nephrology and Hypertension, Department of Internal Medicine, Kawasaki Medical School, Kurashiki) : Committee for standardization of renal pathological diagnosis ; committee for kidney disease registry ; Japanese Society of Nephrology.renal biopsy registry and japan kidney disease registry : Committee report for 2009 and 2010. *Clin Exp Nephrol* 2013 ; 17 (2) : 155-173.

(2) 総説 :

- 1) 神崎 剛, 清水 章 : 腎病理学の最近の進歩. *日腎会誌* 2014 ; 56 (1) : 1-7.
- 2) 神崎 剛, 清水 章 : 拒絶反応の組織学的マーカー. *日腎会誌* 2013 ; 55 (2) : 125-32.
- 3) 刃刀しのぶ, 福田 悠 : 間質性肺炎の基礎と考え方 : 診断から治療まで. *臨床画像* 2014 ; 30 (3) : 260-269.
- 4) 寺崎泰弘, 福田 悠 : 特発性間質性肺炎の鑑別診断のポイント. *間質性肺炎診療マニュアル 改訂第2版*. II-C 2013 : 88-95.
- 5) 木村健二郎¹⁾, 清水 章, 小松田敦²⁾, 伊豆津宏二³⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医科大学腎臓・高血圧内科, ²⁾ 秋田大学医学部内科学講座血液内科学分野・腎臓膠原病内科学分野, ³⁾ 虎の門病院血液内科) : 腎アミロイドーシスに関する最新の話. *Nephrology Frontier* 2013 ; 12 (1) : 12-22.
- 6) 上田善彦, 清水 章 (¹⁾ 獨協医科大学越谷病院病理部) : 膜性増殖性糸球体腎炎と類縁疾患. *診断病理* 2013 ; 30 (2) : 79-88.
- 7) 三井亜希子¹⁾, 清水 章 (¹⁾ 付属病院腎臓内科) : 腎生検によるネフローゼ症候群の診断と病態分類. *内科* 2013 ; 112 (4) : 677-683.

- 8) 鶴岡佳代¹⁾, 清水 章⁽¹⁾ 聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科) : 移植腎にみられる血管病変, 腎と透析 2013 ; 75 (5) : 717-723.
- 9) 石井健夫¹⁾, 小野杏子¹⁾, 石川匡洋¹⁾, 宇都宮保典²⁾, 清水 章, 藤田恵美子³⁾, 秋澤忠男⁴⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター腎臓内科, ²⁾ 東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科, ³⁾ 附属病院腎臓内科, ⁴⁾ 昭和大学医学部腎臓内科) : 腎生検から何を学ぶか, ネフローゼ症候群を呈し IgA の上皮化沈着物を認めた紫斑病性腎炎の症 1 例, 病理側の考え方. 腎と透析 2013 ; 75 (5) : 747-757.
- (3) 症例報告 :
- 1) Igarashi T¹⁾, Igarashi T²⁾, Shimizu A, Itoh Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, ²⁾ Department of Ophthalmology) : Intravenous cyclophosphamide pulse therapy in Japanese children with systemic lupus erythematosus. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (5) : 396-400.
- 2) Igarashi T¹⁾, Shimizu A, Igarashi T²⁾, Hanaoka K, Yoshizaki K, Shigemori T, Shimizu S, Komeihi H, Itoh Y (¹⁾ Department of Pediatrics, ²⁾ Department of Ophthalmology) : Seroconversion of hepatitis B envelope antigen by entecavir in a child with hepatitis B virus-related membranous nephropathy. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (5) : 387-95.
- 3) Igarashi T¹⁾, Shimizu A, Yamaguchi H²⁾, Fukushima Y³⁾, Igarashi T⁴⁾, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Ophthalmology, ²⁾ Department of Hematology, ³⁾ Department of Radiology, ⁴⁾ Department of Pediatrics) : A definitive diagnosis of mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma made at a second biopsy. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 475-80.
- 4) 寺崎泰弘, 寺崎美佳, 一門和也¹⁾, 竹屋元裕²⁾, 福田 悠 (¹⁾ 熊本大学医学部呼吸器内科, ²⁾ 熊本大学医学部細胞病理) : 呼吸器疾患における病理形態像解析 : びまん性肺粒状網状影を呈する Micronodular pneumocyte hyperplasia (MNPH) の 1 例. 日医大医会誌 2013 ; 9 (2) : 42-43.
- (4) Letter to editor :
- 1) Shimizu A, Fujita E¹⁾, Mii A¹⁾, Kaneko T¹⁾, Tsuruoka S¹⁾ (¹⁾ Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine) : Post-infectious acute glomerulonephritis and transient coagulation factor XIII deficiency associated with acute parvovirus B19 infection in a young woman—reply. Hum Pathol 2013 ; 44 (6) : 1193-1194.

学会発表

- (1) 特別講演 :
- 1) 清水 章 : 腎臓病理学に魅せられて : 腎臓は微少血管から構成されている. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回), 2013. 9.
- 2) 清水 章, 五十嵐徹¹⁾ (¹⁾ 附属病院小児科) : 腎からみた血管炎. 日本小児皮膚科学会 (第 37 回), 2013. 8.
- (2) 教育講演 :
- 1) 清水 章 : 病理診断の話題 : 膜性増殖性糸球体腎炎. 日本腎臓学会学術総会 (第 56 回), 2013. 5.
- (3) ワークショップ :
- 1) 神崎 剛, 清水 章, 永坂真也, 肥後清一郎, 梶本雄介, 岩下山連, 益田幸成, 福田 悠 : MPO-ANCA 関連血管炎モデルにおける半月体形成と糸球体内のサイトカインの動態. 日本病理学会総会 (第 102 回), 2013. 6.
- 2) 寺崎泰弘, 蛇澤 晶¹⁾, 河端美則²⁾, 熊坂利夫³⁾, 武村民子³⁾, 大田泰徳⁴⁾, 漆山博和, 福田 悠 (¹⁾ 国立病院機構東京病院臨床研究部, ²⁾ 埼玉県立循環器呼吸器センター病理診断科, ³⁾ 日本赤十字社医療センター病理部, ⁴⁾ 虎ノ門病院病理部) : IgG4 関連肺病変と Multicentric Castlemans disease (MCD) 肺病変の病理学的比較検討. 日本病理学会総会 (第 102 回), 2013. 6.
- 3) 清水 章 : Renal diseases with paraproteinemia と単クローン性 IgG 沈着物を伴う増殖性糸球体腎炎. 日本病理

学会総会（第102回），2013. 6.

(4) 一般講演：

- 1) 梶本雄介, 清水 章, 肥後清一郎, 神崎 剛, 岩下山連, 永坂真也, 大橋隆治¹⁾, 益田幸成, 福田 悠⁽¹⁾ 付属病院病理部)：菲薄基底膜病の臨床病理学的特徴. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 2) 清水 章, 石井永一, 益田幸成, 佐藤綾子¹⁾, 朴 紅蘭¹⁾, 永坂真也, 大橋隆治²⁾, 森岡哲夫¹⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 新潟大学医学部腎研究施設機能制御学分野, ²⁾ 付属病院病理部)：急性肝不全にともなう急性腎臓障害の微少血管障害. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 3) 寺崎美佳, 寺崎泰弘, 若松恭子, 高橋美紀子, 酒主敦子¹⁾, 切刀しのぶ, 漆山博和, 大久保公裕¹⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：左顎下腺に発生した muchi-rich variant salivary duct carcinoma の1例. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 4) 益田幸成, 清水 章, 片岡光枝, 桑原尚美, 佐渡義一¹⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 重井医学研究所免疫部門)：糸球体疾患におけるIV型コラーゲン α 鎖($\alpha 1\sim\alpha 6$ 鎖)の検討. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 5) 永坂真也, 清水 章, 寺崎泰弘, 益田幸成, 切刀しのぶ, 高橋美紀子, 寺崎美佳, 岩堀 徹, 漆山博和, 内山昌明, 肥後清一郎, 神崎 剛, 岩下山連, 梶本雄介, 野村俊一郎, その他1名：プロスタグランジンE2に対する腎局在樹状細胞の応答性. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 6) 岩下山連, 清水 章, 梶本雄介, 神崎 剛, 永坂真也¹⁾, 肥後清一郎, 益田幸成, 福田 悠¹⁾：Stage Iの膜性腎症の臨床病理学的検討. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 7) 大橋隆治¹⁾, 清水 章, 江原孝史²⁾, 渡辺博文³⁾, 羽深将人³⁾, 大沢 豊³⁾, 広瀬貴之⁴⁾, 張 高明⁴⁾, 後藤 眞⁵⁾, 霧島 孝³⁾, 成田一衛⁵⁾ (¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 松本大学人間健康学部スポーツ健康学科, ³⁾ 新潟臨港病院内科, ⁴⁾ 新潟県立がんセンター新潟病院内科, ⁵⁾ 新潟大学医歯学総合病院第二内科)：管内増殖性腎炎様の染色像を呈した crystal-storing histiocytosis の1例. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 8) 野村俊一郎¹⁾, 高橋 亮¹⁾, 寺崎美佳, 木村 剛¹⁾, 清水 章, 近藤幸尋¹⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 付属病院泌尿器科)：抗癌剤動注化学療法を施行した膀胱尿路上皮癌症例における ERCC1 の発現と生存期間に関する検討. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 9) 漆山博和, 寺崎泰弘, 寺崎美佳, 永坂真也, 高橋美紀子, 切刀しのぶ, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠)：間質性肺炎の早期線維化巣におけるIV型コラーゲンの線維芽細胞遊走への影響に関する解析. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 10) 肥後清一郎¹⁾, 清水 章, 永坂真也, 梶本雄介, 神崎 剛, 益田幸成, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：ラット同種間骨髄移植で生じた急性移植片対宿主病（急性GVHD）による腎臓の臨床病理学的特徴. 日本病理学会総会（第102回），2013. 6.
- 11) 野村俊一郎¹⁾, 高橋 亮¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 寺崎美佳, 清水 章⁽¹⁾ 付属病院泌尿器科)：動注化学療法を施行した膀胱尿路上皮癌症例における ERCC1 の発現と生存期間に関する検討. 日本医科大学医学会総会（第81回），2013. 9.
- 12) Kanzaki G, Nagasaka S, Kajimoto Y, Higo S, Tsuruoka K, Shimizu A : Aberrant activation of neutrophils allow ANCA to aggravate glomerulonephritis in experimental autoimmune vasculitis. ASN Kidney Week 2013 (Atlanta), 2013. 11.
- 13) Fujita E¹⁾, Shimizu A, Fukui M¹⁾, Mii A¹⁾, Tsuruoka S¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Endothelial cell injury may involved in pathogenesis of secondary focal segmental glomerulosclerosis associated with myeloproliferative disease. ASN Kidney Week 2013 (Atlanta), 2013. 11.
- 14) Tsuruoka K, Kajimoto Y, Higo S, Kanzaki G, Nagasaka S, Shimizu A : Diffuse effacement of foot processes of podocytes in stage I membranous nephropathy. ASN Kidney Week 2013 (Atlanta), 2013. 11.

- 15) Nagasaka S, Iwahori T, Higo S, Kanzaki G, Tsuruoka K, Kajimoto Y, Shimizu A : The reactivity of renal dendritic cells for prostaglandin E2. ASN Kidney Week 2013 (Atlanta), 2013. 11.
- 16) Higo S, Shimizu A, Nagasaka S, Kajimoto Y, Kanzaki G, Mii A¹⁾, Tsuruoka S¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Acute graft-versus-host disease in the kidney after DA-to-Lewis rat bone marrow transplantation. ASN Kidney Week 2013 (Atlanta), 2013. 11.
- 17) Iwahori T¹⁾, Nagasaka S, Shimizu A (¹⁾ Immunology & Nephrology, Koyukai Memorial Hospital) : Tolvaptan increases urine and ultrafiltration volume for patients with oliguria undergoing peritoneal dialysis. ASN Kidney Week 2013 (Atlanta), 2013. 11.
- 18) Motonishi S¹⁾, Inagi R¹⁾, Wada T¹⁾, Ohse T¹⁾, Shimizu A, Nangaku M¹⁾ (¹⁾ Division of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo School of Medicine) : SIRT1 maintains podocyte homeostasis via regulation of actin fiber formation. ASN Kidney Week 2013 (Atlanta), 2013. 11.
- 19) Fujita E¹⁾, Shimizu A, Mii A¹⁾, Fukui M¹⁾, Tsuruoka S¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Clinicopathological characteristics of minimal change disease with glomerular foam cell infiltration. ASN Kidney Week 2013 (Atlanta), 2013. 11.
- 20) 川瀬里衣子¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 寺崎美佳, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 付属病院産婦人科) : 3歳でT細胞急性リンパ性白血病の治療歴のある18歳に発症した子宮肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第54回), 2013. 7.
- 21) 紺野亜希子¹⁾, 舟坂陽子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 中溝宗永²⁾, 志摩綾香³⁾, 了徳寺剛⁴⁾, 壇和夫⁴⁾, 寺崎美佳, 福田悠, 杉崎祐一 (¹⁾ 付属病院皮膚科, ²⁾ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, ³⁾ 付属病院循環器内科, ⁴⁾ 付属病院血液内科) : Merckerson Rosenthal 症候群様皮疹を呈したNK/T cell lymphoma の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会 (第29回), 2013. 8.
- 22) 野村俊一郎, 鈴木康友¹⁾, 高橋亮¹⁾, 濱崎務¹⁾, 木村剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 付属病院泌尿器科) : 動注化学療法を施行した膀胱癌患者の生存に関するDYRK2の発現の意義. 日本癌治療学会学術集会 (第51回), 2013. 10.
- 23) 野村俊一郎, 鈴木康友¹⁾, 稲津宏紀¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 濱崎務¹⁾, 木村剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 付属病院泌尿器科) : 抗癌剤動注化学療法が著効した膀胱尿路上皮癌 micropapillary variant の1例. 日本泌尿器科学会総会 (第101回), 2013. 4.
- 24) 三井亜希子¹⁾, 福井めぐみ¹⁾, 安田文彦¹⁾, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 益田幸成, 飯野靖彦¹⁾, 清水章 (¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : 管内増殖性病変の活動性には糸球体毛細血管傷害の程度と糸球体内浸潤細胞の相違が関与する. 日本腎臓学会学術総会 (第56回), 2013. 5.
- 25) 金子朋広¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 平間文彦¹⁾, 金子章朗¹⁾, 有馬留志¹⁾, 石原力¹⁾, 福井めぐみ¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 清水章, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : IgA腎症に対する扁桃摘除療法の比較検討. 日本腎臓学会学術総会 (第56回), 2013. 5.
- 26) 鎌野千佐子¹⁾, 清水章, 益田幸成, 肥後清一郎, 神崎剛, 梶本雄介, 五十嵐徹³⁾, 柳原剛³⁾, 金子朋広²⁾, 鶴岡秀一²⁾, 飯野靖彦²⁾, 片山泰朗²⁾, 福田悠 (¹⁾ 博慈会腎クリニック, ²⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, ³⁾ 付属病院科小児科) : IgA腎症で糸球体周囲に観察された新生小血管の特徴. 日本腎臓学会学術総会 (第56回), 2013. 5.
- 27) 永坂真也, 清水章, 岩堀徹, 肥後清一郎, 神崎剛, 岩下山連, 梶本雄介, 益田幸成 : 炎症時における腎局在樹状細胞のプロスタグランジンE2応答性の解析. 日本腎臓学会学術総会 (第56回), 2013. 5.
- 28) 岩堀徹也¹⁾, 清水章, 永坂真也, 加藤和則²⁾, 奥村康³⁾ (¹⁾ 幸有会記念病院腎・免疫内科, ²⁾ 東洋大学理工学部生体医工学科, ³⁾ 順天堂大学医学部アトピー疾患研究センター) : 多重染色フローサイトメトリー法を用いた各種糸球体腎炎の病態解析. 日本腎臓学会学術総会 (第56回), 2013. 5.
- 29) 肥後清一郎, 清水章, 益田幸成, 永坂真也, 梶本雄介, 神崎剛, 三井亜希子¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾,

- 福田 悠⁽¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：ラット同種間骨髄移植で生じた腎臓の急性移植片対宿主病(急性GVHD)。日本腎臓学会学術総会(第56回), 2013. 5.
- 30) 高野秀樹¹⁾, 吉田泰子¹⁾, 石川吾利美, 若松恭子, 益田幸成, 清水 章⁽¹⁾ 東京通信病院腎臓内科)：傷害糸球体の修復不良が糖尿病性腎症の進展に寄与する。日本腎臓学会学術総会(第56回), 2013. 5.
- 31) 益田幸成, 清水 章, 片岡光枝, 桑原尚美, 佐渡義一¹⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 重井医学研究所免疫部門)：糸球体疾患におけるIV型コラーゲン α 鎖($\alpha 1\sim\alpha 6$)の検討。日本腎臓学会学術総会(第56回), 2013. 5.
- 32) 吉田泰子¹⁾, 高野秀樹¹⁾, 益田幸成, 佐藤 茂²⁾, 金子朋広³⁾, 飯野靖彦³⁾, 清水 章⁽¹⁾ 東京通信病院腎臓内科, ²⁾ 形態解析共同研究施設, ³⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：糸球体内皮細胞障害とIgA腎症の進展。日本腎臓学会学術総会(第56回), 2013. 5.
- 33) 大橋隆治¹⁾, 清水 章⁽¹⁾ 付属病院病理部)：播種性血管内凝固症候群における腎組織像。日本腎臓学会学術総会(第56回), 2013. 5.
- 34) 竹村浩至¹⁾, 吉田泰子¹⁾, 岡田 啓¹⁾, 水地大輔²⁾, 清水 章, 高野秀樹¹⁾ ⁽¹⁾ 東京通信病院腎臓内科, ²⁾ 東京通信病院血液内科)：真生多血症に合併したIgA腎症の2例。日本腎臓学会東部学術大会(第43回), 2013. 10.
- 35) 福井めぐみ¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 清水 章, 鶴岡秀一¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：治療に難渋した感染性糸球体腎炎に血栓性微小血管症を合併した1例。日本腎臓学会東部学術大会(第43回), 2013. 10.
- 36) 吉田泰子¹⁾, 岡田 啓¹⁾, 橋本総子²⁾, 飯島一誠²⁾, 益田幸成, 清水 章, 高野秀樹¹⁾ ⁽¹⁾ 東京通信病院腎臓内科, ²⁾ 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学)：遺伝子検索にてX連鎖型Alport症候群と診断した1例。日本腎臓学会東部学術大会(第43回), 2013. 10.
- 37) 高野秀樹¹⁾, 吉田泰子¹⁾, 竹村浩至¹⁾, 黒澤美穂¹⁾, 清水 章, 平田恭信¹⁾ ⁽¹⁾ 東京通信病院腎臓内科)：ステロイド減量中に膠原病を発症した膜性腎症の2例。日本腎臓学会東部学術大会(第43回), 2013. 10.
- 38) 新井桃子¹⁾, 平間章郎¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 清水 章, 鶴岡秀一¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：血尿を伴うネフローゼ症候群を呈し、ステロイド治療が奏功したC1q腎症の1例。日本腎臓学会東部学術大会(第43回), 2013. 10.
- 39) 岡田 啓¹⁾, 吉田泰子¹⁾, 竹村浩至¹⁾, 清水 章, 高野秀樹¹⁾ ⁽¹⁾ 東京通信病院腎臓内科)：SLEの診断基準を満たしたが、腎生検によりSjogren症候群による間質性腎炎と診断した高齢男性の1例。日本腎臓学会東部学術大会(第43回), 2013. 10.
- 40) 山田剛久¹⁾, 谷 崇¹⁾, 荒川裕輔¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 清水 章⁽¹⁾ 千葉北総病院腎臓内科)：四肢麻痺で発症し著名な低カリウム血症を来したシェーグレン症候群の1例。日本腎臓学会東部学術大会(第43回), 2013. 10.
- 41) 谷 崇¹⁾, 荒川裕輔¹⁾, 福井めぐみ²⁾, 三井亜希子²⁾, 金子朋広²⁾, 山田剛久¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 清水 章, 鶴岡秀一²⁾ ⁽¹⁾ 千葉北総病院腎臓内科, ²⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：サイトメガロウイルス初感染に肉芽腫性間質性腎炎による急性腎不全を合併した1例。日本腎臓学会東部学術大会(第43回), 2013. 10.
- 42) 板垣史朗¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 青木路子¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 金子朋広¹⁾, 清水 章, 鶴岡秀一¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：IgG4陽性形質細胞浸潤を伴う著名な間質性腎炎を認めたループス腎炎の1例。日本腎臓学会東部学術大会(第43回), 2013. 10.
- 43) 永坂真也, 岩堀 徹, 肥後清一郎, 神崎 剛, 鶴岡佳代, 梶本雄介, 清水 章：The reactivity of renal dendritic cells for prostaglandin E2。日本分子生物学会年会(第36回), 2013. 12.
- 44) 大橋隆治¹⁾, 原田 大¹⁾, 寺崎美佳, 都築豊徳²⁾, 赤塚 純²⁾, 木村 剛³⁾, 土屋眞一²⁾, 近藤幸尋³⁾ ⁽¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 名古屋第二赤十字病院病理診断科, ³⁾ 付属病院泌尿器科)：超高齢発症の精母細胞性セミノーマの1例。日本病理学会総会(第102回), 2013. 6.
- 45) 渡名喜梢^{1,2)}, 鈴木徹也^{1,3)}, 寺崎泰弘, 村上弥生, 高橋真由美¹⁾, 川口英夫³⁾, 大澤郁朗¹⁾ ⁽¹⁾ 東京都健康長寿医

- 療センター研究所生体環境応答, ²⁾ 北里大薬, ³⁾ 東洋大生命科学) : 高濃度水素水はゲフィチニブの薬効を阻害することなく急性肺障害を抑制する. 分子状水素医学シンポジウム (第4回), 2014. 2.
- 46) 鈴木徹也^{1,2)}, 寺崎泰弘, 渡名喜梢^{1,3)}, 大澤郁朗¹⁾ (¹⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所環境老化, ²⁾ 東洋大生命科学, ³⁾ 北里大薬学) : 高濃度水素水によるゲフィチニブの急性肺傷害抑制. 日本基礎老化学会 (第36回), 2013. 6.
- 47) 渥美健一郎¹⁾, 高野夏希¹⁾, 佐藤陽三¹⁾, 峰岸裕司¹⁾, 齋藤好信¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 寺崎泰弘, 高橋美紀子, 漆山博和, 切刀しのぶ (¹⁾ 附属病院内科 呼吸器・感染・腫瘍部門) : 続発性気胸により見された多肺嚢胞と間質炎を合併し若年女の1例. 呼吸器病理研究会 (第43回), 2013. 7.
- 48) 竹内真吾¹⁾, 石角太郎¹⁾, 井上達哉¹⁾, 飯島慶仁¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 寺崎美佳, 寺崎泰弘, 白田実男¹⁾ (¹⁾ 附属病院呼吸器外科) : 診断に苦慮した肝細胞癌肺転移の一切除例. 日本肺癌学会関東支部会 (第169回), 2014. 3.
- 49) 河合昭浩¹⁾, 佐原寿史¹⁾, 関島光裕¹⁾, 三浦宏平¹⁾, 脇 詩織¹⁾, 清水 章, 山田和彦¹⁾ (¹⁾ 鹿児島大学医用ミニブタ・先端医療開発研究センター臓器置換・異種移植外科分野) : MHC 確立ミニブタ前臨床腎移植モデルを用いた温虚血障害腎に対する常温臓器保存の有効性の検討. 日本移植学会総会 (第49回), 2013. 9.
- 50) 佐原寿史¹⁾, 三浦宏平¹⁾, 河合昭浩¹⁾, 脇 詩織¹⁾, 清水 章, 山田和彦¹⁾ (¹⁾ 鹿児島大学医用ミニブタ・先端医療開発研究センター臓器置換・異種移植外科分野) : ドナー臓器修復に基づく新たな移植成績向上戦略のMHC 確立クラウンミニブタ肺移植モデルによる評価と有用性. 日本移植学会総会 (第49回), 2013. 9.
- 51) 三浦宏平¹⁾, 佐原寿史¹⁾, 脇 詩織¹⁾, 河合昭浩¹⁾, 清水 章, 山田和彦¹⁾ (¹⁾ 鹿児島大学医用ミニブタ・先端医療開発研究センター臓器置換・異種移植外科分野) : 脳死ドナーに対する一酸化炭素 (CO) 吸入によるMHC 完全不適合クラウンミニブタ移植肺生着延長効果. 日本移植学会総会 (第49回), 2013. 9.
- 52) 田崎正行¹⁾, 清水 章, Hanekamp I²⁾, Villani V²⁾, 山田和彦¹⁾ (¹⁾ 鹿児島大学医用ミニブタ・先端医療開発研究センター臓器置換・異種移植外科分野, ²⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, USA) : ブタ-サル異種腎移植モデルにおけるリツキシマブのタンパク尿抑制効果. 日本移植学会総会 (第49回), 2013. 9.
- 53) 脇 詩織¹⁾, 佐原寿史¹⁾, 三浦宏平¹⁾, 河合昭浩¹⁾, 田崎正行¹⁾, 清水 章, 山田和彦¹⁾ (¹⁾ 鹿児島大学医用ミニブタ・先端医療開発研究センター臓器置換・異種移植外科分野) : GalT-KO ブタ・霊長類間異種腎臓移植の拒絶反応におけるブタサイトメガロウイルス (pCMV) の関与. 日本移植学会総会 (第49回), 2013. 9.
- 54) 五十嵐徹^{1,2)}, 吉崎 薫¹⁾, 多田奈緒¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 清水 章, 泉 維昌²⁾ (¹⁾ 付属病院小児科, ²⁾ 茨城県立こども病院) : 扁桃腺摘出とステロイドパルス療法が有効であったIgA腎症の5歳女児例. 小児腎臓病学会学術集会 (第48回), 2013. 6.
- 55) Shimizu A, Yamada K¹⁾, Sachs D¹⁾, Colvin R²⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, USA, ²⁾ Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, USA) : Pathologic characteristics of transplanted GalT-KO pig xenografts in baboons. Congress of the International Xenotransplantation Association (IXA) (12th) (Osaka), 2013. 11.
- 56) Ishii E, Shimizu A, Kuwahara N, Arai T, Wakamatsu K, Ishikawa A, Masuda Y : Intra-graft events associated with graft acceptance "acceptance reaction" in DA to PVG rat liver transplantation. Congress of the European Society for Organ Transplantation (16th) (Vienna), 2013. 7.
- 57) Ishii E, Shimizu A, Kuwahara N, Arai T, Kataoka M, Masuda Y, Fukuda Y : microRNA in acute liver graft rejection in DA to Lewis rat orthotopic liver transplantation. Congress of the European Society for Organ Transplantation (16th) (Vienna), 2013. 7.
- 58) 清水 章 : 臨床診療と病理の協調. 日本外科病理学会学術集会 (第18回), 2013. 9.
- 59) Shimizu A, Ishii E, Masuda Y, Sato A¹⁾, Piao H¹⁾, Kunugi S, Takahashi M, Terasaki M, Nagasaka S,

Terasaki Y, Ohashi R²⁾, Morioka T¹⁾, Fukuda Y (1) Department of Cellular Physiology, Institute of Nephrology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata, 2) Division of Diagnostic Pathology) : Impaired renal microcirculation in hepatic failure-associated acute kidney injury in rats. ASN Kidney Week 2013 (Atlanta), 2013. 11.

- 60) 寺崎泰弘, 岸田由起子¹⁾, 原 啓²⁾, 漆山博和, 國保成暁, 寺崎美佳, 切刀しのぶ (1) 東京通信病院病理科, 2) 東京通信病院呼吸器科) : 異常血管と平滑筋増生を伴う嚢胞性病巣の1例. 呼吸器病理研究会 (第44回), 2014. 3.
- 61) Terasaki Y, Ikushima S¹⁾, Ichimura Y²⁾, Ujita M³⁾, Matsuzawa Y⁴⁾, Arita M⁵⁾, Tomii K⁶⁾, Komase Y⁷⁾, Ohwan I⁸⁾, Kawamura T⁹⁾, Izumi S¹⁰⁾, et al. (1) Japanese Red Cross Medical Center, 2) Chiba University, Graduate School of Medicine, 3) Nishigunma National Hospital, 4) Toho-univ medical center sakura hospital, 5) Kurashiki Central Hospital, 6) Kobe City Medical Center General Hospital, 7) St. Marianna University School of Medicine, Yokohama City Seibu Hospital, 8) Okinawa National Hospital, 9) National Hospital Organization Himeji Medical Center, 10) National Center for Global Health and Medicine) : Comparison of pathological features of the lung lesions of systemic IgG4-related disease and multicentric castleman's disease. ATS (Americam Thoracic Society) International Conference (Philadelphia), 2013. 5.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Kaneko T¹⁾, Shimizu A, Mii A¹⁾, Fujita E¹⁾, Fujino T¹⁾, Kunugi S, Du X, Akimoto T²⁾, Tsuruoka S¹⁾, Ohashi R³⁾, Masuda Y, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Fukuda Y (1) Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, 2) Division of Laboratory Animal Science, 3) Division of Diagnostic Pathology) : Role of matrix metalloproteinase-2 in recovery after tubular damage in acute kidney injury in mice. *Nephron Exp Nephrol* 2012 ; 122 (12) : 23-35.

追加分研究報告書 :

- 1) 寺崎泰弘, 松井祥子¹⁾, 蛇澤 晶²⁾, 酒井文和³⁾, 山本 洋⁴⁾, 栗原泰之⁵⁾, 早稲田優子⁶⁾, 石田正之⁷⁾, 土屋裕⁸⁾, 漆山博和, 國保成暁, 寺崎美佳, 切刀しのぶ, 河端美則⁹⁾, 小倉高志¹⁰⁾, その他9名 (1) 富山大保健管理センター, 2) NHO 東京病院臨床検査科, 3) 埼玉医大国際医療センター画像診断科, 4) 信州大1内科, 5) 聖路加国際病院放射線科, 6) 金沢大呼吸器内科, 7) 長崎大感染症内科, 8) 昭和大藤が丘病院呼吸器内科, 9) 埼玉循環器・呼吸器病センター病理科, 10) 神奈川循環器呼吸器病センター呼吸器内科) : 肺・呼吸器領域のIgG4関連疾患の特徴と鑑別, 病理学的診断基準にむけて. びまん性肺疾患に関する調査研究 平成25年度研究報告書 2013 ; 165-173.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 小林有紀¹⁾, 清水 理¹⁾, 光林宏紀¹⁾, 田中 徹¹⁾, 藤田和恵¹⁾, 齋藤好信¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 寺崎泰弘, 切刀しのぶ, 福田 悠 (1) 付属病院内科 呼吸器・感染・腫瘍部門) : 器質化肺炎の診断で治療され10年後の再燃によりIgG4関連肺疾患が疑われた1例. 日本結核病学会関東支部会 (第164回), 2014. 9.

9. 病理学（統御機構・腫瘍学）

研究概要

統御機構病理学分野では、消化器癌などの腫瘍性疾患につき、腫瘍幹細胞に着目し、有効な診断法と新たな分子標的治療法の開発やプロテオーム解析によるバイオマーカーの探索を目指し研究している。1) 消化器腫瘍の増殖、転移機序の解明と治療応用：膵臓癌における中間径フィラメントの nestin の発現が、癌の遊走、浸潤転移に関し、癌幹細胞機能の制御に重要な因子であることを明らかにした。また、細胞増殖因子受容体 FGFR-2 のアイソフォームやアイソフォームの発現調整因子である ESRP1 による膵臓癌の浸潤や転移の制御機構を解明した。2) 皮膚の腫瘍や非腫瘍疾患における増殖機序や病態進展の検討：皮膚腫瘍の悪性黒色腫において nestin の発現が、転移の制御につながることを明らかにした。また、脳腫瘍や脳虚血再灌流などにおいても nestin やそのリン酸化が病態の進展に重要であることが明らかとなり、さらに研究を進めている。3) 消化器や皮膚腫瘍におけるプロテオグリカンの研究：膵臓癌細胞のプロテオーム解析により、小型プロテオグリカン lumican の発現制御に伴い変動するアポトーシス、遊走や浸潤転移に関与する候補タンパク質を明らかにした。また、一部の皮膚腫瘍や前癌病変の鑑別診断に lumican が有用であることを報告した。4) 腫瘍のプロテオーム解析によるバイオマーカーの探索：消化器、婦人科領域、皮膚腫瘍の病理組織標本パラフィン包埋組織からタンパク質を抽出、プロテオーム解析、タンパク質発現プロファイルを作成し、バイオマーカー候補タンパク質の同定を行っている。組織型や予後に関係する候補タンパク質に関し、組織での発現パターンや mRNA 発現量の解析とともに、血清などによる診断の可能性についても検討している。今後も各種の腫瘍性疾患の有効な診断、分子標的治療法の臨床応用を目指して、日々の努力を重ねて行きたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Konno A^{1,2)}, Anzai S¹⁾, Takayama R¹⁾, Kubota S¹⁾, Futagami A¹⁾, Kono T¹⁾, Naito Z²⁾, Kawana S¹⁾ (1) Department of Dermatology, (2) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology) : Case of basal cell carcinoma with ductal differentiation. *J Dermatol* 2014 ; 41 (2) : 176-8.
- 2) Akimoto N^{1,2)}, Fujimori T²⁾, Mitomi H²⁾, Ichikawa K²⁾, Tomita S²⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Fujimori S¹⁾, Naito Z, Sakamoto C¹⁾ (1) Department of Gastroenterology, NMS, (2) Department of Surgical and Molecular Pathology, Dokkyo Medical University, school of medicine) : Micropapillary pattern at the invasive front and its association with unresectable colorectal carcinomas. *Dis Markers* 2013 ; 35 (5) : 451-455.
- 3) Kanazawa Y^{1,2)}, Kato S¹⁾, Fujita I¹⁾, Onodera H¹⁾, Takata H^{1,2)}, Onda M²⁾, Naito Z²⁾, Uchida E¹⁾ (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, (2) Integrative Oncological Pathology) : Spermatic cord tumor metastatic from stomach cancer 1 year after curative gastrectomy. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (4) : 318-23.
- 4) Matsuda Y¹⁾, Yoshimura H²⁾, Ueda J²⁾, Naito Z²⁾, Korc M³⁾, Ishiwata T²⁾ (1) Tokyo Metropolitan geriatric hospital and institute of gerontology, (2) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, NMS, (3) Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Nestin Delineates Pancreatic Cancer Stem Cells in Metastatic Foci of NOD/Shi-scid IL2R γ (null) (NOG) Mice. *Am J Pathol* 2014 ; 184 (3) : 674-85.
- 5) Omi T¹⁾, Seiji K¹⁾, Sato S¹⁾, Naito Z (1) Department of Dermatology) : Histological study on the treatment of vascular malformations resistant to pulsed dye laser. *Laser Ther* 2013 ; 22 (3) : 181-6.

- 6) Matsuda Y, Suzuki G¹⁾, Kusano T²⁾, Kawamoto Y, Yoshimura H, Fuse A¹⁾, Yokota H¹⁾, Naito Z, Ishiwata T (¹ Department of Metabolism and Nutrition, ² Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Phosphorylation of Thr (1495) of nestin in a mouse model of cerebral ischemia and reperfusion damage. *Pathol Int* 2013 ; 63 (9) : 448-56.
- 7) Yamamoto T¹⁾, Kudo M, Peng WX, Naito Z (¹ Kinki university) : Analysis of protein expression regulated by lumican in PANC-1 cells using shotgun proteomics. *Oncol Rep* 2013 ; 30 (4) : 1609-21.
- 8) Takayama R^{1,2)}, Ishiwata T¹⁾, Ansai S²⁾, Yamamoto T³⁾, Matsuda Y¹⁾, Naito Z¹⁾, Kawana S²⁾ (¹ Integrative Oncological Pathology, ² Department of Dermatology) : Lumican as a novel marker for differential diagnosis of Bowen disease and actinic keratosis. *Am J Dermatopathol* 2013 ; 35 (8) : 827-32.
- 9) Peng WX, Kudo M, Fujii T, Teduka K, Naito Z : Altered expression of fibroblast growth factor receptor 2 isoform IIIc : relevance to endometrioid adenocarcinoma carcinogenesis and histological differentiation. *Int J Clin Exp Pathol* 2014 ; 7 (3) : 1069-1076.
- 10) Akiyama M^{1,2)}, Matsuda Y¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Naito Z¹⁾, Kawana S²⁾ (¹ Integrative Oncological Pathology, ² Department of Dermatology) : Nestin is highly expressed in advanced-stage melanomas and neurotized nevi. *Oncol Rep* 2013 ; 29 (4) : 1595-1599.
- 11) Akiyama M^{1,2)}, Matsuda Y¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Naito Z¹⁾, Kawana S²⁾ (¹ Integrative Oncological Pathology, ² Department of Dermatology) : Inhibition of the stem cell marker nestin reduces tumor growth and invasion of malignant melanoma. *J Invest Dermatol* 2013 ; 133 (5) : 1384-7.
- (2) 総説 :
- 1) 内藤善哉 : 膀胱疾患の細胞診と細胞診を通じた国際交流について. *大分県臨床細胞学会誌* 2014 ; 24 : 6-13.
- (3) 解説 :
- 1) 秋元直彦^{1,2)}, 三富弘之¹⁾, 小林俊介¹⁾, 岡本陽祐¹⁾, 岡本健太郎¹⁾, 辰口篤志²⁾, 藤森俊二²⁾, 市川一仁¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 内藤善哉, 坂本長逸²⁾, 藤盛孝博¹⁾ (¹ 獨協医科大学病理学 (人体分子), ² 日本医科大学消化器内科学) : 【Colitic cancer の発生メカニズムと予防】 遺伝子変化による IBD 発癌. *G.I.Research* 2013 ; 21 (5) : 321-325.
- (4) 研究報告書 :
- 1) 川瀬里衣子¹⁾, 松田陽子, 内藤善哉, 石渡俊行 (¹ 神奈川県立がんセンター婦人科) : 子宮頸癌における FGFR-2 IIIc を標的とした新規分子標的治療法の基礎的検討. *女性健康科学研究会受賞研究報告集* 2013 ; 2 (1) : 30-33.
- (5) 症例報告 :
- 1) 高田英志^{1,3)}, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 内藤善哉³⁾, 内田英二¹⁾ (¹ 消化器外科, ² 多摩永山外科病院外科, ³ 統御機構病理学分野) : 膀胱神経内分泌腫瘍術後 19 年目の肝転移再発が疑われた 1 切除例. *肝臓* 2013 ; 54 (5) : 326-333.
- 2) 工藤恵子¹⁾, 大橋一雅¹⁾, 指山浩志¹⁾, 赤木一成¹⁾, 堤 修¹⁾, 浜畑幸弘¹⁾, 辻伸康伸¹⁾, 内藤善哉, 清水 亨²⁾, 水口國雄³⁾, 八尾隆史⁴⁾ (¹ 辻伸病院柏の葉 消化器内科, ² とき田クリニック, ³ 帝京大学医学部附属溝口病院. 臨床検査科, ⁴ 順天堂大学大学院人体病理病態学) : 典型的な経過を辿った collagenous colitis の 1 例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2013 ; 82 (1) : 184-85.
- 3) Shimoda T¹⁾, Yoshida H¹⁾, Hirakata A¹⁾, Makino H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Ueda J^{1,2)}, Tanno M²⁾, Naito Z²⁾, Uchida E¹⁾ (¹ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, ² Integrative Oncological Pathology) : Surgical resection of cystic intraductal papillary adenocarcinoma of the bile duct : report of a case. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (3) : 234-239.
- 4) Peng WX, Kudo M, Yamamoto T, Inai S¹⁾, Fujii T, Teduka K, Kawahara K, Naito Z (¹ 耳鼻科) :

Nodular fasciitis in the parotid gland : a case report and review of the literature. *Diagn Cytopathol* 2013 ; 41 (9) : 829-33.

(6) 特集記事 :

- 1) 秋元直彦^{1, 2)}, 三富弘之¹⁾, 西上隆之³⁾, 西井 真⁴⁾, 田村和朗⁵⁾, 富田茂樹¹⁾, 市川一仁¹⁾, 内藤善哉, 坂本長逸²⁾, 藤盛孝博¹⁾ (1) 獨協医科大学病理学 (人体・分子), 2) 日本医科大学消化器内科学, 3) 製鉄記念広畑病院病理科, 4) 兵庫医科大学ささやま医療センター地域総合医療学, 5) 近畿大学理工学部生命科学科) : 遺伝性大腸癌の診断と治療の進歩 : リンチ症候群 (1) 病理. *INTESTINE* 2013 ; 17 (5) : 465-470.

(7) 臨床報告 :

- 1) 高田英志^{1, 2, 3)}, 松本智司¹⁾, 上田純志²⁾, 内藤善哉³⁾, 内田英二²⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 付属病院消化器外科, 3) 統御機構病理学) : クリップング後再出血をきたした小腸毛細血管腫に対し単孔式腹腔鏡下手術を施行した1例. *臨床外科* 2014 ; 69 (3) : 361-66.

著 書

- 1) 細根 勝¹⁾, 丹野正隆¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 内藤善哉 (1) 多摩永山病院病理部) : [分担] (第2部) 細胞診の実際とトピックス リンパ節 悪性. 病理と臨床 臨時増刊号 細胞診の基本から実践へ (羽場 礼次・内藤善哉), 2013 ; pp360-371, 文光堂.
- 2) 内藤善哉, 竹中明美¹⁾ (1) 大阪府立成人病センター病理・細胞診断科) : [分担] (第2部) 細胞診の実際とトピックス 19. 脾臓. 病理と臨床 臨時増刊号 細胞診の基本から実践へ (羽場 礼次・内藤 善哉), 2013 ; pp337-345, 文光堂.
- 3) 片山博徳¹⁾, 細根 勝¹⁾, 丹野正隆¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉 (1) 多摩永山病院病理部) : [分担] (第1部) 細胞診の基本 細胞診断の基本 術中迅速細胞診. 病理と臨床 臨時増刊号 細胞診の基本から実践へ (羽場 礼次・内藤 善哉), 2013 ; pp53-62, 文光堂.
- 4) 内藤善哉, 羽場礼次¹⁾ (1) 香川大学付属病院病理部) : [編集] 細胞診の基本から実践へ. 病理と臨床 Vol.31 臨時増刊号 (羽場 礼次・内藤 善哉), 2013 ; pp1-413, 文光堂.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Peng WX¹⁾, Fujii T¹⁾, Teduka K¹⁾, Kurose K²⁾, Yoneyama K²⁾, Kudo M¹⁾, Naito Z¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Gynecology and Obstetrics) : Gastric type adenocarcinoma in a patient with Peutz Jeghers syndrome. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (21th) (Chiang Mai, Thailand), 2014. 1.
- 2) 片山博徳¹⁾, 細根 勝¹⁾, 東 敬子¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 益田裕美¹⁾, 川野記代子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 鈴木美紀¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 平田知己²⁾, 吉野直之²⁾, 内藤善哉 (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩永山病院呼吸器外科) : 細胞転写法を用いた免疫細胞化学的染色による検討 : 特に中皮腫細胞と中皮細胞の鑑別について. 日本医科大学医学会総会 (第81回) (東京), 2013. 9.
- 3) Hosone M¹⁾, Arai S¹⁾, Katayama H¹⁾, Maeda S¹⁾, Naito Z (1) Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, NMS) : A current topic in hematology-lymphoid effusion cytology : Two different types of effusion-based lymphoma : primary effusion lymphoma (PEL) and HHV8-negative common effusion lymphoma. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (21th) (Chiang Mai, Thailand), 2014. 1.
- 4) 彭 為霞, 工藤光洋, 手塚 潔, 濱田泰子¹⁾, 猪口孝一¹⁾, 内藤善哉 (1) 血液内科) : 多発性骨髄腫の治療中に内頸動脈真菌性血栓症による脳梗塞の一剖検例. 日本病理学会秋期特別総会 (第59回) (山梨), 2013. 11.
- 5) 呉 壮香^{1, 2)}, 岸田由紀子²⁾, 下里あゆ子³⁾, 梅谷直亨³⁾, 寺島裕夫³⁾, 二階堂孝⁴⁾, 横山宗伯^{1, 5)}, 内藤善哉¹⁾, 植

- 田初江⁶⁾, 田村浩一^{1, 2)} (1) 統御機構病理学, 2) 東京通信病院病理診断科, 3) 東京通信病院消化器外科, 4) 立正佼成会所属病院病理科, 5) 東京警察病院病理診断科, 6) 国立循環器病研究センター病理部): 食道穿孔後の縦隔炎の治療中に大量吐血で死亡した 50 歳代男性. 日本病理学会秋期特別総会 (第 59 回) (山梨), 2013. 11.
- 6) 松田陽子, 石渡俊行, 吉村久志, 鈴木妙子, 河本陽子, 川原清子, 村井網児¹⁾, 本間 博²⁾, 福田 悠³⁾, 内藤善哉 (1) 循環器内科, 2) 付属病院中央検査部, 3) 解析人体病理学): 胸部大動脈瘤により大動脈食道瘻をきたした一剖検例. 日本病理学会秋期特別総会 (第 59 回) (山梨), 2013. 11.
- 7) 住吉宏樹¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 松田陽子, 石渡俊行, 内藤善哉, 内田英二¹⁾ (1) 消化器外科): 膵管内乳頭粘液性腫瘍との鑑別が困難であった膵漿液性嚢胞腫瘍の 1 例. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (仙台市), 2013. 7.
- 8) 石渡俊行, 松田陽子, 吉村久志, 河本陽子, 鈴木妙子, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾, 内藤善哉 (1) 消化器外科): 膵癌における線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR-2) 発現制御機構と治療応用の検討. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (仙台市), 2013. 7.
- 9) 吉村久志, 松田陽子, 村瀬めぐみ, 川原清子, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾, 内藤善哉, 石渡俊行 (1) 消化器外科): 長鎖 non-coding RNA H19 の膵癌における発現とその意義についての検討. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (仙台市), 2013. 7.
- 10) 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 横山 正¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 松田陽子, 石渡俊行, 内藤善哉, 内田英二¹⁾ (1) 消化器外科): 膵癌に対する術前化学療法としての GS 療法の意義と問題点. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (仙台市), 2013. 7.
- 11) 松田陽子, 石渡俊行, 吉村久志, 渡會泰彦¹⁾, 川原清子, 河本陽子, 松下 晃²⁾, 内田英二²⁾, 土屋眞一¹⁾, 内藤善哉 (1) 付属病院病理部, 2) 消化器外科): 膵癌における術前化学療法の影響の検討. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 54 回), 2013. 6.
- 12) 前田昭太郎¹⁾, 及川守康¹⁾, 片山博徳²⁾, 細根 勝²⁾, 丹野正隆²⁾, 北川泰之³⁾, 内藤善哉 (1) 三菱化学メディエンス 病理・細胞診センター, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 多摩永山病院整形外科): 軟部腫瘍 報告様式を考える 軟部腫瘍細胞診の意義と問題点 報告様式を考える. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 54 回) (東京), 2013. 6.
- 13) 秋元直彦^{1, 2)}, 岡本陽祐¹⁾, 山口岳史¹⁾, 小林俊介¹⁾, 岡本健太郎¹⁾, 市川一仁¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 三富弘之¹⁾, 内藤善哉, 坂本長逸²⁾, 藤盛孝博³⁾ (1) 獨協医科大学 病理学 (人体・分子), 2) 付属病院消化器内科): Invasive micropapillary carcinoma は Dukes'C 大腸癌における難治性大腸癌の予測因子となりうる (第 4 報). 日本高齢消化器病学会 (第 16 回) (名古屋市), 2013. 7.
- 14) 片山博徳¹⁾, 丹野正隆¹⁾, 細根 勝¹⁾, 平田知己²⁾, 前田昭太郎³⁾, 内藤善哉 (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩永山病院呼吸器外科, 3) 三菱化学メディエンス 病理・細胞診センター): 胸膜中皮腫診断における体腔液細胞診の有用性と今後の問題点 報告様式について. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 54 回) (東京), 2013. 6.
- 15) 秋元直彦^{1, 2)}, 岡本陽祐¹⁾, 山口岳史¹⁾, 田形倫子³⁾, 大竹陽介⁴⁾, 市川一仁¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 藤盛孝博¹⁾, 内藤善哉, 坂本長逸²⁾ (1) 獨協医科大学 病理学 (人体・分子), 2) 付属病院消化器内科, 3) 東京女子医科大学八千代医療センター, 4) 独立行政法人国立がん研究センター中央病院): Invasive micropapillary carcinoma は難治性大腸癌の予測因子となりうる. 日本大腸肛門病学会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 16) 紺野亜希子^{1, 2)}, 工藤光洋¹⁾, 山本哲志¹⁾, 安齋眞一²⁾, 藤井雄文¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 川名誠司²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 皮膚粘膜病態学): ケラトアカントーマのホルマリン固定パラフィン包埋組織によるプロテオーム解析. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 17) 川原清子, 松田陽子, 中澤南堂, 河本陽子, 鈴木妙子, 石渡俊行, 内田英二¹⁾, 内藤善哉 (1) 臓器病態制御外科学): 術検体からの膵癌培養細胞樹立の検討. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 18) 石渡俊行, 松田陽子, 吉村久志, 川原清子, 河本陽子, 鈴木妙子, 柳澤祐次, 内田英二¹⁾, 内藤善哉 (1) 臓器病態制御外科学): 膵癌における FGFR-2 の抑制効果と, 発現制御機構の検討. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.

幌市), 2013. 6.

- 19) 吉村久志, 松田陽子, 川原清子, 河本陽子, 村瀬めぐみ, 松下 晃¹⁾, 内田英二¹⁾, 石渡俊行, 土屋眞一²⁾, 内藤善哉¹⁾ (臓器病態制御外科学, ²⁾ 付属病院病理部): 術前化学療法施行膵癌症例における病理学的変化の検討. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 20) 高田英志^{1, 2)}, 山本哲志¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 内田英二²⁾, 内藤善哉¹⁾ (統御機構病理学, ²⁾ 臓器病態制御外科学): ホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックを用いた肝細胞癌のプロテオミクス解析. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 21) 工藤光洋, 山本哲志, 高田英志, 彭 為霞, 藤井雄文, 手塚 潔, 内藤善哉: 大腸癌バイオマーカーのホルマリン固定パラフィン包埋組織切片を用いたプロテオミクス解析. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 22) 丸岡 喬¹⁾, 秋元直彦^{1, 2)}, 山口岳史¹⁾, 志田陽介¹⁾, 尾形英生¹⁾, 岡本陽祐¹⁾, 大竹陽介¹⁾, 小林俊介¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 市川一仁¹⁾, 内藤善哉, 坂本長逸²⁾, 加藤広行, 藤盛孝博¹⁾ (統御医科大学病理学 (人体・分子), ²⁾ 日本医科大学消化器内科, ³⁾ 獨協医科大学第一外科): Crohn 病に回腸癌を併発した 1 例. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 23) 秋元直彦^{1, 2)}, 山口岳史¹⁾, 大竹陽介¹⁾, 岡本陽祐¹⁾, 藤盛友佳理¹⁾, 井村穰二¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 市川一仁¹⁾, 内藤善哉, 坂本長逸²⁾, 藤盛孝博¹⁾ (統御医科大学病理学 (人体・分子), ²⁾ 日本医科大学消化器内科): Invasive micropapillary carcinoma は Dukes'C 大腸癌における難治性大腸癌の予測因子となりうる. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 24) 高屋 茜, 彭 為霞, 紺野亜希子, 高田英志, 藤井雄文, 手塚 潔, 山本哲志, 工藤光洋, 内藤善哉: 卵巣癌における膜結合型ムチン及び Her2 の免疫組織化学的検討. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 25) 彭 為霞, 工藤光洋, 山本哲志, 藤井雄文, 手塚 潔, 内藤善哉: 子宮類内膜腺癌及び前癌病変における FGFR2IIIc の役割解明. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 26) 呉 壮香¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 許田典男^{1, 2)}, 酒主敦子³⁾, 中溝宗永³⁾, 関根久遠³⁾, 北山康彦²⁾, 内藤善哉¹⁾ (統御機構病理学, ²⁾ 武蔵小杉病院病理部, ³⁾ 武蔵小杉病院耳鼻咽喉科): 耳下腺に発生した脂腺腺腫および脂腺型リンパ腺腫の 2 例. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 27) 松田陽子, 吉村久志, 上田純志, 川原清子, 鈴木妙子, 柳澤祐次, 松下 晃¹⁾, 内田英二¹⁾, 内藤善哉, 石渡俊行 (臓器病態制御外科学): 膵癌および PanIN における nestin の発現と, 分子標的としての有用性. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌市), 2013. 6.
- 28) 上田純志^{1, 2)}, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義明¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志^{1, 2)}, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (臓器病態制御外科学, ²⁾ 統御機構病理学): 胆道癌における術中病理迅速診断と画像診断および臨床病理学的因子の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡市), 2013. 4.
- 29) 高田英志^{1, 2)}, 山本哲志^{2, 3)}, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義明¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志^{1, 2)}, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (臓器病態制御外科学, ²⁾ 統御機構病理学, ³⁾ 近畿大学薬学部): 肝細胞癌のホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックを用いたプロテオミクスによるバイオマーカーの探索. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡市), 2013. 4.
- 30) 武田美那子¹⁾, 天野康雄¹⁾, 町田 幹¹⁾, 日高文貴¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 加藤俊二²⁾, 内藤善哉¹⁾ (付属病院放射線科, ²⁾ 付属病院消化器外科): 胃神経鞘腫の 1 例 CT, MRI を中心に. 日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 31) Peng WX, Kudo M, Fujii T, Teduka K, Naito Z: Peutz-Jeghers type polyp with malignant transformation in uterine cervix. International Congress of Cytology (18th) (Paris, France), 2013. 5.
- 32) Takaya A^{1, 2)}, Peng WX¹⁾, Sato A²⁾, Matsubara M³⁾, Kamoi S²⁾, Naito Z¹⁾ (Integrative Oncological Pathology, ²⁾ Gynecology, ³⁾ Departments of Pathology, NMS Hospital): A case in which cytology features help

the diagnosis of the atypical polypoid adenomyoma. International Congress of Cytology (18th) (Paris, France), 2013. 5.

- 33) Ishiwata T, Yoshimura H, Suzuki T, Yanagisawa Y, Kawamoto Y, Kawahara K, Naito Z, Korc M¹⁾, Matsuda Y (¹Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Inhibition of Nestin Using siRNA as a Novel Therapeutic Option for Pancreatic Cancer. American association for cancer research, annual meeting (104th) (Washington, DC), 2013. 4.
- 34) Matsuda Y, Yoshimura H, Suzuki T, Naito Z, Kawahara K, Yanagisawa Y, Kawamoto Y, Ishiwata T : Inhibition of Phosphorylation of Nestin Decrease Pancreatic Cancer Cell Growth. American association for cancer research, annual meeting (104th) (Washington, DC), 2013. 4.
- 35) 成田宏介^{1,2)}, 松田陽子¹⁾, 清家正博²⁾, 弦間昭彦²⁾, 内藤善哉¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (¹ 統御機構病理学, ² 呼吸器内科学) : Nestin as a novel therapeutic target for invasion in lungadenocarcinoma (肺腺癌の浸潤に対する新たな治療標的としてのネスチン). 日本癌学会学術総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.
- 36) 高屋 茜^{1,2)}, 彭 為霞¹⁾, 紺野亜希子¹⁾, 高田英志¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 山本哲志³⁾, 工藤光洋¹⁾, 竹下俊行²⁾, 内藤善哉¹⁾ (¹ 統御機構病理学, ² 女性生殖発達病態学, ³ 近畿大学・薬・病態分子解析学) : Proteome analysis of formalin-fixed paraffin-embedded epithelial ovarian cancer tissues (上皮性卵巣癌のホルマリン固定パラフィン包埋組織からの蛋白質プロテオーム解析). 日本癌学会学術総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.
- 37) 高田英志^{1,2)}, 山本哲志¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 上田純志^{1,2)}, 内田英二²⁾, 内藤善哉¹⁾ (¹ 統御機構病理学, ² 消化器・肝胆脾外科) : Proteomic analysis for identification of biomarkers using formalin-fixed paraffin-embedded HCC tissue (肝細胞癌ホルマリン固定パラフィン包埋組織を用いたプロテオーム解析による新規バイオマーカーの探索). 日本癌学会学術総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.
- 38) 工藤光洋, 高田英志, 彭 為霞, 山本哲志¹⁾, 藤井雄文, 手塚 潔, 内藤善哉 (¹ 近畿大学・薬・病態分子解析学) : Proteome analysis using formalin-fixed paraffin-embedded hepatocellular carcinoma tissues (ホルマリン固定パラフィン包埋肝細胞癌組織を用いたプロテオーム解析). 日本癌学会学術総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.
- 39) 松田陽子, 吉村久志, 内藤善哉, 鈴木妙子, 河本陽子, 川原清子, 石渡俊行 : Inhibition of nestin phosphorylation as a novel therapy for pancreatic cancer (膵癌の新たな治療標的としてのリン酸化 nestin). 日本癌学会学術総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.
- 40) 紺野亜希子^{1,2)}, 工藤光洋¹⁾, 安齋眞一²⁾, 山本哲志³⁾, 藤井雄文¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 川名誠司²⁾, 内藤善哉¹⁾ (¹ 統御機構病理学, ² 皮膚科学, ³ 近畿大学・薬・病態分子解析学) : Proteome analysis using formalin-fixed paraffin-embedded keratoacanthoma tissue (FFPE 切片を用いたケラトアクトーマのプロテオーム解析). 日本癌学会学術総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.
- 41) 石渡俊行¹⁾, 吉村久志¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 河本陽子¹⁾, 川原清子¹⁾, 松下 晃²⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾, 松田陽子¹⁾ (¹ 統御機構病理学, ² 消化器外科) : Inhibitory effects of siRNA targeting nestin for pancreatic cancer cell growth and metastasis (ネスチンに対する siRNA による膵癌増殖と転移の抑制効果の研究). 日本癌学会学術総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.
- 42) 吉村久志, 松田陽子, 内藤善哉, 村瀬めぐみ, 鈴木妙子, 河本陽子, 川原清子, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾, 石渡俊行 (¹ 消化器外科) : Expression and roles of long non-coding RNA H19 in pancreatic cancer (長鎖 non-coding RNA H19 の膵癌における発現と役割の検討). 日本癌学会学術総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.
- 43) 山本哲志¹⁾, 工藤光洋²⁾, 彭 為霞²⁾, 高田英志^{2,3)}, 三田村邦子¹⁾, 多賀 淳¹⁾, 内藤善哉²⁾ (¹ 近畿大学・薬・病態分子解析学, ² 統御機構病理学, ³ 臓器病態制御外科学) : Proteomic profiling of formalin-fixed paraffin-embedded colorectal cancer tissue for identification of novel biomarker (ホルマリン固定パラフィン包埋大腸

がん組織を用いた新規診断マーカーの探索). 日本癌学会学術総会 (第 72 回) (横浜), 2013. 10.

- 44) 松田陽子, 吉村久志, 渡會泰彦¹⁾, 住吉宏樹²⁾, 松下 晃²⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾, 大橋隆治¹⁾, 内藤善哉, 石渡俊行 (¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 消化器外科): 手術検体および細胞診検体を用いた膵癌術前化学療法症例の検討. 膵癌術前治療研究会 (第 8 回) (新宿区), 2013. 10.
 - 45) 松田陽子, 吉村久志, 渡會泰彦¹⁾, 住吉宏樹²⁾, 松下 晃²⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾, 大橋隆治¹⁾, 内藤善哉, 石渡俊行 (¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 消化器外科): 膵癌術前化学療法の病理組織学的評価に関する検討. 日本外科学会 (第 18 回) (文京区), 2013. 9.
 - 46) 松田陽子, 石渡俊行, 吉村久志, 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 石井英昭²⁾, 内田英二¹⁾, 大橋隆治²⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 消化器外科, ²⁾ 付属病院病理部): 膵体尾部の Mixed acinar-neuroendocrine-ductal carcinoma の 1 例. 日本病理学会関東支部学術集会 (第 60 回) (つくば市), 2013. 9.
 - 47) 松田陽子, 吉村久志, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾, 内藤善哉, 石渡俊行 (¹⁾ 消化器外科): 膵癌における nestin の発現と分子標的としての有用性. 日本消化器癌発生学会 (第 24 回) (文京区), 2013. 9.
 - 48) 石渡俊行: 消化器癌に対する新規分子標的治療法の開発 FGFR-2 と nestin について. BIO tech 2013 (東京), 2013. 5.
- (2) スライドセミナー (chair):
- 1) Naito Z: Slide seminar 03: Gynecology. International Congress of Cytology (18th) (Paris, France), 2013. 5.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Hagio M, Matsuda Y, Suzuki T, Ishiwata T: Nestin regulates epithelial-mesenchymal transition marker expression in pancreatic ductal adenocarcinoma cell lines. *Mol Clin Oncol* 2013; 1 (1): 83-87.
- 2) Fujikura T¹⁾, Takeshita T²⁾, Homma H³⁾, Adachi K⁴⁾, Miyake K⁵⁾, Kudo M, Takizawa T⁶⁾, Nagayama H⁷⁾, Hirakawa K⁸⁾ (¹⁾ Academic Quality and Development Office, NMS, ²⁾ Department of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, ³⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, NMS, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, ⁵⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, ⁶⁾ Department of Molecular Medicine and Anatomy, ⁷⁾ Department of Neurological, Nephrological and Rheumatological Sciences, ⁸⁾ Department of Legal Medicine): Team-based learning using an audience response system: a possible new strategy for interactive medical education. *J Nippon Med Sch* 2013; 80 (1): 63-69.

学会発表

追加分セミナー:

- 1) 内藤善哉: 2012 年日本病理学会「細胞診講習会」VII. 消化器・唾液腺. 日本病理学会 (東京), 2012. 3.
- 2) 内藤善哉: 2013 年日本病理学会「細胞診講習会」VII. 消化器・唾液腺. 日本病理学会 (東京), 2012. 3.

追加分特別講演:

- 1) 内藤善哉: 膵臓疾患の細胞診と細胞診を通じた国際交流について. 日本臨床細胞学会大分県支部学術集会 (第 28 回) (大分), 2013. 2.

10. 微生物学・免疫学

研究概要

当微生物学・免疫学講座では「自然免疫」システム，特にその中枢担う樹状細胞と腫瘍細胞や感染細胞の関わりに着目し，腫瘍や感染の制御に関する研究を展開している．感染症学および感染免疫学：[A] HIV 感染伝播機構の解明とその制御法の開発：(1) HAART 治療により末梢血中のウイルスは検出限界以下であっても治療の中断によりウイルスが速やかに再出現してくる事実は，現在の HAART 治療では HIV が制御されないことを示している．筆者等は HAART 治療中患者の回盲部組織中に多数の HIV 感染細胞を確認し，その主体が R5 型であること，そしてその感染標的の主体が粘膜内ナチュラルキラー T (NKT) 細胞であることを見いだした．さらにこの R5 型 HIV が潜伏感染した NKT 細胞の制御に粘膜内 $V\gamma 1V\delta 1$ 型 T 細胞が関わることを明らかにし，それぞれ国際誌に発表した．今後は $V\gamma 1V\delta 1$ 型 T 細胞の活性化法を見だし，HAART 療法と組み合わせた治療法の開発をめざす．(2) ピルビン酸脱水素酵素であるジクロロ酢酸 (DCA) により麻疹ウイルスの持続感染が制御できる可能性を報告した．(3) 樹状細胞の亜群であるランゲルハンス細胞を E-cadherin コートプレート上で末梢血単核球より誘導出来ることを示した．腫瘍免疫学：[B] 粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導：(1) 腫瘍内樹状細胞を検討したところ腫瘍内樹状細胞には抗腫瘍作用を有するものと腫瘍増殖を助けるものとが存在し，そのような差異は腫瘍細胞の放出する AFP, VEGF などの液性因子に起因することを明らかにした．(2) 樹状細胞亜群 (DEC-205, 33D1) が妊娠維持ホルモンや α -GalCer などの糖脂質群の影響を受けることを見いだした．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Harimoto H, Shimizu M, Nakagawa Y, Nakatsuka K¹⁾, Wakabayashi A, Sakamoto C¹⁾, Takahashi H (1) Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Inactivation of tumor-specific CD8⁺ CTLs by tumor-infiltrating tolerogenic dendritic cells. *Immunol. Cell Biol.* 2013 ; 91 (9) : 545-555.
- 2) Takahashi M, Wolf MA¹⁾, Watari E, Norose Y, Ohta S¹⁾, Takahashi H (1) Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School,) : Increased mitochondrial functions in human glioblastoma cell persistently infected with measles virus. *Antiviral Res.* 2013 ; 99 (3) : 238-244.
- 3) Matsumura J, Shimizu M, Omi K, Nagata N¹⁾, Shinya E, Oka S²⁾, Takahashi H (1) Department of Gastroenterology and Hepatology National Center for Global Health and Medicine, 2) Department of Clinical Center, National Center for Global Health and Medicine) : Possible origin of emerged HIV-1 after interrupting anti-retroviral therapy. *Biomed. Res.* 2014 ; 35 (1) : 1-8.
- 4) Takahashi H, Watanabe E, Mayumi N : Requirement of E-cadherin Interactions for Langerhans Cell Differentiation. *JNMS* 2013 ; 80 (2) : 88-89.

(2) 総説：

- 1) 若林あや子, 高橋秀実 : CD8⁺CD103⁺ 樹状細胞の機能と DEC-205. *臨床免疫・アレルギー科* 2014 ; 61 (2) : 124-130.
- 2) 高橋秀実 : 脂質制御免疫としての東洋医学. *日本医科大学医学会雑誌* 2013 ; 9 (4) : 208-213.
- 3) 若林あや子, 高橋秀実 : コレラトキシンによる樹状細胞における経口抗原のクロスプレゼンテーション増強効果. *臨床免疫・アレルギー科* 2014 ; 61 (3) : 322-330.

- 4) 高橋秀実：HIV 感染症に伴う慢性炎症：その裏に潜むもの. *Confronting HIV2013* 2013；43 (1)：1-3.
 - 5) 村上 努¹⁾, 高橋秀実 (1) 国立感染症研究所)：Progress of the Host Restriction Factors for HIV Control. *日本エイズ学会誌* 2014；16 (1)：1-3.
- (3) 症例報告：
- 1) Negishi Y, Sakai K¹⁾, Noguchi Y^{2, 3)}, Iwasaki N³⁾, Kawai N³⁾ (1) Department of Neurology, Tokyo Rinkai Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Tokyo Rinkai Hospital)：Paraneoplastic cerebellar degeneration caused by ovarian clear-cell carcinoma. *J. Obstet. Gynaecol. Res.* 2014；40 (2)：614-617.
 - 2) Takaku S, Osono E¹⁾, Kuribayashi H¹⁾, Takaku C, Hirama N²⁾, Takahashi H (1) Koshigaya Ohbukuro Clinic, 2) Division of Traditional Japanese Medicine, Nippon Medical School)：A case of migraine without aura that was successfully treated with an herbal medicine. *J Altern Complement Med.* 2013；19 (12)：970-972.
- (4) 活動報告：
- 1) 高橋秀実：第 15 回国際免疫学会印象記. *日本エイズ学会誌* 2014；16 (1)：41-42.

著 書

- 1) 高久 俊：〔分担〕12 章：獲得免疫応答の制御. *リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学* (第 2 版), 2013；pp167-176, 丸善出版.
- 2) 高橋秀実, 矢田純一¹⁾ (1) 東京医科歯科大学)：〔監修〕*リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学* (第 2 版), *リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学* (第 2 版), 2013；pp1-373, 丸善出版.
- 3) 高橋秀実：〔分担〕第 3 章：感染に対するバリア. *リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学* (第 2 版), 2013；pp27-36, 丸善出版.
- 4) 高橋秀実：〔分担〕漢方薬の使い方. *すぐに使える高齢者総合診療ノート* (大庭建三), 2014；pp23-29, 日本医事新報社.
- 5) 高橋秀実, 神谷 茂¹⁾, 林 英生²⁾, 俣野哲朗³⁾ (1) 杏林大学, 2) 筑波大学, 3) 東京大学)：〔監修〕*ブラック微生物学* (第 3 版), *ブラック微生物学* (第 3 版), 2014；丸善出版.
- 6) 高橋秀実：〔分担〕17 章 適応免疫と免疫法 (ワクチン接種). *ブラック微生物学* (第 3 版) (神谷茂, 高橋秀実, 林英生, 俣野哲朗 (監訳)), 2014；pp460-495, 丸善出版.
- 7) 高橋秀実：〔分担〕第 11 章：リンパ球の機能. *リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学* (第 2 版), 2013；pp149-165, 丸善出版.

学会発表

- (1) 教育講演：
- 1) 若林あや子：栄養と食品を学ぶために. *アレルギー大学* (第 8 期) (千葉), 2013. 6.
 - 2) 高橋秀実：脂質制御医学としての東洋医学. *日本医師会生涯教育講座* (東京), 2013. 7.
 - 3) 高橋秀実：各種ウイルス疾患に対する漢方治療. *北区医師会講演* (東京), 2013. 8.
 - 4) 高橋秀実：エイズ制圧に向けての新たな視点. *日本アレルギー学会学術集会* (第 63 回) (東京), 2013. 11.
- (2) シンポジウム：
- 1) 高橋秀実：脂質制御医学としての東洋医学. *日本医科大学医学会公開シンポジウム* (第 23 回) (東京), 2013. 6.
 - 2) 高橋秀実：アレルギー疾患に対する漢方治療. *日本アレルギー学会学術集会* (第 63 回) (東京), 2013. 11.
 - 3) Takahashi H：Allergy and Innate Immunity. *日本アレルギー学会学術集会* (第 63 回) (東京), 2013. 11.
 - 4) Takahashi H：Control of allergic diseases by dendritic cell manipulation. *日本アレルギー学会学術集会* (第

63回) (東京), 2013. 11.

5) 高橋秀実: 腫瘍内樹状細胞と腫瘍免疫. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム (東京), 2014. 2.

(3) 一般講演:

- 1) 高久 俊, 高久千鶴乃, 大藪英一¹⁾, 栗林秀樹¹⁾, 廣田 薫²⁾, 近江恭子, 小野顕人²⁾, 平馬直樹²⁾, 高橋秀実⁽¹⁾ 越谷大袋クリニック, ²⁾ 日本医科大学・東洋医学科): 三黄瀉心湯が有効であった5症例の検討. 日本東洋医学学会学術総会 (第64回) (鹿児島), 2013. 6.
- 2) 清水真澄, 中川洋子, 渡理英二, 高橋秀実: 単一蛍光色素 CFSE を用いた抗原特異的細胞傷害性 T 細胞活性測定 の検討. 日本サイトメトリー学会学術集会 (第23回) (東京), 2013. 6.
- 3) 高橋めぐみ, 渡理英二, 高橋秀実: ミトコンドリア活性化剤による麻疹ウイルス持続感染細胞の制御. 日本ウイルス学会学術総会 (第61回) (神戸), 2013. 11.
- 4) 村上亮介, 中川洋子, 清水真澄, 根岸靖幸, 若林あや子, 大久保公裕¹⁾, 高橋秀実⁽¹⁾ 日本医科大学・耳鼻咽喉科): アレルギー性鼻炎マウスモデルにおける樹状細胞特異的 33D1 抗体投与の影響. 日本アレルギー学会秋期学術大会 (第63回) (東京), 2013. 11.
- 5) 若林あや子, 中川洋子, 清水真澄, 野呂瀬嘉彦, 高橋秀実: みょうばんと OVA の経口投与による消化管樹状細胞の活性化および特異的 IgG・IgE 産生の亢進. 日本アレルギー学会秋期学術大会 (第63回) (東京), 2013. 11.
- 6) 近江恭子, 清水真澄, 渡邊恵理, 松村次郎, 高久千鶴乃, 新谷英滋, 高橋秀実: $\gamma\delta$ T 細胞による NKT 細胞における R5 型 HIV-1 の制御. 日本エイズ学会学術集会 (第27回) (熊本), 2013. 11.
- 7) 松村次郎, 大脇敦子, 近江恭子, 清水真澄, 新谷英滋, 岡 真一¹⁾, 高橋秀実⁽¹⁾ 国立国際医療研究センター): ART 治療中断に伴うウイルス再燃への NKT 細胞の関与. 日本エイズ学会学術集会 (第27回) (熊本), 2013. 11.
- 8) 新谷英滋, 清水真澄, 大脇敦子, Mori L¹⁾, De Libero G¹⁾, 高橋秀実⁽¹⁾ Experimental Immunology, Department of Biomedicine, Basel University Hospital): Involvement of Hematopoietic cell kinase (HCK) and p21-activated kinase 2 (PAK2) in HIV-1 Nef down-regulation of CD1-restricted lipid Ag presentation in DCs. 日本エイズ学会学術集会 (第27回) (熊本), 2013. 11.
- 9) Omi K, Shimizu M, Watanabe E, Matsumura J, Yonekawa M, Takaku C, Shinya E, Takahashi H: Inhibition of R5-tropic human immunodeficiency virus type-1 replication in CD4⁺ natural killer T cells. 日本免疫学会学術集会 (第42回) (幕張), 2013. 12.
- 10) Wakabayashi A, Nakagawa Y, Shimizu M, Murakami R, Date T, Takahashi H: Enhancement of OVA-specific IgG and IgE production and expression of costimulatory molecules on dendritic cells in the mesenteric lymphonodes by oral administration of OVA plus potassium alum. 日本免疫学会学術集会 (第42回) (幕張), 2013. 12.
- 11) Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Takahashi M, Mori L¹⁾, De Libero G¹⁾, Takahashi H⁽¹⁾ Experimental Immunology, Department of Biomedicine, Basel University Hospital): Hemopoietic cell kinase (HCK) and p21-activated kinase 2 (PAK2) are involved in HIV-1 Nef down-regulation of CD1a-restricted lipid-antigen presentation in dendritic cells. 日本免疫学会学術集会 (第42回) (幕張), 2013. 12.
- 12) Kumagai Y, Takahashi H: Stoichiometric analysis of the interaction between HIV-1 gp120 and beta-chemokine receptor by multivalent V3 epitopes grafted at immunoglobulin hypervariable regions. 日本免疫学会学術集会 (第42回) (幕張), 2013. 12.
- 13) Negishi Y, Shimizu M, Ichikawa T, Matsuhashi T, Takeshita T¹⁾, Takahashi H⁽¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School): Protective role of IL-13 for the fetal loss induced with IL-12. 日本免疫学会学術集会 (第42回) (幕張), 2013. 12.

- 14) Negishi Y, Wakabayashi A, Shimizu M, Ichikawa T, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Depletion of 33D1⁺DC subset will induce fetal loss in pregnant mice though IL-12 secretion. American Society of Reproductive Immunology (The 33th) (Hamburg), 2013. 5.
- 15) Takahashi H, Shimizu M, Norose Y, Takaku S, Takahashi M, Nakagawa Y : Manipulation of rapid apoptosis for HIV-1 gp160-specific murine CD8⁺ CTLs by free antigenic peptide in vivo. International Congress of Immunology (15th) (Milan), 2013. 8.
- 16) Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Mori L¹⁾, De Libero G¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Experimental Immunology, Department of Biomedicine, Basel University Hospital) : HIV-1 Nef downregulates CD1a lipid-antigen presentation in dendritic cells via hemopoietic cell kinase (HCK) and p21 activated kinase 2 (PAK2). International Congress of Immunology (15th) (Milan), 2013. 8.
- 17) Negishi Y, Wakabayashi A, Shimizu M, Matsushashi T, Ichikawa T, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of obstetrics and gynecology, Nippon Medical School) : Fetal loss induced by depletion of innate 33D1⁺ dendritic cell subset in mice. International Congress of Immunology (15th) (Milan), 2013. 8.
- 18) Omi K, Shimizu M, Watanabe E, Owaki A, Takaku C, Shinya E, Takahashi H : Inhibition of human immunodeficiency virus type-1 replication in CD4⁺NKT cells by γ δ T lymphocytes. International Congress of Immunology (15th) (Milan), 2013. 8.
- 19) Azuma H, Mayumi N, Watanabe, N, Norose Y, Watari E, Kawana S¹⁾, Geijtenbeek T²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Experimental Immunology, Academic Medical Center, University of Amsterdam) : E-cadherin contribution for Langerhans cell differentiation. International Congress of Immunology (15th) (Milan), 2013. 8.
- 20) Kogo H, Harimoto H, Shimizu M, Date T, Nakagawa Y, Nakatsuka K¹⁾, Wakabayashi A, Sakamoto C¹⁾, Uchida E¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Inactivation of tumor-specific CD8⁺ CTLs by tumor-infiltrating lymphocytes by tumor-infiltrating immunosuppressive tolerogenic dendritic cells. International Congress of Immunology (15th) (Milan), 2013. 8.
- 21) Matsumura J, Shimizu M, Shinya E, Oka S¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Clinical Center, National Center for Global Health and Medicine) : The origin of emerged HIV after terminating anti-retroviral therapy (ART). International Congress of Immunology (15th) (Milan), 2013. 8.
- 22) Murakami R, Nakagawa Y, Wakabayashi A, Kumagai Y, Ohkubo K¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of otorhinolaryngology, Nippon Medical School) : Effect of depletion of 33D1⁺ dendritic cells on allergic airway sensitization in mouse model. International Congress of Immunology (15th) (Milan), 2013. 8.
- 23) 齊藤 均¹⁾, 廣田 薫¹⁾, 高久 俊, 高久千鶴乃, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾ 日本医科大学・東洋医学科) : 抗 HIV 薬と漢方薬を併用した際の安全性と抗 HIV 薬の効果維持について. 日本東洋医学会学術総会 (第 64 回) (鹿児島), 2013. 5.
- 24) 小野顕人¹⁾, 近江恭子, 廣田 薫¹⁾, 高久千鶴乃, 高久 俊, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾ 日本医科大学・東洋医学科) : 湯液ならびに鍼灸治療の併用で食欲不振及び嚥下機能が改善した 1 例. 日本東洋医学会学術総会 (第 64 回) (鹿児島), 2013. 5.
- 25) 廣田 薫¹⁾, 手塚弓紀子¹⁾, 近江恭子, 小野顕人¹⁾, 高久千鶴乃, 高久俊行, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾ 日本医科大学・東洋医学科) : 頸部ジストニアに対する東洋医学的アプローチ. 日本東洋医学会学術総会 (第 64 回) (鹿児島), 2013. 5.
- 26) Takahashi H, Komiya N, Koike E, Azuma H, Otsuka Y, Watari E, Kawana S¹⁾, Geijtenbeek T²⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Experimental Immunology, Academic

Medical Center, University of Amsterdam) : E-cadherin interactions promote Langerhans cell differentiation. 日本免疫学会学術集会 (第 42 回) (幕張), 2013. 12.

- 27) Harimoto H, Shimizu M, Nakagawa Y, Takaku S, Wakabayashi A, Takahashi H : Inactivation of tumor-specific CD8⁺ CTLs by tumor infiltrating tolerogenic dendritic cells expressing down-modulated costimulating molecules. 日本免疫学会学術集会 (第 42 回) (幕張), 2013. 12.

11. 衛生学・公衆衛生学

研究概要

衛生学公衆衛生学分野の各教員は、社会医学に関連する研究テーマを選択し、実験・調査研究を精力的に行っている。研究手法は多様であるが、最終的には「人間」を対象とした予防医学研究につながるものであることが必須である。各教員が研究を進めるにあたり、外部研究資金の獲得を目指しているところであるが、本年度は各教員およびテクニカルスタッフが以下の文科省科研費補助金等の外部資金を研究代表者として獲得している。・職場勤務者のメタボリック症候群関連指標とメンタルヘルスに関する総合的研究（基盤（C））（川田智之）・カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序（基盤（C））（李卿）・メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職業疫学研究（基盤（C））（大塚俊昭）・ディーゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への増悪作用の分子メカニズムの解明（基盤（C））（李英姫）・サリン事件被害者の長期的な健康不安の解析（挑戦的萌芽）（勝又聖夫）・非正規雇用の増加は健康と医療の格差を拡大したのか—20年間の経時的分析から（科研費若手（B））（可知悠子）・女性、特に妊産婦に対するPOCTを用いたインパクトのある禁煙支援法の構築（基盤（C））（平田紀美子）・血管炎症指標、インスリン抵抗性、抗動脈硬化指標と喫煙・勤務状況の相互関係（喫煙科学研究財団研究助成）（川田智之）獲得した研究費を用いて、学術論文を仕上げるのが各教員の使命であり、今後ともインパクトある業績を積み重ねることを期待したい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawada T : Sleep duration for residents in the nursing home by accelerometer : a preliminary study. *J Psychiatr Ment Health Nurs* 2013 ; 20 (7) : 662-664.
- 2) Kawada T, Otsuka T : Effect of shift work on the development of metabolic syndrome after 3 years in Japanese male workers. *Arch Environ Occup Health* 2014 ; 69 (1) : 55-61.
- 3) Kawada T : Insulin-related biomarkers to predict the risk of metabolic syndrome. *Int J Endocrinol Metab* 2013 ; 11 (4) : e10418-e10418.
- 4) Otsuka T, Kato K, Ibuki C¹⁾, Kodani E²⁾, Kusama Y²⁾, Kawada T (¹⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Subjective evaluation of the frequency of salty food intake and its relationship to urinary sodium excretion and blood pressure in a middle-aged population. *Environ Health Prev Med* 2013 ; 18 (4) : 330-334.
- 5) Otsuka T, Munakata R¹⁾, Kato K, Kodani E²⁾, Ibuki C¹⁾, Kusama Y²⁾, Seino Y¹⁾, Kawada T (¹⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Oscillometric measurement of brachial artery cross-sectional area and its relationship with cardiovascular risk factors and arterial stiffness in a middle-aged male population. *Hypertens Res* 2013 ; 36 (10) : 910-915.
- 6) Otsuka T, Kato K, Ibuki C¹⁾, Kodani E²⁾, Kusama Y²⁾, Kawada T (¹⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Does subjective evaluation of the frequency of salty food intake predict the risk of incident hypertension? : A 4-year follow-up study in a middle-aged population. *Intern Med J*

2013 ; 43 (12) : 1316-1321.

- 7) Kato K, Otsuka T, Kobayashi N¹⁾, Kon Y¹⁾, Kawada T (¹⁾ Division of Health Evaluation and Promotion, Fuji Heavy Industries Health Insurance Society Ota Memorial Hospital) : Two-hour post-load plasma glucose levels are associated with carotid intima-media thickness in subjects with normal glucose tolerance. *Diabet Med* 2014 ; 31 (1) : 76-83.
- 8) Lee J¹⁾, Tsunetsugu Y²⁾, Takayama N²⁾, Park B³⁾, Li Q, Song C⁴⁾, Komatsu M⁴⁾, TyrvÄinen L⁵⁾, Kagawa T²⁾, Miyazaki Y⁴⁾ (¹⁾ Korea Forest Service, Government Complex 1, Republic of Korea, ²⁾ Forestry and Forest Products Research Institute, Japan, ³⁾ College of Agriculture and Life Sciences, Chungnam National University, Republic of Korea, ⁴⁾ Center for Environment, Health and Field Sciences, Chiba University, Japan, ⁵⁾ Finnish Forest Research Institute (METLA), Finland) : Influence of forest therapy on cardiovascular relaxation in young adults. *Evid Based Complement Alternat Med*. 2014 ; 2014 (834360) : 1-7.
- 9) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Carbamate pesticide-induced apoptosis and necrosis in human natural killer cells. *J Biol Regul Homeost Agents* 2014 ; 28 (1) : 15-24.
- 10) Li Y, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Takizawa H²⁾, Azuma A³⁾, Kawada T, Sugawara I⁴⁾, Kudoh S⁵⁾, Sunazuka T⁶⁾, Omura S⁶⁾ (¹⁾ Department of Respiratory Medicine, Kyorin University Hospital, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Anti-Tuberculosis Association, Fukujuji Hospital, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Institute for Life Sciences, Kitasato University, Tokyo, Japan) : EM, EM703 inhibit NF- κ B activation induced by oxidative stress from diesel exhaust particle in human bronchial epithelial cells : Importance in IL-8 transcription. *Pulm Pharmacol Ther* 2013 ; 26 (3) : 318-324.

(2) 総説 :

- 1) 李 卿 : 森林浴の健康増進効果 (JCS D プロジェクトシリーズ). *環境と健康* 2013 ; 26 : 310-320.
- 2) 川田智之 : 職場における様々な調査研究内容の紹介. *産業医学ジャーナル* 2014 ; 37 (2) : 67-72.
- 3) Li Y, Kawada T, Azuma A¹⁾ (¹⁾ Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Nrf2 Is a Protective Factor against Oxidative Stresses Induced by Diesel Exhaust Particle in Allergic Asthma. *Oxid Med Cell Longev* 2013 ; 2013 (323607) : 1-5.
- 4) 李 英姫, 川田智之, 滝澤 始¹⁾ (¹⁾ 杏林大学医学部 呼吸器内科) : 大気汚染における遺伝子環境相互影響. *呼吸器内科* 2013 ; 23 (5) : 516-520.

(3) 研究報告書 :

- 1) 若山葉子, 武藤三千代¹⁾, 勝又聖夫, 川田智之 (¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学) : 高齢者の血圧・血液生化学値の検討—肥満の有無別による検討—. 2013 ; 1 (1) : 8-10.

(4) 手紙 :

- 1) Kawada T : Validation study of the occupational depression scale at the workplace. *Asian J Psychiatr* 2013 ; 6 (2) : 180-181.
- 2) Kawada T : Risk assessment for incident fracture : fall history and bone mineral density in combination with clinical risk factors. *Bone* 2013 ; 53 (2) : 597-597.
- 3) Kawada T : Validation of actigraphic sleep/wake judgments for infants. *Early Hum Dev* 2013 ; 89 (4) : 237-237.
- 4) Kawada T : Sleep duration, obesity and insulin resistance for children. *Eur J Pediatr* 2013 ; 172 (4) : 571-571.
- 5) Kawada T : Actigraphic evaluation for patients with attention deficit/hyperactivity disorder. *Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet* 2013 ; 162 (3) : 294-294.

- 6) Kawada T : C-reactive protein, fibrinogen and incident heart failure : combination procedure for statistical analysis. *J Clin Hypertens (Greenwich)* 2013 ; 15 (4) : 298-298.
- 7) Kawada T : Associated factors with gender gaps in life expectancy from ecological study. *Eur J Public Health* 2013.
- 8) Kawada T : Recreational and occupational physical activity as risk factors for cardiovascular disease. *Int J Cardiol* 2013 ; 165 (3) : 559-560.
- 9) Kawada T : Squamous cell carcinoma of the penis and marital status : Survival study and risk assessment on mortality. *Cancer Causes Control* 2013 ; 24 (6) : 1263-1263.
- 10) Kawada T : Indices of insulin sensitivity and resistance : adequate logarithmic transformation are needed to keep mathematical equivalence. *Early Hum Dev* 2013 ; 89 (7) : 515-515.
- 11) Kawada T : Insulin-related biomarkers and their relationship with hepatic fibrosis risk in patients with psoriasis, metabolic syndrome and non-alcoholic fatty liver disease. *J Gastroenterol* 2013 ; 48 (5) : 671-672.
- 12) Kawada T : Risk assessment of longevity for oldest old people : mutual comparison of hazard ratios of independent variables including factors on life satisfaction. *Am J Med* 2013 ; 126 (6) : e9-e9.
- 13) Kawada T : Self-rated health and depression of patients with diabetes : how to handle with wide range of aging and diabetic status?. *Diabet Med* 2013 ; 30 (6) : 754-755.
- 14) Kawada T : Effect of fenofibrate on vascular endothelial function : statistical appraisal and its validity. *Hypertension* 2013 ; 61 (6) : e55-e55.
- 15) Kawada T : Letters to the editor (Prevalence of insomnia with special reference to age and menopause). *Menopause* 2013 ; 20 (4) : 477-477.
- 16) Kawada T : Long-term sickness absence in the workplace : causes of sickness absence and their predictors. *Acta Psychiatr Scand* 2013 ; 128 (1) : 98-99.
- 17) Kawada T : Re : Risk of incident diabetes among patients treated with statins : population based study. *BMJ* 2013.
- 18) Kawada T : Sleep evaluation by actigraphy for children with Prader-Willi Syndrome. *J Pediatr* 2013 ; 163 (1) : 307-307.
- 19) Kawada T : Sleep disorders in children with Down syndrome. *Dev Med Child Neurol* 2013 ; 55 (7) : 675-675.
- 20) Kawada T : Regarding "Is shoulder pain for three months or longer correlated with depression, anxiety, and sleep disturbance?". *J Shoulder Elbow Surg* 2013 ; 22 (7) : e32-e32.
- 21) Kawada T : Commuting by car, lifestyles and weight gain. *Am J Prev Med* 2013 ; 45 (1) : e1-e2.
- 22) Kawada T : Evaluation tool for children with subjective symptoms of eczema : Does the lack of correlation between several scale scores of eczema and percent of moving in the night by actigraphy leads to abandon the use of activity monitoring?. *Br J Dermatol* 2013 ; 169 (1) : 200-200.
- 23) Kawada T : Risk of lens opacity for patients with diabetes mellitus. *Ophthalmology* 2013 ; 120 (7) : e44-e45.
- 24) Kawada T : Basic statistical procedure for keeping validity of the study. *Exp Gerontol* 2013 ; 48 (8) : 843-843.
- 25) Kawada T : Sleep parameters in rhesus monkeys by using actigraphy. *Psychopharmacology* 2013 ; 228 (3) : 509-509.
- 26) Kawada T : Predictive ability for drug use in sub-clinical students with attention deficit hyperactivity disorder by questionnaire survey. *Int J High Risk Behav Addict* 2013 ; 2 (1) : 43-43.
- 27) Kawada T : Clinically diagnosed depression and self-rated depressive state : prognostic ability of cardiac event

- for patients after myocardial infarction. *Int J Cardiol* 2013 ; 167 (3) : 1058-1058.
- 28) Kawada T : Relationship between components of the metabolic syndrome and job strain using a brief job stress questionnaire (BJSQ). *Int Arch Occup Environ Health* 2013 ; 86 (6) : 725-726.
 - 29) Kawada T : Comment on : Kan et al. A Systematic Review and Meta-analysis of the Association Between Depression and Insulin Resistance. 2013 ; 36 : 480-489. *Diabetes Care* 2013 ; 36 (8) : e123-e123.
 - 30) Kawada T : Cadmium and cardiovascular risk. *Epidemiology* 2013 ; 24 (5) : 784-784.
 - 31) Kawada T : The effect of statin on the incidence of diabetes mellitus. *Am J Cardiol* 2013 ; 112 (4) : 614-614.
 - 32) Kawada T : Adiponectin and metabolic syndrome : pathway on the relationship. *Eur J Clin Nutr* 2013 ; 67 (8) : 896-896.
 - 33) Kawada T : Nonrestorative sleep : a useful indicator of insomnia with a wide range of prevalence. *Sleep Med* 2013 ; 14 (9) : 925-925.
 - 34) Kawada T : Sleep evaluation by actigraphy for patients with Alzheimer disease. *JAMA Neurol* 2013 ; 70 (8) : 1074-1074.
 - 35) Kawada T : Screening by the Patient Health Questionnaire 9-items for Indian adolescents with depression. *J Adolesc Health* 2013 ; 53 (3) : 426-426.
 - 36) Kawada T : Recommendation for the independent use of specific biomarkers for various clinical settings. *Ann Thorac Surg* 2013 ; 96 (3) : 1126-1127.
 - 37) Kawada T : Comment on : Kim et al. Prospective study of serum adiponectin and incident metabolic syndrome : The ARIRANG Study. *Diabetes Care* 2013 ; 36 : 1547-1553. *Diabetes Care* 2013 ; 36 (9) : e167-e167.
 - 38) Kawada T : Depression and 7-year mortality for patients treated with percutaneous coronary intervention. *Int J Cardiol* 2013 ; 167 (6) : 3041-3041.
 - 39) Kawada T : Prediction of long term fatal events on prostate cancer by prostate specific antigen. *BMJ* 2013.
 - 40) Kawada T : Yearly trends of hypercholesterolemia and the risk factors based on the National Nutrition Surveillance data. *Nutrition* 2013 ; 29 (10) : 1275-1275.
 - 41) Kawada T : Risk assessment of depression by questionnaire for patients with heart failure. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (1) : 549-549.
 - 42) Kawada T : Effect of current smoking and blood pressure on cardiovascular events and mortality for workers : number of events for multivariate analysis to keep validity. *J Hypertens* 2013 ; 31 (9) : 1919-1920.
 - 43) Kawada T : RE Sleep disturbance, sleep duration and incidence of thyroid cancer in postmenopausal women. The womens health initiative. *Am J Epidemiol* 2013 ; 178 (5) : 836-836.
 - 44) Kawada T : Applicability of homeostasis model assessment of insulin resistance to patients with hyperglycemia. *Osteoporosis Int* 2013 ; 24 (10) : 2733-2733.
 - 45) Kawada T : Fecal occult blood test and colorectal cancer : validation study with special reference to false negative patients. *Dig Dis Sci* 2013 ; 58 (10) : 3057-3057.
 - 46) Kawada T : Letter by Kawada Regarding Article, "Dabigatran Versus Warfarin : Effects on Ischemic and Hemorrhagic Strokes and Bleeding in Asians and Non-Asians With Atrial Fibrillation". *Stroke* 2013 ; 44 (10) : e134-e134.
 - 47) Kawada T : Nutrients for the incidence of early and late age-related macular degeneration. *Am J Clin Nutr* 2013 ; 98 (4) : 1144-1144.
 - 48) Kawada T : Non-invasive alternative methods to hepatic venous pressure gradient measurement. *J Gastrointest Liver Dis* 2013 ; 22 (3) : 357-358.
 - 49) Kawada T : Women with atrial fibrillation in Qatar with special reference to gender difference : caution on the

- representativeness of non-Caucasian countries. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (2) : 1654-1654.
- 50) Kawada T, Otsuka T : Sleep duration and hypertension with special emphasis on gender and obesity. *Am J Hypertens* 2013 ; 26 (11) : 1362-1362.
 - 51) Kawada T : Quality of evidence for multivariate analysis to keep stable estimates. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (3) : 3035-3035.
 - 52) Kawada T : Sleep efficiency in patients with polycystic ovarian syndrome. *Human Reprod* 2013 ; 28 (11) : 3164-3164.
 - 53) Kawada T : Screening ability of faecal haemoglobin concentration for excluding colorectal diseases : statistical validity of the receiver operating characteristic curve analysis. *Colorectal Dis* 2013 ; 15 (10) : 1313-1314.
 - 54) Kawada T : Specific mortality risk in patients with renal replacement therapy since childhood. *Nephrol Dial Transplant* 2013.
 - 55) Kawada T : Anxiety and depression scales of patients with congenital heart disease : caution on 40 healthy controls as the reference population. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (4) : 4405-4405.
 - 56) Kawada T : Predictive ability of self-rated health for adverse events during beta-blocker treatment in patients with chronic heart failure. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (4) : 4492-4492.
 - 57) Kawada T : Indicators of heart rate variability, urinary norepinephrine and plasma lipid levels in healthy adults. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (4) : 4517-4518.
 - 58) Kawada T : Effect of biomarkers on cardiovascular disease events with special emphasis on ethnicity. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (5) : 4888-4888.
 - 59) Kawada T : Risk assessment for cerebral microbleeds and intraventricular hemorrhage in patients with moyamoya disease by multivariate analysis. *Cerebrovasc Dis* 2013 ; 36 (4) : 326-326.
 - 60) Kawada T : The number of independent variables and events for multiple logistic regression analysis. *J Neurol Sci* 2013 ; 334 (1-2) : 197-197.
 - 61) Kawada T : Screening for obstructive sleep apnea syndrome in hypertensive outpatients : clinical characteristics of hypertension are important for their analysis. *J Clin Hypertens* 2013 ; 15 (11) : 856-856.
 - 62) Kawada T : Sleep duration, physical activity and metabolic syndrome for adolescents. *Ann Behav Med* 2013 ; 46 (3) : 401-402.
 - 63) Kawada T : Prooxidant-antioxidant balance and risk factors of coronary artery disease. *Cardiology* 2014 ; 127 (1) : 70-70.
 - 64) Kawada T : Serum C-reactive protein and metabolic components. *Endocrine* 2013 ; 44 (3) : 819-819.
 - 65) Kawada T : Re : Association between body mass index and cardiovascular disease mortality in east Asians and south Asians : pooled analysis of prospective data from the Asia Cohort Consortium. *BMJ* 2013.
 - 66) Kawada T : Definition of sleep duration and the risk of hypertension : caution for meta-analysis. *Sleep Med* 2013 ; 14 (12) : 1431-1431.
 - 67) Kawada T : Objective sleep parameters in patients with postural tachycardia syndrome by actigraphy. *Auton Neurosci* 2013 ; 179 (1) : 172-172.
 - 68) Kawada T : Is smoking a related or contributing factor for gender gap in life expectancy in Japan?. *Public Health* 2013 ; 127 (11) : 1052-1053.
 - 69) Kawada T : Effect of metabolic syndrome or its components on cardiovascular disease events with keeping statistical power. *Diabets Res Clin Pract* 2013 ; 102 (2) : e21-e21.
 - 70) Kawada T : Objective sleep parameters by accelerometer for patients in post-anaesthesia care unit. *Br J Anaesth* 2013.

- 71) Kawada T : Two-step method of major depression screening by Patient Health Questionnaire for patients with lung cancer. *Support Care Cance* 2014 ; 22 (1) : 1-1.
- 72) Kawada T : The association between apnoea-hypopnoea index and flow-mediated dilation of brachial artery. *Heart* 2014 ; 100 (1) : 81-81.
- 73) Kawada T : Question context, ethnic difference and self-rated health. *Am J Public Health* 2014 ; 104 (1) : e3-e3.
- 74) Kawada T : Non-motor symptoms in patients with Parkinson's disease by using self-reported and clinician-administered questionnaires. *Clin Neurol Neurosurg* 2014 ; 116 (1) : 107-108.
- 75) Kawada T : The association between air pollution and subclinical atherosclerosis. *Environ Health Perspect* 2014 ; 122 (1) : A8-A8.
- 76) Kawada T : Relationship between sleep parameters and lipid profile with special reference to the validity of actigraphy. *Chest* 2014 ; 145 (1) : 183-183.
- 77) Kawada T : Discriminating ability of (18) F-FET PET for several cerebral neoplastic lesions. *J Nuclear Med* 2014 ; 55 (1) : 176-176.
- 78) Kawada T : Echocardiography assessment of the aorta in children with chronic kidney disease. *Pediatr Cardiol* 2014 ; 35 (1) : 183-184.
- 79) Kawada T : Nighttime aircraft noise exposure and endothelial function in healthy adults. *Eur Heart J* 2014.
- 80) Kawada T : Re : Parental depression, maternal antidepressant use during pregnancy, and risk of autism spectrum disorders : population based case-control study. *BMJ* 2014.
- 81) Kawada T : Multiple metal exposures and renal effect : their magnitude of contribution. *Occup Environ Med* 2014 ; 71 (2) : 154-154.
- 82) Kawada T : The effect of coronary artery calcium as a subclinical atherosclerosis measure on cardiovascular events or other cause of death. *Am J Cardiol* 2014 ; 113 (3) : 571-571.
- 83) Kawada T : Meta-analysis procedure for the effect of statin on the recurrence of prostate cancer. *Ann Oncol* 2014 ; 25 (2) : 543-543.
- 84) Kawada T : Early detection of metabolic syndrome in workers : a one-year follow-up study. *Int J Cardiol* 2014 ; 171 (3) : e61-e62.
- 85) Kawada T : Risk assessment for autism spectrum disorders by representative database. *Paediatr Perinat Epidemiol* 2014 ; 28 (2) : 177-177.
- 86) Kawada T : Definition of sleep duration and carotid artery intima media thickness : caution for risk assessment. *Am J Ind Med* 2014 ; 57 (3) : 380-381.
- 87) Kawada T : Relationship between sleep parameters and cognitive performance in HIV-positive individuals. *J Acquir Immune Defic Syndr* 2014 ; 65 (3) : e124-e124.
- 88) Kawada T : Predictive ability of metabolic syndrome for incident cardiovascular disease in non-diabetic subjects. *Int J Cardiol* 2014 ; 172 (1) : 255-255.
- 89) Kawada T : Effect of serum chloride on mortality in hypertensive patients. *Hypertension* 2014 ; 63 (3) : e14-e14.
- 90) Kawada T : The effect of antihistamines on behavioral activity by actigraphy. *Arch Dermatol Res* 2014 ; 306 (2) : 209-209.
- 91) Kawada T : Prediction for Incident low ankle-brachial index and clinical peripheral artery disease with special emphasis on hypertension and inflammatory markers. *Hypertension* 2014.
- 92) Kawada T : Screening strategy of depression in patients with systemic sclerosis with special reference to

suicide. *Arthritis Care Res (Hoboken)* 2014 ; 66 (3) : 497-497.

- 93) Kawada T : Comment on : The prevalence of depression in rheumatoid arthritis : a systematic review and meta-analysis. *Rheumatology* 2014 ; 53 (3) : 578-578.
- 94) Kawada T : Patient Health Questionnaire-2 as a screening tool for psychological distress in brain tumor patients. *Psychooncology* 2014 ; 23 (3) : 353-353.
- 95) Kawada T : Obesity and laryngopharyngeal reflux as risk factors of lingual tonsil hypertrophy in patients with sleep-disordered breathing : validity of the statistical approach. *JAMA Otolaryngol Head Neck Surg* 2014 ; 140 (3) : 279-279.

著 書

- 1) Li Q : [分担] Chapter 8. Benefits of forest and forest environment on human health in a Green care context : an introduction to forest medicine. *GREEN CARE : for Human Therapy, Social innovation, Rural economy, and Education (Christos Gallis)*, 2013 ; pp139-152, Nova Science Publishers, Inc..
- 2) 川田智之 : [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 (鈴木庄亮・久道茂), 2014 ; pp283-294, 南江堂.
- 3) 可知悠子 : [翻訳] 第7章バイアスへの対処法. *ロスマンの疫学 - 科学的思考への誘い - 第2版 (KENNETH J. ROTHMAN [著] 矢野栄二/橋本英樹/大脇和浩 [監訳])*, 2013 ; 篠原出版新社.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 大塚俊昭, 小谷英太郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科) : 喫煙は高血圧発症リスクを上昇させるか? 疫学的アプローチによる検討 (病態からみた高血圧症 - 生理学と治療の進歩). 日本臨床生理学会総会 (第50回) (東京), 2013. 11.

(2) セミナー :

- 1) Li Q : Effect of a forest bathing on human health. 'Urban Forest Bathing' Exploratory Seminar in Harvard University (Harvard University, USA), 2013. 10.
- 2) 李 卿 : 日本における森林医学及び森林セラピー研究の概要. 森林生態文化 - 森林セラピー及び自然教育 - (北京, 中国), 2013. 12.

(3) 一般講演 :

- 1) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Carbamate pesticides induce apoptosis in human T cells. Congress of the European Societies of Toxicology (49th) (Interlaken, Switzerland), 2013. 9.
- 2) Li Q : Introduction of Forest Medicine as a new Preventive Medicine. National Outdoor Recreation Conference and The IUFRO Conference on Forests for People (Traverse City, Michigan, USA), 2013. 5.
- 3) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之 : カーバメイト系農薬によるヒト T 細胞死とその機序. 日本産業衛生学会総会 (第86回) (松山), 2013. 5.
- 4) 李 卿, 馮 豊隆¹⁾ (¹⁾ 中興大学 (台湾)) : 森林医学 (Forest Medicine) の現状及び将来発展の可能性. 海峡两岸森林経理検討会 (第6回) (中興大学, 台中, 台湾), 2013. 7.
- 5) 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部鎌二²⁾, 川守田千秋²⁾, 渡部月子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 スポーツ科学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績 : 肥満の有無別による検討. 日本公衆衛生学会総会 (第72回) (津), 2013. 10.
- 6) 武藤三千代¹⁾, 渡部鎌二²⁾, 渡部月子²⁾, 若山葉子 (¹⁾ 日本医科大学 スポーツ科学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 全国におけるラジオ体操実施の実態と効果について. 日本公衆衛生学会総会 (第72回) (津), 2013. 10.
- 7) 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部鎌二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 スポーツ科学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学) :

- 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査：2006～2012年の調査成績の推移. 日本民族衛生学会総会 (第78回) (佐賀), 2013. 11.
- 8) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: 基礎配属選択授業で行った「テレビ局への喫煙アンケート」等に対する学生の取り組み. 日本公衆衛生学会総会 (第72回) (津), 2013. 10.
 - 9) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: POCTを用いた防煙教育-3. 日本公衆衛生学会総会 (第72回) (津), 2013. 10.
 - 10) 大塚俊昭, 川田智之: 職域男性集団における継続喫煙および禁煙による耐糖能障害発症リスク: 体重変動を考慮した検討. 日本産業衛生学会 (第86回) (松山), 2013. 5.
 - 11) 大塚俊昭, 西山康裕¹⁾, 雪吹周生²⁾ (1) 日本医科大学 神経内科学, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 循環器センター): 職域男性における境界域高LDLC血症から高LDLC血症への進展リスクおよびその進展に関連する臨床背景の検討. 日本動脈硬化学会総会・学術集会 (第45回) (東京), 2013. 7.
 - 12) 大塚俊昭, 加藤活人, 宗像 亮¹⁾, 小谷英太郎²⁾, 雪吹周生¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器センター, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科): 中年男性コホートにおける脂質異常症と高血圧発症リスクとの関連性. 日本高血圧学会総会 (第36回) (大阪), 2013. 10.
 - 13) 平田紀美子, 勝又聖夫, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 川田智之: 高速液体クロマトグラフィー (HPLC) 法による唾液分析時の唾液保存条件の検討. 日本薬学会第134年会 (第134回) (熊本), 2014. 3.
 - 14) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之: マイトゲン刺激下ヒト末梢血単核球によるグランザイムAの産生. 日本薬学会第134年会 (第134回) (熊本), 2014. 3.
 - 15) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: コンカナバリンA刺激によるヒト末梢血単核球のグランザイム3産生. 日本薬学会第134年会 (第134回) (熊本), 2014. 3.
 - 16) 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: 血中セリンプロテアーゼ阻害蛋白のヒトグランザイム3およびグランザイムAへの影響. 日本生化学会大会 (第86回) (横浜), 2013. 9.
 - 17) Li Y, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Shinkai Y¹⁾, Takeda K¹⁾, Azuma A²⁾, Takizawa H³⁾, Liu X⁴⁾, Kawada T, Kudoh S⁵⁾ (1) Hygiene Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Sciences, Noda city, Japan., ²⁾ Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Respiratory Medicine, Kyorin University Hospital, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Department of Pulmonary, Critical Care, and Sleep Medicine, University of Nebraska Medical Center, Omaha, Nebraska, US, ⁵⁾ Anti-Tuberculosis Association, Fukujiji Hospital, Tokyo, Japan): Diesel exhaust particle induce epithelial-to-mesenchymal transition by oxidative stress in human bronchial epithelial cell. European Respiratory Society Annual Congress (23rd) (Barcelona, Spain), 2013. 9.
 - 18) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介¹⁾, 武田 健¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 滝澤 始³⁾, 山本雅之⁴⁾, 川田智之, 工藤翔二⁵⁾ (1) 東京理科大学 薬学部 衛生化学, ²⁾ 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科, ³⁾ 杏林大学医学部 呼吸器内科, ⁴⁾ 東北大学大学院 医化学分野, ⁵⁾ 結核予防会複十字病院): Nrf2欠損マウスにおけるディーゼル排気粒子曝露のプレオマイシン気道炎症病態への影響. 日本呼吸器学会学術講演会 (第53回) (東京), 2013. 4.
 - 19) 加藤活人, 大塚俊昭, 可知悠子, 今 陽一¹⁾, 小谷英太郎²⁾, 川田智之 (1) 富士重工業健康保険組合太田記念病院総合 健診部, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科): 耐糖能悪化リスク予測因子としてのC反応性蛋白の有用性. 日本循環器病予防学会 (第49回) (金沢), 2013. 6.
 - 20) 可知悠子, 井上まり子¹⁾, 矢野栄二¹⁾, 川田智之 (1) 帝京大学大学院 公衆衛生学研究科): 雇用形態の変化と心理的ストレス反応との関連: 中高年労働者の4年間コホート研究. 日本公衆衛生学会 (第72回) (津), 2013. 10.

論 文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Kawada T, Otsuka T : Factor structure of indices of the second derivative of the finger photoplethysmogram in combination with metabolic components and other cardiovascular risk indicators. *Diabetes Metab J* 2013 ; 37 (1) : 40-45.
- 2) Kawada T, Otsuka T, Endo T¹⁾, Kon Y¹⁾ (¹⁾ Ota Memorial Hospital) : Number of components of the metabolic syndrome, smoking and inflammatory markers. *Int J Endocrinol Metab* 2013 ; 11 (1) : 23-26.

12. 法医学

研究概要

1. 法医中毒学・臨床中毒学：急性薬毒物中毒の疑われる救急患者や法医鑑定の剖検資料に対して、GC/MS, LC/MS, LC/MS/MS等を用いた薬毒物分析システムを運用し、多くの成果を挙げている。また毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたアコニチン系アルカロイド・テトロドトキシン等の微量毒物検出法を開発した。トリカブト毒については、急性中毒・長期投与における生体内での代謝、心機能への影響等について、フグ毒との複合作用について実験的研究を行った。質量分析機器を用いた最新技法（LC-TOF, QTOF）を用いた薬毒物および代謝物の微量分析法の開発にも取り組んでいる。2. アルコール（Alc）の代謝とその細胞および生体に及ぼす影響を研究：Alc脱水素酵素（ADH1・ADH3）のAlc代謝における役割を遺伝子、蛋白酵素、細胞、動物個体の各レベルで検討し、Alc感受性およびAlc関連障害の個体差およびその機序を研究している。またAlcの心臓への影響を、培養心筋細胞および蛍光色素を用いて、細胞内小器官および分子レベルで解析している。3. NMRおよびMRIを用いた研究：共同研究センター磁気共鳴分析施設のNMR装置を用いて、NMR技術を用いた死体髄液からの頭蓋内傷病変の診断法の新規開発に関する研究を行っている。また防衛医大および筑波剖検センターと共同で死後画像診断およびMR組織学に関する基礎研究を、形成外科学と共同で美容医療材料と美容医療後遺症との関連に関する研究を行っている。さらに京都大学、東京工芸大学等との共同研究の成果物であるNMRデータ解析技術を用いて、救急医学、神経内科学、小児医学および京都大学附属病院各科と新しい診断技術に関する共同研究を進めている。4. 法医実務的研究：2003年6月より千葉県警の司法解剖を受託している（日本大学医学部法医解剖室を借用）ので、剖検例にかかわる具体的問題を病理組織学的検討を含めて研究している。またそれ以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Uekusa K, Hayashida M, Saito N¹⁾, Mashiko K¹⁾, Hara K²⁾, Waters B²⁾, Ohno Y (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Forensic Medicine, Faculty of Medicine, Fukuoka University) : Methamphetamine and amphetamine concentrations in survivors of body-packer syndrome in Japan. Forensic Science International 2013 ; 227 (1-3) : 45-47.
- 2) 大嶋俊二¹⁾, 長谷場健, 増田千晶¹⁾, 垣見絵麻¹⁾, 北川 泰¹⁾, 大野曜吉 (¹⁾ アサヒグループホールディングス株式会社 食の基盤技術研究所) : 飲酒量と血中アルコール代謝動態の性差 - ALDH2¹/₂型における食事を伴うビール摂取での検討. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2013 ; 48 (3) : 187-197.
- 3) Ono T, Hayashida M, Tezuka A¹⁾, Hayakawa H²⁾, Ohno Y (¹⁾ Division of Regenerative Medicine and Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Tsukuba Medical Examiner's Office) : Antagonistic effects of tetrodotoxin on aconitine-induced cardiac toxicity. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (5) : 350-361.
- 4) Terada M¹⁾, Shinozuka T²⁾, Hasegawa C¹⁾, Tanaka E³⁾, Hayashida M, Ohno Y, Kurosaki K¹⁾ (¹⁾ Department of Legal Medicine, School of Medicine, Toho University, ²⁾ Department of Pathophysiology, Yokohama College of Pharmacy, ³⁾ Department of Clinical Pharmacology, Showa University School of Medicine) : Analysis of quazepam and its metabolites in human urine by gas chromatography-mass spectrometry : application to a forensic case. Forensic Science International 2013 ; 227 (1-3) : 95-99.

- 5) 大嶋俊二¹⁾, 齋藤 猛¹⁾, 石切山比呂子¹⁾, 根本明弘¹⁾, 北川 泰¹⁾, 長谷場健, 大野曜吉 (¹⁾ アサヒグループホールディングス株式会社 食の基盤技術研究所) : 尿中エチルグルクロニド, 硫酸エチルは適量飲酒の有無の確認に利用可能なマーカーか?. アルコールと医学生物学 2013 ; 32 : 96-101.
 - 6) Saka K¹⁾, Kudo K²⁾, Hayashida M, Kurisaki E³⁾, Niitsu H⁴⁾, Terada M⁵⁾, Yamaguchi K, Yoshida K¹⁾ (¹⁾ Department of Forensic Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, ²⁾ Department of Forensic Pathology and Sciences, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ³⁾ Department of Legal Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine, ⁴⁾ Department of Legal Medicine, Iwate Medical University School of Medicine, ⁵⁾ Department of Legal Medicine, Toho University School of Medicine) : Relationship between the matrix effect and the physicochemical properties of analytes in gas chromatography. Analytical and Bioanalytical Chemistry 2013 ; 405 (30) : 9879-9888.
 - 7) Yamaguchi K, Hayashida M, Ohno Y : Analysis of 11-nor-9-carbonyl-D9-tetrahydrocannabinol in human blood and bile by liquid chromatography-tandem mass spectrometry after derivatization with ethyl chloroformate and amines. Forensic Toxicol 2014 ; 32 (1) : 51-58.
 - 8) Kudo K¹⁾, Usumoto Y¹⁾, Usui K²⁾, Hayashida M, Kurisaki E³⁾, Saka K⁴⁾, Tsuji A¹⁾, Ikeda N¹⁾ (¹⁾ Department of Forensic Pathology and Sciences, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ²⁾ Division of Forensic Medicine, Department of Public Health and Forensic Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, ³⁾ Department of Legal Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine, ⁴⁾ Department of Forensic Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo) : Rapid and simultaneous extraction of acidic and basic drugs from human whole blood for reliable semi-quantitative NAGINATA drug screening by GC-MS. Forensic Toxicol 2014 ; 32 (1) : 97-104.
 - 9) Miyauchi M¹⁾, Hayashida M, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Successful retrieval using ultrathin transnasal esophagogastroduodenoscopy of a significant amount of residual tricyclic antidepressant following serious toxicity : a case report. International Journal of Emergency Medicine 2013 ; 6 (1) : 39.
 - 10) Miyauchi M¹⁾, Hayashida M, Hirata K²⁾, Hirata K³⁾, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Pharmacy, Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Gastric Lavage Guided by Ultrathin Transnasal Esophagogastroduodenoscopy in a Life-threatening Case of Tobacco Extract Poisoning : A Case Report. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (4) : 307-311.
- (2) 総説 :
- 1) 宮内雅人¹⁾, 林田真喜子, 山口晃志, 大野曜吉, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター) : 中毒 中級講座 第3回 機器分析. 中毒研究 2013 ; 26 (4) : 319-325.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 長谷場健 : 飲酒量がアルコール代謝動態ならびにアルコール生理的変動の性差に及ぼす影響 - ALDH2*1/*2型遺伝子多型の場合. 平成25年度アサヒビールHD(株)共同研究(第IV期)報告書 2013.

著 書

- 1) Okuda T, Shiotani S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Tsukuba Medical Center) : [分担] Chapter X Bath-Related Sudden Death. Sudden Death : Causes, Risk Factors and Prevention (Cardiology Research and Clinical Developments : Public Health in the 21st Century) (IST) (Wu, Jiashin (EDT)/ Wu, Jessica (EDT)), 2013 : pp181-193, Nova Science Pub. Inc.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 大野曜吉：薬物に関係した法医鑑定例. 第40回日本毒性学会学術年会（幕張（千葉）），2013. 6.
- 2) 大嶋俊二¹⁾，長谷場健，福田和郎¹⁾，大野曜吉（¹アサヒグループホールディングス株式会社 食の基盤技術研究所）：飲酒によるアルコール代謝動態と生理的変動に関する検討：ビールあるいは焼酎を食事の有無で適量飲酒した場合. 第33回アルコール医学生物学研究会学術集会（高知（高知）），2014. 1.
- 3) 大嶋俊二¹⁾，長谷場健（¹アサヒグループホールディングス株式会社 イノベーション研究所）：日常的な種々の飲酒条件下におけるアルコール代謝動態. 第48回日本アルコール・薬物医学会（岡山（岡山）），2013. 10.
- 4) 長谷場健：アルコール代謝におけるNon-ADH pathwayの正体とClass III ADH（ADH3）. 第48回日本アルコール・薬物医学会（岡山（岡山）），2013. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 亀山孝二，長谷場健：社会化する自然と自己家畜化論：媒介する技術の選択と自己家畜化のあり方の検討. 第8回総合人間学会研究大会（名古屋（愛知）），2013. 6.
- 2) 山口晃志，林田真喜子，大野曜吉：剖検資料中のクアゼパム及びその代謝物の分析. 第97次日本法医学会学術全国集会（札幌（北海道）），2013. 6.
- 3) 中川貴美子¹⁾，山本伊佐夫¹⁾，長谷場健，小野滝幸，崔 范来，大野曜吉，齊藤麻紀¹⁾（¹神奈川歯科大）：Wiiを用いた酩酊度の評価法の試みとALDH2遺伝子多型の影響. 第97次日本法医学会学術全国集会（札幌（北海道）），2013. 6.
- 4) 林田真喜子，滝埜昌彦¹⁾，山口晃志，植草協子，安部寛子²⁾，大野曜吉（¹アジレント・テクノロジー，²MST）：ベンゾジアゼピン系薬物を含む剖検薬物事例に対する包括的QTOFスクリーニングの応用. 第97次日本法医学会学術全国集会（札幌（北海道）），2013. 6.
- 5) 寺田 賢¹⁾，荒井裕子²⁾，佐々木千寿子³⁾，長谷川智華¹⁾，林田真喜子，田中榮之介⁴⁾，篠塚達雄⁵⁾，栗原克由³⁾，大野曜吉，黒崎久仁彦¹⁾（¹東邦大，²株式会社 資生堂フロンティアサイエンス事業部，³北里大，⁴昭和薬大・第二薬，⁵横浜薬大）：汎用型LCによるトリアゾラム，エチゾラム及びそれらの代謝物の迅速一斉分析. 第97次日本法医学会学術全国集会（札幌（北海道）），2013. 6.
- 6) 奥田貴久^{1,2)}，早川秀幸^{1,2)}，塩谷清司³⁾，菊地和徳⁴⁾，小林智哉⁵⁾，大野曜吉²⁾（¹筑波剖検センター，²日本医科大学法医学，³筑波メディカルセンター病院放射線科，⁴筑波メディカルセンター病院病理科，⁵筑波メディカルセンター病院放射線技術科）：急性大動脈解離後の心肺蘇生術に伴う心嚢破裂の2例. 第97次日本法医学会学術全国集会（札幌（北海道）），2013. 6.
- 7) 金涌佳雅^{1,3)}，染谷聡香²⁾，小林智哉²⁾，平川慶子，早川秀幸³⁾，大野曜吉，中津海学子¹⁾，原田一樹¹⁾，塩谷清司⁴⁾，金武 潤¹⁾（¹防衛医大，²筑波メディカルセンター病院放射線技術科，³筑波剖検センター，⁴筑波メディカルセンター病院放射線科）：剖検摘出固定脳のMRI撮像法の検討. 第97次日本法医学会学術全国集会（札幌（北海道）），2013. 6.
- 8) 大野曜吉，奥田貴久，崔 范来，富田ゆかり，山田丈士¹⁾，張 幼芳²⁾（¹東京厚生年金病院，²浙江警察学院）：右大動脈弓の1剖検例. 第97次日本法医学会学術全国集会（札幌（北海道）），2013. 6.
- 9) 山口晃志，林田真喜子，大野曜吉：クロロギ酸エチルとアミンによる誘導体化を利用したLC-MSによる血液及び胆汁中の11-ノル- Δ 9-テトラヒドロカンナビノール-9-カルボン酸の分析. 日本法中毒学会第32年会（柏（千葉）），2013. 7.
- 10) 滝埜昌彦¹⁾，林田真喜子（¹アジレント・テクノロジー）：All Ions MS/MS法及びMS/MSスペクトルライブラリを用いたLC-QTOFによる薬物スクリーニング手法. 日本法中毒学会第32年会（柏（千葉）），2013. 7.
- 11) 渡辺彬子¹⁾，富田ゆかり，崔 范来，周 婧，大野曜吉（¹日本医科大学 医学部第3学年）：椎骨動脈破裂：内因性と外傷性の鑑別. 第81回日本医科大学医学会総会（千駄木（東京）），2013. 9.

- 12) Hayashida M, Takino M¹⁾, Ohno Y¹⁾ (Agilent Technologies Japan, Ltd.) : Confirmation analysis of controlled drugs detected in acute poisoning cases using LC-MS/MS trigger MRM method. The 51st Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologist (TIAFT2013) (Funchal-Madeira, Portugal), 2013. 9.
- 13) 山田千歩¹⁾, 高木徹也¹⁾, 吉田昌記¹⁾, 高篠 智¹⁾, 須藤孝子¹⁾, 岩楯桜子^{1, 2)}, 植草協子, 林田眞喜子, 大野曜吉, 佐藤喜宣¹⁾ (1) 杏林大, (2) 杏林大・保・看護) : チョウセンアサガオの実を服用後に死亡した一剖検例. 第82回日本法医学会学術関東地方集会 (横浜 (神奈川県)), 2013. 10.
- 14) 坂 幹樹¹⁾, 新谷 香¹⁾, 山口晃志, 林田眞喜子, 大野曜吉, 吉田謙一¹⁾ (1) 東大) : MDMA 及びその活性代謝物 (DHMA, DHA) の LC-MS/MS 同時定量のための前処理法の検討. 第82回日本法医学会学術関東地方集会 (横浜 (神奈川県)), 2013. 10.
- 15) 崔 范来, 富田ゆかり, 平川慶子, 長谷場健, 周 婧, 大野曜吉, 早川秀幸¹⁾ (1) 筑波剖検センター) : 入院中に胸腔穿刺により胸水吸引術を実施後急死した1例. 第82回日本法医学会学術関東地方集会 (横浜 (神奈川県)), 2013. 10.
- 16) 長谷場健, 崔 范来, 周 婧, 大野曜吉 : 事故後追い酒をした酒気帯び運転鑑定例 : 呼気アルコール濃度2点測定法適用の必要性. 第82回日本法医学会学術関東地方集会 (横浜 (神奈川県)), 2013. 10.
- 17) 金涌佳雅¹⁾, 染谷聡香²⁾, 小林智哉²⁾, 河上 早³⁾, 早川秀幸⁴⁾, 平川慶子, 塩谷清司⁵⁾, 大野曜吉, 福永龍繁⁶⁾, 原田一樹¹⁾, 金武 潤¹⁾ (1) 防衛医大法医学, (2) 筑波メディカルセンター病院放射線技術科, (3) 陸上自衛隊衛生学校, (4) 筑波剖検センター, (5) 筑波メディカルセンター病院放射線科, (6) 東京都監察医務院) : 海馬領域を対象としたホルマリン固定脳の MR 画像検査の検討. 第41回日本磁気共鳴医学会 (徳島), 2013. 9.
- 18) 後藤まき^{1, 3, 4)}, 長谷場健, 鈴木教郎²⁾, 山本照子¹⁾, 山本雅之³⁾, 本橋ほづみ⁴⁾ (1) 東北大院・歯・顎口腔矯正学, (2) 東北大院・医・新医学領域創生, (3) 東北大院・医・医化学, (4) 東北大・加齢研・遺伝子発現制御) : 生体防御における Nrf2 制御系と Adh3 の協調作用の重要性. 日本生化学会東北支部第79回例会・シンポジウム (仙台 (宮城)), 2013. 5.

論 文

〔追加分〕

追加分総説 :

- 1) 塩谷清司¹⁾, 田代和也²⁾, 田代千恵²⁾, 奥田貴久³⁾ (1) 筑波メディカルセンター病院放射線科, (2) 筑波メディカルセンター病院放射線技術科, (3) 日本医科大学法医学) : イギリス保健省が発表した死後画像診断サービスに関する報告書. インナービジョン 2013 ; 28 (1) : 26-27.

追加分原著 :

- 1) Okuda T^{1, 3)}, Shiotani S²⁾, Hayakawa H^{1, 3)}, Kikuchi K⁴⁾, Kobayashi T⁵⁾, Ohno Y¹⁾ (1) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Radiology, Tsukuba Medical Center, (3) Tsukuba Medical Examiner's Office, (4) Department of Pathology, Tsukuba Medical Center, (5) Department of Radiological Technology, Tsukuba Medical Center) : A case of fatal cervical discoligamentous hyperextension injury without fracture : correlation of postmortem imaging and autopsy findings. Forensic Science International 2013 ; 225 (1) : 71-74.
- 2) Okura N¹⁾, Okuda T^{2, 3)}, Shiotani S⁴⁾, Kohno M⁵⁾, Hayakawa H^{2, 3)}, Suzuki A⁶⁾, Kawasaki T⁷⁾ (1) Department of Radiology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, (2) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, (3) Tsukuba Medical Examiner's Office, (4) Department of Radiology, Tsukuba Medical Center, (5) Department of Critical Care and Emergency Medicine, Tsukuba Medical Center, (6) Yaesu Clinic, (7) Japan Kawasaki Disease Research Center) : Sudden death as a late sequel of Kawasaki disease : postmortem CT demonstration of coronary artery aneurysm. Forensic Science International 2013 ; 225 (1) : 85-88.

- 3) Okuda T^{1,5)}, Shiotani S²⁾, Kobayashi T³⁾, Kohno M⁴⁾, Hayakawa H^{1,5)}, Kikuchi K⁶⁾, Suwa K⁷⁾ (1) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology, Tsukuba Medical Center, 3) Department of Radiological Technology, Tsukuba Medical Center, 4) Department of Critical Care and Emergency Medicine, Tsukuba Medical Center, 5) Tsukuba Medical Examiner's Office, 6) Department of Pathology, Tsukuba Medical Center, 7) Department of Biomedical Engineering, Teikyo Junior College) : Immediate non-traumatic postmortem computed tomographic demonstration of myocardial intravascular gas of the left ventricle : effects from cardiopulmonary resuscitation. SpringerPlus 2013 ; 2 (1) : 86.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) Abe H¹⁾, Yoshizawa C¹⁾, Hayashida M, Takino M²⁾, Ohno Y (1) MST, 2) Agilent Technologies) : An application of target MRM screening method to the analysis of multiple drug poisoning cases. The 50st Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologist (TIAFT2012) (浜松 (静岡)), 2012. 6.
- 2) 滝埜昌彦¹⁾, 澤田浩和¹⁾, 林田真喜子 (1) アジレント・テクノロジー株式会社) : LC/Q-TOFMS, 精密質量データベース, MSMS スペクトライブラリ及び分子構造相関手法を用いた生体試料中薬物の包括的分析法. 第37回日本医用マスペクトル学会年会 (名古屋 (愛知)), 2012. 10.

13. 医療管理学

研究概要

医療管理学教室では、超高齢社会における医療システムのあり方に関して様々な角度から研究を実施した。大きな分類としては、①需要の現状把握と将来予測、②変質する需要に対する医療システムのあり方の2種類の研究を実施した。「需要の現状把握と将来予測」に関しては、医療介護連結レセプトデータベースの作成を行い、高齢者の医療・介護の利用状況を長期にわたって追跡調査可能なデータベースを福島県で構築した。疾病ごとや要介護度別の分析を行い、実際に高齢者にどのような医療介護ニーズが生じているかを定量的に分析した。また、マイクロシミュレーションと呼ばれる新しいシミュレーション手法を用いて、超高齢社会における医療需要の将来推計を行った。その結果、複数疾患を抱える高齢者の増加や要介護高齢者の急激な増加を精緻にシミュレーションすることが出来た。「医療システムのあり方」に関しては、多摩永山病院、多摩市の医療機関などと共同で、高齢者に地域で継続的な医療介護を提供するためのシステム作りに関して研究を実施した。また、スムーズな地域医療介護連携を支援する医療情報システムに関する研究を開始し、国際機能分類など高齢者の生活支援をコンセプトにする枠組みを用いて、高齢者の生活支援を軸にした新しい情報共有のあり方に関して研究を行った。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 小塩篤史：医療ビッグデータの現状と展望。摂津市医師会報 2013；(84)：17-25.
- 2) Koshio A：Projecting long term care needs in Japan -Microsimulation modeling for super aged society. Proceedings of International Microsimulation Association 2013；(14)：312-315.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 林 正幸¹⁾、田中啓広、長谷川敏彦⁽¹⁾ 福島県立医科大学)：ケアサイクル利用資源分析。第72回日本公衆衛生学会総会，2013. 10.
- 2) 田中啓広、林 正幸¹⁾、長谷川敏彦⁽¹⁾ 福島県立医科大学)：ケアサイクログラムの考案。第72回日本公衆衛生学会総会，2013. 10.
- 3) 熊田朝子、藤谷克己、田中啓広、小塩篤史、長谷川敏彦：患者住環境及び地域の医療・福祉資源の把握実習：患者の生活環境理解の有用性。第45回日本医学教育学会，2013. 7.
- 4) 藤谷克己、小塩篤史、田中啓広、長谷川敏彦：医学教育低学年におけるSP（模擬患者）導入コミュニケーション教育の意義。第45回日本医学教育学会，2013. 7.
- 5) 藤谷克己：地域包括支援センターの評価に関する研究。第72回日本公衆衛生学会総会，2013. 10.
- 6) Koshio A：Projecting long term care needs in Japan -Microsimulation modeling for super aged society. International Microsimulation Association（オーストラリア），2013. 11.

14. 基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

遺伝性疾患モデル動物の開発、病態解析および原因遺伝子の同定によって疾患の解明・医学研究への貢献を目指して研究を進めている。非肥満2型糖尿病モデル動物である WBN/Kob ラットに Zucker fatty rat 由来の遺伝子を導入した WBN/Kob-fatty コンジェニックラットを確立し、新たな肥満2型糖尿病モデル動物を作成した。膵臓における炎症関連の遺伝子発現、および長期飼育により糖尿病性合併症モデルとしてヒトの病態の理解に資すると考え研究を行っている。さらに WBN/IIa ラットに貧毛遺伝子 *Ht* を導入した WBN/IIa-*Ht* ラットはアトピー性皮膚炎のモデルで、*TRPV3* 遺伝子に変異がある。このラットは皮膚炎発症および被毛の病態だけでなく、2次性胆汁性肝硬変への抵抗性が明らかとなったことから、遺伝的要因との関連について調べている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Terada M¹⁾, Horii Y²⁾, Sato F³⁾, Taniguchi K⁴⁾, Hori T⁵⁾, Kawakami E⁵⁾, Tsutsui T⁵⁾, Akimoto T⁶⁾, Motoo T¹⁾, Saito-R T⁷⁾ (1) Animal Research Center, Dokkyo Medical University, 2) Kitayama Labes Co., Ltd., 3) Japan Racing Association, Hidaka Training and Research Center, 4) Department of Veterinary Anatomy, Kitasato University, 5) Department of Reproduction, Nippon Veterinary and Life Science University, 6) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, 7) Behavioral Neuroscience Laboratory, Nippon Veterinary and Life Science University) : Time-dependent changes in cardiovascular function during copulatory behavior induced by the hand method in the male dog. *Reprod Med Biol.* 2013 ; 13 (1) : 53-58.
- 2) Nagahara N¹⁾, Nagano M²⁾, Ito T³⁾, Shimamura K⁴⁾, Akimoto T⁵⁾, Suzuki H²⁾ (1) Isotope Research Center, Nippon Medical School, 2) Department of Pharmacology, Nippon Medical School, 3) Department of Pathology and Experimental Medicine, Graduate School of Medical Science, Kumamoto University, 4) Department of Brain Morphogenesis, Division of Organogenesis, Institute of Molecular Embryology and Genetics, Kumamoto University, 5) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School) : Antioxidant enzyme, 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase-knockout mice exhibit increased anxiety-like behaviors : a model for human mercaptolactate-cysteine disulfiduria. *Sci Rep.* 2013 ; 3 (1986) : 1-7.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 蜂須賀誠人¹⁾, 前田彩香²⁾, 丸山基世³⁾, 秋元敏雄³⁾ (1) 日本医科大学第5学年学生, 2) 日本医科大学第3学年学生, 3) 日本医科大学実験動物管理室) : 胆管結紮手術後のヘアレスラットのヘテロ個体及びワイルド個体の病態について. 日本医科大学医学会総会 (第81回) (東京), 2013. 9.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Kaneko T¹⁾, Shimizu A²⁾, Mii A¹⁾, Fujita E¹⁾, Fujino T¹⁾, Kunugi S²⁾, Du X²⁾, Akimoto T³⁾, Tsuruoka

S¹), Ohashi R⁴), Masuda Y²), Iino Y¹), Katayama Y¹), Fukuda Y²) (1) Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Pathology, Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, 3) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, 4) Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital) : Role of matrix metalloproteinase-2 in recovery after tubular damage in acute kidney injury in mice. *Nephron Exp Nephrol.* 2013 ; 122 (1-2).

[形態解析共同研究施設]

研究概要

共同研究センター形態解析共同研究施設は、電子顕微鏡、レーザー顕微鏡などの形態研究に関する種々の機器の管理、運営および共同利用のための機器の維持を業務としている。一方、必要に応じて形態機器の技術指導および共同研究も実施している。また、附属病院、関連病院から依頼された病理生検材料について、診断サポートのための電子顕微鏡による検索、報告も行っている。研究としては、鈴木は厚生労働省科研費による班研究（創薬基盤推進研究事業「人工血小板／H12（ADP）リボソーム：臨床研究への移行を目指した品質管理と薬物試験（H24－創薬総合一般－008）」）の研究分担者として従事し、人工血小板リボソームを使った *in vitro* および *in vivo* の実験における形態的検討、報告を行った。また、学外から依頼された異常血小板の形態的検索を共同研究として2例実施した。1例は京都大学医学部小児科のアクチン結合タンパク質フィラミンA異常症患者の血小板であった。本症患者血小板は一部が大型で球状になるとともに、直径2～4ミクロンの空胞も存在する結果を得た。他の1例は名古屋医療センターの血小板減少症患者の血小板であった。本症血小板はそのほとんどに辺縁部を走向するリング状の微小管の欠損が見られ、大型化していることを観察し、報告した。佐藤、安達、佐佐木は解析人体病理学、統御機構病理学、附属病院病理部との共同研究として、心臓、腎臓、皮膚の病理解析結果を用いて学会、論文発表を行った。また、形態観察、試料作製技術向上のために、皮膚毛幹のコントラストを上げる電子染色媒染法の改良法などの報告を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kasahara K¹), Kaneda M¹), Miki T¹), Iida K¹), Sekino-Suzuki N¹), Kawashima I²), Suzuki H, Shimonaka M³), Arai M⁴), Ohno-Iwashita Y⁵), Kojima S⁶), Abe M⁷), Kobayashi T⁷), Okazaki T⁸), Souri M⁹), et al. (1) Laboratory of Biomembrane Project, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Tokyo, Japan, 2) Laboratory of Molecular Medicine Project, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Tokyo, Japan, 3) Department of Chemistry, Tokyo University of Science, Tokyo, Japan, 4) CMR Development Division, Novo Nordisk Pharma Ltd., Tokyo, Japan, 5) Faculty of Pharmacy, Iwaki Meisei University, Fukushima, Japan, 6) Molecular Ligand Biology Research Team, RIKEN Advanced Science Institute, Saitama, Japan, 7) Lipid Biology Laboratory, RIKEN Advanced Science Institute, Saitama, Japan, 8) Department of Hematology and Immunology, Kanazawa Medical University, Ishikawa, Japan, 9) Department of Molecular Patho-Biochemistry and Patho-Biology, Yamagata University School of Medicine, Yamagata, Japan) : Clot retraction is mediated by factor XIII-dependent fibrin- α IIb β 3-myosin axis in platelet sphingomyelin-rich membrane rafts. *Blood* 2013 ; 122 (19) : 3340-3348.
- 2) Sakata A¹), Ohmori T¹), Nishimura S¹), Suzuki H, Madoiwa S¹), Mimuro J¹), Kario K²), Sakata Y¹) (1) Research Division of Cell and Molecular Medicine, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University School of Medicine, Tochigi, Japan, 2) Division of Cardiovascular Medicine, Department of Internal Medicine,

Jichi Medical University School of Medicine, Tochigi, Japan) : Paxillin is an intrinsic negative regulator of platelet activation in mice. *Thrombosis Journal* 2014 ; 12 (1) : 1-13.

- 3) Kunishima S¹⁾, Nishimura S²⁾, Suzuki H, Imaizumi M³⁾, Saito H⁴⁾ (1) Department of Advanced Diagnosis, Clinical Research Center, National Hospital Organization Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan, 2) Department of Cardiovascular Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, 3) Department of Hematology and Oncology, Miyagi Children's Hospital, Miyagi, Japan, 4) Honorary Director, National Hospital Organization Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan) : TUBB1 mutation disrupting microtubule assembly impairs pro-platelet formation and results in congenital macrothrombocytopenia. *European Journal of Haematology* 2013 ; 92 (4) : 276-282.
- 4) Saito T¹⁾, Asai K¹⁾, Sato S²⁾, Takano H¹⁾, Adachi A²⁾, Sasaki Y²⁾, Namimatsu S³⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Central Electron Microscopic Institute, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Proof of myocardial autophagy by combining antigen retrieval and the avidin-biotin peroxidase complex method. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 168 (5) : 4843-4844.
- 5) Ikeda T¹⁾, Saito T¹⁾, Takagi G¹⁾, Sato S²⁾, Takano H¹⁾, Hosokawa Y³⁾, Hayashi M¹⁾, Asai K¹⁾, Yasutake M¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo 113-8603, Japan., 2) Central Electron Microscopic Institute, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan.) : Acute Myocarditis Associated With Coxsackievirus B4 Mimicking Influenza Myocarditis : Electron Microscopy Detection of Causal Virus of Myocarditis. *Circulation* 2013 ; 128 (25) : 2811-2812.
- 6) Sato S¹⁾, Sasaki Y¹⁾, Adachi A¹⁾, Omi T²⁾ (1) Division of Morphological and Biomolecular Research, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Dermatology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan.) : Reduction and Block Staining of Human Hair Shafts and Insect Cuticles by Ammonium Thioglycolate to Enhance Transmission Electron Microscopic Observations. *Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications* 2013 ; 3 (2) : 157-161.

(2) 総説 :

- 1) 西川可穂子¹⁾, 萩沢康介²⁾, 柳川錬平³⁾, 土井麻美⁴⁾, 鈴木英紀⁵⁾, 齋藤大蔵⁶⁾, 阪本敏久¹⁾, 武岡真司⁴⁾, 半田誠⁷⁾, 木下 学⁸⁾ (1) 防衛医科大学校救急部, 2) 防衛医科大学校生理学講座, 3) 防衛医科大学校防衛医学講座, 4) 早稲田大学先進理工, 5) 日本医科大学形態解析共同研究施設, 6) 防衛医科大学校外傷部門, 7) 慶応大学病院輸血・細胞療法部, 8) 防衛医科大学校免疫微生物学講座) : 人工血小板 H12 (ADP) リボソームを用いた急性血小板減少症病態への止血・救命対策. *人工血液* 2013 ; 21 (1) : 60-67.

著 書

- 1) Omi T^{1,2)}, Sato S³⁾ (1) Department of Dermatology, Queen's Square Medical Center, Yokohama, Japan, 2) Department of Dermatology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : [分担] Skin Rejuvenation-Ultrastructural Study. *Skin Aging : New Research* (Ekiguchi A and Imada M), 2013 ; pp99-115, Nova Science Publishers Inc.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 鈴木英紀 : 先天性血小板異常症の分子病態 . 1. 形態異常 . 日本血栓止血学会 (第 35 回) (山形), 2013. 6.

(2) シンポジウム：

- 1) 佐藤 茂¹⁾, 安達彰子¹⁾, 佐佐木善広¹⁾, 五十嵐徹²⁾ (1) 日本医科大学形態解析共同研究施設, 2) 日本医科大学附属病院小児科)：小児腎疾患における微小糸球体変化群の電顕検索の有用性. 日本臨床分子形態学会 (第 45 回) (福岡市), 2013. 9.

(3) セミナー：

- 1) 佐藤 茂¹⁾ (1) 日本医科大学形態解析共同研究施設)：行動はホルモンと神経で決まる：セロトニンの話. エステティックダーマトロジー教育セミナー (第 6 回) (東京), 2013. 12.

(4) 一般講演：

- 1) 鈴木英紀, 諸根信弘¹⁾, 武岡真司²⁾, 池田康男²⁾, 半田 誠³⁾ (1) 京都大学京都大学 物質-細胞統合システム拠点, 2) 早稲田大学理工学術院, 3) 慶応義塾大学医学部輸血・細胞療法センター)：ヒト血小板と人工血小板 (H12- (ADP) リボソーム) の相互作用の形態解析. 日本血栓止血学会 (第 35 回) (山形), 2013. 6.
- 2) 坂田飛鳥^{1,2)}, 大森 司¹⁾, 西村 智³⁾, 鈴木英紀, 窓岩清治¹⁾, 三室 淳¹⁾, 菊尾七臣²⁾, 坂田洋一¹⁾ (1) 自治医科大学分子病態治療研究部, 2) 自治医科大学循環器内科学講座, 3) 東京大学循環器内科学講座)：Paxillin は Rap1b の修飾を介して血小板活性化を負に制御する. 日本血栓止血学会 (第 35 回) (山形), 2013. 6.
- 3) 小田紘嗣^{1,2)}, 河合朋樹¹⁾, 中川権史¹⁾, 日衛嶋栄太郎¹⁾, 井澤和司¹⁾, 西小森隆太¹⁾, 沼部博直³⁾, 鈴木英紀, 小原 収^{2,4)}, 平家俊男¹⁾ (1) 京都大学小児科, 2) 理化学研究所 統合生命医科学研究センター, 3) お茶の水女子大学, 4) かずさ DNA 研究所)：血小板減少症に家族性弃膜症, 腸回転異常症を合併したフィラミン A 異常症の兄弟例. 日本小児血液・がん学会 (第 55 回) (福岡), 2013. 11.
- 4) 吉田泰子¹⁾, 高野秀樹¹⁾, 益田幸成²⁾, 佐藤 茂³⁾, 金子朋広⁴⁾, 飯野靖彦⁴⁾, 清水 章²⁾ (1) 東京通信病院, 2) 日本医科大学解析人体病理学, 3) 日本医科大学形態解析共同研究施設, 4) 日本医科大学腎臓内科)：糸球体内皮細胞障害と IgA 腎症の進展. 日本腎臓学会 (第 56 回) (東京), 2013. 5.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Sato S¹⁾, Takaki T²⁾, Nishiyama H²⁾, Omi T³⁾ (1) Division of Morphological and Biomolecular Research, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) R & D business Support Department Group 1 DATUM Solution Business Operations, JEOL Ltd., Tokyo, Japan, 3) Department of Dermatology, Queen's Square Medical Center, Yokohama, Japan)：TiO₂ nanoparticles induced genotoxicity in cultured cells using atmospheric scanning electron microscopy (ASEM). Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications 2013 ; 3 (1) : 121-123.

[情報科学センター]

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 早坂明哲, 奥重秀彦, 滋野恭子, 伊藤高司：高機能ファイアウォールを利用した省通信量のためのインターネット通信量解析. 医療情報学会連合大会 (第 33 回) (兵庫県神戸市), 2013. 11.
- 2) 早坂明哲, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司：日本医科大学におけるインターネット通信の解析報告 (第 2 報). 大学 ICT 推進協議会 2013 年度年次大会 (千葉県), 2013. 12.

[基礎医学放射性同位元素研究室]

研究概要

基礎医学 RI 研究室は平成 24 年 6 月より本事業所の放射線主任者である衛生学公衆衛生学分野 永原准教授が選任教員として任命され、基礎医学 RI 研究室の法的小および管理業務一般、従事者に対する教育訓練、放射線影響に関する教育（放射線衛生学）、基礎配属における教育、大学院講義、研究を行った。永原は従来からのメルカプトピルビン酸硫黄転移酵素（MST）の酵素化学とシステインレドックス化学（酸化還元）に関する研究を中心に継続するとともに、環境医学、病態生化学、酵素学、タンパク質化学、proteomics の分野の研究を展開した。最近、MST が抗酸化タンパク質であることを証明し、さらに共同研究者により H₂S（HS⁻）が MST から産生される事が明らかになった。また、SO_x が MST から産生される事を in vitro で証明して、酵素（タンパク質）機能の多様性を明らかにした。今年度の科研費研究として MST ノックアウト（KO）マウスの作成に成功し、網羅的研究を行っている。ヒトの MST の先天的欠損症（mercaptolactate cysteine disulfiduria）は精神遅延発達障害を伴うが、MST-KO マウスを用いた研究結果とし、MST 欠損による不安障害を認めており、病態の解明を進めた。上記の研究を含め、国内や欧米と複数の共同研究（国立精神神経医療センター研究所、熊本大学、東京都健康長寿医療センター研究所、神奈川県立こども医療センター、ジャギロニアン大（ポーランド）、ハノーバー大（ドイツ）、ローマ大（イタリア））を行った。結果は論文、学会、招待講演などで発表した。選任教員が一名配置され、新しい体制がスタートした年度となったが、実験スペース、分析機器、試薬、実験器具など、昨年と同様に整備の必要性が課題として残った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shibuya N¹, Koike S^{1, 2}, Tanaka M¹, Ishigami-Yuasa M¹, Kimura Y¹, Ogasawara Y², Fukui K³, Nagahara N, Kimura H¹ (1) Department of Molecular Pharmacology, National Institute of Neuroscience, (2) Department of Hygienic Chemistry, Meiji Pharmaceutical University, (3) The Institute for Enzyme Research, The University of Tokushima) : A novel pathway for producing hydrogen sulfide from D-cysteine. *Nat Commun* 2013 ; 4 : 1366.
- 2) Fan W¹, Nakazawa K¹, Abe S², Inoue M², Kitagawa M², Nagahara N, Makita K¹ (1) Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Tokyo Medical and Dental University, (2) Department of Comprehensive Pathology, Ageing and Developmental Sciences, Tokyo Medical and Dental University) : Inhaled aerosolized insulin ameliorates hyperglycemia-induced inflammatory responses in the lungs in experimental model of acute lung injury. *Critical Care* 2013 ; 17 : R83.
- 3) Kato K¹, Tanaka M¹, Toyoda Y², Kigasawa H³, Ohama Y⁴, Nishi T⁴, Okuzumi S⁵, Kurisawa K⁶, Aida N⁷, Nagahara N, Tanaka Y² (1) Division of Pathology, Kanagawa Children's Medical Center, (2) Division of Oncology, Kanagawa Children's Medical Center, (3) Division of Hematology, Kanagawa Children's Medical Center, (4) Division of Pediatric Surgery, Kanagawa Children's Medical Center, (5) Division of Orthopedics, Kanagawa Children's Medical Center, (6) Division of Clinical Genetics, Kanagawa Children's Medical Center, (7) Division of Radiology, Kanagawa Children's Medical Center) : A novel fluorescence in situ hybridization assay for synovial sarcoma. *Pathol Res Pract* 2013 ; 209 : 309-313.
- 4) Nagahara N, Nagano M¹, Takaaki I², Shimamura K³, Akimoto T⁴, Suzuki H¹ (1) Department of Pharmacology, Nippon Medical School, (2) Department of Pathology and Experimental Medicine, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, (3) Department of Brain Morphogenesis, Institute of Molecular Embryology and Genetics, Kumamoto University, (4) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical

School) : Antioxidant enzyme, 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase-knockout mice exhibit increased anxiety-like behaviors : a model for human mercaptolactate-cysteine disulfiduria. *Sci Rep* 2013 ; 3 : 1986.

(2) 総説 :

- 1) Nagahara N : Regulation of mercaptopyruvate sulfurtransferase activity via intrasubunit and intersubunit redox-sensing switches, In : *Forum Review on Redox Molecular Machines*. *Antioxid Redox Signal* 2013 ; 19 : 1792-1802.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 永原則之 : 酵素から硫化水素は産生されるか : 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase の分子進化と生理的役割. フォーラム・イン・ドージン (第 24 回) (熊本), 2013. 11.

(2) 一般講演 :

- 1) Yamanobe Y¹⁾, Nagahara N, Takizawa T (¹⁾ 4th year medical student, 2Isotope Research Center, Nippon Medical School) : Sexual differences on tissue-specific cadmium accumulation in mice. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 2) Nagahara N, Nagano M¹⁾, Takaaki I²⁾, Shimamura K³⁾, Akimoto T⁴⁾, Suzuki H¹⁾ (¹⁾ Department of Pharmacology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology and Experimental Medicine, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, ³⁾ Department of Brain Morphogenesis, Institute of Molecular Embryology and Genetics, Kumamoto University, ⁴⁾ Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School) : Comprehensive analysis of MST knockout mouse : exhibition of increased anxiety-like behaviors. 日本生化学会大会 (第 86 回), 2013. 9.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Tanaka Y¹⁾, Katayama A²⁾, Inoue T¹⁾, Iwafuchi H¹⁾, Kishimoto H¹⁾, Nakayama M¹⁾, Hamazaki M¹⁾, Tanaka M¹⁾, Yoshida M¹⁾, Ijiri R¹⁾, Kitagawa N¹⁾, Shinkai M¹⁾, Kigasawa H¹⁾, Orimo H²⁾, Nagahara N (¹⁾ Division of Pathology, Kanagawa Children's Medical Center, ²⁾ Department of Biochemistry, Nippon Medical School) : High expression and diagnostic utility of internexin alpha in clear cell sarcoma of the kidney : comparative proteomics analysis and immunohistochemical study. Annual meeting of United State and Canadian Academy of Pathology (102nd) (Baltimore), 2013. 3.

〔3〕臨 床 医 学

1. 内科学（循環器内科学）

【付属病院循環器内科】

研究概要

内科学（循環器内科学）教室では循環器病学では、以下に示すような臨床的、基礎的研究を行った。1. 慢性心房細動に対する至適な高周波カテーテル焼灼術の開発2. 3次元マッピング機器を用いた開心術後心房頻拍の機序解明と治療法の開発3. 器質的心疾患に合併した重症心室性不整脈の薬物療法および非薬物治療（高周波カテーテル焼灼術、デバイス治療）の検討4. 遺伝性不整脈疾患（QT延長症候群、ブルガダ症候群など）の遺伝子診断とこれに基づいた薬物および非薬物治療5. 次世代シーケンサを用いた網羅的全エクソン（Exome）解析、全ゲノム解析、ゲノムワイド関連解析（GWAS）による遺伝性不整脈の新規遺伝子同定6. iPSC細胞を用いた遺伝性不整脈の病態解明とテラーメイド治療7. 心電図 Wavelet 解析を用いて心サルコイドーシスの病態進行評価8. 経皮的冠動脈インターベンション治療（PCI）時に発生する心筋傷害に対する高用量スタチンの前投与の効果9. 急性冠症候群の発生機序を解明：PET-冠動脈CT融合画像により非侵襲的に検出される炎症に富む冠動脈プラークと血管内視鏡・optical coherence tomographyなどの血管内画像診断による組織特性との対比からの検討10. 拡張型心筋症患者の予後の検討：心筋生検によって得られる組織診断、核磁気共鳴画像の遅延造影効果、心筋脂肪酸代謝障害からの検討11. カテーテルによる肥大型心筋症の心筋焼灼術後の左室形態と血行動態の変化の検討12. 心肥大・心不全進展過程における β 3アドレナリン受容体情報伝達系の心保護作用に関する検討13. エリスロポエチンによる心筋保護効果に関する研究14. 心疾患病態・血管内皮機能関係に影響する因子の検討15. 運動療法による心疾患病態に対する改善効果の機序16. 心疾患合併高血圧症における中心血圧と病態との関連17. 自己骨髄細胞による血管新生療法と徐放化増殖因子ハイドロゲルによる血管再生治療18. マゴットセラピー法（無菌性医用うじ虫治療）の活用19. 組織ドプラ、スペックルトラッキング法を用いた心機能評価：心臓再同期療法、大動脈壁の硬さ、左右心機能13. エリスロポエチンによる心筋保護効果に関する研究14. 心疾患病態・血管内皮機能関係に影響する因子の検討13. エリスロポエチンによる心筋保護効果に関する研究

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yoshida A, Takano H, Asai K, Yasutake M, Amano Y¹⁾, Kumita S¹⁾, Shimizu W, Mizuno K (1) Department of Radiology) : Comparison of Perfusion-Metabolism Mismatch in (99m) Tc-MIBI and (123) I-BMIPP Scintigraphy With Cardiac Magnetic Resonance in Patients With Dilated Cardiomyopathy. J Card Fail 2013 ; 19 (7) : 445-453.
- 2) 里見和浩¹⁾, 岡松秀治²⁾, 和田 暢²⁾, 井口公平²⁾, 小林 貴²⁾, 船迫宴福²⁾, 川上大志²⁾, 大塚陽介²⁾, 中島育太郎²⁾, 野田 崇²⁾, 宮本康二²⁾, 山田優子²⁾, 岡村英夫²⁾, 相庭武司²⁾, 鎌倉史郎²⁾, その他1名 (1) 東京医科大学八王子医療センター循環器内科, 2) 国立循環器病研究センター不整脈科) : 特殊心筋疾患に合併する致死性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療戦略- 催不整脈性右室心筋症および心サルコイドーシスを中心に -. 心電図 2013 ; 33 (3) : 263-269.
- 3) Amano Y¹⁾, Kitamura M, Tachi M¹⁾, Takeda M¹⁾, Mizuno K, Kumita S¹⁾ (1) Radiology) : Delayed enhancement magnetic resonance imaging in hypertrophic cardiomyopathy with basal septal hypertrophy and preserved ejection fraction : relationship with ventricular tachyarrhythmia. J Comput Assist Tomogr 2014 ; 38 (1) : 67-71.

- 4) Ogano M¹, Iwasaki Y, Tanabe J¹, Takagi H¹, Umemoto T¹, Hayashi M, Miyauchi Y, Mizuno K (¹ Division of Cardiovascular Surgery Shizuoka Medical Center) : Antiarrhythmic effect of cardiac resynchronization therapy with triple-site biventricular stimulation. *Europace* 2013 ; 15 (10) : 1491-1498.
- 5) Takano H, Ohba T¹, Yamamoto E², Miyachi H³, Inui K⁴, Kawanaka M⁶, Kamiya M⁵, Kikuchi A², Takahashi Y⁵, Tanabe J⁶, Inami S, Takagi G, Asai K, Yasutake M, Ibuki C¹, et al. (¹ Chiba Hokusai Hospital, ² Musashi Kosugi Hospital, ³ Tama Nagayama Hospital, ⁴ Hakujuikai Memorial Hospital, ⁵ Fraternity Memorial Hospital, ⁶ Shizuoka Medical Center) : Usefulness of Rosuvastatin to Prevent Periprocedural Myocardial Injury in Patients Undergoing Elective Coronary Intervention. *Am J Cardiol* 2013 ; 111 (12) : 1688-1693.
- 6) Miyamoto K¹, Aiba T¹, Nakajim I¹, Yamada Y¹, Okamura H¹, Noda T¹, Satomi K¹, Ishihara M¹, Anzai T¹, Yasuda S¹, Ogawa H¹, Kamakura S¹, Shimizu W (¹ Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Japan) : Efficacy and safety of novel anticoagulant dabigatran in clinical practice for Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation. *J Arrhythmia* 2014 ; 30 (1) : 58-64.
- 7) Ikeda T, Saito T, Takagi G, Sato S, Takano H, Hosokawa Y, Hayashi M, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : Acute myocarditis associated with coxsackievirus B4 mimicking influenza myocarditis : electron microscopy detection of causal virus of myocarditis. *Circulation* 2013 ; 128 (25) : 2811-2812.
- 8) 高木 元, 古山景子, 大貫朋子, 桐木 - 市川園子, 高瀬仁志, 宮本正章 : マゴットセラピーの周術期副作用対策と予後改善を目指した適応判断. *創傷* 2013 ; 4 (3) : 156-162.
- 9) Saito T, Asai K, Sato S, Takagi G, Takano H, Takahashi H, Yasutake M, Mizuno K : Myocardial alterations and clinical implications associated with recovery of cardiac function in dilated cardiomyopathy with obesity. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (1) : 144-150.
- 10) Tara S, Miyamoto M, Takagi G, Tezuka A, Kirinoki-Ichikawa S, Takano H, Takagi I, Yasutake M, Mizuno K : Low-energy extracorporeal shock wave therapy improves microcirculation blood flow of ischemic limb in patients with peripheral arterial disease. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (1) : 19-27.
- 11) 高瀬仁志, 宮本正章, 高木 元 : マゴットセラピー - その臨床治療の実際 -. *日本下肢救済・足病学会誌* 2013 ; 5 (2) : 55-62.
- 12) Takagi-The Examine Investigators G, White W¹, Cannon C¹, Heller S¹, Nissen S¹, Bergenstal R¹, Bakris G¹, Perez A¹, Fleck P¹, Mehta C¹, Kupfer S¹, Wilson C¹, Cushman W¹, Zannad F¹ (¹ University of Connecticut School) : Alogliptin after Acute Coronary Syndrome in Patients with Type 2 Diabetes. *N Engl J Med* 2013 ; 369 (14) : 1327-1335.
- 13) Kajimoto K¹, Sato N², Keida T³, Sakata Y⁴, Asai K, Mizuno M⁵, Takano T (¹ Sensoji Hospital, ² Musashi Kosugi Hospital, ³ Edogawa Hospital, ⁴ Osaka University, ⁵ Tokyo Women's Medical University) : Low admission heart rate is a marker rather than a mediator of increased in-hospital mortality for patients with acute failure syndromes in sinus rhythm. *Int J Cardiol* 2014 ; 171 (15) : 98-100.
- 14) Kajimoto K¹, Sato N², Keida T³, Mizuno M⁴, Sakata Y⁵, Asai K, Takano T (¹ Sensoji Hospital, ² Musashi Kosugi Hospital, ³ Edogawa Hospital, ⁴ Tokyo Women's Medical University, ⁵ Osaka University) : Association between length of stay, Frequency of in-hospital death, and causes of death in Japanese patients with acute heart failure syndromes. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (1) : 554-556.
- 15) Sato N¹, Kajimoto K², Keida T³, Mizuno M⁴, Minami Y⁴, Yumino D⁴, Asai K, Murai K, Munakata R, Aokage T, Sakata Y⁵, Mizuno K, Takano T (¹ Musashi Kosugi Hospital, ² Sensouji Hospital, ³ Edogawa Hospital, ⁴ Tokyo Women's Medical University, ⁵ Osaka University) : Clinical Features and Out-

- come in Hospitalized Heart Failure in Japan (From the ATTEND Registry). *Circ J* 2013 ; 77 (4) : 944-951.
- 16) Sato N¹⁾, Gheorghiadu M²⁾, Kajimoto K³⁾, Munakata R, Minami Y⁴⁾, Mizuno M⁴⁾, Aokage T, Asai K, Sakata Y⁵⁾, Yumino D⁴⁾, Mizuno K, Takano T (¹⁾ Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Northwestern University, ³⁾ Sensouji Hospital, ⁴⁾ Tokyo Women's Medical University, ⁵⁾ Osaka University) : Hyponatremia and In-Hospital Mortality in Patients Admitted for Heart Failure (from the ATTEND Registry). *Am J Cardiol* 2013 ; 111 (47) : 1019-1025.
 - 17) Kitamura M, Kubota Y, Takano H, Takayama M : Alcohol septal ablation with septal myocardial isolation using the double-balloon method for refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy. *Eur Heart J* 2014 ; 35 (4) : 241-241.
 - 18) Hayashi M, Miyauchi Y, Murata H, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S, Hayashi H, Horie T, Yodogawa K, Iwasaki Y, Mizuno K : Urgent catheter ablation for sustained ventricular tachyarrhythmias in patients with acute heart failure decompensation. *Europace* 2014 ; 16 (1) : 91-100.
 - 19) Kano S¹⁾, Munakata R¹⁾, Inami T¹⁾, Takano M¹⁾, Seino Y¹⁾, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Recurrent Takotsubo Cardiomyopathy with Variable Left Ventricular Obstruction and Morphologies. *J Am Coll Cardiol* 2014 ; 62 (2) : e3-e3.
 - 20) Kobayashi N¹⁾, Takano M²⁾, Hata N¹⁾, Kume N³⁾, Yamamoto M²⁾, Yokoyama S¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Otsuka T⁴⁾, Seino Y²⁾, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Kobe Gakuin University, ⁴⁾ Hygiene and Public Health) : Soluble lectin-like oxidized LDL receptor-1 (sLOX-1) as a valuable diagnostic marker for rupture of thin-cap fibroatheroma : Verification by optical coherence tomography. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (4) : 3217-3223.
 - 21) Yamamoto M¹⁾, Seino Y¹⁾, Otsuka T²⁾, Kurihara O¹⁾, Negishi K¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Hygiene and Public Health) : Identification of high-risk plaques associated with peri-procedural myocardial injury following elective percutaneous coronary intervention : Assessment by high-sensitivity troponin-T measurements and optical coherence tomography. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (3) : 2860-2862.
 - 22) Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Otsuka T²⁾, Mizuno K (¹⁾ Hygiene and Public Health, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : The Fixed-Dose Combination of Losartan/Hydrochlorothiazide Elicits Potent Blood Pressure Lowering During Nighttime in Obese Hypertensive Patients. *J Clin Med Res* 2014 ; 6 (1) : 8-16.
 - 23) Maruyama M¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Miyauchi Y, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Exit from the right ventricular outflow tract through the preferential conduction pathway in premature ventricular contractions originating from the pulmonary artery. *Heart Rhythm* 2013 ; 10 (9) : 1407-1408.
 - 24) Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Kume N²⁾, Yokoyama S¹⁾, Takano M³⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Inami T³⁾, Seino Y³⁾, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Kobe Gakuin University) : Detection of acute aortic dissection by extremely soluble lectin-like oxidized LDL receptor-1 (sLOX-1) and low troponin T levels in blood. *Int J Cardiol* 2013 ; 165 (3) : 557-559.
 - 25) Kobayashi N¹⁾, Takano M²⁾, Bessho R¹⁾, Nishina D¹⁾, Ishii Y¹⁾, Kawase Y¹⁾, Hata N¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Rapid progression of acute aortic dissection demonstrated by short-term serial computed tomography. *J Am Coll Cardiol* 2013 ; 61 (15) : e161.
 - 26) Shirakabe A¹⁾, Nozaki A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Asai K, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : Predictive score for survival after percutaneous cardiopulmonary support in cardiovascular dis-

ease patients. Evaluation of pre-procedural information. *Circ J* 2013 ; 77 (8) : 2064-2072.

- 27) 高橋健太, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹 : 遅伝導路が関連する4種類の頻拍を認めたWPW症候群の1例. *心臓* 2013 ; 45 (suppl3) : 112-119.
- 28) Inoue K¹, Murakawa Y², Nogami K³, Shoda M⁴, Naito S⁵, Kumagai K⁶, Miyauchi Y, Yamane T⁷, Morita N⁸, Okumura K⁹ (¹ Sakurabashi Watamabe Hospital, ² Teikyo University Mizonokuchi Hospital, ³ Tsukuba University of Medicine, ⁴ Tokyo Women's Medical Collage, ⁵ Gunma Prefectural Cardiovascular Center, ⁶ Fukuoka Sannno Hospital, ⁷ Jikei University, ⁸ Tokai University Hachioji Hospital, ⁹ Hiro-saki University) : National survey of catheter ablation for atrial fibrillation : The Japanese catheter ablation registry of atrial fibrillation (J-CARAF). *J Arrhythmia* 2013 ; 29 (5) : 221-227.
- 29) Hosakawa Y¹, Yamamoto T¹, Kato K, Hayashi H, Ogawa S¹, Tanaka K¹, Mizuno K (¹ Intensive and Cardiovascular Care Unit) : Reversible stenosis of the saphenous vein graft compressed by giant coronary aneurysm in Kawasaki disease. *J Am Coll Cardiol* 2013 ; 62 (2) : e3.
- 30) 細川雄亮¹, 山本 剛¹, 池田 健¹, 川中秀和¹, 有田淑恵¹, 村田広茂¹, 北村光信¹, 宮地秀樹¹, 坪 宏一¹, 田中啓治¹, 水野杏一 (¹ 集中治療室) : 椎弓形成術後に急性心筋梗塞を発症し治療方針の決定に苦慮した1例. *ICUとCCU* 2013 ; 37 (別冊) : 5125-5128.
- 31) Miyachi H¹, Yamamoto A¹, Yoshikawa M¹, Kodani E¹, Endoh Y¹, Nakagomi A¹, Kusama Y¹, Atarashi H¹, Mizuno K (¹ Tama Nagayama Hospital) : Relationship between left ventricular dyssynchrony and systolic dysfunction is independent of impaired left ventricular myocardial perfusion in heart failure. *Int J Cardiol* 2013 ; 167 (3) : 930-935.
- 32) 澤井啓介¹, 宮地秀樹¹, 野間さつき¹, 有田淑恵¹, 青景聡之¹, 鈴木博臣¹, 渋井俊之¹, 細川雄亮¹, 坪 宏一¹, 山本 剛¹, 田中啓治¹, 高野仁司, 小原俊彦, 水野杏一 (¹ 集中治療室) : 巨大右房内血栓を伴う亜広範性肺塞栓症に対して血栓溶解療法を選択し, 経時的な病態把握により救命された1例. *心臓* 2013 ; 44 (7) : 937-938.
- 33) Hayashi H, Fukuma N, Kato K, Kato Y, Takahashi H, Mizuno K : Clinical Backgrounds and the Time Course of Sleep-disordered Breathing in Patients after Myocardial Infarction. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (3) : 192-199.
- 34) 植竹俊介, 宮内靖史, 林 明聡, 高橋健太, 坪井一平, 林 洋史, 中辻綾乃, 村田広茂, 山本哲平, 堀江 格, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 水野杏一, 岡崎怜子¹, 井川 修¹, その他1名 (¹ 多摩永山病院) : 発作性心房細動を伴い電気生理学的特性を評価し得た左房索状構造物の1例. *臨床心臓電気生理* 2013 ; 36 (7) : 37-44.
- 35) Nakagomi A¹, Saiki Y¹, Kosugi M¹, Kohashi K¹, Yoshikawa M, Yamane Y¹, Kodani E¹, Kusama Y¹, Atarashi H¹, Mizuno K (¹ Tama Nagayama Hospital) : Effect of insulin resistance associated with compensatory hyperinsulinemia on the long-term prognosis in patients with vasospastic angina. *Int J Cardiol* 2013 ; 167 (5) : 2222-2227.
- 36) Kokunai Y¹, Nakata T², Furuta M¹, Sakata S¹, Kimura H³, Aiba T⁴, Yoshinaga M⁵, Osaki Y⁵, Nakamori M¹, Itoh H³, Sato T⁶, Kubota T¹, Kadota K⁶, Shindo K⁵, Mochizuki H³, et al. (¹ Osaka University Graduate School of Medicine, ² Nagoya University Graduate School of Medicine, ³ Shiga University of Medical Science, ⁴ National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁵ National Hospital Organization Kagoshima Medical Center, ⁶ Kurashiki Central Hospital) : A Kir3.4 mutation causes Andersen-Tawil syndrome by an inhibitory effect on Kir2.1. *Neurology* 2014 ; 82 (12) : 1058-1064.
- (2) 総説 :
- 1) 野田 崇¹, 清水 渉 (¹ 国立循環器病研究センター) : QT 延長・短縮. *日本医事新報* 2013 ; (4670) : 40-45.
- 2) 清水 渉 : QT 延長・短縮症候群で行うべき問診と検査. *medicina* 2013 ; 50 (13) : 2166-2169.

- 3) 清水 渉：遺伝性不整脈疾患研究の現状と展望 Current status and future perspective in inherited cardiac arrhythmias. 日本臨床 2014；72 (3)：553-563.
- 4) 岩崎雄樹, 清水 渉：心不全管理の立場からみた不整脈治療. 内科 2014；113 (3)：527-530.
- 5) 林 明聡：カテコラミン誘発多形性心室頻拍の治療. 日本集中治療医学会雑誌 2014；21 (1)：4-6.
- 6) 宮内靖史：危険な不整脈の心電図とその兆候. 東京都医師会雑誌 2013；66 (6)：469-478.
- 7) 宮内靖史：カテーテル治療中のセデーションの方法・現状と問題点. CIRCULATION Up-to Date 2013；8 (2)：169-177.
- 8) 山本 剛¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 野間さつき¹⁾, 中澤 賢²⁾, 村田 智²⁾, 高野仁司, 水野杏一, 吾妻安良太³⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 放射線科, ³⁾ 呼吸器内科)：発症3ヶ月後に肺空洞病変を形成した肺塞栓症の1例. 心臓 2013；45 (7)：907-907.
- 9) 岩崎雄樹：美甘論文に対する Editrial Comment. 心臓 2014；46 (3)：348-348.
- 10) 清水 渉：オーバービュー - 先天性QT延長症候群, Burugada 症候群, 早期再分極症候群 -. 心電図 2014；34 (Suppl 2)：S-2-59-S-2-66.

(3) 症例報告：

- 1) Kawakami H¹⁾, Aiba T¹⁾, Yamada T²⁾, Okayama H²⁾, Kazatani Y²⁾, Konishi K³⁾, Nakajim I¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Okamura H¹⁾, Noda T¹⁾, Satomi K¹⁾, Kamakura S¹⁾, Makita N⁴⁾, Shimizu W (¹⁾ Division of Arrhythmia and Electrophysiology, Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita, Japan, ²⁾ Department of Cardiology, Cardiovascular Center, Ehime Prefectural Central Hospital, Matsuyama, Japan, ³⁾ Department of Pediatrics, Ehime Prefectural Central Hospital, Matsuyama, Japan, ⁴⁾ Department of Molecular Physiology, Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University, Nagasaki, Japan e Department)：Variable phenotype expression with a frameshift mutation of the cardiac sodium channel gene SCN5A. J Arrhythmia 2013；29 (5)：291-295.
- 2) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Goda H²⁾, Okazaki H²⁾, Shirakabe A²⁾, Yamamoto M²⁾, Okajima F³⁾, Emoto N³⁾, Hata N²⁾, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Endocrinology, Chiba Hokusoh Hospital)：Acute pericarditis：Unique comorbidity of thyrotoxic crisis with Graves' disease. Int J Cardiol 2014；171 (3)：e129-e130.
- 3) Fukuzumi A¹⁾, Akutsu K¹⁾, Tokita Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Shimizu W, Mizuno K, Tanaka K¹⁾ (¹⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit)：Surgical Thrombectomy for Right Heart Thrombus with Acute Aortic Dissection. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2014；Epub：1-4.
- 4) Yodogawa K, Seino Y¹⁾, Shiomura R, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital)：Recovery of atrioventricular block following steroid therapy in patients with cardiac sarcoidosis. J Cardiol 2013；62 (5)：320-325.
- 5) Yamada T¹⁾, Ohba T¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Munakata R¹⁾, Murakami D¹⁾, Maruyama M¹⁾, Takano M¹⁾, Ibuki C¹⁾, Hata N²⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital)：A 17-year-old Girl with Klippel-Weber Syndrome Complicated with a Pulmonary Thromboembolism and RV Thrombus. Internal Medicine 2013；52 (12)：1337-1340.
- 6) Tsurumi M¹⁾, Hata N¹⁾, Inami T²⁾, Ozaki K¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Tomita K¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital)：Airway pressure release ventilation as a therapeutic approach in a patient with severe obesity hypoventilation syndrome and restrictive lung impairment. Int J Cardiol 2013；168 (1)：e6-e8.
- 7) Kurihara O¹⁾, Takano M¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital)：Deceived incidence of acute coronary syndrome by measurement of FFR：Diagnostic gap of vulner-

able plaque between physiology and morphology. JCCase 2013 ; 8 (1) : e7-e8.

著書

- 1) 宮本康二¹⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 国立循環器病研究センター不整脈科) : [分担] 心房細動の発症予防において β 遮断薬が効く症例とは?. β 遮断薬を臨床で活かす! エキスパートからのキーマッセージ 50, 2013 : pp88-90, 南江堂.
- 2) 宮内靖史, 清水 渉 : [分担] IV. 不整脈 5. 植込み型除細動器 (ICD・CRTD) の現状と問題点. Annual Review 循環器 (小室一成, 佐地 勉, 坂田隆造, 赤阪隆史), 2014 : pp186-193, 中外医学社.
- 3) 清水 渉 : [分担] X 不整脈. 11 QT 延長症候群. 環器疾患最新の治療 2014-2015 (堀 正二., 永井良三), 2014 : pp305-308, 南江堂.
- 4) 久保田芳明, 高木 元, 宮本正章 : [分担] 今, 動脈硬化をこう治療する 血管新生治療. Mebio, 2013 : pp80-88, メジカルビュー社.
- 5) 山本 剛¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 集中治療室) : [分担] ショック. 内科学書改訂第8版 (小川 聡), 2013 : pp88-90, 中山書店.
- 6) 宮内靖史 : [分担] 各論 D. 障害心筋を反映する電位 12. 心房における障害電位. 心内局所電位 (小林義典, 野上昭彦), 2014 : pp212-221, 南光堂.
- 7) 村松 光, 新 博次⁽¹⁾ 日本医科大学循環器内科非常勤講師, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院院長) : [翻訳] 心電図セルフアセスメント : 299 題から学ぶ判読へのアプローチ (翻訳・監訳), 2014 : pp1-240, 医学書院.
- 8) 岩崎雄樹 : [分担] 【不整脈の診断と治療 - ポイントをおさえよう】 不整脈診療の Tips 老化・炎症と不整脈 (解説/特集). Medicina (山下武志), 2013 : pp2250-2252, 医学書院.
- 9) 岩崎雄樹, 清水 渉 : [分担] 2025 年を見すえた心不全診療ロードマップ. 臨床雑誌「内科」, 2014 : pp2250-2252, 医学書院.
- 10) 岩崎雄樹, 林 明聡 : [分担] 最早期興奮部位同定法. 心内局所電位 (小林義典, 野上昭彦), 2014 : pp44-53, 南光堂.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Shimizu W : Brugada syndrome. 6th APHR CARDIO RHYTHM 2013 (Hong Kong), 2013. 10.
- 2) 福間長知, 中村俊一, 加藤浩司, 吉田明日香, 加藤和代, 清水 渉, 水野杏一 : うつ・不安・怒りは心臓病の予後にいかに影響するのか. 循環器内科における診断治療戦略. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 9.
- 3) 高野仁司 : 非冠動脈疾患の PET/CT による病態生理の検討. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 4) 清水 渉 : 実臨床における新規経口抗凝固薬の臨床的位置づけ : 使用経験からの考察. 植込みデバイス関連冬季大会 (第 6 回), 2014. 2.
- 5) Saito T, Asai K, Amano Y¹⁾, Sato S²⁾, Takano H, Mizuno K, Shimizu W⁽¹⁾ Radiology, ²⁾ Central Electron Microscopic Institute) : Prognostic Utility of Ultrastructural Features in Early Dilated Cardiomyopathy before Presenting Cardiac Magnetic Resonance Findings. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 6) Nakamura S, Inami S, Takano M, Takano H, Asai K, Yasutake M, Shimizu W, Mizuno K : Relationship between Cholesterol Crystals and Culprit Lesion Characteristics in Patients with Stable Coronary Artery Disease : An Optical Coherence Tomography Study. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 7) Okazaki R¹⁾, Tsukada-Tetsuo Y, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Igawa O¹⁾, Atarashi H¹⁾, Shimizu W⁽¹⁾ Tama Nagayama Hospital) : Why So Few Women in Interventional Cardiac Electrophysiology?. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 8) Furukawa T¹⁾, Okata S¹⁾, Yuasa S²⁾, Suzuki T²⁾, Makita N³⁾, Kurokawa J¹⁾, Egashira T²⁾, Yamakawa

- H²), Seki T²), Aizawa T²), Hashimoto H²), Kuroda Y²), Tanaka A²), Yae K²), Murata M²), et al. (1) Bio-informational Pharmacology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, (2) Keio University, (3) Molecular Pathophysiology-1, Nagasaki University Graduate School of Medicine of Biomedical Sciences) : Disease Modeling Using iPS Cells. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 9) Nitta T¹), Watanabe Y¹), Sakamoto I¹), Omori H¹), Ochi M¹), Murata H, Miyauchi Y, Shimizu W (1) Surgery) : Surgery for Non-ischemic Ventricular Tachycardia. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 10) Miyamoto K¹), Aiba T¹), Arihio S²), Kokubo Y³), Nakajima I¹), Ishibashi K¹), Okamura H¹), Noda T¹), Toyoda K²), Nagatsuka K⁴), Miyamoto Y³), Ishihara M¹), Anzai T¹), Yasuda T¹), Ogawa H¹), et al. (1) Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, (2) Cerebrovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, (3) Preventive Cardiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, (4) Neurology, National Cerebral and Cardiovascular Center) : Impact of Deteriorating Renal Function on Adverse Events in Atrial Fibrillation Patients Using Novel Oral Anticoagulants, Comparing with General Population. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 11) Kawata H¹), Morita H³), Kamakura T²), Noda T²), Aiba T²), Nagase S³), Nakamura K³), Ito H³), Kusano K²), Kamakura S²), Shimizu W (1) Good Samaritan Hospital, (2) National Cerebral and Cardiovascular Center, (3) Okayama University) : Mechanism and Significance of Early Repolarization in Early Repolarization Syndrome and Brugada Syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 12) Aiba T¹), Iwakami N¹), Takaki H²), Ishibashi K¹), Nakajima I¹), Miyamoto K¹), Okamura H¹), Noda T¹), Kusano K¹), Yasuda S¹), Sugimachi M²), Shimizu W, Kamakura S¹), Ogawa H¹ (1) Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, (2) Cardiovascular Dynamics, Research Institute, National Cerebral and Cardiovascular Center) : High Resolution Magnetocardiography as a Novel Noninvasive Tool to Distinguish between Benign and Malignant Early Repolarization Pattern. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 13) Sasano T¹), Koizumi A²), Kimura W³), Nogami A⁴), Fukamizu S⁵), Sakurada H⁶), Hirano K⁷), Isobe M⁸), Kimura A⁹), Miyamoto Y¹⁰), Shimizu W, Miura N³), Furukawa T² (1) Biofunctional Informatics, Tokyo Medical and Dental University, (2) Bio-informational Pharmacology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, (3) Hamamatsu University, (4) University of Tsukuba, (5) Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital, (6) Tokyo Metropolitan Health and Medical Treatment Corporation Ohkubo Hospital, (7) Heart Rhythm Center, Tokyo Medical and Dental University, (8) Cardiovascular Medicine, Tokyo Medical and Dental University, (9) Molecular Pathogenesis, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, (10) National Cerebral and Cardiovascular Center) : Genetic Defects in a His-Purkinje System-Specific Transcription Factor as a Cause of J Wave Syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 14) 宮内靖史, 清水 渉, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 坪井一平, 植竹俊介, 林 洋史, 高橋健太, 小林義典 : 虚血と不整脈 虚血関連 Purkinje VT および Electrical Storm のアブレーション. 日本心臓病学会 (第61回), 2013. 9.
- 15) 福間長知, 菅谷寿理, 高圓雅博, 林 寛子, 加藤和代, 加藤祐子, 高橋 啓, 清水 渉, 水野杏一 : 心筋梗塞後患者合併高血圧症に対する包括的心臓リハビリテーションとしての系統的介入. 日本心臓リハビリテーション学会 (第19回), 2013. 7.
- 16) 福間長知, 馬淵浩輔, 加藤和代, 高圓雅博, 林 寛子, 加藤祐子, 高橋 啓, 福間祐美子, 清水 渉 : 虚血性心疾患における高血圧関連病態としての Mineralocorticoid (MR) 関連因子. 日本臨床生理学会総会 (第50回), 2013. 11.

- 17) 加藤和代, 福間長知: 循環器科によるメンタルアセスメント: スクリーニング検査を中心に. 日本循環器心身医学会 (第70回), 2013. 11.
- 18) Igawa O¹⁾, Atarashi H¹⁾, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital): Specialize in Cardiac Anatomy Relating to SVT and Catheter Ablation. 6th APHR CARDIO RHYTHM 2013 (Hong Kong), 2013. 10.
- 19) Miyauchi Y: Ablation of AFL Following Surgical Maze. 6th APHR CARDIO RHYTHM 2013 (Hong Kong), 2013. 10.
- (2) パネルディスカッション:
- 1) Ogano M¹⁾, Tanabe J¹⁾, Tajiri M¹⁾, Nakata J¹⁾, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W (1) Division of Cardiology Shizuoka Medical Center): Who is suitable for cardiac resynchronization therapy with triple-site ventricular stimulation? Usefulness of temporary pacing study for patient-tailored therapy. 日本不整脈学会学術大会 (第28回), 2013. 7.
- 2) 村田広茂, 宮内靖史, 清水 渉: 内科・外科の協力による今後の肥大型心筋症への積極的治療は?. 東京HOCMフォーラム2013, 2013. 10.
- 3) 宮内靖史: 麻酔試案の改定と今後: 深鎮静. 日本麻酔科学会 (第60回), 2013. 5.
- 4) 福間長知, 高圓雅博, 林 寛子, 加藤和代, 加藤祐子, 高橋 啓, 清水 渉: 心筋梗塞後うつに対するガイドラインに基いた系統的介入の問題点と対応. 日本心臓リハビリテーション学会 (第19回), 2013. 7.
- (3) ランチョンセミナー:
- 1) 清水 渉: 心房細動治療としての β 遮断薬療法. 日本心電学会 (第30回), 2013. 10.
- (4) ワークショップ:
- 1) 大野忠明, 本間 博, 黄 俊憲, 吉永 綾, 田中貴久, 時田祐吉, 松島つや子¹⁾, 新田 隆²⁾, 水野杏一 (1) 生理機能センター, 2) 心臓血管外科): 重症心不全症例に対する心臓再同期療法と僧帽弁形成術の併用治療の可能性. 日本心エコー図学会学術集会 (第24回), 2013. 4.
- (5) ポスター:
- 1) 岡崎大武¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 鶴見昌史¹⁾, 山本真功¹⁾, 富田和憲¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 畑 典武²⁾, 清水 渉 (1) 千葉北総病院 集中治療部, 2) 千葉北総病院 集中治療室): 急性心不全患者における APACHEII スコアの有用性. 日本心臓病学会 (第61回), 2013. 10.
- 2) 細川雄亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 川中秀和¹⁾, 北村光信¹⁾, 村田広茂¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 田中啓治¹⁾, 清水 渉 (1) 集中治療室): 治療抵抗性の乏尿性心不全に対する持続血液濾過透析の治療成績. 日本心臓病学会 (第61回), 2013. 10.
- 3) 小野卓哉¹⁾, 八名和夫²⁾, 淀川顕司, 本間 博, 新 博次³⁾, 清水 渉 (1) 小野内科診療所, 2) 法政大学理工学部応用情報工学, 3) 多摩永山病院): 新指標 T-Wave vector alternans の実用性と有用性の検討. 日本心臓病学会 (第61回), 2013. 10.
- 4) 古瀬領人, 高木 元, 塩村玲子, 高圓雅博, 久保田芳明, 稲見茂信, 高野仁司, 浅井邦也, 小野澤志郎¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 清水 渉 (1) 放射線科): テニス後に右上肢膨張をきたし Paget-Schroetter Syndrome と診断した1例. 日本心臓病学会 (第61回), 2013. 10.
- 5) 小谷英太郎¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 清水 渉 (1) 多摩永山病院): 慢性腎臓病を合併する脂質異常症における脂質管理目標値達成率の現状 - 動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012年版の管理区分に基づく検討. 日本心臓病学会 (第61回), 2013. 9.
- 6) 高野仁司, 大場崇芳¹⁾, 山本英世²⁾, 宮地秀樹³⁾, 乾 恵輔⁴⁾, 川中秀和⁵⁾, 高橋保裕⁶⁾, 菊池有史²⁾, 田邊 潤⁵⁾, 稲見茂信, 田中邦夫⁴⁾, 草間芳樹⁷⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一, 清水 渉 (1) 千葉北総病院, 2) 武蔵小杉病院, 3) 多摩永山病院, 4) 博慈会記念総合病院, 5) 静岡医療センター, 6) 同愛記念病院, 7) 多摩永山病院): 経皮的冠動脈インターベンション時の心筋傷害と N-Terminal Pro-B-Type Natriuretic-Peptide 上昇の関係. 日本心臓病学

会 (第 61 回), 2013. 10.

- 7) Kitamura M, Takayama M, Matsuda J, Komiyama H, Kubota Y, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W : Feasibility of alcohol septal ablation using nitroglycerine tests for refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy with labile gradient. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 8) Saito T, Asai K, Sato S, Amano Y, Takano H, Mizuno K, Shimizu W : Prognostic utility of myocardial autophagy and ultrastructural findings in early dilated cardiomyopathy : comparison with cardiac magnetic resonance. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 9) Tsuboi I, Miyauchi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Hayashi H, Uetake S, Takahashi K, Shimizu W : Incidence and risk factor of acalculous cholecystitis as a complication of catheter ablation of atrial fibrillation resulting from vagus nerve injury. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 10) Kubota Y, Asai K, Yoshinaga A, Murai K, Yoshikawa M, Tsukada Y, Shimizu W : The impact of β -blocker selectivity on long-term outcomes in congestive heart failure patients with chronic obstructive pulmonary disease. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 11) Hayashi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S, Hayashi H, Yodogawa K, Shimizu W : Adequate esophageal preset temperature for sufficient ablation lesion formation while avoiding digestive-organ complications during catheter pulmonary vein isolation. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 12) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Asai K, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusoh Hosp.) : Efficacy of the urinary heart-type fatty acid-binding protein (HFABP) excretion to predict the acute kidney injury in patients with acute heart failure : an evaluation of acute kidney injury following five days. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 13) Takahashi K, Miyauchi Y, Uetake S, Hayashi H, Tsuboi I, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Nitta T, Shimizu W : The mechanism and long-term efficacy of catheter ablation in patients with atrial tachycardia following full-maze surgery. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 14) Hayashi H, Hayashi M, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S, Murata H, Yodogawa K, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Shimizu W : Left atrial wall thickness in patients with hypertrophic cardiomyopathy undergoing catheter ablation for atrial fibrillation. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 15) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Asai K, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusoh Hosp.) : The efficacy of serum heart-type fatty acid-binding protein (HFABP) level for patients who admitted to cardiovascular intensive unit. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 16) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Asai K, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusoh Hosp.) : The serum heart-type acid-binding protein (HFABP) level can be used to detect acute kidney injury on admission and predict an adverse outcome in patients with acute heart failure. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 17) Iwasaki Y, Sekiguchi A¹⁾, Hayami N²⁾, Miyauchi Y, Shimizu W, Yamashita T¹⁾ (¹⁾ The Cardiovascular Inst. Tokyo, ²⁾ Teikyo Univ.) : Importance of VEGF mediated pulmonary vein fibrosis on atrial fibrillation promotion in hypertensive rat heart. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 18) Wada Y¹⁾, Aiba T¹⁾, Matsuyama T¹⁾, Ishibashi K¹⁾, Nakajim I¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Yamada Y¹⁾, Okamura H¹⁾, Noda T¹⁾, Satomi K¹⁾, Morita Y¹⁾, Kanzaki H¹⁾, Anzai T¹⁾, Ishihara M¹⁾, Kusano K¹⁾, et al. (¹⁾ Natl Cerebral and CardioVascular Ctr, Osaka Japan) : Fragmented QRS as a Novel Non-Invasive Predictor for Le-

- thal Arrhythmic Events in Hypertrophic Cardiomyopathy. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 19) Wada Y¹⁾, Aiba T¹⁾, Matsuyama T¹⁾, Ishibashi K¹⁾, Nakajim I¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Yamada Y¹⁾, Okamura H¹⁾, Noda T¹⁾, Satomi K¹⁾, Morita Y¹⁾, Kanzaki H¹⁾, Anzai T¹⁾, Ishihara M¹⁾, Kusano K¹⁾, et al. (¹⁾ Natl Cerebral and Cardiovascular Ctr, Osaka Japan) : Atrial Fibrillation Increases Adverse Cardiac Events in Hypertrophic Cardiomyopathy With Moderate Tissue Fibrosis. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
 - 20) Tsukada-Tetsuo Y, Shimizu W, Kasai N¹⁾, Tsukada S¹⁾ (¹⁾ Nippon Telegraph and Telephone Corporation) : Wireless Wearable ECG Monitoring System Using Electroconductive Textile Electrode—The Safety and Validity. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
 - 21) Igawa O¹⁾, Okazaki R¹⁾, Adachi M²⁾, Ino T¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Shimizu W (¹⁾ Tama nagayama Hospital, ²⁾ Sanin Rosai Hospital) : Bulge Just above Koch's Triangle—Important Structural Findings Related to the Catheter Ablation of AVNRT-. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
 - 22) Murata H, Miyauchi Y, Nitta T¹⁾, Takahashi K, Tsuboi I, Hayashi H, Uetake S, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Sakamoto S¹⁾, Kunui S²⁾, Tanaka K³⁾, Shimizu W (¹⁾ Cardiovascular surgery, ²⁾ Pathology, ³⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit) : Electrophysiological and Pathological Characteristics of Monomorphic Ventricular Tachycardia Associated with Primary Cardiac Tumor. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
 - 23) Hayashi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S, Hayashi H, Yodogawa K, Shimizu W : Association of the Esophageal Preset Temperature with the Efficacy of Circumferential Pulmonary Vein Isolation : Prospective Esophageal Temperature Study, Part-1. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
 - 24) Wada Y¹⁾, Matsuyama T¹⁾, Ishibashi K¹⁾, Nakajima I¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Okamura H¹⁾, Noda T¹⁾, Kanzaki H¹⁾, Anzai T¹⁾, Ishihara M¹⁾, Kusano K¹⁾, Yasuda S¹⁾, Kamakura S¹⁾, Ishibashi-Ueda H¹⁾, Shimizu W (¹⁾ National Cerebral and Cardiovascular Center) : Atrial Fibrillation Increases Adverse Cardiac Events in Hypertrophic Cardiomyopathy with Moderate Tissue Fibrosis. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
 - 25) Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Kano S¹⁾, Shimura T¹⁾, Kurihara O¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Munakata R¹⁾, Ohba T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K²⁾, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Mitsubishi Health and Welfare Foundation) : Drug-on Acetylcholine Provocation Test is Most Useful for Assessment of Therapeutic Efficacy in Patients of Refractory Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
 - 26) Komiyama H, Inami S, Inui K, Kubota Y, Nakamura S, Katoh K, Takano H, Mizuno K, Shimizu W : TCFAs Only Distribute Toward Myocardium Side in Non-branching Coronary Artery. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
 - 27) Kimata N¹⁾, Seino Y¹⁾, Kano S¹⁾, Hada T¹⁾, Shimura T¹⁾, Kurihara O¹⁾, Inami T¹⁾, Munakata R¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusou Hpsital) : Influence of Background Risk Factors and Prescribed Medications on the Release-kinetics of Plaque-related Biomarkers Following PTA in Patients with ASO. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
 - 28) Murai K, Asai K, Oka E, Fukuizumi I, Furuse E, Yoshinaga A, Kubota Y, Yoshikawa M, Tetsuo-Tsukada Y, Sato N¹⁾, Shimizu W (¹⁾ Musashi Kosugi Hpsital) : The Effects of Regular Beta Blocker Therapy before Admission for Acute Heart Failure Syndromes. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
 - 29) Fukuizumi I, Takano H, Koen M, Inui K, Kubota Y, Komiyama H, Nakamura S, Murai K, Yoshikawa M, Katoh K, Inami S, Shimizu W : Percutaneous Coronary Intervention in Patients Receiving Anticoagulant Therapy. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.

- 30) Yodogawa K, Takahashi K, Tsuboi I, Hayashi H, Uetake S, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W : Is Anticoagulation Indicated for Atrial Fibrillation in Patients Undergoing Hemodialysis?. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 31) Igawa O¹, Okazaki R¹, Adachi M², Ino T¹, Kusama Y¹, Atarashi H¹, Shimizu W (¹ Tama Nagayama Hospital, ² Sanin Rosai Hospital) : Anatomical Characteristics of Sinus Node Artery Located on the Left Side—Important Findings for the Catheter Ablation in Left Atrium—. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 32) Iwasaki Y, Sekiguchi A¹, Hayami N¹, Yamashita T², Shimizu W (¹ The Cardiovascular Institute, ² Teikyo University) : Importance of VEGF/PDGF Mediated Pulmonary Vein Fibrosis on Atrial Fibrillation Promotion in Hypertensive Rat Heart. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 33) Hayashi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S, Hayashi H, Yodogawa K, Shimizu W : Esophageal Preset Temperature of 39.5° C for Sufficient Lesion Formation without Digestiveorgan Complications during Pulmonary Vein Isolation : Prospective Esophageal Temperature Study, Part-2. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 34) Okazaki H¹, Shirakabe A¹, Tsurumi M¹, Yamamoto M¹, Tomita K¹, Shinada T¹, Yokoyama S¹, Hata N¹, Shimizu W (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : The New Scoring System to Predict the Adverse Outcomes in Patients with Acute Heart Failure : Evaluation of APACHE2 Scoring. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 35) Kikyotani M¹, Miyamoto K¹, Aiba T¹, Kotsugi S¹, Arihiro S², Nakajima I¹, Ishibashi K¹, Okamura H¹, Noda T¹, Toyoda K³, Nagatsuka K⁴, Ishihara M¹, Anzai T¹, Yasuda S¹, Ogawa H¹, その他3名 (¹ Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, ² Stroke Care Unit, National Cerebral and Cardiovascular Center, ³ Cerebrovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁴ Neurology, National Cerebral and Cardiovascular Center) : Efficacy and Safety of Novel Oral Anticoagulants in the Japanese Higher-aged Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 36) Igawa O¹, Okazaki R¹, Adachi M², Ino T¹, Kusama Y¹, Atarashi H¹, Shimizu W (¹ Tama Nagayama Hospital, ² Sanin Rosai Hospital) : Reversal of Ventriculoarterial Junction Level of Aorta and Pulmonary Trunk—Essential Information for the Catheter Ablation at Ventricular Outflow Tract—. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 37) 田嶋友子¹, 加藤和代, 片山希里香¹, 奈良弘恵¹, 片山志郎¹, 高圓雅博, 福岡長知, 清水 渉 (¹ 薬剤部) : 薬剤師による集団指導の役割と内容の検討. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 38) Takahashi K, Hayashi M, Uetake S, Hayashi H, Tsuboi I, Yodogawa K, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Shimizu W : Efficacy and Safety of Urgent Catheter Ablation for Hemodynamically-unstable Tachyarrhythmias in Octogenarian Patients. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 39) Kinugawa K¹, Nagai R², Inoue H³, Atarashi H⁴, Seino Y⁵, Shimizu W, Aiba T⁶, Kitakaze M⁶, Sakamoto A⁷, Ikeda T⁸, Imai Y¹, Daimon T⁹ (¹ University of Tokyo, ² Jichi Medical University, ³ University of Toyama, ⁴ Tama Nagayama Hospital, ⁵ Chiba Hokusoh Hospital, ⁶ Anesthesiology, ⁷ National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁸ Anesthesiology, ⁹ Toho University) : Impacts of patient characteristics on the efficacy of landiolol in patients with atrial fibrillation/flutter and left ventricular dysfunction : sub-analysis of the J-Land study. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 40) Matsushita M¹, Shirakabe A¹, Hata N¹, Yamamoto Y¹, Okazaki H¹, Tsurumi M¹, Tomita K¹, Kobayashi N¹, Shinada T¹, Yokoyama S¹, Mizuno K (¹ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) :

Association between obesity and clinical characteristics in patients with acute heart failure. ESC Heart Failure 2013 (Lisbon PORTUGAL), 2013. 5.

- 41) Yamamoto Y¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Mizuno K (¹ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : Seasonal variation in patients with acute heart failure : Prognostic impact of admission in the summer. ESC Heart Failure 2013 (Lisbon PORTUGAL), 2013. 5.
- 42) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Asai K, Mizuno K (¹ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : Immediate administration of Tolvaptan prevent the exacerbation of acute kidney injury in patients with acute heart failure. ESC Heart Failure 2013 (Lisbon PORTUGAL), 2013. 5.
- 43) 岡崎大武¹⁾, 山本真功¹⁾, 塩村玲子¹⁾, 鶴見昌史¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 富田和憲¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 畑 典武¹⁾, 清水 渉 (¹ 千葉北総病院 集中治療室) : 重症肝硬変を合併していたため PCI の適応とその時期の判断に苦慮した ACS の 1 例. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 43 回), 2013. 10.
- 44) 鶴見昌史¹⁾, 畑 典武¹⁾, 横山真也¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 富田和憲¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 山本真功¹⁾, 岡崎大武¹⁾, 塩村玲子¹⁾, 清水 渉 (¹ 千葉北総病院 集中治療室) : 光干渉断層法 (OCT) で観察しえた冠動脈自然解離 (SCAD) の 2 例. 日本集中治療学会学術集会 (第 41 回), 2014. 2.
- 45) Murata H, Miyauchi Y, Katoh T, Ueno A¹⁾, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Tanaka K, Shimizu W, Mizuno K (¹ Intensive care unit, ²⁾ Hachioji Hospital, Tokai University) : Clinical and Electrophysiological Characteristics of Electrical Storm of Monomorphic Ventricular Tachycardia Refractory to Intravenous Amiodarone. ESC 2013 (Amsterdam, NETHERLANDS), 2013. 9.
- 46) 細川雄亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 渋谷淳介¹⁾, 北村光信¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 小林克也¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 清水 渉, 田中啓治¹⁾ (¹ 集中治療室) : 短期間に二度の回路交換を要した劇症型心筋炎の 1 例. 日本集中治療学会学術集会 (第 41 回), 2014. 2.
- 47) 塩村玲子¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 池田 健¹⁾, 川中秀和¹⁾, 国保成暁¹⁾, 村田広茂¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 清水 渉, 田中啓治¹⁾ (¹ 集中治療室) : 腹部大動脈瘤破裂による出血性ショックに対し IABO を挿入し緊急手術を施行した 1 例. 東京 CCU 研究会プログラム (第 33 回), 2013. 12.
- 48) Hosokawa Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Kawanaka H¹⁾, Kitamura M¹⁾, Murata S¹⁾, Miyachi H¹⁾, Akutsu K¹⁾, Takeda S¹⁾, Tanaka K¹⁾, Shimizu W (¹ Intensive and Cardiovascular Care Unit) : Efficacy of continous renal replacement therapy for patients with acute decompensated heart failure. ACC (Madrid Spain), 2013. 10.
- 49) Miyachi H¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Takagi K¹⁾, Tanida A¹⁾, Ishii K¹⁾, Arita Y¹⁾, Kawanaka H¹⁾, Kitamura M¹⁾, Murata H¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Akutsu K¹⁾, Takano H, Tanaka K¹⁾, Mizuno K, Shimizu W (¹ Intensive and Cardiovascular Care Unit) : Therapeutic strategy for AMI with massive intracoronary thrombus : Is the adjunctive intracoronary thrombolytic therapy in primary PCI effective?. JIM (Rome Italy), 2014. 2.
- 50) 宮地秀樹¹⁾, 山崎正雄¹⁾, 高木 厚¹⁾, 宮内克己¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 佐地真育¹⁾, 鈴木 誠¹⁾, 山本 剛¹⁾, 清水 渉, 長尾 健¹⁾, 高山守正 (¹ 集中治療室) : 東京都での ST 上昇型心筋梗塞における最初の救急隊への連絡から PCI までの時間の検討. 日本集中治療学会学術集会 (第 41 回), 2014. 2.
- 51) Miyachi H¹⁾, Takagi A¹⁾, Miyauchi K¹⁾, Yamasaki M¹⁾, Tanaka H¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Saji M¹⁾, Suzuki M¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Shimizu W, Nagao K¹⁾, Takayama M (¹ Intensive and Cardiovascular Care Unit) : In-hospital outcome of myocardial infarction at hospitals with or without emergent cardiac surgery. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 52) 松下誠人¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 中村有季¹⁾, 佐藤太亮¹⁾, 水野杏一 (¹ 同愛記念病院) : 大伏在静脈グラフト血栓閉塞

による急性心筋梗塞に対し、固有冠動脈慢性完全閉塞へのPCIで治療に成功した1例。CVIT 関東甲信越地方会, 2013. 5.

- 53) 松下誠人¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 中村有希¹⁾, 佐藤太亮¹⁾, 清水杏一⁽¹⁾ 同愛記念病院) : 急性呼吸促進症候群に対してAPRVによる呼吸管理で救命しえた2例。日本集中治療学会学術集会 (第41回), 2014. 2.
- 54) Igawa O¹⁾, Adachi M²⁾, Okazaki R¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Ino T¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K⁽¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Sanin Rosai Hospital) : The Rare Type of Pericardial Reflection on the Right Side : Cardiac Structure Related to Epicardial Catheter Mapping. Heart Rhythm 2013 (Denver USA), 2013. 5.
- 55) Endoh Y, Endoh I¹⁾, Hsu K²⁾, Thomas S³⁾, Geczy C²⁾ (1) Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Inflammation and Infection Research Centre) : S100A8 Induction in Macrophages is Dependent on IL-10 and Reactive Oxygen Species. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 56) Kurihara O¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Murakami D¹⁾, Munakata R¹⁾, Ohba T¹⁾, Takano M¹⁾, Seino K¹⁾, Mizuno K²⁾, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Coronary Atherosclerosis and Risk of Acute Coronary Syndromes in Chronic Kidney Disease. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.

(6) 一般講演 :

- 1) 淀川顕司, 小野卓哉, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 八島正明, 清水 渉 : 神経調節性失神患者においてP wave disperison は増大している。日本心電学会 (第30回), 2013. 10.
- 2) 八島正明, 林 洋史, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 福岡長知, 本間 博, 清水 渉 : 体外型ループ式イベントレコーダー検査における患者起動記録と自動記録の比較。日本心電学会 (第30回), 2013. 10.
- 3) 林 洋史, 八島正明, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 福岡長知, 本間 博, 清水 渉 : 長時間記録が可能なループ式イベントレコーダー SpiderFlash-t AFIB を利用したホルターイベント検査の有用性。日本心電学会 (第30回), 2013. 10.
- 4) 小野卓哉, 八名和夫¹⁾, 淀川顕司, 板倉潮人²⁾, 本間 博, 新 博次³⁾, 清水 渉 (1) 法政大学理工学部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院) : T-wave vector alternans の方法論としての検証。日本心電学会 (第30回), 2013. 10.
- 5) 伊藤かな子, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 淀川顕司, 植竹俊介, 坪井一平, 林 洋史, 高橋健太, 清水 渉 : 巨大右房を伴う不整脈源性右室心筋症に生じた1:1房室伝導心房粗動の1例。日本心電学会 (第30回), 2013. 10.
- 6) 岡崎怜子¹⁾, 井川 修¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 川口直美¹⁾, 井野 威¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 宮内靖史, 清水 渉 (1) 日本医科大学多摩永山病院) : 心肺停止 (心室細動) 蘇生後症例の検討 : 特に冠攣縮性狭心症に対するICD植込みに関する最近の動向。日本心電学会 (第30回), 2013. 10.
- 7) 小橋啓一¹⁾, 中込明裕¹⁾, 西城由之¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 清水 渉 (1) 多摩永山病院) : エイコサペンタエン酸は脂質異常症を有する慢性心不全患者の炎症を抑え, 心機能と長期予後を改善する。日本心臓病学会 (第61回), 2013. 9.
- 8) 宮地秀樹¹⁾, 澤井啓介¹⁾, 川中秀和¹⁾, 北村光信¹⁾, 村田広茂¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾, 清水 渉 (1) 集中治療室) : 繰り返すたこつば様壁運動障害による左室流出路閉塞の原因を多枝冠攣縮と診断し, シベンズリンが著効した1例。日本心臓病学会 (第61回), 2013. 9.
- 9) 会田智弘¹⁾, 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 加藤政利¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 高圓雅博, 林 寛子, 加藤和代, 加藤祐子, 高橋啓, 清水 渉 (1) 生理機能センター) : 心筋梗塞後患者に対する尿中アルブミン測定と経時的変化。日本心臓病学会 (第61回), 2013. 9.
- 10) 柴田祐作, 高野仁司, 渋谷淳介, 久保田芳明, 中村俊一, 村井綱見, 稲見茂信, 高木 元, 浅井邦也, 汲田伸一

- 郎¹, 清水 渉⁽¹⁾ 放射線科): 心サルコイドーシスに対する 18F-フルオロデオキシグルコース陽電子放射断層撮影法の有用性. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 9.
- 11) 小杉宗範¹, 中込明裕¹, 野間さつき¹, 野崎文華¹, 原千鶴子¹, 小橋啓一¹, 西城由之¹, 森澤太一郎¹, 小谷英太郎¹, 草間芳樹¹, 新 博次¹, 清水 渉⁽¹⁾ 多摩永山病院): 冠攣縮性狭心症におけるカルシウム拮抗薬抵抗性の機序に関する検討. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 9.
- 12) 中込明裕¹, 小橋啓一¹, 野間さつき¹, 野崎文華¹, 森澤太一郎¹, 西城由之¹, 小杉宗範¹, 小谷英太郎¹, 草間芳樹¹, 新 博次¹, 清水 渉⁽¹⁾ 多摩永山病院): 炎症と高インスリン血症は冠攣縮性狭心症患者の心事故を増加させる. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 9.
- 13) 徳山榮男¹, 佐藤直樹¹, 山本英世², 清水 渉⁽¹⁾ 武蔵小杉病院 集中治療室, ² 武蔵小杉病院 循環器内科): 急性心不全において血中コペプチン値上昇は何を反映しているのか?. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 9.
- 14) 加藤政利¹, 福岡長知, 菅谷寿理¹, 会田智弘¹, 飯野幸永¹, 高圓雅博, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 高橋啓, 清水 渉⁽¹⁾ 生理機能センター): 心筋梗塞患者における呼吸機能検査から見た心肺運動負荷試験 (CPX) 指標. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 10.
- 15) 宗像 亮¹, 大塚俊昭², 稲見 徹³, 小谷英太郎⁴, 雪吹周生³, 清野精彦¹, 清水 渉⁽¹⁾ 千葉北総病院 循環器内科, ² 公衆衛生学, ³ 多摩永山病院, ⁴ 千葉北総病院 内科): 上腕動脈コンプライアンス指標による冠動脈狭窄病変の存在予測: 脳波伝播速度との比較. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 10.
- 16) 渋谷淳介, 久保田芳明, 塩村玲子, 合田浩紀, 福泉 偉, 古瀬領人, 谷田篤史, 村井綱児, 浅井邦也, 佐藤直樹¹, 清水 渉⁽¹⁾ 武蔵小杉病院): COPD 合併心不全患者における β 遮断薬の有用性. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 10.
- 17) 久保田芳明, 高木 元, 桐木園子¹, 中村俊一, 村井綱児, 稲見茂信, 高野仁司, 浅井邦也, 宮本正章², 清水 渉⁽¹⁾ 総合医療センター, ² 再生医療科): 2 型糖尿病患者における DPP-4 阻害薬の心血管疾患 2 次予防効果. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 10.
- 18) 徳山榮男¹, 山本英世¹, 佐藤直樹¹, 清水 渉⁽¹⁾ 武蔵小杉病院 内科・循環器内科・集中治療室): 急性心不全において腎保護戦略という観点から急性腎障害分類は適切か?. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 9.
- 19) 吉永正夫¹, 九町木綿², 牛ノ濱大也², 堀米仁志³, 清水 渉, 堀江 稔⁴ ⁽¹⁾ 鹿児島医療センター, ² 福岡市立こども病院, ³ 筑波大学, ⁴ 滋賀医科大学): 学校心臓検診で描出された QT 延長症候群患児の遺伝学的特徴. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 10.
- 20) Wada Y¹, Aiba T¹, Matsuyama T¹, Nakajima I¹, Miyamoto K¹, Yamada Y¹, Okamura H¹, Noda T¹, Satomi K¹, Kanzaki H¹, Anzai T¹, Ishihara M¹, Kusano K¹, Yasuda S¹, Kamakura S¹, et al. ⁽¹⁾ Natl Cerebral and Cardiovascular Ctr, Osaka Japan): Tissue Fibrosis of Myocardial Biopsy as a Novel Predictor for Adverse Cardiac Events in Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy. AHA 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 21) Arao M¹, Kitahara K², Mizuno K ⁽¹⁾ 都立松沢病院, ² 都立駒込病院): Cardiotoxic Anticancer Agents Induce an Heart Failure with Preserved Ejection Fraction (HF-PEF): A pathophysiologic Study of Altered Cardiac Mechanics. HFA 2013 (Lisbon PORTUGAL), 2013. 5.
- 22) Arao M¹, Kitahara K², Mizuno K ⁽¹⁾ 都立松沢病院, ² 都立駒込病院): Cyclophosphamide has Strong Cardiotoxic Influence in Neoadjuvant Chemotherapy (Formula to Predict Safe Dose of Anticancer Agents). HFA 2013 (Lisbon PORTUGAL), 2013. 5.
- 23) Arao M¹, Kitahara K², Mizuno K ⁽¹⁾ 都立松沢病院, ² 都立駒込病院): Differences in Heart Failure Induced by Trastuzumab and Cytotoxic Anticancer Agents. ESC 2013 (Amsterdam, NETHERLANDS), 2013. 9.
- 24) 荒尾正人¹, 関根正明¹, 北原康行², 水野杏一 ⁽¹⁾ 都立松沢病院, ² 都立駒込病院): 心毒性を有する抗癌剤による心筋重量の増加とその病態生理学的検討. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 9.

- 25) 荒尾正人¹⁾, 関根正明¹⁾, 北原康行²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 都立松沢病院, ²⁾ 都立駒込病院): Trastuzumabにより惹起される心機能障害予測のための新指標. 日本心臓病学会 (第 61 回), 2013. 9.
- 26) 荒尾正人¹⁾, 関根正明¹⁾, 北原康行²⁾, 清水 渉 (¹⁾ 都立松沢病院, ²⁾ 都立駒込病院): Differences in Heart Failure Induced by Trastuzumab and Cytotoxic Anticancer Agents. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 27) Tsuboi I, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Yodogawa K, Horie T, Murata H, Uetake S, Hayashi H, Takahashi K, Shimizu W : Adenosine Reveals Arrhythmogenic Foci in Patients Undergoing Catheter Ablation of Paroxysmal Atrial Fibrillation. 日本不整脈学会学術大会 (第 28 回), 2013. 7.
- 28) Ogano M¹⁾, Tanabe J¹⁾, Nakata J¹⁾, Tajiri M¹⁾, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W (¹⁾ Shizuoka Medical Center): Who is suitable for cardiac resynchronization therapy with triple-site ventricular stimulation? Usefulness of temporary pacing study for patient-tailored therapy. ESC 2013 (Amsterdam, NETHERLANDS), 2013. 9.
- 29) 小鹿野道雄¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 清水 渉 (¹⁾ 静岡医療センター): 三尖弁置換術後患者に対し冠静脈洞経由でデバイス植え込みに成功した 2 例. 植込みデバイス関連冬季大会 (第 6 回), 2014. 2.
- 30) Hayashi H, Miyauchi Y, Hayashi M, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Murata H, Yodogawa K, Iwasaki Y, Smizu W : Anatomical characteristics of mitral isthmus requiring ablation inside the coronary sinus for achieving complete linear block. ESC 2013 (Amsterdam, NETHERLANDS), 2013. 9.
- 31) Hayashi H, Miyauchi Y, Hayashi M, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Murata H, Yodogawa K, Iwasaki Y, Shimizu W : Vein of marshall as an epicardial tract in mitral annular atrial tachycardia. Implication to difficult cases in mitral isthmus ablation. 日本不整脈学会学術大会 (第 28 回), 2013. 7.
- 32) 林 洋史, 林 明聡, 宮内靖史, 高橋健太, 植竹俊介, 坪井一平, 村田広茂, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 清水 渉 : 僧帽弁輪峡部焼灼中に冠静脈洞内カテーテルで 記録された電位興奮順序から Marshall 静脈が心内膜側の 伝導ブロックを架橋していることが示唆された 1 例. 臨床心臓電気生理研究会 (第 43 回), 2013. 5.
- 33) 乾 恵輔, 高木 元, 宮本正章, 久保田芳明, 桐木-市川園子, 手塚晶人, 高木郁代, 清水 渉 : 重症下肢虚血への血管再生治療-10 年予後から考える適応と限界-. 日本創傷治療学会 (第 43 回), 2013. 12.
- 34) Inui K, Katoh K, Kubota Y, Murai K, Tetsuo-Tsukada Y, Asai K, Kumita S¹⁾, Shimizu W (¹⁾ Radiology): Usefulness of Myocardial Extracellular Volume (ECV) Measurement by Cardiovascular Magnetic Resonance (CMR) for Detecting Cardiac Remodeling. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 35) Kitamura M, Takayama M¹⁾, Shibuya J, Matsuda J, Shibata Y, Kubota Y, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W (¹⁾ Sakakibara Heart Institute): Feasibility of Alcohol Septal Ablation Using Nitroglycerin Tests for Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy with Labile Obstruction. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 36) Wada Y¹⁾, Aiba T¹⁾, Matsuyama T¹⁾, Ishibashi K¹⁾, Nakajima I¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Okamura H¹⁾, Noda T¹⁾, Kanzaki H¹⁾, Anzai T¹⁾, Ishihara M¹⁾, Kusano K¹⁾, Yasuda S¹⁾, Kamakura S¹⁾, Ishibashi-Ueda H¹⁾, et al. (¹⁾ National Cerebral and Cardiovascular Center): Tissue Fibrosis of Myocardial Biopsy as a Novel Predictor for Adverse Cardiac Events in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 37) Kubota Y, Asai K, Yoshinaga A, Komiyama H, Murai K, Yoshikawa M, Tetsuo-Tsukada Y, Shimizu W : The Impact of β -blocker and Inhaled Tiotropium on Long-term Outcomes in Congestive Heart Failure Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 38) Nakagomi A¹⁾, Noma S¹⁾, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh I¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Endoh Y, Kusama Y¹⁾,

- Seino Y², Atarashi H¹, Shimizu W (¹ Tama Nagayama Hospital, ² Chiba Hokuso Hospital) : Upregulation of Monocyte Proinflammatory Cytokines Production by C-Reactive Protein Predicts Poor Outcomes in Patients with Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 39) Fujimoto Y, Yodogawa K, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S, Hayashi H, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyachi Y, Shimizu W : Reverse Electrical Remodeling after Catheter Ablation of Atrial Fibrillation can be Assessed by P Wave Dispersion. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 40) Tsuboi I, Miyachi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Murata H, Uetake S, Hayashi H, Takahashi K, Shimizu W : Different Responses to Intravenous Adenosine for Revealing Arrhythmogenic Foci between Patients with Paroxysmal and Persistent Atrial Fibrillation Undergoing Catheter Ablation. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 41) Nakagomi A¹, Shibui T², Noma S¹, Kohashi K¹, Saiki Y¹, Kosugi M¹, Endoh I¹, Kawaguchi N¹, Endoh Y, Kusama Y¹, Atarashi H¹, Shimizu W (¹ Tama Nagayama Hospital, ² Hakujuji Hospital) : Differential Effects of Atorvastatin and Pravastatin on Insulin Sensitivity, Oxidative Stress Markers and Progression of Carotid Atherosclerosis in Hypercholesterolemic Patients. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 42) Murai K, Asai K, Oka E, Fukuizumi I, Furuse E, Yoshinaga A, Kubota Y, Yoshikawa M, Tetsuo-Tsukada Y, Sato N¹, Shimizu W (¹ Musashi Kosugi Hospital) : Regular Beta-blocker Therapy Reduces Endotracheal Intubation for Acute Pulmonary Edema in Acute Heart Failure Syndromes. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 43) Miyamoto K¹, Kimura H², Hayashi H², Nakajima I¹, Ishibashi K¹, Okamura H¹, Noda T¹, Aiba T¹, Ishihara M¹, Anzai T¹, Yasuda S¹, Ogawa H¹, Kamakura S¹, Kusano K¹, Horie M², et al. (¹ National Cerebral and Cardiovascular Center, ² Shiga University) : Relationship between U Wave and Efficacy of Flecainide for Ventricular Arrhythmias in Patients with Andersen-Tawil Syndrome with KCNJ2 Mutation. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 44) Kosugi M¹, Nakagomi A¹, Noma S¹, Saitoh T¹, Nozaki A¹, Hara C¹, Saiki Y¹, Morisawa T¹, Kohashi K¹, Kodani E¹, Kusama Y¹, Atarashi H¹, Shimizu W (¹ Tama Nagayama Hospital) : Impacts of Compensatory Hyperinsulinemia and Inflammation on a Refractory Response to Calcium Channel Blockers in Vasospastic Angina Patients. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 45) Kosugi M¹, Nakagomi A¹, Noma S¹, Saitoh T¹, Nozaki A¹, Hara C¹, Saiki Y¹, Morisawa T¹, Kohashi K¹, Kodani E¹, Kusama Y¹, Atarashi H¹, Shimizu W (¹ Tama Nagayama Hospital) : Impact of a Refractory Response to Calcium Channel Blockers and High-density Lipoprotein Cholesterol on Multivessel Spasms in Vasospastic Angina Patients. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 46) 酒井良子¹, 加藤和代, 佐藤敏子¹, 高橋竜也¹, 佐藤和美¹, 菅谷寿理², 高圓雅博, 福間長知, 清水 渉 (¹ 栄養科, ² 生理機能センター) : 心疾患患者における食塩摂取量の経時的変化と食習慣に対する検討. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 47) Igawa O¹, Okazaki R¹, Adachi M², Ino T¹, Kusama Y¹, Atarashi H¹, Shimizu W (¹ Tama Nagayama Hospital, ² Sanin Rosai Hospital) : Myocardium Surrounding Non-coronary Aortic Sinus : New Anatomical Information Related to Catheter Ablation of ATP Sensitive Atrial Tachycardia. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 48) Maruyama M¹, Yamamoto T¹, Abe J¹, Yodogawa K, Seino Y¹, Atarashi H², Shimizu W (¹ Chiba Hokusoh Hospital, ² Tama Nagayama Hospital) : A New Criterion for Entrainment Mapping in Patients with Intra-Atrial Reentrant Tachycardia. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.

- 49) 久保田芳明, 高木 元, 手塚晶人, 桐木園子, 村井綱見, 宮本正章, 清水 渉: 2型糖尿病患者における DPP-4 阻害薬の血管内皮機能に及ぼす影響. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回), 2013. 5.
- 50) 久保田芳明, 北村光信, 中村俊一, 吉田明日香, 神谷仁孝, 村井綱見, 稲見茂信, 高木 元, 高野仁司, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正¹⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 榊原記念病院): 非責任領域への灌流血管に対するバルーン閉塞下に PT SMA を行った 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 228 回), 2013. 6.
- 51) 古瀬領人, 久保田芳明, 渋谷淳介, 吉永 綾, 村井綱見, 吉川雅智, 塚田弥生, 浅井邦也, 清水 渉: The impact of β -blocker selectivity on respiratory function and long-term outcomes in congestive heart failure patients with chronic obstructive pulmonary disease. 臨床生理学会総会 (第 50 回), 2013. 11.
- 52) 古瀬領人, 久保田芳明, 渋谷淳介, 吉永 綾, 村井綱見, 吉川雅智, 塚田弥生, 浅井邦也, 清水 渉: The impact of β -blocker selectivity on respiratory function and long-term outcomes in congestive heart failure patients with chronic obstructive pulmonary disease. 日本心不全学会学術集会 (第 17 回), 2013. 11.
- 53) 塩村玲子, 久保田芳明, 吉永 綾, 村井綱見, 吉川雅智, 塚田弥生, 浅井邦也, 清水 渉: DM May Have Negative Effect on the Prognosis of DCM. 日本心不全学会学術集会 (第 17 回), 2013. 11.
- 54) 桐木-市川園子, 宮本正章, 高木 元, 久保田芳明, 手塚晶人, 福嶋善光, 杉原康朗, 汲田伸一郎, 清水 渉: 67Ga-citrate-SPECT-CT 融合画像評価による新しい半定量的骨髄炎診断法の開発と予後評価. 日本創傷治療学会 (第 43 回), 2013. 12.
- 55) 柴田祐作, 高野仁司, 渋谷淳介, 久保田芳明, 中村俊一, 村井綱見, 稲見茂信, 高木 元, 浅井邦也, 汲田伸一郎¹⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 放射線科): 心サルコイドーシスに対する 18F-フルオロデオキシグルコース陽電子放射断層撮影法の有用性. 日本臨床生理学会総会 (第 50 回), 2013. 11.
- 56) 高木 元, 宮本正章, 安武正弘, 高木郁代, 太良修平, 久保田芳明, 桐木園子, 手塚晶人, 羽田朋人, 古瀬領人, 清水 渉: CLI に対する治療の対策と限界 CLI に対する血管再生治療 10 年長期予後から考える限界点. 日本脈管学会総会 (第 54 回), 2013. 10.
- 57) 宮本正章, 高木 元, 桐木園子, 久保田芳明, 村井綱見, 手塚晶人, 古瀬領人, 志摩綾香, 羽田朋人, 高木郁代, 清水 渉: 糖尿病合併治療抵抗性末梢動脈疾患 (PAD) に対する自己骨髄幹細胞による血管再生療法 (先進医療承認) の効果. 糖尿病合併症学会 (第 28 回), 2013. 8.
- 58) 松田範子, 宮本正章, 豊富達智, 中山拓也, 志村亜由香, 佐々木拓也, 鈴木健一, 木山輝郎, 内田英二, 桐木園子, 高木 元, 飯村剛史, 小川 令, 竹田晋浩, 徳永 昭: 高気圧酸素治療の将来展望と問題点 高気圧酸素療法と血管再生医療・局所陰圧閉鎖療法併用による難治性下腿潰瘍・足壊疽症例の創傷治療促進効果. 日本臨床工学会 (第 23 回), 2013. 5.
- 59) 乾 恵輔, 宮本正章, 高木 元, 古瀬領人, 桐木園子, 久保田芳明, 清水 渉: 集学的治療が奏功し救肢に成功した難治性糖尿病足壊疽の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 598 回), 2013. 7.
- 60) 桐木園子, 高木 元, 宮本正章, 落 雅美, 栗田二郎, 飯村剛史: 末梢動脈疾患に合併した糖尿病性足壊疽に対し, 集学的治療が奏功し救肢しえた 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 596 回), 2013. 5.
- 61) 桐木園子, 高木 元, 宮本正章, 金子恵子, 川本智章: 2 型糖尿病を合併する慢性 C 型肝炎・肝細胞癌患者のインスリン治療. 日本内科学会関東地方会 (第 596 回), 2013. 5.
- 62) 菊池有史¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 高木宏治¹⁾, 曾根教子¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 山本英世¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 武蔵小杉病院): 非侵襲血行動態モニタリングデバイス Netfin® と肺動脈カテーテルで測定した心拍出量の相関. 日本集中治療学会学術集会 (第 41 回), 2014. 2.
- 63) 徳山榮男¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 高木宏治¹⁾, 曾根教子¹⁾, 菊池有史¹⁾, 山本英世¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 武蔵小杉病院): 急性心不全におけるコペプチン測定意義の検討. 日本集中治療学会学術集会 (第 41 回), 2014. 2.
- 64) 曾根教子¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 高木宏治¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 菊池有史¹⁾, 山本英世¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 清水 渉

- (1) 武蔵小杉病院) : Wellens 症候群の重要性を痛感した 4 症例. 日本集中治療学会学術集会 (第 41 回), 2014. 2.
- 65) Tokuyama H¹⁾, Sato N¹⁾, Nakama K¹⁾, Omote T¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Amitani K¹⁾, Takahashi N¹⁾, Shimizu W (1) Musashi Kosugi Hospital) : What does Copeptin Indicate in Acute Heart Failure. 日本心不全学会学術集会 (第 17 回), 2013. 11.
- 66) Sone M¹⁾, Takahashi N¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Sato N¹⁾, Kumita S²⁾, Shimizu W (1) Musashi Kosugi Hospital, 2) Radiology) : Relationship between Heart Rate Response to Adenosine and left Ventricular Synchronicity in Non-ischemic Heart Disease. 日本心不全学会学術集会 (第 17 回), 2013. 11.
- 67) 高木宏治¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 曾根教子¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 菊池有史¹⁾, 山本英世¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 松田 潔²⁾, 清水 渉 (1) 武蔵小杉病院, 2) 武蔵小杉病院 救命救急センター) : 胸骨圧迫により心破裂をきたした急性心筋梗塞の 1 例. 日本集中治療学会学術集会 (第 41 回), 2014. 2.
- 68) 高橋直人¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 花岡大資¹⁾, 菊池有史¹⁾, 山本英世¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 清水 渉 (1) 武蔵小杉病院) : 癒痕心筋を有さない高血圧患者におけるアデノシン負荷心拍応答と左室同期性の関連. 日本高血圧学会総会 (第 36 回), 2013. 10.
- 69) Yodagawa K, Morita N¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Takahashi K, Uetake S, Hayashi H, Tsuboi I, Murata H, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Ohara T, Seino Y²⁾, Kato T (1) Tokai University Hachioji Hospital, 2) Chiba Hokusoh Hospital) : High Frequency Components within QRS Complex as a Novel Predictive Marker for Positive Response to Antiarrhythmic Drug Challenge in Patients with Suspected Brugada Syndrome. The 28th Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society, 2013. 7.
- 70) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita T¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Shimizu W (1) Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : The serum HFABP level can detect acute kidney injury on admission and predict an adverse outcome for acute heart failure. 日本心不全学会学術集会 (第 17 回), 2013. 11.
- 71) 白壁章宏¹⁾, 畑 典武¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 山本真功¹⁾, 鶴見昌史¹⁾, 岡崎大武¹⁾, 松下誠人¹⁾, 山本良也¹⁾, 清水 渉 (1) 千葉北総病院 集中治療室) : 急性心不全急性期からのトルバプタン投与は急性腎紹介 (AKI) 増悪を抑制し, 中期予後を改善する. 日本臨床薬理学会各術総会 (第 34 回), 2013. 12.
- 72) 塩村玲子¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 村田広茂¹⁾, 田中啓治¹⁾, 水野杏一 (1) 集中治療室) : 急性大動脈解離との鑑別に難渋した胸部大動脈周囲炎の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 228 回), 2013. 6.
- 73) 村田広茂, 宮内靖史, 清水 渉 : 複雑な 3 次元リエントリーが推定された肥大型心筋症に伴う心室頻拍の 1 例. 東京 HOCM フォーラム 2013, 2013. 10.
- 74) 高橋健太, 村田広茂¹⁾, 宮内靖史, 細川雄亮¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾, 岩崎雄樹, 林 明聡, 清水 渉, 坂本俊一²⁾, 新田 隆²⁾, 切刀しのぶ³⁾ (1) 集中治療室, 2) 心臓血管外科, 3) 病理部) : Electroanatomical mapping を用いた開胸下凍結凝固により, 切除不能な心臓腫瘍に関連した心室頻拍を抑制しえた 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 230 回), 2013. 12.
- 75) 林 洋史, 村田広茂¹⁾, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 高橋健太, 植竹俊介, 坪井一平, 清水 渉, 新田 隆²⁾, 坂本俊一郎²⁾, 藤井正大²⁾, 切刀しのぶ³⁾ (1) 集中治療室, 2) 心臓血管外科, 3) 病理部) : 切除不能な心臓腫瘍に関連した心室頻拍を開胸下凍結凝固により抑制しえた Gorlin 症候群の 1 例 : 病理学的見地も踏まえて. 臨床不整脈研究会 (第 26 回), 2014. 1.
- 76) 淀川顕司, 清野精彦, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 清水 渉 : 心サルコイドーシスに合併した心室頻拍にステロイドは有効か 高分解能心電図を用いた検討. 臨床生理学会総会 (第 50 回), 2013. 11.
- 77) Miyachi H¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Tanida A¹⁾, Ishii K¹⁾, Arita Y¹⁾, Aokage T¹⁾, Kawanaka H¹⁾, Kitamura M¹⁾, Murata H¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Akutsu K¹⁾, Takano H, Tanaka K¹⁾, Mizuno K (1) Intensive and Cardiovas-

- cular Care Unit) : Therapeutic strategy for AMI with massive intracoronary thrombus : Is the adjunctive intracoronary thrombolytic therapy in primary PCI effective?. CVIT, 2013. 7.
- 78) 宮地秀樹¹⁾, 高木 厚¹⁾, 宮内克己¹⁾, 山崎正雄¹⁾, 田中博之¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 佐地真育¹⁾, 鈴木 誠¹⁾, 山本 剛¹⁾, 清水 渉, 長尾 健¹⁾, 高山守正 (1) 集中治療室) : 東京 CCU ネットワークデータベースで見る東京都の ST 上昇型急性心筋梗塞と非 ST 上昇型急性心筋梗塞の最新の特徴と管理. 東京 CCU 研究会プログラム (第 33 回), 2013. 12.
- 79) Miyachi H¹⁾, Takagi A¹⁾, Miyauchi K¹⁾, Yamasaki M¹⁾, Tanaka H¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Saji M¹⁾, Suzuki M¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Shimizu W, Takayama M (1) Intensive and Cardiovascular Care Unit) : The analysis of delay from first medical contact (FMC) to primary PCI for patients with ST elevation myocardial infarction in Tokyo. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 80) Inoue K¹⁾, Murakawa Y²⁾, Nogami A³⁾, Shoda M⁴⁾, Naito S⁵⁾, Kumagai K⁶⁾, Miyauchi Y, Yamane T⁷⁾, Morita N⁸⁾, Okumura K⁹⁾ (1) Sakurabashi Watamabe Hospital, 2) Teikyo University, 3) Tsukuba University, 4) Tokyo Women's Medical College, 5) Gunma Prefectural Cardiovascular Center, 6) Fukuoka Sannno Hospital, 7) Jikei University, 8) Tokai University Hachioji Hospital, 9) Hirosaki University) : Predictors of acute complications of ablation for atrial fibrillation : Analysis of the Japanese Catheter Ablation of AF (J-CARAF) registry data. 日本不整脈学会学術大会 (第 28 回), 2013. 7.
- 81) Uetake S, Miyauchi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Hayashi H, Tsuboi I, Takahashi K, Shimizu W : Successful Ablation of the epicardial circuit of macroreentrant ventricular tachycardia associated with basal left ventricular aneurysm by radiofrequency applications inside the coronary sinu. 日本不整脈学会学術大会 (第 28 回), 2013. 7.
- 82) 加藤政利, 福間長知, 菅谷寿理, 会田智弘, 高圓雅博, 加藤和代, 加藤祐子, 清水 渉 : 心筋梗塞例における呼吸機能検査指標と VE/VCO2 slope との関連. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 19 回), 2013. 7.
- 83) 会田智弘, 福間長知, 菅谷寿理, 加藤政利, 高圓雅博, 加藤和代, 加藤祐子, 清水 渉 : 心臓リハビリテーション施行中の心筋梗塞後患者における尿中アルブミン異常. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 19 回), 2013. 7.
- 84) 福間長知, 高圓雅博, 加藤和代, 加藤祐子, 馬淵浩輔, 福間祐美子, 清水 渉 : 虚血性心疾患における腎 Mineralocorticoid 受容体活性化指標としての TTKG. 日本高血圧学会 (第 36 回), 2013. 10.
- 85) 吉川雅智, 本間 博, 松崎つや子, 吉永 綾, 大野忠明, 清水 渉 : 慢性閉塞性肺疾患における QRS 波の幅と右室機能障害 : 2次元 Speckle Tracking 法による解析. 日本臨床生理学会総会 (第 50 回), 2013. 11.
- 86) 小杉宗範¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 川口直美¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 長田真一²⁾, 東 直行²⁾, 清水 渉 (1) 多摩永山病院, 2) 多摩永山病院 皮膚科) : 腎不全が急速に進行した高齢者 Henoch-Schönlein 紫斑病 (HSP) の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 597 回), 2013. 6.
- 87) 原千鶴子¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 野崎文華¹⁾, 川口直美¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 中込明裕¹⁾, 井川 修¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一, 丸山雄二²⁾, 井村 肇²⁾ (1) 多摩永山病院, 2) 武蔵小杉病院 心臓血管外科) : 長い洞停止を伴う混合型神経調節性失神の若年男性例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 228 回), 2013. 6.
- 88) 野崎文華¹⁾, 中込明裕¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 西城由之¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新博次¹⁾, 清水 渉 (1) 多摩永山病院) : 心臓超音波検査にて偶発的に発見された大動脈弁四尖弁の 2 症例. 日本内科学会関東地方会例会 (第 599 回), 2013. 7.
- 89) 野崎文華¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 西城由之¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 井川 修¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 清水 渉 (1) 多摩永山病院) : 高齢で発見された右室二腔症・心室中隔欠損の I 症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 230 回), 2013. 12.
- 90) 武 雅樹¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 井川 修¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 清水

渉¹⁾ 多摩永山病院) : 心臓超音波検査にて偶発的に発見された大動脈弁四尖弁の2症例. 日本内科学会関東地方会例会 (第603回), 2014. 2.

- 91) Li Y, Ohno T, Matsuzaki T, Matsuda J, Matsuzaki G, Honma H, Mizno K, Azuma A : Can right ventricular dysfunction be detected during mild stage of chronic obstructive pulmonary disease by two-dimensional speckle tracking technology?. ASE 2014 (Minneapolis, USA), 2013. 7.
- 92) Li Y, Ohno T, Matsuzaki T, Matsuda J, Matsuzaki G, Honma H, Mizno K, Azuma A : QRS duration and mechanical asynchrony correlations with right ventricular function in patients with early stage of chronic obstructive pulmonary disease by two-dimensional speckle tracking technology. ASE 2014 (Minneapolis, USA), 2013. 7.
- 93) Iwasaki Y, Sekiguchi A, Hayami N, Miyauchi Y, Shimizu W, Yamashita T : Importance of Pulmonary Vein Fibrosis for AF Promotion in Hypertensive Rat Heart. 日本不整脈学会学術大会 (第28回), 2013. 7.
- 94) 内田沙央里¹⁾, 村上大介¹⁾, 加納誠士¹⁾, 志村徹郎¹⁾, 栗原 理¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 宗像亮¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 清野精彦¹⁾, 清水 渉¹⁾ (千葉北総病院) : わずか3か月間で急速に冠動脈狭窄が進行した1例 : OCT所見に基づく新たな冠危険因子制御への提言. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第230回), 2013. 12.

(7) FRS :

- 1) Igawa O¹⁾, Okazaki R¹⁾, Adachi M²⁾, Ino T¹⁾, Kusma Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Shimizu W¹⁾ (Tama Nagayama Hspital, ²⁾ Sanin Rosai Hospital) : New Anatomical Finding at the Base of Left Atrial Appendage Related to Catheter Ablation : Branching of Left Lateral Ridge. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 2) Nakagomi A¹⁾, Noma S¹⁾, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh I¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Endoh Y, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Shimizu W¹⁾ (Tama Nagayama Hspital) : Up-regulated Monocyte Interleukin-8 Production Predicts Poor Outcomes in Patients with Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 3) Kohashi K¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Noma S¹⁾, Morisawa T¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh I¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Endoh Y, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Shimizu W¹⁾ (Tama Nagayama Hspital) : Effects of Eicosapentaenoic Acid on Adiponectin, Cardiac Function, and the Long-Term Prognosis in Chronic Heart Failure Patients. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 4) Kinugawa K¹⁾, Nagai R²⁾, Inoue H³⁾, Atarashi H⁴⁾, Seino Y⁵⁾, Yamashita T⁶⁾, Shimizu W, Aiba T⁷⁾, Kitakaze M⁷⁾, Sakamoto A⁸⁾, Ikeda T⁹⁾, Imai Y¹⁰⁾, Daimon T, Fujino K, Nagano T, et al. (1) University of Tokyo, 2) Jichi Medical University, 3) Toyama University, 4) Tama Nagayama Hospital, 5) Chiba Hokusoh Hospital, 6) The Cardiovascular Institute, 7) National Cerebral and Cardiovascular Center, 8) Anesthesiology, 9) Toho University, 10) Jichi Medical University) : Impacts of Patient Characteristics on the Effectiveness of Landiolol in AF/AFL Patients Complicated with LV Dysfunction : Sub-analysis of J-Land Study. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 5) Shimizu W, Aiba T¹⁾ (1) National Cerebral and Cardiovascular Center) : Current Status of Genetic Testing and iPS Innovation in Inherited Arrhythmias. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.
- 6) Inoue K¹⁾, Murakawa Y²⁾, Nogami A³⁾, Shoda M⁴⁾, Naitoh S⁵⁾, Kumagai K⁶⁾, Miyauchi Y, Yamane T⁷⁾, Morita N⁸⁾, Okumura K⁹⁾ (1) Sakurabashi Watanabe Hospital, 2) Teikyo University, 3) University of Tsukuba, 4) Tokyo Women's Medical University, 5) Gunma Prefectural Cardiovascular Center, 6) Fukuoka Sanno Hospital, 7) Jikei University, 8) Tokai University Hachioji Hospital, 9) Hirosaki University) : Clinical and Procedural Predictors of Early Complications of Ablation for Atrial Fibrillation : Analysis of a National Registry Data. 日本循環器学会学術集会 (第78回), 2014. 3.

- 7) Noma S¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh I¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Endoh Y, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Shimizu W (¹ Tama Nagayama Hospital) : Upregulated Monocyte Tissue Factor Activity is Associated with Inflammation and Endothelial Dysfunction and Predicts Poor Outcomes in Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- (8) LBCS :
- 1) Murakawa Y¹⁾, Nogami A²⁾, Shoda M³⁾, Naitoh S⁴⁾, Kumagai K⁵⁾, Inoue K⁶⁾, Miyauchi Y, Yamane T⁷⁾, Morita N⁸⁾, Okumura K⁹⁾ (¹ Mizonokuchi Hspital, ² University of Tsukuba, ³ Tokyo Womens Medical University, ⁴ Gunma Prefectural Cardiovascular Center, ⁵ Fukuoka Sanno Hospital, ⁶ SakurabashiWatanabe Hospital, ⁷ Jikei University School of Medicine, ⁸ Toukai University Hachioji Hospital, ⁹ Hirosaki University Graduate School of Medicine) : One-year Follow-up of Patients Treated by Catheter Ablation of Atrial Fibrillation : The Japanese Catheter Ablation Registry of Atrial Fibrillation Ablation. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- (9) ML :
- 1) Shimizu W : Pathophysiology and Therapy in Idiopathic Ventricular Fibrillation—Brugada Syndrome and Early Repolarization Syndrome—. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- (10) PL :
- 1) Sato N¹⁾, Shimizu W (¹ Musashi Kosugi Hspital) : Tactics to Conduct Clinical Trials Leading the Better Medical Guidelines for the Management of Cardiovascular Diseases. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- (11) RT :
- 1) Shimizu W : Cellular Mechanism and Management in Clinical Practice for Drug-Induced Long QT Syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- (12) State of the art :
- 1) Miyauchi Y : Left atrial linear ablation utilizing a steerable sheath. 日本不整脈学会学術大会 (第 28 回), 2013. 7.
- (13) コメディカルセッション ポスター :
- 1) 加藤政利¹⁾, 八島正明, 佐藤淳子¹⁾, 林 洋史, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 福岡長知, 本間博, 清水 渉 (¹ 生理機能センター) : インピーダンスグラフから見たループ式イベントレコーダー検査における機器装着時間の実態. 日本心電学会 (第 30 回), 2013. 10.
- 2) 佐藤淳子¹⁾, 八島正明, 加藤政利¹⁾, 林 洋史, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 福岡長知, 本間博, 清水 渉 (¹ 生理機能センター) : 貸出期間 2 週間のループ式イベントレコーダー検査における患者の機器使用感の分析と使用説明の注意点. 日本心電学会 (第 30 回), 2013. 10.
- (14) コントロバーシー :
- 1) 清水 渉 : 非弁膜症性心房細動患者におけるワルファリンと新規抗凝固薬の使い分け. 日本心臓病学会学術集会 (第 61 回), 2013. 10.
- (15) ファイアーサイドシンポジウム :
- 1) 清水 渉 : 心房細動治療としての β 遮断薬療法. 日本心臓病学会学術集会 (第 61 回), 2013. 10.
- (16) レジデントセッション ポスター :
- 1) 藤本雄飛, 淀川顕司, 高橋健太, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 村田広茂, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 清水 渉 : 心房細動アブレーションによる心房の電氣的逆リモデリング : P 波 dispersion による検討. 日本心電学会 (第 30 回), 2013. 10.

(17) 日本循環器学会共催セッション：

- 1) 清水 渉：遺伝性不整脈の遺伝子検査の進歩．日本循環器看護学会学術集会（第10回），2013．9．

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Takagi G, Miyamoto M, Tara S, Kirinoki-Ichikawa S, Kubota Y, Hada T, Takagi I, Mizuno K : Therapeutic vascular angiogenesis for intractable macroangiopathy-related digital ulcer in patients with systemic sclerosis : a pilot study. *Rheumatology (Oxford)* 2014 ; 53 (5) : 854-859.
- 2) Hayashi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Yodogawa K, Tsuboi I, Uetake S, Hayashi H, Takahashi K, Shimizu W : Three-month Lower-dose Flecainide after Catheter Ablation of Atrial Fibrillation. *Europace* 2014 ; 16 (8) : 1160-1167.
- 3) Murai K, Seino Y¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Murakami D¹⁾, Abe J¹⁾, Yodogawa K, Maruyama M¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Efficacy and Limitations of Oral Inotropic Agents for the Treatment of Chronic Heart Failure : A Single Center Cross-Sectional Observational Study. *Int Heart J* 2013 ; 54 (2) : 75-81.
- 4) Nagai R¹⁾, Kinugawa K²⁾, Inoue H³⁾, Atarashi H⁴⁾, Seino Y⁵⁾, Yamashita T⁶⁾, Shimizu W⁶⁾, Aiba T⁶⁾, Kitakaze M⁶⁾, Sakamoto A⁷⁾, Ikeda T, Imai Y²⁾, et al. (¹⁾ Jichi Medical University, ²⁾ University of Tokyo Graduate School, ³⁾ University of Toyama, ⁴⁾ Tama Nagayama Hospital, ⁵⁾ Cardiovascular Institute, ⁶⁾ National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁷⁾ Anesthesiology) : Urgent Management of Rapid Heart Rate in Patients With Atrial Fibrillation/Flutter and Left Ventricular Dysfunction : Comparison of the Ultra-Short-Acting β 1-Selective Blocker Landiolol With Digoxin (J-Land Study). *Circ J* 2013 ; 77 (4) : 908-916.
- 5) Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Shimura T²⁾, Yokoyama S¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Murakami D²⁾, Takano M²⁾, Seino Y²⁾, Matumoto H³⁾, Mashiro K³⁾, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Critical Care Medicine Chiba Hokusoh Hospital) : Characteristics of Patients With Cardiac Arrest Caused by Coronary Vasospasm. *Circ J* 2013 ; 77 (3) : 673-678.
- 6) Yodogawa K, Seino Y¹⁾, Ohara T, Hayashi M, Miyauchi Y, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Prediction of atrial fibrillation after ischemic stroke using P-wave signal averaged electrocardiography. *J Cardiol* 2013 ; 61 (1) : 49-52.
- 7) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Abe J¹⁾, Tomita K²⁾, Shirakabe A²⁾, Kobayashi N²⁾, Shinada T²⁾, Hata N²⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : Untreated obstructive sleep apnea as a differential diagnosis in young woman with aortic dissection. *Int J Cardiol* 2013 ; 165 (1) : e1-e2.
- 8) Takano M¹⁾, Kitamura M, Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Acute coronary syndrome without optical coherence tomography identification of plaque disruption : Is this plaque erosion?. *Int J Cardiol* 2013 ; 163 (1) : e14-e15.
- 9) Tsuboi I, Hayashi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Yodogawa K, Hayashi H, Uetake S, Takahashi K, Shimizu W : Anatomical Factors Associated with Peri-esophageal Vagus Nerve Injury after Catheter Ablation of Atrial Fibrillation. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (4) : 248-257.
- 10) Hayashi H, Hayashi M, Miyauchi Y, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Yodogawa K, Iwasaki Y, Shimizu W : Left atrial wall thickness and outcomes of catheter ablation for atrial fibrillation in patients with hypertrophic cardiomyopathy. *J Interv Card Electrophysiol* 2014 ; 40 (2) : 153-160.

- 11) Matsushita M¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Shinada T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Shimura T¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Asai K, Mizuno K (1) Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : Association between the visiting time and the clinical findings on admission in patients with acute heart failure. *J Cardiol* 2013 ; 61 (3) : 210-215.
- 12) 林 洋史, 宮内靖史, 林 明聡, 高橋健太, 植竹俊介, 坪井一平, 村田広茂, 堀江 格, 淀川顕司, 加藤貴雄, 水野杏一 : Vein of Marshall が頻拍回路の一部と考えられた心房細動アブレーション後の mitral isthmus flutter の 1 例. *心臓* 2012 ; 44 (suppl3) : 123-128.
- 13) Miyachi H¹⁾, Tanaka K¹⁾, Mizuno K (1) Intensive anc Cardiovascular care unit) : A rare case of left anterior chest bleeding in a female with Takayasu disease. *Ann Thorac Surg* 2013 ; 95 (3) : 1098.
- 14) Miyachi H¹⁾, Tanaka K¹⁾, Mizuno K (1) Intensive anc Cardiovascular care unit) : Catheter-induced Bilateral Coronary Ostium Dissection in a Patient with Long-term Steroid Therapy. *J Invasive Cardiol* 2012 ; 24(11) : e305-e307.
- 15) Miyachi H¹⁾, Onozawa S¹⁾, Akutsu K¹⁾, Shimizu W, Kumita S¹⁾, Tanaka K¹⁾, Murata S¹⁾ (1) Intensive anc Cardiovascular care unit) : Treatment of visceral malperfusion in acute type B aortic dissection by percutaneous endovascular fenestration using a stent, with additional stenting of the true lumen. *J Nippon Med Sch* in press.
- 16) Fukuma N, Hayashi H, Sugaya J, Aiba T, Kato M, Kato K, Kato Y, Takahashi H, Mizuno K : Sleep-Disordered Breathing with Nighttime Hypocapnia Relates to Daytime Enhanced Ventilatory Response to Exercise in Patients with Heart Disease. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (12) : 415-415.
- 17) Fukuma N, Kato K, Munakata K, Hayashi H, Kato Y, Aisu N, Takahashi H, Mabuchi K, Mizuno K : Baroreflex mechanisms and response to exercise in patients with heart disease. *Clin Physiol Funct Imaging* 2012 ; 32 (4) : 305-309.
- 18) Fukuma N, Oikawa K, Kato K, Kato Y, Mizuno K, Kumita S : Denervated Sympathetic Nerve Distributed to Motor Muscle as a Possible Cause of Enhanced BP Response to Exercise in Patients with Heart Disease. *J Jpn Coron Assoc* 2012 ; 18 (3) : 189-193.

追加分症例報告 :

- 1) Inami T¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Unique case of acquired pulmonary arteriovenous malformation developed by calcific constrictive pericarditis. *BMJ Case Reports* 2013.
- 2) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Unique case of giant Kommerell diverticulum with aberrant left subclavian artery arising from the left aortic arch associated with situs inversus. *Int J Cardiol* 2013 ; 163 (3) : e47-e48.

著 書

追加分 :

- 1) 宮本正章, 高木 元 : [分担] 心移植, 再生医療の適応. *CCU テキスト* (田中啓二・山本剛), 2013 ; pp193-200, 文光堂.
- 2) 高木郁代, 新本春夫 (1) 榊原記念クリニック) : [追加分担] 下肢静脈怒張. *今日の臨床サポート* (電子書籍) (永井良三 他), 2013 ; エルゼビア・ジャパン.

学会発表

追加分シンポジウム :

- 1) 高木 元, 宮本正章, 安武正弘, 高木郁代, 久保田芳明, 桐木 - 市川園子, 水野杏一 : 血管再生医療の 10 年長

期臨床成績から考える治療戦略. 先進医療フォーラム (第4回), 2013. 1.

追加分ポスター:

- 1) 小野卓哉, 板倉潮人¹⁾, 八名和夫²⁾, 西部俊広²⁾, 佐藤 慶²⁾, 淀川長知, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 水野杏一 (¹⁾ 武蔵小杉病院, ²⁾ 法政大学): QT 及び RR 間隔の日内変動と心疾患の関連. 日本心臓病学会 (第60回), 2012. 9.
- 2) 加藤政利¹⁾, 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 会田智弘¹⁾, 高圓雅博, 林 寛子, 加藤和代, 愛須紀子, 高橋 啓, 本間博, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 心臓リハビリテーションを導入された心疾患患者に対する呼吸機能検査の意義. 日本心臓病学会 (第60回), 2012. 9.

追加分一般講演:

- 1) 荒尾正人¹⁾, 関根正明¹⁾, 北原康行²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 都立松沢病院, ²⁾ 都立駒込病院): Tei index is useful to predict left ventricular dysfunction in patients receiving trastuzumab. 日本循環器学会学術集会 (第77回), 2013. 3.
- 2) 久保田芳明, 高木 元, 古瀬領人, 手塚晶人, 桐木-市川園子, 宮本正章, 水野杏一: 糖尿病性虚血潰瘍への血行再建術とその切断回避因子分析. 日本再生医療学会総会 (第12回), 2013. 3.
- 3) 久保田芳明, 高木 元, 桐木園子, 村井綱兄, 宮本正章, 水野杏一: 2型糖尿病患者における DPP-4 阻害薬の血管内皮機能に及ぼす影響. 糖尿病学会地方会 (第50回), 2013. 1.
- 4) 村井綱兄, 高木 元, 手塚晶人, 桐木園子, 古瀬領人, 久保田芳明, 宮本正章, 水野杏一: 2糖尿病性虚血潰瘍での切断回避に関する検討. 糖尿病学会地方会 (第50回), 2013. 1.
- 5) 久保田芳明, 高木 元, 桐木園子, 手塚晶人, 古瀬領人, 宮本正章, 水野杏一: 糖尿病性虚血潰瘍への血行再建術とその切断回避分析. 日本再生医療学会総会 (第12回), 2013. 3.

[付属病院老年内科]

研究概要

本年度より老年医学の臨床研究を行うために新たなデータ集積を開始した. このため, 主要業績は前年度までに実施した研究が主体になった. 1) 非侵襲的検査である尿中酵素を高齢者に適応する際の留意点について検討を加えてきたが, 本年度は血糖値の影響について検討を加えた. 2) 主に食後血糖のコントロール指標の高齢者に用いる際の留意点についての検討の一環として, 尿酸値の影響を検討した. 3) 脂質異常症として用いられるコレステミドの血糖降下作用について, 高齢者の臨床的因子の面から検討した. 4) 高齢者の生活習慣病の臨床的特徴と治療における留意点について現在までの知見をまとめた.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ohara M, Watanabe K, Suzuki T, Sekimizu K, Motoyama M, Ishii K, Sawai K, Nakano H, Oba K, Mizuno K: Improving in the fasting, but not the postprandial, glucose level is associated with reduction of plasma d-ROMs level in patients with type 2 diabetes. J Nippon Med Sch 2013; 80 (3): 200-210.
- 2) Ouchi M, Oba-Motoji M, Igari Y, Futami-Suda S, Ishii K, Aoyama J, Tsunoda-Kubota M, Yamashita H, Suzuki T, Nakano H: Change in urinary N-acetyl- β -d-glucosaminidase levels relevant to postprandial glycaemic control conditions in subjects without diabetes mellitus. Clin Chim Acta. 2013; 433 (12): 88-92.
- 3) Ouchi M, Aoyama J, Ishii K, Yano H, Motoyama M, Sekimizu K, Matumura N, Igari Y, Nakano H: Serum uric acid in relation to serum 1,5-anhydroglucitol levels in patients with and without type 2 diabetes

mellitus. Clin Biochem 2013 ; 433 (10) : 1436-1441.

- 4) Ouchi M, Motoyama M, Tsunoda M, Yamashita H, Aoyama J, Saigusa T, Ishii K, Yano H, Hashimoto M, Sekimizu K, Suzuki T, Nakano H : Postprandial glycaemic control conditions in relation to urinary N-acetyl- β -D-glucosaminidase in patients with type 2 diabetes mellitus without low glomerular filtration rate. Diabetes Technol Ther. 2014 ; 16 (1) : 41-47.

(2) 総説 :

- 1) 大庭建三 : 高齢者における糖尿病診療 : 多様な病態に配慮した管理. 月刊糖尿病 2013 ; 5 (4) : 10-11.
- 2) 中野博司 : 高齢者糖尿病における経口血糖降下薬療法の実践. 月刊糖尿病 2013 ; 5 (4) : 42-49.
- 3) 鈴木一成, 中野博司 : 慢性疾患における薬剤アドヒアランスを向上させる工夫 : 糖尿病. Progress in medicine 2013 ; 33 (6) : 1301-1304.
- 4) 大内基司, 中野博司 : 高齢者の糖尿病 IV. 特論 : 高齢期発症糖尿病の特徴と管理目標. 日本臨床 2013 ; 71 (11) : 2025-2029.
- 5) 中野博司 : 高齢者糖尿病の経口血糖降下薬療法. Clinic magazine 2013 ; 533 (11) : 2013-2013.

(3) 研究報告書 :

- 1) 大内尉義¹⁾, 小島太郎¹⁾, 大橋靖雄²⁾, J-Chears Study グループ (¹⁾ 東京大学加齢医学講座, ²⁾ 東京大学疫学予防保健学) : J-CHEARS 研究. 公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成 24 年度研究報告集 2013 ; 68-72.

著 書

- 1) 大庭建三, 中野博司 : [分担] 臓器の加齢変化と老年疾患の発症 : 内分泌・代謝系. 老年医学系統講義テキスト (日本老年医学会), 2013 ; pp140-142, 西村書店.
- 2) 石井一史, 大内基司 : [分担] 高熱. 高齢者総合診療ノート (大庭建三), 2014 ; pp120-125, 日本医事新報社.
- 3) 鈴木達也, 三枝太郎 : [分担] 認知症の周辺症状. 高齢者総合診療ノート (大庭建三), 2014 ; pp205-210, 日本医事新報社.
- 4) 中野博司 : [分担] 糖尿病 : 経口薬療法. 高齢者総合診療ノート (大庭建三), 2014 ; pp319-323, 日本医事新報社.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 青山純也, 三枝太郎, 石井一史, 橋本雅夫, 関水憲一, 大内基司, 猪狩吉雅, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司 : 著明な高血糖を契機に診断された高齢 2 型糖尿病の十二指腸穿孔例. 第 59 回日本老年医学会関東甲信越地方会 (千葉), 2014. 3.
- 2) 小原 信, 渡邊健太郎, 矢野宏行, 橋本雅夫, 関水憲一, 鈴木一成, 大内基司, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 2 型糖尿病患者でのコントロール改善効果と酸化ストレス改善効果の関連 ; CGMS および d-ROMs を用いた検討. 第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会 (熊本), 2013. 5.

論 文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 木川好章¹⁾, 須波雅一¹⁾, 佐山祐一¹⁾, 斉藤真子¹⁾, 高野浩子¹⁾, 鯉淵 仁¹⁾, 鈴木達也, 中野博司 : 高度認知症患者の身体合併症における現状. 日老医誌 2013 ; 50 (2) : 208-210.

追加分原著 :

- 1) Suzuki T, Tsunoda-Kubota M, Aoyama J, Futami-Suda S, Hashimoto M, Igari Y, Kigawa Y, Nakano H,

Oba K : What characteristics at baseline are associated with the glucose-lowering effect of colestimide in patients with type 2 diabetes and hypercholesterolemia according to response to treatment?. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (3) : 211-217.

著書

追加分：

- 1) 大庭建三, 渡邊健太郎 : [分担] 高齢者における動脈硬化 : 動脈硬化の診断と疫学, 高齢期における生活習慣病. *Advances in Aging and Health Research* 2012 (公益財団法人長寿科学振興財団), 2013 : pp139-149.

[多摩永山病院内科, 循環器内科]

研究概要

当科は虚血性疾患不整脈等の循環器疾患を中心に診療を行っているが, 多摩地区の中核病院としての機能維持するために内科全般を診療対象とし, 専門領域の他, 高血圧症, 糖尿病, 脂質異常症, メタボリックシンドローム, 慢性腎臓病 (CKD) などを対象に実地に即した研究を行っている. 1) 急性冠症候群の急性期治療および予後規定因子に関する研究 2) 冠攣縮性狭心症の病態と予後既定因子に関する研究 3) 心室細動を伴う冠攣縮性狭心症例に対する植込み型除細動器の適応に関する研究 4) 慢性心不全患者におけるサイトカインと予後に関する研究 5) 不整脈治療に必要な臨床心臓解剖学の研究 6) 心房細動, 動脈硬化の発症に関わる炎症に関する研究 7) 食塩感受性高血圧に対する薬物治療, 食塩摂取量に関する研究 8) インクレチン製剤の血糖非依存性効果に関する研究 9) 不整脈診断のための臨床電気生理とカテーテル治療 10) 日本心電学会主催心房細動症例の登録研究 (J-RHYTHM Registry) 11) 日本循環器学会認定の多施設共同研究への参加 12) 多摩地区, 南多摩地区における多施設共同研究への参加 13) 高齢者医療に関する共同研究等を中心に研究を行い, 日本内科学会, 日本循環器学会, 日本心臓病学会, 日本心電学会, 日本成人病 (生活習慣病) 学会, 日本高血圧学会, 日本糖尿病学会, 日本老年医学会, 及びその他の関連学会へ研究成果を報告するとともに, 内科総合診療部門として稀な内科系疾患の症例報告も積極的に行っている.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 小谷英太郎, 新 博次, 奥村 謙¹⁾, 井上 博²⁾, 山下武志³⁾ (1) 弘前大学, 2) 富山大学, 3) 心臓血管研究所) : 心房細動に対するワルファリン療法における日本人の至適 INR : J-RHYTHM Registry からの報告. *心電図* 2013 ; 33 (1) : 25-31.
- 2) Miyachi H¹⁾, Yamamoto A²⁾, Otsuka T³⁾, Yoshikawa T¹⁾, Kodani E, Endoh Y, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Internal Medicine ,Nippon medical School, 2) Department of Radiology,Nippon medical School Musashi-KosugiHospital, 3)Department of Hygiene and Public Health,Nippon medical School) : Relationship between left ventricular dyssynchrony and systolic dysfunction is independent of impaired left ventricular myocardial perfusion in heart failure ; Assessment with 99mTc-sestamibi gated myocardial scintigraphy. *Int J Cardiol* 2013 ; 167 (3) : 930-935.
- 3) Otsuka T¹⁾, Kato K¹⁾, Ibuki C²⁾, Kodani E, Kusama Y, Kawada T¹⁾ (1) Department of Hygiene and Public Health,Nippon medical School,, 2) Cardiovascular center,Nippon medical school Chiba-hokusoh Hospital) : Subjectively evaluated frequency of salty foods intake, urinary sodium xcretion, and blood pressure in a middle-aged Japanese population. *Environ Health Prev Med* 2013 ; 18 (4) : 330-334.
- 4) Nakagomi A, Saiki Y, Kosugi M, Kohashi K, Yoshikawa M¹⁾, Yamane Y, Kodani E, Kusama Y, Atarashi

- H, Mizuno K¹) : Effect of insulin resistance associated with compensatory hyperinsulinemia on the long-term prognosis in patients with vasospastic angina. *Int J Cardiol* 2013 ; 167 (5) : 2222-2227.
- 5) Otsuka T¹), Munakata R²), Kato K¹), Kodani E, Ibuki C²), Kusama Y, Seino Y²), Kawada T¹) (¹) Department of Hygiene and Public Health, Nippon medical School, ²) Cardiovascular center, Nippon medical school Chiba-hokusoh Hospital) : Oscillometric measurement of brachial artery cross-sectional area and its relationship with cardiovascular risk factors and arterial stiffness in a middle-aged male population. *Hypertens Res* 2013 ; 36 (10) : 910-915.
- 6) Kodani E, Matsumoto S¹), Igawa O, Kusama Y, Atarashi H (¹) Yokohama Shin Midori General Hospital) : Effect of carvedilol on reduction in heart rate in patients with chronic atrial fibrillation. *J Clin Med Res* 2013 ; 5 (6) : 451-459.
- 7) Kurita A¹), Takase B²), Kodani E, Iwahara S³), Kusama Y, Atarashi H (¹) Fukuinkai Medical Welfare Corporation, ²) Department of Intensive Care Medicine and Cardiology, National defense Medical College, ³) Minami Machida Hospital) : Prognostic value of heart rate variability in comparison with annual health examinations in very elderly subjects. *J Nippon Med School* 80 (6) : 2013 ; 80 (6) : 420-425.
- 8) 小谷英太郎, 新 博次, 奥村 謙¹), 井上 博²), 山下武志³) (¹) 弘前大学, ²) 富山大学, ³) 心臓血管研究所) : 心房細動症例の抗凝固療法におけるプロコローム併用の現状とワルファリン投与量 : J-RHYTHM Registry からの報告. *心電図* 2013 ; 33 (1) : 195-208.
- 9) Otsuka T¹), Kato K¹), Ibuki C²), Kodani E, Kusama Y, Kawada T¹) (¹) Department of Hygiene and Public Health, Nippon medical School, ²) Cardiovascular center, Nippon medical school Chiba-hokusoh Hospital) : Does Subjective Evaluation of the Frequency of Salty Food Intake Predict the Risk of Incident Hypertension? - A 4-year Follow-up Study in a Middle-aged Population. *Intern Med J* 2013 ; 43 (12) : 1316-1321.
- 10) Nakagomi A : Effect of Toll-Like Receptor in Periodontal Bacteria-Accelerated Abdominal Aortic Aneurysms. *Circulation Journal* 2013 ; 77 (6) : 1414-1415.
- 11) Hayama Y¹), Kaitani K¹), Onishi N¹), Tamaki Y¹), Miyake M¹), Kondo H¹), Tamura T¹), Motooka M¹), Izumi C¹), Igawa O, Nakagawa Y¹) (¹) Department of Cardiovascular Medicine, Tenri Hospital) : Ablation of idiopathic ventricular fibrillation targeting short coupled ventricular premature contractions originating from a right ventricular papillary muscle. *Journal of Cardiology* 2014 ; 9 (3) : 113-116.
- 12) Kodani E : Therapeutic options for the treatment of venous thromboembolism in case of warfarin intolerance : Effects of novel oral anticoagulants. *J Cardiol Case* 2013 ; 8 (3) : 116-117.
- 13) Nagai R¹), Kinugawa K²), Inoue H³), Atarashi H, Seino Y⁴), Yamashita T⁵), Shimizu W⁶), Aiba T⁷), Kitakaze M⁷), Sakamoto A⁸), Ikeda T⁹), Imai Y¹⁰), Daimon T²), Fujino K^{1,1}), Nagano T^{1,2}), et al. (¹) Jichi Medical University, ²) Department of Cardiovascular Medicine, University of Tokyo Graduate School of Medicine, ³) The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, ⁴) Department of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ⁵) The Cardiovascular Institute, ⁶) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, ⁷) Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁸) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, ⁹) Department of Cardiology, Omori Medical Center, Toho University, ¹⁰) Department of Cardiovascular Medicine, Jichi Medical University) : Urgent management of rapid heart rate in patients with atrial fibrillation/flutter and left ventricular dysfunction : Comparison of the ultra-short-acting β 1-selective blocker landiolol with digoxin (J-Land Study). *Circulation Journal* 2013 ; 77 (4) : 908-916.
- 14) Inoue H¹), Okumura K²), Atarashi H, Yamashita T³), Origasa H⁴), Kumagai N⁵), Sakurai M⁶), Kawamura Y⁷), Kubota I⁸), Matsumoto K⁹), Kaneko Y^{1,0}), Ogawa S^{1,1}), Aizawa Y^{1,2}), Chinushi M^{1,3}), Kodama

- 1^{1, 4}), et al. (1) Second Department of Internal Medicine, Toyama University Hospital, (2) Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, (3) The Cardiovascular Institute, (4) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama, (5) Kochi Medical School Clinical Research Center, Kochi University, (6) Department of Cardiology, Hokko Memorial Hospital Hokaido, (7) Health Administration Center, Asahikawa Medical University, (8) Internal Medicine 1, Yamagata University School of Medicine, (9) Cardiology Department, International Medical Center, Saitama Medical University, (10) Department of Medicine and Biological Science, Gunma University Graduate School of Medicine) : Target international normalized ratio values for preventing thromboembolic and Hemorrhagic events in Japanese Patients with non-valvular atrial fibrillation : Results of the J-Rhythm Registry. *Circulation Journal* 2013 ; 77 (9) : 2264-2270.
- 15) Kinugawa K¹), Nagai R²), Inoue H³), Atarashi H, Seino Y⁴), Yamashita T⁵), Shimizu W⁶), Aiba T⁷), Kitakaze M : Impacts of Patient Characteristics on the Effectiveness of Landiolol in AF/AFL Patients Complicated with LV Dysfunction : Subgroup Analysis of the J-Land Study. *Advance in Therapy* 2014.

(2) 総説 :

- 1) 新 博次 : 抗凝固療法の新しい方向性① : ワルファリン VS 新規抗凝固薬. *心臓* 2013 ; 45 (6) : 738-740.
- 2) 新 博次 : 心房細動 : 最近の動向. *臨床と研究* 2013 ; 90 (9) : 1155-1158.
- 3) 小谷英太郎 : 主訴から診断へ : 臨床現場の施行経路 動悸 : 動悸を訴える患者が来たら. *診断と治療社* 2013 ; 101 (suppl) : 191-199.
- 4) 岡崎怜子, 新 博次 : 不整脈診断における P 波認識の意義. *レジデント* 2014 ; 7 (3) : 12-21.
- 5) 新 博次 : 心房細動 : 新たな治療戦略. *Ther Resa* 2013 ; 34 (8) : 1073-1076.
- 6) 井川 修 : 循環器疾患診療に役立つ臨床心臓構造学. *小児科診療* 2013 ; 76 (11) : 1639-1646.
- 7) 新 博次 : 抗凝固療法の新しい方向性② : ワルファリン VS 新規抗凝固薬. *心臓* 2013 ; 45 (6) : 741-743.

(3) 症例報告 :

- 1) 植竹俊介¹), 宮内靖史¹), 林 明總¹), 高橋健太¹), 坪井一平¹), 林 洋史¹), 中辻綾乃¹), 村田広茂¹), 山本哲平¹), 堀江 格¹), 淀川顕司¹), 岩崎雄樹¹), 水野杏一¹), 岡崎玲子, 井川 修, その他 1 名 (1) 付属病院 循環器内科) : 発作性心房細動を伴い電気生理学的特性を評価し得た左房索状構造物の 1 例. *臨床心臓電気生理* 2013 ; 36 : 37-44.

著 書

- 1) 小谷英太郎, 新 博次, 奥村 謙¹), 井上 博²), 山下武志³) (1) 弘前大学, (2) 富山大学, (3) 心臓血管研究所) : [分担] 心房細動に対するワルファリン療法における日本人の至適 PT-INR : J-RHYTHM Registry からの報告. *循環器薬物治療実践シリーズ 11 抗血栓治療薬の現状と未来* (新 博次・矢坂正弘・小野克重・平岡昌和 編), 2013 ; pp7-16, ライフメディコム.
- 2) 井川 修 : [分担] 心房期外収縮. *循環器疾患 最新の治療 2014-2015* (永井 良編), 2014 ; pp274-277, 南光堂.
- 3) 井川 修 : [分担] 心房細動カテーテルアブレーションに必要な解剖学. *心房細動カテーテルアブレーション* (山根 禎一編), 2013 ; pp16-30, メジカルビュー社.
- 4) 草間芳樹 : [分担] 運動負荷心電図検査の現状と展望. *日本心電学会 30 年の軌跡* (児玉 逸雄), 2013 ; pp209-212, 日本心電学会.
- 5) 新 博次 : [分担] 洞不全症候群. *今日の治療指針 私はこうしている TODAY'S THERAPY 2014* (山口徹, 北原光夫 監 福井次矢, 高木誠, 小室一成 編), 2014 ; pp315-376, 医学書院.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 新 博次：心房細動と抗凝固療法. 日本循環器学会中国四国地方会（第102回）（高松市），2013. 5.
- 2) 井川 修，岡崎怜子，丹野和孝¹⁾，新 博次¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 病理部）：循環器診療に役立つ心臓解剖 Educational Seminar on the Anatomy of the Human Heart：Basic anatomy of the heart from a clinical perspective. 日本不整脈学会大会（28回）（東京），2013. 7.
- 3) 井川 修：デバイス植込みに伴う合併症を避けるために必要な解剖. 植込みデバイス関連冬季大会（6回）（広島市），2014. 2.
- 4) 井川 修：心房細動アブレーションの pitfall. 日本不整脈学会カテーテルアブレーション関東秋期大会（横浜市），2013. 11.
- 5) 井川 修：アブレーションに必要な心臓解剖. 日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2013（横浜市），2013. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 高仲雅子¹⁾，緋田雅美¹⁾，小谷英太郎¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院看護部）：院内のがん関連認定看護師の認知と活用の現状. 日本緩和医療学会学術大会（第18回）（横浜），2013. 6.
- 2) 井川 修：Anatomical and Pathological Information Relevant to Atrial Fibrillation：左房構造の特殊性について（心房細動に関連する解剖・病理）. 日本不整脈学会大会（28回）（東京），2013. 7.
- 3) 新 博次：心原性脳塞栓症を見直そう：J-Rhythm Registry をふまえて. 日本心臓病学会学術集会（61回），2013. 9.
- 4) Saito T¹⁾，Asai K¹⁾，Amano Y²⁾，Sato S³⁾，Takano H¹⁾，Mizuno K¹⁾，Shimizu W¹⁾（¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, Tokyo, ³⁾ Central Electron Microscopic Institute, Nippon Medical School, Tokyo）：Prognostic Utility of Ultrastructural Features in Early Dilated Cardiomyopathy before Presenting Cardiac Magnetic Resonance Findings. 日本循環器学会学術集会（第78回）（東京），2014. 3.
- 5) Okazaki R, Tetuou-Tukuda Y¹⁾，Iwasaki Y¹⁾，Miyuchi Y¹⁾，Igawa O, Atarashi H（¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School）：Why So Few Women in Interventional Cardiac Electrophysiology?（カテーテル治療における女性医師の勤務環境：現状と課題）. 日本循環器学会学術集会（第78回）（東京），2014. 3.
- 6) Igawa O, Atarashi H, Shimizu W¹⁾（¹⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School）：Specialize in Cardiac Anatomy Relating to SVT and Catheter Ablation. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRS 2013) & CardioRhythm 2013 (6th) (Hong Kong), 2013. 10.
- 7) Inoue H¹⁾，Atarashi H, Okumura K²⁾，Yamashita T³⁾，Origasa H¹⁾（¹⁾ Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, ²⁾ Hirosaki University Graduate School of Medicine, ³⁾ The Cardiovascular Institute）：Optimal Strategy of Anticoagulation to Prevent Embolic and Hemorrhagic Events in Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation：Insight from J-RHYTHM Registry. 日本循環器学会学術集会（第78回）（東京），2014. 3.

(3) セミナー：

- 1) Igawa O：Views on EPS：Including Relation to Cardiac Anatomical Observations EPSの見方：心臓の解剖学的所見との関連を含む. 日本不整脈学会学術大会（28回）（東京），2013. 7.
- 2) 新 博次：抗血栓療法の実況. 日本心電学会学術集会（30回）（青森市），2013. 10.
- 3) 新 博次：心房細動治療の最新の話：心房細動治療（薬物）ガイドライン改訂版を中心に. 植込みデバイス関連冬季大会（第6回）（広島市），2014. 2.

- 4) 新 博次：心房細動に対する抗凝固療法の新時代：日本人におけるエビデンスから学ぶ，日本循環器学会学術集会（第78回）（東京），2014. 3.
- 5) 井川 修：心臓構造の特殊性．日本小児循環器学会総会・学術集会 若手医師の為の教育セミナー（第10回）（東京），2013. 7.
- (4) ワークショップ：
- 1) 大野 敦¹⁾，植木彬夫¹⁾，小谷英太郎，住友秀孝²⁾，関口芳弘³⁾，宮川高一⁴⁾（¹⁾ 東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科（糖尿病治療多摩懇話会），²⁾ 立川相互病院内分泌代謝科（糖尿病治療多摩懇話会），³⁾ 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科（糖尿病治療多摩懇話会），⁴⁾ クリニックみらい国立（糖尿病治療多摩懇話会）：糖尿病患者における脂質異常症の検査方針に関するアンケート調査．日本糖尿病合併症学会（第28回），2013. 9.
- 2) 大野 敦¹⁾，植木彬夫¹⁾，小谷英太郎，住友秀孝²⁾，関口芳弘³⁾，宮川高一⁴⁾（¹⁾ 東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科（糖尿病治療多摩懇話会），²⁾ 立川相互病院内分泌代謝科（糖尿病治療多摩懇話会），³⁾ 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科（糖尿病治療多摩懇話会），⁴⁾ クリニックみらい国立（糖尿病治療多摩懇話会）：糖尿病患者における脂質異常症の管理方針に関するアンケート調査．日本糖尿病合併症学会（第28回），2013. 9.
- (5) 一般講演：
- 1) 栗田 明¹⁾，高瀬凡平²⁾，小谷英太郎，岩原信一郎³⁾，品川直介⁴⁾，草間芳樹，新 博次（¹⁾ 福音会医務室，²⁾ 防衛医科大学校救急センター，³⁾ 南町田病院，⁴⁾ 品川クリニック）：超高齢者の健康診断データと心拍数変動指標．日本内科学会講演会（第110回）（東京），2013. 4.
- 2) 大野 敦¹⁾，植木彬夫¹⁾，小谷英太郎，住友秀孝¹⁾，関口芳弘¹⁾，宮川高一¹⁾（¹⁾ 糖尿病治療多摩懇話会）：多摩地域における「糖尿病とがん」に関するアンケート調査．日本内科学会講演会（第110回）（東京），2013. 4.
- 3) 西城由之，若栗大朗，野崎文華，原千鶴子，小橋啓一，森澤太一郎，小杉宗範，吉川雅智，小谷英太郎，中込明裕，草間芳樹，新 博次：特発性冠動脈解離を原因とするAMIに対しPCIを施行した1例．日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会（第42回），2013. 5.
- 4) 小橋啓一，小谷英太郎，野崎文華，原千鶴子，西城由之，森澤太一郎，小杉宗範，吉川雅智，中込明裕，草間芳樹，新 博次：出血性腎嚢胞を有する両側腎動脈狭窄症に対し腎動脈ステント留置術により降圧，腎機能改善および心不全の改善を認めた1例．多摩地区虚血性心疾患研究会（第48回），2013. 5.
- 5) 小谷英太郎，飯田美佐子，柴田まり子，加藤活人，草間芳樹，新 博次：DPP-4阻害薬によるインスリン分泌促進効果の臨床的評価－SU薬併用の有無による検討．日本糖尿病学会年次学術集会（第56回）（熊本），2013. 5.
- 6) 宗像 亮¹⁾，大塚俊昭²⁾，加藤活人²⁾，小谷英太郎，雪吹周生¹⁾，清野精彦¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院循環器センター，²⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学教室）：オシロメトリック法による上腕動脈コンプライアンス指標は冠動脈狭窄病変の存在を予測できるか．臨床高血圧フォーラム（第2回），2013. 5.
- 7) 栗田 明¹⁾，高瀬凡平²⁾，小谷英太郎，品川直介³⁾，岩原信一郎⁴⁾，草間芳樹，新 博次（¹⁾ 福音会医務室，²⁾ 防衛医科大学校救急センター，³⁾ 品川クリニック，⁴⁾ 南町田病院）：超高齢者の心拍数変動指標による生命予後評価の有用性：健康診断データとの比較．日本老年医学会総会（第55回）（大阪），2013. 6.
- 8) 小杉宗範，岡崎怜子，川口直美，小谷英太郎，中込明裕，草間芳樹，新 博次，長田真一¹⁾，東 直行¹⁾，清水涉²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 皮膚科，²⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科）：腎不全が急速に進行した高齢者 Henoch-Schönlein 紫斑病（HSP）の1例．日本内科学会関東地方会（第597回），2013. 6.
- 9) 加藤活人¹⁾，大塚俊昭¹⁾，可知悠子¹⁾，今 陽一²⁾，小谷英太郎，川田智之¹⁾（¹⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学教室，²⁾ 富士重工業健康保険組合太田記念病院総合健診部）：耐糖能悪化リスク予測因子としてのC反応性蛋白の有用性．日本循環器病予防学会・日本循環器管理研究協議会総会（第49回）（金沢市），2013. 6.

- 10) 大塚俊昭¹⁾, 加藤活人¹⁾, 可知悠子¹⁾, 小谷英太郎, 川田智之¹⁾ (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学教室) : 睡眠時間および睡眠による倦怠感とメタボリックシンドローム発症リスク: 職域男性コホートにおける検討. 日本循環器病予防学会・日本循環器管理研究協議会総会 (第49回) (金沢市), 2013. 6.
- 11) 原千鶴子, 小谷英太郎, 岡崎怜子, 野崎文華, 川口直美, 遠藤康実, 中込明裕, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾, 丸山雄二²⁾, 井村 肇²⁾ (1) 日本医科大学内科学(循環器内科学), 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科) : 長い洞停止を伴う混合型神経調節性失神の若年男性例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第228回), 2013. 6.
- 12) 西城由之, 小橋啓一, 森澤太一郎, 小杉宗範, 岡崎怜子, 吉川雅智, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : 造影剤使用後の尿量減少にトルバプタン投与が奏功した腎機能低下例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第229回), 2013. 9.
- 13) 野崎文華, 中込明裕, 小橋啓一, 森澤太一郎, 西城由之, 小杉宗範, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院循環器内科) : 心臓超音波検査にて偶発的に発見された大動脈弁四尖弁の2症例. 日本内科学会関東地方会例会 (第599回), 2013. 9.
- 14) 高伸雅子¹⁾, 緋田雅美¹⁾, 小谷英太郎 (1) 日本医科大学多摩永山病院看護部) : A病院における専門看護師/認定看護師/有資格看護師の活用状況の把握と教育プログラムの再考. 日本看護学会-看護管理-学術集会 (第44回), 2013. 9.
- 15) 小杉宗範, 中込明裕, 野間さつき, 野崎文華, 原千鶴子, 小橋啓一, 西城由之, 森澤太一郎, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学 循環器内科) : 冠攣縮性狭心症におけるカルシウム拮抗薬抵抗性の機序に関する検討. 日本心臓病学会学術集会 (第61回) (熊本市), 2013. 9.
- 16) 中込明裕, 小橋啓一, 野間さつき, 野崎文華, 森澤太一郎, 西城由之, 小杉宗範, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学 循環器内科) : 炎症と高インスリン血症は冠攣縮性狭心症患者の心事故を増加させる. 日本心臓病学会学術集会 (第61回) (熊本市), 2013. 9.
- 17) 宗像 亮¹⁾, 大塚俊昭²⁾, 稲見 徹¹⁾, 小谷英太郎, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 清水 渉³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 内科, 2) 日本医科大学 衛生学公衆衛生学, 3) 日本医科大学付属病院 循環器内科) : 上腕動脈コンプライアンス指標による冠動脈狭窄病変の存在予測: 脈派伝播速度との比較. 日本心臓病学会学術集会 (第61回) (熊本市), 2013. 9.
- 18) 小谷英太郎, 森澤太一郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学 循環器内科) : 慢性腎臓病を合併する脂質異常症における脂質管理目標値達成率の現状: -動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012年版の管理区分に基づく検討. 日本心臓病学会学術集会 (第61回) (熊本市), 2013. 9.
- 19) 大野 敦¹⁾, 伊藤 聡²⁾, 小谷英太郎, 但木 太³⁾, 朝比奈崇介⁴⁾, 牛川憲治⁵⁾, 小澤幸彦⁶⁾, 加地紀夫⁷⁾, 川村益彦⁸⁾, 藤井仁美⁹⁾, 宮川高一¹⁰⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, 2) 町田市民病院内科, 3) 東海大学八王子病院糖尿病・代謝腎透析内科, 4) 朝比奈クリニック, 5) 小宮山メディカルクリニック, 6) みなみの糖クリニック, 7) 加地医院, 8) 川村クリニック, 9) 多摩センタークリニックみらい, 10) クリニックみらい国立) : 南多摩地域の内科医における糖尿病患者の血糖管理方針に関するアンケート調査(第1報). 日本肥満学会 (第34回) (東京都), 2013. 10.
- 20) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 小谷英太郎, 住友秀孝²⁾, 関口芳弘³⁾, 宮川高一⁴⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科 (糖尿病治療多摩懇話会), 2) 立川相互病院内分泌代謝科 (糖尿病治療多摩懇話会), 3) 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科 (糖尿病治療多摩懇話会), 4) クリニックみらい国立 (糖尿病治療多摩懇話会), 5) 糖尿病治療多摩懇話会 (糖尿病治療多摩懇話会)) : 糖尿病患者における脂質異常症の管理状況の推移: 2000, 2008, 2013年度のアンケート調査結果の比較. 日本肥満学会 (第34回) (東京都), 2013. 10.
- 21) 岡崎怜子, 井川 修, 小谷英太郎, 川口直美, 井野 威, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 宮内靖史¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学 循環器内科) : 心肺停止 (心室細動) 蘇生後症例の検討: とくに冠攣縮性狭心症に対する

- ICD 植込みに関する最近の動向. 日本心電学会学術集会 (第 30 回) (青森市), 2013. 10.
- 22) 小谷英太郎, 新 博次¹⁾, 井上 博¹⁾, 奥村 謙¹⁾, 山下武志¹⁾ (1) 富山大学第 2 内科 (J-RHYTHM Registry Investigators), ²⁾ 弘前大学循環器科 (J-RHYTHM Registry Investigators), ³⁾ 心臓血管研究所 (J-RHYTHM Registry Investigators)): 弁膜症性心房細動例における抗凝固療法の現状: J-RHYTHM Registry からの検討. 日本心電学会学術集会 (第 30 回) (青森市), 2013. 10.
- 23) 大塚俊昭¹⁾, 加藤活人¹⁾, 宗像 亮²⁾, 小谷英太郎, 雪吹周生²⁾ (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院循環器センター): 中年男性コホートにおける脂質異常症と高血圧発症リスクとの関連性. 日本高血圧学会総会 (第 36 回) (大阪市), 2013. 10.
- 24) 小谷英太郎, 新 博次, 井上 博¹⁾, 奥村 謙²⁾, 山下武志³⁾ (1) 富山大学第 2 内科 (J-RHYTHM Registry Investigators), ²⁾ 弘前大学循環器科 (J-RHYTHM Registry Investigators), ³⁾ 心臓血管研究所 (J-RHYTHM Registry Investigators)): ワルファリン療法中の心房細動例における INR 別イベント発症率: J-RHYTHM Registry から. 日本臨床生理学会総会 (第 50 回) (東京都), 2013. 11.
- 25) 大塚俊昭¹⁾, 小谷英太郎 (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学): 喫煙は高血圧発症に対する危険因子か?: 疫学的アプローチによる検討. 日本臨床生理学会総会 (第 50 回) (東京都), 2013. 11.
- 26) 西城由之, 野間さつき, 齋藤恒徳, 野崎文華, 原千鶴子, 小橋啓一, 森澤太一郎, 小杉宗範, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: 造影剤使用後の尿量減少にトルバプタン投与が奏功した腎機能低下例. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第 49 回), 2013. 11.
- 27) 小谷英太郎³⁾, 宮川高一^{1,3)}, 小俣百世^{2,3)}, 小杉宗範, 草間芳樹, 新 博次 (1) クリニックみらい国立 (南多摩循環器・腎臓・内分泌代謝疾患研究会), ²⁾ 八王子東町クリニック (南多摩循環器・腎臓・内分泌代謝疾患研究会), ³⁾ (南多摩循環器・腎臓・内分泌代謝疾患研究会)): 高血圧・高コレステロール血症合併例に対する Ca 拮抗薬/スタチン配合錠の有用性. 日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会 (第 48 回) (東京都), 2014. 1.
- 28) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 小谷英太郎, 住友秀孝²⁾, 関口芳弘³⁾, 宮川高一⁴⁾, 朝比奈崇介⁵⁾, 伊藤 聡⁶⁾, 牛川憲司⁷⁾, 小澤幸彦⁸⁾, 藤井仁美⁹⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, ²⁾ 立川相互病院内分泌代謝科, ³⁾ 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, ⁴⁾ クリニックみらい国立, ⁵⁾ 朝比奈クリニック, ⁶⁾ 町田市民病院内科, ⁷⁾ 小宮メディカルクリニック, ⁸⁾ みなみの糖クリニック, ⁹⁾ 多摩センタークリニックみらい): 多摩地域におけるインクレチン製剤の使用状況に関するアンケート結果の推移. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 51 回), 2014. 1.
- 29) 武 雅樹, 岡崎怜子, 小谷英太郎, 小杉宗範, 中込明裕, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (循環器内科学)): 心臓停止蘇生後に腹腔内出血を来し, 診断に至った正中弓状韌帯圧迫症候群の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 603 回), 2014. 2.
- 30) Kodani E¹⁾, Atarashi H¹⁾, Okumura K¹⁾, Inoue H¹⁾, Yamashita T¹⁾ (1) J-RHYTHM Registry Investigators, Tokyo): Status of Anticoagulation Therapy and Events in Japanese Patients with Valvular Atrial Fibrillation: A Report from the J-RHYTHM Registry. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回) (東京都), 2014. 3.
- 31) 小橋啓一, 中込明裕, 西城由之, 小杉宗範, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院 循環器内科): エイコサペンタエン酸は脂質異常症を有する慢性心不全患者の炎症を抑え, 心機能と長期予後を改善する. 日本心臓病学会 (61 回), 2013. 9.
- 32) 高野仁司¹⁾, 大場崇芳²⁾, 山本英世³⁾, 宮地秀樹, 乾 恵輔⁴⁾, 川中秀和⁵⁾, 高橋保裕⁶⁾, 菊地有史³⁾, 田邊 潤⁵⁾, 稲見茂信¹⁾, 田中邦夫⁴⁾, 草間芳樹, 清野精彦²⁾, 水野杏一⁷⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院 循環器内科, ²⁾ 千葉北総病院 内科, ³⁾ 武蔵小杉病院 内科, ⁴⁾ 博慈会記念病院 循環器科, ⁵⁾ 静岡医療センター 循環器内科, ⁶⁾ 同愛記念病院 循環器内科, ⁷⁾ 付属病院 内科学第一講座): 経皮的冠動脈インターベンション時の心筋傷害と N-Terminal Pro-B-Type Natriuretic Peptide 上昇の関係. 日本心臓病学会学術集会 (61 回), 2013. 9.
- 33) 小野卓哉¹⁾, 八名和夫²⁾, 淀川顕司¹⁾, 板倉潮人³⁾, 本間 博¹⁾, 新 博次, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院 循環器内

- 科, ²⁾ 法政大学理工学応用情報科学科, ³⁾ 武蔵小杉病院 (呼吸器内科) : T-wave vector alternans の方法論としての検証. 日本心電学会学術集会 (第 30 回) (青森市), 2013. 10.
- 34) Saito T, Asai K¹⁾, Sato S¹⁾, Amano Y¹⁾, Takano H¹⁾, Mizuno K¹⁾, Shimizu W¹⁾ ¹⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Prognostic Utility of Myocardial Autophagy and Ultrastructural Findings in Early Dilated Cardiomyopathy Comparison With Cardiac Magnetic Resonance. American Heart Association Scientific Session (Dallas), 2013. 11.
- 35) 野崎文華, 小谷英太郎, 森澤太一郎, 西城由之, 小橋啓一, 小杉宗範, 井川 修, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院 (循環器内科) : 高齢で発見された右室二腔症・心室中隔欠損症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 230 回), 2013. 12.
- 36) Nozaki A, Saiki Y, Morisawa T, Kohashi K, Kosugi M, Kodani E, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H, Takahashi Y¹⁾ (1) Division of Cardiology The Fraternity Memorial Hospital) : Successful transvenous intravascular ultrasound-guided percutaneous coronary intervention to treat a chronic total occlusion with a stent jail. Asia PCR (Singapolu), 2014. 1.
- 37) Igawa O, Okazaki R, Adachi M¹⁾, Ino T, Kusama K, Atarashi H, Shimizu W²⁾ (1) Department of Cardiology, Sanin Rosai Hospital, Yonago, ²⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Bulge Just above Koch's Triangle : Important Structural Findings Related to the Catheter Ablation of AVNRT. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回), 2014. 3.
- 38) Endoh Y¹⁾, Endoh I, Hsu K²⁾, Thomas S³⁾, Geczy C²⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Inflammation and Infection Research Centre, School of Medical Sciences, University of New South Wales, Australia, ³⁾ Centre for Vascular Research and Department of Pathology, School of Medical Sciences, University of New South Wales, Australia) : S100A8 Induction in Macrophages is Dependent on IL-10 and Reactive Oxygen Species. 日本循環器学会学術集会 (東京), 2014. 3.
- 39) Inoue H¹⁾, Atarashi H, Okumura K²⁾, Yamashita T³⁾, Origasa H⁴⁾ (1) Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Toyama, ²⁾ Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, ³⁾ 4.The Cardiovascular Institute, Tokyo, ⁴⁾ Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama Graduate School of Medicine) : Impact of Gender on Prognosis of Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation : A Sub-analysis of J-RHYTHM Registry. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回) (東京), 2014. 3.
- 40) Igawa O, Okazaki R, Adachi M¹⁾, Ino T, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W²⁾ (1) Department of Cardiology, Sanin Rosai Hospital, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : New Anatomical Finding at the Base of Left Atrial Appendage Related to Catheter Ablation : Branching of Left Lateral Ridge. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回) (東京), 2014. 3.
- 41) Igawa O, Okazaki R, Adachi M¹⁾, Ino T, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W²⁾ (1) Department of Cardiology, Sanin Rosai Hospital, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Anatomical Characteristics of Sinus Node Artery Located on the Left Side : Important Findings for the Catheter Ablation in Left Atrium. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回) (東京), 2014. 3.
- 42) Igawa O, Okazaki R, Adachi M¹⁾, Ino K, Atarashi H, Shimizu W²⁾ (1) Department of Cardiology, Sanin Rosai Hospital, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Reversal of Ventriculoarterial Junction Level of Aorta and Pulmonary Trunk : Essential Information for the Catheter Ablation at Ventricular Outflow Tract. 日本循環器学会学術集会 (第 78 回) (東京), 2014. 3.
- 43) Igawa O, Okazaki R, Adachi M¹⁾, Ino T, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W²⁾ (1) Department of Cardiology, Sanin Rosai Hospital, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Myocardium Surrounding Non-coronary Aortic Sinus : New Anatomical Information Related to Catheter Ablation of ATP

- Sensitive Atrial Tachycardia. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 44) Nakagomi A, Noma S, Kohashi K, Kosugi M, Endoh I, Kawaguchi N, Endoh Y¹⁾, Kusama Y, Seino Y²⁾, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, 2) Cardiovascular Center, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School) : Upregulation of Monocyte Proinflammatory Cytokines Production by C-Reactive Protein Predicts Poor Outcomes in Patients with Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 45) Nakagomi A, Noma S, Kohashi K, Kosugi M, Endoh I, Kaguchi N, Endoh Y¹⁾, Kusama Y, Seino Y²⁾, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Up-regulated Monocyte Interleukin-8 Production Predicts Poor Outcomes in Patients with Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 46) Nakagomi A, Shibui T¹⁾, Noma S, Kohashi K, Saiki Y, Kosugi K, Endoh I, Kawaguchi N, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Differential Effects of Atorvastatin and Pravastatin on Insulin Sensitivity, Oxidative Stress Markers and Progression of Carotid Atherosclerosis in Hypercholesterolemic Patients. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 47) Kosugi M, Nakagomi A, Noma S, Saitoh T, Nozaki A, Hara C, Saiki Y, Morisawa T, Kohashi K, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Impacts of Compensatory Hyperinsulinemia and Inflammation on a Refractory Response to Calcium Channel Blockers in Vasospastic Angina Patients. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 48) Kosugi M, Nakagomi A, Noma S, Saitoh T, Nozaki A, Hara C, Saiki Y, Morisawa T, Kohashi K, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Impact of a Refractory Response to Calcium Channel Blockers and High-density Lipoprotein Cholesterol on Multivessel Spasms in Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 49) Kohashi K, Nakagomi A, Noma S, Morisawa T, Kosugi M, Endoh I, Kawaguchi N, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Effects of Eicosapentaenoic Acid on Adiponectin, Cardiac Function, and the Long-Term Prognosis in Chronic Heart Failure Patients. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 50) Noma S, Nakagomi A, Kohashi K, Kosugi M, Endoh I, Kawaguchi N, Endoh Y¹⁾, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Upregulated Monocyte Tissue Factor Activity is Associated with Inflammation and Endothelial Dysfunction and Predicts Poor Outcomes in Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 51) Chishaki A¹⁾, Kumagai N²⁾, Inoue H³⁾, Okumura K⁴⁾, Atarashi H, Yanashita T⁵⁾, Origasa H⁶⁾, Takahashi N⁷⁾, Saikawa T⁸⁾, Oigawa S⁹⁾ (1) Department of Health Sciences, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, 2) International University of Health and Welfare, Mita Hospital, 3) Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, 4) Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, 5) Department of Cardiovascular Medicine, The Cardiovascular Institute, 6) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama Graduate School of Medicine, 7) Department of Cardiology and Clinical Examination, Oita University, 8) Yufuin Kohseinenkin Hospital, 9) International University of Health and Welfare, Mita Hospital) : Clinical Outcomes of Warfarin Treatment in the Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation : A Propensity-matched Analysis of the J-RHYTHM Registry. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 52) Okumura K¹⁾, Atarashi H, Inoue H²⁾, Yamashita T³⁾, Origasa H⁴⁾, Tomita H¹⁾ (1) Department of Thera-

peutic Strategy for Heart Failure, The University of Tokyo, ²⁾ Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, ³⁾ Department of Cardiovascular Medicine, The Cardiovascular Institute, ⁴⁾ Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences) : Validation of CHA2DS2-VASc and HAS-BLED Scores in Japanese Patients with Atrial Fibrillation : An Analysis of J-RHYTHM Registry. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.

- 53) Kinugawa K¹⁾, Nagai R²⁾, Inoue H³⁾, Atarashi H, Seino Y⁴⁾, Yamashita T⁵⁾, Shimizu W⁶⁾, Aiba T⁷⁾, Kitakaze M⁷⁾, Sakamoto A⁸⁾, Ikeda T⁹⁾, Imai Y^{1.0)}, Daimon T^{1.1)}, Fujino K^{1.2)}, Nagano T^{1.3)}, et al. (1) Department of Therapeutic Strategy for Heart Failure, The University of Tokyo, ²⁾ Jichi Medical University, ³⁾ Department of Cardiology, Toyama University, ⁴⁾ Cardiovascular, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Cardiology, The Cardiovascular Institute, ⁶⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, ⁷⁾ Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, ⁸⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, ⁹⁾ Department of Cardiology, Omori Medical Center, Toho University, ¹⁰⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Jichi Medical University) : Impacts of Patient Characteristics on the Effectiveness of Landiolol in AF/AFL Patients Complicated with LV Dysfunction : Sub-analysis of J-Land Study. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 54) Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Kodani E, Iwahara S³⁾, Kondoh S³⁾ (1) Fukuinkai, Machida, ²⁾ National Defense Medical College, ³⁾ Minamimachida Hospital) : Music with Liturgies Attenuates Autonomic Nerve Functions and Plasma Cytokines in Elderly Cardiac Subjects. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 55) Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Kodani E, Iwahara S³⁾ (1) Fukuinkai, Machida, ²⁾ National Defense Medical College, ³⁾ Minamimachida Hospital) : Management of Deep Vein Thrombosis by a Low Dose of Sarbogrelate, a Specific 5 HT2-Receptor Antagonist, in Elderly Cardiovascular Disorders. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 56) Adachi M¹⁾, Endoh S¹⁾, Kasahara T¹⁾, Ohtahara A¹⁾, Okasaki S¹⁾, Mizuta E¹⁾, Morishita T¹⁾, Igawa O (1) Department of Cardiology, Sanin Rosai Hospital) : Subclinical Hypothyroidism Predicts the Early Recurrence of Atrial Fibrillation. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 57) Maruyama M¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Abe J¹⁾, Yodogawa K¹⁾, Atarashi H, Shimizu W²⁾ (1) Cardiovascular Center, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : A New Criterion for Entrainment Mapping in Patients with Intra-Atrial Reentrant Tachycardia. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- 58) Igawa O, Adachi M¹⁾, Okazaki R, Kawaguchi N, Kodani E, Kusama Y, Ino T, Atarashi H, Mizuno K²⁾ (1) Department of Cardiology, Sanin Rosai Hospital, ²⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : The Rare Type of Pericardial Reflection on the Right Side -Cardiac Structure Related to Epicardial Catheter Mapping. Heart Rhythm 2013, the Heart Rhythm Society's 34th Annual Scientific Sessions (Denver,Colorado), 2013. 5.
- 59) 宮崎 聡¹⁾, 平田成正³⁾, 山本康孝³⁾, 野坂美仁³⁾, 井川 修³⁾, 吉田明雄²⁾, 水田栄之助³⁾, 大田原顕²⁾, 浜田紀宏²⁾, 萩野和秀²⁾, 加藤雅彦²⁾, 山本一博²⁾, 桑原政成³⁾, 久留一郎³⁾ (1) 野島病院, ²⁾ 鳥取大学医学部病態情報内科学, ³⁾ 鳥取大学大学院医学系研究科再生医療学分野) : Ca拮抗薬 Azelnidipine が高血圧患者の尿酸代謝に及ぼす効果 (第2報). 日本痛風・核酸代謝学会総会 (第47回) (神戸市), 2014. 2.
- (6) デイバートセッション :
- 1) 井川 修 : 正常刺激伝導系の構造学. 日本小児循環器学会総会・学術集会 (第47回) 不整脈勉強会 (第27回) (東京), 2013. 7.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) 栗田 明¹⁾, 高瀬凡平²⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 岩原信一郎³⁾ (1) 福音会医務室, 2) 防衛医科大学校救急センター, 3) 南町田病院) : 超高齢者の健康診断データと心拍数変動指標. Ther Res 2013 ; 34 (2) : 168-172.

著書

追加分：

- 1) 新 博次 : [分担] 抗不整脈薬の選び方ポイント. 今日の循環器疾患治療指針 第3版 (井上 博, 許 俊鋭, 檜垣實男, 代田浩之, 筒井裕之), 2013 : pp198-201, 医学書院.

[千葉北総病院循環器内科]

研究概要

循環器内科は、(1) 冠動脈疾患の最先端診療 (①外来対応の冠動脈マルチスライス CT 検査, ②2泊3日冠動脈造影検査, 冠動脈カテーテル治療パス, ③血管内超音波, 血管内視鏡, 光干渉断層法などの冠動脈先端画像診断, ④血液生化学バイオマーカーの臨床開発) や, (2) 不整脈の最先端治療 (カテーテル焼灼術, 重症心不全心室再同期 (CRT) 治療, 植え込み型除細動器治療), (3) 心不全の先駆的研究と診療などを主軸に臨床, 研究, 教育を構築しております。診療実績は年々増加しており冠動脈カテーテル治療は年間 400 例以上を不整脈カテーテル治療は年間 180 例以上を実施しております。さらに (4) 循環器疾患と睡眠時無呼吸, (5) 高血圧・動脈硬化症の診断と治療などについても, 地域医療との連携の中で効率的な診療の提供と臨床研究に努めております。平成 20 年度からは, 全国に先駆けて「回復期心筋梗塞地域連携パス」「地域連携型高血圧治療研究 (INBA Study)」などを展開しております。また, 大学医学部教育 (文部科学省特色 GP 選定), 研修医教育, 循環器専門医教育, 学位研究指導に精力的に取り組んでおり, 特色ある研究成果を AHA, ESC などの国際学会や, 日本循環器学会などで発表しており, トップジャーナルに多くの論文を発表しております。学会公務として部長は日本循環器学会各種ガイドライン (急性心不全 GL, 性差医療 GL, 睡眠時無呼吸 GL など) 作成委員を務めております。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hirayama A¹⁾, Isobe M²⁾, Ito H³⁾, Kitakaze M⁴⁾, Momomura S⁵⁾, Sawa Y⁶⁾, Seino Y, Tsutsui H⁷⁾, Yamazaki K⁸⁾, Yoshikawa T⁹⁾ (1) Nihon University School of Medicine, 2) Tokyo Medical and Dental University, 3) Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry, and Pharmaceutical Sciences, 4) National Cerebral and Cardiovascular Center, 5) Jichi Medical University Saitama Medical Center, 6) Osaka University Graduate School of Medicine, 7) Hokkaido University Graduate School of Medicine, 8) Tokyo Women's Medical University, 9) Sakakibara Heart Institute) : Guidelines for Treatment of Acute Heart Failure (JCS 2011) -Digest Version-. Circulation Journal 2013 ; 77 (8) : 2157-2201.
- 2) Giugliano PR¹⁾, Ruff TC¹⁾, Braunwald E¹⁾, Murphy AS¹⁾, Wiviott DS¹⁾, Halperin LJ²⁾, Waldo LA³⁾, Ezekowitz DM⁴⁾, Weitz IJ⁵⁾, Spinar J⁶⁾, Ruzyllo W⁷⁾, Ruda M⁸⁾, Koretsune Y⁹⁾, Betcher J¹⁰⁾, Seino Y, et al. (1) Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School, Boston, 2) Mount Sinai Medical Center, New York, 3) University Hospitals Case Medical Center, Cleveland, 4) Thomas Jefferson Medical College,

- Philadelphia, ⁵ McMaster University, Hamilton, ON, Canada, ⁶ University Hospital, Jihlavska, Brno, Czech Republic, ⁷ Institute of Cardiology, Warsaw, Poland, ⁸ Cardiology Research Center, Moscow, ⁹ National Hospital Organization, Osaka National Hospital, Osaka, Japan, ¹⁰ Quintiles, Durham, NC) : Edoxaban versus Warfarin in Patients with Atrial Fibrillation. *The New England Journal of Medicine* 2013 ; 369 (22) : 2093-2104.
- 3) Kitamura M¹, Hata N¹, Takayama T², Hirayama A², Ogawa M³, Yamashina A³, Mera H⁴, Yoshino H⁴, Nakamura F⁵, Seino Y (¹ Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, ² Division of Cardiology, Department of Medicine, Nihon University School of Medicine, Tokyo, Japan, ³ Department of Cardiology, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan, ⁴ Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁵ Third Department of Internal Medicine, Teikyo University Chiba Medical Center, Chiba, Japan) : High-sensitivity cardiac troponin T for earlier diagnosis of acute myocardial infarction in patients with initially negative troponin T test-Comparison between cardiac markers. *Journal of Cardiology* 2013 ; 62 (6) : 336-342.
- 4) Kotooka N¹, Asaka M¹, Sato Y², Kinugasa Y³, Nochioka K⁴, Mizuno A⁵, Nagatomo D¹, Mine D⁶, Yamada Y⁷, Eguchi K⁸, Hanaoka H², Inomata T⁹, Fukumoto Y⁴, Yamamoto K³, Seino Y, et al. (¹ Department of Cardiovascular Medicine, Saga University, Saga, Japan, ² Chiba University Hospital Clinical Research Center, Chiba University, Chiba, Japan, ³ Division of Cardiovascular Medicine, Department of Molecular Medicine, ⁴ Department of Cardiovascular Medicine, Tohoku University Graduate School, ⁵ Department of Cardiology, St. Luke's International Hospital, Tokyo, Japan, ⁶ Department of Cardiology, Saga Prefectural Hospital Koseikan, Saga, Japan, ⁷ Division of Cardiovascular Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University, Omiya, Japan, ⁸ Department of Medicine, Division of Cardiovascular Medicine, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan, ⁹ Department of Cardio-Angiology, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Japan) : Home telemonitoring study for Japanese patients with heart failure (HOMES-HF) : protocol for a multicentre randomised controlled trial. *BMJ Open* 2013 ; 3 (6) : 1-6.
- 5) Otsuka T¹, Munakata R, Kato K¹, Kodani E², Ibuki C, Kusama Y², Seino Y, Kawada T¹ (¹ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ² Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tokyo, Japan) : Oscillometric measurement of brachial artery cross-sectional area and its relationship with cardiovascular risk factors and arterial stiffness in a middle-aged male population. *Hypertension Research* 2013 ; 36 (10) : 910-915.
- 6) Kobayashi N¹, Takano M, Hata N¹, Kume N², Yamamoto M, Yokoyama S¹, Shinada T¹, Tomita K¹, Shirakabe A¹, Otsuka T³, Seino Y, Mizuno K⁴ (¹ Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, ² Division of Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kobe Gakuin University, Kobe, Japan, ³ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁴ Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Soluble lectin-like oxidized LDL receptor-1 (sLOX-1) as a valuable diagnostic marker for rupture of thin-cap fibroatheroma : Verification by optical coherence tomography. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 168 (4) : 3217-3223.
- 7) Yamamoto M, Seino Y, Otsuka T¹, Kurihara O, Negishi K, Murakami D, Takano M, Mizuno K² (¹ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ² Division of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Identification of high-risk plaques associated with peri-procedural myocardial injury following elective percutaneous coronary intervention : Assessment by high-sensitivity troponin-T measurements and optical coherence tomography. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 168 (3) : 2860-2862.

- 8) Takano H¹⁾, Ohba T, Yamamoto E²⁾, Miyachi H³⁾, Inui K⁴⁾, Kawanaka H⁵⁾, Kamiya M⁶⁾, Kikuchi A²⁾, Takahashi Y⁶⁾, Tanabe J⁵⁾, Inami S¹⁾, Takagi G¹⁾, Kusama Y³⁾, Seino Y, Munakata K²⁾, et al. ¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, Kawasaki, Japan, ³⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, Tama, Japan, ⁴⁾ Department of Cardiology, Hakujuikai Memorial Hospital, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Department of Cardiology, Shizuoka National Medical Center, Sunto, Japan, ⁶⁾ Department of Cardiology, Fraternity Memorial Hospital, Tokyo, Japan) : Usefulness of Rosuvastatin to Prevent Periprocedural Myocardial Injury in Patients Undergoing Elective Coronary Intervention. *The American Journal of Cardiology* 2013 ; 111 (12) : 1688-1693.
- 9) Nagai R¹⁾, Kinugawa K²⁾, Inoue H³⁾, Atarashi H⁴⁾, Seino Y, Yamashita T⁵⁾, Shimizu W⁶⁾, Aiba T⁶⁾, Kitakaze M⁶⁾, Sakamoto A⁷⁾, Ikeda T⁸⁾, Imai Y²⁾, Daimon T⁹⁾, Fujino K^{1.0)}, Nagano T^{1.0)}, et al. ¹⁾ Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, University of Tokyo Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan, ³⁾ The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Graduate School of Medicine, Toyama, Japan, ⁴⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, Tokyo, Japan, ⁵⁾ The Cardiovascular Institute, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suitav, Japan, ⁷⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁸⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Toho University Faculty of Medicine, Tokyo, Japan, ⁹⁾ Department of Biostatistics, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya, Japan, ¹⁰⁾ Ono Pharmaceutical Co Ltd, Osaka, Japan) : Urgent Management of Rapid Heart Rate in Patients With Atrial Fibrillation/Flutter and Left Ventricular Dysfunction : Comparison of the Ultra-Short-Acting β 1-Selective Blocker Landiolol With Digoxin (J-Land Study). *Circulation Journal* 2013 ; 77 (4) : 908-916.
- 10) Inami T, Seino Y, Abe J, Tomita K¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Hata N¹⁾, Mizuno K²⁾ ¹⁾ Department of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Untreated obstructive sleep apnea as a differential diagnosis in young woman with aortic dissection. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 165 (1) : e1-e2.
- 11) Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Kume N²⁾, Yokoyama S¹⁾, Takano M, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Inami T, Seino Y, Mizuno K³⁾ ¹⁾ Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, ²⁾ Division of Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kobe Gakuin University, Kobe, Japan, ³⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Detection of acute aortic dissection by extremely high soluble lectin-like oxidized LDL receptor-1 (sLOX-1) and low troponin T levels in blood. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 165 (3) : 557-559.
- 12) Ibuki C, Seino Y, Otsuka T¹⁾, Mizuno K²⁾ ¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : The Fixed-Dose Combination of Losartan/Hydrochlorothiazide Elicits Potent Blood Pressure Lowering During Nighttime in Obese Hypertensive Patients. *Journal of Clinical Medicine Research* 2014 ; 6 (1) : 8-16.
- 13) Otsuka T¹⁾, Kato K¹⁾, Ibuki C, Kodani E²⁾, Kusama Y²⁾, Kawada T¹⁾ ¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tama, Tokyo, Japan) : Subjective evaluation of the frequency of salty food intake and its relationship to urinary sodium excretion and blood pressure in a middle-aged population. *Environmental Health and Preventive Medicine* 2013 ; 18 (4) : 330-334.

- 14) Maruyama M, Yamamoto T, Miyauchi Y¹, Mizuno K¹ (1) Division of Cardiology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Exit from the right ventricular outflow tract through the preferential conduction pathway in premature ventricular contractions originating from the pulmonary artery. *Heart rhythm* 2013 ; 10 (9) : 1407-1408.
- 15) Kobayashi N¹, Takano M, Bessho R¹, Nishina D¹, Ishii Y¹, Kawase Y¹, Hata N¹, Mizuno K² (1) Division of Intensive Care Unit and Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, ²) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Rapid Progression of Acute Aortic Dissection Demonstrated by Short-Term Serial Computed Tomography. *Journal of the American College of Cardiology* 2013 ; 61 (15) : e161.

(2) 総説 :

- 1) 清野精彦 : 血管炎症のバイオマーカーをみる. *Vascular Medicine* 2013 ; 9 (1) : 54-58.
- 2) 清野精彦 : 不安定プラークマーカーとその読みかた. *Medical Practice* 2013 ; 30 (6) : 975-980.
- 3) 清野精彦 : ミオシン軽鎖 I. *臨床雑誌 内科 増大号 検査値を読む* 2013 2013 ; 111 (6) : 1286-1286.
- 4) 清野精彦 : トロポニン T (およびトロポニン I). *臨床雑誌 内科 増大号 検査値を読む* 2013 2013 ; 111 (6) : 1287-1288.
- 5) 清野精彦 : 心臓型脂肪酸結合蛋白. *臨床雑誌 内科 増大号 検査値を読む* 2013 2013 ; 111 (6) : 1289-1289.
- 6) 雪吹周生, 清野精彦 : Rivaroxaban. *ICUとCCU* 2013 ; 37 (4) : 325-330.
- 7) 雪吹周生, 清野精彦 : Apixaban. *ICUとCCU* 2013 ; 37 (5) : 411-415.
- 8) 雪吹周生, 清野精彦 : Edoxaban. *ICUとCCU* 2013 ; 37 (6) : 485-489.
- 9) Seino Y : Remote Ischemic Conditioning : -From Organs/Tissues to Organs-. *Circulation Journal* 2013 ; 77 (12) : 2883-2885.
- 10) 清野精彦 : 癌化学療法による心毒性 : アントラサイクリンおよびトラスツズマブ心毒性について. *心臓* 2014 ; 46 (3) : 322-329.

(3) 症例報告 :

- 1) Kano S, Munakata R, Inami T, Takano M, Seino Y, Shimizu W¹ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Recurrent Takotsubo Cardiomyopathy with Variable Left Ventricular Obstruction and Morphologies. *Journal of the American College of Cardiology* 2014 ; 62 (2) : e3-e3.
- 2) Yodogawa K¹, Seino Y, Shimomura R¹, Takahashi K¹, Tsuboi I¹, Uetake S¹ (1) Division of Cardiology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Recovery of atrioventricular block following steroid therapy in patients with cardiac sarcoidosis. *Journal of Cardiology* 2013 ; 62 (5) : 320-325.
- 3) Inami T, Shirakabe A¹, Hata N¹, Seino Y (1) Department of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, Japan) : Unique case of latent left ventricular obstruction in Takayasu arteritis. *BMJ Case Reports* 2013 ; 1-2.
- 4) Yamada T, Ohba T, Yamamoto T, Kimata N, Inami T, Munakata R, Murakami D, Maruyama M, Takano M, Ibuki C, Hata N¹, Seino Y, Mizuno K² (1) Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, ²) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Japan) : A 17-year-old Girl with Klippel-Weber Syndrome Complicated with a Pulmonary Thromboembolism and RV Thrombus. *Internal Medicine* 2013 ; 52 (12) : 1337-1340.
- 5) Yamada T, Ohba T, Seino Y : Reply to the Letter : Misdiagnosis of Klippel-Trenaunay Syndrome. *Internal Medicine* 2014 ; 53 (5) : 527.
- 6) Inami T, Seino Y, Goda H¹, Okazaki H¹, Shirakabe A¹, Yamamoto M¹, Okajima F², Emoto N², Hata

- N¹), Shimizu W³) (1) Department of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, (2) Department of Endocrinology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, (3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Acute pericarditis : Unique comorbidity of thyrotoxic crisis with Graves'disease. International Journal of Cardiology 2014 ; 171 (3) : e129-e130.
- 7) Tsurumi M¹), Hata N¹), Inami T, Ozaki K¹), Shirakabe A¹), Tomita K¹), Kobayashi N¹), Shinada T¹), Mizuno K²) (1) Department of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, (2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Airway pressure release ventilation as a therapeutic approach in a patient with severe obesity hypoventilation syndrome and restrictive lung impairment. International Journal of Cardiology 2013 ; 168 (1) : e6-e8.
- 8) Kurihara O, Takano M, Kobayashi N, Yamamoto M, Seino Y, Mizuno K¹) (1) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Deceived incidence of acute coronary syndrome by measurement of FFR : Diagnostic gap of vulnerable plaque between physiology and morphology. Journal of Cardiology Cases 2013 ; 8 (1) : e7-e8.

著書

- 1) 清野精彦 : [分担] 急性心不全. year note TOPICS 2013-2014 (医療情報科学研究所), 2013 ; pp59-63, 株式会社メディックメディア.
- 2) 清野精彦 : [分担] 慢性心不全. year note TOPICS 2013-2014 (医療情報科学研究所), 2013 ; pp64-70, 株式会社メディックメディア.
- 3) 清野精彦 : [分担] 循環器領域におけるバイオマーカーの新展開 : 不安定プラークに迫る. 循環器疾患 最新の治療 2014-2015 (堀 正二・永井 良三), 2014 ; pp39-44, 南江堂.
- 4) 雪吹周生, 清野精彦 : [分担] 血管拡張薬. 治療薬ハンドブック 2014 - 薬剤選択と処方のポイント - (高久史磨), 2014 ; pp401-407, 株式会社じほう.
- 5) 清野精彦 : [分担] 急性心不全. year note TOPICS 2014-2015 (医療情報科学研究所), 2014 ; pp61-64, メディックメディア.
- 6) 清野精彦 : [分担] 慢性心不全. year note TOPICS 2014-2015 (医療情報科学研究所), 2014 ; pp65-72, メディックメディア.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 丸山光紀 : 上室性頻拍のカテ室診断. 第21回中国臨床不整脈談話会 (山口), 2014. 3.
- 2) Kinugawa K¹), Nagai R²), Inoue H³), Atarashi H⁴), Seino Y, Yamashita T⁵), Shimizu W⁶), Aiba T⁷), Kitakaze M⁷), Sakamoto A⁸), Ikeda T⁹), Imai Y^{1.0}), Daimon T^{1.1}), Hujino K^{1.2}), Nagano T^{1.2}), et al. (1) Department of Therapeutic Strategy for Heart Failure, The University of Tokyo, Tokyo, (2) Jichi Medical University, Tochigi, (3) Department of Cardiology, Toyama University, Toyama, (4) Department of Cardiology, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School, Tokyo, (5) Department of Cardiology, The Cardiovascular Institute, Tokyo, (6) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, (7) Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, (8) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, (9) Department of Cardiology, Omori Medical Center, Toho University, Tokyo, (10) Department of Cardiovascular Medicine, Jichi Medical University, Tochigi) : Impacts of Patient Characteristics on the Effectiveness of Landiolol in AF/AFL Patients Complicated with LV Dysfunction :

Sub-analysis of J-Land Study. 日本循環器学会学術集会（第78回）（東京），2014. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 丸山光紀：膜電位と細胞内カルシウムの同時光学的マッピング. 心電情報処理ワークショップ（第29回）（湯沢町），2013. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) 高野雅充：血管内視鏡ならびに光干渉断層法で同定されるステント留置後の内膜の動脈硬化性変化（Neoatherosclerosisに迫る）. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会（第22回）（神戸），2013. 7.
- 2) 高野雅充, 稲見茂信¹⁾, 清野精彦, 水野杏一¹⁾（¹⁾日本医科大学循環器内科）：冠動脈ステント留置後の血管治療反応：血管内画像による観察（画像診断とPCI）. 日本血管内治療学会（第19回）（青森），2013. 7.
- 3) Seino Y：Early diagnostic and prognostic value of cTnT hs and NT-proBNP in cardiac emergency rooms. Agenda proCardio Symposium（Netherlands），2013. 8.
- 4) 志村徹郎：浅大腿動脈に留置したベアメタルステントと薬剤溶出性ステントの血管治療反応の違い（PADカテーテル治療はここまで来た）. 日本心臓血管内視鏡学会（第27回）（久留米市），2013. 10.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 高野雅充, 志村徹郎, 加納誠士, 栗原 理, 木股伸恒, 稲見 徹, 宗像 亮, 村上大介, 清野精彦, 水野杏一¹⁾（¹⁾公益財団法人三越厚生事業団）：血管内画像でPSSならびにステントフラクチャーの予測は可能か（DES留置後の内視鏡所見を病理と共に探る）. 日本心臓血管内視鏡学会（第27回）（久留米市），2013. 10.
- 2) 小谷順一¹⁾, 高野雅充, 伊藤重範²⁾, 栗田政樹³⁾, 高山忠輝⁴⁾, 上田恭敬⁵⁾, 上野高史⁶⁾, 水野杏一, 南部伸介⁷⁾（¹⁾大阪大学大学院循環器内科, ²⁾名古屋市東部医療センター, ³⁾関西労災病院, ⁴⁾日本大学板橋中央病院, ⁵⁾大阪警察病院, ⁶⁾久留米大学, ⁷⁾大阪大学）：第1世代薬剤溶出性ステント留置による病変部に対する影響：多施設研究内視鏡連続観察による黄色プラーク・血栓・動脈硬化性変化の推移（DES留置後の内視鏡所見を病理と共に探る）. 日本心臓血管内視鏡学会（第27回）（久留米市），2013. 10.

(5) セミナー：

- 1) 丸山光紀：特発性左室VT（Purkinje由来, 乳頭筋, 僧帽弁輪）. カテーテルアブレーション関連秋季大会2013（横浜），2013. 11.
- 2) 大場崇芳, 高野雅充, 水野杏一¹⁾（¹⁾三越厚生事業団）：血流遮断型の手技（血管内視鏡の手技）. 日本心臓血管内視鏡学会（第27回）（久留米市），2013. 10.

(6) ワークショップ：

- 1) 高野雅充, 稲見茂信¹⁾, 清野精彦, 水野杏一²⁾（¹⁾日本医科大学循環器内科, ²⁾日本医科大学病院循環器内科）：血管内視鏡で観察される不安定病変. 日本心臓病学会学術集会（第61回）（熊本），2013. 9.

(7) ポスター：

- 1) 宗像 亮, 大塚俊昭¹⁾, 加藤活人¹⁾, 小谷英太郎²⁾, 雪吹周生, 清野精彦（¹⁾日本医科大学 衛生学公衆衛生学教室, ²⁾日本医科大学 多摩永山病院 内科 循環器科）：オシロメトリック法による上腕動脈コンプライアンス指標は冠動脈狭窄病変の存在を予測できるか. 日本高血圧学会 臨床高血圧フォーラム（第2回）（東京），2013. 5.
- 2) Kurihara O, Takano M, Yamamoto M, Kano S, Shimura T, Kimata N, Inami T, Munakata R, Murakami D, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾（¹⁾Nippon Medical School, Division of Cardiology）：Impact of Pre-Diabetic Status on Coronary Atherosclerosis -A Multivessel Angioscopic Study-. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会（第22回）（神戸），2013. 7.
- 3) Shimura T, Takano M, Murakami D, Yamamoto M, Inami T, Munakata R, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹⁾（¹⁾Division of Cardiology, Nippon Medical School）：急性冠症候群にも関わらず, OCTにてプラーク破綻を同定できなかった1例：OCTにてプラークびらんは観察可能か？. 日本心血管インターベンション治療学会

学術集会（第22回）（神戸），2013. 7.

- 4) Munakata R, Yamamoto T¹⁾, Shirakabe A²⁾, Inami T, Hosokawa Y¹⁾, Akutsu K¹⁾, Sato N³⁾, Hata N²⁾, Seino Y, Tanaka K¹⁾ (1) Department of intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, 2) Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, 3) Division of Cardiology, Department of Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, Tokyo) : Troponin T as a predictor for the responsiveness to the conventional therapy during a short-term prognostic factor in acute decompensated heart failure patients associated with severe aortic stenosis. Acute Cardiac Care 2013 (Spain), 2013. 10.
- 5) 高野仁司¹⁾, 大場崇芳, 山本英世²⁾, 宮地秀樹³⁾, 乾 恵輔⁴⁾, 川中秀和⁵⁾, 高橋保裕⁶⁾, 菊池有史²⁾, 田邊 潤⁵⁾, 稲見茂信¹⁾, 田中邦夫⁴⁾, 草間芳樹⁷⁾, 清野精彦, 水野杏—⁸⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 循環器内科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 循環器科, 3) 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器科, 4) 博慈会記念総合病院 循環器科, 5) 静岡医療センター 循環器内科, 6) 同愛記念病院 循環器内科, 7) 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科, 8) 日本医科大学付属病院 内科学第一講座) : 経皮的冠動脈インターベンション時の心筋傷害と N-Terminal Pro-B-Type Natriuretic Peptide 上昇の関係. 日本心臓病学会学術集会（第61回）（熊本），2013. 9.
- 6) Setsuta K¹⁾, Nishizawa A¹⁾, Kitahara Y¹⁾, Seino Y, Mizuno K²⁾ (1) Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Japan, 2) Nippon Medical School Hospital, Japan) : Heart-type fatty acid-binding protein is a novel prognostic marker in patients with essential hypertension. ESC Congress 2013 (Netherlands), 2013. 8.
- 7) Kinugawa K¹⁾, Nagai R²⁾, Inoue H³⁾, Atarashi H⁴⁾, Seino Y, Yamashita T⁵⁾, Shimizu W⁶⁾, Aiba T⁷⁾, Kitakaze M⁷⁾, Sakamoto A⁸⁾, Ikeda T⁹⁾, Imai Y¹⁾, Daimon T^{1,0)}, Fujino K^{1,1)}, Nagano T^{1,1)}, et al. (1) Department of Cardiovascular Medicine, University of Tokyo Graduate School of Medicine, Tokyo, 2) Jichi Medical University, Shimotsuke, 3) The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Graduate School of Medicine, Toyama, 4) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tokyo, 5) The Cardiovascular Institute, Tokyo, 6) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, 7) Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita, 8) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, 9) Department of Cardiovascular Medicine, Toho University Faculty of Medicine, Tokyo, 10) Department of Biostatistics, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya) : Impacts of patient characteristics on the efficacy of landiolol in patients with atrial fibrillation/flutter and left ventricular dysfunction : sub-analysis of the J-Land study. AHA Scientific Sessions 2013 (Dallas), 2013. 11.
- 8) Kurihara O, Kimata N, Inami T, Murakami D, Munakata R, Ohba T, Takano M, Seino Y, Mizuno K¹⁾, Shimizu W²⁾ (1) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo, 2) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Coronary Atherosclerosis and Risk of Acute Coronary Syndromes in Chronic Kidney Disease. 日本循環器学会学術集会（第78回）（東京），2014. 3.
- 9) Murakami D, Takano M, Kano S, Shimura T, Kurihara O, Kimata N, Inami T, Munakata R, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹⁾, Shimizu W²⁾ (1) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo, 2) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Drug-on Acetylcholine Provocation Test is Most Useful for Assessment of Therapeutic Efficacy in Patients of Refractory Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集会（第78回）（東京），2014. 3.
- 10) Kimata N, Seino Y, Kano S, Hada T, Shimura T, Kurihara O, Inami T, Munakata R, Murakami D, Takano M, Ohba T, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Influence of Background Risk Factors and Prescribed Medications on the Release-kinetics of Plaque-related Biomarkers

Following PTA in Patients with ASO. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.

- 11) Takayama T¹⁾, Hirayama A¹⁾, Kitamura M²⁾, Hata N²⁾, Ogawa M³⁾, Yamashina A³⁾, Mera H⁴⁾, Yoshino H⁴⁾, Nakamura F⁵⁾, Seino Y (¹ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nihon University School of Medicine, Tokyo, ² Division of Invasive Care Unit, Nippon Medical Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, ³ Departement of Cardiology, Tokyo Medical University, Tokyo, ⁴ Second Department of Internal Medicine, Kyourin University School of Medicine, Tokyo, ⁵ Second Department of Internal Medicine, Kyourin University School of Medicine, Tokyo) : Clinical Feasibility of High-sensitive Troponin T in Patients with Acute Coronary Syndrome : A Sub-analysis of iNET Study. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
- (8) 一般講演 :
 - 1) Yodogawa K¹⁾, Morita N²⁾, Kobayashi Y²⁾, Takahashi K¹⁾, Uetake S¹⁾, Hayashi H¹⁾, Tsuboi I¹⁾, Murata H¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Hayashi M¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Ohara T¹⁾, Seino Y, Kato T¹⁾ (¹ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ² Department of Cardiology, Tokai University Hachioji Hospital, Hachioji, Japan) : High Frequency Components within QRS Complex as a Novel Predictive Marker for Positive Response to Antiarrhythmic Drug Challenge in Patients with Suspected Brugada Syndrome. The 28th Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (Tokyo), 2013. 7.
 - 2) Yamamoto T, Maruyama M, Abe J, Seino Y : A Case of Atrioventricular Nodal Reentry Mimicking Junctional Tachycardia in Inferiorly Deviated Atrioventricular Node. The 28th Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (Tokyo), 2013. 7.
 - 3) Murakami D, Takano M, Yamamoto M, Kurihara O, Kimata N, Inami T, Munakata R, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : 冠動脈における早期動脈硬化進行の特徴とは : OCT 所見からの考察. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (第22回) (神戸), 2013. 7.
 - 4) 水野正之¹⁾, 前田悠人²⁾, 小西哲生²⁾, 高野雅充, 清野精彦 (¹ 日本医科大学千葉北総病院 放射線センター, ² 日本医科大学千葉北総病院 ME 部) : 3D-OCT での STENT 性状とその描出. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (第22回) (神戸), 2013. 7.
 - 5) 宗像 亮, 大塚俊昭¹⁾, 稲見 徹, 小谷英太郎²⁾, 雪吹周生, 清野精彦, 清水 渉³⁾ (¹ 日本医科大学 衛生学公衆衛生学, ² 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科, ³ 日本医科大学附属病院 循環器内科) : 上腕動脈コンプライアンス指標による冠動脈狭窄病変の存在予測 : 脳波伝播速度との比較. 日本心臓病学会学術集会 (第61回) (熊本), 2013. 9.
 - 6) Maruyama M : Calcium Dynamics and the Mechanisms of Ventricular Arrhythmia. APHRS & CardioRhythm 2013 (6th) (Hong Kong), 2013. 10.
 - 7) Maruyama M : 電気的ストームにおける自律神経・イオンチャネルリモデリングの役割 (リモデリングと不整脈). 日本心電学会学術集会 (第30回) (青森市), 2013. 10.
 - 8) Hanada H¹⁾, Seo H²⁾, Seino Y, Nonogi H³⁾, Nagao K⁴⁾, Kimura T⁵⁾ (¹ JCS-ReSS Group, Hirosaki, Japan, ² JCS-ReSS Group, Nankoku, Japan, ³ JCS-ReSS Group, Shizuoka, Japan, ⁴ JCS-ReSS Group, Tokyo, Japan, ⁵ JCS-ReSS Group, Kyoto, Japan) : Analysis of Emergency Medical Service-initiated CPR Effectiveness in Out-of-Hospital Cardiac Arrest (OHCA) Cases Without Bystander-CPR : From all-Japan OHCA Utstein Registry. AHA Scientific Sessions 2013 (Dallas), 2013. 11.
 - 9) 内山沙央里, 村上大介, 加納誠士, 志村徹郎, 栗原 理, 木股伸恒, 山本真功, 稲見 徹, 宗像 亮, 高野雅充, 大場崇芳, 清野精彦, 清水 渉¹⁾ (¹ 日本医科大学 循環器内科) : わずか3か月間で急速に冠動脈狭窄が進行した1例~OCT 所見に基づく新たな冠危険因子制御への提言. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第230回) (千代田区), 2013. 12.
 - 10) Oka E¹⁾, Murai K¹⁾, Fukuizumi I¹⁾, Asai K¹⁾, Seino Y, Shimizu W¹⁾ (¹ Cardiology, Nippon Medical School

Hospital) : Efficacy and Limitations of Oral Inotropic Agents for the Treatment of Chronic Heart Failure : A Single Center Cross-sectional Observational Study. 日本心不全学会学術集会 (第17回) (大宮), 2013. 11.

- 11) 木富奈穂子 : Stage A/B における睡眠時無呼吸の評価とその重要性. 日本心不全学会学術集会 (第17回) (大宮), 2013. 11.
 - 12) Nakagomi A¹⁾, Noma S¹⁾, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh I¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Endoh Y²⁾, Kusama Y¹⁾, Seino Y, Atarashi H¹⁾, Shimizu W²⁾ (1) Department of Internal Medicine and Cardiology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, Tokyo, 2) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Upregulation of Monocyte Proinflammatory Cytokines Production by C-Reactive Protein Predicts Poor Outcomes in Patients with Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
 - 13) Maruyama M, Yamamoto T, Abe J, Yodogawa K¹⁾, Seino Y, Atarashi H²⁾, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Tokyo, 2) Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, Tokyo) : A New Criterion for Entrainment Mapping in Patients with Intra-Atrial Reentrant Tachycardia. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京), 2014. 3.
 - 14) 合田浩紀¹⁾, 山本真功¹⁾, 岡崎大武¹⁾, 鶴見昌史¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 富田和憲¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 畑典武¹⁾, 内山沙央里, 宗像 亮 (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室 : 治療に難渋した若年発症感染性心内膜炎の1例. 千葉県重症患者管理研究会 (第27回) (千葉), 2013. 9.
- (9) 症例報告 :
- 1) Kano S, Murakami D, Takano M, Shimura T, Yamamoto M, Kimata N, Inami T, Munakata R, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Is refractory spasm a trigger of rapid progression of coronary atherosclerosis? Assessment from OCT findings. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (第22回) (神戸), 2013. 7.

論 文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 清野精彦 : 急性冠症候群の血液生化学診断. 日本医師会雑誌 2013 ; 141 (12) : 2639-2643.
- 2) 雪吹周生, 清野精彦 : Dabigatran. ICU と CCU 2013 ; 37 (3) : 235-240.
- 3) 加納誠士, 清野精彦 : 診断・管理指標 : 血液バイオマーカー. 循環器内科 2013 ; 73 (3) : 268-274.

追加分原著 :

- 1) Murai K¹⁾, Seino Y, Kimata N, Inami T, Murakami D, Abe J, Yodogawa K, Maruyama M, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Efficacy and Limitations of Oral Inotropic Agents for the Treatment of Chronic Heart Failure : A Single Center Cross-Sectional Observational Study. International Heart Journal 2013 ; 54 (2) : 75-81.
- 2) Kurihara O, Takano M, Yamamoto M, Shirakabe A, Kimata N, Inami T, Kobayashi N, Munakata R, Murakami D, Inami S, Okamatsu K, Ohba T, Ibuki C, Hata N, Seino Y, et al. : Impact of Prediabetic Status on Coronary Atherosclerosis : A multivessel angiographic study. Diabetes Care 2013 ; 36 (3) : 729-733.
- 3) Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Shimura T, Yokoyama S¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Murakami D, Takano M, Seino Y, Matsumoto H²⁾, Mashiko K²⁾, Mizuno K³⁾ (1) Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 2) Department of Critical Care Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Characteristics of Patients With Cardiac Arrest Caused by Coronary Vaso-

spasm. *Circulation Journal* 2013 ; 77 (3) : 673-678.

- 4) Yodogawa K¹⁾, Seino Y, Ohara T¹⁾, Hayashi M¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Prediction of atrial fibrillation after ischemic stroke using P-wave signal averaged electrocardiography. *Journal of Cardiology* 2013 ; 61 (1) : 49-52.
- 5) Takano M, Kitamura M¹⁾, Inami T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Acute coronary syndrome without optical coherence tomography identification of plaque disruption : Is this plaque erosion?. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 163 (1) : e14-e15.
- 6) Maruyama M, Xiao J¹⁾, Zhou Q¹⁾, Vembaiyan K¹⁾, Chua S²⁾, Rubart-Von Der Lohe M³⁾, Lin S²⁾, Back TG¹⁾, Chen-Wayne S¹⁾, Chen P²⁾ (1) Department of Physiology and Pharmacology, Department of Chemistry, Libin Cardiovascular Institute of Alberta, University of Calgary, Calgary, Canada, ²⁾ Krannert Institute of Cardiology and the Division of Cardiology, Department of Medicine, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, Indiana, ³⁾ Department of Pediatrics, Riley Heart Research Center, Wells Center for Pediatric Research, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, Indiana) : Carvedilol analogue inhibits triggered activities evoked by both early and delayed afterdepolarizations. *Heart Rhythm* 2013 ; 10 (1) : 101-107.

追加分症例報告 :

- 1) Inami T, Yokoyama S, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Unique case of acquired pulmonary arteriovenous malformation developed by calcific constrictive pericarditis. *BMJ Case Reports* 2013 ; 1-2.
- 2) Inami T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Unique case of giant Kommerell diverticulum with aberrant left subclavian artery arising from the left aortic arch associated with situs inversus. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 163 (3) : e47-e48.

2. 内科学（神経内科学）

[付属病院神経内科]

研究概要

当科では脳卒中、特に脳梗塞の病態解明および治療を主要課題として取り組んでいる。基礎研究では、脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による脳保護・神経再生を主な研究テーマの一つとして行っているが、骨髄単核球細胞や骨髄間葉系細胞を脳梗塞モデルに投与して脳梗塞の体積や神経微候に及ぼす影響およびその保護効果のメカニズムについて検討を行っている。骨髄幹細胞移植はヒトにおいて既に試みられており、当教室においても臨床実施を目指して研究を行っている。また、種々の新規脳保護薬を始め、免疫抑制薬、抗酸化薬、スタチン、EPA およびマクロライド系抗生物質の脳保護効果について検討を行っており、エリスロマイシンやクラリスロマイシンが有用な脳保護薬となり得ることを見出した。さらに、近年、脂質異常症治療薬であるスタチンの脳卒中予防作用に注目が集まっているが、我々の教室では脳卒中易発症高血圧自然発症ラット（SHRSP）を用いてその予防効果やメカニズムについて検討を行っている。臨床研究では、SCU（Stroke Care Unit）が設立され、脳卒中急性期の超早期診断・治療が活発に行われているが、t-PA 治療の他、Merci や Penumbra system を用いた血管内治療を行っている。また、診断、治療成績の向上に関する研究や脳卒中における頭痛の解析がなされている。その他、脳血管性認知症やアルツハイマー型認知症等の認知症やパーキンソン病に対し、PET・MRI・SPECT 等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。当科では付属病院の他、千葉北総病院および武蔵小杉病院内科にも人員を派遣し、各施設での診療、研究に貢献している。以上、当教室では神経内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた論文を発表している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kim K¹⁾, Mishina M, Kokubo R¹⁾, Nakajima T²⁾, Morimoto D³⁾, Isu T³⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A⁴⁾ (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 2) Department of Orthopedic Surgery, Chiba Hokuso Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 4) Department of Neurosurgery) : Ketamine for acute neuropathic pain in patients with spinal cord injury. J Clin Neurosci 2013 ; 20 (6) : 804-807.
- 2) Kuribayashi H¹⁾, Sekino M²⁾, Minowa Y³⁾, Maitani Y³⁾, Ohsaki H²⁾, Tsushima M⁴⁾, Hirai S⁴⁾, Ueda M, Katayama Y (1) バリアンテテクノロジージャパン, 2) 東京大学工学部, 3) 星薬科大学医薬品科学研究所, 4) 東京工業大学炭素循環エネルギー研究センター) : Accuracy of equilibrium magnetization mapping in sliced two-dimensional spoiled gradient-recalled echo pulse sequence with variable flip angle. J Magn Reson Imaging 2013 ; 38 (5) : 1245-1250.
- 3) Kamiya N, Ueda M, Igarashi H¹⁾, Nishiyama Y, Suda S, Okubo S, Inaba H, Kataama Y (1) 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター) : In vivo monitoring of arterially transplanted bone marrow mononuclear cells in a rat transient focal brain ischemia model using magnetic resonance imaging. Neurol Res 2013 ; 35 (6) : 573-579.
- 4) Ueda M, Inaba T, Nito C, Ktayama Y : Therapeutic impact of eicosapentaenoic acid on ischemic brain damage following transient focal cerebral ischemia in rats. Brain Res 2013 ; 1519 : 95-104.
- 5) 小柳清光¹⁾, 望月葉子³⁾, 中山優季⁴⁾, 林健太郎⁵⁾, 清水俊夫⁵⁾, 長尾雅裕⁵⁾, 橋本智代^{1, 6)}, 山崎峰雄⁷⁾, 松原四郎⁵⁾, 小森隆司²⁾ (1) 信州大医学部神経難病学, 2) 東京都立神経病院検査科病理, 3) 東京都立北療育医療センター

神経内科, ⁴⁾ 東京都医学総合研究所, ⁵⁾ 東京都立神経病院脳神経内科, ⁶⁾ 産業医科大学神経内科, ⁷⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 (神経内科学分野) : Totally locked-in state 患者の脳と脊髄における障害部位と保全部位. 臨床神経学 2013 ; 53 (11) : 1399-1401.

- 6) Suda S, Katsumata T, Okubo S, Kanamaru T, Watanabe Y, Szuki K, Katsura K, Katayama Y : Low serum n-3 polyunsaturated fatty acid/n-6 polyunsaturated fatty acid ratio predicts neurological deterioration in Japanese patients with acute ischemic stroke. Cerebrovasc. Dis. 2013 ; 36 (5-6) : 388-393.
- 7) Suda S, Katsura K, Kanamaru T, Saito M, Katayama Y : Valproic acid attenuates ischemia-reperfusion injury in the rat brain through inhibition of oxidative stress and inflammation. Eur J Pharmacol. 2013 ; 707 (1-3) : 26-31.
- 8) Saito T, Nito C, Ueda M, Inaba T, Kamiya F, Muraga K, Katsura K, Katayama Y : Continuous oral administration of atorvastatin ameliorates brain damage after transient focal ischemia in rats. Life Sci 2014 ; 94 (2) : 106-114.
- 9) Kamiya F, Ueda M, Nito C, Kamiya N, Inaba T, Suda S, Saito T, Muraga K, Katayama Y : Effect of repeated allogeneic bone marrow mononuclear cell transplantation on brain injury following transient focal cerebral ischemia in rats. Life Sci. 2014 ; 95 (1) : 22-28.
- 10) Nishiyama Y, Otsuka¹⁾, Ueda M, Inagaki¹⁾, Muraga K, Abe A, Kawada¹⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Asymmetric dimethylarginine level is related to the predicted stroke risk in middle-aged Japanese men. J Neurol Sci 2014 ; 338 (1-2) : 87-91.

(2) 総説 :

- 1) Nakajima N¹⁾, Ueda M, Higashi N²⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Neurology, Kitamura Public Hospital, ²⁾ 多摩永山病院 皮膚科) : Therapeutic potential of nicotinic acid in erythromelalgia associated with Clitocybe acromelalgia intoxication. Clin Toxicol 2013 ; 51 (5) : 815.
- 2) 山崎峰雄, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 (神経内科学分野) : 臨床病態における RAS の関与—アルツハイマー病. Angiotensin Research 2013 ; 10 (2) : 116-120.
- 3) 山崎峰雄 (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 (神経内科学分野) : 汎発性レビー小体病について. CLINICIAN 2013 ; 60 (623) : 24-27.
- 4) 熊谷智昭, 永山 寛 : 抗パーキンソン病薬の徐放製剤の今後. Modern Physician 2013 ; 33 (5) : 683-686.

(3) 症例報告 :

- 1) Nakajima N¹⁾, Ueda M, Yamazaki M, Takahashi T²⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Neurology, Kitamura Public Hospital, ²⁾ Department of Multiple Sclerosis Therapeutics, Tohoku University Graduate School of Medicine) : Optic Neuritis Following Aseptic Meningitis Associated with Modified Measles : a Case Report. Jpn.J.Infect.Dis. 2013 ; 66 (4) : 320-322.
- 2) Ueda M, Nakajima N¹⁾, Nagayama H, Nishiyama Y, Ishii K²⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Neurology, Kitamura Public Hospital, ²⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所附属診療所) : Therapeutic response to pramipexole in a patient with multiple system atrophy with predominant parkinsonism : positron emission tomography and pharmacokinetic assessments. Intern Med 2013 ; 52 (15) : 1731-1735.
- 3) Nakajima N¹⁾, Ueda M, Kusunoki S²⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Neurology, Kitamura Public Hospital, ²⁾ Department of Multiple Sclerosis Therapeutics, Tohoku University Graduate School of Medicine) : Acute oropharyngeal palsy with localized sensory impairment resembling symptom distribution of acute pharyngeal-cervical-brachial variant in a patient with Guillain-Barré syndrome. Clinical Neurology 2013 ; 53 (8) : 630-633.

- 4) Shibata T¹⁾, Ueda M, Ban T¹⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Internal Medicine, Isumi Medical Center) : Bilateral symmetrical pallidal lesions following severe anemia associated with gastrointestinal hemorrhage : report of two cases. Intern Med 2013 ; 52 (14) : 1625-1628.
- 5) Ueda M, Katayama Y : Pontocerebellar atrophy resembling spinocerebellar ataxia following a brain infarction. Intern Med 2013 ; 52 (8) : 933-934.
- 6) Nakajima N, Nagayama H, Yamazaki M, Katayama Y : Posterior reversible encephalopathy syndrome due to hypercalcemia associated with parathyroid hormone-related peptide : A case report and review of literature. Intern Med 2013 ; 52 (21) : 2465-2468.
- 7) Ueda M, Nishiyama Y, Abe A, Katayama Y : Hemorrhagic Wallenberg syndrome. Intern Med 2013 ; 52 (20) : 2383-2384.
- 8) Suda S, Katsura K, Okubo S, Abe A, Suzuki K, Suzuki M¹⁾, Katayama Y (¹⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital) : Successful Treatment of Cerebral Venous Thrombosis Associated with Ulcerative Colitis. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2013 ; 221 (8) : e684-686.
- 9) Nakajima M, Abe A, Harada-Abe M, Kutsuna A, Goto Y, Okubo S, Mishina M, Katsura K, Katayama Y : Multiple Vascular Accidents Including Rupture of a Sinus of Valsalva Aneurysm, a Minor Ischemic Stroke and Intracranial Arterial Anomaly in a Patient with Systemic Congenital Abnormalities : A Case Report. Case Rep Neurol 2013 ; 5 (3) : 195-200.
- 10) Shirokane K¹⁾, Umeoka K¹⁾, Mishina M, Mizunari T¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Hemothorax after the Intravenous Administration of Tissue Plasminogen Activator in a Patient with Acute Ischemic Stroke and Rib Fractures. J Nippon Med Sch. 2014 ; 81 (1) : 43-47.

著 書

- 1) 三品雅洋 : [翻訳] 第 V 部 脳卒中後のその他の障害 第 34 章 精神病 第 35 章 病態失認と疾病否認 第 36 章 破局反応. 脳卒中における臨床神経精神学－脳血管障害後の認知・行動・情動の障害－ 第 2 版 (ロバート・G・ロビンソン著 木村真人監訳), 2013 ; pp385-422, 星和書店.
- 2) 山崎峰雄 (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : [分担] 実臨床でしばしばみられるアルツハイマー型認知症の周辺症状について教えて下さい. 治療 特別編集 認知症でお困りですか? (川畑信也), 2013 ; pp148-152, 南山堂.
- 3) 片山泰朗 : [自著] 診療雑記. 診療雑記 (片山泰朗), 2013 ; pp1-182, (株) ヴァンメディカル.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 三品雅洋 : 脳梗塞救急はこう変わった. したまち病診連携交流会 (第 4 回) (東京), 2013. 5.
- 2) 三品雅洋 : 脳卒中医療連携の明日. Jonan Stroke Forum2013 (東京), 2013. 6.
- 3) 上田雅之 : 脳梗塞の診断・治療. Free Primary Care Dr Meeting, 2013. 5.
- 4) 上田雅之 : 脳梗塞 update : 最新の話. 634 の会講演会, 2013. 7.
- 5) 片山泰朗 : 急性期脳梗塞の治療戦略. 信州神経救急研究会 (第 16 回) (松本), 2013. 6.
- 6) 山崎峰雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 非アルツハイマー型認知症を知る : レヴィ小体型認知症, 前頭側頭葉変性症, 進行性核上性麻痺に関する最近の話. 神経疾患懇話会 (第 13 回) (川口市), 2013. 5.
- 7) 山崎峰雄¹⁾, 小柳清光²⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, ²⁾ 信州大学医学部 神経難病学講

座 分子病理学部門)：グアム島パーキンソン認知症と進行性核上性麻痺：神経病理を中心に. NeuroPathology Conference For Young Neurologists (第1回) (東京都), 2013. 5.

8) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野)：明日から役立つ認知症診療ノウハウ：薬物療法を中心に. 病診連携セミナー - 認知症を考える会 - (東京都, 上野精養軒), 2013. 11.

9) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野)：アルツハイマー病診療の pitfalls. ADカンファレンス in 倉敷 2013 秋 (倉敷市), 2013. 10.

10) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野)：認知症の正しい知識. 認知症フェア講演会 (東京都文京区), 2013. 9.

11) 三品雅洋：脳卒中医療連携の明日. Jonan Stroke Forum 2013 (東京), 2013. 6.

(2) シンポジウム：

1) 永山 寛：Parkinson 病の気分障害の機序と治療. 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京), 2013. 11.

2) 桂研一郎：ARISTOTLE 試験 (Apixaban vs. Warfarin). 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京), 2013. 11.

3) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野)：Alzheimer 病の疫学と臨床診断：治療薬開発上の問題点. 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京都, 東京ドームホテル), 2013. 11.

(3) セミナー：

1) 石渡明子：もの忘れ外来における認知症診断の流れ. 病診連携セミナー —認知症を考える会— (東京), 2013. 11.

2) 北村 伸¹⁾ (1) 武蔵小杉病院 神経内科)：血管性認知症. 日本神経学会 メディカルスタッフ教育セミナー (第1回) (東京), 2013. 6.

3) 片山泰朗：脳卒中 (脳梗塞) の予防と急性期内科的治療. 東京都脳卒中市民公開セミナー (第14回) (東京), 2013. 11.

4) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野)：認知症診療のピットフォール：一筋縄でいかなかった症例の診断と治療から. 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京都, 東京ドームホテル), 2013. 11.

5) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野)：実地医家のための認知症診療：診断のポイントと治療のコツ. 第45回日本動脈硬化学会総会 (東京都, 京王プラザホテル), 2013. 6.

6) 石渡明子：アルツハイマー病治療におけるコリンエステラーゼ阻害薬の位置づけ. 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京), 2013. 11.

(4) 一般講演：

1) 阿部 新, 西山 穰, 角南英子, 大久保誠二, 原田未那, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗：動脈硬化と歯周病菌感染の関連についてのパイロット研究. 日本内科学会総会 (第110回) (東京), 2013. 4.

2) 三品雅洋¹⁾, 石井喜一¹⁾, 石井賢二¹⁾, 木村裕一^{1,2)}, 鈴木正彦^{1,3)}, 楠本昌也^{1,3)}, 坂田宗之¹⁾, 織田圭一¹⁾, 豊原潤¹⁾, 北村 伸, 片山泰朗 (1) 東京都健康長寿医療センター 研究所 神経画像研究チーム, 2) 放射線医学研究所 分子イメージング研究センター, 3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 神経内科)：未治療パーキンソン病における被殻アデノシン A1 受容体密度. 日本神経学会総会 (第54回) (東京), 2013. 5.

3) 原田未那, 阿部 新, 吉田知史, 大久保誠二, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗：大動脈壁肥厚および潰瘍形成と脳梗塞危険因子との関連. 日本神経学会総会 (第54回) (東京), 2013. 5.

4) 酒巻雅典, 水越元気, 内海甲一, 片野雄大, 吉田知史, 原田未那, 阿部 新, 大久保誠二, 三品雅洋, 福地孝明, 片山泰朗：若年生脳梗塞患者における古典型 Fabry 病の有病率. 日本神経学会総会 (第54回) (東京), 2013. 5.

5) 永山 寛, 上田雅之, 濱本 真, 片山泰朗：血中レボドーパ動態に与えるペプシノーゲン濃度の影響：第2報. 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京), 2013. 11.

6) 太田智大, 永山 寛, 大内崇弘, 小澤明子, 酒巻雅典, 山崎峰雄, 片山泰朗：Parkinson 病治療に於ける zonisamide

- 100mg から 25mg への変更による症状変化の検討. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
- 7) 有井一正¹⁾, 小林美紀¹⁾, 岡村正哉¹⁾, 小澤明子¹⁾, 長尾毅彦²⁾, 片山泰朗, 田久保秀樹¹⁾ (1) 東京都保健医療公社 荏原病院 総合脳卒中センター神経内科, (2) 東京女子医科大学 神経内科): Lp (a) は頸動脈硬化のサロゲートマーカーと成りうるかについての検討. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 8) 西山康裕, 上田雅之, 片山泰朗: 男性健診受診者における血中 ADMA と脳卒中発症リスクスコアに関する検討. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 9) 原田未那, 阿部 新, 後藤由也, 杳名章仁, 中島壯崇, 西山康裕, 大久保誠二, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 急性期脳梗塞患者に対する入院経胸壁心エコーの有用性. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 10) 中嶋信人¹⁾, 上田雅之, 片山泰朗 (1) 北村山公立病院 神経内科): ドクササコによる肢端紅痛症に対してニコチン酸が有効であった 80 歳女性例. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 11) 大久保誠二, 阿部 新, 原田未那, 三品雅洋, 片山泰朗: tPA 静注療法に対するエダラボン前投与の効果. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 12) 阿部 新, 松本 学¹⁾, 片野雄大, 吉田知文, 原田未那, 高山洋平, 神谷信雄, 須田 智, 大久保誠二, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 横田裕行²⁾, 片山泰朗 (1) 山梨県立中央病院 救命救急センター, (2) 高度救命センター): 当施設における Penumbra system 治療経験: 頭部 CT 所見と回収血栓の検討を加えて. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 13) 角南英子, 片野雄大, 野村浩一¹⁾, 桜澤 誠¹⁾, 西山康裕, 西山 稔, 片山泰朗 (1) 塩田病院 神経内科): 脳梗塞患者における降圧剤治療による ADMA の変化に関する検討. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 14) 村賀香名子, 西山康裕, 上田雅之, 阿部 新, 仁藤智香子, 桂研一郎, 片山泰朗: 女性健診受診者における脳卒中危険因子および血中 ADMA の関連の検討. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 15) 三品雅洋, 神谷信雄, 阿部 新, 大久保誠二, 原田未那, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (1) 千葉北総病院 脳神経外科): 延髄外側梗塞によるオンディースの呪い症候群に対する気管切開術の有用性. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 16) 神谷文雄, 西山 稔, 駒場祐一, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (1) 千葉北総病院 脳神経外科): 辺縁系脳炎と鑑別を要し, 外科手術にて救命し得た, 心内膜炎, 感染性脳動脈瘤を伴う細菌性髄膜炎の 1 例. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 17) 村賀香名子, 齋藤智成, 仁藤智香子, 上田雅之, 片山泰朗: SHRSP ラットにおけるスタチンおよびカルシウム拮抗薬併用による血管内皮保護効果の検討. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 18) 神谷信雄¹⁾, 濱本 真¹⁾, 高山洋平¹⁾, 片山泰朗 (1) 武蔵小杉病院 神経内科): AD コンバーターにおける凝固線溶系についての検討. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 19) 金丸拓也, 上村尚美¹⁾, 井内勝哉¹⁾, 西横貴代美¹⁾, 横田 隆¹⁾, 高見新也¹⁾, 赤芝洋紀²⁾, 志鷹義嗣²⁾, 桂研一郎, 太田成男¹⁾, 片山泰朗 (1) 加齢科学専攻 細胞生物学分野, (2) アステラス製薬株式会社 薬理研究所): Alzheimer 病モデルマウスに対する骨髄単核球移植の認知機能改善効果. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 20) 唄和康太, 熊谷智昭, 吉田知史, 片野雄大, 仁藤智香子, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: 神経 Behçet 病が疑われた症例に methotrexate が有効であった 1 例. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 21) 藤澤洋輔, 角南英子, 酒巻雅典, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: Sjögren 症候群に無菌性髄膜炎を合併し自己免疫性肝炎が疑われた 1 例. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.
 - 22) 野村浩一¹⁾, 桜澤 誠¹⁾, 角南英子, 片山泰朗 (1) 塩田病院 脳神経内科): MPO-ANCA 関連脊髄炎の 1 例. 日本神経治療学会総会 (第 31 回) (東京), 2013. 11.

- 23) 神谷文雄, 西山康裕, 駒場祐一¹⁾, 片山泰朗⁽¹⁾ 千葉北総病院 神経内科): 特発性血小板減少性紫斑病に対して脾臓摘出後に細菌性髄膜炎を発症し感音性難聴をきたした1例. 日本神経治療学会総会(第31回)(東京), 2013. 11.
- 24) 小澤明子, 熊谷智昭, 太田智大, 酒巻雅典, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: 重症筋無力症初期治療における経口ステロイド単独療法と免疫吸着療法の比較. 日本神経治療学会総会(第31回)(東京), 2013. 11.
- 25) 大内崇弘, 太田智大, 熊谷智昭, 酒巻雅典, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: γ グロブリン大量療法で急速な改善を示した軸索型 Guillain-Barré 症候群の2症例. 日本神経治療学会総会(第31回)(東京), 2013. 11.
- 26) 酒巻雅典, 山崎峰雄, 片山泰朗: 多発性硬化症に対する, フィンゴリモド隔日投与の問題点. 日本神経治療学会総会(第31回)(東京), 2013. 11.
- 27) 石渡明子: アルツハイマー病治療におけるコリンエステラーゼ阻害薬の位置づけ. 長崎県北認知症研究会(第23回)(長崎), 2013. 12.
- 28) 三品雅洋, 石渡喜一¹⁾, 石井賢二¹⁾, 木村裕一^{1, 2)}, 鈴木正彦^{1, 3)}, 橋本昌也^{1, 3)}, 坂田宗之¹⁾, 織田圭一¹⁾, 豊原潤¹⁾, 北村 伸⁴⁾, 片山泰朗⁽¹⁾ 東京と健康長寿医療センター研究所 神経画像研究チーム, ²⁾放射線医学研究所 分子イメージング研究センター, ³⁾東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 神経内科, ⁴⁾武蔵小杉病院 認知症治療センター): 未治療パーキンソン病における被殻アデノシン A1 受容体密度. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 29) 上田雅之, 稲葉俊東, 仁藤智香子, 齊藤智成, 神谷文雄, 村賀香名子, 神谷信雄, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける EPA-E の脳保護効果: 血管内皮に対する効果. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 30) 齊藤智成, 仁藤智香子, 上田雅之, 稲葉俊東, 神谷文雄, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける atorvastatin 投与時期による脳保護効果の検討: 第2報. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 31) 原田未那, 阿部 新, 片野雄大, 吉田知史, 大久保誠二, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 大動脈壁肥厚および潰瘍形成と脳梗塞危険因子との関連. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 32) 北村 伸¹⁾, 濱本 真¹⁾, 山室 学¹⁾, 神谷信雄¹⁾, 高山洋平¹⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院 神経内科): Computer 支援診断システムを用いた IMP-SPECT によるアルツハイマー病 (AD) の検出感度. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 33) 石渡明子, 木村 直¹⁾, 片山泰朗⁽¹⁾ 東邦大学医学部放射線科): アルツハイマー病における SPECT の横断的評価の再現性の検討. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 34) 金丸拓也¹⁾, 上村尚美¹⁾, 井村勝哉¹⁾, 西楨貴代美¹⁾, 横田 隆¹⁾, 高見新也²⁾, 赤芝洋紀²⁾, 志鷹義嗣²⁾, 桂研一郎, 太田成男¹⁾, 片山泰朗⁽¹⁾ 加齢科学系専攻細胞生物学分野, ²⁾ アステラス製薬株式会社薬理研究所): Alzheimer モデルマウスに対する骨髄単核球移植の認知機能改善効果. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 35) 片野雄大: 虚血発症椎骨動脈解離の検討. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 36) 酒巻雅典, 水越元気¹⁾, 内海甲一²⁾, 片野雄大, 吉田知史, 原田未那, 阿部 新, 大久保誠二, 三品雅洋, 福地孝明¹⁾, 片山泰朗⁽¹⁾ 府中恵仁会病院 脳神経内科, ²⁾ うつみ内科クリニック): 若年性脳梗塞患者における古典型 Fabry 病の有病率. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 37) 太田智大, 永山 寛, 熊谷智昭, 野上 茜, 滝沢まどか, 小澤明子, 酒巻雅典, 山崎峰雄, 片山泰朗: Parkinson 病治療における zonisamide 100mg から 25mg への変更による症状変化の検討. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.
- 38) 小澤明子, 熊谷智昭, 永山 寛, 太田智大, 滝沢まどか, 酒巻雅典, 山崎峰雄, 片山泰朗: 重症筋無力症初期治療における経口ステロイド単独療法と免疫吸着療法の比較. 日本神経学会学術大会(第54回)(東京), 2013. 6.

- 39) 上田雅之, 稲葉俊東, 仁藤智香子, 齊藤智成, 村賀香名子, 神谷文雄, 神谷信雄, 片山泰朗: ラット一過性中大脳動脈閉塞モデルにおける非侵襲的脳血流モニターを用いた梗塞体積均一化の検討. 日本脳循環代謝学会総会 (第 25 回) (札幌), 2013. 11.
- 40) 村賀香名子, 齊藤智成, 仁藤智香子, 上田雅之, 片山泰朗: SHRSP ラットにおけるスタチン及びカルシウム拮抗薬併用による脳卒中予防効果の検討. 日本脳循環代謝学会総会 (第 25 回) (札幌), 2013. 11.
- 41) Ueda M, Nakajima N, Nishiyama Y, Okubo S, Katayama Y: Radiological features in posterior reversible encephalopathy syndrome: potential impact of neurovascular compression at the rostral ventrolateral medulla. International TIA/AVIS Conference (Tokyo), 2013. 11.
- 42) Nishiyama Y, Ueda M, Otsuka, Katayama Y: Asymmetric dimethylarginine is associated with predicted stroke risk in Japanese men. International TIA/AVIS Conference (Tokyo), 2013. 11.
- 43) Abe A, Matsumoto, Okubo S, Suda S, Mishina M, Ueda M, Katsura K, Katayama Y: Use of the Merci retrieval and Panumbra system in our medical center: an initial progress. International TIA/AVIS Conference (Tokyo), 2013. 11.
- 44) Ueda M, Inaba T, Nito C, Nishiyama Y, Kamiya F, Saito T, Muraga K, Kamiya N, Katayama Y: Pre-treatment with eicosapentaenoic acid reduces endothelial Rho-kinase activation and tissue oxidative stress following transient focal ischemia in rat brain. Korean-Japanese Joint Stroke Conference (The 6th) (Osaka), 2013. 10.
- 45) Nishiyama Y, Ueda M, Otsuka, Katsura K, Katayama Y: Asymmetric dimethylarginine is related to the predicted stroke risk in middle-aged Japanese men. Korean-Japanese Joint Stroke Conference (The 6th) (Osaka), 2013. 10.
- 46) 大内崇弘, 太田智大, 熊谷智昭, 永山 寛, 山崎峰雄, 三品雅洋, 片山泰朗: 亜急性の認知機能低下で発症し画像上の変化を認めなかった血管内リンパ腫の 70 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 206 回) (東京), 2013. 9.
- 47) 大内崇弘, 太田智大, 永山 寛, 熊谷智昭, 酒巻雅典, 山崎峰雄, 三品雅洋, 片山泰朗: ステロイド減量中に再発した IgG4 関連肥厚性硬膜炎の 65 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 205 回) (東京), 2013. 6.
- 48) 藤澤洋輔, 滝沢まどか, 太田智大, 熊谷智昭, 角南英子, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: 筋痙攣で発症し遺伝性運動感覚ニューロパチー (HMSN-P) と遺伝子診断された 54 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 207 回) (東京), 2013. 11.
- 49) 西山康裕: 心血管危険因子 ADMA に関する検討: 脳卒中危険因子との関連および Statin・ARB の影響について. Brain Protection Forum (第 10 回) (東京), 2013. 10.
- 50) 野上 茜^{1, 2)}, 山崎峰雄¹⁾, 斎藤祐子³⁾, 隅蔵大幸²⁾, 内野彰子²⁾, 伊藤慎治²⁾, 初田裕幸²⁾, 高尾昌樹²⁾, 片山泰朗¹⁾, 村山繁雄²⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 2) 東京都老人総合研究所 高齢者ブレインバンク, 3) 国立精神神経医療研究センター病院臨床検査部): “preclinical PSP” の病理: 高齢者総合病院連続 324 剖検例における検討. 日本認知症学会学術集会 (第 32 回) (長野県松本市), 2013. 11.
- 51) 野上 茜^{1, 2)}, 山崎峰雄¹⁾, 斎藤祐子³⁾, 崎山快夫⁴⁾, 隅蔵大幸²⁾, 内野彰子²⁾, 伊藤慎治²⁾, 初田裕幸²⁾, 高尾昌樹²⁾, 片山泰朗¹⁾, 村山繁雄²⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 2) 東京都老人総合研究所 高齢者ブレインバンク, 3) 国立精神神経医療研究センター病院臨床検査部, 4) 自治医科大学附属さいたま医療センター): 進行性核上性麻痺の早期病変: 高齢者連続 340 剖検例における神経病理学的検討. 日本神経学会学術大会 (第 54 回) (東京都), 2013. 5.
- 52) 野上 茜^{1, 2)}, 山崎峰雄¹⁾, 斎藤祐子³⁾, 隅蔵大幸²⁾, 内野彰子²⁾, 伊藤慎治²⁾, 初田裕幸²⁾, 高尾昌樹²⁾, 村山繁雄²⁾ (1) 日本医科大学 神経内科, 2) 東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク, 3) 国立精神神経医療

- 研究センター病院臨床検査部)：純粹無動症を呈した進行性核上性麻痺 (PSP) の 2 剖検例. 日本神経病理学会総会学術研究会 (第 54 回) (東京都), 2013. 4.
- 53) 後藤由也, 大久保誠二, 西山康裕, 中島壯崇, 杳名章仁, 阿部 新, 原田未那, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳血流負荷シンチグラフィ後に脳梗塞をきたした 2 症例. 日本脳循環代謝学会総会 (第 25 回) (仙台), 2013. 11.
- 54) Mishina M, Ishii K¹, Suzuki M², Kitamura S³, Hashimoto M², Kimura Y⁴, Sakata M¹, Oda K¹, Toyohara J¹, Kobayashi S⁵, Katayama Y, Ishiwata K¹ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, 3) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 4) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 5) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Relation of striatal density of adenosine A2A receptors, dopamine transporter and dopamine D2 receptor with tremor at rest and rigidity in Parkinson's disease. International Congress of Parkinson (シングルクオート) s Disease and Movement Disorders (The 17th) (Sydney), 2013. 6.
- 55) Mishina M, Okubo S, Kamiya N, Abe A, Suda S, Saakamaki M, Kominami S¹, Mizutani T¹, Kobayashi S¹, Katayama Y (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chibahokusoh Hospital) : Two Cases of Lateral Medullary Infarction Presented Central Alveolar Hypoventilation Syndrome. International TIA/ACVS Conference (Tokyo), 2013. 11.
- 56) 須田 智, 桂研一郎, 斎藤萌子, 神谷信雄, 金丸拓也, 西山康裕, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルにおける骨髄単核球とバルプロ酸の併用療法の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 57) 村賀香名子, 齊藤智成, 藤原正和¹, Mohammad G¹, 稲葉俊東, 仁藤智香子, 上田雅之, 片山泰朗 (1) 日本医科大学 老人病研究所 分子細胞構造学) : SHRSF におけるスタチンおよびカルシウム拮抗薬併用による脳卒中予防効果の検討 (第 2 報). 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 58) 西山康裕, 上田雅之, 阿部 新, 村賀香名子, 桂研一郎, 片山泰朗: 日本人中年男性における血中 asymmetric dimethylarginine (ADMA) の脳卒中リスクスコアとの関連. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 59) 鈴木健太郎¹, 神澤孝夫¹, 高橋里史², 木村浩晃³, 狩野忠滋², 赤路和則², 谷崎義生², 片山泰朗, 美原 盤³ (1) 脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中部門, 2) 脳血管研究所 美原記念病院 脳神経外科, 3) 脳血管研究所 美原記念病院 神経内科) : 閉塞血管別の血栓溶解療法の効果及び投与後症状変化と予後. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 60) 野村浩一^{1, 2}, 片野雄大^{1, 2}, 片山泰朗² (1) 塩田病院 脳神経内科, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 慢性期脳梗塞に合併した過活動膀胱にはミラベゴロンが有用である. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 61) 高山洋平^{1, 2}, 神澤孝夫¹, 木村浩晃¹, 赤路和則¹, 狩野忠滋¹, 谷崎義生¹, 高橋里史¹, 鈴木健太郎¹, 片山泰朗², 美原 盤¹ (1) 公益財団法人 脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中部門, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 虚血性脳卒中 2 次予防における抗血漿薬併用の理由. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 62) 高山洋平¹, 神澤孝夫¹, 木村浩晃¹, 赤路和則¹, 狩野忠滋¹, 谷崎義生¹, 高橋里史¹, 鈴木健太郎, 片山泰朗, 美原 盤¹ (1) 公益財団 脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中部門) : 当院における多剤併用抗血小板, 抗凝固療法の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 63) 阿部 新, 原田未那, 大久保誠二, 西山康裕, 足立眞理¹, 上田雅之, 三品雅洋, 桂研一郎, 片山泰朗 (1) 葛飾健診センター) : 実臨床におけるアクロレインによる脳梗塞リスク値の有用性の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 64) 須田 智, 桂研一郎, 斎藤萌子, 神谷信雄, 金丸拓也, 西山康裕, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルに

- おける骨髄単核球とバルプロ酸の併用療法の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 65) 杓名章仁, 阿部 新, 後藤由也, 唄 康太, 中島壯崇, 原田未那, 西山康裕, 大久保誠二, 三品雅洋, 片山泰朗: 当院における奇異性脳塞栓症と心原性脳塞栓症の臨床的特徴の比較. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 66) 後藤由也, 西山康裕, 中島壯崇, 杓名章仁, 唄 康太, 大久保誠二, 阿部 新, 原田未那, 桂研一郎, 片山泰朗: 心原性脳塞栓症発症後の血液中における好中球および単球の動態変化について. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 67) 中島壯崇, 阿部 新, 杓名章仁, 原田未那, 後藤由也, 西山康裕, 大久保誠二, 三品雅洋, 桂研一郎, 片山泰朗: 当院における大動脈原性脳塞栓症と心原性脳塞栓症の臨床的特徴の比較. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 68) 有井一正^{1,3)}, 小林美紀¹⁾, 岡村正哉^{1,3)}, 長尾毅彦²⁾, 片山泰朗³⁾, 田久保秀樹¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社 荏原病院 総合脳卒中センター神経内科, ²⁾ 東京女子医科大学 神経内科, ³⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野): 頸動脈硬化と脂質および糖尿病の関係に対する加齢の影響に関する検討. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
- 69) 阿部 新, 松本 学¹⁾, 片野雄大, 吉田知史, 高山洋平, 原田未那, 神谷信雄, 須田 智, 大久保誠二, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 横田裕行²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学附属病院 高度救命救急センター): 当施設における Penumbra system 治療経験 頭部 CT 所見と回収血栓の検討を加えて. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 29 回), 2013. 11.
- 70) 阿部 新, 原田未那, 高山洋平, 鈴木健太郎, 吉田知史, 片野雄大, 杓名章仁, 中島壯崇, 西山康裕, 大久保誠二, 上田雅之, 三品雅洋, 桂研一郎, 片山泰朗: t-PA 治療が著効した Basilar Top Syndrome の 1 症例. 東京 Stroke フロンティア (第 11 回) (東京), 2013. 4.
- 71) Abe A, Matsumoto G¹⁾, Suda S, Okubo S, Mishina M, Ueda M, Katsura K, Yokota H²⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Emergency Medicine, Yamanashi Prefectural Central Hospital, ²⁾ Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School): Use of the Merci Retrieval and Penumbra System in Our Medical Center: an Initial Progress. International TIA/ACVS Conference (Tokyo), 2013. 11.
- 72) Nishiyama Y, Ueda M, Otsuka¹⁾, Katayama Y: Asymmetric dimethylarginine is associated with the predicted stroke risk in Japanese men. TIA/ACVS Conference (Tokyo), 2013. 11.
- 73) Nishiyama Y, Ueda M, Otsuka¹⁾, Abe A, Katayama Y: Asymmetric dimethylarginine is related with the predicted stroke risk in Japanese men. Korea-Japan Joint Stroke Conference (6th) (Osaka), 2013. 10.
- 74) Nishiyama Y, Ueda M, Otsuka, Katayama Y: Asymmetric dimethylarginine is related with the predicted stroke risk in Japanese men. International Stroke Conference 2014 (San Diego, USA), 2014. 2.

論文

〔追加分〕

追加分原著:

- 1) Abe A, Nishiyama Y, Hagiwara H, Okubo S, Ueda M, Katsura K, Katayama Y: Administration of cilostazol, an antiplatelet, to patients with acute-stage cerebral infarction and its effects on plasma substance P level and latent time of swallowing reflex. J Nippon Med Sch 2013; 80 (1): 50-56.
- 2) 石渡明子, 北村 伸¹⁾, 野村俊明²⁾, 根本留美³⁾, 石井知香³⁾, 若松直樹⁴⁾, 片山泰朗, 川並汪^{3,5)} (¹⁾ 武蔵小杉病院 神経内科, ²⁾ 心理学教室, ³⁾ 老人病研究所 街ぐるみ認知症相談センター, ⁴⁾ 新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科, ⁵⁾ 中医学漢方工房): 街ぐるみ認知症相談センターの 4 年間の活動状況. J Nippon Med Sch 2013; 9 (1): 14-19.

追加分症例報告：

- 1) Suzuki K¹⁾, Ueda M, Muraga K, Abe A, Suda S, Okubo S, Katayama Y : Unusual cerebral air embolism within the posterior circulation territory after needle lung biopsy. Intern Med 2013 ; 52 (1) : 115-117.
- 2) Fujikura T^{1, 2)}, Takeshita T^{3, 10)}, Homma H^{4, 10)}, Adachi K^{5, 10)}, Miyake K^{6, 10)}, Kudo M^{7, 10)}, Takizawa T^{8, 10)}, Nagayama H¹⁰⁾, Hirakawa K^{9, 10)} (¹⁾ Academic Quality and Development Office, ²⁾ Department of Head & Neck and Sensory Organ Science, ³⁾ Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecology, ⁴⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Medicine, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, ⁶⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, ⁷⁾ Department of Pathology and Integrative Oncological Pathology, ⁸⁾ Department of Molecular Medicine and Anatomy, ⁹⁾ Department of Legal Medicine, ¹⁰⁾ Small Group Learning Working Committee) : Team-based learning using an audience response system : a possible new strategy for interactive medical education. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 63-69.
- 3) Nakajima N¹⁾, Ueda M, Nagayama H, Katayama Y (¹⁾ 北村山公立病院神経内科) : Hypoglycemia-induced spontaneous unilateral jerking movement in bilateral internal capsule posterior limb abnormalities. J Neuro Sci 2014 ; 338 (1-2) : 220-222.

追加分研究報告書：

- 1) Katayama Y, Aoyama S, Arie T, Katsura K, Nito C, Okubo S, Suda S, Kamiya T, Igarashi H, Ueda M, Inaba T : Studies on neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 on cerebral ischemia 2013 : 1-68.

学会発表

追加分シンポジウム：

- 1) 神谷達司 : ROCKET AF (Rivaroxaban vs. Warfarin). 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京), 2103. 11.

追加分一般講演：

- 1) 上田雅之, 仁藤智香子, 西山康裕, 齋藤智成, 村賀香名子, 神谷文雄, 片山泰朗 : ラット一過性局所脳虚血モデルにおける非侵襲的脳血流モニターによる梗塞体積の均一化. 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京), 2103. 11.
- 2) 片野雄大¹⁾, 野村浩一¹⁾, 桜沢 誠¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 塩田病院 神経内科) : 内頸動脈ステント挿入術後の過灌流症候群が長期治療で改善を認めた1例. 日本脳卒中学会総会 (第39回) (大阪), 2013. 3.

追加分会長講演：

- 1) 片山泰朗 : 私の脳卒中治療研究. 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京), 2103. 11.

追加分特別講演：

- 1) 石渡明子 : AD治療におけるコリンエステラーゼ阻害薬の位置づけ～アリセプトによる早期治療, 早期増量の意義. 九州アルツハイマー型認知症研究会 (第3回) (福岡), 2013. 1.

[千葉北総病院神経・脳血管内科]

研究概要

研究概要 北総病院神経内科においては、倫理委員会 IRB の承認の基、以下の臨床研究 (1) 認知機能障害における脳画像統計解析の多施設共同研究 2006- を行っている。(2) 脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の予防効果に関する研究 (J-STARS) 2006- (3) 高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の高感度 CRP 濃度へ及ぼす効果に関する研究 (高感度 CRP サブスタディ) 2006- (4) ピリドスチグミンによる起立性低血圧の治療 2008- また、東京都健康長寿医療センター研究所 (旧東京都老人総合研究所)、放射線医学総合研究所、東京慈恵

会医科大学と共同で、PET を用いて脳内アデノシン A1 および A2A 受容体を指標とした加齢変化およびパーキンソン病の病態解明の研究を行っている

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 小柳清光¹⁾, 望月葉子³⁾, 中山優季⁴⁾, 林健太郎⁵⁾, 清水俊夫⁵⁾, 長尾雅裕⁵⁾, 橋本智代^{1, 6)}, 山崎峰雄, 松原四郎⁵⁾, J 小森隆司²⁾ (¹⁾ 信州大学医学部神経難病学, ²⁾ 東京都立神経病院検査科病理, ³⁾ 東京都立北療育医療センター神経内科, ⁴⁾ 東京都医学総合研究所, ⁵⁾ 東京都立神経病院脳神経内科, ⁶⁾ 産業医科大学神経内科) : ALS におけるコミュニケーション障害とその対策：完全封じ込め状態への挑戦 Totally locked-in state 患者の脳と脊髄における障害部位と保全部位. 臨床神経 2013 ; 53 : 1399-1401.
- 2) Nakajima N¹⁾, Ueda M²⁾, Nagayama H²⁾, Yamazaki M, Katayama Y²⁾ (¹⁾ Department of Neurology, Kitamura Public Hospital,, ²⁾ Department of Neurology, Nippon Medical School) : Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome due to Hypercalcemia Associated with ParathyroidHormone-related Peptide : A Case Report and Review of the Literature. Intern Med 2013 ; 52 : 2465-2468.
- 3) Nakajima N¹⁾, Ueda M²⁾, Yamazaki M, Takahashi T³⁾, Katayama Y²⁾ (¹⁾ Department of Neurology, Kitamura Public Hospital,, ²⁾ Department of Neurology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Multiple Sclerosis Therapeutics, Tohoku University Graduate School of Medicine) : Optic Neuritis Following Aseptic Meningitis Associated with Modified Measles : a Case Report. Jpn J Infect Dis 2013 ; 66 : 320-322.
- 4) Takahashi T¹⁾, Aoki M²⁾, Suzuki N²⁾, Tateyama M²⁾, Yaginuma C³⁾, Sato H³⁾, Hayasaka M^{3, 4)}, Sugawara H³⁾, Ito M^{3, 5)}, Kondo-Abe E^{3, 6)}, Shimakura N²⁾, Yamazaki M, Ibi T^{7, 8)}, Kuru S⁹⁾, Wakayama T^{9, 10)}, et al. (¹⁾ Department of Neurology and Division of Clinical Research, National Hospital Organization Nishitaga National Hospital, ²⁾ Department of Neurology, Tohoku University School of Medicine, ³⁾ Department of Clinical Laboratory and Division of Clinical Research, National Hospital Organization Nishitaga National Hospital, ⁴⁾ Department of Clinical Laboratory, National Hospital Organization Fukushima National Hospital, ⁵⁾ Department of Clinical Laboratory, National Hospital Organization Sendai Medical Centre,, ⁶⁾ Department of Clinical Laboratory, Sagami Hospital of Rehabilitation, ⁷⁾ Department of Neurology, Aichi Medical University, ⁸⁾ Division of Pathophysiology and Therapeutics, College of Nursing, ⁹⁾ Department of Neurology, National Hospital Organization Suzuka National Hospital, ¹⁰⁾ Dr Wakayama's office) : Clinical features and a mutation with late onset of limb girdle muscular dystrophy 2B. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2013 ; 84 : 433-440.

(2) 総説：

- 1) 山崎峰雄, 片山泰朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院神経内科) : 臨床病態における RAS の関与 アルツハイマー病. Angiotensin Research 2013 ; 10 (2) : 116-120.
- 2) 山崎峰雄 : 汎発性レビー小体病について. CLINICIAN 2013 ; 60 (623) : 24-27.
- 3) 川上康彦¹⁾, 太組一朗²⁾, 山崎峰雄, 長谷川大輔³⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院小児科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 日本獣医生命科学大学獣医放射線教室) : 日本医科大学てんかん診療の歴史・現況・そして未来「日本医科大学包括てんかん診療ミーティング」結成報告. 日本医科大学医学会雑誌 2013 ; 9 (1) : 33-34.

著書

- 1) 山崎峰雄 : [分担] 実臨床でしばしばみられるアルツハイマー型認知症の周辺症状について教えて下さい. 治療特別編集 認知症でお困りですか? (川畑信也), 2013 ; pp148-152, 南山堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 山崎峰雄：認知症診療のピットフォール：一筋縄でいかなかった症例の診断と治療から。日本神経治療学会総会（第31回）（東京），2013. 11.
- 2) 山崎峰雄：明日から役立つ認知症診療ノウハウ：薬物療法を中心に：病診連携セミナー。認知症を考える会（東京），2013. 11.
- 3) 山崎峰雄：アルツハイマー病診療の pitfalls. ADカンファレンス in 倉敷 2013 秋（倉敷），2013. 10.
- 4) 山崎峰雄：認知症の正しい知識。認知症フェア講演会（東京），2013. 9.
- 5) 山崎峰雄：実地医家のための認知症診療 - 診断のポイントと治療のコツ。日本動脈硬化学会総会（第45回）（東京），2013. 6.
- 6) 山崎峰雄，小柳清光¹⁾（¹⁾ 信州大学医学部神経難病学講座分子病理学部門）：グアム島パーキンソン認知症と進行性核上性麻痺（神経病理を中心に）。Neuropathology Conference For Young Neurologists（第1回）（東京），2013. 5.

(2) シンポジウム：

- 1) 山崎峰雄：Alzheimer 病の疫学と臨床診断（治療薬開発上の問題点）。日本神経治療学会総会（第31回）（東京），2013. 11.

(3) 一般講演：

- 1) 山崎峰雄：非アルツハイマー型認知症を知る：レヴィ小体型認知症，前頭側頭葉変性症，進行性核上性麻痺に関する最近の話題。神経疾患懇話会（第13回）（川口市），2013. 5.
- 2) 藤澤洋輔¹⁾，滝沢まどか¹⁾，太田智大，熊谷智昭¹⁾，角南英子¹⁾，永山 寛¹⁾，山崎峰雄，片山泰朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院神経内科）：筋痙攣で発症し遺伝性運動感覚ニューロパチー（HMSN-P）と遺伝子診断された54歳男性例。日本神経学会関東・甲信越地方会（第207回）（東京），2013. 11.
- 3) 酒巻雅典，山崎峰雄，片山泰朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院神経内科）：多発性硬化症に対する，フィンゴリモド隔日投与の問題点。日本神経治療学会総会（第31回）（東京），2013. 11.
- 4) 藤澤洋輔¹⁾，角南英子¹⁾，酒巻雅典，永山 寛¹⁾，山崎峰雄，片山泰朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院神経内科）：Sjögren 症候群に無菌性髄膜炎を合併し自己免疫性肝炎が疑われた1例。日本神経治療学会総会（第31回）（東京），2013. 11.
- 5) 太田智大，永山 寛¹⁾，大内崇弘，小澤明子¹⁾，酒巻雅典，山崎峰雄，片山泰朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院神経内科）：Parkinson 病治療に於ける zonisamide 100mg から 25mg への変更による症状変化の検討。日本神経治療学会総会（第31回）（東京），2013. 11.
- 6) 小澤明子，熊谷智昭，太田智大，酒巻雅典，永山 寛，山崎峰雄，片山泰朗：重症筋無力症初期治療における経口ステロイド単独療法と免疫吸着療法の比較。日本神経治療学会総会（31回）（東京），2013. 11.
- 7) 大内崇弘，太田智大，熊谷智昭¹⁾，永山 寛¹⁾，山崎峰雄，三品雅洋¹⁾，片山泰朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院神経内科）： γ グロブリン大量療法で急速な改善を示した軸索型 Guillain-Barré 症候群の2症例。日本神経治療学会総会（第31回）（東京），2013. 11.
- 8) 岨 康太，熊谷智昭¹⁾，吉田知史，片野雄大，仁藤智香子¹⁾，永山 寛¹⁾，山崎峰雄，片山泰朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院神経内科）：神経 Behçet 病が疑われた症例に methotrexate が有効であった1例。日本神経治療学会総会（第31回）（東京），2013. 11.
- 9) 野上 茜¹⁾，山崎峰雄，齊藤祐子³⁾，隅藏大幸²⁾，内野彰子²⁾，伊藤慎二²⁾，初田裕幸²⁾，高尾昌樹²⁾，片山泰朗¹⁾，村山繁雄²⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院神経内科，²⁾ 東京都老人総合研究所 高齢者ブレインバンク，³⁾ 国立精神神経医療研究センター病院臨床検査部）：preclinical PSP の病理（高齢者総合病院連続324剖検例における検討）。日本認知症学会学術集会（第32回）（松本市），2013. 11.

- 10) 大内崇弘, 太田智大, 永山 寛¹⁾, 熊谷智昭¹⁾, 酒巻雅典, 山崎峰雄, 三品雅洋¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院神経内科) : 亜急性の認知機能低下で発症し画像上の変化を認めなかった血管内リンパ腫の70歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第206回) (東京都), 2013. 9.
- 11) 大内崇弘, 太田智大, 熊谷智昭¹⁾, 酒巻雅典, 永山 寛¹⁾, 山崎峰雄, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院神経内科) : ステロイド減量中に再発したIgG4関連肥厚性硬膜炎の65歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第205回) (東京), 2013. 6.
- 12) 野上 茜¹⁾, 山崎峰雄, 齊藤祐子³⁾, 崎山快夫⁴⁾, 隅蔵大幸²⁾, 内野彰子²⁾, 伊藤慎二²⁾, 初田裕幸²⁾, 高尾昌樹²⁾, 片山泰朗¹⁾, 村山繁雄²⁾ (1) 日本医科大学付属病院神経内科, 2) 東京都老人総合研究所 高齢者ブレインバンク, 3) 国立精神神経医療研究センター病院臨床検査部, 4) 自治医科大学付属さいたま医療センター) : 進行性核上性麻痺の早期病変 - 高齢者連続340剖検例における神経病理学的検討. 日本神経学会学術大会 (第54回) (東京都), 2013. 5.
- 13) 小澤明子¹⁾, 熊谷智昭¹⁾, 永山 寛¹⁾, 太田智大, 滝沢まどか¹⁾, 酒巻雅典, 山崎峰雄, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院神経内科) : 重症筋無力症初期治療における経口ステロイド単独療法と免疫吸着療法の比較. 日本神経学会学術大会 (第54回) (東京), 2013. 5.
- 14) 太田智大, 永山 寛¹⁾, 熊谷智昭¹⁾, 野上 茜¹⁾, 滝沢まどか¹⁾, 小澤明子¹⁾, 酒巻雅典, 山崎峰雄, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院神経内科) : Parkinson病治療におけるzonisamide 100mgから25mgへの変更による症状変化の検討. 日本神経学会学術大会 (第54回) (東京), 2013. 5.
- 15) 野上 茜¹⁾, 山崎峰雄, 齊藤祐子³⁾, 隅蔵大幸²⁾, 内野彰子²⁾, 伊藤慎治²⁾, 初田裕幸²⁾, 高尾昌樹²⁾, 村山繁雄 (1) 日本医科大学付属病院神経内科, 2) 東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク, 3) 国立精神神経医療研究センター病院臨床検査部) : 純粋無動症を呈した進行性核上性麻痺 (PSP) の2剖検例. 日本神経病理学会総会学術研究会 (第54回) (東京), 2013. 4.

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 丸木雄一¹⁾, Davis B²⁾, Raskind M³⁾, 河村 満⁴⁾, 木村 透⁵⁾, 鈴木則宏⁶⁾, 平田幸一⁷⁾, 山崎峰雄 (1) 埼玉精神神経センター, 2) Scientific Director, Synaptec Inc, 3) Psychiatry and Behavioral Sciences, University of Washington, 4) 昭和大学医学部神経内科, 5) 洛和会みささぎ病院, 6) 慶應義塾大学医学部神経内科, 7) 独協医科大学神経内科) : アセチルコリンエステラーゼ阻害薬に関する最近の臨床的話題. *Cognition and Dementia* 2013; 12 (1) : 76-83.

3. 内科学（腎臓内科学）

[付属病院腎臓内科]

研究概要

付属病院腎臓内科は臨床および基礎面ともに精力的な研究と発表を行った（英文原著8編，和文原著1編）。臨床研究としては，慢性糸球体腎炎患者に対する新しい治療法の開発，維持透析患者における抗菌薬の薬物動態検討，保存期腎不全患者に対する新しい利尿薬の薬効評価などを中心に国内外での関連学会への発表と論文発表を行った。また大規模臨床研究や国際共同治験にも積極的に参加し，論文発表に貢献した。基礎研究としては，主に病理学教室との共同で各種実験腎炎の機序解明に関わる研究を行った。また腎における新規薬物輸送体の意義についての基礎的研究と論文発表も行った。一方，症例報告も積極的に多数の関連学会に発表し，そのうち4例が論文としても受理された（英文3編，和文1編）。研究助成としては，文部科学省科学研究費（代表）3件を継続するとともに，厚生労働省科学研究費（分担）を新規に1件取得した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Otsuka T¹， Sakai Y¹， Ohno D¹， Murasawa T¹， Sato N²， Tsuruoka S³ (¹ Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ² Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ³ Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : The effects of tolvaptan on patients with severe chronic kidney disease complicated by congestive heart failure. *Clinical and Experimental Nephrology* 2013 ; 17 (6) : 834-838.
- 2) Sakai Y¹， Suzuki A¹， Mugishima K¹， Sumi Y¹， Otsuka Y¹， Otsuka T¹， Ohno D¹， Murasawa T¹， Tsuruoka S² (¹ Department of Nephrology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ² Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Comparison of once daily versus twice daily olmesartan in patients with chronic kidney disease. *International Journal of Nephrology and Renovascular Disease* 2013 ; 6 (10) : 223-227.
- 3) 大塚智之¹， 酒井行直¹， 大野 大¹， 村澤恒男¹ (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科) : CAPD 患者に対する tolvaptan の有用性についての検討. *腎と透析* 2013 ; 75 (別冊) : 219-220.
- 4) Kaneko T¹， Shimiz A²， Tsuruoka S¹， Iino Y¹， Katayama Y³ (¹ Divisions of Nephrology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ² Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, ³ Divisions of Neurology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Efficacy of steroid pulse therapy in combination with mizoribine following tonsillectomy for immunoglobulin A nephropathy in renally impaired patients. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (4) : 279-286.

(2) 総説：

- 1) 大塚智之¹， 酒井行直¹， 佐藤直樹² (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科， ² 日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) : 心腎連関とCKD. *Medical Practice* 2013 ; 30 (11) : 1923-1925.
- 2) 鶴岡秀一：腎臓における尿毒素排泄機構. *日医大医会誌* 2013 ; 9 (4) : 235-235.
- 3) 鶴岡秀一：治療の薬物濃度モニタリング. *腎と透析* 2013 ; 75 (4) : 473-474.
- 4) 谷 崇， 鶴岡秀一：CKD の重症度別の水電解質異常. *Fluid Management Renaissance* 2014 ; 4 (1) : 27-32.

- 5) 金子朋広¹⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科)：電解質・酸塩基平衡是正のための薬剤の使用法 アルカローシス (代謝性・呼吸性)．腎と透析 2013；74 (増刊号)：147-149.
- 6) 三井亜希子¹⁾，清水 章²⁾ (1) 腎臓内科学，²⁾ 解析人体病理)：腎生検によるネフローゼ症候群の診断と病態分類．内科 2013；112 (4)：677-683.

(3) 症例報告：

- 1) Ohashi R¹⁾， Sakai Y²⁾， Otsuka T²⁾， Ohno D²⁾， Murasawa T²⁾， Shimizu A³⁾ (1) Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, 2) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 3) Department of Pathology, Nippon Medical School)：Proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG2 κ deposit successfully treated with steroids：a case report and review of the literature. CEN Case Reports 2013；2 (2)：197-203.
- 2) 谷 崇，鶴岡秀一：低Na血症の症例．腎と透析 2013；74 (4)：816-819.
- 3) Shimizu A¹⁾， Fujita E²⁾， Mii A²⁾， Kaneko T²⁾， Tsuruoka S²⁾ (1) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, 2) Divisions of Nephrology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School)：Post-infectious acute glomerulonephritis and transient coagulation factor XIII deficiency associated with acute parvovirus B19 infection in a young woman—reply. Hum Pathol. 2013；44 (6)：1193-1194.

著 書

- 1) 池田まり子，鶴岡秀一：〔分担〕高ナトリウム血症 / 低ナトリウム血症．腎疾患治療薬マニュアル 2013-14 (「腎と透析」編集委員会)，2013；pp119-122，東京医学社.
- 2) 平間章郎¹⁾，鶴岡秀一¹⁾：〔共著〕利尿薬の分類と作用. Fluid management renaissance, 2013；pp126-129，メディカルレビュー社.
- 3) 平間章郎，飯野靖彦：〔共著〕蛋白尿．腎と透析 腎疾患治療薬マニュアル 2013-14, 2013；pp71-75，東京医学社.

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 鶴岡秀一：イルベサルタンの非糖尿病性高血圧症例への効果. 第43回日本腎臓学会東部学術大会 (東京)，2013. 10.
- 2) 鶴岡秀一：間質性腎炎. 第43回日本腎臓学会東部学術大会 (東京)，2013. 10.

(2) ワークショップ：

- 1) 新井桃子¹⁾，本田一穂²⁾，池田まり子¹⁾，谷 崇¹⁾，福井めぐみ¹⁾，平間章郎¹⁾，三井亜希子¹⁾，金子朋広¹⁾，清水 章³⁾，鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院腎臓内科，²⁾ 東京女子医科大学第二病理学，³⁾ 日本医科大学解析人体病理学)：糖尿病性腎症に対して長期腹膜透析を施行した1例. 日本腹膜透析医学会学術集会・総会 (第19回) (大阪)，2013. 9.
- 2) 三井亜希子¹⁾，肥後清一郎^{1, 2)}，益田幸成²⁾ (1) 腎臓内科学，²⁾ 解析人体病理)：造血幹細胞移植後の移植片対宿主病 (GVHD) に伴う腎病変. 日本病理学会 (札幌)，2013. 6.

(3) 一般講演：

- 1) 谷 崇¹⁾，石原 力¹⁾，新井桃子¹⁾，池田まり子¹⁾，荒川裕輔¹⁾，安田文彦¹⁾，福井めぐみ¹⁾，三井亜希子¹⁾，金子朋広¹⁾，鶴岡秀一¹⁾，清水 章²⁾，飯野靖彦¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)，²⁾ 日本医科大学付属病院 病理学 (解析人体病理学)：クリオグロブリン血症性糸球体腎炎に対し，血漿交換療法，経口ステロイドが著効した1例. 第58回日本透析医学会学術集会・総会 (福岡県博多市)，2013. 6.
- 2) 谷 崇¹⁾，荒川裕輔¹⁾，福井めぐみ²⁾，三井亜希子²⁾，金子朋広²⁾，山田剛久¹⁾，柏木哲也²⁾，清水 章³⁾，鶴岡

- 秀一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 3) 日本医科大学付属病院病理学(解析人体病理学): サイトメガロウイルス初感染による急性腎不全に肉芽腫性間質性腎炎を合併した1例. 第43回日本腎臓学会東部学術大会(東京都品川区), 2013. 10.
- 3) 大野 大¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大塚智之¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): CKD患者に対するallopurinolからfebuxostatへの切り替えの有用性. 日本腎臓学会学術総会(第56回)(東京), 2013. 5.
- 4) 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): CKD患者へのDPP-4阻害薬alogliptinの使用経験. 日本腎臓学会学術総会(第56回)(東京), 2013. 5.
- 5) 大塚智之¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): うっ血性心不全を合併した高度腎機能低下患者に対するtolvaptanの効果. 日本腎臓学会学術総会(第56回)(東京), 2013. 5.
- 6) 大塚智之¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): 悪性末梢神経鞘腫瘍(MPNST)に合併したFSGSの1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第43回)(東京), 2013. 10.
- 7) 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): 視神経脊髄炎に対して2重濾過血漿交換法が奏功した1例. 日本アフェリシス学会学術大会(第34回)(軽井沢), 2013. 11.
- 8) 村澤恒男¹⁾, 酒井行直¹⁾, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科): 血液透析に伴う不整脈の発症機序(心筋脱分極再分極過程はRA系と関連する). 日本透析医学会学術集会(第58回)(福岡), 2013. 6.
- 9) 高木 基¹⁾, 門松 豊¹⁾, 酒井行直²⁾, 村澤恒男²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院ME部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科): ATP測定器を使用した血液浄化療法室の清掃状況の評価. 日本透析医学会学術集会(第58回)(福岡), 2013. 6.
- 10) 門松 豊¹⁾, 酒井行直²⁾, 村澤恒男²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院ME部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科): 各種透析液による透析前後のCaイオンおよび酸塩基平衡の変動. 日本透析医学会学術集会(第58回)(福岡), 2013. 6.
- 11) 住祐一郎¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): 腹膜透析患者におけるダルベポエチンアルファの有用性(切り替え前後のHb濃度および鉄代謝推移の比較). 日本透析医学会学術集会(第58回)(福岡), 2013. 6.
- 12) 大塚裕介¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): 腹膜透析導入によりESA製剤の減量もしくは中止が可能であった症例に対する検討. 日本透析医学会学術集会(第58回)(福岡), 2013. 6.
- 13) 麦島康司¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): 慢性腎不全保存期よりアログリブチンを投与し, 維持血液透析導入となった6例. 日本透析医学会学術集会(第58回)(福岡), 2013. 6.
- 14) 大野 大¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大塚智之¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): 悪性腎硬化症のために末期腎不全となった24歳男性の1例. 日本透析医学会学術集会(第58回)(福岡), 2013. 6.
- 15) 菱田まさみ¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院腎臓内科): 脳梗塞治療中に

後天性多嚢胞化萎縮腎の自然破裂を起こし、出血性ショックを呈した1例. 日本透析医学会学術集会 (第58回) (福岡), 2013. 6.

- 16) 酒井行直¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾
(¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学付属病院腎臓内科): 腹膜透析患者におけるダルベポエチナルファの有用性. 日本腹膜透析医学会学術集会 (第19回) (大阪), 2013. 9.
- 17) 大塚智之¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鈴木安奈¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 大塚裕介¹⁾, 大野 大¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 鶴岡秀一²⁾
(¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学付属病院腎臓内科): 腹腔鏡で確認した pre-EPS の1症例. 日本腹膜透析医学会学術集会 (第19回) (大阪), 2013. 9.
- 18) 有馬留志, 金子朋広, 高見祥子, 平間章郎, 三井亜希子, 鶴岡秀一: 腎移植後の透析再導入において腹膜透析を選択した1例. 日本腹膜透析医学会学術集会・総会 (第19回) (大阪), 2013. 9.
- 19) 福井めぐみ¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 清水 章²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学解析人体病理学): 治療に難渋した感染性糸球体腎炎に血栓性微小血管症を合併した1例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第43回) (東京), 2013. 10.
- 20) 福井めぐみ¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 伊藤路子²⁾, 川名誠司²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学皮膚科): チオ硫酸ナトリウムを含めた集学的加療が有効であった Calciphylaxis の1例. 日本透析医学会学術集会 (第58回) (福岡), 2013. 6.
- 21) 新井桃子¹⁾, 平間章郎¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 清水 章²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学解析人体病理学): 血尿を伴うネフローゼ症候群を呈し, ステロイド治療が奏功した C1q 腎症の1例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第43回) (東京), 2013. 10.
- 22) 由井智子¹⁾, 新井桃子¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院腎臓内科): 若年女性の SLE に対しプレドニン・シクロスポリン・ミゾリビン併用によるマルチターゲット療法が奏功した1例. 日本臨床リウマチ学会 (第28回) (千葉), 2013. 12.
- 23) 新井桃子¹⁾, 平間章郎¹⁾, 熊谷智昭²⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学付属病院神経内科): 皮膚筋炎にヘパリン起因性血小板減少症, 下垂体 Empty sella 症候群を合併し非典型的経過をたどり治療に難渋した1例. 日本臨床リウマチ学会 (第28回) (千葉), 2013. 12.
- 24) 新井桃子¹⁾, 平間章郎¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広²⁾, 鶴岡秀一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学腎臓内科): 腹膜透析離脱後, イレウス症状を呈し原因の鑑別に苦慮した1例. 日本透析医学会学術集会 (第58回) (福岡), 2013. 6.
- 25) 板垣史朗¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 青木路子¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 金子朋広¹⁾, 清水 章²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学解析人体病理学): IgG4 陽性形質細胞浸潤を伴う著明な間質性腎炎を認めたルーブス腎炎の1例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第43回) (東京), 2013. 10.
- 26) 大久保知美¹⁾, 荒川裕輔¹⁾, 安田文彦¹⁾, 山田剛久¹⁾, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学腎臓内科): 動脈塞栓症を契機に発症した微小変化型ネフローゼ症候群の1例. 日本透析医学会学術集会 (第58回) (福岡), 2013. 6.
- 27) 上田佳恵¹⁾, 王 恒義¹⁾, 大井洋之¹⁾, 渡辺容子²⁾, 金子朋広²⁾, 勝又俊弥³⁾, 飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 鶴見西口病院, ²⁾ 日本医科大学腎臓内科, ³⁾ 日本医科大学神経内科): 腎機能障害のある急性期脳梗塞患者は大脳白質病変および頸動脈動脈硬化が進行している. 日本透析医学会学術集会 (第58回) (福岡), 2013. 6.
- 28) 二宮里紗¹⁾, 加藤篤衛¹⁾, 真弓暢子¹⁾, 川原崎麻衣¹⁾, 川名誠司¹⁾, 山田善章²⁾, 三井啓吾²⁾, 福井めぐみ³⁾, 金子朋広³⁾ (¹⁾ 日本医科大学皮膚科, ²⁾ 日本医科大学消化器内科, ³⁾ 日本医科大学腎臓内科): 小腸潰瘍・腎障害を合併し, 経過中にサイトメガロウイルス腸炎を併発した Henoch-Schoenlein 紫斑病の1例. 日本皮膚科学会 (第112回) (横浜), 2013. 6.
- 29) 吉田泰子¹⁾, 高野秀樹¹⁾, 益田幸成²⁾, 佐藤 茂¹⁾, 金子朋広³⁾, 飯野靖彦³⁾, 清水 章²⁾ (¹⁾ 東京通信病院, ²⁾ 日本医科大学解析人体病理学, ³⁾ 日本医科大学腎臓内科): 糸球体内皮細胞傷害と IgA 腎症の進展. 日本腎臓学会

学術総会（第56回）（東京），2013. 5.

- 30) 鎌野千佐子¹⁾, 清水 章²⁾, 益田幸成²⁾, 肥後清一郎³⁾, 神崎 剛²⁾, 梶本雄介²⁾, 五十嵐徹⁴⁾, 柳原 剛⁴⁾, 金子朋広³⁾, 鶴岡秀一³⁾, 飯野靖彦³⁾, 片山泰朗⁵⁾, 福田 悠²⁾ (1) 博慈会腎クリニック, 2) 日本医科大学解析人体病理学, 3) 日本医科大学腎臓内科, 4) 日本医科大学小児科, 5) 日本医科大学神経内科): IgA 腎症で糸球体周囲に観察された新生小血管の特徴. 日本腎臓学会学術総会（第56回）（東京），2013. 5.
- 31) 金子朋広¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 平間章郎¹⁾, 有馬留志¹⁾, 石原 力¹⁾, 福井めぐみ¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 清水 章²⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗³⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科, 2) 日本医科大学解析人体病理学, 3) 日本医科大学神経内科): IgA 腎症に対する扁桃摘後療法の比較検討. 日本腎臓学会学術総会（第56回）（東京），2013. 5.
- 32) 池田まり子¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗²⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科, 2) 日本医科大学神経内科): 短腸症候群に伴い腎機能の低下を認めた3例. 日本内科学会総会（第110回）（東京），2013. 4.
- 33) 安田文彦¹⁾, 清水 章²⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 福田 悠²⁾, 片山泰朗³⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科, 2) 日本医科大学解析人体病理学, 3) 日本医科大学神経内科): 糖尿病性腎症組織病理分類 (RPS2010) と臨床学的分類・特徴についての検討. 日本内科学会総会（第110回）（東京），2013. 4.
- 34) Iwahori T¹⁾, Jojima Y¹⁾, Esaki S¹⁾, Esaki M¹⁾, Fukui M²⁾, Kaneko T²⁾, Nagasaka S³⁾, Shimizu A³⁾ (1) Koyukai Memorial Hospital, 2) Divisions of Nephrology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School): Tolvaptan Increases Urine and Ultrafiltration volume for Patients with Oliguria Undergoing Peritoneal Dialysis. American Society of Nephrology 2013 (Atlanta), 2013. 11.
- 35) Fujita E¹⁾, Shimizu A²⁾, Masuda Y²⁾, Mii A¹⁾, Tsuruoka S (1) Divisions of Nephrology, Nippon Medical School, 2) Department of Analytic Pathology, Nippon Medical School): Endothelial cell injury contributes to the formation and development of extracapillary lesions in crescentic glomerulonephritis. KIDNEY WEEK 2013 (Atlanta, GA), 2013. 11.
- 36) 肥後清一郎^{1, 2)}, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 永坂真也¹⁾, 梶本雄介¹⁾, 神崎 剛¹⁾, 三井亜希子²⁾, 金子朋広²⁾, 飯野靖彦²⁾, 片山泰朗³⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 解析人体病理学, 2) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 3) 日本医科大学付属病院 神経内科): Acute graft-versus-host disease in the kidney after DA-to-Lewis rat bone marrow transplantation. American Society of Nephrology (Atlanta), 2013. 11.
- 37) 肥後清一郎^{1, 2)}, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 永坂真也¹⁾, 梶本雄介¹⁾, 三井亜希子²⁾, 金子朋広²⁾, 飯野靖彦²⁾, 片山泰朗³⁾, 鶴岡秀一²⁾, 福田 悠¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 解析人体病理学, 2) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 3) 日本医科大学付属病院 神経内科): ラット同種間骨髄移植で生じた腎臓の急性移植片対宿主病 (急性GVHD). 日本腎臓学会（第56回）（東京国際フォーラム），2013. 5.
- 38) 肥後清一郎^{1, 2)}, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 永坂真也¹⁾, 梶本雄介¹⁾, 三井亜希子²⁾, 金子朋広²⁾, 飯野靖彦²⁾, 片山泰朗³⁾, 鶴岡秀一²⁾, 福田 悠¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 解析人体病理学, 2) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 3) 日本医科大学付属病院 神経内科): ラット同種間骨髄移植で生じた急性移植片対宿主病 (急性GVHD) による腎臓の組織病変. 日本病理学会（第102回）（札幌（ロイトン札幌）），2013. 6.
- 39) 三井亜希子¹⁾, 福井めぐみ¹⁾, 安田文彦¹⁾, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 益田幸成²⁾, 飯野靖彦¹⁾, 清水 章²⁾ (1) 腎臓内科学, 2) 解析人体病理): 管内増殖性病変の活動性には糸球体毛細血管傷害の程度と糸球体内浸潤細胞の相異が関与する. 日本腎臓学会学術総会（第56回）（東京），2013. 6.
- 40) 三井亜希子¹⁾, 清水 章²⁾, 肥後清一郎^{1, 2)}, 益田幸成²⁾, 福井めぐみ¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 山口博樹³⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 腎臓内科学, 2) 解析人体病理, 3) 血液内科学): Renal thrombotic microangiopathy associated with chronic graft versus host disease after hematopoietic stem cell transplantation. ASN KIDNEY WEEK 2013 (Atlanta), 2013. 11.

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 鶴岡秀一：CKDと運動。成人病と生活習慣病 2013；43（1）：113-117.

追加分原著：

- 1) Tsuruoka S, Yokota N, Hayasaka T, Saito T, Yamagata K : Dialyzability and pharmacokinetics of sitafloxacin following multiple oral dosing in infected hemodialysis patients. Ther Apher Dial 2013 ; 17 (3) : 319-324.
- 2) Tsuruoka S, Kai H, Usui J, Morito N, Saito C, Yoh K, Yamagata K : Effects of irbesartan on inflammatory cytokine concentrations in patients with chronic glomerulonephritis. Intern Med 2013 ; 52 (3) : 303-308.
- 3) Kim-Scott W, Hsiao-T J, Bhatia S, Glaros-N E, Don-N A, Tsuruoka S, Weickert-Shannon C, Halliday-M G : ABCA8 stimulates sphingomyelin production in oligodendrocyte. Biochem J. 2013 ; 452 (3) : 401-410.
- 4) Kaneko T¹⁾, Shimizu A²⁾, Mii A¹⁾, Fujita E¹⁾, Fujino T¹⁾, Kunugi S²⁾, Du X²⁾, Akimoto T²⁾, Tsuruoka S¹⁾, Ohashi R²⁾, Masuda Y²⁾, Iino Y¹⁾, Katayama Y³⁾, Fukuda Y²⁾ (1) Divisions of Nephrology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, (3) Divisions of Neurology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Role of matrix metalloproteinase-2 in recovery after tubular damage in acute kidney injury in mice. Nephron Exp Nephrol 2013 ; 122 (1-2) : 23-35.
- 5) Kashiwagi T, Sato K, Kiyomoto M, Enomoto M, Suzuki T, Gonei H, Nakada H, Iino Y, Katayama Y : Effects of reduced dialysis fluid flow in hemodialysis. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (2) : 119-130.

学会発表

追加分シンポジウム：

- 1) 鶴岡秀一：妊娠・授乳中の薬物療法の方：腎臓内科の立場から。腎と妊娠研究会（第23回）（つくば），2013. 3.

[千葉北総病院腎臓内科]

研究概要

研究概要（腎臓内科）腎臓内科は持続性蛋白尿，血尿に対し腎生検を施行し積極的に診断，治療を行い外来での長期観察を行っている。腎生検症例は千駄木腎カンファランス，東葛腎カンファランスに提示し治療方針や識別診断，予後推測に役立っている。CKD，慢性腎不全の保存期は外来にて経過観察し時期を判断し計画性を持って血液浄化への導入を施行している。慢性腎不全の合併症にも各科の協力を得て急性発症の合併症は救急センター，ICU，SCUにて積極的に対処している。成田，印旛地区の慢性腎不全の合併症セミナーを年に2回行い各施設間の意見交換，患者さんのQOLの向上に努めている。対外循環治療（血漿交換・IDL アフェレーシス）も各科よりの依頼があれば積極的に対応している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tani T, Ishihara T¹⁾, Kaneko T¹⁾, Tsuruoka S¹⁾, Iino Y¹⁾ (1) Department of Nephrology Nippon Medical

School) : Multiple cerebral lesions as the unique complication of idiopathic retroperitoneal fibrosis. Modern RHEUMATOLOGY 2013.

2) 山田剛久：透析導入患者に患者に対する利尿薬としてトラセミド（ルブラック R）は有用である：透析患者に対する長期投与の経験から。診断と治療 2013；50（4）：39-45.

(2) 総説：

1) 谷 崇, 鶴岡秀一⁽¹⁾ 付属病院腎臓内科)：GKD の重症度別の水電解質異常. Renaissance 2014；4（1）：27-32.

著 書

1) 谷 崇：〔分担〕低 Na 血症の症例。腎と透析，2013；pp816-819，東京医学社。

2) 谷 崇, 鶴岡秀一⁽¹⁾ (1) 付属病院腎臓内科)：〔分担〕尿細管性アシドーシス。腎疾患・透析最新の治療（横野博史 秋澤忠男 山縣邦弘），2014；pp211-213，南江堂。

3) 山田剛久：〔分担〕四肢麻痺で発症し著明な低カリウム血症を呈した PR3-ANCA 陽性のシェーグレン症候群の 1 例。認定医・専門医のための輸液・電解質・酸塩基平衡，2013；pp150-151，中山書店。

学会発表

(1) 一般講演：

1) 谷 崇, 石原 力¹⁾, 新井桃子¹⁾, 池田まり子¹⁾, 荒川裕輔, 福井めぐみ¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 安田文彦²⁾, 清水 章²⁾ (1) 日本医科大学付属病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院病理部)：クリオグロブリン血症性糸球体腎炎に対し，血漿交換療法，経口ステロイドが著効した 1 例。日本透析医学会学術集会 総会（第 58 回）（福岡市），2013. 6.

2) 大久保知美, 荒川裕輔, 安田文彦, 山田剛久, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 飯野靖彦¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院腎臓内科)：動脈塞栓症を契機に発症した微小変化型ネフローゼ症候群の 1 例。日本透析医学会学術集会総会（第 58 回）（福岡市），2013. 6.

3) 山田剛久, 谷 崇, 荒川裕輔, 柏木哲也, 清水 章²⁾ (1) 日本医科大学解析人体解剖学)：四肢麻痺で発症し著明な低カリウム血症を来したシェーグレン症候群の 1 例。日本腎臓学会東部学術大会（第 43 回）（東京），2013. 10.

4) 谷 崇, 荒川裕輔, 福井めぐみ¹⁾, 三井亜希子, 金子朋広¹⁾, 山田剛久, 柏木哲也¹⁾, 清水 章²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院病理部)：サイトメガロウイルス初感染に肉芽腫性間質性腎炎による急性腎不全を合併した 1 例。日本腎臓学会東部学術大会（第 43 回）（東京），2013. 10.

5) 板垣史朗¹⁾, 三井亜希子, 青木路子¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 金子朋広¹⁾, 清水 章²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院解析人体病理)：IgG4 陽性形質細胞浸潤を伴う著明な間質性腎炎を認めたループス腎炎の 1 例。日本腎臓学会東部学術大会（第 43 回）（東京），2013. 10.

6) Mii A, Shimizu A²⁾, Hino S^{1, 2)}, Tsuruoka S¹⁾ (1) Dept of Nephrology Nippon Medical School, 2) Dept of pathology Nippon Medical School)：Renal Thrombotic Microangiopathy Associated with Chronic Graft versus Host Disease after Hematopoietic Stem Cell Transplantation. ASN Kidney Week 2013, 2013. 11.

4. 内科学（血液内科学）

[付属病院血液内科]

研究概要

血液内科学の基礎的研究では、急性白血病の遺伝子異常やその機能解析、次世代シーケンサーを用いた骨髄不全症候群の原因遺伝子の解明などを重点的に行った。さらに本年度も骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫などの腫瘍免疫学などの方法論を駆使した病態の解明を行った。また真性多血症、本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発癌機構、病態についても解析をすすめた。臨床的研究では、急性白血病の臨床病態解析および遺伝子異常による予後解析、悪性リンパ腫の病態および治療成績に関する解析などを行い、造血幹細胞移植では臍帯血移植、骨髄非破壊的移植の治療成績改善や移植合併症に関する検討を行った。多施設共同研究に参加し慢性骨髄性白血病治療の臨床研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Wakita S¹, Yamaguchi H¹, Omori I¹, Terada K¹, Ueda T¹, Manabe E¹, Kurosawa S¹, Iida S¹, Ibaraki T¹, Sato Y¹, Todoroki T¹, Hirakawa T¹, Ryotokuji T¹, Dan K¹, Inokuchi K¹, et al. ⁽¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School) : Mutations of the Epigenetics Modifying Gene (DNMT3a, TET2, IDH1/2) at Diagnosis may Induce FLT3-ITD at Relapse in de novo Acute Myeloid Leukemia. *Leukemia* 2013 ; 27 (5) : 1044-1052.
- 2) Kaito C¹, Saito Y¹, Ikuo M¹, Omae Y¹, Mao H¹, Nagano G¹, Fujiyuki T¹, Numata S¹, Han X², Obata K³, Hasegawa S⁴, Yamaguchi H⁵, Inokuchi K⁵, Ito T², Hiramatsu K², et al. ⁽¹⁾ Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo, ⁽²⁾ Department of Infection Control Science, Graduate School of Medicine, Juntendo, ⁽³⁾ Sekino Hospital, ⁽⁴⁾ Sekino Clinical Pharmacology Clinic, ⁽⁵⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School) : Mobile Genetic Element SCCmec-encoded 1 psm-mec RNA Suppresses Translation of agrA and Attenuates MRSA Virulence. *PLoS Pathog* 2013 ; 9 (4) : e1003269.
- 3) Tamai H^{1,2}, Miyake K², Yamaguchi H¹, Shimada T², Dan K¹, Inokuchi K¹ ⁽¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, ⁽²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : Inhibition of S100A6 induces graft versus leukemia effects in MLL/AF4-positive ALL in human PBMC-SCID mice. *Bone Marrow Transplantation* 2014.
- 4) Kumagai T¹, Matsuki E², Inokuchi K³, Ohashi K⁴, Shinagawa A⁵, Takeuchi J⁶, Yoshida C⁷, Okamoto S², Wakita H⁸, Kozai Y⁹, Shirasugi Y¹⁰, et al. ⁽¹⁾ Department of Hematology, Ohme Municipal General Hospital, ⁽²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, ⁽³⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, ⁽⁴⁾ Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, ⁽⁵⁾ Department of Internal Medicine, Hitachi General Hospital, ⁽⁶⁾ Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, ⁽⁷⁾ Department of Hematology, National Hospital Organization Mito Medical Center, ⁽⁸⁾ Division of Hematology and Oncology, Japanese Red Cross Society, Narita Red Cross Hospital, ⁽⁹⁾ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ⁽¹⁰⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Tokai Uni-

versity School of Medicine) : Relative increase in lymphocytes from as early as 1 month predicts improved response to dasatinib in chronic-phase chronic myelogenous leukemia. *Int J Hematol* 2014 ; 99 : 41-52.

- 5) Tsukamoto S¹⁾, Nakaseko C¹⁾, Takeuchi M¹⁾, Kumagai K²⁾, Komatsu T³⁾, Tanaka H⁴⁾, Hara S⁵⁾, Koizumi M⁶⁾, Imai H⁷⁾, Yokota A⁸⁾, Takeuchi M⁹⁾, Inokuchi K¹⁰⁾, et al. (1) Department of Haematology, Chiba University Hospital, (2) Division of Haematology-Oncology, Chiba Cancer Centre Hospital, (3) Department of Haematology, Teikyo University Chiba Medical Centre, (4) Department of Haematology, Oami Municipal Hospital, (5) Department of Haematology, Chiba Rousai Hospital, (6) Department of Internal Medicine, Asahi General Hospital, (7) Department of Haematology, Juntendo-Urayasu Hospital, (8) Department of Haematology, Chiba Aoba Municipal Hospital, (9) Division of Haematology/Oncology, Kameda General Hospital, (10) Department of Hematology, Nippon Medical School) : Safety and efficacy of romiplostim in patients with eltrombopag-resistant or -intolerant immune thrombocytopenia. *Br J Haematol* 2013 ; 163 : 286-289.
- 6) Mizoguchi I¹⁾, Yoshimoto T²⁾, Katagiri S²⁾, Mizuguchi J²⁾, Tauchi T²⁾, Kimura Y²⁾, Inokuchi K³⁾, Ohyashiki HJ²⁾, Ohyashiki K²⁾ (1) Department of Immunoregulation, Institute of Medical Science, Tokyo Medical University, (2) Departments of Hematology, Tokyo Medical University, (3) Department of Hematology, Nippon Medical School) : (2013) Sustained upregulation of effector natural killer cells in chronic myeloid leukemia after discontinuation of imatinib. *Cancer Sci* 2013 ; 104 : 1146-1153.
- 7) Ueda Y¹⁾, Mizutani C¹⁾, Nannya Y²⁾, Kurokawa M²⁾, Kobayashi S³⁾, Takeuchi J³⁾, Tamura H⁴⁾, Ogata K⁴⁾, Dan K⁴⁾, Shibayama H⁵⁾, Kanakura Y⁵⁾, Niimi K⁶⁾, Sasaki K⁷⁾, Watanabe M⁸⁾, Emi N⁸⁾, et al. (1) Department of Hematology/Oncology, Transfusion and Hemapheresis Center, Kurashiki Central Hospital, (2) Department of Hematology and Oncology, University of Tokyo Graduate School of Medicine, (3) Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, (4) Department of Hematology, Nippon Medical School, (5) Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, (6) Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, (7) Department of Hematology and Oncology, Dokkyo Medical University Hospital, (8) Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine) : Clinical evaluation of WT1 mRNA expression levels in peripheral blood and bone marrow in patients with myelodysplastic syndromes. *Leuk Lymphoma* 2013 ; 54 (7) : 1450-1458.
- 8) Okuyama N¹⁾, Sperr RW²⁾, Kadar K³⁾, Bakker S⁴⁾, Szombath G³⁾, Handa H⁵⁾, Tamura H¹⁾, Kondo A¹⁾, Valent P²⁾, VÁRkonyi J³⁾, Van De Loosdrecht A⁴⁾, Ogata K¹⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, (2) Department of Medicine I, Division of Hematology & Hemostaseology, Medical University of Vienna, (3) Third Department of Internal Medicine, Semmelweis University, (4) Department of Haematology, VU Institute of Cancer and Immunology, VU University Medical Center, (5) Division of Hematology, Department of Medicine and Clinical Science, Graduate School of Medicine, Gunma University) : Prognosis of acute myeloid leukemia transformed from myelodysplastic syndromes : a multicenter retrospective study. *Leuk Res* 2013 ; 37 (8) : 862-867.

(2) 総説 :

- 1) Tamai H¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School) : Establishment of MLL/AF4 transgenic mice with the phenotype of lymphoblastic leukemia or lymphoma. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 : 326-327.
- 2) 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : ゲノム情報から見た AML の層別化と予後. *血液内科* 2013 ; 67 (5) : 556-564.
- 3) 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 貧血診療の基本. *内科* 2014 ; 112 (2) : 213-218.

- 4) 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : オーバービュー - 最新の治療戦略 (骨髓系疾患). 臨床血液 2014 ; 55 (1) : 29-30.
 - 5) 中山一隆¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 慢性骨髄性白血病治療の現況. 臨床血液 2014 ; 55 (1) : 42-55.
 - 6) 山口博樹¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : テロメア病. 血液フロンティア 2013 ; 23 (6) : 816-820.
 - 7) 脇田知志¹⁾, 山口博樹¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : AML 再発時におけるエピジェネティック関連遺伝子変異の意義. 血液内科 2013 ; 67 (5) : 651-661.
 - 8) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 骨髄腫新規薬剤により肺障害. 血液内科 2013 ; 66 (5) : 620-628.
 - 9) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 骨髄腫細胞は TGF- β 経路を介して造血幹細胞を抑制する. 血液内科 2013 ; 67 (4) : 507-512.
- (3) 症例報告 :
- 1) 横瀬紀夫¹⁾, 猪口孝一^{1, 2)} (1) 日本医科大学千葉北総病院 血液内科, ²⁾ 日本医科大学 血液内科) : 私のこの1枚 : 芽球形質細胞性樹状突起細胞腫瘍. 血液フロンティア 2013 ; 23 : 1519-1522.
 - 2) Fukuhara A¹⁾, Tanino Y¹⁾, Ishii T¹⁾, Inokoshi Y¹⁾, Saito K¹⁾, Fukuhara N¹⁾, Sato S¹⁾, Saito J¹⁾, Ishida T¹⁾, Yamaguchi H²⁾, Munakata M¹⁾ (1) Dept of Pulmonary Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine, ²⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School) : Pulmonary fibrosis in dyskeratosis congenita with TINF2 gene mutation. Eur Respir J 2013 ; 42 : 1757-1759.
 - 3) Igarashi T¹⁾, Shimizu A²⁾, Yamaguchi H³⁾, Fukushima Y⁴⁾, Igarashi T⁵⁾, Takahashi H H¹⁾ (1) Departments of Ophthalmology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology (Analytic Human Pathology), Nippon Medical School, ³⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : A Definitive Diagnosis of Mucosa-associated Lymphoid Tissue Lymphoma Made at a Second Biopsy. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 475-480.
 - 1) Della Porta GM¹⁾, Picone C¹⁾, Tenore A¹⁾, Yokose N²⁾, Malcovati L¹⁾, Cazzola M¹⁾, Ogata K^{3, 4)} (1) Division of Hematology Oncology, Fondazione IRCCS Policlinico San Matteo, & Department of Molecular Medicine, University of Pavia, Pavia, Italy, ²⁾ Division of Hematology, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, Japan, ³⁾ Metropolitan Research Center for Blood Disorders, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Department of Hematology, Shin-Yurigaoka General Hospital, Kanagawa, Japan) : Prognostic significance of reproducible immunophenotypic markers of marrow dysplasia. Haematologica 2014 ; 99 : e8-e10.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 脇田知志¹⁾, 山口博樹¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 大森郁子¹⁾, 北野智章¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 三田村佳勇¹⁾, 小坂文子¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : エピジェネティクス制御遺伝子変異は急性骨髄性白血病の多様な遺伝子変異の出現に寄与する. 第109回日本内科学会総会 (東京), 2013. 4.

(2) 一般講演 :

- 1) Yokose N¹⁾, Okabe M^{1, 2)}, Wakita S^{1, 2)}, Inokuchi K²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 血液内科, ²⁾ 日本医科大学 血液内科) : MYC/BCL2 double-hit follicular lymphoma successfully treated with R-hyper-CVAD/R-MA regimen. 第75回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.
- 2) 中山一隆¹⁾, 山口博樹¹⁾, 松元加奈²⁾, 奥山奈美子¹⁾, 朝山敏夫¹⁾, 岡本宗雄¹⁾, 福永景子¹⁾, 守屋慶一¹⁾, 濱田泰子¹⁾, 藤原裕介¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 脇田知志¹⁾, 岡部雅弘¹⁾, 平川経晃¹⁾, その他6名 (1) 日本医科大学 血液内科, ²⁾ 同志社女子大学薬学部) : Test PK studyの結果を参考に ivBU 投与量を決定し前処置を施行した高度肥満を有する AML (M6) の1例. 第36回日本造血細胞移植学会総会 (沖縄), 2014. 3.

- 3) 玉井勇人¹⁾, 山口博樹¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 中山一隆¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : S100A6 発現抑制により GVL 抵抗性の MLL/AF4 陽性 ALL に GVL を発現できる. 第 36 回日本造血細胞移植学会総会 (沖縄), 2014. 3.
- 4) 由井俊輔¹⁾, 山口博樹¹⁾, 福永景子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 岡部雅弘¹⁾, 脇田知志¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 岡本宗雄¹⁾, 中山一隆¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 当院における重症再生不良性貧血 9 例の同種造血幹細胞移植成績. 第 36 回日本造血細胞移植学会総会 (沖縄), 2014. 3.
- 5) 平川経晃¹⁾, 山口博樹¹⁾, 脇田知志¹⁾, 福永景子¹⁾, 藤原裕介¹⁾, 小坂文子¹⁾, 北野智章¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 平井光春²⁾, 山岸麻里美²⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) アークレイ株式会社 研究開発部第 6 チーム) : 造血幹細胞移植患者における急性白血病の転座型遺伝子変異に対する小型全自動解析機の開発. 第 36 回日本造血細胞移植学会総会 (沖縄), 2014. 3.
- 6) 福永景子¹⁾, 山口博樹¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 脇田知志¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 北野智章¹⁾, 小坂文子¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 中山一隆¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 再発急性骨髄性白血病の第 2 寛解率に影響を与える染色体異常や遺伝子変異の探索. 第 36 回日本造血細胞移植学会総会 (沖縄), 2014. 3.
- 7) 脇田知志¹⁾, 山口博樹¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 北野智章¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 小坂文子¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 移植適応を決定するうえでの遺伝子変異解析の重要性. 第 36 回日本造血細胞移植学会総会 (沖縄), 2014. 3.
- 8) Wakita S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Omori I¹⁾, Kitano T¹⁾, Arai K¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School) : The Prognostic Impact Of Complex Gene Mutation In The Intermediate Risk Karyotype Acute Myeloid Leukemia. 55rd American Society of Hematology (New Orleans, LA, USA), 2013. 12.
- 9) Tamai H¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School) : Inhibition Of S100A6 Induces Graft Versus Leukemia Effects In MLL/AF4-Positive ALL In Human PBMC-SCID Mice. 55rd American Society of Hematology (New Orleans, LA, USA), 2013. 12.
- 10) Fukunaga K¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Wakita S¹⁾, Usuki K²⁾, Kobayashi Y³⁾, Gomi S⁴⁾, Tajika K⁴⁾, Ryotokuji T¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Azuma K¹⁾, Sato Y¹⁾, Todoroki T¹⁾, Omori I¹⁾, Arai K¹⁾, Inokuchi K¹⁾, その他 3 名 (1) 日本医科大学 血液内科, 2) NTT 東日本関東病院 血液内科, 3) 京都第二赤十字病院 血液内科, 4) 横浜南共済病院 血液内科) : The prognostic impact of additional gene mutations among intermediate risk AML with CEBPA and NPM1. 第 75 回日本血液学会 (札幌), 2013. 10.
- 11) Azuma K¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Usuki K²⁾, Kobayashi Y³⁾, Tajika K⁴⁾, Gomi S⁴⁾, Sato Y¹⁾, Todoroki T¹⁾, Omori I¹⁾, Fukunaga K¹⁾, Wakita S¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Arai K¹⁾, Inokuchi K¹⁾, その他 3 名 (1) 日本医科大学 血液内科, 2) NTT 東日本関東病院 血液内科, 3) 京都第二赤十字病院, 血液内科, 4) 横浜南共済病院 血液内科) : The clinical feature and prognostic impact of de novo acute myeloid leukemia with Runx1 mutation. 第 75 回日本血液学会 (札幌), 2013. 10.
- 12) Tamai H¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : The difference of RCSD1-ABL1-leukemogenicity between exon2 and 3 of RCSD1/exon 4 of ABL1. 第 75 回日本血液学会 (札幌), 2013. 10.
- 13) Hirakawa T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Wakita S¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Fukunaga K¹⁾, Kosaka F¹⁾, Kitano T¹⁾, Arai K¹⁾, Hirai M²⁾, Yamagishi M²⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) アークレイ株式会社 研究開発部第 6 チーム) : Development of fully automated analysis system to detect translocation mutation s of acute leukemia. 第 75 回日本血液学会 (札幌), 2013. 10.
- 14) Wakita S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Usuki K²⁾, Kobayashi Y³⁾, Gomi S⁴⁾, Tajika K⁴⁾, Hirakawa T¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Azuma K¹⁾, Sato Y¹⁾, Todoroki T¹⁾, Omori I¹⁾, Fukunaga K¹⁾, Arai K¹⁾, Inokuchi K¹⁾, その他 3 名

- (¹) 日本医科大学 血液内科, (²) NTT 東日本関東病院 血液内科, (³) 京都第二赤十字病院, 血液内科, (⁴) 横浜南共済病院 血液内科): The prognostic impact of complex gene mutation in the intermediate risk karyotype AML. 第75回日本血液学会 (札幌), 2013. 10.
- 15) Tokumasu M, Nagao M, Shimada A, Murata C, Ohki K, Hayashi Y, Saito A, Fujimoto J, Horibe K, Itoh H, Nakayama H, Kinoshita A, Tomizawa D, Taga T, Yamaguchi H, その他3名: Prognostic impact of KIT mutation in t(8;21) childhood AML: The JPLSG AML-05 trial. 第75回日本血液学会 (札幌), 2013. 10.
- 16) Wakita S¹, Yamaguchi H¹, Ryotokuji T¹, Hirakawa T¹, Omori I¹, Kitano T¹, Arai K¹, Kosaka F¹, Dan K¹, Inokuchi K¹ (¹) 日本医科大学 血液内科): Comprehensive gene mutation analyses in acute myeloid leukemia: overlap of the gene mutations are important for the prognosis of the intermediate risk karyotype group. 18th. European Hematology Association (Stockholm, Sweden), 2013. 6.
- 17) Tamai H¹, Yamaguchi H¹, Dan K¹, Inokuchi K¹ (¹) 日本医科大学 血液内科): Inhibition of S100A6 induces graft versus leukemia effects in MLL/AF4-positive ALL in human -PBMC-SCID-mice model. 18th. European Hematology Association (Stockholm, Sweden), 2013. 6.
- 18) 幾尾真理子^{1, 6)}, 齋藤裕樹¹⁾, 大前陽輔¹⁾, 毛 瀚¹⁾, 長野源太郎¹⁾, 藤幸知子¹⁾, 沼田俊介¹⁾, 韓 笑²⁾, 小幡佳津明³⁾, 長谷川節雄⁴⁾, 山口博樹⁵⁾, 猪口孝一⁵⁾, 伊藤輝代²⁾, 平松啓一²⁾, 伊藤孝司⁶⁾, その他2名 (¹) 東大院・薬・微生物薬品化学教室, (²) 順天堂大院・医・感染制御科学, (³) 関野病院, (⁴) 関野臨床薬理クリニック, (⁵) 日本医科大学 血液内科, (⁶) 徳島大院・薬・創薬生命工学): 新規機能性 RNA psm-mec は agrA 遺伝子の翻訳を抑制してメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の病原性を抑制する. 第86回日本生化学会大会 (横浜), 2013. 9.
- 19) Sunakawa M¹, Ishibashi M¹, Tamura H¹, Ogata K¹ (¹) Department of Hematology, Nippon Medical School): Interaction between B7-H1 molecules on myeloma cells and PD-1 molecules on T cells induces myeloma cell drug resistance. The XIVth International Myeloma Workshop (kyoto, Japan), 2013. 4.
- 20) Okuyama N¹, Tamura H¹, Kamei N¹, Ishibashi M¹, Hamada Y¹, Kondo A¹, Moriya K¹, Ogata K¹ (¹) Department of Hematology, Nippon Medical School): CD7 expression on MDS blasts is associated with apoptosis resistance and decreased levels of the apoptosis-related protein Bad. The 12th MDS Symposium (Berlin, Germany), 2013. 5.
- 21) Ishibashi M¹, Tamura H¹, Ogata K¹ (¹) Department of Hematology, Nippon Medical School): Clinical significance of interleukin-2 receptor α -chain expressed by blasts in myelodysplastic syndromes. The 12th MDS Symposium (Berlin, Germany), 2013. 5.
- 22) 石橋真理子¹⁾, 砂川実香¹⁾, 玉田耕治²⁾, 田村秀人¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (¹) 日本医科大学 血液内科, (²) 山口大学医学系研究科細胞シグナル解析学): 多発性骨髄腫における B7-H1 と PD-1 の相互作用による免疫回避応答と薬剤耐性の獲得. 第17回日本がん免疫学会総会 (山口, 宇部), 2013. 7.
- 23) 砂川実香¹⁾, 石橋真理子¹⁾, 田村秀人¹⁾, 近藤麻加¹⁾, 奥山奈美子¹⁾, 浜田泰子¹⁾, 守屋慶一¹⁾, 玉田耕治²⁾, 猪口孝一¹⁾ (¹) 日本医科大学 血液内科, (²) 山口大学医学系研究科細胞シグナル解析学): 骨髄腫細胞における B7-H1 PD-1 相互作用による薬剤耐性誘導. 第75回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.
- 24) 奥山奈美子¹⁾, 田村秀人¹⁾, 亀井直樹¹⁾, 石橋真理子¹⁾, 浜田泰子¹⁾, 近藤麻加¹⁾, 守屋慶一¹⁾, 緒方清行¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (¹) 日本医科大学 血液内科): 骨髄異形成症候群における芽球上 CD7 発現によるアポトーシス耐性. 第75回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.
- 25) 近藤麻加¹⁾, 田村秀人¹⁾, 猪口孝一¹⁾, 緒方清行¹⁾, 角元慶二²⁾, 松田 晃³⁾, 通山 薫⁴⁾, 上田恭典⁵⁾, 黒川峰夫⁶⁾, 竹内 仁⁷⁾, 柴山浩彦⁸⁾, 惠美宣彦⁹⁾, 泉二登志子¹⁰⁾, 宮崎良秀²⁾, その他5名 (¹) 日本医科大学 血液内科, (²) 大塚製薬, (³) 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科, (⁴) 川崎医科大学 検査診断学・病態解析, (⁵) 倉敷中央病院 血液内科, (⁶) 東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍科, (⁷) 日本大学医学部 血液膠原病内科,

- 8) 大阪大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科, 9) 藤田保健衛生大学 血液内科, 10) 東京女子医科大学病院 血液内科) : 日本人 MDS 患者における Revised IPSS と芽球上の CD7 発現の予後へのインパクト. 第 75 回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.
- 26) 田村秀人¹⁾, 半田 寛²⁾, 磯田 淳³⁾, 松本守生³⁾, 佐々木純⁴⁾, 小松則夫⁴⁾, 今井陽一⁵⁾, 泉二登志子⁵⁾, 田野崎栄⁶⁾, 岡部雅弘¹⁾, 横瀬紀夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 群馬大学医学部附属病院 血液内科, 3) 国立病院機構西群馬病院 血液内科, 4) 順天堂大学医学部順天堂医院 血液内科, 5) 東京女子医科大学病院 血液内科, 6) 同愛記念病院 血液内科) : 骨髄腫および MGUS 患者における形質細胞のフローサイトメトリー解析. 第 75 回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.
- 27) 守屋慶一¹⁾, 田村秀人¹⁾, 福嶋善光²⁾, 浜田泰子¹⁾, 奥山奈美子¹⁾, 近藤麻加¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 汲田伸一郎²⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 日本医科大学 放射線科) : 多発性骨髄腫の骨病変の評価における SPECT-CT の有用性. 第 75 回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.
- 28) 海渡裕太¹⁾, 浜田泰子¹⁾, 石橋真理子¹⁾, 亀井直樹¹⁾, 奥山奈美子¹⁾, 近藤麻加¹⁾, 守屋慶一¹⁾, 田村秀人¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 血液腫瘍における VSIG4 の発現と機能解析. 第 75 回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.
- 29) 朝山敏夫¹⁾, 田村秀人¹⁾, 奥山奈美子¹⁾, 田野崎栄²⁾, 平川経見¹⁾, 福永景子¹⁾, 浜田泰子¹⁾, 脇田知志¹⁾, 近藤麻加¹⁾, 守屋慶一¹⁾, 中山一隆¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 同愛記念病院 血液内科) : 再発難治性悪性リンパ腫に対する ジェムザール併用療法の使用経験. 第 75 回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.
- 30) 浜田泰子¹⁾, 奥山奈美子¹⁾, 中村純子¹⁾, 近藤麻加¹⁾, 守屋慶一¹⁾, 中村恭子²⁾, 田村秀人¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 新赤坂クリニック) : ベンダムスチン, レナリドミド, デキサメタゾン療法により寛解を維持している難治性多発性骨髄腫. 第 75 回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.

論 文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 山口博樹¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 急性骨髄性白血病の今後の展望 2013. 臨床血液 2013 ; 54 (1) : 39-48.

追加分原著 :

- 1) Tamura H¹⁾, Ishibashi M¹⁾, Yamashita T¹⁾, Tanosaki S²⁾, Okuyama N¹⁾, Kondo A¹⁾, Hyodo H¹⁾, Shinya E³⁾, Takahashi H³⁾, Dong H⁴⁾, Tamada K⁵⁾, Chen L⁶⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, 2) Division of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, 3) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 4) Department of Immunology and Urology, College of Medicine, Mayo Clinic, 5) Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, 6) Department of Immunobiology, Yale School of Medicine) : Marrow stromal cells induce B7-H1 expression on myeloma cells, generating aggressive characteristics in multiple myeloma. Leukemia 2013 ; 27 (2) : 464-472.

[千葉北総病院血液内科]

研究概要

白血病, 悪性リンパ腫, 多発性骨髄腫等の造血器腫瘍, 造血不全症, 血小板減少症など血液疾患全般の診療に当たっています。当科では原則的に病名を告知し, 病状・治療方針・予想される副作用について詳しくご説明し, 納得して

頂いたうえで治療を開始しています。個々の患者さんにとってのベストの治療法を、御本人・御家族とともに考え、治癒のみならず、患者満足度の高い医療を目指しています。自家末梢血幹細胞移植をH21年度より開始して、症例を蓄積しています。H23年度には同系（一卵性双生児）末梢血幹細胞移植を実施しました。骨髄増殖性腫瘍のJAK2遺伝子の解析を行っています。骨髄異形成症候群に対する少量メルファラン療法に関する臨床研究を実施しています。また、慢性骨髄性白血病の分子標的治療に関する検討、多発性骨髄腫細胞上の免疫関連分子が免疫反応に及ぼす影響、治療抵抗性・再発性高齢多発性骨髄腫に対する新規化学療法といった多施設共同研究に参加しています。血液学会総会では希少症例に関する症例報告を行った他、多施設共同研究の成果発表に加わりました。

研究業績

著書

- 1) 横瀬紀夫, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学血液内科) : 私のこの1枚 : 芽球形質細胞性樹状突起細胞腫瘍. 血液フロンティア, 2013 ; pp1519-1522, 医薬ジャーナル社.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Wakita S, Yamaguchi H¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Omori I¹⁾, Kitano T¹⁾, Arai K¹⁾, Kosaka F¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : COMPREHENSIVE GENE MUTATION ANALYSES IN ACUTE MYELOID LEUKEMIA : OVERLAP OF THE GENE MUTATIONS ARE IMPORTANT FOR THE PROGNOSIS OF THE INTERMEDIATE RISK KARYOTYPE GROUP. European Hematology Association (STOCKHOLM), 2013. 6.
- 2) Tamura H¹⁾, Handa H²⁾, Isoda A³⁾, Matsumoto M³⁾, Sasaki M⁴⁾, Komatsu N⁴⁾, Inami Y⁵⁾, Motoji T⁵⁾, Tanosaki S⁶⁾, Okabe M, Yokose N, Inokuchi K¹⁾ (1) Division of Hematology, Nippon Medical School, 2) Department of Medicine and Clinical Science, Gunma University Graduate School of Medicine, 3) Department of Hematology, National Hospital Organization Nishigunma National Hospital, 4) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Jyuntendo University School of Medicine, 5) Department of Hematology, Tokyo Womens Medical University, 6) Division of Hematology, The Fraternity Memorial Hospital) : Flow cytometric analysis of plasma cells in myeloma and MGUS patients : K4MM multicenter study. 日本血液学会学術集会 (第75回) (札幌市), 2013. 10.
- 3) Wakita S, Yamaguchi H¹⁾, Usuki K²⁾, Kobayashi Y³⁾, Gomi S⁴⁾, Tajika K⁴⁾, Hirakawa T¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Azuma K¹⁾, Sato Y¹⁾, Todoroki T¹⁾, Omori I¹⁾, Fukunaga K¹⁾, Arai K¹⁾, Kitano T¹⁾, et al. (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, 3) Department of Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, 4) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyou Sai Hospital) : The prognostic impact of complex gene mutation in the intermediate risk karyotype AML. 日本血液学会学術集会 (第75回) (札幌市), 2013. 10.
- 4) Yokose N, Okabe M, Wakita S, Inokuchi K¹⁾ (1) Hematology, Int Med, Nippon Medical School) : MYC/BCL2 double-hit follicular lymphoma successfully treated with R-hyper-CVAD/R-MA regimen. 日本血液学会学術集会 (第75回) (札幌市), 2013. 10.
- 5) 脇田知志, 山口博樹¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経見¹⁾, 北野智章¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 小坂文子¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 移植適応を判断するうえでの遺伝子変異解析の重要性. 日本造血細胞移植学会総会 (第36回) (沖縄), 2014. 3.
- 6) Hamada Y¹⁾, Ishibashi M¹⁾, Asayama T¹⁾, Okuyama N, Kondo A¹⁾, Moriya K¹⁾, Hyodo H¹⁾, Igarashi T²⁾, Onose H³⁾, Yokose N, Tanosaki S⁴⁾, Shimizu K²⁾, Tamura H¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Division of Hematology,

Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Endocrine Surgery, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Endocrinology, Kanachi Hospital, ⁴⁾ Division of Hematology, The Fraternity Memorial Hospital) : Clinicopathological Characteristics and A20 (TNFAIP3) Mutation In Primary Thyroid Lymphoma. 55th Annual Meeting of the American Society of Hematology (New Orleans), 2013. 12.

- 7) Wakita S, Yamaguchi H¹⁾, Ryoutokuji T¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Omori I¹⁾, Kitano T¹⁾, Arai K¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K²⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : The Prognostic Impact of Complex Gene Mutation In The Intermediate Risk Karyotype Acute Myeloid Leukemia. 55th Annual Meeting of the American Society of Hematology (New Orleans), 2013. 12.
- 8) Wakita S, Yamaguchi H¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Takeuchi J¹⁾, Omori I¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Kitano T¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Fosaka F¹⁾, Ino K¹⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : THE CLINICAL FEATURES AND PROGNOSTIC IMPACT OF DNMT3A GENE MUTATION IN JAPANESE PATIENTS WITH de novo AML. THE EUROPEAN HEMATOLOGY ASSOCIATION (ストックホルム), 2013. 6.

5. 内科学（消化器内科学）

[付属病院消化器・肝臓内科]

研究概要

消化器・肝臓内科では、(1) 食道運動機能異常症の病態生理学的検討、(2) *Helicobacter pylori* 感染の意義、(3) デイスペプシア（機能性胃症）の臨床的、病態生理学的研究、(4) 炎症性腸疾患の病態生理に関する検討、(5) 大腸腺腫、癌の病態に関する検討、(6) カプセル内視鏡、小腸内視鏡を用いた小腸潰瘍性疾患、出血性疾患の臨床的解析、(7) COX-2の消化管癌に対する役割など基礎的研究の実施、(8) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術に関する臨床的検討、(9) 慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能、など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究、(10) 腫瘍内圧を考慮した安全なラジオ波焼灼療法の開発研究、(11) 磁気センサー搭載超音波装置による肝画像診断法の研究、(12) C型慢性肝炎における宿主遺伝子情報に基づいた治療の解析、(13) EOB 造影MRI、造影エコー、CTを用いた各種画像診断法による肝細胞癌検出能の比較研究、(14) 肝癌分子標的治療の薬剤用量設定および他治療法との併用についての臨床的研究、を実施している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Miyake K, Kusunoki M, Ueki N, Yamada A, Nagoya H, Kodaka Y, Shindo T, Kawagoe T, Gudis K, Futagami S, Tsukui T, Sakamoto C : Classification of patients who experience a higher distress level to transoral esophagogastroduodenoscopy than to transnasal esophagogastroduodenoscopy. *Digestive Endoscopy* 2013 ; 25 (4) : 397-405.
- 2) Futagami S, Shimpuku M, Kawagoe T, Izumi N, Ohnishi N, Yamawaki H, Shindo T, Nagoya H, Horie A, Kodaka Y, Gudis K, Itoh T¹⁾, Sakamoto C (1) Center for Information Sciences, Nippon Medical School, Japan) : The preproghrelin 3056 TT genotype is associated with the feeling of hunger and low acylated ghrelin levels in japanese patients with *Helicobacter Pylori*-negative functional dyspepsia. *Internal Medicine* 2013 ; 52 (11) : 1155-1163.
- 3) Matsushita Y, Narahara Y, Fujimori S, Kanazawa H, Itokawa N, Fukuda T, Takahashi Y, Kondo C, Kidokoro H, Atsukawa M, Nakatsuka K, Sakamoto C : Effects of transjugular intrahepatic portosystemic shunt on changes in the small bowel mucosa of cirrhotic patients with portal hypertension. *Journal of Gastroenterology* 2013 ; 48 (5) : 633-639.
- 4) Futagami S, Shimpuku M, Yamawaki H, Izumi N, Kodaka Y, Nagoya H, Wakabayashi T, Shindo T, Kawagoe T, Sakamoto C : Sleep disorders in functional dyspepsia and future therapy. *Journal of Nippon Medical School* 2013 ; 80 (2) : 104-109.
- 5) Fukuda T, Narahara Y, Kanazawa H, Matsushita Y, Kidokoro H, Itokawa N, Kondo C, Atsukawa M, Nakatsuka K, Sakamoto C : Effects of fasudil on the portal and systemic hemodynamics of patients with cirrhosis. *J Gastroenterol Hepatol* 2014 ; 29 (2) : 325-329.
- 6) Harimoto H, Shimizu M, Nakagawa Y, Nakatsuka K, Wakabayashi A, Sakamoto C, Takahashi H : Inactivation of tumor-specific CD8 CTLs by tumor-infiltrating tolerogenic dendritic cells. *Immunology and Cell Biology* 2013 ; 91 (9) : 545-555.
- 7) Shimada N, Tsubota A, Atsukawa M, Abe H, Ika M, Kato K, Sato Y, Kondo C, Sakamoto C, Tanaka

- Y, Aizawa Y : α -Fetoprotein is a surrogate marker for predicting treatment failure in telaprevir-based triple combination therapy for genotype 1b chronic hepatitis C Japanese patients with the IL28B minor genotype. *Journal of Medical Virology* 2014 ; 86 (3) : 461-472.
- 8) Futagami S, Yamawaki H, Shimpuku M, Izumi N, Wakabayashi T, Kodaka Y, Nagoya H, Shindo T, Kawagoe T, Sakamoto C : Impact of coexisting irritable bowel syndrome and non-erosive reflux disease on postprandial abdominal fullness and sleep disorders in functional dyspepsia. *Journal of Nippon Medical School* 2013 ; 80 (5) : 362-370.
 - 9) Fujimoto K, Fujishiro M, Kato M, Higuchi K, Iwakiri R, Sakamoto C, Uchiyama S, Kashiwagi A, Ogawa H, Murakami K, Mine T, Yoshino J, Kinoshita Y, Ichinose M, Matsui T : Guidelines for gastroenterological endoscopy in patients undergoing antithrombotic treatment. *Digestive endoscopy* 2014 ; 26 (1) : 1-14.
 - 10) Nagoya H, Futagami S, Shimpuku M, Tatsuguchi A, Wakabayashi T, Yamawaki H, Kodaka Y, Kawagoe T, Watarai Y, Makino H, Miyashita M, Tsuchiya S, Crowe S, Sakamoto C : Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 is associated with angiogenesis and VEGF production via upregulation of COX-2 expression in esophageal cancer tissues. *American Journal of Physiology. Gastrointestinal and Live Physiology.* 2014 ; 306 (3) : 183-190.
 - 11) Akimoto N, Fujimori T, Mitomi H, Ichikawa K, Tomita S, Tatsuguchi A, Fujimori S, Naito Z, Sakamoto C : Micropapillary pattern at the invasive front and its association with unresectable colorectal carcinomas. *Disease Markers* 2013 ; 35 (5) : 451-455.
 - 12) Atsukawa M, Tsubota A, Shimada N, Kondo C, Itokawa N, Nakagawa A, Hashimoto S, Fukuda T, Matsushita Y, Kidokoro H, Narahara Y, Nakatsuka K, Iwakiri K, Kawamoto C, Sakamoto C : Efficacy of Alfalcidol on PEG-IFN/ Ribavirin Combination Therapy for Elderly Patients With Chronic Hepatitis C : A Pilot Study. *Hepatitis Monthly* 2013 ; 13 (12) : 14872.
 - 13) Atsukawa M¹⁾, Tsubota A, Shimada N, Kondo C, Itokawa N, Nakagawa A, Hashimoto S, Fukuda T, Matsushita Y, Narahara Y, Iwakiri K, Nakatsuka K, Kawamoto C, Sakamoto C (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Japan) : Serum 25-hydroxyvitamin D3 levels affect treatment outcome in pegylated-interferon/ribavirin combination therapy for compensated cirrhotic patients with HCV genotype 1b and high viral load. *Hepatology Research* 2014 : Epub ahead of print.
 - 14) Yamawaki H, Futagami S, Shimpuku M, Sato H, Wakabayashi T, Maruki Y, Kodaka Y, Nagoya H, Shindo T, Kawagoe T, Sakamoto C : Impact of sleep disorders, quality of life and gastric emptying in distinct subtypes of functional dyspepsia in Japan. *Journal of Neurogastroenterology and Motility* 2014 ; 20 (1) : 104-112.
 - 15) Miyake K, Akimoto T, Kusakabe M, Sato W, Yamada A, Yamawaki H, Kodaka Y, Shimpuku M, Nagoya H, So T, Ueki N, Kusunoki M, Kawagoe T, Futagami S, Tsukui T, et al. : Water-soluble vitamin deficiencies in complicated peptic ulcer patients soon after ulcer onset in Japan. *Journal of Nutritional Science and Vitaminology* 2013 ; 59 (6) : 503-508.
 - 16) Futagami S, Yamawaki H, Izumi N, Shimpuku M, Kodaka Y, Wakabayashi T, Nagoya H, Shindo T, Kawagoe T, Itoh T, Sakamoto C : Impact of sleep disorders in Japanese patients with functional dyspepsia (FD) : nizatidine improves clinical symptoms, gastric emptying and sleep disorders in FD patients. *Journal of Gastroenterology Hepatol* 2013 ; 28 (8) : 1314-1320.
 - 17) Iwakiri R, Tominaga K, Furuta K, Inamori M, Furuta T, Masuyama H, Kanke K, Nagahara A, Haruma

K, Kinoshita Y, Iwakiri K, et al. : Randomised clinical trial : rabeprazole improves symptoms in patients with functional dyspepsia in Japan. *Alimentary Pharmacology and Therapeutics* 2013 ; 38 (7) : 729-740.

- 18) Suzuki H, Kusunoki H, Kamiya T, Futagami S, Yamaguchi Y, Nishizawa T, Iwasaki E, Matsuzaki J, Takahashi S, Sakamoto C, Haruma K, Joh T, Asakura K, Hibi T : Effect of lansoprazole on the epigastric symptoms of functional dyspepsia (ELF study) : A multicentre, prospective, randomized, double-blind, placebo-controlled clinical trial. *United European Gastroenterology Journal* 2013 ; 1 (6) : 445-452.

(2) 総説 :

- 1) 川見典之, 岩切勝彦¹⁾, 佐野弘仁, 田中由理子, 竹之内菜菜, 星野慎太郎¹⁾, 梅澤まりこ, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科) : 酸逆流からみた逆流性食道炎. *Modern Physician* 2013 ; 33 (7) : 844-848.
- 2) 星原芳雄 : 逆流性食道炎の内視鏡分類と診断法. *Modern Physician* 2013 ; 33 (7) : 841-843.
- 3) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科) : 実地医家が知っておくべき治療の進歩とその活用 難治性 GERD の実地治療. *Medical Practice* 2013 ; 30 (7) : 1234-1237.
- 4) 三宅一昌, 坂本長逸 : 特集 : 抗血栓薬 / Nsaids と消化管傷害—その実態とマネジメントに迫る—抗血栓薬 / NSAIDS による消化管障害とマネジメント薬剤性消化管傷害の実態とマネジメント—いま何が問題か. 消化器の臨床 2013 ; 16 (2) : 143-151.
- 5) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科) : 疫学と病態 胃食道逆流と食道知覚過敏の機序. *medicina* 2013 ; 50 (5) : 777-780.
- 6) 三井啓吾, 小林 剛, 鈴木将大, 小杉友紀, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 松浦陽子, 江原彰仁, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸, その他 1 名 : 出血症状別によるダブルバルーン内視鏡による原因不明消化管出血の診断. *消化器内科* 2013 ; 56 (5) : 477-481.
- 7) 松久威史¹⁾, 津久井拓¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院消化器科) : 高齢者に対する *Helicobacter pylori* 除菌の意義についての検討. *Helicobacter Research* 2013 ; 17 (4) : 40-45.
- 8) 秋元直彦, 三富弘之¹⁾, 小林俊介¹⁾, 岡本陽祐¹⁾, 岡本健太郎¹⁾, 辰口篤志, 藤森俊二, 市川一仁¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 内藤善哉²⁾, 坂本長逸, 藤盛孝博¹⁾ (¹⁾ 独協医科大学病理学 (人体分子), ²⁾ 日本医科大学統御機構病理学) : 遺伝子変化による IBD 発癌. *G.I. Research vol.21 no.5 2013* 2013 ; 21 (5) : 17 (321) -21 (325).
- 9) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁, 星野慎太郎¹⁾, 竹之内菜菜, 田中由理子, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科) : 食道癌罹患. *G.I. Research vol.21 no.5 2013* 2013 ; 21 (5) : 50 (354) -58 (362).
- 10) 岡本陽祐¹⁾, 小林俊介, 五十嵐良典²⁾, 秋元直彦, 坂本長逸, 岡本健太郎³⁾, 椿 昌裕³⁾, 加藤広行, 富田茂樹¹⁾, 市川一仁, 三富弘之, 藤盛孝博 (¹⁾ 独協医科大学病理学 (人体分子), ²⁾ 東邦大学医療センター大森病院消化器センター内科, ³⁾ 獨協医科大学病院 第一外科) : 生検は必要である—病理の立場から. *消化器内視鏡* 2013 ; 25 (8) : 1182-1188.
- 11) 三井啓吾, 鈴木将大, 江原彰仁, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸 : バルーン内視鏡を使用した治療内視鏡 - 小腸異物除去. *INTESTINE volume17,number6,2013.* 2013 ; 17 (6) : 585-590.
- 12) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 星野慎太郎¹⁾, 竹之内菜菜, 佐野弘仁, 田中由理子, 星原芳雄, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科) : 食道 pH ・多チャンネルインピーダンス検査. *Frontiers in Gastroenterology Vol.19 No.1 2014-1* 2014 ; 19 (1) : 45-50.
- 13) 藤森俊二, 松浦陽子, 松下洋子, 榎原義之, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 福田 健, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, その他 6 名 : 【症例から学ぶ門亢症へのアプローチ】小腸・結腸からみた門亢症 (PHE,PHC). *消化器内視鏡 Vol.25 No.11 2013* 2013 ; 25 (11) : 1901-1907.
- 14) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 竹之内菜菜, 星野慎太郎¹⁾, 梅澤まり子, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 消化器内科) : GERD と睡眠障害—一夜間の酸逆流および食道内酸排出のメカニズム—. *日本消化器病学会雑誌* 2013 ; 110 (6) : 971-978.

- 15) 岩切勝彦¹⁾, 田中由理子, 川見典之, 佐野弘仁, 竹之内菜菜, 星野慎太郎¹⁾, 梅澤まり子, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 消化器内科) : 胃食道逆流症 : GERD と関連疾患 9. 食道アカラシアの診断と治療. モダンフィジシャン 胃食道逆流症・機能性ディスペプシアー関連疾患のすべて— 2013 ; 33 (7) : 868-871.
- 16) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 星野慎太郎¹⁾, 竹之内菜菜, 佐野弘仁, 田中由理子, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 消化器内科) : 非びらん性胃食道逆流症 (NERD) の病態と有効な治療. カレントセラピー 2013 ; 31 (12) : 33-36.
- 17) Shimada N, Tsubota A, Atsukawa M, Abe H, Ide T, Takaguchi K, Chuganji Y, Toyoda Y, Yoshizawa K, Ika M, Sato Y, Kato K, Kumada T, Sakamoto C, Aizawa Y, et al. : A 48-week telaprevir-based triple combination therapy improves sustained virological response rate in previous non-responders to peginterferon and ribavirin with genotype 1b chronic hepatitis C : Amulticenter study. Hepatology research 2014 ; in press.
- 18) Fujimori S, Sakamoto C : Latest concepts on association between NSAID-induced small intestinal injury and intestinal bacterial flora. Clin J Gastroenterol 2013 ; 6 (5) : 345-351.
- 19) 藤森俊二, 坂本長逸 : 正常所見とそのバリエーション. 消化器内視鏡 2013 ; 25 (7) : 1056-1058.
- (3) 症例報告 :
 - 1) Nomura T, Iwakiri K, Matsutani T, Hagiwara N, Makino H, Maruyama H, Fujita I, Nakamura Y, Kawanami N, Miyashita M, Uchida E : Laparoscopic anti-reflux surgery to treat proton pump inhibitor-resistant non-erosive reflux disease. Esophagus 2013 ; 10 (3) : 157-160.
- (4) 誌上ディベート :
 - 1) 坂本長逸 : 内視鏡で発見されるようになった小腸病変は臨床を大きく変えたか : 両論文に対するコメント. Frontiers in Gastroenterology 2013 ; 18 (4) : 35.
- (5) 主題 :
 - 1) 藤森俊二, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 馬來康太郎, 鈴木将大, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸, その他1名 : カプセル内視鏡の現状と展望 原因不明消化管出血への臨床使用. 胃と腸 2013 ; 48 (4) : 418-424.

著 書

- 1) 三宅一昌, 坂本長逸 : [分担] 消化管. ビスホスホネート エビデンスブック, 2013 ; pp216-221, 医療ジャーナル.
- 2) 岩切勝彦 (¹⁾ 千葉北総病院) : [分担] I. 食道 (各論) / 運動・機能異常 アカラシア. 専門医のための消化器病学 (小俣 政男, 千葉 勉 ・ 下瀬川 徹, 渡辺 守, 木下 芳一, 金子 周一, 榎田 博史), 2013 ; pp26-30, 医学書院.
- 3) 二神生爾, 坂本長逸 : [分担] 胃・十二指腸の消化管としての構造の特徴. 専門医のための消化器病学 第2版 (小俣 政男, 千葉 勉 ・ 下瀬川 徹, 渡辺 守, 木下 芳一, 金子 周一, 榎田 博史), 2013 ; pp72-73, 医学書院.
- 4) 藤森俊二, 坂本長逸 : [分担] 小腸癌. 専門医のための消化器病学 第2版 (小俣 政男, 千葉 勉 ・ 下瀬川 徹, 渡辺 守, 木下 芳一, 金子 周一, 榎田 博史), 2013 ; pp223-227, 医学書院.
- 5) 坂本長逸, 河越哲郎 : [分担] 急性胃十二指腸粘膜病変. 内科学書 (改訂第8版) (小川 聡, 千葉 勉, 井廻 道夫), 2013 ; pp90-91, 中山書店.
- 6) Kokudo N¹⁾, Ishizawa T¹⁾ (¹⁾ Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery Division, Department of Surgery, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo) : [監修] Fluorescent Imaging Treatment of Hepatobiliary and Pancreatic Diseases (Choitsu Sakamoto), 2013 ; KARGER.
- 7) Chiba T¹⁾, Malfertheiner P²⁾, Satoh H³⁾ (¹⁾ Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School

of Medicine, Kyoto University, ²⁾ Department of Gastroenterology, Hepatology and Infectious Diseases, Otto-von-Guericke University, ³⁾ Department of pharmacology and Experimental Therapeutics, Division of Pathological Sciences, Kyoto Pharmaceutical University): [監修] Proton Pump Inhibitors: A Balanced View (Choitsu Sakamoto), 2013; KARGER.

- 8) 岩切勝彦: [分担] 2章 消化器臓器の構造と機能 3 消化器機能検査 1 食道内圧測定. 消化器病学: 基礎と臨床 (浅香正博 菅野健太郎 千葉勉), 2013; pp102-105, 西村書店.
- 9) 藤森俊二, 坂本長逸: [分担] NSAIDs 起因性腸炎. 消化器病学: 基礎と臨床, 2013; pp959-964, 西村書店.
- 10) 藤森俊二, 坂本長逸: [分担] 薬剤性消化管傷害. 内科学書, 2013; pp212-214, 中山書店.
- 11) 藤森俊二, 坂本長逸: [分担] 薬剤起因性腸炎: 小腸疾患の臨床. 臨床消化器内科増刊号, 2013; pp207-213, 日本メディカルセンター.
- 12) 岩切勝彦: [分担] 胃食道逆流症. すぐに使える高齢者総合診療ノート (大庭健三), 2014; pp279-284, 日本医事新報社.

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) Sakamoto C: Strategies for raising standards of clinical researches in Digestive Endoscopy. The Seminar of Korean Society of Gastrointestinal Endoscopy (49th) (Gyeonggi-do, South Korea), 2013. 8.
- 2) Sakamoto C: Strategies for raising standards of clinical researches in Digestive Endoscopy. The Second Anniversary of Clinical Endoscopy (Gyeonggi-do, South Korea), 2013. 8.

(2) シンポジウム:

- 1) 二神生爾, 新福摩弓, 山脇博士, 小高康裕, 楠 正典, 名児耶浩幸, 丸木雄太, 植木信江, 河越哲郎, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸: 質問表を用いたFD患者における睡眠障害の実態調査および胃排出能との相関関係の解析. 第50回臨床生理学会総会 (東京都千代田区), 2013. 11.
- 2) 川見典之, 岩切勝彦¹⁾, 佐野弘仁, 田中由理子, 竹之内菜菜, 星野慎太郎¹⁾, 星原芳雄, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 消化器内科): PPI 倍量抵抗性 NERD の病態. 第50回日本臨床生理学会総会 (東京都千代田区), 2013. 11.
- 3) 新福摩弓, 二神生爾, 山脇博士, 小高康裕, 名児耶浩幸, 河越哲郎, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸: FD患者におけるGN β -3およびGhrelinの遺伝子多型と胃排出能との相関関係の解析. 第50回臨床生理学会総会 (東京都千代田区), 2013. 11.

(3) セミナー:

- 1) 岩切勝彦: 睡眠障害とGERD: 夜間逆流の観点から. 日本消化器内視鏡学会総会 (第86回) (東京都), 2013. 10.

(4) ポスターセッション:

- 1) 金子恵子, 安良岡高志, 中川 愛, 橋本知実, 糸川典夫, 桥 卓史, 近藤千紗, 松下洋子, 張本滉智, 福田 健, 宮元亮子, 川本智章, 坂本長逸, 谷合信彦¹⁾, 村田 智²⁾, その他3名 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器一般・移植外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科): 当科におけるSorafenib使用成績及び投与開始量の検討. 日本肝がん分子標的治療研究会 (第8回) (金沢), 2013. 6.
- 2) 河越哲郎, 丸木雄太, 名児耶浩幸, 山田章善, 山脇博士, 小高康裕, 新福摩弓, 植木信江, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸: S-1ベース化学療法が著効した高齢(80歳以上)切除不能胃癌の2例. 日本消化管学会総会学術集会 (第10回) (福島県福島市), 2014. 2.

(5) ワークショップ:

- 1) 三宅一昌, 植木信江, 坂本長逸: 高齢者における長期低用量アスピリンに関連した出血性消化管病変の特徴. 日

本高齢消化器病学会総会（第16回）（名古屋市），2013. 7.

- 2) 張本滉智，金沢秀典，中塚雄久，榑原義之，厚川正則，城所秀子，福田 健，松下洋子，糸川典夫，坂本長逸：難治性腹水合併肝硬変の全身血行動態の特徴。日本門脈圧亢進症学会総会（第20回）（名古屋市），2013. 9.
- 3) 江原彰仁，三井啓吾，小林 剛，秋元直彦，小杉友紀，鈴木将大²⁾，馬來康太郎，遠坂由紀子¹⁾，春日裕介³⁾，松浦陽子⁴⁾，米澤真興，田中 周²⁾，辰口篤志，藤森俊二，坂本長逸（¹⁾日本医科大学多摩永山病院 消化器科，²⁾日本医科大学千葉北総病院 消化器内科，³⁾筑西市民病院 内科，⁴⁾社会福祉法人同愛記念病院 消化器内科）：原因不明の消化管出血における小腸内視鏡診断不能例への対応。日本消化器内視鏡学会関東地方会（第97回）（東京），2013. 12.
- 4) 三井啓吾，江原彰仁，小林 剛，秋元直彦，小杉友紀，鈴木将大²⁾，馬來康太郎，遠坂由紀子¹⁾，春日裕介³⁾，松浦陽子⁴⁾，米澤真興，田中 周²⁾，辰口篤志，藤森俊二，坂本長逸（¹⁾日本医科大学多摩永山病院消化器科，²⁾日本医科大学千葉北総病院消化器内科，³⁾筑西市民病院，⁴⁾社会福祉法人同愛記念病院）：ダブルバルーン内視鏡を施行した小腸腫瘍性疾患の特徴。日本消化管学会総会学術集会（第10回）（福島県福島市），2014. 2.

(6) プレナリーセッション：

- 1) 大森 順，三井啓吾，鈴木将大，小杉友紀，馬來康太郎，遠坂由紀子，春日裕介，玉木祐希江，高橋陽子，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦，米澤真興，田中 周，坂本長逸，その他2名：小腸悪性リンパ腫診断におけるバルーン内視鏡の有用性。日本消化器内視鏡学会総会（第85回）（京都），2013. 5.

(7) ポスター：

- 1) 新井泰央，三井啓吾，鈴木将大，小杉友紀，馬來康太郎，遠坂由紀子，春日裕介，玉木祐希江，高橋陽子，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦，米澤真興，田中 周，坂本長逸，その他2名：ダブルバルーン内視鏡で診断した小腸 GIST の特徴。日本消化器内視鏡学会総会（第85回）（京都市），2013. 5.
- 2) 金子恵子，橋本知実，松下洋子，厚川正則，榑原義之，中塚雄久，川本智章，坂本長逸，谷合信彦¹⁾，小野澤志郎²⁾，村田 智²⁾（¹⁾日本医科大学 消化器外科，²⁾日本医科大学 放射線科）：当科における Sorafenib の使用成績及び投与開始量の検討。日本肝がん分子標的治療研究会（第9回）（東京），2014. 1.
- 3) 福田 健，榑原義之，金沢秀典，糸川典夫，近藤千紗，張本滉智，松下洋子，城所秀子，厚川正則，中塚雄久，坂本長逸：肝硬変患者における塩酸ファスジルの門脈および全身血行動態に及ぼす影響。日本肝臓学会総会（第49回）（東京），2013. 6.

(8) 一般講演：

- 1) 秋元直彦，岡本陽祐¹⁾，山口岳史¹⁾，小林俊介¹⁾，岡本健太郎¹⁾，市川一仁¹⁾，富田茂樹¹⁾，三富弘之¹⁾，内藤善哉²⁾，坂本長逸，藤盛孝博¹⁾（¹⁾獨協医科大学 病理学（人体・分子），²⁾日本医科大学 病理学（統御機構・腫瘍学））：Invasive micropapillary carcinoma は Dukes' C 大腸癌における難治性大腸癌の予測因子となりうる（第4報）。日本高齢消化器病学会総会（第16回）（名古屋市），2013. 7.
- 2) 植木信江，山田章善，山脇博士，小高康裕，名兎耶広幸，進藤智隆，楠 正典，河越哲郎，二神生爾，三宅一昌，坂本長逸：脳心血管疾患を併存する患者の胃腫瘍に対する ESD 後出血における抗血栓薬の影響。日本消化器内視鏡学会総会（第85回）（京都市），2013. 5.
- 3) 高橋陽子，藤森俊二，遠坂由紀子，小杉友紀，鈴木将大，馬來康太郎，春日裕介，江原彰仁，小林 剛，三井啓吾，米澤真興，田中 周，辰口篤志，坂本長逸：多発性小腸狭窄による腸閉塞で発症し診断のために小腸内視鏡検査を施行した原発性小腸癌の2症例。日本消化器内視鏡学会総会（第85回）（京都），2013. 5.
- 4) 佐藤 航，三井啓吾，鈴木将大，小杉友紀，馬來康太郎，遠坂由紀子，春日裕介，玉木祐希江，高橋陽子，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦，米澤真興，田中 周，坂本長逸，その他2名：術後再建腸管症例におけるバルーン内視鏡による ERCP 関連手技の検討。日本消化器内視鏡学会総会（第85回）（京都），2013. 5.
- 5) 秋元直彦，辰口篤志，遠坂由紀子，小杉友紀，鈴木将大，馬來康太郎，春日裕介，高橋陽子，江原彰仁，三井啓吾，米澤真興，田中 周，坂本長逸：急速な発育を認めた上行結腸癌の1例。日本消化器内視鏡学会総会（第

- 85回) (京都), 2013. 5.
- 6) 馬來康太郎, 松浦陽子, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 江原彰仁, 小林剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸, その他2名: 小腸検査にて原因の特定に至った蛋白漏出性胃腸症の1例. 日本カプセル内視鏡学会学術集会 (第6回) (東京), 2013. 7.
 - 7) Tanaka Y, Iwakiri K, Kawami N, Sano H, Sakamoto C: Patients Over the Age of 40, Diagnosed With Type 1 Achalasia by Chicago Classification, Show the Best Indication for Pneumatic Dilatation. DDW2013 (Orlando, USA), 2013. 5.
 - 8) Kawami N, Iwakiri K, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Hoshihara Y, Sakamoto C: The Effect on Esophageal Motility of Both Acid Reflux and Aging. DDW2013 (Orlando, USA), 2013. 5.
 - 9) Kawami N, Iwakiri K, Sano H, Tanaka Y, Sakamoto C: Primary Peristalsis and Esophagogastric Junction (EGJ) Pressure, Following a Transient Lower Esophageal Sphincter Relaxation (TLESR), Are Accompanied by a Forceful Contraction. DDW2013 (Orlando, USA), 2013. 5.
 - 10) Sano H, Iwakiri K, Kawami N, Tanaka Y, Sakamoto C: In Patients With NERD, It Is Easy for Acid Reflux to Extend to the Proximal Esophagus, Compared With Healthy Subjects and Patients With Mild Reflux Esophagitis. DDW2013 (Orlando, USA), 2013. 5.
 - 11) 大久保知実¹⁾, 厚川正則¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 中川 愛¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 後藤田直人²⁾, 羽鳥 努³⁾, 西野隆義⁴⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, ²⁾ 国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部, ⁴⁾ 東京女子医科大学八千代医療センター 消化器内科): 病理学的に Microadenomatosis を併存し MEN1 が疑われた非機能性膵内内分泌腫瘍の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第325回) (東京), 2013. 7.
 - 12) 小杉友紀, 藤森俊二, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 松浦陽子, 江原彰仁, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 造血幹細胞移植後に治癒した骨髄異形成症候群を合併したベーチェット病の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第325回) (東京), 2013. 7.
 - 13) 花田優理子, 三宅一昌, 鮑本哲兵, 小高康裕, 川見典之, 河越哲郎, 二神生爾, 岩切勝彦, 坂本長逸: 短期間に特殊な形態変化をきたした, SMT 像を呈する単発性の胃過誤腫性ポリープの1例. 日本消化器病学会 関東支部 (第326回例会) (東京都), 2013. 9.
 - 14) 糸川典夫, 厚川正則, 近藤千紗, 中川 愛, 安良岡高志, 橋本知美, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 岩切勝彦, 坂本長逸: B型慢性肝炎に対する PEG-IFN 治療における sequential 療法の検討. 日本肝臓学会大会 (第17回) (東京都), 2013. 10.
 - 15) 厚川正則, 島田紀明, 坪田昭人, 近藤千紗, 糸川典夫, 中川 愛, 福田 健, 榎原義之, 安部 宏, 相澤良夫, 岩切勝彦, 坂本長逸: 脾腫を伴う血小板低値のC型慢性肝炎に対する PSE 先行3剤併用療法の検討. 日本肝臓学会大会 (第17回) (東京都), 2013. 10.
 - 16) 糸川典夫, 厚川正則, 近藤千紗, 中川 愛, 安良岡高志, 橋本知美, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 岩切勝彦, 坂本長逸: 進行肝細胞癌に対する Sorafenib, PEG-IFN 併用療法の検討. 日本肝臓学会大会 (第17回) (東京都), 2013. 10.
 - 17) 山脇博士, 二神生爾, 坂本長逸: 質問表を用いたFD患者における睡眠障害の実態調査および胃排出能との相関関係の解析: nizatidine による cross-over 試験の試み. 日本消化器病学会大会 (第55回) (東京), 2013. 10.
 - 18) 楠 正典, 三宅一昌, 山田章善, 山脇博士, 小高康裕, 新福摩弓, 名見耶浩幸, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 坂本長逸: 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) 時の弾性ストッキング (IPC) による深部静脈血栓症 (DVT) の予防効果. 日本消化器内視鏡学会 (第55回) (東京都), 2013. 10.
 - 19) 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典: 難治性腹水に対する TIPS の治療成績 2013. 日本消化器病学会大会 (第55回) (東京都), 2013. 10.

- 20) 金子恵子, 福田 健, 松下洋子, 川本智章, 坂本長逸: 肝細胞癌局所治療後に散布型再発が疑われた2例. *Microwave Surgery 研究会* (第32回) (東京都), 2013. 9.
- 21) 城所秀子, 榎原義之, 金沢秀典, 安良岡高志, 中川 愛, 橋本知実, 糸川典夫, 栢 卓史, 近藤千紗, 張本混智, 福田 健, 松下洋子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 難治性肝性胸水に対する TIPS の治療成績. *日本消化器病学会大会* (第55回) (東京都), 2013. 10.
- 22) 竹之内菜奈, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 星野慎太郎¹⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院・消化器内科): EGJ outflow obstruction の臨床像と経過. *日本消化器病学会大会* (第55回) (東京都), 2013. 10.
- 23) 小高康裕, 二神生爾, 辰口篤志, 若林大雅, 山脇博士, 名児耶浩幸, 新福摩弓, 進藤智隆, 楠 正典, 植木信江, 河越哲郎, 三宅一昌, 坂本長逸: H. pylori 陽性胃炎患者における COX - 2 の SNP を用いた除菌後ハイリスク群の絞り込み. *日本消化器病学会大会* (第55回) (東京都), 2013. 10.
- 24) 丸木雄太, 河越哲郎, 名児耶浩幸, 小杉友紀, 植木信江, 小林 剛, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 辰口篤志, 小泉岐博¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 二神生爾, 藤森俊二, 坂本長逸 (1) 日本医科大学付属病院・第1外科): 再発例を除く進行切除不能大腸癌の治療成績の検討. *日本消化器病学会大会* (第55回) (東京都), 2013. 10.
- 25) 川見典之, 岩切勝彦¹⁾, 竹之内菜葉, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 星野慎太郎¹⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 千葉北総病院・消化器内科): バルーン拡張術の成績からみた食道アカラシア新取扱い規約 X 線像変更の意義. *日本消化器病学会大会* (第55回) (東京都), 2013. 10.
- 26) 星野慎太郎¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 竹之内菜葉, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 千葉北総病院・消化器内科): 当科で経験した Jackhammer esophagus の臨床経過. *日本消化器病学会大会* (第55回) (東京都), 2013. 10.
- 27) Hanada Y, Tatsuguchi A, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S¹⁾, Fujimori S, Sakamoto C (1) 日本医科大学千葉北総病院): ERBB3 PHOSPHORYLATED BY HEREGULIN PROMOTES ANGIOGENESIS IN COLORECTAL CANCER. *UEG Week 2013* (ベルリン (ドイツ)), 2013. 10.
- 28) Mitsui K, Suzuki M¹⁾, Fujimori S, Ehara A, Kobayashi T, Tanaka S¹⁾, Tatsuguchi A, Choitsu S (1) 日本医科大学 千葉北総病院): THE BLOOD UREA NITROGEN/CREATININ RATIO IS USEFUL FOR DISTINGUISHING THE COLONIC BLEEDING FROM THE SMALL BOWEL BLEEDING IN OBSCURE GASTROINTESTINAL BLEEDING. *UEG Week 2013* (ベルリン (ドイツ)), 2013. 10.
- 29) Fujimori S, Mushiroda T, Mitsui K, Takahashi Y, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C: A PRELIMINARY REPORT OF SEARCHING GENOTYPE ASSOCIATED WITH NSAID INDUCED SMALL INTESTINAL INJURY. *UEG Week 2013* (ベルリン (ドイツ)), 2013. 10.
- 30) Ueki N, Miyake K, Yamada A, Kodaka Y, Nagoya H, Shindo T, Kusunoki M, Kawagoe T, Futagami S, Sakamoto C: THE INFLUENCE OF ANTIPLATELET THERAPY WITH ITS TEMPORARY DISCONTINUATION ON BLEEDING RISK AFTER GASTRIC ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION. *UEG Week 2013* (ベルリン (ドイツ)), 2013. 10.
- 31) Kusakabe M, Miyake K, Sato W¹⁾, Yamada A, Kodaka Y, Nagoya H, Shindo T, Ueki N, Kusunoki M, Kawagoe T, Futagami S, Sakamoto C (1) 町立八丈病院): ASSOCIATIONS WITH WATER-SOLUBLE VITAMIN DEFICIENCIES AND PATIENTS WITH COMPLICATED PEPTIC ULCERS IN THE EARLY PHASE AFTER THE ONSET, EVEN IN PRESENT-DAY JAPAN: TIME COURSE OF THESE CHANGES. *UEG Week 2013* (ベルリン (ドイツ)), 2013. 10.
- 32) 新福摩弓, 佐々木努¹⁾, 北住知也¹⁾, 橋本博美¹⁾, 小林雅樹¹⁾, 二神生爾, 坂本長逸, 北村忠弘¹⁾ (1) 群馬大学 生体調節研究所 代謝シグナル解析分野): α - グルコシダーゼ阻害薬による体重減少効果の分子機序の比較. 第50回日本臨床生理学会総会 (東京都千代田区), 2013. 11.

- 33) 福田 健, 橋原義之, 金沢秀典, 坂本長逸: 難治性腹水の全身血行動態の特徴. 日本臨床生理学会総会 (第 50 回記念) (東京都千代田区), 2013. 11.
- 34) 山脇博士, 二神生爾, 新福摩弓, 小高康裕, 丸木雄太, 名児耶浩幸, 河越哲郎, 三宅一昌, 坂本長逸: LPS 前投与 urocortin1 脳槽内投与ラットにおける胃排出能および小腸通過時間の比較検討. 第 50 回臨床生理学会総会 (東京都千代田区), 2013. 11.
- 35) 二神生爾, 新福摩弓, 山脇博士, 小高康裕, 名児耶浩幸, 若林大雅, 河越哲郎, 坂本長逸: 睡眠障害と機能性ディスペプシア. 機能性ディスペプシア研究会 (第 7 回) (出雲市), 2013. 11.
- 36) 橋 卓史¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 城所秀子¹⁾, 安良岡高志¹⁾, 水谷 聡²⁾, 山岸征嗣²⁾, 清水貴夫²⁾, 谷谷信彦³⁾, 鈴木英之⁴⁾, 川本智章, 内田英二⁴⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器内科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ³⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 門脈圧亢進症に対する血行動態を考慮した集学的治療により肝細胞癌外科治療を施行しえた非代償期肝硬変の 1 症例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 20 回) (名古屋), 2013. 9.
- 37) 張本滉智, 金沢秀典, 厚川正則, 城所秀子, 福田 健, 松下洋子, 糸川典夫, 橋 卓史, 橋本知実, 橋原義之, 中塚雄久, 坂本長逸: 難治性肝性胸水に対する TIPS—特に腹水合併例と非合併例における治療成績の差—. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 20 回) (名古屋), 2013. 9.
- 38) 若林大雅, 金子恵子, 橋本知実, 馬來康太郎, 松下洋子, 福田 健, 川本智章, 坂本長逸, 三樹いずみ¹⁾, 安井大祐¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 増田寛喜, その他 6 名 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科): 脾膿瘍を景気に発見された腓尾部癌の 1 例. 日本消化器病学会 関東支部例会 (第 327 回) (東京), 2013. 12.
- 39) 大久保知美¹⁾, 厚川正則¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 中川 愛¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 星野慎太郎¹⁾, 楠 正典¹⁾, 田中周¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川本智章, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): Telaprevir 3 剤併用療法においてうつ症状を合併した症例に対し IFN β に切り替え治療を完遂した 2 症例. 日本消化器病学会 関東支部例会 (第 327 回) (東京), 2013. 12.
- 40) 大森 順, 川見典之, 岩切勝彦¹⁾, 竹之内菜菜, 星野慎太郎¹⁾, 梅澤まり子, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): 食道好酸球浸潤により特異な内視鏡像を呈した好酸球性胃腸炎の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 328 回) (東京都), 2014. 2.
- 41) Iwakiri K, Kawami N, Sano H, Tanaka Y, Sakamoto C: Pathogenesis of patients with double-dose PPI-resistant NERD. DDW2013 (Orland FL,USA), 2013. 5.
- 42) Itokawa N, Atsukawa M, Shimada N, Nakagawa A, Kondo C, Matsushita Y, Fukuda T, Narahara Y, Nakatsuka K, Iwakiri K, Sakamoto C: Fluvastatin does not exhibit antiviral effect on PEG-IFN/Ribavirin/Telaprevir therapy for genotype 1b chronic hepatitis C. AMERICAN ASSOCIATION FOR THE STUDY OF LIVER DISEASES (WASHINGTON), 2013. 11.
- 43) Chiba T, Sakurai Y, Nishimura A, Hiramatsu N, Umegaki E, Iwakiri K, Ashida K: A Phase 2, Randomized, Double-Blind, Parallel-Group, Multicenter, Dose-Ranging Study to Evaluate the Efficacy and Safety of a Novel Potassium-Competitive Acid Blocker (P-CAB) TAK-438 in Patients with Erosive Esophagitis. DDW2013 (Orland FL,USA), 2013. 5.
- 44) 吉田賢司¹⁾, 木幡幸恵²⁾, 藤原靖弘²⁾, 杉本光繁³⁾, 吉田隆久⁴⁾, 岩切龍—⁵⁾, 稲森正彦⁶⁾, 河村 修⁷⁾, 草野元康⁷⁾, 加藤元嗣⁸⁾, 岩切勝彦⁹⁾, 竹内利寿¹⁰⁾, 樋口和秀¹⁰⁾, その他 5 名 (¹⁾ 鳥根大学 第二内科, ²⁾ 大阪市立大学 消化器内科, ³⁾ 浜松医科大学 臨床研究管理センター, ⁴⁾ 浜松医科大学 第一内科, ⁵⁾ 佐賀大学 消化器内科, ⁶⁾ 横浜市立大学 消化器内科, ⁷⁾ 群馬大学 光学医療診療部, ⁸⁾ 北海道大学病院 光学医療診療部, ⁹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, ¹⁰⁾ 大阪医科大学 第二内科): *Helicobacter pylori* (Hp) 陰性健康成人における Proton Pump inhibitor (PPI) 間の夜間酸分泌抑制力の比較検討. 日本消化器病学会雑誌 (第 55 回) (東

京都), 2013. 10.

- 45) 蘆田 潔¹⁾, 岩切勝彦, 梅垣英次²⁾, 平松直樹³⁾, 千葉 勉⁴⁾ (1) 済生会中津病院 消化器内科, 2) 大阪医科大学第二内科, 3) 大阪大学 消化器内科, 4) 京都大学大学院 消化器内科学): TAK-438 の逆流性食道炎患者を対象とした用量設定試験. 日本消化器病学会雑誌 (第 55 回) (東京都), 2013. 10.
- 46) 星野慎太郎¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 竹之内菜菜, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 野村 務²⁾, 宮下正夫³⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 消化器外科): Jackhammer esophagus の臨床像と経過. 日本食道学会 (第 67 回) (大阪府), 2013. 6.
- 47) 中川 愛¹⁾, 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 坪田昭人³⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 福田 健, 松下洋子, 榎原義之, 長田祐二⁴⁾, 中塚雄久, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院 消化器肝臓科, 3) 東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター, 4) 博慈会記念総合病院 消化器内科): C 型慢性肝炎に対する 3 剤併用療法の治療効果に寄与する因子～スタチン併用も含め～. 日本肝臓学会 (第 49 回) (東京都), 2013. 6.
- 48) 近藤千紗¹⁾, 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 坪田昭人³⁾, 糸川典夫¹⁾, 中川 愛¹⁾, 橋本知実, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 岩切勝彦, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院 消化器肝臓科, 3) 東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター): 血小板数低値の C 型慢性肝炎に対する PSE 先行 3 剤併用療法について. 日本肝臓学会 (第 49 回) (東京都), 2013. 6.
- 49) 中川 愛¹⁾, 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 坪田昭人³⁾, 糸川典夫¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 福田 健, 松下洋子, 榎原義之, 中塚雄久, 長田祐二⁴⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 3) 東京慈恵会医科大学柏病院 消化器肝臓内科): C 型慢性肝炎に対する Telaprevir を含む 3 剤併用療法における治療成績. 日本肝臓学会 (第 17 回) (東京都), 2013. 10.
- 50) 秋元直彦, 山口岳史¹⁾, 大竹陽介¹⁾, 岡本陽祐¹⁾, 藤盛友佳理¹⁾, 井村穰二²⁾, 富田茂樹¹⁾, 市村一仁¹⁾, 内藤善哉³⁾, 坂本長逸, 藤盛孝博¹⁾ (1) 獨協医科大学 病理学 (人体・分子), 2) 富山大学大学院医学薬学研究部病理診断学, 3) 日本医科大学 病理学 (統御機構・腫瘍学)): Invasive micropapillary carcinoma は Dukes' C 大腸癌における難治性大腸癌の予測因子となりうる. 日本病理学会総会 (第 102 回) (札幌), 2013. 6.
- 51) Kawamoto C: HCC dissemination after radiofrequency ablation. Korea-Japan Image-guided Tumor Ablation (ITA) Meeting (3rd) (Seoul, Korea), 2013. 6.
- 52) 金子恵子: 集学的治療が奏効したリンパ節転移肝細胞癌. 日本肝癌研究会 (第 49 回) (東京), 2013. 7.
- 53) 松下洋子, 榎原義之, 金沢秀典, 橋本知実, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健, 張本滉智, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 藤森俊二, 坂本長逸: 門脈圧亢進症例における小腸粘膜所見の TIPS による変化. 日本肝臓学会総会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.

(9) Poster :

- 1) Tatsuguchi A, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S, Fujimori S, Gudis K, Sakamoto C: Distinct Subcellular Localization of Phosphorylated ERBB2, ErbB3 and ErbB4 in Colorectal Cancer Cells and Their Relevance to Clinical Significance. DDW2013 (Orlando, USA), 2013. 5.

(10) Poster Session :

- 1) Kawamoto C, Manaka K, Kaneko K, Miyamoto A, Yamauchi A: Outflow of Hepatocytes Into the Hepatic Vein During Radiofrequency Ablation in Porcine Liver. DDW2013 (Orlando, USA), 2013. 5.
- 2) Kaneko K, Yamauchi A, Kawamoto C: Transection of Self-Expanding Metallic Stents by Using Argon Plasma Coagulation in Porcine Bile Ducts. DDW2013 (Orlando, USA), 2013. 5.

(11) オーラルセッション :

- 1) 丸木雄太, 河越哲郎, 名見耶浩幸, 小杉友紀, 植木信江, 辰口篤志, 二神生爾, 藤森俊二, 小泉岐博¹⁾, 坂本長

逸¹⁾ (日本医科大学第一外科学) : 再発例を除く進行切除不能大腸がんにおける治療成績. 日本消化管学会総会学術集会 (第10回) (福島県福島市), 2014. 2.

(12) オーラルセッション :

- 1) 秋元直彦^{1,2)}, 三富弘之¹⁾, 岡本陽祐^{1,3)}, 小林俊介^{1,3)}, 岡本健太郎^{1,4)}, 市川一仁¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 内藤善哉²⁾, 坂本長逸, 藤盛孝博¹⁾ (1) 獨協医科大学病理学, (2) 日本医科大学統御機構病理学, (3) 東邦大学医療センター大森病院消化器内科, (4) 獨協医科大学第一外科) : Micropapillary pattern at the invasive front and its association with unresectable colorectal carcinomas. 日本消化管学会総会学術集会 (第10回) (福島県福島市), 2014. 2.

(13) 教育セミナー :

- 1) 岩切勝彦¹⁾ : 食道内圧検査の変遷 スリーブ法からの High Resolution Manometry (HRM) へ「消化管運動機能異常の病態への実践的アプローチ : すぐに役立つ手技とコツ」. 日本平滑筋学会総会 (第55回) (旭川市), 2013. 8.

(14) 認定医教育講演会 :

- 1) 二神生爾 : *Helicobacter pylori* 感染症の基礎. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第19回) (長崎), 2013. 6.

(15) 要望演題 :

- 1) 新井泰央, 榎原義之, 金沢秀典, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 張本滉智, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸 : 低 Na 血症合併肝硬変例に対するトルバプタンの使用経験. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第20回) (名古屋), 2013. 9.
- 2) 橋本知実, 榎原義之, 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 糸川典夫, 近藤千紗, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸 : 有腹水肝硬変の全身および肝, 腎血行動態へ及ぼすノルアドレナリンの影響. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第20回) (名古屋), 2013. 9.
- 3) 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典, 橋本知実, 糸川典夫, 枡 卓史, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸 : 難治性腹水に対する TIPS の治療成績 2013. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第20回) (名古屋), 2013. 9.

論 文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 藤森俊二, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸, その他1名 : NSAIDsによる下部消化管障害の現状と対策 (除低用量アスピリン). 成人病と生活習慣病 2013 ; 43 (3) : 343-347.
- 2) 藤森俊二, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日祐介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, その他1名 : NSAIDsによる下部消化管障害の現状と対策. 成人病と生活習慣病 2013 ; 43 (3) : 343-347.
- 3) 高橋陽子, 藤森俊二, 榎原義之, 坂本長逸 : カプセル内視鏡による小腸浮腫所見から肝静脈圧較差を推定する試み. 消化器内科 2013 ; 56 (3) : 256-261.

追加分原著 :

- 1) Miyake K, Kusunoki M, Ueki N, Nagoya H, Kodaka Y, Shindo T, Kawagoe T, Gudis K, Futagami S, Tsukui T, Nakamura H, Sakamoto C : Implication of antithrombotic agents on potential bleeding from endoscopically determined peptic ulcers, incidentally detected as surrogate markers for nsaid-associated ulcers complication. Digestive Endoscopy 2013 ; 25 (1) : 25-31.
- 2) Atsukawa M, Tsubota A, Kondo C, Itokawa N, Narahara Y, Nakatsuka K, Hashimoto S, Fukuda T, Matsushita Y, Kidokoro H, Kobayashi T, Kanazawa H, Sakamoto C : Combination of fluvastatin with pe-

glylated interferon/ribavirin therapy reduces viral relapse in chronic hepatitis C infected with HCV genotype 1b. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2013 ; 28 (1) : 51-56.

- 3) Sakamoto C, Kawai T, Nakamura S, Sugioka T, Tabira J : Comparison of gastroduodenal ulcer incidence in healthy Japanese subjects taking celecoxib or loxoprofen evaluated by endoscopy : A placebo-controlled, double-blind 2-week study. *Alimentary Pharmacology and Therapeutics* 2013 ; 37 (3) : 346-354.
- 4) Itokawa N, Atsukawa M, Tsubota A, Kondo C, Hashimoto S, Fukuda T, Matsushita Y, Kidokoro H, Kobayashi T, Narahara Y, Nakatsuka K, Kanazawa H, Iwakiri K, Sakamoto C : Lead-in treatment with interferon- β /ribavirin may modify the early hepatitis C virus dynamics in pegylated interferon alpha-2b/ribavirin combination for chronic hepatitis C patients with the IL28B minor genotype. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2013 ; 28 (3) : 443-449.
- 5) Song J, Futagami S, Nagoya H, Kawagoe T, Yamawaki H, Kodaka Y, Tatsuguchi A, Gudis K, Wakabayashi T, Yonezawa M, Shimpuku M, Watarai Y, Iwakiri K, Hoshihara Y, Makino H, et al. : Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) is overexpressed via the activation of NF-kB-p65 in MCP-1-positive esophageal squamous cell carcinoma tissue. *J Clin Biochem Nutr* 2013 ; 52 (2) : 112-119.

学会発表

追加分シンポジウム :

- 1) 岩切勝彦, 川見典之, 坂本長逸 : プライマリーケアにおける機能的食道・胃疾患. PPI 抵抗性 NERD の原因. JDDW2011 (福岡県), 2011. 10.

追加分一般講演 :

- 1) 金沢秀典, 榎原義之, 坂本長逸 : 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) の治療成績. 先進医療フォーラム (第4回) (東京), 2013. 1.

[千葉北総病院消化器内科]

研究概要

上部消化管領域では, 食道癌・胃癌の化学療法, 早期胃癌・胃腺腫の内視鏡的治療, 難治性の胃食道逆流症患者に対する病態検査および病態に基づいた治療を行っている. また新規導入した食道内圧検査により, 原因不明な嚥下困難症例の診断・治療も開始している. 消化管領域では, 早期大腸癌・大腸腺腫の内視鏡的治療を行っており, 原因不明の消化管出血患者に対するカプセル内視鏡検査も施行している. 肝・胆・膵領域では, 肝臓癌に対するラジオ波焼灼療法, C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法, 総胆管結石に対する内視鏡的治療などを積極的に行っている.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Iwakiri R¹⁾, Tominaga K^{1,2)}, Furuta K^{1,3)}, Inamori M⁴⁾, Furuta T⁵⁾, Masuyama H⁶⁾, Kanke K⁷⁾, Nagahara A⁸⁾, Haruma K⁹⁾, Kinoshita Y¹⁰⁾, Iwakiri K, et al. ¹⁾ Department of Internal Medicine & Gastrointestinal Endoscopy, Saga Medical School, Saga, ²⁾ Department of Gastroenterology, Osaka City University Graduate School of Medicine, Osaka, ³⁾ Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine, Shimane, ⁴⁾ Gastroenterology Division, Yokohama City University Hospital, Kanagawa, ⁵⁾ Center for Clinical Research, Hamamatsu University School of Medicine, Shizuoka, ⁶⁾ Masuyama Gastrointestinal Clinic, Tochigi, ⁷⁾ Department of Gastroenterology, Dokkyo Medical University, Tochigi, ⁸⁾ Department

of Gastroenterology, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, ⁹⁾ Department of Gastroenterology, Kawasaki Medical School, Kanagawa, ¹⁰⁾ Second Department of Internal Medicine, Osaka Medical College, Osaka) : Randomised clinical trial : rabeprazole improves symptoms in patients with functional dyspepsia in Japan. *Alimentary Pharmacology and Therapeutics* 2013 ; 38 (7) : 729-740.

- 2) Matsushita Y¹⁾, Narahara Y¹⁾, Fujimori S¹⁾, Kanazawa H¹⁾, Itokawa N²⁾, Fukuda T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Kondo C²⁾, Kidokoro H¹⁾, Atsukawa M²⁾, Nakatsuka K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Effects of transjugular intrahepatic portosystemic shunt on changes in the small bowel mucosa of cirrhotic patients with portal hypertension. *Journal of Gastroenterology* 2013 ; 48 (5) : 633-639.
- 3) Atsukawa M, Tsubota A, Shimada N, Kondo C, Itokawa N, Nakagawa A, Hashimoto S, Fukuda T, Matsushita Y, Narahara Y, Iwakiri K, Nakatsuka K, Kawamoto C, Sakamoto C (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, ³⁾ Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Chiba, ⁴⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Serum 25-hydroxyvitamin D₃ levels affect treatment outcome in pegylated-interferon/ribavirin combination therapy for compensated cirrhotic patients with hepatitis C virus genotype 1b and high viral load. *Hepatology Research* 2014.
- 4) Shimada N¹⁾, Tsubota A²⁾, Atsukawa M^{3, 4)}, Abe H⁵⁾, Ika M¹⁾, Kato K¹⁾, Sato Y¹⁾, Kondo C³⁾, Sakamoto C⁴⁾, Tanaka Y⁶⁾, Aizawa Y⁵⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Chiba, ²⁾ Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, Chiba, ³⁾ Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, ⁴⁾ Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School, Tokyo, ⁵⁾ Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology and Hepatology, Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, Katsushik, ⁶⁾ Department of Virology and Liver unit, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, Mizuho, Nagoya) : α -Fetoprotein is a surrogate marker for predicting treatment failure in Telaprevir-based triple combination therapy for genotype 1b chronic hepatitis C Japanese patients with the IL28B minor genotype. *Journal of Medical Virology* 2014 ; 86 (3) : 461-472.
- 5) Fukuda T¹⁾, Narahara Y¹⁾, Kanazawa H¹⁾, Matsushita Y¹⁾, Kidokoro H¹⁾, Itokawa N²⁾, Kondo C²⁾, Atsukawa M²⁾, Nakatsuka K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Effects of fasudil on the portal and systemic hemodynamics of patients with cirrhosis. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2014 ; 29 (2) : 325-329.
- 6) 鈴木将大, 三井啓吾¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 春日裕介¹⁾, 玉木祐希江¹⁾, 松浦陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器内科学) : ダブルバルーン内視鏡による小腸癌の診断. *消化器内科* 2013 ; 57 (6) : 671-674.

(2) 総説 :

- 1) 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 竹之内菜菜¹⁾, 星野慎太郎, 梅澤まり子¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器内科学) : GERD と睡眠障害—夜間の酸逆流および食道内酸排出のメカニズム—. *日本消化器病学会雑誌* 2013 ; 110 (6) : 971-978.
- 2) Atsukawa M¹⁾, Tsubota A²⁾, Shimada N³⁾, Kondo C¹⁾, Itokawa N¹⁾, Nakagawa A¹⁾, Hashimoto S⁴⁾, Fu-

- kuda T⁴), Matsushita Y⁴), Kidokoro H⁴), Narahara Y⁴), Nakatsuka K⁴), Iwakiri K¹), Kawamoto C⁴), Sakamoto C⁴) (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, (3) Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Chiba, (4) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Efficacy of Alfacalcidol on PEG-IFN/ Ribavirin Combination Therapy for Elderly Patients With Chronic Hepatitis C : A Pilot Study. *Hepatitis Monthly* 2013 ; e14872.
- 3) Tsubota A^{1, 2}), Shimada N³), Atsukawa M⁴), Abe H⁵), Kato K³), Ika M³), Matsudaira H²), Nagatsuma K^{2, 6}), Matsuura T^{6, 7}), Aizawa Y⁵) (1) Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, Chiba, (2) Division of Gastroenterology and Hepatology, Kashiwa Hospital, Jikei University School of Medicine, Kashiwa, Chiba, (3) Department of Gastroenterology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Chiba, (4) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Chiba, (5) Division of Gastroenterology and Hepatology, Aoto Hospital, Jikei University School of Medicine, Katsushika-ku, Tokyo, (6) Division of Gastroenterology and Hepatology, Jikei University School of Medicine, Minato-ku, Tokyo, (7) Department of Laboratory Medicine, Jikei University School of Medicine, Minato-ku, Tokyo) : Impact of IL28B polymorphisms on 24-week telaprevir-based combination therapy for Asian chronic hepatitis C patients with hepatitis C virus genotype 1b. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2014 ; 29 (1) : 144-150.
- 4) 岩切勝彦^{1, 2}), 川見典之²), 星野慎太郎^{1, 2}), 竹之内菜菜²), 佐野弘仁²), 田中由理子²), 坂本長逸²) (1) 千葉北総病院消化器内科, (2) 付属病院消化器内科学) : 非びらん性胃食道逆流症 (NERD) の病態と有効な治療. *Current Therapy* 2013 ; 31 (12) : 1223-1226.
- 5) 岩切勝彦^{1, 2}), 田中由理子²), 川見典之²), 佐野弘仁²), 竹之内菜菜²), 星野慎太郎^{1, 2}), 梅澤まり子²), 坂本長逸²) (1) 千葉北総病院消化器内科, (2) 付属病院消化器内科学) : 食道アカシアの診断と治療. *Modern Physician* 2013 ; 33 (7) : 868-871.
- 6) 岩切勝彦^{1, 2}), 川見典之²), 佐野弘仁²), 星野慎太郎^{1, 2}), 竹之内菜菜²), 田中由理子²), 坂本長逸²) (1) 千葉北総病院消化器内科, (2) 付属病院消化器内科学) : 食道痙攣症. *Journal of Gastrointestinal Research* 2013 ; 21 (5) : 354-362.
- 7) 岩切勝彦^{1, 2}), 川見典之²), 坂本長逸²) (1) 千葉北総病院消化器内科, (2) 付属病院消化器内科学) : 難治性 GERD の実地治療. *Medical Practice* 2013 ; 30 (7) : 1234-1237.
- 8) 岩切勝彦^{1, 2}), 川見典之²), 星野慎太郎^{1, 2}), 竹之内菜菜²), 佐野弘仁²), 田中由理子²), 星原芳雄²), 坂本長逸²) (1) 千葉北総病院消化器内科, (2) 付属病院消化器内科学) : 食道 pH・多チャンネルインピーダンス検査. *Frontiers in Gastroenterology* 2014 ; 19 (1) : 45-50.
- (3) 症例報告 :
- 1) 厚川正則, 近藤千紗, 岩切勝彦, 坂本長逸¹) (1) 付属病院消化器内科学) : 胆石症経過観察中に指摘された若年の膝腫瘍の症例. *日本消化器病学会雑誌* 2013 ; 110 (9) : 1673-4-1677-8.
- 2) Nomura T¹), Iwakiri K²), Matsutani T¹), Hagiwara N¹), Makino H³), Maruyama H³), Fujita I¹), Nakamura Y¹), Kawami N²), Miyashita M¹), Uchida E¹) (1) Division of Digestive Surgery, Department of Medicine, Nippon Medical School, (2) Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, (3) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, Tokyo) : Laparoscopic anti-reflux surgery to treat proton pump inhibitor-resistant non-erosive reflux disease. *Esophagus* 2013 ; 10 (3) : 157-160.

著 書

- 1) 岩切勝彦：〔分担〕2章 消化器臓器の構造と機能 3 消化器機能検査 1 食道内圧測定. 消化器病学 基礎と臨床 (編集：浅香正博 菅野健太郎 千葉勉), 2013；pp102-105, 西村書店.
- 2) 岩切勝彦：〔分担〕I. 食道 (各論) / 運動・機能異常 アカラシア. 専門医のための消化器病学 (監修：小俣政男・千葉勉 編集：下瀬川徹・渡辺守・木下芳一・金子周一・檜田博史), 2013；pp26-30, 医学書院.
- 3) 岩切勝彦：〔分担〕第3章高齢者に多い疾患・4 消化器疾患・1 胃食道逆流症. すぐに使える高齢者総合診療ノート (編集：大庭健三), 2014；pp279-284, 日本医事新報社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 竹之内菜菜¹⁾, 星野慎太郎, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学)：PPI 倍量抵抗性 NERD の病態. 日本臨床生理学会 (第 50 回) (東京), 2013. 11.
- 2) 二生生爾¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 山脇博士¹⁾, 小高康裕¹⁾, 楠 正典, 名見耶浩幸¹⁾, 丸木雄太¹⁾, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学)：質問表を用いた FD 患者における睡眠障害の実態調査および胃排出能との相関関係の解析. 日本臨床生理学会 (第 50 回) (東京), 2013. 11.
- 3) 新福摩弓¹⁾, 二生生爾¹⁾, 山脇博士¹⁾, 小高康裕¹⁾, 名見耶浩幸¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学)：FD 患者における GN β -3 および Ghrelin の遺伝子多型と胃排出能との相関関係の解析. 日本臨床生理学会 (第 50 回) (東京), 2013. 11.

(2) セミナー：

- 1) 岩切勝彦：睡眠障害と GERD；夜間逆流の観点から. 日本消化器内視鏡学会 (第 86 回) (東京), 2013. 10.
- 2) 岩切勝彦¹⁾, 折館伸彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, ²⁾ 横浜市立大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：PPI 治療はどこまで有効か・GERD (胃食道逆流症)・喉頭肉芽腫. 日本気管食道科学会 (第 65 回) (東京), 2013. 10.

(3) 一般講演：

- 1) Sano H¹⁾, Iwakiri K^{1,2)}, Kawami N¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital)：In patients with NERD, it is easy for acid reflux to extend to the proximal esophagus, compared with healthy subjects and patients with mild reflux esophagitis. Digestive Disease Week 2013 (Orland FL, USA), 2013. 5.
- 2) Iwakiri K^{1,2)}, Kawami N²⁾, Sano H²⁾, Tanaka Y²⁾, Sakamoto C²⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo)：Pathogenesis of patients with double-dose PPI-resistant NERD. Digestive Disease Week 2013 (Orland FL, USA), 2013. 5.
- 3) Kawami N¹⁾, Iwakiri K^{1,2)}, Sano H¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital)：Primary peristalsis and esophagogastric junction (EGJ) pressure, following a transient lower esophageal sphincter relaxation (TLESR), are accompanied by a forceful contraction. Digestive Disease Week 2013 (Orland FL, USA), 2013. 5.
- 4) Kawami N¹⁾, Iwakiri K^{1,2)}, Sano H¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Umezawa M¹⁾, Hoshihara Y^{1,3)}, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Min-

istry of Economy, Trade and Industry, Tokyo) : The effect on esophageal motility of both acid reflux and aging. Digestive Disease Week 2013 (Orland FL, USA), 2013. 5.

- 5) Chiba T¹⁾, Sakurai Y²⁾, Nishimura A²⁾, Hiramatsu N³⁾, Umegaki E⁴⁾, Iwakiri K⁵⁾, Ashida K⁶⁾ (1) Kyoto University, Kyoto, 2) Takeda Pharmaceutical Company, Ltd., Osaka, 3) Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, 4) Osaka Medical College, Takatsuki, 5) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 6) Osaka Saiseikai Nakatsu Hospital, Osaka) : A Phase 2, Randomized, Double-Blind, Parallel-Group, Multicenter, Dose-Ranging Study to Evaluate the Efficacy and Safety of a Novel Potassium-Competitive Acid Blocker (P-CAB) TAK-438 in Patients with Erosive Esophagitis. Digestive Disease Week 2013 (Orland FL, USA), 2013. 5.
- 6) Tanaka Y¹⁾, Iwakiri K^{1, 2)}, Kawami N¹⁾, Sano H¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, 2) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Patients over the age of 40, diagnosed with Type 1 achalasia by Chicago classification, show the best indication for pneumatic dilation. Digestive Disease Week 2013 (Orland FL, USA), 2013. 5.
- 7) 古田賢司¹⁾, 木幡幸恵²⁾, 藤原靖弘²⁾, 杉本光繁³⁾, 古田隆久⁴⁾, 岩切龍一⁵⁾, 稲森正彦⁶⁾, 河村 修⁷⁾, 草野元康⁷⁾, 加藤元嗣⁸⁾, 岩切勝彦⁹⁾, 竹内利寿¹⁰⁾, 樋口和秀¹⁰⁾, その他5名 (1) 島根大・2内科, 2) 大阪市立大・消化器内科, 3) 浜松医大・臨床研究管理センター, 4) 浜松医大・1内科, 5) 佐賀大・消化器内科, 6) 横浜市立大・消化器内科, 7) 群馬大・光学医療診療部, 8) 北海道大病院・光学医療診療部, 9) 日本医大千葉北総病院・消化器内科, 10) 大阪医大・2内科) : *Helicobacter pylori* (Hp) 陰性健康成人における Proton Pump inhibitor (PPI) 間の夜間酸分泌抑制力の比較検討 : Izumo night pH study. 日本消化器病学会 (第55回) (東京), 2013. 10.
- 8) 島田紀朋¹⁾, 厚川正則²⁾, 相澤良夫³⁾ (1) 新松戸中央総合病院・消化器・肝臓科, 2) 日本医科大学千葉北総病院・消化器内科, 3) 東京慈恵会医大葛飾医療センター・消化器・肝臓内科) : TVR3 剤併用療法の治療効果規定因子. 日本消化器病学会 (第55回) (東京), 2013. 10.
- 9) 蘆田 潔¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 梅垣英次³⁾, 平松直樹⁴⁾, 千葉 勉⁵⁾ (1) 済生会中津病院・消化器内科, 2) 日本医大・消化器内科, 3) 大阪医大・2内科, 4) 大阪大・消化器内科, 5) 京都大大学院・消化器内科学) : TAK-438 の逆流性食道炎患者を対象とした用量設定試験. 日本消化器病学会 (第55回) (東京), 2013. 10.
- 10) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 竹之内菜菜¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 星野慎太郎²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医大・消化器内科, 2) 日本医大千葉北総病院・消化器内科) : バルーン拡張術の成績からみた食道アカラシア新取扱い規約 X 線像変更の意義. 日本消化器病学会 (第55回) (東京), 2013. 10.
- 11) 星野慎太郎¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之²⁾, 佐野弘仁²⁾, 田中由理子²⁾, 梅澤まり子²⁾, 竹之内菜菜²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 日本医大千葉北総病院・消化器内科, 2) 日本医大・消化器内科) : 当科で経験した Jackhammer esophagus の臨床経過. 日本消化器病学会 (第55回) (東京), 2013. 10.
- 12) 竹之内菜菜¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 星野慎太郎²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医大・消化器内科, 2) 日本医大千葉北総病院・消化器内科) : EGJ outflow obstruction の臨床像と経過. 日本消化器病学会 (第55回) (東京), 2013. 10.
- 13) 星野慎太郎, 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 竹之内菜菜¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 野村 務²⁾, 宮下正夫³⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院消化器内科学, 2) 付属病院消化器外科学, 3) 千葉北総病院消化器外科) : Jackhammer esophagus の臨床像と経過. 日本食道学会 (第67回) (大阪), 2013. 6.
- 14) 島田紀朋¹⁾, 厚川正則²⁾, 相澤良夫³⁾ (1) 新松戸中央総合病院消化器・肝臓科, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓内科) : TVR3 剤併用療法の治療成績 : 更なる SVR 率の向上を目指して. 日本肝臓学会 (第49回) (東京), 2013. 6.
- 15) 安部 宏¹⁾, 島田紀朋²⁾, 厚川正則³⁾, 坪田昭人⁴⁾, 關 伸嘉¹⁾, 会田雄太¹⁾, 石黒晴哉¹⁾, 井家麻紀子²⁾, 加藤慶

- 三²⁾、相澤良夫¹⁾ (1) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 3) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 4) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター・臨床医学研究所) : IL28B ゲノタイプおよび HCV G1b コア 70 番アミノ酸置換から見たテラプレビル, リバビリン, ペグインターフェロン 3 剤併用療法の治療効果の検討. 日本肝臓学会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
- 16) 島田紀朋¹⁾, 厚川正則²⁾, 坪田昭人³⁾, 安部 宏⁴⁾, 加藤慶三¹⁾, 井家麻紀子¹⁾, 佐藤祥之¹⁾, 立花浩幸¹⁾, 米澤健¹⁾, 戸田剛太郎¹⁾, 相澤良夫⁴⁾ (1) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 3) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所, 4) 東京慈恵会医科大学青戸病院消化器肝臓内科) : TVR3 剤併用療法のウイルス陰性化時期別の治療成績の検討. 日本肝臓学会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
- 17) 中川 愛¹⁾, 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 坪田昭人³⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 福田 健⁴⁾, 松下洋子⁴⁾, 榎原義之⁴⁾, 長田祐二⁵⁾, 中塚雄久⁴⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 3) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 4) 日本医科大学付属病院消化器内科, 5) 博慈会記念総合病院消化器内科) : C 型慢性肝炎に対する 3 剤併用療法の治療効果に寄与する因子～スタチン併用も含め～. 日本肝臓学会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
- 18) 近藤千紗¹⁾, 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 坪田昭人³⁾, 糸川典夫¹⁾, 中川 愛¹⁾, 橋本知実⁴⁾, 福田 健⁴⁾, 松下洋子⁴⁾, 城所秀子⁴⁾, 榎原義之⁴⁾, 中塚雄久⁴⁾, 金沢秀典⁴⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 3) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 4) 日本医科大学付属病院消化器内科) : 血小板数低値の C 型慢性肝炎に対する PSE 先行 3 剤併用療法について. 日本肝臓学会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
- 19) 松下洋子¹⁾, 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 橋本知実¹⁾, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健¹⁾, 張本滉智¹⁾, 城所秀子¹⁾, 厚川正則, 中塚雄久¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院消化器内科) : 門脈圧亢進症例における小腸粘膜所見の TIPS による変化. 日本肝臓学会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
- 20) 福田 健¹⁾, 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 糸川典夫, 近藤千紗, 張本滉智¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 厚川正則, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院消化器内科) : 肝硬変患者における塩酸ファスジルの門脈および全身血行動態に及ぼす影響. 日本肝臓学会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
- 21) 神田達郎¹⁾, 厚川正則²⁾, 島田紀朋³⁾, 篠崎正美⁴⁾, 三上 繁⁵⁾, 星野容子⁶⁾, 加藤慶三³⁾, 中本晋吾¹⁾, 千葉哲博¹⁾, 新井誠人¹⁾, 今関文夫^{1,7)}, 坪田昭人⁸⁾, 横須賀收¹⁾ (1) 千葉大学大学院医学研究院消化器腎臓内科学, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 3) 新松戸中央総合病院, 4) 沼津市立病院, 5) キッコーマン総合病院, 6) 谷津保健病院, 7) 千葉大学総合安全衛生管理機構, 8) 東京慈恵会医科大学柏病院) : B 型慢性肝炎に対する Peginterferon alfa-2a 単独および Sequential Therapy 施行時の HBs 抗原量の推移に関する検討 : 多施設共同研究. 日本肝臓学会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
- 22) 大森 順¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 春日裕介¹⁾, 玉木祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周, 辰口篤志¹⁾, その他 2 名 (1) 付属病院内科学 (消化器内科学) : 小腸悪性リンパ腫診断におけるバルーン内視鏡の有用性. 日本消化器内視鏡学会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- 23) 秋元直彦¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 春日裕介¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学) : 急速な発育を認めた上行結腸癌の 1 例. 日本消化器内視鏡学会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- 24) 新井泰央¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 春日裕介¹⁾, 玉木祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周, 辰口篤志¹⁾, その他 2 名 (1) 付属病院内科学 (消化器内科学) : バルーン内視鏡で診断した小腸 GIST の特徴. 日本消化器内視鏡学会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.

- 25) 佐藤 航¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 春日裕介¹⁾, 玉木祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周, 辰口篤志¹⁾, その他2名 (1) 付属病院内科学 (消化器内科学): 術後再建腸管症例におけるバルーン内視鏡による ERCP 関連手技の検討. 日本消化器内視鏡学会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- 26) 高橋陽子¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 春日裕介¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林剛¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学): 多発性小腸狭窄による腸閉塞で発症し診断のために小腸内視鏡検査を施行した原発性小腸癌の2症例. 日本消化器内視鏡学会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- 27) Itokawa N¹⁾, Atsukawa M¹⁾, Shimada N²⁾, Nakagawa A¹⁾, Kondo C¹⁾, Matsushita Y³⁾, Fukuda T³⁾, Narahara Y³⁾, Nakatsuka K³⁾, Iwakiri K³⁾, Sakamoto C^{1) 3)} (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Chiba, ³⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Fluvastatin does not exhibit antiviral effect on PEG-IFN/Ribavirin/Telaprevir therapy for genotype 1b chronic hepatitis C. AMERICAN ASSOCIATION FOR THE STUDY OF LIVER DISEASES (WASHINGTON), 2013. 11.
- 28) 島田紀朋¹⁾, 厚川正則²⁾, 相澤良夫³⁾ (1) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, ³⁾ 東京慈恵会医大葛飾医療センター): TVR3 剤併用療法の治療効果規定因子. 日本肝臓学会 (第 17 回) (東京), 2013. 10.
- 29) 中川 愛¹⁾, 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 坪田昭人³⁾, 糸川典夫¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 福田 健⁴⁾, 松下洋子⁴⁾, 榎原義之⁴⁾, 中塚雄久⁴⁾, 長田祐二⁵⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, ²⁾ 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, ³⁾ 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学), ⁵⁾ 博慈会記念総合病院): C 型慢性肝炎に対する Telaprevir を含む 3 剤併用療法における治療成績. 日本肝臓学会 (第 17 回) (東京), 2013. 10.
- 30) 糸川典夫, 厚川正則, 近藤千紗, 中川 愛, 安良岡高志¹⁾, 橋本知美¹⁾, 福田 健¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 岩切勝彦, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院消化器内科学): B 型慢性肝炎に対する PEG-IFN 治療における sequential 治療の検討. 日本肝臓学会 (第 17 回) (東京), 2013. 10.
- 31) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 中川 愛¹⁾, 安良岡高志²⁾, 橋本知美²⁾, 福田 健²⁾, 松下洋子²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, ²⁾ 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学)): 進行肝細胞癌に対する Sorafenib, PEG-IFN 併用療法の検討. 日本肝臓学会 (第 17 回) (東京), 2013. 10.
- 32) 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 坪田昭人³⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 中川 愛¹⁾, 福田 健⁴⁾, 榎原義之⁴⁾, 安部 宏⁵⁾, 相澤良夫⁵⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, ²⁾ 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, ³⁾ 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学), ⁵⁾ 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器肝臓内科): 脾腫を伴う血小板低値の C 型慢性肝炎に対する PSE 先行 3 剤併用療法の検討. 日本肝臓学会 (第 17 回) (東京), 2013. 10.
- 33) 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 山田章善¹⁾, 山脇博士¹⁾, 小高康裕¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 名兎耶浩幸¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院消化器内科学): 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) 時の弾性ストッキング (IPC) による深部静脈血栓症 (DVT) の予防効果. 日本消化器関連学会週間 (第 21 回) (東京), 2013. 10.
- 34) 大森 順¹⁾, 川見典之¹⁾, 岩切勝彦^{1) 2)}, 竹之内菜菜¹⁾, 星野慎太郎^{1) 2)}, 梅澤まり子¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院消化器内科学): 食道好酸球浸潤による特異な内視鏡像を呈した好酸球性胃腸炎の 1 例. 日本消化器病学会関東支部 (第 328 回) (東京), 2014. 2.

(4) 教育セミナー：

- 1) 岩切勝彦：食道内圧検査の変遷 スリーブ法からの High Resolution Manometry (HRM) へ「消化管運動機能異常の病態への実践的アプローチ：すぐに役立つ手技とコツ」. 日本平滑筋学会 (第 55 回) (旭川市), 2013. 8.

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Song J^{1,3)}, Futagami S¹⁾, Nagoya H¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Yamawaki H¹⁾, Kodaka Y¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Gudis K¹⁾, Wakabayashi T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Shimpuku M¹⁾, Watarai Y⁴⁾, Iwakiri K¹⁾, Hoshihara Y⁵⁾, Makino H²⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, 3) Department of Gastroenterology, Shengjing Hospital, China Medical University, 4) Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, 5) Clinic of the Ministry of Economy, Trade and Industry, 6) Division of Gastroenterology, Department of Medicine, University of California) : Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) is overexpressed via the activation of NF- κ B-p65 in MCP-1-positive esophageal squamous cell carcinoma tissue. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition* 2013 ; 52 (2) : 112-119.
- 2) Taki Y¹⁾, Kanazawa H¹⁾, Narahara Y¹⁾, Itokawa N²⁾, Kondo C²⁾, Fukuda T¹⁾, Harimoto H¹⁾, Matsushita Y¹⁾, Kidokoro H¹⁾, Katakura T¹⁾, Atsukawa M²⁾, Kimura Y¹⁾, Nakatsuka K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, 2) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Predictive factors for improvement of ascites after transjugular intrahepatic portosystemic shunt in patients with refractory ascites. *Hepatology Research* 2014 ; 44 (8) : 871-877.
- 3) Takubo K^{1,2)}, Vieth M⁷⁾, Aida J^{1,2)}, Matsutani T³⁾, Hagiwara N³⁾, Iwakiri K⁴⁾, Kumagai Y⁵⁾, Hongo M⁶⁾, Hoshihara Y¹⁾, Arai T^{1,2)} (1) Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, 3) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, 4) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, 5) Department of Digestive Tract and General Surgery, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, Saitama, 6) Kurokawa General Hospital, Kurokawa, 7) Institute of Pathology, Klinikum Bayreuth, Bayreuth, Germany) : Histopathological diagnosis of adenocarcinoma in Barrett's esophagus. *Digestive Endoscopy* 2014 ; 26 (3) : 322-330.

6. 内科学（内分泌代謝内科学）

[付属病院糖尿病・内分泌代謝内科]

研究概要

基礎研究：本年度も選抜交配により樹立した高脂肪食投与後の耐糖能が異なる2系統のマウス（SDG-P/R系）の解析を進め、グルコース応答性インスリン分泌能が生体およびランゲルハンス島レベルで遺伝的に異なること、動脈硬化惹起食投与後の動脈硬化巣面積に差がみられることを国際学術誌に発表した。また手術摘出検体を用いて、インスリン産生腫瘍におけるGHRP2によるインスリン分泌刺激機構の解析、アルドステロン産生腫瘍におけるPTHを介したアルドステロン分泌刺激機構の解析を行っている。さらに、新規SGLT2阻害薬の食餌誘導性耐糖能異常の発症予防効果やメトホルミンの抗動脈硬化作用の検証、グルコース連続投与による間欠的血糖上昇を介した動脈硬化モデル動物の開発がマウスを用いて行われている。臨床研究：2型糖尿病患者においてグリコアルブミン値が頸動脈プラーク出現のサロゲートマーカーとなること、 α グルコシダーゼ阻害薬であるミグリトールが抗肥満作用を有することを国際学術誌に発表した。昨年に引き続き、GHRP2 荷重試験のインスリノーマ診断への応用、原発性アルドステロン症の診断における各種荷重試験の有用性の検証、インスリン導入時の開始単位数設定式の開発、周術期のインスリン抵抗性出現機序、各種内分泌疾患における治療前後での血管機能評価、急性冠症候群における家族性高コレステロール血症の合併頻度調査、DPP4 阻害薬の脂質代謝および高齢者糖尿病治療への有用性、血清PCOOHと冠動脈硬化の関係、心臓周囲脂肪組織面積と代謝パラメータの解析といったテーマの臨床研究が進行中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nagao M, Asai A, Inaba W¹⁾, Kawahara M, Shuto Y, Kobayashi S, Sanoyama D, Sugihara H, Yagihashi S¹⁾, Oikawa S⁽¹⁾ Department of Pathology and Molecular Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine) : Characterization of pancreatic islets in two selectively bred mouse lines with different susceptibilities to high-fat diet-induced glucose intolerance. PLoS ONE 2014 ; 9 (1) : e84725.
- 2) Sato Y, Nagao M, Asai A, Nakajima Y, Takaya M, Takeichi N, Takemitsu S, Sudo M, Kano-Wakakuri T, Ishizaki A, Harada T, Tanimura-Inagaki K, Okajima F, Tamura H, Sugihara H, et al. : Association of glycosylated albumin with the presence of carotid plaque in patients with type 2 diabetes. J Diabetes Investig 2013 ; 4 (6) : 634-639.
- 3) Asai A, Nagao M, Kawahara M, Shuto Y, Sugihara H, Oikawa S : Effect of impaired glucose tolerance on atherosclerotic lesion formation : An evaluation in selectively bred mice with different susceptibilities to glucose intolerance. Atherosclerosis 2013 ; 231 (2) : 421-426.
- 4) Sugihara H, Nagao M, Harada T, Nakajima Y, Tanimura-Inagaki K, Okajima F, Tamura H, Inazawa T¹⁾, Otonari T²⁾, Kawakami M³⁾, Oikawa S⁽¹⁾ Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Medicine, Kashiwa City Hospital, ²⁾ Otonari Medical Clinic, ³⁾ Department of Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University) : Comparison of three α -glucosidase inhibitors for glycemic control and bodyweight reduction in Japanese patients with obese type 2 diabetes. J Diabetes Investig 2014 ; 5 (2) : 206-212.

(2) 総説：

- 1) 仲村優子, 長尾元嗣, 及川眞一：脂質異常症・動脈硬化症の治療 薬物治療の選択基準および使用上の留意点

- EPA 製剤 (脂質異常症 - 基礎・臨床研究の最新知見 -). 日本臨床 2013; 71 (増刊 3): 572-575.
- 2) 周東佑樹, 長尾元嗣, 及川真一: 診断法: 血液生化学検査 一般脂質から何を考えるか (最新の動脈硬化診療 - どう診断し, どう治療するか?). Medicina 2013; 50 (6): 972-976.
 - 3) 周東佑樹, 及川真一: 脂質代謝異常の診断と分類 (特集 脂質代謝とその異常). 内分泌・糖尿病・代謝内科 2013; 37 (3): 230-237.
 - 4) 稲垣恭子, 及川真一: 糖尿病における脂質異常の病態 (特集 糖尿病と脂質代謝異常の病態リンク). Diabetes Frontier 2013; 24 (4): 386-391.
 - 5) 稲垣恭子, 及川真一: n-3 多価不飽和脂肪酸投与による心血管イベント抑制のエビデンス: さまざまなランダムイズドトライアル, メタ解析をどうとらえるべきか (特集 脂肪酸の質と生活習慣病). 内分泌・糖尿病・代謝内科 2013; 36 (6): 515-523.
 - 6) 長峯朋子, 及川真一: 糖尿病性脂質異常症 (脂質異常症 UPDATE2013). 臨床栄養 2013; 122 (6): 729-734.
- (3) 研究報告書:
- 1) 長尾元嗣, 浅井 明, 杉原 仁, 及川真一: メタボリックシンドロームにおける疾患感受性規定因子の解明 新規モデルマウスを用いた解析. Therapeutic Research 2013; 34 (7): 931-935.
- (4) 座談会記録:
- 1) 代田浩之¹⁾, 及川真一, 江草玄士²⁾, 池脇克則³⁾ (1) 順天堂大学医学部 循環器内科, 2) 江草玄士クリニック, 3) 防衛医科大学校 内科学講座 神経・抗加齢血管内科): 動脈硬化診療を語る (最新の動脈硬化診療 - どう診断し, どう治療するか?). Medicina 2013; 50 (6): 940-949.

著 書

- 1) 高野綾子, 及川真一: [分担] 脂質異常症 (2章 糖尿病食事療法の理論と実践 E 栄養指導のコツと注意点: 病態や合併症の観点から). ヴィジュアル糖尿病臨床のすべて 糖尿病患者の食事と運動 考え方と進め方 (荒木栄一・山田祐一郎), 2014; pp140-147, 中山書店.

学会発表

- (1) 特別講演:
- 1) 及川真一: 糖・脂質代謝と臓器障害. 日本動脈硬化学会総会・学術集会 (第 45 回) (東京), 2013. 7.
 - 2) 及川真一: 糖と脂質の代謝関連. 日本油化学会年会 (第 52 回) (仙台), 2013. 9.
- (2) シンポジウム:
- 1) 長尾元嗣, 浅井 明, 杉原 仁, 及川真一: 高脂肪食による体重増加や耐糖能異常の発症を規定する遺伝的要因の解析: マウスを用いた長期選抜交配からの考察 (シンポジウム 7 肥満に関わる骨格筋・脂肪・代謝). 日本内分泌学会学術総会 (第 86 回) (仙台), 2013. 4.
 - 2) 長尾元嗣, 浅井 明, 杉原 仁, 鈴木信也¹⁾, 永島和幸¹⁾, 及川真一 (1) 心臓血管研究所附属病院循環器内科): 高血糖と動脈硬化: 実験動物からのアプローチ (シンポジウム 3 糖尿病大血管症の予防・治療を目指した新しい治療戦略). 日本糖尿病合併症学会 (第 28 回) (旭川), 2013. 9.
 - 3) 真山大輔, 長尾元嗣, 中島 泰, 仲村優子, 高谷磨紀代, 長峯朋子, 高野綾子, 竹光秀司, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川真一: 間接熱量測定計を用いた 2 型糖尿病患者における食事誘導性熱産生の測定とその意義 (シンポジウム メタボリックシンドロームと動脈硬化). 日本臨床生理学会総会 (第 60 回) (東京), 2013. 11.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 及川真一: LDL-C 低下療法の意義とその目標値 LDL-C<100mg/dl を考える. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.

(4) 一般講演：

- 1) 山口祐司, 長尾元嗣, 高野綾子, 長峯朋子, 武市奈緒美, 竹光秀司, 山本雅昭, 真山大輔, 若栗稔子, 原田太郎, 稲垣恭子, 及川眞一：有痛性女性化乳房を契機に 診断された Basedow 病の 1 例. 臨床内分泌代謝 update (第 23 回) (名古屋), 2014. 1.
- 2) 山本雅昭, 肥後武人, 小林俊介, 真山大輔, 山本友也, 篠田 恵, 武市奈緒美, 長尾元嗣, 原田太郎, 杉原 仁, 及川眞一：拳児希望の 1 型糖尿病に対し炭水化物制限食を試みた 1 例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 51 回) (横浜), 2014. 1.
- 3) 稲垣恭子, 仲村優子, 高野綾子, 長峯朋子, 周東佑樹, 小林俊介, 真山大輔, 武市奈緒美, 竹光秀司, 長尾元嗣, 原田太郎, 杉原 仁, 及川眞一：糖尿病患者における non-HDL-C 濃度と各種脂質パラメーターとの関係. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 4) 加藤俊治¹⁾, 仲村清隆¹⁾, 浅井 明, 及川眞一, 宮沢陽夫¹⁾ (1) 東北大学大学院農学研究科機能分子解析学分野)：質量分析を用いたヒト血中過酸化リン脂質の精密定量. 日本油化学会年会 (第 52 回) (仙台), 2013. 9.
- 5) 加藤俊治¹⁾, 仲村清隆¹⁾, 浅井 明, 及川眞一, 宮沢陽夫¹⁾ (1) 東北大学大学院農学研究科機能分子解析学分野)：LC-MS/MS によるヒト血中過酸化リン脂質 (PCOOH) の精密定量. 日本生化学会大会 (第 86 回) (横浜), 2013. 10.
- 6) 加藤俊治¹⁾, 仲村清隆¹⁾, 浅井 明, 及川眞一, 宮沢陽夫¹⁾ (1) 東北大学大学院農学研究科機能分子解析学分野)：血漿過酸化リン脂質の異性体解析による生体酸化ストレスの評価. 日本農芸化学会東北支部大会 (第 148 回) (盛岡), 2013. 10.
- 7) 原田太郎, 石崎 晃, 竹光秀司, 長尾元嗣, 佐藤友紀, 武市奈緒美, 高野綾子, 周東佑樹, 小林俊介, 杉原 仁, 及川眞一：原発性アルドステロン症に対してのエプレレノン投与による血管機能の改善は年齢により異なる. 日本動脈硬化学会総会・学術集会 (第 45 回) (東京), 2013. 7.
- 8) 原田太郎, 竹光秀司, 周東佑樹, 小林俊介, 高野綾子, 仲村優子, 長峯朋子, 高谷磨紀代, 武市奈緒美, 真山大輔, 長尾元嗣, 石崎 晃, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一：起立負荷時の心拍変動解析による糖尿病自律神経障害の評価. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 9) 原田太郎, 竹光秀司, 長尾元嗣, 武市奈緒美, 高野綾子, 長峯朋子, 仲村優子, 周東佑樹, 小林俊介, 杉原 仁, 及川眞一：原発性アルドステロン症に対してのエプレレノン投与による血管機能の改善は頸動脈プラークにより異なる. 日本内分泌学会学術総会 (第 86 回) (仙台), 2013. 4.
- 10) 山本友也, 真山大輔, 山口祐司, 篠田 恵, 肥後武人, 長峯朋子, 高野綾子, 仲村優子, 杉原 仁, 及川眞一：糖尿病の母系遺伝が明らかでなかったミトコンドリア糖尿病の 1 例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 51 回) (横浜), 2014. 1.
- 11) 篠田 恵, 真山大輔, 高野綾子, 仲村優子, 長峯朋子, 武市奈緒美, 杉原 仁, 江本直也, 及川眞一：高齢で診断され甲状腺髄様癌を疑われた MEN2A の 1 例. 日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 (第 14 回) (横浜), 2013. 10.
- 12) 仲村優子, 長尾元嗣, 山口祐司, 肥後武人, 高野綾子, 真山大輔, 高谷磨紀代, 杉原 仁, 及川眞一：インスリンへのヘパリン添加が奏功した subcutaneous insulin resistance の 1 例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 51 回) (横浜), 2014. 1.
- 13) 長峯朋子, 武市奈緒美, 周東佑樹, 高野綾子, 竹光秀司, 真山大輔, 山本雅昭, 長尾元嗣, 若栗稔子, 原田太郎, 稲垣恭子, 田村秀樹¹⁾, 杉原 仁, 及川眞一 (1) 医療法人社団 田村医院)：先端巨大症に Plummer 病を合併した 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 23 回) (名古屋), 2014. 1.
- 14) 長峯朋子, 武市奈緒美, 高野綾子, 長尾元嗣, 石崎 晃, 原田太郎, 田村秀樹, 杉原 仁, 及川眞一：両側副腎腫瘍におけるシンチグラムの有用性について. 日本内分泌学会学術総会 (第 86 回) (仙台), 2013. 4.
- 15) 武市奈緒美, 杉原 仁, 高野綾子, 長峯朋子, 佐藤友紀, 竹光秀司, 長尾元嗣, 石崎 晃, 原田太郎, 田村秀

- 樹, 及川眞一: 当科における甲状腺中毒症を伴う有痛性甲状腺腫の検討. 日本内分泌学会学術総会 (第 86 回) (仙台), 2013. 4.
- 16) 武市奈緒美, 杉原 仁, 高野綾子, 長峯朋子, 周東佑樹, 篠田 恵, 佐藤友紀, 若栗稔子, 長尾元嗣, 竹光秀司, 原田太郎, 稲垣恭子, 田村秀樹, 及川眞一: 異所性 ACTH 症候群及び Cushing 病における GHRP 試験の有用性について. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 40 回) (宮崎), 2013. 10.
 - 17) 武市奈緒美, 真山大輔, 小林俊介, 仲村優子, 竹光秀司, 長尾元嗣, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一: K.pneumonia による眼内炎と肝膿瘍を合併した 2 型糖尿病の 1 例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 51 回) (横浜), 2014. 1.
 - 18) 杉原 仁, 長尾元嗣, 中島 泰, 稲垣恭子, 原田太郎, 岡島史宜, 田村秀樹, 稲澤健志¹⁾, 川上正舒²⁾, 乙成孝俊³⁾, 及川眞一 (¹⁾ 柏市立病院内分泌代謝内科, ²⁾ 自治医科大学さいたま医療センター内科, ³⁾ 乙成内科医院): 肥満 2 型糖尿病患者における α -グルコシダーゼ阻害薬 (α GIs) 3 製剤による臨床効果の比較 (N-CURE study). 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
 - 19) 鈴木信也¹⁾, 永島和幸¹⁾, 山下武志¹⁾, 長尾元嗣, 及川眞一 (¹⁾ 心臓血管研究所付属病院循環器内科): 糖尿病と心房細動罹患者との相関: 都心の循環器専門病院受診者を対象とした解析: 心研データベースより. 日本糖尿病合併症学会 (第 28 回) (旭川), 2013. 9.
 - 20) 高野綾子, 石崎 晃, 武市奈緒美, 長峯朋子, 仲村優子, 小林俊介, 周東佑樹, 原田太郎, 杉原 仁, 及川眞一: 原発性アルドステロン症における迅速 ACTH 試験を含む 4 種負荷試験についての検討. 日本内分泌学会学術総会 (第 86 回) (仙台), 2013. 4.
 - 21) 高野綾子, 山本雅昭, 武市奈緒美, 長峯朋子, 竹光秀司, 真山大輔, 若栗稔子, 長尾元嗣, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 分娩時大量出血から 52 年後に診断された Sheehan 症候群の 1 例. 臨床内分泌代謝 update (第 23 回) (名古屋), 2014. 1.
 - 22) 高谷磨紀代, 長尾元嗣, 佐藤友紀, 仲村優子, 長峯朋子, 高野綾子, 竹光秀司, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 2 型糖尿病患者において各種の血糖コントロール指標に年齢が与える影響. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
 - 23) 竹光秀司, 原田太郎, 周東佑樹, 小林俊介, 高野綾子, 長峯朋子, 仲村優子, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 真山大輔, 石崎 晃, 稲垣恭子, 杉原 仁, その他 1 名: 糖尿病教育入院患者の FMD の改善と喫煙状態の関連について. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
 - 24) 竹光秀司, 原田太郎, 周東佑樹, 小林俊介, 高野綾子, 長峯朋子, 仲村優子, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 長尾元嗣, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 糖尿病教育入院患者の CAVI と CKD の関連について. 日本動脈硬化学会総会・学術集会 (第 45 回) (東京), 2013. 7.
 - 25) 竹光秀司, 原田太郎, 周東佑樹, 小林俊介, 高野綾子, 長峯朋子, 仲村優子, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 長尾元嗣, 真山大輔, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 糖尿病教育入院患者の FMD と CKD の関連について. 日本糖尿病合併症学会 (第 28 回) (旭川), 2013. 9.
 - 26) 長尾元嗣, 浅井 明, 川原百代, 小林俊介, 真山大輔, 周東佑樹, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 高脂肪食に対する耐糖能異常の感受性が異なる新規選抜交配モデルマウスの単離腺島に関する解析. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
 - 27) 長尾元嗣, 浅井 明, 周東佑樹, 川原百代, 小林俊介, 真山大輔, 杉原 仁, 及川眞一: 高脂肪食誘発性耐糖能異常に対する感受性の異なる 2 系統の選抜交配マウスにおける耐糖能・体重・摂餌量の世代間比較. 日本動脈硬化学会総会・学術集会 (第 45 回) (東京), 2013. 7.
 - 28) 長尾元嗣, 浅井 明, 杉原 仁, 及川眞一: 高脂肪食誘発性耐糖能異常への感受性が異なる 2 系統のマウスにおける摂食行動の検討. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 40 回) (宮崎), 2013. 10.
 - 29) 長尾元嗣, 浅井 明, 周東佑樹, 杉原 仁, 及川眞一: 高脂肪食誘導性耐糖能異常への感受性が異なる新規選抜

- 交配モデルマウスのインスリン分泌能に関する解析. 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 (第 28 回) (宮崎), 2014. 2.
- 30) 真山大輔, 長尾元嗣, 中島 泰, 仲村優子, 高谷磨紀代, 長峯朋子, 高野綾子, 竹光秀司, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 2 型糖尿病患者における食事誘導性熱産生の測定とその意義. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 57 回) (熊本), 2013. 5.
- 31) Asai A, Nagao M, Kawahara M, Sugihara H, Oikawa S: Repetitive selective breeding for susceptibility to glucose intolerance accelerates atherosclerotic lesion formation in mice. EASD Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (49th) (Barcelona, Spain), 2013. 9.
- 32) Nagao M, Asai A, Kobayashi S, Shuto Y, Sanoyama D, Harada T, Tanimura-Inagaki K, Sugihara H, Oikawa S: Feeding behavior as a hereditary predisposition to diet-induced glucose intolerance. Naito Conference (36th) (札幌), 2013. 9.
- 33) Nagao M, Asai A, Inaba W¹⁾, Kawahar M, Sugihara H, Yagihashi S, Oikawa S (¹⁾ Department of Pathology and Molecular Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine): Impaired islet function and structure in mice with hereditary predisposition to high fat diet-induced glucose intolerance. EASD Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (49th) (Barcelona, Spain), 2013. 9.
- 34) Nagao M, Asai A, Kobayashi S, Shuto Y, Sanoyama D, Sugihara H, Oikawa S: Feeding behavior in mice with hereditary predisposition to high fat-diet induced glucose intolerance. Asia-Pacific Diabetes and Obesity Study Group Symposium 2013 (東京), 2013. 10.
- 35) 小林俊介, 長尾元嗣, 浅井 明, 川原百代, 真山大輔, 周東佑樹, 杉原 仁, 及川眞一: 詳細な脂質プロファイル进行分析し得た spur cell anemia の 1 例. 日本動脈硬化学会総会・学術集会 (第 45 回) (東京), 2013. 7.
- 36) 小林俊介, 長尾元嗣, 浅井 明, 川原百代, 真山大輔, 周東佑樹, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 高脂肪食に対する耐糖能異常の感受性を規定する遺伝的要因の考察: マウスを用いた長期選抜交配から. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 37) 小林俊介, 長尾元嗣, 浅井 明, 川原百代, 周東佑樹, 真山大輔, 杉原 仁, 及川眞一: 糖尿病と脂質異常症を契機に診断された spur cell anemia の 1 例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 51 回) (横浜), 2014. 1.
- 38) 小林由美子, 竹光秀司, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 長尾元嗣, 真山大輔, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 外来インスリン導入がうまくいかず, 血糖コントロール不良となった症例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 51 回) (横浜), 2014. 1.
- 39) 周東佑樹, 浅井 明, 長尾元嗣, 川原百代, 杉原 仁, 及川眞一: 高脂肪食誘発性耐糖能異常に対する感受性の異なる 2 系統の選抜交配マウスにおける動脈硬化巣形成の選抜交配世代間比較. 日本動脈硬化学会総会・学術集会 (第 45 回) (東京), 2013. 7.
- 40) 周東佑樹, 杉原 仁, 小林俊介, 高野綾子, 長峯朋子, 仲村優子, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 竹光秀司, 真山大輔, 長尾元嗣, 石崎 晃, 近藤俊輔¹⁾, 片上秀喜²⁾, 及川眞一, その他 2 名 (¹⁾ 国立がん研究センター, ²⁾ 帝京大学ちば総合医療センター内科・臨床研究部): 睪神経内分泌癌による異所性 ACTH 症候群の 1 例. 日本内分泌病理学会学術総会 (第 17 回) (横浜), 2013. 10.
- 41) 周東佑樹, 武市奈緒美, 小林俊介, 高野綾子, 長峯朋子, 佐藤友紀, 真山大輔, 山本雅昭, 田村秀樹¹⁾, 杉原仁, 及川眞一 (¹⁾ 医療法人社団 田村医院): CRH 負荷で奇異性反応を認めた先端巨大症の 2 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 23 回) (名古屋), 2014. 1.
- 42) 周東佑樹, 浅井 明, 長尾元嗣, 杉原 仁, 及川眞一: 高脂肪食誘導性耐糖能異常への感受性が異なる新規選抜交配モデルマウスにおける動脈硬化巣形成に関する解析. 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 (第 28 回) (宮崎), 2014. 2.

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 杉原 仁：甲状腺とヨード. *New diet therapy* 2013 ; 28 (4) : 53-58.

[千葉北総病院内分泌内科]

研究概要

研究概要（内分泌内科）平成 23 年度から 25 年度の科学研究費助成金による研究「神経経済学的観点に基づく糖尿病患者の行動経済学的分析」に取り組んでいる。この研究は、将来の健康を害することがわかっているにもかかわらず、食事療法や運動療法あるいは薬物療法を遵守できない 2 型糖尿病患者の心理メカニズムを、行動経済学的観点から解析することにより、画期的な行動介入療法を考案しようとするものである。分析の結果、問題の先送り傾向が合併症の進行に重要であることを第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会（2013 年 5 月熊本）、同じ糖尿病であっても、1 型と 2 型では神経経済学的に異なる疾患であることを行動経済学会第 7 回大会（2013 年 12 月京都大学）でそれぞれ報告した。また、医療経済学的研究では糖尿病外来の人的医療資源配分の定量的分析を行い日本医師会雑誌に報告した（日医雑誌 142 : 1325-1329, 2013）。医療連携について一方向型連携と循環型二人主治医の有用性に関する比較検討を第 56 回日本糖尿病学会で報告した（2013 年 5 月熊本）。また糖尿病の治療や合併症に関して、強化インスリン療法患者への DPP-4 阻害薬併用の有効性に関する検討、糖尿病教育入院における強化インスリン療法患者への DPP-4 阻害薬併用の有効性に関する検討について同学会で報告した。甲状腺疾患に関して、テクネシウム取り込み率の低い甲状腺中毒症例に関して分析を行い第 56 回日本甲状腺学会で報告した（2013 年 11 月和歌山）。その他、科学研究費助成金（基盤（C））「糖尿病地域医療コーディネーター養成プログラムの開発研究（研究代表者 順天堂大学小谷野准教授）」に研究分担者として参加している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 岡島史宜, 伊達智子¹⁾, 江本直也, 鈴木千賀子¹⁾ (1) 千葉北総病院看護部) : 糖尿病専門医不足状況下での地域医療連携基幹病院の専門外来における人的医療資源配分の定量的分析. *日本医師会雑誌* 2013 ; 142 (6) : 1325-1329.
- 2) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Goda H²⁾, Okazaki H²⁾, Shirakabe A²⁾, Yamamoto M²⁾, Okajima F, Emoto N, Hata N²⁾, Shimizu W³⁾ (1) Department of Cardiology Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Intensive Care Unit Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Department of Cardiovascular Medicine Nippon Medical school) : Acute pericarditis : Unique comorbidity of thyrotoxic crisis with Graves disease. *International Journal of Cardiology* 2014 ; 171 (3) : e129-e130.
- 3) Kim K¹⁾, Emoto N, Mishina M³⁾, Okada S⁴⁾, Isu T⁵⁾, Yoshida D⁶⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery Chiba Hokusoh Hospital Nippon Medical School, 2) Department of Radiology Chiba Hokusoh Hospital Nippon Medical School, 3) Department of Internal Medicine Nippon Medical school, 4) Department of Radiology Chiba Hokusoh Hospital Nippon Medical School, 5) Department of Neurosurgery Kushiro Rosai hospital, 6) Department of Neurosurgery Nippon Medical School) : Incidental Detection of Thyroid Nodules at Magnetic Resonance Imaging of the Cervical Spine. *Neural Med Chir* 2013 ; 53 : 77-81.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 江本直也：行動経済学的アンケートによる糖尿病患者の病型病態分析. 行動経済学会（第7回）（京都市），2013. 12.

(2) ポスター：

- 1) 石崎 晃, 岡島史宜, 江本直也：無痛性甲状腺炎とは何か？：Tc-99m 甲状腺取込率の低い甲状腺中毒症の検討. 日本甲状腺学会（第56回甲状腺学会）（和歌山市），2013. 11.

(3) 一般講演：

- 1) 石崎 晃, 杉原 仁¹⁾, 高野綾子¹⁾, 長峰朋子¹⁾, 武市奈緒美¹⁾, 及川眞一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院内分泌内科)：原発性アルドステロン症診断における迅速 ACTH 負荷試験の有用性. 日本内分泌学会学術総会（第86回）（仙台市），2013. 4.
- 2) 岡島史宜, 江本直也, 及川眞一¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科)：糖尿病教育入院患者における強化インスリン療法への DPP-4 阻害薬併用療法の有効性に関する検討. 日本糖尿病学会年次学術集会（第56回）（熊本市），2013. 5.
- 3) 鈴木千賀子¹⁾, 江本直也, 星野慶子¹⁾, 岡島史宜, 坂田真純¹⁾, 岩橋美奈子¹⁾, 伊達智子¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院看護部)：糖尿病地域医療連携における一方向型連携と循環型二人主治医制連携の有効性と問題点の比較検証. 日本糖尿病学会年次学術集会（第56回）（熊本市），2013. 5.
- 4) 江本直也, 鈴木千賀子¹⁾, 岡島史宜, 林あづさ¹⁾, 上野亜希¹⁾, 星野慶子²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院看護部, 2) 日本医科大学大学院医学研究科内分泌糖尿病代謝内科学分野)：糖尿病患者の行動経済学的分析（第2報）. 日本糖尿病学会年次学術集会（第56回）（熊本市），2013. 5.
- 5) 杉原 仁¹⁾, 長尾元嗣¹⁾, 中島 泰¹⁾, 稲垣恭子¹⁾, 原田太郎¹⁾, 岡島史宜, 田村秀樹¹⁾, 稲澤健志²⁾, 川上正舒³⁾, 乙成孝俊⁴⁾, 及川眞一¹⁾ (1) 日本医科大学内分泌代謝内科, 2) 柏私立病院内分泌代謝内科, 3) 自治医科大学さいたま医療7センター内科, 4) 乙成内科医院)：肥満2型糖尿病患者における α グルコシダーゼ阻害薬 (α GlS) 3 製剤による臨床効果の比較 (N-CURE study). 日本糖尿病学会年次学術集会（第56回）（熊本市），2013. 5.
- 6) 石崎 晃, 岡島史宜, 江本直也：胃腸炎を契機に診断へ至ったアジソン病の1例. 臨床内分泌代謝（第23回）（名古屋市），2014. 1.

7. 内科学（呼吸器内科学）

[付属病院呼吸器内科，化学療法科]

研究概要

癌：肺癌個別化治療に向け，抗癌剤感受性と遺伝子発現に基づくレジメン開発，遺伝子多型解析による CPT-11 の副作用予測，国際共同の新薬開発を含む臨床試験等を行っている．EGFR 遺伝子変異に基づいた gefitinib の多施設臨床試験は国際的に評価され，研究を継続している．S-1+CDDP の第 3 相試験で中心的役割を果たし，多くの学会賞を取得．IP 合併肺癌や薬剤性肺障害の研究では我国の中心的施設となっている．その他，がん多施設共同試験の中心メンバーの役割を所属医師が果たし，最高レベルの雑誌に掲載された．また，がん患者の臨床的意思決定支援を目指した研究も開始した．基礎研究は感受性，副作用予測研究を展開し，肺癌の発癌，増殖に関わる研究を遺伝子や蛋白レベルで行ない，発癌母地として IIPs に注目し，特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指す．炎症：炎症性肺疾患，感染症を中心に研究を展開．厚労省研究班を軸に間質性肺炎の病態研究，IIPs の治療研究を行っている．特に IPF の治験薬の評価（ピルフェニドン，NAC，Nintedanib，PC-SOD），疾患活動性と予後との関係は国際共同治験をリードする．また，稀少疾患であるびまん性肺疾患，サルコイドーシス，難治性気道病変の病態と治療研究，急性肺障害や薬剤性肺障害の国際比較，PMX 吸着療法の研究を推進（先進医療承認取得）．基礎研究では肺障害，線維化病態を中心に，骨髄由来線維細胞，EMT，HSP，サーファクタント，メカニカルストレス，マクロライドの作用機序と新規化合物 EM900 の評価，IP の呼気凝集液を用いた分子病態の検討を行っている．呼吸ケア：COPD の基礎研究は医薬基盤研究所の助成を受け，阪大，理研との共同で創薬を進めている．フコースを付加する酵素 Fut8 について，ヒト血清中の活性が COPD の病態に与える影響と遺伝子との関係について研究を進めた．COPD 増悪のバイオマーカーの開発で 2 つの特許を取得．COPD のフェノタイプに関する SNPs の研究を進めている．厚労科研の助成により東日本大震災の COPD 被災者のデータ解析を実施．将来の大災害に対する指針の作成を進めている．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Narita K, Noro R, Seike M, Matsumoto M, Fujita K, Matsumura J, Takahashi M, Kawamoto M, Gemma A : Successful treatment of histiocytic sarcoma and concurrent HIV infection using a combination of CHOP and antiretroviral therapy. *Internal Medicine* 2013 ; 52 (24) : 2805-2809.
- 2) Narita K¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Seike M, Naito Z¹⁾, Gemma A, Ishiwata T¹⁾ (¹⁾ Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan) : Nestin regulates proliferation, migration, invasion and stemness of lung adenocarcinoma. *International Journal of Oncology* 2014 ; 44 (4) : 1118-1130.
- 3) Inomata M, Kamio K, Azuma A, Matsuda K, Miura Y, Hayashi H, Nei T, Fujita K, Saito Y, Gemma A : Pirfenidone inhibits fibrocyte accumulation in the lungs in bleomycin-induced murine pulmonary fibrosis. *Respir Res*, (in press) 2014 2014.
- 4) Azuma A, Yamaya M, Kadota J, Mikasa K, Kudoh S : The use of macrolides in the 2009 H1N1 virus infection outbreak : A survey of general practice in Japan. *Respir Investig* 2013 ; 51 (4) : 257-259.
- 5) 吾妻安良太：【肺線維症治療薬の現況】ピルフェニドン治験成績と市販後成績. *日本胸部臨床* 2013 ; 72 (10) : 1070-1076.
- 6) Kubota K, Ichinose Y, Scagliotti G, Spigel D, Kim JH, Shinkai T, Takeda K, Kim SW, H : Phase III study

- (MONET1) of motesanib plus carboplatin/paclitaxel in patients with advanced nonsquamous nonsmall-cell lung cancer (NSCLC) : Asian subgroup analysis. *Annals of Oncology* 2013 ; 25 (2) : 529-536.
- 7) Kitamura K¹, Seike M¹, Okano T¹, Matsuda K¹, Miyanaga A¹, Mizutani H¹, Noro R¹, Minegishi Y¹, Kubota K¹, Gemma A¹, et al. ¹ Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : MiR-134/487b/655 Cluster Regulates TGF- β -Induced Epithelial-Mesenchymal Transition and Drug Resistance to Gefitinib by Targeting MAGI2 in Lung Adenocarcinoma Cells. *Molecular Cancer Therapeutics* 2014 ; 13 (2) : 444-453.
 - 8) Sekine I, Segawa Y, Kubota K, Saeki T : Risk factors of chemotherapy-induced nausea and vomiting : Index for personalized antiemetic prophylaxis. *Cancer Science* 2013 ; 104 (6) : 711-717.
 - 9) Horinouchi H, Kubota K, Itani H, Katsui-Taniyama T, Nakamichi S, Wakui H, Kanda S, Nokihara H, Yamamoto N, Sekine I, Tamura T : Short Hydration in Chemotherapy Containing Cisplatin (≥ 75 mg/m²) for Patients with Lung Cancer : A Prospective Study. *Japanese Journal of Clinical Oncology* 2013 ; 43 (11) : 1105-1109.
 - 10) Kawahara M, Atagi S, Komuta K, Yoshioka H, Kawasaki M, Fujita Y, Yonei T, Ogushi F, Kubota K, Nogami N, Tsuchiya M, Shibata K, Tomizawa Y, Minato K, Asami K, et al. : Carboplatin plus Either Docetaxel or Paclitaxel for Japanese Patients with Advanced Non-small Cell Lung Cancer. *Non-small Cell Lung Cancer (NSCLC)* 2013 ; 33 (10) : 4631-4637.
 - 11) Fujimori M, Shirai Y, Asai M, Akizuki N, Katsumata N, Kubota K, Uchitomi Y : Development and preliminary evaluation of communication skills training program for oncologists based on patient preferences for communicating bad news. *Palliat Support Care* 2013 ; 4 (1) : 1-8.
 - 12) Kuroda Y, Sekine I, Sumi M, Sekii S, Takahashi K, Inada K, Horinouchi H, Nokihara H, Yamamoto N, Kubota K, Murakami N, Morota M, Mayahara H, Ito Y, Tamura T, et al. : Acute Radiation Esophagitis Caused by High-dose Involved Field Radiotherapy with Concurrent Cisplatin and Vinorelbine for Stage III Non-small Cell Lung Cancer (333-339). *Technology in Cancer Research and Treatment* 2013 ; 12 (4) : 275-382.
 - 13) Kubota K, Hida T, Ishikura S, Mizusawa J, Nishio M, Kawahara M, Yokoyama A, Imamura F, Takeda K, Nagao S, Harada M, Okamoto H, Yamamoto N, Shinkai T, Sakai H, et al. : Etoposide and cisplatin versus irinotecan and cisplatin in patients with limited-stage small-cell lung cancer treated with etoposide and cisplatin plus concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy (JCOG0202) : a randomised phase 3 study. *The Lancet* 2014 ; 10 (1016) : 70511-70514.
 - 14) Nakamichi S, Kubota K : Evolving Management with Molecular-Targeted and Bone-Targeted Medicine in Patients with Advanced Non-Small Cell Lung Cancer. *General Medicine* 2013 ; 1 (4).
 - 15) Kenmotsu H, Kaoru K : A pilot study of adjuvant chemotherapy with cisplatin and irinotecan for high-grade pulmonary neuroendocrine carcinoma (large cell neuroendocrine carcinoma and small cell lung cancer). *Lung Cancer* 2014 ; 169 (14) : 1-25.
 - 16) Noro R¹, Yoshimura A¹, Yamamoto K¹, Miyanaga A¹, Mizutani H¹, Minegishi Y¹, Seike M¹, Kubota K¹, Kosaihiira S¹, Hino M¹, Ando M¹, Nomura K¹, Okano T¹, Kobayashi K¹, Gemma A¹, et al. ¹Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Alternating chemotherapy with amrubicin plus cisplatin and weekly administration of irinotecan plus cisplatin for extensive-stage small cell lung cancer. *Anticancer Research* 2013 ; 33 : 1117-1124.
 - 17) Motegi T, Jones CR¹, Ishii T, Hattori K, Kusunoki Y, Furutate R², Yamada K, Gemma A, Kida K ¹ Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, ² Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : A

comparison of three multidimensional indices of COPD severity as predictors of future exacerbations. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2013 ; 8 : 259-271.

- 18) Kobayashi S¹⁾, Fujinawa R¹⁾, Ota F¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Angata T²⁾, Ueno M³⁾, Maeno T³⁾, Kitazume S¹⁾, Yoshida K¹⁾, Ishii T, Gao C¹⁾, Ohtsubo K¹⁾, Yamaguchi Y^{4,5)}, Betsuyaku T⁶⁾, Kida K, et al. (1) Disease Glycomics Team, RIKEN Advanced Science Institute, 2) Glycan Recognition Team, Systems Glycobiology Group, RIKEN Advanced Science Institute, 3) Department of Medicine and Biological Science, Gunma University Graduate School of Medicine, 4) Structural Glycobiology Team, Systems Glycobiology Group, RIKEN Advanced Science Institute, 5) RIKEN-Max Planck Institute Joint Research Center, 6) Division of Pulmonary Medicine, Keio University School of Medicine) : A single dose of lipopolysaccharide into mice with emphysema mimics human chronic obstructive pulmonary disease exacerbation as assessed by micro-computed tomography. *Am J Respir Cell Mol Biol* 2013 ; 49 (6) : 971-977.
- 19) Angata T^{1,2)}, Ishii T, Motegi T, Oka R¹⁾, Taylor ER^{3,4)}, Soto CP^{3,4)}, Chang CY^{3,5)}, Secundino I^{3,5)}, Gao XC¹⁾, Ohtsubo K¹⁾, Kitazume S¹⁾, Nizet V^{3,5)}, Varki A^{3,4)}, Gemma A, Kida K, et al. (1) Systems Glycobiology Research Group, and RIKEN-Max Planck Joint Research Center, RIKEN Advanced Science Institute, 2) Graduate School of Medicine, Osaka University, 3) Glycobiology Research and Training Center, University of California at San Diego, 4) Department of Medicine, University of California at San Diego, 5) Department of Pediatrics, University of California at San Diego) : Loss of Siglec-14 reduces the risk of chronic obstructive pulmonary disease exacerbation. *Cell Mol Life Sci* 2013 ; 70 (17) : 3199-3210.
- 20) Kamio K, Ishii T, Motegi T, Hattori K, Kusunoki Y, Azuma A, Gemma A, Kida K : Decreased serum transforming growth factor- β 1 concentration with aging is associated with the severity of emphysema in chronic obstructive pulmonary disease. *Geriatr Gerontol Int* 2013 ; 13 (4) : 1069-1075.
- 21) Ishii T^{1,2)}, Abboud TR³⁾, Wallace MA^{1,4)}, English CJ⁵⁾, Coxson OH^{1,6)}, Finley JR⁴⁾, Shumansky K¹⁾, Paré DP^{1,7)}, Sandford JA^{1,7)} (1) UBC James Hogg Research Centre, Institute for Heart + Lung Health, St. Paul's Hospital, 2) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School, 3) Division of Respiratory Medicine, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, 4) Department of Surgery, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, 5) Department of Pathology, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, 6) Department of Radiology, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, 7) Department of Medicine, Division of Respiratory Medicine, University of British Columbia) : Alveolar macrophage proteinase/antiproteinase expression and lung function/emphysema. *Eur Respir J* 2014 ; 43 (1) : 82-91.
- 22) Harano K¹⁾, Terauchi F²⁾, Katsumata N¹⁾, Takahashi F³⁾, Yasuda M⁴⁾, Takakura S⁴⁾, Takano M⁵⁾, Yamamoto Y⁶⁾, Sugiyama T⁷⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科, 2) 東京医科大学婦人科, 3) 北里大学臨床薬理研究所, 4) 東京慈恵会医科大学産婦人科, 5) 防衛医科大学校産婦人科, 6) 東邦大学医療センター大橋病院産婦人科, 7) 岩手医科大学婦人科) : Quality-of-life outcomes from a randomized phase III trial of dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin compared with conventional paclitaxel and carboplatin as a first-line treatment for stage II-IV ovarian cancer : Japanese Gynecologic Oncology Group Trial (JGOG3016). *Ann Oncol*. 2014 ; 25 (1) : 251-257.
- 23) Katsumata N¹⁾, Yasuda M²⁾, Isonishi S²⁾, Takahashi F³⁾, Michimae H³⁾, Kimura E⁴⁾, Aoki D⁵⁾, Jobo T⁶⁾, Kodama S⁷⁾, Terauchi F⁸⁾, Sugiyama T⁹⁾, Ochiai K²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科, 2) 東京慈恵会医科大学産婦人科, 3) 北里大学生物統計学, 4) 立正佼成会附属佼成病院産婦人科, 5) 慶応義塾大学病院婦人科, 6) 社会保険相模野病院産婦人科, 7) 新潟がんセンター婦人科, 8) 東京医科大学婦人科, 9) 岩手医科大学婦人科) : Long-term results of dose-dense paclitaxel and carboplatin versus conventional paclitaxel and carboplatin for

treatment of advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer (JGOG 3016) : a randomised, controlled, open-label trial. *Lancet Oncol.* 2013 ; 14 (10) : 1020-1026.

(2) 総説 :

- 1) 齋藤好信, 弦間昭彦 : 分子標的治療薬による薬剤性肺障害. *医学のあゆみ* 2014 ; 248 (1) : 103-107.
- 2) 齋藤好信, 弦間昭彦 : Bortezomib と mTOR 阻害薬による間質性肺疾患. *医学のあゆみ* 2013 ; 246 (9) : 794-799.
- 3) Kubo K, Azuma A, Kanazawa M, Kameda H, Kusumoto M, Genma A, Saijo Y, Sakai F, Sugiyama Y, Tatsumi K, Dohi M, Tokuda H, Hashimoto S, Hattori N, Hanaoka M, et al. : Japanese Respiratory Society Committee for formulation of Consensus statement for the diagnosis and treatment of drug-induced lung injuries. *Respir Investig* 2013 ; 51 (4) : 260-277.
- 4) Li Yj, Kawada T, Azuma A : Nrf2 is a protective factor against oxidative stresses induced by diesel exhaust in allergic asthma. *Oxidative Medicine and Cellular Longevity* 2013.
- 5) Yamaya M, Azuma A, Takizawa H, Kadota J, Tamaoki J, Kudoh S : Review. Effects of macrolides to prevent chronic obstructive pulmonary disease exacerbation : Possible mechanisms. *Eur Respir J* 2012 ; 40 : 485-494.
- 6) 神尾孝一郎, 吾妻安良太 : 間質性肺炎における抗線維化療法. *呼吸と循環* 2013 ; 61 (10) : 932-937.
- 7) 三浦由記子, 斎藤武文, 吾妻安良太 : 【特発性間質性肺炎 - この 10 年の進歩と今後の展望 -】 特発性間質性肺炎の診断と治療の進歩 治療関連 ビルフェニドン. *日本胸部臨床* 2013 ; 72 (増刊) : S44-S51.
- 8) 峯岸裕司, 久保田馨 : 非小細胞肺癌において維持療法は標準的治療である -Cons-. *呼吸器内科* 2013 ; 23 (3) : 306-311.
- 9) 北村和広, 久保田馨 : 支持療法をプラクティスに取り入れる際に, 私が注意するポイント I 臨床試験の解釈から実地臨床への導入まで : 日本胸部臨床. 克誠堂出版株式会社 2013 ; 71 (10).
- 10) 中原善朗, 細見幸生, 久保田馨 : デノスマブ (ランマーク) とゾレドロン酸 (ゾメタ) の similarity and difference. *呼吸器内科* 2013 ; 24 (2) : 188-192.
- 11) 宮永晃彦, 久保田馨 : 限局型小細胞肺癌. *最新肺癌学* 2013 ; 71 (6) : 611-615.
- 12) Kida K, Motegi T, Ishii T, Hattori K : Long-term oxygen therapy in Japan : history, present status, and current problems. *Pneumonol Alergol Pol* 2013 ; 81 (5) : 468-478.
- 13) 茂木 孝, 木田厚瑞 : 大きく改善した COPD の治療効果 : 8. 在宅酸素療法の導入のコツ. *Modern Physician* 2013 ; 33 (11) : 1421-1425.
- 14) 服部久弥子, 木田厚瑞 : 呼吸器疾患 : 在宅呼吸ケア. *medicina* 2013 ; 50 (11 増刊号) : 146-151.
- 15) Ishii T, Kida K : Predictors of chronic obstructive pulmonary disease exacerbations. *Curr Opin Pulm Med* 2014 ; 20 (2) : 138-145.
- 16) 石井健男 : 「理解 ! なっとく ! 高齢患者の呼吸ケア 速習ポイント 12」 5. COPD. *呼吸器ケア* 2013 ; 20 (2) : 113-115.
- 17) 石井健男 : 「理解 ! なっとく ! 高齢患者の呼吸ケア 速習ポイント 12」 8. 急性増悪のサイン. *呼吸器ケア* 2013 ; 20 (2) : 120-121.
- 18) 石井健男 : 「理解 ! なっとく ! 高齢患者の呼吸ケア 速習ポイント 12」 12. 服薬指導. *呼吸器ケア* 2013 ; 20 (2) : 129-131.
- 19) 酒井 瞳¹⁾, 勝俣範之¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : 【最新がん薬物療法学 - がん薬物療法の最新知見 -】 がん薬物治療薬の作用機序 ホルモン療法薬 フルベストラント. *日本臨床 最新がん薬物療法学* 2014 ; 72 : 151-155.
- 20) 勝俣範之¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : 【“医療否定本” ブームを考える】 抗がん剤治療の誤解を解く 国民

や患者の信頼を取り戻すために. 日本医事新報 2014 ; (4686) : 15-17.

- 21) 酒井 瞳¹⁾, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院) : 【がん化学療法看護のいま~ケアの質を高めるためのエッセンス~】 (第I章) がん化学療法のいま ホルモン療法のいま. がん看護 2014 ; 19 (2) : 107-113.
- 22) 門倉玄武¹⁾, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院) : 【転移性肺腫瘍の分子標的薬治療】 分子標的治療薬 泌尿器癌・婦人科癌. 日本胸部臨床 2014 ; 73 (2) : 165-179.
- 23) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科) : 【プロメテウス 婦人科がん最新医療】 卵巣がんの化学療法 進行卵巣がんに対する dose-dense therapy. 産婦人科の実際 2013 ; 62 (12) : 1928-1934.
- 24) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科) : 【最後までよい人生を支えるには 多死時代の終末期医療】 がんの終末期を支えるには 子宮がん. 内科 2013 ; 112 (6) : 1114-1119.
- 25) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科) : 【外科医が知っておくべき癌治療の薬物療法】 抗癌薬各論 卵巣癌の薬物療法. 外科 2013 ; 75 (12) : 1399-1402.
- 26) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科) : 【内科医のためのクリニカル・パール 2】 血液・腫瘍がん診療のクリニカル・パール. Medicina 2013 ; 50 (9) : 1560-1563.

(3) 解説 :

- 1) 小林靖宏, 天野康雄, 吾妻安良太, 汲田伸一郎 : 心臓サルコイドーシスの画像診断. 呼吸器内科 2013 ; 24 (3) : 284-291.

(4) 症例報告 :

- 1) 山本 剛, 時田祐吉, 野間さつき, 中澤 賢, 村田 智, 高野仁司, 水野杏一, 吾妻安良太, 田中啓治 : 発症3ヵ月後に肺空洞病変を形成した肺塞栓症の1例. 心臓 2013 ; 45 (7) : 907.
- 2) Miyanaga A, Shimizu K, Noro R, Seike M, Kitamura K, Kosaihiro S, Minegishi Y, Shukuya T, Yoshimura A, Kawamoto M¹⁾, Tsuchiya S¹⁾, Hagiwara K²⁾, Soda M³⁾, Takeuchi K⁴⁾, Gemma A, et al. (1) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Saitama Medical School Respiratory Organs Internal Medicine, Saitama, Japan, (3) Division of Functional Genomics, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, (4) Division of Pathology, The Cancer Institute, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan, (5) Division of Thoracic Oncology, Shizuoka Cancer Center, Shizuoka, Japan) : Activity of EGFR-tyrosine kinase and ALK inhibitors for EML4-ALK-rearranged non-small-cell lung cancer harbored coexisting EGFR mutation. BMC Cancer 2013 ; 29 (13) : 262-266.
- 3) Sugihara F, Murata S, Uchiyama F, Watari J, Tanaka E, Muraishi N, Satoh E, Kumita S : Transcatheter arterial embolization of anomalous systemic arterial supply to the basal segment of the lung. Acta Radiologica Reports 2013 ; 2 (7) : 1-4.

(5) 会議録 :

- 1) 青山純一, 小林有紀, 清水理光, 田中 徹, 三浦由記子, 林 宏紀, 藤田和恵, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : Lemierre 症候群と考えられた敗血症性肺塞栓症の1例. 日本内科学会関東地方会 602回 2013 ; 33.
- 2) 阿曾亮子, 大西弘高, 藤倉輝道, 井上千鹿子, 伊東泰夫, 吾妻安良太 : 共用試験 OSCE 医療面接における SP 満足度に及ぼす影響要因. 医学教育 2013 ; 44 (Suppl) : 83.

(6) 解説 :

- 1) 吾妻安良太 : 特発性肺線維症 急性増悪のトピックス. 臨床呼吸生理 2013 ; 45 : 41-45.

(7) 解説/特集 :

- 1) 藤田和恵, 吾妻安良太 : 【感染症症候群 (第2版) [下] - 症候群から感染性単一疾患までを含めて -】 呼吸器感染症 気道感染症 びまん性汎細気管支炎. 日本臨床 (0047-1852) 別冊感染症症候群 (下) Page250-254 (2013.09) 2013 ; 下 : 250-254.
- 2) 渥美健一郎, 吾妻安良太 : 【マクロライド療法 30年 : 現状と将来を考える】 「好中性炎症性気道疾患」とは何

か, どう用いるか. 呼吸器内科 2013; 24 (4) : 304-309.

- 3) 國保成暁, 吾妻安良太:【呼吸器疾患の増悪を考える】 特発性肺線維症 増悪時の病態と診断. THE LUNG-perspectives 2013; 21 (3) : 267-270.
- 4) 林 宏紀, 吾妻安良太:【呼吸器疾患 -state of arts Ver.6】 (第4章) 主要疾患 病態・診断・治療 間質性肺疾患 特発性肺線維症. 医学のあゆみ 2013; 別冊呼吸器疾患 -state of arts Ver.6 : 210-213.

著 書

- 1) 齋藤好信, 弦間昭彦:〔分担〕血液疾患治療に伴う非感染性肺疾患 (特に薬剤性肺障害). 血液疾患治療に伴う合併症対策 (田村和夫), 2013; pp193-202, 医薬ジャーナル.
- 2) 齋藤好信, 弦間昭彦:〔分担〕肺障害. 医師・薬剤師のための医薬品副作用ハンドブック (寺本民生), 2013; pp95-98, 日本臨床社.
- 3) 齋藤好信, 弦間昭彦:〔分担〕呼吸器障害. 最新がん薬物療法学, 2014; pp545-549, 日本臨床社.
- 4) 國保成暁¹⁾, 杉田慎二²⁾, 竹田晋浩²⁾ (1) 付属病院呼吸器内科, 2) 付属病院麻酔科):〔共著〕ウイルス肺炎と急性呼吸不全. 呼吸と循環, 2013; pp717-721, 医学書院.
- 5) 國保成暁¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (1) 付属病院呼吸器内科):〔共著〕特発性肺線維症 (1) 増悪時の病態と診断. THE LUNG perspectives, 2013; pp267-270, メディカルレビュー.
- 6) 國保成暁¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (1) 付属病院呼吸器内科):〔共著〕特発性肺線維症の発症機序と治療薬開発. 化学療法法の領域, 2013; pp584-590, 医薬ジャーナル.
- 7) 渥美健一郎, 吾妻安良太:〔自著〕「好中球性炎症性気道疾患」とは何か, どう用いるか. 月刊 呼吸器内科 第24巻 第4号 (呼吸器内科編集委員会), 2013; pp24 : 304-24 : 309, 科学評論社.
- 8) 林 宏紀¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 呼吸器内科):〔共著〕【呼吸器疾患 -state of arts Ver.6】 (第4章) 主要疾患 病態・診断・治療 間質性肺疾患 特発性肺線維症. 医学のあゆみ, 2013; pp210-213.
- 9) 久保田馨:〔共著〕小細胞肺癌 (副作用管理/DIC). 臨床研究医のための肺癌症例の実際 肺癌診療ガイドライン 2005・2010・2012 推奨グレード付, 2013; pp198-199, メディカルレビュー社.
- 10) 松本 優, 久保田馨:〔共著〕肺がん/胸腺腫・胸腺がん. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会), 2013; pp135-167, 日経 BP.
- 11) 清家正博¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (1) 日本医科大学 大学院医科研究科 呼吸器内科分野):〔共著〕【呼吸器疾患 state of arts Ver.6】 主要疾患—病態・診断・治療腫瘍性肺疾患原発性肺癌. 医学のあゆみ, 2013; pp348-351, 医歯薬出版株式会社.
- 12) 清家正博 (1) 日本医科大学 大学院医科研究科 呼吸器内科分野):〔共著〕悪性中皮腫の診断法. 最新肺癌学, 2013; pp699-703, 日本臨床社.
- 13) 清家正博 (1) 日本医科大学 大学院医科研究科 呼吸器内科分野):〔共著〕電解質異常への対応を教えてください. 肺癌診療 Q&A 第2版, 2013; pp385-387, 中外医学社.
- 14) 清家正博 (1) 日本医科大学 大学院医科研究科 呼吸器内科分野):〔共著〕分子生物学的解析のため従来の資料採取と変更している点, 変更すべき点を教えてください. 肺癌診療 Q&A 第2版, 2013; pp112-114, 中外医学社.
- 15) Masahiro S¹⁾, Akihiko G¹⁾ (1) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School):〔分担〕Respiratory Disease Related Proteome. Quantitative Proteome Analysis : Methods and Applications, 2013; pp143-148, PAN STANFORD PUBLISHING.
- 16) 齋藤好信, 弦間昭彦:〔分担〕肺毒性. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会), 2013; pp778-786, 日経メディカルブックス.
- 17) 藤田和恵, 吾妻安良太:〔分担〕呼吸器感染症 気道感染症 びまん性汎細気管支炎. 感染症症候群 (第2版) [下] -症候群から感染性単一疾患までを含めて-, 2013; pp250-254, 日本臨床.

- 18) 宮永晃彦, 弦間昭彦:〔共著〕IV. 治療の進歩 6. 非小細胞肺癌に対する TS-1 の役割. Annual review 呼吸器 2014 (永井 厚志, 巽 浩一郎, 桑野 和善, 高橋 和久), 2014: pp238-244, 中外医学社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) Seike M: MicroRNA and Lung Cancer. Asia Pacific Society of Respiriology (18th) (Yokohama, Japan), 2013. 11.

(2) シンポジウム:

- 1) 清家正博: 低分子 RNA とがん研究 (最近の分子生物学の進歩とがん研究). 日本呼吸器学会学術集会 (第 53 回) (東京), 2013. 4.
2) 清家正博: 肺癌治療感受性予測研究の展開 (肺がん治療の最前線). 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都), 2013. 10.

(3) パネルディスカッション:

- 1) 齋藤好信: がん薬物療法における薬剤性肺障害の診断と管理と院内組織作り. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第 11 回) (仙台), 2013. 8.

(4) ワークショップ:

- 1) 清家正博: 肺癌の EMT および EGFR-TKI 耐性機序における miRNA の意義 (肺癌生物像に基づいた新しい肺癌治療戦略). 日本肺癌学会総会 (第 54 回) (東京), 2013. 11.

(5) 一般講演:

- 1) Matsumoto M¹, Takiguchi Y², Minato K³, Yoshimori K⁴, Okamoto H⁵, Kuribayashi H⁶, Ando M⁷, Shingyoji M⁸, Noro R⁹, Gemma A⁹ (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Medical Oncology, Chiba univ. hospital, 3) Gunma prefectural cancer center, 4) Antituberculosis Association Fukujuji Hospital, 5) Yokohama Municipal Citizens's Hospital, 6) Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, 7) Tsuboi Cancer center, 8) Chiba Cancer Center, 9) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Nippon Medical School): Combination chemotherapy with bevacizumab, docetaxel and carboplatin for chemotherapy-naive patients with non-squamous cell lung carcinoma: Phase II study TCOG1001. International Association for the Study of Lung Cancer World Conference on Lung Cancer (15th) (Sydney, Australia), 2013. 10.
2) 松本 優, 野呂林太郎, 清家正博, 中道真仁, 宮永晃彦, 峯岸裕司, 添野千絵, 松田久仁子, 久保田馨, 弦間昭彦: 小細胞肺癌に対する mTOR 阻害剤の耐性化機序, 耐性化解除の検討. 日本肺癌学会総会 (第 54 回) (東京), 2013. 11.
3) Matsumoto M, Takiguchi Y¹, Minato K², Yoshimori K³, Okamoto H⁴, Kuribayashi H⁵, Ando M⁶, Shingyoji M⁷, Noro R, Gemma A (1) Medical Oncology, Chiba Univ. Hospital, 2) Gunma prefectural cancer center, 3) Antituberculosis Association Fukujuji Hospital, 4) Yokohama Municipal Citizen's Hospital, 5) Nippon Medical School, Chiba Hokusoh hospital, 6) Tsuboi Cancer Center, 7) Chiba Cancer Center): Combination chemotherapy with bevacizumab, docetaxel and carboplatin for chemotherapy-naive patients with non-squamous cell lung carcinoma: Phase II study TCOG1001. World Conference on Lung Cancer (15th) (Sydney, Australia), 2013. 10.
4) 成田宏介¹, 松田陽子¹, 清家正博, 弦間昭彦, 内藤善哉¹, 石渡俊行¹ (1) 日本医科大学大学院病理系統御機構・腫瘍学): 肺腺癌の浸潤に対する新たな治療標的としてのネスチン. 日本癌学会学術総会 (第 72 回) (横浜), 2013. 10.
5) Narita K, Fujita K, Saito Y, Hayashi H, Azuma A, Akihiko G: Pulmonary Cryptococcosis: clinical and

- epidemiologic spectrum in non-HIV/AIDS patients. International Congress of Chemotherapy and Infection (28th) (Yokohama, Japan), 2013. 6.
- 6) Narita K, Fujita K, Kokuho N, Miura Y, Hayashi H, Saito Y, Azuma A, Gemma A : The Clinical Aspects of Pulmonary Cryptococcosis in Non-HIV/AIDS Patients in Tokyo Metropolitan Area. Asia Pacific Society of Respiriology (18th) (Yokohama, Japan), 2013. 11.
 - 7) 國保成暁¹⁾, 藤田和恵¹⁾, 猪俣 稔¹⁾, 林 宏紀¹⁾, 齋藤好信¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 付属病院呼吸器内科) : 無気肺を呈したマイコプラズマ肺炎の3例. 日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (36回) (東京), 2013. 6.
 - 8) 高野夏希, 渥美健一郎, 大森美和子, 峯岸裕司, 弦間昭彦 : 胸部放射線療法3年後にCrizotinibを投与し, 2週間で食道潰瘍が出現した肺腺癌の1例. 日本肺癌学会関東支部会 (第167回) (東京), 2013. 6.
 - 9) 成田宏介 : 肺癌を疑いFDG PET/CT検査を施行後, 呼吸器感染症と診断された症例の臨床的検討. 日本呼吸器学会学術集会 (第53回) (東京), 2013. 4.
 - 10) Seike M, Takeuchi S, Soeno C, Miyanaga A, Noro R, Gemma A : Significance of Osteopontin in the Sensitivity of Malignant Pleural Mesothelioma to Pemetrexed. AACR Annual Meeting (104th) (Washington DC, USA), 2013. 4.
 - 11) 菅野哲平, 野呂林太郎, 添野千絵, 清家正博, 弦間昭彦 : Search for the Therapeutic Target of MET inhibitors in lung Cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第11回) (仙台), 2013. 8.
 - 12) 青山純一, 小林有紀, 清水理光, 田中 徹, 三浦由記子, 林 宏紀, 藤田和恵, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : Lemierre 症候群と考えられた敗血症性肺塞栓症の1例. 第602回日本内科学会関東地方会 (東京), 2013. 12.
 - 13) 佐藤陽三, 齋藤好信, 二島駿一, 田中 徹, 林 宏紀, 藤田和恵, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 特発性肺線維症の診断にて経過観察中に顕微鏡的多発血管炎を発症した1例. 第604回日本内科学会関東地方会 (東京), 2014. 3.
 - 14) 加藤泰裕, 宮永晃彦, 二島駿一, 福泉 彩, 中道真仁, 中鉢久美, 山本和男, 武内 進, 松本 優, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 清家正博, 久保田馨, 弦間昭彦 : ALK融合遺伝子陽性高齢者肺腺癌に対してCrizotinibを投与した1例. 日本肺癌学会関東支部会 (第168回) (東京), 2013. 12.
 - 15) 武内 進, 清家正博, 野呂林太郎, 添野千絵, 西島伸彦, 松本 優, 峯岸裕司, 久保田馨, 弦間昭彦 : 悪性胸膜中皮腫のペメトレキセド感受性に関する標的遺伝子の検討. 日本肺癌学会総会 (第54回) (東京), 2013. 11.
 - 16) 野呂林太郎, 清家正博, 添野千絵, 松田久仁子, 松本 優, 北村和広, 小齊平聖治, 菅野哲平, 峯岸裕司, 吉村明修, 久保田馨, 弦間昭彦 : MET FISH positive predicts the resistance to gefitinib in NSCLC patients. 日本サイトメトリー学会学術集会 (第23回) (東京), 2013. 6.
 - 17) 小林由美子, 武内 進, 青山純一, 加藤泰裕, 小林有紀, 佐藤陽三, 清水理光, 高野夏希, 中鉢久美, 中道真仁, 渥美健一郎, 宮永晃彦, 山本和男, 藤田和恵, 峯岸裕司, その他3名 : ゲフィチニブ投与中にネフローゼ症候群を呈した1例. 日本肺癌学会関東支部会 (第169回) (東京), 2014. 3.
 - 18) 郷 奮飛, 野呂林太郎, 清家正博, 添野千絵, 豊川 優, 峯岸裕司, 久保田馨, 弦間昭彦 : 組織マイクロアレイを用いた非小細胞肺癌患者の変異型EGFR, TS, ERCC1 蛋白発現の検討. 日本呼吸器学会学術集会 (第53回) (東京), 2013. 4.
 - 19) Kazue F, Yoshinobu S, Hiroki H, Arata A, Akihiko G : Extrapulmonary tuberculosis (EPTB) : clinical and epidemiologic spectrum in the Tokyo metropolitan area. the International Congress of Chemotherapy and Infection (28th) (yokohama, Japan), 2013. 6.
 - 20) Kazue F, Kazuhiro K, Kosuke N, Kenichiro A, Yukiko M, Hiroki H, Yoshinobu S, Arata A, Akihiko G : Longer Delays In Diagnosis Of Tuberculosis In A Tokyo Metropolitan Area. The Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (18th) (Yokohama, Japan), 2013. 11.
 - 21) 藤田和恵, 北村和広, 成田宏介, 國保成暁, 三浦由記子, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間

- 昭彦：診断に3ヵ月以上を要した結核に関する検討。日本呼吸器学会学術講演会（第53回）（東京），2013。4。
- 22) 藤田和恵，成田宏介，林 宏紀，斎藤好信，弦間昭彦：大学病院の呼吸器内科におけるカルバペネム薬使用状況に関する検討。日本感染症学会西日本地方会（第53回）（大阪），2013。10。
- 23) Miyanaga A, Honda K¹⁾, Tsuta K²⁾, Masuda M¹⁾, Miyamoto A³⁾, Shinagawa S³⁾, Tsuda H²⁾, Asamura H⁴⁾, Gemma A, Yamada T¹⁾ (¹⁾ Division of Chemotherapy and Clinical Research National Cancer Center Research Institute, Tokyo, Japan, ²⁾ Pathology and Clinical Laboratory Division, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan, ³⁾ TransGenic Inc., Kumamoto, ⁴⁾ Division of Thoracic Surgery, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan) : Prognostic significance of the alternatively spliced ACTN4 variant in high-grade neuroendocrine pulmonary tumours. AACR Annual Meeting (104th) (Washington DC, USA), 2013. 4.
- 24) 宮永晃彦，増田万里¹⁾，蔦 幸治²⁾，本田一文¹⁾，浅村尚生³⁾，弦間昭彦，山田哲司¹⁾ (¹⁾ 国立がん研究センター研究所創薬臨床研究分野，²⁾ 国立がん研究センター中央病院病理科，³⁾ 国立がん研究センター中央病院呼吸器外科) : Novel pathway mutations in malignant pleural mesothelioma revealed by high-throughput RNA sequencing. 日本癌学会学術総会（第72回）（横浜），2013。10。
- 25) 宮永晃彦，吉村明修¹⁾，野呂林太郎，峯岸裕司，清家正博，久保田馨，安藤真弘²⁾，植松和嗣³⁾，日野光紀⁴⁾，弦間昭彦 (¹⁾ 東京医科大学病院臨床腫瘍科，²⁾ 坪井病院内科，³⁾ 埼玉医科大学総合医療センター呼吸器内科，⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院呼吸器内科) : 進展型および癌性胸膜炎合併限局型小細胞肺癌に対する Amrubicin + Cisplatin と Irinotecan + Cisplatin 交替療法の第II相試験。日本臨床腫瘍学会学術集会（第11回）（仙台），2013。8。
- 26) 茂木 孝，堀江健夫¹⁾，桂 秀樹²⁾，土橋邦生³⁾，木田厚瑞 (¹⁾ 前橋赤十字病院呼吸器科，²⁾ 東京女子医科大学八千代医療センター呼吸器科，³⁾ 群馬大学大学院保健学研究科) : COPD 増悪入院治療の多施設間比較：PCPASによるベンチマーキング解析。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第23回）（東京），2013。10。
- 27) 古館隆子¹⁾，石井健男，茂木 孝，服部久弥子，楠 裕司，山田浩一，木田厚瑞 (¹⁾ 呼吸ケアクリニック) : COPD 患者における新 GOLD 分類と栄養状態の関係に関する研究。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第23回）（東京），2013。10。
- 28) 田鎖幸江¹⁾，瀬川佳余¹⁾，伊藤亜紀¹⁾，南 好江¹⁾，茂木 孝，石井健男，服部久弥子，木田厚瑞 (¹⁾ 呼吸ケアクリニック) : 在宅酸素療法実施中の COPD 患者における LINQ 点数と QOL の関係。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第23回）（東京），2013。10。
- 29) Wakabayashi R¹⁾, Kutsuzawa T¹⁾, Hattori K, Ishii T, Kusunoki Y, Yamada K, Gemma A, Kida K (¹⁾ Department of Nursing, School of Health Sciences, Tokai University) : Long-term evaluation of seasonal out-of-pocket medical costs in patients with chronic respiratory disease based on a survey. ERS Annual Congress 2013 (Barcelona), 2013. 9.
- 30) Furutate R¹⁾, Ishii T, Yamada K, Motegi T, Hattori K, Kusunoki Y, Gemma A, Kida K (¹⁾ Respiratory Care Clinic) : Association between exercise intolerance and nutritional status assessed by the Mini Nutritional Assessment® questionnaire in chronic obstructive pulmonary disease : body composition and beyond. ATS International Conference 2013 (Pennsylvania, Philadelphia), 2013. 5.
- 31) Ishii T, Kida K, Gemma A : The effect of senescence on COPD pathogenesis : involvement of telomere and an antiaging molecule fibroblast growth factor 23. ATS International Conference 2013 (Pennsylvania, Philadelphia), 2013. 5.
- 32) 茂木 孝，楠 裕司，服部久弥子，石井健男，山田浩一，木田厚瑞：GOLD2011 の新たな患者管理分類は新たな COPD 多次元評価になり得るのか？。日本呼吸器学会学術講演会（第53回）（東京），2013。4。
- 33) 石井健男，弦間昭彦，木田厚瑞：COPD におよぼす加齢の影響：テロメア及び抗加齢因子 fibroblast growth factor 23 の関与。日本呼吸器学会学術講演会（第53回）（東京），2013。4。

- 34) Motegi T, Ishii T, Hattori K, Kusunoki Y, Furutate R¹⁾, Gemma A, Kida K (¹⁾ Respiratory Care Clinic) : Importance of the initial behaviour of patients in avoiding late recovery from COPD exacerbations. ERS Annual Congress 2013 (Barcelona), 2013. 9.
- 35) 服部久弥子 : 高齢者の肺炎予防 : 肺炎球菌ワクチンの重要性和有効性. 日本旅行医学会大会 (第12回) (東京), 2013. 4.
- 36) 石井健男, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : ニコチン受容体群の遺伝子多型と肺気腫との関連. 日本内科学会講演会 (第110回) (東京), 2013. 4.
- 37) Ishii T^{1,2)}, Abboud TR³⁾, Wallace JA^{1,6)}, English CJ⁴⁾, Coxson OH^{1,5)}, Finley JR⁶⁾, Shumansky K¹⁾, Paré DP^{1,7)}, Sandford JA^{1,7)} (¹⁾ UBC James Hogg Research Centre, Institute for Heart & Lung Health, St. Paul's Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Respiratory Medicine, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁴⁾ Department of Pathology, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁵⁾ Department of Radiology, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁶⁾ Department of Surgery, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁷⁾ Department of Medicine, Division of Respiratory Medicine, St. Paul's Hospital, University of British Columbia) : Secretion of MMPs, cathepsins, and their inhibitors by alveolar macrophages and their association with emphysema. ATS International Conference 2013 (Pennsylvania, Philadelphia), 2013. 5.
- 38) Satoh E, Tagami T, Onda H, Masuno T, Miyauchi M, Fuse A, Yokota H : The relationship metabolic scidosis and neurogenic pulmonary edema after subarachnoid hemorrhage. ACEM2013 (7) (Tokyo), 2013. 10.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Li Yj, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Takizawa H, Azuma A, Kawada T, Sugawara I, Kudoh S, Sunazuka T, Omura S : EM, EM703 inhibit NF-kB activation induced by oxidative stress from diesel exhaust particle in human bronchial epithelial cells : Importance in IL-8 transcription. *Pulm Pharmacol Ther* 2013 ; 26 : 318-324.
- 2) Inomata M, Ikushima S, Awano N, Kondoh K, Satake K, Masuo M, Moriya A, Kamiya H, Ando T, Azuma A, Takemura T : Upper gastrointestinal sarcoidosis : report of three cases. *Intern Med* 2012 ; 51 (13) : 1689-1694.

追加分症例報告 :

- 1) 都築早美, 藤田和恵, 三浦由記子, 國保成暁, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 齊藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 胸部画像でスリガラス影を認めなかったニューモシスチス肺炎の1例. *気管支学* 2013 ; 35 (1) : 116.
- 2) 都築早美, 小斉平聖治, 清家正博, 國保成暁, 林 宏紀, 齊藤好信, 藤田和恵, 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾, 弦間昭彦 (¹⁾ 日本医科大学付属病院遺伝診療科) : EWS を用いた気管支充填術が有効であった血管型 Ehlers-Danlos 症候群に合併した難治性気胸の1例. *気管支学* 2013 ; 35 (5) : 506-511.

追加分会議録 :

- 1) 吾妻安良太 : びまん性肺疾患 研究と診療の新たな展開 特発性肺線維症の臨床試験成績と治療戦略. 日本医学会総会誌 28回I 2011 ; 206.
- 2) 成田宏介, 藤田和恵, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 山口朋禎, 清家正博, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 肺癌を疑い 18F-FDG PET/CT 検査を施行後, 呼吸器感染症と診断された症例の臨床的検討. *日本呼吸器学会誌* 2013 ; 2 (増

刊) : 314.

- 3) 白杵二郎, 林 宏紀, 松田久仁子, 砂塚敏明, 大村 智, 吾妻安良太, 弦間昭彦: マクロライド新規誘導体 EM900 のプレオマイシン肺線維症と線維芽細胞における YB-1 発現に対する効果. 日本呼吸器学会誌 2013; 2 (増刊) : 254.
- 4) 藤田和恵, 北村和広, 成田宏介, 國保成暁, 三浦由記子, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 診断に3ヵ月以上を要した結核に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2013; 2 (増刊) : 218.
- 5) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介, 武田 健, 吾妻安良太, 滝澤 始, 山本雅之, 川田智之, 工藤翔二: Nrf2欠損マウスにおけるディーゼル排気粒子曝露のプレオマイシン気道炎症病態への影響. 日本呼吸器学会誌 2013; 2 (増刊) : 176.
- 6) 吾妻安良太: 疾患と運動時低酸素血症 特発性肺線維症. 日本呼吸器学会誌 2013; 2 (増刊) : 29.
- 7) 阿部信二, 瀬尾宜嗣, 林 宏紀, 松田久仁子, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 宮庄 拓: ラットプレオマイシン誘導肺障害における PMX 療法の効果. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2011; 15 (1) : 115.
- 8) 藤田和恵, 林 宏紀, 成田宏介, 根井貴仁, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 診断に3ヵ月以上を要した結核に関する検討. 感染症学雑誌 2013; 87 (1) : 154.
- 9) 成田宏介, 藤田和恵, 林 宏紀, 齋藤好信, 山口朋禎, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 清家正博: 18F-FDG PET/CT 検査を施行した呼吸器感染症症例の臨床的検討. 感染症学雑誌 2013; 87 (1) : 146-147.

追加分会議録:

- 1) 猪俣 稔, 神尾孝一郎, 松田久仁子, 國保成暁, 根井貴仁, 三浦由記子, 藤田和恵, 齋藤好信, 弦間昭彦, 吾妻安良太: プレオマイシン誘導肺障害モデルマウスにおけるピルフェニドンの骨髄由来 fibrocyte 抑制効果に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2013; 2 (増刊) : 255.
- 2) 吾妻安良太: 特発性肺線維症 治療を巡る新展開 ピルフェニドン. 日本呼吸器学会誌 2013; 2 (増刊) : 22.
- 3) 三浦由記子, 齋藤好信, 長山美貴恵, 峯岸裕司, 清家正博, 切刀しのぶ, 福田 悠, 吾妻安良太: 当施設におけるペメトレキセドによる薬剤性肺障害の検討. 日本内科学会雑誌 2013; 102 (Suppl) : 231.

追加解説/特集:

- 1) 神尾孝一郎, 吾妻安良太: 【呼吸器病学 TOPICS 2012-13】びまん性肺疾患 特発性肺線維症に対する BIBF 1120 臨床試験. 分子呼吸器病 2013; 17 (1) : 46-47.
- 2) 國保成暁, 吾妻安良太: 【間質性肺炎と周辺疾患 - 感染症から薬剤性まで -】特発性肺線維症の発症機序と治療薬開発. 化学療法の領域 2013; 29 (4) : 584-590.
- 3) 林 宏紀, 吾妻安良太: 【呼吸器疾患の診断と治療 (II)】びまん性汎細気管支炎. 医学と薬学 2013; 69 (2) : 213-217.
- 4) 猪俣 稔, 吾妻安良太: 【呼吸機能検査 Update】間質性肺炎に対する臨床生理学的アプローチ. 医学のあゆみ 2013; 244 (11) : 987-990.

追加解説/特集:

- 1) 吾妻安良太: 【薬剤性肺障害の手引き】薬剤性肺障害の基礎知識 定義, 疾患概念, 臨床病型, 発症機序, 疫学. アレルギー・免疫 2013; 20 (3) : 348-356.

著 書

追加分:

- 1) 國保成暁¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (1) 付属病院呼吸器内科): [共著] 特発性間質性肺炎を見直す - 特発性間質性肺炎臨床の最新知見 (IPF の臨床治験). 呼吸と循環, 2013; pp112-117, 医学書院.

学会発表

追加分招待講演：

- 1) Chang A, Kubota K : The Role of TS-1® for the Patients with Non-Small Cell Lung Cancer. 10th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society (Seoul, Korea), 2012. 6.

[武蔵小杉病院腫瘍内科]

研究概要

2013年度の研究業績概要としては、主要なものとして、卵巣がんに対する dose-dense therapy に関する研究を Lancet Oncology 誌に発表した (Long-term follow-up of a randomized trial comparing conventional paclitaxel and carboplatin with dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin in women with advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer). この研究は、ステージ II から IV の上皮性卵巣癌に対し、パクリタキセルとの併用でカルボプラチンを毎週投与する dose-dense weekly TC (dd-TC) 療法の初回化学療法としての有効性を検討した JGOG3016 試験では、dd-TC 療法は従来の TC 療法に比べて有効であることが示されていたが、今回、この試験を長期追跡した結果からも、dd-TC 療法はステージ II~IV の上皮性卵巣癌の初回化学療法として有効であることが示された。dd-TC 療法の5年生存率 (OS) は 58.7% で、従来療法群の 51.1% よりも有意に高かった。その他、英語原著論文 13 本、日本語総説 16 本の執筆を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 小野寺恵子¹⁾, 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部)：抗生物質 ドキソルビシン塩酸塩リポソーム注射剤 (解説/特集). プロフェッショナルがんナーシング 薬が分かる! ケアにいかせる! これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬 抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬 はや調べノート 2013; 2185 (7318) : 106-107.
- 2) Katsumata N, Yoshikawa H¹⁾, Kobayashi H¹⁾, Saito T¹⁾, Kuzuya K¹⁾, Nakanishi T¹⁾, Yasugi T¹⁾, Yaegashi N¹⁾, Yokota H¹⁾, Kodama S¹⁾, Mizunoe T¹⁾, Hiura M¹⁾, Kasamatsu T¹⁾, Shibata T¹⁾, Kamura T¹⁾ (1) National Cancer Center) : Phase III randomised controlled trial of neoadjuvant chemotherapy plus radical surgery vs radical surgery alone for stages IB2, IIA2, and IIB cervical cancer : a Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0102). British Journal of Cancer 2013.
- 3) Katsumata N, Yasuda M¹⁾, Isonishi S¹⁾, Takahashi F¹⁾, Michimae H¹⁾, Kimura E¹⁾, Aoki D¹⁾, Jobo T¹⁾, Kodama S¹⁾, Terauchi F¹⁾, Sugiyama T¹⁾, Ochiai K¹⁾ (1) National Cancer Center) : Long-term results of dose-dense paclitaxel and carboplatin versus conventional paclitaxel and carboplatin for treatment of advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer (JGOG 3016) : a randomised, controlled, open-label trial. Lancet Oncol 2013.
- 4) Katsumata N : 'Comment on Phase III randomised controlled trial of neoadjuvant chemotherapy plus radical surgery vs radical surgery alone for stages IB2, IIA2, and IIB cervical cancer : a Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0102). British Journal of Cancer 2013.
- 5) Burger RA, Brady MF, Bookman MA, Monk BJ, Walker JL, Homesley HD, Fowler J, Greer BE, Bonte M, Fleming GF, Lim PC, Rubin SC, Katsumata N, Liang SX : Risk Factors for Gastrointestinal Adverse Events in a Phase III Randomized Trial of Bevacizumab in First-Line Therapy of Advanced Ovarian Cancer : a Gynecologic Oncology Group study. J Clin Oncol 2013.

- 6) Fujimori M¹⁾, Shirai Y¹⁾, Asai M¹⁾, Akizuki N¹⁾, Katsumata N, Kubota K¹⁾, Uchitomi Y¹⁾ (1) National Cancer Center) : Development and preliminary evaluation of communication skills training program for oncologists based on patient preferences for communicating bad news. Palliat Support Care. 2013.
 - 7) Katsumata N : Dose-dense effect : other contributors - Author's reply. Lancet Oncol 2013.
 - 8) Sato K, Watanabe T, Katsumata N, Sato T, Ohashi Y : Satisfying the needs of Japanese cancer patients : A comparative study of detailed and standard informed consent documents. Clin Trials. 2014.
 - 9) 勝俣範之 : 内科医のためのクリニカル・パール 2 : 血液・腫瘍 がん診療のクリニカル・パール (解説/特集). Medicina 2013 ; 50 (9) : 1560-1563.
 - 10) Harano K, Terauchi N, Katsumata N, Takahashi F, Yasuda M, Takakura M, Takano M, Yamamoto Y, Sugiyama T : Quality of life outcomes from a randomized phase III trial of dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin compared with conventional paclitaxel and carboplatin as a first-line treatment for stage II-IV ovarian cancer : Japanese Gynecologic Oncology Group trial (JGOG3016). 2013.
 - 11) Harano K, Hirakawa A, Kato T, Suzuki K, Watanabe S, Katsumata N : Practice pattern of the use of colony stimulating factor in ovarian cancer patients receiving paclitaxel and carboplatin in Japan. J Gynecol Oncol 2014.
- (2) 総説 :
- 1) 勝俣範之 : がん化学療法①乳がん. Evidence Update 2013 2013 ; 200-202.
 - 2) 原野謙一, 勝俣範之 : 2. 前立腺がん 3. 乳がん 4. 子宮がん. 内科処方実践マニュアル 使い分けとさじ加減 2013 ; 529-534.
 - 3) 小野寺恵子¹⁾, 勝俣範之 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部) : 微小管阻害薬 (タキサン) パクリタキセル アルブミン懸濁型 (解説/特集). プロフェッショナルがんナーシング 薬が分かる! ケアにいかせる! これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬 抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬 はや調ベノート 2013 ; 2185 (7318) : 144-145.
 - 4) 勝俣範之 : II. 抗癌薬各論 13. 卵巣癌の薬物療法. 外科 増刊号 特集 外科医が知っておくべき癌治療の薬物療法 2013 ; 1399-1402.
 - 5) 勝俣範之 : がんの終末期を支えるには 子宮がん. 内科 増大号 特集 最後までよい人生を支えるには 多死時代の終末期医療 2013 ; 1114-1119.
 - 6) 酒井 瞳, 勝俣範之 : III がん薬物療法薬の作用機序 ホルモン療法薬 フルベストラント. 最新がん薬物療法学 日本臨増刊号 2014 ; 72 (1054) : 151-155.
 - 7) 勝俣範之 : “医療否定本” プームを考える① 抗がん剤治療の誤解を解く - 国民や患者の信頼を取り戻すために. 週刊日本医事新報 2014 ; 15-17.
 - 8) 酒井 瞳 : がん性腹膜炎. 腫瘍内科 特集 転移がんの診断と治療 2013 ; 441-445.
 - 9) 酒井 瞳, 勝俣範之 : 卵巣がん : 開発中の分子標的薬剤 pazopanib, trebananib (AMG386), volasertib. 腫瘍内科 特集 泌尿器・生殖器がんに対する分子標的治療 2014 ; 13 (3) : 334-338.

著 書

- 1) 酒井 瞳, 勝俣範之 : [分担] G-CSF (顆粒球コロニー刺激因子) の基礎と臨床. 婦人科がん, 2013 ; pp129-137. 医薬ジャーナル社.
- 2) 酒井 瞳, 勝俣範之 : [分担] がん分子標的療法ハンドブック : 悪性腫瘍治療ストラテジー. 婦人科がん, 2013 ; pp110-121. ヴァンメディカル.
- 3) 勝俣範之 : 悪性腫瘍 65. 発熱性好中球減少症. 標準薬物治療ファイル (日本アプライド・セラピューティック学会編), 2013 ; pp130-131.

- 4) 勝俣範之：〔編集〕がん診療 UP TO DATE, 2013；日経 BP 社.
- 5) 勝俣範之：〔編集〕増刊 レジデントノート 担当医が絶対知っておきたいがん診療のキホン：がん患者の診かた・支え方, 化学療法の副作用対策や緩和医療, 緊急事態への対応がわかる！, 2013；羊土社.
- 6) 勝俣範之：〔分担〕第 2 章 がん臨床試験における EBM の重要性. がん臨床試験テキストブック, 2013；pp27-33, 医学書院.
- 7) 門倉玄武, 勝俣範之：〔分担〕支持療法と用量調整のポイント 12. 血栓症. コンセンサス癌治療 特集 癌薬物療法の副作用対策, 2013；pp216-218, へるす出版.
- 8) 勝俣範之：〔分担〕5. 卵巣がんの化学療法 (3) 進行卵巣がんに対する dose-dense therapy. 臨時増刊号 11 プロメテウス 婦人科がん最新医療産婦人科の実際, 2013；pp216-218, 金原出版株式会社.
- 9) 酒井 瞳, 勝俣範之：〔分担〕がん化学療法看護のいま～ケアの質を高めるためのエッセンス 第 1 章 ホルモン療法のいま. がん看護, 2014；pp107-113, 南江堂.
- 10) 門倉玄武, 勝俣範之：〔分担〕特集 転移性肺腫瘍の分子標的薬治療：泌尿器癌・婦人科癌. 日本胸部臨床, 2014；pp165-179, 克誠堂出版.
- 11) 勝俣範之, 前嶋愛子¹⁾ (1) 独立行政法人国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科)：〔分担〕特集 CGA を考慮した高齢者に対するがん治療の特性と適応 高齢者婦人科がん薬物療法の特徴と治療選択. 腫瘍内科, 2014；pp211-220, 科学評論社.
- 12) 原野謙一：〔分担〕第 I 章 がん治療の基礎知識 1. 腫瘍内科医の役割とチーム医療 2. 抗がん剤の理論と適応 第 III 章 各種がんの治療 9. 婦人科がん. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会編著), 2013；pp2342-22382, 日経 BP 社.
- 13) 門倉玄武：〔分担〕第 I 章 がん治療の基礎知識 3. 臓器障害時の抗がん剤投与方法 4. 効果, 安全性の評価方法 第 III 章 各種がんの治療 7. 肝・胆・膵がん①肝細胞がん. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会編著), 2013；pp23279-63303, 日経 BP 社.
- 14) 酒井 瞳：〔分担〕第 V 章 副作用のマネジメント 1. 骨髄抑制 5. 下痢. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会編著), 2013；pp696768-710777, 日経 BP 社.
- 15) 原野謙一：〔分担〕がん患者の診かた・支え方, 化学療法の副作用対策や緩和医療, 緊急事態への対応がわかる！. 増刊 レジデントノート 担当医が絶対知っておきたいがん診療のキホン；pp61114-65121, 羊土社.
- 16) 門倉玄武：〔共著〕がん患者の診かた・支え方, 化学療法の副作用対策や緩和医療, 緊急事態への対応がわかる！. 増刊 レジデントノート 担当医が絶対知っておきたいがん診療のキホン (勝俣範之編), 2013；pp40-46, 羊土社.
- 17) 酒井 瞳：〔共著〕担当医が絶対知っておきたいがん診療のキホン がん患者の診かた・支え方, 化学療法の副作用対策や緩和医療, 緊急事態への対応がわかる！. 増刊 レジデントノート (勝俣範之編), 2013；pp1081-1588.

学会発表

- (1) パネルディスカッション：
 - 1) 勝俣範之：ASCO TOP FIVE. 日本乳癌学会学術総会 (第 21 回) (アクトシティ浜松), 2013. 6.
- (2) 一般講演：
 - 1) 勝俣範之：がん化学療法に伴う貧血に関する全国調査 がん化学療法に伴う貧血に対する治療方針. 日本輸血細胞治療学会総会 (第 61 回) (パシフィコ横浜), 2014.
 - 2) 勝俣範之：医師主導型大規模臨床試験成功への鍵 (医師主導型大規模臨床試験を成功させるには). 婦人科がん会議 (第 10 回) (宝塚ホテル), 2013. 6.
 - 3) 勝俣範之：がん化学療法に伴う悪心・嘔吐対策. 日本乳癌学会学術総会 (第 21 回) (アクトシティ浜松), 2013.

- 6.
- 4) 勝俣範之：発熱性好中球減少症のマネジメント（G-CSFの使い方を中心に）．日本乳癌学会学術総会（第21回）（アクトシティ浜松），2013．6．
 - 5) 勝俣範之：脳転移の治療戦略．日本乳癌学会学術総会（第21回）（アクトシティ浜松），2013．6．
 - 6) 勝俣範之：乳がん（Molecular target）．Best of ASCO 2013 in Japan（パシフィコ横浜），2013．7．
 - 7) 勝俣範之：再発卵巣がん治療のUp-date（再発卵巣癌化学療法）．日本婦人科腫瘍薬器学術講演会（第54回）（ホテルグランパシフィック LE DAIBA（）），2013．7．
 - 8) 勝俣範之，佐藤恵子¹⁾（¹⁾ 京都大学医学研究科）：倫理セミナー（ナイスな研究計画書を作ろう）．日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第54回）（ホテルグランパシフィック LE DAIBA（港区）），2013．7．
 - 9) 勝俣範之：子宮頸部扁平上皮癌に対する化療薬を用いた新たな治療戦略．日本婦人科腫瘍学会（第54回）（港区），2013．6．
 - 10) 勝俣範之，酒井 瞳，門倉玄武，原野謙一，小野寺恵子¹⁾，此松晶子²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院看護部，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部）：がん治療医（臨床腫瘍医）ができる就労支援．日本臨床学会学術集会（第11回）（仙台国際センター），2013．8．
 - 11) 勝俣範之：医学生・研修医のための腫瘍内科セミナー座談会座長．日本臨床腫瘍学会学術集会（第11回）（仙台国際センター），2013．8．
 - 12) 酒井 瞳，原野謙一，勝俣範之：化学療法の relative dose intensity に関する医師の実態調査．第11回日本臨床学会学術集会（第11回）（仙台国際センター），2013．8．
 - 13) 松本光史¹⁾，勝俣範之，柴田太郎²⁾，高野忠夫³⁾，西村隆一郎¹⁾，笠松高安⁴⁾，福田治彦²⁾，小西郁生⁵⁾，嘉村敏治⁶⁾（¹⁾ 兵庫県立がんセンター腫瘍内科，²⁾ 国立がん研究センターJCOG データセンター，³⁾ 東北大学医学部産婦人科，⁴⁾ 国立がん研究センター中央病院婦人腫瘍科，⁵⁾ 京都大学医学部附属病院産科婦人科，⁶⁾ 久留米大学医学部産科婦人科）：プラチナ耐性・タキサン既治療卵巣癌に対する経口エトポシド+静注イリノテカン併用の第二相試験（JCOG0503）．日本臨床学会学術集会（第11回）（仙台国際センター），2013．8．
 - 14) 河知あすか¹⁾，温泉川真由²⁾，勝俣範之，山本春風²⁾，公平誠²⁾，米盛勸²⁾，清水千佳子²⁾，安藤正志²⁾，田村研治²⁾，藤原康弘²⁾（¹⁾ 埼玉医科大学 医学部国際医療センター 腫瘍内科，²⁾ 国立がん研究センター中央病院/乳腺・腫瘍内科）：再発子宮頸がんに対するシスプラチン/S-1 併用療法の feasibility 試験．日本臨床学会学術集会（第11回）（仙台国際センター），2013．8．

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Davies C, Pan H, Godwin J, Gray R, Arriagada R, Raina V, Abraham M, Medeiros VH, Badran A, Bonfill X, Bradbury J, Clarke M, Collins R, Davis SR, Katsumata N : Long-term effects of continuing adjuvant tamoxifen to 10 years versus stopping at 5 years after diagnosis of oestrogen receptor-positive breast cancer : ATLAS, a randomised trial. Lancet 2013.

[千葉北総病院呼吸器内科]

研究概要

[千葉北総病院呼吸器内科] 研究概要内科学（呼吸器，感染，腫瘍部門）を担当し大学付属病院として教育，臨床研究を担う以外に地域の中核病院として，以上の三分野について多くの臨床研究実績を持つ。（1）呼吸器病学：特発性間質性肺炎の治療法の開発，慢性閉塞性肺疾患にともなう肺高血症治療，睡眠時無呼吸症候群の肺循環の超音波評価，

気管支拡張症に対する血清診断分類の開発, 気管支喘息重責発作時の非侵襲的陽圧換気法の評価, 呼吸困難感の評価, 呼吸器疾患に対する大うつ, 閾値下うつ病の潜在診断, 咳喘息の治療評価慢性閉塞性肺疾患の地域連携の方法論の確立新しい呼吸抵抗の評価 (RINT, MOSTGRAPH を用いた) (2) 感染症学: 市井肺炎の診断と経口抗生剤治療, 肺炎入院治療パスの開発, 病院感染対策, 各種院内感染サーベイランス, 院内肺炎の予防, 特殊感染症診断制御, 結核による院内感染制御, 肺非定型抗酸菌症の治療, RST: 呼吸サポートチームの運営と人工呼吸器肺炎の, 評価医療関係者および看護学生に対する麻疹, インフルエンザ, 風疹の抗体価測定と予防接種, 病院内耐性菌サーベイランス, マクロライドによる各種慢性肺疾患の急性増悪の制御, マクロライド抗菌薬の新作用開発 (3) 臨床腫瘍学: 肺癌抗癌剤化学療法と副作用対策, 肺癌の分子生物学的治療標的に対する至適治療法の確立, 肺癌の超音波気管支内視鏡 (EBUS) 診断, 抗癌剤による副作用としての薬剤性肺臓炎の診断と治療以上につき臨床研究を継続中である. (4) 呼吸器疾患の地域連携システムの開発かねてより慢性閉塞性肺疾患患者に対する General practitioner との手帳を用いた地域連携を進めてきた. これに加えて吸入指導や服薬指導を地域で行うべく手帳による呼吸器疾患医薬連携システムを構築している.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Tanaka Y, Hino M, Mizuno K¹⁾, Gemma A²⁾ (1) Department of Cardiology Nippon Medical School, 2) Department of Respiratory Nippon Medical School) : Evaluation of Right Ventricular Function in Patients With COPD. *Respiratory Care* 2013 ; 58 (5) : 816-823.
- 2) Tanaka Y, Hino M, Gemma A¹⁾ (1) Department of Respiratory , Nippon Medical School) : Assessment of the relationship between right ventricular function and the severity of obstructive sleep-disordered breathing. *Clin Respir J* 2013.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 濱名輝彦, 蛸井浩行, 福泉 彩, 恩田直美, 小齊平聖治, 本橋典久, 田中庸介, 日野光紀 : Amyopathic dermatomyositis の 1 例. 日本結核病学会関東支部学会 (第 165 回) 日本呼吸器学会関東地方会 (第 208 回) 合同学会 (文京区), 2014. 2.

8. 精神医学

[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

研究概要

精神疾患の病態を解明し、より科学的で適切な治療法を開発することを目的に、診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を中心に行った。その際に、標準化された精神科診断学、症状評価法とともに各種の画像解析法を駆使し、精神障害の症状や病態を可能な限り科学的に捉えることに心がけた。今年度は以下の研究を行った。1. 分子イメージングを用いた精神疾患の病態研究：ポジトロン CT (PET) による神経伝達機能イメージングを用いて、統合失調症および気分障害など精神疾患の神経伝達機能異常を調べた。アルツハイマー病の早期診断法の確立を目指して、アミロイドイメージングの開発研究を行った。さらにタウイメージングを新規に開発導入した。2. 分子イメージングを用いた向精神薬の評価に関する研究：PET を用いて、抗精神病薬・抗うつ薬の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化の関連を調べ、治療効果の客観的評価法の開発を目指した。3. 向知性薬によるドーピング効果の検出法の開発研究：PET および fMRI を用いて、ドパミン放出、ドパミントランスポーター阻害作用、セロトニントランスポーター阻害作用、高次脳機能賦活に対する脳血流反応を調べ、向知性薬によるドーピング効果の脳内基盤を調べ、向知性薬によるドーピング効果の検出法の開発研究を行った。4. 老年期精神障害および認知症に関する臨床研究を行った。5. 高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例に対する介入研究を行った。6. 児童思春期の精神障害に関する研究：子どものうつ病に関する研究を行った。さらに、子どもの精神症状および問題行動について質問紙を用い横断的、縦断的な理解を深める研究を行った。7. コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアに関する研究や調査を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Teranishi M¹⁾, Kurita M^{1,2)}, Nishino S^{1,2)}, Takeyoshi K¹⁾, Numata Y¹⁾, Sato T¹⁾, Tateno A, Okubo Y⁽¹⁾ Sato Hospital, ²⁾ Department of Cellular Signaling, Graduate School of Pharmaceutical Science, Tohoku University): Efficacy and safety of risperidone, yokukansan and fluvoxamine for the treatment of behavioral and psychological symptoms in elderly patients with dementia. *Journal of Clinical Psychopharmacology* 2013 ; 33 (5) : 600-607.
- 2) Takano H¹⁾, Arakawa R¹⁾, Nogami T¹⁾, Suzuki M¹⁾, Nagashima T¹⁾, Fujiwara H¹⁾, Kimura Y¹⁾, Kodaka F¹⁾, Takahata K¹⁾, Shimada H¹⁾, Murakami Y²⁾, Tateno A, Yamada M¹⁾, Ito H³⁾, Kawamura K⁴⁾, et al. ⁽¹⁾Clinical Neuroimaging Team, Molecular Neuroimaging Program, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, ²⁾ Department of Medical Statistics, Shiga University of Medical Sciences, ³⁾ Biophysics Program, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, ⁴⁾ Department of Neuropsychiatry, Keio University School of Medicine) : Norepinephrine transporter occupancy by nortriptyline in patients with depression : A positron emission tomography study with (S,S) - [18F] FMeNER-D2. *International Journal of Neuropsychopharmacology* 2013 ; 17 (4) : 553-560.
- 3) Shingai Y, Tateno A, Arakawa R¹⁾, Sakayori T, Kim W, Suzuki H²⁾, Okubo Y ⁽¹⁾ Department of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, ²⁾ Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Age-related decline in dopamine transporter in human brain

- using PET with a new radioligand [18F] FE-PE2I. *Annals of Nuclear Medicine* 2014 ; 28 (3) : 220-226.
- 4) Sakayori T, Tateno A, Arakawa R¹⁾, Ikeda Y²⁾, Suzuki H²⁾, Okubo Y (¹⁾ Department of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, ²⁾ Department of Pharmacology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Effect of mazindol on extracellular dopamine concentration in human brain measured by PET. *Psychopharmacology* 2014 ; 231 (11) : 2321-2325.
 - 5) Ogawa K¹⁾, Tateno A, Arakawa R²⁾, Sakayori T, Ikeda Y³⁾, Suzuki H³⁾, Okubo Y (¹⁾ Yowa Hospital, ²⁾ Department of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, ³⁾ Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Occupancy of serotonin transporter by tramadol : a positron emission tomography study with [11C] DASB. *The International Journal of Neuropsychopharmacology* 2014 ; 17 (6) : 845-850.
 - 6) 木村真人, 堀 輝¹⁾, 中村 純¹⁾, 小野浩昭²⁾, 上島国利³⁾, Admire Study Group (¹⁾ 産業医科大学医学部精神医学教室, ²⁾ 大塚製薬株式会社, ³⁾ 国際料福祉大学) : 大うつ病性障害を対象とした aripiprazole 補助療法の長期投与における有効性および安全性に関する非盲検試験. *臨床精神薬理* 2014 ; 17 (3) : 401-411.
 - 7) Koeda M^{1, 2)}, Hidehiko T³⁾, Masato M⁴⁾, Kunihiro A⁵⁾, Yoshiro O¹⁾ (¹⁾ Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Voice Neurocognition Lab, The Centre for Cognitive Neuroimaging, The Institute of Neuroscience and Psychology, University of Glasgow, Glasgow, UK, ³⁾ Department of Psychiatry, Kyoto University, Kyoto, Japan, ⁴⁾ Department of Biofunctional Informatics, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Asai Hospital, Chiba, Japan) : Cerebral responses to vocal attractiveness and auditory hallucinations in schizophrenia : a functional MRI study. *Frontiers in Human Neuroscience* 2013 ; 7 (221) : 1-13.
 - 8) Hatta K¹⁾, Kishi Y, Takeuchi T²⁾, Ken W³⁾, Odawara T⁴⁾, Usui C¹⁾, Machida Y¹⁾, Nakamura H⁵⁾ (¹⁾ Juntendo University Nerima Hospital, ²⁾ Tokyo Medical and Dental University, ³⁾ Hiroshima City University, ⁴⁾ Yokohama City University, ⁵⁾ Kanazawa University) : The predictive value of a change in natural killer cell activity for delirium. *Progress in neuro-psychopharmacology & biological psychiatry* 2014 ; 48 : 26-31.
 - 9) Hatta K, Kishi Y, Wada K, Odawara T, Shigenami T, Tuchiya K, Oshima Y, Uchimura N, Akaho R, Watanabe A, Taira T, Nishimura K, Hashimoto N, Usui C, Nakamura H : Antipsychotics for delirium in the general hospital setting in consecutive 2453 inpatients : a prospective observational study. *Int J Geriatr Psychiatry* 2014 ; 29 (3) : 253-262.
 - 10) Franco J, Trzepacz P, Meagher D, Kean J, Lee Y, Kim J, Kishi Y, Furlantetto L, Negreiros D, Huang M, Chen C, Leonard M, De Pablo J : Three core domains of delirium validated using exploratory and confirmatory factor analyses. *Psychosomatics* 2013 ; 54 (3) : 227-238.
 - 11) 戸井田真木, 河西千秋, 三宅康史, 岸 泰宏, 大塚耕太郎, 荒川亮介, 河嶋 譲 : 救急医療従事者の自殺予防に関する知識と態度. *精神医学* 2014 ; 56 (1) : 53-58.
 - 12) 下田健吾, 近藤大三¹⁾, 小田原俊成¹⁾, 栗田圭一²⁾, 池尻義隆³⁾, 高橋 晶⁴⁾, 竹内文一⁵⁾, 長谷川朝穂⁶⁾, 藤原修一郎⁷⁾, 吉田常孝⁸⁾, 吉村匡史⁹⁾, 田子久夫¹⁰⁾ : 日本総合病院精神医学会会員に対する認知症診療に関するアンケート調査. *総合病院精神医学* 2013 ; 25 (2) : 171-177.
 - 13) Hirano J, Okubo Y, et al. : An open-label study of algorithm-based treatment versus treatment-as-usual for patients with schizophrenia. *Neuropsychiatr Dis Treat* 2013 ; 9 : 1553-1564.
 - 14) Suzuki M, Ito H, Kodaka F, Takano H, Kimura Y, Fujiwara H, Sasaki T, Takahara K, Nogami T, Nagashima T, Kawamura K, Zhang M, Varrone A, Halldin C, Okubo Y, et al. : Reproducibility of PET measurement for presynaptic dopaminergic functions using L- [β - (11) C] DOPA and [(18) F] FE-PE2I in humans. *Nucl Med Commun* 2014 ; 35 (3) : 231-237.

- 15) Takano H, Arakawa R, Nogami T, Suzuki M, Nagashima T, Fujiwara H, Kimura Y, Kodaka F, Takahara K, Shimada H, Murakami Y, Tateno A, Yamada A, Ito H, Kawamura K, et al. : Norepinephrine transporter occupancy by nortriptyline in patients with depression : a positron emission tomography study with (S,S) - [18F] FMeNER-D2. *Int J Neuropsychopharmacol.* 2014 ; 17 (4) : 553-560.
- 16) Koeda M, Takahashi H, Matsuura M, Asai K, Okubo Y : Cerebral responses to vocal attractiveness and auditory hallucinations in schizophrenia : a functional MRI study. *Front Hum Neurosci.* 2013 ; 7 : 221.
- 17) Tateno A, Arakawa R, Okumura M, Fukuta H, Honjo K, Ishihara K, Nakamura H, Kumita S, Okubo Y : Striatal and extrastriatal dopamine D2 receptor occupancy by a novel antipsychotic, blonanserin : a PET study with [11C] raclopride and [11C] FLB 457 in schizophrenia. *J Clin Psychopharmacol.* 2013 ; 33 (2) : 162-169.
- 18) Saji K, Ikeda Y, Kim W, Shingai Y, Tataeno A, Takahashi H, Okubo Y, Fukayama H, Suzuki H : Acute NK1receptor antagonist administration affects reward incentive anticipation processing in healthy volunteers. *Int J Neuropsychopharmacol.* 2013 ; 16 (7) : 1461-1471.

(2) 総説 :

- 1) 成重竜一郎 : 単科精神科病院における地域医療としての児童思春期精神科医療の試み (シンポジウム 8 : 地域児童精神医学). *児童精神医学とその近接領域* 2013 ; 54 (4) : 448-453.
- 2) 木村真人 : 【特集 高齢者の神経疾患と「うつ」】脳血管障害と「うつ」. *老年精神医学雑誌* 2014 ; 25 (1) : 25-33.
- 3) 木村真人 : 特集「包括的なうつ病管理の実践 メンタルケアを取り入れたディジーズマネジメント」脳卒中 : うつ病の診断と治療. *看護技術* 2014 ; 60 (1) : 35-38.
- 4) 岡田知弥子¹⁾, 太田杏奈, 大和田陽代, 佐々木優子¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 特集「包括的なうつ病管理の実践 メンタルケアを取り入れたディジーズマネジメント」脳卒中 : うつ状態に対する看護の視点とケア. *看護技術* 2014 ; 60 (1) : 39-41.
- 5) 下田健吾, 木村真人 : 循環器疾患における抗うつ薬について学ぶ. 特集「循環器疾患患者のメンタルケア : ところに寄り添い, 支える看護. *Heart* 2013 ; 3 (11) : 69-75.
- 6) 木村真人, 小林士郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 駒場祐一²⁾, 下田健吾, 秋山友美 (¹⁾ 脳神経外科, ²⁾ 神経内科) : 特集「精神疾患地域連携クリティカルパス」脳卒中地域医療連携パスにおけるうつ病の評価と治療. *日社精医誌* 2013 ; 22 (2) : 147-154.
- 7) 下田健吾, 木村真人 : 特集「高齢者のうつ病」うつ病と認知症の見分け方・関連性. *Aging & Health* 2013 ; 22 (1) : 15-18.
- 8) 平林直次, 清水 研, 岸 泰宏 : 【精神科診療に必要な書式マニュアル第三版】(第8章) 指定医・専門医資格申請用の症例レポート 日本総合病院精神医学会症例報告. *臨床精神医学* 2013 ; 42 (増刊) : 344-348.
- 9) 岸 泰宏 : 高齢者の精神症状 - その鑑別診断と治療 -] 高齢者によくみられる精神症状の鑑別診断と治療 せん妄. *日本臨床* 2013 ; 71 (10) : 1738-1742.
- 10) 岸 泰宏 : 【せん妄の診断と治療の現在 II】せん妄のスクリーニングと症状評価に用いる尺度. *精神科治療学* 2013 ; 28 (9) : 1115-1121.
- 11) 岸 泰宏 : 【早期診断・早期治療の功罪】身体疾患患者におけるうつ病の早期発見・早期治療. *精神科治療学* 2013 ; 28 (11) : 1431-1436.
- 12) 岸 泰宏 : 心臓血管手術と術後譫妄を考える 術後せん妄の診断と対応. *Cardiovascular Anesthesia* 2013 ; 17 (1) : 9-16.
- 13) 岡田知弥子, 太田杏奈¹⁾, 大和田陽代, 佐々木優子¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科看護部) : 特集「包括的なうつ病管理の実践 メンタルケアを取り入れたディジーズマネジメント」脳卒中 : うつ状態に対する看護の視点と

ケア. 看護技術 2014; 60 (1): 39-41.

- 14) 上田 論: 発作脳波の有効性判定と 1.5 倍の刺激% 上げ幅が必須—パルス波 ECT 施行の前提と倫理—. 臨床精神医学 2013; 42 (4): 421-428.
- 15) 上田 論: 電気けいれん療法のエビデンス—施行方法が効果と安全性を決める—. 老年精神医学雑誌 2013; 24 (5): 471-478.
- 16) 上田 論: 治療反応性からみた初老・老年期うつ病の亜型分類. 臨床精神医学 2013; 42 (7): 881-888.
- 17) 上田 論: 「治さなくてよい」認知症治療—くすりより生活の張り合いを. 井原裕, 松本俊彦, よくしゃべる精神科医の会編: くすりにたよらない精神医学 (こころの科学増刊) 2013; 増刊: 106-110.
- 18) 上田 論: 認知症の早期発見と抗認知症薬の意義: 薬物より自己肯定感回復の対応を. 精神科治療学 2013; 28 (11): 1447-1452.

(3) 解説:

- 1) 下田健吾: 医療保護入院中の患者の自殺未遂を避けなかった過失があるなどとして, 損害賠償を求めた事例. 医療判例解説 2013; (42): 10-12.
- 2) 下田健吾: 患者の自殺は医師による過剰な投薬の副作用が原因であるなどと主張して, 損害賠償を求めた事例. 医療判例解説 2013; (42): 40-42.

(4) 巻頭言:

- 1) 下田健吾: 特集: BPSD—介護者を悩ませる症状を理解し対処するために 特集にあたって. 認知症の最新医療 2013; 3 (2): 61-61.

(5) 症例報告:

- 1) Tateno A, Sakayori T, Okubo Y: Amyloid PET imaging for the differential diagnosis of Alzheimer's disease. Journal of Nippon Medical School 2014; 81 (1): 2-3.
- 2) 上田 論, 鈴木一正¹⁾ (1) 松田会エバーグリーン病院): ECT 死亡例は発作により異型狭心症を毎回生じていた可能性—修正型電気けいれん療法施行後に心室頻拍を呈し回復が困難だった 1 例 (本誌 55: 33-35, 2013) の発作時モニター記録に基づく検討. 精神医学 2013; 55 (7): 673-676.

著 書

- 1) 木村真人: [監修] 脳卒中における臨床神経精神医学 第 2 版 (ロバート・G・ロビンソン著) (監訳 木村真人), 2013; 星和書店.
- 2) 木村真人: [翻訳] 第 15 章失語症とうつ病との関連, 第 II 部脳卒中後うつ病. 脳卒中における臨床神経精神医学 第 2 版 (ロバート・G・ロビンソン著) (監訳 木村真人), 2013; pp181-189, 星和書店.
- 3) 木村真人: [翻訳] 第 16 社会的機能とうつ病との関係, 第 II 部脳卒中後うつ病. 脳卒中における臨床神経精神医学 第 2 版 (ロバート・G・ロビンソン著) (監訳 木村真人), 2013; pp190-205, 星和書店.
- 4) 木村真人: [翻訳] 第 IV 部脳卒中後不安障害. 脳卒中における臨床神経精神医学 第 2 版 (ロバート・G・ロビンソン著) (監訳 木村真人), 2013; pp343-381, 星和書店.
- 5) 岸 泰宏: [分担] 過換気症候群. 今日の治療指針 2014 (福井次矢 高木誠 小室一成), 2014; pp35-36, 医学書院.
- 6) 岸 泰宏: [分担] 自殺企図と精神症状. 主要兆候別 ER 診療の実際 (三宅康史), 2013; pp64-81, 医学書院.
- 7) 下田健吾: [分担] 脳血管障害急性期の精神症状への対処. 脳神経外科診療プラクティス 1 脳血管障害の急性期マネジメント (清水宏明), 2014; pp64-65, 文光堂.
- 8) 上田 論: [分担] 認知症の診断 評価尺度. 認知症ハンドブック (中島健二, 天野直二, 下濱俊ほか), 2013; pp116-122, 医学書院.
- 9) 上田 論: [分担] 器質性脳障害における妄想. 妄想的臨床 (鹿島晴雄, 古城慶子, 古茶大樹ほか), 2013; pp413-

423, 新興医学出版社.

- 10) 上田 諭：〔分担〕電気けいれん療法とその他の身体療法. 統合失調症（福田正人, 糸川昌成, 村井俊哉ほか）, 2013；医学書院.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Kishi Y：The value of consultation liaison psychiatry. Korean Neuropsychiatric Association, 2013 Annual Meeting；(Gyeongju, Korea.), 2013. 10.

(2) 教育講演：

- 1) 岸 泰宏：循環器疾患とうつ. 第70回日本循環器心身医学会総会（東京）, 2013. 11.

(3) シンポジウム：

- 1) 成重竜一郎：3次救急医療施設での自殺未遂者介入から見た子どもの自殺企図の特徴（シンポジウム9：子どもの自殺を巡って）. 日本児童青年精神医学会総会（第54回）（札幌）, 2013. 10.
- 2) 館野 周：うつ病の鑑別診断から初期治療まで（初診時診察の基本を学ぶ）. 日本精神神経学会総会（第109回）（福岡）, 2013. 5.
- 3) Koeda M^{1, 2)} ⁽¹⁾ Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ Voice Neurocognition Laboratory, Center for Cognitive Neuroimaging and Department of Psychology, University of Glasgow, UK)：Cross-cultural Differences of Cerebral Responses to Nonverbal Affective Vocalizations by Caucasian and Asian Listeners：An fMRI Study. Emotion in social interactions and mental health (University of Glasgow), 2013. 4.
- 4) 岸 泰宏：統合失調症の内科・外科疾患はどこで治療・管理されるべきか？. 第9回日本統合失調症学会（京都）, 2014. 3.
- 5) 岸 泰宏：せん妄の診断と評価スケール. 第26回日本総合病院精神医学会（京都）, 2013. 11.
- 6) 岸 泰宏：リエゾン精神医学におけるアウトリーチの重要性：世界の現状. 第26回日本総合病院精神医学会（京都）, 2013. 11.
- 7) 東岡宏明, 三宅康史, 松月みどり, 河西千秋, 大塚耕太郎, 岸 泰宏, 三上克央, 秋山恵子, 柳澤八重子, 坂本由美子：精神科救急と教育コース 救急医療における精神症状評価と初期診療の標準化に向けて PEEC コースの紹介. 第16回日本臨床救急医学会（東京）, 2013. 7.
- 8) 秋山恵子, 三宅康史, 東岡宏明, 松月みどり, 河西千秋, 大塚耕太郎, 岸 泰宏, 三上克央, 柳澤八重子, 川嶌讓：精神科救急と教育コース 救急医療における臨床心理士の役割. 第16回日本臨床救急医学会（東京）, 2013. 7.
- 9) 三宅康史, 東岡宏明, 松月みどり, 河西千秋, 大塚耕太郎, 岸 泰宏, 三上克央, 秋山恵子, 柳澤八重子, 川嶌讓：精神科救急と教育コース PEEC コースの開発 日本臨床救急医学会の取り組み. 第16回日本臨床救急医学会（東京）, 2013. 7.
- 10) 岸 泰宏, 大塚耕太郎：精神科救急と教育コース PEEC (Psychiatric Evaluation in Emergency Care) と日本総合病院精神医学会. 第16回日本臨床救急医学会（東京）, 2013. 7.
- 11) Kishi Y：Challenges in creating integrated care programs throughout the world：Japan. European Association of Psychosomatic Medicine Annual Meeting (Cambridge, England), 2013. 7.
- 12) 上田 諭：ECTの有効性を高めるには（ECTの進歩とTMSへの期待）. 日本精神神経学会（第109回）（福岡市）, 2013. 5.
- 13) 上田 諭：老年期に生じやすい危機：うつ病は身体の病（女性のライフステージと心身症）. 日本心身医学会（第54回）（横浜市）, 2013. 6.

14) 上田 諭：ECT の効果と安全に不可欠な手技 (ECT/TMS の今後). 日本総合病院精神医学会 (第 26 回) (京都市), 2013. 11.

(4) セミナー：

- 1) 木村真人：脳卒中後のうつとアパシー. 第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会 (島根), 2013. 11.
- 2) 木村真人：高齢者うつ病の病態と治療～脳卒中後うつ病を含めて～. 第 2 回日本精神科医学会学術大会 (埼玉), 2013. 11.
- 3) 木村真人：高齢者うつ病の病態と治療～脳卒中後うつ病を含めて～. 第 66 回九州精神神経学会・第 59 回九州精神医療学会 (鹿児島), 2013. 11.
- 4) 木村真人：見逃すな！脳卒中後のうつ～その病態と治療～. 第 16 回日本病院脳神経外科学会 (広島), 2013. 7.
- 5) 木村真人：高齢者うつ病における診断と治療. 第 54 回日本心身医学会総会 (神奈川), 2013. 6.
- 6) 木村真人：見逃すな！脳卒中後のうつ～その病態と治療～. 第 54 回日本心身医学会総会 (神奈川), 2013. 6.
- 7) 木村真人：見逃すな！脳卒中後のうつ～その病態と治療～. 第 22 回日本脳ドック学会総会 (宮城), 2013. 6.
- 8) 木村真人：高齢者うつ病の病態と治療～脳卒中後うつ病を含めて～. 第 28 回日本老年精神医学会 (大阪), 2013. 6.

(5) ワークショップ：

- 1) 中嶋義文, 清水 研, 和田 健, 木村真人, 桂川修一, 高畑紳一：コンサルテーション・リエゾン精神医学とその治療学. 第 109 回日本精神神経学会学術総会 (福岡), 2013. 5.
- 2) 下田健吾：大うつ病性障害患者における薬物治療. 精神科臨床薬学研究会 (千葉), 2014. 1.

(6) 一般講演：

- 1) Sabri O¹⁾, Seibyl J²⁾, Ishihara K³⁾, Tateno A, Drzezga A⁴⁾, Grimmer⁴⁾, Senda M⁵⁾, Yamamoto Y⁶⁾, Reininger C⁷⁾, Barthel H¹⁾ (1) University of Leipzig, 2) MNI, 3) Department of Radiology, Nippon Medical School, 4) Technical University Munich, 5) IBRI, 6) Kobe University Hospital, 7) Bayer HealthCare) : Close to clinical routine phase 2 trial on Florbetaben PET imaging of beta-amyloid (AB) in Alzheimer's disease (AD). Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging's 2013 (Vancouver, Canada), 2013. 6.
- 2) Tateno A, Sakayori T, Higuchi M¹⁾, Suhara T¹⁾, Ishihara K²⁾, Kumita S³⁾, Okubo Y (1) Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 2) Clinical Imaging Center for Healthcare, Nippon Medical School, 3) Department of Radiology, Nippon Medical School) : Amyloid associated depression : Amyloid imaging with [18F] florbetapir in geriatric depression. Neuro 2013 (Kyoto), 2013. 6.
- 3) Kim W, Tateno A, Ryosuke A¹⁾, Sakayori T, Ikeda Y²⁾, Suzuki H²⁾, Okubo Y (1) Department of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, 2) Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Evaluation of doping effect of nootropics by positron emission tomography. Neuro2013 (Luftp), 2013. 6.
- 4) Masayo T, Okubo Y, Ueda S, Tateno A, Sakayori T : Amyloid imaging PET for an elderly patient with delusional disorder. World Congress of Biological Psychiatry (11th) (Kyoto), 2013. 6.
- 5) Sakayori T, Yamamoto K, Tomita R, Otaka Y, Kim W, Tateno A, Okubo Y : Diagnostic usefulness of dopamine transporter imaging by positron emission tomography for patients with parkinsonism. World Congress of Biological Psychiatry (11th) (Kyoto), 2013. 6.
- 6) Sato H¹⁾, Ishihara K²⁾, Suda M²⁾, Tateno A, Okubo Y, Kumita S¹⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School, 2) Clinical Imaging Center for Healthcare, Nippon Medical School) : Whole brain gray matter and white matter contrast analysis of 18F-florbetapir (AV-45) for diagnosis Alzheimer's disease. Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine (2013) (Lyon, France), 2013. 10.
- 7) Sabri O¹⁾, Seibyl J²⁾, Ishihara K³⁾, Tateno A, Drzezga A⁴⁾, Grimmer T⁵⁾, Senda M⁶⁾, Yamamoto Y⁷⁾,

- Gertz H⁸, Barthel H¹) (¹) University of Leipzig, ²) MNI, ³) Department of Radiology, Nippon Medical School, ⁴) University of Colongne, ⁵) Technical University Munich, ⁶) IBRI, ⁷) Kobe University, ⁸) Bayer Health-care) : Beta-Amyloid PET Imaging in Alzheimer's Disease in a Close to Clinical Routine Situation - Results of a Multi-Center Phase 2 Trial. Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine (2013) (Lyon, France), 2013. 10.
- 8) Karibe H¹), Koeda M, Tateno A, Suzuki H²), Okubo Y (¹) Department of Pediatric Dentistry, Nippon Dental University, ²) Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Brain activity during the presentation of dental treatment sounds : an fMRI study. Neuroscience 2013 (San Diego, U.S.A.), 2013. 11.
- 9) 金 禹瑣, 館野 周, 坂寄 健, 荒川亮介, 大久保善朗 : モダフィニルの PET 神経画像評価. 日本精神神経学会 (109 回) (福岡), 2013. 5.
- 10) 富田理紗子, 大久保善朗, 館野 周, 山本正浩, 澤谷 篤, 能登雅明, 坂寄 健, 山本 憲 : prochlorperazine と paroxetine の併用によりパーキンソン症状が出現した 1 症例. 日本精神神経学会 (109 回) (福岡), 2013. 5.
- 11) 坂寄 健, 石田留生, 成重竜一郎, 上田 諭, 館野 周, 大久保善朗 : 希望の性別の妊娠児でないことを背景に心気妄想を生じたうつ病の症例. 日本精神神経学会 (109 回) (福岡), 2013. 5.
- 12) 安田 毅, 館野 周, 大久保善朗 : 日本医科大学付属病院における精神科身体合併症管理の現況についての報告. 日本総合病院精神医学会 (第 26 回) (京都), 2013. 11.
- 13) 山本正浩, 館野 周, 大久保善朗 : 日本医科大学付属病院精神科における初診患者に関する検討. 日本総合病院精神医学会 (第 26 回) (京都), 2013. 11.
- 14) 坂寄 健, 本間 博, 峯 尚子, 松本早栄子, 金 禹瑣, 上田 諭, 館野 周, 大久保善朗 : 精神科訪問看護導入にて自宅生活状況の改善が得られた症例. 日本総合病院精神医学会 (第 26 回) (京都), 2013. 11.
- 15) 成重竜一郎, 大高靖史, 齊藤卓弥, 大久保善朗 : 自殺未遂者の心理社会的特性と自殺企図手段との関係性に関する検討. 日本精神神経学会学術総会 (第 109 回) (福岡), 2013. 5.
- 16) Tateno A, Takeshi S, Senzaki A¹), Okubo Y (¹) Tokyo University of Social Welfare) : Amyloid plaque among patients with mild cognitive impairment following traumatic brain injury detected by [18F] florbetapir. World Congress on Brain Injury (10th) (San Francisco, U.S.A.), 2014. 3.
- 17) Koeda M^{1, 2}), Fleming D²), Paquette S²), Crabbe F²), Belin P²) (¹) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²) Voice Neurocognition Laboratory, Center for Cognitive Neuroimaging and Department of Psychology, University of Glasgow, UK) : Cross-cultural Differences of Cerebral Responses to Nonverbal Affective Vocalizations by Caucasian and Asian Listeners : An fMRI Study. The Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (The 19th) (Seattle, WA, USA), 2013. 6.
- 18) 八田耕太郎, 岸 泰宏, 和田 健, 竹内 崇, 小田原俊成, 白井千恵, 中村裕之 : ラメルテオンのせん妄予防効果に関する多施設共同プラセボ対照ランダム化臨床試験. 第 26 回日本総合病院精神医学会 (京都), 2013. 11.
- 19) 太組一朗, 浦 裕之, 定本清美, 高森寛子, 備前毅彦, 岸 泰宏, 森田明夫 : 抗てんかん薬の服薬アドヒアランス確認のためのカード型デバイスの開発. 第 47 回日本てんかん学会学術集会 (北九州市), 2013. 10.
- 20) 赤羽日出男, 岸 泰宏, 山口朋禎, 下地玉恵, 栗原香織, 二宮美香, 軽部みなど, 青山豊子, 若城由美子, 宮内秀典, 小泉嘉子 : 症状の進行したオピオイド持続注患者の在宅医療への移行についての検討. 第 18 回日本緩和医療学会学術大会 (横浜), 2013. 6.
- 21) 若城由美子, 山口朋禎, 岸 泰宏, 二宮美香, 片岡博邦 : 治療が奏効しオピオイドを中止できた 1 例との関わり. 第 18 回日本緩和医療学会学術大会 (横浜), 2013. 6.
- 22) 秋山友美, 木村真人 : 光トポグラフィー検査の実際と有用性について. 第 37 回生命情報科学学会学術大会 (東京), 2014. 3.
- 23) 秋山友美, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人 : 大学病院精神科の外来患者におけるアドヒアランス調査. 第 26 回

- 日本総合病院精神医学会総会（京都），2013. 11.
- 24) 松本早栄子，宮吉孝明，池森紀夫，下田健吾，木村真人：内因性うつ病治療中に心不全を発症した49歳男性症例. 第26回日本総合病院精神医学会総会（京都），2013. 11.
 - 25) 松本早栄子，野上 毅，下田健吾，木村真人：リスペリドンが奏功した妄想性うつ病の1症例. 第36回北総精神科医会（千葉），2013. 10.
 - 26) 秋山友美，下田健吾，池森紀夫，木村真人：当科における外来患者のアドヒアランスについて. 第36回北総精神科医会（千葉），2013. 10.
 - 27) 木村真人，上島国利¹⁾，小野浩昭²⁾，Admire Study Group（¹⁾ 国際医療福祉大学，²⁾ 大塚製薬）：高齢大うつ病性障害を対象としたアリピプラゾールの長期投与における有効性及び安全性. 第23回 日本臨床精神薬理学会/第43回 日本神経精神薬理学会（沖縄），2013. 10.
 - 28) 太田杏奈，秋山友美，小泉公平，池森紀夫，下田健吾，木村真人：うつ病患者の不眠に対する精油を用いた足浴の効果について. 第29回日本催眠学会学術大会（東京），2013. 10.
 - 29) 下田健吾，木村真人：左右放線冠梗塞後の情動障害に対する抗うつ薬治療および反応性. 第10回日本うつ病学会総会（北九州），2013. 7.
 - 30) 木下恵理香，秋山友美，下田健吾，水成隆之¹⁾，木村真人（¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科）：脳卒中後うつ病における光トポグラフィー所見. 第10回日本うつ病学会総会（北九州），2013. 7.
 - 31) 秋山友美，竹村雅代，小泉公平，宮吉孝明，池森紀夫，下田健吾，木村真人：光トポグラフィー検査を受けた患者の神経心理学検査と波形パターンの検討. 第10回日本うつ病学会総会（北九州），2013. 7.
 - 32) 太田杏奈，今井希依，鎌田悠里，山田陽代，秋山友美，竹村雅代，皆川 薫，小泉公平，宮吉孝明，池森紀夫，下田健吾，木村真人：うつ病患者における精油を用いた足浴のリラクゼーション効果の検討. 第54回日本心身医学会総会（神奈川），2013. 6.
 - 33) 下田健吾，横田雅実，木村真人：VSRAD 解析におけるZスコア高値とうつ病の関連について. 第28回日本老年精神医学会（大阪），2013. 6.
 - 34) 下田健吾，木村真人：夕暮れ症候群にラメルテオンの少量投与が奏効した1例. 第109回日本精神神経学会学術総会（福岡），2013. 4.
 - 35) 竹村雅代，下田健吾，池森紀夫，宮吉孝明，小泉公平，木村真人：エスシタロプラム内服中にQT延長がみられ中止した1例について. 第18回千葉総合病院精神科研究会（千葉），2013. 4.
 - 36) 秋山友美，竹村雅代，小泉公平，宮吉孝明，池森紀夫，下田健吾，木村真人：光トポグラフィー検査による前頭部血流量とうつ状態の関連：健常者とうつ病患者の比較. 第18回千葉総合病院精神科研究会（千葉），2013. 4.
 - 37) Ueda S : Improvement of behavioral and psychological symptoms of dementia with intervention for social psychology of “Kiteod formula” : a case of Alzheimer’s disease. 13th International Geneva/Springfield Symposium on Advance of Alzheimer Therapy (Geneva, Swiss), 2014. 3.
 - 38) Ueda S, Omori A, Fukuta H¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Sakayori T, Ishizaka K²⁾, Saijo T³⁾, Yamamoto M, Okubo Y（¹⁾ Kurumegaoka Hospital, ²⁾ Asai Hospital, ³⁾ Saijo Clinic）：NIDS (Neuroleptic-induced deficit syndrome) in bipolar disorder with psychosis : three cases of prolonged treatment course. 13th International Forum on mood and anxiety disorder (Monte Carlo, Monaco), 2013. 11.
 - 39) 上田 諭：病識の存在を認め自己肯定感をもたらすアールツハイマー型認知症に対する精神療法の必要性. 日本精神病理学会（第35回）（京都市），2013. 10.
 - 40) 上田 諭：「症状」ではなく「生活」を診るAD診療—認知機能より「張り合い」に焦点. 日本認知症学会（第32回）（長野県松本市），2013. 11.
 - 41) 大高靖史，成重竜一郎，大久保善朗：救急医療機関退院後の自殺未遂者に対する地域フォローアップ体制の構築：医療機関と行政との連携による取組事例から. 総合病院精神医学会総会（第26回）（京都），2013. 11.

- 42) 大高靖史, 成重竜一郎, 大久保善朗: 救急医療機関に対する精神科医療チーム派遣の試み. 日本自殺予防学会総会 (第 37 回) (秋田), 2013. 9.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 上田 論: 認知症治療 薬の前にすべきこと. こころの科学 2013; 169: 11-17.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 大高靖史, 成重竜一郎, 川島義高, 与儀恵子¹⁾, 氏原将奈¹⁾, 村山雅子¹⁾, 小山佐智子¹⁾, 横田由美¹⁾, 大久保善朗 (¹⁾ 荒川区 障害福祉課): 救急医療機関退院後の自殺未遂者に対する地域フォローアップ体制の構築. 日本自殺予防学会総会 (第 24 回) (東京), 2012. 9.

9. 小児科学

[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科，小児外科，新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Prescott S, Pawankar R, Allen K, Campbell D : A global survey of changing patterns of food allergy burden in children. *World Allergy Organ J* 2013 ; 6 (1) : 21.
- 2) Sukumaran T, Pawankar R, Ouseph J : Asthma diagnosis and treatment - 1009. A clinical study of NE-C900 (OMRON) nebulizer. *World Allergy Organ J* 2013 ; 23 (6) : 9.
- 3) Passalacqua G, Baena-Cagnani C, Bousquet J, Canonica G, Casale T, Cox L, Durham S, Larenas-Linnemann D, Ledford D, Pawankar R, Potter P, Rosario N : Grading local side effects of sublingual immunotherapy for respiratory allergy : speaking the same language. *J Allergy Clin Immunol* 2013 ; 132 (1) : 93-98.
- 4) Tanaka Y, Nonaka M, Yamamura Y, Tagaya E, Pawankar R, Yoshihara T : Improvement of Eosinophilic Otitis Media by Optimized Asthma Treatment. *Allergy Asthma Immunol Res* 2013 ; 5 (3) : 175-178.
- 5) Craig T, PÜRÜN A, Bork K, Bowen T, Boysen H, Lockey R, Longhu H, Lumry M, Mager I, Martinez-Saguer, Pawankar R, B. L. Zuraw M, Maurer : WAO Guideline on the Management of Hereditary Angioedema. *World Allergy Organization Journal* 2012 ; 5 (12) : 182-189.
- 6) Nonaka M, Tanaka Y, Pawankar R, Yoshihara T : Orally inhaled fluticasone propionate improved chronic rhinosinusitis with co-morbid asthma : report of a case. *Asian Pac J Allergy Immunol* 2013 ; 1 : 84-87.
- 7) Tanaka Y, Nonaka M, Yamamura Y, Tagaya E, Pawankar R, Yoshihara T : Improvement of eosinophilic otitis media by optimized asthma treatment. *Allergy Asthma Immunol Res* 2013 ; 5 (3) : 175-178.
- 8) Nakata K, Sato N, Hirakawa K, Asakura T, Suzuki T, Ran Z, Asano T, Koike K, Ohno Y : Pattern recognition analysis of proton nuclear magnetic resonance spectra of the intestinal epithelial cells extracts under oxidative stress. *J Nippon Med Sch* (in press) 2014.
- 9) Kogawa K, Sato H, Asano T, Ohga S, Kudo K, Morimoto A, Ohta S, Wakiguchi H, Kanegane H, Oda M, Ishii E : Prognostic factors of Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis in children : Report of the Japan Histiocytosis Study Group. *Pediatr Blood Cancer* (in press) 2014.
- 10) Asano T, Kaizu K, Maeda M : Amoeboid neutrophils with few granules in childhood acute precursor B cell leukemia. *J Nippon Med Sch* (in press) 2013.
- 11) Igarashi T, Shimizu A, Yamaguchi H, Fukushima Y, Igarashi T, Takahashi H : A definitive diagnosis of mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma made at a second biopsy. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (6) : 475-480.
- 12) 吉野美緒, 重村朋子¹⁾, 市村美帆²⁾, 稲本絵里³⁾, 川尻泰樹⁴⁾, 増野智彦¹⁾, 松井 豊⁵⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学講座, 2) 目白大学, 3) 日本医科大学多摩永山病院, 4) 首都大学東京人文科学研究科, 5) 筑波大学 : 病院前救急診療活動に従事する看護師の精神的健康に関する研究. *日本臨床救急医学会雑誌* 2013 ; 16 (5) : 649-655.
- 13) Pawankar R, Hayashi M, Yamanishi S, Igarashi T : Thelper 17 cells in allergic airway disease. *Curr Opin Allergy Immunol* 2014 ; In press.

14) Pawankar R, Hayashi M, Yamanishi S : The microbiome and airway diseases. *Asthma Allergy Immunology Research* 2014 ; In press.

(2) 総説 :

- 1) パワンカールビー, 林 美雪 : 「世界と日本で増加する食物アレルギー」. 『保健室』 2013 ; (169) : 10-17.
- 2) 海津聖彦, 浅野 健 : 先天性オロト酸尿症 ; 血液症候群 (第2版) : そのほかの血液疾患を含めて : II 赤血球の異常, 貧血, 巨赤芽球性貧血. 日本臨床別冊 2013 ; 77-83.
- 3) 植崎秀彦, 浅野 健 : ホモシスチン尿症 ; 血液症候群そのほかの血液疾患を含めて - II 赤血球の異常, 貧血, 巨赤芽球性貧血. 日本臨床別冊 2013 ; 102-106.
- 4) 川上康彦 : てんかん入門編 適正な薬物療法導入のための基礎知識. アプライド・セラピューティクス 2013 ; 5 (1) : 23-32.
- 5) 川上康彦 : 代表的な症例と特殊な病態 ウイルス性脳炎. 救急・集中治療 2013 ; 25 (11・12) : 1392-1398.
- 6) 高瀬真人 : 小児の呼吸器疾患 子どもの咳を見直そう 呼吸器疾患の観察とケアのポイントを理解しよう 肺聴診の基礎. 小児看護 2014 ; 37 (1) : 17-25.
- 7) Kato M, Koh K, Manabe A, Saito T, Hasegawa D, Isoyama K, Kinoshita A, Maeda M, Okimoto Y, Kajiwara M, Kaneko T, Sugita K, Kikuchi A, Tsuchida M, Ohara A : No impact of high-dose cytarabine and asparaginase as early intensification with intermediate-risk pediatric acute lymphoblastic leukemia : Results of Randomized Trial TCCSG study L99-15. *J Haematol* 2014 ; 164 (3) : 376-383.
- 8) Ishida Y, Maeda M, Urayama K, Kiyotani C, Aoki Y, Kao S, Sakaguti S, Sugita K, Tokuyama M, Nakadate H, Ishii E, Tsuchida M, Ohara A : Secondary cancers among children with acute lymphoblastic leukaemia treated by the Tokyo Children's Cancer Study Group protocols : a retrospective cohort study. *Br Haematol* 2014 ; 164 : 101-112.
- 9) Nagai K, Ochi F, Maeda M, Ohga S, Kanegane H, Kogawa K, Suzuki N, Ishida Y, Okamura T, Waki-guchi H, Yasukawa M, Ishii E : Clinical characteristics and outcomes of Chediak-Higashi syndrome : a nationwide survey of Japan. *Pediatr Blood Cancer* 2013 ; 60 : 1582-1586.
- 10) Kato Y, Maeda M, Aoki Y, Ishii E, Ishida Y, Kiyotani C, Goto S, Sakaguchi S, Sugita K, Tokuyama M, Nakadate H, Kikuchi A : Pain management during bone marrow aspiration and biopsy in pediatric cancer patients *Pediatr. International* 2014 ; 13 (10) : 12283.
- 11) Vu Q, Wada T, Maeda M, Tama T, Tajima H, Tanaka R, Ohishi T, Yachie A : Clinical and immunophenotypic feature of atypical complete DiGeorge syndrome. *Pediatr International* 2013 ; 55 (1) : 2-6.
- 12) 前田美穂 : 慢性疾患と妊娠・周産期・トランジション 小児がん経験者. 小児科診療 2013 ; 76 (12) : 1941-1946.
- 13) 早川 潤, 前田美穂 : 頬部発赤. 小児内科 2013 ; 45 : 1882-1886.
- 14) 服部元史, 佐古まゆみ, 金子徹治, 松永 明, 芦田 明, 五十嵐徹, 伊丹儀友, 上田善彦, 大田敏之, 後藤芳充, 里村憲一, 平松美佐子, 伊藤秀一, 上村 治, 佐々木聡, その他9名 : 社会貢献本邦小児末期腎不全患者の疫学調査報告 とくに腎移植に関して. 日本臨床腎移植学会雑誌 2013 ; 1 (2) : 273-281.
- 15) 山縣邦弘, 八木澤隆, 中井 滋, 中山昌明, 今井圓裕, 服部元史, 五十嵐徹, 石村栄治, 井関邦敏, 伊丹儀友, 乳原善文, 笠井健司, 木全直樹, 剣持 敬, 佐古まゆみ, その他17名 : わが国の end stage kidney disease (ESKD) の現況. 移植 2013 ; 48 (4-5) : 225-235.
- 16) 服部元史, 佐古まゆみ, 金子徹治, 松永 明, 芦田 明, 五十嵐徹, 伊丹儀友, 上田善彦, 大田敏之, 後藤芳充, 里村憲一, 平松美佐子, 伊藤秀一, 上村 治, 佐々木聡 : 2006年~2011年末までの期間中に新規発生した20歳未満の小児末期腎不全患者の実態調査報告. 日本小児腎臓病学会雑誌 2013 ; 26 (2) : 330-340.
- 17) 山縣邦弘, 八木澤隆, 中井 滋, 中山昌明, 今井圓裕, 服部元史, 五十嵐徹, 石村栄治, 井関邦敏, 伊丹儀友,

乳原善文, 笠井健司, 木全直樹, 剣持 敬, 佐古まゆみ, その他 17 名: わが国の end stage kidney disease (ESKD) の現況. 日本透析医学会雑誌 2012; 45 (11): 1067-1076.

- 18) 秋葉 隆, 山縣邦弘, 五十嵐徹, 井関邦敏, 石村栄治, 伊丹儀友, 今井圓裕, 笠井健司, 木全直樹, 剣持 敬, 古菌 勉, 杉山 斉, 鈴木洋通, 田邊一成, 椿原美治, その他 11 名: わが国の end-stage kidney disease (ESKD) の現況. 日本腎臓学会雑誌 2013; 55 (1): 6-15.
- 19) 山縣邦弘, 八木澤隆, 中井 滋, 中山昌明, 今井圓裕, 服部元史, 五十嵐徹, 石村栄治, 井関邦敏, 伊丹儀友, 乳原善文, 笠井健司, 木全直樹, 剣持 敬, 佐古まゆみ, その他 17 名: 我が国の End stage kidney disease (ESKD) の現況. 日本小児腎臓病学会雑誌 2012; 25 (2): 178-189.
- 20) 海津聖彦^{1, 2)}, 浅野 健²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 日本医科大学千葉北総病院小児科): 先天性オロト酸尿症; 血液症候群 (第 2 版): そのほかの血液疾患を含めて: II 赤血球の異常, 貧血, 巨赤芽球性貧血. 日本臨床別冊 2013; 77-83.

(3) 症例報告:

- 1) 石田也寸志, 有瀧健太郎, 浅見恵子, 大園秀一, 前田美穂, 山口悦子, 堀部敬三, 加藤俊一, 藤本純一郎, 黒田達夫: 小児がん経験者のための長期フォローアップ手帳に関するアンケート調査. 日本小児血液・がん学会雑誌 2013; 50 (2): 220-226.

著 書

- 1) Pawankar R, Ozu C, Hayashi M, Yamanishi S: [分担] Air pollution, asthma and allergic airway diseases. Studies on Respiratory Disorders.(Ganguly NK, Jindal SK, Biswal S, Barnes PJ, Pawankar R), 2014; pp151-161, Springer (NY).
- 2) Naclerio R, Pawankar R: [分担] Allergic rhinitis as comorbidity of asthma. Asthma Comorbidities.(R. Lockey, D. Ledford.), 2013; Oxford University Press. NY..
- 3) Corren J, Baroody F, Pawankar R: [分担] Allergy and Non-Allergic Rhinitis. Allergy (Lemanske, Holgate), 2013; pp664-686, Middleton.
- 4) パワンカールルビー, 五十嵐徹: [分担] 救命救急の場面別に見たフィジカルアセスメント 2 アナフィラキシー. 「養護教諭のためのフィジカルアセスメント 2」(大谷尚子, 砂村京子, 萩津真理子), 2013; pp13-21, 日本小児医事出版.
- 5) 榑崎秀彦, 伊藤保彦: [分担] 小児全身性エリテマトーデスの治療薬の現況. 小児科 (0037-4121) 54 巻 8 号, 2013; pp1151-1159.
- 6) 榑崎秀彦, 藤野 修: [分担] 神経症候群 (第 2 版) その他の神経疾患を含めてリウマチ熱. 日本臨床 (0047-1852) 別冊神経症候群第 2 版 II, 2014; pp102-106, 日本臨床社.
- 7) 前田美穂: [自著] 小児がん治療後の長期フォローアップガイドライン. 小児がん治療後の長期フォローアップガイドライン, 2013; 医薬ジャーナル社.
- 8) 前田美穂: [自著] 急性リンパ性白血病. 小児がん治療後の長期フォローアップガイドライン, 2013; pp18-28, 医薬ジャーナル社.
- 9) 前田美穂: [自著] 神経系. 小児がん治療後の長期フォローアップガイドライン, 2013; pp18-28, 医薬ジャーナル社.
- 10) 前田美穂: [自著] 眼. 小児がん治療後の長期フォローアップガイドライン, 2013; pp18-28, 医薬ジャーナル社.
- 11) 前田美穂: [自著] 心臓. 小児がん治療後の長期フォローアップガイドライン, 2013; pp18-28, 医薬ジャーナル社.
- 12) 前田美穂: [自著] 輸血フォローアップガイドライン. 小児がん治療後の長期フォローアップガイドライン,

2013；pp18-28, 医薬ジャーナル社.

- 13) 大谷尚子, 五十嵐徹, 砂村京子, 荻津真理子：〔自著〕養護教諭のためのフィジカルアセスメント2. 教職員と見て学ぶ救命救急の基礎基本, 2013；日本小児医事出版社.
- 14) 山西慎吾：要注意者へのワクチン接種. 小児内科, 2013；pp143-144.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) パワンカールルビー：“Allergy a global health issue：burden, causative factors, socio-economics and comprehensive approaches’- the White book”. XIV Congress of Pediatrics (メキシコ, モンテレー), 2013. 4.
- 2) パワンカールルビー：“Allergy a global health issue：burden, causative factors, socio-economics and comprehensive approaches’- the White book”. XIV Congress of Pediatrics (メキシコ, モンテレー), 2013. 4.
- 3) パワンカールルビー：“Mast cells：master immunoregulators”. EAACI-WAO Congress 2013 Milan (イタリア, ミラノ), 2013. 6.
- 4) パワンカールルビー：Biodiversity and the microbiome in upper airways disease. Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology and Immunology 2013 (APAPARI 2013) (タイ, バンコク), 2013. 10.
- 5) パワンカールルビー：“A Global Public Health Problem and the Impact of Biodiversity and Climate Change：Need for a Call to Action”. Developmental Origins of Health and Disease 2013 (シンガポール), 2013. 11.
- 6) パワンカールルビー：Epithelial cell-immune cell interactions in allergic disease. Asia Pacific Congress of Allergy, Asthma and Clinical Immunology 2013 (台湾, 台北), 2013. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) パワンカールルビー：“Co-morbidities of Allergic rhinitis；asthma, rhinosinitis, OME, sleep disorders to the ARIA guidelines”. XIV Congress of Pediatrics (メキシコ, モンテレー), 2013. 4.
- 2) パワンカールルビー：“Co-morbidities of Allergic rhinitis；asthma, rhinosinitis, OME, sleep disorders to the ARIA guidelines”. XIV Congress of Pediatrics (メキシコ, モンテレー), 2013. 4.
- 3) パワンカールルビー：“Allergy prevention：New visions and strategies in early life”. the 7th Asia Pacific Nutrition Symposium (中国, 広州), 2013. 5.
- 4) パワンカールルビー：“Co-Morbidities of Allergic Rhinitis in Children：Asthma, Rhinosinitis, Ome and Sleep Disorders”. 20th IFOS World Congress Seoul Korea 2013 (韓国, ソウル), 2013. 6.
- 5) パワンカールルビー：“Immodulators and Biologics in the treatment of allergic rhinitis：Current and future perspectives”. 20th IFOS World Congress Seoul Korea 2013 (韓国, ソウル), 2013. 6.
- 6) パワンカールルビー：“Inflammation from Chronicity to Prevention”. Global Allergy Forum - Davos (スイス, ダボス), 2013. 6.
- 7) パワンカールルビー：“Gender and diversity considerations for worldwide allergy”. EAACI-WAO Congress 2013 Milan (イタリア, ミラノ), 2013. 6.
- 8) パワンカールルビー：“Importance of standardization in immunology and allergy”. 15th International Congress of Immunology in Milan (イタリア, ミラノ), 2013. 8.
- 9) パワンカールルビー：“Epithelial-immune cell interactions in airways inflammation”. Australasian Society of Clinical Immunology and Allergy (ASCA) (オーストラリア, パース), 2013. 9.
- 10) パワンカールルビー：Update on Allergic rhinitis management from pharmacotherapy to biologics. Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology and Immunology 2013 (APAPARI 2013) (タイ, バンコク), 2013. 10.
- 11) パワンカールルビー：WAO-APAPARI educational initiatives in Asia：Role of WAO. Asia Pacific Association

- of Pediatric Allergy, Respiriology and Immunology 2013 (APAPARI 2013) (タイ, バンコク), 2013. 10.
- 12) パワンカールルビー: "Patient-related Factors in Disease Control of Asthma and Rhinitis: From Safety to Compliance". Hong Kong Society of Paediatric Respiriology (香港), 2013. 10.
 - 13) パワンカールルビー: WAO Anaphylaxis guidemies: From Etiology to management. 日本小児アレルギー学会 (第50回) (横浜), 2013. 10.
 - 14) パワンカールルビー: "IgE, the Microbiome and Chronic Rhinosinusitus". ACAAI Annual Meeting (アメリカ, ボルチモア), 2013. 11.
 - 15) パワンカールルビー: "Upper Airway Disease: IgE and the Microbiome". 40th Brazilian Congress Of Allergy And Immunology 2013 (ブラジル, ベレム), 2013. 12.
 - 16) パワンカールルビー: "Novel Insights in the Biology of Allergic Responses in Immunotherapy" (WAO Symposium). WAO Symposium on Immunotherapy and Biologics 2013 (アメリカ, シカゴ), 2013. 12.
 - 17) パワンカールルビー: "The Role of IgE-Receptors in Airway Inflammation and Remodelling" (WAO Symposium). WAO Symposium on Immunotherapy and Biologics 2013 (アメリカ, シカゴ), 2013. 12.
 - 18) パワンカールルビー: New Frontier of Allergic Rhinitis. Asia Pacific Congress of Allergy, Asthma and Clinical Immunology 2013 (台湾, 台北), 2013. 11.
 - 19) パワンカールルビー: Pawankar R, Epithelial cell-immune cell interactions in Airway inflammation and remodeling. 16th Asian Research Symposium in Rhinology (東京), 2013. 8.
 - 20) パワンカールルビー: "IgE and Microbiome in Chronic Rhinosinusitis". Allergists For Israel Annual Symposium (アメリカ, サンディエゴ), 2014. 2.
 - 21) パワンカールルビー: "Microbiome in airway diseases in children". Allergy to infant meeting for the study (インド, チャンディガール), 2014. 3.
 - 22) 高瀬真人: 乳幼児喘鳴と喘息—吸入ステロイド薬をどう使う—(西間三馨の喘息発熱討論会). 日本外来小児科学会 (第23回) (福岡県福岡市), 2013. 8.
 - 23) 前田美穂: 小児がん経験者のための長期フォローアップガイドラインの作成. 日本小児科学会学術集会 (第116回) (広島), 2013. 4.
- (3) ワークショップ:
- 1) パワンカールルビー: Basic mechanisms of Allergic diseases. WAO Allergy Training School, Harare Zimbabwe. November 2013. WAO 講習会 (ジンバブエ, ハラレ), 2013. 12.
 - 2) パワンカールルビー: Anaphylaxis from Etiology to Management. WAO Allergy Training School, Harare Zimbabwe. November 2013. WAO 講習会 (ジンバブエ, ハラレ), 2013. 12.
 - 3) 高瀬真人: 咳嗽の診断 (咳嗽の病態・診断・治療). 日本小児呼吸器学会 (第46回) (佐賀県佐賀市), 2013. 11.
 - 4) 川上康彦: てんかん. 日本アプライドセラピューティクス学会 (第4回) (東京都新宿区), 2013. 7.
- (4) 一般講演:
- 1) 勝部康弘¹⁾, 羽山恵美子²⁾, 中西敏雄²⁾, 小川俊一¹⁾, 伊藤保彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科, ²⁾ 東京女子医科大学循環器小児科): 動脈管, 肺動脈における Na⁺/Ca²⁺ 交換輸送体 mRNA 発現の発達に伴う変化. 日本小児科学会学術集会 (第116回) (広島), 2013. 4.
 - 2) 山西未穂, 大塚雅美, 赤尾見春, 柳原 剛, 上砂光裕, 右田 真, 藤田武久, 勝部康弘, 伊藤保彦 (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科): 育児過誤によりビタミンD欠乏性くる病を発症した8か月男児. 日本小児科学会学術集会 (第116回) (広島), 2013. 4.
 - 3) 大塚雅美, 大家絵理, 吉崎 薫, 山西未穂, 赤尾見春, 柳原 剛, 右田 真, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院産科・小児医療センター小児科): 病初期に蛋白細胞解離を認めず, 造影MRIにて診断した Guillain-

- Barre 症候群の 1 例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 339 回) (川崎), 2013. 4.
- 4) 島 義雄¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター新生児内科): 新生児医療の歴史. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 339 回) (川崎), 2013. 4.
 - 5) 高橋 翼¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児外科): 日本医科大学武蔵小杉病院小児外科 Annual report 2012. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 339 回) (川崎), 2013. 4.
 - 6) 大塚雅美¹⁾, 徐 東博¹⁾, 橋本綾子²⁾, 飯島一誠²⁾, 柳原 剛¹⁾, 伊藤保彦³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学, ³⁾ 日本医科大学小児科): 幼児検尿で発見された Alport 症候群の一女児例. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第 48 回) (徳島), 2013. 6.
 - 7) 勝部康弘, 小川俊一, 赤尾見春, 上砂光裕, 橋本康司, 渡辺 誠, 阿部正徳, 林 美雪, 池上 英, 深澤隆治, 伊藤保彦 (¹⁾ 日本医科大学小児科): エンドセリンは心機能を低下させるか?. 日本小児循環器学会 (第 49 回) (東京), 2013. 7.
 - 8) 赤尾見春, 小川俊一, 勝部康弘, 上砂光裕, 橋本康司, 渡辺 誠, 阿部正徳, 池上 英, 林 美雪, 深澤隆治, 伊藤保彦 (¹⁾ 日本医科大学小児科): 川崎病急性期における Zscore 換算した冠動脈径と心機能の関連. 日本小児循環器学会 (第 49 回) (東京), 2013. 7.
 - 9) 島 義雄^{1,2)}, 西巻 滋³⁾, 熊坂 栄²⁾, 矢代健太郎¹⁾, 松村好克¹⁾, 右田 真¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児科, ²⁾ 葛飾赤十字産院小児科, ³⁾ 横浜市立大学小児科): 胎児炎症反応症候群 (Fetal Inflammatory Response Syndrome) 関連疾患としての周産期脳障害. 日本周産期・新生児医学会総会・学術集会 (第 49 回) (横浜), 2013. 7.
 - 10) 松村好克¹⁾, 一木邦彦¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 右田 真¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 西田直子²⁾, 立山尚子²⁾, 深見武彦²⁾, 松島隆²⁾, 朝倉啓文²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター新生児内科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター女性診療科・産科): PPHN 長期化の原因と考えられた左室心筋緻密化障害の 1 例. 日本周産期・新生児医学会総会・学術集会 (第 49 回) (横浜), 2013. 7.
 - 11) 橋本康司¹⁾, 熊坂 栄¹⁾, 横山愛子¹⁾, 寺田侑佑¹⁾, 西郡綾子¹⁾, 松川昇平¹⁾, 峯 牧子¹⁾, 中島瑞恵¹⁾, 島 義雄²⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 一絨毛膜一羊膜性双胎子宮内一児死亡後, 生存児に Potter シークエンスを認めた 1 例. 日本周産期・新生児医学会総会学術集会 (第 49 回) (横浜), 2013. 7.
 - 12) 山西未穂¹⁾, 右田 真¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 藤田武久¹⁾, 足立好司²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科): 膿瘍を併発した腰仙部類皮腫の 1 例. 神奈川小児神経懇話会 (第 52 回) (横浜), 2013. 7.
 - 13) 篠崎麻衣, 渡辺敬志, 因泥弘之, 中島由美子, 菅原 通, 森本 進, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室): 尿中ビリルビン確認試験の評価. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
 - 14) 坂倉剛志¹⁾, 西島美輝子¹⁾, 荒井誠一¹⁾, 荒木久美¹⁾, 井梅和美¹⁾, 亀田美和¹⁾, 中島由美子¹⁾, 山賀節子¹⁾, 篠崎麻衣¹⁾, 小伊藤保雄¹⁾, 森本 進¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 松村好克²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科): 当院における新生児聴力スクリーニング検査について. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
 - 15) 橋本康司¹⁾, 大家絵理¹⁾, 大塚雅美¹⁾, 吉崎 薫¹⁾, 山西未穂¹⁾, 赤尾見春¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 右田 真¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科): 多彩な神経症状を呈した脳幹グリオーマの 1 例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 344 回) (川崎), 2013. 10.
 - 16) 橋本佳亮¹⁾, 西田理子¹⁾, 一木邦彦¹⁾, 松村好克¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 島 義雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター新生児内科): RDS 治療後に間質性肺気腫に至った早産児の 1 例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 344 回) (川崎), 2013. 10.
 - 17) 高橋 翼¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児外科): 単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した炭酸カルシウム胆石の 1 例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 344) (川崎), 2013. 10.

- 18) パワンカールルビー：“The WAO/WUN Food Allergy Survey during the meeting in Washington”. 2013 Global Public Health Conference of WUN (アメリカ, ワシントン DC), 2013. 5.
- 19) パワンカールルビー：“An overview of global trend and recommendation of WAO on Cow's Milk Protein Allergy Management”. the 7th Asia Pacific Nutrition Symposium (中国, 広州), 2013. 5.
- 20) パワンカールルビー：“Co-Morbidities of Allergic Rhinitis in Children: Asthma, Rhinosinusitis, Ome and Sleep Disorders”. 20th IFOS World Congress Seoul Korea 2013 (韓国, ソウル), 2013. 6.
- 21) Zhang L, パワンカールルビー, 渡辺 S, 野中 学, 林 美雪, 山西 S, 五十嵐徹, 洲崎春海, 伊藤 Y: Increased Expression of Filaggrin and Periostin in Nasal Polyps. 16th Asian Research Symposium in Rhinology (東京), 2013. 8.
- 22) 尾崎優介¹⁾, 熊坂 栄¹⁾, 寺田有佑¹⁾, 横山愛子¹⁾, 島 義雄²⁾ (1) 葛飾赤十字産院新生児科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科): Streptococcus bovis による蜂窩織炎を来した 21 トリソミーの 1 例. 日本未熟児新生児学会・学術集会 (第 58 回) (金沢), 2013. 11.
- 23) 熊坂 栄¹⁾, 寺田有佑¹⁾, 横山愛子¹⁾, 尾崎優介¹⁾, 島 義雄²⁾ (1) 葛飾赤十字産院新生児科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科): 日齢 8 に発症した新生児一過性甲状腺機能亢進症の 1 例. 日本未熟児新生児学会・学術集会 (第 58 回) (金沢), 2013. 11.
- 24) 横山愛子¹⁾, 熊坂 栄¹⁾, 寺田有佑¹⁾, 尾崎優介¹⁾, 島 義雄²⁾ (1) 葛飾赤十字産院新生児科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科): 出生数時間後に気胸として発症した先天性肺嚢胞の 2 例. 日本未熟児新生児学会・学術集会 (第 58 回) (金沢), 2013. 11.
- 25) 寺田有佑¹⁾, 熊坂 栄¹⁾, 横山愛子¹⁾, 尾崎優介¹⁾, 島 義雄²⁾ (1) 葛飾赤十字産院新生児科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科): 早期新生児期から心不全症状を認めた冠動脈瘻の 1 例. 日本未熟児新生児学会・学術集会 (第 58 回) (金沢), 2013. 11.
- 26) 藤野 修: 結管性硬化症小児科医の立場から. 日本小児皮膚科学術大会 (第 37 回) (東京), 2013. 7.
- 27) 山西未穂, 植田高広, 早川 潤, 前田美穂, 伊藤彦彦, 小倉浩一, 中馬広一: 特有の転座を認めなかった myxoid liposarcoma の 1 例. 日本小児血液・がん学会学術集会 (第 55 回) (福岡), 2013. 11.
- 28) Uchimura, R, Hayakawa J, Ueda T, Maeda M, Ito Y: A PEDIATRIC CASE OF ACUTE MYELOID LEUKEMIA IN APEDIATRIC PATIENT THAT OCCURRED IN 11 YEARS AFTER LIVER TRANSPLANTATION. American Society of Pediatric Hematology Oncology (ASPHO) 26th Annual Meeting (Miami, FL), 2013. 4.
- 29) 内村僚一, 前田美穂, 田辺雄次郎, 早川 潤, 植田高弘, 伊藤彦彦: ダウン症に合併した急性巨核球形白血病の初期に血小板輸血不応症を発症した 1 例. 日本血栓止血学会学術集会 (第 35 回) (山形), 2013. 5.
- 30) 馬場亜沙美, 川上康彦, 斉藤賢一¹⁾, 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修 (1) 日本獣医生命科学大学食品科学科): Edaravone 投与が EL マウスの脳波に及ぼす影響. 日本小児神経学会 (第 55 回) (大分県大分市), 2013. 5.
- 31) 池上 英, 深澤隆治, 濱岡建城¹⁾, 佐地 勉²⁾, 中村好一³⁾, 賀藤 均⁴⁾, 鈴木啓之⁵⁾, 津田悦子⁶⁾, 鮎澤 衛⁷⁾, 三浦 大⁸⁾, 小林 徹⁹⁾, 松裏裕行²⁾, 屋代真弓³⁾, 阿部 淳¹⁰⁾, 小川俊一 (1) 京都府立医科大学大学院医学研究科 小児循環器・腎臓学, 2) 東邦大学医療センター大森病院小児科, 3) 自治医科大学公衆衛生学, 4) 国立成育医療研究センター循環器科, 5) 和歌山県立医科大学付属病院小児科, 6) 国立循環器病研究センター病院 小児循環器科, 7) 日本大学医学部付属板橋病院小児科, 8) 東京都立小児総合医療センター循環器科, 9) 群馬大学医学部付属病院小児科, 10) 国立成育医療研究センター免疫アレルギー研究部): 最近 10 年の巨大冠動脈瘤の全国実態調査における心筋梗塞および死亡症例の検討. 日本小児循環器学会 (第 49 回) (東京都渋谷区), 2013. 7.
- 32) 池上 英, 深澤隆治, 濱岡建城¹⁾, 佐地 勉²⁾, 中村好一³⁾, 賀藤 均⁴⁾, 鈴木啓之⁵⁾, 津田悦子⁶⁾, 鮎澤 衛⁷⁾, 三浦 大⁸⁾, 小林 徹⁹⁾, 松裏裕行²⁾, 屋代真弓³⁾, 阿部 淳¹⁰⁾, 小川俊一 (1) 京都府立医科大学大学院医学研究科 小児循環器・腎臓学, 2) 東邦大学医療センター大森病院小児科, 3) 自治医科大学公衆衛生学, 4) 国立成育医

- 療研究センター循環器科,⁵⁾ 和歌山県立医科大学付属病院小児科,⁶⁾ 国立循環器病研究センター病院 小児循環器科,⁷⁾ 日本大学医学部付属板橋病院小児科,⁸⁾ 東京都立小児総合医療センター循環器科,⁹⁾ 群馬大学医学部付属病院小児科,¹⁰⁾ 国立成育医療研究センター免疫アレルギー研究部): 最近10年の巨大冠動脈瘤の全国実態調査における心筋梗塞症例の検討. 日本川崎病学会 (第33回) (富山県富山市), 2013. 9.
- 33) 松本多絵, 三宅弘一¹⁾, 折茂英生²⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 日本医科大学生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)): AAV ベクターによる低ホスファターゼ症の遺伝子治療. 日本骨代謝学会 (第31回) (兵庫県神戸市), 2013. 5.
- 34) 阿部正徳²⁾, 深澤隆治^{1,2)}, 佐治 勉^{1,3)}, 小林 徹^{1,4)}, 濱岡建城^{1,5)}, 原 寿郎^{1,6)}, 荒川浩一^{1,7)}, 加藤太一^{1,8)}, 三浦 大^{1,9)}, 小川俊一^{1,2)}, 野村裕一^{1,10)}, 布施茂登¹⁾, 市田露子¹⁾, 鮎沢 衛¹⁾, 関 満¹⁾, その他1名 (¹⁾ Raise study group, ²⁾ 日本医科大学小児科, ³⁾ 東邦大学医療センター大森病院小児科, ⁴⁾ トロント小児病院, ⁵⁾ 京都府立医科大学大学院医学研究科小児循環器・腎臓学, ⁶⁾ 九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野, ⁷⁾ 群馬大学大学院小児科学分野, ⁸⁾ 名古屋大学小児科, ⁹⁾ 東京都立小児総合医療センター循環器科, ¹⁰⁾ 鹿児島大学大学院小児発達機能病態分野): 重症川崎病での血中BNP上昇の意義 RAISE study サブ解析. 日本川崎病学会 (第33回) (富山県富山市), 2013. 9.
- 35) 西田理子, 今井丈英, 高橋 翼¹⁾, 高瀬真人 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児外科): 最近経験した横隔膜疾患の2例. 日本小児呼吸器疾患学会 (第46回) (佐賀県佐賀市), 2013. 11.
- 36) 今川和生, 福島 敬, 鈴木涼子, 福島紘子, 小林千恵, 遠藤幹也, 前田美穂, 岩井艶子, 櫻井英幸, 須磨崎亮: 難治 Ewing 肉腫ファミリー腫瘍例への医療連携による陽子線併用療法は効果があるか. 日本小児科学会学術集会 (第116回) (広島), 2013. 4.
- 37) 森川浩子, 春木伸一, 前田美穂: 福井県における中学生貧血スクリーニング実態調査 (2005~2012). 日本小児科学会学術集会 (第116回) (広島), 2013. 4.
- 38) 牛腸義宏, 清河信敬, 富田 理, 飯島一智, 吉原宏樹, 石橋武士, 小林健一郎, 福島 敬, 前田美穂, 林 泰秀, 菊池 陽, 真部 淳, 小原 明: B前駆細胞性 ALL 再発症例マーカーの特徴に関する検討. 日本小児血液・がん学会 (第55回) (福岡), 2013. 11.
- 39) 尾崎優介, 竹田幸代, 岡崎哲也, 早川 潤, 山西慎吾, 植田高弘, 今井丈英, 高瀬眞仁, 前田美穂, 伊藤保彦: 肺炎球菌感染を契機に血球貧食症候群を発症した慢性皮膚粘膜カンジダ症の1例. 日本小児科学会学術集会 (第116回) (広島), 2013. 4.
- 40) 山西未穂, 植田高弘, 早川 潤, 前田美穂, 伊藤保彦, 小倉浩一, 中馬広一: 特異な転座を認めなかった myxoid liposarcoma. 日本小児血液・がん学会 (第55回) (福岡), 2013. 11.
- 41) 板橋寿和, 早川 潤, 山田晃子, 山西慎吾, 植田高弘, 五十嵐徹, 前田美穂, 伊藤保彦: ループスアンチコアグラント低プロトロンビン血症症候群の1例. 日本小児血液・がん学会 (第55回) (福岡), 2013. 11.
- 42) 田辺雄次郎, 早川 潤, 吉野美緒, 植田高弘, 前田美穂: 右鼻前庭部原発の胎児型横紋筋肉腫に対して Mohs 軟膏塗布し QOL の向上および延命効果を認めた1例. 日本小児血液・がん学会 (第55回) (福岡), 2013. 11.
- 43) Miho M, Eiichi I, Yasushi I, Shigeru O, Takayuki O, Hirokazu K, Toshiyuki K, Kazuhiro K, Nobuhiro S: A surver of disseminated juvenile xanthogranuloma in Japan. Annual Meeting of the Hisitiocyte Society (29th) (Wshington DC), 2013. 10.
- 44) 五十嵐徹, 伊藤保彦: 養護教諭がフィジカルアセスメントを知識習得するための視聴覚教材 (DVD) を用いた研修の検討. 日本小児保健協会学術集会 (第60回) (東京), 2013. 9.
- 45) 五十嵐徹, Pawankar R, 山西慎吾, 林 美雪, 伊藤保彦: 養護教諭が学校内でエピペンを使用するために必要なフィジカルアセスメント. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第63回) (東京), 2013. 11.
- 46) 五十嵐徹, 吉崎 薫, 多田奈緒, 柳原 剛, 伊藤保彦, 清水 章, 泉 維昌: 扁桃腺摘出とステロイドパルス療法が有効であった IgA 腎症の5歳女児例. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第48回) (徳島), 2013. 6.

- 47) 五十嵐徹, 山西慎吾, 伊藤保彦: 間質性腎炎を合併したシェーグレン症候群に若年性特発性関節炎がは小した女児例. 日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウムプログラム, 2013. 4.
- 48) 五十嵐徹, 伊藤保彦: 学校保健で養護教諭が知りたいと考える皮膚疾患について. 日本皮膚科学会 (第 37 回) (東京), 2013. 7.
- 49) 五十嵐徹, 山西慎吾, 伊藤保彦, 藤川 敏, 大谷智子, 加藤文代: エタネルセプトを導入した tumor necrosis factor receptor-associated periodic syndrome (TRAPS) の一男子における治療経過. 小児リウマチ学会 (第 23 回) (大宮), 2013. 10.
- 50) 御園恒一郎¹⁾, 坪井成美³⁾, 藤井秀一⁴⁾, 小泉慎也⁴⁾, 海津聖彦^{2, 5)}, 植崎秀彦²⁾, 伊藤保彦⁴⁾, 藤野鉄平⁶⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 ME 部, 2) 日本医科大学千葉北総病院小児科, 3) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, 4) 日本医科大学小児科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 6) 日本医科大学腎臓内科): 若年性関節リウマチにおける血漿交換・LCAP を実施した 1 症例 (会議録/症例報告).
- 51) 寺田有佑¹⁾, 星野レイ³⁾, 稲垣真一郎¹⁾, 海津聖彦^{2, 3)}, 植崎秀彦²⁾, 浅野 健²⁾, 藤野 修^{2, 1)}, 伊藤保彦¹⁾ (1) 日本医科大学 小児科, 2) 日本医科大学千葉北総病院小児科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 小舞蹈病の発症により診断し得たリウマチ熱の 1 例. 2013. 5.
- 52) 吉野美緒, 川尻泰樹¹⁾, 市村美帆²⁾, 高田治樹³⁾, 稲本絵里⁴⁾, 重村朋子⁵⁾, 増野智彦⁵⁾, 松井 豊³⁾, 横田裕行⁵⁾ (1) 首都大学東京人文科学研究科, 2) 目白大学, 3) 筑波大学, 4) 日本医科大学多摩永山病院, 5) 日本医科大学救急医学教室): 病院前救急診療活動に従事する医師の外傷性ストレスに関する研究: 出場形態による違い. 日本トラウマティックストレス学会 (第 12 回) (東京都), 2013. 5.
- 53) 吉野美緒, 前田美穂, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘, 浅野 健, 伊藤保彦: 小児がん患児及びその家族の心理支援. 日本小児保健協会学術集会 (第 60 回) (東京都), 2013. 9.
- 54) 山西慎吾, 田辺雄次郎, 赤羽洋祐, 五十嵐徹, 伊藤保彦: トシリズマブ治療中に MAS の合併が疑われた p-JIA の 1 例. 小児炎症研究会 (東京), 2013. 6.
- 55) 山西慎吾: トシリズマブ治療中に MAS の合併が疑われた p-JIA の 1 例. 千駄木バイオリジクス研究会 (東京), 2013. 11.
- 56) 草野泰造, 早川 潤, 尾崎優介, 山西慎吾, 今井丈英, 竹田幸代, 植田高弘, 今井浩輔, 前田美穂, 伊藤保彦: 赤芽球癆に無顆粒球症を合併し, 治療に難渋した STAT1 獲得機能変異症の 1 例. 小児感染症学会 (第 45 回) (札幌), 2013. 10.
- 57) 赤羽洋祐, 山西慎吾, 田辺雄次郎, 渡邊 誠, 深澤隆治, 小川俊一, 伊藤保彦: IVIG + PSL 不応例の川崎病に対し, Infliximab が奏功した 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 58) 板橋寿和, 早川 潤, 山田晃子, 山西慎吾, 植田高弘, 五十嵐徹, 前田美穂, 伊藤保彦: ループスアンチコアグラント低プロトロンビン血症症候群の 1 例. 小児血液がん学会 (福岡), 2013. 11.
- 59) 山田晃子, 板橋寿和, 早川 潤, 山西慎吾, 植田高弘, 五十嵐徹, 前田美穂, 伊藤保彦: SLE に合併したループスアンチコアグラント低プロトロンビン血症症候群の 1 男児例. 東京地方会 (東京), 2013. 10.
- 60) 藤井秀一, 山西慎吾, 五十嵐徹, 伊藤保彦, 菊池伊豆実, 篠原理恵, 久保田智樹, 鶴田恭子, 橋爪志保, 石山昭彦, 石山雄毅: γ -グロブリン大量静注療法とシクロフォスファミドパルス療法の併用で著明な効果を認めた若年性皮膚炎の 1 例. 小児皮膚科学会 (東京), 2013. 7.
- 61) 宮國知世, 山西慎吾, 赤尾見春, 藤井秀一, 久保田智樹, 鶴田恭子, 真弓暢子, 五十嵐徹, 伊藤保彦, 川名誠司: 指尖部, 肘部に潰瘍を合併した MCTD の 1 女児例. 小児皮膚科学会 (東京), 2013. 7.
- 62) 桑原健太郎, 高木篤史, 山西慎吾, 五十嵐徹, 前田美穂, 伊藤保彦: てんかん合併の結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫にエベロリムスを使用する時の抗てんかん薬の調節. 日本結節性硬化症学会学術総会 (第 1 回) (東京), 2013. 11.
- 63) 五十嵐徹, Ruby P, 山西慎吾, 林 美雪, 伊藤保彦: 養護教諭が学校内でエピペンを使用するために必要なフィ

- ジカルアセスメント. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第 63 回) (東京), 2013. 11.
- 64) 五十嵐徹, 山西慎吾, 伊藤保彦: 間質性腎炎を合併したシェーグレン症候群に若年性特発性関節炎が発症した女児例. 日本リウマチ学会学術総会・学術総会・国際リウマチシンポジウムプログラム (第 57 回), 2013. 4.
- 65) 五十嵐徹, 山西慎吾, 伊藤保彦, 藤川 敏, 大谷智子, 加藤文代: エタネルセプトを導入した tumor necrosis factor receptor-associated periodic syndrome (TRAPS) の一男子における治療経過. 小児リウマチ学会 (第 23 回) (大宮), 2013. 10.
- 66) Ruby P, Yamanisi S, Hayashi M: The Microbiome and Airway Disease. WAO, APAPARI Session. Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiratory and Immunology (Thailand), 2013. 10.
- 67) 山西慎吾: 乳幼児期の抗生剤投与による腸内細菌叢の変化が与える影響. 城東地区小児アレルギー懇話会 (第 25 回), 2013. 9.
- 68) 山西慎吾: 全身型若年性特発性関節炎の病態解明と新規治療法の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回), 2013. 9.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) Fiocchi A, Annunziato F, Assa'ad A, Arshad H, Bahna SL, Boyle R, Brozek J, Bush A, Canonica W, Cicardi M, Compalati E, Dahdah L, Dupont C, Finegold I, Pawankar R, et al.: The management of paediatric allergy: not everybody's cup of tea-10-11th February 2012. *Curr Opin Allergy Clin Immunol*. 2013; 13 (1): 1-50.

追加分原著:

- 1) Canonica GW, Ansotegui IJ, Pawankar R, Schmid-Grendelmeier P: A WAO - ARIA - GA²; LEN consensus document on molecular-based allergy diagnostics. *World Allergy Organ J* 2013; 6 (1): 17.
- 2) Haahtela T, Holgate S, Pawankar R, Akdis CA: The biodiversity hypothesis and allergic disease: world allergy organization position statement. *World Allergy Organ J* 2013; 6 (1): 3.
- 3) Ebisawa M, Nishima S, Akiyama K, Pawankar R: Measures for anaphylaxis and role of Epipen®. *Arerugi* 2013; 62 (2): 144-154.

追加分症例報告:

- 1) 御園恒一郎¹⁾, 藤井秀一^{2,6)}, 小泉慎也^{2,6)}, 海津聖彦^{2,5)}, 榎崎秀彦²⁾, 伊藤保彦⁴⁾, 藤野鉄平^{3,7)} (1) 日本医科大学千葉北総病院 ME 部 (血液浄化療法室), 2) 日本医科大学千葉北総病院小児科, 3) 日本医科大学千葉北総病院腎臓内科, 4) 日本医科大学小児科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 6) 独立行政法人静岡医療センター小児科, 7) 日本医科大学腎臓内科): 若年性関節リウマチにおける血漿交換・LCAP を実施した 1 症例 (会議録/症例報告). *医薬の門* 2013; 52 (6): 479-480.
- 2) 御園恒一郎¹⁾, 藤井秀一, 小泉慎也, 海津聖彦, 榎崎秀彦, 伊藤保彦 (1) 日本医科大学千葉北総病院 ME 部 (血液浄化療法室): 若年性関節リウマチにおける血漿交換・LCAP を実施した 1 症例. *医薬の門* 2013; 52 (6): 479-480.

追加分:

- 1) 高瀬真人: 非侵襲的な小児呼吸機能検査の進歩と臨床応用. *呼吸* 2013; 2013 (3).

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 富永直樹, 山西慎吾, 天野康雄, 藤井秀一, 五十嵐徹, 伊藤保彦: Cine MRI で偽性腸閉塞と考えられる Undif-

- ferentiated Connective Tissue Disease (UCTD) の1例女児例. 東京地方会 (東京), 2013. 3.
- 2) 山西慎吾 : Sub-Therapeutic Antibiotic Treatment (STAT) 暴露マウスにおける腸内細菌による代謝, 粘膜免疫の制御. 千駄木感染免疫アレルギー研究会, 2013. 3.

10. 放射線医学

[付属病院放射線科, 放射線治療科]

研究概要

(放射線診断) CT では非侵襲的 3 次元 CT の分野で国内外の指導的立場にある。冠動脈 CT による血管狭窄：血管壁性状評価, 3 次元血管造影法, 脳灌流画像, 腫瘍病変の血行動態解析などの開発：研究を進めている。MRI では 3 テスラ MRI 装置を用いた臨床研究が行われており, 特に心疾患や血管病変に対する画像：機能解析, ナビゲーションシステムや高速撮像法に関する研究は高く評価されている。一般撮影ではデジタル撮影による乳房撮影の診断精度及びマンモトームの研究が行われている。造影剤に関する研究や遠隔システムを含めて画像ネットワークの研究も行われている。(核医学) 3 次元動態解析法を用いた虚血性心疾患の病態解析や SPECT；CT 融合画像の研究など循環器核医学領域において高く評価されている。中枢神経領域では認知症の画像統計学的診断や脳虚血性疾患に関する解析プログラムの開発が進んでいる。新たに SPECT；CT 一体機を導入し, 甲状腺, 副腎, センチネルリンパ節等の小病変の診断, 様々な領域における形態；機能融合画像を用いた診断を行っている。最新の PET；CT を用いた腫瘍核医学や脳内受容体イメージングの研究, PET；CT 融合画像や新しい PET 製剤に関する研究も行われている。(血管造影：IVR) 血管性病変や悪性腫瘍に対する治療及び救急疾患に対する IVR 治療では国内外での評価は高く, 腹部悪性腫瘍に対する閉鎖循環下超高濃度抗癌剤治療などの基礎的, 臨床研究が行われている。肺動脈血栓塞栓症に対する血栓破砕吸引療法や動脈内ステント療法や CT ガイド下生検や肺癌：肝癌に対するラジオ波治療の研究も行われている。(放射線治療) 頭頸部腫瘍：肺癌における化学療法併用療法はその良好な治療成績が注目されている。頭頸部腫瘍における治療計画や治療効果判定についての超音波検査の研究は高く評価されている。さらに, 皮膚良性疾患に対する放射線治療や前立腺癌小線源療法の研究も進んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 栗林茂彦, 宮下次廣, 小澤由季子, 黒川茉莉絵, 秋本裕義, 汲田伸一郎：高線量率小線源治療装置によるケロイドの術後照射の試み. 創傷 2013；4 (4)：191-195.
- 2) Murakami R, Kumita S, Hayashi H, Sugizaki K, Okazaki E, Kiriya T, Hakoza K, Tani H, Miki I, Takeda M：Anemia and the risk of contrast-induced nephropathy in patients with renal insufficiency undergoing contrast-enhanced MDCT. Eur J Radiol 2013；82 (10)：521-524.
- 3) Hosokawa Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Kato K²⁾, Hayashi H, Ogawa S³⁾, Tanaka K⁴⁾, Mizuno K²⁾ (1) Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, (2) Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, (3) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, (4) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School)：Reversible Stenosis of the Saphenous Vein Graft Compressed by Giant Coronary Aneurysm in Kawasaki Disease. J Am Coll Cardiol 2013；62 (2)：e3-e3.
- 4) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Matsumura Y, Suzuki Y¹⁾, Kumita S (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School)：Feasibility of 4D Flow MR Imaging of the Brain with Cartesian y-z Radial Sampling and k-t SENSE Comparison with 4D Flow MR Imaging Using SENSE. Magnetic Resonance in Medical Sciences 2014；13 (1)：15-24.
- 5) Matano F¹⁾, Murai Y¹⁾, Adachi K¹⁾, Koketsu K¹⁾, Kitamura T¹⁾, Teramoto A¹⁾, Okubo S²⁾, Katayama Y²⁾, Sekine T, Takagi R, Kumita S (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan,

- 2) Divisions of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Reversible cerebral vasoconstriction syndrome associated with subarachnoid hemorrhage triggered by hydroxyzine pamoate. *Clin Neurol Neurosurg* 2013 ; 115 (10) : 2189-91.
- 6) 喜多村孝, 村井 保, 白銀 一, 高木 亮, 関根鉄朗, 汲田伸一郎 : 急性硬膜下血腫で発症した破裂脳動脈瘤の1症例. *日本医科大学医学会雑誌* 2013 ; 9 : 266.
- 7) 関根鉄朗 : 【症状からアプローチする画像診断 : 知っておいてほしいCT/MRI所見】 頭痛 (慢性). *臨床画像* 2013 ; 29 : 17-23.
- 8) Amano Y, Kitamura M¹⁾, Tachi M, Takeda M, Mizuno K²⁾, Kumita S : Delayed enhancement magnetic resonance imaging in hypertrophic cardiomyopathy with basal septal hypertrophy and preserved ejection fraction : relationship with ventricular tachyarrhythmia. *J Comput Assist Tomogr* 2014 ; 38 (1) : 67-71.
- 9) Murakami R, Kumita S, Fukushima Y, Tani H, Yoshida T, Kiriya T, Hakozaiki K : Massive Gastrointestinal Bleeding in an Adult Patient with Meckel's Diverticulum : Utility of SPECT/CT with Technetium 99m Pertechnetate Scintigraphy. *J Radiol Radiat Ther* 2013 ; 1 (2) : 1008-10.
- 10) Murakami R, Kumita S, Tani H, Yoshida T, Sugizaki K, Kuwako T, Kiriya T, Hakozaiki K, Okazaki E, Yanagihara K, Iida S, Haga S, Tsuchiya S : Detection of breast cancer with a computer-aided detection applied to full-field digital mammography. *J Digit Imaging* 2013 ; 26 (4) : 768-73.
- 11) Murakami R, Kumita S, Hayashi H, Sugizaki K, Okazaki E, Kiriya T, Hakozaiki K, Tani H, Miki I, Takeda M : Anemia and the risk of contrast-induced nephropathy in patients with renal insufficiency undergoing contrast-enhanced MDCT. *Eur J Radiol* 2013 ; 82 (10) : 521-524.
- 12) Kobayashi Y, Kumita S, Fukushima Y, Ishihara K, Suda M, Sakurai M : Significant suppression of myocardial 18F-fluorodeoxyglucose uptake using 24-h carbohydrate restriction and a low-carbohydrate, high-fat diet. *Journal of Cardiology* 2013 ; 62 (5) : 314-319.
- 13) 富山 毅, 桐山智成, 石原圭一, 汲田伸一郎 : PET, SPECT の臨床的有用性と技術進歩 空間分解能・SNR 両者の改善をめざして. *インナービジョン* 2013 ; 28 (5) : 80-83.
- 14) 富山 毅, 石原圭一, 汲田伸一郎 : 特集4 心臓核医学の最先端 1. 心臓 PET のアンモニア保険適応と臨床へのインパクト. *PET journal* 2013 ; (23) : 31-33.
- 15) Ogawa R¹⁾, Huang C¹⁾, Akaishi S¹⁾, Dohi T¹⁾, Sugimoto A¹⁾, Kuribayashi S, Miyashita T, Hyakusoku H¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Analysis of Surgical Treatments for Earlobe Keloids. Analysis of 174 Lesions in 145 Patients. *Plastic and Reconstructive Surgery* 2013 ; 132 (5) : 818-825.
- 16) Miki I, Murata S, Nakazawa K, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Yamaguchi H, Yasui D, Takeda M, Kumita S : Anatomical relationship between the common carotid artery and the internal jugular vein during head rotation. *Ultrasound* 2014 ; 22 (2) : 99-103.
- 17) Yanagi M, Kondo Y, Endo Y, Nishimura T, Mizunuma K, Arai M, Yokota H, Nakazawa K, Murata S, Kumita S : The role of transcatheter arterial embolization (TAE) for deep renal injury. *Nihon Hinyokika Gakkai Zasshi* 2013 ; 104 (6) : 688-96.
- 18) Onozawa S, Murata S, Tajima H, Yamaguchi H, Mine T, Ishizaki A, Sugihara H, Oikawa S, Kumita S : Evaluation of right adrenal vein cannulation by computed tomography angiography in 140 consecutive patients undergoing adrenal venous sampling. 2014 [Epub ahead of print]. *Eur J Endocrinol* 2014 ; 170 (4) : 601-8.
- 19) Takeda M, Amano Y, Tachi M, Tani H, Mizuno K²⁾, Kumita S (¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School) : MRI differentiation of cardiomyopathy showing left ventricular hypertrophy and heart fail-

ure : differentiation between cardiac amyloidosis, hypertrophic cardiomyopathy, and hypertensive heart disease. *Jpn J Radiol* 2013 ; 31 : 693-700.

- 20) Kuwako T, Mizumura S, Murakami R, Yoshida T, Shiiba M, Sato H, Fukushima Y, Teramoto A, Kumita S : Voxel-based analysis of (201) Tl SPECT for grading and diagnostic accuracy of gliomas : comparison with ROI analysis. *Ann Nucl Med* 2013 ; 27 (6) : 493-501.
- 21) Murata S, Jeppsson B, Lunderquist A, Ivancev K : Hemodynamics in rat liver tumor model during retrograde-outflow isolated hepatic perfusion with aspiration from the portal vein : angiography and in vivo microscopy. *Acta Radiol* 2013 ; 14 (6) : 737-744.
- 22) Murata S, Onozawa S, Nakazawa K, Akiba A, Mine T, Ueda T, Yasui D, Sugihara F, Kondoh Y, Kumita S : Endovascular embolization strategy for renal arteriovenous malformations. *Acta Radiol* 2014 ; 55 (1) : 71-7.
- 23) Mine T, Murata S, Nakazawa K, Onozawa S, Ueda T, Miyauchi M, Morita S, Kumita S : The role of glue embolization for gastroduodenal ulcer bleeding : Contribution for healing process of ulcer. *Acta Radiol* 2013 ; 54 (8) : 934-8.
- 24) Ueda T, Murata S, Yasui D, Mine T, Kumita S : Comparison of the antitumor efficacy of transcatheter arterial chemoembolization with a miriplatin-iodized oil suspension and a cisplatin-iodized oil suspension for hepatocellular carcinoma. *Hepatol Res* 2013 ; 43 (10) : 1071-1077.
- 25) Onozawa S, Murata S, Tajima H, Yamaguchi H, Mine T, Ishizaki A, Sugihara H, Oikawa S, Kumita S : Evaluation of right adrenal vein cannulation by computed tomography angiography in 140 consecutive patients undergoing adrenal venous sampling. *Eur J Endocrinol* 2014 ; 170 (4) : 601-8.

(2) 総説 :

- 1) Ohno I, Hayashi H, Aonuma K, Horio M, Kashihara N, Okada H, Komatsu Y, Tamura S, Awai K, Yamashita Y, Kuwatsuru R, Hirayama A, Saito Y, Murohara T, Tamaki N, et al. : Guidelines on the Use of Iodinated Contrast Media in Patients with Kidney Disease 2012- Digest Version. *Japanese Journal of Radiology* 2013 ; 31 (8) : 546-584.
- 2) Ohno I, Hayashi H, Aonuma K, Horio M, Kashihara N, Okada H, Komatsu Y, Tamura S, Awai K, Yamashita Y, Kuwatsuru R, Hirayama A, Saito Y, Murohara T, Tamaki N : Guidelines on the Use of Iodinated Contrast Media in Patients with Kidney Disease 2012- Digest Version. *Clinical and Experimental Nephrology* 2013 ; 17 (4) : 441-479.
- 3) Ohno I, Hayashi H, Aonuma K, Horio M, Kashihara N, Okada H, Komatsu Y, Tamura S, Awai K, Yamashita Y, Kuwatsuru R, Hirayama A, Saito Y, Murohara T, Tamaki N : Guidelines on the Use of Iodinated Contrast Media in Patients with Kidney Disease 2012- Digest Version. *Circulation Journal* 2013 ; 77 (7) : 1883-1914.
- 4) 相原直樹¹⁾, 今井圓裕²⁾, 青沼和隆³⁾, 林 宏光 (¹⁾ 川崎医科大学腎臓・高血圧内科, ²⁾ 中山寺いまいクリニック, ³⁾ 筑波大学医学部医療系循環器内科) : 造影剤腎症. *Nephrology Frontier* 2013 ; 12 (3) : 244-252.
- 5) 粟井和夫¹⁾, 山下康之²⁾, 林 宏光, 桑鶴良平³⁾, 田村昭三⁴⁾ (¹⁾ 広島大学医学部放射線科, ²⁾ 熊本大学医学部放射線科, ³⁾ 順天堂大学医学部放射線科, ⁴⁾ 宮崎大学医学部放射線科) : 非侵襲的造影検査 (造影CT) における造影剤腎症. *Nephrology Frontier* 2013 ; 12 (3) : 270-273.
- 6) 林 宏光 : 高血圧診療のすべて : 大動脈瘤と大動脈解離のCT診断. *日本医師会雑誌* 2013 ; 142 (1) : 166-167.
- 7) 林 宏光 : 画像診断ガイドライン発刊によせて. *日本放射線科専門医会・医会誌* 2013 ; 193 : 6.
- 8) 林 宏光, 安達秀雄 (¹⁾ 自治医科大学さいたま医療センター心臓血管外科) : 脈管疾患の診療に直結する画像診断. *脈管学会 Newsletter* 2012 ; 4 : 6-7.

- 9) 天野康雄：心臓 MRI の臨床的位置づけ 低侵襲検査という視点を踏まえて. INNERVISION 2013 ; 5 : 29-31.
 - 10) 天野康雄：心臓サルコイドーシスの MRI 撮像法と異常所見の意味付け. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 2013 ; 33 (1) : 61-63.
 - 11) 天野康雄：心臓サルコイドーシスの MRI 撮像法と異常所見の意味付け. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 2013 ; 33 : 61-63.
 - 12) 村上隆介, 林 宏光, 汲田伸一郎：造影剤最新事情 ヨード造影剤と腎機能障害 - 造影 CT における考え方と最新データ. 映像情報 Medical 2013 ; 45 (9) : 674-677.
 - 13) 小林靖宏, 天野康雄, 吾妻安良太, 汲田伸一郎：心臓サルコイドーシスの画像診断. 呼吸器内科 2013 ; 24 (3) : 284-291.
 - 14) 小林靖宏, 汲田伸一郎：生理的心筋集積抑制処置下 FDG-PET による心サルコイドーシスの炎症評価. 心臓核医学 2014 ; 16 (1) : 3-4.
 - 15) 汲田伸一郎, 小林靖宏, 桐山智成, 富山 毅, 林 宏光, 石原圭一：核医学による動脈硬化イメージング. 臨床放射線 2013 ; 58 (7) : 955-962.
 - 16) 汲田伸一郎, 富山 毅, 小林靖宏, 桐山智成, 福嶋善光, 石原圭一：心臓核医学検査の展望. 心臓 2013 ; 45 (10) : 1229-1233.
 - 17) 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎：アレルギー・腎障害と造影剤：救急症例における造影 CT の準備. 救急医学臨時増刊号 2013 ; 37 (10) : 1142-1146.
 - 18) 高木 亮, 関根鉄朗：頭痛 (突然の痛み). 臨床画像 増刊号 2013 ; 26 : 12-16.
 - 19) 高木 亮, 嶺 貴彦, 関根鉄朗, 町田 幹, 日高史貴, 小野澤志郎, 林 宏光, 汲田伸一郎：頭部・顔面外傷. 画像診断 2013 ; 33 (14) : 1527-1537.
 - 20) Murata S : Isolated perfusion therapy for advanced cancers. J Radiol Radiat Ther 2013 ; 1 : 1004.
 - 21) Uchiyama F, Murata S, Onozawa S : Management of gastric varices unsuccessfully treated by balloon-occluded retrograde transvenous obliteration : long-term follow-up and outcomes. ScientificWorldJournal 2013.
 - 22) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 嶺 貴彦, 山口英宣, 杉原 仁¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学代謝内分泌内科) : 副腎静脈サンプリング 成功率上昇のための工夫 特に術中 CT の有用性について. IVR : Interventional Radiology 2013 ; 28 (2) : 211-217.
- (3) 症例報告 :
- 1) Sekine T, Amano Y, Takagi R : Four-dimensional flow magnetic resonance imaging assessment of hemodynamics in patients after extracranial-intracranial bypass surgery. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 2-3.
 - 2) Sugihara F, Murata S, Uchiyama F¹⁾, Watari J¹⁾, Tanaka E¹⁾, Muraishi N¹⁾, Satoh E²⁾, Kumita S (¹⁾ Department of Radiology, Ebina General Hospital, Kanagawa, Japan, ²⁾ Nippon Medical School Graduate School Division of Pulmonary Medicine, Infection Diseases and Oncology, Tokyo, Japan) : Transcatheter arterial embolization of anomalous systemic arterial supply to the basal segment of the lung. Acta Radiol Short Rep 2013 ; 2 (7) : 1-4.
 - 3) Sugihara F, Murata S, Uchiyama F²⁾, Watari J²⁾, Abe Y³⁾, Kumita S (¹⁾ Department of Radiology, Ebina General Hospital, Japan, ²⁾ Department of Surgery, Ebina General Hospital, Japan) : Successful management of a proper hepatic artery aneurysm by embolization without liver dysfunction. J Radiol Radiat Ther 2013 ; 1 (2) : 1007.
 - 4) 小林靖宏, 関根鉄朗, 福嶋善光, 石原圭一, 汲田伸一郎, 竹光秀司, 五十嵐健人：褐色脂肪組織の活性化を伴う多発副腎外性褐色細胞腫の 1 例 - FDG-PET/CT -. 臨床放射線 2014 ; 59 (2) : 333-338.
 - 5) Seike M, Kanazawa Y, Ohashi R, Machida T, Suzuki Y, Aimoto T, Kubota K, Gemma A : Metastatic mechanism of spermatic cord tumor from stomach cancer. Int Canc Conf J 2013 ; 2 : 191-195.

- 6) Igarashi T, Shimizu A, Yamaguchi H, Fukushima Y, Igarashi T, Takahashi H : A definitive diagnosis of mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma made at a second biopsy. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 475-80.
- 7) Sugihara F, Murata S, Uchiyama F, Watari J, Tanaka E, Muraishi N, Satoh E, Kumita S : Transcatheter arterial embolization of anomalous systemic arterial supply to the basal segment of the lung. Acta Radiol Short Rep 2013 ; 2 (7) : 1-4.
- 8) Tajima H, Onozawa S, Isshiki S, Takenoshita N, Kaneshiro T, Ichikawa T, Murata S, Matsuda K, Furukawa A : Angiography-assisted computed tomography for the detection and intervention of a subtle aneurysm of the omentum. Jpn J Radiol 2014 ; 32 (4) : 238-241.

著 書

- 1) 林 宏光 : [分担] 第3章 画像診断 (CT/MRI). 大動脈瘤・大動脈解離 (改訂第2版) ((編)鈴木 享, 永井良三), 2013 ; pp113-118, 最新医学社.
- 2) 林 宏光 : [分担] CT編. ちょっと役立つ造影検査に関する話題 ((監修・編集)林 宏光, (協力)早川克己, 桑鶴良平, 高木 亮), 2013 ; 日本放射線専門医会・医会, バイエル薬品発行. ファーマインターナショナル.
- 3) 林 宏光 : [分担] 造影剤の安全性 : 造影剤腎症とNSF. 画像診断ガイドライン ((編)日本医学放射線学会, 日本放射線科専門医会・医会), 2013 ; 金原出版.
- 4) 林 宏光 : [分担] 心臓CT検査. 心臓画像診断ポケットマニュアル ((監)山科 章, 汲田伸一郎. 日本メジフィジックス), 2013.
- 5) 汲田伸一郎 : [分担] ストロンチウムの適応について教えてください. 肺癌診療 Q & A 第2版 (弦間昭彦 編), 2013 ; pp258-260, 中外医学.
- 6) 高木 亮 : [分担] II脳室系 2脈絡叢. 頭部画像解剖徹頭徹尾 (蓮尾金博編), 2013 ; pp93-97, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 林 宏光 : 腎機能障害と造影検査 : 造影剤腎症とNSF. 旗の台カンファレンス (東京), 2013. 12.
- 2) 林 宏光 : ガイドラインをガイドする. 第23回岩手県CT研究会・第13回高速らせんCT研究会 (盛岡), 2013. 10.
- 3) 林 宏光 : 大動脈解離の画像診断 : 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン2011年改訂版を踏まえて. 東京都CCU連絡協議会 : 急性大動脈スーパーネットワーク (御茶ノ水), 2013. 6.
- 4) 林 宏光 : Nephrogenic Systemic Fibrosis. Advanced CT・MRI研究会2013 (軽井沢), 2013. 6.
- 5) 林 宏光 : 腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン : 実臨床への応用とそのポイント. 第22回 造影剤と放射線シンポジウム (東京), 2013. 5.
- 6) 林 宏光 : 腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドラインとその実践的活用. 第23回香川心血管治療研究会 (高松), 2013. 5.
- 7) 天野康雄 : サルコイドーシスのMRI : 造影T1強調像とT2強調像の意義. 第12回順天堂大学放射線医学講座・水無月会 (東京), 2013. 6.
- 8) 汲田伸一郎 : 臨床に即したクリニカルPET ~どのような症例に役立つのか~. 第1回 西南PET-CT講演会, 2013. 4.
- 9) 汲田伸一郎 : マルチモダリティ時代の心臓核医学. 第1回 心臓核医学講演会, 2013. 7.
- 10) 汲田伸一郎 : 進化する形態・機能画像 : 消化器疾患を中心に. 第3回 千駄木消化器新春セミナー, 2014. 1.

- 11) 福嶋善光：心臓領域における SPECT/CTA, PET/CTA を用いた画像診断. 仙台心臓血管研究会 (仙台), 2013. 5.
 - 12) 村田 智：肝動脈塞栓術と肝灌流療法. 第 32 回 Microwave Surgery 研究会 (東京), 2013. 9.
 - 13) 村田 智：IVR における肝がんの治療戦略. 第 25 回日本肝胆膵外科学会 (栃木), 2013. 6.
- (2) 教育講演：
- 1) 汲田伸一郎, 小林靖宏, 富山 毅：心臓 PET の臨床—保険適応拡大を受けて—, 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
 - 2) 林 宏光：Cardiac CT Lexicon (心臓 CT 用語集)：心臓 CT 検査における CT 用語の企業別対比一覧表の作成について. 第 7 回 SCCT 研究会 (東京), 2013. 9.
 - 3) 天野康雄：心筋炎症・肉芽腫性病変の MRI. 第 259 回関東 MRI 画像診断研究会 (東京), 2013. 5.
 - 4) 天野康雄：当センターの MRI で診断された急性期疾患. 第 10 回豊島健康診査センター CT/MRI 症例検討会 (東京), 2013. 5.
 - 5) 天野康雄：MRI による心機能パラメータの評価：形態異常や心筋病変との関連を含めて. AIMS-Cardiac Imaging 2013 (東京), 2013. 7.
 - 6) 天野康雄：心臓 MRI における 3D 撮像の適用. 第 4 回県南画像診断研究会 (秋田), 2013. 10.
 - 7) 天野康雄：心臓 MRI の基本撮像と臨床適用. 第 11 回豊島健康診査センター CT/MRI 症例検討会 (東京), 2013. 11.
 - 8) 天野康雄：心不全の MRI：造影 MRI を中心に. 第 42 回千葉 MRI 研究会 (千葉), 2014. 2.
 - 9) Amano Y：Myocardial tissue characterization by cardiac MRI -from scar to fibrosis and edema. The Center for Promotion and Education in Personalized Medicine. Imaging in Hawaii (Hawaii), 2014. 3.
 - 10) 小林靖宏, 石原圭一, 汲田伸一郎：FDG-PET を用いた心サルコイドーシス診断：生理的心筋集積抑制処置の原理と運用. 第 180 回技術フォーラム (東京), 2013. 7.
 - 11) 汲田伸一郎, 小林靖宏, 富山 毅：心臓 PET の臨床応用. 第 72 回 日本医学放射線学会 (横浜), 2013. 4.
 - 12) 高木 亮：アレルギー・腎機能障害のある患者での造影剤使用での考え方. 第三回救急放射線セミナープレミア (品川), 2013. 6.
 - 13) 村田 智：New embolization device：Amplatzer vascular plug. 第 41 回日本 IVR 学会総会 (軽井沢), 2013. 5.
- (3) シンポジウム：
- 1) 天野康雄：MRI による心機能解析：ゴールドスタンダードとしての臨床的価値. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
 - 2) 栗林茂彦：小線源治療の適応拡大. 第 15 回放射線腫瘍学会小線源治療部会 (福岡), 2013. 5.
 - 3) 天野康雄：MRI による心機能解析：ゴールドスタンダードとしての臨床的価値. 第 72 回日本医学放射線学会 (横浜), 2013. 4.
 - 4) 天野康雄：MRI を用いた 2 次性心筋症の画像診断. 第 33 回日本画像医学会 (東京), 2014. 2.
 - 5) 小林靖宏, 汲田伸一郎：心サルコイドーシスを如何に診断するか. 第 23 回心臓核医学会総会・学術大会 (東京), 2013. 6.
 - 6) 汲田伸一郎, 富山 毅, 林 宏光, 石原圭一, 高野仁司¹⁾, 高橋直人¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学循環器内科)：Multimodality により心筋を診る：心筋血流 PET における定量化の意義. 第 24 回日本心血管画像動態学会・第 78 回日本心臓血管放射線研究会 (合同シンポジウム), 2014. 1.
 - 7) 富山 毅, 汲田伸一郎, 須田匡也, 櫻井 実, 石原圭一：Time-of-Flight 効果の臨床へのインパクト. PET サマーセミナー 2013 (金沢), 2013. 8.
 - 8) 町田 幹：高画質化を求めた低電圧腹部 CT と逐次近似処理. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013.

4.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 富山 毅, 石原圭一, 汲田伸一郎：各モダリティを用いた心筋血流の定量評価について：有用性と問題点. *Multi-modality Cardio Vascular Imaging (MCVI)*, 2013. 10.
- 2) 安井大祐, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 山口英宣, 杉原史恵, 三樹いずみ, 汲田伸一郎, 吉岡正人¹⁾, 川本智章²⁾ (¹⁾ 消化器外科, ²⁾ 消化器・肝臓内科)：非外傷性腹腔内出血に対する IVR 治療. 第 50 回腹部救急医学会総会 (東京), 2014. 3.

(5) セミナー：

- 1) 町田 幹：高画質化を求めた低電圧腹部 CT と逐次近似処理. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 2) 林 宏光：SCENARIA：腹部 CT における低被曝と高画質の両立にむく. *Advanced CT・MRI 研究会* (軽井沢), 2013. 6.
- 3) 林 宏光：造影剤の安全性：造影剤腎症と NSF. 第 13 回日本核医学会春季大会 (東京), 2013. 4.
- 4) 林 宏光：造影剤の安全性：造影剤腎症と NSF. 第 26 回ミッドウインターセミナー (福岡), 2014. 1.

(6) ポスター：

- 1) 栗林茂彦, 宮下次廣, 小澤由季子, 秋本裕義, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日医大 泌尿器科)：限局性前立腺癌に対する 3D-CRT 寡分割照射における有害事象の検討. 日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会 (青森), 2013. 10.

(7) 一般講演：

- 1) 町田 幹, 會田久美子, 富山 毅, 箱崎謙太, 日高史貴, 杉崎健一, 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎：術前腹部 3D-CT 撮影における逐次近似型ノイズ低減処理を用いた被曝低減の試み. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 2) 谷 瞳, 村上隆介, 吉田民子, 岡崎恵美, 天野康雄, 汲田伸一郎, 芳賀俊介¹⁾, 松原美幸²⁾, 土屋眞一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 乳腺科, ²⁾ 日本医科大学 病理部)：乳腺神経内分泌癌の画像所見の検討. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 3) 村上隆介, 谷 瞳, 青島雅人, 武田美那子, 三樹いずみ, 吉田民子, 岡崎恵美, 箱崎謙太, 杉原健一, 汲田伸一郎：Incidental Breast Cancer：単純 CT における乳癌の描出能の検討. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 4) 三樹いずみ, 村上隆介, 吉田民子, 谷 瞳, 武田美那子, 汲田伸一郎：当院で経験した 10mm 以下の乳癌の特徴についての検討. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 5) 関根鉄朗, 高木 亮, 天野康雄, 松村善雄, 村井保夫¹⁾, 鈴木由里子²⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 脳外, ²⁾ フィリップス)：4D Flow MRI を用いた眼動脈逆行性血流の臨床的評価：内頸動脈閉塞例における脳血流 SPECT との比較. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 6) 織田絵里香, 高木 亮, 天野康雄, 関根鉄朗, 日高史貴, 石原圭一, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 脳外)：3D Turbo SE 法を用いたダイナミック MRI による下垂体微小腺腫の評価. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 7) 安井大祐, 村田 智, 中澤 賢, 小野澤志郎, 山口英宣, 杉原史恵, 秋葉絢子¹⁾, 三樹いずみ, 汲田伸一郎 (¹⁾ 新百合ヶ丘総合病院)：肝細胞癌に対する冠動脈化学塞栓術における加温ミリプラチンによる治療効果の向上に関する検討. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 8) 杉原史恵, 村田 智, 中澤 賢, 小野澤志郎, 山口英宣, 秋葉絢子¹⁾, 安井大祐, 三樹いずみ, 汲田伸一郎 (¹⁾ 新百合ヶ丘総合病院)：小腸出血における IVR の有用性. 第 72 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2013. 4.
- 9) 會田久美子, 町田 幹, 富山 毅, 箱崎謙太, 日高史貴, 杉崎健一, 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎：逐次近

- 似型ノイズ低減処理を用いた被曝低減の試み：人体ファントムによる検討. 第72回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2013. 4.
- 10) 小林靖宏, 石原圭一, 福嶋善光, 秋山一義, 汲田伸一郎：長期間糖質制限 18F-Fluorodeoxyglucose PET/CT を用いた心サルコイドーシスの検討. 第72回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2013. 4.
 - 11) 富山 毅, 汲田伸一郎, 小林靖宏, 福嶋善光, 金谷浩司¹⁾, 須田匡也¹⁾, 櫻井 実¹⁾, 石原圭一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学健診医療センター)：TOF-PET/CT 装置を用いた N-13 アンモニア PET の初期経験. 第72回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2013. 4.
 - 12) 杉原康朗, 福嶋善光, 林 宏光, 鳥羽正浩, 岡崎恵美, 小林靖宏, 富山 毅, 汲田伸一郎：たこつぼ型心筋症における心臓 SPECT/CTA Fusion image の有用性. 第72回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2013. 4.
 - 13) 山口英宣, 村田 智, 小野澤志郎, 中澤 賢, 杉原史恵, 安井大祐, 林 宏光, 汲田伸一郎：孤立性腹腔内臓動脈脈離に対する IVR 治療の有用性. 第72回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2013. 4.
 - 14) 高木 亮, 関根鉄朗, 天野康雄, 村井保夫¹⁾, 織田絵里香, 日高史貴, 喜多村孝幸¹⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 脳外)：4D-flow MRI を用いた内頸動脈瘤結紮術後の EC/IC バイパス術後の評価. 第72回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2013. 4.
 - 15) 福嶋善光, 鳥羽正浩, 小林靖宏, 杉原康朗, 山口英宣, 岡崎恵美, 岩野茉莉絵, 汲田伸一郎：肺血栓塞栓症に対する深吸気息止め肺血流 SPECT-CT の有用性. 第72回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2013. 4.
 - 16) 青島雅人, 箱崎謙太, 町田 幹, 村上隆介, 石原圭一, 汲田伸一郎：GIST の悪性度診断における PET/CT の有用性. 第72回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2013. 4.
 - 17) 宮下次廣, 栗林茂彦, 小澤由季子, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医大耳鼻咽喉科)：早期声門癌に対する頸動脈防護照射の治療成績. 日本放射線腫瘍学会第26回学術大会（青森）, 2013. 10.
 - 18) 富山 毅, 石原圭一, 須田匡也, 櫻井 実, 福嶋善光, 曾原康二, 杉原康朗, 佐藤英尊, 箱崎謙太, 秋山一義, 汲田伸一郎：悪性病変の SUVmax における Time-of-Flight 効果に関する検討. 第53回日本核医学会学術総会（福岡）, 2013. 11.
 - 19) 林 宏光：経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）/経カテーテル大動脈弁置換術（TAVR）前の CT 画像に関する SCCT ガイドライン. 第7回 SCCT 研究会（東京）, 2013. 9.
 - 20) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S : 4D Flow MRI assessment of cerebral blood flow after extracranial-intracranial bypass. 21th annual meeting of ISMRM (USA), 2013. 4.
 - 21) Sekine T, Takagi R, Amano Y, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S : 4D Flow assessment of cerebral hemodynamics : The qualitative and quantitative assessment for patients with post EC-IC bypass. 41th annual meeting of JSMRM (TOKUSHIMA), 2013. 9.
 - 22) Sekine T, Takagi R, Amano Y, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S : The assessment of carotid artery occlusion with 4D Flow MR imaging featuring flow direction of the ophthalmic artery : Comparison with SPECT. 71th annual meeting of JRS (Yokohama), 2013. 4.
 - 23) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Yasuo M, Matsumura Y, Kumita S : 4D Flow MRI Assessment of Cerebral Blood Flow after Extracranial-Intracranial Bypass. 99th annual meeting of RSNA (Chicago), 2013. 12.
 - 24) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Kumita S : Review of Hyperintensity in Intracranial Extra-Axial Space on FLAIR : Artifact and Diseases. 99th annual meeting of RSNA (Chicago), 2013. 12.
 - 25) Amano Y, Tachi M, Tani H, Kumita S, Obara M : Contrast-enhanced Look-Locker and delayed-enhancement MRI in patients with apical hypertrophic cardiomyopathy : distribution of myocardial damages and its association with risk factors and cardiac function. 21st annual meeting of ISMRM (Salt Lake City), 2013. 4.
 - 26) Amano Y, Tachi M, Kitamura M, Tani H, Kumita S : Late gadolinium enhancement MRI parameters re-

- lated to ventricular tachyarrhythmia and subsequent invasive treatments in asymmetric septal hypertrophic cardiomyopathy with preserved ejection fraction. 21st annual meeting of ISMRM (Salt Lake City), 2013. 4.
- 27) Amano Y, Tachi M, Matsumura Y, Sekine T : Differences in blood T1-value between right and left ventricles on 4-chamber view contrast-enhanced Look-Locker CMR. 21st annual meeting of ISMRM (Salt Lake City), 2013. 4.
 - 28) Amano Y, Tachi M, Tani H, Machida T, Takeda M, Obara M : MRI evaluation of diffuse myocardial diseases. 21st annual meeting of ISMRM (Salt Lake City), 2013. 4.
 - 29) Saito T, Asai K, Amano Y, Sato S, Takano H, Mizuno K, Shimizu W : Prognostic utility of ultrastructural features in early dilated cardiomyopathy before presenting cardiac magnetic resonance findings. 78th annual meeting of Jpn Society Circulation (Tokyo), 2014. 3.
 - 30) 杉原史恵, 村田 智, 中澤 賢, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 山口英宜, 上田達夫, 秋葉絢子, 安井大祐, 三樹いずみ, 會田久美子, 汲田伸一郎 : 小腸出血における IVR の有用性と予後因子に関する検討. 第 42 回 IVR 学会総会 (軽井沢), 2013. 5.
 - 31) 杉原史恵, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 山口英宜, 安井大祐, 三樹いずみ, 川本智章, 内田英二, 汲田伸一郎 : 難治性肝膿瘍に対して抗生剤動注療法を施行した 3 例の検討. 第 8 回日本 IVR 学会関東地方会 (品川), 2013. 7.
 - 32) 谷 瞳, 村上隆介, 會田久美子, 織田絵里香, 汲田伸一郎, 岩本美樹¹⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院乳腺科) : 石灰化を伴わない DCIS の検討. 第 23 回日本乳癌検診学会学術総会 (東京), 2013. 11.
 - 33) 逸見円香, 大島有希, 古崎治子, 小林宏之, 谷 瞳, 村上隆介 : デュアルエネルギーデジタルマンモグラフィにおける撮影条件および画質の評価. 第 23 回日本乳癌検診学会学術総会 (東京), 2013. 11.
 - 34) 大島有希, 逸見円香, 古崎治子, 小林宏之, 村上隆介 : デュアルエネルギーデジタルマンモグラフィにおける撮影条件の評価. 第 41 回日本放射線技術学会秋季学術大会 (福岡), 2013. 10.
 - 35) 古崎治子, 逸見円香, 大島有希, 小林宏之, 村上隆介 : デュアルエネルギーデジタルマンモグラフィにおける画質の評価. 第 41 回日本放射線技術学会秋季学術大会 (福岡), 2013. 10.
 - 36) 柳原恵子, 飯田信也, 栗田智子, 岩本美樹, 山下浩二, 村上隆介, 谷 瞳, 樋口勝美, 古川清憲, 芳賀駿介, 土屋眞一 : XC 療法 7 例の検討. 第 21 回日本乳癌学会学術総会 (浜松), 2013. 7.
 - 37) Kobayashi Y, Ishihara K, Fukushima Y, Kumita S : Clinical application of F-18-Fluorodeoxyglucose PET/CT with long-term low-carbohydrate diet preparation for the diagnosis of patients of cardiac sarcoidosis. Annular Congress of the European Association of Nuclear Medicine 2013 (Lyon), 2013. 10.
 - 38) 小林靖宏, 石原圭一, 福嶋善光, 秋山一義, 佐藤英尊, 須田匡也, 櫻井 実, 汲田伸一郎 : FDG-PET における生理的心筋集積とケトン体の関係: 長時間糖質制限食負荷による抑制処置の. 第 53 回日本核医学会学術総会 (福岡), 2013. 11.
 - 39) 小林靖宏 : 研修医の今のうちに知っておきたい核医学検査の基礎~SPECT/CT・PET. 日本医科大学 研修医セミナー (東京), 2013. 4.
 - 40) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 小林靖宏, 杉原康朗, 富山 毅, 曾原康二 : 肺血栓塞栓症に対する肺血流 SPECT-CT を用いた灌流欠損/血栓分布の評価. 第 53 回日本核医学会学術総会 (福岡), 2013. 11.
 - 41) 曾原康二, 佐藤英尊, 富山 毅, 箱崎謙太, 福嶋善光, 秋山一義, 石原圭一, 汲田伸一郎 : 肺カルチノイドの肝転移性病変の鑑別診断に FDG-PET/CT 及び MIBG SPECT が役立った 1 例. 第 53 回日本核医学会学術総会 (福岡), 2013. 11.
 - 42) 須田匡也, 金谷浩司, 櫻井 実, 長谷康二, 武井めぐみ, 富山 毅, 土橋俊男 : 13N NH3 心筋 PET における定

- 量解析の再現性評価. 第41回日本放射線技術学会秋季学術大会(福岡), 2013. 10.
- 43) 三樹いずみ, 村田 智, 小野澤志郎, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宜, 杉原史恵, 秋葉絢子, 安井大祐, 汲田伸一郎: 臓器虚血が出現したStanford B型急性大動脈解離に対し経皮的腹部大動脈開窓術を施行した1例. 第42回日本IVR学会総会(軽井沢), 2013. 5.
 - 44) 杉原康朗, 福嶋善光, 小林靖宏, 川野陽一, 内田英二, 汲田伸一郎: 肝門脈右枝塞栓術例における99mTc-GSA SPECT/CTを用いた領域別肝予備能評価. 第53回日本核医学会学術総会(福岡), 2013. 11.
 - 45) Sugihara Y, Fukushima Y, Kobayashi Y, Kumita S: Clinical application of fusion image of fatty acid metabolism / myocardial perfusion SPECT and coronary CTA in Takotsubo cardiomyopathy. European association of Nuclear Medicine conges 2013 (Lyon), 2013. 10.
 - 46) 山口英宜, 小野澤志郎, 田島廣之, 嶺 貴彦, 村田 智, 杉原史恵, 安井大祐, 杉原 仁, 林 宏光, 汲田伸一郎: 副腎静脈サンプリング施行前のthin slice CTによる右副腎静脈同定の有用性. 第33回日本静脈学会総会(倉敷), 2013. 6.
 - 47) 山口英宜, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 杉原史恵, 安井大祐, 林 宏光, 汲田伸一郎: Management of Spontaneous Isolated Visceral Artery Dissection. 第42回IVR学会総会(軽井沢), 2013. 5.
 - 48) Yasui D, Murata S, Onozawa S, Mine T, Yamaguchi H, Sugihara F, Akiba A, Miki I, Kumita S: Improved efficacy of Transcatheter arterial chemoembolization using warmed Miriplatin for Hepatocellular carcinoma. 第42回IVR学会総会(軽井沢), 2013. 5.
 - 49) Yasui D, Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Yamaguchi H, Sugihara F, Miki I, Kumita S: Improved efficacy of transarterial chemoembolization using warmed miriplatin for the treatment of hepatocellular carcinoma: intermediate term review. Society of Interventional Radiology 39th Annual scientific meeting (San diego USA), 2014. 3.
 - 50) Yasui D, Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Yamaguchi H, Sugihara F, Miki I, Kumita S: Endovascular treatment for renal arteriovenous malformations using liquid embolization agents. Society of Interventional Radiology 39th Annual scientific meeting (San diego USA), 2014. 3.
 - 51) 武田美那子, 天野康雄, 城 正樹, 北村光信¹⁾, 汲田伸一郎⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院循環器内科): 心室中部閉塞性肥大型心筋症(MVO)の心臓MRIとリスク因子の比較. 第78回日本心臓血管放射線研究会(北九州), 2014. 1.
 - 52) Takeda M, Amano Y, Tachi M, Tani H, Sekine T, Kobayashi Y, Takagi R, Kumita S: Three-dimensional Cardiac MR Imaging: Techniques and Clinical Applications. 99th annual meeting of Radiological society of North America (Chicago), 2013. 12.
 - 53) Kiyuna H, Machida T, Hakozaki K, Imai S, Aita K, Hidaka F, Sugisaki K, Takagi R, Hayashi H, Kumita S: Radiation dose reduction by using iterative noise reduction processing: Human Phantom study. ECR2014 (Wien), 2014. 3.
 - 54) Fukushima Y, Kiriya T, Kobayashi Y, Sugihara Y, Tomiyama T, Sohara K, Kumita S: Clinical application of deep-inspiratory breath-hold pulmonary perfusion SPECT with SPECT-CT combined system in patients with pulmonary thromboembolism. European association of Nuclear Medicine Congress 2013(Lyon), 2013. 10.
 - 55) Sugihara Y, Fukushima Y, Kobayashi Y, Kumita S: Clinical application of fusion image of fatty acid metabolism / myocardial perfusion SPECT and coronary CTA in Takotsubo cardiomyopathy. European association of Nuclear Medicine Congress 2013 (Lyon), 2013. 10.
 - 56) 桐木園子, 宮本正章, 高木 元, 久保田芳明, 手塚晶人, 福嶋善光, 杉原康朗, 汲田伸一郎, 清水 渉: 67Ga-citrate-SPECT-CT融合画像評価による新しい半定量的骨髄炎診断法の開発と予後評価. 第43回創傷治癒学会

(別府), 2013. 11.

- 57) 飯村剛史, 小川 令, 百束比古, 福嶋善光, 汲田伸一郎: リンパ浮腫に対する術前後の 2 phase dynamic lymphoscintigraphy の有用性. 第 81 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2013. 9.
 - 58) Moriya K, Tamura H, Fukushima Y, Hamada Y, Okumura N, Kondo A, Yui S, Kumita S, Inokuchi K : SPECT-CT in the detection of bone lesions in multiple myeloma. 第 75 回日本血液学会学術集会 (札幌), 2013. 10.
 - 59) 飯村剛史, 小川 令, 福嶋善光, 汲田伸一郎, 百束比古: フチン酸を用いた 2 phase Dynamic Lymphoscintigraphy の有用性. 第 22 回日本形成外科学会基礎学術集会 (新潟), 2013. 11.
 - 60) 小野澤志郎, 村田 智, 山口英宣, 嶺 貴彦, 牧田幸三¹⁾, 高瀬 圭²⁾, 田島廣之, 川俣博志³⁾, 西田典史³⁾, 前田弘彰³⁾, 金崎周造³⁾, 鶴崎正勝³⁾, 保本 卓³⁾, 石口恒男³⁾, 齋藤博哉³⁾ (1) 練馬光が丘病院, 2) 東北大学放射線診断科, 3) 日本 IVR 学会教育委員会): 副腎静脈サンプリングの現状と展望. 第 42 回日本 IVR 学会総会 (軽井沢), 2013. 5.
 - 61) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 山口英宣, 嶺 貴彦, 杉原 仁¹⁾, 汲田伸一郎 (1) 日本医科大学代謝内分泌内科): Angio-CT 併用による副腎静脈サンプリング. 第 33 回静脈学会総会 (倉敷), 2013. 6.
 - 62) Onozawa S, Tajima H, Mine T, Morota T¹⁾, Kurita J¹⁾, Ochi M¹⁾ (1) Dept of cardiovascular surgery): Endovascular repair for severe late failure of Zenith stent graft 2000 model. Lipzig Interventional course 2014 (Leipzig), 2014. 1.
- (8) Scientific poster :
- 1) Takagi R, Sekine T, Amano Y, Murai Y¹⁾, Orita E, Morita A¹⁾, Kumita S : 4D Flow MR Imaging after IC ligation for Giant Aneurysm and High Flow EC-IC Bypass Surgery : Comparison with TOF MRA, CT angiography and CT perfusion. 99th Scientific assembly and annual meeting (chicago), 2013. 11.
- (9) リフレッシャーコース :
- 1) 林 宏光: 大動脈疾患 診断から治療適応 (改訂ガイドラインをふまえて). 第 49 回日本医学放射線学会秋季臨床大会 (名古屋), 2013. 10.

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) Takamoto S, Ishimaru S, Kato M, Kuribayashi S, Matsuo H, Miyata T, Nakajima Y, Ogino H, Ohki T, Okita Y, Tabayashi K, Ueda Y, Yoshida K, Abe T, Akutsu K : Guidelines for diagnosis and treatment of aortic aneurysm and aortic dissection (JCS 2011) -Digest version. Circulation Journal 2013 ; 77 (3) : 789-828.
- 2) 林 宏光 : 3D-CT の偶発症と合併症. 日本医事新報 2013 ; 1634 : 60-61.
- 3) 小野新平¹⁾, 林 宏光, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科): 形成外科における MDCT の応用. PEPARS 2013 : 73 : 9-17.
- 4) 林 宏光, 汲田伸一郎: 左房血栓の遊離によると考えられた多発塞栓症. ICU と CCU 2012 ; 36 (11) : 1052-1054.
- 5) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 山口英宣, 杉原史恵, 安井大祐, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 上田達夫, 嶺 貴彦: NBCA を用いた IVR の実際. 臨床画像 2013 ; 29 (2) : 256-264.
- 6) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川太郎, 山本英世¹⁾, 菊池有史¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 村田 智, 中沢 賢, 小野澤志郎, 山本 剛²⁾, 田中啓治²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 2) 日本医科大学付属病院集中治療室): プラクティカル・フレボロジー 急性肺血栓塞栓症のカテーテル治療. 静脈学 2013 ; 24 (1) : 79-86.

追加分原著：

- 1) Yamaguchi H, Toba M, Amano Y, Ishihara K, Mizuno K, Kumita S : Underestimation of the ejection fraction using the quantitative gated SPECT for patients with myocardial hypertrophy. *Annals of Nuclear Medicine* 2013 ; 27 (6) : 502-507.
- 2) Murata S, Onozawa S, Kim C, Tajima H, Kimata R, Uchida E, Kumita S : Negative-balance isolated pelvic perfusion in patients with incurable symptomatic rectal cancer : results and drug dose correlation to adverse events. *Acta Radiol* 2014 ; 55 (7) : 793-901.

追加分症例報告：

- 1) 関口久美子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 町田 幹, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : Clostridium difficile 関連腸炎の早期発見に腹部 CT が有用であった 2 例. *日本腹部救急医学会雑誌* 2013 ; 33 (2) : 466.
- 2) 築山 敦¹⁾, 斉藤英正¹⁾, 川島 峻¹⁾, 山口昌紘¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 佐藤悦子¹⁾, 鈴木 剛¹⁾, 田上 隆¹⁾, 小原良規¹⁾, 金 史英¹⁾, 横田裕行¹⁾, 町田 幹 (¹⁾ 日本医科大学附属病院 高度救命救急センター) : 3DCT による診断が有用であった食道穿孔の 1 例 (症例報告). *日本医科大学医学会雑誌* 2012 ; 8 (4) : 329.

著 書

追加分：

- 1) 栗林茂彦：〔分担〕ケロイド；小線源治療部会ガイドラインに基づく密封小線源治療 診療・物理 QA マニュアル. 放射線治療計画ガイドライン 2012 年版 (公益社団法人 日本放射線腫瘍学会 小線源治療部会編), 2012 ; pp164-166, 金原出版株式会社.
- 2) 林 宏光：〔分担〕CT, MRI. CCU テキスト. - 循環器救急から集中治療管理まで - ((編) 田中啓治, 山本剛), 2013 ; 文光堂.
- 3) 林 宏光：〔分担〕腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン 2012. ダイジェスト版 (日本腎臓学会・日本医学放射線学会・日本循環器学会 (共同編集)), 2013 ; 東京医学社.
- 4) 汲田伸一郎, 小林靖宏：〔分担〕心不全の原因・病態に迫る検査：PET はどのような症例に行うべきか？. 変貌する心不全診療 (伊藤浩 編集), 2013 ; pp103-106, 南江堂.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) Sekine T, Takagi R, Matsumoto G, Kumita S : Acute accessory middle cerebral artery infarction : a case report. 42th annual meeting of JSNR (hukuoka), 2013. 2.
- 2) 関根鉄朗, 天野康雄, 高木 亮, 松村善雄, 鈴木由里子, 汲田伸一郎 : 4D Flow MRI を用いた眼動脈逆行性血流の臨床的評価：内頸動脈閉塞例における脳血流 SPECT との比較. 第 38 回日本脳卒中学会総会 (東京), 2013. 3.

追加分教育講演：

- 1) 林 宏光：SCCT (心臓 CT 学会) ガイドラインの要点：検査/読影/報告のポイントを中心に. 第 5 回九州・山口循環器画像研究会 (福岡), 2013. 3.
- 2) 林 宏光：大動脈瘤・大動脈解離：診断から治療まで. 第 32 回日本画像医学会 (東京), 2013. 2.
- 3) Kobayashi Y, Amano Y, Kumita S : Cardiac Sarcoidosis : Evaluation by MRI, 18-F-FDG PET and Other Modalities. *Imaging in Hawaii (USA)*, 2013. 3.

追加分特別講演：

- 1) 林 宏光：腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドラインとその実践的活用. 岩手県臨床画像セミ

- ナー（盛岡），2013. 3.
- 2) 林 宏光：腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドラインとその実践的活用. Tokyo MDCT Forum 2013（東京），2013. 2.
- 3) 林 宏光：腎機能障害と造影検査：造影剤腎症とNSFを中心に. 第18回熊本画像診断テクノロジー研究会（熊本），2013. 2.

[武蔵小杉病院放射線科]

研究概要

放射線診断学：1) 呼吸器疾患に対して呼吸器内科・外科と協同し画像と診療の質向上を図っている。2) 消化器疾患に対して、新しいMRIを導入し有用性を検討しており、また多検出器型CTとの対比の上で肝腫瘍の質的診断能向上に取り組んでいる。3) 地域の肺がん・胃がん検診に協力している。4) 乳がん検診に取り組んでおり、マンモトームを使って最終診断をつける様努めている。Interventional Radiology：血管内・低侵襲治療センターと協力し、肝細胞癌をはじめ各種腫瘍性病変の治療、大動脈瘤など血管性病変の治療、外傷性疾患への緊急対応などを行っている。放射線治療：1) 悪性疾患に対して集学的治療の一翼を担っている。2) 緩和治療の一環として臨床各科に協力を行っている。3) 形成外科とともに良性疾患であるケロイド治療に取り組んでいる。核医学：1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tajima H¹⁾, Onozawa S²⁾, Isshiki S, Takenoshita N¹⁾, Kaneshiro T¹⁾, Ichikawa T, Murata S²⁾, Matsuda K³⁾, Furukawa A⁴⁾ (1) Center For Minimally Invasive Treatment, Musashikosugi Hosupital, 2) Radiology, Nippon Medical School Hpspital, 3) Emergency Medicine, Musashikosugi Hosupital, 4) Radiological Science, Tokyo Metropolitan University) : Angiography-assisted computed tomography for the detection and intervention of a subtle aneurysm of the omentum. Jpn J Radiol 2014 ; 32 (4) : 238-241.

(2) 総説：

- 1) 一色彩子, 佐藤秀一¹⁾ (1) 横浜旭中央総合病院) : 捻転の画像診断. 消化管・大網. 臨床画像 2013 ; 29 (10) : 1159-1186.
- 2) 一色彩子 : 市中肺炎 (CAP) の診療. 市中肺炎の画像診断. medicina 2013 ; 50 (12) : 1958-1967.
- 3) 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 山本英世²⁾, 松田 潔³⁾, 市川太郎, 菊池有史²⁾, 佐藤直樹²⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 武蔵小杉病院救命救急センター) : 救急診療におけるCT・MRIとIVR. 急性肺血栓塞栓症と深部静脈血栓症. 救急医学 2013 ; 37 (10) : 1329-1337.
- 4) 小林由子¹⁾, 田島廣之²⁾, 平沼千明¹⁾, 上田達夫¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 山本 彰¹⁾, 中井章人³⁾, 金城忠志²⁾, 一色彩子, 汲田伸一郎⁴⁾ (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 3) 多摩永山病院女性診療科, 4) 付属病院放射線科) : 捻転の画像診断. 女性骨盤. 臨床画像 2013 ; 29 (10) : 1214-1222.
- 5) 一色彩子, 田島廣之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : 特集アドバンストコース, 捻転の画像診断. 臨床画像 2014 ; 30 (2) : 223-226.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 市川太郎：初めての CTC 読影に戸惑う私. 消化管 CT 技術研究会 (第 7 回) (東京), 2013. 11.
- 2) 一色彩子：全身性疾患の中樞神経病変. 日本磁器共鳴医学会 (第 41 回) (徳島), 2013. 9.
- 3) 一色彩子：腹部感染症の画像診断. 吉祥寺画像診断セミナー感染症 (第 5 回) (東京), 2013. 11.
- 4) 一色彩子：全身性疾患の中樞神経病変. 日本医学放射線学会関東地方会セミナー (東京), 2014. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 一色彩子, 市川太郎, 菊池有史²⁾, 山本英世²⁾, 佐藤直樹²⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院循環器内科)：浅大腿動脈に対する Zilver PTX 薬剤溶出型末梢血管用ステントの初期臨床検討. 日本 IVR 学会総会 (第 42 回) (軽井沢), 2013. 5.
- 2) 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 橋和聡文, 一色彩子, 山口香織, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎, 松田 潔²⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院救急救命センター)：非外傷性出血に対する NBCA リピオドールを用いた塞栓術. 日本 IVR 学会総会 (第 42 回) (軽井沢), 2013. 5.

(3) 一般講演：

- 1) Isshiki S, Ichikawa T, Tajima H¹⁾, Obuchi M²⁾, Sato S²⁾ (1) Center for Minimally Invasive Treatment, Musashikosugi Hospital, 2) Asahi Central General Hospital)：Radiological anatomy and abnormal configuration of the pre-vesical space. ESGAR 2013 (Barcelona), 2013. 6.
- 2) 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 一色彩子, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎, 菊池有史²⁾, 山本英世²⁾, 佐藤直樹²⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院循環器内科)：Zilver PTX 薬剤溶出型末梢血管用ステントの初期臨床検討. 日本医学放射線学会 (第 72 回) (横浜), 2013. 4.
- 3) 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 橋和聡文, 一色彩子, 山口香織, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎 (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：Zinner 症候群の画像診断. 日本医学放射線学会 (第 72 回) (横浜), 2013. 4.
- 4) 一色彩子, 市川太郎, 田島廣之¹⁾, 安藤 順, 清水康弘, 山口香織, 橋和聡文, 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：肺靱帯病変の画像診断：分画肺捻転症例を中心に. 日本医学放射線学会 (第 72 回) (横浜), 2013. 4.
- 5) 橋和聡文, 市川太郎, 一色彩子, 山口香織, 清水康弘, 安藤 順, 西村祥循, 黒瀬厚成, 高橋 徹, 蘭牟田修, 竹ノ下尚子¹⁾, 金城忠志¹⁾, 田島廣之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：Beam sat パルスを用いた TOF MRA の初期臨床経験. Advanced CT・MR 研究会 2013 (第 3 回) (軽井沢), 2013. 6.
- 6) 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 市川太郎, 安藤 順, 清水康弘, 一色彩子, 山口香織, 橋和聡文, 井村 肇²⁾, 丸山雄二²⁾, 白川 真²⁾, 吉尾敬秀²⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科)：大量後腹膜血腫の出血源同定に苦慮した腹部大動脈切吻合部瘤・右腎動脈瘤併存の 1 例. 川崎大動脈ステントグラフト研究会 (第 2 回) (川崎), 2013. 7.
- 7) 金城忠志¹⁾, 田島廣之¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎, 安藤 順, 清水康弘, 一色彩子, 山口香織, 橋和聡文, 松田 潔²⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院救命救急センター)：電撃傷が原因と思われる肩甲骨骨折の 1 例. 日本救急放射線研究会 (第 23 回) (名古屋), 2013. 10.

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 竹ノ下尚子¹⁾, 金城忠志¹⁾, 田島廣之¹⁾, 一色彩子, 表 俊也²⁾, 佐藤直樹²⁾, 丸山雄二³⁾, 井村 肇³⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 武蔵小杉病院心臓血管外科)：腹部大動脈

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 一色彩子 : 腸閉塞の画像診断. 日本画像医学会研修医セミナー (第 32 回) (東京), 2013. 2.

[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]

研究概要

臨床・基礎各科との協調・連携の下, 血管内・低侵襲治療に関する広範な領域の臨床研究を展開しており, 「急性疾患の血管内治療」と「全身血管性病変の血管内治療」をメインテーマとしている. 前者に関しては, 「静脈血栓塞栓症」と「外傷」を 2 本の研究の柱としており, 文部科学省の科学研究費を獲得し, 国際学会のシンポジウムに採択されるなど, 国内外で高い評価を得ている. 咯血・消化管出血・後腹膜出血などの「出血」に関する研究も進んでいる. 後者に関しては, 胸部・腹部・腹部大動脈瘤/解離のステントグラフト, 閉塞性動脈硬化症のステント, 膝下動脈狭窄・閉塞のバルン PTA, 腎動脈狭窄のステントグラフトなどの低侵襲血行再建や動静脈奇形の血管塞栓術などに関する研究を行っているが, その良好な治療成績が目されている. 一方, 非血管低侵襲治療については, 肺癌の CT ガイド下生検・ラジオ波焼灼治療, 術後トラブルに対する CT ガイド下ドレナージ, 乳癌のステレオタクティク・マンモトーム生検などを中心とした臨床研究を行っている. 血管内・低侵襲治療をより安全に効果的に施行する目的で, 先端画像診断に関する解析や新規デバイスの開発も行っており, 「東京アンギオ・IVR 会」の事務局を担当している. なお, これらと平行して, 以前より肺癌・乳癌・胃癌などの癌検診や造影剤に関する研究も継続している.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Murata S¹, Onozawa S¹, Kim C², Tajima H, Kimata R³, Uchida E⁴, Kumita S¹ (1) Radiology, Nippon Medical School, 2) Anesthesiology, Nippon Medical School, 3) Urology, Nippon Medical School, 4) Ist Surgery, Nippon Medical School) : Negative-balance isolated pelvic perfusion in patients with incurable symptomatic rectal cancer : results and drug dose correlation to adverse events. *Acta Radiol* 2013 ; 55 (7) : 793-801.
- 2) Onozawa S¹, Murata S¹, Tajima H, Yamaguchi H¹, Mine T¹, Ishizaki A², Sugihara H², Oikawa S², Kumita S¹ (1) Radiology, Nippon Medical School, 2) Endocrinology, Nippon Medical School) : Evaluation of right adrenal vein cannulation by computed tomography angiography in 140 consecutive patients undergoing adrenal venous sampling. *Eur J Endocrinol* 2014 ; 170 (4) : 601-608.
- 3) Tajima H, Onozawa S¹, Isshiki S², Takenoshita N, Kaneshiro T, Ichikawa T², Murata S¹, Matsuda K³, Furukawa A⁴ (1) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 2) Radiology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 3) Emergency Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 4) Radiological Science, Tokyo Metropolitan University) : Angiography-assisted computed tomography for the detection and intervention of a subtle aneurysm of the omentum. *Jpn J Radiol* 2014 ; 32 (4) : 238-241.
- 4) Mine T¹, Murata S¹, Yasui D¹, Tajima H, Kawamata H¹, Yokota H², Kumita S¹ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Endovascular recanalization techniques for popliteal arterial occlusive injury with limb-threatening ischemia secondary to trauma. *Acta Radiol Short Rep* 2014 ; 3 (1).

(2) 総説：

- 1) 山本 剛¹⁾, 村田 智²⁾, 田島廣之, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 付属病院CCU, ²⁾ 付属病院放射線科) : 急性肺塞栓症に対するカテーテル治療の現況. 心臓 2013 ; 45 (7) : 919-920.
- 2) 田島廣之, 竹ノ下尚子, 金城忠志 : 救急診療におけるCT・MRIとIVR. 代表的疾患におけるIVRの位置づけ. 救急医学 2013 ; 37 (10) : 1324-1328.
- 3) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 山本英世¹⁾, 松田 潔²⁾, 市川太郎³⁾, 菊池有史¹⁾, 佐藤直樹¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院循環器内科, ²⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター, ³⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : 救急診療におけるCT・MRIとIVR. 急性肺血栓塞栓症と深部静脈血栓症. 救急医学 2013 ; 37 (10) : 1329-1337.
- 4) 田島廣之 : 捻転の画像診断. 序説. 臨床画像 2013 ; 29 (10) : 1147-1147.
- 5) 小林由子¹⁾, 田島廣之, 平沼千明¹⁾, 上田達夫¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 山本 彰¹⁾, 中井章人²⁾, 金城忠志, 一色彩子³⁾, 汲田伸一郎⁴⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 多摩永山病院女性診療科, ³⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ⁴⁾ 付属病院放射線科) : 捻転の画像診断. 女性骨盤. 臨床画像 2013 ; 29 (10) : 1214-1222.
- 6) 嶺 貴彦¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 高木 亮¹⁾, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 進藤恵美²⁾, 川俣博志²⁾, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院放射線科) : Trauma Radiology入門. 胸部外傷. 画像診断 2013 ; 33 (14) : 1538-1548.
- 7) 田島廣之 : 浅大腿動脈のIVR. 序説. 臨床画像 2014 ; 30 (2) : 209-209.
- 8) 川俣博志¹⁾, 進藤恵美¹⁾, 古川一博¹⁾, 中條秀信¹⁾, 岡田 進¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科) : 浅大腿動脈のIVR. 疾患概念. 臨床画像 2014 ; 30 (2) : 210-216.
- 9) 一色彩子¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科) : 特集アドバンストコース. 捻転の画像診断. 臨床画像 2014 ; 30 (2) : 223-226.
- 10) 田島廣之 : 間質性肺炎の基本と考え方 : 診断から治療まで. 序説. 臨床画像 2014 ; 30 (3) : 247-247.

著 書

- 1) 田島廣之 : [分担] 大血管のIVR. 放射線医学 (心大血管, 乳腺) (中島康雄編集), 2013 ; pp32-39, 金芳堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 村田 智¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 安井大祐¹⁾, 山口英宣¹⁾, 秋葉絢子¹⁾, 田島廣之, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科) : 新たな塞栓デバイス : AMPLATZER Vascular Plug. 日本IVR学会総会 (第42回) (軽井沢), 2013. 5.
- 2) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子 : 肺血栓塞栓症に対するカテーテル治療の実際 : ガイドライン作成を踏まえて. 東京血管外科画像診断治療研究会世話人会 (東京), 2013. 11.

(2) 教育講演：

- 1) 中沢 賢¹⁾, 村田 智²⁾, 田島廣之 (¹⁾ 埼玉医科大学, ²⁾ 日本医科大学付属病院放射線科) : 急性肺血栓塞栓症に対するIVR. 技術教育セミナー (第13回) 日本IVR学会総会 (第42回) (軽井沢), 2013. 5.
- 2) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子 : 静脈血栓塞栓症VTEに対するカテーテルインターベンションの実際. 神奈川VTE研究会 (第4回) (横浜), 2013. 6.
- 3) 田島廣之 : 救急画像診断概論. 救急撮影セミナー (第6回) (東京), 2013. 9.
- 4) 田島廣之 : 大血管救急疾患に対するカテーテル治療の実際. 多摩川フォーラム (第16回) (東京), 2013. 11.
- 5) 田島廣之 : 血管系IVRの基本. インターベンション・エキスパートナース講習会 (第4回) (東京), 2014. 1.
- 6) Tajima H : Trauma : Interventional Radiology : Transcatheter Arterial Embolization. JCR Seminar 2014 at Cho-Ray Hospital (Ho Chi Minh), 2014. 3.

(3) シンポジウム：

- 1) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子：術後深部静脈血栓塞栓のカテーテル治療. 日本外科学会定期学術集会（第113回）（福岡），2013. 4.
- 2) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 一色彩子¹⁾, 市川太郎¹⁾, 菊池有史²⁾, 山本英世²⁾, 佐藤直樹²⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院循環器内科）：浅大腿動脈に対する Zilver PTX 薬剤溶出型末梢血管用ステントの初期臨床検討. 日本 IVR 学会総会（第42回）（軽井沢），2013. 5.
- 3) 金城忠志, 竹ノ下尚子, 田島廣之, 橋和聡文¹⁾, 一色彩子¹⁾, 山口香織¹⁾, 清水康弘¹⁾, 安藤 順¹⁾, 市川太郎¹⁾, 松田 潔²⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター）：非外傷性出血に対する NBCA リピオドールを用いた塞栓術. 日本 IVR 学会総会（第42回）（軽井沢），2013. 5.
- 4) 松本 学¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 岩瀬史朗¹⁾, 村田 智²⁾, 田島廣之, 布施 明³⁾, 横田裕行³⁾（¹⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター, ²⁾ 付属病院放射線科, ³⁾ 付属病院救命救急センター）：頭頸部外傷における血管内治療：救命救急センターにおける適応疾患と治療成績. 日本 IVR 学会総会（第42回）（軽井沢），2013. 5.

(4) 一般講演：

- 1) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 一色彩子¹⁾, 清水康弘¹⁾, 安藤 順¹⁾, 市川太郎¹⁾, 菊池有史²⁾, 山本英世²⁾, 佐藤直樹²⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院循環器内科）：Zilver PTX 薬剤溶出型末梢血管用ステントの初期臨床検討. 日本医学放射線学会総会（第72回）（横浜），2013. 4.
- 2) 金城忠志, 竹ノ下尚子, 田島廣之, 橋和聡文¹⁾, 一色彩子¹⁾, 山口香織¹⁾, 清水康弘¹⁾, 安藤 順¹⁾, 市川太郎¹⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科）：Zinner 症候群の画像診断. 日本医学放射線科学会総会（第72回）（横浜），2013. 4.
- 3) 一色彩子¹⁾, 市川太郎¹⁾, 田島廣之, 安藤 順¹⁾, 清水康弘¹⁾, 山口香織¹⁾, 橋和聡文¹⁾, 金城忠志, 竹ノ下尚子（¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科）：肺靭帯病変の画像診断：分画肺捻転症例を中心に. 日本医学放射線学会総会（第72回）（横浜），2013. 4.
- 4) 小野澤志郎¹⁾, 村田 智¹⁾, 山口英宣¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 牧田幸三²⁾, 高瀬 圭³⁾, 田島廣之, 川俣博志⁴⁾, 西田典史⁴⁾, 前田弘彰⁴⁾, 金崎周造⁴⁾, 鶴崎正勝⁴⁾, 安本 卓⁴⁾, 石口恒男⁴⁾, 斎藤博哉⁴⁾（¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 練馬光が丘, ³⁾ 東北大学放射線科, ⁴⁾ IVR 学会教育委員会）：副腎静脈サンプリングの現況と展望. 日本 IVR 学会総会（第42回）（軽井沢），2013. 5.
- 5) 嶺 貴彦¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 上田達夫¹⁾, 山口英宣¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 秋葉絢子¹⁾, 安井大祐¹⁾, 三樹いずみ¹⁾, 會田久美子¹⁾, 川俣博志²⁾, 進藤恵美²⁾, 田島廣之, 汲田伸一郎¹⁾（¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 千葉放送病院放射線科）：出血性胃十二指腸潰瘍に対する NBCA 塞栓術後の粘膜障害の評価. 日本 IVR 学会総会（第42回）（軽井沢），2013. 5.
- 6) Isshiki S¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Tajima H, Obuchi M²⁾, Sato S²⁾（¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Asahi Central General Hospital）：Radiological anatomy and abnormal configuration of the pre-vesical space. ESGAR2013（Barcelona），2013. 6.
- 7) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 市川太郎¹⁾, 安藤 順¹⁾, 清水康弘¹⁾, 一色彩子¹⁾, 山口香織¹⁾, 橋和聡文¹⁾, 井村 肇²⁾, 丸山雄二²⁾, 白川 真²⁾, 吉尾敬秀²⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院心臓血管外科）：大量後腹膜血腫の出血源同定に苦慮した腹部大動脈吻合部瘤・右腎動脈瘤併存の1例. 川崎大動脈ステントグラフト研究会（第2回）（川崎），2013. 7.
- 8) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 井村 肇¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 白川 真¹⁾, 吉尾敬秀¹⁾, 丹羽直哉²⁾, 佐藤直樹²⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院心臓血管外科, ²⁾ 武蔵小杉病院循環器内科）：EVAR 後 type2 endoleak に対する直接穿刺による NBCA 塞栓術の経験. 川崎大動脈ステントグラフト研究会（第4回）（川崎），2014. 1.
- 9) 橋和聡文¹⁾, 市川太郎¹⁾, 一色彩子¹⁾, 山口香織¹⁾, 清水康弘¹⁾, 安藤 順¹⁾, 西村祥循¹⁾, 黒瀬厚成¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 藺牟田修¹⁾, 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科）：Beam sat パルスを用

- いた TOF MRA の初期臨床経験. Advanced CT・MR 研究会 2013 (第3回) (軽井沢), 2013. 6.
- 10) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子: AZUR を用いた脾動脈瘤コイル塞栓術の経験. AZUR MEETING (東京), 2013. 9.
 - 11) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 市川太郎¹⁾, 安藤 順¹⁾, 清水康弘¹⁾, 一色彩子¹⁾, 山口香織¹⁾, 橋和聡文¹⁾, 松田 潔²⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院救急救命センター): 電撃傷が原因と思われる肩甲骨骨折の1例. 日本救急放射線研究会 (第23回) (名古屋), 2013. 10.
 - 12) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 井村 肇¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 白川 真¹⁾, 吉尾敬秀¹⁾ (1) 武蔵小杉病院心臓血管外科): Endurant トラブルシューティングの1例. 川崎大動脈ステントグラフト研究会 (第3回) (川崎), 2013. 10.
 - 13) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 井村 肇¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 白川 真¹⁾, 吉尾敬秀¹⁾, 丹羽直哉²⁾, 佐藤直樹²⁾ (1) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科): EVAR 後 type II endoleak に対する腹部直接穿刺による NBCA-LIPIODOL 塞栓術の1例. 東京血管外科画像診断治療研究会 (第23回) (東京), 2014. 2.
 - 14) 賀 亮¹⁾, 宮内雅人¹⁾, 村田 智²⁾, 萩原 純¹⁾, 石井浩統¹⁾, 片桐美和¹⁾, 増野智彦¹⁾, 金 史英¹⁾, 新井正徳¹⁾, 辻井厚子¹⁾, 田島廣之, 横田裕行¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター, 2) 付属病院放射線科): 十二指腸潰瘍出血に対する IVR 後に仮性動脈瘤を合併した1例. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
 - 15) 松田 潔¹⁾, 石之神小織¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 河野洋介¹⁾, 竹ノ下尚子, 望月 徹¹⁾, 黒川 顕¹⁾ (1) 武蔵小杉病院救命救急センター): Abdominal compartment syndrome 予防法の一工夫. 日本腹部救急医学会 (第50回) (東京), 2014. 3.
 - 16) 河野陽介¹⁾, 松田 潔¹⁾, 竹ノ下尚子, 遠藤広史¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石之神小織¹⁾, 望月 徹¹⁾, 黒川 顕¹⁾ (1) 武蔵小杉病院救命救急センター): Damage Control strategy により救命した ISS=57 の多発外傷の1例. 日本腹部救急医学会 (第50回) (東京), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之, 一色彩子¹⁾, 表 俊也²⁾, 佐藤直樹²⁾, 丸山雄二³⁾, 井村 肇³⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 武蔵小杉病院心臓血管外科): 腹部大動脈瘤切迫破裂に対する血管内治療. ICU と CCU 2012; 36 (10): 766-768.

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

一般撮影, CT では呼吸器感染症の画像診断の研究を行っています. 今後はびまん性肺疾患の画像診断の研究を予定しております. CT では, 冠動脈 CT 撮影時に使用するベータブロッカーの影響を検討しています. MRI では体幹部拡散強調画像の臨床診断における有用性を検討しています. また, 心臓 MRI 検査において局所心機能の研究を継続しています. 核医学では心機能解析ソフトを用いて虚血性心疾患における運動: 薬物負荷の局所心機能への影響を研究しています. また, 心筋梗塞後の血流: 代謝ミスマッチを示す部分での局所心機能の研究も行っています. また悪性疾患における骨転移の定量評価を研究しています. サーバー型ワークステーションを用いて CT, MRI, 核医学画像の統合画像を作成し, 臨床的有用性を研究しています. IVR ではマイクロバルーンカテーテルを用いた肝悪性腫瘍の塞栓術の研究を行っています.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ueda T, Murata S¹⁾, Yasui D¹⁾, Mine T¹⁾, Kumita S¹⁾ (1) Radiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Comparison of antitumor efficacy of transcatheter arterial chemoembolization with a miriplatin-iodized oil suspension and a cisplatin-iodized oil suspension for hepatocellular carcinoma. Hepatology research 2013 ; 10 (43) : 1071-1077.
- 2) Murata S¹⁾, Onozawa S¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Akiba A¹⁾, Mine T¹⁾, Ueda T, Yasui D¹⁾, Sugihara F¹⁾, Kondoh Y¹⁾, Kumita S¹⁾ (1) Radiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Endovascular embolization strategy for renal arteriovenous malformations. Acta Radiol 2013.
- 3) Mine T¹⁾, Murata S¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Onozawa S¹⁾, Ueda T, Miyauchi M¹⁾, Morita S¹⁾, Kumita S¹⁾ (1) Radiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Glue embolization for gastroduodenal ulcer bleeding : contribution to hemodynamics and healing process. Acta Radiol 2013 ; 8 (54) : 934-938.

(2) 総説：

- 1) 上田達夫, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科) : 血管ケース1 胸部大動脈瘤：手術適応がわかりますか？. 臨床画像 2013 ; 29 (4) : 192-193.
- 2) 上田達夫, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科) : 血管ケース2 腹部大動脈瘤：切迫破裂を診断できますか？. 臨床画像 2013 ; 29 (4) : 194-195.
- 3) 上田達夫, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科) : 血管ケース3 急性大動脈解離：偽腔と真腔をどう判別するか？. 臨床画像 2013 ; 29 (4) : 196-198.
- 4) 上田達夫, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科) : 血管ケース4 ASO : CTA と MRA はどのように使い分ければよいですか？. 臨床画像 2013 ; 29 (4) : 199-201.
- 5) 上田達夫, 林 宏光¹⁾, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科) : 胸部大血管：大動脈瘤／解離と高安動脈炎の画像所見. 臨床画像 2013 ; 29 (6) : 730-741.
- 6) 小林由子, 田島廣之¹⁾, 平沼千明, 上田達夫, 玉井 仁, 山本 彰, 中井章人²⁾, 金城忠志¹⁾, 一色彩子³⁾, 汲田伸一郎⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, ⁴⁾ 日本医科大学放射線医学) : 特集 捻転の画像診断 女性骨盤. 臨床画像 2013 ; 29 (10) : 1214-1222.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 杉原史恵¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 山口英宣¹⁾, 上田達夫, 秋葉絢子¹⁾, 安井大祐¹⁾, 三樹いずみ¹⁾, 曾田久美子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学) : 小腸出血における IVR の有用性と予後因子に関する検討. IVR 学会総会 (第 42 回) (軽井沢), 2013. 5.
- 2) 上田達夫, 村田 智¹⁾, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線医学) : 急性腸間膜動脈閉塞症に対する IVR 治療：成績及び戦略に関する検討. IVR 学会総会 (第 42 回) (軽井沢), 2013. 5.
- 3) 山本 彰, 平沼千明, 上田達夫, 小林由子, 玉井 仁, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科) : 心電図同期負荷心筋 SPECT による左室壁運動同期生の評価：cardioGRAF と HeartFunctionView の比較. 日本核医学会学術総会 (第 53 回) (福岡), 2013. 11.
- 4) 山本 彰, 上田達夫, 小林由子, 玉井 仁, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日医大付属放射線科) : 心電図同期 SPECT を用いた運動負荷の局所収縮末期到達時間への影響. 日本医学放射線学会 (第 72 回) (パシフィコ横浜), 2013. 4.

- 5) Ueda T, Murata S¹⁾, Yasui D¹⁾, Mine T¹⁾, Hiranuma C, Kobayashi Y, Tamai J, Yamamoto A, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Radiology,Nippon Medical School,Tokyo,Japan.) : Comparison of Miriplatin-Lipiodol Suspension and Cisplatin-Lipiodol Suspension : The Antitumor Efficacy and Safety of Transcatheter Arterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma. SIR2014CONVERGENCE (第39回) (SAN DIEGO), 2014. 3.
- 6) Ueda T, Murata S¹⁾, Yasui D¹⁾, Mine T¹⁾, Hiranuma C, Kobayashi Y, Tamai J, Yamamoto A, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Radiology,Nippon Medical School,Tokyo,Japan.) : Emergency Endovascular Intervention for Acute Thrombosis of Mesenteric Artery. SIR2014CONVERGENCE (第39回) (SAN DIEGO), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Murata S¹⁾, Mine T¹⁾, Ueda T, Nakazawa K¹⁾, Onozawa S¹⁾, Yasui D¹⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Radiology,Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : transcatheter arterial chemoembolization based on hepatic hemodynamics for hepatocellular carcinoma. ScientificWorldJournal 2013.

[多摩永山病院放射線治療科]

研究概要

3次元治療計画を全症例に適用している。研究、業績の両者に利用できるよう受付、医師、技師間のイントラネットデータベースを構築し運用している。体幹部定位照射を施行し、最適な照射方向の組み合わせを解析している。前立腺癌の照射時に超音波装置を使い、尿量を確認し、有害事象との関連を解析している。

研究業績

論文

(1) 共著論文 :

- 1) Onoe T¹⁾, Nose T, Yamashita H¹⁾, Yoshioka M²⁾, Toshiyasu T²⁾, Kozuka T²⁾, Oguchi M²⁾, Nakagawa K¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Tokyo University Hospital, ²⁾ Department of Radiation Oncology, The Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research) : High-dose-rate interstitial brachytherapy for gynecologic malignancies — dosimetric changes during treatment period. J Radiat Res 2013 ; 54 : 663-670.

学会発表

(1) シンポジウム講演 :

- 1) 能勢隆之 : 頭頸部・乳腺の3次元小線源治療 なにがどう変わったか. 日本放射線治療学会小線源治療部会学術大会 (第15回) (福岡), 2013. 5.

(2) 共同演者 (口演) :

- 1) 余田栄作¹⁾, 築山 巖²⁾, 旭 修司²⁾, 吉田 謙³⁾, 鹿間直人⁴⁾, 松村泰成⁵⁾, 立入誠司⁶⁾, 古妻理之⁷⁾, 大谷侑輝⁸⁾, 能勢隆之, 小口正彦⁹⁾ (¹⁾ 川崎医科大学, ²⁾ 会津中央病院, ³⁾ 大阪医科大学, ⁴⁾ 埼玉医大国際医療センター, ⁵⁾ 九州医療センター, ⁶⁾ 京都市立病院, ⁷⁾ 大阪医療センター, ⁸⁾ 大阪大学, ⁹⁾ がん研有明) : 加速乳房部分照射 (APBI) の多施設共同臨床試験 Secondary Endpoints の臨床結果 (30ヶ月間). 日本放射線腫瘍学会学術大会 (第26回) (青森), 2013. 10.
- 2) 築山 巖¹⁾, 鹿間直人²⁾, 佐伯俊昭²⁾, 松村泰成³⁾, 藤井輝彦³⁾, 立入誠司⁴⁾, 森口喜生⁴⁾, 吉田 謙⁵⁾, 古妻理

之⁵⁾, 増田慎三⁵⁾, 余田栄作⁶⁾, 中島一毅⁶⁾, 大谷侑輝²⁾, 能勢隆之, 小口正彦⁷⁾ (1) 会津中央病院, 2) 埼玉国際医療センター, 3) 九州医療センター, 4) 京都市立病院, 5) 大阪医療センター, 6) 川崎医大, 7) がん研有明): 組織内照射を使った加速乳房部分照射 (APBI) 多施設共同 feasibility 試験の臨床結果. 日本乳癌学会東北地方会 (仙台), 2014. 3.

3) 能勢隆之: 加速乳房部分照射法の多施設共同臨床試験 Secondary endpoints. 日本癌治療学会学術集会 (第51回) (京都), 2013. 10.

4) 旭 修司¹⁾, 鹿間直人²⁾, 築山 巖¹⁾, 吉田 謙³⁾, 余田栄作⁴⁾, 松村泰成⁵⁾, 立入誠司⁶⁾, 古妻理之⁷⁾, 大谷侑輝²⁾, 能勢隆之, 小口正彦⁸⁾ (1) 会津中央病院, 2) 埼玉医大国際医療センター, 3) 大阪医療センター, 4) 川崎医大, 5) 九州医療センター, 6) 京都市立病院, 7) 大阪大学, 8) がん研有明): 加速乳房部分照射 (APBI) の多施設共同臨床試験 Secondary endpoints の臨床結果 (21 カ月時). 小線源治療部会学術大会 (第15回) (福岡), 2013. 5.

(3) 共同演者 (示説):

1) 川崎善幸¹⁾, 根本善誉¹⁾, 田所俊介¹⁾, 鈴木春佳¹⁾, 瀬谷義恭¹⁾, 能勢隆之, 菅原信二¹⁾ (1) ひたちなか総合病院放射線科): 当施設における低・中リスク前立腺癌 IMRT の業務プロセスフローについて. 日本放射線腫瘍学会日本高精度放射線外部照射研究会 (第27回) (東京), 2014. 2.

(4) 口演:

1) 能勢隆之: 加速乳房部分照射 (APBI) の多施設共同臨床試験 Secondary Endpoints の臨床結果 (30 ヶ月). マイクロセレクトロン HDR 研究会学術研究会 (第9回) (東京), 2013. 12.

論文

[追加分]

追加分共著論文:

1) Otani Y¹⁾, Yamada T²⁾, Kato S³⁾, Shikama N³⁾, Funakoshi K³⁾, Kuroda I⁴⁾, Hodaka N⁵⁾, Nose T, Dokiya T³⁾, Oguchi M⁶⁾ (1) Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, Osaka; Japan Radioisotope Association, 2) Department of Radiation Oncology, Saitama Medical University, 3) Saitama Medical University, Saitama; Department of Uro-oncology, 4) Saitama Medical University, Saitama; Department of Medical Physics and Engineering, 5) Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka; Department of Radiation Oncology, 6) Cancer Institute Hospital, the Japanese Foundation for Cancer Research, 8): Source strength assay of iodine-125 seeds sealed within sterile packaging. J APPLIED CLINICAL MEDICAL PHYSICS 2013; 14 (2): 253-263.

[千葉北総病院放射線科]

研究概要

心臓 CT から得られたデータを用いて, 心表面での血管支配のマッピングを行い, 画像表示する研究を行っている. 良好な画像が得られており, 今後, 他のモダリティや臨床所見との比較検討を予定している. IVR 領域においては, 外傷症例, 悪性腫瘍, ASO, 深部静脈血栓症, 大動脈ステント, 透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い, 良好な成績を得ている. 大動脈ステントについては, 引き続き症例が増加し, いずれも良好な成績をえている. この分野での, 千葉県域でのリーダー的な施設となっている. 放射線治療については, 新たな治療装置が導入され, 呼吸同期などの高度な治療を行っている. 今後, さらに症例を増やしていきたい. 婦人科系の腫瘍について, 女性診療科および病理部とのカンファランスを通じて, 画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っており, 子宮や卵巣の稀な腫瘍や炎症性疾患などについて, 症例を重ねて検討している. 救命救急分野において, 救命救急部

とのカンファランスを毎週行い、臨床像と画像との対比検討を行っている。緊急IVRの症例などについて、臨床像とあわせて検討している。消化器疾患については、外科と合同で、術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている。画像と手術所見などについて、病理所見とあわせて比較検討を行っている。MRI領域では、シーケンスについての基礎的検討などを行っている。3テスラ装置が導入され、それにあわせた条件の検討を行っている。情報処理・PACS分野では、システムの改善の努力を続けている。また、今後はさらに学術的な部分での強化をはかる予定である。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 稲岡 努¹⁾, 北村範子¹⁾, 粕谷秀輔¹⁾, 小田島正幸¹⁾, 中塚智也¹⁾, 笠井ルミ子¹⁾, 岡田 進, 寺田一志¹⁾ (1) 東邦大学佐倉病院放射線科)：脊椎・脊髄損傷. 画像診断 2013；33 (14)：1587-1597.
- 2) 川俣博志, 村田恵美, 古川一博, 中條秀信, 岡田 進, 田島廣之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：浅大腿動脈のIVR 疾患の概念 TASCIIの解説と本領域におけるIVRの特徴. 臨床画像 2014；30 (2)：210-216.
- 3) 嶺 貴彦¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 高木 亮¹⁾, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 進藤恵美, 川俣博志, 田島廣之²⁾ (1) 日本医科大学放射線医学, ²⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：胸部外傷. 画像診断 2013；33 (14)：1538-1548.

(2) 症例報告：

- 1) Mine T¹⁾, Murata S¹⁾, Yasui D¹⁾, Tajima H²⁾, Kawamata H, Yokota H³⁾, Kumita S¹⁾ (1) Nippon Medical School, ²⁾ Center for Minimally Invasive Treatment, Musashikosugi Hospital, ³⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School)：Endovascular recanalization techniques for popliteal arterial occlusive injury with limb-threatening ischemia secondary to trauma. Acta Radiol Short Rep 2014；3 (12047981613518772).

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 川俣博志：泌尿器科領域の血管内治療. 千葉泌尿器科集談会 (第99回) (千葉), 2013. 6.

(2) 招待講演：

- 1) 嶺 貴彦¹⁾, 本村友一²⁾, 平林篤志²⁾, 鈴木裕之²⁾, 八木貴典²⁾, 松本 尚²⁾, 益子邦洋²⁾, 進藤恵美, 川俣博志, 岡田 進 (1) 付属病院, ²⁾ 救命救急センター)：17歳女性 重症肝損傷. DIRECT研究会 外傷症例検討会 (東京), 2013. 10.

(3) 教育講演：

- 1) 古川一博：読影補助. Radiologist Symposium Eastern Prefecture (神栖), 2013. 5.
- 2) 川俣博志：大動脈ステントグラフト留置術：適応と治療の実際. 千葉県放射線画像診断研究会 (第68回) (千葉), 2013. 12.

(4) シンポジウム：

- 1) 川俣博志, 嶺 貴彦, 進藤恵美, 岡田 進, 長谷部光泉¹⁾, 佐藤友保²⁾ (1) あかね会土谷総合病院放射線科, ²⁾ 東海大学医学部付属八王子病院放射線科)：CLIに対するハイブリッド治療. 日本IVR学会総会 (第42回)・日本Metallic Stents & Grafts研究会 (第31回) (軽井沢), 2013. 5.

(5) ポスター：

- 1) 進藤恵美, 川俣博志, 嶺 貴彦, 古川一博, 中條秀信, 岡田 進, 加納誠士¹⁾, 山本真功¹⁾, 高野雅充¹⁾ (1) 循環

器内科)：浅大腿動脈に留置したパクリタキセル溶出性 Zilver PTX ステンツの新牛内膜被覆を血管内視鏡で評価した1例. 日本IVR学会総会(第42回)(軽井沢), 2013. 5.

- 2) 根元 勺¹⁾, 貝津俊英, 塩路 豪¹⁾, 遠藤勇氣²⁾, 三浦剛史¹⁾, 阿部裕行³⁾, 岡田 進, 坪井成美¹⁾ (1) 泌尿器科, 2) 那須赤十字病院泌尿器科, 3) 神栖済生会病院泌尿器科)：局所前立腺癌に対するホルモン放射線療法の治療成績. 日本泌尿器科学会総会(第101回)(札幌), 2013. 4.

(6) 一般講演：

- 1) 嶺 貴彦¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 上田達夫²⁾, 山口英宣¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 秋葉絢子¹⁾, 安井大祐¹⁾, 三樹いずみ¹⁾, 會田久美子¹⁾, 進藤恵美, 川俣博志, 田島廣之³⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学, 2) 多摩永山病院, 3) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：出血性胃十二指腸潰瘍に対するNBCA塞栓術後の粘膜障害の評価. 日本IVR学会総会(第42回)(軽井沢), 2013. 5.
- 2) 川俣博志, 村田恵美, 中川達生, 古川一博, 岡田 進：腸骨動脈・腹部大動脈瘤を伴う腸骨動脈の慢性完全閉塞に対するIVR. 東京アンギオ・IVR会(第461回)(東京), 2014. 3.
- 3) 川俣博志, 進藤恵美, 古川一博, 中條秀信, 岡田 進：SFA完全閉塞に対する血管内治療の1例. 末梢血管画像・血管内治療研究会(第17回)(東京), 2013. 5.
- 4) 進藤恵美, 川俣博志, 古川一博, 森田布季子, 樫村剛司, 中條秀信, 貝津俊英, 岡田 進：経カテーテルの治療により症状の軽快を得たPaget-Schroetter syndromeの2例. 日本IVR学会関東地方会(第8回)(東京), 2013. 7.
- 5) 川俣博志, 進藤恵美, 古川一博, 森田布季子, 樫村剛司, 中條秀信, 貝津俊英, 岡田 進：急性下肢深部静脈血栓症に対する血管内治療：腸骨静脈ステント留置術の検討. 日本血管内治療学会総会(第19回)(青森), 2013. 7.
- 6) 川俣博志, 村田恵美, 古川一博, 中條秀信, 岡田 進, 石井庸介¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 仁科 大¹⁾, 川瀬庸裕¹⁾, 高橋賢一朗¹⁾ (1) 胸部心臓血管外科)：塞栓術とdistal bypassのhybrid治療が有効であった膝窩動脈瘤術後再発の1例. 末梢血管画像・血管内治療研究会(第18回)(東京), 2013. 10.
- 7) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小林士郎²⁾ (1) 放射線センター, 2) 脳神経外科)：多発性硬化症の頭部3T MRI 一脱髓斑の信号変化とコントラスト. 日本放射線技術学会総会学術大会(第69回)(東京), 2013. 4.
- 8) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小林士郎²⁾ (1) 放射線センター, 2) 脳神経外科)：転移性脳腫瘍MRIにおける造影効果のシミュレーション：造影剤副作用リスクを抑えるために. 日本脳ドック学会総会(第22回)(東京), 2013. 6.
- 9) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小林士郎²⁾ (1) 放射線センター, 2) 脳神経外科)：3TMRIにおけるT1強調型FLAIRの造影効果：脳腫瘍の信号変化について. 日本磁気共鳴医学会(第41回)(徳島), 2013. 9.
- 10) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小林士郎²⁾ (1) 放射線センター, 2) 脳神経外科)：3TMRIにおけるT1 FLAIRの造影効果：脳腫瘍の信号変化とコントラスト. 日本放射線技術学会日本脳神経外科学会学術総会(第72回)(横浜), 2013. 10.

11. 皮膚科学

[付属病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
 - ・免疫担当細胞におよぼす CRH の作用メカニズム.
 - ・CRH がおよぼす毛周期への影響.
 - ・サブスタンス P, NGF, GDNF の皮膚における作用.
2. 自己免疫性水疱症の発症機序
 - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮質抗原の認識機構の解析
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 蕁麻疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
 - ・尋常性白斑の治療法の開発.
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学・ケミカルピーリング, 活性型ビタミン C, レチノイン酸, レーザー療法.
 - ・photodynamictherapy の基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療
 - ・診断の開発.
 - ・skin optics, selective photothermolysis の理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法.
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
 - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表遺伝子治療の開発.
14. 心療皮膚科
 - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移 transference や投影同一視, および医師側に生じる逆転移 countertransference などを利用して行う心身医学的治療戦略.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 川名誠司: 網状皮斑. Modern Physician 2013; 33 (8): 939-942.
- 2) 松岡保子, 安齋眞一, 川名誠司: 肛囲に局限した Hailey-Hailey 病の 1 例. 皮膚臨床 2013; 55 (9): 1202-1203.
- 3) 金子 綾, 加藤篤衛, 伊藤路子, 安齋眞一, 川名誠司: エキシマトライトが有効であったと考えた毛孔性好色秕糖疹の 1 例. 皮膚臨床 2013; 55 (9): 1112-1113.
- 4) 伊澤有香, 尾見徳弥, 伊藤路子, 川名誠司: 感染性心内膜炎に合併した IgA 血管炎 (Henoch-Schönlein 紫斑病). 皮膚病診療 2013; 35 (8): 751-754.

- 5) 森田 孝, 東 直行, 宮地秀樹¹⁾, 新 博次²⁾, 川名誠司 (¹⁾ 大阪大理学研究科, ²⁾ 多摩永山内科・循環器内科) : Nonepisodic Angioedema with Eosinophilia の 1 例. 皮膚臨床 2013 ; 55 (7) : 889-892.
 - 6) 安齋真一, 福本隆也¹⁾, 阿南 隆²⁾, 木村鉄宣³⁾, 川名誠司 (¹⁾ 奈良県立大皮膚科, ²⁾ 大分大皮膚科, ³⁾ 札幌皮膚病理診断科) : 単発性ケラアカントーマ Solitary Keratoacanthoma と臨床診断された症例の病理組織診断. 日皮会誌 2013 ; 123 (9) : 1775-1784.
 - 7) 安齋真一, 阿南 隆¹⁾, 福本隆也²⁾, 木村鉄宣³⁾, 川名誠司 (¹⁾ 大分大皮膚科, ²⁾ 奈良県立大皮膚科, ³⁾ 札幌皮膚病理診断科) : らせん腺腫 : Spiradenoma の臨床病理学的検討. 日皮会誌 2013 ; 123 (8) : 1505-1513.
 - 8) 川名誠司 : 免疫複合他性血管炎を病因・病態から理解する. 日皮会誌 2013 ; 123 (13) : 2972-2974.
 - 9) Mikami M¹⁾, Sonoki T¹⁾, Ito M¹⁾, Funasaka Y, Suzuki T¹⁾, Katagata Y¹⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Yamagata University) : Glycosylation of tyrosinase is a determinant of melanin production in cultured melanoma cells. Mol Med Rep 2013 ; 8 (3) : 818-822.
- (2) 総説 :
- 1) Funasaka Y, Mayumi N, Asayama S, Takayama R, Kosaka M, Kato T, Kawana S : In vivo reflectance confocal microscopy for skin imaging in melasma. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (3) : 172-173.
 - 2) 芋川玄爾¹⁾, 船坂陽子, 小島 肇²⁾ (¹⁾ 中央大学生物機能開発研究所, ²⁾ 国立医薬品食品衛生研究所) : 美白を考える. COSME TECH JAPAN 2013 ; 3 : 471-479.
 - 3) 船坂陽子 : シミの理論. Visual Dermatology 2013 ; 12 : 628-632.
 - 4) 船坂陽子 : しみ治療. MB Derma 2013 ; 209 : 10-16.
 - 5) 船坂陽子 : 美白剤の知識. 皮膚臨床 2013 ; 55 (12) : 1784-1788.
 - 6) 船坂陽子 : 美容皮膚科 - 光老化の解明. マルホ皮膚科セミナー 2014 ; 227 : 18-21.
 - 7) 船坂陽子 : 光老化によるしみの分子メカニズム. 医学のあゆみ 2014 ; 248 : 592-596.
 - 8) 吉岡晶子¹⁾, 船坂陽子 (¹⁾ 神戸市) : 皮膚の光老化の予防と治療. MB derma 2014 ; 213 : 7-11.
 - 9) 福本 瞳, 方の晴隆¹⁾ (¹⁾ 国立感染症研究所 感染病理部) : メルケル細胞癌 メルケル細胞ポリオーマウイルスと発癌. 日本臨牀 2013 ; 71 (増刊号) : 691-694.
- (3) 症例報告 :
- 1) 篠原理恵, 荻田あづさ, 茂木千紗都, 安齋真一, 川名誠司 : 皮膚病変より診断した myeloid sarcoma の 1 例. 臨皮 2013 ; 67 (7) : 526-530.
 - 2) 吉田流音, 船坂陽子, 藤本和久, 長田真一, 菊地伊豆実, 原田 晋¹⁾, 松尾裕彰¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 西宮市, ²⁾ 広島大皮膚科) : ミソプロストールとクロモグリク酸ナトリウムにより誘発が抑制されたエビによる食物依存性運動誘発アナフィラキシーの 1 例. 皮膚臨床 2013 ; 55 (7) : 883-887.
 - 3) 李 民, 藤本和久, 川名誠司 : C 型慢性肝炎患者の PEG-IFN α -2b 注射部位に生じた皮膚潰瘍の 1 例. 皮膚臨床 2013 ; 55 (5) : 627-631.
 - 4) 真弓暢子, 加藤篤衛, 伊藤路子, 安齋真一, 川名誠司 : 指尖部に生じた原発性皮膚骨腫の 1 例. 皮膚臨床 2013 ; 55 (13) : 1948-1951.
 - 5) 尾崎紗恵子, 上野 孝, 山下裕子, 川名誠司 : 妊婦梅毒の 1 例. 日皮会誌 2013 ; 55 (11) : 1377-1379.
 - 6) 紺野亜希子, 船坂陽子, 川名誠司 : サイトメガロウイルス感染に伴って生じた papular-purpuric Gloves and Socks Syndrome の 1 例. 皮膚臨床 2013 ; 55 (10) : 1299-1302.
 - 7) 茂木千紗都, 船坂陽子, 上野 孝, 金子 綾, 大塚洋一, 伊藤路子, 高橋陽子¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 脳血管研究所附属美原記念病院) : Behcet 病類似の皮膚症状を呈した Crohn 病. 皮膚病診療 2014 ; 36 (1) : 39-42.
 - 8) 二宮里紗, 川名誠司, 加藤篤衛, 真弓暢子, 川原崎麻以 : IgA Vasculitis Complicated by Cytomegalovirus Enteritis : A Case Report. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 : 48-52.

著 書

- 1) 藤本和久：〔分担〕疥癬 寄生虫症 VI. 原虫症，寄生虫症 上 病原体別感染症編。感染症症候群（第2版）- 症候群から感染性単一疾患までを含めて，2013；pp766-769，日本臨牀。
- 2) 船坂陽子：〔分担〕しみの内服療法。1冊でわかる最新皮膚科治療（五十嵐敦之），2013；pp265-267，文光堂。

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 川名誠司：免疫複合体性血管炎を病因・病態から理解する。日皮会総会（第112回）（横浜），2013。6。
- 2) 川名誠司：ANCA 関連血管炎の皮膚病変。日皮会東京支部学術大会（第77日）（東京），2014。2。
- 3) 川名誠司：ANCA 関連血管炎の皮膚病変。日皮会東京支部学術大会（第77回）（東京），2014。2。

(2) シンポジウム：

- 1) 川名誠司：皮膚から診た小児血管炎（小児の血管炎）。日本小児皮膚科学会学術大会（第37回）（東京），2013。7。
- 2) 安齋真一，田中 勝¹⁾，澤田美月¹⁾，種瀬啓士²⁾，山川千尋³⁾，荻田あづさ，外川八英⁴⁾，伊東慶悟⁵⁾，緒方 大⁶⁾，高山良子，佐藤俊次⁷⁾，萩原護久⁸⁾（¹⁾ 東京女子医大東医療センター皮膚科，²⁾ 慶應大皮膚科，³⁾ 東京女子医大皮膚科，⁴⁾ 千葉大皮膚科，⁵⁾ 慈恵医大皮膚科，⁶⁾ 埼玉医大皮膚科，⁷⁾ 杉並区，⁸⁾ 東邦大皮膚科）：みんなで解き明かそう！ダーモスコピー所見（初級から中級向け）。日皮会東京支部学術大会（第77日）（東京），2014。2。
- 3) 安齋真一，田中 勝¹⁾，澤田美月¹⁾，種瀬啓士²⁾，山川千尋³⁾，荻田あづさ，外川八英⁴⁾，伊東慶悟⁵⁾，緒方 大⁶⁾，高山良子⁷⁾，佐藤俊次⁸⁾，萩原護久（¹⁾ 東京女子医大東医療センター皮膚科，²⁾ 慶應大皮膚科，³⁾ 東京女子医大皮膚科，⁴⁾ 千葉大皮膚科，⁵⁾ 慈恵医大皮膚科，⁶⁾ 埼玉医大皮膚科，⁷⁾ 杉並区，⁸⁾ 東邦大皮膚科）：みんなで解き明かそう！ダーモスコピー所見（初級から中級向け）。日皮会東京支部学術大会（第77回）（東京），2014。2。

(3) セミナー：

- 1) 船坂陽子：眼瞼周囲の光老化皮膚に対する美容皮膚科の治療の現状。日皮会総会（第112回）（横浜），2013。6。
- 2) 尾見徳弥：これだけは知っておきたい炭酸ガスレーザーの基礎知識。日本小児皮膚科学会学術大会（第37回）（東京），2013。7。
- 3) 加藤篤衛：あざ・しみに対するレーザー治療の基本と実践。日本小児皮膚科学会学術大会（第37回）（東京），2013。7。

(4) ワークショップ：

- 1) 船坂陽子：最新の光線治療と診断。光皮膚科研究会（第3回）（神戸），2014。3。

(5) 一般講演：

- 1) 白川典子，加藤篤衛，船坂陽子，川名誠司，桑原健太郎¹⁾（¹⁾ 小児科）：Phacomatosis の家族歴をもつ母状血管腫と扁平母斑を伴った女兒の1例。日本小児皮膚科学会学術大会（第37回）（東京），2013。7。
- 2) 藤井秀一¹⁾，山西慎吾¹⁾，五十嵐徹¹⁾，伊藤保彦¹⁾，菊地伊豆実，篠原理恵，久保田智樹，鶴田恭子，橋爪志保，石山昭彦²⁾（¹⁾ 小児科，²⁾ 国立精神神経医療研究センター）： γ -グロブリン大量静注療法とシクロフォスミドパルス療法の併用で著名な効果を認めた若年性皮膚筋炎の1例。日本小児皮膚科学会学術大会（第37回）（東京），2013。7。
- 3) 宮國知世¹⁾，山西慎吾¹⁾，赤尾見春²⁾，藤井秀一¹⁾，久保田智樹，鶴田恭子，真弓暢子，五十嵐徹¹⁾，伊藤保彦¹⁾，川名誠司（¹⁾ 小児科，²⁾ 武蔵小杉病院小児科）：指尖部，肘部に潰瘍を合併した MCTD の1女兒例。日本小児皮膚科学会学術大会（第37回）（東京），2013。7。
- 4) 吉田流音，加藤篤衛，船坂陽子，桑原健太郎¹⁾，穂積 豊²⁾，鈴木民夫²⁾，川名誠司（¹⁾ 小児科，²⁾ 山形大学皮膚科）：多動性注意欠陥症を合併した遺伝性体側性色素異常症の1例。日本小児皮膚科学会学術大会（第37回）（東京），2013。7。

- 5) 山本三幸, 藤本和久, 秋山美知子, 川名誠司: カルボシステイン (ムコダイン) による固定薬疹の1例. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第37回) (東京), 2013. 7.
- 6) 橋爪志保, 安齋眞一, 小坂素子, 川名誠司: インドメタシン外用が奏効した好酸球性膿疱性毛包炎の小児例. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第37回) (東京), 2013. 7.
- 7) 菊地伊豆実, 田沼弘之, 森本健介, 川名誠司: 小児の頭部白癬の3例. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第37回) (東京), 2013. 7.
- 8) 東 直行, 飛田正俊¹⁾, 川名誠司 (1) 多摩市: 骨髄性プロトポルフィリン症の1例. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第37回) (東京), 2013. 7.
- 9) 岡崎 静, 船坂陽子, 川名誠司: 黒色, 黄色, 白色マウスにおいて近赤外線のリターン照射は紫外線発癌を促進しない. 日本光医学・光生物学会 (第35回) (浜松市), 2013. 7.
- 10) 岡崎 静, 船坂陽子, 川名誠司: 黒色, 黄色, 白色マウスにおいて近赤外線のリターン照射は紫外線発癌を促進しない. 日本美容皮膚科学会学術大会 (第31回) (神戸市), 2013. 8.
- 11) 小坂素子, 船坂陽子, 真弓暢子, 高山良子, 加藤篤衛, 川名誠司: *in vivo* 共焦点レーザー顕微鏡による低出力 Q スイッチ Nd: YAG レーザーの甲板に対する治療効果の検討. 日本美容皮膚科学会学術大会 (第31回) (神戸市), 2013. 8.
- 12) 木下侑里, 真弓暢子, 稲葉基之, 五十嵐徹¹⁾, 片桐一元²⁾, 川名誠司 (1) 小児科, 2) 獨協医大皮膚科: 乳児期発症の抗リン脂質抗体症候群 (APS) の1例. 日皮会東京地方会 (第849回) (東京), 2013. 7.
- 13) 鶴田恭子, 久保田智樹, 谷 崇¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 川名誠司 (1) 腎臓内科: 肺胞出血を伴った IgA vasculitis の1例. 日皮会東部支部学術大会 (第77回) (さいたま市), 2013. 9.
- 14) 長田真一: 多発性肺塞栓症, 高カテコラミン血症を合併した腫瘍随伴性天疱瘡の1例. 水疱症研究会 (第35回) (大分), 2013. 10.
- 15) 長田真一: サリチル酸グリコール含有湿布薬によるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (第43回) (金沢), 2013. 11.
- 16) 田久保匡哉, 上野 孝, 高山良子, 真弓暢子, 亦野蓉子, 伊藤路子, 船坂陽子, 川名誠司: Docetaxel が進行の抑制に有効であった高齢者乳房外 Paget 癌の1例. 日皮会東京地方会 (第850回) (東京), 2013. 9.
- 17) 川原崎麻以, 稲葉基之, 上野 孝, 船坂陽子, 川名誠司: RS3PE 症候群を呈した成人 T 細胞性白血病の1例. 日皮会東京地方会 (第850回) (東京), 2013. 9.
- 18) 松岡保子, 安齋眞一, 川名誠司: 両側腋窩パジェット病の1例. 日皮会東京地方会 (第850回) (東京), 2013. 9.
- 19) 秋山美知子, 船坂陽子, 大山聡美, 菊地伊豆実, 亦野蓉子, 田久保匡哉, 上野 孝, 川名誠司: Dermal melanoma の1例. 日皮会中部支部学術大会 (第64回) (名古屋), 2013. 11.
- 20) 山下純史¹⁾, 池田哲哉²⁾, 坂口正展²⁾, 岡 昌宏²⁾, 船坂陽子, 錦織千佳子²⁾ (1) 神戸労災病院皮膚科, 2) 神戸大皮膚科: Henoch-Schönlein 紫斑病の経過中に肺塞栓を合併した1例. 日皮会中部支部学術大会 (第64回) (名古屋), 2013. 11.
- 21) 井川徹也, 伊藤路子, 小坂素子, 大塚洋平, 久保田智樹, 船坂陽子, 川名誠司: 関節リウマチ治療中に発症した持続性隆起性紅斑の1例. 日皮会東京地方会 (第852回) (東京), 2013. 12.
- 22) 田中真百合, 藤本和久, 船坂陽子, 川名誠司, 野呂瀬嘉彦¹⁾, 根井貴仁²⁾, 石井浩統³⁾, 増田勝彦⁴⁾ (1) 付属病院感染制御部, 2) 付属病院集中治療室, 3) 付属病院救命救急センター, 4) 足立区: 市中感染型 MRSA による感染が懸念された TEN 型薬疹の1例. 日皮会東京地方会 (第853回) (千葉), 2013. 12.
- 23) 船坂陽子: 日光紫外線と皮膚疾患. 光皮膚科研究会 (第3回) (神戸), 2014. 3.
- 24) 鶴田恭子, 船坂陽子, 新井桃子¹⁾, 池田まり子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 清水 章²⁾, 川名誠司 (1) 付属病院腎臓内科, 2) 日本医大病理学 (解析人体病理学): II 型クリオグロブリン血症性血管炎の2例. 皮膚脈管膠原病

研究会（第37回）（東京），2014. 1.

- 25) 川崎裕史, 藤本和久, 幸野 健, 森田 孝, 森本健介, 上原 健¹⁾, 阿部純子¹⁾, 菊池さち子²⁾, 井手路子³⁾, 川名誠司¹⁾ (千葉北総病院内科, ²⁾ 同眼科, ³⁾ 同耳鼻科) : 非典型的コーガン症候群が疑われた2例. 皮膚脈管膠原病研究会 (第37回) (東京), 2014. 1.
- 26) 久保田智樹, 藤本和久, 川名誠司, 森本泰介¹⁾ (¹⁾ 付属病院呼吸器内科) : 好酸球性肺炎を伴ったミノサイクリンによる薬剤性過敏症候群の1例. 日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会総会学術大会 (第43回), 2013. 11.
- 27) 福本 瞳, 都築慎也¹⁾, 佐藤典子¹⁾, 峰宗太郎²⁾, 望月 眞³⁾, 川名誠司²⁾, 長谷川秀樹⁴⁾, 黒田 誠²⁾, 片野晴隆 (¹⁾ 国立国際医療研究センター小児科, ²⁾ 国立感染症研究所感染病理部, ³⁾ 国立国際医療研究センター病理診断科, ⁴⁾ 国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター) : 日本人からの Trichodysplasia-spinulosa associated polyomavirus のクローニング. 日本ウイルス学会学術集会 (第61回), 2013. 11.

(6) 展示 :

- 1) 加藤篤衛, 船坂陽子, 高山良子, 川名誠司 : レーザー治療による組織変化を検討した先天性巨大色素性母斑の1例. 日皮会総会 (第112回) (横浜), 2013. 6.
- 2) 篠原理恵, 稲葉基之, 茂木千紗都, 李 民, 岡崎 静, 渡邊宏美, 荻田あづさ, 二神綾子, 川名誠司 : 両足趾切断に至った皮膚型結節性多発動脈炎の1例. 日皮会総会 (第112回) (横浜), 2013. 6.
- 3) Okazaki S, Funasaka Y, Oyama S, Kawana S : CM15-08 (Poster 1255) : Repetitive irradiation of infrared-A does not promote ultraviolet induced skin tumor formation in black, yellow, and white K14-SCF mice. International Investigative Dermatology 2013 (Edinburgh, UK), 2013. 5.

論文

[追加分]

追加分症例報告 :

- 1) 川原崎麻以, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司 : Spindle Cell Lipoma の1例. 皮膚臨床 2012 ; 54 (5) : 766-769.

追加分研究報告書 :

- 1) Fukumoto H, Sato Y¹⁾, Hasegawa H¹⁾, Katano H¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, National Institute of Infectious Diseases) : Frequent detection of Merkel cell polyomavirus DNA in sera of HIV-1-positive patients. Virology journal 2013 ; 10 (1) : 1.

[武蔵小杉病院皮膚科]

研究概要

皮膚上皮腫瘍の病理診断皮膚付属器腫瘍 (とくに汗腺及び脂腺腫瘍) について免疫組織化学的検討によってその診断精度を上げるために必要な方法を見出す. さらにはケラトアkantoma Keratoacanthoma について その病理診断基準を確立し 類似の悪性腫瘍との鑑別について検討する

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 安齋眞一¹⁾, 福本隆也²⁾, 阿南 隆³⁾, 木村鉄宣³⁾, 川名誠司⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院皮膚科, ²⁾ 奈良県立医科大学皮膚科, ³⁾ 札幌皮膚病理診断科, ⁴⁾ 日本医科大学医学部皮膚科学講座) : らせん腺腫 : Spiradenoma の臨床病理学的検討. 日本皮膚科学会雑誌 2013 ; 123 (8) : 1505-1513.
- 2) 安齋眞一¹⁾, 福本隆也²⁾, 阿南 隆³⁾, 木村鉄宣³⁾, 川名誠司⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院皮膚科, ²⁾ 奈良県

立医科大学皮膚科, ³⁾ 札幌皮膚病理診断科, ⁴⁾ 日本医科大学医学部皮膚科学講座) : ケラトアカントーマ : Keratoacanthoma と臨床診断された症例の病理組織診断について. 日本皮膚科学会雑誌 2013 ; 123 (9) : 1775-1784.

3) 安齋眞一 : 有棘細胞癌の検査・診断 : 概論. 日本臨床 2013 ; 71 (増4) : 474-478.

4) 安齋眞一 : 乳房外パジェット病 治療 放射線療法. 日本臨床 2013 ; 71 (増4) : 682-684.

5) 安齋眞一 : 皮膚病理へのいざない/第1回 : 総論および皮膚腫瘍 Part1 汗腺腫瘍 (乳房 Paget 病を含む). 日本皮膚科学会雑誌 2013 ; 123 (13) : 2630-2633.

6) 安齋眞一, 福本隆也¹⁾, 阿南 隆²⁾, 木村鉄宣²⁾, 川名誠司³⁾ (¹⁾ 奈良県立医科大学皮膚科, ²⁾ 札幌皮膚病理診断科, ³⁾ 日本医科大学附属病院皮膚科) : 乳頭上汗管嚢胞腺腫 : Syringocystadenoma papilliferum の臨床病理学的検討. 臨床皮膚科 2014 ; 68 (1) : 12-17.

7) Hashizume S¹⁾, Ansai S, Kosaka M¹⁾, Kawana S¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院皮膚科) : Infantile case of eosinophilic pustular folliculitis successfully treated with topical indomethacin. J Dermatol 2014 ; 41 (2) : 196-197.

8) Hashizume S¹⁾, Ansai S, Matsuoka Y, Omi T²⁾, Kawana S¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院皮膚科, ²⁾ クイーンズスクエア皮膚科・アレルギー科) : Case of multiple apocrine poroma in a patient without receiving radiation or chemotherapy. J Dermatol 2014 ; 41 (2) : 174-175.

9) 安齋眞一 : 紫斑・血管炎. 病理と臨床 2014 ; 32 (3) : 267-273.

(2) 症例報告 :

1) 富田あさひ¹⁾, 石崎純子¹⁾, 小林 憲¹⁾, 藤林真理子¹⁾, 安齋眞一, 田中 勝¹⁾ (¹⁾ 東京女子医大東医療センター) : 皮膚線維腫様外観を呈した papillary tubular adenoma の1例. 臨床皮膚科 2013 ; 67 (10) : 773-776.

2) 松岡保子, 安齋眞一, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 付属病院皮膚科) : 肛囲に限局した Hailey-Hailey 病の1例. 皮膚科の臨床 2013 ; 55 (9) : 1202-1203.

3) 篠原理恵, 荻田あずさ, 茂木千紗都¹⁾, 安齋眞一, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院皮膚科) : 皮膚病変より診断した myeroid sarcoma の1例. 臨床皮膚科 2013 ; 67 (7) : 526-530.

著 書

1) 安齋眞一 : [自著] 色素細胞母斑. 皮膚科臨床アセット 15 母斑と母斑症 (古江増隆, 金田眞理), 2013 ; pp76-87, 中山書店 東京.

2) 安齋眞一 : [自著] 脂腺腫瘍の多発から疑う Muir-Torre 症候群. 皮膚科臨床アセット 20 日常診療において忘れてはならない皮膚科症候群 (古江増隆, 土田哲也), 2013 ; pp262-265, 中山書店 東京.

3) 安齋眞一, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院皮膚科) : [共著] 紅斑症の病理診断学. 皮膚科臨床アセット 18 紅斑症 (古江増隆, 山元修), 2013 ; pp12-18, 中山書店 東京.

学会発表

(1) 特別講演 :

1) 安齋眞一 : 良性汗腺腫瘍の病理診断に関する1つの考え方. 日本皮膚科学会山形地方会 (第362回) 特別講演, 2013. 4.

(2) 教育講演 :

1) 安齋眞一 : 汗腺分化腫瘍 (乳房外 Paget 病を含む). 日本皮膚科学会総会学術大会 (第112回) 教育講演皮膚病理へのいざない, 2013. 6.

2) 安齋眞一 : 実践! 皮膚病理道場 2013. 日本皮膚科学会総会学術大会 (第112回) 教育講演, 2013. 6.

3) 安齋眞一 : 汗孔癌診断の落とし穴. 皮膚病理あどぼんす 2013, 2013. 7.

- 4) 安齋眞一：皮膚軟部腫瘍病理診断のポイント. 日本皮膚科学会東京支部学術大会（第77回）チャレンジレクチャー, 2014. 2.
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 篠原理恵, 稲葉基之¹⁾, 茂木千紗都¹⁾, 李 民¹⁾, 岡崎 静¹⁾, 渡邊宏美¹⁾, 荻田あずさ, 二神綾子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院皮膚科)：両足跡切断に至った皮膚型結節性多発動脈炎の1例. 日本皮膚科学会総会（第112回）, 2013. 6.
- 2) 篠原理恵, 藤本和久¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院皮膚科)：ELISA法でパルプアルブミンに陽性を示した魚類アレルギーの2例. 日本アレルギー学会春季臨床大会, 2013. 5.
- (4) 一般講演：
- 1) 松岡保子, 安齋眞一, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院皮膚科)：両側腋窩乳房外パジェット病の1例. 日本皮膚科学会東京地方会, 2013. 9.
- 2) 松田秀則, 松岡保子, 安齋眞一：腹部に生じた porocarcinoma の1例. 日本皮膚科学会東京地方会（第851回）, 2013. 11.
- 3) 大橋実奈, 松岡保子, 篠原理恵, 安齋眞一：尋常性乾癬に合併した水疱性類天疱瘡の1例. 日本皮膚科学会東京地方会（第853回）, 2014. 1.
- 4) 大橋実奈, 松田秀則, 安齋眞一：Folliculo sebaceous cystic hamartoma の1例. 日本皮膚科学会東京地方会（第851回）, 2013. 11.

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析と治療戦略 2. アトピー性皮膚炎の病態における抗核抗体, 抗DFS70抗体の発現解析 3. 乳児期湿疹の統計的観察 4. アナフィラクトイド紫斑, 掌蹠膿疱症, 自己免疫水疱症の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析 5. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー, 全身性金属アレルギー：皮膚テストによる原因物質の確認, 血清中抗原の解析, DLST検査 6. 皮膚腫瘍, 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断と研究 7. アミノ酸の経皮吸収, HLB数

研究業績

論文

(1) 症例報告：

- 1) Nakajima N¹⁾, Ueda M²⁾, Higashi N³⁾, Katayama Y¹⁾ (1) 北村山公立病院神経内科, 2) 付属神経内科, 3) 多摩永山皮膚科)：Erythromelalgia associated with Clitocybe acromelalgia intoxication. *Clinical Toxicology* 2013; 51 (5)：451-454.
- 2) 長田真一^{1, 2)}, 安齋眞一³⁾, 尾見徳弥²⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山皮膚科, 2) 付属皮膚科, 3) 武蔵小杉皮膚科)：頭部に皮疹に限局したALアミロイドーシス. *皮膚病診療* 2013; 35 (4)：371-374.
- 3) 李 民^{1, 2)}, 藤本和久²⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山皮膚科, 2) 付属皮膚科)：C型慢性肝炎患者のPEG-IFN α -2b注射部位に生じた皮膚潰瘍の1例. *皮膚科の臨床* 2013; 55 (5)：627-631.
- 4) 森田 孝¹⁾, 東 直行²⁾, 宮地秀樹³⁾, 新 博次³⁾, 川名誠司⁴⁾ (1) 千葉北総皮膚科, 2) 多摩永山皮膚科, 3) 多摩永山内科・循環器内科, 4) 付属皮膚科)：Nonepisodic angioedema with eosinophiliaの1例. *皮膚科の臨床* 2013; 55 (7)：889-892.
- 5) Okamura K¹⁾, Yoshizawa J¹⁾, Abe Y¹⁾, Hanaoka K²⁾, Higashi N³⁾, Togawa Y⁴⁾, Nakagawa S⁴⁾, Kambe N⁴⁾, Funasaka Y⁵⁾, Ohko K⁶⁾, Hozumi Y¹⁾, Suzuki T¹⁾ (1) Dept. of Dermatology, Yamagata University Fac-

ulty of Medicine, ²⁾ Division of Dermatology, Tsuchiya General Hospital, ³⁾ Dept. of Dermatology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, ⁴⁾ Dept. of Dermatology, Chiba University Graduate School of Medicine, ⁵⁾ Dept. of Dermatology, Nippon Medical School, ⁶⁾ Dept. of Dermatology, Kochi Medical School, Kochi University) : Oculocutaneous albinism (OCA) in Japanese patients : Five novel mutations. J Dermatol Sci 2014 ; 41 (1).

- 6) Isawa Y¹⁾, Osada S^{1,2)}, Kawana S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Dermatology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis (Churg-Strauss Syndrome) with Microscopic Eosinophilic Thromboembolism and Cardiac Involvement : Report of Two Cases. Eur J Dermatol 2013 ; 23 (5) : 677-680.
- 7) Kosaka S¹⁾, Osada S^{1,2)}, Kaneko T¹⁾, Nishimura S¹⁾, Kawana S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Dermatology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Cutaneous vasculitis and glomerulonephritis associated with C4 deficiency. Clin Exp Dermatol 2013 ; 38 (5) : 492-495.
- 8) Osada S^{1,2)}, Yoshida R¹⁾, Kikuchi I¹⁾, Tsuruta D³⁾, Ansai S⁴⁾, Hashimoto T⁵⁾, Kawana S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Dermatology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ³⁾ Dept. of Dermatology, Osaka City Univ. Grad. Sch. of Med., ⁴⁾ Dept. of Dermatology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ⁵⁾ Dept of Dermatol, Kurume Univ. Sch. of Med.) : Successful Treatment of Intravenous Immunoglobulins in a Patient with Intractable Epidermolysis Bullosa Acquisita with Autoantibodies to Type VII Collagen and Laminin Alpha-3. J Clin Exp Dermatol Res 2013 ; 4 (5).
- 9) 菊地伊豆実¹⁾, 田沼弘之^{1,2)}, 森本健介³⁾, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 付属皮膚科, ²⁾ 川口市, ³⁾ 多摩永山皮膚科) : 小児の頭部白癬の3例. 日小皮会誌 2014 ; 33 (1) : 81-86.

学会発表

(1) パネルディスカッション :

- 1) 渡邊幸夫¹⁾, 佐藤奈津紀¹⁾, 東 直行²⁾, 塩谷和音¹⁾, 松本 恵¹⁾, 嵯峨野真幸¹⁾, 鈴木晴恵³⁾, 上田豊甫¹⁾, 秋本真喜雄⁴⁾, 前田憲寿⁵⁾ (¹⁾ 明星大理工生命科学, ²⁾ 多摩永山皮膚科, ³⁾ 京都市, ⁴⁾ 関東学院大学, ⁵⁾ 東京工科大学応用生物学部) : プロリン, ヒドロキシプロリンのアミノ酸経皮吸収と HLB 数依存性に関する研究. 日本皮膚科学会総会 (第112回) (横浜), 2013. 6.
- 2) 小澤未朋¹⁾, 渡邊幸夫¹⁾, 東 直行²⁾, 塩谷和音¹⁾, 松本 恵¹⁾, 鈴木康子¹⁾, 嵯峨野真幸¹⁾, 豊里 慧¹⁾, 鈴木晴恵³⁾, 上田豊甫¹⁾ (¹⁾ 明星大理工生命科学, ²⁾ 多摩永山皮膚科, ³⁾ 京都市) : アルギニン, リシンのアミノ酸経皮吸収と HLB 数依存性に関する研究. 日本皮膚科学会総会 (第112回) (横浜), 2013. 6.
- 3) 長田真一¹⁾, 東 直行¹⁾, 川名誠司²⁾ (¹⁾ 多摩永山皮膚科, ²⁾ 付属皮膚科) : サリチル酸グリコール含有湿布薬によるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 (第43回) (金沢), 2013. 11.
- 4) 東 直行¹⁾, 吉川雅智²⁾ (¹⁾ 多摩永山皮膚科, ²⁾ 多摩永山内科・循環器内科) : ピータンによる即時型アレルギーの1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 (第43回) (金沢), 2013. 11.
- 5) Watanabe Y¹⁾, Ueda T¹⁾, Ozawa T¹⁾, Higashi N²⁾, Shioya K¹⁾, Matsumoto M¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Suzuki H³⁾ (¹⁾ 明星大理工生命科学, ²⁾ 多摩永山皮膚科, ³⁾ 京都市) : Correlation between percutaneous permeation efficiency of amino acid ion and hydrophile lipophile balance number of L-arginine and L-lysine in hairless mouse and human skins. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012 (Singapore), 2013. 8.
- 6) Nakajima N¹⁾, Ueda M²⁾, Higashi N³⁾, Katayama Y²⁾ (¹⁾ 北村山公立神経内科, ²⁾ 付属神経内科, ³⁾ 多摩永山皮膚科) : Therapeutic potential of nicotinic acid in erythromelalgia associated with Clitocybe acromelalgia intoxication. 2013 Annual Meeting of the North American Congress of Clinical Toxicology (Atlanta), 2013. 9.

- 7) 李 民¹⁾, 森田 孝¹⁾, 森本健介¹⁾, 東 直行¹⁾, 鶴田大輔²⁾, 橋本 隆²⁾ (1) 多摩永山皮膚科, 2) 久留米大皮膚科) : 尋常性乾癬に合併した後天性表皮水疱症の1例. 日本皮膚科学会東京支部学術大会 (第77回) (東京), 2014. 2.
- (2) 一般講演 :
- 1) 東 直行¹⁾, 飛田正俊²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山皮膚科, 2) 多摩市, 3) 付属皮膚科) : 骨髄性プロトポルフィリン症の1例. 日本小児皮膚科学会 (第37回) (東京), 2013. 7.
- 2) 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 川口直美¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 長田真一²⁾, 東 直行²⁾, 清水 渉³⁾ (1) 多摩永山内科・循環器内科, 2) 多摩永山皮膚科, 3) 付属循環器内科) : 腎不全が急速に進行した高齢者 Henoch-Schonlein 紫斑病の1例. 日本内科学会関東地方会例会 (第597回) (東京), 2013. 6.
- 3) 長田真一¹⁾, 東 直行¹⁾, 小橋啓一²⁾, 細根 勝³⁾, 朝山敏夫⁴⁾, 近藤麻加⁴⁾, 中村弘之⁴⁾, 田中 徹⁵⁾, 古賀浩嗣⁶⁾, 橋本 隆⁶⁾, 川名誠司⁷⁾ (1) 多摩永山皮膚科, 2) 多摩永山内科・循環器内科, 3) 多摩永山病理, 4) 付属血液内科, 5) 付属呼吸器内科, 6) 久留米大皮膚科, 7) 付属皮膚科) : 多発肺塞栓症, 高カテコラミン血症を合併した腫瘍随伴性天疱瘡の1例. 水疱症研究会 (第35回) (大分), 2013. 10.
- 4) 長田真一¹⁾, 東 直行¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山皮膚科, 2) 付属皮膚科) : サリチル酸グリコール含有湿布薬によるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 (第43回) (金沢), 2013. 11.
- 5) 東 直行¹⁾, 吉川雅智²⁾ (1) 多摩永山皮膚科, 2) 多摩永山内科・循環器内科) : ピーターンによる即時型アレルギーの1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 (第43回) (金沢), 2013. 11.
- 6) 李 民¹⁾, 森田 孝¹⁾, 森本健介¹⁾, 東 直行¹⁾, 鶴田大輔²⁾, 橋本 隆²⁾ (1) 多摩永山皮膚科, 2) 久留米大皮膚科) : 尋常性乾癬に合併した後天性表皮水疱症の1例. 日本皮膚科学会東京支部学術大会 (第77回) (東京), 2014. 2.
- 7) 渡邊幸夫¹⁾, 豊里 慧¹⁾, 大澤幾未¹⁾, 東 直行²⁾, 塩谷和音¹⁾, 松本 恵¹⁾, 鈴木晴恵³⁾, 上田豊甫¹⁾ (1) 明星大理工生命科学, 2) 多摩永山皮膚科, 3) 京都市) : 塩基性アミノ酸の経皮吸収と Hydrophile Lipophile Balance 数依存性に関する研究. 日本化学会春季年会 (第94回) (名古屋), 2014. 3.

12. リハビリテーション学

[千葉北総病院リハビリテーション科]

研究概要

筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し、麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって、さらに筋収縮を促すパワーアシストタイプの機能的電気刺激の脳血流に与える効果を検討している。脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において、手関節伸展、手指伸展促通と物品把持移動からなる訓練を施行し、訓練前後での手関節、手指関節の可動域、被験筋のRMS、巧緻性の変化を計測パラメーターとしている。手指関節可動域、手根伸筋のRMS、巧緻動作の改善が認められた。筋電比例式電気刺激は、きめ細かな筋収縮を促通し巧緻動作訓練も可能な利点があり、筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される。さらに新しい機能である外部入力を用いた機能的電気刺激の効果の検討も行う。また、光トポグラフィーを用いて機能的電気刺激が脳循環に与える影響の検討や高次脳機能の評価を行う。さらに、経頭蓋直流電気刺激による脳機能賦活との併用を新たに検討し、脳機能イメージングを用いて脳への賦活効果を検討する。脳の可塑性を検討する基礎的検討として、124チャンネルの脳磁図を用いて手指、手関節運動時の脳神経活動の局在、運動準備電位との関連を検討する。回復期から慢性期の脳卒中片麻痺患者の麻痺側下肢のうっ血および深部下肢静脈血栓症について調査し、脳梗塞患者のDVT合併頻度、それらの危険因子および血栓予防薬との関係について検討する。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hara Y¹⁾, Obayashi S¹⁾, Tujiuchi K¹⁾, Muraoka Y²⁾ (1) Nippon Medical School, department of rehabilitation medicine, 2) Waseda University, Human science department) : The effects of electromyography-controlled functional electrical stimulation therapy on hemiparetic upper extremity function and cortical perfusion in chronic stroke patients. Clin Neurophysiol 2013 ; 124 (5) : 2008-2015.
- 2) Hashimoto T¹⁾, Taoka M¹⁾, Obayashi S²⁾, Hara Y²⁾, Michio T¹⁾, Atsushi I¹⁾ (1) Laboratory for Symbolic Cognitive Development, RIKEN Brain Science Institute, 2) Nippon Medical School, department of physical medicine) : Modulation of cortical vestibular processing by somatosensory inputs in the posterior insula. Brain Inj 2013 ; 27 (13-14) : 1685-1691.
- 3) 宗村麻紀子¹⁾, 岡崎舞子¹⁾, 原 行弘¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科) : パワーアシスト機能的電気刺激を併用した戦略的作業療法により上肢機能の改善がみられた脳卒中片麻痺例：ニューロイメージングの評価を用いて。総合リハ 2013 ; 41 (12) : 1135-1141.

(2) 総説：

- 1) Hara Y¹⁾ (1) Nippon Medical School, department of rehabilitation medicine) : Rehabilitation with functional electrical stimulation in stroke patients. Int J Phys Med Rehabil 2013 ; 1 (6) : 147-152.
- 2) 原 行弘¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院) : 100症例から学ぶリハビリテーション評価のコツ。遷延性意識障害。MB Med Reha 2013 ; 163 : 428-431.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Hara Y¹⁾, Obayashi S¹⁾, Tujiuchi K¹⁾, Fuseya H¹⁾ (1) Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : Dual effects with Power-assisted functional electrical stimulation and t-DCS on the brain cortical perfusion among strokes. ISPRM 7th (Beijin), 2013. 6.
- 2) Hara Y¹⁾, Obayashi S¹⁾, Tujiuchi K¹⁾, Fuseya H¹⁾ (1) Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : Dual effects with EMG-controlled functional electrical stimulation and t-DCS on the brain cortical perfusion among strokes. ICCN 30th (Berlin), 2014. 3.
- 3) 原 行弘¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科リハビリテーション学分野) : 運動誘発型機能的電気刺激 (IVES) と脳神経機能的再構築. 第 50 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (東京), 2013. 6.

(2) 一般講演 :

- 1) 大林 茂, 伏屋洋志, 妹尾麻代, 辻内和人, 原 行弘 : 大脳皮質・小脳連関からみた小脳病変に伴う高次脳機能障害 : SPECT&f-NIRS 研究 S280 東京 6/13-15, 2013. 第 50 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (東京), 2013. 6.
- 2) Obayashi S, Hara Y : Vulnerable frontal responses in patients with cerebellar lesions during word retrieval : combined f-NIRS and SPECT study. International neurorehabilitation society (INRS) 2013 (Zurich, Switzerland), 2013. 9.
- 3) 原 行弘¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科リハビリテーション学分野) : 機能的電気刺激 (FES) と経頭蓋直流電流刺激併用による運動野への影響. 第 43 回日本臨床神経生理学会学術集会 (高知), 2013. 11.
- 4) 妹尾麻代¹⁾, 伏屋洋志¹⁾, 大林 茂¹⁾, 辻内和人¹⁾, 原 行弘¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院) : 骨格筋 MRI による手内筋随意運動介助型電気刺激 (IVES) の評価. 日本リハビリテーション医学会関東地方会 (甲府), 2013. 9.
- 5) 伏屋洋志, 田中慶太¹⁾, 大林 茂, 妹尾麻代, 辻内和人, 原 行弘, 栗城真也¹⁾ (1) 東京電機大学理工学部) : 脳磁図を用いた経頭蓋直流電気刺激の感覚入力への影響に関する検討. 臨床神経生理学会 (第 43 回) (高知), 2013. 11.

論文

[追加分]

追加分 :

- 1) Hara Y¹⁾ (1) Nippon Medical School, department of rehabilitation medicine) : Reply to "The effects of functional electrical stimulation on upper extremity function and cortical plasticity in chronic stroke patients" . 2014, in press. Clin Neurophysiol 2014 ; 125 (8) : 1710-1711.

13. 外科学（消化器外科学）

[付属病院消化器外科，一般外科，移植外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 山田岳史¹⁾，内田英二¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司¹⁾，金沢義一¹⁾，小泉岐博¹⁾，横井公良²⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科，2) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：大腸癌抗体療法における oncology emergency. 日本腹部救急医学会雑誌 2013；33 (4)：677-682.
- 2) 千原直人¹⁾，鈴木英之¹⁾，渡辺昌則¹⁾，大山莉奈¹⁾，豊田哲稿¹⁾，野村 務¹⁾，中田亮輔¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科，2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：大腸憩室出血に対する内視鏡的治療の検討ー透明フードの有用性ー. 日本腹部救急医学会雑誌 2013；33 (3)：523-527.
- 3) Aimoto T¹⁾，Mizutani S²⁾，Kawano Y¹⁾，Suzuki H²⁾，Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital)：Significance of Aggressive Surgery for an Invasive Carcinoma Derived from an Intraductal Paoillary Mucinous Neoplasm Diagnosed Preoperatively as Borderline Resectable. Journal of Nippon Medical School 2013；80 (5)：371-377.
- 4) Aimoto T¹⁾，Uchida E¹⁾，Matsushita A¹⁾，Kawano Y¹⁾，Mizutani S²⁾，Kobayashi T³⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 3) Kobayashi Hospital, Tokyo)：Long-term Outcomes after Frey's Procedure for Chronic Pancreatitis with an Inflammatory Mass of the Pancreatic Head, with Special Reference to Locoregional Complications. Journal of Nippon Medical School 2013；80 (2)：148-154.
- 5) Matsuda A¹⁾，Matsumoto S¹⁾，Seya T¹⁾，Matsutani T²⁾，Kishi T³⁾，Yokoi K¹⁾，Wang P⁴⁾，Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chba-Hokuso Hospital, 2) Department of Gastrointestinal Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, 3) Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine, 4) Department of Surgery, Hofstra North Shore-LIJ School of Medicine)：Does Postoperative Complication Have a Negative Impact on Long-Term Outcomes Following Hepatic Resection for Colorectal Liver Metastasis?：A Meta-Analysis. Annals of Surgical Oncology 2013；20 (8)：2485-2492.
- 6) Matsushita A¹⁾，Nakamura Y¹⁾，Sumiyoshi H¹⁾，Aimoto T¹⁾，Yokoyama T²⁾，Uchida E¹⁾ (1) Departments of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School)：A Pilot Study-Neoadjuvant Chemotherapy with Gemcitabine and S1 in Patients with Resectable and Borderline Resectable Pancreatic Cancer. J Carcinogene Mutagene 2013；S9-006.
- 7) Iwaki J¹⁾，Kikuchi K¹⁾，Mizuguchi Y²⁾，Kawahigashi Y²⁾，Yoshida H²⁾，Uchida E²⁾，Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School)：MiR-376c Down-Regulation Accelerates EGF-Dependent Migration by Targeting GRB2 in the HuCCT1 Human Intrahepatic Cholangiocarcinoma Cell Line. PLOS ONE 2013；8 (7)：1-12.
- 8) Saito T^{1,2)}，Ueno M²⁾，Ota Y³⁾，Nakamura Y⁴⁾，Hashimoto M²⁾，Udagawa H²⁾，Mizuno K¹⁾，Ohashi K⁵⁾，Watanabe G²⁾ (1) Department of internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Digestive Surgery,

Toranomon Hospital, ³⁾ Department of Pathology, Toranomon Hospital, ⁴⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Pathology, Yokohama City University Graduate School of Medicine) : Histopathological and clinical characteristics of duodenal gastrointestinal stromal tumors as predictors of malignancy. World Journal of Surgical Oncology 2013 ; 16 (11).

- 9) Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Aimoto T¹⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Laparoscopic Pancreatectomy for Pancreatic Cancer. Carcinogenesis & Mutagenesis 2013 ; S9-004.
- 10) Yamada S¹⁾, Kato S²⁾, Matsutani T³⁾, Luksana M⁴⁾, Yoshida M⁵⁾, Thiraphat C¹⁾, Nirush L⁶⁾, Pawit S¹⁾, Bandhuphat C¹⁾, Nishiumi S⁵⁾, Wilaiwan C¹⁾, Azuma T⁵⁾ (¹⁾ Division of Gastrointestinal Surgery and Endoscopy, Department of Surgery, Chiang Mai University, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Gastroenterology and Endoscopy, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, ⁵⁾ Department of Gastroenterology, International Center for Medical Research and Treatment, Kobe University School of Medicine, ⁶⁾ Department of Pathology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University) : Predominant mucosal IL-8 mRNA expression in non-cagA Thais is risk for gastric cancer. World Journal of Gastroenterology 2013 ; 19 (19) : 2941-2949.
- 11) Kanazawa Y¹⁾, Kato S¹⁾, Fujita I¹⁾, Onodera H¹⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery Nippon Medical School) : Adjuvant Chemotherapy with S-1 Followed by Docetaxel for Gastric Cancer and CY1PO Peritoneal Metastasis after Relatively Curative Surgery. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (5) : 378-383.
- 12) Tanihara N¹⁾, Yoshida H¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Kawano Y¹⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Surgical Outcomes and Prognostic Factors in Elderly Patients (75 Years or Older) with Hepatocellular Carcinoma Who Underwent Hepatectomy. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 426-432.
- 13) Matsuda A¹⁾, Miyashita M¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Matsutani T²⁾, Sakurazawa N¹⁾, Akagi I²⁾, Kishi T³⁾, Yokoi K¹⁾, Uchida E²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital Nippon Medical School, ²⁾ Department of Gastroenterological Surgery, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine) : Hepatic Pedicle Clamping Does Not Worsen Survival after Hepatic Resection for Colorectal Liver Metastasis : Results from a Systematic Review and Meta-analysis. Annals of Surgical Oncology 2013 ; 20 (12) : 3771-3778.
- 14) Matsuda Y¹⁾, Shinji S²⁾, Yoshimura H¹⁾, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾ (¹⁾ Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Fibroblast Growth Factor Receptor-2 IIIc as a Novel Molecular Target in Colorectal Cancer. Current Colorectal Cancer Report 2014 ; 10 (1) : 20-26.
- 15) 水口義昭¹⁾, 有馬保生¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 中村慶春¹⁾, 横室茂樹²⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 上田純志¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日医大消化器外科, ²⁾ 日医大千葉北総外科) : 【後期高齢者に対する胆石症の治療戦略】後期高齢者に対する積極的腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LC), 特に早期・緊急 LC の安全性に関する検討. 消化器内科 2013 ; 56 (6) : 677-682.

(2) 総説 :

- 1) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下尾側脾切除術 (脾摘を伴う). 消化器外科 2013 ; 36 (5) : 824-833.
- 2) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 腸閉塞. Clinial Study 2013 ; 34 (8) : 41-48.
- 3) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 丸山 弘²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 切除不能食道癌に対する腹腔鏡補助下食道バイパス術. 外科 2013 ; 75 (4) :

400-403.

- 4) Yoshida H¹⁾, Mamada Y²⁾, Taniyai N²⁾, Yoshioka M²⁾, Hirakata A¹⁾, Kawano Y²⁾, Mizuguchi Y²⁾, Shimizu T²⁾, Ueda J²⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayam Hospital, (2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Risk Factors for Bleeding Esophagogastric Varices. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (4) : 371-377.
 - 5) 吉田 寛¹⁾, 平方敦史¹⁾, 真々田裕宏²⁾, 谷合信彦²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, (2) 日本医科大学 消化器外科) : 脾機能亢進症への対応. 消化器内視鏡 2013 ; 25 (11) : 1859-1862.
 - 6) 山田岳史¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 緩和医療と疼痛管理早期緩和ケアとクリニカルパス. 日本臨床 2014 ; 72 (1 (増刊)) : 592-595.
 - 7) 山田岳史¹⁾, 松田明久²⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院) : 予後延長をめざした早期緩和ケア : palliative care から supportive oncology へ. 臨床外科 2014 ; 37 (2) : 223-227.
 - 8) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 脾腫腹腔鏡下脾体尾部切除術. 手術 2014 ; 68 (4) : 589-593.
 - 9) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 胃癌術後再発に対するステント治療. 外科 2014 ; 76 (3) : 305-308.
 - 10) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松谷 毅²⁾, 若林秀幸²⁾, Ping W³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, (2) 日本医科大学 消化器外科, (3) Department of Surgery, Hofstra North Shore-LIJ School of Medicine and The Feinstein Institute for Medical Research, NY, USA) : MFG - E8 に着目したショックにおける過剰な炎症反応制御の可能性. Shock 2013 ; 28 (2) : 63-68.
 - 11) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 【私たちはこう工夫している脾切離・脾管再建, ドレナージ・合併症の管理】腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術における脾切離にELSを用いる意義. 手術 2014 ; 68 (2) : 153-156.
 - 12) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 癒着防止吸収性バリア (セプラフィルム®) を簡便かつ正確に開腹創に挿入する工夫. 臨床外科 2013 ; 68 : 1060-1061.
- (3) 症例報告 :
- 1) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 宮下正夫²⁾, 山下直行³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, (3) 坪井病院 外科) : 食道癌再手術の内ヘルニアから門脈ガス血症と腸管嚢胞様気腫症を呈した1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2013 ; 33 (5) : 913-917.
 - 2) 馬越道信¹⁾, 松谷 毅²⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃²⁾, 平方敦史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 細根 勝³⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, (2) 日本医科大学 消化器外科, (3) 坪井病院多摩永山病院 病理部) : 腹部症状をともない経過中に増大した胃異所性脾の1例. 日本消化器病学会雑誌 2013 ; 110 (9) : 43-47.
 - 3) 高尾嘉宗¹⁾, 松谷 毅²⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, (2) 日本医科大学 消化器外科) : 切除不能食道癌加療中の急性胆嚢炎に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術と食道バイパス手術を施行した1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2013 ; 33 (4) : 749-753.
 - 4) 馬越道信¹⁾, 松谷 毅²⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, (2) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡補助下残胃全摘を行なった Adachi VI 型血行走行異常併存高齢者残胃癌の1例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2013 ; 18 (3) : 351-355.
 - 5) 新井洋紀¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 吉田 寛²⁾, 笹島耕二²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, (2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 胃 MALT リンパ腫と早期胃癌の1共存例. 日本臨床外科学会雑誌 2013 ; 74 (6) : 101-106.

- 6) 勝田美和子¹⁾, 山下直行²⁾, 萩原信敏³⁾, 進士誠一³⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 佼成病院 外科, 2) 坪井病院 外科, 3) 日本医科大学 消化器外科) : CT にて穿孔部位を同定した鼠径ヘルニア合併外傷性小腸穿孔の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2013 ; 74 (7) : 1872-1875.
- 7) 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 肛門管癌の Pagetoid spread. 日本医科大学医学会雑誌 2013 ; 9 (4) : 188-189.
- 8) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 青木悠人¹⁾, 上田康二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : Zenker 憩室の手術. 日本医科大学医学会雑誌 2013 ; 9 (4) : 190-193.
- 9) 土屋喜一¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 二階堂孝²⁾, 山田隆之³⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 内田英二⁴⁾ (1) 立正佼成会附属佼成病院 外科, 2) 立正佼成会附属佼成病院 病理科, 3) 立正佼成会附属佼成病院 放射線科, 4) 日本医科大学 消化器外科) : 直腸 S 状部癌に合併し肝内索内に発生した高分化型脂肪肉腫の1切除例. 日本医科大学医学会雑誌 2013 ; 9 (4) : 194-197.
- 10) Matsutani T¹⁾, Matsuda A¹⁾, Yoshida H²⁾, Hagiwara N¹⁾, Katayama H³⁾, Hosone M³⁾, Sasajima K²⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, 3) Department of Pathology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Resection of skeletal muscle metastases from squamous cell carcinoma of the esophagus : case report and literature review. Esophagus 2013 ; 10 : 42-45.
- 11) Shimizu T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Laparoscopic Resection of Choledochal Cyst : Report of a Case. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (2) : 160-164.
- 12) Hoshino A¹⁾, Nakamura Y²⁾, Suzuki H¹⁾, Mizutani S¹⁾, Ishii H³⁾, Watanabe M¹⁾, Bo H¹⁾, Yoshino M¹⁾, Komine O¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, 3) Department of Pathology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Adenocarcinoma of the Minor Duodenal Papilla : Report of a Case. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (2) : 165-170.
- 13) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松田明久¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 気道ステント留置で救命した食道癌術後気管膜様部損傷の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2013 ; 74 (11) : 2997-3002.
- 14) Kanazawa Y¹⁾, Kato S¹⁾, Fujita I¹⁾, Onodera H¹⁾, Takata H¹⁾, Onda M²⁾, Naito Z²⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Spermatic Cord Tumor Metastatic from Stomach Cancer 1 Year after Curative Gastrectomy. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (4) : 318-323.
- 15) Yamada T¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yokoi K²⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Gastric Cancer with Perforation Caused by Chemotherapy with Docetaxel and S-1. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 451-455.
- 16) Taniiai N¹⁾, Yoshida H¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Kawano Y¹⁾, Ueda J¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Pulmonary Edema Caused by Levofolinate Treatment in Patients with Liver Metastases from Colorectal Cancer. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 460-466.
- 17) 松野邦彦¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 高齢者食道癌手術後に門脈ガス血症と腸管嚢胞様気腫症を呈した非閉塞性腸間膜虚血症の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2014 ; 34 (1) : 115-119.
- 18) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 肝膿瘍に対する肝切除時の適切な抗菌薬 : 脾頭十二指腸切除後出血に対する総肝動脈塞栓

による肝膿瘍症例. 日本外科感染症学会雑誌 2014 ; 11 (1) : 81-86.

- 19) 高田英志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 内藤善哉³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学統御機構病理学) : 膈神経内分泌腫瘍術後19年目の肝転移再発が疑われた1切除例. 肝臓 2013 ; 54 (5) : 326-333.
 - 20) 高田英志^{1, 2)}, 松本智司¹⁾, 上田純志²⁾, 内藤善哉³⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 日本医科大学統御機構病理学) : クリップング後再出血をきたした小腸毛細血管腫に対し単孔式腹腔鏡下手術を施行した1例. 臨床外科 2014 ; 69 (3) : 361-366.
 - 21) 勝田美和子¹⁾, 真々田裕宏²⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二²⁾ (1) 博慈会記念総合病院外科, 2) 日本医科大学 消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 腹部鈍の外傷により破裂し腹腔内出血をきたした有茎性肝血管筋脂肪腫の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2013 ; 33 (8) : 1377-1380.
 - 22) 勝野 暁¹⁾, 中村慶春²⁾, 相本隆幸²⁾, 横室茂樹¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 破骨細胞様巨細胞型退形成性膵管癌術後肝転移に対して化学療法が奏功し長期生存中の1例. 肝臓 2013 ; 28 (5) : 622-626.
 - 23) 萩原信敏⁴⁾, 松谷 毅⁴⁾, 野村 務⁴⁾, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 河越哲郎²⁾, 川見典之²⁾, 宮下次廣³⁾, 宮下正夫⁴⁾, 内田英二⁴⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学, 2) 日本医科大学内科学 (消化器内科学), 3) 日本医科大学放射線医学, 4) 日本医科大学消化器外科) : チーム医療で喉頭温存食道切除が可能であった頸胸部進行食道癌の1例. 日本医科大学医学会雑誌 2013 ; 9 (1) : 20-24.
 - 24) 下田朋宏¹⁾, 松谷 毅²⁾, 吉田 寛¹⁾, 細根 勝³⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院病理部) : ネフローゼ症候群を契機に発見された全身性エリテマトーデス合併進行胃癌の1例. 日本消化器病学会雑誌 2013 ; 110 : 1797-1803.
 - 25) 若林秀幸¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 胃癌腹部大動脈周囲リンパ節転移と鑑別を要した後腹膜神経鞘腫の1例. 外科 2013 ; 75 (3) : 400-403.
- (4) 新任教授特別講演 :
- 1) 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学 乳腺外科) : 乳がんにおけるテーラーメード医療の実際. 日本医科大学医学会雑誌 2013 ; 9 (4) : 238-238.
- (5) 特集 :
- 1) 谷合信彦¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 誰にでもできる医学雑誌への論文投稿 (Vol.3) : 論文の投稿から査読そして掲載まで, 実例をあげて. 日本手術医学会誌 2013 ; 34 (2) : 23-24.
 - 2) 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下分流手術. 手術 2013 ; 67 (10) : 1507-1511.
 - 3) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 野村 務¹⁾, 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 巨大膵粘膜性嚢胞腫瘍に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術. 手術 2013 ; 67 (5) : 599-603.
 - 4) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下膵体尾部切除. 手術 2013 ; 67 (6) : 935-940.
 - 5) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 膵臓癌腹腔鏡下手術の Knack & Pitfall : 要となる術野の展開法と手技の工夫点を中心に. 手術 2013 ; 67 (8) : 1195-1200.
 - 6) 中田亮輔¹⁾, 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 野村 聡¹⁾, 村木 輝¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 鼠径部ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡を用いた治療戦略. 日本腹部救急医学会雑誌 2014 ; 34 (1) : 81-86.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた取り組み. 千葉県外科医会 (第68回) (千葉), 2013. 7.

(2) 宿題講演：

- 1) 田尻 孝¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下分流手術. 日本外科学会定期学術集会 (第113回) (福岡), 2013. 4.
- 2) 住吉 宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：インスリノーマに対する腹腔鏡下膵切除術における, 選択的動脈内Ca注入法と術中超音波検査, 末梢動脈血インスリン値モニタリングの併用の有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第113回) (福岡), 2013. 4.

(3) 教育講演：

- 1) 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：先天性胆道拡張症成人例に対する内視鏡下分流手術. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25回) (栃木), 2013. 6.

(4) シンポジウム：

- 1) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 岩本美樹²⁾, 松野邦彦²⁾, 住吉宏樹²⁾, その他6名 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科)：上部消化管術後の縫合不全・瘻孔や潰瘍穿孔に対する内視鏡的ドレナージ・クリッピング・OTSC (Over the scope clipping) 治療. 日本消化器内視鏡学会総会 (第85回) (京都), 2013. 5.
- 2) 菅野仁士¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 松倉則夫²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 松倉中央クリニック)：ヘリコバクター・ピロリ除菌治療18年後に発生した噴門部側胃切除後の残胃癌の1例. 潰瘍病態研究会 (第22回) (栃木), 2013. 8.
- 3) 山下直行¹⁾, 湖山信篤²⁾, 萩原信敏²⁾, 桜澤信行²⁾, 菅野仁士²⁾, 岩井拓磨¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 今村和広³⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学外科, 3) 東京都立多摩医療センター外科)：腹腔鏡胃切除において安全に導入可能な体腔内逆蠕動 Roux-en-Y 吻合. 日本外科系連合学会学術集会 (第38回) (東京), 2013. 6.
- 4) 星野有哉¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 中村慶春²⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：低悪性度膵腫瘍に対する腹腔鏡下膵尾部切除術5例の検討. 日本外科系連合学会学術集会 (第38回) (東京), 2013. 6.
- 5) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科)：導入実践大学病院である当科での鏡視下左肝切除術標準化に向けての工夫と取り組み. 日本外科系連合学会学術集会 (第38回) (東京), 2013. 6.
- 6) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：セクレアを利用したイオ電極による肝離断面止血法. 日本外科系連合学会学術集会 (第38回) (東京), 2013. 6.
- 7) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 上田純志¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：腹腔鏡下逆流防止術による成人食道裂孔ヘルニア治療：当施設での現状. 日本ヘルニア学会学術集会 (第11回) (宮城), 2013. 5.

- 8) 谷 杏彌¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：当施設における，腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の導入．日本ヘルニア学会学術集会 (第 11 回) (宮城)，2013. 5.
- 9) 谷合信彦¹⁾，吉田 寛²⁾，真々田裕宏¹⁾，吉岡正人¹⁾，川野陽一¹⁾，清水哲也¹⁾，上田純志¹⁾，高田英志¹⁾，水口義昭¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科)：腫瘍形成型肝内胆管が癌に対するリンパ節廓清の意義．日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木)，2013. 6.
- 10) 松下 晃¹⁾，中村慶春¹⁾，住吉宏樹¹⁾，山初和也²⁾，神田知洋¹⁾，清水哲也¹⁾，勝野 暁¹⁾，川野陽一¹⁾，水口義昭¹⁾，吉岡正人¹⁾，谷合信彦¹⁾，真々田裕宏¹⁾，内田英二 (1) 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器外科)：胆道癌に対する腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) の標準化に向けた手術手技．腹腔鏡下胆道手術研究会 (第 3 回) (東京)，2014. 3.
- 11) 横山 正¹⁾，吉田 寛¹⁾，平方敦史¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院，²⁾ 日本医科大学 消化器外科)：自施設での膵頭十二指腸切除時における膵消化管吻合の工夫とその成績．日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木)，2013. 6.
- 12) 平方敦史¹⁾，吉田 寛¹⁾，横山 正¹⁾，牧野浩司¹⁾，丸山 弘¹⁾，菅野仁士¹⁾，坂田義則¹⁾，関 奈紀¹⁾，高尾嘉宗¹⁾，堀田正啓¹⁾，宮下哲平¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院，²⁾ 日本医科大学 消化器外科)：パラシュート法による胆道再建．日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木)，2013. 6.
- 13) 水谷 聡¹⁾，鈴木英之¹⁾，相本隆幸²⁾，山岸征嗣¹⁾，八木重記¹⁾，村木 輝¹⁾，前島顕太郎¹⁾，小峯 修¹⁾，吉野雅則¹⁾，星野有哉¹⁾，渡辺雅則¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学消化器外科)：細膵管・soft pancreas にも対応する簡便かつ画一的な膵管空腸粘膜吻合手順．日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木)，2013. 6.
- 14) 松下 晃¹⁾，中村慶春¹⁾，吉岡正人¹⁾，川野陽一¹⁾，水口義昭¹⁾，清水哲也¹⁾，住吉宏樹¹⁾，谷合信彦¹⁾，相本隆幸¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下膵切除術における膵空腸吻合の工夫．日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木)，2013. 6.
- 15) 川野陽一¹⁾，谷合信彦¹⁾，中村慶春¹⁾，吉岡正人¹⁾，松下 晃¹⁾，水口義昭¹⁾，清水哲也¹⁾，上田純志¹⁾，高田英志¹⁾，吉田 寛²⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科)：鏡視下肝切除術における当科 Original の様々な工夫．日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木)，2013. 6.
- 16) 山田岳史¹⁾，松本智司²⁾，佐々木順平²⁾，菅 隼人¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，谷 杏彌¹⁾，原 敬介¹⁾，松田明久²⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：機械的腸管洗浄は結腸癌術後消化管運動の回腹を遅延させる．日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎)，2013. 7.
- 17) 松下 晃¹⁾，中村慶春¹⁾，住吉宏樹¹⁾，清水哲也¹⁾，川野陽一¹⁾，水口義昭¹⁾，吉岡正人¹⁾，谷合信彦¹⁾，真々田裕宏¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：胆道癌に対する腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) の標準化に向けた手術手技と中長期手術成績．日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎)，2013. 7.
- 18) 中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，住吉宏樹¹⁾，吉岡正人¹⁾，川野陽一¹⁾，清水哲也¹⁾，水口義昭¹⁾，谷合信彦¹⁾，相本隆幸¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：膵癌に対する腹腔鏡下膵切除の標準化に向けた手術手技と中長期手術成績．日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎)，2013. 7.
- 19) 松下 晃¹⁾，中村慶春¹⁾，住吉宏樹¹⁾，清水哲也¹⁾，川野陽一¹⁾，水口義昭¹⁾，吉岡正人¹⁾，谷合信彦¹⁾，相本隆幸¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下手術の特徴を生かした腹腔鏡下膵切除術における術野の展開法．日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡)，2013. 4.
- 20) 吉田 寛¹⁾，真々田裕宏²⁾，谷合信彦²⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科，²⁾ 日本医科大学 消化器外科)：門脈圧亢進症に対する治療法の変遷．日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡)，2013. 4.
- 21) 山下浩二¹⁾，五十嵐健人²⁾，岡村律子²⁾，軸藺智雄²⁾，岩本美樹¹⁾，栗田智子¹⁾，柳原恵子¹⁾，飯田信也¹⁾，芳賀駿介¹⁾，清水一雄²⁾ (1) 日本医科大学 乳腺科，²⁾ 日本医科大学 外科)：低侵襲と整容性を追求した腫瘍前アプローチによる腋窩単孔式乳腺内視鏡手術．日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡)，2013. 4.

- 22) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた手術手技の構築. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 23) Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Aimoto T¹⁾, Tajiri T¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Minimally invasive surgery for low grade malignancies of the pancreas. IAP & KPBA 2013 (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 24) 内田英二 (1) 日本医科大学消化器外科学) : 胆嚢総胆管領域における小切開の今日的意義 : 胆嚢総胆管領域の内視鏡外科手術の発展と小切開の今日的な位置づけ. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回) (東京), 2013. 11.
- 25) 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 中村慶春¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 神田知洋¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 当科における総胆管結石症に対する総胆管十二指腸吻合術と術式の変遷. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回) (東京), 2013. 11.
- 26) 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川野陽一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 安全に腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) を行うためのわれわれの工夫. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回) (東京), 2013. 11.
- 27) 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 清水一雄²⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科, 2) 日本医科大学内分泌外科) : 早期乳癌に対する乳頭乳輪温存皮下乳腺全摘術での乳輪縁切開アプローチによる単孔乳腺内視鏡手術の有効性. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回) (東京), 2013. 11.
- 28) 渡辺昌則¹⁾, 野村 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 埜 秀暁¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 埜 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : En bloc なリンパ節郭清を目指した腹臥位胸腔鏡下食道切除術. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回) (東京), 2013. 11.
- 29) 松田陽子¹⁾, 吉村久志¹⁾, 松下 晃²⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾, 内藤善哉¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (1) 日本医科大学病理学 (統御機構・腫瘍学), 2) 日本医科大学消化器外科学) : 膵癌における nestin の発現と分子標的としての有用性. 日本消化器癌発生学会総会 (第 24 回) (石川), 2013. 9.
- 30) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 松本智司¹⁾, 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 標準化に向けた腹腔鏡下膵切除術の手術手技について. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知), 2013. 11.
- 31) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 張 一光¹⁾, 山初和也¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 野村 務¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下膵切除術の標準化について考える. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 32) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 結腸癌腹腔鏡手術では小腸運動, 身体機能が早期に回復する. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 33) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡から得られた知見を生かした腹腔鏡下膵切除術の術野展開法. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 34) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 肝切除術における BLAKE Silicon Drain を用いた腹腔内ドレーン法の有効性. 日本外科感染症学会総会 (第 26 回) (兵庫), 2013. 11.
- 35) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 膵管癌に対する腹腔鏡下膵切除術の現状と次世代での標準化に向けた取り組みについて. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 36) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 胆道, 膵悪性腫瘍に対する標準的腹腔鏡

下膝切除術の手術手技. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.

- 37) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 保田智彦¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 松田明久²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 当科における食道破裂・穿孔の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 38) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 青木悠人¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 松田明久¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 病態に基づいた造影 CT による絞扼性イレウスの早期診断. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.

(5) パネルディスカッション:

- 1) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, (2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の長期成績. 日本門脈圧亢進症学会 (第 20 回) (愛知), 2013. 9.
- 2) 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 癌悪液質の診断と治療: 筋肉量と CRP の重要性. 日本緩和医療学会学術大会 (第 18 回) (神奈川), 2013. 6.
- 3) Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Kawano Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Aimotot A¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School): Laparoscopic pancreaticoduodenectomy: our reliable techniques as a standardized operation. Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery in Tochigi (25) (Tochigi), 2013. 6.
- 4) 内田英二 (1) 日本医大・消化器外科): 進行胆道癌に対する集学的治療の標準化に向けて. 日本消化器外科学会大会 (東京), 2013. 10.
- 5) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 佐々木順平²⁾, 松田明久²⁾, 鈴木英之³⁾, 古川清憲⁴⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (4) 赤羽病院): 局所進行直腸癌に対する術前化学放射線療法. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知), 2013. 11.
- 6) 山田岳史¹⁾, 金沢義一¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 早期介入を目指し, 理念を共有する緩和ケアチーム. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知), 2013. 11.
- 7) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 開腹を経ない鏡視下肝切除の教育はありうるか?. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知), 2013. 11.
- 8) 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 水口義昭¹⁾, 進士誠一¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 教育機関で行う Hybrid 腹腔鏡補助下虫垂切除術: 双孔式から単孔式, interval appendectomy へ. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 9) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下膝頭十二指腸切除術を安全な術式とするための当科の取り組み. 膵臓内視鏡外科研究会 (第 5 回) (福岡), 2013. 11.
- 10) 水口義昭¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 当科における局所進行胆道がん集学的治療におけるジェムザールの役割. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 11) 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 癌治療における eicosapentaenoic acid (EPA) の新たな可能性. 日本消化吸収学会 (第 44 回), 日本消化器病学会 (第 55 回) (東京), 2013. 10.

(6) セミナー:

- 1) 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科): 乳がん内分泌治療における個別化医療の可能性. 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都), 2013. 10.

(7) ポスターセッション：

- 1) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 中村慶春¹⁾, 岩切勝彦³⁾, 川見典之⁴⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大・消化器外科, 2) 日本医大多摩永山病院・外科, 3) 日本医大千葉北総病院・消化器内科, 4) 日本医大付属病院・消化器内科)：高齢者に対する腹腔鏡下逆流防止術の検討。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 2) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 青木悠人¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大・外科)：食道ブジー挿入にて安全に憩室切除が可能であった咽頭食道憩室 (Zenker 憩室) の 1 例。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 3) 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 忠¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 内田英二²⁾, その他 1 名 (1) 日本医大多摩永山病院・外科, 2) 日本医大・外科)：腹臥位胸腔鏡下食道癌食道癌手術 (VATS-E), ストリッピング (反転) による左反回神経周囲リンパ節郭清と安全な吻合の工夫。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 4) 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大・外科)：腹腔鏡下インスリノーマ手術に対する選択的動脈内 Ca 注入法と術中末梢動脈血インスリン値モニタリング併用の有用性。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 5) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大・外科, 2) 日本医大多摩永山病院・外科)：当科における肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝部分／左葉切除術の総括。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 6) 栗山 翔¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 水口義昭¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大付属病院・1 外科)：教育機関で行うハイブリッド腹腔鏡補助下单孔虫垂切除術。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 7) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 村木 輝¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大武蔵小杉病院・消化器病センター, 2) 日本医大・外科)：進行再発大腸癌に対する外来 Cape OX 療法の効果とコンプライアンス。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 8) 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 佐々木順平²⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大・外科, 2) 日本医大千葉北総病院・外科)：腹腔鏡手術はなぜ回復が早い？。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 9) 木山輝郎¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 金沢義一¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大・外科)：腹腔鏡補助下胃全摘術後オーバーラップ法による器械縫合の工夫。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 10) 櫻澤信行¹⁾, 横井公良¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松田明久¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二²⁾, その他 2 名 (1) 日本医大千葉北総病院・外科, 2) 日本医大大学院・臓器病態制御外科学)：当院における腹腔鏡補助下幽門側胃切除に対する再建法の変遷, 吻合器 B-I と縫合器 R-Y の比較検討。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 11) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 佐々木順平²⁾ (1) 日本医大・外科, 2) 日本医大千葉北総病院・外科)：進行卵巣癌に対する手術において消化器外科が関与した症例の検討。日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 12) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 中村慶春¹⁾, 岩切勝彦³⁾, 川見典之⁴⁾, 宮下正夫⁵⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 多摩

- 永山病院 外科, ³⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 消化器内科, ⁴⁾ 日本医科大学 消化器内科, ⁵⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 外科) : 高齢者に対する腹腔鏡下逆流防止術の検討. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 13) 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士²⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 腹臥位胸腔鏡下食道癌手術 (VATS-E), ストリッピング (反転) による左反回神経周囲リンパ節郭清と安全な吻合の工夫. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 14) 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下インスリノーマ手術に対する選択的動脈内 Ca 注入法と術中末梢動脈血インスリン値モニタリング併用の有用性. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 15) 川野陽一¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 多摩永山病院 外科) : 当科における肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝部分/左様切除の総括. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 16) 櫻澤信行¹⁾, 横井公良¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松田明久¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二²⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大大学院・臓器病態制御外科学) : 当院における腹腔鏡補助下幽門側胃切除に対する再建法の変遷, 吻合器 B-I と縫合器 R-Y の比較検討. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 17) 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医大千葉北総病院・外科) : 大腸癌に対する単孔式腹腔鏡補助下回盲部切除術の低侵襲性に関する検討. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 18) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 村木 輝¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 進行再発大腸癌に対する外来 CapeOX 療法の効果とコンプライアンス. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 19) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 萩原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 加藤俊二²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 根治性と長期予後から考える上部限局胃癌 (U) に対する噴門側胃切除術. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 20) 木山輝郎¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 金沢義一¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡補助下胃全摘術後オーバーラップ法による器械吻合の工夫. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 21) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 佐々木順平²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 進行卵巣癌に対する手術において消化器外科が関与した症例の検討. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 22) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 松田明久¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 丸山弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 進行食道癌に対する Docetaxl/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法後の治療戦略. 日本消化器病学会大会 (第 55 回) (東京), 2013. 10.
- 23) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 中澤 賢²⁾, 小野澤志郎²⁾, 野村 務¹⁾, 上田康二¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 放射線科) : 経皮経胃管ガイドワイヤー挿入にて食道ステント留置可能となった 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 86 回) (東京), 2013. 10.

- 24) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 松田明久¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 丸山弘³⁾, 牧野浩司³⁾, 高尾嘉宗³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科): 進行食道癌に対する化学放射線療法後の遺残および再発病変に対するアルゴンプラズマ凝固療法. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 86 回) (東京), 2013. 10.

(8) ワークショップ:

- 1) 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 緩和ケアチームにおける外科医の役割: 早期緩和ケアの標準化と普及. 日本外科系連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.
- 2) 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 当科における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の工夫医療用スポンジスペンサーの使用. 単孔式内視鏡手術研究会 (7 回) (岩手), 2013. 8.
- 3) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 水口義昭¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下臍切除術における Reduced Port Surgery の発展性についての考察. 単孔式内視鏡手術研究会 (7 回) (岩手), 2013. 8.
- 4) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 原絵津子³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 北村山公立病院): 造影 CT による絞扼性 ileus の客観的診断: enhanced-CT Strangulation Ileuse Diagnostic score (eSID score) の有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 5) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 山田岳史¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 超高齢者 80 歳以上における胃がんの治療戦略. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 6) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 佐々木順平²⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 啓介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 超高齢者結腸癌術後消化器蠕動の回復: 腹腔手術は高齢者に有意義か?. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 7) 松田範子¹⁾, 宮本正章³⁾, 豊富達智²⁾, 中山拓哉²⁾, 志村亜由香²⁾, 佐々木拓哉²⁾, 鈴木健一²⁾, 木山輝郎¹⁾, 内田英二¹⁾, 桐木園子³⁾, 高木 元³⁾, 飯村剛史⁴⁾, 小川 令⁴⁾, 竹田晋浩^{5,2)}, 徳永 昭¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院 ME 部, 3) 日本医科大学 循環器内科, 4) 日本医科大学 形成外科・美容外科, 5) 日本医科大学 集中治療室): 高気圧酸素療法と血管再生医療・局所陰圧閉鎖療法併用による難治性下腿潰瘍・足壊疽症例の創傷治癒促進効果. 日本臨床工学会 (23) (山形), 2013. 5.
- 8) 田尻 孝¹⁾ (1) 日本医科大学): 門脈圧亢進症: 治療法の選択とその成績. 日本消化器病学会大会 (第 55 回) (東京), 2013. 10.
- 9) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 宮坂俊光¹⁾, 山下直行³⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科, 3) 坪井病院 外科): 上部消化管手術での circular stapler による吻合部の縫合不全時の止血クリップ・OTSC (Over the scope clipping) による内視鏡的治療と縫合不全予防の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知), 2013. 11.
- 10) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 上田純志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 高田英志¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下臍切除術における術中出血におけるトラブルシューティング. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知), 2013. 11.
- 11) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術における laparoscopic left mesenteric spreading approach と術野展開法の工夫について. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知), 2013.

- 11.
- 12) 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科: 腹腔鏡下胆のう摘出術胆管損傷症例におけるピットフォールと対策. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (愛知), 2013. 11.
- 13) 山下浩二¹⁾, 五十嵐健人²⁾, 岡村律子²⁾, 軸藺智雄²⁾, 岩本美樹¹⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 清水一雄²⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学 乳腺外科, 2) 日本医科大学 内分泌外科: 単孔ポートによる乳腺内視鏡手術による乳房皮膚知覚温存を含めた侵襲度の検証. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 14) 中田亮輔¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 千原直人¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 野村 聡¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科: de novo type の外鼠径ヘルニアにおける腹膜鞘状突起の認識. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 15) 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 村木 輝¹⁾, 山岸征彌¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科: 鼠径部, 閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡下手術の定型化. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 16) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 野村 務¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 松本智司¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科: 腹腔鏡下胆管空腸吻合術の手術手技について. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 17) 進士誠一¹⁾, 川野陽一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 中村慶春¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科: 腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術における合併症予防のための工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 18) 小泉岐博¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科: 横行結腸間膜頭側からアプローチする中結腸動脈の郭清手技. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 19) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 中村慶春¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科: 当施設における食道アカラシア・DESに対する内視鏡外科治療. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 20) 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 佐々木順平¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 高橋吾郎²⁾, 原絵津子²⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科: 超高齢者腹腔鏡補助下結腸癌手術の意義: 術後消化管運動の回復と手術の意義: 術後消化管運動の回復と手術1年後の栄養評価. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第68回) (東京), 2013. 11.
- 21) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 宮下正夫²⁾, 藤田逸郎²⁾, 野村 務²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科: 食道胃接合部癌に対する鏡視下食道切除術・吻合, 開腹胃切除術. 日本胃癌学会総会 (86回) (神奈川), 2014. 3.
- 22) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 多摩永山病院 外科: 門脈圧亢進症治療における部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の長期成績. 日本消化器病学会大会 (第55回), 日本消化器内視鏡学会総会 (第86回), 日本肝臓学会大会 (第17回), 日本消化器外科学会大会 (第11回) (東京), 2013. 10.
- 23) 進士誠一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 松本智司²⁾, 菅 隼人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 山田岳史¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科: 当科における結腸癌に対する単孔式腹腔鏡補助下回盲部切除. 単孔式内視鏡手術研究会 (第7回) (岩手), 2013. 8.

(9) プレナリーセッション：

- 1) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 松田明久²⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 原絵津子²⁾, 高橋吾郎²⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : liquid biopsy を利用した抗 EGFR 抗体治療の新治療戦略. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.

(10) 一般講演：

- 1) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 上田純志¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 水口義昭¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : Child C 肝硬変症に対する部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の有効性の検討. 日本肝臓学会総会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
- 2) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 癌性腹膜炎による難治性腹水に対する腹腔静脈シャント術の検討. 日本肝臓学会総会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
- 3) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : H2,H3 大腸癌肝限局性転移に対する conversion therapy の検討. 大腸癌研究会 (第 79 回) (大阪), 2013. 7.
- 4) 杉田久記¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 膵管内乳頭粘液性腫瘍との鑑別が困難で手術を施行した膵漿液性嚢胞腫瘍の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 324 回) (東京), 2013. 4.
- 5) 栗山 翔¹⁾, 水口義昭¹⁾, 内田英二¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 膵体部癌との鑑別に EUS-FNA が有用であった腫瘍形成性 igG4 関連膵炎の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東支部地方会 (第 96 回) (東京), 2013. 6.
- 6) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた手術手技の工夫. 東京消化器手術懇話会 (第 16 回) (東京), 2013. 7.
- 7) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 張 一光¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡から得られる知見を生かした腹腔鏡膵切除術における術野の展開法. 日本膵切研究会 (第 40 回) (香川), 2013. 8.
- 8) 横山 正¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 平方敦史¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 当施設における膵頭十二指腸切除後の腹腔鏡ない感染予防への取り組み. 日本膵切研究会 (第 40 回) (香川), 2013. 8.
- 9) 金子恵子¹⁾, 奈良岡高志¹⁾, 中川 愛¹⁾, 橋本知実¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 榊 卓史¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 松下洋子¹⁾, 張本混智¹⁾, 福田 健¹⁾, 宮本亮子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 谷合信彦²⁾, 村田 智³⁾ (1) 日本医科大学 消化器内科, 2) 日本医科大学 消化器外科, 3) 日本医科大学 放射線科) : 当科における Sorafenib 使用成績及び投与開始量の検討. 日本肝がん分子標的治療研究会 (第 8 回) (石川), 2013. 6.
- 10) 木山輝郎^{1,2)}, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 東大宮総合病院 外科) : 腹腔鏡補助下胃全摘術後オーバーラップ法による再建の実際. 日本外科系連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.
- 11) 清水貴夫¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 千原直人¹⁾, 星野有哉¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 当科における閉鎖孔ヘルニア陥頓の術式の変遷. 日本外科系連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.
- 12) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鶴¹⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 進行再発

大腸癌外来化学療法の経済的問題. 日本外科系連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.

- 13) 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 伊藤かな子¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 尋常性乾癬治療中に併発した同時性多発大腸癌に対し腹腔鏡補助下切除を施行した 1 例. 日本外科系連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.
- 14) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下手術にて摘出した tailgut cyst の 1 例. 日本外科系連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.
- 15) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 消化器内科): メッシュを用いた巨大食道裂孔に対する腹腔鏡下手術. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 11 回) (宮城), 2013. 5.
- 16) 上田純志¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 高田英志¹⁾, 向後英樹¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 後期研修医における鼠径ヘルニア手術の Learning Curve の検討. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 11 回) (宮城), 2013. 5.
- 17) 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 松下 晃¹⁾, 山初和也¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): Insulinoma に対する腹腔鏡下膵切除術における術中末梢動脈 IRI 値モニタリング. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (宮城), 2013. 7.
- 18) 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 平方敦史²⁾, 横山 正²⁾, 吉田 寛²⁾, 松田陽子³⁾, 石渡俊行³⁾, 内藤善哉³⁾, 内田英二¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学病理学): 膵癌に対する術前化学療法としての GS 療法の意義と問題点. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (宮城), 2013. 7.
- 19) 石渡俊行¹⁾, 松田陽子¹⁾, 吉村久志¹⁾, 河本陽子¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 松下 晃²⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学 病理学, 2) 日本医科大学 消化器外科): 膵癌における線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR-2) 発現制御機構と治療応用の検討. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (宮城), 2013. 7.
- 20) 吉村久志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 村瀬めぐみ¹⁾, 川原清子¹⁾, 松下 晃²⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾, 内藤善哉¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (1) 日本医科大学 病理学, 2) 日本医科大学 消化器外科): 長鎖 non-coding RNA H19 の膵癌における発現とその意義についての検討. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (宮城), 2013. 7.
- 21) 住吉宏樹¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 松田陽子²⁾, 石渡俊行²⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 膵管内乳頭粘液性腫瘍との鑑別が困難であった膵漿液性嚢胞腫瘍の 1 例. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (宮城), 2013. 7.
- 22) 高橋吾郎¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 関口久美子¹⁾, 原絵津子¹⁾, 菊地友太¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 山初和也¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 松田明久¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 堀場光二¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 宮下正夫¹⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学 千葉北総病院): 背部痛を伴う食道粘膜下腫瘍に対する胸腔鏡下切除例. 千葉県外科医会 (第 68 回) (千葉), 2013. 7.
- 23) 早川朋宏¹⁾, 関口久美子¹⁾, 原絵津子¹⁾, 菊地友太¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 山初和也¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 松田明久¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 堀場光二¹⁾, 飯田信也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 宮下正夫¹⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学 千葉北総病院): 尿管遺残症に対して単行式腹腔鏡下尿管遺残摘出術を施行した 1 例. 千葉県外科医会 (第 68 回) (千葉市), 2013. 7.
- 24) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術の手術手技について. SUMMER SEMINAR in 沖縄 (第 2 回) (沖縄), 2013. 6.
- 25) 松本智司¹⁾, 松田明久¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院): 尿管遺残症に対する単孔式腹腔鏡下手術の工夫. 単孔式内視鏡手術研究会 (7 回) (岩手), 2013. 8.

- 26) 菊地友太¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 松田明久¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田明宏¹⁾, 原絵津子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 胃 GIST に対し術中内視鏡併用下に腹腔鏡補助下胃部分切除術を施行した 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 27) 杉田久記¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 青木悠人¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 血管走行異常を合併する完全内臓逆位症を伴った胃癌の 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 28) 増田寛喜¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下腓体尾部切除術を施行した脾内副脾に生じた類上皮嚢胞の 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 29) 宮坂俊光¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 高 和英¹⁾, 小泉里奈¹⁾, 宮下哲平¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 脾のびまん性石灰化を認めた突発性血小板減少性紫斑病の 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 30) 眞鍋恵理子¹⁾, 進士誠一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 高田英志¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 原田潤一郎¹⁾, 伊藤かな子¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 憩室炎との鑑別が困難であった 4 型大腸癌の 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 31) 関口久美子¹⁾, 山初和也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 菊地友太¹⁾, 原絵津子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): S 状結腸間膜由来の孤立性繊維性腫瘍 (SFT) の 1 切除例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 32) 宮下哲平¹⁾, 平方敦史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 高 和英¹⁾, 小泉里奈¹⁾, 宮坂俊光¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 突発性血小板減少性紫斑病の加療後に発症した IgG4 関連後腹膜線維症の 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 33) 山際 亮¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 星野有哉¹⁾, 中村慶春²⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下に摘出した異所性褐色細胞腫の 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 34) 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 閉鎖孔ヘルニア陥頓に対する腹腔鏡下手術定型化の試み. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 35) 岩本美樹¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 山田岳史²⁾, 青木悠人²⁾, 内田英二²⁾, 中西一浩³⁾ (1) 日本医科大学乳腺科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 日本医科大学緩和ケア科): オキシコドン注射剤による Rapid Titration と内服製剤への投与経路変更～投与量の評価と換算比率についての検討～. 日本緩和医療学会学術大会 (第 18 回) (神奈川), 2013. 6.
- 36) 栗山 翔¹⁾, 山田岳史¹⁾, 岩本美樹²⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学乳腺科): 当科における oxycodone 注射剤の使用経験～消化器癌患者 6 例の検討～. 日本緩和医療学会学術大会 (第 18 回) (神奈川), 2013. 6.
- 37) 川野陽一¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 腹腔鏡下肝切除術における当科 Original の様々な工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木), 2013. 6.
- 38) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 当科における腹腔鏡下膵切除術の手術手技について. 日本肝胆

膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木), 2013. 6.

- 39) 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 内田英二¹⁾
(¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下膵体尾部切除後に膵液瘻の穿破により急速に増大する門脈血栓を発生した 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木), 2013. 6.
- 40) 上田純志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科): 肝切除における術中ソナゾイド造影超音波検査の有用性の検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木), 2013. 6.
- 41) 山岸征嗣¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸²⁾, 村木 輝¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 膵頭十二指腸切除における術前外瘻ドレナージの有用性の検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木), 2013. 6.
- 42) 高田英志¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 術前診断が困難であった肝細胞癌と胆管細胞癌の同時性重複癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (25 回) (栃木), 2013. 6.
- 43) 鈴木英之¹⁾, 佐々木慎²⁾, 石丸正寛³⁾, 関川浩司⁴⁾, 壁島康郎⁵⁾, 渡辺俊之²⁾, 米山さとみ³⁾, 中山幹大⁴⁾, 掛札敏裕⁵⁾, 岸 泰弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 大森赤十字病院 外科, ³⁾ 関東労災病院 外科, ⁴⁾ 石心会川崎幸病院消化器病センター 外科, ⁵⁾ 川崎市立川崎病院 外科): 高齢者における消化器外科術後譫妄の発症と抑肝散数の効果 (多施設共同前向き臨床). 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 44) 坂田義則¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科): 総胆管結石に対する総胆管十二指腸側々吻合術の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 45) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 山下直行²⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 慈山会医学研究所附属坪井病院 外科): 高度進行胃癌における集学的治療の検討: 術後胃癌症例の腹膜播種の抑制をめざして. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 46) 谷谷信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 肝内胆管癌に対する肝切除術とゲムシタピンによる化学療法を中心とした治療戦略. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 47) 若林秀幸¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松田明久¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): マウス盲腸穿刺結紮術により誘導される脂肪及び肺組織炎症に対するピオグリタゾンの前投与の効果. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 48) 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 当科における腹腔鏡下膵体尾部切除術の実際と工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 49) 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川野陽一¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) における膵臓の切離法と再建術における工夫について. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 50) 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 水口義昭¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 教育機関で行うハイブリッド腹腔鏡補助下虫垂切除術: 双孔式から単孔式, interval appendectomy へ. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 51) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司²⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 宮下

- 正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 当科における食道再建手技の実際と工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 52) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下降切除術における術中偶発症とトラブルシューティング (止血操作を中心に). 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 53) 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 腹部手術歴のある成人鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 54) 渡辺昌則¹⁾, 野村 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 大腸手術における手術時間の延長は本当に SSI を増加させるか?. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 55) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 啓介¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 鈴木英之³⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 初発・再発直腸癌に対する S-1 併用化学放射線療法. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 56) 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 中村慶春¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): ASA-PS リスクと後期高齢者に対する中程度以上急性胆嚢炎治療方針. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 57) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 食道癌術後合併症を減らすための当施設における取り組み. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 58) 坊 英樹¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 消化器が癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 59) 豊田哲鎬¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 千原直人¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 潰瘍性大腸炎に対する早期インフリキシマブ導入と問題点. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 60) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 丸山 弘²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 牧野浩司²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 局所進行食道癌に対する根治的放射線療法と salvage 治療戦略. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 61) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): StageIV 大腸癌における原発巣切除・非切除例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎市), 2013. 7.
- 62) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松谷 毅²⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大学 消化器外科): 肝虚血再灌流における MFG-E8 の臓器障害抑制効果. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 63) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 当科における鏡視下肝切除術の標準化に向けての取り組み (導入実施大学病院の立場から). 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013.

7.

- 64) 高田英志¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 山本哲志²⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学病理学教室): 肝細胞癌のプロテオーム解析を用いた新規バイオマーカー候補の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 65) 小野寺浩之¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 胃全摘術後, 局所再発にて再度腫瘍切除し得た 3 切除例. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 66) 向後英樹¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 超高齢者結腸癌手術における腹腔鏡手術の意義. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 67) 大山莉奈¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 豊田哲顕¹⁾, 村木 輝¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 山際 亮¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 悪性大腸イレウスに対する Self-expanding metallic stent の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 68) 星野有哉¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 相本隆幸²⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 分枝型 IPMN 長期経過と切除症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 69) 清水貴夫¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 千原直人¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 八木亜紀¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 山際 亮¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 小腸内視鏡 (DBE) にて診断し, 腹腔鏡補助下小腸部分切除を施行した小腸腫瘍の経験. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 70) 原絵津子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 小泉岐博¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 抗 EGFR 抗体効果予測における血清 KRAS 検査の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 71) 関口久美子¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学北総病院 外科): 高齢の巨大食道裂孔ヘルニア患者に対する腹腔鏡下逆流防止術の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 72) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉田 寛³⁾, 谷合信彦²⁾, 山岸征嗣¹⁾, 村木 輝¹⁾, 星野有哉¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 肝門部領域癌に対する術後ドレナージの工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 73) 原田潤一郎¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 上田純志¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 当科における腹腔鏡操作時の簡易的経胆嚢管的ドレナージチューブ (C-チューブ) 留置の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 74) 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 当科における SSI 対策. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 75) 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 坂田義則¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 松谷 毅²⁾, 内田英二²⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 腹臥位胸腔鏡下食道癌手術 (VATS-E) とストリップング (反転) による左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 76) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永

- 山病院 外科)：当科における安全な鏡視下肝切除術の適応拡大に向けての工夫と取り組み (導入実践大学病院の立場から)。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 77) 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 有馬保生¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：超高齢者に対する積極的腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LAP-C), 特に早期・緊急 LAP-C の安全性に関する検討。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 78) 藤田逸郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 菅野仁士²⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行³⁾, 萩原信敏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 牧野浩司²⁾, 野村務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：安全性と郭清 quality・根治性の確保を意識した鏡視下幽門側胃切除術の定型化。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 79) 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃²⁾, 吉岡正人¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川野陽一¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術, 膵中央切除術における膵臓の切離と吻合操作の工夫。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 80) 前島顕太郎¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科)：切除不能・再発胃癌に対する S-1+CDDP 療法の有害事象対策と外来化学療法。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 81) 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 原 敬介¹⁾, 島田 隆²⁾, 渡邊 淳²⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学大学院分子遺伝学)：マイクロアレイを用いた大腸癌組織における経時的遺伝子発現変化の検討。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 82) 松田明久¹⁾, 松谷 毅²⁾, 横井公良¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松本智司¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学大学院分子遺伝学)：アポトーシス細胞に着目した肝虚血再灌流障害治療における新たな可能性。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 83) 高田英志¹⁾, 山本哲志²⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学大学第二病理)：肝細胞癌のホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックを用いたプロテオミクスによるバイオマーカーの探索。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 84) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 丸山 弘²⁾, 山下直行³⁾, 赤城一郎¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 宮下正夫⁴⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 坪井病院 外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：食道癌術後再建胃管癌の検討。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 85) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 萩原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 加藤俊二²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科)：上部限局胃癌 (U) に根治性のために胃全摘は必要か?：上部限局胃癌に対する No.4D,5,6 の郭清意義。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 86) 菅野仁士¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：絞扼性イレウスの早期補助診断指標についての検討。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 87) 原絵津子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：大腸癌に対する予防的抗菌薬の投与期間の縮小と機械的前処理の省略。日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.

- 88) 上田純志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 内藤善哉³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学病理部) : 胆道癌における術中病理迅速診断と画像診断および臨床病理学的因子の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 89) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 90) 野村 務¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤倉輝道²⁾, 新田 隆³⁾, 宮下正夫⁴⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学教育推進室, 3) 日本医科大学 心臓血管外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 医学生自由参加型教育システムにおける内視鏡外科 Virtual reality simulator トレーニングの有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 91) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 松田明久³⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : T4 局所進行食道癌に対する治療戦略: 腹腔補助下食道バイパス手術の位置付け. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 92) 堀場光二¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横井公良¹⁾, 野村 務²⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 食道扁平上皮癌における CD147/MCT-1 共存発現および CD44 発現の臨床病理学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 93) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 鈴木英之³⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 局所進行直腸が癌に対する術前化学放射線療法の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 94) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 臍消化管吻合術後の臍液瘻に対する洗浄ドレーンの有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 95) 神田知洋¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 高田英志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : アルコール性肝硬変に対する TIPS 施行後に生じた肝細胞癌に対し腹腔鏡下肝部分切除を施行した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知), 2013. 11.
- 96) 三神 晃¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 上行結腸に浸潤を認めた虫垂癌の 1 切除例. 外科集談会 (第 830 回) (東京), 2013. 9.
- 97) 岩本美樹¹⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 乳腺外科) : 線維腺腫に隣接して発症した対側乳癌の 1 例. 外科集談会 (第 830 回) (東京), 2013. 9.
- 98) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 松田明久¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 丸山弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 進行食道癌に対する Docetaxl/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法後の治療戦略. 日本消化器病学会大会 (第 55 回) (東京), 2013. 10.
- 99) 赤間悠一¹⁾, 川野陽一¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾, 吉田 寛²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 破裂巨大肝嚢胞に対し, 腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術を施行した 1 例. 日本消化器病学

会関東支部例会（326回）（東京），2013. 9.

- 100) 宮坂俊光¹⁾，吉田 寛¹⁾，牧野浩司¹⁾，丸山 弘¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，内田英二³⁾，渡辺 学²⁾，内田英一²⁾
(¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科，²⁾ 内田病院，³⁾ 日本医科大学消化器外科)：保存的加療で軽快した胆石イレウスの1例. 日本消化器病学会関東支部例会（326回）（東京），2013. 9.
- 101) 萩原信敏¹⁾，松谷 毅¹⁾，中澤 賢²⁾，小野澤志郎²⁾，野村 務¹⁾，上田康二¹⁾，加藤俊二¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，小野寺浩之¹⁾，内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学 放射線科)：経皮的胃管ガイドワイヤー挿入にて食道ステント留置可能となった1例. 日本消化器内視鏡学会総会（86回）（東京），2013. 10.
- 102) 松谷 毅¹⁾，野村 務¹⁾，萩原信敏¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，松田明久¹⁾，若林秀幸¹⁾，篠塚恵理子¹⁾，丸山弘²⁾，牧野浩司²⁾，高尾嘉宗²⁾，内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科)：進行食道癌に対する化学放射線治療後の遺残および再発病変に対するアルゴンプラズマ凝固療法. 日本消化器内視鏡学会総会（86回）（東京），2013. 10.
- 103) 萩原信敏¹⁾，松谷 毅¹⁾，野村 務¹⁾，若林秀幸¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，小野寺浩之¹⁾，内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：食道癌手術における安全性向上のための腹腔鏡補助下胃管作製・再建・吻合の工夫. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 104) 松谷 毅¹⁾，萩原信敏¹⁾，野村 務¹⁾，若林秀幸¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，丸山 弘²⁾，牧野浩司²⁾，宮下正夫³⁾，内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科，³⁾ 日本医科大学北総病院 外科)：腹臥位胸腔鏡下食道切除術，腹腔鏡補助下胃管作製術および再建術の定型化. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 105) 栗田智子¹⁾，飯田信也¹⁾，山下浩二¹⁾，柳原恵子¹⁾，岩本美樹¹⁾，山本陽一朗²⁾，土屋眞一²⁾，内田英二³⁾，武井寛幸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 乳腺外科，²⁾ 日本医科大学付属病院病理部，³⁾ 日本医科大学 消化器外科)：当院における術中断端迅速診断の検討. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 106) 進士誠一¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司²⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，柿沼大輔¹⁾，山岸杏彌¹⁾，原 敬介¹⁾，内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学北総病院 外科)：腹腔鏡下左側大腸切除における左結腸動脈温存 D3 郭清の工夫. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 107) 向後英樹¹⁾，水口義昭¹⁾，鶴田宏之²⁾，松本智司²⁾，横室茂樹²⁾，宮下正夫²⁾，内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学北総病院 外科)：若年女性の巨大な腹腔内嚢胞性リンパ管腫に対し，単孔式腹腔鏡補助下腫瘍摘出術を施行した1例. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 108) 岩本美樹¹⁾，武井寛幸¹⁾，山田岳史²⁾，栗山 翔²⁾，内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学乳腺外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科)：オキシコドン注射剤による Rapid Titration：投与量の評価と換算比率についての検討. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 109) 栗山 翔¹⁾，山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，原 敬介¹⁾，内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：結腸癌術後血栓症予防における Enoxaparin の安全性評価. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 110) 岩井拓磨¹⁾，山下直行¹⁾，川本聖郎¹⁾，湖山信篤¹⁾，内田英二²⁾ (¹⁾ 坪井病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科)：左側胆嚢に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術施行した症例. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 111) 杉田久記¹⁾，水口義昭¹⁾，内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科)：術前に診断し腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した左側胆嚢の1例. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 112) 住吉宏樹¹⁾，中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，清水哲也¹⁾，川野陽一¹⁾，水口義昭¹⁾，吉岡正人¹⁾，谷合信彦¹⁾，内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下インスリノーマ手術における選択的動脈内 Ca 注入法と術中末梢動脈血インスリン値モニタリングの有用性. 日本臨床外科学会総会（第75回）（愛知），2013. 11.
- 113) 菊池友太¹⁾，櫻澤信行¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，松田明久¹⁾，勝野 暁¹⁾，

- 山初和也¹⁾、高橋吾郎¹⁾、下田明宏¹⁾、原絵津子¹⁾、宮下正夫¹⁾、内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科、2) 日本医科大学消化器外科)：SMT 様浸潤形式を呈した胃粘膜癌に対し腹腔鏡補助下胃切除術を施行した 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)、2013. 11.
- 114) 村木 輝¹⁾、鈴木英之¹⁾、渡辺昌則¹⁾、吉野雅則¹⁾、水谷 聡¹⁾、松信哲朗¹⁾、三浦克洋¹⁾、山岸征嗣¹⁾、中田亮輔¹⁾、山際 亮¹⁾、内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター、2) 日本医科大学消化器外科)：直腸癌同時性多発肝転移術後の乳糜腹水にオクトレオチドが著効した 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)、2013. 11.
- 115) 山初和也¹⁾、横室茂樹¹⁾、飯田信也¹⁾、瀬谷知子¹⁾、堀場光二¹⁾、松本智司¹⁾、鶴田宏之¹⁾、櫻澤信行¹⁾、松田明久¹⁾、勝野 暁¹⁾、高橋吾郎¹⁾、下田朋宏¹⁾、原絵津子¹⁾、宮下正夫¹⁾、内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科、2) 日本医科大学消化器外科)：術前に診断し腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した左側胆嚢の 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)、2013. 11.
- 116) 上田康二¹⁾、金沢義一¹⁾、藤田逸郎¹⁾、小野寺浩之¹⁾、菅野仁士¹⁾、野村 務¹⁾、松谷 毅¹⁾、萩原信敏¹⁾、保田智彦²⁾、山下直行²⁾、木山輝郎¹⁾、加藤俊二¹⁾、内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科、2) 坪井病院)：当科における残胃癌の検討。日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)、2013. 11.
- 117) 高田英志¹⁾、吉田 寛²⁾、真々田裕宏¹⁾、谷合信彦¹⁾、平方敦史²⁾、水口義昭¹⁾、渡辺 学³⁾、内田英一³⁾、内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科、2) 日本医科大学多摩永山病院外科、3) 内田病院)：保存的加療にて改善の得られた胆石イレウスの 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)、2013. 11.
- 118) 上田純志¹⁾、吉田 寛²⁾、真々田裕宏¹⁾、谷合信彦¹⁾、吉岡正人¹⁾、川野陽一¹⁾、水口義昭¹⁾、清水哲也¹⁾、神田知洋¹⁾、高田英志¹⁾、内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科、2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：肝腫瘍に対する術中病理迅速診断の意義。日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)、2013. 11.
- 119) 若林秀幸¹⁾、松谷 毅¹⁾、野村 務¹⁾、萩原信敏¹⁾、篠塚恵理子¹⁾、栗山 翔¹⁾、藤田逸郎¹⁾、金沢義一¹⁾、内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：右外側鼠径窩への転移を認めた胸部下部食道扁平癌の 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)、2013. 11.
- 120) 岩本美樹¹⁾、武井寛幸¹⁾、栗田智子¹⁾、柳原恵子¹⁾、飯田信也¹⁾、山下直行¹⁾、内田英二²⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科、2) 日本医科大学消化器外科)：Bevacizumab と Paclitaxel の併用療法で長期奏功を得た進行乳癌症例。日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)、2013. 11.
- 121) 大草幹大¹⁾、進士誠一¹⁾、菅 隼人¹⁾、山田岳史¹⁾、小泉岐博¹⁾、山岸杏彌¹⁾、原 敬介¹⁾、原田潤一郎¹⁾、関口久美子¹⁾、内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：腹壁膿瘍を伴った Spigel ヘルニアの 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)、2013. 11.
- 122) 松谷 毅¹⁾、萩原信敏¹⁾、野村 務¹⁾、若林秀幸¹⁾、藤田逸郎¹⁾、金沢義一¹⁾、高尾嘉宗¹⁾、丸山 弘²⁾、牧野浩司²⁾、内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科、2) 日本医科大学多摩永山病院 外科)：胸腔鏡補助下食道バイパス手術：Y 字胃管と CV ポートを利用した食道外瘻術。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡)、2013. 11.
- 123) 萩原信敏¹⁾、野村 務¹⁾、松谷 毅¹⁾、若林秀幸¹⁾、篠塚恵理子¹⁾、藤田逸郎¹⁾、金沢義一¹⁾、小野寺浩之¹⁾、山下直行²⁾、上田康二²⁾、保田智彦²⁾、湖山信篤²⁾、内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科、2) 坪井病院 外科)：腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術における安全性・確実性向上のための工夫。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡)、2013. 11.
- 124) 牧野浩司¹⁾、吉田 寛¹⁾、丸山 弘¹⁾、横山 正¹⁾、平方敦史¹⁾、堀田正啓¹⁾、関 奈紀¹⁾、岩井拓磨¹⁾、近藤亮太¹⁾、小泉里奈¹⁾、篠塚恵理子¹⁾、宮下哲平¹⁾、宮坂俊光¹⁾、内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科、2) 日本医科大学 消化器外科)：腹臥位 VATS-E で中下縦隔郭清での胸膜前方切開先行と No.106 recL 郭清での stripping で左上縦隔展開の有用性。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡)、2013. 11.
- 125) 吉野雅則¹⁾、鈴木英之¹⁾、松信哲朗¹⁾、大山莉奈¹⁾、清水貴夫¹⁾、村木 輝¹⁾、中田亮輔¹⁾、水谷 聡¹⁾、坊 英

- 樹¹、渡辺昌則¹、松本智司²、内田英二³ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター、² 日本医科大学千葉北総病院 外科、³ 日本医科大学 消化器外科)：当科における腹腔鏡下側方リンパ節郭清：簡便化と定型化を目指して。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 126) 村木 輝¹、鈴木英之¹、松信哲朗¹、渡辺昌則¹、吉野雅則¹、水谷 聡¹、千原直人¹、前島顕太郎¹、野村聡¹、山岸征嗣¹、中田亮輔¹、大山莉奈¹、清水貴夫¹、山際 亮¹、内田英二² (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター、² 日本医科大学 消化器外科)：術者の技量、経済性に配慮した腹腔鏡下虫垂切除術 (LA) の工夫。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 127) 藤田逸郎¹、金沢義一¹、小野寺浩之¹、菅野仁士¹、萩原信敏¹、櫻澤信行²、松谷 毅¹、牧野浩司³、山下直行⁴、木山輝郎⁵、野村 務¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科、² 日本医科大学千葉北総病院 外科、³ 日本医科大学多摩永山病院 外科、⁴ 坪井病院 外科、⁵ 東大宮総合病院 外科)：当科における鏡視下幽門側胃切除後 Billroth II 再建の工夫。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 128) 川野陽一¹、谷合信彦¹、中村慶春¹、吉岡正人¹、松下 晃¹、水口義昭¹、清水哲也¹、神田知洋¹、上田純志¹、高田英志¹、住吉宏樹¹、吉田 寛²、内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科、² 日本医科大学多摩永山病院 外科)：当科 Original な器具を使用しての鏡視下肝切除術での手術法の工夫。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 129) 金沢義一¹、藤田逸郎¹、木山輝郎¹、小野寺浩之¹、菅野仁士¹、萩原信敏¹、松谷 毅¹、野村 務¹、牧野浩司²、加藤俊二¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科、² 日本医科大学多摩永山病院 外科)：腹腔鏡下幽門側胃切除における D2 郭清：#8a~#11p 郭清を中心に。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 130) 松本智司¹、菅 隼人²、山田岳史²、櫻澤信行¹、小泉岐博²、松田明久¹、進士誠一¹、高橋吾郎¹、宮下正夫¹、内田英二² (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科、² 日本医科大学 消化器外科)：左側進行結腸癌に対する鏡視下 D3 郭清と剥離・吻合。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 131) 木山輝郎¹、藤田逸郎²、内田英二²、梅本 淳¹、金 達浩¹、菊川利奈¹、大槻 将¹、小島成浩¹、坂本嗣郎¹ (1) 東大宮総合病院 外科、² 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡補助下胃切除後再建法の標準化。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 132) 鈴木英之¹、渡辺昌則¹、吉野雅則¹、水谷 聡¹、千原直人¹、松信哲朗¹、埴 秀暁¹、野村 聡¹、山岸征嗣¹、村木 輝¹、中田亮輔¹、清水貴夫¹、大山莉奈¹、山際 亮¹、内田英二² (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター、² 日本医科大学 消化器外科)：若手外科医の腹腔鏡手術教育の現状と問題点。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 133) 千原直人¹、鈴木英之¹、渡辺昌則¹、星野有哉¹、野村 聡¹、中田亮輔¹、内田英二² (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター、² 日本医科大学 消化器外科)：当科における単孔式 TAPP plus one puncture (POP-TAPP) の手技と位置づけ。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 134) 谷合信彦¹、吉田 寛²、吉岡正人¹、川野陽一¹、清水哲也¹、上田純志¹、高田英志¹、水口義昭¹、中村慶春¹、真々田裕宏¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科、² 日本医科大学多摩永山病院 外科)：鏡視下肝切除発展途上施設における鏡視下肝切除の位置づけ。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 135) 水口義昭¹、真々田裕宏¹、中村慶春¹、清水哲也¹、谷合信彦¹、吉岡正人¹、松下 晃¹、川野陽一¹、神田知洋¹、上田純志¹、高田英志¹、住吉宏樹¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科)：総胆管結石に対する腹腔鏡下総胆管切開切石術 (L-CBD) 連続縫合による一期的閉鎖 (一期的連続縫合) の検討。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 136) 小野寺浩之¹、藤田逸郎¹、木山輝郎¹、金沢義一¹、菅野仁士¹、加藤俊二¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科)：胃癌肥満手術症例における腹腔鏡下胃切除術 (LAG)：視野展開・郭清の工夫。日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.

- 137) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 横村茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 菊池友太¹⁾, 原絵津子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 直腸腫瘍に対する単孔式経肛門的内視鏡的腫瘍切除術 (TANKO-TEM) の経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 138) 高尾嘉宗¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 吉田 寛²⁾, 山本一仁³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 北村山公立病院 外科): 残胃癌に対する腹腔鏡下残胃全摘術の経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 139) 栗山 翔¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 水口義昭¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 教育施設で行う小児ハイブリッド単孔式腹腔鏡下虫垂切除術. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 140) 菅野仁士¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 噴門近傍胃粘膜下腫瘍に対する鏡視下胃部分切除. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 141) 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 当科における総胆管結石症に対する総胆管十二指腸吻合術と術式の変遷. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回) (東京), 2013. 11.
- 142) 野村 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 千原直人¹⁾, 村木 輝¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 審査腹腔鏡が診断に有用であった被囊膜硬化症の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 143) 岩井拓磨¹⁾, 山下直行¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院, 2) 坪井病院 外科): 左側胆嚢に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術施行した症例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 144) 星野有哉¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 中村慶春³⁾, 水谷 聡¹⁾, 南 史朗²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌内科, 3) 日本医科大学 消化器外科): 副腎腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘出術の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 145) 松本智司¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松田明久¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 菊池友太¹⁾, 原絵津子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 左側進行結腸癌に対する鏡視下 D3 郭清と剥離・吻合. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 146) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 松田明久²⁾, 鈴木英之³⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 大腸が癌に対する根治的腹腔鏡補助下切除後に非典型的な再発形式を呈した症例の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 147) 若林秀幸¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 胸腔鏡下縦隔脂肪腫摘出術と腹腔鏡下胃 GIST 摘出術を同時に施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 148) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下膝切除術におけるリンパ節郭清と脈管処理の手術手技について. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 149) 住吉宏樹¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下脛体尾部切除術を施行した脛内副脾に生じた epidermoid cyst の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 150) 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下脾臓・脾動静脈温存脛体尾部切除術

- におけるポイント. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 151) 原田潤一郎¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 中村慶春¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 山本一仁²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 北村山公立病院): 腹腔鏡下胆管切開切石術における簡易的経胆嚢管的ドレナージチューブ (C チューブ) 留置の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 152) 堀田正啓¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 小泉里奈¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 救急救命センターにおける MRSA の積極的監視培養. 日本外科感染症学会総会 (第 26 回) (兵庫), 2013. 11.
- 153) 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 小泉里奈¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 多剤耐性菌に対する感染制御. 日本外科感染症学会総会 (第 26 回) (兵庫), 2013. 11.
- 154) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松谷 毅²⁾, 横山茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸²⁾, Ping W³⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) ファインスタイン医学研究所): 生体侵襲後の臓器障害における MFG-E8 の役割とその治療応用. 日本外科感染症学会総会 (第 26 回) (兵庫), 2013. 11.
- 155) 渡辺昌則¹⁾, 野村 聡¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 前島颯太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 「結腸・直腸手術の SSI における NNIS Risk Index の性能評価」. 日本外科感染症学会総会 (第 26 回) (兵庫), 2013. 11.
- 156) 小泉里奈¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 「腹腔鏡補助下大腸切除術における SSI の検討」. 日本外科感染症学会総会 (第 26 回) (兵庫), 2013. 11.
- 157) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 金沢義一¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 松田明久²⁾, 佐々木順平²⁾, 鈴木英之³⁾, 吉岡将史³⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 局所進行直腸癌に対する術前化学放射線療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 158) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 脾弯曲部大腸癌に対する術前 3D-CT の必要性和腹腔鏡下手術. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 159) 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 原 敬介¹⁾, 原絵津子²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): FOLFIRI3 の実験的検証. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 160) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 村木 輝¹⁾, 菅 隼人²⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 進行再発大腸癌に対する XELOX 療法の評価. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 161) 原絵津子¹⁾, 山田岳史²⁾, 菅 隼人²⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博²⁾, 進士誠一²⁾, 谷 杏彌²⁾, 原 敬介²⁾, 高橋吾郎¹⁾, 金沢義一²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): Liquid biopsy を用いた EGFR inhibitor re-challenge 療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 162) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 瀬谷岳史¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 大腸癌肝転移切除における肝流入血流遮断法の功罪 (長期予後に関して): メタ解析による検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.

- 163) 松本智司¹⁾, 菅 隼人²⁾, 鶴田宏之¹⁾, 山田岳史²⁾, 小泉岐博²⁾, 松田明久¹⁾, 進士誠一²⁾, 佐々木順平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 脾胃曲部進行結腸癌に対する腹腔鏡下D3郭清. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第68回) (東京), 2013. 11.
- 164) 原 敬介¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 潰瘍性大腸炎治療中に腸重積を繰り返した1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第68回) (東京), 2013. 11.
- 165) 大山莉奈¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 星野有哉¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 聡²⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾, その他1名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 肛門部 Bowen 癌の1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第68回) (東京), 2013. 11.
- 166) 山際 亮¹⁾, 松信哲郎¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 千原直人¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 野村聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾, その他1名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): Paget Spread を呈した肛門管癌の3切除例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第68回) (東京), 2013. 11.
- 167) 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): Gastrointestinal stromal tumor を合併した空腸憩室に対し単孔式腹腔鏡補助下切除を施行した1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第68回) (東京), 2013. 11.
- 168) 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 当科における腹腔鏡下脾臓・脾動脈温存脾体尾部切除術. 脾臓内視鏡外科研究会 (第5回) (福岡), 2013. 11.
- 169) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下脾切除術における術中出血への対処法. 脾臓内視鏡外科研究会 (第5回) (福岡), 2013. 11.
- 170) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松谷 毅²⁾, 松本智司¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): visfatin 阻害剤 (FK866) による腸間虚血再灌流障害後の急性肺障害抑制効果. 外科侵襲とサイトカイン研究会 (第20回) (群馬), 2013. 12.
- 171) 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 高齢者に対する腹腔鏡下逆流防止術の検討. 日本消化器外科学会大会 (第11回) (東京), 2013. 10.
- 172) Matsushita A¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Aimoto T¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Matsuda Y²⁾, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Neoadjuvant chemotherapy with gemcitabine and S1 in patients with resectable and borderline resectable pancreatic cancer-A pilot study. Joint Meeting of the International Association of Pancreatology & the Korean Pancreatobiliary Association 2013 (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 173) Yamahatsu K¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Aimoto T¹⁾, Matsushita A¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Laparoscopic surgery for pancreatic insulinomas. Joint Meeting of the International Association of Pancreatology & the Korean Pancreatobiliary Association 2013 (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 174) Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Tajiri T¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Laparoscopic Pancreaticoduodenectomy. International Postgraduate Course of Laparoscopic Surgery (8th) (Seoul, Korea), 2013. 6.

- 175) 高田英志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 神田知洋¹⁾, 上田純志¹⁾, 内藤善哉³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学統御機構病理学): 肝細胞癌と細胆管細胞癌成分を伴った肝内胆管癌の同時性重複癌の1切除例. 千駄木肝カンファレンス (第63回) (東京), 2013. 12.
- 176) 栗山 翔¹⁾, 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 再生不良性貧血を合併した下部胆管癌に睪頭十二指腸切除を施行した1例. 外科集談会 (第831回) (東京), 2013. 12.
- 177) 若林大雅¹⁾, 金子恵子¹⁾, 橋本知実¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 松下洋子¹⁾, 福田 健¹⁾, 川本智章¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 汲田伸一郎²⁾, 高田英志³⁾, 上田純志³⁾, 清水哲也³⁾, 吉岡正人³⁾, 谷合信彦³⁾, 内田英二³⁾, その他6名 (1) 日本医科大学 消化器・肝臓内科, 2) 日本医科大学 放射線科, 3) 日本医科大学 消化器外科): 脾膿瘍を契機に発見された睪尾部癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第327回) (東京), 2013. 12.
- 178) 吉田祐士¹⁾, 進士誠一²⁾, 菅 隼人²⁾, 山田岳史²⁾, 小泉岐博²⁾, 高田英志²⁾, 山岸杏彌²⁾, 原 敬介²⁾, 吉岡将史²⁾, 内田英二²⁾, その他6名 (1) 日本医科大学付属病院, 2) 日本医科大学 消化器外科): 盲腸癌による成人腸重積症の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第327回) (東京), 2013. 12.
- 179) 眞鍋恵理子¹⁾, 柳原恵子²⁾, 岩本美樹²⁾, 栗田智子²⁾, 谷 瞳³⁾, 村上隆介³⁾, 飯田信也²⁾, 山下浩二²⁾, 大橋隆治⁴⁾, 土屋真一⁴⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 乳腺科, 3) 日本医科大学 放射線科, 4) 日本医科大学 病理部): 細胞診では診断に至らなかったアポクリンへの文化を伴う乳癌の1例. 日本乳癌学会関東地方会 (第10回) (埼玉), 2013. 12.
- 180) Tani ai N¹⁾, Yoshida H²⁾, Kawano Y¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital): Case report of Flt3-ITD positive AML 11 years post living donor liver transplantation. Congress of the Asian Society of Transplantation (13) (Kyoto Japan), 2013. 9.
- 181) Kawano Y^{1, 2)}, Mizuta K²⁾, Tani ai N¹⁾, Sanada Y²⁾, Urahashi T²⁾, Ihara Y²⁾, Okada N²⁾, Yamada N²⁾, Sasanuma H³⁾, Sakuma Y³⁾, Yasuda Y³⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastroenterological and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Transplant Surgery, Jichi Medical University, 3) Department of Surgery, Jichi Medical University): Risk factors of cytomegalovirus infection after pediatric living donor liver transplantation. Congress of the Asian Society of Transplantation (13) (Kyoto Japan), 2013. 9.
- 182) Kawano Y^{1, 2)}, Mizuta K²⁾, Tani ai N¹⁾, Sanada Y²⁾, Urahashi T²⁾, Ihara Y²⁾, Okada N²⁾, Yamada N²⁾, Sasanuma H³⁾, Sakuma Y³⁾, Yasuda Y³⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastroenterological and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Transplant Surgery, Jichi Medical University, 3) Department of Surgery, Jichi Medical University): Fluctuation of Spleen Volume Long after Pediatric Living Donor Liver Transplantation for Biliary Atresia. Congress of the Asian Society of Transplantation (13) (Kyoto Japan), 2013. 9.
- 183) 赤間悠一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 眞鍋恵理子¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 術前診断に難渋した漿膜下海綿状血管腫の1例. 外科集談会 (第832回) (東京), 2014. 3.
- 184) 進士誠一^{1, 2)}, 松田陽子²⁾, 石渡俊行²⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 吉村久志²⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学大学院病理学 (統御機構・腫瘍学): 大腸神経内分泌癌におけるがん幹細胞マーカー. 大腸癌研究会 (第80回) (東京), 2014. 1.
- 185) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 神田知洋¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 鏡視下肝切

- 除術の安全性と確実性の向上を目的とした当科での様々な工夫. 肝臓内視鏡外科研究会 (第7回) (愛知), 2013. 11.
- 186) 栗山 翔¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 悪性を否定できず腹腔鏡下臍中央切除術を施行した臍体部臍内副脾の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第328回) (東京), 2014. 2.
- 187) 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 当科における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の工夫医療用スポンジスペイサーの使用. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 188) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 山下直行²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 坪井病院外科): 上部消化管術後合併症の診断と治療の工夫. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 189) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 当院での閉塞性大腸癌に対する治療の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 190) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 飯田信也¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 菊池友太¹⁾, 内田英二²⁾, その他2名 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 安全な腹腔鏡下手術を目指したBTSとしての大腸癌ステントの有用性. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 191) 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 一期的, C-tube ドレナージ法を含めた当科における良性急性胆管炎治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 192) 関口久美子¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 進士誠一¹⁾, 眞鍋恵理子¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 後縦隔経路再建の食道癌術後に発症した食道裂孔ヘルニアの2例. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 193) 岩井拓磨¹⁾, 平方敦史¹⁾, 宮坂俊光¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学付属病院多摩永山病院, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 桃の種子による食餌性イレウス. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 194) 栗山 翔¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 水口義昭¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): Hybrid 単孔式腹腔鏡下虫垂切除術: 腹腔外への虫垂の誘導法に関する検討. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 195) 眞鍋恵理子¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 胸部食道癌術後に生じた難治性乳糜胸の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 196) 若林秀幸¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 眞鍋恵理子¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 膠原病合併胸部食道癌手術後に重症低Na血症をきたした1例. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 197) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下臍切除術の普及・承継・標準化に向けた取り組み. Winter Seminar 2014 (第20回) (北海道), 2014. 3.
- 198) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下臍切除の普及・標準化に向けた取り組み. Gastrointestinal Cancer Meeting in Gunma 2014 (群馬), 2014. 2.
- 199) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下臍切除術の標準化に向けた取り組みについて. 消化器外科手術手技フォーラム (第17回) (徳島), 2014. 2.
- 200) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 技術認定医の取得: 安全・確実なLDPとLPD. 肝胆膵内視鏡下手術

勉強会（第9回）（東京），2014. 2.

- 201) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下膝切除術の標準化に向けた取り組みについて (15回)．Kobe Endoscopic High Technology Conference (KEHTC) (兵庫)，2014. 3.
- 202) 松田陽子¹⁾，吉村久志¹⁾，松下 晃²⁾，渡會泰彦³⁾，住吉宏樹²⁾，中村慶春²⁾，内田英二²⁾，大橋隆治³⁾，内藤善哉¹⁾，石渡俊行¹⁾ (1) 日本医科大学 病理学，²⁾ 日本医科大学 消化器外科，³⁾ 日本医科大学付属病理部)：脾臓術前科学療法の病理組織学的評価に関する検討．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 203) 上田純志¹⁾，吉田 寛²⁾，真々田裕宏¹⁾，谷合信彦¹⁾，吉岡正人¹⁾，川野陽一¹⁾，水口義昭¹⁾，清水哲也¹⁾，神田知洋¹⁾，高田英志¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術の病理学的効果判定と臨床病理学的因子の検討．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 204) 栗田智子¹⁾，武井寛幸²⁾，飯田信也¹⁾，山下浩二¹⁾，柳原恵子¹⁾，岩本美樹¹⁾，眞鍋恵理子¹⁾，山本陽一朗²⁾，土屋眞一²⁾，内田英二³⁾ (1) 日本医科大学 乳腺外科，²⁾ 日本医科大学付属病院 病理部，³⁾ 日本医科大学 消化器外科)：術前ホルモン療法を施行した乳癌の4症例の検討．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 205) 中田亮輔¹⁾，水谷 聡¹⁾，鈴木英之¹⁾，山岸征嗣¹⁾，村木 輝¹⁾，星野有哉¹⁾，渡辺昌則¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター，²⁾ 日本医科大学 消化器外科)：術前診断に難渋したIgG4関連硬化性胆管炎の1例．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 206) 萩原信敏¹⁾，松谷 毅¹⁾，野村 務¹⁾，若林秀幸¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，小野寺浩之¹⁾，相田順子²⁾，田久保海誉²⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所 老年病理学研究チーム)：Granulocyte-colony stimulating factor (G-CSF) 産生食道扁平上皮癌の1例．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 207) 若林秀幸¹⁾，松谷 毅¹⁾，野村 務¹⁾，萩原信敏¹⁾，篠塚恵理子¹⁾，青木悠人¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，田久保海誉²⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所 老年病理学研究チーム)：透析患者に発生した食道粘表皮癌と胃腺癌の同時性重複癌の1例．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 208) 高田英志¹⁾，谷合信彦¹⁾，真々田裕宏¹⁾，吉岡正人¹⁾，川野陽一¹⁾，水口義昭¹⁾，清水哲也¹⁾，上田純志¹⁾，吉田寛³⁾，内藤善哉²⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学病理学，³⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院 外科)：肝細胞癌と胆管細胞癌の同時性重複癌の1切除例．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 209) 近藤亮太¹⁾，牧野浩司¹⁾，吉田 寛¹⁾，平方敦史¹⁾，篠塚恵理子¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，関 奈紀¹⁾，堀田正啓¹⁾，岩井拓磨¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科，²⁾ 日本医科大学 消化器外科)：肝細胞癌と転移性肝癌の鑑別が困難であったAFP (alpha-fetoprotein) 産生胃癌の1例．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 210) 山岸杏彌¹⁾，山田岳史¹⁾，松本智司²⁾，菅 隼人¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，松田明久²⁾，原 敬介¹⁾，原絵津子²⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：大腸癌抗体療法における遺伝子変異診断：solid biopsy から liquid biopsy へ．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 211) 原 敬介^{1,2)}，松本智司¹⁾，渡邊 淳^{2,3)}，松田陽子⁴⁾，菅 隼人¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，石渡俊行⁴⁾，島田 隆²⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学大学院分子遺伝医学，³⁾ 日本医科大学大学院付属病院ゲノム先端医療部，⁴⁾ 日本医科大学病理部 (統御機構・腫瘍学))：大腸癌検体を用いた異なる固体条件による遺伝子発言解析への影響．日本外科病理学会学術集会 (18回) (東京)，2013. 9.
- 212) 坊 英樹¹⁾，塙 秀暁¹⁾，前島顕太郎¹⁾，野村 聡¹⁾，渡辺昌則¹⁾，鈴木英之¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学 消化器外科)：進行・再発胃癌初回治療におけるCapecitabine

- + CDDP 療法 (XP) 分割投与の安全性試験. 日本胃癌学会総会 (86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 213) 山田岳史¹, 藤田逸郎¹, 金沢義一¹, 小野寺浩之¹, 栗山 翔¹, 加藤俊二¹, 内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 胃癌治療による骨格筋量の変化. 日本胃癌学会総会 (86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 214) 栗山 翔¹, 山田岳史¹, 藤田逸郎¹, 金沢義一¹, 小野寺浩之¹, 菅野仁士¹, 内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 胃癌終末期における GPS と骨格筋量に関する検討. 日本胃癌学会総会 (86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 215) 大山莉奈¹, 鈴木英之¹, 坊 英樹¹, 前島顕太郎¹, 塙 秀暁¹, 野村 聡¹, 渡辺昌則¹, 内田英二² (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 当科における胃 GIST 手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 216) 前島顕太郎¹, 坊 英樹¹, 塙 秀暁¹, 鈴木英之¹, 渡辺昌則¹, 吉野雅則¹, 水谷 聡¹, 松信哲朗¹, 野村聡¹, 大山莉奈¹, 内田英二² (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 切除不能進行再発胃癌に対する S-1+CDDP 療法の有害事象対策と外来科学療法. 日本胃癌学会総会 (86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 217) 岩井拓磨¹, 牧野浩司¹, 宮坂俊光¹, 関 奈紀¹, 平方敦史¹, 丸山 弘¹, 横山 正¹, 吉田 寛¹ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 腫瘍随伴手掌筋膜炎にて胃癌を早期に指摘・加療し得た症例. 日本胃癌学会総会 (86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 218) 木山輝郎^{1, 2}, 藤田逸郎², 菅野仁士², 小野寺浩之², 金沢義一², 加藤俊二², 内田英二 (1) 東大宮総合病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 胃癌に対する胃切除患者の予後におけるサルコペニアの影響. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 219) Matsushita A¹, Nakamura Y¹, Sumiyoshi H¹, Shimizu T¹, Kawano Y¹, Mizuguchi Y¹, Yoshioka M¹, Taniai N¹, Uchida E¹ (1) Nippon Medical School) : Laparoscopic pancreatectomy for pancreatic cancer. IHPBA World Congress 2014 (韓国 (Seoul)), 2014. 3.
- 220) Ueda J¹, Yoshida H¹, Mamada Y¹, Taniai N¹, Yoshioka M¹, Kawano Y¹, Shimizu T¹, Kakinuma D¹, Takata H¹, Uchida E¹ (1) Nippon Medical School) : Evaluation of positive ductal margins of cholangiocarcinoma in intraoperative histological examination. IHPBA World Congress 2014 (韓国 (Seoul)), 2014. 3.
- 221) Shimizu T¹, Nakamura Y¹, Yoshioka M¹, Matsushita A¹, Mizuguchi Y¹, Matsumoto S¹, Uchida E¹ (1) Nippon Medical School) : Laparoscopic excision of choledochal cyst. IHPBA World Congress 2014 (韓国 (Seoul)), 2014. 3.
- 222) Taniai N¹, Yoshida H¹, Ueda J¹, Takata H¹, Uchida E¹ (1) Nippon Medical School) : The good idea for indication for safety laparoscopic liver resection. IHPBA World Congress 2014 (韓国 (Seoul)), 2014. 3.
- 223) Takata H¹, Mamada Y¹, Taniai N¹, Yoshioka M¹, Kawano Y¹, Shimizu T¹, Ueda J¹, Uchida E¹ (1) Nippon Medical School) : A case of hepatic biloma after laparoscopic partial hepatic resection for carcinoma using microwave pre-coagulation technique. IHPBA World Congress 2014 (韓国 (Seoul)), 2014. 3.
- 224) Ko K¹, Yoshida H¹, Ueda J¹, Mamada Y¹, Taniai N¹, Yoshioka M¹, Matsushita A¹, Yasuda T¹, Uchida E¹ (1) Nippon Medical School) : Surgical resection of hepatic cystic echinococcosis impaired by pre-operative diagnosis : report of a case. IHPBA World Congress 2014 (韓国 (Seoul)), 2014. 3.
- 225) 菅野仁士¹, 藤田逸郎¹, 金沢義一¹, 小野寺浩之¹, 萩原信敏¹, 木山輝郎¹, 加藤俊二¹, 内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 心機能・呼吸機能障害を有する胃癌患者に対する腹腔鏡下胃切除術の検討. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 226) 若林秀幸¹, 松谷 毅¹, 藤田逸郎¹, 金沢義一¹, 萩原信敏¹, 野村 務¹, 小野寺浩之¹, 平方敦史², 高尾嘉宗², 加藤俊二¹, 内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 胃癌手術後脳転移の 1 例. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (神奈川), 2014. 3.

- 227) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 山下直行²⁾, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 坪井病院 外科): 高度進行胃腹膜播種症例に対する治療の検討: minimal peritoneal metastasis, CY1PO において. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 228) 松谷 毅¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 牧野浩司²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 高齢者胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除術のリスク評価. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 229) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 眞鍋恵理子¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 超音波内視鏡下ドレナージ術にて炎症制御後に外科治療を行った巨大胃粘膜下腫瘍の 1 例. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 230) 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 山下直行²⁾, 牧野浩司¹⁾, 野村 務¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 坪井病院 外科): 長期成績からみた腹腔鏡下胃切除適応拡大の可能性. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (神奈川), 2014. 3.
- 231) 中村慶春¹⁾, 松本智司²⁾, 水口義昭¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹腔鏡下膵切除術における Reduced Port Surgery の発展性についての考察. 単孔式内視鏡手術研究会 (第 7 回) (岩手), 2013. 8.
- 232) 丸木雄太¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 名児耶浩幸¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 植木信江¹⁾, 小林 剛¹⁾, 山田岳史²⁾, 進士誠一²⁾, 原口篤志¹⁾, 小泉岐博²⁾, 菅 隼人²⁾, 二神生爾¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科, 2) 日本医科大学消化器外科): 再発例を除く進行切除不能大腸癌の治療成績の検討. 日本消化器病学会大会 (55 回) (東京), 2013. 10.
- 233) 安藤文彦¹⁾, 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 絞扼性イレウス診断における enhanced-CT Strangulation Ileus Diagnostic score の有用性. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知), 2013. 11.
- (11) ビデオセミナー:
- 1) 清水哲也¹⁾, 中村慶春²⁾, 松下 晃²⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義明¹⁾, 住吉宏樹²⁾, 相本隆幸¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 当科における腹腔鏡下脾臓・脾動脈温存脾体尾部切除術の工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 25 回) (栃木), 2013. 6.
- (12) 一般演題:
- 1) 松田陽子¹⁾, 吉村久志¹⁾, 松下 晃²⁾, 渡會泰彦³⁾, 住吉宏樹²⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾, 大橋隆治³⁾, 内藤善哉¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (1) 日本医科大学 (統御機構・腫瘍学), 2) 日本医科大学消化器外科学, 3) 日本医科大学付属病院病理部): 手術検体および細胞診検体を用いた膵癌術前化学療法症例の検討. 膵癌術前治療研究会 (第 8 回) (東京), 2013. 10.
 - 2) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 張 一光¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 膵癌に対する腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) の手術手技. 膵癌術前治療研究会 (第 8 回) (東京), 2013. 10.
- (13) 口演:
- 1) 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科学): 膵臓 臨床試験. 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都), 2013. 10.
 - 2) 山田岳史¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): がん緩和ケアのオピオイドの新しい展開: オピオイド誘発悪心・嘔吐の予防. 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都), 2013. 10.
 - 3) 山田岳史¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 原絵津子¹⁾, 松田明

- 久¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科)：KRAS 変異解析における liquid biopsy の有用性. 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都)，2013. 10.
- 4) 金沢義一¹，藤田逸郎¹，小野寺浩之¹，保田智彦¹，加藤俊二¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学 付属病院外科)：高度進行胃がんにおける集学的治療の検討：術後化学療法の工夫. 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都)，2013. 10.
- 5) 山下浩二¹，五十嵐健人²，岡村律子²，軸菌智雄²，岩本美樹¹，栗田智子¹，柳原恵子¹，清水一雄²，武井寛幸¹ (1) 日本医科大学 乳腺外科，2) 日本医科大学 内分泌外科)：乳腺内視鏡手術による低侵襲と乳房皮膚知覚神経温存の検証. 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都)，2013. 10.
- 6) 谷合信彦¹，吉田 寛²，吉岡正人¹，川野陽一¹，清水哲也¹，上田純志¹，高田英志¹，真々田裕宏¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科，2) 日本医科大学多摩永山病院 外科)：肝臓に対する安全な安全な鏡視下肝切除術の適応拡大への工夫. 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都)，2013. 10.
- (14) 示説：
- 1) 栗田智子¹，武井寛幸¹，飯田信也¹，山下浩二¹，柳原恵子¹，岩本美樹¹，山本陽一朗²，土屋眞一²，内田英二³ (1) 日本医科大学付属病院 乳腺外科，2) 日本医科大学付属病院 病理部，3) 日本医科大学付属病院 消化器外科)：術前内分泌療法を施行した 3 症例の検討. 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都)，2013. 10.
- (15) 特別演題：
- 1) 清水哲也¹，中村慶春¹，松下 晃¹，吉岡正人¹，川野陽一¹，水口義昭¹，住吉宏樹¹，松本智司²，真々田裕宏¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科，2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：腹腔鏡下膵切除術におけるエネルギーデバイスの選択と工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (愛知)，2013. 11.
- (16) 要望演題：
- 1) 上田純志¹，吉田 寛²，真々田裕宏¹，谷合信彦¹，吉岡正人¹，川野陽一¹，水口義昭¹，清水哲也¹，神田知洋¹，高田英志¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科，2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：当科における難治性腹水に対する腹腔静脈シャントの治療成績. 日本門脈圧亢進症学会 (第 20 回) (愛知)，2013. 9.
- 2) 高田英志¹，真々田裕宏¹，谷合信彦¹，吉岡正人¹，川野陽一¹，水口義昭¹，清水哲也¹，柿沼大輔¹，神田知洋¹，上田純志¹，吉田 寛²，内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科，2) 日本医科大学多摩永山病院 外科)：B-RTO にて長期無再発の得られた肝外門脈閉塞症に伴う小児胃静脈瘤の 1 例. 日本門脈圧亢進症学会 (第 20 回) (愛知)，2013. 9.
- 3) 安藤文彦¹，山田岳史¹，青木悠人¹，菅 隼人¹，松本智司²，小泉岐博¹，進士誠一¹，山岸杏彌¹，原 敬介¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科，2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：Enhanced-CT Strangulation Ileus Diagnostic score を用いた絞扼性イレウスの鑑別. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京)，2014. 3.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Matsuda A¹，Kishi T²，Musso G²，Matsutani T³，Yokoi K¹，Wang P⁴，Uchida E³ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chba-Hokuso Hospital, 2) Division of Psychiatry Research, The Zucker Hill-side Hospital, 3) Department of Surgery, Nippon Medical School, 4) Department of Surgery, Hofstra North Shore-LIJ School of Medicine)：The Effect of Intraoperative Rectal Washout on Local Recurrence after Rectal Cancer Surgery : A Meta-Analysis. *Annals of Surgical Oncology* 2013 ; 20 (3) : 856-863.
- 2) 倉藤晶子¹，佐野紀代¹，中村慶春² (1) 日本医科大学附属病院中央手術室，2) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡手術看護徹底理解！ 指導 体位固定 機器 (ハードウェア) 第 3 回 (最終回) 腹腔鏡手術における外回り看護：体位や術中から術後に向けての看護の視点. *実践安全手術看護* 2013 ; 6 (6) : 103-110.

追加分症例報告：

- 1) 高尾嘉宗^{1,2)}, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松田明久¹⁾, 丸山 弘^{1,2)}, 吉田 寛^{1,2)}, 片山博徳³⁾, 丹野正隆³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院 病理部) : Siewert typeII 食道胃接合部腺癌に対し胸腔鏡下食道切除術を施行した1例. 日本医科大学医学雑誌 2013 ; 9 (3) : 160-163.
- 2) 馬越道信¹⁾, 松谷 毅²⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下手術後の再発性ポートサイトヘルニアに対して Composix mesh (E/X タイプ) を用いて腹腔鏡下修復術を施行した1例. 臨床外科 2013 ; 68 (3) : 367-370.
- 3) 埴 秀暁¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科) : たこ焼きによる食道熱傷の1例. Progress of Digestive Endoscopy 2012 ; 81 (2) : 76-77.
- 4) Nomura T¹⁾, Iwakiri K²⁾, Matsutani T¹⁾, Hgiwara N¹⁾, Makino H³⁾, Maruyama H³⁾, Fujita I¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Kawami N²⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Division of Digestive Surgery, Department of Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School) : Laparoscopic anti-reflux surgery to treat proton pump inhibitor-resistant non-erosive reflux disease. Esophagus 2013 ; 10 : 157-160.
- 5) 早川朋宏¹⁾, 松谷 毅²⁾, 平方敦史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下手術を施行した胃神経鞘腫の1例. 臨床外科 2013 ; 68 (1) : 100-104.

追加分特集：

- 1) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 高齢者における肝細胞癌切除術の意義. 消化器内科 2013 ; 56 (1) : 65-69.

著 書

追加分：

- 1) 川野陽一¹⁾, 吉田 寛¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : [分担] 第VII章 画像診断 4. 胆道鏡検査. 『肝臓専門医テキスト』(日本肝臓学会 編集), 2013 ; pp162-164, 南江堂.
- 2) 川野陽一¹⁾, 吉田 寛¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : [分担] 第X章 胆道疾患 5. 脾・胆管合流異常. 『肝臓専門医テキスト』(日本肝臓学会 編集), 2013 ; pp348-350, 南江堂.

学会発表

追加分シンポジウム：

- 1) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 安全な鏡視下肝切除術を基本とした糖嘉での工夫と経験. 東京肝臓内視鏡外科フォーラム (第3回) (東京), 2013. 2.

追加分セミナー：

- 1) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 早期緩和治療：機会を逃さない速やかな介入が重要である. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.

追加分パネルディスカッション：

- 1) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 横井公良²⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 高齢者 (80 歳以上) 胃癌手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第85回) (大阪), 2013. 2.

追加分ワークショップ：

- 1) 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：教育機関で行うハイブリッド腹腔鏡補助下虫垂切除術：双孔式から単孔式へ. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 2) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 村田 智³⁾, 汲田伸一郎³⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院病院 外科, 3) 日本医科大学 放射線科)：当科における肝胆膵手術後出血に対する治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 3) 清水哲也¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：ERCP に起因した後腹膜穿孔の対応：手術適応の判断. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 4) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院病院 外科)：孤立性胃静脈瘤に対する PSE 併用 B-RTO の有効性. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.

追加分一般講演：

- 1) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：消化器癌治療が大腰筋筋肉腫に与える影響. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (第 28 回) (石川), 2013. 2.
- 2) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 佐々木順平²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 千葉北総病院 外科)：大腸癌術後回復能力強化プログラム—何が重要か？. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (第 28 回) (石川), 2013. 2.
- 3) 鈴木えりか¹⁾, 桜澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 菊池友太¹⁾, 横井公良¹⁾, 加藤俊二²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科)：十二指腸潰瘍穿孔術後出血を繰り返した 1 例. 潰瘍病態研究会 (第 21 回) (神奈川), 2012. 8.
- 4) 坊 英樹¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科)：80 歳以上高齢者胃癌手における E-PASS scoring system と術後合併症の検討. 日本胃癌学会総会 (第 85 回) (大阪), 2013. 2.
- 5) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 加藤俊二²⁾, 萩原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：根治性と長期予後から考える上部限局胃癌 (U) に対する噴門側胃切除術. 日本胃癌学会総会 (第 85 回) (大阪), 2013. 2.
- 6) 藤田逸郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 野村 務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2))：郭清精度を意識した腹腔鏡下胃切除術における D2 郭清：12a-8a 郭清. 日本胃癌学会総会 (第 85 回) (大阪), 2013. 2.
- 7) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 加藤俊二²⁾, 萩原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：CART, 腹腔内化学療法にて治療導入可能となった急速腹水貯留を伴う若年者胃癌の 1 例. 日本胃癌学会総会 (第 85 回) (大阪), 2013. 2.
- 8) 山田岳史¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：緩和ケアチームと NST による胃癌診療のサポート. 日本胃癌学会総会 (第 85 回) (大阪), 2013. 2.
- 9) 松谷 毅¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 野村 務¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科)：高齢者胃

癌に対する腹腔鏡下胃切除術：POSSUM score を用いたリスク評価. 日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.

- 10) 木山輝郎¹⁾，藤田逸郎²⁾，小野寺浩之²⁾，金沢義一²⁾，加藤俊二²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 松江病院 外科，²⁾ 日本医科大学 消化器外科）：腹腔鏡下胃全摘後再建における縫合結紮法. 日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 11) 牧野浩司¹⁾，藤田逸郎²⁾，吉田 寛¹⁾，丸山 弘¹⁾，野村 務²⁾，松谷 毅²⁾，萩原信敏²⁾，寺西宣央¹⁾，菅野仁士¹⁾，高尾嘉宗¹⁾，坂田義則¹⁾，堀田正啓¹⁾，関 奈紀¹⁾，宮下哲平¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科，²⁾ 日本医科大学 消化器外科）：腹腔鏡下胃癌手術と食道癌の腹腔鏡下胃管作成術の共通点と相違点. 日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 12) 前島顕太郎¹⁾，坊 英樹¹⁾，鈴木英之¹⁾，渡辺昌則¹⁾，小峯 修¹⁾，吉野雅則¹⁾，水谷 聡¹⁾，千原直人¹⁾，松信哲朗¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター，²⁾ 日本医科大学 消化器外科）：早期胃癌に対する開腹手術と腹腔鏡補助下手術の比較：E-PASS スコアリングシステムを用いて. 日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 13) 菅野仁士¹⁾，吉田 寛¹⁾，牧野浩司¹⁾，丸山 弘¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，寺西宣央¹⁾，坂田義則¹⁾，高尾嘉宗¹⁾，関 奈紀¹⁾，堀田正啓¹⁾，宮下哲平¹⁾，藤田逸郎²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科，²⁾ 日本医科大学 消化器外科）：肝転移に対し肝切除および RFA を施行し長期生存が得られた AFP 産生胃癌の 1 例. 日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 14) 萩原信敏¹⁾，野村 務¹⁾，松谷 毅¹⁾，加藤俊二¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，牧野浩司¹⁾，丸山 弘¹⁾，櫻澤信行¹⁾，小野寺浩之¹⁾，山下直行²⁾，赤城一郎¹⁾，篠塚恵理子¹⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 坪井病院 外科）：他臓器転移を認めた巨大消化管間質腫瘍（GIST）に対して集学的治療にて病態コントロール可能であった 1 例. 日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 15) 小野寺浩之¹⁾，加藤俊二¹⁾，櫻澤信行¹⁾，金沢義一¹⁾，藤田逸郎¹⁾，萩原信敏¹⁾，野村 務¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科）：胃全摘術後の抗癌剤治療によって再発形式が播種から局所再発形式をとった 2 切除例. 日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 16) 川野陽一¹⁾，谷谷信彦¹⁾，峯田 章¹⁾，吉岡正人¹⁾，上田純志¹⁾，真々田裕宏¹⁾，吉田 寛²⁾，村田 智³⁾，汲田伸一郎³⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科，³⁾ 日本医科大学 放射線科）：門脈塞栓術を施行した閉塞性黄疸肝に対する術前減黄処置の検討. 日本臨床外科学会総会（第 73 回）（東京），2011. 11.
- 17) 川野陽一¹⁾，谷谷信彦¹⁾，中村慶春¹⁾，吉岡正人¹⁾，松下 晃¹⁾，水口義昭¹⁾，清水哲也¹⁾，上田純志¹⁾，吉田 寛²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科）：ENDO MINI-RETRACT™ を用いた肝門部操作に有用な脈管処理法. 東京肝臓内視鏡外科研究会（第 6 回）（東京），2012. 11.
- 18) 川野陽一¹⁾，谷谷信彦¹⁾，村田 智²⁾，汲田伸一郎²⁾，内田英二¹⁾，田尻 孝¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学 放射線科）：門脈合併症. 東京肝臓内視鏡外科研究会（第 6 回）（東京），2012. 11.
- 19) 川野陽一¹⁾，谷谷信彦¹⁾，村田 智²⁾，小原勝敏²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学 放射線科，³⁾ 福島県立医科大学付属病院 内視鏡診療部）：十二指腸静脈瘤出血を繰り返す原因不明肝外門脈閉塞症への治療（内視鏡治療 VS 外科治療 VS IVR 治療）. 日本消化器内視鏡学会総会（第 83 回）（東京），2012. 5.
- 20) 山際 亮¹⁾，水谷 聡¹⁾，鈴木英之¹⁾，豊田哲鎬¹⁾，山岸征嗣¹⁾，村木 輝¹⁾，渡辺昌則¹⁾，田島廣之¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター，²⁾ 日本医科大学 消化器外科）：IVR により救命し得た膵頭部癌十二指腸出血の 1 例. 日本腹部救急医学会総会（第 49 回）（福岡），2013. 3.
- 21) 松野邦彦¹⁾，松谷 毅¹⁾，萩原信敏¹⁾，野村 務¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，小野寺浩之¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科）：高齢者食道癌手術後に門脈ガス血症と腸管囊胞様気腫症を呈した非閉塞性腸間膜虚血

- の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 22) 原田潤一郎¹⁾, 水口義昭¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 上部消化管内視鏡にて肝臓が観察された胃潰瘍穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 23) 菅野仁士¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 坂田義則¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 絞扼性イレウスの早期診断指標についての検討. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 24) 安藤文彦¹⁾, 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 絞扼性 ileus の造影CT診断: 各所見出現時期の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 25) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 原絵津子³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 北村山公立病院 外科): 腸管壁CT値を用いた絞扼性イレウス診断の有効性. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 26) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 膈液瘻に対する洗浄ドレーンの有用性. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 27) 山岸杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 原 敬介¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 術前減圧管にて緊急手術を回避しえた, 結腸直腸がん閉塞症例における術後腸管運動改善の評価. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 28) 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 有馬保生¹⁾, 中村慶春¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 計画的抗血小板薬継続投与による胆石症手術の周術期成績. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 29) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原絵津子¹⁾, 青木悠人¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 大腸憩室炎に対する待機的腹腔鏡補助下手術. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 30) 村木 輝¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 術者の技量とアクセスポートにこだわった腹腔鏡下虫垂切除(LA)の工夫. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 31) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 宮下正夫²⁾, 山下直行³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 坪井病院 外科): 食道癌再手術後の内ヘルニアから門脈ガス血症と腸管嚢胞様気腫症を呈した1例. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 32) 早川朋宏¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 菊池友太¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾, その他2名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 大腸癌術後に発生した超高齢者のBochdalek孔ヘルニア嵌頓の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 33) 高田英志¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 上田純志¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 盲腸癌による穿孔性虫垂炎と考えられた1例. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 34) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 村木 輝¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅

- 則¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 重症急性胆嚢炎の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 35) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 大腸憩室炎に対する待機的腹腔鏡補助下手術. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 36) 関口久美子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 町田 幹²⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 放射線科) : Clostridium difficile 関連腸炎の早期発見に腹部 CT が有用であった 2 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 37) 住吉宏樹¹⁾, 牧野浩司²⁾, 平方敦史²⁾, 丸山 弘²⁾, 横山 正²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 人工妊娠中絶後に発症した子宮, 空腸穿孔による汎発性腹膜炎の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 38) 豊田哲鎬¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 虫垂切除後診断された虫垂胚細胞カルチノイドの 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 39) 星野有哉¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 高齢者の内視鏡的経鼻胆道ドレナージ (ENDB) 症例の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 40) 山岸征嗣¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 聡¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 下部消化管出血の IVR 後に消化管穿孔をきたした 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 41) 菊池友太¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 松田明久¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 術中胆道鏡によるインジゴカルミン散布が有用であった ERBD 後膵内胆管穿孔の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 42) Kawano Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T, Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School) : A hepatocellular carcinoma developed following 12 years from sustained virologic response to interferon therapy in a patient with Hepatitis C. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (22nd) (APASL 2012) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 43) Kawano Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School) : A case of resected laparoscopic procedure with accessory spleen at the liver hilum which was difficult to distinguish to the hepatocellular carcinoma. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (22nd) (APASL) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 44) Kawano Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Our experience of portal vein embolization before major hepatectomy for the liver with obstructive jaundice. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (22nd) (APASL) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 45) Kawano Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Our ingenious techniques for laparoscopic hepatectomy. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (22nd) (APASL) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 46) Taniai N¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School) : What is re-treatment for recurrent for recurrent patients with hepatocellular carcinoma undergoing hepatectomy?. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver

(22nd) (APASL) (Taipei Taiwan), 2012. 2.

- 47) Ueda J¹⁾, Yoshida H²⁾, Taniai N¹⁾, Mamada Y¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Kawano Y¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School, 2) Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Surgicl resection of a solitary para-aortic lymph node metastasis from hepatocellular carcinoma : a case report. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (22nd) (APASL) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 48) 山下浩二¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 竹間由佳¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 清水一雄¹⁾, 芳賀駿介¹⁾ (1) 日本医科大学大学院外科乳腺外科) : 低侵襲と整容性を追求した腋窩単孔式乳腺内視鏡手術の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 49) 坂田義則¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院外科) : 高齢者における総胆管結石の治療 総胆管十二指腸 側側吻合. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 50) 柳 健¹⁾, 簡野晃次¹⁾, 石丸さやか¹⁾, 高尾嘉宗²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二³⁾, 岡田昌義¹⁾ (1) 東京血管外科クリニック, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学付属病院外科) : 日帰り下肢静脈瘤手術の安全性と患者からみた利点・問題点. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 51) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科学) : 標準化を目指した腹腔鏡下臍切除術の手術手技. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 52) 平方敦史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : LigaSure, VIO system による無結紮肝切離の試み. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 53) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科学) : 腹腔鏡下臍切除術におけるエネルギーデバイスの選択とその使用法. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 54) 松本智司¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 菅 隼人²⁾, 山田岳史²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 進士誠一²⁾, 佐々木順平¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院外科) : 教育的観点からみた鏡視下虫垂切除術と術式の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 55) 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学外科) : 腹臥位胸腔鏡下食道手術 (VATS-E) におけるストリッピングによる左側上縦隔の展開後の左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫と助手の積極的参加やリトラクターやシーリングシステムを用いた効率的な食道切除とのコツ. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 56) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 松田明久³⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 57) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 当科における開腹肝切除後 SSI 予防を考慮した閉創法の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 58) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 青木悠人¹⁾, 原絵津子¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科, 2) 日本医大千葉北総病院外科) : 造影CT による絞扼性イレウスの早期診断. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.

- 59) 菅野仁士¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 坂田義則¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学外科): 絞扼性イレウスの早期補助診断法についての検討. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 60) 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学外科): 胸腔鏡下食道癌手術で側臥位 腹臥位両法を行い腹臥位法を選択した理由とその弱点克服の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 61) 横山 正¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 臍頭十二指腸切除術における膀胱チューブを利用した膀胱腸吻合の工夫と成績. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 62) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松本智司¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下膀胱切除術における膀胱腸吻合の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 63) 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科における腹腔鏡補助下右側肝切除術の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 64) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 鈴木英之³⁾, 古川清憲¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 直腸癌に対する S-1 併用術前化学放射線療法. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 65) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 中村慶春¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 岩切勝彦³⁾, 宮下正夫⁴⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学付属多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学消化器内科, 4) 日本医科大学千葉北総病院外科): High-Resolution Manometry にて筋層切開を行う範囲を決定し腹臥位胸腔鏡下にて Long myotomy を施行したびまん性食道痙攣の2例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 66) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 大腸癌外来科学療法における医療経済. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 67) 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 平方敦史²⁾, 横山 正²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 膀胱癌に対する GS による術前科学療法の意義と問題点. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 68) 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司²⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学付属千葉北総病院): 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下分流手術, 特に胆道再建について. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 69) 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水谷 聡²⁾, 鈴木英之²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 左方アプローチによる臍頭十二指腸切除術. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 70) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下膀胱中央切除術における膀胱消化管吻合操作の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 71) 星野有哉¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 中村慶春²⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター,

- 2) 日本医科大学外科)：腹腔鏡下痔腫瘍核出術を施行したインスリノーマの1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 72) 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：合併症減少を目指した人工肛門造設の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 73) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山下直行²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 坪井病院外科)：腹腔鏡補助下胃管作成の際の術中偶発症を少なくするための工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 74) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 水口義昭¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：VAIO system によるイオ電極を用いた肝離断面止血法. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 75) 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡下痔頭十二指腸切除術(Lap-PD)における痔切離と痔消化管吻合の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 12.
- 76) 木山輝郎¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 金沢義一¹⁾, 坂東功一²⁾, 内田英二¹⁾, 加藤俊二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 康生会病院外科)：腹腔鏡補助下噴門側胃切除における食道胃吻合による再建. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 12.
- 77) 松田明久¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：S状結腸癌術後, 多臓器転移状態で歯肉への転移を認めた1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 12.
- 78) 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：インスリノーマに対する腹腔鏡下痔切除術における術中末梢動脈血インスリン値モニタリングについての有用性. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 12.
- 79) 宮下哲平¹⁾, 平方敦史¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科)：肝嚢胞性腫瘍と鑑別が困難であった肝嚢胞に対し腹腔鏡補助下にて切除し得た1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 12.
- 80) 鈴木英之¹⁾, 黒川 顕⁴⁾, 勝俣範之³⁾, 渡辺昌則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター)：チーム医療としての院内がんボードの役割. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 12.
- 81) 近藤亮太¹⁾, 吉安正行¹⁾, 吉村和康¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 博慈会記念総合病院外科, 2) 日本医科大学附属病院)：腓体尾部切除術後の遅発性腓液瘻に対し腓管ステント留置が有効であった腓体部癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 82) 住吉宏樹¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：局所進行腓尾部癌に対し, 術前化学療法が奏功しR0手術を施行し得た1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 83) 早川朋宏¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 松田明久¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院外科)：大腿ヘルニア嵌頓から壊死性筋膜炎を発症した1例. 日本臨床外科学

会総会（第74回）（東京），2012. 12.

- 84) 高田英志^{1, 2)}，松本智司¹⁾，谷合信彦²⁾，真々田裕宏²⁾，吉岡正人²⁾，川野陽一²⁾，水口義昭²⁾，清水哲也²⁾，上田純志²⁾，横井公良¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：小腸内視鏡にて術前診断し単孔式腹腔鏡下切除を行った小腸の血管腫の1例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 85) 大山莉奈¹⁾，鈴木英之¹⁾，吉野雅則¹⁾，水谷 聡¹⁾，松信哲朗¹⁾，三浦克洋¹⁾，豊田哲鎬¹⁾，八木亜記³⁾，中田亮輔¹⁾，内田英二^{1, 2)}（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学外科，³⁾ 海老名総合病院外科）：化学療法が奏功し Clinical CR を得た遠隔リンパ節転移を伴う盲腸癌に対し，原発巣切除を行った症例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 86) 高尾嘉宗¹⁾，横山 正¹⁾，牧野浩司¹⁾，平方敦史¹⁾，寺西宣央¹⁾，菅野仁士¹⁾，坂田義則¹⁾，堀田正啓¹⁾，関 奈紀¹⁾，宮下哲平¹⁾，吉田 寛¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院，²⁾ 日本医科大学付属病院）：急性腹症にて発症した盲腸癌腸重積症の1例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 87) 川本聖郎¹⁾，湖山信篤¹⁾，山下直行¹⁾，岩井拓磨¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 坪井病院外科，²⁾ 日本医科大学外科）：成人腸回転異常症を伴い診断に苦慮した盲腸癌・空腸浸潤の1例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 88) 関 奈紀¹⁾，横山 正¹⁾，牧野浩司¹⁾，丸山 弘¹⁾，平方敦史¹⁾，寺西宣央¹⁾，菅野仁士¹⁾，高尾嘉宗¹⁾，坂田義則¹⁾，堀田正啓¹⁾，丹野正隆²⁾，吉田 寛¹⁾，内田英二³⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院一般・消化器・乳腺外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院病理部，³⁾ 日本医科大学付属病院一般・消化器・移植外科）：結核の既往なく，診断に難渋した乳腺腫瘍を初発症状とした肺外結核の1例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 89) 若林秀幸¹⁾，横井公良¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，松本智司¹⁾，鶴田宏之¹⁾，櫻澤信行¹⁾，松田明久¹⁾，佐々木順平¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，早川朋宏¹⁾，鈴木えりか¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学付属病院外科）：腹壁瘻痕ヘルニア嵌頓に対し Parietex Composite (PCO) Mesh を用いて腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した1例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 90) 清水哲也¹⁾，谷合信彦¹⁾，吉岡正人¹⁾，川野陽一¹⁾，水口義昭¹⁾，上田純志¹⁾，高田英志¹⁾，真々田裕宏^{1, 2)}，吉田寛²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院外科）：インジコカルミンによる胆道リークテストにて胆管交通を認めた巨大多発肝嚢胞の1手術例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 91) 櫻澤信行¹⁾，横井公良¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，松本智司¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松田明久¹⁾，佐々木順平¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，若林秀幸¹⁾，早川朋宏¹⁾，菊池友太¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：当院における腹腔鏡補助下胃切除の治療成績の検討。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 92) 鈴木えりか¹⁾，瀬谷知子¹⁾，横室茂樹¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，松田明久¹⁾，佐々木順平¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，若林秀幸¹⁾，早川朋宏¹⁾，横井公良¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：貧血精査にて指摘され，外科的切除で診断に至った十二指腸球部 Brunner 腺過形成の1例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 93) 菊池友太¹⁾，松田明久¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，佐々木順平¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，若林秀幸¹⁾，早川朋宏¹⁾，横井公良¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：壊死型が否定しえなかった Poor risk 虚血性大腸炎に対して非観血的に治療しえた1例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.
- 94) 松野邦彦¹⁾，川野陽一¹⁾，松下 晃¹⁾，吉岡正人¹⁾，水口義昭¹⁾，清水哲也¹⁾，上田純志¹⁾，住吉宏樹¹⁾，高田英志¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科）：術前診断に難渋した Mirizzi 症候群を伴う黄色肉芽腫性胆嚢炎の1切除例。日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 12.

- 95) 堀場光二¹⁾, 横井公良¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松田明久¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, (2) 日本医科大学臓器病態制御外科): 結腸癌を誘因とした成人腸重積症 3 症例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京), 2012. 12.

追加分特別講演:

- 1) 山田岳史¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): Oxaliplatin 誘発末梢神経障害に対する桂枝加朮附湯とブジ末の効果: 赤外線サーモグラフィーで測定した末梢皮膚温と末梢神経障害. 外科漢方研究会 (第 22 回) (東京), 2012. 11.
- 2) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 松本智司¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下臍切除術の標準化を目指した手術手技について. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.

[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]

研究概要

「研究体制とその現状」研究目的臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。研究体制消化器系臓器別に上部消化管、下部消化管、肝胆膵の 3 領域における病態生理、臨床病理的研究を行う体制をとっている。研究課題は癌に関連するものが多い。手術手技、腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。研究者は自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。研究材料、方法診療業務から得た臨床データ、血液、組織、臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には、当院病理部との共同研究となる。分子生物学的手法を用いる場合は、武蔵小杉病院老人病研究所と協力している。文部科学省、厚生労働省の科学研究補助金による研究、多施設共同研究、日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。研究結果の公表各医学会、多摩地域の研究会等で発表する。さらに原著、症例報告、著書等に論文として公表する。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 吉田 寛, 内田英二: 切除不能食道癌に対する腹腔鏡補助下食道バイパス術. 外科 2013; 75 (4): 400-403.
- 2) Iwaki J, Kikuchi K, Mizuguchi Y, Kawahigashi Y, Yoshida H, Uchida E, Takizawa T: MiR-376c down-regulation accelerates EGF-dependent migration by targeting GRB2 in the HuCCT1 human intrahepatic cholangiocarcinoma cell line. PLOS ONE 2013; 8 (7): e69496-e69496.

(2) 総説:

- 1) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Uchida E: Risk factors for bleeding esophagogastric varices. J Nippon Med Sch 2013; 80 (4): 252-259.
- 2) 田尻 孝, 吉田 寛: 門脈圧亢進症技術認定制度の紹介. 消化器内視鏡 2013; 25 (11): 1821-1821.
- 3) 吉田 寛, 平方敦史, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 内田英二: 病態からみた門亢症のマネージメント: 脾機能亢進症への対応. 消化器内視鏡 2013; 25 (11): 1859-1862.

(3) 研究報告書:

- 1) 吉田 寛: 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 分担研究報告書 本年度, 当科で経験した肝外門脈閉塞症の 2 例. 厚生労働省特定疾患 門脈血行異常症調査研究班 平成 25 年度研究報告書 (研究代表者 森安史典) 2014; 130-134.

(4) 症例報告：

- 1) Shimoda T, Yoshida H, Hirakata A, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Ueda J, Tanno M, Naito Z, Uchida E : Surgical Resection of Cystic Intraductal Papillary Adenocarcinoma of the Bile Duct : Report of a case. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (3) : 234-239.
- 2) 高尾嘉宗, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 松田明久, 丸山 弘, 吉田 寛, 片山博徳, 丹野正隆, 内田英二 : Siewert type II 食道胃接合部腺癌に対し胸腔鏡下食道切除術を施行した1例. 日医大医会誌 2013 ; 9 (3) : 160-163.
- 3) 馬越通信, 松谷 毅, 丸山 弘, 吉田 寛, 内田英二 : 腹腔鏡補助下残胃全摘を行った Adachi VI 型血管走行異常併存高齢者胃癌の1例. 日鏡外会誌 2013 ; 18 (3) : 351-355.
- 4) 高尾嘉宗, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二 : 切除不能食道癌加療中の急性胆嚢炎に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術と食道バイパス手術を施行した1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2013 ; 33 (4) : 749-753.
- 5) 高田英志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 内藤善哉, 内田英二 : 腓神経内分泌腫瘍術後19年目の肝転移再発が疑われた1切除例. 肝臓 2013 ; 54 (5) : 326-333.
- 6) 新井洋紀, 松谷 毅, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二 : 胃 MALT リンパ腫と早期胃癌の1共存例. 日本臨床外科学会誌 2013 ; 74 (6) : 1523-1528.
- 7) 馬越通信, 松谷 毅, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 吉田 寛, 細根 勝, 内田英二 : 腹部症状をともない経過中に増大した胃異所性腺の1例. 日消誌 2013 ; 110 (9) : 1619-1624.
- 8) 下田朋宏, 松谷 毅, 吉田 寛, 細根 勝, 内田英二 : ネフローゼ症候群を契機に発見された全身性エリテマトーデス合併進行胃癌の1例. 日消誌 2013 ; 110 (10) : 1797-1803.
- 9) 馬越通信, 松谷 毅, 丸山 弘, 吉田 寛, 内田英二 : Adachi VI 型の総肝動脈走行異常を伴った85歳高齢者残胃癌に対し腹腔鏡補助下残胃全摘術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2013 ; 18 (3) : 351-355.
- 10) 高田英志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 神田知洋, 上田純志, 内藤善哉, 内田英二 : 肝細胞癌と細胆管癌成分を伴った肝内胆管癌の同時性重複癌の1切除例. 肝臓 2014 ; 55 (2) : 106-114.
- 11) 高田英志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 上田純志, 近藤亮太, 吉田 寛, 内田英二 : マイクロ波での前凝固による腹腔鏡下肝部分切除術後に biloma をきたした1例. J Microwave Surg 2014 ; 32 (1) : 7-11.
- 12) 若林秀幸, 松谷 毅, 新井洋紀, 吉田 寛, 内田英二 : 胃癌腹部大動脈周囲リンパ節転移と鑑別を要した後腹膜神経鞘腫の1例. 外科 2014 ; 76 (3) : 314-317.
- 13) 下田朋宏, 松谷 毅, 松田明久, 丸山 弘, 吉田 寛, 内田英二 : 縦隔気腫, 後腹膜気腫, 皮下気腫を認めた直腸 S 状部穿孔の1例. 日本腹部救急医学雑誌 2014 ; 34 (3) : 685-689.

(5) Case report :

- 1) Yasuda T, Yoshida H, Ueda J, Mamada Y, Taniyai N, Yoshioka M, Matsushita A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takata H, Uchida E : Surgical Resection of Hepatic Cystic Echinococcosis Impaired by Pre-operative Diagnosis : Report of a Case. Case Reports in Medicine 2013 ; (2013) : 271256-271256.
- 2) Taniyai N, Yoshida H, Yoshioka M, Kawano Y, Ueda J, Uchida E : Pulmonary edema caused by levofofolinate treatment in patients with liver metastases from colorectal cancer. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 460-466.

(6) Original paper :

- 1) Taniyai N, Yoshida H, Yoshioka M, Kawano Y, Uchida E : Surgical outcomes and prognostic factors in elderly patients (75 years or older) with hepatocellular carcinoma who underwent hepatectomy. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 426-432.

- 2) Kawano Y, Tanai N, Nakamura Y, Yoshioka M, Matsushita A, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takane Y, Yoshida H, Uchida E: ENDO MINI-RETRACT laparoscopic retractor with a novel short-cut nelaton catheter for dividing the vasculature in laparoscopic liver resection. J Nippon Med Sch 2013; 80 (6) : 446-450.

著 書

- 1) 吉田 寛: [分担] 門脈圧亢進症取扱い規約 (V 治療). 門脈圧亢進症取扱い規約 (第3版) (日本門脈圧亢進症学会), 2013; pp63-72, 金原出版.
- 2) 吉田 寛, 内田英二: [分担] 部分的脾動脈塞栓術 (PSE). 動画で身につく肝疾患の基本手技, 2013; pp216-221, 羊土社.

学会発表

(1) 宿題講演:

- 1) 吉田 寛: 本年度, 当科で経験した門脈血栓症の2例. 平成25年度第1回班会議 門脈血行異常症に関する調査研究 (H23-難治-一般-26) (東京), 2013. 11.

(2) 教育講演:

- 1) 吉田 寛: 「がん」になっても元気に生きられる: 最新のがん治療法. 多摩センター健康セミナー (東京), 2013. 4.
- 2) 吉田 寛: 食道静脈瘤に対する治療法の変遷. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第96回) (東京), 2013. 6.
- 3) 横山 正: 乳癌の治療. 乳がん市民公開講座 (東京), 2013. 5.
- 4) 横山 正: 当科における膵疾患患者治療の現況. 多摩市消化器疾患懇話会 (第16回) (東京), 2013. 7.

(3) シンポジウム:

- 1) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二: 門脈圧亢進症に対する治療法の変遷. 日本外科学会定期学術集会 (第113回) (福岡), 2013. 4.
- 2) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 水口義昭, 内田英二: 腫瘍形成型優位の胆管癌に対するリンパ節廓清の意義. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第25回) (栃木), 2013. 6.
- 3) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 内田英二: 自施設での膵頭十二指腸切除時における膵消化管吻合の工夫とその成績. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第25回) (栃木), 2013. 6.
- 4) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 菅野仁士, 坂田義則, 関 奈紀, 高尾嘉宗, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二: パラシュート法による胆道再建. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第25回) (栃木), 2013. 6.
- 5) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 住吉宏樹, 吉田 寛, 内田英二: 導入実践大学病院である当科での鏡視下左肝切除標準化に向けての工夫と取り組み. 日本外科系連合学会学術集会 (第38回) (東京), 2013. 6.
- 6) 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 吉田 寛, 内田英二: 肝切除における BLAKE Silicon Drain を用いた腹腔内ドレーン法の有効性. 日本外科感染症学会 (第26回) (神戸), 2013. 11.
- 7) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 堀田正啓, 岩井拓磨, 宮下正夫, 藤田逸郎, 野村 務, 内田英二: 食道胃接合部癌に対する鏡視下食道切除術・吻合, 開腹胃切除術. 日本胃癌学会総会 (第86回) (横浜), 2014. 3.
- 8) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 上田純志, 山岸杏彌, 藤田逸郎, 宮下正夫, 内田英二: 腹腔鏡下逆流防止術による成人食道裂孔ヘルニア治療: 当科での現状. 日本ヘルニア学会学術集会 (第11回) (仙台), 2013. 5.
- 9) 山下直行, 湖山信篤, 萩原信敏, 櫻澤信行, 菅野仁士, 岩井拓磨, 川本聖郎, 藤田逸郎, 金澤義一, 小野寺浩

之, 今村和弘, 内田英二: 腹腔鏡下胃切除において安全に導入可能な体腔内逆蠕動 Roux-en-Y 吻合. 日本外科学会連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.

10) 高尾嘉宗: 当科における成人鼠径ヘルニアに対する TPAА 法の標準化への試み. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 11 回) (仙台), 2013. 5.

(4) パネルディスカッション:

1) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 吉岡正人, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 内田英二: 部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の長期成績. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 20 回) (名古屋), 2013. 9.

2) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 水口義昭, 中村慶春, 内田英二: 開腹を経ない鏡視下肝切除の教育はありうるのか?. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.

(5) セミナー:

1) 吉田 寛: 生体組織接着剤の使用法: 私の工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 25 回) (栃木), 2013. 6.

2) 吉田 寛: 肝臓外科の最近の知見. 川崎市外科医会 (神奈川), 2014. 2.

(6) ワークショップ:

1) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二: 門脈圧亢進症治療における部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の長期成績. 日本消化器関連学会週間 (第 21 回) (東京), 2013. 10.

2) 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 岩井拓磨, 近藤亮太, 高 和英, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: 臍頭十二指腸切除の臍消化管吻合の縫合不全対策とその成績: 臍管径に応じた吻合法の工夫および臍管チューブ持続低圧吸引の有用性. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.

3) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 岩井拓磨, 近藤亮太, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 山下直行, 内田英二: 上部消化管手術での circular stapler による吻合の縫合不全時の内視鏡的治療と縫合不全予防の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.

4) 中村慶春, 松下 晃, 吉岡正人, 水口義昭, 川野陽一, 清水哲也, 神田知洋, 野村 務, 谷合信彦, 松本智司, 牧野浩司, 内田英二: 腹腔鏡下胆管空腸吻合術の手術手技について. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.

5) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 中村慶春, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 若林秀幸, 宮下正夫, 内田英二: 当施設における食道アカラシア・DES に対する内視鏡外科治療. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.

(7) 一般講演:

1) 牧野浩司, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 坂田義則, 高尾嘉宗, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 野村 務, 藤田逸郎, 松谷 毅, その他 2 名: 腹臥位胸腔鏡下食道癌手術 (VATS-E) とストリッピング (反転) による左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.

2) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 住吉宏樹, 吉田 寛, 内田英二: 当科における安全な鏡視下肝切除術の適応拡大に向けての工夫と取り組み (導入実践大学病院の立場から). 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.

3) 萩原信敏, 野村 務, 松谷 毅, 牧野浩司, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 丸山 弘, 山下直行, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 宮下正夫, 内田英二: 食道癌術後再建胃管癌の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.

4) 菅野仁士, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二: 絞扼性イレウスの早期補助診断指標についての検討. 日本外科学会定期学術集

- 会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 5) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 水口義昭, 真々田裕宏, 内田英二: 超高齢者 (80 歳以上) における肝細胞癌切除術の意義. 日本外科学会定期学術集会第 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
 - 6) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高田英志, 内藤善哉, 内田英二: 胆道癌における術中病理迅速診断と画像診断および臨床病理学的因子の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
 - 7) 藤田逸郎, 木山輝郎, 菅野仁士, 小野寺浩之, 桜澤信行, 萩原信敏, 金沢義一, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二: 安全性と郭清 quality・根治性の確保と意識した鏡視下幽門側胃切除術の定型化. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
 - 8) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 丸山 弘, 牧野浩司, 高尾嘉宗, 松田明久, 宮下正夫, 内田英二: T4 局所進行食道癌に対する治療戦略: 腹腔補助下食道バイパス手術の位置図付け. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
 - 9) Makino H, Maruyama H, Yoshida H, Nomura T, Matsutani T, Hagiwara N, Yokoyama T, Hirakata A, Teranishi N, Kanno H, Takao Y, Sakata Y, Hotta M, Seki N, Miyashita M, et al.: Lymph-node dissection along the left recurrent laryngeal nerve after esophageal stripping and esophagectomy in proneposition video-assisted thoracoscopic surgery and safe anastomosis. SAGES 米国胃腸内視鏡外科学会 (第 15 回) (ボルチモア (アメリカ)), 2013. 4.
 - 10) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 堀田正啓, 関 奈紀, 宮下哲平, 岩本美樹, 松野邦彦, 住吉宏樹, その他 6 名: 上部内視鏡後の縫合不全・瘻孔や潰瘍穿孔に対する内視鏡的ドレナージ・クリッピング・OTSC (Over the scope clipping) 治療. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
 - 11) 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 吉田 寛, 内田英二: 癌性腹膜炎による難治性腹水に対する腹腔静脈シャント術の検討. 日本肝臓学会総会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
 - 12) 谷合信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 吉岡正人, 上田純志, 真々田裕宏, 水口義昭, 内田英二: ChildC 肝硬変症に対する部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の有効性の検討. 日本肝臓学会総会 (第 49 回) (東京), 2013. 6.
 - 13) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 吉田 寛, 内田英二: 鏡視下肝切除術における当科 Original の様々な工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 25 回) (栃木), 2013. 6.
 - 14) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高田英志, 内田英二: 肝切除における術中ソナゾイド造影超音波検査の有用性の検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 25 回) (栃木), 2013. 6.
 - 15) 牧野浩司, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: 当施設の腹臥位 VATS-E と stripping による左上縦隔展開後の安全な No.106 rec L 郭清. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.
 - 16) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 藤田逸郎, 川見典之, 岩切勝彦, 宮下正夫, 内田英二: 当施設における食道手術後の症状改善の取り組みについて. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.
 - 17) 関口久美子, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 牧野浩司, 丸山 弘, 宮下正夫, 内田英二: 食道癌術後 5 年 6 ヶ月の左肺転移に対し肺部分切除を施行した 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.

- 18) 菅野仁士, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 坂田義則, 高尾嘉宗, 内田英二: 胃 carcinoid を合併した食道癌の1例. 日本食道学会学術集会 (第67回) (大阪), 2013. 6.
- 19) 松谷 毅, 萩原信敏, 野村 務, 篠塚恵理子, 若林秀幸, 高尾嘉宗, 丸山 弘, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二: 胸腔鏡補助下食道バイパス手術: Kirchner 法と Postlethwait 法. 日本食道学会学術集会 (第67回) (大阪), 2013. 6.
- 20) 萩原信敏, 野村 務, 松谷 毅, 牧野浩司, 篠塚恵理子, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 宮下正夫, 内田英二: 胸腔鏡補助下胃管作製および再建における安全性向上のための工夫. 日本食道学会学術集会 (第67回) (大阪), 2013. 6.
- 21) 飯田信也, 山下浩二, 柳原恵子, 栗田智子, 岩本美樹, 天神敏博, 横山 正, 土屋眞一, 内田英二, 芳賀駿介: 転移再発乳癌に対するエリブリンの QOL 向上効果, 腫瘍縮小効果, 安全性に関する前向き研究. 日本乳癌学会学術総会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
- 22) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: 腹臥位 VATS-E の No.106rec リンパ節郭清: stripping による左上縦隔展開後の安全な左側郭清及び右側郭清のコツ. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 23) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 寺西宣央, 菅野仁士, 坂田義則, 関 奈紀, 内田英二: エネルギーデバイスを用いた系統的肝切除. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 24) 坂田義則, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 内田英二: 総胆管結石に対する総胆管十二指腸側々吻合術の検討. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 25) 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 菅野仁士, 堀田正啓, 関 奈紀, 宮下哲平, 内田英二: 臍頭十二指腸切除時における膵管拡張形態に応じた吻合の工夫とその成績. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 26) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 吉田 寛, 内田英二: 当科における鏡視下肝切除術の標準化に向けての工夫と取り組み (導入実践大学病院の立場から). 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 27) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 篠塚恵理子, 丸山 弘, 高尾嘉宗, 牧野浩司, 内田英二: 局所進行食道癌に対する根治的放射線療法と salvage 治療戦略. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 28) 萩原信敏, 野村 務, 松谷 毅, 牧野浩司, 篠塚恵理子, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 宮下正夫, 内田英二: 当科における食道再建手技の実際と工夫. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 29) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 真々田裕宏, 中村慶春, 内田英二: 肝内胆管癌に対する肝切除術とゲムシタビンによる化学療法を中心とした治療戦略. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 30) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 宮下正夫, 内田英二: 食道癌術後合併症を減らすための当施設における取り組み. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 31) 関口久美子, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二: 高齢の巨大食道裂孔ヘルニア患者に対する腹腔鏡下逆流防止術の検討. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 32) 堀田正啓, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 菅野仁士, 関 奈紀, 野村 務, 内田英二: 食道裂孔ヘルニアに対して食道裂孔ヘルニア修復後に Parietex Composite Mesh を用いた逆流防止手術. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 33) 水谷 聡, 鈴木英之, 吉田 寛, 谷合信彦, 山岸征嗣, 村木 輝, 星野有哉, 中塚雄久, 渡辺昌則, 内田英二:

- 肝門部領域癌に対する術前ドレナージの工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 34) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 菅野仁士, 堀田正啓, 関 奈紀, 内田英二: 当科における SSI 対策. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 35) 若林秀幸, 松谷 毅, 松田明久, 萩原信敏, 松下 晃, 水口義昭, 篠塚恵理子, 野村 務, 内田英二: マウス盲腸穿孔結紮術により誘導される脂肪及び肺組織炎症に対するピオグリタゾン前投与の効果. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 36) 松下 晃, 住吉宏樹, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 谷合信彦, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 松田陽子, 石渡俊行, 内藤善哉, その他 1 名: 膝癌に対する術前化学療法としての GS 療法の意義と問題点. 日本膵臓学会大会 (第 44 回) (仙台), 2013. 7.
- 37) 宮坂俊光, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 岩井拓磨, 近藤亮太, 高 和英, 小泉里奈, 宮下哲平: 脾のびまん性石灰化を認めた特発性血小板減少性紫斑病の 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 38) 宮下哲平, 平方敦史, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 堀田正啓, 関 奈紀, 岩井拓磨, 近藤亮太, 高 和英, 小泉里奈, 宮坂俊光, 内田英二: 特発性血小板減少性紫斑病の加療後に発症した IgG4 関連後腹膜線維症の 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 39) 杉本勝俊, 古市好宏, 大城 久, 安藤真弓, 佐野隆友, 宮田祐樹, 平良淳一, 長尾俊孝, 近藤福雄, 吉田 寛, 今井康晴, 森安史典: 問題検討症例会: 症例. 日本肝臓研究会 (第 49 回) (東京), 2013. 7.
- 40) 赤間悠一, 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 神田智洋, 上田純志, 高田英志, 住吉秀樹, 内田英二, 吉田 寛: 破裂巨大肝嚢胞に対し, 腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術を施行した 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 326 回) (東京), 2013. 9.
- 41) 宮坂俊光, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 内田英一, 渡辺 学, 内田英二: 保存的加療で軽快した胆石イレウスの 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 326 回) (東京), 2013. 9.
- 42) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 内田英二: 当科における難治性腹水に対する腹腔静脈シャントの治療成績. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 20 回) (名古屋), 2013. 9.
- 43) 高田英志, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 神田知洋, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: B-RTO にて長期無再発の得られた肝外門脈閉塞症に伴う小児胃静脈瘤の 1 例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 20 回) (名古屋), 2013. 9.
- 44) 宮坂俊光, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 関 奈紀, 吉田 寛: 超高齢者の巨大裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡手術. 城西外科研究会 (第 87 回) (東京), 2013. 9.
- 45) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 内田英二: 肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術の病理学的効果判定と臨床病理学的因子の検討. 日本外科病理学会学術集会 (第 18 回) (東京), 2013. 9.
- 46) 高田英志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内藤善也, 内田英二: 肝細胞癌と胆管細胞癌の同時性重複癌の 1 切除例. 日本外科病理学会学術集会 (第 18 回) (東京), 2013. 9.
- 47) 近藤亮太, 牧野浩司, 吉田 寛, 平方敦史, 篠塚恵理子, 横山 正, 丸山 弘, 関 奈紀, 堀田正啓, 岩井拓磨, 内田英二: 肝細胞癌と転移性肝癌の鑑別が困難であった AFP (alpha-fetoprotein) 産生胃癌の 1 例. 日本外科病理学会学術集会 (第 18 回) (東京), 2013. 9.
- 48) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 松田久明, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 丸山 弘, 牧野浩司, 高尾嘉宗, 内田英二: 進行食道癌に対する化学放射線療法後の遺残および再発病変に対するアルゴンプラズマ凝固療法. 日本消化器関連学会週間 (第 21 回) (東京), 2013. 10.

- 49) 中澤貴秀, 大部 誠, 高田樹一, 日高 央, 田中賢明, 奥脇裕介, 南野 勉, 渋谷明隆, 小泉和二郎, 吉田 寛: 肝過形成性結節のEOB MRI所見と臨床病理学的検討. 肝癌症例検討会(第48回)(東京), 2013. 11.
- 50) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 神田知洋, 上田純志, 高田英志, 住吉宏樹, 吉田 寛, 内田英二: 鏡視下肝切除術の安全性と確実性の向上を目的とした当科での様々な工夫. 肝臓内視鏡外科研究会(第7回)(名古屋), 2013. 11.
- 51) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 岩井拓磨, 近藤亮太, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: 胸膜前方切開先行の腹臥位胸腔鏡下食道癌手術(VATS-E)とストリッピング(反転)による左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫. 日本臨床外科学会総会(第75回)(名古屋), 2013. 11.
- 52) 近藤亮太, 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 篠塚恵理子, 関 奈紀, 堀田正啓, 岩井拓磨, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: 特異な肉眼所見を呈した出血性肝嚢胞の1例. 日本臨床外科学会総会(第75回)(名古屋), 2013. 11.
- 53) 神田知洋, 谷合信彦, 真々田裕宏, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 住吉宏樹, 高田英志, 吉田 寛, 内田英二: アルコール性肝硬変に対するTIPS施行後に生じた肝細胞癌に対し腹腔鏡下肝部分切除術を施行し得た1例. 日本臨床外科学会総会(第75回)(名古屋), 2013. 11.
- 54) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 関 奈紀, 堀田正啓, 岩井拓磨, 近藤亮太, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: エネルギーデバイスを用いた系統的肝切除のコツ. 日本臨床外科学会総会(第75回)(名古屋), 2013. 11.
- 55) 高田英志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 平方敦史, 水口義昭, 渡辺 学, 内田英一, 内田英二: 保存的加療にて改善の得られた胆石のイレウスの1例. 日本臨床外科学会総会(第75回)(名古屋), 2013. 11.
- 56) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 内田英二: 肝腫瘍に対する術中病理迅速診断の意義. 日本臨床外科学会総会(第75回)(名古屋), 2013. 11.
- 57) 堀田正啓, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 小泉里奈, 関 奈紀, 内田英二: 救急救命センターにおけるMRSAの積極的監視培養. 日本外科感染症学会(第26回)(神戸), 2013. 11.
- 58) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 小泉里奈, 内田英二: 多剤耐性菌に対する感染制御. 日本外科感染症学会(第26回)(神戸), 2013. 11.
- 59) 小泉里奈, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 内田英二: 腹腔鏡補助下大腸切除術におけるSSIの検証. 日本外科感染症学会(第26回)(神戸), 2013. 11.
- 60) 高尾嘉宗, 松谷 毅, 萩原信敏, 野村 務, 若林秀幸, 丸山 弘, 牧野浩司, 吉田 寛, 山本一仁, 内田英二: 残胃癌に対する腹腔鏡下残遺全摘術の経験. 日本内視鏡外科学会総会(第26回)(福岡), 2013. 11.
- 61) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 岩井拓磨, 近藤亮太, 小泉里奈, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: 腹臥位VATS-Eで中下縦隔郭清での胸膜前方切開先行とNo.106recL郭清でのstrippingで左上縦隔展開の有用性. 日本内視鏡外科学会総会(第26回)(福岡), 2013. 11.
- 62) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 上田純志, 高田英志, 住吉宏樹, 吉田 寛, 内田英二: 当科Originalな器具を使用した鏡視下肝切除術での手術法の工夫. 日本内視鏡外科学会総会(第26回)(福岡), 2013. 11.
- 63) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 水口義昭, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: 鏡視下肝切除発展途上施設における鏡視下肝切除の位置づけ. 日本内視鏡外科学会総会(第26回)(福岡), 2013. 11.
- 64) 堀田正啓: 脾のびまん性石灰化を認めた突発性血小板減少性紫斑病の1例. 脾臓研究会(第2回)(東京), 2013. 4.

- 65) 篠塚恵理子, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 関 奈紀, 岩井拓磨: 腹腔鏡補助下肝外側区域切除後に横隔膜ヘルニアをきたし食道裂孔ヘルニアと鑑別が困難であった1例. 城西外科研究会 (第88回) (東京), 2014. 3.
- 66) Ko H, Yoshida H, Ueda J, Mamada Y, Taniyai N, Yoshioka M, Matsushita A, Yasuda T, Uchida E: Surgical resection of hepatic cystic echinococcosis impaired by preoperative diagnosis: report of a case. World Congress of the IHPBA (11th) (韓国 (ソウル)), 2014. 3.
- 67) 岩井拓磨, 平方敦史, 宮坂俊光, 近藤亮太, 堀田正啓, 丸山 弘, 横山 正, 牧野浩司, 吉田 寛, 内田英二: 桃の種子による食餌性イレウス. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京), 2014. 3.
- 68) Ueda J, Yoshida H, Mamada Y, Taniyai N, Yoshioka M, Kawano Y, Shimizu T, Kakinuma D, Takata H, Uchida E: Evaluation of positive ductal margins of cholangiocarcinoma in intraoperative histological examination. World Congress of the IHPBA (11th) (韓国 (ソウル)), 2014. 3.
- 69) Taniyai N, Yoshida H, Ueda J, Takata H, Uchida E: The good idea for additional indication for safety laparoscopic liver resection. World Congress of the IHPBA (11th) (韓国 (ソウル)), 2014. 3.
- 70) 近藤亮太: 胃癌との鑑別に難渋した肝腫瘍の合併症. 多摩市消化器疾患懇話会 (第16回) (東京), 2013. 7.
- 71) 岩井拓磨, 山下直行, 川本聖郎, 湖山信篤, 内田英二: 左側胆嚢に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術施行した症例. 日本胆道学会学術集会 (第49回) (東京), 2013. 9.
- 72) 若林秀幸, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 篠塚恵理子, 青木悠人, 藤田逸郎, 金沢義一, 田久保海誉: 透視患者に発症した食道粘膜表皮癌と胃腺癌の同時性重複癌の1例. 日本外科病理学会学術集会 (第18回) (東京), 2013. 9.
- 73) 丸山 弘: 当科における大腸癌周術期管理. 橘桜消化器外科研究会 (第3回) (東京), 2013. 10.
- 74) 松谷 毅, 萩原信敏, 野村 務, 若林秀幸, 藤田逸郎, 金沢義一, 丸山 弘, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術, 腹腔鏡補助下胃管作製術および再建術の定型化. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.
- 75) 若林秀幸, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 篠塚恵理子, 栗山 翔, 藤田逸郎, 金沢義一, 内田英二: 右外側鼠径窩への転移を認めた胸部下部食道扁平上皮癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.
- 76) 岩井拓磨, 山下直行, 川本聖郎, 湖山信篤, 内田英二: 左側胆嚢に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術施行した症例. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.
- 77) Nomura T, Matsutani T, Hagiwara N, Wakabayashi H, Makino H, Maruyama H, Nakamura Y, Fujita I, Matsumoto S, Sekiguchi K, Miyashita M, Tajiri T, Uchida E: Prone VATS-E Procedure and Laparoscopic Gastric Conduit Formation. Asia Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgery (11th) (Taipei, Taiwan), 2013. 11.
- 78) 松谷 毅, 萩原信敏, 野村 務, 若林秀幸, 藤田逸郎, 金沢義一, 高尾嘉宗, 丸山 弘, 牧野浩司, 内田英二: 胸腔鏡補助下食道バイパス術: Y字胃管とCVポートを利用した食道外瘻術. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 79) 萩原信敏, 野村 務, 松谷 毅, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 山下直行, 上田康二, 安田智彦, 湖山信篤, 内田英二: 腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア修復術における安全性・確実性向上のための工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 80) 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 菅野仁士, 萩原信敏, 櫻澤信行, 松谷 毅, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 野村 務, 内田英二: 当科における鏡視下幽門側胃切除術後 Billroth II 再建の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 81) 岩井拓磨, 山下直行, 川本聖郎, 湖山信篤, 内田英二: 左側胆嚢に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術施行した症例. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.

- 82) 金沢義一, 藤田逸郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 菅野仁士, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 牧野浩司, 加藤俊二, 内田英二: 腹腔鏡下幽門側胃切除における D2 郭清: #8a~#11p 郭清を中心に. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 83) 若林秀幸, 松谷 毅, 萩原信敏, 野村 務, 篠塚恵理子, 藤田逸郎, 金沢義一, 栗山 翔, 内田英二: 胸腔鏡下縦隔脂肪腫摘出術と腹腔鏡下胃 GIST 摘出術を同時に施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 84) 山本 愛, 丸山 弘, 田中 愛, 鈴木美子, 磐井祐輔: MRSA 保菌高リスク患者の早期隔離効果の検討. 日本環境感染学会総会・学術集会 (第 29 回) (東京), 2014. 2.
- 85) 丸山 弘, 田中 愛, 山本 愛, 鈴木美子: 大腸手術における手術時手袋表面の汚染度調査. 日本環境感染学会総会・学術集会 (第 29 回) (東京), 2014. 2.
- 86) 近藤亮太: 転移性横隔膜腫瘍に対して胸腔鏡下にて肺横隔膜合併切除した 1 例. 南多摩内視鏡外科研究会 (第 1 回) (東京), 2014. 2.
- 87) 牧野浩司: 術前化学 (放射線) 治療後の VATS-E (胸腔鏡下食道切除術) のポイントとピットホール. 多摩消化器手術手技研究会 (第 14 回) (東京), 2014. 3.
- 88) 近藤亮太, 横山 正, 平方敦史, 吉田 寛: PET 検査にて悪性が強く疑われた黄色肉芽腫性胆嚢炎症例の検討: 特に診断精度と治療方針について. 多摩肝胆膵クラブ (第 18 回) (東京), 2014. 3.
- 89) 篠塚恵理子, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 関 奈紀, 岩井拓磨: 腹腔鏡補助下肝外側区域切除後に横隔膜ヘルニアをきたした 1 例. 多摩市消化器疾患懇話会 (第 18 回) (東京), 2014. 3.
- 90) 篠塚恵理子, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 関 奈紀, 岩井拓磨: 腹腔鏡補助下肝外側区域切除後に横隔膜ヘルニアをきたし食道裂孔ヘルニアと鑑別が困難であった 1 例. 城西外科研究会 (第 88 回) (東京), 2014. 3.
- 91) 岩井拓磨, 牧野浩司, 宮坂俊光, 関 奈紀, 平方敦史, 丸山 弘, 横山 正, 吉田 寛: 腫瘍随伴手掌筋膜炎にて胃癌を早期に指摘・加療し得た症例. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (横浜), 2014. 3.
- 92) 松谷 毅, 藤田逸郎, 金沢義一, 萩原信敏, 野村 務, 小野寺浩之, 若林秀幸, 牧野浩司, 高尾嘉宗, 加藤俊二, 内田英二: 高齢者胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除術のリスク評価. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (横浜), 2014. 3.
- 93) 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 菅野仁士, 萩原敏信, 桜澤信行, 松谷 毅, 山下直行, 牧野浩司, 野々村務, 木山輝郎, 加藤俊二, 内田英二: 長期成績からみた腹腔鏡下胃切除適応拡大の可能性. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (横浜), 2014. 3.
- 94) Takata H, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Kawano Y, Shimizu T, Ueda J, Uchida E: A Case of Hepatic Biloma After Laparoscopic Partial Hepatic Resection for Hepatocellular Carcinoma. World Congress of the IHPBA (11th) (韓国 (ソウル)), 2014. 3.

論 文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Matsutani T, Matsuda A, Yoshida H, Katayama H, Hosone M, Sasajima K, Uchida E: Resection of skeletal muscle metastases from squamous cell carcinoma of the esophagus: case report and literature review. *Esophagus* 2013; 10 (1): 42-45.

追加分症例報告:

- 1) 馬越通信, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 吉田 寛, 内田英二: 腹腔鏡下手術後の再発性ポートサイトヘルニアに対して Composix mesh (E/X タイプ) を用いて腹腔鏡下修復術を施行した 1 例. *臨床外科* 2013; 68 (3):

367-370.

追加研究報告書：

- 1) 吉田 寛：厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）分担研究報告書 今年度，当科で経験した門脈血行異常症．厚生労働省特定疾患 門脈血行異常症調査研究班 平成 24 年度研究報告書（研究代表者 森安史典）2013：113-115.

[千葉北総病院外科]

研究概要

消化器外科，一般外科領域および乳腺外科における基礎的，臨床的研究を行い，その成果を学会や学会誌等で報告している．研究活動としては以下の通り．1) 消化器疾患に対する内視鏡治療，特に早期胃癌に対する ESD，早期大腸癌に対する EMR，胆道疾患に対する内視鏡治療，閉塞性黄疸やがんによる消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等を行い臨床成績を集計している．2) 腹腔鏡手術は胆石症，胃癌，大腸癌の他，ヘルニア，虫垂切除など広い分野で行われ，新たな手術法の開発，器具の考案などを行っている．3) 各種の癌に対して癌化学（放射線）療法の効果と予後に対する治療成績を検討している．4) 基礎研究としては，各種がんバイオマーカー，がんの悪性度にかかわる遺伝子手術侵襲と生体反応などの研究を行っている．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsuda A¹⁾, Miyashita M¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Matsutani T²⁾, Sakurazawa N¹⁾, Akagi I²⁾, Kishi T³⁾, Yokoi K¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital Nippon Medical School, Inzai, Chiba, Japan, 2) Department of Gastroenterological Surgery, Nippon Medical School, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan, 3) Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake, Aichi, Japan) : Hepatic Pedicle Clamping Does Not Worsen Survival after Hepatic Resection for Colorectal Liver Metastasis : Results from a Systematic Review and Meta-analysis. *Annals of SURGICAL ONCOLOGY* 2013 ; 20 : 3771-3778.
- 2) 山田岳史¹⁾, 松田明久²⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 予後延長をめざした早期緩和ケア : palliative care から supportive oncology へ. *消化器外科* 2014 ; 37 (2) : 223-227.
- 3) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松谷 毅²⁾, 若林秀幸²⁾, Ping W³⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) Department of Surgery, Hofstra North Shore-LIJ School of Medicine and The Feinstein Institute for Medical Research, NY, USA) : MFG-E8 に着目したショックにおける過剰な炎症反応制御の可能性. *Shock* 2013 ; 28 (2) : 63-68.
- 4) Yamagishi A^{1,2)}, Matsumoto S¹⁾, Watanabe A²⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Hara K^{1,2)}, Kan H¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Shinji S¹⁾, Matsuda A¹⁾, Sasaki J¹⁾, Shimada T²⁾, Uchida E¹⁾ (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo 113-8603, Japan) : Gene profiling and bioinformatics analyses reveal time course differential gene expression in surgically resected colorectal tissues. *ONCOLOGY REPORTS* 2014 ; 31 : 1531-1538.

(2) 症例報告：

- 1) 荻原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 宮下正夫²⁾, 山下直行³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 坪井病院外科) : 食道癌再手術後の内ヘルニアから門脈ガス血症と腸管囊胞様

気腫症を呈した1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2013; 33 (5) : 913-917.

- 2) 勝野 暁¹⁾, 中村慶春²⁾, 相本隆幸²⁾, 横室茂樹¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 破骨細胞様巨細胞型退形成性膵管癌術後肝転移に対して化学療法が奏功し長期生存中の1例. 膵臓 2013; 28 (5) : 622-626.
- 3) 関口久美子¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 上田康二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村務¹⁾, 金沢義一¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 小泉里奈¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科学): 内視鏡治療にて再手術を回避できた十二指腸潰瘍穿孔術後の1例. 日本消化器内視鏡学会雑誌 2013; 82 (1) : 154-156.
- 4) Nomura T¹⁾, Iwakiri K²⁾, Matsutani T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Makino H³⁾, Maruyama H³⁾, Fujita I¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Kawami N²⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Division of Digestive Surgery, Department of Medicine, Nippon Medical School, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan, 2) Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Laparoscopic anti-reflux surgery to treat proton pump inhibitor-resistant non-erosive reflux disease. Esophagus 2013; 10 (3) : 157-160.

学会発表

(1) セミナー :

- 1) 松田明久¹⁾, 曾我耕次²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 社会保険神戸中央病院外科): 大腸ステントを用いた大腸癌イレウス術前減圧術: ステント留置患者における大腸切除の注意点とコツ. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.
- 2) 松田明久¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 敗血症・虚血再灌流障害における MFG-E8 の関与とその治療応用. DIC セミナー (千葉), 2014. 2.

(2) 一般講演 :

- 1) 松田明久¹⁾, 松谷 毅²⁾, 横井公良¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松本智司¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): アポトーシス細胞に着目した肝虚血再灌流障害治療における新たな可能性. 日本外科学会定期学術集会 (第113回) (福岡), 2013. 4.
- 2) 原絵津子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院): 大腸癌に対する予防的抗菌薬の投与期間の縮小と機械的前処置の省略. 日本外科学会定期学術集会 (第113回) (福岡), 2013. 4.
- 3) 堀場光二¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横井公良¹⁾, 野村 務²⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学臓器病態制御外科): 食道扁平上皮癌における CD147/MCT-1 共存発現および CD44 発現の臨床病理学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第113回) (福岡), 2013. 4.
- 4) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた手術手技の構築. 日本外科学会定期学術集会 (第113回) (福岡), 2013. 4.
- 5) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 原絵津子³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 北村山公立病院): 造影 CT による絞扼性 ileus の客観的診断: enhanced-CT Strangulation Ileus Diagnostic score (eSIDscore) の有効性. 日本外科学会定期学術集会 (第113回) (福岡), 2013. 4.
- 6) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 佐々木順平²⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 啓介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 超高齢者結腸癌術後消化管蠕動の

- 回復：腹腔鏡手術は高齢者に有意義か？. 日本外科学会定期学術集会（第113回）（福岡），2013. 4.
- 7) 藤田逸郎¹⁾，木山輝郎¹⁾，菅野仁士²⁾，小野浩浩¹⁾，櫻澤信行³⁾，萩原信敏¹⁾，金沢義一¹⁾，牧野浩司²⁾，野村務¹⁾，加藤俊二¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学消化器外科，²⁾日本医科大学多摩永山病院外科，³⁾日本医科大学千葉北総病院外科）：安全性と郭清 quality・根治性の確保を意識した鏡視下幽門側胃切除術の定型化. 日本外科学会定期学術集会（第113回）（福岡），2013. 4.
- 8) 清水哲也¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司²⁾，松下 晃¹⁾，吉岡正人¹⁾，水口義昭¹⁾，川野陽一¹⁾，住吉宏樹¹⁾，谷合信彦¹⁾，相本隆幸¹⁾，真々田裕宏¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学消化器外科，²⁾日本医科大学千葉北総病院外科）：腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術，膵中央切除術における膵臓の切離と吻合操作の工夫. 日本外科学会定期学術集会（第113回）（福岡），2013. 4.
- 9) 谷 杏彌¹⁾，内田英二¹⁾，松本智司¹⁾，菅 隼人¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，原 敬介¹⁾，島田 隆²⁾，渡邊 淳²⁾（¹⁾日本医科大学外科，²⁾日本医科大学大学院分子遺伝学）：マイクロアレイを用いた大腸癌組織における経時的遺伝子発現変化の検討. 日本外科学会定期学術集会（第113回）（福岡），2013. 4.
- 10) 野村 務¹⁾，松谷 毅¹⁾，萩原信敏¹⁾，牧野浩司²⁾，丸山 弘²⁾，上田純志¹⁾，山岸杏彌¹⁾，藤田逸郎¹⁾，宮下正夫³⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 消化器外科，²⁾日本医科大学多摩永山病院 外科，³⁾日本医科大学千葉北総病院 外科）：腹腔鏡下逆流防止術による成人食道裂孔ヘルニア治療：当施設での現状. 日本ヘルニア学会学術集会（第11回）（仙台），2013. 5.
- 11) 松田明久¹⁾，宮下正夫¹⁾，松谷 毅²⁾，横井公良¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾日本医科大学千葉消化器外科）：MFG-E8 に着目したショックにおける過剰な炎症反応の制御の可能性. 日本ショック学会総会（第28回）（東京），2013. 5.
- 12) 菊池友太¹⁾，櫻澤信行¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，松田明久¹⁾，勝野 暁¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，下田朋宏¹⁾，原絵津子¹⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾日本医科大学消化器外科）：胃 GIST に対し術中内視鏡併用下に腹腔鏡補助下胃部分切除術を施行した1例. 外科集談会（第829回）（東京），2013. 6.
- 13) 関口久美子¹⁾，山初和也¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，松田明久¹⁾，勝野 暁¹⁾，高橋吾郎¹⁾，下田朋宏¹⁾，菊池友太¹⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾，その他1名（¹⁾日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾日本医科大学付属病院消化器外科）：S状結腸間膜由来の孤立性線維性腫瘍（SFT）の1切除例. 外科集談会（第829回）（東京），2013. 6.
- 14) 飯田信也¹⁾，山下浩二¹⁾，柳原恵子¹⁾，栗田智子¹⁾，岩本美樹¹⁾，天神敏博²⁾，横山 正³⁾，土屋眞一⁴⁾，内田英二⁵⁾，芳賀駿介¹⁾（¹⁾日本医科大学 乳腺外科，²⁾日本医科大学武蔵小杉病院 乳腺外科，³⁾日本医科大学多摩永山病院 乳腺外科，⁴⁾日本医科大学付属病院 病理部，⁵⁾日本医科大学 消化器外科）：転移再発乳癌に対するエリプリンのQOL向上効果，腫瘍縮小効果，安全性に関する前向き研究. 日本乳癌学会学術総会（第21回）（浜松），2013. 6.
- 15) 山初和也¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，松下 晃¹⁾，住吉宏樹¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院消化器外科）：膵内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下膵切除術の実際と工夫点. 日本消化器外科学会総会（第68回）（宮崎），2013. 7.
- 16) 松本智司¹⁾，横井公良¹⁾，宮下正夫¹⁾，菅 隼人²⁾，山田岳史²⁾，小泉岐博²⁾，松田明久¹⁾，進士誠一²⁾，佐々木順平¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾日本医科大学付属病院消化器外科）：右側進行横行結腸癌に対する鏡視下頭側アプローチと順行性D3リンパ節郭清. 日本消化器外科学会総会（第68回）（宮崎），2013. 7.
- 17) 松田明久¹⁾，宮下正夫¹⁾，松谷 毅²⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，松本智司¹⁾，鶴田宏之¹⁾，櫻澤信行¹⁾，横井公良¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾日本医科大学付属病院消化器外科）：肝虚血再灌流におけるMFG-E8の臓器障害抑制効果. 日本消化器外科学会総会（第68回）（宮崎），2013. 7.

- 18) 原絵津子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 小泉岐博¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器外科) : 抗 EGFR 抗体効果予測における血清 KRAS 検査の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 19) 関口久美子¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 高齢の巨大食道裂孔ヘルニア患者に対する腹腔鏡下逆流防止術の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 20) 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 水口義昭¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 教育機関で行うハイブリッド腹腔鏡補助下虫垂切除術 : 双孔式から単孔. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 21) 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器外科) : 当科における腹腔鏡下膈体尾部切除術の実際と工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 22) 松谷 毅¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 高尾嘉宗²⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 胸腔鏡補助下食道バイパス手術 : Kirchner 法と Postlethwait 法. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.
- 23) 荻原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司²⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学附属多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 腹腔鏡補助下胃管作製および再建における安全性向上のための工夫. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.
- 24) 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 荻原信敏²⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 当施設の腹臥位 VATS-E と stripping による左上縦隔展開後の安全な No.106recL 郭清. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.
- 25) 保田智彦¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 関口久美子¹⁾, 青木悠人¹⁾, 上田康二¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 胸部大動脈瘤ステント留置による食道穿破に対し食道バイパス手術で QOL が改善した 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.
- 26) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 川見典之³⁾, 岩切勝彦³⁾, 宮下正夫⁴⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学 消化器内科, 4) 日本医科大学 千葉北総病院外科) : 当施設における食道手術後の症状改善の取り組みについて. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.
- 27) 星野慎太郎¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之²⁾, 竹之内菜菜²⁾, 佐野弘仁²⁾, 田中由理子²⁾, 梅澤まり子²⁾, 野村 務³⁾, 宮下正夫⁴⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学消化器内科学, 3) 日本医科大学消化器外科学, 4) 日本医科大学千葉北総病院 消化器外科) : Jackhammer esophagus の臨床像と経過. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.
- 28) 関口久美子¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 食道癌術後 5 年 6 ヶ月の左肺転移に対し肺部分切除を施行した 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 67 回) (大阪), 2013. 6.
- 29) 松本智司¹⁾, 松田明久¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 尿管管遺残症に対する単孔式腹腔鏡下手術の工夫. 単孔式内視鏡手術研究会 (第 7 回) (盛岡), 2013. 8.

- 30) 松本智司¹⁾, 菅 隼人²⁾, 鶴田宏之¹⁾, 山田岳史²⁾, 小泉岐博²⁾, 松田明久¹⁾, 進士誠一²⁾, 佐々木順平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 脾彎曲部進行結腸癌に対する腹腔鏡下 D3 郭清. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 31) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 大腸癌肝転移切除における肝流入血流遮断法の功罪 (長期予後に関して): メタ解析による検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 32) 原絵津子¹⁾, 山田岳史²⁾, 菅 隼人²⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博²⁾, 進士誠一²⁾, 谷 杏彌²⁾, 原 敬介²⁾, 高橋吾郎¹⁾, 金沢義一²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): Liquid biopsy を利用した EGFR inhibitor re-challenge 療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 33) 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 佐々木順平¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 高橋吾郎²⁾, 原絵津子²⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 超高齢者腹腔鏡補助下結腸癌手術の意義: 術後消化管運動の回復と手術1年後の栄養評価. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 34) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 松田明久²⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 原絵津子²⁾, 高橋吾郎²⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): liquid biopsy を利用した抗 EGFR 抗体治療の新治療戦略. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 35) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 金沢義一¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 松田明久²⁾, 佐々木順平²⁾, 鈴木英之³⁾, 吉岡将史¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 局所進行直腸癌に対する術前化学放射線療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 36) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 脾彎曲部大腸癌に対する術前 3D-CT の必要性和腹腔鏡下手術. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 37) 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 原 敬介¹⁾, 原絵津子²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): FOLFIRI3 の実験的検証. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 38) 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 金澤義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): Gastrointestinal stromal tumor を合併した空腸憩室に対し単孔式腹腔鏡補助下切除を施行した1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 39) 山初和也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 飯田信也¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 菊池友太¹⁾, 原絵津子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 積極的脾切除を施行した異時性子宮平滑筋肉腫脾転移症例. 千葉肝胆脾外科フォーラム (千葉), 2013. 11.
- 40) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 松本智司¹⁾, 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 標準化に向けた腹腔鏡下脾切除術の手術手技について. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 41) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 佐々木順平²⁾, 松田明久²⁾, 鈴木英之³⁾, 古川清憲⁴⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 4) 赤羽病院): 局所進行直腸癌に対する術前化学

- 放射線療法. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 42) 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 松田明久²⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 原絵津子²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): Stage IV 大腸癌に対する liquid biopsy によるモニタリングを利用した EGFR 阻害剤の新治療戦略. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 43) 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 松本智司²⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹腔鏡下脾切除術におけるエネルギーデバイスの選択と工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 44) 松谷 毅¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術, 腹腔補助下胃管作成術および再建術の定型化. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 45) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 上田康二¹⁾, 保田智彦¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 金澤義一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 菅野仁士²⁾, 荻原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学外科): 進行癌を含めた上部限局胃癌 (U) に対する噴門側胃切除の可能性 - 合併症, 根治性, 長期予後からみた妥当性. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 46) 安藤文彦¹⁾, 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 絞扼性イレウス診断における enhanced-CT Strangulation Ileus Diagnostic score の有用性. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 47) 栗田智子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 山本陽一郎²⁾, 土屋眞一²⁾, 内田英二³⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科, 2) 日本医科大学付属病院病理部, 3) 日本医科大学消化器外科): 当院における術中断端迅速診断の検討. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 48) 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹腔鏡下左側大腸切除術における左結腸動脈温存 D3 郭清の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 49) 向後英樹¹⁾, 水口義昭¹⁾, 鶴田宏之²⁾, 松本智司²⁾, 横室茂樹²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 若年女性の巨大な腹腔内嚢胞性リンパ管腫に対し単孔式腹腔鏡補助下腫瘍摘出術を施行した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 50) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 上田康二¹⁾, 保田智彦¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 金澤義一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 菅野仁士²⁾, 荻原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学外科): 地域癌拠点病院での胃癌 D2 手術の quality, safety&education. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 51) 山初和也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 飯田信也¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 勝野 晁¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 原絵津子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 外科的切除を施行した異時性子宮平滑筋肉腫膀胱転移症例. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 52) 菊池友太¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 松田明久¹⁾, 勝野 晁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 原絵津子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): SMT 様浸潤形式を呈した胃粘液癌に対し腹腔鏡補助下胃切除術を施行した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 53) 岩本美樹¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 山下浩二¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科, 2) 日本医科大学消化器外科): Bevacizumab と Paclitaxel の併用療法で長期奏功を得た進行乳癌症例. 日

本臨床外科学会総会（第75回）（名古屋），2013. 11.

- 54) 大草幹大¹⁾，進士誠一¹⁾，菅 隼人¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，山岸杏彌¹⁾，原 敬介¹⁾，原田潤一郎¹⁾，関口久美子¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学消化器外科）：腹壁膿瘍を伴ったSpigelヘルニアの1例。日本臨床外科学会総会（第75回）（名古屋），2013. 11.
- 55) 中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，勝野 暁¹⁾，張 一光¹⁾，山初和也¹⁾，川本聖郎¹⁾，住吉宏樹¹⁾，相本隆幸¹⁾，野村 務¹⁾，松本智司¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学 消化器外科）：腹腔鏡下臍切除術の標準化について考える。日本内視鏡外科学会総会（第26回）（福岡），2013. 11.
- 56) 松田明久¹⁾，宮下正夫¹⁾，松谷 毅²⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，勝野 暁¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，若林秀幸²⁾，Ping W³⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾日本医科大学消化器外科，³⁾ファインスタイン医学研究所）：生体侵襲後の臓器障害におけるMFG-E8の役割とその治療応用。日本外科感染症学会総会（第26回）（神戸），2013. 11.
- 57) 高橋吾郎¹⁾，櫻澤信行¹⁾，横室茂樹¹⁾，宮下正夫¹⁾，菊池友太¹⁾，早川朋宏¹⁾，山初和也¹⁾，勝野 暁¹⁾，松田明久¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，堀場光二¹⁾，瀬谷知子¹⁾，羽鳥 努²⁾，野村 務³⁾，その他2名（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 外科，²⁾日本医科大学千葉北総病院 病理部，³⁾日本医科大学付属病院 外科）：背部痛を伴う食道粘膜下腫瘍に対する胸腔鏡下切除術。千葉県外科医会（第68回）（千葉），2013. 7.
- 58) 早川朋宏¹⁾，宮下正夫¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，飯田信也¹⁾，松本智司¹⁾，鶴田宏之¹⁾，櫻澤信行¹⁾，松田明久¹⁾，勝野 暁¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，菊池友太¹⁾，羽鳥 努²⁾，その他2名（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 外科，²⁾日本医科大学千葉北総病院 病理部）：尿管遺残症に対して単孔式腹腔鏡下尿管遺残摘出術を施行した1例。千葉県外科医会（第68回）（千葉），2013. 7.
- 59) 松本智司¹⁾，菅 隼人²⁾，山田岳史²⁾，櫻澤信行¹⁾，小泉岐博²⁾，松田明久¹⁾，進士誠一¹⁾，高橋吾郎¹⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 外科，²⁾日本医科大学付属病院 消化器外科）：左側進行結腸癌に対する鏡視下D3郭清と剥離・吻合。日本内視鏡外科学会総会（第26回）（福岡），2013. 11.
- 60) 櫻澤信行¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，松本智司¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松田明久¹⁾，勝野 暁¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，下田朋宏¹⁾，菊池友太¹⁾，原絵津子¹⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾日本医科大学付属病院 消化器外科）：噴門GISTにイルミネーションロッド（先端発光棒端子）による局在認識下の腹腔鏡下胃局所切除を施行した1例。日本内視鏡外科学会総会（第26回）（福岡），2013. 11.
- 61) 山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司²⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，松田明久²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学 消化器外科，²⁾日本医科大学 千葉北総病院 外科）：結腸癌腹腔鏡手術では小腸運動，身体機能が早期に回復する。日本内視鏡外科学会総会（第26回）（福岡），2013. 11.
- 62) 谷 杏彌¹⁾，内田英二¹⁾，山田岳史¹⁾，松本智司²⁾，水口義昭¹⁾，進士誠一¹⁾（¹⁾日本医科大学 消化器外科，²⁾日本医科大学 千葉北総病院 外科）：教育機関で行うHybrid腹腔鏡補助下虫垂切除術：双孔式から単孔式，interval appendectomyへ。日本内視鏡外科学会総会（第26回）（福岡），2013. 11.
- 63) 中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，吉岡正人¹⁾，水口義昭¹⁾，川野陽一¹⁾，清水哲也¹⁾，神田知洋¹⁾，野村 務¹⁾，谷合信彦¹⁾，松本智司¹⁾，牧野浩司¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学 消化器外科）：腹腔鏡下胆管空腸吻合術の手術手技について。日本内視鏡外科学会総会（第26回）（福岡），2013. 11.
- 64) 進士誠一¹⁾，川野陽一¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司²⁾，中村慶春¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，柿沼大輔¹⁾，山岸杏彌¹⁾，原 敬介¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学 消化器外科，²⁾日本医科大学 千葉北総病院 外科）：腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術における合併症予防のための工夫。日本内視鏡外科学会総会（第26回）（福岡），2013. 11.
- 65) 野村 務¹⁾，松谷 毅¹⁾，荻原信敏¹⁾，牧野浩司²⁾，丸山 弘²⁾，中村慶春¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，小野寺浩之¹⁾，若林秀幸¹⁾，宮下正夫³⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 消化器外科，²⁾日本医科大学 多摩永山病院外科，³⁾日本医科大学 千葉北総病院外科）：当施設における食道アカラシア・DESに対する内視鏡外科

治療. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.

- 66) 吉野雅則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 清水貴男¹⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 松本智司²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 当科における腹腔鏡下側方リンパ節郭清: 簡便化と定型化を目指して. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 67) 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司³⁾, 山下直行⁴⁾, 木山輝郎⁵⁾, 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 4) 坪井病院 外科, 5) 東大宮総合病院 外科): 当科における鏡視下幽門側胃切除後 Billroth II 再建の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 68) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 菊池友太¹⁾, 原総津子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 直腸腫瘍に対する単孔式経肛門的内視鏡的腫瘍切除術 (TANKO-TEM) の経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 69) 安藤文彦¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): FOLFOX6 コース施行後に腹腔鏡補助下に切除した直腸癌の 2 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 70) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 松田明久²⁾, 鈴木英之³⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 大腸癌に対する根治的腹腔鏡補助下切除後に非典型的な再発形式を呈した症例の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 71) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 保田智彦¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 松田明久²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 当科における食道破裂・穿孔の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 72) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 青木悠人¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 松田明久¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 病態に基づいた造影 CT による絞扼性イレウスの早期診断. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 73) 高橋吾郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松田明久¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 飯田信也¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 菊池友太¹⁾, 内田英二²⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 閉塞性大腸癌に対する治療成績と当科の治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 74) 安藤文彦¹⁾, 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): Enhanced-CT Strangulation Ileus Diagnostic score を用いた絞扼性イレウスの鑑別. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 75) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 飯田信也¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 菊池友太¹⁾, 内田英二²⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学ちば北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 安全な腹腔鏡下手術を目指した BTS としての大腸ステントの有効性. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 76) 関口久美子¹⁾, 荻原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 進士誠一¹⁾, 眞鍋恵理子¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 後縦隔経路再建の食道癌術後に発症した食道裂孔ヘルニアの 2 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 77) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 宮下正夫³⁾, 横井公良³⁾, 内田英二²⁾, その他 6 名 (1) 日本医科大学

- 多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 上部消化管術後の縫合不全・瘻孔や潰瘍穿孔に対する内視鏡的ドレナージ・クリッピング・OTSC (Over the scope clipping) 治療. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- 78) Matsuda A^{1,2)}, Miyashita M²⁾, Jacob A¹⁾, Aziz M¹⁾, Matsutani T³⁾, Hayakawa T²⁾, Uchida E³⁾, Wang P¹⁾ (¹⁾ Dept of Surgery, Hofstra North Shore LIJ School of Medicine, Manhasset NY, ²⁾ Dept of Surgery, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, Chiba Japan, ³⁾ Dept of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo Japan) : Association between Insertion/Deletion Polymorphism in Angiotensin-converting Enzyme Gene and ALI/ARDS : A Meta-analysis. ANNUAL CONFERENCE ON SHOCK (36th) (San Diego), 2013. 6.
- 79) Yamahatsu K¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Aimoto T¹⁾, Matsushita A¹⁾, Katsuno A¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Laparoscopic surgery for pancreatic insulinomas. Joint Meeting of the International Association of Pancreatology & the Korean Pancreatobiliary Association 2013 (Seoul), 2013. 9.
- 80) Nomura T¹⁾, Matsutani T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Wakabayashi H¹⁾, Makino H²⁾, Maruyama H²⁾, Nakamura Y¹⁾, Fujita I¹⁾, Matsumoto S³⁾, Sekiguchi K³⁾, Miyashita M³⁾, Tajiri T¹⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Division of Digestive Surgery, Nippon Medical School, Japan, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, Japan, ³⁾ Department of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School, Japan) : PRONE VATS-E PROCEDURE AND LAPAROSCOPIC GASTRIC CONDUIT FORMATION. Asia Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgery (11th) (Taipei), 2013. 11.
- 81) Horiba K¹⁾, Miyashita M¹⁾, Seya T¹⁾, Nomura T²⁾, Sakurazawa N¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Uchida E²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba-Hokuso Hospital, Chiba Japan, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo Japan) : CYNCHRONOUS EXPRESSION OF CD147, MONOCARBOXYLATE TRANSPORTER 1 AND THEIR ASSOCIATION WITH CD44 IN ESOPHAGEAL SQUAMOUS CELL CARCINOMA. United european gastroenterology week 2013 (21th) (Berlin), 2013. 10.
- 82) 櫻澤信行¹⁾, 横井公良¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松田明久¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二²⁾, その他 2 名 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科) : 当院における腹腔鏡補助下幽門胃切除に対する再建法の変遷, 吻合器 B-I と縫合器 R-Y の比較検討. 日本消化器外科学会大会 (第 11 回) (東京), 2013. 10.
- 83) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 菊池友太¹⁾, 原絵津子¹⁾, 関口久美子¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 閉塞性大腸癌症例に対する stent-laparoscopic approach (sLAP) の有用性. 千葉県外科医会 (第 70 回) (千葉), 2014. 3.
- 84) 松田明久¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 閉塞性大腸癌に対する治療戦略. SIY メディカルネットワーク (第 1 回) (千葉), 2014. 1.
- 85) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松谷 毅²⁾, 松本智司¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸²⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科) : visfatin 阻害剤 (FK866) による腸管虚血再灌流障害後の急性肺障害抑制効果. 外科侵襲とサイトカイン研究会 (第 20 回) (群馬), 2013. 12.
- 86) 菊池友太¹⁾, 松田明久¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 原絵津子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科) : 腹腔鏡下に修復しえた鼠径部ヘルニア嵌頓の 2 例. 千葉県外科医会 (第 69 回) (千葉), 2013. 11.
- 87) Hara E¹⁾, Yamada T¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Kan H¹⁾, Koizumi M¹⁾, Matsuda A¹⁾, Shinji S¹⁾, Kitano S²⁾, Na-

kayama M²⁾, Ushida H²⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Digestive Surgery Nippon Medical School, 2) Toppan multidiscipline laboratory) : Anti-EGFR antibody rechallenge in patients with metastatic colorectal cancer : usefulness of liquid biopsy to detect KRAS mutation. European Society of Coloproctology (Serbia), 2013. 9.

14. 外科学（乳腺外科学）

[付属病院乳腺科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yamashita K¹⁾, Shimizu K²⁾, Haga S¹⁾ (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrine Surgery, Nippon Medical School) : Breast cancer patients treated by video-assisted breast surgery (VABS) have better long-term results. Proceedings of the 38th World Congress of the International College of Surgeons (November 7-10, 2012, Brisbane, Australia) 2013 ; 37-42.
- 2) Yamashita K¹⁾ (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School) : 3D-CT mammary lymphography can help selective axillary dissection of breast lymph flow differed from the arm. OMICS Journal of Radiology 2014 ; 3 (2) : 158-162.
- 3) Hanamura T^{1, 5)}, Niwa T¹⁾, Gohno T¹⁾, Kurosumi M²⁾, Takei H³⁾, Yamaguchi Y⁴⁾, Ito K⁵⁾, Hayashi S⁶⁾ (1) Department of Molecular and Functional Dynamics Graduate School of Medicine, Tohoku University, 2) Department of Pathology, Saitama Cancer Center, 3) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 4) Research Institute for Clinical Oncology, Saitama Cancer Center, 5) Division of Breast and Endocrine Surgery, Department of Surgery, Shinsyu University School of Medicine, 6) Center for Regulatory Epigenome and Diseases, Graduate School of Medicine, Tohoku University) : Possible role of the aromatase-independent steroid metabolism pathways in hormoneresponsive primary breast cancer. Breast Cancer Res Treat 2014 ; 143 (1) : 69-80.
- 4) Hanamura T^{1, 2)}, Niwa T¹⁾, Nishikawa S¹⁾, Konno H¹⁾, Gohno T¹⁾, Tazawa C¹⁾, Kobayashi Y³⁾, Kurosumi M³⁾, Takei H⁴⁾, Yamaguchi Y⁵⁾, Ito K²⁾, Hayashi S⁶⁾ (1) Department of Molecular and Functional Dynamics Graduate School of Medicine, Tohoku University, 2) Division of Breast and Endocrine Surgery, Department of Surgery, Shinsyu University School of Medicine, 3) Department of Pathology, Saitama Cancer Center, 4) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 5) Research Institute for Clinical Oncology, Saitama Cancer Center, 6) Center for Regulatory Epigenome and Diseases, Graduate School of Medicine, Tohoku University) : Androgen metabolite-dependent growth of hormone receptor-positive breast cancer as a possible aromatase inhibitor-resistance mechanism. Breast Cancer Res Treat 2013 ; 139 (3) : 731-740.
- 5) Takada M^{1, 2)}, Higuchi T³⁾, Tozuka K³⁾, Takei H⁴⁾, Haruta M¹⁾, Watanabe J¹⁾, Kasai F¹⁾, Inoue K⁵⁾, Kurosumi M⁶⁾, Miyazaki M²⁾, Sato-Otsubo A⁷⁾, Ogawa S⁷⁾, Kaneko Y¹⁾ (1) Department of Cancer Diagnosis, Research Institute for Clinical Oncology, Saitama Cancer Center, 2) Department of Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, 3) Department of Breast Surgery, Saitama Cancer Center, 4) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 5) Department of Breast Oncology, Saitama Cancer Center, 6) Department of Pathology, Saitama Cancer Center, 7) Cancer genomics project, Graduate School of Medicine, Tokyo University) : Alterations of the genes involved in the PI3K and estrogen-receptor pathways influence outcome in human epidermal growth factor receptor 2-positive and hormone receptor-positive breast cancer patients treated with trastuzumab-containing neoadjuvant chemotherapy. BMC Cancer 2013 ; 13 : 241.
- 6) Takeuchi H¹⁾, Takei H²⁾, Futsuhara K³⁾, Yoshida T⁴⁾, Kojima M⁵⁾, Kai T⁶⁾, Tabei T (1) Department of Breast Oncology, Saitama Medical University International Medical Center, 2) Department of Breast Surgery,

Nippon Medical School, ³⁾ Department of Surgery, Saitama Medical Center, Jichi Medical School, ⁴⁾ Division of Breast Surgery, Saitama Cancer Center, ⁵⁾ Breast Cancer, Dokkyo Medical University Koshigaya Hospital, ⁶⁾ Shintoshin Ladies Mammo Clinic, ⁷⁾ Division of Breast Oncology, Saitama Cancer Center) : A multicenter prospective study to evaluate bone fracture related to adjuvant anastrozole in Japanese postmenopausal women with breast cancer : two-year interim analysis of Saitama Breast Cancer Clinical Study Group (SBCC-SG-06). Int J Clin Oncol 2014 ; 19 (1) : 68-73.

- 7) 井上賢一¹⁾, 大久保文恵¹⁾, 永井成勲¹⁾, 坪井美樹²⁾, 久保和之²⁾, 黒住 献²⁾, 林 祐二²⁾, 松本広志²⁾, 武井寛幸³⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科, ²⁾ 埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍外科, ³⁾ 日本医科大学 乳腺外科) : Nab-Paclitaxel が誘発する乳癌患者の筋骨格系疼痛に対する Oxycodone 徐放錠の有用性. 癌と化学療法社 2013 ; 40 (8) : 1021-1025.

(2) 総説 :

- 1) 武井寛幸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学乳腺外科) : 乳癌におけるセンチネルリンパ節陽性症例の追加郭清「郭清不要」の立場から. 臨床外科 2014 ; 69 (2) : 221-229.
- 2) 武井寛幸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学乳腺外科) : 第 III 部 治療における最近の新薬の位置付け〈薬効別〉～新薬の広場～ 乳癌治療薬. 医薬ジャーナル 新薬展望 2014 2014 ; 50 (2) : 139-148.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 武井寛幸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学乳腺外科学) : 乳がんにおけるテーラーメイド医療の実際. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.

(2) シンポジウム :

- 1) 山下浩二¹⁾, 赤須東樹²⁾, 五十嵐健人²⁾, 岡村律子²⁾, 軸菌智雄²⁾, 竹間由佳²⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 清水一雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学乳腺外科, ²⁾ 日本医科大学内分泌外科) : 低侵襲と整容性を追求した腫瘍前アプローチによる腋窩単孔式乳腺内視鏡手術. 日本外科学会学術総会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 2) 山下浩二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学乳腺外科) : 乳腺内視鏡手術での乳房皮膚知覚神経温存の検討 (シンポジウム 1「乳房温存におけるオンコプラスチックサージャリー手技」). 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (第 1 回) (福岡), 2013. 9.
- 3) 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 清水一雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学乳腺外科, ²⁾ 日本医科大学内分泌外科) : 早期乳癌に対する乳頭乳輪温存皮下乳腺全摘術での乳輪縁切開アプローチによる単孔乳腺内視鏡手術の有効性 (甲状腺・乳腺「乳腺内分泌外科における小切開・内視鏡外科の進歩」). 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回) (東京), 2013. 11.

(3) ワークショップ :

- 1) 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 清水一雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学乳腺外科, ²⁾ 日本医科大学内分泌外科) : 単孔ポートによる乳腺内視鏡手術による乳房皮膚知覚温存を含めた侵襲度の検証 (甲状腺・乳腺の手術法の工夫). 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.

(4) ポスター :

- 1) 梅澤裕己¹⁾, 江浦重義¹⁾, 百足比古¹⁾, 武井寛幸²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院乳腺科) : 内胸静脈径に関する考察 純粋な DIEP 皮弁を用いた乳房再建. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 2) 岩本美樹¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 山下浩二¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院乳腺科, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科) : Bevacizumab と Paclitaxel の併用療法で長期奏功を得た進行乳癌症例. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.

- 3) 岩本美樹¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 山田岳史²⁾, 栗山 翔²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学付属病院乳腺科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): オキシコドン注射剤による Rapid Titration 投与量の評価と換算比率についての検討. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.
 - 4) 栗田智子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 山本陽一郎²⁾, 土屋眞一²⁾, 内田英二³⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院乳腺科, 2) 日本医科大学付属病院病理部, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当院における術中断端迅速診断の検討. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.
 - 5) 時庭英彰¹⁾, 堀口 淳¹⁾, 高他大輔¹⁾, 菊池麻美¹⁾, 長岡りん¹⁾, 六反田奈和¹⁾, 佐藤亜矢子¹⁾, 内田紗弥香¹⁾, 小山徹也²⁾, 竹吉 泉¹⁾, 狩野貴之¹⁾, 細野 治¹⁾, 横森忠紘¹⁾, 前村道生¹⁾, 武井寛幸³⁾, その他2名 (1) 群馬大学大学院臓器病態外科学, 2) 群馬大学病理診断学, 3) 日本医科大学付属病院乳腺科): 閉経後乳癌に対するトレミフェンとタモキシフェンの術後補助療法における有用性の比較検討. 日本乳癌学会学術総会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
 - 6) 濱畑淳盛¹⁾, 齋藤 喬¹⁾, 久保和之¹⁾, 武井寛幸²⁾, 櫻井裕之³⁾ (1) 埼玉県立がんセンター形成外科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科, 3) 東京女子医科大学形成外科): Waistline incisional extended latissimus dorsi muscle flap による乳房再建の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
 - 7) 久保和之¹⁾, 坪井美樹¹⁾, 黒住 猷¹⁾, 二宮 淳¹⁾, 林 祐二¹⁾, 松本広志¹⁾, 武井寛幸²⁾, 大庭華子³⁾, 黒住昌史³⁾, 濱畑淳盛⁴⁾, 齋藤 喬⁴⁾, 櫻井裕之⁵⁾ (1) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科, 3) 埼玉県立がんセンター病理診断科, 4) 埼玉県立がんセンター形成外科, 5) 東京女子医科大学形成外科): 非浸潤性乳癌に対する即時乳房再建術の妥当性の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
 - 8) 花村 徹¹⁾, 丹羽俊文¹⁾, 郷野辰幸¹⁾, 山口ゆり²⁾, 黒住昌史³⁾, 武井寛幸⁴⁾, 伊藤研一¹⁾, 林 慎一¹⁾ (1) 東北大学大学院医学系研究科分子機能解析学, 2) 埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所, 3) 埼玉県立がんセンター病理診断科, 4) 日本医科大学付属病院乳腺科): 閉経後ホルモン感受性乳癌における Androgen 代謝による Aromatase 非依存的 ER 活性化機構と新規治療の可能性. 日本乳癌学会学術総会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
 - 9) 大久保文恵¹⁾, 永井成勲¹⁾, 井上賢一¹⁾, 坪井美樹²⁾, 黒住 猷²⁾, 久保和之²⁾, 林 祐二²⁾, 松本広志²⁾, 武井寛幸³⁾, 黒住昌史⁴⁾ (1) 埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科, 2) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 3) 日本医科大学付属病院乳腺科, 4) 埼玉県立がんセンター病理診断科): 進行・再発乳癌に対する Paclitaxel/Bevacizumab 併用療法における病態別治療効果の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
 - 10) 松本広志¹⁾, 武井寛幸²⁾, 林 祐二¹⁾, 黒住 猷¹⁾, 坪井美樹¹⁾, 久保和之¹⁾, 二宮 淳¹⁾, 黒住昌史³⁾, 大庭華子³⁾, 井上賢一⁴⁾, 永井成勲⁴⁾, 大久保文恵⁴⁾ (1) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科, 3) 埼玉県立がんセンター病理診断科, 4) 埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科): 乳房温存療法の長期予後と再発形式に対する検討. 日本乳癌学会学術総会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
- (5) 一般講演:
- 1) Yamashita K¹⁾, Haga S¹⁾, Shimizu K²⁾ (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrine Surgery, Nippon Medical School): Pretumoral approach of trans-axillary video-assisted breast surgery aimed at low-invasion and high-aesthetics. 14th Annual Meeting of American Society of Breast Surgery (第14回) (Chicago, IL, USA), 2013. 5.
 - 2) Yamashita K¹⁾, Haga S¹⁾, Shimizu K²⁾ (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrine Surgery, Nippon Medical School): Single port surgery with pretumoral approach of trans-axillary video-assisted breast surgery aimed at low-invasion and high-aesthetics. 21th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (第21回) (Vienna, Austria), 2013. 6.
 - 3) Yamashita K¹⁾ (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School): Video-assisted breast surgery (VABS) brings better long-term results on early breast cancer patients. International Surgical Week ISW 2013 (第45回) (Helsinki, Finland), 2013. 8.

- 4) Yamashita K¹⁾, Takei H¹⁾, Shimizu K²⁾ (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrine Surgery, Nippon Medical School) : Endoscopic single port skin-sparing total mastectomy with periareolar incision : Early results. 2013 Breast Cancer Symposium of ASCO (第6回) (San Francisco, CA, USA), 2013. 9.
- 5) Yamashita K¹⁾, Takei H¹⁾, Shimizu K²⁾ (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrine Surgery, Nippon Medical School) : Periareolar single-port surgery of skin-sparing mastectomy by video-assisted breast surgery (VABS) is better aesthetic and lower invasive. The European Cancer Congress 2013 (ECCO17 - ESMO38 - ESTRO32) (第17回) (Amsterdam, Netherland), 2013. 9.
- 6) Yamashita K¹⁾, Takei H¹⁾, Shimizu K²⁾ (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrine Surgery, Nippon Medical School) : Single port surgery with pretumoral approach of transaxillary video-assisted breast surgery aimed at low-invasion. The 11th Asia Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgery (第11回) (Taipei, Taiwan), 2013. 11.
- 7) Yamashita K¹⁾, Takei H¹⁾, Shimizu K²⁾ (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrine Surgery, Nippon Medical School) : Neurological advantage of video-assisted breast surgery over the conventional surgery for early breast cancer. The 9th European Breast Cancer Conference (EBCC9) (第9回) (Glasgow, England), 2014. 3.
- 8) 山下浩二¹⁾, 五十嵐健人²⁾, 岡村律子²⁾, 軸藺智雄²⁾, 竹間由佳²⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 清水一雄²⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科, 2) 日本医科大学内分泌外科) : 術前化学療法後の乳腺内視鏡手術 VABS の長期成績. 日本乳癌学会学術総会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
- 9) 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 乳腺科) : 早期乳癌に対する乳頭乳輪温存皮下乳腺全摘術での乳輪縁切開アプローチによる乳腺内視鏡手術の有効性. 乳腺内視鏡手術研究会 (第26回) (浜松), 2013. 6.
- 10) 山下浩二¹⁾, 五十嵐健人²⁾, 岡村律子³⁾, 軸藺智雄²⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 清水一雄²⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科, 2) 日本医科大学内分泌外科) : 乳腺内視鏡手術による低侵襲と乳房皮膚知覚神経温存の検証. 日本癌治療学会学術集会 (第51回) (京都), 2013. 10.
- 11) 山下浩二¹⁾, 五十嵐健人²⁾, 岡村律子²⁾, 軸藺智雄²⁾, 岩本美樹¹⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 清水一雄²⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科, 2) 日本医科大学内分泌外科) : 甲状腺・乳腺の手術法の工夫 単孔ポートによる乳腺内視鏡手術による乳房皮膚知覚温存を含めた侵襲度の検証. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 12) 谷 瞳¹⁾, 村上隆介¹⁾, 曾田久美子¹⁾, 織田絵里香¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 岩本美樹²⁾, 栗田智子²⁾, 柳原恵子²⁾, 飯田信也²⁾, 武井寛之²⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科) : 石灰化を伴わない DCIS の検討. 日本乳癌学検診学会 (第23回) (東京), 2013. 11.
- 13) 岩本美樹¹⁾, 飯田信也¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 栗田智子¹⁾, 山下浩二¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 内田英二²⁾, 土屋眞一³⁾ (1) 日本医科大学付属病院乳腺科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 日本医科大学付属病院病理部) : 当院における Ki-67 発現率の検討 : 臨床病理学的因子の相関性. 日本乳癌学会学術集会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
- 14) 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 栗田智子¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 山下浩二¹⁾, 村上隆介²⁾, 谷 瞳²⁾, 樋口勝美³⁾, 古川清憲⁴⁾, 芳賀駿介¹⁾, 土屋眞一⁵⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科, 2) 日本医科大学放射線科, 3) 安東病院, 4) 赤羽病院, 5) 日本医科大学病理部) : XC 療法 7 例の検討. 日本乳癌学会学術集会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
- 15) 山田理恵子¹⁾, 加藤博之¹⁾, 飯田信也²⁾, 柳原恵子²⁾, 栗田智子²⁾, 岩本美樹²⁾, 宮崎正二郎³⁾, 杉木孝章³⁾, 飯田富雄⁴⁾, 芳賀駿介²⁾ (1) 東京女子医科大学東医療センター検査科, 2) 日本医科大学乳腺外科, 3) 谷津保険病院外科, 4) 南千住病院外科) : 乳癌術後抗エストロゲン剤 (クエン酸トレミフェン) 投与例の脂質代謝に関する検討 (第2報). 日本乳癌学会学術集会 (第21回) (浜松), 2013. 6.
- 16) 飯田信也¹⁾, 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 栗田智子¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 天神敏博²⁾, 横山 正³⁾, 土屋眞一⁴⁾, 内田英

- 二⁵⁾、芳賀駿介¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院乳腺外科, 4) 日本医科大学付属病院病理部, 5) 日本医科大学消化器外科): 転移再発乳癌に対するエリプリンの QOL 向上効果, 腫瘍縮小効果, 安全性に関する前向き研究. 日本乳癌学会学術集会 (第 21 回) (浜松), 2013. 6.
- 17) 坪井美樹¹⁾, 永井成勲²⁾, 大久保文恵²⁾, 井上賢一²⁾, 黒住 猷¹⁾, 久保和之¹⁾, 林 祐二¹⁾, 松本広志¹⁾, 武井寛幸³⁾, 黒住昌史⁴⁾ (1) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 2) 埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科, 3) 日本医科大学乳腺外科, 4) 埼玉県立がんセンター病理診断科): HER2 陽性乳癌脳転移局所療法後の初回抗 HER2 治療の選択と予後との関係. 日本乳癌学会学術集会 (第 21 回) (浜松), 2013. 6.
- 18) 林 祐二¹⁾, 武井寛幸²⁾, 松本広志¹⁾, 黒住 猷¹⁾, 坪井美樹¹⁾, 久保和之¹⁾, 二宮 淳¹⁾, 井上賢一³⁾, 永井成勲³⁾, 大久保文恵³⁾, 黒住昌史⁴⁾, 大庭華子⁴⁾ (1) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 2) 日本医科大学乳腺外科, 3) 埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科, 4) 埼玉県立がんセンター病理診断科): 乳癌術前化学療法後の造影 MRI 所見と病理学的切除断端との関連性 サブタイプ別の検討を加えて. 日本乳癌学会学術集会 (第 21 回) (浜松), 2013. 6.
- 19) 黒住 猷¹⁾, 武井寛幸²⁾, 井上賢一³⁾, 松本広志¹⁾, 林 祐二¹⁾, 坪井美樹¹⁾, 永井成勲³⁾, 黒住昌史⁴⁾, 堀口 淳⁵⁾, 竹吉 泉⁵⁾, 二宮 淳¹⁾, 久保和之¹⁾, 大久保文恵³⁾, 大庭華子⁴⁾ (1) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 2) 日本医科大学乳腺外科, 3) 埼玉がんセンター乳腺腫瘍内科, 4) 埼玉がんセンター病理診断科): ER 陽性・HER2 陽性乳癌における術前 trastuzumab 併用化学療法の予後予測因子に関する臨床病理学的検討. 日本乳癌学会学術集会 (第 21 回) (浜松), 2013. 6.
- 20) 赤木 究¹⁾, 角田美穂¹⁾, 横枕令子²⁾, 清水美津江²⁾, 武井寛幸³⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腫瘍診断・予防科, 2) 埼玉県立がんセンター看護部, 3) 日本医科大学乳腺外科): 遺伝性乳がんハイリスク家系の拾い上げにおける問題点. 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 37 回) (東京), 2013. 6.

15. 外科学（内分泌外科学）

[付属病院内分泌外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kitano M¹⁾, Sugitani I, Toda K¹⁾, Ikenaga M¹⁾, Motoi N¹⁾, Yamamoto N¹⁾, Hotomi M¹⁾, Fujimoto Y¹⁾, Kawabata K¹⁾ (1) Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital) : Cytopathological review of patients that underwent thyroidectomies based on the diagnosis of papillary thyroid carcinoma by fine needle aspiration cytology but were later found to have benign tumors by histopathology. *Surg Today* 2013 ; 43 (6) : 632-637.
- 2) Miki K¹⁾, Orita Y¹⁾, Sato Y¹⁾, Sugitani I, Noyama M¹⁾, Fujii S¹⁾, Domae S¹⁾, Nose S¹⁾, Hamaya K¹⁾, Yoshino T¹⁾, Nishizaki K¹⁾ (1) Okayama University) : Mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma of the thyroid with abundant IgG4-positive plasma cells. *Auris Nasus Larynx* 2013 ; 40 (6) : 587-590.
- 3) 軸藺智雄¹⁾, 川本雅司²⁾, 吉武 洋³⁾, 菊池邦生³⁾, 赤須東樹⁴⁾, 石川 仁⁵⁾, 廣川満良⁶⁾, 宮内 昭⁶⁾, 土屋真一⁷⁾, 清水一雄¹⁾, 瀧澤俊広³⁾ (1) 日本医科大学内分泌外科, 2) 帝京大学医学部附属溝口病院臨床病理科, 3) 日本医科大学大学院分子解剖学, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院内分泌外科, 5) 済生会山形済生病院, 6) 神甲会隈病院, 7) 日本医科大学病理部) : The miR-221/222 cluster, miR-10b and miR-92a are highly upregulated in metastatic minimally invasive follicular thyroid carcinoma. *INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY* 2013 ; 42 (6) : 1858-1868.
- 4) Yamamoto Y¹⁾, Yamada K¹⁾, Motoi N¹⁾, Fujiwara Y¹⁾, Toda K¹⁾, Sugitani I, Kohno A¹⁾ (1) Cancer Institute Hospital) : Sonographic findings in three cases of carcinoma showing thymus-like differentiation. *J Clin Ultrasound* 2013 ; 41 (9) : 574-578.
- 5) Igarashi T, Shimizu K, Yakubouski S, Akasu H, Okamura R, Sugitani I, Jikuzono T, Danilov L¹⁾ (1) Belarusian Medical Academy of Postgraduate Education,) : Introduction and use of video-assisted endoscopic thyroidectomy in the Republic of Belarus, for patients affected by the Chernobyl atomic accident. *Asian Journal of Endoscopic Surgery* 2013 ; 6 (4) : 298-302.
- 6) 五十嵐健人, 杉谷 巖 : 多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブック : MEN2. 家族性腫瘍 2014 ; 14 (1) : 12-14.

(2) 総説：

- 1) 杉谷 巖 : 甲状腺・副甲状腺手術における術中神経モニタリング. *日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌* 2013 ; 30 (3) : 197-200.
- 2) 岡村律子¹⁾, 杉谷 巖¹⁾ (1) 日本医科大学 外科学 内分泌外科) : 甲状腺癌に対する分子標的療法の現況と展望. *癌と化学療法* 2014 ; 41 (2) : 148-152.
- 3) 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 内分泌外科) : チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診の経験と福島原発事故被災者に対する今後の対応. *病体生理* 2013 ; 47 (通巻 112 号) : 2-5.
- 4) 小野田尚佳^{1, 5)}, 杉谷 巖⁵⁾, 鈴木真一^{2, 5)}, 吉田 明^{3, 5)}, 神森 眞^{4, 5)} (1) 大阪市立大学 腫瘍外科, 2) 福島県立医科大学 乳腺甲状腺内分泌外科, 3) 神奈川県立がんセンター 乳腺甲状腺外科, 4) 金地病院 外科, 5) 甲状腺未分化癌研究コンソーシアム) : 甲状腺未分化癌研究コンソーシアム. *日本甲状腺学会雑誌* 2013 ; 4 (2) : 114-116.

(3) 症例報告：

- 1) 志村英二¹⁾, 杉谷 巖, 戸田和寿¹⁾, 井下尚子¹⁾, 佐藤由紀子¹⁾, 元井紀子¹⁾ (1) がん研究会有明病院 頭頸科) : 頸部顆粒細胞腫の1症例. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 2013; 30 (2) : 152-155.
- 2) 北野陸三¹⁾, 杉谷 巖, 戸田和寿¹⁾, 元井紀子¹⁾, 藤本吉秀¹⁾, 川端一嘉¹⁾ (1) がん研究会有明病院 頭頸科) : 気管浸潤と総頸動脈を3/4周取り囲み, 切除不能と思われた Carcinoma Showing Thymus-like Differentiation (CASTLE) の1例. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 2013; 30 (2) : 156-159.
- 3) Igarashi T, Okamura R, Jikuzono, T, Shimizu A¹⁾, Tsuchiya S²⁾, Shimizu K (1) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, 2) Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School) : Malignant Granular Cell Tumor of the Thyroid: A Case Report. Journal of Basic & Clinical Medicine 2013; 2 (1) : 17-19.
- 1) 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 内分泌外科) : 第107回医師国家試験問題解説書. 医学評論社 2013.

著書

- 1) 岡村律子, 清水一雄 (1) 日本医科大学内分泌外科) : [分担] II 臨床編, 第1章 副甲状腺関連疾患, 第2節 C 副甲状腺癌. 副甲状腺・骨代謝疾患診療マニュアル (監修 平田結喜緒, 編集 竹内靖博, 杉本利嗣, 成瀬光栄), 2013; pp60-61, 診断と治療社.
- 2) 杉谷 巖 : [分担] Q55 MEN2における甲状腺髄様癌に対する手術適応は?. 多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブック (多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブック編集委員会), 2013; pp123-125, 金原出版.
- 3) 杉谷 巖, 内野真也¹⁾, 杉野公則²⁾ (1) 野口病院, 2) 伊藤病院) : [分担] 「良性」結節に手術を選択する条件. 甲状腺結節取扱い診療ガイドライン2013 (日本甲状腺学会), 2013; pp151-155, 南江堂.
- 4) 杉谷 巖 : [分担] 代表的医療機関におけるわが国の臨床データ: がん研有明病院頭頸科 (癌専門施設). 甲状腺結節取扱い診療ガイドライン2013 (日本甲状腺学会), 2013; pp257-262, 南江堂.
- 5) 五十嵐健人 : [分担] CQ51 MEN2を積極的に疑う褐色細胞腫は?. 多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブック (多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブック編集委員会編), 2013; pp111-111, 金原出版株式会社.
- 6) 杉谷 巖 : [分担] Q56 MEN2における甲状腺髄様癌に対する術式は?. 多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブック (多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブック編集委員会), 2013; pp126-127, 金原出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Shimizu K¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 内分泌外科) : LONG TERM EXPERIENCE OF MASS SCREENING FOR THYROID CANCER IN BELARUS IN THE AFTERMATH OF THE CHERNOBYL NUCLEAR ACCIDENT...CONSIDERING THE EFFECTS OF THE FUKUSHIMA NUCLEAR ACCIDENT ON THYROIDIS... Annual Meeting of ASIA-PACIFIC ENDOCRINE CONFERENCE (the 24th) (中国・上海), 2013. 7.
- 2) 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 内分泌外科) : 放射線被曝の人体に及ぼす影響: チェルノブイリの経験を基にして. 草加・八潮医師会 学術講演会 (埼玉県草加市), 2013. 9.
- 3) 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 内分泌外科) : 放射線被ばくと甲状腺癌: チェルノブイリ検診の経験から考える甲状腺の治療と福島原発後の対応. 弘前癌治療懇話会 (第60回記念) (弘前市), 2013. 7.
- 4) 杉谷 巖 : 甲状腺の臨床. 平成25年東京都臨床検査技師会学術部病理細胞診検査研究班研修会 (東京都), 2013. 5.
- 5) 杉谷 巖 : 甲状腺癌の診療: 最近の潮流と外科医の役割. 日本国際医学協会国際治療談話会例会 (第410回) (東京都), 2013. 7.

- 6) 小野田尚佳¹⁾, 杉谷 巖, 鈴木眞一²⁾, 吉田 明³⁾, 神森 眞⁴⁾ (1) 大阪市立大学, 2) 福島県立医大, 3) 神奈川県がんセンター, 4) 金地病院): 甲状腺未分化癌研究コンソーシアム, 日本甲状腺外科学会学術集会 (第 46 回) (愛知県名古屋市), 2013. 9.
- (2) 招待講演:
- 1) Igarashi T: Oncoplastic Surgery in Japan. International Oncoplastic Thyroid Surgery Symposium (1) (韓国ソウル), 2013. 6.
- (3) 教育講演:
- 1) 杉谷 巖: 甲状腺癌の診断と治療: 乳頭癌を中心に. 福島県医師会甲状腺超音波検査講習会 (福島県会津若松市), 2013. 6.
- (4) シンポジウム:
- 1) 岡村律子¹⁾, 長岡竜太¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 赤須東樹²⁾, 杉谷 巖¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 外科学 内分泌外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科): パセドウ病における VANS 法, 安全な手術のための術式の変遷. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回) (東京都), 2013. 11.
- 2) Shimizu K: Endoscopic thyroidectomy-experience of 670 cases including 8 cases performed in Belarus. Biennial Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (14th) (Sri Lanka), 2014. 3.
- 3) 杉谷 巖, 藤本吉秀¹⁾ (1) がん研究会有明病院): 無症候性微小乳頭癌の自然経過と血清 TSH. 日本内分泌外科学会総会 (第 25 回) (山形市), 2013. 5.
- 4) 杉谷 巖, 五十嵐健人: MEN ガイドブック: MEN2. 日本家族性腫瘍学会学術集会 (第 19 回) (大分県別府市), 2013. 7.
- 5) Sugitani I: Treatment Strategy for Patients with Papillary Thyroid Microcarcinoma: Including Non-surgical Observation. 2013 Annual meeting of Korean Thyroid Association (Gwangju, Korea), 2013. 8.
- 6) 蛭名 彩¹⁾, 杉谷 巖, 戸田和寿¹⁾, 藤本吉秀¹⁾ (1) がん研究会有明病院): 甲状腺乳頭癌に対する独自の癌死危険度分類に基づく甲状腺切除範囲の決定とその成績. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第 46 回) (愛知県名古屋市), 2013. 9.
- 7) 杉谷 巖: 甲状腺疾患 (がん) の臨床. 日臨技首都圏支部医学検査学会 (第 2 回) (東京都), 2013. 10.
- 8) 杉谷 巖: 独自の癌死危険度分類に基づく甲状腺乳頭癌の治療方針決定: とくに低危険度群に対する甲状腺温存切除の功罪について. 日本甲状腺学会学術集会 (第 56 回) (和歌山市), 2013. 11.
- 9) 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 清水一雄: 当科における褐色細胞腫に対する内視鏡手術の現状. 日本内分泌外科学会 (第 25 回) (山形県山形市), 2013. 5.
- 10) 五十嵐健人, 岡本高宏¹⁾, 鈴木眞一²⁾, 清水一雄 (1) 日本内分泌外科学会 NCD 担当理事, 2) 日本内分泌外科学会理事長): 特別報告: 2011 年度 NCD 登録症例に見る甲状腺分化癌に対する甲状腺切除術式選択. 日本甲状腺外科学会 (第 46 回) (愛知県名古屋市), 2013. 9.
- (5) セミナー:
- 1) 杉谷 巖: 甲状腺癌に対する分子標的治療の黎明期を迎えて. 日本内分泌外科学会総会 (第 25 回) (山形市), 2013. 5.
- (6) 一般講演:
- 1) 岡村律子¹⁾, 長岡竜太¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 赤須東樹²⁾, 杉谷 巖¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 内分泌外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科): 骨転移を契機に診断された甲状腺濾胞癌の 1 例. 日本甲状腺学会学術集会 (第 56 回) (和歌山県), 2013. 11.
- 2) 清水一雄¹⁾, 片山昭宏²⁾, 杉谷 巖¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 山田英雄³⁾ (1) 日本医科大学付属病院 内分泌外科, 2) 札幌徳洲会病院, 3) チェルノブイリ支援ネットワーク): ベラルーシ共和国における内視鏡補助下甲状腺手術 (VANS 法): 8 例の経験. 日本甲状腺学会学術集会 (第 56 回) (和歌山県),

2013. 11.

- 3) 長岡竜太, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹¹⁾, 杉谷 巖, 清水一雄 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内分泌外科) : 成人に発症した頸部嚢胞状リンパ管腫の2症例. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第八回) (東京虎ノ門), 2013. 5.
- 4) 長岡竜太, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹¹⁾, 杉谷 巖, 清水一雄 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内分泌外科) : 成人に発症した頸部嚢胞状リンパ管腫の1例. 外科集談会 (第833回) (東京大学山上会館), 2013. 6.
- 5) 長岡竜太, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 杉谷 巖, 清水一雄 : 高分化型成分の混在した甲状腺未分化癌の1例. 日本甲状腺外科学会 (第46回) (愛知県産業労働センター), 2013. 9.
- 6) 長岡竜太, 杉谷 巖, 藤本吉秀¹⁾ (¹⁾ がん研有明病院 頭頸科) : 無症候性微小乳頭癌の自然経過と血清 TSH. 甲状腺病態生理研究会 (第30回) (四谷 弘済会館), 2014. 2.
- 7) Sugitani I, Toda K¹⁾, Fujimoto Y¹⁾ (¹⁾ Cancer Institute Hospital) : Prospective evaluation of zoledronic acid in the treatment of bone metastases from differentiated thyroid carcinoma. 34th annual meeting of the American Association of Endocrine Surgeons (Chicago, USA), 2013. 4.
- 8) 戸田和寿¹⁾, 杉谷 巖, 藤本吉秀¹⁾, 川端一嘉¹⁾, 山田恵子¹⁾, 横山雅大¹⁾, 荒井裕司¹⁾, 津山直子¹⁾, 竹内賢吾¹⁾, 元井紀子¹⁾ (¹⁾ がん研究会有明病院) : 甲状腺濾胞性樹状細胞肉腫の1例. 日本内分泌外科学会総会 (第25回) (山形市), 2013. 5.
- 9) Sugitani I, Fujimoto Y¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Cancer Institute Hospital) : Association between Serum Thyrotropin Concentration and Growth of Asymptomatic Papillary Thyroid Microcarcinoma. International Surgical Week, International Association of Endocrine Surgeons 2013 (Helsinki, Finland), 2013. 8.
- 10) Yoshida A¹⁾, Sugino K²⁾, Sugitani I, Miyauchi A³⁾ (¹⁾ Kanagawa Cancer Center, ²⁾ Ito Hospital, ³⁾ Kuma Hospital) : Incidental anaplastic thyroid carcinomas found on postoperative pathological examination. International Surgical Week, International Association of Endocrine Surgeons 2013 (Helsinki, Finland), 2013. 8.
- 11) 萬谷 舞, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 長岡竜太, 杉谷 巖, 清水一雄 : 日本医科大学における内分泌外科臨床配属実習の現状. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第46回) (愛知県名古屋市), 2013. 9.
- 12) 日野るみ¹⁾, 元井紀子¹⁾, 蛭名 彩¹⁾, 北野睦三¹⁾, 戸田和寿¹⁾, 杉谷 巖, 山田恵子¹⁾, 川端一嘉¹⁾, 石川雄一¹⁾ (¹⁾ がん研究会有明病院) : 副甲状腺癌の1例. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第46回) (愛知県名古屋市), 2013. 9.
- 13) 保富宗城¹⁾, 戸田和寿²⁾, 藤本吉秀²⁾, 川端一嘉²⁾, 山中 昇¹⁾, 杉谷 巖 (¹⁾ 和歌山県立医大, ²⁾ がん研究会有明病院) : 甲状腺外浸潤よりみた甲状腺乳頭癌の予後予測. 日本甲状腺学会学術集会 (第56回) (和歌山市), 2013. 11.

論文

〔追加分〕

追加分総説 :

- 1) 杉谷 巖, 藤本吉秀¹⁾ (¹⁾ がん研究会有明病院 頭頸科) : 甲状腺乳頭癌に対する TSH 抑制療法の再発抑制効果についてのランダム化比較試験および骨密度への影響についての前向き試験. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 2013 ; 30 (1) : 18-22.
- 2) 杉谷 巖 : 甲状腺未分化癌の臨床. 病理と臨床 2013 ; 31 (1) : 38-43.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) Shimizu K¹⁾, Akasu H¹⁾, Igarashi T¹⁾, Okamura R¹⁾, Kiyomi H¹⁾, Takema Y¹⁾ (1) 日本医科大学 内分泌外科)：VIDEO-ASSISTED ENDOSCOPIC THYROID AND PARATHYROID SURGERY USING GASLESS SKIN LIFTING METHOD-AN EXPERIENCE OF 569 CASES. International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (20th) (Brussels, Belgium), 2012. 6.

追加分教育講演：

- 1) 杉谷 巖：甲状腺癌診療の要点：患者の不安を取り除くために。日本画像医学会（第32回）（東京都），2013. 2.

追加分招待講演：

- 1) Shimizu K¹⁾ (1) 日本医科大学 内分泌外科)：・Ultrasound features of benign thyroid nodule・Ultrasound features of malignant thyroid nodule/lymph nodes. Thyroid and Parathyroid Ultrasound Workshop (Kuala Lumpur, Malaysia), 2012. 7.

追加分特別講演：

- 1) 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 内分泌外科)：放射線被曝の人体に及ぼす影響：チェルノブイリの経験を基にして。三郷市 市民健康講座 ～もう一度大震災を考えよう～(第1回) (埼玉県三郷市)，2013. 3.
- 2) 清水一雄¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 竹間由佳¹⁾, 土屋真一²⁾, 山田英雄³⁾, 渡会泰彦³⁾, 村瀬幸宏³⁾ (1) 日本医科大学 内分泌外科, 2) 日本医科大学 病理部, 3) チェルノブイリ医療支援ネットワーク)：チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診の経験：福島原発事故に対する今後の対応。日本臨床細胞学会総会（第53回）（千葉県），2012. 6.
- 3) 杉谷 巖：甲状腺癌について。うつくしま甲状腺外科フォーラム（第14回）（福島県郡山市），2013. 2.

16. 外科学（心臓血管外科学）

[付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Bessho R¹, Ishii Y¹, Nishina D¹, Kawase Y¹ (1) Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital Cardiovascular Surgery) : Thoracic aortic aneurysms in octogenarians : The results of open surgical repair using hypothermic circulatory arrest with antegrade selective cerebral perfusion. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (1) : 12-19.
- 2) Bessho R¹, Fujii M², Ishii Y¹, Ochi M², Shimizu K² (1) Department of Cardiothoracic Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, (2) Division of Cardiovascular Surgery, Department Surgery, Nippon Medical School.) : Open stent grafting with a trifurcated graft for an infected aortic arch aneurysm concomitant with severe calcified aorta. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2013 ; 19 (3) : 239-242.
- 3) Nitta T¹, Sakamoto S¹, Miyagi Y¹, Fujii M¹, Ishii Y¹, Ochi M¹ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Reentrant and Focal Activations during Atrial Fibrillation in Patients with Atrial Septal Defect. Ann Thorac Surg 2013 ; 96 (4) : 1266-1272.
- 4) Takata M, Amiya E, Watanabe M, Omori K, Imai Y, Fujita D, Nishimura H, Kato M, Morota T¹, Nawata K, Ozeki A, Watanabe A, Kawarasaki S, Hosoya Y, Nakao T, et al. (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Impairment of flow-mediated dilation correlates with aortic dilation in patients with Marfan Syndrome. Heart Vessels 2014 ; 29 (4) : 478-485.
- 5) Ogawa N, Imai Y, Nishimura H, Kato M, Takeda N, Nawata K, Taketani T, Morota IT, Takamoto S, Nagai R, Hirata Y (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Circulating transforming growth factor β -1 level in Japanese patients with Marfan syndrome. Int Heart J 2013 ; 54 (1) : 23-26.
- 6) Ochi M : Progress in coronary artery bypass surgery and current issues in Japan. J Jpn Coron Assoc 2013 ; 19 (3) : 278-282.
- 7) Watanabe Y^{1,2}, Weimar T², Kazui T², Lee U², Schuessler-B. R², Damiano-J. R² (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, (2) ワシントン大学 セントルイス 心臓外科) : Epicardial Ablation Performance of a Novel Radiofrequency Device on the Beating Heart in Pigs. Ann Thorac Surg 2014 ; 97 (2) : 673-678.

(2) 総説：

- 1) 新田 隆¹ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 低侵襲心房細動手術の現況と将来の展望. Heart View 2014 ; 3 : 312-317.
- 2) 新田 隆¹ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 心房細動の外科治療 : メイズ手術から低侵襲手術まで. 進歩する心臓研究 - Tokyo Heart Journal- 2013 ; 33 : 12-16.
- 3) 師田哲郎¹ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 大動脈外科 : 最近の進歩とこれからの展望. 日医大医学会誌 2013 ; 9 : 240.
- 4) 師田哲郎¹ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : まい・てくにつく : 大動脈基部置換術における冠状動脈再建法. 胸部外科 2013 ; 66 : 1050-1051.
- 5) Ochi M : Overview : Japanese guidelines for myocardial revascularization to treat stable ischemic heart disease 2012. Gen Thorac Cardiovasc Surg 2013 ; 61 : 246-253.

著書

- 1) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : [分担] 心臓手術中の電位解析. 心内局所電位, 2014 : pp97-105, 南江堂 (東京).
- 2) 師田哲郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : [分担] 術後の投薬と外来での管理. 心臓外科 Knack & Pitfalls 大動脈外科の要点と盲点 第2版 (高本 眞一 編), 2013 : pp399-400, 文光堂 (東京).
- 3) 師田哲郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : [分担] 開胸法. 心臓外科 Knack & Pitfalls 大動脈外科の要点と盲点 第2版 (高本 眞一 編), 2013 : pp196-197, 文光堂 (東京).
- 4) 師田哲郎¹⁾, 高本眞一 (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : [分担] 送血管所の決定. 心臓外科 Knack & Pitfalls 大動脈外科の要点と盲点 第2版 (高本 眞一 編), 2013 : pp135-137, 文光堂 (東京).
- 5) 師田哲郎¹⁾, 高本眞一 (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : [分担] 腸管の preparation. 心臓外科 Knack & Pitfalls 大動脈外科の要点と盲点 第2版 (高本 眞一 編), 2013 : pp97-98, 文光堂 (東京).
- 6) 師田哲郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : [分担] インフォームド・コンセント. 心臓外科 Knack & Pitfalls 大動脈外科の要点と盲点 第2版 (高本 眞一 編), 2013 : pp92-94, 文光堂 (東京).
- 7) 師田哲郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : [分担] マルファン症候群. 今日の循環器疾患治療指針【第3版】第13章 動脈疾患 (井上博ら編), 2013 : pp728-731, 医学書院 (東京).

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 藤井正大 : 心臓血管外科領域におけるトルバプタン・ここだけの話. 心不全と Vasopressin 講演会 (静岡), 2013. 5.
- 2) 藤井正大 : 心臓外科医による上手な β ブロッカーのマネージメント. 四国心血管周術期管理セミナー (徳島), 2013. 8.
- 3) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 心房細動の外科治療. KEIO CARDIOVASCULAR (東京都), 2014. 2.
- 4) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 心房細動の外科治療 : メイズ手術から低侵襲手術まで. 山梨循環器研究会 (第42回) (山梨県), 2013. 12.
- 5) Nitta T¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Management of atrial arrhythmia following the maze procedure. NEW HORIZON IN CARDIAC SURGERY (6th) (Seoul, Korea), 2013. 12.
- 6) Nitta T¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Surgical ablation of ventricular tachycardia. NEW HORIZON IN CARDIAC SURGERY (6th) (Seoul, Korea), 2013. 12.
- 7) Nitta T¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Surgery non-ischæmic ventricular tachycardia. Association of Thoracic and Cardiovascular Surgeons of Asia (23th) (Singapore), 2013. 10.
- 8) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 僧帽弁手術における合併症の予防と対策 1. とかち帯広ハートセミナー (第1回) (北海道), 2013. 9.
- 9) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Maze 手術のコツと落とし穴. 山形不整脈外科講演会 & Wet Lab (山形県), 2013. 8.
- 10) 師田哲郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 大動脈外科 : 最新の進歩とこれからの展望. 日本医科大学医学会総会 (第81回) (東京都), 2013. 9.
- 11) 落 雅美 : 糖尿病患者の冠動脈再建術 PCIvsCABG? : 多枝病変と左主幹部病変を中心に. 循環器ディベート・カンファレンス (第15回) (東京), 2013. 11.

(2) 教育講演 :

- 1) 別所竜蔵¹⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 心臓血管外科) : Thoracic aortic aneurysms in octogenarians :

The results of open surgical repair using hypothermic circulatory arrest with antegrade selective cerebral perfusion. とかち帯広ハートセミナー (第1回) (帯広), 2013. 9.

- 2) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : ルーチン手術時の knacks and pitfalls : 不整脈 : Maze 手術. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第28回) (熊本県), 2014. 2.
- 3) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Maze Surgery : My Opinion, My Procedure. 日本心臓弁膜症学会 (第4回) (東京都), 2013. 11.
- 4) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : ステープラーの基本的知識. ATCVS 研究会 (第10回) (東京都), 2013. 11.
- 5) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 器質的心疾患の心室頻拍 (外科的治療). 日本不整脈学会 カテーテルアブレーション関連秋季大会 研修セミナー (第25回) (神奈川県 横浜市), 2013. 11.
- 6) Nitta T¹⁾, Hiromoto A¹⁾, Kurita J¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Omori H¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Fujii M¹⁾, Ishii Y¹⁾, Morota T¹⁾, Ochi M¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Cryothermia in Arrhythmia Surgery. 日本低温医学会総会 (第40回) (愛知県), 2013. 11.
- 7) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 心臓突然死の現状と対策. メディアセミナー (東京都), 2013. 6.
- 8) 石井庸介, 新田 隆 : 心房細動手術は脳梗塞を予防できるか?. 第6回北総循環器フォーラム (千葉), 2013. 8.
- 9) 石井庸介, 新田 隆 : Long-term outcomes after AF surgery. 6th Asia-pacific Heart Rhythm Society (Hong Kong), 2013. 10.

(3) シンポジウム :

- 1) 藤井正大, 網谷亮輔, 芝田匡史, 廣本敦之, 神戸 将, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 師田哲郎, 新田 隆, 白川真¹⁾, 丸山雄二²⁾, 井村 肇¹⁾, 石井庸介²⁾, 別所竜蔵²⁾, 落 雅美 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 心臓血管外科) : 虚血性僧帽弁逆流症に対する undersized mitral ring-annuloplasty の手術成績および遠隔予後の検討 (虚血性僧帽弁逆流の診断と治療戦略). 日本冠疾患学会学術集会 (第27回) (和歌山), 2013. 12.
- 2) 藤井正大 : 緊急症例, その時外科医が欲しがらるもの (心臓救急疾患の急性期から亜急性期でのチーム医療 : Heart Team の現在とこれから目指すもの). 日本シネアンジオ研究会 (第114回) (品川), 2014. 2.
- 3) Nitta T¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Omori H¹⁾, Ochi M¹⁾, Murata H²⁾, Miyauchi Y²⁾, Shimizu W²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, 2) 日本医科大学付属病院 循環器内科) : Surgery for Non-ischemic Ventricular Tachycardia. 日本循環器学会学術集会 (第78回) (東京都), 2014. 3.
- 4) 丸山雄二¹⁾, 落 雅美¹⁾, 網谷亮輔¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 神戸 将¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 藤井正大¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Off-pump CABG における中枢側吻合デバイスの使用と早期発症脳梗塞の関連性. 日本冠疾患学会学術集会 (第27回) (和歌山県), 2013. 12.
- 5) 落 雅美 : 安定狭心症に対する冠血行再建ガイドラインをどう運営するか : ハートチームはどうあるべきか. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第18回) 冠動脈外科・冠疾患学会合同シンポジウム (福岡), 2013. 7.
- 6) 落 雅美 : 冠血行再建ガイドライン策定に携わって : 外科医としての視点. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (第22回) シンポジウム : PCI ガイドラインを検証する (神戸), 2013. 7.

(4) パネルディスカッション :

- 1) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 条件付き MRI 対応 ICD/CRT-D における MRI 撮像時の注意点と課題について. 植込みデバイス関連冬季大会 (第6回) (広島県), 2014. 2.
- 2) 新田 隆¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 村田広茂²⁾, 宮内靖史³⁾, 清水 渉³⁾ (1) 日本医科大学付属

病院 心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科): Surgery for NON-ischemic VT. 日本不整脈学会 (第 28 回) (東京都), 2013. 6.

(5) セミナー :

- 1) 渡邊嘉之¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科): 植え込みデバイス治療におけるプレセデックスの有用性と安全性. 第 6 回植え込みデバイス関連冬季大会 (広島), 2014. 2.

(6) ポスター :

- 1) 芝田匡史¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 上田仁美¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院心臓血管外科): A rare case of intraoperative electroanatomical mapping-assisted cardiac surgery in infant: Combined surgical resection and cryoablation for the ventricular tachycardia associated with giant fibroma. ASCVTS (Annual Meeting of The Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery) (第 21 回) (神戸), 2013. 4.

(7) 一般講演 :

- 1) Fujii M, Kurita J, Watanabe Y, Sakamoto S, Ohmori H, Nitta T, Ochi M: Long term results of CABG with bilateral internal thoracic artery composite-Y grafts. Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (21st) (Kobe), 2013. 4.
- 2) 藤井正大, 網谷亮輔, 芝田匡史, 廣本敦之, 栗田二郎, 神戸 将, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 師田哲郎, 新田 隆, 丸山雄二¹⁾, 井村 肇¹⁾, 石井庸介²⁾, 別所竜蔵²⁾, 落 雅美 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 心臓血管外科): 長期遠隔成績からみた高齢者における OPCAB の役割について. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 66 回) (仙台), 2013. 10.
- 3) Fujii M, Kambe M, Nishina D, Bessho R, Ochi M: PREVENTION OF POSTOPERATIVE AF AFTER OPCAB BY TEMPORARY RIGHT ATRIAL PACING WITH CONCOMITANT INTRAVENOUS LANDIOLOL. International Congress on Coronary Artery Disease (10th) (Florence), 2013. 10.
- 4) 藤井正大, 網谷亮輔, 芝田匡史, 廣本敦之, 神戸 将, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 師田哲郎, 新田 隆, 白川真¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 井村 肇¹⁾, 石井庸介²⁾, 別所竜蔵²⁾, 落 雅美 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 心臓血管外科): 遠隔成績からみた OPCAB 症例における危険因子について. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 44 回) (熊本), 2014. 2.
- 5) 田上素子¹⁾, 本田二郎¹⁾ (¹⁾ 中頭病院 心臓血管外科): 心臓血管外科術後患者における術前口腔ケアの効果についての検討. 心臓血管外科学会学術総会 (第 44 回) (熊本), 2014. 2.
- 6) 栗田二郎¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 上田仁美¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 心臓血管外科): 腎動脈上遮断を要する傍腎動脈腹部大動脈瘤に対する手術成績. 日本血管外科学会学術総会 (第 41 回) (大阪), 2013. 5.
- 7) 栗田二郎¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 上田仁美¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 心臓血管外科): 悪性腫瘍を合併した心臓血管手術症例に対する治療戦略. 日本外科系連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.
- 8) 栗田二郎¹⁾, 網谷亮輔¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 神戸 将¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田隆¹⁾, 村田 智²⁾, 田島廣之²⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学 放射線科): 脳虚血回避を目指した近位腋窩アプローチによる血行再建を行った Total Deranching TEVAR の 1 例. 日本胸部外科学会学術集会 (第 66 回) (仙台), 2013. 10.
- 9) 栗田二郎¹⁾, 落 雅美¹⁾, 杉原史恵²⁾, 山口英宣²⁾, 嶺 貴彦²⁾, 小野澤志郎²⁾, 田島廣之²⁾, 村田 智²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学 放射線科): EVAR における新しい内腸骨動脈塞栓法: AM-PLATZERTM Vascular Plug の有用性. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 44 回) (熊本), 2014. 2.
- 10) 新田 隆¹⁾, 石井庸介¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属

- 病院 心臓血管外科)：心房細動手術における心房機能. 不整脈外科研究会 (第 28 回) (熊本県), 2014. 2.
- 11) 高橋健太²⁾, 村田広茂³⁾, 細川雄亮³⁾, 坪 宏一³⁾, 山本 剛³⁾, 田中啓治³⁾, 岩崎雄樹²⁾, 林 明聡²⁾, 宮内靖史²⁾, 清水 渉²⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 切刀しのぶ⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, 2) 日本医科大学付属病院 循環器内科, 3) 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科, 4) 日本医科大学付属病院 病理部)：Electroanatomical mapping を用いた凍結凝固により切除不能な心臓腫瘍に関連した心室頻拍を抑制しえた 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 230 回) (東京都), 2013. 12.
 - 12) 新田 隆¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 石井庸介¹⁾, 飯島慶仁²⁾, 井上達哉²⁾, 石角太一郎²⁾, 臼田実男²⁾, 落雅美¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, 2) 日本医科大学付属病院 呼吸器外科)：孤立性心房細動に対する外科治療：完全胸腔鏡下肺静脈隔離, 心臓神経叢アブレーション, 左心耳切除術. 日本胸部外科学会総会 (第 66 回) (宮城県仙台市), 2013. 10.
 - 13) 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科)：心房細動の外科治療：メイズ手術から低侵襲手術まで. 東京心臓の会 (第 77 回) (東京都), 2013. 6.
 - 14) 上田明子¹⁾, 副島京子¹⁾, 三輪陽介¹⁾, 塚田雄大¹⁾, 宮越 陸¹⁾, 星田京子¹⁾, 長岡身佳¹⁾, 佐藤俊明¹⁾, 吉野秀朗¹⁾, 新田 隆²⁾ (1) 杏林大学医学部付属病院 循環器内科, 2) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科)：二弁置換術後の心室頻拍に対する心外膜アブレーションを施行した 1 例. 臨床心臓電気生理研究会 (第 43 回) (愛知県), 2013. 5.
 - 15) 師田哲郎¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科)：大動脈外科：その守備範囲と専門性. 日本医科大学大動脈瘤カンファレンス講演会 (第 1 回) (東京都), 2013. 8.
 - 16) 師田哲郎¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科)：IMH と PAU の概念と意義を再考する. とち帯広ハートセミナー Meet the experts of aortic surgery (第 1 回) (北海道), 2013. 9.
 - 17) 廣本敦之¹⁾, 石井庸介¹⁾, 網谷亮輔¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 神戸 将¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科)：心房細動を合併した大動脈弁手術症例に対する心房細動手術の検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 44 回) (熊本県), 2014. 2.
 - 18) 神戸 将¹⁾, 落 雅美¹⁾, 網谷亮輔¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 藤井正大¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科)：透析症例に対する冠動脈バイパス術の治療戦略. 日本冠疾患学会学術集会 (第 27 回) (和歌山県), 2013. 12.
 - 19) 廣本敦之¹⁾, 網谷亮輔¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 神戸 将¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 藤井正大¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科)：人工膝関節置換術年後に生じた膝窩動静脈瘻の 1 例. 日本血管外科学会関東甲信越地方会 (第 21 回) (東京都), 2013. 11.
 - 20) 坂本俊一郎¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 大森裕也¹⁾, 網谷亮輔¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 神戸 将¹⁾, 藤井正大¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科)：マッピングを使用しない心臓血管叢 (GP : Ganglionated plexi) アブレーション：メイズ手術における anatomical GP アブレーションの短期成績. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 66 回) (宮城県仙台市), 2013. 10.
 - 21) 藤井正大¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科)：FDGF-PET を利用した胸部人工血管感染治療の経験. 日本血管外科学会学術集会 (第 41 回) (大阪府), 2013. 5.
 - 22) Ishii Y, Nitta T, Nishina D, Kawase Y, Yoshio Y, Bessho R, Ochi M : How to choose surgical procedure for atrial fibrillation, the full-maze or PVI?. The 21st annual meeting of the Asian society for cardiovascular and thoracic surgery (神戸), 2013. 4.
 - 23) 石井庸介, 新田 隆 : 心房細動に対する肺静脈隔離術の有効性を高めるための工夫. 第 1 回とち帯広ハートセミナー (帯広), 2013. 9.
 - 24) Ishii Y, Nitta T, Nishina D, Kawase Y, Yoshio Y, Bessho R, Ochi M : How to choose surgical procedure

for atrial fibrillation, the full-maze or PVI?. The 21st annual meeting of the Asian society for cardiovascular and thoracic surgery. Kobe, April 2013.(Kobe), 2013. 4.

- 25) 石井庸介, 新田 隆, 仁科 大, 川瀬康裕, 吉尾敬秀, 別所竜蔵, 落 雅美: How to choose surgical procedure for atrial fibrillation, the full-maze or PVI?. The 21st annual meeting of the Asian society for cardiovascular and thoracic surgery (Kobe), 2013. 4.
 - 26) 石井庸介, 新田 隆, 坂本俊一郎, 仁科 大, 渡辺嘉之, 川瀬康裕, 別所竜蔵, 落 雅美: Does the Maze Procedure Prevent Strokes over the Long Term after Surgery?. American Heart Association (Dallas), 2013. 11.
 - 27) 石井庸介, 川瀬康裕, 仁科 大, 高橋賢一郎, 坂本俊一郎, 渡辺嘉之, 別所竜蔵, 新田 隆, 落 雅美: Full-Maze 手術 vs. 肺静脈隔離術 どちらを選択すべきか?. 第 43 回日本心臓血管外科学会総会 (熊本), 2014. 2.
 - 28) Ochi M¹⁾, Takamoto S, Sakata R, Nishida H, Yaku H, Ohno T (1) 日本医科大学 心臓血管外科: The Japanese guideline on myocardial revascularization for stable CAD, PCI/CABG 2012. The 6th AATS/AS-CVTS Postgraduate Course: CABG/PCI Guideline, The 21st annual meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (Kobe), 2013. 4.
 - 29) 神戸 将¹⁾, 林裕次郎¹⁾, 岡田至弘¹⁾, 道本 智¹⁾, 池田昌弘¹⁾, 高橋 研¹⁾, 森田耕三¹⁾, 小池裕之¹⁾, 中嶋博之¹⁾, 上部一彦¹⁾, 朝倉利久¹⁾, 井口篤志¹⁾, 新浪博士¹⁾ (1) 埼玉医科大学国際医療センター 心臓血管外科: 透析症例に対する両側内胸動脈を使用した off-pump 冠動脈バイパス術. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第 18 回) (福岡), 2013. 7.
 - 30) 高橋賢一郎¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 仁科 大¹⁾, 石井庸介¹⁾, 別所竜蔵¹⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 心臓血管外科: 自然発症した心房中隔内血腫の 1 例. 日本胸部外科学会 関東甲信越地方会 (第 164 回) (東京 都市センターホテル), 2014. 1.
 - 31) 廣本敦之, 網谷亮輔, 芝田匡史, 栗田二郎, 神戸 将, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 藤井正大, 師田哲郎, 新田 隆, 落 雅美: 人工膝関節置換術 5 年後に生じた膝窩動静脈瘻の 1 例. 日本血管外科学会関東甲信越地方会 (第 21 回) (東京), 2013. 11.
 - 32) 廣本敦之, 網谷亮輔, 芝田匡史, 栗田二郎, 神戸 将, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 藤井正大, 師田哲郎, 新田 隆, 落 雅美: 両側 functional ITA を有する慢性 A 型大動脈解離に対する上行弓部全置換術 (心筋保護法の考察). 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 164 回) (東京), 2014. 3.
 - 33) 廣本敦之, 石井庸介, 網谷亮輔, 芝田匡史, 栗田二郎, 神戸 将, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 師田哲郎, 新田 隆, 落 雅美: 心房細動を合併した大動脈弁手術症例に対する心房細動手術の検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 44 回) (熊本県), 2014. 2.
- (8) poster presentation :
- 1) Sakamoto S, Ishii Y, Shibata M, Ueda H, Suzuki D, Kurita J, Fujii M, Nitta T, Ochi M : surgical strategies and the outcome for atrial fibrillation associated with atrial septal defect. Annual meeting of the asian society for cardiovascular and thoracic surgery (21th) (Kobe), 2013. 4.
- (9) ポスター発表 :
- 1) 坂本俊一郎, 石井庸介, 芝田匡史, 上田仁美, 鈴木大悟, 栗田二郎, 藤井正大, 新田 隆, 落 雅美: surgical strategies and the outcome for atrial fibrillation associated with atrial septal defect. Annual meeting of the asian society for cardiovascular and thoracic surgery (21st) (神戸), 2013. 4.
 - 2) 芝田匡史, 坂本俊一郎, 上田仁美, 鈴木大悟, 栗田二郎, 大森裕也, 藤井正大, 新田 隆, 落 雅美: A RARE CASE OF INTRAOPERATIVE ELECTROANATOMICAL MAPPING-ASSISTED CARDIAC SURGERY IN INFANT: COMBINED SURGICAL RESECTION AND CRYOABLATION FOR THE VENTRICULAR TACHYCARDIA ASSOCIATED WITH GIANT FIBROMA. Annual meeting of the asian society for cardio-

vascular and thoracic surgery (21st) (神戸), 2013. 4.

(10) 会長要望演題：

- 1) 藤井正大, 芝田匡史, 栗田二郎, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 大森裕也, 新田 隆, 落 雅美：FDP-PET を利用した胸部人工血管感染治療の経験 (胸部人工血管感染). 日本血管外科学会総会 (第 41 回) (大坂), 2013. 5.
- 2) 藤井正大, 網谷亮輔, 芝田匡史, 廣本敦之, 神戸 将, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 師田哲郎, 新田 隆, 落 雅美：両側内胸動脈を用いた composite Y-graft による多枝血行再建が糖尿病患者へ遠隔期に及ぼす影響 (グラフト成績). 日本冠動脈外科学会学術大会 (第 18 回) (福岡), 2013. 7.

(11) 教育セッション：

- 1) 落 雅美：冠動脈疾患のガイドライン：外科の立場から. 日本循環器学会九州地方会 (第 115 回) (佐賀市), 2013. 12.

論 文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Morota T⁽¹⁾ (Nippon Medical School) : Healing process of a novel zero-porosity vascular graft. Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery 2014 ; 18 (5) : 556-560.

追加分ガイドライン (その他)：

- 1) Morota T⁽¹⁾ (日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Guidelines for diagnosis and treatment of aortic aneurysm and aortic dissection-digest version-; Infective aortic aneurysm. Circ J 2013 ; 77 (3) : 818.

[武蔵小杉病院心臓血管外科]

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) Imura H¹⁾, Nishina D²⁾, Maruyama Y¹⁾, Shirakawa M¹⁾, Tanoue M¹⁾, Suzuki D¹⁾, Yoshio T¹⁾, Ochi M²⁾ (1) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Coronary artery bypass surgery for patients with severe cerebrovascular atherosclerosis : importance of preoperative assessment and perioperative management. Surgical Science 2013 ; 4 : 535-542.

(2) 症例報告：

- 1) Imura H¹⁾, Murata H²⁾, Ochi M¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Electro-anatomical approach to membranous septal aneurysm : potential as a focus of critical ventricular arrhythmias. Surgical Science 2013 ; 4 : 543-546.

著 書

[追加分]

追加分：

- 1) 井村 肇¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院, 心臓血管・呼吸器・乳腺・内分泌外科) : [分担] 人工弁機能不全. Cardiovascular Care Unit, CCU テキスト - 循環器救急から集中治療管理まで - (田中啓治・山本剛), 2013 ; pp179-185, 文光堂.

17. 外科学（呼吸器外科学）

[付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Usuda J, Ishizumi T, Inoue T, Takeuchi S, Iijima Y, Ibi T : Photodynamic Diagnosis (PDD) for central Type Lung Cancers. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 402-403.
- 2) Kudo Y¹⁾, Saji H²⁾, Shimada Y¹⁾, Matsubayashi J³⁾, Nagao T³⁾, Kakihana M¹⁾, Usuda J, Kajiwarra N¹⁾, Ohira T¹⁾, Ikeda N¹⁾ (¹⁾ Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University, ²⁾ Chest Surgery, St.Marianna Medical University, ³⁾ Department of Pathology, Tokyo Medical University) : Proposal on incorporating blood vessel invasion into the T classification parts as a practical staging system for stage I non-small cell lung cancer. Lung Cancer 2013 ; 81 : 187-193.

(2) 総説：

- 1) 石角太一郎¹⁾, 白田実男¹⁾ (¹⁾ 東京医科大学 呼吸器外科) : 術前縦隔 N 因子診断. 最新肺癌学 2013 ; 71 (増刊) : 433-437.

(3) 症例報告：

- 1) Ibi T²⁾, Hirai K²⁾, Takeuchi S¹⁾, Bessho R²⁾, Kawamoto M³⁾, Haraguchi S¹⁾, Koizumi K¹⁾, Shimizu K¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, Department of Surgery, ²⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusyo Hospital, Department of Thoracic Surgery, ³⁾ University Hospital, Mizonokuchi, Teikyo University School of Medicine, Department of Clinical Pathology) : Mature teratoma of the posterior mediastinum : report of a case. General thoracic and cardiovascular surgery 2013 ; 61 (11) : 655-658.
- 2) 窪倉浩俊¹⁾, 大塚雅美²⁾, 岡本淳一¹⁾, 白田実男³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院専修医, ³⁾ 日本医科大学付属病院外科学呼吸器外科部門) : 胸腔ドレナージ後に乳糜胸を発症した自然気胸の1例. 日医大医会誌 (日本医科大学医学会) 2013 ; 156-159.

著書

- 1) 白田実男¹⁾, 池田徳彦²⁾ (¹⁾ 付属病院, ²⁾ 東京医科大学呼吸器外科) : [分担] 肺癌に対するレーザー治療. 医学の歩み・呼吸器疾患, 2013 ; pp125-128, 医歯薬出版.
- 2) 白田実男¹⁾, 池田徳彦²⁾ (¹⁾ 付属病院, ²⁾ 東京医科大学呼吸器外科) : [分担] 壁外性病変, どのように診断しますか. 肺癌診療 Q&A 第2版, 2013 ; pp93-95, 中外医学社.
- 3) 白田実男¹⁾, 池田徳彦²⁾ (¹⁾ 付属病院, ²⁾ 東京医科大学呼吸器外科) : [分担] 喀痰細胞診で扁平上皮癌, 診断の手順は. 肺癌診療 Q&A 第2版, 2013 ; pp115-117, 中外医学社.
- 4) 白田実男¹⁾ (¹⁾ 付属病院) : [分担] 多発 GGO 病変に対する治療方針. 肺癌診療 Q&A 第2版, 2013 ; pp122-124, 中外医学社.
- 5) 白田実男¹⁾ (¹⁾ 付属病院) : [分担] 中心型早期肺癌. 肺癌細胞診断・形態とその臨床, 2013 ; pp81-86, ベクトルコア社.
- 6) 白田実男¹⁾, 長尾俊孝²⁾ (¹⁾ 付属病院, ²⁾ 東京医科大学人体病理学) : [分担] 転移性肺癌 (腎細胞癌). 肺癌細胞診断・形態とその臨床, 2013 ; pp141-142, ベクトルコア社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 石角太一郎¹⁾, 白田実男¹⁾, 井上達哉¹⁾, 前原幸夫²⁾, 古本秀行²⁾, 岡 潔³⁾, 池田徳彦²⁾ (1) 日本医科大学 呼吸器外科, 2) 東京医科大学 呼吸器外科, 3) 日本原子力研究開発機構) : 末梢肺野病変に対する新たな内視鏡治療法の開発. 日本光線力学学会学術講演会 (第 23 回) (旭川), 2013. 6.
- 2) Usuda J¹⁾, Ishizumi T¹⁾, Inoue T¹⁾, Ohtani K²⁾, Maehara S²⁾, Ikeda N²⁾, Oka K³⁾ (1) Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical school, 2) Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University, 3) Japan Atomic Energy Agency) : The New Interventional Technique by PDT Using Composite-type Optical Fiberscope for peripheral Lung cancer. 14th World Congress of International Photodynamic Association (韓国ソウル), 2013. 6.
- 3) Usuda J¹⁾, Ishizumi T¹⁾, Inoue T¹⁾, Ohtani K²⁾, Maehara S²⁾, Ikeda N²⁾, Oka K³⁾ (1) Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical school, 2) Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University, 3) Japan Atomic Energy Agency) : The New Interventional Technique by PDT Using Composite-type Optical Fiberscope of 1.0mm in Diameter for Peripheral Parenchymal Lesion. 光量子科学研究シンポジウム (第 14 回) (京都), 2013. 11.
- 4) 白田実男¹⁾, 石角太一郎¹⁾, 井上達哉¹⁾, 前原幸夫²⁾, 古本秀行²⁾, 竹内真吾¹⁾, 飯島慶仁¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 池田徳彦²⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科, 2) 東京医科大学外科学第 1 講座) : 末梢肺野病変に対する新たな内視鏡治療法の開発. 日本レーザー医学会総会 (第 34 回) (東京), 2013. 11.
- 5) Usuda J¹⁾, Ishizumi T¹⁾, Inoue T¹⁾, Ohtani K²⁾, Maehara S²⁾, Ikeda N²⁾, Oka K³⁾ (1) Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical school, 2) Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University, 3) Japan Atomic Energy Agency) : The New Interventional Technique by Photodynamic Therapy Using Composite-type Optical Fiberscope of 1.0mm in Diameter for Peripheral Parenchymal Lesion. Korea Japan Lung Cancer Symposium (韓国ソウル), 2013. 11.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 白田実男¹⁾, 石角太一郎¹⁾, 井上達哉¹⁾, 前原幸夫²⁾, 古本秀行²⁾, 竹内真吾¹⁾, 飯島慶仁¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 池田徳彦²⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科, 2) 東京医科大学外科学第 1 講座) : 肺がんに対する新たな PDT 治療法の開発. 日本肺癌学会総会 (第 54 回) (東京), 2013. 11.

(3) プレナリーセッション：

- 1) 白田実男¹⁾, 石角太一郎¹⁾, 井上達哉¹⁾, 前原幸夫²⁾, 古本秀行²⁾, 竹内真吾¹⁾, 飯島慶仁¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 池田徳彦²⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科, 2) 東京医科大学外科学第 1 講座) : 末梢肺野病変に対する新たな経気管支的治療法の開発. 日本肺癌学会総会 (第 54 回) (東京), 2013. 11.

(4) 一般講演：

- 1) 揖斐孝之²⁾, 平井恭二¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 石角太一郎²⁾, 井上達哉²⁾, 竹内真吾²⁾, 飯島慶仁²⁾, 白田実男²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 胸部・心臓血管・呼吸器外科, 2) 日本医科大学付属病院 呼吸器外科) : 乳房温存療法後の放射線照射野に発生した原発性肺腺癌の 1 手術例. 第 30 回日本呼吸器外科学会総会 (名古屋), 2013. 5.
- 2) 飯島慶仁¹⁾, 佐藤 明, 竹内真吾, 井上達哉, 石角太一郎, 白田実男, 清水一雄 (1) 日本医科大学外科学・呼吸器外科部門) : 右側大動脈弓を伴った巨大な縦隔神経鞘腫の 1 切除例. 第 30 回日本呼吸器外科学会総会 (名古屋), 2013. 5.
- 3) 窪倉浩俊¹⁾, 岡本淳一¹⁾, 白田実男²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器外科, 2) 日本医科大学付属病院外科学呼吸器外科部門) : シェーグレン症候群に合併した多房性胸腺嚢胞の 1 手術例. 日本呼吸器外科学会総会 (第 30 回) (名古屋), 2013. 5.
- 4) 竹内真吾¹⁾, 石角太一郎¹⁾, 井上達哉¹⁾, 飯島慶仁¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 寺崎美佳²⁾, 寺崎泰弘³⁾, 白田実男¹⁾ (1) 日本

- 医科大学附属病院 呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学附属病院 病理部, ³⁾ 日本医科大学大学院 解析人体病理学) : 診断に苦慮した肝細胞癌肺転移の1切除例. 日本肺癌学会関東支部会 (第169回) (東京), 2014. 3.
- 5) 井上達哉^{1, 2)}, 小中千守²⁾, 守尾 篤^{2, 3)}, 飯島慶仁¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 石角太一郎¹⁾, 白田実男¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科, ²⁾ 化学療法研究所附属病院 呼吸器外科, ³⁾ 小張総合病院 呼吸器外科) : 乳がん術後放射線照射40年後に発症した放射線誘導性と考えられる胸膜肉腫の1例. 日本呼吸器外科学会 (第30回) (名古屋), 2013. 5.
- 6) 井上達哉¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 飯島慶仁¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 石角太一郎¹⁾, 白田実男¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院 呼吸器外科) : 肺原発骨肉腫の一切除例. 外科集談会 (第829回) (東京), 2013. 6.
- 7) 石角太一郎¹⁾, 井上達哉¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 萩原 優²⁾, 白田実男¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 呼吸器外科, ²⁾ 東京医科大学 呼吸器外科) : 安全性向上を目指した3D-CTガイド下完全鏡視下肺区域切除術. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 8) 石角太一郎¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 飯島慶仁¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 井上達哉¹⁾, 白田実男¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 呼吸器外科) : 外科的切除と内視鏡的治療が有効であった原発性同時多発肺癌の1例. 文京区呼吸器外科研究会 (第23回) (東京), 2013. 11.
- 9) Ishizumi T¹⁾, Inoue T¹⁾, Usuda J¹⁾ (¹⁾ Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School) : Selective mediastinal lymph node dissection for cN0 non-small cell lung cancer. 15th World Conference on Lung Cancer (Sydney, Australia), 2013. 10.
- 10) Ishizumi T¹⁾, Kato Y²⁾, Inoue T¹⁾, Ikeda N²⁾, Usuda J¹⁾ (¹⁾ Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University) : Comparison of surgical outcome of lung cancer between video-assisted thoracic surgery (VATS) and open thoracotomy in patients aged 80 or over. International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery Annual Meeting 2013 (Prague, Czech Republic), 2013. 6.
- 11) 石角太一郎¹⁾, 井上達哉¹⁾, 白田実男¹⁾, 梶原直央²⁾, 大平達夫²⁾, 池田徳彦²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 呼吸器外科, ²⁾ 東京医科大学 呼吸器外科) : 80歳以上高齢者肺癌手術における開胸術と完全鏡視下手術の検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第30回) (名古屋), 2013. 5.
- 12) 白田実男 : 肺癌外科治療の将来について. 日本医科大学医学会総会 (第81回), 2013. 9.
- (5) 講演 :
- 1) 白田実男 : PDTの現況. 日本肺癌学会肺癌ワークショップ (第28回) (京都), 2013. 6.
- 2) 白田実男 : 呼吸器外科領域における光診断治療 - 基礎から臨床へ. Lung Cancer Conference (東京), 2013. 7.
- 3) 白田実男 : 高齢化社会における肺癌外科治療のゆくえ. 足立区医師会呼吸器研究会講演会 (第13回) (東京), 2013. 9.
- 4) 白田実男 : 心の通う肺癌診療連携を目指して. 日本医科大学病診連携セミナー (東京), 2013. 10.

論文

〔追加分〕

追加分原著 :

- 1) Saji H¹⁾, Tsuboi M²⁾, Shimada Y¹⁾, Kato Y¹⁾, Yoshida K¹⁾, Nomura M¹⁾, Matsubayashi J³⁾, Nagao T³⁾, Kakihana M¹⁾, Usuda J¹⁾, Kajiwara N¹⁾, Ohira T¹⁾, Ikeda N¹⁾ (¹⁾ Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University, ²⁾ Department of Thoracic Surgery, Yokohama city University, ³⁾ Department of Pathology, Tokyo Medical University) : A proposal for combination of total number and anatomical location of involved lymph nodes for nodal classification in non-small cell lung cancer. Chest 2013 ; 143 : 1618-1625.
- 2) Saji H¹⁾, Tsuboi M²⁾, Shimada Y³⁾, Kato Y³⁾, Hamanaka W³⁾, Kudo Y³⁾, Yoshida K³⁾, Matsubayashi J⁴⁾,

Usuda J, Ohira T³, Ikeda N³ (1) Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University, (2) Department of Thoracic Surgery, Yokohama city University, (3) Department of Pathology, Tokyo Medical University) : Gene expression profiling and molecular pathway analysis for the identification of early-stage lung adenocarcinoma patients at risk for early recurrence. *Oncology Reports* 2013 ; 29 : 1902-1906.

- 3) Shimada Y¹, Saji H¹, Yoshida K¹, Kakihana M¹, Honda H¹, Nomura M¹, Usuda J¹, Kajiwara N¹, Ohira T¹, Ikeda N¹ (1) Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University) : Prognostic factors and the significance of treatment after recurrence in completely resected stage I non-small cell lung cancer. *Chest* 2013 ; 143 : 1626-1634.

追加分 :

- 1) Tsutsui H¹, Hoshi M¹, Kubota M¹, Suzuki A¹, Nakamura N², Usuda J², Shibuya H², Miyajima K², Ohira T², Ito K², Ikeda N² (1) Thyroid Surgery, Tokyo Medical University, (2) Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University) : Management of thyroid carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE) invading the trachea. *Surg Today* 2013 ; 43 : 1261-1268.

著 書

[追加分]

- 1) 白田実男¹ (1) 付属病院) : [分担] 気管 (気管支) 腫瘍. E-Book : 今日の臨床サポート, 2013 : エルセビアジャパン.

学会発表

追加分ビデオフォーラム :

- 1) 白田実男¹, 古本秀行², 大澤潤一郎¹, 石角太一郎¹, 佐治 久¹, 垣花昌俊¹, 梶原直央¹, 大平達夫¹, 岡潔², 池田徳彦² (1) 東京医科大学呼吸器外科, (2) 独) 日本原子力研究開発機構) : 胸腔鏡手術における新たな腫瘍同定法の開発. 日本外科学会総会 (第 113 回) (福岡), 2013. 3.

追加分講演 :

- 1) 白田実男 : 肺癌に対するレーザー治療. 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医大会 (第 23 回) (大阪), 2013. 2.

[多摩永山病院呼吸器外科]

研究業績

論 文

(1) 原著 :

- 1) Bosco-Clement G¹, Zhang F^{1,2}, Chen Z^{1,3}, Zhou H. M³, Li H¹, Mikami I^{1,4}, Hirata T^{1,4}, Yagui-Beltran J¹, Lui, N¹, Do, H. T¹, Cheng¹, Tseng, H. H¹, Choi, H¹, Fang, L. T¹, Kim, I. J¹, et al. (1) Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California San Francisco, San Francis, (2) Tsinghua University Graduate School at Shenzhen, Division of Life and Health Sciences, Shenzhen, China, (3) School of Life Sciences, Tsinghua University, Beijing, China, (4) Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Targeting Gli transcription activation by small molecule suppresses tumor growth. *Oncogene* 2013.
- 2) Mo, Min-Li M^{1,2}, Chen, Zhao^{1,2}, Li, Hui², Zhou, H. M-H M³, Hirata T^{2,4}, Jablons-M D², He B² (1) School of Life Sciences, Tsinghua University, (2) Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, Helen

Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California, ³) School of Life Sciences, Tsinghua University, Beijing, China, ⁴) Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School) : Detection of E2A-PBX1 fusion transcripts in human non-small-cell lung cancer. *J Exp Clin Cancer Res* 2013 ; 32 (29) : 1-10.

- 3) Mo ML¹), Okamoto J^{2,3}), Chen Z^{1,2}), Hirata T^{2,3}), Mikami I^{2,3}), Bosco-Clement G²), Li H²), Zhou HM^{1,4}), Jablons DM²), He B²) (¹) School of Life Sciences, Tsinghua University, ²) Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California, ³) Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, ⁴) Zhejiang Provincial Key Laboratory of Applied Enzymology, Yangtze Delta Region Institute of Tsinghua University, Jiaxing, P.R. China) : Down-Regulation of SIX3 is Associated with Clinical Outcome in Lung Adenocarcinoma. *PLoS One* 2013 ; 8 (8).

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 平田知己¹), 吉野直之¹), 白田実男²) (¹) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, ²) 日本医科大学付属病院 呼吸器外科) : 原発性肺癌に対する炭酸ガスを用いた胸腔内陽圧下ポート下肺葉切除術 (PATS/CDI) の有用性. 日本胸部外科学会総会 (仙台), 2013. 10.
- 2) 平田知己¹), 吉野直之¹), 白田実男²) (¹) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, ²) 日本医科大学 呼吸器外科) : CO2 insufflation と超音波凝固切開装置の cavitation による完全鏡視下手術の剥離手技. 日本肺癌学会 (第54回) (東京), 2013. 11.
- 3) 平田知己¹), 吉野直之¹), 白田実男³), 細根 勝²), 片山博徳²) (¹) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, ²) 日本医科大学多摩永山病院 病理, ³) 日本医科大学 呼吸器外科) : Rank1 抗体 (Denosumab) 投与後, 骨転移および肺転移が縮小した肺扁平上皮癌の1例. 日本肺癌学会総会 (第54回) (東京), 2013. 11.
- 4) 平田知己¹), 吉野直之¹), 窪倉浩俊²), 岡本淳一²), 白田実男³), 清水一雄³) (¹) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, ²) 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器外科, ³) 日本医科大学 呼吸器外科) : 胸腔鏡下肺葉切除術を施行した病理病期 II-III A 非小細胞肺癌に対する CBDCA / TS-1 の認容性の検討. 呼吸器外科学会総会 (第30回) (名古屋), 2013. 5.

18. 脳神経外科学

[付属病院脳神経外科]

研究概要

平成 25 年度付属病院脳神経外科における論文業績は英文 33 編（原著 25, 症例報告 8）, 和文 4 編の計 37 編であった。これに分担著書として 8 編が加わる。学会発表は 195 回あり、内国際学会は 27 回であった。一方、研究補助金に関しては、文部科学省科学研究費を 3 件、厚生労働省科学研究費を 1 件取得している。また、大学本部より医学研究科特別経費補助金を受けた。当教室の基礎的な研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、脊椎脊髄、機能外科の 5 つに分かれている。また、治療を主体とした横断的なグループとしては、頭蓋底外科治療、血管内治療、神経内視鏡、バイパス手術のグループが活動している。今年度はこれまでに比して、海外への投稿、学会報告を奨励し、特に血管障害と脊髄関連の臨床論文の数が増加した。また、下垂体、脳腫瘍分野では臨床的活動も活発であると同時に基礎研究も深く行っており、多くの大学院生の学位報告となっている。脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも、教室員には年 1 編以上の論文投稿（審査有のもの）と助教以上には科研費応募を義務としている。現在、脳神経外科医療は志望者が偏在しており、特に地方の脳神経外科の状況は逼迫している。当科ではさらに活動を広げ、一人でも多くの臨床力および科学的思考力を十分有する脳神経外科医を当科一丸となって輩出し、日本全体の脳神経外科の土台を支える教室として発展したい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsuno A¹⁾, Murakami M¹⁾, Hoya K¹⁾, Yamada MS¹⁾, Miyamoto S¹⁾, Yamada S¹⁾, Son J¹⁾, Nishido H¹⁾, Ide F¹⁾, Nagashima H¹⁾, Sugaya M²⁾, Ishii Y, Tahara S, Teramoto A³⁾, Osamura RY⁴⁾ (1) Department of Neurosurgery, Teikyo University Chiba Medical Center, 2) Department of Rehabilitation, Teikyo University Chiba Medical Center, 3) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital, 4) Department of Pathology, International University of Health and Welfare Mita Hospital) : Clinicopathological and molecular histochemical review of skull base metastasis from differentiated thyroid carcinoma. *Acta Histochem Cytochem* 2013 ; 46 (5) : 129-136.
- 2) Matsuno A¹⁾, Murakami M¹⁾, Hoya K¹⁾, Yamada MS¹⁾, Miyamoto S¹⁾, Yamada S¹⁾, Son J¹⁾, Nishido H¹⁾, Ide F¹⁾, Nagashima H¹⁾, Sugaya M²⁾, Ishii Y, Tahara S, Teramoto A³⁾, Osamura RY⁴⁾ (1) Department of Neurosurgery, Teikyo University Chiba Medical Center, 2) Department of Rehabilitation, Teikyo University Chiba Medical Center, 3) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital, 4) Department of Pathology, International University of Health and Welfare Mita Hospital) : Molecular status of pituitary carcinoma and atypical adenoma that contributes the effectiveness of temozolomide. *Med Mol Morphol* 2013.
- 3) Oyama N, Tahara S, Oyama K¹⁾, Isii Y, Teramoto A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, 2) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Assessment of pre- and postoperative endocrine function in 94 patients with Rathke's cleft cyst. *Endocr J* 2013 ; 60 (2) : 207-213.
- 4) Adachi K¹⁾, Yamaguchi F, Node Y²⁾, Kobayashi S³⁾, Takagi R⁴⁾, Teramoto A⁵⁾ (1) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Tamanagayama Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 4) Department of Radiology, 5) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Neuroimaging of primary central nervous system lymphoma in immu-

- nocompetent patients : comparison of recent and previous findings. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (3) : 174-183.
- 5) Kim K, Mishina M, Kokubo R, Nakajima T, Morimoto D, Isu T, Kobayashi S, Teramoto A : Ketamine for acute neuropathic pain in patients with spinal cord injury. *J Clin Neurosci* 2013 ; 20 (6) : 804-807.
 - 6) Tateyama K¹⁾, Kobayashi S²⁾, Murai Y, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Assessment of cerebral circulation in the acute phase of subarachnoidhemorrhage using perfusion computed tomography. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (2) : 110-118.
 - 7) Iwamoto T¹⁾, Murai Y, Yamamoto Y²⁾, Adachi K³⁾, Teramoto A⁴⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ²⁾ Department of Diagnostic Pathology, ³⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ⁴⁾ Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Supratentorial extraventricular anaplastic ependymoma in an adult with repeated intratumoral hemorrhage. *Brain Tumor Pathol* 2013 ; 31 : 138-143.
 - 8) Kim K¹⁾, Emoto N²⁾, Mishina M³⁾, Okada S⁴⁾, Isu T⁵⁾, Yoshida D, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A⁶⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital, ³⁾ Department of Internal Medicine, ⁴⁾ Department of Radiology, Chiba Hokuso Hospital, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ⁶⁾ Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Incidental detection of thyroid nodules at magnetic resonance imaging of the cervical spine. *Neurol Med Chir* 2013 ; 53 (2) : 77-81.
 - 9) Yoshida D, Kim K¹⁾, Takumi I²⁾, Yamaguchi F, Adachi K²⁾, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ³⁾ Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : A transfection method for short interfering RNA with the lipid-like self-assembling nanotube, A6K. *Med Mol Morphol* 2013 ; 46 (2) : 86-91.
 - 10) Takumi I¹⁾, Mishina M²⁾, Hironaka K, Oyama K¹⁾, Yamada A¹⁾, Adachi K¹⁾, Hamamoto M³⁾, Kitamura S³⁾, Yoshida D, Teramoto A⁴⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, ³⁾ Department of Neurology, Musashi Kosugi Hospital, ⁴⁾ Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Simple solution for preventing cerebrospinal fluid loss and brain shift during multitrack deep brain stimulation surgery in the semisupine position : polyethylene glycol hydrogel dural sealant capping : rapid communication. *Neurol Med Chir* 2013 ; 53 (1) : 1-6.
 - 11) Matano F, Murai Y, Tateyama K¹⁾, Mizunari T²⁾, Umeoka K²⁾, Koketsu K²⁾, Kobayashi S²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Perioperative complications of superficial temporal artery to middle cerebral artery bypass for the treatment of complex middle cerebral artery aneurysms. *Clin Neurol Neurosurg* 2013 ; 115 (6) : 718-724.
 - 12) Murai Y, Mizunari T¹⁾, Takagi R²⁾, Amano Y²⁾, Mizumura S²⁾, Komaba Y³⁾, Okubo S³⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A⁴⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Radiology, ³⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Neurology, Nephrology, and Rheumatology), ⁴⁾ Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Analysis of ischemic cerebral lesions using 3.0-T diffusion-weighted imaging and magnetic resonance angiography after revascularization surgery for ischemic disease. *Clin Neurol Neurosurg* 2013 ; 115 (7) : 1063-1070.
 - 13) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 外科的手術を要した外傷性血管損傷の長期予後. *神経外傷* 2013 ; 35 (2) : 100-105.
 - 14) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Chiba Y²⁾, Morimoto D³⁾, Ohtsubo S⁴⁾, Kusano M⁵⁾, Kobayashi S¹⁾, Morita A (¹⁾ De-

partment of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ³⁾ Department of Neurosurgery, Yokohama Shinmidori Hospital, ⁴⁾ Department of Dentistry, Oral and Maxillofacial Surgery, ⁵⁾ Department of Surgery, Kushiro Rosai Hospital) : The usefulness of ICG video angiography in the surgical treatment of superior cluneal nerve entrapment neuropathy : technical note. *J Neurosurg Spine* 2013 ; 53 (2) : 624-628.

- 15) 金 景成, 井須豊彦, 森本大二郎, 千葉泰弘, 菅原 淳, 小林士郎 : 上臀皮神経障害患者腰椎の放射線学的検討. *日本脊髄障害医学会誌* 2013 ; 26 (1) : 120-121.
- 16) Mitsuishi M¹⁾, Morita A, Sugita N¹⁾, Sora S²⁾, Mochizuki R³⁾, Tanimoto K⁴⁾, Baek Y¹⁾, Takahashi H¹⁾, Harada K¹⁾ (¹⁾ School of Engineering, University of Tokyo, ²⁾ Tokyo Metropolitan Police Hospital, ³⁾ NHK Engineering Services Inc., ⁴⁾ Coretec Inc.) : Master-slave robotic platform and its feasibility study for micro-neurosurgery. *Int J Med Robot* 2013 ; 9 (2) : 180-189.
- 17) Morimoto D, Isu T, Kim K, Imai T, Yamazaki K, Matsumoto R, Isobe M : Surgical treatment of superior cluneal nerve entrapment neuropathy. *J Neurosurg Spine* 2013 ; 19 (1) : 71-75.
- 18) Shibahashi K¹⁾, Morita A¹⁾, Kimura T¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, NTT Medical Center Tokyo) : Surgical results of microvascular decompression procedures and patient's postoperative quality of life : Review of 139 cases. *Neurol Med Chir* 2013 ; 53 : 360-364.
- 19) Kokubo R¹⁾, Kim K¹⁾, Mishina M²⁾, Isu T³⁾, Kobayashi S¹⁾, Yoshida D, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, ³⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : Prospective assessment of concomitant lumbar and chronic subdural hematoma : is migration from the intracranial space involved in their manifestation?. *J Neurosurg Spine* 2014 ; 20 (2) : 157-163.
- 20) Matthies C¹⁾, Brill S²⁾, Kaga K³⁾, Morita A⁴⁾, Kumakawa K⁵⁾, Skarzynski H⁶⁾, Claassen A⁷⁾, Hui Y⁸⁾, Chiong C⁹⁾, Muller J¹⁰⁾, Behr R (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Wurzburg, ²⁾ Department of Otorhinolaryngology, University of Wurzburg, ³⁾ National Institute of Sensory Organs, National Medical Center, ⁴⁾ Department of Neurology and Stroke Unit, NTT Medical Center, ⁵⁾ Department of Otolaryngology, Toranomon Hospital, ⁶⁾ Institute of Physiology and Pathology of Hearing, Warsaw, Poland, ⁷⁾ Department of Otorhinolaryngology, Free State University, Bloemfontein, South Africa, ⁸⁾ Division of Otorhinolaryngology Head and Neck Surgery, Department of Surgery, The University of Hong Kong Medical Center, ⁹⁾ University of the Philippines Manila, Philippine National Ear Institution,, ¹⁰⁾ Klinik und Poliklinik fur Hals-Nasen-Ohren-Heilkunde, Ludwig-Maximilians-University) : Auditory brainstem implantation improves speech recognition in neurofibromatosis type II patients. *ORL* 2013 ; 75 : 282-295.
- 21) Greving J¹⁾, Wermer M²⁾, Brown R³⁾, Morita A⁴⁾, Juvela S⁵⁾, Yonekura M⁶⁾, Ishibashi T⁷⁾, Torner J⁸⁾, Nakayama T⁹⁾, Rinkel G¹⁰⁾, Algra A (¹⁾ Julius Center for Health Sciences and Primary Care, University Medical Center Utrecht, Utrecht, ²⁾ Department of Neurology, Leiden University Medical center, ³⁾ Department of Neurology, Mayo Clinic, Rochester, ⁴⁾ UCAS Japan Coordinating Office, University of Tokyo, ⁵⁾ Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, ⁶⁾ Department of Clinical Neurosciences, University of Helsinki, ⁷⁾ Department of Neurosurgery, National Nagasaki Medical Center, ⁸⁾ Division of Endovascular Neurosurgery, Tokyo Jikei University School of Medicine, ⁹⁾ Department of Epidemiology, University of Iowa, ¹⁰⁾ Department of Health informatics, Kyoto University School of Public Health) : Development of the PHASES score for prediction of risk of rupture of intracranial aneurysms : a pooled analysis of six prospective cohort studies. *Lancet Neurol* 2014 ; 13 (1) : 59-66.
- 22) Morita A, Sameshima T¹⁾, Sora S²⁾, Kimura T³⁾, Nishimura K³⁾, Itoh H³⁾, Shibahashi K³⁾, Shono N³⁾,

- Machida T⁴, Hara N⁵, Mikami N⁵, Harihara Y⁵, Kawate R⁶, Ochiai C³, Wang W⁷ (1) Department of Neurosurgery, Hamamatsu University Hospital, (2) Department of Neurosurgery, Tokyo Metropolitan Police Hospital, (3) Departments of Neurosurgery, NTT Medical Center Tokyo, (4) Departments of Radiology, NTT Medical Center Tokyo, (5) Departments of Operative Medicine, NTT Medical Center Tokyo, (6) Departments of Anesthesiology, NTT Medical Center Tokyo, (7) Department of Electronics Engineering and Computer Science, Peking University) : Development of a New Compact Intraoperative Magnetic Resonance Imaging System : Concept and Initial Experience. *Neurosurgery* 2014 ; 10 (2) : 220-229.
- 23) Tamaki T¹, Node Y¹, Saitou N², Saigusa H³, Yamazaki M¹, Morita A (1) Department of Neurosurgery, Tamanagayama Hospital, (2) Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, (3) Department of Otolaryngology) : Vernet's Syndrome After Carotid Endarterectomy. *Perspect Vasc Surg Endovasc Ther* 2013 ; 25 (3-4) : 65-68.
- 24) Baek Y¹, Tanaka S¹, Harada K¹, Sugita N¹, Morita A, Sora S¹, Mitsuishi M¹ (1) Department of Engineering Synthesis, University of Tokyo) : Robust visual tracking of robotic forceps under a microscope using kinematic data fusion. *IEEE/ASME Transactions on Mechatronics* 2014 ; 19 (1) : 278-288.
- 25) 森田明夫 : 未破裂脳動脈瘤の治療方針. *脳神経外科ジャーナル* 2013 ; 22 : 770-777.
- 26) 物部寛子¹, 室伏利久², 市川靖充³, 森田明夫 (1) 日本赤十字社医療センター耳鼻咽喉科, (2) 帝京大学附属溝口病院耳鼻咽喉科, (3) NTT 東日本関東病院脳卒中科) : めまい・急性感音難聴を呈した椎骨動脈解離性動脈瘤による AICA 症候群不全型症例. *Equilibrium Rex* 2013 ; 72 (4) : 233-237.
- 27) Matano F, Yoshida D, Ishii Y, Tahara S, Teramoto A¹, Morita A (1) Tokyo Rosai Hospital) : Endocan, a new invasion and angiogenesis marker of pituitary adenomas. *J Neurooncol* 2014.
- 28) Matano F, Adachi K¹, Murai Y, Kitamura T¹, Teramoto A², Morita A (1) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, (2) Tokyo Rosai Hospital) : Microcystic Meningioma with Late-phase Accumulation on Thallium-201 single-photon emission computed tomography : Case Report. *Neurol Med Chir* 2014.
- 29) Shirokane K, Umeoka K¹, Mishina M², Mizunari T¹, Kobayashi S¹, Teramoto A³ (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, (2) Department of Neurology, (3) Tokyo Rosai Hospital) : Hemothorax after the intravenous administration of tissue plasminogen activator in a patient with acute ischemic stroke and rib fractures. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (1) : 43-47.
- (2) 症例報告 :
- 1) Hattori Y, Tahara S, Ishii Y, Kitamura T¹, Inomoto C², Osamura RY³, Teramoto A⁴, Morita A (1) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, (2) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, (3) Department of Pathology, International University of Health and Welfare Mita Hospital, (4) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : A case of prolactinoma with chordoma. *Clin Neurol Neurosurg* 2013 ; 115 (12) : 2537-2539.
- 2) Matano F, Murai Y, Adachi K¹, Kitamura T¹, Teramoto A² (1) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, (2) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Pathophysiology and management of intracranial arterial stenosis around the circle of Willis associated with hyperthyroidism : case reports and literature review. *Neurosurg Rev* 2013 ; 19.
- 3) Matano F, Murai Y, Adachi K¹, Koketsu K², Kitamura T¹, Teramoto A³, Okubo S⁴, Katayama Y⁴, Sekine T⁵, Takagi R⁵, Kumita S⁵ (1) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, (2) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, (3) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital, (4) Department of Internal Medicine, (5) Department of Radiology) : Reversible cerebral vasoconstriction syndrome associated with subarachnoid hemorrhage triggered by hydroxyzine pamoate. *Clin Neurol*

Neurosurg 2013 ; 115 (10) : 2189-2191.

- 4) Sameshima T¹⁾, Shibahashi K¹⁾, Nozaki T¹⁾, Akabane A¹⁾, Kihara A²⁾, Horiuchi H²⁾, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, NTT Medical Center Tokyo, (2) Department of Pathology, NTT Medical Center Tokyo) : Atlantoaxial Intraspinial Juxtafacet Cyst. Neurol Med Chir 2013 ; 53 : 125-128.
- 5) Minami N¹⁾, Kimura T¹⁾, Ichikawa Y¹⁾, Morita A (1) Department of Neurosurgery, NTT Medical Center Tokyo Stroke Unit) : Emerging sylvian subpial hematoma after the repair of the ruptured anterior cerebral artery aneurysm with interhemispheric approach. Neurol Med Chir 2013 ; 54 : 227-230.
- 6) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Kobayashi S¹⁾, Morita A (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, (2) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : Dizziness attributable to a cervical dural arteriovenous fistula. Acta Neurochir 2014 ; 156 : 547-549.
- 7) Shojima M^{1,2)}, Morita A¹⁾, Kimura T¹⁾, Oshima M³⁾, Kin T²⁾, Saito N²⁾ (1) Department of Neurosurgery, NTT Medical Center Tokyo, (2) Department of Neurosurgery, the University of Tokyo Hospital, (3) Institute of Industrial Science, the University of Tokyo) : Computational fluid dynamic simulation of a giant basilar tip aneurysm with eventual rupture following Hunterian ligation. World Neurosurg 2013.
- 8) Matano F, Adachi K¹⁾, Murai Y, Kitamura T¹⁾, Ohashi R²⁾, Teramoto A³⁾, Morita A (1) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, (2) Division of Diagnostic Pathology, (3) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Microcystic meningioma with late-phase accumulation on thallium-201 single-photon emission computed tomography. Neurol Med Chir 2014.

著 書

- 1) 田原重志 : [分担] Chapter 5 : アクロメガリーの治療 2.手術療法 3) 内視鏡下経鼻経蝶形骨手術. 改訂版 Acromegaly Handbook, 2013 ; pp105-111, メディカルレビュー社.
- 2) 山口文雄 : [分担] 第2章 救命救急の場面別にみたフィジカルアセスメント, 3 頭部打撲. 養護教諭のためのフィジカルアセスメント2 - 教職員と見て学ぶ救命救急の基礎基本 - AED・エピペン®・頭部打撲, 2013 ; pp22-26, 日本小児医事出版社.
- 3) 村井保夫 : [監修] 看護師看護学生のためのなぜどうして (成人看護, 脳神経運動器血液免疫) 第5版, 2013 ; メディックメディア.
- 4) 村井保夫 : [監修] クエスチョン・バンク 看護師国家試験問題解説 2014, 2013 ; メディックメディア.
- 5) 太組一郎¹⁾, 森田明夫 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : [自著] I. 周術期における医療安全 器械の洗浄・滅菌. 脳神経外科 周術期管理のすべて 第4版, 2014 ; pp9-17, メジカルビュー社.
- 6) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科) : [分担] 術中動脈損傷. 脳神経外科周術期管理のすべて 第4版, 2014 ; pp652-661, メジカルビュー社.
- 7) 村井保夫 : [分担] くも膜下出血. 看護師・看護学生のためのなぜ? どうして? 第5版, 2014 ; メディックメディア.
- 8) 森田明夫 : [自著] II, 本年の動向 8) 日本人の未破裂脳動脈瘤. Annual Review 神経 2014, 2014 ; pp114-120, (株) 中外医学社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 森田明夫 : 未破裂脳動脈瘤に関する最新の知見と治療方針. 第14回 Tokyo Stroke Intervention Seminar (TSIS) (芝パークホテル別館), 2013. 7.
- 2) 森田明夫 : UCAS Japan の結果と展望. 第13回熊本ストローク研究会 (ホテルニューオータニ熊本), 2013. 8.

- 3) 森田明夫：日本未破裂脳動脈瘤悉皆調査・UCAS Japan の結果と今後の展開. 第 66 回脳神経外科近畿支部地方会 (千里中央 ライフサイエンスセンター), 2013. 9.
 - 4) 森田明夫：UCAS Japan の挑戦：大規模観察研究のトップジャーナル掲載への道. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
 - 5) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤への対応. 第 100 回道南脳神経外科懇話会 (函館国際ホテル), 2013. 11.
 - 6) 森田明夫：料理と脳神経外科. 東北北海道脳神経外科研究会 (ANA クラウンプラザホテル釧路), 2013. 11.
 - 7) 森田明夫：UCAS Japan からわかったこと. 第 36 回東北脳血管障害研究会学術講演会 (江陽グランドホテル (仙台)), 2013. 12.
 - 8) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤と脳神経外科の科学. 第 51 回愛媛脳神経外科懇話会, 2014. 1.
- (2) 招待講演：
- 1) 森田明夫：医工学の微小外科手術への応用と展望. 第 5 回福岡脳神経先端治療研究会 (杏林製薬 (株) 主催) (西鉄グランドホテル (福岡)), 2013. 4.
- (3) 教育講演：
- 1) 森田明夫：Occipital transtentorial approach の基本と応用. 第 33 回日本脳神経外科コンgres総会 (大阪国際会議場), 2013. 5.
 - 2) 田原重志：内視鏡下下垂体腫瘍摘出術の基本手術手技について. 第 33 回日本脳神経外科コンgres総会 (大阪国際会議場), 2013. 5.
 - 3) 森田明夫：医工学の頭蓋底手術・脳血管障害手術への応用と展望. 第 25 回日本頭蓋底外科学会 (名古屋東急ホテル), 2013. 6.
 - 4) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤はどうすべきか?. 第 16 回日本病院脳神経外科学会 (福山ニューキャッスルホテル (広島)), 2013. 7.
 - 5) Morita A : Natural Course and treatment outcome of Unruptured Cerebral Aneurysms in Japan : Current perspectives in the treatment of cerebral aneurysms. ワシントン大学ハーバービューメディカルセンター脳神経外科 教室講演会 (ワシントン大学 (シアトル)), 2013. 7.
 - 6) 森田明夫：HD EndoArm を用いた内視鏡支援手術と内視鏡下拡大経蝶形骨洞頭蓋底手術. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
 - 7) 森田明夫：脳動脈瘤のマネジメント：疫学・病態と治療選択. 第 31 回日本神経治療学会総会 (東京ドームホテル), 2013. 11.
 - 8) 田原重志：内視鏡下下垂体腫瘍摘出術の基本手術手技：内視鏡下経蝶形骨手術の基本と応用. 第 33 回日本脳神経外科コンgres総会, 2013. 5.
 - 9) 田原重志, 服部裕次郎, 石井雄道, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院)：下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の基本手技. 第 16 回日本病院脳神経外科学会, 2013. 7.
 - 10) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 千葉泰弘²⁾, 磯辺正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科)：腰椎後方除圧術. 第 33 回日本脳神経外科コンgres総会, 2013. 5.
 - 11) 白銀一貴, 玉置智規¹⁾, 木暮一成¹⁾, 野手洋治¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：頸部内頸動瘤 kinking に血管形成術を施行した 1 例. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
 - 12) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤治療とくも膜下出血の予防：科学的治療根拠を求めて. Stroke 2014, 2014. 3.
 - 13) 田原重志：脳外科医による内視鏡下経蝶骨洞下垂体手術のハンズオントレーニング (産業総研モデル). 第 25 回日本頭蓋底外科学会 (名古屋東急ホテル), 2013. 6.

(4) シンポジウム：

- 1) 鮫島哲朗¹⁾, 森田明夫, 白水一郎²⁾, 酒井直人³⁾ (1) NTT 東日本関東病院脳神経外科, 2) NTT 東日本関東病院放射線科, 3) 浜松医科大学附属病院脳神経外科)：錐体骨髄膜腫における脳幹との癒着についての術前画像評価と術中所見及び術後合併症について. 第22回脳神経外科手術と機器学会 (キッセイ文化ホール (松本)), 2013. 4.
- 2) 森田明夫：UCAS Japan からわかったこと. 第22回日本脳ドック学会総会 (江陽グランドホテル (仙台)), 2013. 6.
- 3) 田原重志, 石井雄道, 服部裕次郎, 杉山 誠¹⁾, 竹井麻生²⁾, 喜多村孝幸³⁾, 寺本 明⁴⁾, 森田明夫 (1) 関東労災病院脳神経外科, 2) 林脳神経外科内科クリニック, 3) 武蔵小杉病院脳神経外科, 4) 東京労災病院脳神経外科)：先端巨大症に対する内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の治療成績と長期経過：本邦と欧米における新たな治療基準との比較. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 4) 木暮一成¹⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 井須豊彦²⁾, 湧井健治³⁾, 渡邊敦志³⁾, 寺本 明⁴⁾, 氏家 弘⁴⁾, 森田明夫 (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 千葉脳神経外科病院, 4) 東京労災病院)：頸椎前方手技はどこまで安全・確実に普及したか：前方開創手技と合併症, 特に嗄声を中心に. 第22回脳神経外科手術と機器学会 (キッセイ文化ホール (松本)), 2013. 4.
- 5) 石井雄道, 大山健一¹⁾, 田原重志, 寺本 明²⁾, 森田明夫 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 東京労災病院)：内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術：安全・確実な手術のためのこだわりの手術法と手技. 第22回脳神経外科手術と機器学会 (キッセイ文化ホール (松本)), 2013. 4.
- 6) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 立山幸次郎²⁾, 額綱健太¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 武蔵小杉病院脳神経外科)：治療困難な内頸動脈瘤に対する Radial artery graft - RAG 100 症例から学んだ基本手術手技. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 7) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 國保倫子¹⁾, 森本大二郎³⁾, 菅原 淳⁴⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 横浜新緑病院脳神経外科, 4) 岩手医科大学脳神経外科)：当科における頸椎後方除圧術の工夫. 第28回日本脊髄外科学会, 2013. 6.
- 8) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 野手洋治¹⁾, 森田明夫 (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科)：頸椎前方固定手技：Williams-Isu 法の長期評価：fusion の評価を中心に. 第28回日本脊髄外科学会, 2013. 6.
- 9) 小南修史¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 渡邊 玲²⁾, 吉田陽一³⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 東京共済病院脳神経外科, 3) 荏原病院脳神経外科)：脳動静脈奇形に対する NBCA を用いた塞栓術 塞栓術と定位放射線治療との組合せによる治療戦略. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 10) 小南修史¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 渡邊 玲²⁾, 吉田陽一³⁾, 永野 修⁴⁾, 芹澤 徹⁵⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 東京共済病院脳神経外科, 3) 荏原病院脳神経外科, 4) 千葉県循環器病センター脳神経外科, 5) 築地神経科クリニック)：脳動静脈奇形に対する NBCA を用いた塞栓術の役割. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 2013. 11.
- 11) 大山健一¹⁾, Leo F.s-Filho D²⁾, 武藤 淳²⁾, Daniel-Souza G²⁾, Ricardo-Carrau L²⁾, Daniel-Prevedello M²⁾, 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸¹⁾, 森田明夫 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) オハイオ州立大学脳神経外科)：精密立体頭蓋モデルを用いた内視鏡下経鼻頭蓋底手術アプローチのシミュレーション. 第25回日本頭蓋底外科学会 (名古屋東急ホテル), 2013. 6.
- 12) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤破裂リスクスコアリングシステムの構築：自然歴からみた治療適応の検証. Stroke 2014, 2014. 3.
- 13) 太組一朗¹⁾, 森田明夫 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科)：黒子に徹してネットワークを拡張する. 第47回日本てんかん学会学術集会, 2013. 10.

- 14) 太組一朗¹⁾, 三品雅洋²⁾, 廣中浩平, 大山健一¹⁾, 山田 明¹⁾, 足立好司¹⁾, 濱本 真³⁾, 北村 伸³⁾, 吉田大蔵, 森田明夫, 寺本 明⁴⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 神経内科, ⁴⁾ 東京労災病院): てんかん外科医療のゲートウェイとしての VNS 療法; 小児神経科医を対象とした小規模アンケートとともに. 第 27 回日本ニューロモデュレーション学会, 2013. 5.
- 15) 石井雄道, 田原重志, 寺本 明¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 東京労災病院): 非機能性巨大下垂体腺腫の治療における予後不良因子: 当院にて施行した内視鏡下経鼻手術の治療成績より. 第 24 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2014. 2.
- 16) 田原重志, 石井雄道, 服部裕次郎, 瓜生康浩, 山王直子¹⁾, 竹井麻生²⁾, 井野元智恵³⁾, 長村義之⁴⁾, 寺本 明⁵⁾, 森田明夫 (¹⁾ 山王クリニック, ²⁾ 林脳神経外科内科クリニック, ³⁾ 東海大学医学部病理診断学, ⁴⁾ 東京労災病院): ACTH 産生下垂体腺腫 (ACTHoma) に対する内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術 (eTSS) の治療成績. 第 24 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2014. 2.
- 17) 石井雄道, 田原重志, 寺本 明¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 東京労災病院): 内視鏡下経鼻頭蓋底手術: 適応とその利点・欠点. 第 20 回日本神経内視鏡学会, 2013. 11.
- (5) セミナー:
- 1) 森田明夫: 髄膜腫剥離テクニック. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
 - 2) 山口文雄: Functional brain tumor surgery in Tokyo. ハルビン医科大学基礎医学院 (日本語医学コース学生授業), 2013. 8.
 - 3) 山口文雄: Functional brain tumor surgery in Tokyo: From Basic science to Clinical Practice and the Future Prospects. ハルビン医科大学第二医院 神経外科, 2013. 8.
 - 4) 村井保夫: (脳卒中予防/治療の進歩) 脳卒中の予防と治療の為の外科治療. 第 14 回東京都脳卒中市民公開セミナー, 2013. 11.
- (6) プレナリーセッション:
- 1) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 千葉泰弘²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 腰椎後方除圧術. 第 42 回日本脊椎脊髄病学会, 2013. 4.
- (7) 一般講演:
- 1) 田原重志, 服部裕次郎, 石井雄道, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院): プロラクチノーマを合併した斜台部脊索腫の 1 例. 第 120 回一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (日本歯科大学生命歯学部九段ホール), 2013. 4.
 - 2) 展 広智, 山田 明¹⁾, 太組一朗²⁾, 足立好司²⁾, 寺本 明³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 博慈会記念総合病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院): intracerebral schwannoma の 1 例. 第 120 回一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (日本歯科大学生命歯学部九段ホール), 2013. 4.
 - 3) 白銀一貴, 玉置智規¹⁾, 木暮一成¹⁾, 足立好司²⁾, 野手洋治¹⁾, 丹野正隆³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院病理部): 腫瘍内出血で発症し進行性の経過をたどった髄膜腫の 1 例. 第 120 回一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (日本歯科大学生命歯学部九段ホール), 2013. 4.
 - 4) 佐藤 俊¹⁾, 山田 明¹⁾, 玉置智規²⁾, 野手洋治²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 博慈会記念総合病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 頭蓋内転移をきたした Granulocyte colony stimulating factor (G-CSF) 産生性胸腺腫. 第 120 回一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (日本歯科大学生命歯学部九段ホール), 2013. 4.
 - 5) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 瀨瀬健太¹⁾, 大村朋子¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 頸椎症性脊髄症との鑑別に苦慮した脱髄性神経疾患の 1 例. 第 120 回一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (日本歯科大学生命歯学部九段ホール), 2013. 4.
 - 6) Morita A: Grading system to predict rupture of unruptured cerebral aneurysms. American Association of Neurological Surgeons the 81st Annual Scientific Meeting (New Orleans, Louisiana), 2013. 4.

- 7) 木村俊運¹⁾, 庄島正明²⁾, 森田明夫 (¹⁾ NTT 東日本関東病院脳神経外科, ²⁾ 東京大学医学部付属病院脳神経外科) : Flow reduction が奏功せずクリッピングを行った巨大血栓化動脈瘤の1例. 第66回関東脳神経外科懇話会 (大手町サンスカイルーム), 2013. 6.
- 8) 白銀一貴, 村井保夫, 喜多村孝雄, 森田明夫 : 急性硬膜下血腫で発症した破裂脳動脈瘤の1症例 : 出血原の判断ミスの反省. 第6回南十字星脳神経外科手術研究会 (中村記念病院 (札幌)), 2013. 8.
- 9) 馬場栄一, 石井雄道, 田原重志, 森田明夫 : 糖尿病コントロール不良に対し術前オクトレオチド投与が奏効した先端巨大症の1例. 第81回日本医科大学医学会総会 (日本医科大学橋桜会館), 2013. 9.
- 10) 村井保夫, 森田明夫, 高木 亮¹⁾, 関根鉄朗¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 水成隆之²⁾ (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 4D-flow MRIによる治療困難な内頸動脈病変に対する脳血流再建術の血流解析評価. 第81回日本医科大学医学会総会 (日本医科大学橋桜会館), 2013. 9.
- 11) 喜多村孝雄, 村井保夫, 白銀一貴, 森田明夫, 高木 亮¹⁾, 関根鉄朗¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 放射線科) : 急性硬膜下血腫で発症した破裂脳動脈瘤の1症例. 第81回日本医科大学医学会総会 (日本医科大学橋桜会館), 2013. 9.
- 12) Morita A : Natural Course of Unruptured Cerebral Aneurysms in a Japanese Cohort. 15th WFNS (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 13) 馬場栄一, 山口文雄, 展 広智, 樋口直司, 石井雄道, 森田明夫 : 術中言語テスト評価に注意を要した覚醒下手術症例. 第7回新三水会 (東邦大学医療センター大森病院), 2013. 9.
- 14) 喜多村孝雄, 村井保夫, 白銀一貴, 樋口直司, 服部裕次郎, 森田明夫 : 未破裂脳動脈瘤に infundibular dilatation を併発した1例. 第121回一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (東京ステーションコンファレンス), 2013. 9.
- 15) 山田敏雅¹⁾, 瀬藤健太¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 細菌性中大脳動脈瘤の1例. 第121回一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (東京ステーションコンファレンス), 2013. 9.
- 16) 中川俊祐¹⁾, 足立好司¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 太組一朗¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 子宮肉腫による転移性脳腫瘍の1例. 第121回一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (東京ステーションコンファレンス), 2013. 9.
- 17) 森田明夫, 木村俊運¹⁾, 村井保夫, 梅岡克哉 (¹⁾ NTT 東日本関東病院脳神経外科) : 聴神経腫瘍聴覚温存に関与する術前因子と手術方法の検証. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 18) Morita A : Management outcome of unruptured cerebral aneurysms in Japan : Result from UCAS Japan. Congress of Neurological surgeons 2013 Annual Meeting (San Francisco, California), 2013. 10.
- 19) 白銀一貴, 村井保夫, 喜多村孝雄, 森田明夫 : 巨大錐体部内頸動脈瘤に対して high flow bypass を用いて治療した1例. 第122回一般社団法人日本脳神経外科学会 関東支部会 (大手町サンケイプラザ), 2013. 12.
- 20) 中川俊祐¹⁾, 足立好司¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 太組一朗¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : メトロニダゾール脳症の1例. 第122回一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (東京ステーションコンファレンス), 2013. 12.
- 21) 玉置智規¹⁾, 三枝英人²⁾, 野手洋治¹⁾, 齋藤寛浩³⁾, 梅岡克哉⁴⁾, 水成隆之⁴⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 耳鼻咽喉科, ³⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科, ⁴⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : CEA 後唝声回避の工夫 — 神経保護と術後創部血腫予防の技手. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 22) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 久保田稔²⁾, 水成隆之³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院臨床検査科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : CEA と癌. 第12回日本頸部脳血管治療学会, 2013. 6.
- 23) Tamaki T¹⁾, Kubota A²⁾, Saigusa H³⁾, Node Y¹⁾, Saito N⁴⁾, Umeoka K⁵⁾, Mizunari T⁵⁾, Morita A (¹⁾

Department of Neurosurgery, Tamagayama Hospital,²⁾Department of Clinical Laboratory, Tamagayama Hospital, ³⁾ Department of otorhinolaryngology, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Hoarseness after carotid endarterectomy : The technique for preventing vagus nerve injury. 4th International MASSIN Congress (Kobe, Japan), 2013. 9.

- 24) Tamaki T¹⁾, Kubota A²⁾, Saigusa H³⁾, Node Y¹⁾, Saito N⁴⁾, Umeoka K⁵⁾, Mizunari T⁵⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Tamagayama Hospital, ²⁾Department of Clinical Laboratory, Tamagayama Hospital, ³⁾ Department of otorhinolaryngology, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Hoarseness after carotid endarterectomy. 22th European Stroke Conference (London, UK), 2013. 5.
- 25) Tamaki T¹⁾, Kubota A²⁾, Saigusa H³⁾, Node Y¹⁾, Saito N⁴⁾, Umeoka K⁵⁾, Mizunari T⁵⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Tamagayama Hospital, ²⁾Department of Clinical Laboratory, Tamagayama Hospital, ³⁾ Department of otorhinolaryngology, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Analysis of perioperative renal function in carotid endarterectomy patients. 22th European Stroke Conference (London, UK), 2013. 5.
- 26) 田原重志, 村井保夫, 石井雄道, 服部裕次郎, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院) : 脳腫瘍および脳動脈瘤手術に対するハイビジョンエンドアームの使用経験. 第13回日本術中画像情報学会, 2013. 7.
- 27) 田原重志, 村井保夫, 石井雄道, 服部裕次郎, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院) : 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術 (eTSS) に対するハイビジョンエンドアームの使用経験. 第10回日本脳神経外科手術夜話, 2013. 10.
- 28) 田原重志, 寺師聖吾¹⁾, 山崎英樹¹⁾, 宮城調司¹⁾, 榎山麻子¹⁾, 住友秀孝 (¹⁾ 立川相互病院内分泌代謝内科) : パーキンソン病発症を契機に発見された先端巨大症の1例. 第11回多摩視床下部下垂体勉強会, 2013. 10.
- 29) Tahara S, Ishii Y, Hattori Y, Kitamura T¹⁾, Teramoto A²⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Surgical and long-term outcome of endoscopic transsphenoidal pituitary surgery for acromegaly : Differences between new and conventional criteria for biochemical cure. 15th WFNS (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 30) Murai Y, Mizunari T¹⁾, Umeoka K¹⁾, Koketsu K¹⁾, Tateyama K²⁾, Kobayashi S¹⁾, Kitamura T²⁾, Morita A, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ³⁾ Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Radial artery graft bypass and aneurysmal trapping for ruptured internal carotid artery wall aneurysm in acute stage. 15th WFNS (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 31) Higuchi T, Yamaguchi F, Ten H, Oomura T¹⁾, Adachi K²⁾, Teramoto A³⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ³⁾ Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Usefulness and limitations of 5-ala pd during brain tumor surgery. 15th WFNS (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 32) Shirokane K, Yoshida D, Ishii Y, Tahara S, Morita A : The expression of neuropilin-1 in pituitary adenomas. 15th WFNS (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 33) Matano F, Murai Y, Adachi K¹⁾, Kitamura T¹⁾, Morita A, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Pathophysiology and management of intracranial arterial stenosis around the circle of Willis associated with hyperthyroidism. 15th WFNS (Seoul, Korea), 2013. 9.

- 34) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Morimoto D³⁾, Chiba Y²⁾, Isobe M²⁾, Kobayashi S¹⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ³⁾ Department of Neurosurgery, Yokohama Shinmidori Hospital) : Surgical treatment of a low back pain due to the superior cluneal nerve entrapment neuropathy. 15th WFNS (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 35) Kokubo R¹⁾, Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Kobayashi S¹⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : The incidence of the concomitant intracranial and spinal subdural hematoma. A prospective study. 15th WFNS (Seoul, Korea), 2013. 9.
- 36) 亦野文宏, 村井保夫, 足立好司¹⁾, 水成隆之²⁾, 立山幸次郎¹⁾, 小林士郎²⁾, 森田明夫, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院) : Anterior interhemispheric approach の合併症 病変による合併症の違いに関する考察. 第 22 回脳神経外科手術と機器学会 (キッセイ文化ホール (松本)), 2013. 4.
- 37) 亦野文宏, 村井保夫, 足立好司¹⁾, 水成隆之²⁾, 立山幸次郎¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院) : Anterior interhemispheric approach の合併症 病変による合併症の違いに関する考察. 第 25 回日本頭蓋底外科学会 (名古屋東急ホテル), 2013. 6.
- 38) 亦野文宏, 村井保夫, 足立好司¹⁾, 水成隆之²⁾, 立山幸次郎¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院) : Anterior interhemispheric approach の合併症 病変による合併症の違いに関する考察. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 39) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 瀨瀬健太¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 内頸動脈病変に対する RA グラフト術 (Patency の向上のために). 第 22 回脳神経外科手術と機器学会 (キッセイ文化ホール (松本)), 2013. 4.
- 40) 山口文雄, 樋口直司, 展 広智, 大村朋子¹⁾, 足立好司²⁾, 高橋 弘³⁾, 喜多村孝幸²⁾, 寺本 明⁴⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 春日居サイバーナイフリハビリ病院, ⁴⁾ 東京労災病院) : フィット性を高め, 電極間の電気刺激を可能にしたスリット入りグリッド電極 (山口グリッド電極). 第 22 回脳神経外科手術と機器学会 (キッセイ文化ホール (松本)), 2013. 4.
- 41) 村井保夫, 足立好司, 亦野文宏, 水成隆之¹⁾, 喜多村孝幸²⁾, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院) : 術中イリゲーションサククションシステムの加圧バッグとしてのナイアガラハイフローイリゲーションポンプ. 第 22 回脳神経外科手術と機器学会 (キッセイ文化ホール (松本)), 2013. 4.
- 42) 石井雄道, 大山健一¹⁾, 田原重志, 寺本 明²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院) : 当施設における内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の手術器具. 第 22 回脳神経外科手術と機器学会 (キッセイ文化ホール (松本)), 2013. 4.
- 43) 瀨瀬健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 村井保夫, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 頭蓋外内頸動脈解離に対し High flow bypass を施行した 3 例. 第 22 回脳神経外科手術と機器学会 (キッセイ文化ホール (松本)), 2013. 4.
- 44) 山口文雄, 廣中浩平, 石井雄道, 足立好司¹⁾, 寺本 明²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院) : 治療方針決定に苦慮した神経膠腫の 1 例. 第 19 回文京脳腫瘍研究会, 2013. 7.
- 45) 山口文雄, 展 広智, 樋口直司, 馬場栄一, 土岐幸生, 國保倫子¹⁾, 大村朋子¹⁾, 石井雄道, 佐藤 俊²⁾, 小島豊之³⁾, 野村竜太郎⁴⁾, 喜多村孝幸⁵⁾, 高橋 弘⁶⁾, 寺本 明⁷⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 博慈会記念総合病院脳神経外科, ³⁾ 四谷メディカルキューブ, ⁴⁾ 日本赤十字社医療センター脳神経外科, ⁵⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ⁶⁾ 春日居サイバ-ナイフ・リハビリ病院脳神経外科, ⁷⁾ 東京労災病院) : 機能温存を最重視したグリオーマ治療戦略. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 46) 山口文雄 : 脳腫瘍における鬱状態の検討. 第 3 回千駄木脳腫瘍研究会, 2013. 6.

- 47) Yamaguchi F, Omura T¹⁾, Kokubo R¹⁾, Kojima T²⁾, Higuchi T, Ten H, Takahashi H³⁾, Kitamura T⁴⁾ (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 2) Yotsuya Medical Cube, 3) Kasugai Rehabilitation Hospital, 4) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Recognition of subcortical motor pathway for glioma patient safety. American Association of Neurological Surgeons the 81st Annual Scientific Meeting (New Orleans, Louisiana), 2013. 4.
- 48) Yamaguchi F, Asakura T, Takahashi H¹⁾, Kitamura T²⁾, Teramoto A³⁾ (1) Kasugai Rehabilitation Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, 3) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Induction of antitumor effect of 5-aminolevulinic acid in malignant glioma by low frequency ultrasound. American Association of Neurological Surgeons the 81st Annual Scientific Meeting, 2013. 4.
- 49) Higuchi T, Yamaguchi F, Ten H, Omura T¹⁾, Adachi K²⁾, Teramoto A³⁾ (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, 3) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Study of 5 ALA PD in our 100 cases of brain tumor. American Association of Neurological Surgeons the 81st Annual Scientific Meeting, 2013. 4.
- 50) 山口文雄 : 脳腫瘍の低侵襲治療をめざした試み. Neurosurgery Meeting, 2013. 10.
- 51) 額頰健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 村井保夫, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科) : 頭蓋外内頸動脈解離に対し外科的治療を施行した3例. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 52) 山田敏雅¹⁾, 水成隆之¹⁾, 額頰健太¹⁾, 石坂栄太郎, 白銀一貴, 立山幸次郎²⁾, 梅岡克哉¹⁾, 村井保夫, 玉置智規³⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 多摩永山病院脳神経外科) : 前交通動脈瘤に対するアプローチ法の選択. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 53) 立山幸次郎¹⁾, 村井保夫, 亦野文宏, 森田明夫 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : Pterional approach と Interhemispheric approach 同時手術のリスクと対策. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 54) 喜多村孝雄, 村井保夫, 白銀一貴, 樋口直司, 服部裕次郎, 森田明夫 : Infundibular dilatation を伴う未破裂脳動脈瘤の1例 - infundibular dilatation の動脈瘤化の検討 - . 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 55) 村井保夫, 石井雄道, 森田明夫 : 前交通動脈瘤と症候性下垂体腺腫併存症例の経鼻 - 開頭同時手術 : 利点と問題点. 第25回日本頭蓋底外科学会 (名古屋東急ホテル), 2013. 6.
- 56) 関根鉄朗¹⁾, 高木 亮¹⁾, 天野康雄¹⁾, 松村善雄¹⁾, 村井保夫, 鈴木由里子¹⁾, 汲田伸一郎 (1) 放射線科) : 4D Flow MRI を用いた眼動脈逆行性血流の臨床的評価 内頸動脈閉塞例における脳血流 SPECT との比較. 第72回日本医学放射線学会総会, 2013. 4.
- 57) 高木 亮¹⁾, 関根鉄朗¹⁾, 天野康雄¹⁾, 村井保夫, 織田絵里香¹⁾, 日高史貴¹⁾, 喜多村孝幸²⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 放射線科, 2) 武蔵小杉病院脳神経外科) : 4D-Flow MRI を用いた内頸動脈瘤結紮術後の EC/IC バイパス術後の評価. 第72回日本医学放射線学会総会, 2013. 4.
- 58) 水成隆之¹⁾, 額頰健太¹⁾, 山田敏雅¹⁾, 石坂栄太郎, 白銀一貴, 立山幸次郎²⁾, 梅岡克哉¹⁾, 村井保夫, 玉置智規³⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 多摩永山病院脳神経外科) : 内頸動脈病変に対する RA グラフト術. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 59) 金 景成, 井須豊彦, 國保倫子, 森本大二郎, 菅原 淳, 小林士郎 : 頸椎硬膜動静脈ろうに対する治療経験. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 2013. 4.

- 60) 金 景成¹⁾, 江本直也²⁾, 井須豊彦³⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院内分泌内科, ³⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 糖尿病患者に認めるしびれに関する研究. 第 28 回日本脊髄外科学会, 2013. 6.
- 61) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Kokubo R¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokusai Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital): The peripheral nerve neuropathy affects to the clinical result of the lumbar surgery. *Asia Spine* 2013 (Gyeongju, Korea), 2013. 10.
- 62) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 國保倫子¹⁾, 森本大二郎³⁾, 岩本直高²⁾, 千葉泰弘²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 横浜新緑病院脳神経外科): 腰椎疾患術後成績へ末梢神経障害が与える影響に関する研究. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 63) 吉田大蔵, 亦野文宏, 寺本 明¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 東京労災病院): 下垂体腺腫細胞に対する人工ペプチド A6K を用いた新しい遺伝子導入法の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 64) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 久保田稔²⁾, 水成隆之³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院臨床検査科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科): CEA と癌. 第 12 回日本頸部脳血管治療学会, 2013. 6.
- 65) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 玉置智規¹⁾, 山崎道生¹⁾, 野手洋治¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 頸椎手術における整容: Function を完成させるために. 第 6 回日本整容脳神経外科研究会, 2013. 4.
- 66) 木暮一成¹⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 井須豊彦²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 前方開創手技と合併症: 特に嗄声を中心に. 第 28 回日本脊髄外科学会, 2013. 6.
- 67) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 玉置智規¹⁾, 山崎道生¹⁾, 野手洋治¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 頸椎前方固定手技: fusion の評価と臨床的意義: Williams-Isu 法を中心に titanium cage との比. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 68) 山崎道生¹⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 齋藤寛浩²⁾, 梅岡克哉³⁾, 鈴木雅規³⁾, 水成隆之³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科): CEA と癌. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 69) 梅岡克哉¹⁾, 太組一朗²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫, 鮑本正宇³⁾, 百東比古⁴⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院形成外科, ⁴⁾ 形成外科): 内視鏡下前頭部小切開とカルシウム骨ペーストにより治療を行った前頭骨陥没骨折の 1 例. 第 6 回日本整容脳神経外科研究会, 2013. 4.
- 70) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 脊椎脊髄疾患 3T MRI のピットフォール—胸腰髄血管障害との鑑別を要した 2 例. 第 42 回日本脊椎脊髄病学会, 2013. 4.
- 71) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 胸腰髄血管障害との鑑別を要した 2 例: 脊髄 MRI で注意すべき点. 第 28 回日本脊髄外科学会, 2013. 6.
- 72) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫の頻度. 第 28 回日本脊髄外科学会, 2013. 6.
- 73) 梅岡克哉¹⁾, 田草川豊²⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京医科大学脳神経外科): 上小脳動脈から分枝する硬膜枝に関する検討. 第 25 回日本頭蓋底外科学会 (名古屋東急ホテル), 2013. 6.
- 74) 小南修史¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 脳血管内治療の 1 例. 第 14 回脳神経血管内治療琉球セミナー, 2013. 5.

- 75) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 千葉泰弘²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 当科における上臀皮神経障害の外科治療. 第24回日本末梢神経学会学術集会, 2013. 7.
- 76) 小南修史¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 謎の骨肥厚を伴った Dural AVF と頭皮の AVF の1例. 第3回富山ホタルイカ・カンファレンス, 2013. 8.
- 77) 額綱健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 山田敏雅¹⁾, 國保倫子¹⁾, 大村朋子¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 石井雄道, 梅岡克哉¹⁾, 金 景成¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 中大脳動脈遠位部脳動脈瘤に対しトラッピング&バイパス術を施行した症例. 第8回東葛脳神経外科手術手技研究会「千葉あすなろの会」, 2013. 9.
- 78) 梅岡克哉¹⁾, 田草川豊²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京医科大学脳神経外科): Trigemino-cerebellar artery による三叉神経痛の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 79) Kominami S¹⁾, Suzuki M¹⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital): Embolization of Brain Arteriovenous Malformations with NBCA: Result of 200 Cases. 12th CONGRESS WFITN 2013, 2013. 11.
- 80) 足立好司¹⁾, 山口文雄, 玉置智規²⁾, 大村朋子³⁾, 高木 亮⁴⁾, 高橋 弘⁵⁾, 寺本 明⁶⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ⁴⁾ 放射線科, ⁵⁾ 春日居サイバーナイフリハビリ病院, ⁶⁾ 東京労災病院): 非典型画像所見を呈する中枢神経系原発悪性リンパ腫の診断とその疫学的要因. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 81) 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 渡邊 玲²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京共済病院脳神経外科): 静脈洞血栓症に伴う多発硬膜動静脈瘻の病態解析. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 82) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫: 硬膜下血腫は頭蓋から脊髄まで移動するか?. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 83) 樋口直司, 山口文雄, 展 広智, 國保倫子¹⁾, 大村朋子¹⁾, 馬場栄一, 土岐幸生, 石井雄道, 小島豊之²⁾, 野村竜太郎³⁾, 喜多村孝幸⁴⁾, 高橋 弘⁵⁾, 寺本 明⁶⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ, ³⁾ 日本赤十字社医療センター脳神経外科, ⁴⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ⁵⁾ 春日居サイバーナイフリハビリ病院, ⁶⁾ 東京労災病院脳神経外科): 5-ALA を用いた術中蛍光診断と病理学的診断との比較検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (パシフィコ横浜), 2013. 10.
- 84) 鈴木雅規, 山田敏雅, 國保倫子, 額綱健太, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: Multiple dural AVF の1例. 第78回千葉北総神経放射線研究会, 2013. 11.
- 85) 梅岡克哉¹⁾, 田草川豊²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京医科大学脳神経外科): 三叉神経痛と舌咽神経痛の手術成績. 第41回日本頭痛学会総会, 2013. 11.
- 86) 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 阿部晃大¹⁾, 小南修史²⁾, 小林士郎²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院 放射線センター, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科): トモシンセシスを用いた頸動脈ステント内腔描出能に関する基礎的検討. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 2013. 11.
- 87) 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 後大脳動脈末梢部脳動脈瘤に対する塞栓術. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 2013. 11.
- 88) 展 広智: 後頭葉てんかんで発症した, 脳実質内神経鞘腫手術例の臨床病理学的検討. 第31回日本脳腫瘍病理学会, 2013. 5.
- 89) 白銀一貴, 吉田大蔵, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 東京労災病院): Neuropilin-1 の下垂体腺腫での検討. 第54回日本神経病理学会総会学術研究会, 2013. 4.
- 90) 中川俊祐¹⁾, 足立好司¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 太組一朗¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 山口文雄, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神

- 経外科)：中枢神経系原発悪性リンパ腫の高用量メソトレキセート療法における薬剤血中濃度と腫瘍縮小効果の解析。一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会 (バシフィコ横浜), 2013. 10.
- 91) 太組一朗¹⁾, 足立好司¹⁾, 太組由貴²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 太組クリニック)：高齢者てんかんにおいて漢方治療を導入した1例。第22回日本脳神経外科漢方医学会, 2013. 11.
- 92) 杉山 誠¹⁾, 立澤孝幸¹⁾, 石井雄道, 田原重志 (¹⁾ 関東労災病院脳神経外科)：内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術脂肪片を用いた髄液漏修復法。第20回日本神経内視鏡学会, 2013. 11.
- 93) 服部裕次郎, 石井寛高¹⁾, 森田明夫, 小澤一史¹⁾ (¹⁾ 解剖学・神経生物学分野)：新規ラットC末端欠損型エストロゲン受容体 α 変異体の同定と機能解析。第40回日本神経内分泌学会学術集会, 2013. 10.
- 94) Morita A : Natural course and treatment outcome of the unruptured cerebral aneurysms in Japan. 1st Anniversary Shinyurigaoka Hospital International Aneurysm Conference (Kanagawa, Japan), 2013. 4.
- 95) 久保田麻紗美¹⁾, 水成隆之¹⁾, 山田敏雅¹⁾, 額額健太¹⁾, 國保倫子¹⁾, 大村朋子¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 石井雄道, 梅岡克哉¹⁾, 金 景成¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科)：クリッピングに難渋した破裂脳底動脈頂部動脈瘤の1例。第9回東葛脳神経外科手術手技研究会「千葉あすなろの会」, 2014. 3.
- 96) Takumi I¹⁾, Ura H²⁾, Sadamoto K³⁾, Takamori H⁴⁾, Bizen T⁴⁾, Kishi Y⁵⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Pharmaceutical department, Chiba Hokuso Hospital, ³⁾ Department of Clinical Pharmacy, Yokohama College Pharmacy, ⁴⁾ Dai Nippon Printing Corporation, ⁵⁾ Department of psychiatry, Musashi Kosugi Hospital) : Evaluation of a new card device for the medication adherence checking in epilepsy. 67th annual meeting of the American Epilepsy Society Meeting (Seattle, Washington), 2013. 12.
- 97) Takumi I¹⁾, Mishina M²⁾, Hironaka K, Oyama K¹⁾, Yamada A¹⁾, Ten H, Adachi K¹⁾, Hamamoto M³⁾, Kitamura S³⁾, Yoshida D, Teramoto A⁴⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, ³⁾ Department of Internal Medicine, Musashi Kosugi Hospital, ⁴⁾ Tokyo Rosai Hospital) : Technical consideration for the polyethylene glycol hydrogel dural sealant capping to prevent CSF loss in the DBS surgery. 2013 Quadrennial Meeting of WSSFN (World Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery) (Tokyo, Japan), 2013. 5.
- 98) 太組一朗¹⁾, 足立好司¹⁾, 太組由貴²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 太組クリニック)：高齢者てんかんにおいて漢方治療を導入した1例。第22回 日本脳神経外科漢方医学会, 2013. 11.
- 99) 太組一朗¹⁾, 饒波正博²⁾, 嘉手川淳³⁾, 寺本 明⁴⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 大浜第一病院脳神経外科, ³⁾ 沖縄赤十字病院神経内科, ⁴⁾ 東京労災病院)：てんかん2次診療医としての脳神経外科専門医の役割：若年性ミオクロニーてんかんの誤診率からみるてんかん診療・教育のありかた。一般社団法人日本脳神経外科学会 第72回学術総会, 2013. 10.
- 100) 太組一朗¹⁾, 浦 裕之²⁾, 定本清美³⁾, 高森寛子⁴⁾, 備前毅宏⁴⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院薬剤部, ³⁾ 横浜薬科大学臨床薬学科, ⁴⁾ 大日本印刷)：抗てんかん薬の服薬アドヒアランス確認のためのカード型デバイスの開発。第47回日本てんかん学会学術集会, 2013. 10.
- 101) 太組一朗¹⁾, 浦 裕之²⁾, 展 広智, 高森寛子³⁾, 定本清美⁴⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院薬剤部, ³⁾ 大日本印刷, ⁴⁾ 横浜薬科大学臨床薬学科)：難治てんかん治療への薬剤選択と外科治療。第2回 NMS Epilepsy Network Meeting, 2013. 9.
- 102) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 斉藤寛浩²⁾, 梅岡克哉³⁾, 鈴木雅規³⁾, 水成隆之³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科)：CEA と癌。Stroke2014, 2014. 3.
- 103) 白銀一貴, 村井保夫, 喜多村孝雄, 森田明夫：ハイビジョン内視鏡を用いた脳動脈瘤クリッピング術。Stroke2014, 2014. 3.
- 104) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 斉藤寛浩²⁾, 梅岡克哉³⁾, 水成隆之³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 東京

- 労災病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 無症候性頸動脈狭窄の CEA と脳神経損傷. Stroke2014, 2014. 3.
- 105) 白銀一貴, 村井保夫, 喜多村孝雄, 立山幸次郎¹⁾, 水成隆之²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 巨大頸部内頸動脈瘤に対して, high flow bypass を用いて治療した 1 例. Stroke2014, 2014. 3.
- 106) 喜多村孝雄, 村井保夫, 白銀一貴, 森田明夫 : Infundibular dilatation から発生した未破裂脳動脈瘤の 1 例. Stroke2014, 2014. 3.
- 107) 中川俊祐¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 太組一朗¹⁾, 足立好司¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 綿維筋性異形成を合併した内頸動脈瘤の 1 例. Stroke2014, 2014. 3.
- 108) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 瀬瀬健太¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 立山幸次郎²⁾, 森田明夫, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 種々の内頸動脈病変に対する high flow bypass - 100 例を越える経験からの手技・管理・予後 - . Stroke2014, 2014. 3.
- 109) 水成隆之¹⁾, 瀬瀬健太¹⁾, 山田敏雅¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 立山幸次郎³⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 内頸動脈解離性動脈瘤 (とくに blister like aneurysm) に対する治療戦略. Stroke2014, 2014. 3.
- 110) 亦野文宏, 村井保夫, 立山幸次郎¹⁾, 玉置智規²⁾, 水成隆之³⁾, 寺本 明⁴⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ⁴⁾ 東京労災病院) : STA-MCA バイパスの長期 patancy の検討. Stroke2014, 2014. 3.
- 111) 石坂栄太郎, 村井保夫, 喜多村孝雄, 中川俊祐¹⁾, 白銀一貴, 増野 聡²⁾, 青木秀治²⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 耳鼻咽喉科) : 前頭側頭開頭術後に鼓室内血腫による伝音性難聴を合併した症例. Stroke2014, 2014. 3.
- 112) 瀬瀬健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 村井保夫, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 頭蓋外内頸動脈解離に対し High flow bypass を施行した 2 例. Stroke2014, 2014. 3.
- 113) 山田敏雅¹⁾, 水成隆之¹⁾, 瀬瀬健太¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 細菌性脳動脈瘤に対する外科的治療. Stroke2014, 2014. 3.
- 114) 築山 敦, 村井保夫, 喜多村孝雄, 白銀一貴, 森田明夫 : 大脳冠に限局したくも膜下出血で発症した類もやもや病の 1 例. Stroke2014, 2014. 3.
- 115) 馬場栄一, 村井保夫, 白銀一貴, 喜多村孝雄, 森田明夫 : 急性硬膜下血腫で発症した破裂脳動脈瘤の 1 症例 - 出欠源の判断ミスに至った経緯に関して. Stroke2014, 2014. 3.
- 116) 立山幸次郎¹⁾, 村井保夫, 廣中浩平, 瀬瀬健太²⁾, 亦野文宏, 山田 明¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : PerfusionCT によるくも膜下出血急性期患者の評価と予後予測. Stroke2014, 2014. 3.
- 117) 馬場栄一, 田原重志, 石井雄道, 井野元智恵¹⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明³⁾, 森田明夫 (¹⁾ 東海大学医学部病理診断学, ²⁾ 国際医療福祉大学三田病院病理部, ³⁾ 東京労災病院) : 外転神経麻痺で発症した atypical pituitary adenoma の 1 例. 第 24 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2014. 2.
- 118) 山王直子¹⁾, 田原重志, 石井雄道, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 山王クリニック, ²⁾ 東京労災病院) : 先端巨大症の薬物療法 - 9 年間の治療成績 - . 第 24 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2014. 2.
- 119) 亦野文宏, 吉田大蔵, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 東京労災病院) : 下垂体腺腫における腫瘍浸潤と Endocan の発現. 第 24 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2014. 2.
- 120) 杉山 誠¹⁾, 立澤孝幸¹⁾, 田原重志, 石井雄道 (¹⁾ 関東労災病院脳神経外科) : 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術脂肪片を用いた髄液漏修復法. 第 24 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2014. 2.
- 121) 服部裕次郎, 田原重志, 石井雄道, 喜多村孝幸¹⁾, 井野元智恵²⁾, 長村義之³⁾, 寺本 明⁴⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小

- 杉病院脳神経外科, ²⁾ 東海大学医学部病理診断学, ³⁾ 国際医療福祉大学三田病院病理部, ⁴⁾ 東京労災病院): 斜
台部脊索腫を合併したプロラクチン産生下垂体腺腫の1例. 第24回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2014. 2.
- 122) 服部裕次郎, 石井寛高¹⁾, 森田明夫, 小澤一史¹⁾ (¹⁾ 解剖学教室): 新規ラットC末端欠損型エストロゲン受容体
a 変異体の同定. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2014. 3.
- 123) 太組一朗¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 脳神経外科手術器械の滅菌法 - 定位手術器械に関する考
察 -. 第53回日本定位・機能神経外科学会, 2014. 2.
- 124) 太組一朗¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 施設報告 日本医科大学. 全国てんかんセンターネット
ワーク協議会静岡大会, 2014. 2.
- 125) 伊藤美由紀, 太組一朗¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 長時間ビデオ脳波モニタリング検査におい
ての看護師としての取り組み - より安全に, 寄り確実に, 発作を記録するために -. 全国てんかんセンター
ネットワーク協議会 静岡大会, 2014. 2.
- 126) 太組一朗¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 小児神経科医師はVNSをどのように捉えているか. 第37
回日本てんかん外科学会, 2014. 2.
- 127) 太組一朗¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 小児神経科医からみたVNS (迷走神経刺激) 療法 神奈
川県内小児神経科医を対象としたアンケート結果. 第73回神奈川てんかん懇話会, 2014. 2.
- 128) Suzuki M¹⁾, Kominami S¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokusyo Hospi-
tal): Endovascular treatment of distal cerebral aneurysm using n-butyl cyanoacrylate for various etiologies.
11th meeting of Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (AAFITN
2014), 2014. 3.
- 129) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神
経外科): 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫についての検討. 第37回日本脳神経外傷学会, 2014.
3.
- 130) 梅岡克哉¹⁾, 田草川豊²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京医科大学脳神経外科):
MVD手術における意外な出血源. 第16回日本脳神経外傷学会, 2014. 3.
- 131) 石井雄道: 内視鏡下経鼻手術における開窓部閉鎖テクニック: 簡潔で確実な water-tight closure. 第1回手技に
こだわる脳神経外科ビデオカンファランス, 2014. 1.
- 132) 額額健太¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 中大脳動脈末梢発動脈破裂によるくも膜下出血の1例.
第1回手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファランス, 2014. 1.
- 133) 田原重志: ACTH産生下垂体腺腫 (ACTHoma) に対する内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術 (eTSS) の治療成
績. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 平成25年度班会議, 2014.
1.
- 134) 高野幸路¹⁾, 田原重志, 有田和徳²⁾ (¹⁾ 北里大学内分泌代謝内科, ²⁾ 鹿児島大学脳神経外科): GH産生腺腫の全
ゲノムメチローム解析で明らかになったこと. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関す
る調査研究班 平成25年度班会議, 2014. 1.
- 135) 田原重志: Cushing病1. 第23回臨床内分泌代謝 Update, 2014. 1.
- 136) 石井雄道: 偶発的に見つかったクッシング病の1手術例. 第23回臨床内分泌代謝 Update, 2014. 1.
- 137) 村井保夫: 頭部外傷後の静脈洞血栓症の1例. 第37回日本脳神経外傷学会, 2014. 3.
- 138) 石井雄道: Endoscopic skull base surgery: 確実な開窓部閉鎖の方法と工夫. 第25回日本頭蓋底外科学会 (名
古屋東急ホテル), 2013. 6.
- 139) Ishii Y: Effect of intensive resection of pseudocapsule on surgical results results in non-functioning pituitary
macroadenomas. 24th Annal Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference, 2013. 7.
- 140) 石井雄道: pituitary adenoma. 第18回日本脳腫瘍の外科学会, 2013. 9.

- 141) 石井雄道：Non-functioning pituitary macroadenoma に対する経鼻内視鏡手術：pseudocapsular resection の手技の有用性. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 72 回学術総会（パシフィコ横浜），2013. 10.
- 142) 石井雄道：GH 産生巨大下垂体腫瘍の一手術例. 第 9 回アクトロメガリーフォーラム，2013. 11.
- (8) 記念講演：
- 1) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤の治療適応と課題：日本からの発信. 伊達 勲教授 就任十周年記念講演会（ホテルグランヴィア岡山（岡山）），2013. 11.
- (9) 講演：
- 1) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤はどうすべきか？. 第 12 回大阪神経研究会（田辺三菱製薬（株）主催）（ホテルグランヴィア大阪），2013. 4.
 - 2) 森田明夫：日本未破裂脳動脈瘤悉皆調査の結果：日本における大規模調査のあり方とその成果公表への道. 第 1 回 Brain & Heart Attack Conference（バイエル薬品（株）主催）（帝国ホテル大阪），2013. 4.
 - 3) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤は安全か？最近の知見と無症候性脳血管疾患の対応ガイドライン. 第 19 回日本医科大学医療連携推進会（浅草ビューホテル），2013. 7.
 - 4) Morita A：Natural course of unruptured cerebral aneurysms and treatment strategy：Ground Rounds. Department of Neurosurgery, University of Washington（Seattle, Washington），2013. 7.
 - 5) 山口文雄：脳神経外科における術中モニタリング - 運動機能部位同定，覚醒下手術における言語機能部位同定 - . 関東神経生理検査技術研究会主催第 49 回日曜講習会，2014. 1.
 - 6) 田原重志：下垂体機能低下症をきたす疾患とその手術. JCR ファーマ（株）社内講演会，2014. 2.
 - 7) 田原重志：下垂体腫瘍の画像診断と治療. SMV 間脳下垂体ファイザー（株）社内勉強会，2013. 5.

[武蔵小杉病院脳神経外科]

研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は、従来より川崎市および神奈川県東部の中核的大学付属病院として診療研究を行ってきた。平成 25 年 1 月から立山幸次郎助教，平成 25 年 4 月から喜多村孝幸病院教授が着任し，従来から特色となっていた「悪性脳腫瘍の集学的治療（足立好司准教授）」、「機能的脳神経外科（てんかん・パーキンソン病の外科治療）（太組一朗講師）」に加えて多くの新たな特色ある分野が加わった。喜多村病院教授は，1) 低侵襲脳神経外科手術として発展している神経内視鏡手術（脳腫瘍（脳室内腫瘍・脳下垂体腫瘍），水頭症，嚢胞性疾患，脳内出血）の開発，2) 脳脊髄液減少症の病態研究と診断，治療（厚生労働省科学研究費分担研究者），3) 特発性正常圧水頭症の病態研究と診断・治療，4) 難治性頭痛および中枢性疼痛の病態研究と診断・治療をスタートさせ，国内有数の拠点施設となることを目指している。また立山助教は，1) 治療困難な脳血管障害（未破裂/破裂脳動脈瘤，閉塞性脳血管障害）に対する high flow bypass 手術，2) 頭蓋底良性腫瘍（聴神経腫瘍，髄膜腫等）の手術を専門として，その術式と治療結果に高い評価を得ている。また武蔵小杉病院救命救急センターとの密接な協力の下に，急性期脳血管障害，脳神経外傷の治療を行ない，地域の中心的施設として活動している。また継続した研究として，1) 分子生物学的手法を用いた脳腫瘍のサイトカインによる治療機構の解析，2) 神経疾患に対する免疫療法の臨床応用，3) ビデオ脳波モニタリングを用いたてんかん発症様式の解析，4) 新規抗てんかん薬の治療効果解析を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 齊藤延人¹⁾，太組一朗⁽¹⁾ 東京大学脳神経外科)：医原性クロイツフェルト・ヤコブ病 I, II. 感染性疾患 プリオン病 感染性（獲得型）プリオン病神経症候群（第 2 版）：その他の神経疾患を含めて，別冊日本臨床 新領

域別症候群シリーズ 2013 ; 26 : 700-702.

- 2) 齊藤延人¹⁾, 太組一朗 (¹⁾ 東京大学脳神経外科) : 【プリオン病-up to date】ヒトのプリオン病 インシデント対策と2次感染予防. *Clinical Neuroscience* 2013 ; 31 (9) : 1044-1047.
- 3) 丸 栄一¹⁾, 浦 裕之²⁾, 太組一朗 (¹⁾ 日本医科大学生理学教室, ²⁾ 千葉北総病院薬剤部) : けいれん・けいれん重積発作 I けいれん性疾患—救急外来から てんかん診療へ. 救急・集中治療 (編 加藤正哉) 2013 ; 25 (11/12) : 1278-1284.
- 4) Sakai K¹⁾, Hamaguchi T¹⁾, Noguchi-Shinohara M¹⁾, Nozaki I¹⁾, Takumi I, Sanjo N²⁾, Nakamura Y³⁾, Kitamoto T⁴⁾, Saito N⁵⁾, Nizasawa H²⁾, Yamada M¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery and Neurobiology of Aging, Kanazawa university Graduate School of Science, Kanazawa, ²⁾ Departmento of Neurosurgery and Neurological Science, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, ³⁾ Department of Public Helth, Jichi Medical University, ⁴⁾ Department of Prion Protein Research, Division of CJD Science and Technorogy Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, The University of Tokyo) : Graft-related disease progression in dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease : a cross-sectional study. *BMJ Open* 2013 ; 3 (8) : e00340.
- 5) Hamaguchi T¹⁾, Sakai K¹⁾, Noguchi-Shinohara M¹⁾, Nozaki I¹⁾, Takumi I, Sanjo N²⁾, Sakdakane A³⁾, Nakamura Y³⁾, Kitamura T⁴⁾, Saito N⁵⁾, Mizasawa H²⁾, Yamada M¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Mediccal Science, Kanazawa, ²⁾ Department of Neurosurgery and Neurological Science, Graduate School ,Tokyo Medical and Dental University, ³⁾ Department of Public Helth, Jichi Medical University, ⁴⁾ Department of Prion Reseach, Division of CJD Science and Technology, Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, The University of Tokyo) : Insight into the frequent occurrence of dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease in Japan. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 2013 ; 84 (10) : 1171-1175.
- 6) Hasegawa Y, Sasaki N, Yamada K, Ono H, Kumai J, Tsumura K, Suzuki K, Nozaki H, Nakayama H, Takumi I, Katabami T, Ueda T, Suzuki S, Iwai R, Takahashi H, et al. : Prediction of thrombolytic therapy after stroke-bypass transportation : the Maria Prehospital Stroke Scale score. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2013 ; 22 (4) : 514-519.
- 7) Oyama N, Tahara S¹⁾, Oyama K, Ishii Y¹⁾, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of ,Tokyo Rosai Hospital) : Assessment of pre- and postoperative endocrine function in 94 patients with Rathke's cleft cyst. *Endocr J* 2013 ; 60 (2) : 207-217.
- 8) Oyama K, Fukuhara N¹⁾, Taguchi M²⁾, Takeshita A^{2,3)}, Takeuchi Y^{2,3)}, Yamada S^{1,3)} (¹⁾ Department of Hypothamic & Pituitary Surgery, Toranomon Hospital, ²⁾ Department of Endocrinogy, Toranomon Hospital, ³⁾Okinaka Memorial Institute for Medical Reserch) : Transspenoidal cyst-cisternostomy with a keyhole dural opening for sellar arachnoid cysts : Technical note. *Neurosurg Rev* 2013.
- 9) 太組一朗, 谷口 豪, 渡辺雅子 : キャリーオーバー V けいれん性疾患の社会的側面—救急外来から てんかん診療へ : 救急・集中治療. 救急・集中治療 2013 ; 25 (11/12) : 1444-1450.
- 10) Adachi K, Yamaguch F¹⁾, Node Y²⁾, Kobayash S³⁾, Takagi R⁴⁾, Teramoto A⁵⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Tamanagayama Hospital, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital,Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, Tokyo Rosai Hospital) : Neuroimaging of primary central nervous system lymphoma in the immunocompetent patient : comparison of recent and previous findings. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (3) : 174-183.

著 書

- 1) 太組一朗：〔分担〕 発作の観察とビデオ脳波モニタリングの注意点は？. てんかん診療のクリニカルクエスト 200 改定第 2 版 (松浦雅人 原 恵子), 2013 ; pp109-114, 診断と治療社.
- 2) 太組一朗：〔分担〕 総論 - 2. 皮膚切開のバイオメカニクス：寄らない皮膚を寄せるには. 脳神経外科診療プラクティス 2 脳神経外科の基本手技 (橋本信夫 飯原弘二), 2014 ; pp73-76, 文光堂.
- 3) 太組一朗：〔分担〕 I 周術期における医療安全 器機の洗浄・滅菌. 脳神経外科 周術期管理のすべて 第 4 版 (松谷雅生 田村 晃 藤巻高光 森田明夫), 2014 ; pp9-17, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 太組一朗：脳外科領域におけるけいれん管理について：回復期・維持期の管理について. 西湘地区 脳神経外科疾患におけるけいれん管理 勉強会, 2013. 12.
- 2) 太組一朗：てんかん診療ネットワーク：社会資源. 大田品川 第 2 回てんかん診療を考える会, 2013. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 太組一朗, 森田明夫¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：「てんかんと地域医療」黒子に徹してネットワークを拡張する. 日本てんかん学会学術集会 (第 47 回), 2013. 10.
- 2) 太組一朗, 饒波正博¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫²⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科)：てんかん外科医療のゲートウェイとしての VNS 療法；小児神経科医を対象とした小規模アンケートとともに. 日本ニューロモデュレーション学会 (第 27 回), 2013. 5.
- 3) Masakimasaki H, Nobuo S, Yoshikazu N, Tetsuyuki K, Masahito Y, Tsuyoshi H, Fumio M, Masashi A, Yoshiyuki K, Masatoyo N, Masatoshi T, Takashi I, Koji A, Hiroyuki M, Shigeo M, et al. : Human prion diseases in Japan : a prospective surveillance from 1999. APPS (Asian Pacific Prion Symposium) 2013 (長崎市), 2013. 7.
- 4) Tsuyoshi H, Kenji S, Moeko N, Ichiro N, Ichiro T, Nobuo S, Yoshikazu N, Tetsuyuki K, Nobuhito S, Hidehiro M, Masahito Y : Comparison of dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease between Japan and other countries. APPS (Asian Pacific Prion Symposium) 2013 (長崎市), 2013. 7.
- 5) 大山健一, Ditzel Filho FL¹⁾, 武藤 淳¹⁾, Souza GD¹⁾, Carrau LR¹⁾, Prevedello MD¹⁾, 石井道雄²⁾, 田原重志²⁾, 喜多村孝幸, 森田明夫²⁾ (1) オハイオ州立大学脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科)：精密立体頭蓋モデルを用いた内視鏡下経鼻頭蓋底手術アプローチのシミュレーション. 日本頭蓋底外科学会総会 (第 25 回), 2013. 6.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 田中柳水, 太組一朗, 白石 真, 古庄 竜：てんかんの包括診療を考える. Kawasaki Epilepsy Network 講演会 (第 6 回), 2013. 7.

(4) セミナー：

- 1) 太組一朗：パーキンソン病における DBS の治療戦略. KAWASAKI PD 治療戦略セミナー, 2013. 11.
- 2) 太組一朗：新しい抗てんかん薬をどう使うか？ (妊娠・運転の問題も含めて). TWMU Functional Neurosurgery Summer Seminar 2013, 2013. 8.
- 3) 太組一朗：てんかん発作の介助と観察. てんかん援助セミナー (日本てんかん協会), 2013. 8.
- 4) 太組一朗：デジタル脳波計と発作時記録. 千葉大学脳波勉強会, 2013. 5.
- 5) 太組一朗：てんかんと薬物療法. 日本脳神経外科コンgres総会 (第 33 回), 2013. 5.
- 6) 太組一朗：てんかん専門医が成人患者さんに知っておいてほしいこと：お薬の話と手術. 奈良てんかん市民公開講座, 2013. 11.

- 7) 太組一朗：てんかん外科の診療と治療. 東葛 Epilepsy Treatment Meeting：熱血てんかん教室, 2013. 11.
 - 8) 太組一朗：てんかんの病態と治療から病診連携まで. 神戸てんかん治療カンファレンス（第2回）, 2013. 10.
 - 9) 太組一朗：てんかん外科とニューロモデュレーション：薬剤選択と外科的治療介入. 神奈川脳卒中機能外科 Conference, 2013. 9.
 - 10) 太組一朗：成人てんかん：運転免許の諸問題. あさつての勉強会（第3回）, 2013. 9.
 - 11) 太組一朗：てんかんと妊娠・運転・手術：患者さんに尋ねられたとき. 中部地区てんかん診療を考える会, 2013. 6.
 - 12) 太組一朗：てんかんと妊娠・運転・手術：患者さんに尋ねられたとき. 大田品川てんかん診療を考える会（第1回）, 2013. 6.
 - 13) 太組一朗：てんかんと妊娠・運転・手術：患者さんに尋ねられたとき. 東京 EAST てんかん診療ネットワーク講演会（第2回）, 2013. 4.
 - 14) 太組一朗：最新のてんかん治療はどこまでの発作抑制を得られるか？：安全な手術と新しい薬. てんかんを考える会, 2014. 3.
 - 15) 太組一朗：新しい外科治療：VNS 迷走神経刺激術を中心に. 市民公開講座 『新しいてんかん治療』－新規抗てんかん薬と新しい外科治療の臨床－, 2014. 2.
 - 16) 太組一朗：ミニマルエッセンス てんかんの薬物治療. 東京てんかん診療ネットワーク（第1回）, 2014. 1.
- (5) 一般講演：
- 1) 太組一朗, 足立好司, 太組由貴¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 横浜市立大学附属市民総合医療センター総合診療科, ²⁾ 付属病院脳神経外科)：高齢者てんかんにおいて漢方治療を導入した1例. 日本脳神経外科漢方医学会（第22回）, 2013. 11.
 - 2) 高木宏治¹⁾, 鴨原祥太¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 曾根教子¹⁾, 丹羽直哉¹⁾, 松田淳也¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 中摩健二¹⁾, 表俊也¹⁾, 菊池有史¹⁾, 山本英世¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 立山幸次郎, 足立好司, その他6名 (1) 武蔵小杉病院循環器内科)：チーム医療により加療した3枝冠動脈疾患に内頸動脈狭窄症を合併した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会（第230回）, 2013. 12.
 - 3) 渋谷偉織¹⁾, 秋元正宇²⁾, 太組一朗, 香西達一¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科)：内視鏡下に前頭部小切開とCCPにより治療を行った前頭骨陥没骨折の治療経験. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会（第31回）, 2013. 10.
 - 4) 太組一朗, 饒波正博¹⁾, 嘉手川淳¹⁾, 寺本 明²⁾, 森田明夫³⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院脳神経外科, ³⁾ 付属病院脳神経外科)：てんかん2次診療医としての脳神経外科専門医の役割：若年性ミオクロニーてんかんの誤診率からみるてんかん診療・教育のありかた. 日本脳神経外科学会学術総会（第72回）, 2013. 10.
 - 5) 饒波正博¹⁾, 嘉手川淳¹⁾, 太組一朗 (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科)：てんかん医療の評価における質的研究の試み. 日本てんかん学会学術集会（第47回）, 2013. 10.
 - 6) 嘉手川淳¹⁾, 饒波正博¹⁾, 太組一朗 (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科)：成人てんかん専門外来における体外離脱体験症例の検討. 日本てんかん学会学術集会（第47回）, 2013. 10.
 - 7) 太組一朗, 浦 裕之¹⁾, 定本清美²⁾, 高森寛子, 備前毅彦, 岸 泰宏, 森田明夫 (1) 千葉北総病院薬剤部, ²⁾ 東邦大学薬学部, ⁵⁾ 武蔵小杉病院精神科, ⁶⁾ 付属病院脳神経外科)：抗てんかん薬の服薬アドヒアランス確認のためのカード型デバイスの開発. 日本てんかん学会学術集会（第47回）, 2013. 10.
 - 8) 太組一朗, 浦 裕之¹⁾, 展 広智²⁾, 高森寛子, 定本清美, 森田明夫²⁾ (1) 千葉北総病院薬剤部, ²⁾ 付属病院脳神経外科, ⁴⁾ 東邦大学薬学部)：難治てんかん治療への薬剤選択と外科治療. NMS-ENM（第2回）, 2013. 9.
 - 9) 浜口 毅¹⁾, 坂井健二¹⁾, 野崎一朗¹⁾, 篠原もえ子¹⁾, 太組一朗, 三條伸夫²⁾, 中村好一³⁾, 北本哲之⁴⁾, 斉藤延人⁵⁾, 水澤英洋²⁾, 山田正仁¹⁾ (1) 金沢大学医学部神経内科, ²⁾ 東京医科歯科大学脳神経病態学, ³⁾ 自治医科大

- 学公衆衛生学, ⁴ 東北大学医学部病態神経学, ⁵ 東京大学医学部脳神経外科): わが国と海外の硬膜移植後 Creutzfeldt-Jakob 病の比較. 日本神経感染症学会 (第 18 回), 2013. 10.
- 10) 木暮一成¹⁾, 野手洋治¹⁾, 太組一朗, 湧井健治²⁾, 井須豊彦³⁾, 寺本 明⁴⁾, 森田明夫⁵⁾ (1) 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 千葉脳神経外科病院, ³⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ⁴⁾ 東京労災病院脳神経外科, ⁵⁾ 付属病院脳神経外科): 頸椎手術における整容: Function を完成させるために. 日本整容脳神経外科研究会 (第 6 回), 2013. 4.
 - 11) Ichiro T, Masahiro M, Kohei H, Kenichi O, Akira Y, Hiroto T, Koji A, Makoto H, Shin K, Daizo Y, Akira T, Akio M: Technical consideration for the Polyethylene Glycol Hydrogel Dural Sealant Capping to prevent CSF loss in the DBS surgery. 2013 Quadrennial Meeting of WSSFN (World Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery) (東京), 2013. 5.
 - 12) Takumi I, Ura H, Sadamoto K, Takamori H, Bizen T, Kishi Y, Morita A: EVALUATION OF A NEW CARD DEVICE FOR THE MEDICATION ADHERENCE CHECKING IN EPILEPSY. The 67th annual meeting of the American Epilepsy Society Meeting (ワシントン D.C.(USA)), 2013. 12.
 - 13) 展 広智, 山田 明, 太組一朗, 足立好司, 寺本 明¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 東京労災病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科): intracerebral schwannoma の 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第 120 回), 2013. 4.
 - 14) 中川俊祐, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 子宮肉腫による転移性脳腫瘍の 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第 121 回), 2013. 9.
 - 15) 中川俊祐, 足立好司, 太組一朗, 立山幸次郎, 喜多村孝幸: 非良性髄膜腫の治療方針について. I-BT 研究会 (第 1 回), 2013. 10.
 - 16) 足立好司, 山口文雄¹⁾, 玉置智規²⁾, 大村朋子³⁾, 高木 亮⁴⁾, 高橋 弘⁵⁾, 寺本 明⁶⁾, 森田明夫²⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ⁴⁾ 付属病院放射線科, ⁵⁾ 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院, ⁶⁾ 東京労災病院脳神経外科): 非特異画像所見を呈する中枢神経系原発悪性リンパ腫の診断とその疫学的要因. 日本脳神経外科学会総会 (第 72 回), 2013. 10.
 - 17) 中川俊祐, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸, 山口文雄¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 中枢神経系原発悪性リンパ腫の高用量メソトレキセート療法における薬剤血中濃度と腫瘍縮小効果の解析. 日本脳神経外科学会総会 (第 72 回), 2013. 10.
 - 18) 中川俊祐, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): メトロニダゾール脳症の 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第 122 回), 2013. 12.
 - 19) 太組一朗, 神谷延雄¹⁾, 川上康彦²⁾, 饒波正博³⁾, 嘉手川淳³⁾, 森田明夫⁴⁾ (1) 武蔵小杉病院神経内科, ²⁾ 多摩永山病院小児科, ³⁾ 沖縄赤十字病院脳神経外科, ⁴⁾ 付属病院脳神経外科): 施設報告 日本医科大学. 全国てんかんセンターネットワーク協議会 静岡大会, 2014. 2.
 - 20) 伊藤美由紀¹⁾, 駒形由未加¹⁾, 桑山亜希子¹⁾, 柚下佳代¹⁾, 津田あゆみ¹⁾, 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸, 岸泰宏²⁾, 神谷信雄³⁾, 川上康彦⁴⁾, 朝山健太郎⁵⁾, 森田明夫 (1) 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉病院精神科, ³⁾ 武蔵小杉病院神経内科, ⁴⁾ 付属病院精神科, ⁵⁾ 付属病院脳神経外科): 長時間ビデオ脳波モニタリング検査における看護師としての取り組み: より安全に, より確実に, 発作を記録するために. 全国てんかんセンターネットワーク協議会 静岡大会, 2014. 2.
 - 21) 太組一朗, 森田明夫¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 脳神経外科手術器械の滅菌法: 定位手術器械に関する考察. 日本定位・機能神経外科学会 (第 53 回), 2014. 2.
 - 22) 太組一朗, 饒波正博¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫²⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科): 小児神経科医師は VNS をどのように捕らえているか. (日本てんかん外科学会 (第 37 回)), 2014. 2.
 - 23) 太組一朗, 饒波正博¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫²⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科): 小児神経科医からみた VNS (迷走神経刺激) 療法 神奈川県内小児神経科医を対象としたアンケート結果. 神奈川てんかん懇話会 (第 73 回), 2014. 2.

- 24) 立山幸次郎, 村井保夫¹⁾, 廣中浩平¹⁾, 瀬瀬健太²⁾, 亦野文宏¹⁾, 山田 明³⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科, 3) 博慈会記念総合病院脳神経外科) : Perfusion CT によるくも膜下出血急性期患者の評価と予後予測. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回), 2014. 3.
- 25) 立山幸次郎, 中川俊祐, 足立好司, 村井保夫¹⁾, 亦野文宏¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : Pterional approach と Interhemispheric approach 同時手術のリスクと対策. 日本脳神経外科学会総会 (第 72 回), 2013. 10.
- 26) Oyama K, Ditzel Filho FL¹⁾, Muto J¹⁾, Kapuku Y²⁾, Yousseff A²⁾, Gun R²⁾, Wang L²⁾, Patel M²⁾, Otto B²⁾, Carrau LR²⁾, Prevedello MD¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, The Ohio State University, Columbus, Ohio, United States, 2) Department of Otolaryngology - Head & Neck Surgery, The Ohio State University, Columbus, Ohio, United States) : Expanded Endonasal Surgery Simulation Using an Artificial Skull Model Created by Selective Laser Sintering. WFNS World Congress of Neurosurgery (XV) (Seoul (KOREA)), 2013. 9.
- 27) 立山幸次郎, 中川俊祐, 足立好司, 村井保夫¹⁾, 亦野文宏¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : Pterional approach と Interhemispheric approach 同時手術のリスクと対策. 日本頭蓋底外科学会総会 (第 25 回), 2013. 6.
- 28) 日高可奈子¹⁾, 高山幸芳¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 高橋 弘²⁾ (1) 武蔵小杉病院 言語療法室, 2) 景雲会春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 脳神経外科) : 軽度意識障害と前頭葉機能障害慢性硬膜下血腫における手術前後の高次脳機能障害からの考察. 日本意識障害学会 (第 22 回), 2013. 7.
- 29) Hidehiro M, Masahito Y, Ichiro T, Yoshikazu N : CJD surveillance in Japan. European CJD Surveillance Network (Holmenkollen, Norway), 2013. 6.
- 30) 野崎俊樹, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸 : ステロイドに反応した脳幹部神経膠腫様病変の 1 例. 神奈川脳腫瘍フォーラム (第 27 回), 2014. 3.
- 31) 立山幸次郎, 足立好司, 中川俊祐, 太組一朗, 喜多村孝幸 : 子宮肉腫脳転移の 1 例. 文京脳腫瘍研究会 (第 20 回), 2014. 1.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) 川上康彦¹⁾, 太組一朗, 山崎峰雄²⁾, 長谷川大輔³⁾ (1) 多摩永山病院小児科, 2) 付属病院神経内科, 3) 日本獣医生命科学大学獣医放射線学教室) : 日本医科大学てんかん診療の歴史・現況・そして未来「日本医科大学包括てんかん診療ミーティング」結成報告. 日医大医学会誌 2013 ; 9 (1) : 33-34.
- 2) Yoshida D¹⁾, Kim K²⁾, Takumi I, Yamaguchi F¹⁾, Adachi K, Teramoto A³⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Nippon medical School, Chibahokuso Hospital, 3) Department of Tokyo Rosai Hospital) : A transfection method for short interfering RNA with the lipid-like self-assembling nanotube, A6K. Med Mol Morphol 2013 ; 46 (2) : 86-91.

著書

追加分 :

- 1) 川合謙介, 卜部貴夫, 藤本礼尚, 太組一朗 : 脳神経疾患に伴うてんかんの治療戦略 QOL に着目した薬物治療の実践. Pharma Medica (0289-5803) 30 巻 4 号, 2012 ; pp123-128.

[多摩永山病院脳神経外科]

研究概要

日本医科大学多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科学会専門医訓練施設および日本脳卒中学会総会専門医訓練施設として、教育・研究・診療を付属病院脳神経外科学教室と共同で行っている。また、神経生理学・分子神経病理学などの幅広いニューロサイエンスの手法を用いて研究を行っている。1. 脳腫瘍（特に良性腫瘍）の手術、とりわけ脳深部の腫瘍（頭蓋底手術）に対し、最小限の侵襲（minimally invasive surgery）にて、合併症を最小限に止めるべく手術法の開発、モニタリングの改良を行なっている。2. 虚血性脳血管障害に対し、頸動脈内膜剥離術、頭蓋内外バイパス術の更なる技術向上にて、当該疾患に対する良好な成績を治めている。3. 脊髄および脊髄疾患に対し、低侵襲手術にて患者様の予後向上に努めている。4. 脳血栓症に対する抗血小板剤の有効な使用方法（薬剤モニタリング）について、血小板活性化に関する基礎的研究を行なっている。5. 悪性脳腫瘍に対して、手術・放射線療法に加えて独自の化学療法・免疫療法・遺伝子治療等、集学的治療を行っている。SPECTによる核医学的研究および臨床神経病理学的研究を行っている。6. 脳下垂体腫瘍に対して手術のみならず臨床内分泌学的研究を行っている。頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い、高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている。7. 脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている。頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い、高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている。8. 頭痛・三叉神経痛・顔面痙攣に対しても内服治療および手術治療にて、良好な成績を取っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tamaki T, Node Y, Saitou N¹, Saigusa H² (1) Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, (2) Department of Otolaryngology, Nippon Medical School) : Observation of vocal fold and pharyngeal paralysis after carotid endarterectomy using a magnifying laryngoscope. World Journal of Surgery 2013 ; 37 (4) : 911-914.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 木暮一成, 玉置智規, 野手洋治, 井須豊彦¹, 森田明夫² (1) 釧路労災病院脳神経外科, (2) 付属病院脳神経外科) : 頸椎前方手技はどこまで安全・確実に普及したか～前方開創手技と合併症, 特に嗄声を中心に. 脳神経外科手術と機器学会 (第22回) (長野県松本市), 2013. 4.
- 2) 木暮一成, 井須豊彦¹, 野手洋治, 森田明夫² (1) 釧路労災病院脳神経外科, (2) 付属病院脳神経外科) : 頸椎前方固定手技: Williams-Isu法の長期評価: fusionの評価を中心に (頸椎前方固定). 日本脊髄外科学会 (第28回) (愛知県名古屋市), 2013. 6.
- 3) 玉置智規, 三枝英人¹, 斎藤寛浩², 梅岡克哉¹, 水成隆之¹, 野手洋治, 森田明夫¹ (1) 付属病院脳神経外科, (2) 旭川赤十字病院脳神経外科) : CEAにおける合併症回避のための手術手技と効果: 特に術後させいと血腫の防止について (CAS & CEAの合併症とその対策). 日本頸部脳血管治療学会 (第12回) (東京都新宿区), 2013. 6.

(2) セミナー：

- 1) 木暮一成: Williams法の工夫: Williams-Isu法の是非について. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2013 (第6回) (宮城県仙台市), 2013. 8.
- 2) 玉置智規: 当科におけるイーケブラの使用経験. 永山神経外科研究会 (第10回) (東京都多摩市), 2013. 7.

(3) 一般講演：

- 1) Tamaki T, Kubota M¹⁾, Saigusa H²⁾, Node Y, Saito N³⁾, Umeoka K⁴⁾, Mizunari T⁴⁾, Morita A⁴⁾ (1) Central clinical laboratory, Nippon Medical School, Tamanagayama Hospital, 2) Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, 3) Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, 4) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Hoarseness after carotid endarterectomy : The technique for preventing vagus nerve injury. International MASSIN congress Program (4th) (Kobe/Japan), 2013. 9.
- 2) 木暮一成, 井須豊彦¹⁾, 玉置智規, 山崎道生, 野手洋治, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 頸椎手術における整容 : Function を完成させるために. 日本整容脳神経外科研究会 (第6回) (長野県松本市), 2013. 4.
- 3) 玉置智規, 三枝英人¹⁾, 野手洋治, 齋藤寛浩²⁾, 梅岡克哉³⁾, 水成隆之³⁾, 森田明夫⁴⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科, 2) 旭川赤十字病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院脳神経センター, 4) 付属病院脳神経外科) : CEA 後嗄声回避の工夫 : 神経保護と術後創部血腫予防の手技. 日本脳神経外科学会 (第72回学術総会) (神奈川県横浜市), 2013. 10.
- 4) 木暮一成, 井須豊彦¹⁾, 玉置智規, 山崎道生, 野手洋治, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 頸椎前方固定手技 : fusion の評価と臨床的意義 ~ Williams-Isu 法を中心に titanium cage との比. 日本脳神経外科学会 (第72回学術総会) (神奈川県横浜市), 2013. 10.
- 5) 木暮一成, 玉置智規, 野手洋治, 井須豊彦¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 前方開創手技と合併症 : 特に嗄声を中心に. 日本脊椎外科学会 (第28回) (愛知県名古屋市), 2013. 6.
- 6) 玉置智規, 野手洋治, 齋藤寛浩¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 水成隆之²⁾, 鈴木雅規²⁾, 森田明夫²⁾ (1) 旭川赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : CEA と癌. 日本頸部脳血管治療学会 (第12回) (東京都新宿区), 2013. 6.
- 7) 山崎道生, 玉置智規, 野手洋治, 齋藤寛浩¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 鈴木雅規²⁾, 水成隆之²⁾, 森田明夫²⁾ (1) 東京労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : CEA と癌. 日本脳神経外科学会 (第72回学術総会) (神奈川県横浜市), 2013. 10.
- 8) Tamaki T, Kubota M¹⁾, Saigusa H²⁾, Node Y, Saito N³⁾, Umeoka K⁴⁾, Mizunari T⁴⁾, Morita A⁴⁾ (1) Central clinical laboratory, Nippon Medical School, Tamanagayama Hospital, 2) Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, 3) Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, 4) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Analysis of Perioperative Renal Function in Carotid Endarterectomy Patients. European Stroke Conference (22th) (London/UK), 2013. 5.
- 9) Tamaki T, Kubota M¹⁾, Saigusa H²⁾, Node Y, Saito N³⁾, Umeoka K⁴⁾, Mizunari T⁴⁾, Morita A⁴⁾ (1) Central clinical laboratory, Nippon Medical School, Tamanagayama Hospital, 2) Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, 3) Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, 4) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Hoarseness after carotid endarterectomy. European Stroke Conference (22th) (London/UK), 2013. 5.
- 10) 玉置智規, 野手洋治, 齋藤寛浩¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 鈴木雅規²⁾, 水成隆之²⁾, 森田明夫²⁾ (1) 東京労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科) : CEA と癌. 日本脳卒中学会総会 (第39回) (大阪府大阪市), 2014. 3.
- 11) 玉置智規, 野手洋治, 齋藤寛浩¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 水成隆之²⁾, 森田明夫²⁾ (1) 東京労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科) : 無症候性頸動脈狭窄の CEA と脳神経損傷. 日本脳卒中学会総会 (第39回) (大阪府大阪市), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Tamaki T, Kubota M¹⁾, Saitou N²⁾, Umeoka K³⁾, Mizunari T³⁾, Node Y (¹⁾ Nippon Medical School, Tamanagayama Hospital, ²⁾ Asahikawa Red Cross Hospital, ³⁾ Nippon Medical School) : Vagus nerve neuromonitoring during carotid endarterectomy. *Perspect Vasc Surg Endovasc Ther.* 2012 ; 24 (3) : 137-140.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開院20年目を迎えた千葉北総病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、脳代謝、脳血管内手術、脊髄脊椎外科、機能的脳神経外科、日本脳卒中協会千葉県支部を中心とした臨床および基礎的研究を行った。①脳血管障害：内頸動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略を報告した。内頸動脈病変に対するRAグラフト術のpatency向上のための検討を行った。脳底動脈本幹部動脈瘤に対する治療経験を報告した。後下小脳動脈に局限した動脈瘤の発生原因に対する検討を行った。②頭部外傷：頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫について検討した。③脳腫瘍：5-ALAを用いた術中蛍光診断と病理学的診断との比較検討を行った。Primary intracerebral malignant fibrous histiocytoma (MFH)の報告を行った。④脳代謝：ヒト被殻におけるアデノシンA1及びA2Aレセプターの加齢変化を継続検討した。⑤脳血管内治療：脊髄動静脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術の総説を行った。rt-PA投与の現状と脳血管造影及び脳血管内手術のタイミングに関しての検討を行った。⑥脊髄脊椎外科：頸椎硬膜動静脈瘻に対する治療戦略を検討した。腰椎後方除圧術の総説を行った。脊椎脊髄疾患3T MRIのピットフォールを検討した。⑦機能的脳神経外科：上小脳動脈の硬膜枝の発現について手術症例をもとに検討した。三叉神経痛、舌咽神経痛の総説を行った。⑧日本脳卒中協会千葉県支部：脳卒中急性期のstroke bypassを構築する目的で、脳卒中急性期病院、行政、救急隊員に呼びかけて設立した千葉県脳卒中急性期医療協議会も継続して開催した。千葉県各地で脳卒中市民公開講座を開講した。脳卒中对策基本法を早期実現するための署名活動を積極的に実施した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 脊椎脊髄手術な基本的知識 画像診断法. *脳神経外科* 2013 ; 41 (1) : 919-933.
- 2) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎²⁾, 千葉康弘¹⁾, 菅原 淳³⁾, 小林士郎 (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科) : 上臀皮神経障害患者腰椎の放射線学的検討. *日本脊髄障害医学会誌* 2013 ; 26 (1) : 120-121.
- 3) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎 (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 脊髄損傷に伴う神経因性疼痛にノイロトロピン注が有効であった3症例. *脳神経外科* 2013 ; 26 (1) : 176-177.
- 4) Kim K, Mishina M, Kokubo R, Nakajima T²⁾, Morimoto D¹⁾, Isu T, Kobayashi S, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ²⁾ Department of Orthopedic Surgery, Chiba Hokusai Hospital, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Ketamine for acute neuropathic pain in patients with spinal cord injury. *J Clin Neurosci* 2013 ; 20 (6) : 804-807.
- 5) Adachi K¹⁾, Yamaguchi F²⁾, Noda Y²⁾, Kobayashi S, Takagi R³⁾, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neuro-

surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Neuroimaging of Primary Central Nervous System Lymphoma in Immunocompetent Patients : Comparison of Recent and Previous Findings. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (3) : 174-183.

- 6) Kim K, Isu T¹⁾, Chiba Y¹⁾, Morimoto D²⁾, Ohtsubo S³⁾, Kusano M⁴⁾, Kobayashi S, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Shin-midori Hospital, ³⁾ Department of Dentistry, Oral and Maxillofacial Surgery, Kushiro Rosai Hospital, ⁴⁾ Department of Surgery, Kushiro Rosai Hospital) : The usefulness of ICG video angiography in the surgical treatment of superior cluneal nerve entrapment. J Neurosurg Spine 2013 ; 19 (5) : 624-628.
- 7) Shirokane K, Umeoka K, Mishina M¹⁾, Mizunari T, Kobayashi S, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurological Science, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Hemothorax after the Intravenous Administration of Tissue Plasminogen Activator in a Patient with Acute Ischemic Stroke and Rib Fractures. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (1) : 43-47.

(2) 総説 :

- 1) 木村真人¹⁾, 小林士郎, 水成隆之, 駒場祐一²⁾, 下田健吾¹⁾, 秋山友美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 メンタルヘルス科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 神経内科) : 脳卒中地域医療連携パスにおけるうつ病の評価と治療. 日本社会精神医学会雑誌 2013 ; 22 (2) : 147-154.
- 2) 小南修史 : 脊髄血管障害. 本医師会雑誌 神経・精神疾患診療マニュアル 2013 ; 142 (2) : 164-165.
- 3) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 足根管症候群. 脊椎脊髄ジャーナル 2013 ; 26 (7) : 704-708.
- 4) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 脊髄・脊髄根障害によるしびれ. レジデントノート 2013 ; 15 (9) : 1698-1704.
- 5) 金 景成 : 治療戦略ミーティング : 前方手術が躊躇される不安定性のある頸椎症. 脊椎外科 2013 ; 27 (1) : 35-39.
- 6) 丸 栄一 : けいれん重積の定義と病態. 救命・集中治療 2014 ; 25 (11・12) : 1278-1284.

著 書

- 1) 金 景成 : [自著] 読売新聞. 読者からの質問箱 足根管症候群, 2013 ; 読売新聞社.
- 2) 井須豊彦¹⁾, 金 景成 (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : [共著] 痛み, しびれがづらい患者さんへの看護. 痛み, しびれがづらい患者さんへの看護, 2013 ; 照林社.
- 3) 金 景成 : [掲載] 頸椎症を治す新常識. 健康, 2013 ; pp73-85, 主婦の友社.
- 4) 丸 栄一 : [分担] 外傷後てんかん : 予防に関する実験治療. 小児頭部外傷 - 急性期からリハビリテーションまで -, 2013 ; pp53-56, 医歯薬出版株式会社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 丸 栄一 : てんかん難治化の要因 : 新規抗てんかん薬の役割. Epilepsy Forum 2013~in Saitama (埼玉), 2013. 5.
- 2) 丸 栄一 : 新しいてんかん分類. 北総てんかん診療ネットワーク (第2回) (千葉), 2013. 10.

(2) 教育講演 :

- 1) 金 景成 : 糖尿病性神経障害と言う前に. 診療科の垣根を越えて『痛み・しびれ』を考える会 (札幌), 2013. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 菅原 淳³⁾, 小林士郎, 森田明夫⁴⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 横浜新緑総合病院 脳神経外科, 3) 岩手医科大学 脳神経外科, 4) 日本医科大学 脳神経外科)：当科における頸椎後方除圧術の工夫. 日本脊椎外科学会 (第 28 回) (名古屋), 2013. 6.
- 2) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲¹⁾, 吉田陽一²⁾, 小林士郎, 森田明夫³⁾ (1) 東京共済病院脳神経外科, 2) 東京都保健医療公社荏原病院脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科)：脳動静脈奇形に対する NBCA を用いた塞栓術塞栓術と定位放射線治療との組合せによる治療戦略. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 72 回) (神奈川), 2013. 10.
- 3) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 立山幸次郎²⁾, 額額健太, 梅岡克哉, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科)：治療困難な内頸動脈瘤に対する Radial artery graft : RAG *00 症例から学んだ基本手術手技. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 72 回) (神奈川), 2013. 10.

(4) プレナリーセッション：

- 1) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 千葉泰弘¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科)：腰椎後方除圧術. 日本脊椎脊髄病学会 (第 42 回) (沖縄), 2013. 4.

(5) 一般講演：

- 1) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾, 小林士郎 (1) 本医科大学千葉北総病院放射線センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院放射線科)：多発性硬化症の 3T 頭部 MRI 脱髄斑の信号変化とコントラスト. 日本放射線技術学会総会学術大会 (69) (神奈川), 2013. 4.
- 2) 水成隆之, 小林士郎, 玉置智規¹⁾, 村井保夫¹⁾, 額額健太, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：内頸動脈病変に対する RA グラフト術 (Patency の向上のために). 脳神経外科手術と機器学会 (第 22 回) (長野), 2013. 4.
- 3) 亦野文宏¹⁾, 村井保夫¹⁾, 足立好司²⁾, 水成隆之, 立山幸次郎²⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科)：Anterior interhemispheric approach の合併症：病変による合併症の違いに関する考察. 脳神経外科手術と機器学会 (第 22 回) (長野), 2013. 4.
- 4) 額額健太, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：頭蓋外内頸動脈解離に対し High flow bypass を施行した 3 例. 脳神経外科手術と機器学会 (第 22 回) (長野), 2013. 4.
- 5) 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 展 広智¹⁾, 大村朋子, 足立好司⁴⁾, 高橋 弘²⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明³⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 春日居リハビリテーション病院, 3) 東京労災病院, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科)：フィット性を高め, 電極間の電気刺激を可能にしたスリット入りグリッド電極 (山口グリッド電極). 脳神経外科手術と機器学会 (第 22 回) (長野), 2013. 4.
- 6) 村井保夫¹⁾, 足立好司²⁾, 亦野文宏¹⁾, 水成隆之, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 春日居リハビリテーション病院, 3) 東京労災病院, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科)：術中イリゲーションサクシオンシステムの加圧バッグとしてのナイアガラハイフローイリゲーションポンプ. 脳神経外科手術と機器学会 (第 22 回) (長野), 2013. 4.
- 7) 梅岡克哉, 太組一朗¹⁾, 小林士郎, 森田明夫³⁾, 秋元正宇²⁾, 百束比古⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 日本医科大学北総病院形成外科, 3) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 4) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：内視鏡下前頭部小切開とカルシウム骨ペーストにより治療を行った前頭骨陥没骨折の 1 例. 日本整容脳神経外科研究会 (第 6 回) (長野), 2013. 4.
- 8) 國保倫子, 小林士郎, 水成隆之, 小南修史, 金 景成, 梅岡克哉, 鈴木雅規, 大村朋子, 額額健太, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：頸椎症性脊髄症との鑑別に苦慮した脱髄性神経疾患の 1 例. 日本脳神経外科学会 関東支部学術集会 (第 120 回) (東京), 2013. 4.
- 9) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 菅原 淳³⁾, 小林士郎, 森田明夫⁴⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外

- 科, ²⁾ 横浜新緑病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科, ⁴⁾ 日本医科大学脳神経外科): 頸椎硬膜動静脈ろうに対する治療経験. 日本脊椎脊髄病学会 (第 42 回) (沖縄), 2013. 4.
- 10) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 脊椎脊髄疾患 3T MRI のピットフォール—胸腰髄血管障害との鑑別を要した 2 例. 日本脊椎脊髄病学会 (第 42 回) (沖縄), 2013. 4.
- 11) 千葉泰弘¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 森本大二郎²⁾, 今井哲秋¹⁾, 穂刈正昭¹⁾, 磯部正則¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑病院脳神経外科): 脊椎椎体骨折後の腰痛の主因と考えられた上殿皮神経障害: 9 症例の治療経験をを通して. 日本脊椎脊髄病学会 (第 42 回) (沖縄), 2013. 4.
- 12) 金 景成, 江本直也²⁾, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎, 森田明夫³⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 内分泌内科, ³⁾ 日本医科大学 脳神経外科): 糖尿病患者に認めるしびれに関する研究. 日本脊髄外科学会 (第 28 回) (名古屋), 2013. 6.
- 13) 岩本直高^{1, 2)}, 森本大二郎²⁾, 井須豊彦¹⁾, 小菊 実²⁾, 松野 太²⁾, 田邊 豊²⁾, 遠藤純男²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院 脳神経外科): 脊椎脊髄手術後に仙腸関節障害を合併した 2 症例. 日本脊髄外科学会 (第 28 回) (名古屋), 2013. 6.
- 14) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 千葉泰弘²⁾, 岩本直高²⁾, 穂刈正昭²⁾, 金 景成, 菅原 淳²⁾, 磯部正則²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院 脳神経外科): 上殿皮神経障害の治療成績. 日本脊髄外科学会 (第 28 回) (名古屋), 2013. 6.
- 15) 千葉泰弘¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 森本大二郎²⁾, 今井哲秋¹⁾, 穂刈正昭¹⁾, 磯部正則¹⁾, 井上聖啓³⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院 脳神経外科, ³⁾ 札幌山の上病院 神経内科): 腰椎変性疾患と腰椎周辺疾患の共存症例に対する新たな治療戦略の試み. 日本脊髄外科学会 (第 28 回) (名古屋), 2013. 6.
- 16) 岩本直高^{1, 2)}, 森本大二郎²⁾, 飛騨一利³⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 小菊 実²⁾, 松野 太²⁾, 田邊 豊²⁾, 遠藤純男²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院 脳神経外科, ³⁾ 北海道大学病院 脳神経外科): 軸椎歯突起後方偽腫瘍に後側方新入経硬膜的腫瘍摘出術を施行した 1 例. 日本脊髄外科学会 (第 28 回) (名古屋), 2013. 6.
- 17) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科): 胸腰髄血管障害との鑑別を要した 2 例: 脊髄 MRI で注意すべき点. 日本脊髄外科学会 (第 28 回) (名古屋), 2013. 6.
- 18) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 千葉泰弘²⁾, 岩本直高²⁾, 穂刈正昭²⁾, 金 景成, 菅原 淳³⁾, 磯部正則²⁾, 遊佐純教⁴⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院 脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学 脳神経外科, ⁴⁾ 釧路労災病院 中央検査課): 肘部尺骨神経障害に対する外科的治療成績. 日本脊髄外科学会 (第 28 回) (名古屋), 2013. 6.
- 19) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科): 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫の頻度. 日本脊髄外科学会 (第 28 回) (名古屋), 2013. 6.
- 20) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳史¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾, 小林士郎 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科): 転移性脳腫瘍における造影効果のシミュレーション: 造影剤副作用リスクを抑えるために. 日本脳ドック学会総会 (第 22 回) (仙台), 2013. 6.
- 21) 梅岡克哉, 田草川豊¹⁾, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 東京医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 上小脳動脈から分枝する硬膜枝に関する検討. 日本頭蓋底外科学会 (第 25 回) (名古屋), 2013. 6.
- 22) 小南修史, 鈴木雅規, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 本医科大学 脳神経外科): 脳血管内治療の 1 例. 脳神経血管内治療琉球セミナー (第 14 回) (沖縄), 2013. 5.
- 23) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 千葉泰弘¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院 脳神経外科, ²⁾ 日本

- 医科大学脳神経外科)：当科における上臀皮神経障害の外科治療. 日本末梢神経学会学術集会 (第24回) (新潟), 2013. 8.
- 24) 細谷靖子¹⁾, 伴 美幸¹⁾, 佐々木優子¹⁾, 土肥いずみ¹⁾, 水成隆之¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院脳神経センター)：梅干刺激による口腔内湿度上昇に対する試み. 日本意識障害学会 (第22回) (秋田), 2013. 7.
- 25) 小南修史, 鈴木雅規, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (日本医科大学 脳神経外科)：謎の骨肥厚を伴った Dural AVF と頭皮の AVF の1例. 富山ホテルイカ・カンファレンス (第3回) (富山), 2013. 8.
- 26) 千葉 修¹⁾, 芹澤 徹²⁾, 小南修史, 藤川 厚¹⁾, 石毛 聡¹⁾, 町田利生¹⁾, 小林士郎, 小野純一¹⁾ (千葉県循環器病センター脳神経外科, ²⁾ 築地神経科クリニック 東京ガンマユニットセンター)：塞栓術を併用した安全なガンマナイフ治療への取り組み. The Mt. Fuji Workshop on CVD (第32回) (仙台), 2013. 8.
- 27) 額綱健太, 水成隆之, 山田敏雅, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 石井雄道¹⁾, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎 (日本医科大学付属病院脳神経外科)：中大脳動脈遠位部脳動脈瘤に対しトラッピング & バイパス術を施行した症例. 東葛脳神経外科手術手技研究会「千葉あすなろの会」(第8回) (千葉), 2013. 9.
- 28) 山田敏雅, 小林士郎, 水成隆之, 鈴木雅規, 額綱健太, 森田明夫¹⁾ (日本医科大学付属病院脳神経外科)：細菌性中大脳動脈瘤の1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第121回) (東京), 2013. 9.
- 29) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳史¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾, 小林士郎 (日本医科大学千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科)：3T MRIにおける T1FLAIR の造影効果：脳腫瘍の信号変化について. 日本磁気共鳴医学会大会 (第41回) (徳島), 2013. 9.
- 30) 水成隆之, 額綱健太, 山田敏雅, 石坂栄太郎, 白銀一貴¹⁾, 立山幸次郎²⁾, 梅岡克哉, 村井保夫¹⁾, 玉置智規³⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科)：内頸動脈病変に対する RA グラフト術. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 31) 梅岡克哉, 田草川豊¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (東京医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科)：Trigemino-cerebellar artery による三叉神経痛の検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 32) 足立好司¹⁾, 山口文雄²⁾, 玉置智規³⁾, 大村朋子, 高木 亮⁴⁾, 高橋 弘⁵⁾, 寺本 明⁶⁾, 森田明夫²⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ⁴⁾ 日本医科大学放射線科, ⁵⁾ 景雲会春日居サイバーナイフ・リハビリ病院脳神経外科, ⁶⁾ 東京労災病院脳神経外科)：非典型画像所見を呈する中枢神経系原発悪性リンパ腫の診断とその疫学的要因. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 33) 森田明夫¹⁾, 木村俊運²⁾, 村井保夫¹⁾, 梅岡克哉 (日本医科大学脳神経外科, ²⁾ NTT 東日本関東病院脳神経外科)：聴神経腫瘍聴覚温存に関与する術前因子と手術方法の検証. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 34) 玉置智規¹⁾, 三枝英人²⁾, 野手洋治¹⁾, 齋藤寛浩³⁾, 梅岡克哉, 水成隆之, 森田明夫⁴⁾ (日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学 耳鼻咽喉科, ³⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科, ⁴⁾ 日本医科大学脳神経外科)：CEA 後嗄声回避の工夫 — 神経保護と術後創部血腫予防の手技 —. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 35) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 岩本直高, 千葉泰弘¹⁾, 菅原 淳³⁾, 小林士郎, 森田明夫⁴⁾ (釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科, ⁴⁾ 日本医科大学脳神経外科)：腰椎疾患術後成績へ末梢神経障害が与える影響に関する研究. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 36) 鈴木雅規, 小南修史, 渡辺 玲¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (東京共済病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科)：静脈洞血栓症に伴う多発硬膜動静脈瘻の病態解析. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈

- 川), 2013. 10.
- 37) 額頰健太, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科: 頭蓋外内頸動脈解離に対し外科的治療を施行した3例. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 38) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科: 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫: 硬膜下血腫は頭蓋から脊髄まで移動するか?. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 39) 山田敏雅, 水成隆之, 額頰健太, 石坂栄太郎, 白銀一貴¹⁾, 立山幸次郎²⁾, 梅岡克哉, 村井保夫¹⁾, 玉置智規²⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科: 前交通動脈瘤に対するアプローチ法の選択. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 40) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳史¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科: 3T MRIにおけるT1FLAIRの造影効果: 脳腫瘍の信号変化について. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 41) 山口文雄¹⁾, 展 広智¹⁾, 樋口直司¹⁾, 馬場栄一¹⁾, 土岐幸生¹⁾, 國保倫子, 大村朋子, 石井雄道¹⁾, 佐藤 俊⁶⁾, 小島豊之²⁾, 野村竜太郎³⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 高橋 弘⁴⁾, 寺本 明⁵⁾, 明夫森田¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ脳神経外科, ³⁾ 日本赤十字社医療センター脳神経外科, ⁴⁾ 景雲会春日居サイバーナイフ・リハビリ病院脳神経外科, ⁵⁾ 東京労災病院脳神経外科, ⁶⁾ 博慈会記念総合病院脳神経外科: 機能温存を最重視したグリオーマ治療戦略. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 42) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 展 広智¹⁾, 國保倫子, 大村朋子, 馬場栄一¹⁾, 土岐幸生¹⁾, 石井雄道¹⁾, 小島豊之²⁾, 野村竜太郎³⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 高橋 弘⁴⁾, 寺本 明⁵⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ脳神経外科, ³⁾ 日本赤十字社医療センター脳神経外科, ⁴⁾ 景雲会春日居サイバーナイフ・リハビリ病院脳神経外科, ⁵⁾ 東京労災病院脳神経外科: 5-ALAを用いた術中蛍光診断と病理学的診断との比較検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 43) 千葉泰弘¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 岩本直高²⁾, 金 景成, 森本大二郎³⁾, 伊藤康裕²⁾, 穂刈正昭¹⁾, 磯部正則¹⁾, 井上聖啓⁴⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院, ³⁾ 横浜新緑総合病院脳神経外科, ⁴⁾ 札幌山の上病院 神経内科: 腰椎変性疾患と腰椎周辺疾患の併存症例に対する新たな治療戦略の試み. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 44) 岩本直高¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 千葉泰弘¹⁾, 金 景成, 森本大二郎²⁾, 伊藤康裕¹⁾, 穂刈正昭¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院脳神経外科: 腰椎病変との鑑別が必要であった末梢神経障害による腰下肢痛. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 45) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 岩本直高³⁾, 千葉泰弘²⁾, 穂刈正昭²⁾, 磯部正則²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院脳神経外科: 総腓骨神経の絞扼性障害の診断および治療成績. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 46) 亦野文宏¹⁾, 村井保夫¹⁾, 足立好司²⁾, 水成隆之, 立山幸次郎²⁾, 小林士郎, 寺本 明³⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院脳神経外科: Anterior interhemispheric approachの合併症病変による合併症の違いに関する考察. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (神奈川), 2013. 10.
- 47) 大村朋子, 山田敏雅, 國保倫子, 額頰健太, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 後頭骨隆起及び斜台病変を伴った1例. 千葉北総神経放射線研究会 (第78回) (千葉), 2013. 11.
- 48) 鈴木雅規, 山田敏雅, 國保倫子, 額頰健太, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: Multiple dural AVFの1例. 千葉北総神経放射線研究会 (第78回) (千葉), 2013. 11.
- 49) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院 脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑病院 脳

- 神経外科)：腰椎疾患術後成績へ末梢神経障害が与える影響について。日本脊髄障害医学会 (第 48 回) (福岡), 2013. 11.
- 50) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎, 菅原 淳²⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院 脳神経外科, ²⁾ 岩手医科大学 脳神経外科)：特発性脊髄硬膜外血腫の 6 例。日本脊髄障害医学会 (第 48 回) (福岡), 2013. 11.
- 51) 梅岡克哉, 田草川豊¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 東京医科大学 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科)：三叉神経痛と舌咽神経痛の手術成績。日本頭痛学会総会 (第 41 回) (盛岡), 2013. 11.
- 52) 富田尚樹¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳史¹⁾, 阿部晃大¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 小南修史, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター)：椎骨脳底動脈領域のための variable refocus flip angle 3D fast spin-echo (CUBE) の検討。NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 29 回) (新潟), 2013. 11.
- 53) 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 阿部晃大¹⁾, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科)：トモシンセシスを用いた頸動脈ステント内腔描出能に関する基礎的検討。NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 29 回) (新潟), 2013. 11.
- 54) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲¹⁾, 吉田陽一²⁾, 永野 修³⁾, 芹澤 徹⁴⁾, 小林士郎, 森田明夫⁵⁾ (1) 東京共済病院脳神経外科, ²⁾ 東京都保険医療公社荏原病院 脳神経外科, ³⁾ 千葉県循環器病センター 脳神経外科, ⁴⁾ 築地神経科クリニック 東京ガンマユニットセンター, ⁵⁾ 日本医科大学 脳神経外科)：脳動静脈奇形に対する NBCA を用いた塞栓術の役割。NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 29 回) (新潟), 2013. 11.
- 55) 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：後大脳動脈末梢部脳動脈瘤に対する塞栓術。NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 29 回) (新潟), 2013. 11.
- 56) 池亀 敏¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 鈴木雅規, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター)：脳動脈解離における Arterial Spin Labeling の有用性について。NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 29 回) (新潟), 2013. 11.
- 57) 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎)：腫瘍塞栓術のみで神経症状の改善を得られた高齢者髄膜腫の 1 例。日本脳神経外科学会 関東支部学術集会 (第 122 回) (東京), 2013. 12.
- 58) 梅岡克哉)：顔面痛の外科治療。千葉頭痛研究会 (第 14 回) (千葉), 2013. 6.
- 59) 梅岡克哉)：顔面けいれんと三叉神経痛の外科治療。Neurosurgery Meeting (東京), 2013. 10.
- 60) 瀧瀬健太)：頭蓋内頸動脈解離に対する RA graft の検討。印旛市郡医師会講演会 (千葉), 2013. 11.
- 61) Kim K, Isu T¹⁾, Morimoto D²⁾, Chiba Y¹⁾, Isobe M¹⁾, Kobashi S, Moruta A³⁾ (1) Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ²⁾ Neurosurgery, Shin-midori Hospital, ³⁾ Neurosurgery, Nippon Medical School)：Surgical Treatment of a Low Back Pain with the Superior Cluneal Nerve Entrapment Neuropathy. WFNS (World Federation of Neurosurgery) (Seoul), 2013. 9.
- 62) Kokubo R, Kim K, Isu T¹⁾, Kobayashi S, Morita A²⁾ (1) Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ²⁾ Neurosurgery, Nippon Medical School)：The Incidence of the Concomitant Intracranial and Spinal Subdural Hematoma. A Prospective Study. WFNS (World Federation of Neurosurgery) 2013 (Seoul), 2013. 9.
- 63) Kim K, Isu T¹⁾, Kokubo R, Kobashi S, Moruta A¹⁾ (1) Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ²⁾ Neurosurgery, Nippon Medical School)：Surgical Treatment of a Low Back Pain with the Superior Cluneal Nerve Entrapment Neuropathy. The peripheral nerve neuropathy affects to the clinical result of the lumbar surgery (Korea, Busan), 2013. 10.
- 64) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科)：頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫についての検討。日本脳神経外傷学会 (第 37 回) (東京), 2014. 3.
- 65) 梅岡克哉, 田草川豊¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 東京医科大学 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科)：

- MVD手術における意外な出血源. 日本脳神経減圧術学会(第16回)(東京), 2014. 2.
- 66) 古口徳雄¹⁾, 近藤国嗣²⁾, 烏谷博英³⁾, 小沢義典⁴⁾, 小林士郎¹⁾ (千葉県救急医療センター 神経内科, ²⁾ 東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション科, ³⁾ 松戸市立病院 脳神経外科, ⁴⁾ 千葉労災病院 リハビリテーション科): 千葉県共用脳卒中地域医療連携パス(CAMP-S)の取り組み: 全県で行う地域医療連携の一括届け出. STROKE2014(大阪), 2014. 3.
- 67) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 額額健太, 梅岡克哉, 立山幸次郎²⁾, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学付属武蔵小杉病院 脳神経外科): 種々の内頸動脈病変に対する high flow bypass: 100例を超える経験からの手技/管理/予後. STROKE2014(大阪), 2014. 3.
- 68) 水成隆之, 額額健太, 山田敏雅, 玉置智規²⁾, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎³⁾, 小林士郎¹⁾ (日本医科大学 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科): 内頸動脈解離性動脈瘤(とくに blister like aneurysm) に対する治療戦略. STROKE2014(大阪), 2014. 3.
- 69) 永野 修¹⁾, 芹澤 徹²⁾, 小南修史, 樋口佳則³⁾, 藤川 厚¹⁾, 石毛 聡¹⁾, 町田利生¹⁾, 小林士郎, 小野純一¹⁾, 佐伯直勝³⁾ (¹⁾ 千葉県循環器病センター 脳神経外科, ²⁾ 築地神経科クリニック 東京ガンマユニットセンター, ³⁾ 千葉大学大学院医学研究院 脳神経外科学): AVMに対するガンマナイフ治療と塞栓術の併用: ガンマナイフ治療後に塞栓術を行う新たな取り組みについて. STROKE2014(大阪), 2014. 3.
- 70) 白銀一貴¹⁾, 村井保夫¹⁾, 喜多村孝雄¹⁾, 立山幸次郎²⁾, 水成隆之, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学付属武蔵小杉病院 脳神経外科): 巨大頸部内頸動脈瘤に対して, high flow bypass を用いて治療した1例. STROKE2014(大阪), 2014. 3.
- 71) 有泉楽子, 佐々木優子, 土肥いずみ, 伴 美幸, 水成隆之, 若林ひとみ, 今野夏実, 秋元麻衣, 山田佳子: 当脳神経センターにおける脳卒中患者早期離床への取り組み. STROKE2014(大阪), 2014. 3.
- 72) 額額健太, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 頭蓋外内頸動脈解離に対し High flow bypass を施行した2例. STROKE2014(大阪), 2014. 3.
- 73) 山田敏雅, 水成隆之, 額額健太, 鈴木雅規, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 細菌性脳動脈瘤に対する外科的治療. STROKE2014(大阪), 2014. 3.
- 74) 立山幸次郎¹⁾, 村井保夫²⁾, 廣中浩平²⁾, 額額健太, 亦野文宏²⁾, 山田 明³⁾, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科, ³⁾ 博慈会記念病院 脳神経外科): PerfusionCTによるくも膜下出血急性期患者の評価と予後予測. STROKE2014(大阪), 2014. 3.
- 75) 山田敏雅, 水成隆之, 額額健太, 小林士郎: 細菌性脳動脈瘤4例の検討. 千葉北総神経放射線研究会(第79回)(千葉), 2014. 3.
- 76) Kominami S, Suzuki M, Kim K, Kobayashi S: Embolization of spinal dural arteriovenous fistulae. The 11th meeting of Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (AAFITN 2014) (Danang), 2014. 3.
- 77) Suzuki M, Kominami S, Kobayashi S, Morita A (¹⁾ Neurosurgery, Nippon Medical School): Endovascular treatment of distal cerebral aneurysm using n-butyl cyanoacrylate for various etiologies. The 11th meeting of Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (AAFITN 2014) (Danang), 2014. 3.
- 78) Mishina M¹⁾, Ohkubo S¹⁾, Kamiya N¹⁾, Abe A¹⁾, Suda S¹⁾, Sakamaki M¹⁾, Kominami S, Mizunari T, Kobayashi S, Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Efficacy of tracheostomy for central alveolar hypoventilation syndrome due to lateral medullary infarction. International TIA/ACVS Conference (TIA2013) (Tokyo), 2013. 11.
- 79) Kominami S, Suzuki M, Morita A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Japan): Embolization of Brain Arteriovenous Malformations with NBCA: Result of 200 Cases. 12th CONGRESS WFITN

2013 (Buenos Aires), 2013. 11.

- 80) 久保田麻紗美, 水成隆之, 山田敏雅, 額頌健太, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 石井雄道, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎: クリッピングに難渋した破裂脳底動脈頂部動脈瘤の1例. 東葛脳神経外科手術手技研究会「千葉あすなろの会」(第9回)(千葉), 2014. 3.
 - 81) 丸 栄一: てんかん焦点の形成は防げるか?: 基礎研究からの検討. 北総てんかん懇話会(第6回)(千葉), 2013. 7.
 - 82) 丸 栄一: レベチラセタムの神経保護作用: 動物モデルを用いた基礎研究から. Neurosurgery Forum (神奈川), 2014. 1.
 - 83) 小林士郎: 脳卒中治療の変遷と私の研究歴. 北総医学会(第129回)(千葉), 2014. 3.
- (6) プレナリーセッション指定口演:
- 1) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 千葉泰弘¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ ⁽¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ⁽²⁾ 日本医科大学脳神経外科: 腰椎後方除圧術. 日本脳神経外科コンgres総会(第33回)(大阪), 2013. 5.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 金 景成: 治療戦略ミーティング: 巨大髄内腫瘍に対する治療戦略. 脊椎外科 2013; 27 (3): 35-40.

追加分原著:

- 1) Kim K, Emoto N¹⁾, Mishina M²⁾, Okada S³⁾, Isu T⁴⁾, Yoshida D, Kobayashi S, Teramoto A⁵⁾ ⁽¹⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital, ⁽²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁽³⁾ Department of Radiology, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, ⁽⁴⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ⁽⁵⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School: Incidental detection of thyroid nodules at magnetic resonance imaging of the cervical spine. Neurol Med Chir 2013; 53 (2): 77-81.
- 2) Morimoto D¹⁾, Isu T¹⁾, Kim K, Imai T¹⁾, Yamazaki K¹⁾, Matsumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾ ⁽¹⁾ Surgical treatment of superior cluneal nerve entrapment neuropathy: Surgical treatment of superior cluneal nerve entrapment neuropathy. J Neurosurg Spine 2013; 19 (1): 71-75.
- 3) Yoshida D, Kim K, Takumi I, Yamaguchi F, Adachi K, Teramoto A: A transfection method for short interfering RNA with the lipid-like self-assembling nanotube, A6K. Med Mol Morphol 2013; 46 (2): 86-91.
- 4) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 梅岡克哉, 立山幸次郎¹⁾, 額頌健太, 亦野文宏¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明¹⁾: 橈骨動脈グラフトの基本: 80例の反省を込めた基本手技と術後管理のポイント. 脳卒中の外科 2013; 41 (1): 33-38.

著書

追加分:

- 1) 井須豊彦¹⁾, 金 景成 ⁽¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科: [追加 共著] 画像ではわからないしつこい腰の痛みを治す本. 画像ではわからないしつこい腰の痛みを治す本, 2013; 講談社.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 梅岡克哉, 田草川豊, 國保倫子, 額頌健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎 ⁽¹⁾ 東京医科大学 脳神経外科: 石灰化椎骨動脈が責任血管であった三叉神経痛の1例. 日本脳神経減圧術学

会（第15回）（岡山），2013. 1.

追加分招待講演：

- 1) 金 景成：しびれ，痛み疾患治療への我々の試み．滋賀県麻酔ペインクリニック研究会（第17回）（京都），2013. 2.

追加分特別講演：

- 1) 小林士郎：脳卒中にならないために．千葉県北総地区高齢者疾患フォーラム2013（千葉），2013. 1.

19. 整形外科

[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

研究概要

整形外科教室の平成 25 年度の研究は、臨床研究において脊椎部、肩、肘、股、膝関節部、手の外科、足の外科、骨軟部腫瘍などを対象にした疾患ならびに外傷に対する手術数が劇的に増加したことを背景に、臨床研究報告や講演を行った。部位別にみると、脊椎疾患の診断、治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経、腱の障害に対する治療法および手術法の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。人工膝関節に関しては日常生活機能向上を目指した新しい手術手技を報告した。基礎研究においては自己免疫性関節炎に対する治療薬の開発に関する基礎研究成果および、軟骨変性に関する基礎研究成果を報告した。学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表も増え、教育研修講演、シンポジウム、招待講演、一般講演などが積極的に行われた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗：肘関節 terrible triad injury の治療成績. 骨折 2014；36 (1)：32-35.
- 2) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 友利裕二, 高井信朗：超音波短軸像による橈骨遠位端部における長母指屈筋の腱滑動について：掌側プレート固定例における患健側の検討. 日本手外科学会誌 2013；30 (2)：12-15.
- 3) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 友利裕二, 高井信朗：尺骨鉤状突起骨折の治療成績と手術適応について：2つの骨折型分類による検討. 日本肘関節学会誌 2013；20 (2)：40-43.
- 4) 大場良輔, 河路秀巳, 宮本 暖, 植松卓哉, 高井信朗：ITST を用いた大腿骨転子部骨折治療における nail 径の選択に関する考察. Hip joint 2013；39：478-481.
- 5) Tanaka N¹⁾, Konno S²⁾, Takeshita K³⁾, Fukui M⁴⁾, Takahashi K⁵⁾, Chiba K⁶⁾, Miyamoto M⁷⁾, Matsumoto M⁸⁾, Kasai Y⁹⁾, Kanamori M¹⁰⁾, Matsunaga S, Hosono N, Kanchiku T, Taneichi H, Hashizume H, et al.
(¹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Institute of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University, (²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, (³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, (⁴⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, (⁵⁾ Department of Orthopedic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, (⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Kitasato University Kitasato Institute Hospital, (⁷⁾ Nippon Medical School, (⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, (⁹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Mie University Graduate School of Medicine, (¹⁰⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Faculty of Medicine, University of Toyama) : An outcome measure for patients with cervical myelopathy : the Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) : an average score of healthy volunteers. Journal of Orthopaedic Science 2014；19 (1)：33-48.
- 6) 榊原紀彦¹⁾, 笠井裕一¹⁾, 紺野慎一²⁾, 高橋和久³⁾, 千葉一裕⁴⁾, 福井 充⁵⁾, 宮本雅史, 種市 洋⁶⁾, 加藤圭彦⁷⁾, 金森昌彦⁸⁾, 金山雅弘⁹⁾, 細野 昇, 竹下克志, 田中信弘, 橋爪 洋, その他 2 名 (¹⁾ 三重大学医学系研究科脊椎外科・医用工学, (²⁾ 福島県立医科大学医学部整形外科講座, (³⁾ 順天堂大学大学院医学研究科呼吸内科, (⁴⁾ 北

- 里研究所病院整形外科, ⁵⁾ 大阪市立大学医学部推計学研究室, ⁶⁾ 独協医科大学医学部整形外科学講座, ⁷⁾ 山口リハビリテーション病院, ⁸⁾ 富山大学人間科学講座, ⁹⁾ 函館中央病院脊椎センター): 日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ), 日本整形外科学会頸髓評価質問票 (JOACMEQ) の認知度調査. Journal of Spine Research 2013; 4 (9): 1388-1392.
- 7) 金森昌彦¹⁾, 福井 充²⁾, 千葉一裕³⁾, 川上 守⁴⁾, 宮本雅史, 中井定明⁵⁾, 嶋村 正⁶⁾, 田口敏彦⁷⁾, 竹下克志⁸⁾, 田中靖久⁹⁾, 谷 俊一, 谷口愼一郎, 和田英路, 米延策雄, 紺野愼一, その他1名 (¹⁾ 富山大学人間科学講座, ²⁾ 大阪市立大学医学部推計学研究室, ³⁾ 北里研究所病院整形外科, ⁴⁾ 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院脊椎ケアセンター, ⁵⁾ 吉田整形外科病院, ⁶⁾ 岩手医科大学整形外科, ⁷⁾ 山口大学大学院医学系研究科整形外科, ⁸⁾ 東京大学医学部整形外科, ⁹⁾ 公立学校共済組合東北中央病院整形外科): 腰椎疾患に対する診断・評価の進歩 疼痛の評価と病態の検討 腰椎椎間板ヘルニア手術に対する患者の満足度と日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ) における評価. 別冊整形外科 2013; (63): 50-54.
- 8) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 金 竜, 丸山 剛, 高井信朗: 骨粗鬆症性新鮮椎体骨折診断時における単純 X 線: 動態撮影の有効性について. J.Spine Res. 2013; 4 (6): 1001-1005.
- 9) 元文芳和: 骨粗鬆症性新鮮椎体骨折診断時における単純 X 線動態撮影の有用性. 別冊整形外科 2013; 63: 124-128.
- 10) 河路秀巳, 小林俊之, 高橋謙治, 植松卓哉, 大場良輔, 宮本 暖, 星川直哉, 高井信朗: VerSys & Trilogy (Zimmer 社) を用いたセメントレス人工股関節全置換術の中期成績. Hip Joint 2013; 39: 688-690.
- 11) 青木孝文, 堀口 元, 花岡央泰, 高井信朗: 外側小切開による踵骨骨折の低侵襲整復固定法. 日本足の外科学会雑誌 2013; 34 (1): 202-205.
- 12) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 南 和文, 高井信朗: スーチャーアンカーを用いた鏡視下上腕二頭筋長頭腱固定術の治療成績. JOSKAS 2013; 38 (3): 489-493.
- 13) 橋口 宏, 岩下 哲, 高井信朗: 肩鎖関節脱臼新鮮例に対する人工靭帯を用いた鏡視下烏口鎖骨靭帯再建術の治療成績. 肩関節 2013; 37 (3): 995-998.
- 14) 岩下 哲, 橋口 宏, 高井信朗: 拘縮を伴った腱板断裂例における肩甲骨周囲筋活動量の検討. 肩関節学会誌 2013; 37 (3): 1141-1144.
- 15) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 大久保敦, 高井信朗: 夜間痛を伴う腱板断裂の臨床的特徴に関する検討. 東日本整形災害外科学会誌 2013; 25 (3): 308-308.
- 16) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 高井信朗: 腱板断裂における delamination 発生関連因子の検討. JOSKAS 2013; 38 (3): 499-503.
- 17) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 橈骨遠位端変形治癒例 (関節外) に対する LCP を用いた矯正骨切り術. 骨折 2013; 35 (Suppl): 134.
- 18) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗: 整形手術手技 小児上腕骨顆上骨折に対する前方小切開母指整復法. 整形外科 2013; 64 (12): 1297-1301.
- 19) 友利裕二, 杉田秀幸¹⁾, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗 (¹⁾ 明理会中央総合病院 整形外科): 関節支持組織の高度な損傷を伴った環指 MP 関節掌側脱臼の 1 例. 整形・災害外科 2013; 57 (2): 229-234.
- (2) 総説:
- 1) 宮本雅史: 腰痛診療ガイドラインの意義と活用; 治療について. 脊椎脊髄ジャーナル 2013; 26 (12): 1121-1127.
- 2) 宮本雅史: 腰椎疾患に対する診断・評価の進歩 疼痛の評価と病態の検討 日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ) の特徴と使用法. 別冊整形外科 2013; (63): 39-44.
- 3) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 高井信朗: 肩関節疾患の最前線—肩鎖関節脱臼に対する最小侵襲手術. Bone Joint Nerve 2013; 3 (4): 725-729.

(3) 症例報告：

- 1) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 友利裕二, 高井信朗：CREST 症候群に伴った小指 calcinosis circumscripta の 1 例. 雑誌 整形外科 2013；64 (11)：1182-1184.
- 2) 友利裕二, 井上善也¹⁾, 清水進一¹⁾, 大月義郎¹⁾, 高井信朗 (¹⁾ 聖隷浜松病院整形外科)：小児手指に発生したリンパ管奇形の 1 例. 整形・災害外科 2013；56 (6)：793-796.

(4) 委員会報告：

- 1) 仁木久照¹⁾, 立浪 忍²⁾, 原口直樹³⁾, 青木孝文, 奥田龍三⁴⁾, 須田康文⁵⁾, 高尾昌人⁶⁾, 田中康仁⁷⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医科大学整形外科学講座, ²⁾ 聖マリアンナ医科大学医学統計学, ³⁾ 東京警察病院整形外科, ⁴⁾ 清仁会シミズ病院整形外科, ⁵⁾ 慶応義塾大学整形外科, ⁶⁾ 帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科, ⁷⁾ 奈良県立医科大学整形外科)：自己記入式足部足関節評価質問票 Self-Administered Foot Evaluation Questionnaire (SAFE-Q) 作成報告書. 日本整形外科学会雑誌 2013；87 (5)：451-487.

(5) 会議録：

- 1) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗：小児上腕骨顆上および遠位骨幹部骨折に対する前方小切開母指整復法. 日本最小侵襲整形外科学会誌 2013；13 (1)：122-122.
- 2) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗：屈曲型小児上腕骨顆上骨折の治療経験. 関東整形災害外科学会雑誌 2013；44 (4)：177-178.
- 3) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗：60 歳以上の成人上腕骨遠位端骨折に対する LCP-DHP を用いた骨接合術の治療成績. 関東整形災害外科学会雑誌 2013；44 (4)：177-177.

著 書

- 1) 南野光彦：〔自著〕橈骨頭骨折, 橈骨頸部骨折. 今日の臨床サポート, 2013；エルゼビア・ジャパン.
- 2) 南野光彦：〔分担〕手根管症候群. 2014 年度版整形外科治療指針, 2014；pp992-993, 医学書院.
- 3) 南野光彦：〔分担〕ばね指, 強直母指, ドケルバン病. 2012 年度版整形外科治療指針, 2013；pp937-938, 医学書院.
- 4) 澤泉卓哉：〔自著〕【肘周辺骨折の治療】成人骨折橈骨頭・頸部骨折. Monthly Book Orthopaedics, 2013；pp31-37, 全日本病院出版会.
- 5) 澤泉卓哉：〔自著〕掌側ロッキングプレートの合併症とその対策. 整形災害外科, 2014；pp183-190, 整形・災害外科.
- 6) 澤泉卓哉：〔自著〕末節骨の骨延長. 四肢再建手術の実際. Orthoplastic Surgery, 2013；克誠堂出版.
- 7) 澤泉卓哉：〔自著〕小児上腕骨顆上骨折. 今日の臨床サポート, 2013；エルゼビア・ジャパン.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 森 淳：バスケットボール傷害の特性と治療 (下肢外傷を中心に). 東四国医療セミナー (高松), 2013. 7.
- 2) 高井信朗：人工膝関節の基礎と臨床. 藤が丘リウマチセミナー (横浜市), 2013. 9.
- 3) 高井信朗：変形性膝関節症の治療戦略. 我孫子市整形外科医会 (第 6 回) (千葉県), 2013. 4.
- 4) 高井信朗：人工膝関節の将来展望. 日本整形外科学会学術総会 (第 86 回) (広島県), 2013. 5.
- 5) 高井信朗：人工膝関節成績不良の原因と対策. 術後合併症予防研究会 (第 7 回) (千葉県), 2013. 7.
- 6) 高井信朗：人工膝関節の基礎と臨床. 日本リウマチ学会関東支部学術集会 (第 24 回) (東京都), 2013. 12.
- 7) 高井信朗：人工膝関節置換術と VTED. VTE を考える会 (第 4 回) (愛知県), 2014. 2.
- 8) 高井信朗：人工膝関節置換術と VTED. 大腿骨頸部/転子部骨折研究会 (第 12 回) (愛知県), 2014. 2.
- 9) 澤泉卓哉：手外科領域の創外固定の応用. 日本手外科学会学術集会 (第 56 回) (神戸), 2013. 4.

10) 澤泉卓哉：橈骨遠位端骨折の診療ガイドライン. 診療ガイドラインを語る会 (東京), 2013. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 澤泉卓哉：橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート：使用されているプレートの現況. 日本手外科学会学術集会 (第 56 回) (神戸), 2013. 4.
- 2) 五谷寛之¹⁾, 今枝敏彦²⁾, 百瀬敏充³⁾, 大井宏之⁴⁾, 安部幸雄⁵⁾, 森友寿夫⁶⁾, 面川庄平⁷⁾, 澤泉卓哉, 金谷文則⁸⁾, 根本孝一⁹⁾ (1) 清恵会病院大阪外傷マイクロサージャリ-センター, 2) 金城学院大学生活環境学部, 3) 諏訪赤十字病院整形外科, 4) 聖隷浜松病院手外科マイクロサージャリ-センター, 5) 済生会下関総合病院整形外科, 6) 大阪行岡医療大学理学療法学科, 7) 奈良県立医科大学整形外科, 8) 琉球大学整形外科, 9) 防衛医科大学校整形外科学)：患者立脚評価法の現状と今後の課題. 日本手外科学会機能評価表における患者立脚評価の現状. 日本整形外科学会学術集会 (第 85 回) (広島), 2013. 5.
- 3) 今枝敏彦¹⁾, 内山茂晴²⁾, 和田卓郎³⁾, 沖永修二⁴⁾, 澤泉卓哉, 面川庄平⁵⁾, 百瀬敏充⁶⁾, 森友寿夫⁷⁾, 五谷寛之⁸⁾, 安部幸雄⁹⁾, 西田 淳, 大井宏之, 金谷文則 (1) 金城学院大学生活環境学部, 2) 信州大学整形外科, 3) 札幌医科大学整形外科, 4) 東京通信病院整形外科, 5) 奈良県立医科大学整形外科, 6) 諏訪赤十字病院整形外科, 7) 大阪行岡医療大学理学療法学科, 8) 清恵会病院大阪外傷マイクロサージャリ-センター, 9) 済生会下関総合病院整形外科)：患者立脚評価法の現状と今後の課題. PWRE 日手会版の妥当性および信頼性に関する統計学的検討. 日本整形外科学会学術集会 (第 85 回) (広島), 2013. 5.
- 4) Aoki T : Long term clinical results of conservative treatment for osteoarthritis of the ankle. Taiwan-Japan Orthopedic Symposium (21st) (Tainan), 2013. 4.
- 5) 青木孝文, 川口宏志, 星川直哉, 大場良輔, 福田慶一, 南野光彦, 高井信朗：足関節足部のスポーツ傷害に対する治療戦略 足関節外側靭帯損傷において脛腓間結合損傷の有無を評価することの重要性. 東日本整形災害外科学会 (第 62 回) (軽井沢), 2013. 9.
- 6) 橋口 宏, 岩下 哲, 玉川智子¹⁾, 正能千明¹⁾, 星川直哉, 高井信朗 (1) 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科)：成長期投球障害肩の診断. 日本臨床スポーツ医学会学術集会 (第 24 回) (熊本), 2013. 10.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 森 淳, 金 勝乾¹⁾, 勝見 明¹⁾, 中山修一¹⁾, 武田秀樹¹⁾, 内山英司¹⁾, 三木英之¹⁾, 成田哲也¹⁾ (1) 日本バスケットボール協会スポーツ医科学委員会)：バスケットボール男子日本代表チームへのメディカルサポート (バスケットボールの医科学サポート). よこはまスポーツ整形外科フォーラム (第 21 回) (横浜), 2013. 6.
- 2) 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗：重度骨折の治療 橈骨遠位端関節内骨折：治療成績と治療戦略. 日本整形外科学会学術集会 (第 85 回) (広島), 2013. 5.
- 3) 澤泉卓哉, 高井信朗：末節骨の骨延長. 日本創外固定・骨延長学会 (第 27 回) (大阪), 2014. 3.
- 4) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 高井信朗：人工肩関節全置換術の術中および術後療法における pit fall. 日本人工関節学会 (第 44 回) (沖縄), 2014. 2.

(4) ワークショップ：

- 1) 北川泰之：軟部腫瘍報告様式を考える. 臨床側における軟部腫瘍の細胞診. 日本臨床細胞学会総会 (第 54 回) (東京), 2013. 6.

(5) ポスター：

- 1) 北川泰之, 宮本 暖, 牧野 晃, 今野俊介, 玉井健介, 高井信朗：特異な MRI 像を呈した大腿部筋肉内類上皮型血管内皮腫の 1 例. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 46 回) (京都), 2013. 7.
- 2) 北川泰之, 宮本 暖, 牧野 晃, 今野俊介, 玉井健介, 高井信朗：膝蓋下脂肪体脂肪腫の MRI 像. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 46 回) (京都), 2013. 7.
- 3) 北川泰之, 宮本 暖, 牧野 晃, 今野俊介, 玉井健介, 高井信朗：内視鏡併用内軟骨腫搔爬術の経験と骨開窓部の術中操作による拡大. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 46 回) (京都), 2013. 7.

- 4) 北川泰之, 宮本 暖, 牧野 晃, 今野俊介, 玉井健介, 高井信朗: 大腿骨内顆軟骨芽細胞腫に対する内視鏡併用関節外小侵襲手術. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 46 回) (京都), 2013. 7.
 - 5) 佐藤章子, 中村 洋, 高橋謙治, 河路秀己, 高井信朗: Metal on polyethylene 人工股関節全置換術後に鼠径部巨大偽腫瘍を生じた 2 例. 日本人工関節学会 (第 44 回) (沖縄), 2014. 2.
 - 6) 佐藤章子, 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二, 河路秀己, 友利裕二, 高井信朗: 関節リウマチに対する MTX8mg / 週から 10mg / 週以上への増量の有効率と安全性. 日本リウマチ学会 (第 57 回) (京都), 2013. 4.
- (6) 一般講演:
- 1) 北川泰之: 骨・軟部腫瘍の話. 西東京整形外科懇話会 (東京), 2014. 2.
 - 2) 南野光彦, 澤泉卓哉, 飯澤典茂, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗: 上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する骨釘移植術の治療経験. 日本肘関節学会 (第 26 回) (東京), 2014. 2.
 - 3) 南野光彦, 澤泉卓哉, 青木孝文, 高井信朗: 小児上腕骨顆上骨折に対する梃子を利用した経皮的ピンニング. 神奈川上肢外科研究会 (第 19 回) (横浜), 2013. 10.
 - 4) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗: 手指 MP 関節ロッキングの治療経験. 東日本整形災害外科学会 (第 62 回) (軽井沢), 2013. 9.
 - 5) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 友利裕二, 高井信朗: 肘関節 terrible triad injury の治療成績. 本骨折治療学会 (第 39 回) (久留米), 2013. 6.
 - 6) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 友利裕二, 高井信朗: 超音波短軸像による橈骨遠位端部における長母指屈筋の腱滑動について: 掌側プレート固定例における患健側の検討. 日本手外科学会 (第 56 回) (神戸), 2013. 4.
 - 7) 南野光彦, 伊藤博元, 高井信朗: 関節リウマチの手指伸筋腱断裂に対する減張位早期運動療法の治療経験. 日本運動器科学会 (第 25 回) (神戸), 2013. 7.
 - 8) 飯澤典茂, 森 淳, 吉澤隆明, 松井秀平, 大場良輔, 高井信朗: 人工膝関節における内側側副靭帯深層と後斜靭帯の回旋安定性に与える影響. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 JOSKAS (第 5 回) (札幌), 2013. 6.
 - 9) 飯澤典茂, 森 淳, 吉澤隆明, 石原陽子, 松井秀平, 大場良輔, 佐竹美彦, 高井信朗: 人工膝関節における内側側副靭帯深層と後斜靭帯の回旋安定性に与える影響. 日本人工関節学会 (第 44 回) (沖縄), 2014. 2.
 - 10) Iizawa N, Mori A, Matsui S, Oba R, Ito T, Takai S: Influence of the medial knee structures on valgus and rotatory stability in knee arthroplasty. International Society for Technology in Arthroplasty (26th) (フロリダ), 2013. 10.
 - 11) 大場良輔, 河路秀己, 高橋謙治, 植松卓哉, 宮本 暖, 佐竹美彦, 星川直哉, 渡部 寛, 高井信朗: 診断に SPECT-CT が有用であった骨盤脆弱性骨折の 2 例. 日本股関節学会 (第 40 回) (広島), 2013. 11.
 - 12) 原田和弘, 角田 隆, 森 淳, 竹之内研二, 佐藤章子, 北川泰之, 高井信朗: 膝関節に発生した樹枝状脂肪腫の 1 例. 東日本整形災害外科学会 (第 62 回) (軽井沢), 2013. 9.
 - 13) 家田俊也, 丸山 剛, 寺本 司: 中足骨骨切りを追加した外反母趾の 1 例. 茨城足の外科研究会 (第 1 回) (土浦), 2013. 6.
 - 14) 家田俊也, 丸山 剛, 寺本 司: 変形性膝関節症に対する脛骨顆外反骨切り術 (TCVO) の術式と有用性. 東日本整形災害外科学会 (第 62 回) (軽井沢), 2013. 9.
 - 15) 家田俊也, 片岡達紀, 寺本 司¹⁾ (大洗海岸病院): 変形性足関節症に対する脛骨斜め骨切り術 (DToo) の臨床成績. 日本足の外科学会 (第 38 回) (仙台), 2013. 10.
 - 16) 家田俊也, 丸山 剛, 寺本 司¹⁾ (大洗海岸病院): 変形性膝関節症に対する脛骨顆外反骨切り術 (TCVO) の術式と有用性. 茨城整形外科集団会 (第 116 回) (水戸), 2013. 10.
 - 17) 家田俊也: 外傷性変形性足関節症の 1 例. 茨城足の外科研究会 (第 1 回) (水戸), 2014. 2.

- 18) 家田俊也, 片岡達紀, 寺本 司¹⁾ (¹⁾ 大洗海岸病院) : 当科におけるイリザロフ創外固定器使用の小経験. 日本創外固定・骨延長学会 (第 27 回) (千里), 2014. 3.
- 19) 川口宏志, 青木孝文, 星川直哉, 宮本 暖, 大場良輔, 福田慶一, 南野光彦, 高井信朗 : 左足趾モートン病の治療経験. 関東整形災害外科学会月例会 整形外科集団会東京地方会 (第 671 回) (東京), 2013. 12.
- 20) 堀口 元, 玉井健介¹⁾, 花岡央泰, 青木孝文, 高井信朗 (¹⁾ 花と森の東京病院 整形外科) : 胸鎖関節後方脱臼の 1 例. 東日本整形災害外科学会 (第 62 回) (軽井沢), 2013. 9.
- 21) 金森昌彦¹⁾, 福井 充²⁾, 千葉一裕³⁾, 川上 守⁴⁾, 宮本雅史, 中井定明⁵⁾, 島村 正⁶⁾, 田口敏彦⁷⁾, 竹下克志⁸⁾, 谷 俊一⁹⁾, 谷口慎一郎, 和田英路, 米延策雄, 高橋和久, 紺野慎一, その他 1 名 (¹⁾ 富山大学人間科学, ²⁾ 大阪市立大学医学部推計学研究室, ³⁾ 北里研究所病院整形外科, ⁴⁾ 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院脊椎ケアセンター, ⁵⁾ 吉田整形外科病院, ⁶⁾ 岩手医科大学整形外科, ⁷⁾ 山口大学大学院医学系研究科整形外科, ⁸⁾ 東京大学医学部整形外科, ⁹⁾ 高知大学医学部整形外科) : 腰椎手術の効果に対する JOABPEQ の評価と患者満足度との整合性について. 日本脊椎脊髄病学会 (第 42 回) (那覇市), 2013. 4.
- 22) 金森昌彦¹⁾, 福井 充²⁾, 千葉一裕³⁾, 川上 守⁴⁾, 宮本雅史, 中井定明⁵⁾, 島村 正⁶⁾, 田口敏彦⁷⁾, 竹下克志⁸⁾, 谷 俊一⁹⁾, 谷口慎一郎, 和田英路, 米延策雄, 高橋和久, 紺野慎一, その他 1 名 (¹⁾ 富山大学人間科学, ²⁾ 大阪市立大学医学部推計学研究室, ³⁾ 北里研究所病院整形外科, ⁴⁾ 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院脊椎ケアセンター, ⁵⁾ 吉田整形外科病院, ⁶⁾ 岩手医科大学整形外科, ⁷⁾ 山口大学大学院医学系研究科整形外科, ⁸⁾ 東京大学医学部整形外科, ⁹⁾ 高知大学医学部整形外科) : 腰椎手術の効果に対する JOABPEQ の評価と患者満足度との整合性について. 日本脊椎脊髄病学会 (第 42 回) (那覇市), 2013. 4.
- 23) 羽生忠正¹⁾, 荒木信人²⁾, 大森 豪³⁾, 五谷寛之⁴⁾, 杉山 肇⁵⁾, 原口直樹⁶⁾, 丸山 公⁷⁾, 宮本雅史 (¹⁾ 長岡赤十字病院整形外科リウマチ科, ²⁾ 大阪府立成人病センター, ³⁾ 新潟大学研究推進機構超域学術院, ⁴⁾ 清恵会病院大阪外傷マイクロサージャリ - センター, ⁵⁾ 神奈川リハビリテーション病院整形外科, ⁶⁾ 東京警察病院整形外科, ⁷⁾ 遼山会関町病院) : 患者立脚評価法の現状と今後の課題 患者立脚評価法の現状報告 日本整形外科学会診断・評価等基準委員会から. 日本整形外科学会 (第 86 回) (広島市), 2013. 5.
- 24) 石原陽子, 高井信朗, Lee T¹⁾, 三幡輝久²⁾, McGarry M¹⁾ (¹⁾ Orthopaedic Biomechanics Laboratory, Long Beach VA Healthcare System and University of California, Irvine, ²⁾ 大阪医科大学病院 整形外科, Orthopaedic Biomechanics Laboratory, Long Beach VA Healthcare System and University of California, Irvine) : The role of superior shoulder capsule on passive stability of the glenohumeral joint. 日本肩関節学会 (第 40 回) (京都), 2013. 9.
- 25) Satake Y, Minami K, Nakajima T, Hashiguchi H, Iwashita S, Takai S : Mid-term results of Cementless Total Hip Arthroplasty using ceramic on ceramic bearing. Japan-Taiwan Orthopaedics symposium (21st) (台湾), 2013. 4.
- 26) 佐竹美彦, 中村 洋, 高橋謙治, 佐藤章子, 竹之内研二, 河路秀巳, 高井信朗 : 関節リウマチ前足部変形に対する中足骨遠位短縮斜め骨切り術の術後成績. 関東整形外科災害外科学会総会 (第 54 回) (横浜), 2014. 3.
- 27) 星川直哉, 河路秀巳, 高橋謙治, 植松卓哉, 宮本 暖, 大場良輔, 青木孝文, 高井信朗 : 大腿骨転子部骨折におけるラグスクリューの至適刺入位置に関する新しい指標の検討. 日本股関節学会学術集会 (第 40 回) (広島), 2013. 11.
- 28) 星川直哉, 南野光彦, 青木孝文, 高井信朗 : 縫工筋に発生した化膿性筋炎の 1 例. 関東整形災害外科学会 (第 54 回) (横浜), 2014. 3.
- 29) 八田 哲¹⁾, 加藤 建²⁾, 金谷幸一³⁾, 澤泉卓哉 (¹⁾ 船橋総合病院, ²⁾ 蓮田病院整形外科, ³⁾ 東京女子医科大学医学部整形外科) : 拇指 IP 関節自動屈曲時に示指共同屈曲運動を呈する両側先天性手指屈筋腱走行異常を認めた 1 例. 東日本整形災害外科学会 (第 62 回) (軽井沢), 2013. 9.
- 30) 岡崎愛未, 森 淳, 飯澤典茂, 石原陽子, 伊藤寿彦, 高井信朗 : 膝関節内痛風結節を生じた若年性痛風の 1

例. 関東膝を語る会 (東京), 2013. 11.

- 31) Nakajima T, Minami K, Kim Y, Takai S: An Attempt for Low-dose Myelo-tomosynthesis. Euro Spine 2013, Annual Meeting of the Spine Society of Europe (イギリス), 2013. 10.
- 32) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 金 竜, 苗代和彦, 丸山 剛, 高井信朗: 単純 X 線動態撮影による骨粗鬆症性椎体骨折の予後予測. 日本脊椎脊髄病学会 (第 42 回) (沖縄), 2013. 4.
- 33) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 金 竜, 丸山 剛, 高井信朗: 骨粗鬆症性新鮮椎体骨折における単純 X 線動態撮影の意義. 日本整形外科学会学術総会 (第 86 回) (広島), 2013. 5.
- 34) 佐藤章子, 高橋謙治, 金 竜, 友利裕二, 高井信朗, 中村 洋: 鼠径部巨大腫瘤をきたした人工股関節置換術後の 2 症例. 関東リウマチ研究会 (第 54 回) (東京), 2013. 6.
- 35) 河路秀巳, 小林俊之, 高橋謙治, 植松卓哉, 大場良輔, 宮本 暖, 星川直哉, 高井信朗: セメントレス人工股関節置換術における stem 内反挿入の影響に関する検討. 日本股関節学会 (第 40 回) (広島), 2013. 11.
- 36) 青木孝文, 今野俊介, 高井信朗: 筋電図検査が診断に有用であった頸椎第 5 神経根傷害の 1 例. 日本臨床神経生理学会 (第 43 回) (高知), 2013. 11.
- 37) 青木孝文, 川口宏志, 高井信朗: 動的ギプスを用いたアキレス腱断裂の保存療法. 日本足の外科学会 (第 38 回) (仙台), 2013. 10.
- 38) Hashiguchi H, Iwashita S, Minami K, Hoshikawa N, Takai S: Efficacy of protective rehabilitation for repaired large and massive rotator cuff tears. International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (12th) (Nagoya Japan), 2013. 4.
- 39) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 南 和文, 高井信朗: 鏡視下腱板断裂修復術後再断裂に関する重層固定法と suture bridge 法の比較. 日本整形外科学会学術総会 (第 86 回) (広島), 2013. 5.
- 40) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 南 和文, 高井信朗: 腱板断裂に対する鏡視下修復術後再断裂: 重層固定法と suture bridge 法の比較. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) (第 5 回) (札幌), 2013. 6.
- 41) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 高井信朗: 1 次修復不能な腱板広範囲断裂に対する鏡視下大腿筋膜移植術. 日本肩関節学会 (第 40 回) (京都), 2013. 9.
- 42) 小寺訓江, 澤泉卓哉, 南野光彦, 友利裕二, 高井信朗: 舟状骨偽関節に対する血管柄付き第 2 中手骨基部骨移植術. 日本手外科学会 (第 56 回) (神戸), 2013. 4.
- 43) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 大久保敦, 高井信朗: 2D3D レジストレーション法による肩関節動作解析の撮影条件の検証. 肩関節学会 (第 40 回) (京都), 2013. 9.
- 44) 岩下 哲, 橋口 宏, 高井信朗: 2D/3D レジストレーション法における real time smoothed mask digital subtraction. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第 28 回) (幕張), 2013. 10.
- 45) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 高井信朗: 腱板断裂における delamination 発生関連因子の検討. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) (第 5 回) (札幌), 2013. 6.
- 46) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 大久保敦, 高井信朗: 夜間痛を伴う腱板断裂の臨床的特徴に関する検討. 東日本整形災害外科学会 (第 62 回) (軽井沢), 2013. 9.
- 47) Iizawa N, Mori A, Matsui S, Oba R, Takai S: Influence of the individual components of the main medial knee structures on valgus and rotatory stability in total knee arthroplasty. Orthopaedic Research Society (60th) (New Orleans, LA, USA), 2014. 3.
- 48) 友利裕二: 橈骨遠位端関節内骨折 (AO 分類 C 型) に合併した三角線維軟骨複合体損傷の手関節鏡視下評価. 日本手外科学会 (第 56 回) (神戸), 2013. 4.
- 49) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 飯澤典茂, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 60 歳以上の成人上腕骨遠位端骨折に対する LHP を用いた骨接合術の治療成績. 日本肘関節学会 (第 26 回) (東京), 2014. 2.
- 50) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 小児上腕骨顆上骨折整復不能例に対する肘関

節前方小皮切母指整復法. 日本肘関節学会 (第 26 回) (東京), 2014. 2.

51) 角田 隆, 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾, 高井信朗 (1) 日本医科大学遺伝診療科) : Hypermobility syndrome の整形外科的臨床像の検討. 日本整形外科学会学術総会 (第 86 回) (広島), 2013. 5.

52) 角田 隆, 篠山明宏¹⁾, 根井貴仁¹⁾, 前田美穂¹⁾, 河路秀巳, 高橋謙治, 高井信朗 (1) 日本医科大学付属病院 感染制御部) : アクリジンオレンジ光線力学療法による新しい感染症治療法の検討. 日本環境感染学会総会学術集会 (第 29 回) (東京), 2014. 2.

(7) ポスター発表 :

1) 今野俊介, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 堀口 元, 高井信朗 : 正中神経運動遠位潜時の手根管症候群診断における精度の検討. 日本臨床神経生理学学術大会 (第 43 回) (高知), 2013. 11.

(8) 研修講演 :

1) 宮本雅史 : 脊椎リハビリテーション. 平成 25 年夏季セラピスト研修会 (東京), 2013. 6.

2) 宮本雅史 : 脊椎リハビリテーション. 平成 25 年秋季セラピスト研修会 (東京), 2013. 11.

3) 宮本雅史 : 坐骨神経痛の診断と治療. 埼玉利根医療圏 運動器疾患勉強会 (第 1 回) (埼玉), 2013. 6.

論文

[追加分]

追加分原著 :

1) Mochizuki Y, Sawaizumi T, Tsunoda R, Horiguchi G, Matsui S, Takai S : A case of rotational restriction of the forearm due to abnormal configuration of pronator quadratus muscle. *Hand Surgery* 2013 ; 18 (2) : 247-250.

2) 南野光彦, 澤泉卓哉, 高井信朗 : 超音波短軸像による橈骨遠位端部での長母指屈筋腱の滑動性について : プレート固定例に対する検討. *骨折* 2013 ; 35 (1) : 28-31.

3) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 堀口 元, 高井信朗 : 成人橈骨頭・頸部骨折の治療成績の検討. *骨折* 2013 ; 35 (1) : 36-39.

4) 南野光彦, 澤泉卓哉, 高井信朗 : 横手根靭帯の 3 次元解析による解剖学的研究. *日本手外科学会誌* 2012 ; 29 (2) : 6-9.

5) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗 : 音波短軸像における正中神経の手根管内での移動について : 健常者での手関節肢位変化および手指運動による検討. *日本手外科学会誌* 2012 ; 29 (2) : 15-18.

6) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 高井信朗 : 橈骨遠位端部における長母指屈筋腱の滑動性について : 掌側プレート固定術後の超音波短軸像による検討. *日本手外科学会誌* 2013 ; 29 (4) : 332-335.

7) Niki H¹⁾, Tatsunami S²⁾, Haraguchi N³⁾, Aoki T, Okuda R⁴⁾, Suda Y⁵⁾, Takao M⁶⁾, Tanaka Y⁷⁾ (1) Department of Orthopaedic Surgery, St. Marianna University School of Medicine, 2) Unit of Medical Statistics, St. Marianna University, 3) Nishi Tokyo Metropolitan Police Hospital, 4) The Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College, 5) Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine Keio University, 6) Department of Orthopaedic Surgery, Teikyo University School of Medicine, 7) Department of Virology & Liver Unit, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences) : Validity and reliability of a self-administered foot evaluation questionnaire (SAFE-Q). *Journal of Orthopaedic Science* 2013 ; 18 (2) : 298-320.

追加分 :

1) 南野光彦 : 橈骨遠位端骨折『トピックス』. Minds 厚生労働省委託事業, EBM 普及推進事業, EBM 医療情報部 2013.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗：手根管症候群における超音波短軸像による正中神経の手根管内の移動について. 東日本手外科研究会 (第 28 回) (東京), 2013. 2.
- 2) Takai S : Biomechanical considerations on osteoarthritic knee joint. The shanghai-Tokyo Workshop on Rheumatology 2013 (Shanghai), 2013. 3.
- 3) 堀口 元, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗：小児上腕骨顆上骨折に対する梃子を利用した経皮的ピンニング. 日本肘関節学会学術集会 (第 25 回) (東京), 2013. 2.
- 4) 岩下 哲, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 南 和文, 高井信朗：2D/3D レジストレーション法を用いた肩関節動作解析における精度検証. 関東整形災害外科学会 (第 53 回) (宇都宮), 2013. 3.

追加分研修講演：

- 1) 宮本雅史：腰椎椎間板ヘルニアの診療ガイドラインについて. 横浜リウマチ・関節の外科研究会 (第 10 回) (神奈川), 2013. 2.

[付属病院リウマチ科]

研究概要

附属病院リウマチ科は本年度より整形外科所属として、研究を行った。従来からの課題である関節リウマチの薬物治療や病態に関する臨床研究に加え、変形性関節症や運動器の抗加齢に関する研究にも主軸を置き、変形性関節症軟骨のMRI解析や加齢軟骨の分子生物学的研究を行っている。変形性関節症におけるMRI検査では、通常の撮像法のみではなく、T2マッピング、T1 ρ マッピングによる変性の検出や薬物治療の効果判定を試みている。一方、関節リウマチ手術に関しては、従来行われていた、人工膝関節の長期成績のまとめ、生物学的製剤使用下におけるリウマチ治療の現状をまとめた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tsuchida S¹, Arai Y¹, Kishida T², Takahashi K, Honjo K¹, Terauchi R¹, Inoue H¹, Oda R¹, Mazuda O², Kubo T¹ (1) Department of Orthopaedics, Graduate School of Medical science, Kyoto Prefectural University of Medicine, (2) Department of Immunology, graduate school of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine) : Silencing the Expression of Connexin 43 Decreases inflammation and Joint Destruction in Experimental Arthritis. J Orthop Res 2013 ; 31 (4) : 525-530.
- 2) Hiraoka N¹, Arai Y¹, Takahashi K, Mazda O², Kishida T², Honjo K¹, Tsuchida S¹, Inoue H¹, Morino S³, Suico M³, Kai H³, Kubo T¹ (1) Department of Orthopaedics, Graduate School of Medical science, Kyoto Prefectural University of Medicine, (2) Department of Immunology, graduate school of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine, (3) Dep. of Molecular Medicine, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Global COE "Cell Fate Regulation Research and Education Unit" Kumamoto Univ.) : Mild Electrical Stimulation with Heat Stimulation Increase Heat Shock Protein 70 in Articular Chondrocyte. J Orthop Res 2013 ; 31 (6) : 894-900.

著書

- 1) 高橋謙治：〔自著〕生体温熱刺激による細胞応答. 生体電気・物理刺激による骨・軟部組織修復法 (久保俊一),

2013；pp117-121, 金芳堂.

- 2) 平澤泰介¹⁾, 高橋謙治, 田島文博²⁾ (1) 明治国際医療大学, 2) 和歌山県立医科大学リハビリテーション科)：〔自著〕運動器の抗老化 (アンチエイジング, anti-senescence) と運動の効果. 先端医療シリーズ 44 臨床医のための最新整形外科 (平澤泰介, 三浪 明男, 戸山芳昭編集主幹), 2013；pp29-35, 先端医療技術研究所.
- 3) 中村 洋, 竹之内研二, 高橋謙治, 鎌田利一, 高井信朗¹⁾, 吉野禎一 (1) 日本医科大学整形外科)：〔共著〕RA に対する Y/SII 型人工膝関節の長期成績. 我が国で 20 年以上前より使用されてきた人工関節手術の成績とその分析 (大西 啓靖), 2014；pp491-496, セルテスコメディカルエンジニアリング (株).

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高橋謙治：運動器温熱療法の効果と限界. 運動器疾患／骨・関節フォーラム (熊本), 2013. 10.

(2) 招待講演：

- 1) Nakamura H, Takahashi K：The present status of glucosamine use for osteoarthritis in the medical world and its scientific rationale. 10th International Conference of the Asian Pacific Chitin Chitosan Symposium (Yonago, Japan), 2013. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) 中村 洋¹⁾, 高橋謙治¹⁾, 高井信朗¹⁾, 黒川真奈絵²⁾, 加藤智啓²⁾ (1) 日本医科大学整形外科・リウマチ科, 2) 聖マリアンナ医科大学学生化学)：変形性関節症の薬物治療. 日本関節病学会 (第 41 回) (名古屋), 2013. 11.
- 2) 中村 洋¹⁾, 高橋謙治¹⁾, 佐藤章子¹⁾, 河路秀巳¹⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学整形外科・リウマチ科)：当科における生物学的製剤使用下の整形外科手術 (バイオ使用下における運動器再建手術のタイミング). 日本関節病学会 (第 41 回) (名古屋), 2013. 11.
- 3) 高橋謙治¹⁾, 佐藤章子¹⁾, 竹之内研二¹⁾, 佐竹美彦¹⁾, 高井信朗¹⁾, 中村 洋¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科整形外科学)：65 歳以降に発症した関節リウマチ患者の特徴 (高齢発症および高齢者 RA の対応と問題点). 日本関節病学会 (第 41 回) (名古屋), 2013. 11.
- 4) 中村 洋, 高橋謙治：変形性関節症の保存的治療—栄養・サプリメント—(変形性膝関節症の保存的治療). 日本運動器科学会 (第 25 回) (神戸), 2013. 7.

(4) 一般講演：

- 1) 高橋謙治¹⁾, 橋本三四郎²⁾, 竹之内研二¹⁾, 佐藤章子¹⁾, 小岩政仁³⁾, 森 淳¹⁾, 高井信朗¹⁾, 中村 洋¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科整形外科学, 2) ハシモトクリニック, 3) 秀和総合病院整形外科)：MRI で膝関節軟骨の質的評価を行った生物学的製剤治療 RA の 2 例. 日本リウマチ学会総会 (第 57 回) (京都), 2013. 4.
- 2) 竹之内研二, 佐藤章子¹⁾, 金 竜¹⁾, 高橋謙治, 金子礼志²⁾, 友利裕二¹⁾, 小岩政仁³⁾, 鎌田利一⁴⁾, 森 淳¹⁾, 河路秀巳¹⁾, 高井信朗¹⁾, 中村 洋 (1) 日本医科大学 整形外科, 2) 国立国際医療研究センター国府台病院, 3) 秀和総合病院, 4) 原整形外科病院)：関節リウマチの生物学的製剤使用における血中アディポカインの治療特異的变化. 日本リウマチ学会総会 (第 57 回) (京都), 2013. 4.
- 3) 高橋謙治¹⁾, 橋本三四郎²⁾, 新津 守³⁾, 奥秋知幸⁴⁾, 竹之内研二¹⁾, 森 淳¹⁾, 河路秀巳¹⁾, 中村 洋¹⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学大学院感覚運動機能再建学, 2) ハシモトクリニック, 3) 埼玉医科大学放射線科, 4) Philips Electronics Japan, MR Clinical Science)：X 線学的に関節症性変化の乏しい有痛膝に対する 3 テスラ MRI T1ρ mapping による軟骨変性解析. 日本整形外科学会 (第 86 回) (広島), 2013. 5.
- 4) 橋本三四郎¹⁾, 高橋謙治, 中村 洋, 竹之内研二, 高井信朗²⁾ (1) 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック, 2) 日本医科大学整形外科)：早期変形性膝関節症に対する MRI 評価とヒアルロン酸注射効果の検討. 日本抗加齢医学会 (第 13 回) (横浜), 2013. 6.
- 5) Takahashi K¹⁾, Hashimoto S²⁾, Kurosaki H³⁾, Mochizuki Y¹⁾, Watanabe H¹⁾, Satake Y¹⁾, Nakamura H¹⁾,

- Takai S¹⁾ (1) Dept. of Orthop., Nippon Med Sch, 2) Hashimoto Clinic, 3) Dept. of Radiat. Therapy, Tokyo Kousei Nenkin Hosp) : A comparison of radiofrequency and microwave hyperthermia on knee osteoarthritis. Combined Meeting of Orthopaedic research Societies (8th) (Venice, Italy), 2013. 10.
- 6) Watanabe H¹⁾, Takahashi K¹⁾, Mochizuki Y¹⁾, Hashimoto S²⁾, Satake Y¹⁾, Nakamura H¹⁾, Takai S¹⁾ (1) Dept. of Orthop., Nippon Med.Sch., 2) Minami-Shinjuku Orthopaedic Rehabilitation Clinic) : Efficacy of radiofrequency hyperthermia on the cartilage in guinea pigs with primary. Combined Meeting of Orthopaedic Research Societies (8th) (Venice, Italy), 2013. 10.
- 7) 高橋謙治¹⁾, 橋本三四郎²⁾, 奥秋知幸³⁾, 森 淳¹⁾, 中村 洋¹⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 運動機能再生再建医学分野, 2) 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック, 3) Philips Electronics Japan MR Clinical Science) : 3 Tesla MRI T1 ρ mapping による膝関節軟骨の質的評価. 中部日本整形外科災害外科学会 (第12回) (名古屋), 2013. 10.
- 8) 高橋謙治¹⁾, 橋本三四郎²⁾, 佐藤章子¹⁾, 奥秋知幸³⁾, 森 淳¹⁾, 中村 洋¹⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科整形外科学, 2) 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック, 3) Philips Electronics Japan, MR Clinical Science) : 3 Tesla MRI T1 ρ mapping による膝軟骨評価の再現性および妥当性の検討. 日本関節病学会 (第41回) (名古屋), 2013. 11.
- 9) 佐藤章子¹⁾, 中村 洋¹⁾, 高橋謙治¹⁾, 竹之内研二¹⁾, 河路秀巳¹⁾, 友利裕二¹⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科整形外科学) : 関節リウマチに対する MTX8mg/週から10mg/週以上への増量の有効率と安全性. 日本リウマチ学会総会 (第57回) (京都), 2013. 4.
- 10) 渡部和樹¹⁾, 新藤康弘¹⁾, 加藤和夫²⁾, 久保充則³⁾, 黒崎弘正⁴⁾, 高橋謙治 (1) 明治大学大学院理工学研究科, 2) せせらぎ病院附属あさくら診療所, 3) 明治大学機械情報工学科, 4) 東京厚生年金病院 放射線科) : 膝関節リウマチの温熱療法を目的とした空洞共振器加温方式の特性解析. 日本ハイパーサーミア学会 (第30回) (横浜), 2013. 8.
- 11) 森 信二¹⁾, 高橋謙治, 黒崎弘正²⁾ (1) あいん会温熱治療センター, 2) 東京厚生年金病院 放射線科) : 変形性膝関節症に対する電磁波温熱療法が与える効果. 日本診療放射線技師会 (第29回) (島根), 2013. 9.
- 12) 星川直哉¹⁾, 河路秀巳¹⁾, 高橋謙治, 植松卓哉¹⁾, 宮本 暖¹⁾, 大場良輔¹⁾, 青木孝文¹⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科整形外科学) : 大腿骨転子部骨折におけるラグスクリーの至適刺入位置に関する新しい指標の検討. 日本股関節学会 (第40回) (広島), 2013. 11.
- 13) 河路秀巳¹⁾, 小林俊之¹⁾, 高橋謙治, 植松卓哉¹⁾, 大場良輔¹⁾, 宮本 暖¹⁾, 佐竹美彦¹⁾, 星川直哉¹⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 整形外科学) : セメントレス人工股関節置換術における stem 内反挿入の影響に関する検討. 日本股関節学会 (第40回) (広島), 2013. 11.
- 14) 大場良輔¹⁾, 河路秀巳¹⁾, 高橋謙治, 植松卓哉¹⁾, 宮本 暖¹⁾, 佐竹美彦¹⁾, 星川直哉¹⁾, 渡部 寛¹⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 整形外科学) : 診断に SPECT-CT が有用であった骨盤脆弱性骨折の2例. 日本股関節学会 (第40回) (広島), 2013. 11.
- 15) Shindo Y¹⁾, Watanabe K¹⁾, Iseki Y¹⁾, Y.kato K¹⁾, Kubo M¹⁾, Kurosaki H²⁾, Takahashi K (1) Dept. of Mech Eng. Inf., Meiji Univ., Kanagawa, Japan, 2) Dept. of Radiology, Tokyo Koseinenkin Hospital, Tokyo, Japan) : Thermotherapy for rheumatoid arthritis using resonant cavity applicator. EuCAP (SWEDEN), 2013. 4.
- 16) 佐藤章子¹⁾, 中村 洋, 高橋謙治, 河路秀巳¹⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学整形外科) : Metal on polyethelene 人工股関節全置換術後に鼠蹊部巨大偽腫瘍を生じた2例. 日本人工関節学会 (第44回) (沖縄), 2014. 2.
- 17) Kurokawa M¹⁾, Yoshioka T²⁾, Sato T¹⁾, Arito M¹⁾, Takakuwa Y¹⁾, Nakano H²⁾, Ooka S²⁾, Suematsu N¹⁾, Okamoto K¹⁾, Nakamura H, Suzuki N²⁾, Ozaki S²⁾, Kato T¹⁾ (1) Department of Biochemistry, St. Marianna University Graduate School of Medicine, Kawasaki, Japan, 2) Department of Rheumatology, St. Marianna Uni-

versity School of Medicine, Kawasaki, Japan.) : Protein Profiles Of Peripheral Blood Mononuclear Cells As a Biomarker For Behcet's Disease. 77th Annual Scientific Meeting of Annual Scientific Meeting of American College of Rheumatology (ACR) (Sandiego, CA), 2013. 10.

- 18) Kurokawa M¹, Yoshioka T², Sato T¹, Nagai K¹, Iizuka N¹, Arito M¹, Takakuwa Y², Nakano H², Ooka S², Suematsu N¹, Okamoto K¹, Nakamura H, Suzuki N², Ozaki S², Kato T¹ (1) Department of Biochemistry, St. Marianna University Graduate School of medicine. Kawasaki Japan,, 2)Department of Rheumatology, St. Marianna University School of Medicine, Kawasaki Japan.) : Protein Profiles Of Periphral Blood Mononuclear Cells As a Biomarker For Behcet's Disease. Annual Scientific Meeting of Annual Scientific Meeting of American College of Rheumatology (ACR) (77th) (San Diego, CA)), 2013. 10.

(5) 特別企画 :

- 1) 中村 洋, 竹之内研二, 高橋謙治, 鎌田利一¹, 河路秀巳², 高井信朗², 吉野横一 (1) 原整形外科病院, 2) 日本医科大学整形外科) : YS II 型人工膝関節の長期成績. 日本人工関節学会 (第44回) (沖縄), 2014. 2.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Watanabe K¹, Kurosaki H², Kubo M¹, Takahashi K, Shindo Y¹, Kato K¹ (1) Dept. of Mech. Eng. Inf., Meiji Univ., Kanagawa, Japan, 2) Dept. of Radiology, Tokyo Koseinenkin Hospital, Tokyo, Japan) : Hearting properties of resonant cavity aplicator for treating rheumatoid arthritis by using 3-D FEM knee model. IS-MICT (Tokyo), 2013. 3.

20. 産婦人科学

[付属病院女性診療科・産科]

研究概要

周産期医学, 婦人科腫瘍学, 生殖内分泌医学, 女性医学領域, 手術学の各部門でそれぞれ意欲的に研究が進められた。周産期医学領域では, 分子解剖学講座との共同研究にてヒト胎盤特異的マイクロRNAがエクソゾームを介して母体免疫細胞の遺伝子発現を修飾していることを見出し報告した。婦人科腫瘍学では子宮体癌症例を中心に各種腫瘍組織において特異的に発現が上昇するマイクロRNAを同定した。また, それらのマイクロRNAがどの遺伝子をターゲットとしているかを追求した。今後, マーカーとしての臨床応用を考えている。生殖内分泌医学領域では, 不育症症例における各種自己抗体, 凝固因子などを検討し予後との関連を解析し報告した。女性医学領域, 手術学領域では骨盤臓器脱に対する独自の観点から開発した新しい術式に対して積極的報告し, 術式の周知に貢献した。また, 子宮体癌に対して腹腔鏡下の根治術の術式の開発を継続中である。以上, 各領域において活発に研究活動が行われている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 重見大介, 峯 克也, 小野修一, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行, 吉田 淳¹⁾ (1) 木場公園クリニック): 妊娠成立後に月経様出血, 卵巣発育様エコー像, 基礎体温の二相性変化を認め診断に苦慮した異所性妊娠の1例. 東京産科婦人科学会誌 2013; 62 (3): 395-399.
- 2) 浜野愛理, 山岸絵美, 川端伊久乃, 桑原知仁, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 桑原慶充, 石川 源, 関口敦子, 中井章人: 死胎児の評価に3DCTが有用であった未受診妊婦の1例. 東京産科婦人科学会誌 2013; 62 (3): 497-502.
- 3) 小野修一, 竹下俊行: 子宮頸管因子による不妊症. 産科婦人科疾患最新の治療 2013; 196-196.
- 4) 竹下俊行: 生殖医療の進歩と課題-安全性の検証から革新的知見まで【生殖医療の倫理・法】卵子提供・代理懐胎. 臨床婦人科産科 2014; 68 (1): 123-128.
- 5) Yoneyama K, Konishi H¹⁾, Yahata T²⁾, Fujita K²⁾, Aoki Y³⁾, Doi D⁴⁾, Matsushima T⁴⁾, Kodama S⁶⁾, Honma S⁶⁾, Kato H⁵⁾, Nakayama H⁵⁾, Kamoi S⁷⁾, Asakura H⁴⁾, Takeshita T, Tanaka K²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Kato Women's Clinic, 2) Division of Obstetrics and Gynecology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Graduate School of Medical Science, University of the Ryukyus, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 5) Department of Gynecology, Kanagawa Cancer Center Hospital, 6) Division of Gynecology, Niigata Prefectural Cancer Center Hospital, 7) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): A Phase II Study of Paclitaxel and Carboplatin with a Biweekly Schedule in Patients with Epithelial Ovarian Cancer: Gynecologic Cancer Network Trial. J Nippon Med Sch 2014; 81 (1): 28-34.
- 6) Kurashina R, Kikuchi K¹⁾, Iwaki J¹⁾, Yoshitake H¹⁾, Takeshita T, Takizaw T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy): Placenta-specific miRNA (miR-512-3p) targets PPP3R1 encoding the calcineurin B regulatory subunit in BeWo cells. J Obstet Gynaecol Res 2014; 40 (3): 650-660.
- 7) 桑原慶充, 中井章人: 【高年妊娠・若年妊娠】若年妊娠 若年妊婦における妊婦健診・分娩時の留意点(解説/特集). 周産期医学 2013; 7 (7): 895-898.

- 8) Sekiguchi A, Nakai A, Kawabata I, Hayashi M, Takeshita T : Type and location of placenta previa affect preterm delivery risk related to antepartum hemorrhage. *Int J Med Sci* 2013 ; 10 (12) : 1683-168.
- 9) Ouchi N, Akira S, Mine K, Ichikawa M, Takeshita T : Recurrence of ovarian endometrioma after laparoscopic excision : risk factors and prevention. *J Obstet Gynaecol Res* 2014 ; 40 (1) : 230-236.
- 10) 市川雅男, 関根仁樹, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫 : 産婦人科手術 Up to Date 子宮摘出後の腔脱に対する手術 - 腹腔鏡下仙骨腔固定術を中心に -. *産科と婦人科* 2014 ; 81 (増刊号) : 315-320.
- 11) 市川雅男, 関根仁樹, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫 : 腹腔鏡下仙骨腔固定術 新たなゴールドスタンダードへ. *産婦人科の実際* 2014 ; 63 (1).
- 12) 浜野愛理, 山岸絵美, 川端伊久乃, 桑原知仁, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 桑原慶充, 石川 源, 関口敦子, 中井章人 : 死胎児の評価に3DCTが有用であった未受診妊婦の1例. *東京産科婦人科学会誌* 2013 ; 62 (3) : 497-502.
- 13) 根岸靖幸¹⁾, 清水真澄¹⁾, 若林あや子¹⁾, 市川智子, 竹下俊行, 高橋秀実¹⁾ (¹⁾ 日本医大微生物学免疫学教室) : 妊娠マウスにおける樹状細胞亜分画変動IL-12産生. *Reproductive Immunology and biology* 2013 ; 28 (1) : 26-32.
- 14) 池田真利子, 明楽重夫, 小野修一, 洪井庸子, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行 : 卵巣囊腫摘出術後の卵巣予備能の評価は, FSHよりもAMHが鋭敏である. *日本エンドメトリオーシス学会誌* 2013 ; 24 : 180-183.
- 15) 重見大介, 明楽重夫, 大内 望, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行 : 子宮内膜症の術後再発予防におけるジェイノゲスト効果. *日本エンドメトリオーシス学会誌* 2013 ; 34 : 154-156.
- 16) 明楽重夫 : 我が国における月経困難症・子宮内膜症の実態と受診行動の現状 : 女子大生アンケートから. *日エンドメトリオーシス学会誌* 2013 ; 34 : 42-48.
- 17) 明楽重夫 : クリニカルカンファレンス4 (生殖) : 子宮内膜症の手術療法とその成績1) 凍結骨盤に対する機能温存手術. *日産婦誌* 2013 ; 65 (9) : N124-N130.
- 18) Hata Y, Nakaoka H, Yoshihara K, Adachi S, Haino K, Yamaguchi M, Nishikawa N, Kashima K, Yahata T, Tajima A, Watanabe A, Akira S, Hosomichi K, Inoue I, Tanaka K : A nonsynonymous variant of IL1A is associated with endometriosis in Japanese population. *J Hum Genet* 2013 ; 58 (8) : 517-520.
- 19) Watanabe K, Nemoto T, Akira S, Takeshita T, Shibasaki T : Estrogens downregulate urocortin 2 expression in rat uterus. *J Endocrinol.* 2013 ; 219 (3) : 269-278.
- 20) Ichikawa M, Mine K, Akira S : Changing our view of minimally invasive gynecologic surgery : a review of laparoendoscopic single-site surgery and a report on new approaches. *Asian J Endosc Surg* 2013 ; 6 (3) : 151-157.
- 21) Nakagawa K, Nishi Y, Sugiyama R, Kuribayashi Y, Akira S, Sugiyama R, Inoue M : Role of salpingoscopy in assessing the inner fallopian tubes of infertility patients with ovarian endometriomas. *J Obstet Gynaecol Res.* 2013 ; 39 (5) : 979-984.
- 22) 市川雅男, 明楽重夫, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行 : 骨盤臓器脱に対する内視鏡手術. *日本女性骨盤底医学会誌* 2013 ; 10 (1) : 36-40.
- 23) 田中智子¹⁾, 浅野 愛¹⁾, 星 真一¹⁾, 星野裕子¹⁾, 亀山信彦¹⁾, 若麻績佳樹¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 明楽重夫 (¹⁾ 東京リバーサイド病院) : 当院における腹式子宮筋腫核出術と腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術の選択について. *東京産科婦人科学会誌* 2013 ; 62 (4) : 536-541.
- 24) 市川雅男, 明楽重夫, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行 : 鏡視下手術と内膜症 pit fallを中心に オリオンとカメレオン. *日本エンドメトリオーシス学会誌* 2013 ; 34 : 88-89.
- 25) 市川雅男, 明楽重夫 : 【女性骨盤底外科手術 Up to Date- 増加する患者への対応を学ぶ】 手術手技のポイントと術後合併症への対応 腹腔鏡下骨盤底再建手術. *臨床婦人科産科* 2013 ; 67 (3) : 394-401.

- 26) 市川雅男, 明楽重夫, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に対する内視鏡手術. 日本女性骨盤底医学会誌 2013; 10 (1): 36-40.
- 27) 瀧澤俊広¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 弓削主哉¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大分子解剖学): microRNA 研究の基礎と応用. 組織細胞化学 2013; 2013: 169-179.
- 28) 瀧澤俊広¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 石川 源, 竹下俊行, 松原茂樹²⁾ (¹⁾ 日本医大分子解剖学, ²⁾ 自治医科大学産婦人科): 【胎盤 - 生理から病態へ -】胎盤の構造と機能. 産婦人科の実際 2013; 62 (8): 1025-1031.
- (2) 総説:
- 1) 明楽重夫, 渡辺美千明, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: 腹腔鏡下子宮腺筋症切除術. 産婦人科の実際 2013; 62 (5): 685-691.
- 2) 黒瀬圭輔, 山本晃人, 川瀬里衣子, 山田 隆, 土居大祐, 米山剛一, 鴨井青龍, 竹下俊行: プロメテウス 婦人科がん最新医療 性索間質性腫瘍. 産婦人科の実際 2013; 62 (12): 1978-1984.
- 3) 斎藤英和¹⁾, 石原 理²⁾, 久具宏司³⁾, 榊原秀也⁴⁾, 澤倫太郎, 津田尚武⁵⁾, 阪埜浩司⁶⁾, 平原史樹⁷⁾ (¹⁾ 国立成育医療研究センター, ²⁾ 埼玉医科大学, ³⁾ 東邦大学医療センター大橋病院, ⁴⁾ 横浜市立大学, ⁵⁾ 久留米大学, ⁶⁾ 慶應義塾大学, ⁷⁾ 横浜市立大学): 平成 24 年度倫理委員会 登録・調査委員会報告 (2011 年度分の体外受精・胚移植等の臨床実施成績および 2012 年 7 月における登録施設名). 日産婦誌 2013; 65 (9): 2083-2115.
- (3) 研究報告書:
- 1) 海野信也, 松田義雄, 中井章人, 澤倫太郎, 村上真紀: 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 (成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業) 地域における産科医, 小児科医の実態把握に関する研究報告書. 2013.
- 2) 高杉敬久, 澤倫太郎, 水谷 渉: 全国の医療機関別の診療行為等に係る有害事象数に関する特別研究. 厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業) 総括研究報告書 2014.
- (4) 症例報告:
- 1) 飯田朝子, 峯 克也, 田村俊之, 小野修一, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 初経から 6 年後に腔留膿症を呈した子宮奇形の 1 例. 東京産婦会誌 2014; 63 (1): 155-158.

著 書

- 1) 市川雅男: [共著] 第 8 章 骨盤臓器脱 骨盤臓器脱に対して腹腔鏡下仙骨腔固定術 (Laparoscopic sacrocolpopexy; LSC) は有用か?. 産婦人科内視鏡手術ガイドライン (日本産科婦人科内視鏡学会), 2013; pp89-94, 金原出版株式会社.
- 2) 明楽重夫: [共著] 子宮筋腫, 子宮内膜炎, 子宮腺筋症診療マニュアル: 女性 3 大良性疾患を診る. 手術療法, 2013; pp50-56, 診断と治療社.
- 3) 小野修一, 明楽重夫: [共著] 子宮筋腫の治療の種類と症例による選択は?. 婦人科疾患の治療, 2013; pp36-45, 中外医学社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 澤倫太郎: 「周産期医師増加へむけての最大の難題・訴訟圧力: 医療の刑事事件化を考える」. 平成 21—25 年度文部科学省選定周産期医療環境整備事業 (人材養成環境整備) 「魅力と働き甲斐の創生による周産期医療再生」事業報告会特別講演, 2014. 1.
- 2) 明楽重夫: 妊娠中の腹壁吊り上げ法腹腔鏡手術は, 母児双方にとって低侵襲で安全か. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回), 2013. 11.

(2) シンポジウム:

- 1) 市川雅男, 明楽重夫, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行: 腹腔鏡下仙骨腔固定術と paravaginal repair. 日本女性

骨盤底医学会 (第 15 回), 2013. 7.

- 2) 明楽重夫: 卵巣チョコレート嚢胞と卵巣予備能: 腹腔鏡下手術の観点から. 日本受精着床学会 (第 31 回), 2013. 8.
 - 3) Ichikawa M: Laparoscopic sacrocolpopexy meets tension-free vaginal mesh-Emergence of hybrid laparoscopic ascrocolpopexy. APAGE2013 (14th) (Korea), 2013. 11.
 - 4) 市川雅男, 明楽重夫, 関根仁樹, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行: より美しい先進的な手術を求めて. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回), 2013. 11.
 - 5) 市川雅男: 腹腔鏡下仙骨腔固定術: 新たなゴールドスタンダードへ. 骨盤臓器脱手術手技研究会 (第 9 回), 2013. 12.
 - 6) 市川雅男: 次世代型美容的アプローチ Mimic laparoscopic surgery. 日本内視鏡外科学会 (第 26), 2013. 11.
 - 7) 明楽重夫: 内視鏡外科技術認定の現況: 婦人科. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回), 2013. 11.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 明楽重夫: クリニカルカンファレンス 4 (生殖) 子宮内膜症の手術療法とその成績凍結骨盤に対する機能温存手術. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
 - 2) 峯 克也, 明楽重夫, 市川雅男, 小野修一, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 経陰回収バックを併用した卵巣皮様嚢腫に対する 3mm 細径腹腔鏡下手術: バスタブ法の適応と限界. Needlescopci Surgery Meeting (第 9 回) 単孔式内視鏡手術研究会 (第 7 回), 2013. 8.
- (4) ワークショップ:
- 1) 可世木華子, 明楽重夫, 倉品隆平, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 里見操緒, 竹下俊行: 妊娠中の腹腔鏡下手術は安全か: 卵巣嚢腫手術における検討. 日本産婦人科手術学会 (第 36 回), 2013. 9.
 - 2) 市川雅男, 明楽重夫, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行: ハイブリッド腹腔鏡下仙骨腔固定術. 日本産婦人科手術学会 (第 36 回), 2013. 9.
- (5) 一般講演:
- 1) 倉品隆平, 菊池邦生¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大分子解剖学): 胎盤特異的 miRNA, miR-512-3p は PPP1R1 を標的としている. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
 - 2) 神戸沙織, 吉武 洋¹⁾, 石田洋一²⁾, 大口昭英²⁾, 松原茂樹²⁾, 鈴木光明²⁾, 齋藤 滋³⁾, 瀧澤俊広¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大分子解剖学, ²⁾ 自治医大, ³⁾ 富山大): 妊婦末梢血 natural killer 細胞における胎盤特異的マイクロ RNA 標的遺伝子候補の検索. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
 - 3) 深見武彦, 西田直子, 立山尚子, 松村好克, 山口道子, 間瀬有里, 野口 唯, 中野仁彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠 14-24 週の切迫流産における Amniotic Fluid Sludge の臨床的意義. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
 - 4) 米山剛一, 山田 隆, 山本晃人, 中西一步, 村川裕子, 伊藤麻利江, 永野玲子, 加藤雅彦, 渡辺美千明, 瀧澤俊広¹⁾, 竹下俊行: 子宮内膜癌におけるマイクロ RNA の動向. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
 - 5) 池田真利子, 明楽重夫, 渋谷庸子, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: 卵巣チョコレート嚢胞摘出術後の卵巣予備能における AMH 測定の有用性: FSH との比較. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
 - 6) 重見大介, 明楽重夫, 大内 望, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: ジェノゲストの卵巣チョコレート嚢胞摘出後の再発予防における有用性の検討. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
 - 7) 柿栖睦実, 関口敦子, 川端伊久乃, 西田直子, 中井晃人, 朝倉啓文, 竹下俊行: HELLP 症候群に合併する子癩は HELLP 症候群の重症度と関係する?. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 4.
 - 8) 川瀬里衣子, 新村裕樹, 池田真利子, 田村俊之, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 竹下俊行: 人畜共通感染症のパスレラ菌が起炎菌となった子宮体癌術後リンパ腫瘍の 1 例. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
 - 9) 山本晃人, 山田 隆, 米山剛一, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 竹下俊行: 広汎子宮全摘術における自律神

経温存術式の検討. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.

- 10) 桑原慶充, 富山僚子, 米澤美令, 小野修一, 橋本恵理子, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: マウス周排卵期卵巣におけるオステオポンチンの発現調節および機能解析. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 11) 林 昌子, 松田義雄¹⁾, 佐藤昌司²⁾, 中井章人, 竹下俊行 (¹⁾ 東京女子医大, ²⁾ 大分県立病院): 生殖補助医療は周産期予後を悪化させない. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 12) 田中智子, 伊藤実香, 米田徳子, 齋藤 滋, 竹下俊行, 藤井知行, 川口里恵, 三井真理, 中塚幹也, 丸山哲夫, 山田秀人, 杉 俊隆, 福井淳史, 山本樹生, 高桑好一, その他 2 名: 不育症診療の現状: 14 施設のデータ集計より. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 13) 峯 克也, 吉田 淳¹⁾, 米澤美令, 小野修一, 阿部 崇, 市川智子, 富山僚子, 西 弥生, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 不育リスク因子は高度生殖補助医療の成績に影響を与えるか?. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 14) 山口道子, 稲垣知子, 野口 唯, 柿栖睦実, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 分娩迄の子宮頸管硬度変化による子宮頸管腺領域のエコー輝度の変化. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 15) 田中亜由子¹⁾, 鈴木 真¹⁾, 小畑聡一朗¹⁾, 末光徳匡¹⁾, 鈴木陽介¹⁾, 松浦拓人¹⁾, 寺岡香里¹⁾, 今井 ¹⁾, 高矢千夏¹⁾, 高矢寿光¹⁾, 可世木華子, 清水幸子¹⁾ (¹⁾ 亀田メディカルセンター): 経膈超音波断層法による子宮頸管熱化の客観的評価. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 16) 五十嵐美和, 桑原慶充, 大内 望, 里見操緒, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行: 妊娠中の低用量アスピリン療法は胎児動脈管の血行動態に影響するか?. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 17) 土居大祐, 稲垣知子, 中尾仁彦, 野口 唯, 糸井博美, 柿栖睦実, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 悪性腫瘍の既往のある妊婦に関する検討. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 18) 川端伊久乃, 寺田佳世子, 川端英恵, 山岸絵美, 橋本恵理子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人, 竹下俊行: 切迫早産症例における流早産既往は早産率に影響を与えるか?. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 19) 市川雅男, 明楽重夫, 小野修一, 峯 克也, 里見操緒, 竹下俊行: 術中出血・尿管損傷回避のための目に見える TVM 手術. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 20) 関口敦子, 川端伊久乃, 奥田直貴, 林 昌子, 印出佑介, 橋本恵理子, 桑原知仁, 山岸絵美, 石川 源, 中井章人, 竹下俊行: 前壁付着の全前置胎盤は後壁付着に比べ早産リスクが高い. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 5.
- 21) 川端英恵, 印出佑介, 浜野愛理, 山岸絵美, 橋本恵理子, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 桑原慶充, 石川源, 関口敦子, 中井章人: 妊娠 38 週で上腹部通・肝機能異常を呈し帝王切開術後急性胆嚢炎と診断し得た 1 例. 東京産科婦人科学会 (第 366 回), 2013. 5.
- 22) 田中智子¹⁾, 若麻績佳樹¹⁾, 小松由佳¹⁾, 浅野 愛¹⁾, 星 真一¹⁾, 星野裕子¹⁾, 亀山信彦¹⁾, 明楽重夫, 荒木 勤¹⁾ (¹⁾ 東京リバーサイド病院産婦人科): 当院における腹腔子宮筋腫核出術と腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術 n 選択について. 東京産科婦人科学会 (第 366 回), 2013. 5.
- 23) 寺田佳世子, 黒瀬圭輔, 池田真利子, 田村俊之, 川瀬里衣子, 鴨井青龍, 竹下俊行: 心タンポンナーデを契機に診断に至った子宮頸癌の 1 例. 東京産科婦人科学会 (第 366 回), 2013. 5.
- 24) 深見武彦, 柿栖睦実, 糸井博美, 西田直子, 立山尚子, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 絨毛膜下血腫発症の後に Amniotic fluid sludge を認め流早産に至った 2 症例. 日本周産期・新生児医学会 (第 49 回), 2013. 7.
- 25) 糸井博美, 柿栖睦実, 間瀬有里, 立山尚子, 石田直子, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: やせ妊婦と胎児発育との関係 (当院における実態). 日本周産期・新生児医学会 (第 49 回), 2013. 7.
- 26) 竹下俊行, 里見操緒, 久慈直昭¹⁾, 吉村泰典¹⁾ (¹⁾ 慶應義塾大学産婦人科): 卵子提供後妊娠分娩の周産期合併症

- に関する検討. 日本周産期・新生児医学会 (第 49 回), 2013. 7.
- 27) 米澤美令, 里見操緒, 橋本恵理子, 大内 望, 五十嵐美和, 峯 克也, 桑原慶充, 澤倫太郎, 磯崎太一, 竹下俊行: 不育症既往妊婦に対するヘパリン・アスピリン療法不成功例の検討. 日本周産期・新生児医学会 (第 49 回), 2013. 7.
 - 28) 松橋智彦, 川瀬里衣子, 飯田哲士¹⁾, 丸山康世¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター): 術前に転移性腫瘍を鑑別し得た子宮頸部原発印環細胞癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 54 回), 2013. 7.
 - 29) 山本晃人, 伊藤麻利江, 加藤雅彦, 村川裕子, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一: 診断に苦慮した子宮頸癌合併妊娠の 2 症例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 54 回), 2013. 7.
 - 30) 田村俊之, 黒瀬圭輔, 池田真利子, 重見大介, 新村裕樹, 寺田佳世子, 松橋智彦, 川瀬里衣子, 鴨井青龍, 竹下俊行: DC 療法中に大量腹水を来した子宮体癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 54 回), 2013. 7.
 - 31) 山田 隆, 伊藤麻利江, 加藤雅彦, 中西一歩, 村川裕子, 山本晃人, 渡辺美千明, 米山剛一: 抗癌剤投与時の前投薬でアナフィラキシーショックを呈した 1 症例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 54 回), 2013. 7.
 - 32) 川瀬里衣子, 鴨井青龍, 黒瀬圭輔, 寺崎美佳¹⁾, 竹下俊行 (1) 日本医大病理学 (解析人体病理学)): 3 歳で T 細胞急性リンパ性白血病の治療歴のある 18 歳に発症した子宮肉腫の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 54 回), 2013. 7.
 - 33) 米山剛一, 山田 隆, 山本晃人, 村川裕子, 加藤雅彦, 伊藤麻利江, 渡辺美千明, 島津純美¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 羽鳥 努¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院病理部): 術後経過 4 年で腹腔内再発を来した子宮間葉系腫瘍の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 54 回), 2013. 7.
 - 34) 小野修一, 米澤美令, 阿部 崇, 峯 克也, 富山僚子, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 不育症を呈した中隔子宮に対する外科的介入に関する検討. 日本受精着床学会 (第 31 回), 2013. 8.
 - 35) 市川雅男, 明楽重夫, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行: 美容的アプローチによる子宮内膜症の手術治療戦略. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 53 回), 2013. 9.
 - 36) 小野修一, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡下子宮筋腫核出術にける Mimic 法の有用性. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 53 回), 2013. 9.
 - 37) 重見大介, 市川雅男, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 安全かつ低侵襲な腹腔内到達法への試み: スキンフック法. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 53 回), 2013. 9.
 - 38) 峯 克也, 市川雅男, 小野修一, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 卵巣体様嚢腫はバスタブ法により安全かつ低侵襲に摘出される: 経腔回収パックを併用した 3mm 細径腹腔鏡下手術. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 53 回), 2013. 9.
 - 39) 松井僚子, 川瀬里衣子, 今道小百合, 飯田朝子, 寺田佳世子, 可世木華子, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行: 成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の術前診断. 日本医科大学医学会 (第 81 回), 2013. 9.
 - 40) 角田陽平, 村川裕子, 池田真利子, 伊藤麻利江, 尾崎景子, 森 瑛子, 中田真理世, 加藤雅彦, 山本晃人, 山田隆, 渡辺美千明, 鴨井青龍: 黄疸の診断に困難を極めた産褥期 DIC の 1 例. 日本医科大学医学会 (第 81 回), 2013. 9.
 - 41) 飯田朝子, 峯 克也, 田村俊之, 小野修一, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 初経から 6 年後に腔留膿を呈した子宮奇形の 1 例. 東京産科婦人科学会 (第 367 回), 2013. 9.
 - 42) Mine K, Yonazawa M, Kuwabara Y, Akira S, Takeshita T: Analysis of risk factors associated with ectopic pregnancy after art. IFFS/ASRM 2013 (USA), 2013. 10.
 - 43) Ono S, Abe T, Mine K, Akira S, Takeshita T: A study of surgical intervenntion for septate utterus as a cause of recurrent miscarriage. IFFS/ASRM 2013 (USA), 2013. 10.
 - 44) Kuwabara Y, Katayama A, Tomiyama R, Ono S, Mine K, Takeshita T: Gonadotropin surge stimulate

ovarian osteopontin expression via epidermal growth factor receptor signaling to enhance corpus luteum function. IFFS/ASRM 2013 (USA), 2013. 10.

- 45) 今道小百合, 米山剛一, 松井遼子, 寺田佳世子, 可世木華子, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 頸部リンパ節転移により発見され原発巣が肉眼的に微小であった子宮体癌の1例. 関東連合産科婦人科学会 (第126回), 2013. 10.
- 46) 松井遼子, 米山剛一, 今道小百合, 寺田佳世子, 可世木華子, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 術前から悪性が強く疑われた成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 関東連合産科婦人科学会 (第126回), 2013. 10.
- 47) 米山剛一, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行, 大橋隆治¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院病理部): 頸部リンパ節細胞診が診断の契機となった子宮体癌の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第52回), 2013. 11.
- 48) 桑原慶充, 富山僚子, 小野修一, 米澤美令, 橋本恵理子, 市川智子, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: オステオポンチンはEGF受容体シグナリングを介して初期黄体化顆粒膜細胞に発現しVEGFの発現を促進する. 日本生殖医学会 (第58回), 2013. 11.
- 49) 峯 克也, 吉田 淳¹⁾, 米澤美令, 小野修一, 阿部 崇, 市川智子, 富山僚子, 西 弥生, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行 (¹⁾ 本場公園クリニック): 不育リスク因子の高度生殖補助医療に与える影響について. 日本生殖医学会 (第58回), 2013. 11.
- 50) 米澤美令, 里見操緒, 小野修一, 市川智子, 峯 克也, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 不育症症例における抗Phosphatidylethanolamine抗体価の経時的変化に関する検討. 日本生殖医学会 (第58回), 2013. 11.
- 51) 小野修一, 竹下俊行^{1, 3)}, 久慈直昭^{2, 3)}, 吉村泰典^{2, 3)} (¹⁾ 日本医科大学産婦人科, ²⁾ 慶應義塾大学産婦人科, ³⁾ 厚生労働科学研究班): 卵巣提供に関する相談例についての実態調査: ART施設に対するアンケート調査結果から. 日本生殖医学会 (第58回), 2013. 11.
- 52) 峯 克也, 市川雅男, 関根仁樹, 小野修一, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 経膈アプローチにより卵巣皮様嚢腫のreduced Port Surgeryは可能となる: 経膈回収パックによるバスタブ法. 日本内視鏡外科学会 (第26回), 2013. 11.
- 53) 小野修一, 明楽重夫, 関根仁樹, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 当院におけるダグラス窩深部子宮内膜症に対する腹腔鏡下手術の系統的アプローチ. 日本生殖医学会 (第58回), 2013. 11.
- 54) 市川雅男, 明楽重夫, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行: 単孔式内視鏡手術の将来次世代型美容的アプローチ: Mimic Laparoscopic surgery. 日本生殖医学会 (第58回), 2013. 11.
- 55) 根岸靖幸¹⁾, 市川智子, 清水真澄¹⁾, 小池恵理¹⁾, 竹下俊行, 高橋秀実¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学微生物学免疫学): 子宮, 脱落膜での低酸素状態は樹状細胞亜分画を変動させる. 日本生殖免疫学会 (第28回), 2013. 11.
- 56) 神戸沙織^{1, 2)}, 石田洋一³⁾, 吉武 洋²⁾, 弓削主哉²⁾, 瀧澤敬美²⁾, 大口昭英³⁾, 齋藤 滋⁴⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (¹⁾ 日本医科大学産婦人科, ²⁾ 日本医科大学分子解剖, ³⁾ 自治医科大学産婦人科, ⁴⁾ 富山大学産婦人科): エクソソームは胎盤特異的マイクロRNAを妊婦末梢血免疫細胞に移行する. 日本生殖免疫学会 (第28回), 2013. 11.
- 57) Kurose K, Kawase R, Ichikawa M, Yoneyama K, Akira S, Kamoi S, Takeshita T: Comparison of laparoscopy and laparotomy for endometrial cancer: A retrospective analysis. The 3rd Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (Kyoto), 2013. 12.
- 58) Yoneyama K, Yamamoto A, Tsunoda Y, Kawase R, Yamada T, Matsui R, Kurose K, Doi D, Kamoi S, Takeshita T: Evaluation of squamous cell carcinoma arising from mature cystic teratoma. The 3rd Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (Kyoto), 2013. 12.
- 59) 松井遼子, 米山剛一, 今道小百合, 可世木華子, 岩崎奈央, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 若年女性に発生した直径20cmの未熟奇形腫の1例. 東京産科婦人科学会 (第368回), 2013. 12.
- 60) 飯田朝子, 峯 克也, 小野修一, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 膈縦中隔に子宮内膜症

- 病変を認めた片側陰閉鎖の1例. 日本エンドメトリオーシス学会 (第35回), 2014. 1.
- 61) 川瀬里衣子, 米山剛一, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 不正出血に難渋した子宮・直腸 adenomyoma の1例. 日本エンドメトリオーシス学会 (第35回), 2014. 1.
- 62) 小野修一, 明楽重夫, 関根仁樹, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: 当院におけるダグラス窩深部子宮内膜症に対する腹腔鏡下手術の系統的アプローチ. 日本エンドメトリオーシス学会 (第35回), 2014. 1.
- 63) 今道小百合, 可世木華子, 渡邊建一郎, 米澤美令, 桑原慶充, 里見操緒, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行: 妊娠・産褥期に免疫吸着療法を施行した全身型重症筋無力症合併妊娠の1例. 東京産婦人科医会 (第27回)・東京産科婦人科学会合同研修会並びに東京産科婦人科学会 (第369回), 2014. 2.
- 64) Kurose K: Comparison of laparoscopy and Laparotomy for endometrial cancer: A retrospective analysis. The 3rd Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (Kyoto), 2013. 12.
- 65) 松井遼子, 米山剛一, 今道小百合, 可世木華子, 岩崎奈史, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: Glial Implantが著名であった卵巣未熟奇形腫の1例. 東京産科婦人科学会 (第368回), 2013. 12.
- 66) 角田陽平, 米山剛一, 山本晃人, 伊藤麻利江, 中西一步, 村川裕子, 永野玲子, 山田 隆, 渡辺美千明: 卵巣チョコレート嚢胞の経過観察中に癌化が顕在化した1例. 関東連合産科婦人科学会 (第125回), 2013. 6.
- 67) 山田 隆, 伊藤麻利江, 加藤雅彦, 中西一步, 村川裕子, 山本晃人, 渡辺美千明, 米山剛一: 抗癌剤投与時の前投薬でアナフィラキシーショックを呈した1症例. 日本婦人科腫瘍学会 (第54回), 2013. 7.
- 68) 山本晃人, 伊藤麻利江, 加藤雅彦, 村川裕子, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一: 診断に苦慮した子宮頸癌合併妊娠の2症例. 日本婦人科腫瘍学会 (第54回), 2013. 7.
- 69) 山本晃人, 山田 隆, 米山剛一, 島津絢美¹⁾, 笹谷昌司¹⁾, 京本晃典¹⁾, 三枝順子¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 小黑辰夫¹⁾, 羽鳥 努¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部): 卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 日本臨床細胞学会春季大会 (第54回), 2013. 5.
- 70) 米山剛一, 山田 隆, 山本晃人, 島津絢美¹⁾, 笹谷昌司¹⁾, 京本晃典¹⁾, 三枝順子¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 小黑辰夫¹⁾, 羽鳥 努¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部): 腫瘍捺印細胞診にて肉腫が疑われた臍部再発子宮腫瘍の1例. 日本臨床細胞学会 (春期大会) (第54回), 2013. 5.
- 71) Takaya A, Wei-Xia P, Sato S, Matsubara M, Kamoi S, Naito Z: A case in which cytology features help the diagnosis of the atypical polypoid adenomyoma. International Congress of Cytology (France), 2013. 5.
- 72) 高屋 茜, 彭 為霞¹⁾, 紺野亜希子¹⁾, 高田英志¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 山本哲志¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 内藤善哉¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学統御機構・腫瘍学): 卵巣癌における膜結合型ムチン及び Her2 の免疫組織化学的検討. 日本病理学会 (第102回), 2013. 6.
- 73) 高屋 茜, 彭 為霞¹⁾, 紺野亜希子¹⁾, 高田英志¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 山本哲志¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 竹下俊行, 内藤善哉¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学統御機構・腫瘍学): 上皮性卵巣癌のホルマリン固定パラフィン包埋組織からの蛋白質プロテオーム解析. 日本癌学会学術総会 (第72回), 2013. 10.
- 74) Mine K, Yonezawa M, Ono S, Abe T, Ichikawa T, Tomiyama R, Nishi Y, Kuwabara Y, Akira S, Takeshita T, Yoshida A¹⁾ ¹⁾ Kiba Park Clinic): Risk factors of recurrent pregnancy loss do not affect in-vitro fertilization success Nippon Medical School Department of Obstetrics and Gynecology. Reduced port surgery forum 9th (London), 2013. 7.
- 75) Mine K, Ono S, Tomiyama R, Kuwabara Y, Akira S, Takeshita T: ANALYSIS OF RISK FACTORS ASSOCIATED WITH ECTOPIC PREGNANCY AFTER ART. ASRM 69th (Boston), 2013. 10.
- 76) 渡邊建一郎, 根本崇宏, 明楽重夫, 芝崎 保, 竹下俊行: 子宮 Urocortin2 の mRNA 発現と組織含量はエストロゲンにより抑制される. 日本生殖内分泌学会 (第18回), 2013. 12.
- 77) Kuwabara Y, Katsumata A¹⁾, Tomiyama R, Ono S, Mine K, Takeshita T ¹⁾ Department of Biochemistry

- and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Gonadotropin surge stimulate ovarian osteopontin expression via epidermal growth factor receptor signaling to enhance corpus luteum function. 69th ASRM Annual Meeting (Boston), 2013. 10.
- 78) Kuwabara Y, Katayama A¹⁾, Tomiyama R, Hu P, Yonezawa M, Hashimoto E, Ono S, Mine K, Akira S, Orimo H¹⁾, Takeshita T (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School.) : Marked upregulation of osteopontin in mouse ovary during periovulatory stages : Involvement in regulation of progesterone-synthesizing system in early corpus luteum phase. 34th ASRI Meeting/ISIR (Boston), 2013. 5.
- 79) 大塚伊佐夫¹⁾, 高矢寿光¹⁾, 末光徳匡¹⁾, 鈴木陽介¹⁾, 松浦拓人¹⁾, 小畑聡一郎¹⁾, 寺岡香里¹⁾, 今井 1¹⁾, 可世木華子, 田中亜由子¹⁾, 古澤嘉明¹⁾, 高矢千夏¹⁾ (¹⁾ 亀田メディカルセンター) : 筋層浸潤 1/2 以内の子宮体部類内膜癌でのリンパ節転移. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 4.
- 80) 田中亜由子, 鈴木 真¹⁾, 小畑聡一郎¹⁾, 末光徳匡¹⁾, 鈴木陽介¹⁾, 松浦拓人¹⁾, 寺岡香里¹⁾, 今井 1¹⁾, 高矢千夏¹⁾, 高矢寿光¹⁾, 可世木華子, 清水幸子¹⁾ (¹⁾ 亀田メディカルセンター) : 経膈超音波断層法による子宮頸管熟化の客観的評価. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 4.
- 81) 松浦拓人¹⁾, 鈴木 真¹⁾, 末光徳匡¹⁾, 鈴木陽介¹⁾, 小畑聡一郎¹⁾, 今井 1¹⁾, 寺岡香里¹⁾, 高矢寿光¹⁾, 可世木華子, 田中亜由子¹⁾, 古澤嘉明¹⁾, 清水幸子¹⁾ (¹⁾ 亀田メディカルセンター) : 分娩後異常出血に対する予防的オキシトシン投与の有効性と投与量に関する検討. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 4.
- 82) 高矢寿光¹⁾, 大塚伊佐夫¹⁾, 末光徳匡¹⁾, 鈴木陽介¹⁾, 松浦拓人¹⁾, 小畑聡一郎¹⁾, 高矢千夏¹⁾, 寺岡香里¹⁾, 今井 1¹⁾, 田中亜由子¹⁾, 可世木華子, 清水幸子¹⁾ : 当院での卵巣癌・卵管癌・原発性腹膜癌 III / IV 期における術前化学療法施行例についての検討. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 4.
- 83) 可世木華子, 鈴木 真¹⁾, 末光徳匡¹⁾, 鈴木陽介¹⁾, 小畑聡一郎¹⁾, 松浦拓人¹⁾, 今井 1¹⁾, 高矢千夏¹⁾, 寺岡香里¹⁾, 高矢寿光¹⁾, 田中亜由子¹⁾, 古澤嘉明¹⁾, 清水幸子¹⁾, 亀田省吾¹⁾ (¹⁾ 亀田メディカルセンター) : 術後創部感染症の発症リスク因子 : 選択的帝王切開術. 日本産科婦人科学会 (第 65 回), 2013. 4.
- 84) 可世木華子, 明楽重夫, 倉品隆平, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 里見操緒, 竹下俊行 : 妊娠中の腹腔鏡下手術は安全か : 卵巣嚢腫手術における検討. 日本産婦人科手術学会 (第 36 回), 2013. 9.
- 85) 佐藤杏月, 糸井博美, 中村裕司¹⁾, 許田典男¹⁾, 松島 隆, 土居大祐, 北山康彦²⁾, 朝倉啓文, 竹下俊行 (¹⁾ 福山臨床検査センター, ²⁾ 日本医大統御機構・腫瘍学, ³⁾ 武蔵小杉病院病理部) : 子宮頸部コンジローマ様癌 (condylomatous carcinoma) の 1 例. 日本臨床細胞学会, 2013. 10.
- 86) 関根仁樹, 里見操緒, 齋藤桃子, 新村裕樹, 米澤美令, 大内 望, 五十嵐美和, 桑原慶充, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行 : PRES (posterior reversible encephalopathy syndrome) を呈した 3 症例. 関東連合産科婦人科学会 (第 126 回), 2013. 8.
- 87) 飯田朝子, 明楽重夫, 池田真利子, 田村俊之, 小野修一, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行 : 腹腔鏡手術トレーニングシステムの有効性 専攻医・研修医が短期研修で執刀医レベルに達する事は可能か?. 関東連合産科婦人科学会 (第 126 回), 2013. 8.
- 88) 米澤美令, 里見操緒, 新村裕樹, 大内 望, 五十嵐美和, 桑原慶充, 澤倫太郎, 磯崎太一, 明楽重夫, 竹下俊行 : ヘパリンカルシウムにアレルギーを呈した血栓性素因合併妊娠の 2 症例. 関東連合産科婦人科学会 (第 125 回), 2013. 5.
- 89) 瀧澤俊広^{1,2)}, 岩城 隼^{1,3)}, 吉武 洋^{1,2)}, 石川朋子^{1,2)}, 瀧澤敬美^{1,2)}, 三嶋拓也^{1,3)}, 程久美子^{1,4)}, 竹下俊行¹⁾, 松原茂樹^{2,2)} (¹⁾ 日本医科大学分子解剖, ²⁾ 自治医科大学産婦人科) : 胎盤血管内皮細胞において RAB3 は IgG 輸送体である IIb 型 Fc 受容体を含む小胞の輸送能を調節している. 日本生殖免疫学会 (第 28 回), 2013. 11.
- 90) 三宅弘一¹⁾, 藤倉輝道²⁾, 渡辺 淳²⁾, 平井幸彦²⁾, 飯島 修²⁾, 山崎吉之²⁾, 三宅紀子²⁾, 山本基子²⁾, 竹下俊行, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学生化学・分子生物学, ²⁾ 日本医科大学教育推進室) : PBL チュートリアル型基

礎医学学生実習の導入 (第2報). 日本医学教育学会 (第45回), 2013. 7.

- 91) 藤倉輝道¹⁾, 三宅弘一²⁾, 明楽重夫, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医科大学教育推進室, ²⁾ 日本医科大学生化学・分子生物学) : 日本医科大学における TBL (第2報). 日本医学教育学会 (第45回), 2013. 7.
- 92) 関口敦子, 川端伊久乃, 林 昌子, 奥田直貴, 印出佑介, 橋本恵理子, 山岸絵美, 桑原慶充, 石川 源, 中井章人, 竹下俊行 : 全前置胎盤における早産のリスク因子. 日本周産期・新生児医学会 (第49回), 2013. 6.
- 93) 花岡正智¹⁾, 山口 暁¹⁾, 山口 稔¹⁾, 横田重明¹⁾, 都甲明子¹⁾, 永野玲子¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 成和会山口病院) : 当施設における連続胎児心拍数モニタリングの実際. 日本周産期・新生児医学会 (第49回), 2013. 6.
- 94) 渡辺美千明, 中西一步, 山田 隆, 村川裕子, 米山剛一, 市川雅男, 峯 克也, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行 : 妊孕性の改善をめざした腹腔鏡補助下子宮筋筋症切除術 (LAAM, Laparoscopically-assisted adenomyomectomy). 産婦人科手術学会 (第 回), 2013. 5.
- 95) Wei-Xia P, Peng, T, Teduka K, Kurose K, Yoneyama K, Naito Z : Gastric type adenocarcinoma in a patient with Peutz Jeghers syndrome. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 21th) (Thailand), 2014. 1.
- 96) 川瀬里衣子, 米山剛一, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行 : 不正出血に難渋した子宮・直腸 adenomyoma の1例. 日本エンドメトリオーシス学会 (第35回), 2014. 1.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Fukami T, Asakura H, Takeshita T : leukoencephalopathy syndrome due to eclampsia in a woman with a twin pregnancy produced with donated oocytes. J Nippon Med Sch. 2013 ; 80 (3) : 230-233.
- 2) Ichikawa M, Akira S, Hamano, Ono S, Mine K, Takeshita T : Mimic mini-laparoscopic surgery is a simple and secure approach using direct placement of 3-mm trocars without noticeable scars. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 78-82.
- 3) Sekiguchi A, Okuda N, Kawabata I, Nakai A, Takeshita T : Ultrasound detection of lacunae-like image of a cesarean scar pregnancy in the first trimester. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 70-73.
- 4) Fujikura T, Takeshita T, Homma H, Adachi K, Miyake K, Kudo M, Takizawa T, Nagayama H, Hirakawa K : Team-based learning using an audience response system : a possible new strategy for interactive medical education. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 63-69.
- 5) Tateyama N, Asakura H, Takeshita T : Correlation between an absence of cervical gland area on transvaginal sonography and cervical mucus hyaluronic acid levels in women with threatened preterm delivery. J Perinat Med. 2013 ; 41 (2) : 151-157.
- 6) 池田真利子, 明楽重夫, 小野修一, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行 : 当科低侵襲手術チーム : Team MIS (Minimally Invasive Surgery) における腹腔鏡手術研修システムについて. 東京産科婦人科学会誌 2013 ; 62 (1) : 12-16.
- 7) 瀧澤俊広¹⁾, 大口昭英²⁾, 松原茂樹²⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大分子解剖学, ²⁾ 自治医科大学産婦人科) : microRNA 解析から見出された妊娠高血圧腎症の新規予知因子. 日本産婦人科・新生児血液学会誌 2013 ; 22 (2) : 63-68.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 進藤恵美¹⁾, 岡田 進¹⁾, 中條秀信¹⁾, 古川一博¹⁾, 櫻村剛司¹⁾, 森田布季子¹⁾, 米山剛一, 羽鳥 努²⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 放射線科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部) : 皮様囊腫の悪性転化を来

した興味深い所見を呈する3例. 日本画像医学会 (第32回), 2013. 2.

- 2) 森田布季子¹⁾, 岡田 進¹⁾, 櫻村剛司¹⁾, 古川一博¹⁾, 中條秀信¹⁾, 貝津俊英¹⁾, 木島鉄仁¹⁾, 川俣博志¹⁾, 井内亜美¹⁾, 米山剛一 (1) 日本医科大学千葉北総病院 放射線科) : 卵巣原発腺肉腫の1例. 日本画像医学会 (第32回), 2013. 2.

追加分特別講演 :

- 1) 澤倫太郎 : 医療紛争と刑事事件. 岡山四水会 (第312回), 2013. 2.

[武蔵小杉病院女性診療科・産科]

研究概要

本教室では周産期領域を中心とした臨床的研究を行っている。1) 従来から継続している子宮頸管腺領域像と妊娠後の関連について：切迫早産例を対象とした頸管腺領域像消失所見とヒアルロン酸および妊娠後との関連について新たな知見を得ることができた。2) 経陰超音波により内子宮口付近の羊水中に観察される sludge に注目した。この sludge と流早産のリスクの上昇について報告した。3) 近年増加傾向にある痩せ妊婦と FGR との関連について：特に痩せ妊婦が妊娠中に体重増加不良の場合 FGR のリスクが高いことを報告した。4) 帝王切開術後の子宮癒痕部菲薄化を予防するための新しい術中の試みを実施中で良好な成果が集積されつつある。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Yoneyama K¹⁾, Konishi H²⁾, Yahata T³⁾, Fujita K³⁾, Aoki Y⁴⁾, Doi D⁵⁾, Matsushima T⁵⁾, Kodama S⁶⁾, Honma S⁶⁾, Kato H⁷⁾, Nakayama H⁷⁾, Kamoi S⁸⁾, Asakura H⁵⁾, Takeshita T¹⁾, Tanaka K³⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Kato Women's Clinic, 3) Division of Obstetrics and Gynecology, Graduate School of Medical and Dental Sciences Niigata University, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Graduate School of Medical Science, University of the Ryukyus, 5) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 6) Division of Gynecology, Niigata Prefectural Cancer Center Hospital, 7) Department of Obstetrics and Gynecology, Kanagawa Cancer Center Hospital, 8) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : A phase II Study of Paclitaxel and Carboplatin with a Bi-weekly Schedule in Patients with Epithelial Ovarian Cancer : Gynecologic Cancer Network Trial. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 (1) : 28-34.
- 2) 土佐真美子¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 村上正洋¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科) : 手術後癒痕と産婦人科一目立つ癒痕と目立たない癒痕. 産婦人科実際 2013 ; 62 (4) : 521-526.
- 3) 土佐真美子¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 村上正洋¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科) : 産婦人科手術後に生じる肥厚性癒痕とケロイド. 産婦人科実際 2013 ; 62 (11) : 1410-1414.
- 4) 土佐真美子¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 村上正洋¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科) : 産婦人科・ケロイド発生子防を目的とした手術後癒痕ケア外来の実際とその成果について. 産婦人科実際 2013 ; 62 (10) : 1399-1403.
- 5) 佐々木康¹⁾, 土居大祐¹⁾, 林 康子¹⁾, 宮城悦子¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 平原史樹¹⁾, 東條龍太郎¹⁾ (1) 神奈川県産科婦人科医会悪性腫瘍対策部) : 絨毛性疾患取扱い規約第3版改訂のポイントと新しい症例登録様式について. 神奈川産科婦人科学会誌 2014 ; 50 (2) : 47-50.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 深見武彦, 西田直子, 立山尚子, 松村好克, 山口道子, 間瀬有里, 野口 唯, 中尾仁彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文：妊娠 14-24 週の切迫流早産における Amniotic Fluid Sludge の臨床的意義. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 65 回), 2013. 5.
- 2) 山口道子, 稲垣知子, 野口 唯, 柿栖睦実, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行：分娩迄の子宮頸管硬度変化による子宮頸管腺領域のエコー輝度の変化. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 65 回), 2013. 5.
- 3) 柿栖睦実, 関口敦子, 川端伊久乃, 西田直子, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行：HELLP 症候群に合併する子癩は HELLP 症候群の重症度と関係する？. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 65 回), 2013. 5.
- 4) 土居大祐, 稲垣知子, 中尾仁彦, 野口 唯, 糸井博美, 柿栖睦実, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行：悪性腫瘍の既往のある妊婦に関する検討. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 65 回), 2013. 5.
- 5) Inagaki T, Nishida N, Doi D, Matsushima T, Fukami T, Kakisu M, Itoi H, Noguchi Y, Nakao K, Asakura H, Takeshita T : Repeat Stillbirth Caused by Pregnancy Complicated with Primary Aldosteronism. 日本産科婦人科学会学術講演会 (65 回), 2013. 5.
- 6) 福永ヒトミ¹⁾, 望月瑠美¹⁾, 金子佳代¹⁾, 糸井博美²⁾, 八木 孝³⁾, 中島敏晶³⁾, 南 史朗³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院内分泌・糖尿病・動脈硬化)：新診断基準による妊婦糖尿病患者を対象とした療養指導外来の有用性. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回), 2013. 5.
- 7) 柿栖睦実, 稲垣知子, 中尾仁彦, 野口 唯, 糸井博美, 間瀬有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文：抗菌薬投与が有効であった重症淋菌性腹膜炎の 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 125 回), 2013. 6.
- 8) 糸井博美, 土居大祐, 稲垣知子, 柿栖睦実, 佐藤杏月, 間瀬有里, 山口道子, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文：無月経を契機に発見された Sertoli-Leydig 細胞腫瘍の 1 例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会 (第 402 回), 2013. 7.
- 9) 糸井博美, 柿栖睦実, 間瀬有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行：やせ妊婦と胎児発育との関係 (当院における実態). 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2013. 7.
- 10) 深見武彦, 柿栖睦実, 糸井博美, 西田直子, 立山尚子, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行：絨毛膜下血腫発症の後に Amniotic fluid sludge を認め流早産に至った 2 症例. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 (第 49 回), 2013. 7.
- 11) 柿栖睦実, 佐藤杏月, 山口道子, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文：卵巣癌肉腫の 2 症例. 特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 54 回), 2013. 7.
- 12) 佐藤杏月, 柿栖睦実, 稲垣知子, 山口道子, 間瀬有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 朝倉啓文：妊娠 25 週で発症した胎児母体間輸血症候群の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回), 2013. 9.
- 13) 田村俊之, 糸井博美, 稲垣知子, 柿栖睦実, 佐藤杏月, 山口道子, 間瀬有里, 松村好克, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文：当院におけるやせ妊婦と胎児発育に関する実態調査. 神奈川産科婦人科学会学術講演会 (第 403 回), 2013. 9.
- 14) 稲垣知子, 西田直子, 土居大祐, 松島 隆, 深見武彦, 柿栖睦実, 糸井博美, 野口 唯, 中尾仁彦, 朝倉啓文, 竹下俊行：死産を繰り返した副腎皮質過形成による原発性アルドステロン症合併妊娠の 1 例. 日本妊娠高血圧学会 (第 34 回), 2013. 10.
- 15) 稲垣知子¹⁾, 立山尚子¹⁾, 糸井博美¹⁾, 間瀬有里¹⁾, 山口道子¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 柿栖睦実¹⁾, 松村好克²⁾, 西田直

- 子¹⁾, 松島 隆¹⁾, 土居大祐¹⁾, 朝倉啓文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児科) : エルシニア腸炎を併発し治療に苦慮した高血圧・糖尿病合併妊娠の1例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第126回), 2013. 10.
- 16) 佐藤杏月¹⁾, 糸井博美¹⁾, 中村裕司²⁾, 許田典男²⁾, 松島 隆¹⁾, 土居大祐¹⁾, 北山康彦²⁾, 朝倉啓文¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院産婦人科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部) : 子宮頸部コンジローマ様癌 (condylomatous carcinoma) の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第52回), 2013. 11.
- 17) 深見武彦, 西田直子, 立山尚子, 山口道子, 間瀬有里, 田村俊之, 稲垣知子, 柿栖睦実, 佐藤杏月, 朝倉啓文 : 子宮頸部円錐切除既往妊婦の頸管長と早産の関連. 日本早産予防研究会学術集会 (第7回), 2013. 11.
- 18) Yoneyama K¹⁾, Yamamoto A²⁾, Tsunoda Y²⁾, Kawase R¹⁾, Yamada T¹⁾, Matsui R²⁾, Kurose K¹⁾, Doi D¹⁾, Kamoi S³⁾, Takeshita T⁴⁾ (¹⁾ Senior Assistant Professor Japan, ²⁾ Assistant Professor, ³⁾ Clinical Professor, ⁴⁾ Professor) : Evaluation of squamous cell carcinoma arising from mature cystic teratoma. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第55回)・アジア婦人科腫瘍学会 (第3回), 2013. 12.
- 19) 福永ヒトミ¹⁾, 望月瑠美¹⁾, 金子佳代¹⁾, 島田博美²⁾, 八木 孝³⁾, 中島敏晶³⁾, 南 史朗³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ³⁾ 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科) : 新診断基準による妊婦糖尿病患者を対象とした看護外来を実施して. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第56回), 2013. 5.
- 20) 針金幸代, 西田直子, 立山尚子, 稲垣知子, 田村俊之, 佐藤杏月, 川端英恵, 柿栖睦実, 山口道子, 間瀬有里, 川端伊久乃, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文 : イレウス管留置にて管理した腸閉塞合併妊娠の1例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会 (第405回), 2014. 3.
- 21) 中尾仁彦, 松島 隆, 稲垣知子, 山口道子, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文 : 見かけ上突出率の変化する粘膜炎筋腫の2例. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第53回), 2013. 9.
- 22) 杉浦 賢¹⁾, 土居大祐¹⁾, 林 康子¹⁾, 宮城悦子¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 東條龍太郎¹⁾ (¹⁾ 神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍対策部) : 平成24年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 神奈川産科婦人科学会学術講演会 (第402回), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) 柿栖睦実, 関口敦子, 川端伊久乃, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行 : HELLP 症候群の重症度と子癩発症の関連性. 日本妊娠高血圧学会誌 2012 ; 20 (12) : 7-12.

[多摩永山病院女性診療科・産科]

研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。(1) 妊婦とスポーツ : 妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的及び精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では, 活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラ, 脈波伝導速度を用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能評価をはじめ, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響・予後を広範囲に調査している。産褥期の子宮復古, 母乳栄養確立母胎の睡眠障害や妊娠中のマイナートラブルに与える影響などについて, 興味深い成績をあげている。(2) 周産期領域 : 臨床面では, 妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育不全に対し, 超音波断層法・生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層法による母体腎・肝臓の観察では新たな視点から, 妊娠高血圧症候群, 胎児心拍数回の解析に対し有益なデータが集積しつつある。切迫早産に腔内洗浄治療・黄体ホルモン投与などの治療を行い早産の予防効果を上げ

ている。また、胎児・新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い、脳内エネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 印出佑介, 川端英恵, 浜野愛理, 山岸絵美, 桑原知仁, 橋本恵理子, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 石川源, 関口敦子, 中井章人：胎盤位置異常を認める母体の第2三半期の死産の管理. 東京産婦会誌 2013；62 (2)：189-194.
- 2) Sekiguchi A¹⁾, Nakai A¹⁾, Kawabata I¹⁾, Hayashi M¹⁾, Takeshita T¹⁾ (1) Department of obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan)：Type and Location of Placenta Previa Affect Preterm Delivery Risk Related to Antepartum Hemorrhage. International Journal of Medical Sciences 2013 2013；12 (10)：1683-1688.
- 3) Saito S¹⁾, Minakami H²⁾, Nakai A³⁾, Unno N⁶⁾, Kubo T⁴⁾, Yoshimura Y⁵⁾ (1) From the department of obstetrics and Gynecology, University of Toyama, Toyama, 2) The Department of obstetrics, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, 3) The Department of obstetrics and Gynecology, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 4) The division of obstetrics, Department of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine, National Center for Child Health and Development, 5) The Department of obstetrics and Gynecology, Keio University Tokyo, 6) The Department of obstetrics and Gynecology Kitasato University Kanagawa Japan, 7) Four the Evaluation committee on the outcomes of Infants Exposed to Antiviral Drugs in Utero (Drs. Saito, Minakami, Nakai, Unno, and Kubo)：Outcomes of infants exposed to oseltamivir or zanamivir in utero during pandemic (H1N1) 2009. AJOG (American Journal of obstetrics & Gynecology 2013；209 (130)：e1-e9.
- 4) Nakai A¹⁾, Saito S⁴⁾, Unno N²⁾, Kubo T³⁾, Minakami H⁵⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Kitasato University, 3) Department of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine, National Center for Child Health and Development, Tokyo, 4) Department of Obstetrics and Gynecology University of Toyama, 5) Department of Obstetrics, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan)：Review of the pandemic (H1N1) 2009 among pregnant Japanese women. J. Obstet. Gynecol. Res (Journal of obstetrics and Gynecology Research) 2013；38 (5)：757-762.
- 5) Matsuda Y¹⁾, Umezaki H¹⁾, Ogawa M²⁾, Ohwada M¹⁾, Satoh S³⁾, Nakai A⁴⁾ (1) Department of obstetrics and Gynecology, International University of Health and Welfare Hospital, 2) Department of obstetrics and Gynecology, Tokyo Women's Medical University, 3) Maternal and perinatal care center, Oita Prefectural Hospital, 4) Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School)：Umbilical arterial pH in patients with cerebral palsy. Early Human Development 2014；90 (1)：131-135.
- 6) Hayakawa M¹⁾, Ito Y²⁾, Saito S⁶⁾, Mitsuda N⁷⁾, Hosono S³⁾, Yoda H⁴⁾, Cho K⁸⁾, Otsuki K⁹⁾, Ibara S^{1,0)}, Terui K^{1,1)}, Masumoto K^{1,2)}, Murakoshi T^{1,3)}, Nakai A⁵⁾, Tanaka M^{1,4)}, Nakamura T^{1,5)}, et al. (1) Division of Neonatology, Center for Maternal-Neonatal care, Nagoya Uverskty Hospital, Nagoya, 2) Division of Neonatology, Center for Maternal-Fetal and Neonatal Medicine, National Center for Child Health and Development, 3) Department of Pediatrics and Child Health, School of medicine, Nihon University, 4) Department of Neonatology Toho University Omori Medical Center, 5) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon medical School Tama Nagayama Hospital, Tokyo, 6) Department of Obstetrics and Gynecology, University of Toyama, Toyama, 7) Department of Obstetrics Osaka Medical Center and Reserch Institute for Maternal and

Child Health,Izumi, ⁸⁾ Maternity and Perinatal Center Hokkaido University Hospital,Sapporo, ⁹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology Showa University Yokohama Northern Hospital Yokohama, ¹⁰⁾ Department of Neonatology,Perinatal Medical Center,Kagoshima City Hospital Kagoshima) : Incidence and prediction of outcome in hypoxic-ischemic encephalopathy in Japan. *Pediatrics International* 2014 ; 56 (1) : 1-7.

- 7) Yamada T¹⁾, Kubo T²⁾, Mochizuki J³⁾, Hashimoto E⁴⁾, Ohkuchi A⁵⁾, Ito M⁶⁾, Hanaoka M⁷⁾, Nakai A⁸⁾, Saito S⁹⁾, Unno N^{1,0)}, Matsubara S^{1,1)}, Minakami H^{1,2)} (¹⁾ Department of obstetrics Hokkaido University Graduate School of Medicine,N15W7,Kita-ku Sapporo 060-8638 Japan, ²⁾ Department of Maternal-Fetal and Neonatal Maternal-Fetal and Neonatal Medicine,National Center for child Health,Japan, ³⁾ Department of obstetrics and Gynecology,School of Medicine,Kitasato University,Japan, ⁴⁾ Department of obstetrics and Gynecology,Nippon Medical School,Japan, ⁵⁾ Department of obstetric and Gynecology,Jichi Medical University School of Medicine,Japan, ⁶⁾ Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Science,University of Toyama,Japan, ⁷⁾ Department of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine,National Center For Child Health,Japan, ⁸⁾ Department of obstetrics and Gynecology,Nippon Medical School,Japan, ⁹⁾ Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Science,University of Toyama,Japan, ¹⁰⁾ Department of obstetrics and Gynecology School of Medicine,Kitasato University,Japan) : Immune status among Japanese during nationwide rubella outbreak in Japan 2012-2013. *J.Infection* 2014 ; 68 (1) : 300-302.
- 8) Suzuki S, Tanaga M, Matsuda H, Tsukahara Y, Kuribayashi Y, Gomibuchi H, Miyazaki R, Kamiya N, Nakai A, Kinoshita K : Current status of HTLV-1 carrier in Japanese pregnant women. *J Matern Fetal Neonatal Med* 2014 ; 27 (3) : 312-313.
- 9) Suzuki S, Tanaka M, Matsuda H, Tsukahara Y, Kuribayashi Y, Gomibuchi H, Miyazaki R, Kamiya N, Nakai A, Kinoshita K : Instruction of feeding methods to Japanese pregnant women who cannot be confirmed as HTLV-1 carrier by western blot test. *J Matern Fetal Neonatal Med* 2013.

(2) 総説 :

- 1) 中井章人 : 早剥の管理 - 搬送のタイミング・搬送の問題点 ; 常位胎盤早期剥離の病態と管理 ; 特集. *周産期医学* 2013 ; 43 (4) : 506-510.
- 2) 関口敦子, 中井章人 : 前置胎盤での警告出血 ; 2. 周産期救急の初期対応 ; III. 産科編 ; 慌てないための虎の巻 ; 産婦人科当直医マニュアル. *臨床婦人科産科* 2013 ; 67 (4・増刊) : 146-149.
- 3) 林 昌子, 中井章人 : 常位胎盤早期剥離 ; 周産期救急の初期対応 ; III. 産科編 ; 慌てないための虎の巻 ; 産婦人科当直医マニュアル. *臨床婦人科産科* 2013 ; 67 (4・増刊) : 150-154.
- 4) 桑原慶充, 中井章人 : 若年妊娠における妊婦健診・分娩時の留意点 ; 若年妊娠 ; 高年妊娠・若年妊娠 ; 特集. *周産期医学* 2013 ; 43 (7) : 895-898.
- 5) 滝澤俊広¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 石川 源²⁾, 竹下俊行²⁾, 松原茂樹³⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院分子解剖学, ²⁾ 日本医科大学女性生殖発達病態学, ³⁾ 自治医科大学産婦人科学) : 胎盤の構造と機能 ; 胎盤 - 生理から病態へ - ; 特集. *産婦人科の実際* 2013 ; 62 (8) : 1025-1031.
- 6) 石川 源, 中井章人 : 諸外国の状況 ; 脳性麻痺の原因と動向 ; 脳性麻痺 - 発症防止への挑戦 ; 今月の臨床. *臨床婦人科産科* 2013 ; 67 (9) : 883-889.
- 7) 中井章人 : ②弛緩出血と DIC - 輸液・輸血・血液製剤の使い方 ; (2) 妊産婦のショックの病態と対策 ; 2. 症例から学ぶシリーズ - 妊産婦救急疾患の管理 - ; 日本産婦人科医会共同プログラム ; 日本産科婦人科学会研修コーナー. *日産婦誌* 2013 ; 65 (10) : N-254-N-257.
- 8) 林 昌子, 中井章人 : 不妊症の背景 ; 利用の実例 ; データベース ; 産科編 ; 臨床研究の成果を実施臨床へ生かそう ; 特集. *周産期医学* 2013 ; 43 (10) : 1241-1246.
- 9) 関口敦子 : A. 妊娠初期 4. 子宮外妊娠 ; 1. 超音波診断 ; 母体・胎児編. *周産期医学* 2013 ; 43 (増刊) : 78-82.

- 10) 川端伊久乃, 中井章人: 39 子宮頸管長; I. 子宮頸部; 1. 超音波診断; 母体・胎児編. 周産期医学 2013; 43 (増刊): 268-274.
 - 11) 中井章人: 地域で取り組む虐待への対応; 妊娠中からの対応; 特集: 周産期医療と虐待. 周産期医学 2014; 44 (1): 43-56.
 - 12) 川端伊久乃, 中井章人: 10: 黄体ホルモンによる早産予防; 特集: 新たな早産予防戦略. 産科と婦人科 2014; 81 (1): 59-63.
 - 13) 林 昌子, 中井章人: 11: ウリナスタチンによる早産予防; 特集: 新たな早産予防戦略. 産科と婦人科 2014; 81 (1): 65-69.
 - 14) 林 昌子, 中井章人: ART 妊娠; 温故知新 産科編; 特集 管理法はどう変わったか?. 周産期医学 2014; 44 (3): 293-298.
- (3) 症例報告:
- 1) 新村裕樹, 山岸絵美, 齋藤桃子, 川端英恵, 橋本恵理子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 石川源, 関口敦子, 中井章人: 正常血圧で突然発症した分娩子癇の 1 例. 東京産婦会誌 2014; 63 (1): 73-77.

著 書

- 1) 中井章人: [分担] 早産 (切迫流産・切迫早産を含む); 産婦人科疾患. 今日の治療指針 私はこう治療している 56 巻 (山口徹 北原光男監修 福井次矢, 高木誠 小室一成総編集), 2014; pp1187-1188, 医学書院.

学会発表

- (1) 特別講演:
 - 1) 中井章人: ②弛緩出血と DIC- 輸液・輸血・血液製剤の使い方; 2) 妊産婦のショックの病態と対策; 2. 症例から学ぶシリーズ- 妊産婦救急疾患の管理 -; 日本産婦人科医会共同プログラム. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会 (第 65 回) (札幌市), 2013. 5.
 - 2) 中井章人: 東京都の救急搬送ルールと常位胎盤早期剥離について. 世田谷区・玉川産婦人科医会 合同学術講演会 (東京都), 2013. 5.
 - 3) 中井章人: 常位胎盤早期剥離 UPDATE. 水戸周産期懇話会 (第 29 回) (茨城県), 2013. 5.
 - 4) 中井章人: 産婦人科医師の地域偏在. 公益社団法人日本産婦人科医会 記者懇談会 (第 65 回) (東京), 2013. 5.
 - 5) 中井章人: CTG-UP-DATE 日本産婦人科学会新定義. 座間・綾瀬・海老名産婦人科医会講演会 (神奈川県), 2013. 5.
 - 6) 中井章人: 常位胎盤 UPDATE. 葛飾区産婦人科医会講演会 (東京都), 2013. 10.
 - 7) 中井章人: 産婦人科勤務医の待遇改善と女性医師の就労環境に関するアンケート報告 2013 年 (速報). 日本産婦人科医会学術集会 宮城県大会 (第 40 回) (宮城県仙台市), 2013. 10.
 - 8) 中井章人: 報告書からみた傾向と対策; 産科医療補償制度原因分析; 脳性麻痺を防ぐ. 南多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会 (第 5 回) および多摩産婦人科病診懇話会 (第 43 回) (東京都多摩市), 2013. 10.
 - 9) 中井章人: 胎児のモニタリング. 筑波大学「地域と大学の連携による周産期医療人材育成事業」小児・周産期専門教育分野 教育セミナー 58 (茨城県), 2013. 10.
 - 10) 中井章人: 東京都周産期搬送ルール「胎児救急搬送」と常位胎盤早期剥離. 平成 25 年度 東京都周産期医療ネットワークグループ事業地域連携会議 (サブグループ会議) (東京都), 2013. 11.
 - 11) 中井章人: 「常位胎盤早期剥離 UPDATE」. 第 1 回 日立アロカ周産期勉強会 (長崎県), 2013. 11.
 - 12) 中井章人: CTG2013 年 UPDATE- 産科医療補償制度原因分析で問題になった事例を中心に. 熊本赤十字病院産婦人科カンファレンス 15/Nov/2013 (熊本県), 2013. 11.

- 13) 中井章人：脳性麻痺を防ぐ：産科医療補償制度原因分析報告書からみた傾向と対策。東京慈恵会医科大学産婦人科集談会（東京都），2014. 1.
 - 14) 中井章人：産科医療補償制度原因分析報告書からみた傾向と対策；「脳性麻痺を防ぐ」。産科中小施設研究会（第27回），2014. 2.
 - 15) 中井章人：産科医療補償制度原因分析報告書からみた傾向と対策；「脳性麻痺を防ぐ」。平成25年度 福岡県産婦人科医会臨時研修会（福岡市），2014. 2.
 - 16) 中井章人：救急疾患を未然に防ぐ：妊娠中期の超音波スクリーニング。南多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会（第6回）および多摩産婦人科病診連携懇話会（第44回）（東京都），2014. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 中井章人：産科医療補償制度原因分析で問題になったCTG。分娩監視研究会（第42回）（埼玉県川越市），2013. 10.
 - 2) 中井章人：「妊娠中期・後期の救急疾患」。平成25年度 福岡県産婦人科医会 役員会 ミニレクチャー（福岡市），2014. 2.
- (3) シンポジウム：
- 1) 中井章人：V. 男性管理職からの提言；（男女共同参画における地域格差の解消（国として，学会として，病院として，産婦人科医を増員し，男女産婦人科医が働きやすい環境を整備し，モチベーションを上げるための施策を作りあげる取り組み）。公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第65回）（札幌市），2013. 5.
 - 2) 林 昌子¹⁾，松田義雄²⁾，佐藤昌司³⁾，中井章人¹⁾（¹⁾ 日本医科大学，²⁾ 国際医療福祉大学病院周産期センター，³⁾ 大分県立病院総合周産期母子医療センター）：生殖補助医療と周産期・小児医療（周産期登録データベースからみた生殖補助医療と現状とリスク）。日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第49回）（神奈川県横浜市），2013. 7.
 - 3) 中井章人：産婦人科勤務医師の現状と女性医師支援。女性医師支援シンポジウム・ふくしま女性医師支援ネットワーク研修会2013 in 県北・相馬（第4回）（福島県），2013. 7.
 - 4) 中井章人：再発防止と産科医療の質の向上にむけて それぞれの立場から；産科医療補償制度 再発防止委員会からの報告。日本母性衛生学会総会学術集会（第54回），2013. 10.
- (4) セミナー：
- 1) 中井章人：胎児心拍数モニタリングの判読ポイント；胎児心拍数モニタリング2013。TOG2013年ナースセミナー（東京都），2013. 4.
 - 2) 中井章人：常位胎盤早期剥離 UPDATE- 東京都胎児救急搬送システムー；（周産期セミナー）。東京産科婦人科学会例会（第366回）（東京都），2013. 5.
 - 3) 中井章人：CTG用語・定義の改定2013。水戸周産期懇話会（第29回）（茨城県），2013. 5.
 - 4) 中井章人：脳性麻痺と常位胎盤早期剥離；産科医師の現状と課題。バイエル薬品株式会社社内研修会（東京都），2013. 6.
 - 5) 中井章人：東京都の救急搬送ルールと常位胎盤早期剥離について。バイエル薬品株式会社社内研修会（東京都），2013. 6.
 - 6) 中井章人：c. 常位胎盤早期剥離；b. 前置胎盤；a. 早産；【I】 妊娠中期・後期の救急疾患。産婦人科 ME セミナー（第32回）（東京都），2014. 2.
- (5) ワークショップ：
- 1) 川端伊久乃¹⁾（¹⁾ 早産研究会 日本医科大学産婦人科）：中止基準/rescue arm の設定とその対応；周産期領域におけるわが国初の大規模研究から何を学んだか？。日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第49回）（神奈川県横浜市），2013. 7.

(6) 一般講演：

- 1) 柗栖睦美¹⁾, 関口敦子¹⁾, 川端伊久乃¹⁾, 西田直子¹⁾, 中井章人¹⁾, 朝倉啓文¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医大) : HELLP 症候群に合併する子癩はHELLP 症候群の重症度と関係する? . 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会 (第 65 回) (札幌市), 2013. 5.
- 2) 桑原慶充¹⁾, 富山僚子¹⁾, 米澤美令¹⁾, 小野修一¹⁾, 橋本恵理子¹⁾, 峯 克也¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医大) : マウス周排卵期卵巣におけるオステオポンチンの発言調節および機能解析. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会 (第 65 回) (札幌市), 2013. 5.
- 3) 林 昌子¹⁾, 松田義雄²⁾, 佐藤昌司³⁾, 中井章人¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医大, 2) 東京女子医大, 3) 大分県立病院) : 生殖補助医療は周産期予後を悪化させない. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会 (第 65 回) (札幌市), 2013. 5.
- 4) 川端伊久乃, 寺田佳世子, 川端英恵, 山岸絵美, 橋本恵理子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人, 竹下俊行 : 切迫早産症例においての流早産既往は早産率に影響を与えるか? . 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会 (第 65 回) (札幌市), 2013. 5.
- 5) 関口敦子, 川端伊久乃, 奥田直貴, 林 昌子, 印出佑介, 橋本恵理子, 桑原仁仁, 山岸絵美, 石川 源, 中井章人, 竹下俊行 : 前壁付着の全前置胎盤は後壁付着に比べ早産リスクが高い. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会 (第 65 回) (札幌市), 2013. 5.
- 6) 川端英恵, 印出佑介, 浜野愛理, 山岸絵美, 橋本恵理子, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 桑原慶充, 石川源, 関口敦子, 中井章人 : 妊娠 38 週で上腹部痛・肝機能異常を呈し帝王切開術後に急性胆嚢炎と診断し得た 1 例. 東京産科婦人科学会例会 (第 366 回) (東京都), 2013. 5.
- 7) 川端英恵, 印出佑介, 浜野愛理, 山岸絵美, 橋本恵理子, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 桑原慶充, 石川源, 関口敦子, 中井章人 : 妊娠 38 週で上腹部痛・肝機能以上を呈し帝王切開術後に急性胆嚢炎と診断し得た 1 例. 東京産科婦人科学会例会 (東京都), 2013. 5.
- 8) 寺田佳世子, 黒瀬圭輔, 池田真利子, 田村俊之, 川瀬里衣子, 鴨井青龍, 竹下俊行 : 心タンポナーデを契機に診断に至った子宮頸癌の 1 例. 東京産科婦人科学会例会 (東京都), 2013. 5.
- 9) 印出佑介 : 日本医科大学多摩永山病院における GDM の管理方法と治療成績. 日医聖マ周産期勉強会 (神奈川県), 2013. 5.
- 10) 山岸絵美, 関口敦子, 川端英恵, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 石川 源, 中井章人 : 骨盤内腫瘤を契機にリンパ脈管筋腫症の診断に至った 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 125 回) (東京都), 2013. 6.
- 11) 米澤美令¹⁾, 里見操緒¹⁾, 新村裕樹¹⁾, 大内 望¹⁾, 五十嵐美和¹⁾, 桑原慶充¹⁾, 澤倫太郎¹⁾, 磯崎太一¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院) : ヘパリンカルシウムにアレルギーを呈した血栓性素因合併妊娠の 2 症例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 125 回), 2013. 6.
- 12) 米澤美令¹⁾, 里見操緒¹⁾, 橋本恵理子²⁾, 大内 望¹⁾, 五十嵐美和¹⁾, 峯 克也¹⁾, 桑原慶充¹⁾, 澤倫太郎¹⁾, 磯崎太一¹⁾, 竹下俊行 (1) 日本医科大学付属病院, 2) 日本医科大学多摩永山病院) : 不育症既往妊婦に対するヘパリン・アスピリン療法不成功例の検討. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 (第 49 回) (神奈川県横浜市), 2013. 7.
- 13) 関口敦子, 川端伊久乃, 林 昌子, 奥田直貴, 印出佑介, 橋本恵理子, 山岸絵美, 桑原慶充, 石川 源, 中井章人, 竹下俊行 : 全前置胎盤における早産のリスク因子. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 (第 49 回) (神奈川県横浜市), 2013. 7.
- 14) Saito S¹⁾, Nakai A²⁾, Unno N³⁾, Kubo T⁴⁾, Minakami H⁵⁾ (1) Dept of OB/GYN Univ.of Toyama,Toyama-shi Toyama Japan, 2) Dept of OB/GYN Nippon Medical School.Tokyo Japan, 3) Dept of OB/GYN Kitasato Univ. Sagamihara-shi,Kanagawa,Japan, 4) Dept of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine,National Center for Child

Health and Development, ⁵⁾ Dept of Obstetrics Hokkaido Univ,Sapporo-shi,Hokkaido,Japan) : Influenza and Pregnancy. Options for the control of Influenza VIII Conference (cape Town,South Africa), 2013. 9.

- 15) 川端英恵, 齋藤桃子, 新村裕樹, 山岸絵美, 橋本恵理子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 石川源, 関口敦子, 中井章人: 妊娠 38 週に上腹部痛と肝機能異常を呈し診断に苦慮した 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京都), 2013. 9.
- 16) 新村裕樹, 山岸絵美, 川端英恵, 橋本恵理子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 関口敦子, 中井章人: 正常血圧で突然発症した分娩子癇の 1 例. 東京産科婦人科学会例会 (第 367 回) (東京都), 2013. 9.
- 17) 横山知美¹⁾, 久野彰子¹⁾, 新井貴子¹⁾, 鈴木麻美¹⁾, 内山恵理¹⁾, 児玉実穂¹⁾, 川端伊久乃²⁾, 中井章人²⁾ (¹⁾ 日本歯科大学附属病院 総合診療科 マタニティ歯科外来, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科): 入院中の妊婦における歯周組織の状態. 日本歯周病学会誌 2013 秋季学術大会 (第 56 回), 2013. 9.
- 18) 新村裕樹, 山岸絵美, 齋藤桃子, 川端英恵, 橋本恵理子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 石川源, 関口敦子, 中井章人: 前駆症状や兆候なく突然発症した分娩子癇の 1 例. 平成 25 年度 日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会 (東京都), 2013. 10.
- 19) 齋藤桃子, 林 昌子, 橋本恵理子, 新村裕樹, 川端英恵, 山岸絵美, 印出佑介, 奥田直貴, 川端伊久乃, 石川源, 関口敦子, 中井章人: 子宮体癌の術後補助化学療法中に洞不全症候群をきたした 1 例. 東京産科婦人科学会例会 (第 368 回) (東京都), 2013. 12.
- 20) 橋本恵理子, 林 昌子, 齋藤桃子, 新村裕樹, 川端英恵, 山岸絵美, 印出佑介, 奥田直貴, 石川源, 関口敦子, 中井章人: 悪性腫瘍と鑑別が困難であった黄色肉芽腫性炎症の 1 例. 東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会 (第 27 回) 並びに東京産科婦人科学会例会 (第 369 回) (東京都), 2014. 2.

(7) International Section :

- 1) Ishikawa G¹⁾, Robinson-M J²⁾, Ishikawa A¹⁾, Takizawa T³⁾, Takeshita T¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, ²⁾ Department of Physiology and Cell Biology the Ohio State University, ³⁾ Department of Molecular Anatomy and Medicine,Nippon Medical School) : Remarkable A Herations in Microtuble Nueleation in Fused BeWo Cells. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会 (第 65 回) (札幌市), 2013. 5.

(8) ミニレクチャー :

- 1) 印出佑介: 興味ある症例の紹介. 南多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会 (第 6 回) および多摩産婦人科病診連携懇話会 (第 44 回) (東京都), 2014. 3.
- 2) 関口敦子: 妊婦と薬. 平成 25 年度 日本医科大学多摩永山病院 研修医ミニレクチャー (第 15 回) (東京都), 2014. 3.

(9) 基調報告 :

- 1) 中井章人: 産婦人科の動向と勤務医就労環境. 平成 25 年度「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革 公開フォーラム」(東京都), 2014. 1.

(10) 指定講演 :

- 1) 中井章人: 産婦人科女性医師・現状と問題点. 日本産婦人科医会学術集会・宮城県大会 (第 40 回) (宮城県仙台市), 2013. 10.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) 中井章人: CTG の限界 ; その疫学と予防 ; 成熟児の asphyxia と cebral palsy ; テーマ. 日本周産期・新生児医学会誌 (周産期新生児誌) 2012 ; 48 (別冊 12) : 12-13.

[千葉北総病院女性診療科・産科]

研究概要

当教室では婦人科腫瘍学部門，手術学部門，周産期学部門のそれぞれにおいて基礎研究ならびに臨床研究を行っている。婦人科腫瘍学部門では子宮頸癌，子宮体癌，卵巣癌の発がんに関する基礎研究を行っている。そのなかでも特に子宮体癌におけるマイクロRNAの関与に関する研究を精力的に継続している。また，卵巣癌化学療法に関する臨床研究としてこれまで多施設共同研究として遂行してきたパクリタキセル，カルボプラチンの隔週投与法の結果がまとまり論文となった。また，子宮体癌に関する臨床研究として病理組織学的因子のどれが実際の独立した予後因子かを検討するために多施設の大規模研究を展開中である。さらに，若年性体癌患者に対する高用量黄体ホルモンによる子宮温存療法の臨床病理学的解析をすすめている。手術学部門では，婦人科内視鏡手術を中心として臨床研究を行っている。さらに，婦人科内視鏡手術の指導法，手術時に使用する電気メスの原理および指導法の研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 森 瑛子，柿栖陸実¹⁾，深見武彦¹⁾，松島 隆¹⁾，土居大祐¹⁾，朝倉啓文¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科)：妊娠19週でAmniotic fluid “sludge”を認め流産に至った1例。産婦人科の実際 2013；62 (13)：2203-2206.
- 2) 明楽重夫¹⁾，渡辺美千明，小野修一¹⁾，峯 克也¹⁾，市川雅男¹⁾，竹下俊行 (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：腹腔鏡下子宮腺筋症切除術。産婦人科の実際 2013；62 (5)：685-691.
- 3) Yoneyama K¹⁾，Konishi H²⁾，Yahata T³⁾，Fujita K³⁾，Aoki Y⁴⁾，Doi D⁵⁾，Matsushima T⁵⁾，Kodama S⁶⁾，Honma S⁶⁾，Kato H⁷⁾，Nakayama H⁷⁾，Kamoi S，Asakura H⁵⁾，Takeshita T¹⁾，Tanaka K³⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology,Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology,Kato Women's Clinic, 3) Division of Obstetrics and Gynecology,Graduate School of Medical and Dental Sciences,Niigata University, 4) Department of Obstetrics and Gynecology,Graduate School of Medical of Medical Science,University of the Ryukyus, 5) Department of Obstetrics and Gynecology,Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 6) Division of Gynecology,Niigata Prefectural Cancer Center Hospital, 7) Department of Gynecology,Kanagawa Cancer Hospital)：A Phase II Study of Paclitaxel and Carboplatin with a Biweekly Schedule in Patients with Epithelial Ovarian Cancer：Gynecologic Cancer Network Trial. J Nippon Med Sch. 2014；81 (1)：28-34.
- 4) Morikawa A¹⁾，Ueda K¹⁾，Takaahashi K¹⁾，Fukunaga M²⁾，Iwashita M³⁾，Kobayashi Y³⁾，Takechi K⁴⁾，Umezawa S⁵⁾，Terauchi F⁶⁾，Kiguchi K⁷⁾，Aoki D⁸⁾，Nomura H⁸⁾，Yoshikawa H⁹⁾，Satoh T⁹⁾，Kamoi S，et al. (1) Department of Obstetrics/Gynecology,Jikei Daisan Hospital, 2) Department of Pathology,Jikei Daisan Hospital, 3) Department of Obstetrics and Gynecology,Kyorin University Hospital, 4) Department of Obstetrics and Gynecology,Showa General Hospital, 5) Department of Obstetrics and Gynecology,Japanese Red Cross Musashino Hospital, 6) Department of Obstetrics and Gynecology,Tokyo Medical University Hospital, 7) Department of Obstetrics and Gynecology,St Marianna University School of Medicine Hospital, 8) Department of Obstetrics and Gynecology,Keio University Hospital, 9) Department of Obstetrics and Gynecology,Tsukuba University Hospital)：Pathology-oriented treatment strategy of malignant ovarian tumor in pregnant women：analysis of 41 cases in Japan. Int J Clin Oncol 2014；18 (1)：1341-1346.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 米山剛一¹⁾, 山田 隆, 山本晃人, 中西一步, 村川裕子³⁾, 伊藤麻利江, 永野玲子, 加藤雅彦¹⁾, 渡辺美千明, 瀧澤俊広¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学分子解剖学, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 3) 日本医科大学大学院)：子宮内膜癌におけるマイクロRNAの動向. 日本産科婦人科学会 (第65回) (北海道), 2013. 5.
- 2) 山本晃人, 山田 隆, 米山剛一¹⁾, 川瀬里衣子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：広汎子宮全摘出術における自律神経温存術式の検討. 日本産科婦人科学会 (第65回) (北海道), 2013. 5.
- 3) 松橋智彦¹⁾, 山本晃人, 飯田哲士²⁾, 丸山康世²⁾, 近内勝幸²⁾, 小野瀬享²⁾, 加藤久盛²⁾, 中山裕樹²⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 2) 神奈川県立がんセンター)：進行上皮性卵巣癌におけるNAC後の血清CA125値はIDSによる腫瘍減量完遂度と予後の予知因子となる. 日本産科婦人科学会 (第65回) (北海道), 2013. 5.
- 4) 米山剛一¹⁾, 山田 隆, 山本晃人, 島津絢美²⁾, 笹谷昌司²⁾, 京本晃典²⁾, 三枝順子²⁾, 清水秀樹²⁾, 小黒辰夫²⁾, 羽鳥 努²⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学千葉北総病院病理部)：腫瘍捺印細胞診にて肉腫が疑われた臍部再発子宮腫瘍の1例. 日本臨床細胞学会 (春期大会) (第54回) (東京都), 2013. 5.
- 5) 米山剛一¹⁾, 山田 隆, 山本晃人, 島津絢美²⁾, 笹谷昌司²⁾, 京本晃典²⁾, 三枝順子²⁾, 清水秀樹²⁾, 小黒辰夫²⁾, 羽鳥 努²⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学千葉北総病院病理部)：卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 日本臨床細胞学会 (春季大会) (第54回) (東京都), 2013. 5.
- 6) 角田陽平, 山本晃人, 伊藤麻利江, 中西一步, 村川裕子¹⁾, 永野玲子, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一²⁾ (1) 日本医科大学大学院, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：卵巣チョコレート嚢胞の経過観察中に癌化が顕在化した1例. 関東連合産科婦人科学会 (第125回) (東京都), 2013. 6.
- 7) 角田陽平, 池田真利子, 伊藤麻利江, 森 瑛子, 加藤雅彦, 山本晃人, 山田 隆, 渡辺美千明, 鴨井青龍：黄疸の原因が不明であった産褥期DICの1例. 日医・東邦・印旛市郡産婦人臨床研究会 (第14回) (千葉県), 2013. 6.
- 8) 米山剛一¹⁾, 山田 隆, 山本晃人, 村川裕子²⁾, 加藤雅彦¹⁾, 伊藤麻利江, 渡辺美千明, 島津絢美³⁾, 小黒辰夫³⁾, 羽鳥 努³⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学大学院, 3) 日本医科大学千葉北総病院病理部)：術後経過4年で腹腔内再発を来した子宮間葉系腫瘍の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第54回) (東京都), 2013. 7.
- 9) 田村俊之¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 池田真利子, 重見大介¹⁾, 新村裕樹¹⁾, 寺田佳世子¹⁾, 松橋智彦¹⁾, 川瀬理衣子¹⁾, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：DC療法中に大量腹水を来した子宮体癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第54回) (東京都), 2013. 7.
- 10) 山田 隆, 伊藤麻利江, 加藤雅彦¹⁾, 中西一步, 村川裕子²⁾, 山本晃人, 渡辺美千明, 米山剛一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学大学院)：抗腫瘍剤投与時の前投薬でアナフィラキシーショックを呈した1症例. 日本婦人科腫瘍学会 (第54回) (東京都), 2013. 7.
- 11) 山本晃人, 伊藤麻利江, 加藤雅彦¹⁾, 村川裕子²⁾, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一 (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学大学院)：診断に苦慮した子宮頸癌合併妊娠の2症例. 日本婦人科腫瘍学会 (第54回) (東京都), 2013. 7.
- 12) 川瀬里絵衣子¹⁾, 鴨井青龍, 黒瀬圭輔¹⁾, 寺崎美佳²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学病理学)：3歳でT細胞急性リンパ性白血病の治療歴のある18歳に発症した子宮肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第54回) (東京都), 2013. 7.
- 13) 角田陽平, 村川裕子¹⁾, 池田真利子, 伊藤麻利江, 尾崎美子, 森 瑛子, 中田真理世, 加藤雅彦²⁾, 山本晃人, 山田 隆, 渡辺美千明, 鴨井青龍 (1) 日本医科大学大学院, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：黄疸の診断に困難を極めた産褥期DICの1例. 日本医科大学医学会 (第81回) (東京都), 2013. 9.

- 14) 角田陽平, 山田 隆, 池田真利子, 尾崎景子, 森 瑛子, 中田真理世, 村川裕子¹⁾, 山本晃人, 永野玲子, 石川温子, 渡辺美千明, 羽鳥 努²⁾, 鴨井青龍 (¹⁾ 日本医科大学大学院, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院病理部): 卵管発生と考えられた成熟嚢胞性奇形腫の1例. 千葉県産科婦人科医学会平成 25 年度冬期学術講演会 (千葉県), 2014. 2.
- 15) 角田陽平, 山田 隆, 池田真利子, 尾崎景子, 森 瑛子, 中田真理世, 村川裕子¹⁾, 山本晃人, 永野玲子, 石川温子, 渡辺美千明, 羽鳥 努²⁾, 鴨井青龍 (¹⁾ 日本医科大学大学院, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院病理部): 卵管発生と考えられた成熟嚢胞性奇形腫の1例. 日医・東邦・印旛市郡産婦人科臨床研究会 (第 15 回) (千葉県), 2014. 1.
- 16) Toyoda S¹⁾, Tanuma F²⁾, Kashima H³⁾, Munakata S⁴⁾, Itani Y⁵⁾, Kamoi S, Kita T⁵⁾, Ueda M⁶⁾, Hasegawa M⁷⁾ (¹⁾ Nara Medical University Hospital, ²⁾ Hakodate Central General Hospital, ³⁾ Shinshu University Hospital, ⁴⁾ Sakai Hospital, ⁵⁾ Nara Prefectural Nara Hospital, ⁶⁾ Osaka Center for Cancer and Cardiovascular Diseases Prevention, ⁷⁾ Kurashiki Central): Recurrent serous endometrial intraepithelial carcinoma (serous EIC). 日本癌治療学会 (第 51 回) (京都府), 2013. 10.

21. 耳鼻咽喉科学

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

分野の主たる研究領域は鼻科学, 免疫・アレルギー学, 耳科学, めまい平衡医学, 頭頸部外科学, 音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。生理学的, 形態学的, 免疫学的, 分子生物的研究方法を駆使して, 質の高い基礎的・臨床的研究成果を目指している。この入力された業績の英文・和文論文, 学会発表で示されている通り, 様々な研究が症例報告を含めて, 質の高い成果として国内・国外に示されている。2013年度に発表された英文原著は昨年度より減少し7であった(論文合計27, 和文原書9, 和文総説11, 厚労省研究報告1)。これらの数は減少しているものの, 国内外の耳鼻咽喉科学教室のトップである。また分野主任が編集主幹した日本のアレルギー性鼻炎ガイドライン2013年度版は新たにCQAを取り入れ, 注目されている。これらの活動を援助するための外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ, 若手研究者の文部科学省研究費補助金やスタッフの厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を獲得している。分野教授自身は厚生労働省科学研究費補助金事業の主任研究者も行き, タニ抗原の標準化を行った。また同じ厚労省研究で別のテーマの分担研究者として花粉症の舌下免疫療法を行っており, 実際に国内の薬剤製造承認を受けた。他の分野においても積極的に分野全員で国際学会や国内学会への参加・発表も行い, 着実な成果を上げている。次年度も同じように耳鼻咽喉科領域における質の高い, 患者のためになる基礎的・臨床的研究を行っていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Sashihara T¹, Nagata M¹, Mori T¹, Ikegami S¹, Gotoh M², Okubo K², Uchida M¹, Itoh H¹ (1) 明治研究本部, (2) 日本医科大学耳鼻咽喉科): Effects of *Lactobacillus gasseri* OLL2809 and α -lactalbumin on university-student athletes: a randomized, double-blind, placebo-controlled clinical trial. *Appl Physiol Nutr Metab.* 2013; 38 (12): 1228-1235.
- 2) Gotoh M¹, Yuta A², Okano M³, Ohta N⁴, Matsubara A⁵, Okubo K¹ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科, (2) ゆたクリニック, (3) 岡山大学耳鼻科, (4) 山形大学耳鼻科, (5) 弘前大学耳鼻科): Severity assessment of Japanese cedar pollinosis using the practical guideline for the management of allergic rhinitis in Japan and the allergic rhinitis and its impact on asthma guideline. *Allergol Int.* 2013 Jun; 62 (2): 181-9. 2013; 62 (2): 181-189.
- 3) 後藤 穰, 竹内裕美¹, 榎本雅夫¹, 大久保公裕 (1) 鳥取大学耳鼻咽喉科): 耳鼻咽喉科領域における検討(アレルギー疾患の診断・治療における特異的IgE抗体の微量および高値測定の意義). *臨床免疫・アレルギー科* 2013; 59 (6): 710-716.
- 4) 神沼 修¹, 渡邊伸昌¹, 後藤 穰, 中谷明弘², 廣井隆親¹ (1) 東京都医学総合研究所 ゲノム医科学研究分野花粉症プロジェクト, (2) 新潟大学大学院): スギ花粉症免疫療法の治療効果に連動したバイオマーカー. *アレルギー・免疫* 2013; 21 (1): 94-101.
- 5) 萩原由佳¹, 高橋英明¹, 後藤 穰, 大久保公裕 (1) 日本医科大学医学部 学生): スギ舌下免疫療法による有効性の評価(初年度の結果). *耳鼻咽喉科免疫アレルギー* 2013; 31 (2): 178-179.
- 6) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 細矢 慶, 吉野綾穂, 原口美穂子, 大久保公裕: 高齢頭頸部癌患者に対する治療法選択の問題点. *頭頸部外科* 2013; 23 (2): 281-284.

- 7) 齊藤明彦, 渡邊健一, 齋藤亜希子, 増野 聡, 富山俊一, 大久保公裕: 右咽頭痛を主訴とした内頸動脈瘤の1症例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2013; 85 (10): 837-840.
- 8) 原口美穂子, 後藤 穰, 若山 望, 吉野綾穂, 村上亮介, 草間 薫, 大久保公裕: 当科アレルギー外来において過去2年間にアレルギー免疫療法を開始した患者の現況. 耳鼻と臨床 2013; 59 (3): 93-99.
- 9) 原口美穂子, 中溝宗永, 三枝英人, 酒主敦子, 稲井俊太, 横島一彦, 大久保公裕: 頸部気管に発生した腺様嚢胞癌の1例. 頭頸部外科 2013; 23 (2): 255-259.
- 10) Okamoto Y¹, Ohta N², Okano M³, Kamijo A⁴, Gotoh M⁵, Suzuki M⁶, Takeno S⁷, Terada T⁸, Hanazawa T¹, Matsune S⁹, et al. ¹ Chiba University, Department of Otorhinolaryngology and Head and Neck Surgery, Japan, ² Yamagata University, Department of Otorhinolaryngology and Head and Neck Surgery, Japan, ³ Okayama University, Department of Otorhinolaryngology, Japan, ⁴ Saitama Medical University, Department of Otorhinolaryngology/Allergy Center, Japan, ⁵ Nippon Medical School, Department of Otorhinolaryngology and Head and Neck Surgery, Japan, ⁶ Nagoya city University, Department of Otorhinolaryngology and Head and Neck Surgery, Japan, ⁷ Hiroshima University, Department of Otorhinolaryngology and Head and Neck Surgery, Japan, ⁸ Osaka Medical University, Department of Otorhinolaryngology, Japan, ⁹ Nippon Medical School, Department of Otorhinolaryngology, Musashikosugi Hospital, Japan): Guiding principles of subcutaneous immunotherapy for allergic rhinitis in Japan. *Auris Nasus Larynx* 2014; 41: 1-5.
- 11) Hashiguchi K¹, Kanzaki S², Wakabayashi K³, Tanaka N⁴, Kawashima K⁵, Suematsu K¹, Tokunaga S⁶, Ogawa K², Okubo K (1) Futaba Clinic, ² Keio Univ, ³ Kitasato institute Hosp, ⁴ Tokyo Woman's Med Univ, ⁵ Otemae Hosp, ⁶ Kyusyu Univ): Efficacy of fluticasone furoate nasal spray and levocetirizine in patients with Japanese cedar pollinosis subjected to an artificial exposure chamber. *J Drug Assessment* 2014; 2 (1): 94-105.
- 12) Higaki T¹, Okano M¹, Kariya S¹, Fujiwara T¹, Haruna T¹, Hirai H¹, Murai A¹, Gotoh M, Okubo K, Yonekura S², Okamoto Y² (1) Okayama Univ, ² Chiba Univ): Determining Minimal Clinically Important Differences in Japanese Cedar/Cypress Pollinosis Patients. *Allergology Int* 2013; 62 (4): 487-493.
- 13) Gotoh M, Okubo K, Hashiguchi K¹, Wakabayashi K², Kanzaki S³, Tanaka N⁴, Fujioka M³, Kawashima K⁵, Suematsu K¹, Sasaki K⁶, Iwasaki M⁶, Yamamotoya H⁷ (1) Futaba Clinic, ² Kitasato institute Hosp, ³ Keio Univ, ⁴ Tokyo Woman's Med Univ, ⁵ Otemae Hosp, ⁶ Samoncho Clinic, ⁷ Ono Pharma): Noninvasive biological evaluation of response to pranlukast treatment in pediatric patients with Japanese cedar pollinosis. *Allergy Asthma Proc* 2013; 33 (6): 459-466.
- 14) Ohashi R¹, Wakayama N, Kawamoto M¹, Tuchiya S¹, Okubo K (1) Pathology Dept, Nippon Medical School): Solitary nasal schwannoma: Usefulness of CD34 and calretinin staining for distinction from histological mimics. *J Nippon Med Sch* 2013; 80 (4): 300-306.
- 15) 真弓光文¹, 佐藤俊明², 高木善治², 大久保公裕 (1) 福井大学, ² サノフィ): 小児通年性アレルギー性鼻炎を対象としたフェキソフェナジン塩酸塩ドライシロップ剤の安全性及び有効性の検討: 第III相, 他施設共同, 非盲検, 無対照試験. *アレルギー・免疫* 2014; 21 (2).
- 16) 大塚博邦, 高梨征雄¹, 大久保公裕 (1) 神奈川総合高校): スギ花粉症における鼻腔細菌と鼻汁細胞診-季節前無症状群, 季節前発症群および季節中発症群の比較-. *アレルギー* 2013; 62 (6): 689-697.
- 17) 菅原一真¹, 御厨剛史¹, 橋本 誠¹, 原 浩貴¹, 大久保公裕, 山下裕司¹ (1) 山口大学): プランルカスト水合物と鼻噴霧用ステロイド薬を併用した花粉症初期療法 (3年間の検討). *アレルギー・免疫* 2013; 20 (12): 1866-1874.
- 18) 増野 聡¹, 富山俊一², 渡邊健一², 齋藤亜希子², 齊藤明彦² (1) 日本医科大学日咽喉科学教室, ² 日本医科大学多摩永山病院耳鼻咽喉科): 小児内耳自己免疫病の1症例. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2013; 85 (11): 913-

- 19) 増野 聡¹⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室)：アレルギー性鼻炎のトータルマネジメント：アレルギー性鼻炎 Q&A. 週刊日本医事新報 2014；4687：72-79.

(2) 総説：

- 1) 松根彰志：Question & Answer. 鼻アレルギーフロンティア 2013；13 (2)：40-41.
- 2) 松根彰志：前頭洞炎再発例に対する食道用ステントを用いた手術. 耳鼻臨床 2013；106 (6)：486-487.
- 3) 松根彰志：肥満とアレルギー性鼻炎. アレルギー・免疫 2013；20 (11)：79-80.
- 4) 松根彰志：外来鼻科手術におけるインフォームド・コンセント. ENTONI 2014；163：38-42.
- 5) 後藤 穰：鼻粘膜誘発テスト【検査結果をどう読むか?】. JOHNS 2013；29 (3)：1596-1598.
- 6) 後藤 穰：免疫療法の実際(解説). 日本鼻科学会誌 2013；52 (1)：121-123.
- 7) 後藤 穰：アレルギー免疫療法によるアナフィラキシー「アナフィラキシス」. アレルギー・免疫 2013；20 (8)：1202-1209.
- 8) 後藤 穰：気道疾患に対する治療戦略 アレルギー免疫療法 (unified airway からみた鼻副鼻腔病変). JOHNS 2013；29 (5)：911-914.
- 9) 後藤 穰：舌下免疫療法の展望. アレルギー・免疫 2013；21 (1)：102-109.
- 10) 横島一彦, 酒主敦子, 中溝宗永：手術不能下咽頭癌症例に対する対応. JOHNS 2013；29 (6)：1020-1024.
- 11) 横島一彦：鋭的切離を可能にするマカンドー鑷子と電気メス. JOHNS 2013；29 (12)：2081-2083.
- 12) 中溝宗永：「第114回日本耳鼻咽喉科学会総会臨床セミナー」頸部郭清術の基本手技. 日本耳鼻咽喉科学会報 2014；117 (2)：81-85.
- 13) 大久保公裕：フェニルプロパノールアミンとブソイドエフェドリンの安全性とは. 薬局 2014；65 (3)：431-433.
- 14) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎. アレルギー疾患ガイドライン改訂について. アレルギー・免疫 2014；21 (3)：418-424.
- 15) 大久保公裕：近年のスギ・ヒノキ花粉症. アレルギー・免疫 2014；21 (1)：11-16.
- 16) 大久保公裕：花粉症治療最前線. 公衆衛生 2014；78 (2)：116-120.
- 17) 大久保公裕：「アレルギー性鼻炎診療ガイドライン-通年性鼻炎と花粉症-2013年版」の変更点について. 鼻アレルギーフロンティア 2014；14 (1)：28-32.
- 18) 大久保公裕：アレルギー性疾患に対する舌下免疫療法. 東京小児科医会報 2013；32 (2)：68-73.
- 19) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎診療ガイドライン改訂のポイント. 日本薬剤師雑誌 2013；65 (6)：619-622.
- 20) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎. JOHNS 2013；29 (3)：495-502.
- 21) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法. 耳鼻臨床 2013；106 (9)：769-775.
- 22) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎診療ガイドライン2013年版-通年性鼻炎と花粉症-. アレルギー 2013；62 (11)：1458-1463.
- 23) 大久保公裕：気管支喘息とアレルギー性鼻炎. アレルギー・免疫 2013；20 (7)：985-990.
- 24) 後藤 穰：アレルギー用薬の上手な使い方：通年性アレルギー性鼻炎への薬物療法. 耳喉頭頸 2014；86 (3)：226-231.
- 25) 後藤 穰：アレルギー疾患の实地診療：花粉症・アレルギー性鼻炎. Medical Practice 2014；31 (2)：244-249.
- 26) 後藤 穰：アレルギー性鼻炎のトータルマネージメント：主要治療薬の特徴と使い分け. 日本医事新報 2014；(4687)：46-53.
- 27) 後藤 穰：アレルギー用語解説シリーズ：舌下免疫療法. アレルギー 2014；63 (1)：65-66.
- 28) 増野 聡¹⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室)：アレルギー性鼻炎のトータルマネジメント：第2章 アレルギー性鼻炎の診断と検査：①鑑別診断, ②アレルギー検査の概要, ④アレルギー性鼻炎の診断, ⑤トピックス-

鼻粘膜原曲のアレルギー (Entopy). 週刊日本医事新報 2014; 4687: 19-30.

- 29) 増野 聡¹⁾, 村上亮介¹⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室): アレルギー性鼻炎のトータルマネジメント: 第4章 主要治療薬の特徴と使い分け: ②美噴霧用ステロイドの使い方. 週刊日本医事新報 2014; 4687: 54-64.

(3) 解説:

- 1) 増野 聡¹⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室): 非アレルギー性鼻炎の病院における神経原性炎症とアレルギー性炎症の関わり. 鼻アレルギーフロンティア 2013; 13 (2): 22-23.

(4) 研究報告書:

- 1) 大久保公裕: 免疫療法による花粉症予防と免疫療法のガイドライン作成に向けた研究スギ花粉症に対する舌下免疫療法の経年的効果に関する研究. 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金事業 (免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業) 報告書 2013.

(5) 症例報告:

- 1) 山口 智, 三枝英人¹⁾, 小町太郎²⁾, 門園 修¹⁾, 伊藤裕之¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院耳鼻咽喉科): 輪状披裂の固着を伴った反回神経麻痺症例の臨床的観察と治療について: 3 症例の経験から. 日気食会報 2013; 64 (6): 388-397.
- 1) 藤倉輝道¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 高柳和江¹⁾, 吉村明修²⁾, 阿曾亮子¹⁾, 井上千鹿子³⁾ (1) 日本医科大学教育推進室, ²⁾ 東京医科大学病院臨床腫瘍科, ³⁾ 愛知医科大学大学院医学研究科): 日本医科大学模擬患者養成 10 年. 医学教育 2013; 44 (5): 365-367.

著 書

- 1) 松根彰志, その他 113 名: [分担] アレルギー性鼻炎に合併する鼻ポリープ. 耳鼻咽喉科 てこずった症例のブレイクスルー (本庄 巖), 2013; pp122-123, 中山書店.
- 2) 松根彰志, その他 28 名: [分担] アレルギー性鼻炎. 今日の治療指針 2014 (山口 徹, 北原 光夫・福井次矢, 高木 誠, 小室一成), 2014; pp1358-1359, 医学書院.
- 3) 村上亮介¹⁾, 松根彰志¹⁾, 藤倉輝道¹⁾, 後藤 稔¹⁾, 増野 聡¹⁾, 細矢 慶¹⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学): [分担] 第 4 章 主要治療薬の特徴と使い分け 2-6 項. 週刊 日本医事新報アレルギー性鼻炎のトータルマネジメント (大久保公裕), 2014; pp59-71, 日本医事新報社.
- 4) 横島一彦, 中溝宗永: [分担] 90 歳の男性が喉頭癌 T3N0 とのことで紹介になりました. 全身状態は良好で, 呼吸障害と摂食障害は認めません. 治療法の選択について教えてください. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 Q&A (岡本美孝), 2013; pp268-270, 中外医学社.
- 5) 大久保公裕: [自著] 舌下免疫療法がわかる本. 舌下免疫療法がわかる本 (大久保公裕), 2014; pp1-221, 日経新聞社.
- 6) 大久保公裕, 松根彰志, 藤倉輝道, 後藤 稔, 増野 聡, 村上亮介, 細矢 慶: [編集] アレルギー性鼻炎のトータルマネジメント. アレルギー性鼻炎のトータルマネジメント日本医事新報 2 月特集号 (大久保公裕), 2014; pp1-79, 日本医事新報.
- 7) 大久保公裕: [編集] アレルギー総合ガイドライン 2013. アレルギー総合ガイドライン 2013 (齊藤博久, 秋山一男, 竹中洋, 大田健, 片山一朗, 大久保公裕, 西間三馨), 2013; pp1-523, 協和企画.
- 8) 藤倉輝道¹⁾, 松根彰志²⁾, 後藤 稔³⁾, 村上亮介¹⁾, 増野聡彦¹⁾, 細谷 慶¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院): [分担] 第 1 章 実は, 鼻炎は様々. 週刊日本医事新報 アレルギー性鼻炎のトータルマネジメント (大久保公裕), 2014; pp6-18, 日本医事新報社.
- 9) 藤倉輝道¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科): [共著] 耳鼻咽喉科領域・抗ヒスタミン薬. アレルギー・免疫 (藤枝重治), 2013; pp114-120, 医薬ジャーナル社.
- 10) 藤倉輝道¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科): [共著] Q18. 精神科から紹介になった 45 歳の男性です. う

つ病の治療を受けています。CT 所見でりょうそくの全塔堂に陰影があり、慢性的な頭痛を訴えています。どのように対処すべきでしょうか。耳鼻咽喉科・頭頸部外科 Q&A (岡本美孝), 2013; pp56-58, 中外医学者。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 松根彰志：日本の花粉症とその治療・管理。日本アレルギー学会秋季学術大会（第 63 回）市民公開講座（東京都），2013. 11.
- 2) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の臨床研究：Pathophysiology and Immunology。日本アレルギー学会秋季学術大会（第 53 回）（東京），2013. 11.
- 3) 大久保公裕：花粉症予防と対策及び治療に関する最新の話。花粉症予防・治療シンポジウム（第 8 回）（東京），2014. 2.
- 4) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対するアレルゲン免疫療法：舌下免疫療法を中心に。城北・埼玉南部耳鼻咽喉科学術集会（第 29 回）（東京），2014. 2.
- 5) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の最新治療。真壁市医師会学術講演会（茨城），2014. 2.
- 6) 大久保公裕：花粉症の病態と最新の治療：薬物療法，免疫療法の有効性。横浜環境アレルギー研究会（第 5 回）（横浜），2014. 2.
- 7) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対する免疫療法。日耳鼻千葉県地方部会（第 83 回）（千葉），2013. 6.
- 8) 大久保公裕：花粉症の治療展開：舌下免疫療法を中心に。京滋臨床アレルギー懇話会（第 52 回）（京都），2013. 8.
- 9) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の現状と免疫療法の展望。平成 25 年度群馬県耳鼻咽喉科医会（前橋），2013. 9.
- 10) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎・花粉症：免疫療法の効果を向上させるために。小児アレルギー初期治療研究会（第 8 回）（東京），2013. 4.
- 11) 大久保公裕：花粉症における第二世代抗ヒスタミン薬のエビデンス。日耳鼻広島県地方部会－耳鼻咽喉科疾患 update2014－（広島），2014. 1.
- 12) 大久保公裕：花粉症診療 Update。長崎県耳鼻咽喉科専門医講座（長崎），2014. 1.
- 13) 大久保公裕：花粉症診療 Update。港区耳鼻咽喉科医会講演会（東京），2014. 1.
- 14) 大久保公裕：舌下免疫療法について。こども ENT ミーティング（第 10 回）（東京），2013. 10.
- 15) 大久保公裕：花粉症に対する第二世代抗ヒスタミン薬のエビデンス。鼻アレルギーフォーラム Up-to-date（つくば市），2014. 1.
- 16) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の最新治療。さいたま市与野医師会学術講演会（さいたま市），2014. 1.

(2) 教育講演：

- 1) 大久保公裕：舌下免疫療法。アレルギー週間中央講演会（第 20 回）（東京），2014. 2.
- 2) 大久保公裕：舌下免疫療法の実際。関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会（第 64 回）（東京），2014. 1.
- 3) 大久保公裕：舌下免疫療法。大分アレルギー講習会（第 22 回）（大分），2014. 2.

(3) シンポジウム：

- 1) 若山 望，松根彰志，関根久遠，山口 智，大久保公裕，砂塚敏明，大村 智⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院耳鼻咽喉科，⁽²⁾ 北里大学北里生命科学研究所：慢性副鼻腔炎鼻茸由来培養上皮細胞の炎症性サイトカイン産生と CAM.EM900 による抑制効果。マクロライド新作用研究会（第 20 回）（東京都），2013. 7.
- 2) Matsune S：Effect of Pharmacotherapy on Damaged Mucociliary Function of Chronic Rhinosinuitis. Asian Research Symposium in Rhinology (16th) (Tokyo), 2013. 8.
- 3) Matsune S：Novel Stenting of Frontal Sinus with an Esophageal or Bronchial Stent. Annual Meeting of the American Rhinologic Society (59th) (Vancouver, B.C.), 2013. 9.

- 4) Matsune S : Novel Stenting of Frontal Sinus with an Esophageal or Bronchial Stent. Annual Meeting of the American Rhinologic Society (59th) (Vancouver, B.C.), 2013. 6.
 - 5) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎の治療戦略「舌下免疫療法の実際」. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第25回) (横浜), 2013. 5.
 - 6) 湯澤 仁¹⁾, 神沼 修¹⁾, 後藤 穰²⁾, 大久保公裕²⁾, 森 晶夫³⁾, 廣井隆親¹⁾ (¹⁾ 東京都医学総合研究所 花粉症プロジェクト, ²⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科, ³⁾ 国立相模原病院) : スギ花粉症に対する舌下免疫療法の治療効果と血中抗体価の関係 (アレルゲンと免疫療法). 日本アレルギー学会 (第63回) (東京), 2013. 11.
 - 7) 中谷明弘¹⁾, 後藤 穰²⁾, 大久保公裕²⁾, 神沼 修³⁾, 廣井隆親³⁾ (¹⁾ 新潟大学研究推進機構超域学術院, ²⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科, ³⁾ 東京都医学総合研究所花粉症プロジェクト) : 遺伝子のコピー数と発現量の網羅的情報に基づくスギ花粉舌下免疫療法のゲノミックな背景の検討 (東京都花粉症プロジェクト). 日本アレルギー学会 (第63回) (東京), 2013. 11.
 - 8) 神沼 修¹⁾, 西村友枝¹⁾, 佐伯真弓¹⁾, 松岡邦枝¹⁾, 米川博通¹⁾, 後藤 穰²⁾, 大久保公裕²⁾, 森 晶夫³⁾, 廣井隆親¹⁾ (¹⁾ 東京都医学総合研究所 花粉症プロジェクト, ²⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科, ³⁾ 国立相模原病院) : 新しい花粉症モデル マウスにおける T 細胞依存性鼻粘膜過敏性亢進反応 (東京都花粉症プロジェクト). 日本アレルギー学会 (第63回) (東京), 2013. 11.
 - 9) Matsune S : Vascular Endothelial Growth Factor in Pathophysiology of Allergic Rhinitis. Research Symposium on Human Natural defense System (Jeju island, Korea), 2014. 3.
 - 10) 大久保公裕 : 花粉症のアレルゲン免疫療法. 日本小児皮膚科学会 (第37回) (東京), 2013. 7.
 - 11) Okubo K, Kazuhiro H¹⁾ (¹⁾ Futaba ENT clinic) : Artificial exposure chamber for development of unmet needs of allergic rhinitis in Japan. Asian Research symposium in Rhinology (16th) (Tokyo), 2013. 8.
 - 12) 大久保公裕 : 喘息アレルギー最近の話題 3. 治療 : 舌下免疫療法. 小児気道アレルギーフォーラム (第5回) (名古屋), 2013. 4.
 - 13) 増野 聡¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室) : 耳鼻咽喉科におけるアレルギーマーチ : 免疫療法の視点から. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第63回) (東京), 2013. 11.
- (4) セミナー :
- 1) 松根彰志 : アレルギー, 感染と鼻副鼻腔炎の病態, 治療. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (第32回) (徳島市), 2014. 2.
 - 2) 後藤 穰 : 免疫療法の新たな展開 (臨床効果について). 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第25回) (横浜), 2013. 5.
 - 3) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎ガイドライン (総合アレルギー医育成コース). 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第25回) (横浜), 2013. 5.
 - 4) 後藤 穰 : 舌下免疫療法の実際. 日本鼻科学会総会 (第52回) (福井), 2013. 9.
 - 5) 後藤 穰 : 舌下免疫療法の実際. 日本アレルギー学会 (第63回) (東京), 2013. 11.
 - 6) 後藤 穰 : 舌下免疫療法の実際と適応 (舌下免疫療法講習会). 日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会 (第27回) (名古屋), 2013. 11.
 - 7) 中溝宗永 : 臨床セミナー6「頸部郭清術の基本手技」. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 (札幌), 2013. 5.
 - 8) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の最新治療. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第26回) (横浜), 2013. 5.
 - 9) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の最新エビデンス. 日本鼻科学会総会 (第52回) (福井), 2013. 9.
 - 10) 大久保公裕 : Sublingual immunotherapy for japanese cedar pollinosis : effects and mechanism. 日本免疫学会 (第42回) (幕張), 2013. 12.

(5) ポスター：

- 1) 若山 望, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 大久保公裕¹⁾, 松根彰志 (¹⁾ 日本医科大学附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：耳下腺多形腺腫術後多発再発例の1手術経験. 耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会 (第75回) (神戸市), 2013. 7.
- 2) 若山 望, 関根久遠, 山口 智, 石田麻里子, 吉岡友真, 木村まき, 松根彰志：好酸球性鼻副鼻腔炎手術症例におけるブ菌エンテロトキシンおよび真菌感作の検討. 日本鼻科学総会・学術講演会 (第52回) (福井市), 2013. 9.

(6) 一般講演：

- 1) 松根彰志, 関根久遠, 若山 望, 山口 智, 椎葉恭子, 木村まき, 石田麻里子, 大久保公裕 (¹⁾ 日本医科大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：ヒト慢性副鼻腔炎鼻茸および篩骨洞粘膜由来上皮細胞の炎症性サイトカイン産生. 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 (第114回) (札幌市), 2013. 5.
- 2) 関根久遠, 椎葉恭子, 吉岡友真, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕, 金城忠志, 田島廣之, 黒川 顯 (¹⁾ 附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, ²⁾ 武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター, ³⁾ 武蔵小杉病院 院長)：食道狭窄用ステントの鼻科手術への応用. 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 (第114回) (札幌), 2013. 5.
- 3) 石田麻里子, 関根久遠, 吉岡友真, 若山 望, 山口 智, 木村まき, 松根彰志：耳下腺腫瘍症例におけるダイナミックMRIの診断学的意義について. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会 (第163回) (横浜市), 2013. 6.
- 4) 関根久遠, 山口 智, 若山 望, 石田麻里子, 吉岡友真, 木村まき, 松根彰志：食道/気管用ステント留置を行った前頭洞炎再発手術症例の報告. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会 (第164回) (横浜市), 2013. 9.
- 5) Matsune S, Wakayama N, Yoshioka Y, Ishida M, Sekine K, Yamaguchi S, Kimura M, Okubo 1K (¹⁾ Nippon Medical School, Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery)：Macrolides in chronic rhinosinusitis-future aspect. VII International symposium on recent advances in rhinosinusitis and nasal polypsis (Shimane), 2013. 10.
- 6) 猿谷昌司¹⁾, 澤木誠司²⁾, 大塚博邦³⁾, 大山義雄⁴⁾, 小山 守⁵⁾, 蓑和 仁⁶⁾, 生井明浩⁷⁾, 吉岡友真, 若山 望, 石田麻里子, 関根久遠, 山口 智, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕⁸⁾ (¹⁾ 猿谷耳鼻咽喉科医院, ²⁾ 菊名耳鼻咽喉科, ³⁾ 大塚耳鼻咽喉科医院, ⁴⁾ 大山耳鼻咽喉科医院, ⁵⁾ こやま耳鼻咽喉科・アレルギー科クリニック, ⁶⁾ みのわ耳鼻咽喉科医院, ⁷⁾ はくらく耳鼻咽喉科・アレルギー科クリニック, ⁸⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科)：小児花粉症初期治療におけるロイコトリエン受容体拮抗薬の有効性. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第63回) (東京都), 2013. 11.
- 7) Kuwon S, Tetsuo I¹⁾, Yurika K²⁾, Ryouhei K, Kyouko S, Toshiaki Y³⁾, Shouji M, Kimihiro O (¹⁾ Departments of Otolaryngology, Saitama Medical University, Saitama, Japan, ²⁾ Departments of Otolaryngology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, Tokyo, Japan, ³⁾ University of Human Environments)：Expression profiling of microRNA in geriatric Human inner ear by Real-time PCR quantification. 1st Global Otology Research Meeting (Turkey), 2013. 11.
- 8) 吉岡友真, 山口 智, 若山 望, 石田麻里子, 関根久遠, 木村まき, 松根彰志：簡易モニターを用いた小児の睡眠時無呼吸症候群の検討. 日本耳鼻咽喉科神奈川県地方部会 (166回) (横浜市), 2014. 3.
- 9) 村上亮介^{1,2)}, 中川洋子¹⁾, 清水真澄¹⁾, 根岸靖幸¹⁾, 若林あや子¹⁾, 大久保公裕²⁾, 高橋秀実¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学微生物学免疫学, ²⁾ 日本医科大学 耳鼻咽喉科学)：アレルギー性鼻炎マウスモデルにおける樹状細胞特異的33D1抗体投与の影響. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第63回) (東京), 2013. 11.
- 10) 山口 智, 三枝英人¹⁾, 門園 修¹⁾, 小町太郎²⁾, 永積 渉¹⁾, 伊藤裕之¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院耳鼻咽喉科)：咽頭蠕動波の発現機構についての機能生理学的研究.

日本嚙下医学会総会ならびに学術講演会（第 37 回）（東京都），2014. 2.

- 11) 西村友枝¹⁾，佐伯真弓¹⁾，松岡邦枝¹⁾，米川博通¹⁾，森 晶夫²⁾，後藤 穰³⁾，大久保公裕³⁾，神沼 修¹⁾，廣井隆親¹⁾（¹⁾ 東京都医学総合研究所 花粉症プロジェクト，²⁾ 国立相模原病院，³⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科）：マウスアレルギー性鼻炎モデルにおける IgE- マスト細胞系および T 細胞の関与. アレルギー学会総会（第 63 回）（東京），2013. 11.
- 12) 稲井俊太¹⁾，中溝宗永¹⁾，横島一彦¹⁾，酒主敦子¹⁾，細矢 慶¹⁾，大久保公裕¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科）：当科における鼻腔癌症例の検討. 日本頭頸部癌学会（第 37 回）（東京），2013. 6.
- 13) 小町太郎¹⁾，吉野綾穂¹⁾，原口美穂子¹⁾，馬場俊吉¹⁾，村下秀和²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院，²⁾ むらした耳鼻咽喉科）：術後性鼻腔高度癒着のため鼻中隔切除を余儀なくされた慢性副鼻腔炎の 1 例. 日本鼻科学会学術講演会（第 52 回）（福井県），2013. 9.
- 14) 大崎由香里¹⁾，福田恵莉香¹⁾，工藤美美¹⁾，横島一彦，中溝宗永，大久保公裕（¹⁾ 付属病院看護部）：発声が不可能な頭頸部癌術後患者に対するコミュニケーションツール作成の工夫. 日本癌治療学会（第 51 回）（京都），2013. 10.
- 15) 横島一彦，中溝宗永，稲井俊太，酒主敦子，細矢 慶，粉川隆行，大久保公裕：扁桃癌に対する頸部郭清術先行放射線治療. 日本耳鼻咽喉科学会（第 114 回）（札幌），2013. 5.
- 16) 横島一彦，中溝宗永，稲井俊太，酒主敦子，細矢 慶，原口美穂子，粉川隆行，大久保公裕：高齢頭頸部癌患者の手術後 2 年間のイベントと併存疾患の術前評価. 日本頭頸部癌学会（第 37 回）（東京），2013. 6.
- 17) 横島一彦，中溝宗永，酒主敦子，稲井俊太，細矢 慶，加藤大星，大久保公裕：認知症患者に対する頭頸部癌手術の経験. 日本頭頸部外科学会（第 24 回）（高松），2014. 1.
- 18) Yokoshima K, Nakamizo M, Inai S, Sakanushi A, Kokawa T, Okubo K : Anatomical variation of the superior thyroid vein for the functional preservation of the parathyroid glands during pharyngo-laryngectomy with bilateral neck dissection. Eurasian Forum on Head and Neck Cancer (3rd.) (St. Petersburg, Russia), 2013. 7.
- 19) 原口美穂子，小町太郎，吉野綾穂，馬場俊吉：インフルエンザ後の喉頭炎から気道狭窄をきたした 1 例. 日耳鼻千葉県地方部会学術講演会（第 84 回）（千葉県），2014. 1.
- 20) 吉野綾穂¹⁾，中溝宗永，横島一彦，酒主敦子，稲井俊太，原口美穂子，大久保公裕（¹⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科）：副耳下腺腫瘍 5 手術例の成績. 日本頭頸部外科学会（第 24 回）（高松），2014. 1.
- 21) 吉野綾穂¹⁾，小町太郎¹⁾，原口美穂子¹⁾，馬場俊吉¹⁾（¹⁾ 千葉北総病院）：当科における小児扁桃症例の検討. 千葉県地方部会（第 83 回）（千葉），2013. 6.
- 22) 大塚博邦¹⁾，高梨征雄²⁾，大久保公裕（¹⁾ 大塚耳鼻咽喉科，²⁾ 神奈川総合高校）：スギ花粉症における初期療法の効果：飛散前発症群と非発症群の差. 日本アレルギー学会春季臨床大会（第 26 回）（横浜），2013. 5.
- 23) 鈴木祐輔¹⁾，太田伸男¹⁾，倉上和也¹⁾，古川孝俊¹⁾，八畝修一¹⁾，欠畑誠治¹⁾，大久保公裕（¹⁾ 山形大学耳鼻咽喉科）：スギ花粉症に対するデキサメタゾンベシル酸エステル単独療法の治療効果に関する検討. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（第 32 回）（徳島），2014. 2.
- 24) 濱田聡子¹⁾，朝子幹也¹⁾，島野卓史¹⁾，大岡久司¹⁾，小林良樹¹⁾，神田 晃¹⁾，友田幸一¹⁾，後藤 穰，大久保公裕（¹⁾ 関西医科大学耳鼻咽喉科）：当科におけるスギ花粉症舌下免疫療法の検討. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（第 32 回）（徳島），2014. 2.
- 25) 太田伸男¹⁾，鈴木祐輔¹⁾，倉上和也¹⁾，千田邦明¹⁾，古川孝俊¹⁾，欠畑誠治¹⁾，大久保公裕（¹⁾ 山形大学耳鼻咽喉科）：イネ科花粉症に対する抗ヒスタミン薬の治療効果. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（第 32 回）（徳島），2014. 2.
- 26) 細矢 慶，増野 聡，大久保公裕，橋口一弘¹⁾（¹⁾ ふたばクリニック）：スギ花粉症患児に対するプラナルカストドライシロップの効果の検討. EAACI-WAO 2013 - 世界アレルギー&喘息学会議（ミラノ（イタリア）），

2013. 6.

- 27) 細矢 慶, 増野 聡, 大久保公裕: スギ花粉症に対する舌下免疫療法の治療期間の検討. 日本耳鼻咽喉科学会 (114回) (札幌), 2013. 5.
 - 28) Ken-Ichi W, Wilhelm B¹⁾ (1) Deutsch Sporthochschule Koeln): Different expression of histone modification in the spiral ganglion of Mn-SOD knock out mice. Inner Ear Biology Workshop (50th) (Madrid, Spain), 2013. 9.
 - 29) 渡邊健一, 大久保公裕: Mn-SOD ノックアウトマウスのらせん神経節におけるヒストン修飾. 日本耳科学会 (第23回) (宮崎), 2013. 11.
 - 30) Watanabe K, Bloch W¹⁾ (1) Deutsch Sporthochschule Koeln): Different expression of histone modification in the spiral ganglion of Mn-SOD knock out mice. Inner Ear Biology Workshop (50th) (Madrid, Spain), 2013. 9.
- (7) poster presentation :
- 1) Murakami R^{1,2)}, Nakagawa Y¹⁾, Wakabayashi A¹⁾, Kumagai Y¹⁾, Ohkubo K²⁾, Takahashi H¹⁾ (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School): Effect of depletion of 33D+ dendritic cells on allergic airway sensitization in mouse model. INTERNATIONAL CONGRESS OF IMMUNOLOGY (15th) (MILAN, ITALY), 2013. 8.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 松根彰志: 細胞増殖因子. JOHNS 2013; 29 (3): 341-346.
- 2) 後藤 穰: 鼻漏・鼻閉 鼻水, 鼻づまりを訴える患者が来たら…… (主訴から診断へ - 臨床現場の思考経路). 診断と治療 2013; 101 (suppl.): 289-294.
- 3) 後藤 穰: 【小児の花粉症】小児花粉症の診断 (解説/特集) Author: 後藤 穰 (日本医科大学 耳鼻咽喉科学教室). ENTONI 2013; (149): 20-24.
- 4) 増野 聡¹⁾, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室): 非アレルギー性鼻炎を紐解くキーワード: 局所的アレルギー性炎症: エントピー. アレルギーと神経ペプチド 2013; 9: 22-25.

学会発表

追加分ポスター:

- 1) 若山 望, 吉岡友真, 石田麻里子, 関根久遠, 山口 智, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本医科大学 付属病院耳鼻咽喉科): 鼻噴霧用ステロイド併用治療による鼻副鼻腔炎治療効果に関する予備的検討: マクロライド単独治療との比較. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (第32回) (徳島市), 2012. 2.

22. 泌尿器科学

[付属病院泌尿器科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shunichiro N, Yasutomo S, Ryo T, Mika T, Ryoji K, Tsutomu H, Go K, Akira S, Yukihiro K : Snail expression and outcome in T1 high-grade and T2 bladder cancer : a retrospective immunohistochemical analysis. *BMC urology* 2013 ; 13.
- 2) Hirono M, Kobayashi M, Tsushima T, Obara W, Shinohara N, Ito K, Eto M, Takayama T, Fujii Y, Nishikido M, Kimura G, Kishida T, Takahashi M, Miyao N, Naya Y, et al. ⁽¹⁾ Department of Urology, Gunma University Graduate School of Medicine, Maebashi, Japan, ⁽²⁾ Division of Urology, Isesaki Municipal Hospital, 12-1, Tsunatori-hon-machi, 372-0817 Isesaki, Gunma, Japan, ⁽³⁾ Division of Urology, Okayama Medical Center, Okayama, Japan, ⁽⁴⁾ Department of Urology, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁽⁵⁾ Department of Renal and Genitourinary surgery, Graduate School of Medicine, Hokkaido University, Sapporo, Japan, ⁽⁶⁾ Department of Urology, National Defense Medical College, Tokorozawa, Japan, ⁽⁷⁾ Department of Urology, Faculty of Life Sciences Kumamoto University, Kumamoto, Japan, ⁽⁸⁾ Department of Urology, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu, Japan, ⁽⁹⁾ Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo, Japan, ⁽¹⁰⁾ Department of Urology, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki, Japan) : Impacts of clinicopathologic and operative factors on short-term and long-term survival in renal cell carcinoma with venous tumor thrombus extension : a multi-institutional retrospective study in Japan. *BMC Cancer* 2013.
- 3) Shinohara N, Nonomura N, Eto M, Kimura G, Minami H, Tokunaga S, Naito S ⁽¹⁾ Department of Renal and Genitourinary Surgery, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, ⁽²⁾ Department of Urology, Osaka University, Graduate School of Medicine, Suita, ⁽³⁾ Department of Urology, Faculty of Life Science, Kumamoto University, Kumamoto, ⁽⁴⁾ Department of Urology, Nippon Medical School, Tokyo, ⁽⁵⁾ Division of Medical Oncology/Hematology, Kobe University Hospital, Kobe, ⁽⁶⁾ Medical Information Center, Kyushu University Hospital, Fukuoka, ⁽⁷⁾ Department of Urology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, Fukuoka, Japan) : A randomized multicenter phase II trial on the efficacy of a hydrocolloid dressing containing ceramide with a low-friction external surface for hand-foot skin reaction caused by sorafenib in patients with renal cell carcinoma. *Ann Oncol* 2014 ; 25 : 472-476.
- 4) Ye D, Eto M, Chung JS, Kimura G, Chang WC, Chang YH, Pang ST, Lee JL, Yuanjie N, Gurney H, Uemura H ⁽¹⁾ Department of Urology, Fudan University Shanghai Cancer Center, Shanghai, China, ⁽²⁾ Department of Urology, Kumamoto University, Kumamoto, Japan, ⁽³⁾ National Cancer Center, 323 Ilsan-ro, Ilsandong-gu, Goyang-si Gyeonggi-do, 410-769, Republic of Korea, ⁽⁴⁾ Department of Urology, Nippon Medical School Hospital, Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan, ⁽⁵⁾ Departments of Hematology-Oncology, Chang Gung Memorial Hospital, Taoyuan, Taipei, Taiwan, ⁽⁶⁾ Department of Surgery, Division of Urology Taipei-Veterans General Hospital, Taipei, Taiwan, ⁽⁷⁾ Department of Surgery, Division of Urology, Chang Gung Memorial Hospital, Kwei-Shan, Tao Yuan, Taiwan, ⁽⁸⁾ Department of Oncology, Urologic Oncology Section, University of Ulsan College of Medicine, Asan Medical Center, Seoul, South Korea, ⁽⁹⁾ The Second Hospital of Tianjin Medical

Hospital, Tianjin, China, ¹⁰⁾ Westmead Private Hospital, Westmead, New South Wales, Australia) : Use of Targeted Therapies for Advanced Renal Cell Carcinoma in Asia-Pacific : Opinion Statement From China, Japan, Taiwan, Korea, and Australia. *Clinical Genitourinary Cancer* 2014.

- 5) Jun A¹⁾, Yasutomo S¹⁾, Shunichiro N¹⁾, Masato Y¹⁾, Tsutomu H¹⁾, Go K¹⁾, Shuichi O²⁾, Yukihiro K¹⁾ (¹⁾ Department of Urology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Urology, Heiseitateishi Hospital) : A case report of squamous cell carcinoma of the renal pelvis producing granulocyte colony-stimulating factor. *International Cancer Conference Journal* 2014 ; 3 (1) : 19-23.
- 6) Jun A¹⁾, Yasutomo S¹⁾, Tsutomu H¹⁾, Go K¹⁾, Shuichi O²⁾, Yukihiro K¹⁾ (¹⁾ Department of Urology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Urology, Heiseitateishi Hospital) : Spindle cell sarcoma of the epididymis. *International Cancer Conference Journal* 2014 ; 3 (1).

(2) 総説 :

- 1) 大園誠一郎¹⁾, 江藤正俊²⁾, 木村 剛³⁾, 近藤恒徳⁴⁾, 赤座英之⁵⁾ (¹⁾ 浜松医科大学泌尿器科, ²⁾ 熊本大学泌尿器科, ³⁾ 日本医科大学泌尿器科, ⁴⁾ 東京女子医科大学泌尿器科, ⁵⁾ 東京大学先端科学技術研究センター) : 腎癌分子標的薬を再考する. *泌尿器外科* 2014 ; 27 : 87-94.
- 2) 木村 剛 : 1. ソラフェニブ, III. Five Years After Sorafenib Launching in Japan. *Year Book of RCC 2013* (編集 : 富田善彦 金山博臣 植村天受 篠原信雄) 2013.
- 3) 木村 剛 : 分子標的薬時代における 進行性腎細胞癌治療の現状と将来展望. *RCC Today* 2013 ; 10 : 3-6.

著 書

- 1) 鈴木康友, 木村 剛, 近藤幸尋 : [分担] 前立腺肥大. 高齢者総合診療ノート (大庭建三), 2014 ; pp302-306, 日本医事新報社.
- 2) 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科) : [分担] III 腹腔鏡手術・内視鏡補助下手術腹腔鏡下腎摘除術. 新版 泌尿器科 周術期管理のすべて (荒井陽一, 松田公志, 高橋 悟), 2013 ; pp160-165, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 木村 剛 : 進行性腎癌に対する薬物療法. Phase III 試験から学んだ Sequential Therapy の Evidence. 日中腎癌治療討論会 (札幌市), 2013. 4.

(2) シンポジウム :

- 1) 木村 剛 : 1st-line 薬剤の選択法. 第101回日本泌尿器科学会総会 (札幌市), 2013. 4.
- 2) 木村 剛 : 1st-line 薬剤の選択法. 「転移を有する腎癌」. 第101回日本泌尿器科学会総会 (札幌), 2013. 4.
- 3) 近藤幸尋¹⁾, 小川良雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科学, ²⁾ 昭和大学医学部泌尿器科学講座) : 今さら聞けない BPH 手術のコツと落とし穴. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第27回) (名古屋), 2013. 11.
- 4) 清水宏之¹⁾ (¹⁾ はせがわ病院泌尿器科) : 「TUEB (Transurethral enucleation with bipolar)」. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第27回) (名古屋), 2013. 11.
- 5) 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科) : 腹腔鏡下前立腺全摘除術における周術期合併症の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.

(3) パネルディスカッション :

- 1) 赤塚 純¹⁾, 木全亮二¹⁾, 野村俊一郎¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 大澤秀一²⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科, ²⁾ 平成立石病院泌尿器科) : 後腹膜繊維症に対する診断と治療経緯についての検討. 日本泌尿器科学会総会 (第101回) (札幌), 2013. 4.

- 2) 野村俊一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 稲津宏紀¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 抗癌剤動注化学療法が著効した膀胱尿路上皮癌 micropapillary variant の 1 例. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
 - 3) 武田隼人¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 腹腔鏡下前立腺全摘術にて治療したハイリスク前立腺癌の oncological outcome. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
 - 4) 松澤一郎¹⁾, 木全亮二²⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 腹腔鏡下前立腺全摘除術における PSA 再発の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
 - 5) 河原崎由里子¹⁾, 木全亮二²⁾, 新藤貴雄¹⁾, 蓑輪忠明¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 小串聡子¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 当院における腹腔鏡下腎盂形成術の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
 - 6) 新藤貴雄¹⁾, 木村 剛¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 大林康太郎¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 武田隼人¹⁾, 木全亮二²⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 大澤秀一²⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 平成立石病院泌尿器科) : 骨形成を伴った腎細胞癌の 2 例. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
 - 7) 齋藤友香¹⁾, 鈴木健太¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 佐藤三洋¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 当科における ESWL 抵抗結石術前因子の評価. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
 - 8) 柳 雅人¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 蓑輪忠明¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 武田隼人²⁾, 青木綾子¹⁾, 小串聡子¹⁾, 佐々木崇³⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 平成立石病院泌尿器科, 3) 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科) : BCG 膀胱内注入療法後の古典的 Reiter 症候群の 2 例. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
 - 9) 高橋 亮¹⁾, 木全亮二²⁾, 野村俊一郎¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 筋層浸潤性膀胱癌に対する抗癌剤動注療法の結果と検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
- (4) セミナー :
- 1) 木村 剛, 野澤昌弘¹⁾ (1) 近畿大学泌尿器科) : 後腹膜腫瘍に対するパゾパニブの可能性. 第 101 回日本泌尿器科学会総会 (札幌), 2013. 4.
- (5) ワークショップ :
- 1) 鈴木康友, 近藤幸尋 : 前立腺全摘術後尿失禁に対する bone anchored sling. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 27 回) (名古屋), 2013. 11.
 - 2) 近藤幸尋¹⁾, 斎藤忠則²⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科学, 2) 東京臨海病院 泌尿器科) : JSE 保険医療ワークショップ 患者目線の先端医療を保険制度下で実践するために : JSE からの提言. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 27 回) (名古屋), 2013. 11.
- (6) ポスター :
- 1) 濱崎 務¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 林 達郎¹⁾, 木全亮二²⁾, 高橋 亮¹⁾, 柳 雅人³⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院泌尿器科, 3) 博慈会記念総合病院泌尿器科) : 腹腔鏡下腹膜外アプローチ前立腺全摘術を選択した腹部手術既往のある 2 症例. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 27 回) (名古屋), 2013. 11.
 - 2) 濱崎 務¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 木全亮二²⁾, 高橋 亮¹⁾, 富田祐司²⁾, 林 達郎³⁾, 齋藤友香⁴⁾, 赤塚 純¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 青木綾子¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 北村山公立病院泌尿器科, 3) 博慈会記念総合病院泌尿器科, 4) 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科) : 当科における腹腔鏡下副腎摘出術の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.

(7) 一般講演：

- 1) 野村俊一郎, 高橋 亮, 木村 剛, 近藤幸尋, 寺崎美佳, 清水 章：動注化学療法を施行した膀胱尿路上皮癌症例における ERCC1 の発現と生存期間に関する検討。第 81 回日本医科大学医学会総会（東京），2013. 9.
- 2) 野村俊一郎, 高橋 亮, 寺崎美佳, 木村 剛, 清水 章, 近藤幸尋, 福田 悠：抗癌剤動注化学療法を施行した膀胱尿路上皮癌症例における ERCC1 の発現と生存期間に関する検討。第 102 回日本病理学会総会（札幌），2013. 6.
- 3) 野村俊一郎, 鈴木康友, 稲津宏紀, 河原崎由里子, 木全亮二, 松沢一郎, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋：抗癌剤動注化学療法が著効した膀胱尿路上皮癌 micropapillary variant の 1 例。第 101 回日本泌尿器科学会総会（札幌），2013. 4.
- 4) 野村俊一郎, 鈴木康友, 高橋 亮, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋：動注化学療法を施行した膀胱癌患者の生存に関する DYRK2 の発現の意義。第 51 回日本癌治療学会学術集会（京都），2013. 10.
- 5) Kimura G¹⁾, Mizuno R²⁾, Ueda T³⁾, Kondo T⁴⁾, Hara H⁵⁾, Shoji S⁶⁾, Nakazawa H⁷⁾, Tanabe K⁴⁾, Horie S⁸⁾, Oya M²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, Urology, Tokyo, Japan, ²⁾ Keio University School of Medicine, Urology, Tokyo, Japan, ³⁾ Chiba Cancer Center, Urology, Chiba, Japan, ⁴⁾ Tokyo Women's Medical University, Urology, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Kyorin University Hospital, Urology, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Tokai University Hachioji Hospital, Urology, Tokyo, Japan, ⁷⁾ Tokyo Women's Medical University Medical Center East, Urology, Tokyo, Japan, ⁸⁾ Juntendo University, Urology, Tokyo, Japan) : Baseline peripheral blood immune cells and inflammatory molecules predict progression free survival in metastatic renal cell carcinoma patients treated with first-line sunitinib. The European Cancer Congress (Amsterdam), 2013. 9.
- 6) Eto M¹⁾, Wada Y¹⁾, Hirao Y²⁾, Mita K³⁾, Arai Y⁴⁾, Kimura G⁵⁾, Shinohara N⁶⁾, Hinotsu S⁷⁾, Tatsugami K⁸⁾, Naito S (¹⁾ Kumamoto University, Urology, Kumamoto, Japan, ²⁾ Nara Medical University, Urology, Nara, Japan, ³⁾ Hiroshima City Asa Hospital, Urology, Hiroshima, Japan, ⁴⁾ Tohoku University, Urology, Sendai, Japan, ⁵⁾ Nippon Medical School, Urology, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Hokkaido University, Urology, Sapporo, Japan, ⁷⁾ Okayama University, Urology, Okayama, Japan, ⁸⁾ Kyushu University, Urology, Fukuoka, Japan) : Phase II clinical trial of sorafenib plus interferon-alfa treatment for patients with metastatic renal cell carcinoma in Japan. The European Cancer Congress 2013 (Amsterdam), 2013. 9.
- 7) Beer T¹⁾, Armstrong A²⁾, Sternberg C³⁾, Higano C⁴⁾, Iversen P⁵⁾, Loriot Y⁶⁾, Rathkopf D⁷⁾, Bhattacharya S⁸⁾, Carles J⁹⁾, De Bono J¹⁰⁾, Evans C, Joshua A, Kim C, Kimura G, Mainwaring P, et al. (¹⁾ Oregon Health & Science University-Knight Cancer Institute, Portland, OR, ²⁾ Duke Cancer Institute and the Duke Prostate Center, Division of Medical Oncology and Urology, Duke University, Durham, NC, ³⁾ San Camillo and Forlanini Hospital, Rome, Italy, ⁴⁾ University of Washington/Seattle Cancer Care Alliance, Seattle, WA, ⁵⁾ Department of Urology, Rigshospitalet, University of Copenhagen, Copenhagen, Denmark, ⁶⁾ Department of Medical Oncology, Institut Gustave Roussy, Villejuif, France, ⁷⁾ Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, New York, NY, ⁸⁾ Medivation, Inc., San Francisco, CA, ⁹⁾ Vall d'Hebron University Hospital, Barcelona, Spain, ¹⁰⁾ The Royal Marsden NHS Foundation Trust and The Institute of Cancer Research, Sutton, United Kingdom) : Enzalutamide in men with chemotherapy-naive metastatic prostate cancer (mCRPC) : Results of phase III PREVAIL study. ASCO Genitourinary Cancers Symposium (San Francisco), 2014. 1.
- 8) Ozono S¹⁾, Oyama M²⁾, Nozawa M³⁾, Fujimoto K⁴⁾, Kishida K⁵⁾, Tokuda N⁶⁾, Kimura G⁷⁾, Nishimura K⁸⁾, Matsubara A⁹⁾, Matsuyama H¹⁰⁾, Sugiyama T, Kamba T, Kume H, Masumori N, Oya M, et al. (¹⁾ Department of Urology, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu, Japan, ²⁾ Saitama Medical University International Medical Center, Saitama, Japan, ³⁾ Department of Urology, Kinki University Faculty of Medicine, Osaka-Sayama, Japan, ⁴⁾ Department of Urology, Nara Medical University, Kashihara, Japan, ⁵⁾

Department of Urology, Kanagawa Cancer Center Hospital, Yokohama, Japan, ⁶⁾ Department of Urology, Saga-ken Medical Centre Koseikan, Saga, Japan, ⁷⁾ Department of Urology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, ⁸⁾ Department of Urology, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, Osaka, Japan, ⁹⁾ Department of Urology, Institute of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University, Hiroshima, Japan, ¹⁰⁾ Department of Urology, Graduate School of Medicine, Yamaguchi University, Ube, Japan) : Multicenter phase II clinical trial of everolimus in Japanese patients with unresectable or metastatic renal cell carcinoma (mRCC) after failure of treatment with first-line tyrosine kinase inhibitor (TKI) therapy. ASCO Genitourinary Cancers Symposium (San Francisco), 2014. 2.

- 9) 鈴木康友, 齋藤友香, 小串聡子, 近藤幸尋 : 前立腺全摘術後の尿失禁に対するミニクイックアンカーとプロローリンメッシュを用いた bone anchored sling の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
- 10) 小串聡子¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 井上 泰¹⁾, 河野弘圭¹⁾, 箕輪忠明¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 青木綾子¹⁾, 高橋 亮¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 泌尿器科) : Docetaxel 不応性の前立腺癌に対して, Mitoxantrone が長期に有効であった 2 例. 日本泌尿器科学会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
- 11) 濱崎 務¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 腎腫瘍診断. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 78 回) (新潟), 2013. 10.
- 12) 中森央貴¹⁾, 木村 剛¹⁾, 大林康太郎¹⁾, 河野弘圭¹⁾, 野村俊一郎¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 武田隼人¹⁾, 中山聡子¹⁾, 高橋 亮¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : インターフェロン α ・ソラフェニブ併用療法が有効であった転移性淡明細胞癌の 2 症例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 614 回) (東京), 2014. 2.
- 13) 河野弘圭, 木村 剛, 大林康太郎, 中森央貴, 野村俊一郎, 赤塚 純, 武田隼人, 中山聡子, 高橋 亮, 齋藤友香, 藤原博通, 松澤一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋, その他 5 名 (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 再発した後腹膜脂肪肉腫摘除後の残存腫瘍に対しパゾパニブを投与した 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 613 回) (東京), 2013. 12.
- 14) 稲津宏紀¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 塩路 豪¹⁾, 三浦剛史¹⁾, 根本 勺¹⁾, 坪井成美¹⁾, 阿部裕行²⁾, 近藤幸尋³⁾, 山田隆⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, ²⁾ 神栖済生会病院, ³⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科) : 尿路上皮癌の子宮・膈内転移に対して放射線治療が有効であった 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 613 回) (東京), 2013. 12.
- 15) 大林康太郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 大橋隆治²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学付属病院病理部) : 顕著なリンパ管侵襲を示した腎淡明細胞癌の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 612 回) (東京), 2013. 6.
- 16) 稲津宏紀¹⁾, 堀内崇真¹⁾, 徳永まゆ子¹⁾, 饒村静枝¹⁾, 村田太郎¹⁾, 富田京一¹⁾, 石川 操²⁾, 熊坂利夫²⁾ (¹⁾ 日本赤十字医療センター, ²⁾ 日本赤十字医療センター病理部) : 右水腎症を伴った卵巣静脈原発平滑筋肉腫の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 612 回) (東京), 2013. 6.
- 17) 中森央貴¹⁾, 武田隼人¹⁾, 井上 泰¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 尿道 nephrogenic adenoma-like clear carcinoma の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 612 回) (東京), 2013. 6.
- 18) 清水宏之¹⁾, 長谷川潤¹⁾, 沖 守²⁾ (¹⁾ はせがわ病院, ²⁾ 守成会クリニック) : 推定体積 50ml 以上の前立腺肥大症に対する TUEB (Transurethral Enucleation with Bipolar) の長期成績. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
- 19) Takeda H¹⁾, Shimizu H²⁾, Suzuki Y¹⁾, Oki M³⁾, Hasegawa J²⁾, Kondo Y¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, ²⁾ Hasegawa Hospital, ³⁾ Seishukai Clinic) : Transurethral enucleation with bipolar (TUEB) for prostates over

50ML : a single center experience. 31st WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY (New Orleans, Louisiana, USA), 2013. 10.

- 20) 武田隼人¹⁾, 木村 剛¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院) : 術前補助スニチニブ療法が奏効し両側腎温存し得た両側腎淡明細胞癌の1例. 日本癌治療学会学術集会 (第51回) (京都),
- 21) Yuka S¹⁾, Yasutomo S¹⁾, Yukihiro K¹⁾ (¹⁾ Department of Urology Nippon Medical School, Tokyo Japan) : SHORT-TERM EFFECTS OF AZILSARTAN FOR NOCTURNAL POLYURIA : A CASE REPORT. THE INTERNATIONAL UROLOGICAL CONFERENCE OF TAIWAN THE 23rd Annual Meeting (台湾 高雄), 2013. 8.
- 22) 鈴木康友¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科学) : 術前補助スニチニブが奏功した下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎淡明細胞癌の1例. 日本癌治療学会学術集会 (第51回) (京都), 2013. 10.
- 23) 柳 雅人¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 経尿道的前立腺剝離切除術に外照射を追加し膀胱温存を図った前立腺部尿道癌の1例. 日本癌治療学会学術集会 (第51回) (京都), 2013. 10.
- 24) 赤塚 純¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 腎部分切除後に下大静脈内進展を来した再発性腎細胞癌の1例. 日本癌治療学会学術集会 (第51回) (京都), 2013. 10.
- 25) 三神 晃¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : MR Urography が診断に有用であった腎盂腎杯憩室内尿路上皮癌の1例. 日本癌治療学会学術集会 (第51回) (京都), 2013. 10.
- (8) 座長 :
 - 1) 鈴木康友¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 前立腺肥大症/手術1. 日本泌尿器科学会総会 (第101回) (札幌), 2013. 4.
- (9) Chairs :
 - 1) Yukihiro K¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School) : Management of Early-Stage Prostate Cancer. THE 4TH CONGRESS OF ASIAN PACIFIC PROSTATE SOCIETY (Okinawa, Japan), 2014. 3.
- (10) Moderators : :
 - 1) Yukihiro K¹⁾ (¹⁾ Department of Urology Nippon Medical School, Tokyo Japan) : M17-M25 討論会. The 23rd Annual Meeting of the Taiwan International Urological Conference (台湾 高雄), 2013. 8.
- (11) Poster Session :
 - 1) Hayato T¹⁾, Ichiro M¹⁾, Yasutomo S¹⁾, Tsutomu H¹⁾, Go K¹⁾, Yukihiro K¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School) : The Role of Radical Laparoscopic Prostatectomy for High Risk Prostate Cancer as a First Line Therapy. THE 4TH CONGRESS OF ASIAN PACIFIC PROSTATE SOCIETY (Okinawa, Japan), 2014. 3.
 - 2) Jun A¹⁾, Hiroki N¹⁾, Hayato T¹⁾, Yasutomo S¹⁾, Go K¹⁾, Yukihiro K¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School) : The Efficacy of Perflubutane-Enhanced Transrectal Ultrasonography on Prostate Biopsy in Cases of Negative Digital Rectal Examination. THE 4TH CONGRESS OF ASIAN PACIFIC PROSTATE SOCIETY (Okinawa, Japan), 2014. 3.
- (12) シンポジウム4 : 座長 :
 - 1) 長井辰哉¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (¹⁾ 豊橋市市民病院泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 腎・膀胱・前立腺「ミニマム創内視鏡手術による前立腺摘出術の最前線」. 日本小切開・鏡視外科学会 (第26回) (東京), 2013. 11.
- (13) デイベート2 :
 - 1) 濱崎 務¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 「TUR-Bt : どう攻める?」. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第27回) (名古屋), 2013. 11.
- (14) デイベート2 座長 :
 - 1) 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科) : 「腎癌に対する腹腔鏡手術」「TUR-Bt : どう攻める?」「腹腔鏡下ドナー腎癌」. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第27回) (名古屋), 2013. 11.

- 2) 近藤幸尋¹⁾, 小川良雄²⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科学, 2) 昭和大学医学部泌尿器科学): 前立腺全摘除術: 拡大手術における議論. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 78 回) (新潟), 2013. 10.
- (15) ポスター 1: 座長:
- 1) 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科): 前立腺. 泌尿器科分子・細胞研究会 (第 23 回) (山形), 2014. 3.
- (16) ランチョンセミナー 10:
- 1) 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科学): 今からはじめる TUL. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 27 回) (名古屋), 2013. 11.
- (17) 一般演題口演 座長:
- 1) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科学): 腎腫瘍/薬物療法 1. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
- (18) 一般口演 10 座長:
- 1) 木村 剛¹⁾, 久米晴喜²⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科学, 2) 東京大学医学部泌尿器科): 上部尿路腫瘍. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 78 回) (新潟), 2013. 10.
- (19) 口演 42 座長:
- 1) 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科学講座): 腎・尿路・膀胱 手術療法 2. 日本癌治療学会学術集会 (第 51 回) (京都), 2013. 10.
- (20) 総会賞ビデオ 5:
- 1) 佐野雅之¹⁾, 根本 勺¹⁾, 武田隼人²⁾, 塩路 豪¹⁾, 坪井成美¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科): 膀胱内に迷入した子宮内避妊具を内視鏡的に治療し得た 1 例. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 27 回) (名古屋), 2013. 11.
- (21) 総会賞応募ポスター 座長:
- 1) 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科学): 前立腺癌: 治療. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
- (22) 追加発言:
- 1) 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科): 前立腺全摘除術の今後. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 26 回) (東京), 2013. 11.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 木村 剛: 精巣腫瘍. 特集: 泌尿器疾患の病態と診断・治療 (I). 医学と薬学 1013: 70 (1): 37-51.

[武蔵小杉病院泌尿器科]

研究概要

当科では現在, 尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石, 尿路感染症, 前立腺肥大症などの排尿障害を中心に診療および臨床的研究を行っている. 特筆すべきものを以下に示す. 1) 前立腺癌に対しては, 現在, 局所麻酔下での前立腺生検を行っている. 局所麻酔下でも患者さんの苦痛の軽減がはかれるよう鎮静薬剤の導入を含め検討を行っている. 2) 筋層浸潤性膀胱癌に関しては, 術前動注化学療法を導入することにより, その治療の安全性および効果, 膀胱温存の可能性についても検討している. 3) 尿管結石の保存的治療については $\alpha 1$ ブロッカーを併用した治療を行い, 自然排石向上の可能性を調査している. 4) 下部尿路症状 (LUTS) や過活動膀胱 (OAB) に対して, 国際前立腺症状スコ

ア (IPSS) や過活動膀胱症状スコア (OABSS) および尿流動態検査を実施して各種内服における治療効果を判定している。5) 性感染症に関しては、当院における、地域的特性について調査している。6) その他、稀な症例については適宜症例報告をすることに努めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 堀内和孝, 中田瑛浩¹⁾, 山越民康²⁾, 河原崎由里子, 富田祐司, 木全亮二, 近藤幸尋³⁾ (1) 栗山中央病院泌尿器科, 2) 栗山中央病院放射線科, 3) 日本医科大学泌尿器科学) : 腎血管病変における 3DCT の有用性. 日本医科大学医学雑誌 2013 ; 9 (3) : 150-151.
- 2) Takahashi R¹⁾, Kimata R, Hamasaki T¹⁾, Kawarasaki Y, Kondo Y¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School) : Memokath (TM) Urethral Stents Induce Incontinence in Patients with Urethral Balloon Catheters. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (6) : 433-437.
- 3) Nomura S¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Takahashi R¹⁾, Terasaki M²⁾, Kimata R, Hamasaki T¹⁾, Kimura G¹⁾, Shimizu A²⁾, Kondo Y¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School, 2) Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Snail expression and outcome in T1 high-grade and T2 bladder cancer : a retrospective immunohistochemical analysis. BMC Urology 2013 ; 13 (1) : 73-73.
- 4) Murata S¹⁾, Onozawa S¹⁾, Kim C²⁾, Tajima H¹⁾, Kimata R, Uchida E³⁾, Kumita S¹⁾ (1) Department of Radiology/Center for Advanced Medical Technology ,Nippon Medical School, 2) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, 3) Department of 1st Surgery, Nippon Medical School) : Negative-balance isolated pelvic perfusion in patients with incurable symptomatic rectal cancer : results and drug dose correlation to adverse events. Acta Radiologica 2013.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 河原崎由里子, 木全亮二, 新藤貴雄¹⁾, 箕輪忠明¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 小串聡子¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 当院における腹腔鏡下腎盂形成術の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回) (札幌), 2013. 4.
- 2) 濱崎 務¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 林 達郎¹⁾, 木全亮二, 高橋 亮¹⁾, 柳 雅人²⁾, 松沢一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 博慈会記念総合病院) : 腹腔鏡下腹膜外アプローチ前立腺全摘術を選択した腹部手術既往のある 2 症例. 日本泌尿器科内視鏡学会総会 (第 27 回) (名古屋), 2013. 11.
- 3) 堀内和孝, 木全亮二, 富田祐司, 河原崎由里子 : 川崎市におけるミラベグロンの初期治療成績について. 第 2 回川崎市泌尿器科医会 (川崎市), 2014. 3.

追加一般講演：

- 1) 高久雅年¹⁾, 加藤文宜¹⁾, 小宇田由佳¹⁾, 朝比奈諒¹⁾, 坂田文枝¹⁾, 名和真弓¹⁾, 中田瑛浩¹⁾, 萬谷嘉明¹⁾, 堀内和孝 (1) 栗山中央病院透析センター) : 血液透析患者の腎性貧血に対するミルセラの有効性と安全性の検討. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 57 回) (札幌), 2012. 6.
- 2) 小宇田由佳¹⁾, 朝比奈諒¹⁾, 坂田文枝¹⁾, 名和真弓¹⁾, 中島康代¹⁾, 中田瑛浩¹⁾, 萬谷嘉明¹⁾, 堀内和孝 (1) 栗山中央病院透析センター) : 難治性褥瘡を有する血液透析患者に対する V.A.C.ATS (Vacuum Assisted Closure Advanced Therapy System) と食事療法が有効であった 1 例. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 57 回) (札幌), 2012. 6.

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科では感染症、結石から神経疾患、腫瘍を中心に診察、研究を行っているが、特筆すべき点を列記する。1) 尿路感染症：扱う感染症は急性単純性膀胱炎から閉塞性腎盂腎炎まで重症度は多岐に亘る一方、起炎菌側の問題として抗生剤に対する耐性化がある。耐性化傾向の検討も含め最適な治療法を研究している。2) 尿路結石：内視鏡下手術の他、体外衝撃波結石粉碎術も行い臨床的検討を行っている。3) 排尿障害：施設入所中の全介助を要する排尿障害を伴った症例への対応として尿道ステントを積極的に用い、その有用性を検討している。4) 前立腺癌：手術、放射線による治療も行っているが、内分泌治療法の適応となった症例に対してはその副作用、特に糖・脂質代謝異常、骨密度の減少について検討を行い合併症の予防に役立てている。5) 膀胱癌：浸潤性膀胱癌に対しては化学療法と放射線照射の併用療法にて膀胱温存を図っている。6) 女性尿失禁、骨盤臓器脱：保存的治療無効の場合は外科的治療を施行し、手術の有効性を検討している。また腹圧性尿失禁のみならず、切迫性尿失禁と臓器脱の関連を研究している

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 佐々木崇, 佐藤三洋, 鈴木健太, 齋藤友香, 近藤幸尋：当科外来患者の尿より分離されたキノロン耐性大腸菌の検討. 日本泌尿器科学会総会（第101回）（北海道札幌市），2013. 4.
- 2) 鈴木健太, 齋藤友香, 佐々木崇, 佐藤三洋：当院における尿路結石に対するESWLの治療成績. 日本泌尿器科学会総会（第101回）（北海道札幌市），2013. 4.
- 3) 齋藤友香, 鈴木健太, 佐々木崇, 佐藤三洋, 近藤幸尋：当科におけるESWL抵抗結石術前因子の評価. 日本泌尿器科学会総会（第101回）（北海道札幌市），2013. 4.

[千葉北総病院泌尿器科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 根本 勺¹⁾, 石館卓三²⁾：排尿障害を受診動機とする包茎を合併した高齢者乾燥性閉塞性龟头炎の治療経験. 泌尿器科紀要 2013；(59)：341-346.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 根本 勺, 貝津俊英¹⁾, 塩路 豪, 遠藤勇氣²⁾, 三浦剛史, 阿部裕行³⁾, 岡田 進¹⁾, 坪井成美（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 放射線科, ²⁾ 那須赤十字病院 泌尿器科, ³⁾ 神栖済生会病院 泌尿器科）：局所前立腺癌に対するホルモン放射線療法の治療成績. 日本泌尿器科学会総会（第101回）（札幌），2013. 4.
- 2) 佐野雅之, 塩路 豪, 飯ヶ谷重来, 三浦剛史, 根本 勺, 阿部裕行¹⁾, 坪井成美, 近藤幸尋²⁾（¹⁾ 神栖済生会病院 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科）：日本医科大学千葉北総病院におけるTULの臨床的検討. 千葉泌尿器科集談会（第99回）（千葉），2013. 6.
- 3) 塩路 豪, 川俣博志¹⁾, 佐野雅之, 飯ヶ谷重来, 三浦剛史, 根本 勺, 坪井成美（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科）：当院における腎細胞癌に対する腎動脈塞栓術の短中期的効果の検討. 日本泌尿器科学会東部総会（第

78回) (新潟), 2013. 10.

- 4) 佐野雅之, 根本 勺, 武田隼人¹⁾, 塩路 豪, 坪井成美, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 膀胱内に迷入した子宮内避妊具を内視鏡的に治療し得た1例. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第27回) (名古屋), 2013. 11.
- 5) 稲津宏紀, 飯ヶ谷重来, 塩路 豪, 三浦剛史, 根本 勺, 坪井成美, 近藤幸尋¹⁾, 阿部裕行²⁾, 山田 隆³⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科, ²⁾ 神栖済生会病院 泌尿器科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 女性診療科) : 尿路上皮癌の子宮・膣内転移に対して放射線治療が有効であった1例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第613回) (東京), 2013. 12.

23. 眼科学

[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]

研究概要

前眼部分野では、角膜創傷治癒促進因子としてのPPAR- γ に関する研究が継続された（高橋）。ドライアイ関連では涙液浸透圧との関連に関する基礎・臨床研究が継続された（高橋・五十嵐）。前眼部の知覚に関連して、東海光学との共同研究で、fNIRS（機能的近赤外線分光法）による羞明感の他覚的計測が継続され、網膜色素変性、ドライアイ、視神経疾患、眼瞼痙攣症例で予定症例の約6割を終了した（小野）。白内障手術に関連しては、白内障手術で用いる超音波乳化吸引装置における術中の前房温度変化を調べ検討した。また、機器の設定の違いや、術中に使う粘弾性物質の種類の違いによる前房温度変化も調べ、術中の角膜内皮保護における有用性を検討した。眼内レンズの安定性や後発白内障の予防についての確かなCCCを作成することが重要であるため、レジデントの手術教育において水晶体へ直接にマーキングできる手術器具の教育的効果を検討した。白内障手術機器における2つのポンプシステム、ベンチュリーポンプとペリスタルティックポンプの違いによる術中の灌流液や粘弾性物質の挙動を調べた（鈴木）。ぶどう膜分野では、原田病を中心としたぶどう膜炎の臨床、基礎研究が継続された。原田病患者さん前房内浸潤T細胞からT cell receptorを分離、そのアミノ酸配列を決定した。これらT cell receptorの比率、病期別にT cellの特徴を解析するためにSingle cell R-PCRにてT cell receptorを決定している。また原田病患者さん前房内浸潤T細胞の表面抗原解析を行い、病期、予後、治療効果の判定に活用できるか否かを検討している（山木）。臨床研究として「眼炎症性疾患の臨床統計」と「強膜炎の臨床統計と治療成績」の検討を行った。基礎研究として「新規の免疫制御分子による眼炎症抑制」および「関節リウマチに随伴する強膜炎と角膜炎のモデル作成」をおこなった（堀）。網膜分野では、常染色体優性視神経萎縮の4症例6家系で新規遺伝子変異を含むOPA1遺伝子異常を明らかにした。これらの遺伝子異常が明らかとなった症例において、微小嚢胞様黄斑浮腫（Microcystic Macular Edema：MME）、について補償光学眼底カメラで解析を行い、MMEのen-face画像を世界ではじめて明らかにし、これを論文として報告した（亀谷・後町）。また、アデノ随伴ウイルス（AAV）タイプ8の眼科的投与方法の違いによる遺伝子導入効率と発現期間の検討およびVEGFのsiRNAを発現させるAAVタイプ8ベクターを用いて、マウス脈絡膜新生血管モデルにおいて新生血管抑制効果を認めた成果が英文誌に掲載された（五十嵐）。緑内障関連では、臨床研究テーマである「眼圧変動」については、広義原発開放隅角緑内障における仰臥位眼圧上昇幅に影響する因子について研究、発表した（中元）。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shimmura-Tomita M, Wang M, Taniguchi H, Akiba H, Yagita H, Hori J : Galectin-9- mediated protection fromallo- specific T cells as a mechanismof immune privilege of corneal allografts. PLoS One 2013 ; 7 (8) : 1-11.
- 2) Kunishige T, Hori J : Immune privilege as new therapeutic strategies for success of corneal transplantattion. Inflammation and Regeneration 2013 ; 33 (5) : 274-282.
- 3) 一戸 唱, 五十嵐勉, 藤本千明, 飯島 修, 小野真史, 高橋 浩 : 自発的開瞼維持による涙液浸透圧の変化. あたらしい眼科 2014 ; 31 (2) : 257-259.
- 4) Igarashi T, Miyake K, Asakawa N, Miyake N, Shimada T, Takahashi H : Direct comparison of the administration routes for AAV8-mediated ocular gene therapy. Current eye research 2013 ; 38 (5) : 569-577.
- 5) Igarashi T, Igarashi T, Shimizu A, Itoh Y : Intravenous cyclophosphamide pulse therapy in Japanese children

with systemic lupus erythematosus. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (5) : 396-400.

- 6) Igarashi T, Shimizu A, Igarashi T, Hanaoka K, Yoshizaki K, Shigemori T, Shimizu S, Komeichi H, Itoh Y : Seroconversion of hepatitis B envelope antigen by entecavir in a child with hepatitis B virus-related membranous nephropathy. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (5) : 387-395.
- 7) Igarashi T, Shimizu A, Yamaguchi H, Fukushima Y, Igarashi T, Takahashi H : A definitive diagnosis of mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma made at a second biopsy examination. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (6) : 475-480.
- 8) Uchiyama M, Shimizu A, Masuda Y, Nagasaka S, Takahashi H : An ophthalmic solution of a peroxisome proliferator-activated receptor gamma agonist prevents corneal inflammation in a rat alkali burn model. Molecular Vision 2013 ; 19 (1) : 2135-2150.
- 9) 鈴木久晴 : 角膜内皮細胞密度と角膜形状解析. 眼科グラフィック 2013 ; 2 (4) : 388-393.

(2) 総説 :

- 1) 木下 茂¹⁾, 天野史郎²⁾, 井上幸次³⁾, 大橋裕一⁴⁾, 高橋 浩, 坪田一男⁵⁾, 西田幸二⁶⁾ (¹⁾ 京都府立医科大学眼科学教室, ²⁾ 東京大学医学部眼科学教室, ³⁾ 鳥取大学医学部視覚病態学, ⁴⁾ 愛媛大学医学部眼科学講座, ⁵⁾ 慶應義塾大学医学部眼科学教室, ⁶⁾ 大阪大学医学部眼科学教室) : 角膜内皮障害の重症度分類. 日本眼科学会雑誌 2014 ; 118 (2) : 81-83.
- 2) 堀 純子 : やさしい目できびしい目で. 臨床眼科 2014 ; 68 (2) : 189-189.
- 3) 一戸 唱, 中元兼二 : 私の緑内障薬チョイス ルミガン. あたらしい眼科 2013 ; 30 (10) : 1401-1402.

著 書

- 1) 高橋 浩 : [分担] 带状角膜変性. 眼科疾患・最新の治療 2013-2015 (大橋裕一, 白神史雄), 2013 ; pp125-125, 南江堂.
- 2) 高橋 浩 : [分担] 炎症を中心に置く米国のドライアイの考え方とその治療. 眼科診療クオリファイ・ドライアイスペシャリストへの道 (横井則彦), 2013 ; pp233-237, 中山書店.
- 3) 高橋 浩 : [分担] ステロイド点眼はドライアイの治療に有効なのでしょうか?. 眼科診療クオリファイ・ドライアイスペシャリストへの道 (横井則彦), 2013 ; pp241-242, 中山書店.
- 4) 高橋 浩 : [分担] 白内障. 今日の治療指針 (福井次矢, 高木誠, 小室一成), 2014 ; pp1322-1322, 医学書院.
- 5) 高橋 浩 : [分担] 水晶体脱臼. 眼科診療クオリファイ・眼救急疾患スクランブル (坂本泰二), 2014 ; pp63-65, 中山書店.
- 6) 芹澤元子, 堀 純子 : [分担] 各論-前眼部疾患-強膜疾患-炎症-強膜炎. 眼科疾患最新の治療 2013-2015 (大橋裕一), 2013 ; pp138-138, 南江堂.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 高橋 浩 : ドライアイ・疾患概念と治療の考え方. 千代田眼科医学会学術講演会 (東京), 2013. 5.
- 2) 高橋 浩 : ドライアイにおける炎症の考え方. Symposium of Ocular Surface and Infection (第11回) (大阪), 2013. 5.
- 3) 高橋 浩 : 第17回難儀な手術シリーズ. 千駄木フォーラム (第18回) (東京), 2013. 7.
- 4) 高橋 浩 : ドライアイ・疾患概念と治療の考え方. 文京区・荒川区合同学術講演会 (東京), 2013. 7.
- 5) 高橋 浩 : 結膜疾患の基本と診断. 平成25年度東京都眼科医学会卒後研修会 (東京), 2013. 8.
- 6) 高橋 浩 : ドライアイと炎症の関連. Dry Eye Symposium 2013 in 東京 (東京), 2013. 9.
- 7) Takahashi H : Phacoemulsification and corneal endothelial damage. Annual Symposium of Yonsei Eye- ENT

Hospital (ソウル), 2013. 9.

- 8) 高橋 浩：角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. 北大阪眼科フォーラム (第6回) (大阪), 2013. 10.
 - 9) 高橋 浩：結膜疾患の基本と診断. 足立区眼科講演会 (東京), 2013. 11.
 - 10) 高橋 浩：第18回難儀な手術シリーズ. 千駄木フォーラム (第19回) (東京), 2013. 12.
 - 11) 高橋 浩：ドライアイ・疾患概念と治療の考え方. いわて眼科セミナー (岩手 (盛岡)), 2013. 12.
 - 12) 堀 純子：強膜炎診療の現状と展望. 四国 Eye ランドセミナー (第7回) (香川県 (高松)), 2013. 4.
 - 13) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. 両毛地区眼科学術講演会 (栃木), 2013. 5.
 - 14) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. 武蔵野緑内障連携の会 (第7回) (東京), 2013. 6.
 - 15) 中元兼二：緑内障診療における OCT 活用法と薬物治療の進め方. 2013 Pfizer Glaucoma Caravan in 東海 (愛知), 2013. 6.
 - 16) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. 京滋眼科診療フォーラム (第8回) (京都), 2013. 6.
 - 17) 中元兼二：緑内障薬物治療の実際と限界：手術治療適応の考え方. 中央区眼科学術勉強会 (東京), 2013. 7.
 - 18) 中元兼二：緑内障長期管理のノウハウ. 八戸緑内障講演会 (青森), 2013. 9.
 - 19) 中元兼二：Ex-Press の使用経験 (演題1). Sendagi Ophthalmic Seminar (第2回) (東京), 2013. 9.
 - 20) 中元兼二：アイファガン・ルミガン その優れた個性の活かし方. アイファガン点眼液1周年 ルミガン点眼液4周年 記念講演会 (静岡), 2013. 9.
 - 21) 中元兼二：緑内障の診断と治療：OCT の活用法と薬物治療の進め方 (特別講演1). 茨城眼科セミナー (第6回) (茨城), 2013. 10.
 - 22) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. 日本橋眼科医会 学術講演会 (東京), 2013. 11.
 - 23) 中元兼二：OCT を用いた緑内障診断と管理. 文京区眼科医会 眼底読影勉強会 (第3回) (東京), 2013. 11.
 - 24) 中元兼二：この症例どう診ますか?. TGR ジョイントカンファランス (東京), 2013. 11.
 - 25) 中元兼二：アドヒアランスも考慮した緑内障薬物治療戦略. 東京都眼科医会研修会 (第44回) (東京), 2013. 12.
 - 26) 中元兼二：アドヒアランスも考慮した緑内障薬物治療戦略. アルコン テレフォンカンファレンス (東京), 2013. 12.
 - 27) 鈴木久晴：角膜にやさしい白内障手術の実現. Bunkyo Ophthalmology Conference (第1回) (東京), 2013. 5.
 - 28) 鈴木久晴：白内障手術の基本手技検討会. 神奈川コルニアフェイコセミナー (第1回) (神奈川), 2013. 5.
 - 29) 鈴木久晴：低侵襲の白内障手術. サージャンの会 (第1回) (神奈川), 2013. 11.
 - 30) 鈴木久晴：日本医大武蔵小杉病院の IOL 選択方法. 多焦点 IOL 勉強会 (第2回) (東京), 2014. 3.
- (2) 招待講演：
- 1) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. 順天堂大学浦安眼科サマーセミナー (第1回) (千葉), 2013. 8.
- (3) 教育講演：
- 1) 小野真史：ドライアイとは. ドライマウス講習会 (第21回) (東京), 2013. 4.
 - 2) 小野真史：職場での疲れ目：眼精疲労に関連する多くの疾患. 日本医科大学医師会産業医研修会 (東京), 2013. 7.
 - 3) 小野真史：コーチングとは何か, そして医療安全への応用. 日本医療マネジメント学会医療安全分科会 (東京), 2013. 11.
 - 4) 小野真史：コーチングの基本 傾聴・承認. メディカル・コーチング研修会 (東京), 2014. 2.
 - 5) 小野真史：コーチングの基本 実践. メディカル・コーチング研修会 (東京), 2014. 2.
- (4) シンポジウム：
- 1) 外園千恵¹⁾, 堀 純子, 佐佐木香る²⁾, 神野早苗³⁾, 篠崎和美⁴⁾, 片上千加子⁵⁾, 高村悦子⁴⁾ (¹⁾ 京都府立医科大

学 眼科学教室, 2) 星ヶ丘厚生年金病院 眼科, 3) かの眼科クリニック, 4) 東京女子医科大学 眼科, 5) ツカザキ病院 眼科) : やさしい角結膜感染症クリニック : 防ぐ, 見抜く, 治す, 術後角膜感染症. 日本臨床眼科学会 (第 67 回) (神奈川県 (横浜)), 2013. 11.

- 2) 鈴木久晴 : 最新の眼内レンズ, 「6, 白内障手術—温故知新—」サブスペシャリティ—サンデー. 日本眼科学会総会 (第 117 回) (東京), 2013. 4.
- 3) 鈴木久晴 : オゾン水による消毒効果, 術後眼内炎・医原性感染症予防～滅菌. 消毒の認識. 日本眼科手術学会学術総会 (第 37 回) (京都), 2014. 1.

(5) セミナー :

- 1) 中元兼二 : これって緑内障? 症例検討会 (イブニング・セミナー). 日本臨床眼科学会 (第 67 回) (東京), 2013. 10.
- 2) 中元兼二 : 緑内障治療 単剤併用 vs 配合剤 (モーニンググルズス). 日本臨床眼科学会 (第 67 回) (東京), 2013. 11.
- 3) 國重智之 : あなたも \$ 知りオネア! 6. フォーサム 2013 大阪 (大阪), 2013. 7.
- 4) 國重智之 : 国内遠隔地医療協力と遠隔医療 八丈島における白内障手術. 日本眼科手術学会総会 (第 37 回) (京都), 2014. 1.
- 5) 鈴木久晴 : 患者選択, 術者の心構え, 「白内障手術基礎の基礎 (レジデント教育について)」。JSCRS 学術総会 (第 28 回) (千葉), 2013. 6.
- 6) 鈴木久晴 : 白内障手術の基本手技～核処理～, 白内障手術の基本手技. 日本眼科手術学会学術総会 (第 37 回) (京都), 2014. 1.
- 7) 鈴木久晴 : Accommodating IOL Trifocal IOL, ASCRS レビューセミナー. ASCRS (アメリカ サンフランシスコ), 2013. 4.
- 8) 鈴木久晴 : 私のこだわり～超音波装置～ : 本音とはやり, モーニングセミナー. JSCRS ウインターセミナー (第 2 回) (東京), 2013. 12.
- 9) 鈴木久晴 : OVD について : 全方位白内障手術? 全てのオプションを使いこなす, フェアウェルセミナー. JSCRS ウインターセミナー (第 2 回) (東京), 2013. 12.
- 10) 鈴木久晴 : ベンチュリーポンプによる PEA は角膜内皮保護に有効か? : ポンプ巖流島 ベリスタ対ベンチュリー ランチョンセミナー 4. 日本眼科手術学会学術総会 (第 37 回) (京都), 2014. 1.

(6) 一般講演 :

- 1) Kunishige T, Taniguchi H, Ohno T¹⁾, Azuma M, Hori J (¹⁾ Department of Molecular Immunology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan.) : V-domain Ig suppressor of T cell activation (VISTA) is necessary for corneal allograft survival. ARVO (Seattle, WA, USA), 2013. 5.
- 2) Taniguchi H, Kitahara Y, Hori J : Induction of Corneal Inflammation in the Collagen-Induced Scleritis Model. ARVO (Seattle, WA, USA), 2013. 5.
- 3) Igarashi T, Miyake K, Miyake N, Iijima O, Yaguchi C, Shimada T, Takahashi H : Adeno-associated vector (type 8) -mediated expression of siRNA targeting vascular endothelial growth factor efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. American society of gene therapy.(Salt lake city), 2013. 5.
- 4) Igarashi T, Miyake N, Iijima O, Yaguchi C, Shimada T, Takahashi H, Miyake K : siRNA targeting vascular endothelial growth factor by adeno-associated vector (type 8) efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. Japan society of gene therapy (18th) (Okayama (岡山県)), 2013. 6.
- 5) Iijima O, Miyake K, Nakamura A, Igarashi T, Kanokoda C, Watanabe A, Shimada T : Bone Marrow Cell

Based Enzyme Replacement Prolongs Survival and Improves Disease Phenotypes In a Mouse Model Of Lethal Hypophosphatasia. American society of hematology (New Orleans), 2013. 12.

- 6) Serizawa M, Kunishige T, Ito Y, Tsukada R, Takahashi H, Taniguchi H, Hori J : Incidence of Endogenous Intraocular Inflammation in the central Tokyo of Japan for 8 years from 2004 to 2012. ARVO (Seattle, WA, USA), 2013. 5.
- 7) 國重智之, 堀 純子 : 眼炎症性疾患における続発緑内障の臨床統計. 日本臨床眼科学会 (第 67 回) (神奈川県 (横浜)), 2013. 11.
- 8) 中元兼二, 里 誠, 安田典子, 高橋 浩 : 広義原発開放隅角緑内障患者における全身疾患の有病率. 日本眼科学会総会 (第 117 回) (東京), 2013. 4.
- 9) 國重智之, 谷口ヒロ子, 堀 純子, 大野建州¹⁾, 東みゆき¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学) : 角膜移植の生着における V-domain Ig Suppressor of T Cell Activation (VISTA) の役割. 日本眼炎症学会 (第 47 回) (大阪), 2013. 7.
- 10) 中元兼二, 安田典子, 高橋 浩 : 広義原発開放隅角緑内障における仰臥位眼圧上昇幅に影響する因子. 日本緑内障学会 (第 24 回) (東京), 2013. 9.
- 11) 有馬武志, 芹澤元子, 國重智之, 高橋 浩, 堀 純子 : CREST 症候群に随伴した上強膜炎の 1 例. 日本眼炎症学会 (第 47 回) (大阪), 2013. 7.
- 12) 芹澤元子, 伊藤由紀子, 塚田玲子, 高橋 浩, 堀 純子 : 日本医科大学付属病院眼科における 8 年間の眼炎症性疾患の統計的観察. 日本眼科学会総会 (第 117 回) (東京), 2013. 4.
- 13) 高橋和久, 若山久仁子, 高橋 浩, 堀 純子 : 日本医科大学付属病院における強膜炎の臨床像と治療成績に関する統計的観察. 日本眼科学会総会 (第 117 回) (東京), 2013. 4.
- 14) 谷口ヒロ子, 王 明聡, 北原由紀, 中島敦夫¹⁾, 堀 純子 (¹⁾ 東京警察病院 リウマチ科) : コラーゲン誘導性強膜炎モデルにおける角膜病変の誘導. 日本眼科学会総会 (第 117 回) (東京), 2013. 4.
- 15) 中元兼二 : 緑内障診療における OCT 活用法と薬物治療の進め方. 江戸川区眼科医学会学術講演会 (東京), 2013. 10.
- 16) 永長周一郎, 品川 隆, 金川有紗, 川上路華, 小野眞史 : 医科歯科連携による口腔機能管理 (オーラルマネジメント) : PLP ならびに PAP を装着した構音・嚥下障害の 2 例. 日本リハビリテーション医学会学術集会 (第 50 回) (東京), 2013. 6.
- 17) 阿曾亮子, 藤倉輝道, 野村 務, 吉田大蔵, 小野眞史, 野呂林太郎, 吉村明修 : 日本医科大学の臨床実習におけるクリニカル・シミュレーション・ラボの活用. 日本シミュレーション医療教育学会 (第 1 回) (新潟), 2013. 7.
- 18) 小野眞史, 鈴木雅也, 熊谷直也, 高橋 浩 : 網膜色素変性症例における色調変化時の羞明および前頭葉賦活化. 日本臨床眼科学会 (第 67 回) (横浜), 2013. 10.
- 19) 藤田雅裕, 小野眞史, 鈴木雅也, 熊谷直也, 高橋 浩 : 羞明を認めるドライアイにおける前頭葉賦活化. 角膜カンファレンス 2014 (沖縄), 2014. 1.
- 20) 小野眞史, 鈴木雅也, 熊谷直也, 高橋 浩 : アレルギー性結膜炎における開眼時前頭葉賦活化の検出. 角膜カンファレンス 2014 (沖縄), 2014. 1.
- 21) 小林舞香, 五十嵐勉, 藤本千明, 高橋 浩 : 短時間の超高浸透圧暴露で角膜上皮細胞からの IL-6 産生は上昇する. 角膜カンファレンス 2014 (沖縄), 2014. 1.
- 22) 仲野裕一郎, 五十嵐勉, 藤田美穂, 山田佑美, 藤本千明, 國重智之, 高橋永幸, 高橋 浩 : レバミピド点眼によるドライアイの自覚症状・他覚所見の改善. 角膜カンファレンス 2014 (沖縄), 2014. 1.
- 23) 有馬武志, 五十嵐勉, 藤田美穂, 山田佑美, 藤本千明, 高橋永幸, 國重智之, 高橋 浩 : 白内障手術前後における涙液浸透圧の変化. 角膜カンファレンス 2014 (沖縄), 2014. 1.
- 24) 久保田大紀, 五十嵐勉, 藤田美穂, 山田佑美, 藤本千明, 國重智之, 高橋永幸, 高橋 浩 : 血漿浸透圧と涙液浸

- 透圧の相関因子について. 角膜カンファレンス 2014 (沖縄), 2014. 1.
- 25) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : A temperature in anterior chamber during phacoemulsification. 31st Film Festival Awards, ASCRS (アメリカ, サンフランシスコ), 2013. 4.
 - 26) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : A temperature in anterior chamber during phacoemulsification. Video Awards 2013, ESCRS (オランダ, アムステルダム), 2013. 10.
 - 27) 鈴木久晴, 大木孝太郎¹⁾, 志和利彦, 高橋 浩 (¹⁾ 大木眼科) : 異なった超音波周波数における前房温度の比較. JSCRS 学術総会 (第 28 回) (千葉鈴木久晴, 大木孝太郎, 志和利彦, 高橋浩), 2013. 6.
 - 28) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : 日本医大式 (三日月形) MQA の開発と有用性の検討. 日本臨床眼科学会 (第 67 回) (横浜), 2013. 11.
 - 29) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : OZilTM ハンドピースによる前房温度の検討. 日本眼科手術学会学術総会 (第 37 回) (京都), 2014. 1.
 - 30) 一戸 唱, 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : 超音波乳化吸引における各種粘弾性物質と前房温度の変化. 日本眼科手術学会学術総会 (第 37 回) (京都), 2014. 1.
 - 31) 鈴木久晴 : 術前検査とそのポイント, 「浅前房に対する白内障手術」. JSCRS 学術総会 (第 28 回) (千葉), 2013. 6.
 - 32) 鈴木久晴 : 散瞳不良, 縫着眼内レンズの片方ループの糸が切れた症例, みんなで考える白内障手術 : チン小帯脆弱症例, 眼内レンズ縫着と強膜内固定, インストラクションコース 1. JSCRS 学術総会 (第 28 回) (千葉), 2013. 6.
 - 33) 鈴木久晴 : トーリック眼内レンズの基本と工夫, みんなで考える白内障手術 : QOV にこだわろう, インストラクションコース 13. JSCRS 学術総会 (第 28 回) (千葉), 2013. 6.
 - 34) 鈴木久晴 : セッティングについて, 核分割徹底解説, インストラクションコース 23. 日本臨床眼科学会 (第 67 回) (横浜), 2013. 11.
 - 35) 竹内修子, 北原由紀, 安藤恵里子, 大貫二三恵, 中山滋章 : 斜視手術時の全身麻痺下眼位と術後 6 カ月の眼位. 日本眼科手術学会学術総会 (第 37 回) (京都), 2014. 1.
 - 36) 藤田雅裕, 中元兼二, 高橋 浩 : マイトマイシン C 併用線維柱帯切除術後濾過胞に対する結膜被覆術の短期成績. 日本眼科学会学術総会 (第 37 回) (京都), 2014. 1.
 - 37) 伊東和香子, 稲毛道憲, 高橋永幸, 堀 純子, 志和利彦, 高橋 浩 : サイトメガロウイルス虹彩・角膜内皮炎の 1 例. 角膜カンファレンス 2014 (沖縄), 2014. 1.
 - 38) 高野靖子, 仲野裕一郎, 杉田 達, 高橋 浩 : 眼内レンズ挿入におけるデスマ膜剥離の 1 例. 角膜カンファレンス 2014 (沖縄), 2014. 1.
 - 39) 有馬武志, 國重智之, 堀 純子, 高橋 浩 : 脊髄炎と視神経炎が同時発症した Neuromyelitis optica の 1 例. 千駄木フォーラム (第 19 回) (東京), 2013. 12.
 - 40) 藤田雅裕, 中元兼二, 高橋 浩 : マイトマイシン C 併用線維柱帯切除術後濾過胞に対する結膜被覆術の短期成績. 緑内障よろず勉強会 (第 21 回) (東京), 2013. 11.

論 文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Suzuki H, Shiwa T, Oharazawa H, Igarashi T, Takahashi H : Simultaneous treatment of pterygium and temporal conjunctivochalasis. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (1) : 74-77.

学会発表

追加分特別講演：

- 1) 高橋 浩：角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. とやま眼科学術講演会（第24回）（富山），2013. 3.
- 2) 國重智之, 谷口ヒロ子, 大野建州¹⁾, 東みゆき¹⁾, 堀 純子（¹⁾東京医科歯科大学 分子免疫学分野）：角膜移植の免疫特権における V-domain Ig Suppressor of T Cell Activation (VISTA) の役割. Tokyo Ocular Immunology Meeting（東京），2013. 3.
- 3) 鈴木久晴：10年ぶりの悪夢・・・核落下！. CSE研究会（第20回）（東京），2013. 2.

[千葉北総病院眼科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Faure C, Gocho K, Le Mer Y, Sahel JA, Paques M, Audo I : Functional and high resolution retinal imaging assessment in a case of ocular siderosis. Documenta Ophthalmologica 2014 ; 128 (1) : 69-75.
- 2) Gocho K, Kikuchi S, Kabuto T, Kameya S, Shinoda K, Mizota A, Yamaki K, Takahashi H : High-Resolution En Face Images of Microcystic Macular Edema in Patients with Autosomal Dominant Optic Atrophy. BioMed Research International 2013 ; 2013.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Gocho K : Adaptive optics Understanding of the Retina and its Applications study (AURA study) Co-Chairperson. Asia-ARVO (New Delhi), 2013. 10.

(2) セミナー：

- 1) 後町清子：補償光学眼底カメラ rtXITMを用いた網膜疾患の継時的視細胞イメージング（モーニングセミナー）. 日本臨床眼科学会（第67回）（横浜），2013. 11.

(3) 一般講演：

- 1) Gocho K : Monitoring pathological changes in cone outer segment structure using adaptive optics Retinal Imaging. Asia-ARVO (New Delhi), 2013. 10.
- 2) Gocho K : Follow up study of Geographic atrophy using adaptive optics. Asia-ARVO (New Delhi), 2013. 10.
- 3) 菊地佐知子, 加部東武徳, 後町清子, 高橋永幸, 菅原優子, 亀谷修平, 山木邦比古, 高橋 浩：RP1L1 遺伝子にホモ接合体変異を認めた錐体ジストロフィーの1例. 日本眼科学会総会（第117回）（東京），2013. 4.
- 4) 伊藤直子, 林 孝彰, 菊地佐知子, 加部東武徳, 後町清子, 亀谷修平, 月花 環, 山田 尚, 常岡 寛：PRPH2 変異を認めた中心性輪紋状脈絡膜ジストロフィーに対する補償光学カメラによる解析. 日本眼科学会総会（第117回）（東京），2013. 4.
- 5) 後町清子, 菊地佐知子, 加部東武徳, 高橋永幸, 亀谷修平, 山木邦比古, 高橋 浩：補償光学眼底カメラによる Vogt-小柳-原田病の観察. 日本眼科学会総会（第117回）（東京），2013. 4.
- 6) Kameya S, Kabuto T, Kikuchi S, Takahashi H, Gocho K, Yamaki K, Takahashi H : High resolution cone photoreceptor imaging analysis of an occult macular dystrophy patient with RP1L1 mutation. ARVO (Seattle), 2013. 5.
- 7) Gocho K, Kikuchi S, Kabuto T, Takahashi H, Kameya S, Yamaki K, Takahashi H : High resolution imag-

- ing with adaptive optics in patients with Vogt-Koyanagi-Harada disease. ARVO (Seattle), 2013. 5.
- 8) Kameya S, Kikuchi S, Gocho K, Kabuto T, Sugawara Y, Yamaki K, Takahashi H : A cone-rod dystrophy patient with a homozygous RP1L1 mutation. EVER (Nice), 2013. 9.
 - 9) Gocho K, Kikuchi S, Kabuto T, Akeo K, Kameya S, Yamaki K, Takahashi H : High resolution retinal image analysis of unilateral retinitis pigmentosa using adaptive optics. EVER (Nice), 2013. 9.
 - 10) 亀谷修平, 後町清子, 菊地佐知子, 加部東武徳, 篠田 啓, 溝田 淳, 山木邦比古, 高橋 浩 : OPA1 遺伝子変異を持つ常染色体優性視神経萎縮 6 例 (4 家系) の補償光学眼底カメラによる解析. 日本臨床視覚電気生理学会 (第 61 回) (大阪), 2013. 10.
 - 11) 伊藤直子, 月花 環, 林 孝彰, 片桐 聡, 神前賢一, 後町清子, 亀谷修平, 常岡 寛 : 周辺型錐体ジストロフィ (PCD) に対する補償光学眼底カメラによる解析. 日本臨床視覚電気生理学会 (第 61 回) (大阪), 2013. 10.
 - 12) Gocho K, Kameya S, Kabuto T, Kikuchi S, Takahashi H, Yamaki K, Takahashi H : High resolution cone photoreceptor imaging analysis of an occult macular dystrophy patient with RP1L1 mutation. Euretina (Hamburg), 2013. 9.

24. 麻酔科学

[付属病院麻酔科・ペインクリニック]

研究概要

本年度も本教室の3大研究テーマである全身麻酔の機序解明と新たな麻酔薬・麻酔法の開発、重症患者管理と重症化阻止、神経障害性疼痛解明と慢性痛の一掃対策について、大学院生を中心に多くの臨床および基礎的研究が行われた。特に本年は多くの大学院生の論文が掲載された。基礎研究の一部は、薬理学鈴木教授、解剖学小澤教授、解剖学瀧澤教授の指導下で行われ、神経障害性疼痛における機序解明、麻酔による日内変動遺伝子変化の研究、麻酔と血中microRNA変動につき、その成果が報告された。また、手術侵襲制御、周術期体液・代謝管理、人工呼吸管理、術後疼痛管理、緩和ケア、ペインクリニック等従来の臨床研究テーマについても幅広く研究が行われた。特に集中治療領域における呼吸管理、ECMOに関しては、臨床運用とともに国際的にも有数なレベルに飛躍した。さらに、本年度は、日本麻酔・集中治療テクノロジー学会を主催し、周術期管理・集中治療管理における多くの研究も行われた。以下に主な内容を示す。基礎研究：マイクロアレイ、realtime RT-PCR、細胞培養装置、パッチクランプ等を用いて、1) 麻酔による体内重要臓器における遺伝子発現への影響、2) 麻酔とプロテオミクス、3) 麻酔とメタボロミクス、4) 神経障害性疼痛に及ぼす治療効果等。臨床研究：臨床麻酔、外科系集中治療、ペインクリニック、緩和医療領域において、1) 周術期 β 遮断薬の効果、2) 周術期心イベントの発生意因解明、3) 新たな輸液製剤の臨床的效果、4) 外科侵襲による生体反応、5) 非侵襲的人工呼吸管理、6) ECMO、7) 新たな疼痛管理法等。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sugita S, Okabe T, Sakamoto A : Continuous infusion of dexmedetomidine improves renal ischemia-reperfusion injury in rat kidney. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (2) : 131-139.
- 2) Anzai M, Iijima N¹⁾, Takumi K¹⁾, Matuo I, Mori K, Ohe Y, Kadota K, Akimoto T¹⁾, Sakamoto A, Ozawa H¹⁾ (1) Department of Anatomy and Neurobiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Direct and specific effect of sevoflurane anesthesia on rat Per2 expression in the suprachiasmatic nucleus. *PLoS One* 2013 ; 8 (3) : e59454.
- 3) Saito Y¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Yamanashi Y, Terajima K²⁾, Skamoto A, Kondo Y¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School, 2) Department of Anesthesiology, Mitsui Memorial Hospital) : The impact on renal function of fluid resuscitation with hemoglobin vesicle solution in moderate hemorrhagic shock. *Journal of Artificial Organs* 2013 ; 16 (3) : 376-381.
- 4) Arai M, Genda Y, Ishikawa M, Shunsuke T, Okabe T, Sakamoto A : The miRNA and mRNA changes in rat hippocampi after chronic constriction injury. *Pain Medicine* 2013 ; 14 (5) : 720-729.
- 5) Hori Y, Goto G, Arai-Iwasaki M, Ishikawa M, Sakamoto A : Differential expression of rat hippocampal microRNAs in two rat models of chronic pain. *International Journal of Molecular Medicine* 2013 ; 32 (6) : 1287-1292.
- 6) Kim C¹⁾, Okabe T²⁾, Sakurai M³⁾, Kanaya K³⁾, Ishihara K³⁾, Inoue T, Kumita S⁴⁾, Sakamoto A (1) Department of Anesthesia, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, 2) Department of Anesthesia, Hitachinaka General Hospital, 3) Clinical Imaging Center for Healthcare, Nippon Medical School, 4) Department of Radiology, Nippon Medical School) : Gastric emptying of a carbohydrate-electrolyte solution in healthy vol-

- unteers depends on osmotically active particles. *Journal of Nippon Medical School* 2013 ; 80 (5) : 342-349.
- 7) Yagi K, Kmagata C, Ishikawa M, Kondo Y¹⁾, Sakamoto A (¹⁾ Department of Urology, Nippon Medical School) : Changes in blood volume and colloid osmotic pressure during fluid absorption in patients undergoing endoscopic urosurgery : An observational study. *Open Journal of Anesthesiology* 2013 ; 3 (9) : 396-401.
- 8) Mori K, Iijima N¹⁾, Aikawa S¹⁾, Matsuo I, Takumi K¹⁾, Ozawa H (¹⁾ Dept. of Anatomy and Neurobiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Epigenetic suppression of mouse per2 expression in the suprachiasmatic nucleus by the inhalation anesthetic, sevoflurane. *PLoS One* 2014 ; 9 (1) : e87319.
- 9) Goto G, Hori Y, Ishikawa M, Tanaka S, Sakamoto A : Changes in the gene expression levels of microRNAs in the rat hippocampus by sevoflurane and propofol anesthesia. *Molecular Medicine Reports* 2014 ; 9 (5) : 1715-1722.
- 10) Kinugawa K¹⁾, Nagai R²⁾, Inoue H³⁾, Atrashi H⁴⁾, Seino Y⁵⁾, Yamashita T⁶⁾, Shimizu W⁷⁾, Aiba T⁸⁾, Kitakaze M⁸⁾, Sakamoto A, Ikeda T⁹⁾, Imai Y²⁾, Daimon T¹⁰⁾, Fujino K, Nagno T, et al. (¹⁾ University of Tokyo, ²⁾ Jichi Medical University, ³⁾ University of Toyama, ⁴⁾ Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, ⁵⁾ Nippon Medical School Chiba-Hokusou Hospital, ⁶⁾ The Cardiovascular Institute, ⁷⁾ Nippon Medical School, ⁸⁾ National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁹⁾ Toho University, ¹⁰⁾ Hyogo College of Medicine) : Impacts of patients characteristics on the effectiveness of landiolol in AF/AFL patients complicated with LV dysfunction : Subgroup analysis of the J-Land study. *Advances in Therapy* 2014 ; 31 (5) : 577-578.
- 11) Saigusa H¹⁾, Suzuki N, Yamaguchi S¹⁾, Komachi T¹⁾, Kadosono O¹⁾, Hongo T, Onodera H, Aino I¹⁾, Nakamura T¹⁾, Matsuoka C¹⁾, Saigusa M²⁾, Ito H¹⁾ (¹⁾ Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, ²⁾ Private practice, Tyler, Texas) : Clinical Study of the Incidence of Arytenoid Cartilage Dislocation for the Patients after General Anesthesia with Tracheal Intubation. *Journal of Anesthesia & Clinical Research* 2013 ; Epub 4 (10) : 359.
- 12) 小林克也, 竹田晋浩 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科) : 重症呼吸不全に対する ECMO 療法. *麻酔* 2013 ; 62 (5) : 557-562.
- (2) 総説 :
- 1) 鎌形千尋¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 榊原記念病院麻酔科) : 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の開心術. *循環器内科* 2013 ; 74 (1) : 66-72.
- 2) 竹田晋浩 : 呼吸不全の体外式膜型人工肺 (ECMO) 治療. *日本医事新報* 2013 ; (4629) : 50-51.
- 3) 古市結富子, 坂本篤裕 : エビデンスに基づいた周術期の患者安全 心血管合併症予防. *麻酔* 2014 ; 63 (3) : 287-295.
- 4) 岸川洋昭, 竹内純平, 永田紗弥子, 永井瑞希, 鈴木規仁, 武藤友美, 田中俊輔, 石川真士, 源田雄紀, 安齋めぐみ, 原田里音, 杉田慎二, 保利陽子, 八木 馨, 後藤玄太郎, その他 16 名 : 硬膜穿刺後頭痛. *臨床麻酔* 2013 ; 37 (9) : 1375-1381.

著 書

- 1) 鎌形千尋, 坂本篤裕 : [分担] 3章合併する心疾患のリスク評価と術前準備 3心筋症. *麻酔科医のための循環管理の実際* (森田潔監修), 2013 ; pp53-60, 中山書店.
- 2) 金 徹¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻酔科) : [分担] アドレナリン受容体遮断薬. *心血管作動薬* (土田英昭編集), 2013 ; pp143-159, 克誠堂出版.
- 3) 坂本篤裕 : [編集] 序文. *臨床麻酔実践シリーズ 6. 麻酔科医に必要な超音波ガイド手技のポイントと教育* (坂本篤裕, 佐藤重仁), 2013 ; pp3-3, ライフメディコム.

- 4) 坂本篤裕：〔分担〕 周術期における短時間作用型 β 遮断薬ランジオロールの使い方，使いどころ・VIII 章周術期心筋梗塞を予防する． β 遮断薬を臨床で活かす！（伊藤浩監修），2013；pp138-140，南江堂．
- 5) 坂本篤裕：〔分担〕 第 12 章：合併症を有する患者の麻酔．TEXT 麻酔・蘇生学（土肥修司・澄川耕二編集），2014；pp330-345，南山堂．
- 6) 坂本篤裕：〔分担〕 第 13 章：麻酔・手術の体位．TEXT 麻酔・蘇生学（土肥修司・澄川耕二編集），2014；pp359-364，南山堂．
- 7) 坂本篤裕：〔分担〕 第 14 章：手術室の設備と滅菌消毒法．TEXT 麻酔・蘇生学（土肥修司・澄川耕二編集），2014；pp365-372，南山堂．
- 8) 坂本篤裕：〔分担〕 4 章：心・血管作動薬．麻酔科学レビュー 2014（天羽敬祐監修），2014；pp22-28，総合医学社．
- 9) 竹田晋浩：〔分担〕 37 章：麻酔科医と救急医療．麻酔科学レビュー 2014（天羽敬祐監修），2014；pp219-223，総合医学社．
- 10) 鈴木規仁：〔分担〕 9. 治療各論：対症療法の実際 9. オピオイドを始めましたが，疼痛コントロールが不十分でした．具体的にどのような方法を考えますか？．肺癌診療 Q&A 一つ上に行く診療の実践（第 2 版）（弦間昭彦），2013；pp390-392，中外医学社．
- 11) 鈴木規仁：〔分担〕 9. 治療各論：対症療法の実際 10. オピオイドを始めましたが，嘔気・嘔吐のコントロールができません．どのような薬剤を用いていますか？．肺癌診療 Q&A 一つ上に行く診療の実践（第 2 版）（弦間昭彦），2013；pp393-395，中外医学社．
- 12) 鈴木規仁：〔分担〕 第 4 章 がん患者の緩和ケアをきちんとできる？ 5. 末期がん患者に点滴すべき？ すべきでない？．レジデントノート増刊 Vol.15 No.11 担当医が絶対知っておきたい がん診療のキホンがん患者の診かた・支え方，化学療法の副作用対策や緩和医療，緊急事態への対応がわかる！（勝俣範之），2013；pp174-180，羊土社．
- 13) 竹田晋浩¹⁾：〔編集〕呼吸 ECMO マニュアル．呼吸 ECMO マニュアル（監修：氏家良人 編集：市場晋吾 竹田晋浩），2014；pp1-13，克誠堂出版．
- 14) 杉田慎二，小林克也，竹田晋浩：〔自著〕ECMO の有用性について．呼吸と循環，2013；pp381-385，医学書院．
- 15) 杉田慎二，小林克也，竹田晋浩：〔自著〕重症呼吸不全に対する ECMO 療法．呼吸療法，呼吸管理における 5years 文献レビュー（氏家良人），2014；pp151-167，克誠堂出版．
- 16) 杉田慎二，小林克也，竹田晋浩：〔自著〕重症肺炎に対する体外式膜型人工肺（ECMO）療法．medicina，2013；pp2028-2030，医学書院．
- 17) 杉田慎二，竹田晋浩：〔自著〕respiratoryECMO の歴史と我が国の現状．呼吸 ECMO マニュアル（氏家良人 監，市場晋吾 竹田晋浩 編），2014；pp1-11，克誠堂出版．
- 18) 小林克也¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科：〔分担〕広がる ECMO 治療 しくみと管理．呼吸器ケア（竹田晋浩），2013；pp81-87，メディカ出版．
- 19) 小林克也 ¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科：〔分担〕ECMO 中の患者管理．呼吸 ECMO マニュアル（監修 氏家良人 編集 市場晋吾 竹田晋浩），2014；pp81-94，克誠堂出版．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 坂本篤裕：麻酔科医による予防的薬物投与と周術期運営効率化（DPC 時代の手術室医療の重要性と麻酔科医の役割）．日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会（第 53 回）（東京），2013. 9.
- 2) 坂本篤裕：心臓血管麻酔専門医制度の現状と展望（専門医制度の今後の展開）．日本心臓血管麻酔学会学術大会（第 18 回）（北九州市），2013. 9.

- 3) 竹田晋浩：術後再挿管を予測・予防できるか？. 日本麻酔科学会第60回学術集会（札幌市），2013. 5.
 - 4) 竹田晋浩：ARDSの病態解明と治療戦略. 日本麻酔科学会第60回学術集会（札幌市），2013. 5.
 - 5) 小林克也⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科）：重症呼吸不全に対するECMOシステムをどう構築するか. 第41回日本集中治療学会学術集会，2014. 3.
 - 6) 小林克也⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科）：Cardiovascular Critical Careにおける補助循環の最近の動向. 第22回CVIT，2013. 7.
 - 7) 小林克也⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科）：ワークショップ：重症呼吸不全と補助循環システム. 日本医工学治療楽器第29回学術集会，2013. 4.
- (2) セミナー：
- 1) 坂本篤裕：周術期におけるランジオロールの新たな展開. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 2) 坂本篤裕：短時間作用型 β 遮断薬の展望. 日立循環管理セミナー（日立市），2013. 6.
 - 3) 坂本篤裕：周術期における短時間作用型 β 遮断薬の展望. 岡山周術期循環管理セミナー2014（岡山），2014. 2.
- (3) 一般講演：
- 1) 武藤友美，鈴木規仁，西櫻 量，坂本篤裕：帝王切開術の麻酔における非侵襲的トータルヘモグロビン（SpHb）測定の有用性の検討. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 2) 森 啓介，松尾いづみ，飯島典夫¹⁾，肥後心平¹⁾，坂本篤裕，小澤一史¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学大学院解剖学・神経生物学分野）：セボフルランによるマウス視交叉上核の時計遺伝子mPer2発現抑制に関するエピジェネティック解析. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 3) 保利陽子，岩崎雅江，石川真士，源田雄紀，田中俊輔，坂本篤裕：ラット慢性疼痛モデルの海馬におけるmiRNA発現変化. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 4) 岸川洋昭，坂本篤裕：一酸化窒素による尿路感染症起因菌に対する抗菌効果およびバイオフィーム形成抑制効果の検討. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 5) 鈴木規仁，岸川洋昭，坂本篤裕：乳房切除術に対するフルルビプロフェンアキセチルの術後鎮痛効果. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 6) 石川真士，坂本篤裕：肝切除後急性腎障害のリスク評価. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 7) 松尾いづみ，飯島典生¹⁾，小澤一史¹⁾，坂本篤裕 ⁽¹⁾ 日本医科大学大学院解剖学・神経生物学分野）：In vitro 発光イメージングを応用した吸入麻酔薬 sevoflurane の時計遺伝子への影響の解析. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 8) 後藤玄太郎，保利陽子，田中俊輔，源田雄紀，石川真士，坂本篤裕：セボフルラン・プロポフォールによるラット海馬マイクロRNAの遺伝子発現変化の検討. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 9) 八木 馨，鎌形千尋，坂本篤裕：灌流液吸収と循環血液量変化. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 10) 木村茉莉子，坂井 敦¹⁾，鈴木秀典¹⁾，坂本篤裕 ⁽¹⁾ 日本医科大学大学院薬理学分野）：青斑核へのグリア細胞由来神経栄養因子の投与はノルアドレナリンによる下行性抑制を介して神経障害性疼痛を緩和する. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 11) 尾中寛恵，武藤友美，大概達郎，鎌形千尋，坂本篤裕：褐色細胞腫の麻酔におけるPVI (pleth variability index) の有用性および妥当性の検討：SVV (stroke volume variation) との比較. 日本麻酔科学会学術集会（第60回）（札幌），2013. 5.
 - 12) 田中俊輔，鈴木規仁，岸川洋昭，坂本篤裕：下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎細胞癌2症例における循環制御モニターとしての術中経食道心エコー. 日本循環制御医学会総会（第34回）（福井市），2013. 6.

- 13) 石川真士, 坂本篤裕: 経食道心エコー, 肺動脈カテーテルによる収縮性心膜炎の術中管理. 日本循環制御医学会総会 (第 34 回) (福井市), 2013. 6.
- 14) 内木亮介¹⁾, 清水祐一郎¹⁾, 米内大輔¹⁾, 水野幸一¹⁾, 幸田真理子¹⁾, 杖下隆哉¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): 当院における RACZ スプリングカテーテル硬膜外神経根形成術への取り組み. 日本ペインクリニック学会大会 (第 47 回) (大宮), 2013. 7.
- 15) 清水祐一郎¹⁾, 幸田真理子¹⁾, 米内大輔¹⁾, 水野幸一¹⁾, 内木亮介¹⁾, 杖下隆哉¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): 難治性腰下肢痛患者に対する Racz カテーテル硬膜外神経根形成術への取り組み. 日本ペインクリニック学会大会 (第 47 回) (大宮), 2013. 7.
- 16) 水野幸一¹⁾, 清水祐一郎¹⁾, 米内大輔¹⁾, 幸田真理子¹⁾, 内木亮介¹⁾, 杖下隆哉¹⁾, 坂本篤裕: Racz カテーテル神経根剥離術の体位固定とその工夫. 日本ペインクリニック学会大会 (第 47 回) (大宮), 2013. 7.
- 17) 岸川洋昭, 鈴木規仁, 坂本篤裕: フルニエ壊疽に伴う疼痛に対しも膜下・硬膜外鎮痛法が有効であった症例. 日本ペインクリニック学会大会 (第 47 回) (大宮), 2013. 7.
- 18) 古市結富子, 中里桂子, 清水 淳¹⁾, 坂本篤裕 (1) 榊原記念病院麻酔科): 低体温循環停止と逆行性脳灌流を用いた心臓大血管手術後の神経学的合併症に関する調査. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第 22 回) (つくば市), 2013. 8.
- 19) 寺田てる美¹⁾, 横塚 基¹⁾, 四椎東州¹⁾, 小野寺英貴¹⁾, 寺嶋克幸¹⁾, 坂本篤裕 (1) 三井記念病院 麻酔科): ワーファリン服用患者の貯血式自己輸血が凝固系に与える影響について. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 20) 福岡俊宗¹⁾, 坂本篤裕, 寺嶋克幸¹⁾, 横塚 基¹⁾ (1) 三井記念病院 麻酔科): 右房粘液腫と転移性右室腫瘍の麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 21) 池田里美, 源田雄紀, 尾中寛恵, 武藤友美, 坂本篤裕: 数回にわたる手術を施行された多発性褐色細胞腫症例の麻酔管理. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 22) 西櫻 量, 石川真士, 岸川洋昭, 坂本篤裕: 腹部アンギーナの麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 23) 大森知恵, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 坂本篤裕: フルニエ壊疽に伴う疼痛に対し脊髄くも膜下・硬膜外鎮痛法にて疼痛コントロールを行った症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 24) 永田紗弥子, 岡部 格¹⁾, 石川真士, 源田雄紀, 田中俊輔, 坂本篤裕 (1) 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院): フェンタニルパッチ使用患者に対する麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 25) 大越有一¹⁾, 横塚 基¹⁾, 四椎東州¹⁾, 小野寺英貴¹⁾, 寺嶋克幸¹⁾, 坂本篤裕 (1) 三井記念病院 麻酔科): 蒸留水による胸腔内洗浄と ST 上昇についての考察. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 26) 永井瑞希, 中里桂子, 田中俊輔, 古市結富子, 岸川洋昭, 坂本篤裕: 下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎摘出術 3 症例の麻酔管理. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 27) 岩崎宏俊, 安齋めぐみ, 岸川洋昭, 坂本篤裕: 大動脈内バルーンパンピング装着下の減圧開頭術の麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 28) 中川真志, 原田里音, 中里桂子, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 救命しえた輸血関連性肺障害が疑われる 1 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 29) 渡邊 悠¹⁾, 川口宏志¹⁾, 金 徹¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学 千葉北総病院 麻酔科): 頭蓋内出血性病変合併のため術前予防的抗凝固療法が行えず, 膝蓋骨折手術中に肺血栓塞栓症を発症した 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.

- 30) 白鳥沙也花, 金正, 小泉有美馨, 山梨義高, 坂本篤裕: 手術中に発生したアナフィラキシーショック. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (新宿), 2013. 9.
- 31) 清水祐一郎¹⁾, 米内大輔¹⁾, 杼窪 寛¹⁾, 水野幸一¹⁾, 杖下隆哉¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 麻酔科): 帝王切開術における少量くも膜下モルヒネ投与方法の検討. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (東京), 2013. 9.
- 32) 佐藤真美子, 古市結富子, 石川真士, 坂本篤裕: 麻酔導入後に腹部膨隆を認め, 試験開腹により大量の腹腔内出血が判明した交通外傷の 1 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (東京), 2013. 9.
- 33) 坪光祥晃¹⁾, 清水 淳¹⁾, 三井誠司¹⁾, 中里桂子¹⁾, 古市結富子¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本心臓血圧研究振興会榊原記念病院麻酔科): TAVR 導入後の AS に対する AVR の重症化の検討. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 18 回) (北九州市), 2013. 9.
- 34) 中里桂子¹⁾, 古市結富子¹⁾, 清水 淳¹⁾, 坂本篤裕: 冠動脈バイパス術後における off-pump から on-pump 手術へ emergency conversion をした症例の術前予測因子の検討. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 18 回) (北九州市), 2013. 9.
- 35) 古市結富子, 清水 淳¹⁾, 中里桂子, 坂本篤裕 (¹⁾ 榊原記念病院麻酔科): 過去 7 年間における脳脊髄液ドレナージカテーテル挿入に伴う合併症に関する検討. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 18 回) (北九州), 2013. 9.
- 36) 岩崎宏俊, 古市結富子, 小林克也, 杉田慎二, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 術後にイレウス症状があった末期大腸患者の大腸切除術中に敗血症ショックとなった 1 例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 33 回) (金沢市), 2013. 11.
- 37) 古市結富子, 清水 淳¹⁾, 中里桂子, 坂本篤裕 (¹⁾ 榊原記念病院麻酔科): 腹部大動脈人工血管置換術における硬膜外鎮痛の有用性. 日本臨床麻酔学会大会 (第 33 回) (金沢市), 2013. 11.
- 38) 渡邊壽史¹⁾, 金 徹¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻酔科): 選択的脳分離循環中に脳組織酸素飽和度の高度低下をきたし, 術後認知機能低下を認めた急性大動脈解離の 1 例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 33 回) (金沢市), 2013. 11.
- 39) Yagi K, Kamagata C, Sakamoto A: Changes in blood volume and colloid osmotic pressure during fluid absorption in patients undergoing endoscopic urosurgery. The ANESTHESIOLOGY 2013 annual meeting (San Francisco), 2013. 10.
- 40) Mori K, Matsuo I, Higo S¹⁾, Aikawa S¹⁾, Anzai M, Iijima N¹⁾, Ozawa H¹⁾, Sakamoto A (¹⁾ Department of Anatomy and Neurobiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Epigenetic regulation of period expression in the mouse suprachiasmatic nucleus by sevoflurane. The ANESTHESIOLOGY 2013 annual meeting (San Francisco), 2013. 10.
- 41) Otsuki T, Ishikawa M, Tanaka S, Hori Y, Goto G, Sakamoto A: Sevoflurane ameliorates lipopolysaccharide-induced acute lung injury and changes microRNA expression. The ANESTHESIOLOGY 2013 annual meeting (San Francisco), 2013. 10.
- 42) Takeuchi J, Takizawa T¹⁾, Sakamoto A (¹⁾ Department of Molecular Medicine and Anatomy, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Sevoflurane anesthesia downregulates circulation muscle-derived miRNA. The ANESTHESIOLOGY 2013 annual meeting (San Francisco), 2013. 10.
- 43) Kinugawa K¹⁾, Nagai R²⁾, Inoue H³⁾, Atarashi H⁴⁾, Seino Y⁵⁾, Yamashita T⁶⁾, Shmizu W⁷⁾, Aiba T⁷⁾, Kitakaze M⁷⁾, Sakamoto A, Ikeda T⁸⁾, Imai Y¹⁾, Daimon T⁹⁾, Fujino K¹⁰⁾, Nagano T¹⁰⁾, et al. (¹⁾ University of Tokyo, ²⁾ Jichi Medical University, ³⁾ University of Toyama, ⁴⁾ Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, ⁵⁾ Nippon Medical School Chiba-Hokusou Hospital, ⁶⁾ The Cardiovascular Institute, ⁷⁾ National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁸⁾ Toho University, ⁹⁾ Hyogo College of Medicine, ¹⁰⁾ Ono Pharmaceutical Co Ltd.): Impacts of patient characteristics on the efficacy of landiolol in patients with atrial fibrillation/

flutter and left ventricular dysfunction : sub-analysis of J-Land study. American Heart Association Scientific Meeting 2013 (Dslas), 2013. 11.

- 44) 藤本彩子, 安齋めぐみ, 岸川洋昭, 坂本篤裕: 好酸性球性劇症型心筋炎により心静止をきたしたのが救命し得た1例. 日本蘇生学会大会 (第32回) (東京), 2013. 11.
- 45) 安齋めぐみ, 竹田晋浩¹⁾, 木村隆平, 間瀬大司, 小林克也¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 術後に全身痙攣と麻痺が出現, 経過からトランサミンが誘引と考えられた症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 46) 西櫻 量, 竹田晋浩¹⁾, 藤本彩子, 木村茉莉子, 杉田慎二¹⁾, 小林克也¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 虫垂炎による穿孔性腹膜炎の横紋筋融解症に続きICU-AWが発生した1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 47) 中里桂子, 古市結富子, 杉田慎二¹⁾, 小林克也¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 術前のICUイベント時入室依頼と入出状況, 術後ICU緊急入室症例との比較. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 48) 杉田慎二¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 西櫻 量, 藤本彩子, 木村茉莉子, 小林克也¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 体外式膜型人工肺の管理に遺伝子組み換えトロンボモジュリンとアンチトロンビン濃縮製剤を併用した症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 49) 藤本彩子, 竹田晋浩¹⁾, 西櫻 量, 木村茉莉子, 杉田慎二¹⁾, 小林克也¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 甲状腺乳頭癌全摘出術施行後に逆たこつば型心筋症を来たした1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 50) 木村茉莉子, 竹田晋浩¹⁾, 藤本彩子, 西櫻 量, 柴田匡史¹⁾, 杉田慎二¹⁾, 神戸 将¹⁾, 小林克也¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 心臓手術中に発症した心原性肺水腫にECMOが著効した1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 51) 坪光祥晃¹⁾, 清水 淳¹⁾, 三井誠司¹⁾, 鎌形千尋¹⁾, 高橋祐生¹⁾, 坂本篤裕 (1) 榊原記念病院麻酔科): 緊急下行置換手術におけるシベレスタットの必要性の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 52) 杉田慎二, 小林克也, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 体外式膜型人工肺の管理に遺伝子組み換えトロンボモジュリンとアンチトロンビン濃縮製剤を併用した症例. 第41回日本集中治療医学会学術集会 (京都), 2014. 2.

[武蔵小杉病院麻酔科]

研究概要

慢性的なマンパワー不足の中, 武蔵小杉病院麻酔科では主に臨床に即した研究をおこなっている. 医局員が日常の麻酔, ペイン業務で遭遇する種々の問題, 疑問より発生起案したテーマをもとにチームを編成し研究を進めている. 従って臨床にすぐ反映され, 有益となる研究テーマであるという特徴を有している. 食道がん, 肺がん等の開胸手術における侵襲防御, 産科領域の麻酔管理法, 気道管理法は当科の長年のテーマであり継続的な研究を行っている. 特に産科麻酔領域は帝王切開だけでも年間250症例以上と付属4病院の中でも有数の症例数である. この領域は非常に緊急性を伴う手術であるにもかかわらず, 国により国内でも施設により差があり, 本邦におけるスタンダードといえる麻酔管理も確立していない. 日本麻酔学会でも今後の重要課題として提起されあており今後も当科研究活動の柱として位置付けられているものである.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Suzuki M, Osumi M, Shimada H¹⁾, Bito H¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Musashikosugi Hospital, Nippon Medical School) : Perioperative very low-dose ketamine infusion actually increases the incidence of postoperative remifentanyl-induced shivering-double-blind randomized trial. Acta Anaesthesiol Taiwan 2013 ; 51 (4) : 149-145.

著書

- 1) 赤羽日出男¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科) : [解説] 【担当医が絶対知っておきたいがん診療のキホン がん患者の診かた・支え方, 化学療法の副作用対策や緩和医療, 緊急事態への対応がわかる!】(第4章) がん患者の緩和ケアをきちんとできる? 病院の緩和ケアチームにいつコンサルトしたらよい?. レジデントノート 15 巻 11 号, 2013 ; pp2099-2104, 羊土社.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 稲木敏一郎¹⁾, 菊谷健彦²⁾, 門倉ゆみ子¹⁾, 田中裕一¹⁾, 尾藤博保¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科, 2) 医療法人財団明理会東戸塚記念病院麻酔科) : スガマデクスで筋弛緩を拮抗した後に生じた陰圧性肺水腫の1症例. 日本臨床麻酔学会 (第33回大会) (金沢), 2013. 11.
- 2) 田中裕一¹⁾, 坂本光太郎¹⁾, 稲木敏一郎¹⁾, 鳥海博司¹⁾, 大角 真¹⁾, 赤羽日出男¹⁾, 尾藤博保¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科) : 帯状疱疹後神経痛に対するエスシタロプラムの効果. 日本臨床麻酔学会 (第33回大会) (金沢), 2013. 11.
- 3) 坂本光太郎¹⁾, 田中裕一¹⁾, 門倉ゆみ子¹⁾, 尾藤博保¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉麻酔科) : 脳室腹腔シヤント留置小児患者に対する腹腔鏡下鎖肛根治術の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会 (第33回大会) (金沢), 2013. 11.
- 4) 鈴木新平¹⁾, 田中裕一¹⁾, 門倉ゆみ子¹⁾, 鈴木万三¹⁾, 尾藤博保¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科) : 双胎妊娠における帝王切開術後出血の予測因子. 日本麻酔科学会 (第60回学術集会) (札幌), 2013. 5.

(2) 会議録：

- 1) 赤羽日出男¹⁾, 岸 泰宏¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 下地玉恵¹⁾, 栗原香織¹⁾, 二宮美香¹⁾, 軽部みなど¹⁾, 青山豊子¹⁾, 若城由美子¹⁾, 宮内秀典¹⁾, 小泉嘉子¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 緩和ケアチーム) : 症状の進行したオピオイド持続注患者の在宅医療への移行についての検討. 日本緩和医療学会学術大会 (第18回) (パシフィコ横浜), 2013. 6.

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

当科では周術期管理及びペインクリニックに関する臨床的研究を継続的に行っている。術式は日々進化しており、それに相応しい麻酔法及び周術期管理が要求されている。気道管理および気道管理の教育法、人工的気胸及び気腹を用いた内視鏡手術の術中管理法、くも膜下鎮痛法による帝王切開術後疼痛管理、術中神経モニタリングと麻酔管理、末梢神経ブロックを用いた術中術後鎮痛法、周術期危機管理などを継続的に研究し、新たなニーズに応えられる周術期管理法を当科から発信していきたい。ペインクリニックでは、難治性の痛みに対する侵襲的治療を積極的に行っている。脊髄刺激電極埋め込み術の最小侵襲手術手技、脊柱管狭窄症の病態と痛みの関係、RACZスプリングガイドカテーター神経根形成術の治療成績の検討、プラズマを用いた経皮的髄核除去術などをテーマとして研究を継続していく。

研究業績

著書

- 1) 杖下隆哉¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院) : [分担] 上腹部手術における周術期疼痛管理. 麻酔科医のための周術期疼痛管理 (森田 潔), 2014 ; pp129-137, 中山書店.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 水野幸一, 清水祐一郎, 米内大輔, 幸田真理子, 内木亮介, 杖下隆哉, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学教室) : RacZ カテーテル神経根剥離術の体位固定とその工夫. 日本ペインクリニック学会 (第 47 回) (大宮市), 2013. 7.
- 2) 杼窪 寛, 水野幸一, 清水祐一郎, 杖下隆哉, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学教室) : 胸腔鏡下肺切除において CO₂ 気胸が換気に与える影響. 日本麻酔科学会 学術集会 (第 60 回) (札幌), 2013. 5.
- 3) 内木亮介, 清水祐一郎, 米内大輔, 水野幸一, 幸田真理子, 杖下隆哉, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学教室) : 当院における RACZ スプリングカテーテル硬膜外神経根形成術への取り組み. 日本ペインクリニック学会 (第 47 回) (大宮市), 2013. 7.
- 4) 水野幸一, 飯野 治¹⁾, 幸田真理子, 内木亮介, 坂本篤裕²⁾ (1) 麻生総合病院麻酔科, 2) 日本医科大学麻酔科学教室) : ランドマーク法によるコンパートメントブロックを用いた高齢者大腿骨骨折の麻酔 : 手術麻酔としての神経ブロックの役割を考える. 日本麻酔科学会 学術集会 (第 60 回) (札幌), 2013. 5.
- 5) 清水祐一郎, 幸田真理子, 米内大輔, 水野幸一, 内木亮介, 杖下隆哉, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学教室) : 難治性腰下肢痛患者に対する RacZ カテーテル硬膜外神経根形成術 (epidural neuroplasty) の治療経験. 日本ペインクリニック学会 (第 47 回) (大宮市), 2013. 7.
- 6) 清水祐一郎, 米内大輔, 杼窪 寛, 水野幸一, 杖下隆哉, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学教室) : 帝王切開術における少量くも膜下モルヒネ投与方法の検討. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 53 回) (東京), 2013. 7.
- 7) 米内大輔, 清水祐一郎, 杼窪 寛, 水野幸一, 杖下隆哉, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学教室) : 頸動脈内膜剥離術後の喉頭機能障害 : 術中反回神経モニタリングとラリゲルマスクを用いた抜管の工夫. 日本麻酔科学会 学術集会 (第 60 回) (札幌市), 2013. 5.

[千葉北総病院麻酔科]

研究概要

当科では臨床に即した研究を追求しており, 日常業務におけるモニタリング情報の解析に重点を置き, 以下のテーマを設定している. (1) 通常モニタリングに基づいた解析 1) 心臓血管麻酔中の脳血流モニタリング : 近赤外線分光法を用いてオフポンプ CABG 中の脳血流の変化をモニタリングし, 循環動態の変化が脳血流に与える影響を最小限に抑える循環管理を追求する. 2) 麻酔中の機能的残氧量の変化 : 腹腔鏡下手術における機能的残氧量をモニタリングし, 適切な呼吸管理を追求する. 3) 麻酔中の基礎代謝量の変化 : 麻酔導入後より, 麻酔薬・体温の低下によりヒトの代謝は変化する. 麻酔薬や手術侵襲がヒトの基礎代謝に与える影響をモニタリングし, 適切な呼吸管理と輸液・栄養管理を追求する. 4) その他 (2) 介入的モニタリングに基づいた解析 1) 筋弛緩モニタリング : 血中残存筋弛緩薬量と筋弛緩モニタリングの相関を解析し, 適切な筋弛緩薬の投与量を検討する. 近年は筋弛緩薬拮抗薬の開発により筋弛緩薬投与の安全性は高まったと考えられているが, 筋弛緩薬拮抗後の再クラレ化が報告されている. 筋弛緩薬拮抗薬投与後の血中残存筋弛緩薬量と筋弛緩モニタリングの相関も検討し, 安全な筋弛緩薬の投与計画を追求する. 2) 麻酔覚醒時の筋弛緩モニタリングと麻酔深度モニタリング : 筋弛緩薬拮抗薬あるいはベンゾジアゼピン系薬物拮抗薬

の投与前後の筋弛緩モニタリングと麻酔深度モニタリングを通して、速やかで快適な麻酔覚醒管理を追求する。3) その他 (3) 実験的研究 1) 胃排出速度規定因子の検討：健常成人を対象としてブドウ糖電解質溶液の胃排出速度の規定因子の検討を行っている。2) その他以上、医局が新体制となつてから1年と日が浅いため研究体制が確立されているとは言えないが、今後は体制を整えると共に研究成果が逐次発表されるようにするのが目標である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kim C, Okabe T¹⁾, Sakurai M²⁾, Kanaya K²⁾, Ishihara K²⁾, Inoue T, Kumita S³⁾, Sakamoto A⁴⁾ (1) Department of Anesthesia, Hitachinaka General Hospital, 2) Clinical Imaging Center for Healthcare, Nippon Medical School, 3) Department of Radiology, Nippon Medical School, 4) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School) : Gastric Emptying of a Carbohydrate-electrolyte Solution in Healthy Volunteers Depends on Osmotically Active Particles. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (5) : 342-349.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 金 徹：麻酔科医に必要な補助循環の知識。日本臨床麻酔学会（第33回）（金沢），2013. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 金 徹：空腹時の電解質：ブドウ糖溶液の胃排出速度は浸透圧に依存する（機能性消化管障害と消化管運動）。第50回記念日本臨床生理学会総会（東京），2013. 11.

(3) 一般講演：

- 1) 渡邊 悠, 金 徹, 井上哲夫, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学疼痛制御麻酔科学講座) : 頭蓋内出血性病変合併のため術前予防的抗凝固療法が行えず、膝蓋骨骨折手術中に肺血栓塞栓症を発症した1例。日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第53回合同学術集会（東京），2013. 9.
- 2) 渡邊 悠, 金 徹, 坂本篤裕 (1) (1) 日本医科大学疼痛制御麻酔科学講座) : 選択的脳分離循環中に脳組織酸素飽和度の高度低下をきたし、術後認知機能低下を認めた急性大動脈解離の1例。日本臨床麻酔学会第33回大会（金沢），2013. 11.
- 3) 小林克也¹⁾, 間瀬大司, 杉田慎二¹⁾, 青景聡之¹⁾, 竹田晋浩¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院集中治療室) : 2013年7月21日演題名：ECMO管理の変更により極度の体液過剰状態から回復したARDSの1症例。第35回日本呼吸療法医学会学術総会（東京），2013. 7.
- 4) 安齋めぐみ¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 木村隆平, 間瀬大司, 小林克也¹⁾, 田中啓治²⁾, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学 麻酔科学教室, 2) 日本医科大学付属病院 集中治療室) : 演題名：術後に全身性痙攣と麻痺が出現、経過からトランスミンが誘引と考えられた症例。第41回日本集中治療医学会学術集会（京都），2014. 2.

25. 救急医学

[付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 恩田秀賢, 鈴木 剛, 松本 学, 金 史英, 辻井厚子, 新井正徳, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 横田裕行： 当院高度救命救急センターにおける高齢者医療の現状. 日本医科大学雑誌 2013；9 (2)：129-134.
- 2) 横堀将司^{1, 3)}, 荒木 尚^{2, 3)}, 恩田秀賢³⁾, 松本 学³⁾, 高山泰広³⁾, 布施 明³⁾, 横田裕行³⁾ (1) Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL, USA, (2) 足利赤十字病院救命救急科, (3) 頭部外傷データベース検討委員会 (日本神経外傷学会)：高齢者重症頭部外傷に対する積極的治療と患者転帰の変遷：頭部外傷データベース【プロジェクト 1998,2004,2009】. 神経外傷 2013；36 (1)：76-85.
- 3) 恩田秀賢, 布施 明, 山口昌紘, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 橋詰哲広, 横田裕行：Traumatic Cerebrovascular Injury Following Severe Head Injury：Proper Diagnostic Timetable and Examination Methods. Neurologia medico-chirurgica 2013；53 (9)：573-579.
- 4) 横堀将司^{1, 2)}, Bullock R¹⁾, Gajavelli S¹⁾, Bramlett H¹⁾, Dietrich D²⁾, 横田裕行 (1) Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, FL, USA, (2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：重症頭部外傷モデルにおける Thromboelastography (TEG) を用いた血液凝固モニタリング：Goal Direct Therapy を指向した実験的検討. 神経外傷 2013；36 (2)：149-160.
- 5) 柳 雅人¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 遠藤勇氣²⁾, 西村泰司²⁾, 水沼仁孝³⁾, 新井正徳, 横田裕行, 中澤 賢⁴⁾, 村田 智⁴⁾, 汲田伸一郎⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, (2) 大田原 (現那須) 赤十字病院泌尿器科, (3) 大田原 (現那須) 赤十字病院放射線科, (4) 日本医科大学付属病院放射線科)：深在性腎損傷に対する経カテーテル動脈塞栓術の役割. 日本泌尿器科学会雑誌 2013；104 (6)：688-696.
- 6) Tagami T¹⁾, Yokota H¹⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School)：Response to letter regarding article, "Implementation of the fifth link of the chain of survival concept for out-of-hospital cardiac arrest". Circulation 2013；127 (16)：e567.
- 7) Tagami T¹⁾, Sawabe M²⁾, Kushimoto S³⁾, Marik P⁴⁾, Mieno M⁵⁾, Kawaguchi T⁶⁾, Kusakabe T⁶⁾, Tosa R⁷⁾, Yokota H¹⁾, Fukuda Y⁸⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (3) Division of Emergency Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, (4) Department of Medicine, Eastern Virginia Medical School, Norfolk, Virginia, (5) Department of Medical Informatics, Center for Information, Jichi Medical University, (6) Department of Pathology, Aizu Chuo Hospital, Fukushima, (7) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Aizu Chuo Hospital, (8) Department of Pathology, Nippon Medical School, Tokyo)：Quantitative diagnosis of diffuse alveolar damage using extravascular lung water. Critical Care Medicine 2013；41 (9)：2144-2150.
- 8) Kushimoto S^{1, 3)}, Tagami T^{2, 3)}, Et Al, et al. (1) Division of Emergency Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, (2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, (3) PiCCO Pulmonary Edema Study Group)：Relationship between extravascular lung water and severity categories of acute respiratory distress syndrome by the Berlin definition. Critical Care 2013；17 (4)：R132.

- 9) Endo T¹⁾, Kushimoto S¹⁾, Tagami T, et al. (¹⁾ Tohoku University) : Limitations of global end-diastolic volume index as a parameter of cardiac preload in the early phase of severe sepsis : a subgroup analysis of a multicenter, prospective observational study. *Journal of Intensive Care* 2013 ; 1 (11).
 - 10) 田上 隆 : わが国の心肺蘇生および蘇生後集中治療の現状と課題 : 第5連鎖の重要性 : 福島多施設共同研究から. *ICUとCCU* 2013 ; 37 (9) : 667-673.
 - 11) Sanchez J¹⁾, Bidot C¹⁾, O'phelan K¹⁾, Gajavelli S¹⁾, Yokobori S¹⁾, Olvey S¹⁾, Jagid J¹⁾, Garcia J¹⁾, Nemeth Z¹⁾, Bullock R¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, FL, USA) : Neuromonitoring with microdialysis in severe traumatic brain injury patients. *Send to : Acta Neurochir Suppl.* 2013 ; 118 : 223-7.
 - 12) Yokobori S¹⁾, Bullock R¹⁾, Gajavelli S¹⁾, Burks S¹⁾, Mondello S¹⁾, Mo J¹⁾, Wang K¹⁾, Hayes R¹⁾, Bramlett H¹⁾, Dietrich D¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL, USA) : Preoperative-induced mild hypothermia attenuates neuronal damage in a rat subdural hematoma model. *Acta Neurochir Suppl.* 2013 ; 118 : 77-81.
 - 13) Kitagawa R¹⁾, Van Haren R¹⁾, Yokobori S¹⁾, Cohen D¹⁾, Beckerman S¹⁾, Ahmad F¹⁾, Bullock M¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami FL, USA) : Management of simultaneous traumatic brain injury and aortic injury. *J Neurosurg.* 2013 ; 119 (2) : 324-31.
 - 14) Morisawa K¹⁾, Fujitani S¹⁾, Tagami T²⁾, Et.al (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, St. Marianna University School of Medicine, ²⁾ 2 Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Difference in pulmonary permeability between indirect and direct acute respiratory distress syndrome assessed by the transpulmonary thermodilution technique : a prospective, observational, multi-institutional study. *Journal of Intensive Care* 2014 ; 2 (24).
 - 15) 布施 明 : 海難救助体制と救急医療. *救急医学* 2013 ; 37 (7) : 821-825.
 - 16) 布施 明 : 脳梗塞. *Emergency care* 2013 ; 26 (9) : 853-859.
 - 17) Mine T¹⁾, Miyauchi M, Et. Al (¹⁾ Department of Radiology/Center for Advanced Medical Technology) : Glue embolization for gastroduodenal ulcer bleeding : contribution to hemodynamics and healing process. *Acta Radiol* 2013 ; 54 (8) : 934-938.
 - 18) 吉野美緒¹⁾, 重村朋子, 市村美帆²⁾, 稲本絵里³⁾, 川尻泰樹⁴⁾, 増野智彦, 松井 豊⁵⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学小児科, ²⁾ 目白大学, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院, ⁴⁾ 首都大学東京大学院人文科学研究科, ⁵⁾ 筑波大学大学院人間総合科学研究科) : 病院前救急診療活動に従事する看護師の精神的健康に関する研究. *日本臨床救急医学会雑誌* 2013 ; 16 (5) : 649-655.
- (2) 総説 :
- 1) 桑本健太郎¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : 重症頭部外傷の低体温療法. *救急医学* 2013 ; 37 (5) : 603-607.
 - 2) 横田裕行 : 法的脳死判定の結果と課題 : 102例の検証結果から. *移植* 2013 ; 48 (2・3) : 89-95.
 - 3) 荒木 尚, 横田裕行 : 小児の脳死判定と臓器提供における諸問題. *脳神経外科ジャーナル* 2013 ; 22 (4) : 292-302.
 - 4) Fuse A, Okumura T¹⁾, Hagiwara J, Tanabe T, Fukuda R, Masuno T, Mimura S²⁾, Yamamoto K¹⁾, Yokota H (¹⁾ Cabinet Secretariat (for Crisis Management), Government of Japan, Tokyo, Japan, ²⁾ Emergency Medicine, Tokushima Prefectural Central Hospital, Tokushima, Japan) : New Information Technology Tools for a Medical Command System for Mass Decontamination. *Prehospital and Disaster Medicine* 2013 ; 28 (3) : 1-3.
 - 5) 五十嵐豊, 横田裕行 : 頭部外傷. *レジデントノート* 2013 ; 6 (5) : 18-23.

- 6) 横田裕行：命を救うために問われる”倫理観”救命救急医療の未来. 東京都医師歯科医師協同組合「TMDC MATE」 2013；(276)：4-7.
 - 7) 須崎 真, 横田裕行：病態と対処法：CHDF (hemofiltration) -救急集中治療におけるCHDFの適応-. Fluid Management Renaissance 2013；3 (3)：51-57.
 - 8) 三宅康史¹⁾, 横田裕行²⁾, 井上健一郎³⁾, 奥寺 敬³⁾, 北原孝雄³⁾, 島崎修次³⁾, 坪倉正治³⁾, 鶴田良介³⁾, 中村俊介³⁾ (¹⁾ 日本救急医学会熱中症に関する委員会委員長, ²⁾ 日本救急医学会熱中症に関する委員会担当理事, ³⁾ 日本救急医学会熱中症に関する委員会委員)：本邦における低体温症の実際：Hypothermia STUDY2011 最終報告 (日本救急医学会熱中症に関する委員会). 日本救急医学会雑誌 2013；24 (6)：377-389.
 - 9) 横田裕行：総論：救急ナースが知っておきたい脳卒中の基礎知識. Emergency Care 2013；26 (9)：12-16.
 - 10) 横田裕行：意識障害. 日本医師会雑誌特別号「神経・精神疾患診療マニュアル」 2013；142 (特別号 (2))：76-78.
 - 11) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 直江康孝, 荒木 尚：頭部外傷に伴う凝固・線溶系障害からみた病態, 予後, 治療について. 脳神経外科ジャーナル 2013；22 (11)：837-841.
 - 12) 高山泰広¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 花と森の東京病院救急科・脳神経外科)：頭部外傷：頭部外傷に伴う凝固線溶系障害からみた輸液・輸血療法について. 救急医学 2013；37 (13)：1720-1724.
 - 13) 宮内雅人, 林田真喜子¹⁾, 山口晃志¹⁾, 大野曜吉¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学法医学教室)：機器分析. 中毒研究 2013；26 (4)：319-325.
 - 14) 荒木 尚, 横田裕行：一般的脳死判定の解釈について. 日本小児救急医学会雑誌 2013；12 (3)：372-374.
 - 15) 横堀将司：頭蓋内圧モニタリングと管理. INTENSIVIST 2013；5 (3)：525-537.
 - 16) Yokobori S, Mazzeo At, Hosein K, Gajavel A¹⁾, Khadil H¹⁾, Shyam G¹⁾, Dalton D¹⁾, Ross B¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami FL.)：Preconditioning for traumatic brain injury. Transl Stroke Res. 2013；4 (1)：25-39.
 - 17) Kitagawa R¹⁾, Yokobori S, Mazzeo A¹⁾, Bullock R¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami FL.)：Microdialysis in the neurocritical care unit. Neurosurg Clin N Am, 2013；24 (3)：417-26.
 - 18) Yokobori S¹⁾, Hosein K¹⁾, Burks S¹⁾, Sharma I¹⁾, Gavjavelli S¹⁾, Bullock R¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL USA)：Biomarkers for the clinical differential diagnosis in traumatic brain injury--a systematic review. CNS Neurosci Ther. 2013；19 (8)：556-65.
 - 19) Yokobori S¹⁾, Mazzeo A¹⁾, Gajavelli S¹⁾, Bullock M¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami FL USA)：Mitochondrial Neuroprotection in Traumatic Brain Injury：Rationale and Therapeutic Strategies. CNS Neurol Disord Drug Targets 2013；13 (4)：606-619.
 - 20) 石井浩統, 横田裕行：呼吸器救急 気道外傷. 呼吸 2013；32 (12)：1153-1157.
 - 21) Wada T¹⁾, Gando S¹⁾, Mizugaki A, Yanagida Y¹⁾, Jesmin S²⁾, Yokota H, Leko M³⁾ (¹⁾ Division of Acute and Critical Care Medicine, Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, ³⁾ Department of Internal Medicine, School of Health Sciences, Health Sciences University of Hokkaido)：Coagulofibrinolytic changes in patients with disseminated intravascular coagulation associated with post-cardiac arrest syndrome - Fibrinolytic shutdown and insufficient activation of fibrinolysis lead to organ dysfunction. Thrombosis Research 2013；132 (1)：e64-e69.
- (3) 症例報告：
- 1) Miyauchi M, Hayashida M¹⁾, Hirata K²⁾, Hirata K³⁾, Yokota H (¹⁾ Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Phar-

macy, Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Gastric Lavage Guided by Ultrathin Transnasal Esophagogastroduodenoscopy in a Life-threatening Case of Tobacco Extract Poisoning. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (4) : 307-311.

- 2) 松田絵理奈¹⁾, 藤本雄飛¹⁾, 日下部誠¹⁾, 鈴木 剛¹⁾, 田上 隆¹⁾, 林 励治¹⁾, 増野智彦¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院総合診療科/高度救命救急センター) : 骨盤の不顕性骨折により後腹膜血腫・ショックを来し動脈塞栓術を必要とした1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2013 ; 34 (2) : 230-232.
 - 3) 日下部誠, 恩田秀賢, 溝渕大騎, 田中 勝, 水柿明日美, 五十嵐豊, 小野真平, 白石振一郎, 塚本剛志, 新井正徳, 宮内雅人, 川井 真, 横田裕行 : 脱法ドラッグ (RUSH) を服用しメトヘモグロビン血症および不整脈を来した1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2013 ; 34 (2) : 274-275.
 - 4) 恩田秀賢, 渡邊顕弘, 松本 学, 橋詰哲広, 金 史英, 布施 明, 横田裕行 : 頭蓋内病変を合併し, 手術時期に苦慮した感染性心内膜炎の2症例. 日本救急医学会雑誌 2013 ; 24 (11) : 947-953.
 - 5) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾日本医科大学放射線医学) : 救急画像カンファレンス Q&A. 救急医学 2014 ; 38 (1) : 108-111.
 - 6) 恩田秀賢, 山口昌紘, 藤木 悠, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 松本 学, 橋詰哲広, 布施 明, 横田裕行 : 蘇生後脳症に伴うミオクローヌス 11 症例に対する治療経験. 脳死・脳蘇生 2013 ; 25 (2) : 59-63.
 - 7) Miyauchi M, Hayashida M¹⁾, Yokota Y (¹⁾ Department of legal medicine) : Successful retrieval using ultrathin transnasal esophagogastroduodenoscopy of a significant amount of residual tricyclic antidepressant following serious toxicity : a case report. Int J Emerg Med 2013 ; 22 (6) : 39-42.
 - 8) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾日本医科大学放射線医学) : 救急画像カンファレンス Q&A. 救急医学 2014 ; 38 (2) : 244-246.
 - 9) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾日本医科大学放射線医学) : 救急画像カンファレンス Q&A. 救急医学 2013 ; 37 (12) : 1662-1665.
- (4) Special Report :
- 1) Matsumoto H¹⁾, Motomura T¹⁾, Hara Y¹⁾, Masuda Y¹⁾, Mashiko K¹⁾, Yokota H, Koido Y²⁾ (¹⁾ Shock and Trauma Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, Japan, ²⁾ National Hospital Organization Disaster Medical Center, Tokyo, Japan) : Lessons Learned from the Aeromedical Disaster Relief Activities Following the Great East Japan Earthquake. Prehospital and Disaster Medicine 2013 ; 28 (2) : 166-169.
- (5) 教育講演記録 :
- 1) 横田裕行 : 病院前救護の現状と将来. 茨城県救急医学会雑誌 2013 ; (36) : 3-9.

著 書

- 1) 横田裕行 : [翻訳] 第21章エビデンスおよび高気圧酸素治療—文献の要約および新たな適応のレビュー. 高気圧酸素治療のための医学・生理学 (監訳 : 一般社団法人日本臨床高気圧酸素・潜水医学会), 2013 ; pp354-405, 株式会社へるす出版.
- 2) 横田裕行 : [分担] 第6章 救急医療における終末期医療. シリーズ生命倫理学 第10巻 救急医療 (責任編集 : 有賀徹・手嶋豊), 2013 ; pp79-100, 丸善出版株式会社.
- 3) 平田清貴¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 医療法人社団葵会南八王子病院薬剤部薬局長) : [分担] 病棟におかれう注射薬投与に関するリスクマネジメント : ハイリスク病棟における常駐薬剤師の役割. 薬剤師に役立つ医療安全管理の考え方 : 病院・薬局に活かせる新しい取り組み, 2013 ; pp52-57, 株式会社医薬ジャーナル社.
- 4) 平田清貴¹⁾, 松本宜明²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 医療法人社団葵会南八王子病院薬剤部薬局長, ²⁾ 日本大学薬学部臨床薬物動態学研究室教授) : [分担] 集中治療患者におけるミカファンギンの適正使用. 薬剤師に役立つ医療安全管理の考え方 : 病院・薬局に活かせる新しい取り組み, 2013 ; pp71-75, 株式会社医薬ジャーナル社.

- 5) 川井 真：〔分担〕止血，小切開，排膿，縫合．標準救急医学第5版（監修：日本救急医学会），2014；pp70-76，医学書院．
- 6) 横田裕行：〔分担〕意識障害．標準救急医学第5版（監修：日本救急医学会），2014；pp157-161，医学書院．
- 7) 荒木 尚：〔分担〕意識障害の管理．標準救急医学第5版（監修：日本救急医学会），2014；pp248-253，医学書院．
- 8) 横田裕行：〔分担〕頭部外傷．標準救急医学第5版（監修：日本救急医学会），2014；pp376-386，医学書院．
- 9) 恩田秀賢：〔分担〕低酸素脳症に伴うミオクローヌス．救急・集中治療（加藤正哉），2013；pp1386-1391，総合医学社．
- 10) 辻井厚子，横田裕行：〔分担〕脱水．高齢者総合診療ノート（【編著】大庭建三），2014；pp109-113，日本医事新報社．
- 11) Tagami T¹⁾，Kushimoto S²⁾，Yokota H¹⁾（¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Emergency Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine）：〔分担〕Quantitative evaluation of pulmonary edema. Annual Update in Intensive Care and Emergency Medicine 2014 (Jean-Louis Vincent), 2014；pp257-267, Springer.
- 12) 田上 隆：〔分担〕第7章「輸液管理」．集中治療文献レビュー 2014-2015 版，2014；pp124-141，秀潤社．
- 13) 栗原まな¹⁾，荒木 尚（¹⁾ 神奈川県立リハビリテーション病院小児科）：〔編著〕小児頭部外傷，2013；医歯薬出版．
- 14) 金 史英，横田裕行：〔分担〕手術関連薬．Poket Drugs 2014（福井次矢），2014；pp1051-1061，医学書院．
- 15) 金 史英，横田裕行：〔分担〕止血薬．Poket Drugs 2014（福井次矢），2014；pp1062-1069，医学書院．
- 16) 金 史英：〔分担〕ショック．今日の処方 改定第5版（浦部晶夫 太田健 川合真一 島田和幸 菅野健太郎），2013；pp7-15，南江堂．
- 17) 荒木 尚：〔分担〕外傷による急性頭蓋内出血．小児脳神経外科診療ガイドブック（新井一 伊達裕昭 西本博），2013；pp283-297，メジカルビュー社．
- 18) 荒木 尚：〔分担〕頭部・頸椎外傷．小児救急医療の理論と実践（日本小児科学会 日本小児救急医学会），2013；pp89-100，編集室なるにあ．
- 19) 横堀將司，横田裕行：〔分担〕頭部外傷．救急・集中治療レビュー 2014・15（【監修】島崎修次，前川剛志 【編集】岡元和文，横田裕行），2014；pp190-196，総合医学社．
- 20) 荒木 尚，横田裕行：〔分担〕小児の脳振盪と軽症頭部外傷（病態生理と臨床所見，その評価法について）．救急・集中治療医学レビュー 2014・15（【監修】島崎修次，前川剛志 【編集】岡元和文，横田裕行），2014；pp252-262，総合医学社．
- 21) 横田裕行：〔編集〕救急・集中治療医学レビュー 2014・15．救急・集中治療医学レビュー 2014・15（【監修】島崎修次，前川剛志 【編集】岡元和文，横田裕行），2014；総合医学社．
- 22) 横田裕行：〔翻訳主幹〕アトラス応急処置マニュアル（原著第9版）【増補版】．アトラス応急処置マニュアル（原著第9版）【増補版】（【監訳】山本保博，黒川頭 【翻訳主幹】横田裕行，大友康裕），2014；南江堂．
- 23) 横田裕行，高宮有介¹⁾，福永龍繁²⁾（¹⁾ 昭和大学医学部医学教育推進室，²⁾ 東京都監察医務院）：〔監修〕終末期医療と死の概念．公衆衛生がみえる（【編集】医療情報科学研究所），2014；pp96-111，株式会社メディックメディア．
- 24) 宮内雅人：〔分担〕症例から学ぶ急性中毒〔工業用品，化学用品〕酸・アルカリ．救急・集中治療（上條 吉人），2013；pp953-958，総合医学社．
- 25) 宮内雅人：〔分担〕酸・アルカリ中毒．今日の治療指針（上條 吉人），2014；p133，医学書院．
- 26) 増野智彦：〔分担〕臨床疫学研究の必要性．外傷登録（一般社団法人日本外傷学会トラウマレジストリー検討委員会），2013；pp2-4，へるす出版．

- 27) 増野智彦：〔共著〕外傷以外の国内患者登録制度. 外傷登録（一般社団法人日本外傷学会トラウマレジストリー検討委員会），2013：pp14-18, へるす出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 横田裕行：高齢者救急医療の現状と課題. 救命救急講演会（会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部主催）（会津若松），2013. 9.
- 2) 布施 明：全日病における災害支援～AMATを中心として～. 全日本病院学会（55）（大宮），2013. 11.
- 3) 増野智彦：静脈路確保と輸液. 千駄木プレホスピタル研究会（第16回）（東京），2013. 6.
- 4) 横田裕行：本邦における救急医療の問題点と将来. 三島医師会災害医療講演会（三島），2013. 11.
- 5) 増野智彦：外傷患者の初期輸血療法. 生体防御医学研究会（第9回）（名古屋），2013. 6.

(2) 招待講演：

- 1) Tagami T: Quantitative diagnosis using extravascular lung water. 34th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels, Belgium), 2014. 3.
- 2) Tagami T: The fifth link in the “Chain of Survival” concept. 34th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels, Belgium), 2014. 3.
- 3) 荒木 尚：小児頭部外傷の診断と治療. 新潟市医師会臨床懇話会（第247回）（新潟），2013. 9.
- 4) 荒木 尚：小児頭部外傷の診断と治療. 千葉小児救命集中治療研究会（第6回）（千葉），2013. 12.
- 5) 布施 明：ビッグデータと災害医療. 宮崎救急医学会（第42回）（宮崎），2013. 8.

(3) 教育講演：

- 1) 横田裕行：新型インフルエンザへの対応. 平成25年度東京民間救急コールセンター登録事業者連絡協議会定期総会（東京），2013. 5.
- 2) 横田裕行：救急医療の現状と課題：特に高齢者救急医療を中心として. “城東救急・集中治療研究会” 達人に学ぶ”（第10回）（東京），2013. 6.
- 3) 田上 隆：肺血管外水分量：妥当性・基準値・臨床応用. 日本集中治療医学会東海北陸地方会（第21回）（名古屋），2013. 6.
- 4) 田上 隆：『経肺熱希釈法を使って循環・呼吸管理を始めようと思っている先生方のために』心臓拡張末期容量を意識した循環管理. 日本救急医学会 総会・学術集会（第41回）（東京），2013. 10.
- 5) 田上 隆：心臓拡張末期容量と肺血管外水分量：経肺熱希釈法モニターで体内水分量がみえる. 日本集団災害医学会総会（第19回）（東京），2014. 2.

(4) シンポジウム：

- 1) 横田裕行：当救命救急センターにおけるリスクマネジメント. 日本臨床医学リスクマネジメント学会・学術集会（第11回）（東京），2013. 4.
- 2) 高山泰広¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 大村真理子¹⁾, 秋山 豪¹⁾, 藤木 悠¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴²⁾（¹⁾ 会津中央病院救命救急センター, ²⁾ 東京臨海病院救急科）：集中治療を行われた細菌性髄膜炎の診断と治療について. 日本神経救急学会学術集会（第27回）（東京），2013. 6.
- 3) 五十嵐豊, 恩田秀賢, 山口昌紘, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 布施 明, 横田裕行：感染性心内膜炎の診断に苦慮した脳出血の1例. 日本神経救急学会学術集会（第27回）（東京），2013. 6.
- 4) 松本 学^{1, 2)}, 岩瀬史明¹⁾, 井上潤一¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 加藤頼子¹⁾, 大嶽康介¹⁾, 萩原一樹¹⁾, 木下大輔¹⁾, 横田裕行²⁾（¹⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：神経救急領域における Non-Convulsive Status Epileptics. 日本神経救急学会学術集会（第27回）（東京），2013. 6.

- 5) 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 石井浩統, 田上 隆, 横堀将司, 宮内雅人, 増野智彦, 布施 明, 川井 真, 横田裕行 : 東京都区中央部におけるドクターカーによる外傷診療の現状と課題. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 27 回) (久留米), 2013. 5.
- 6) 金 史英, 坂本和嘉子, 石井浩統, 田上 隆, 増野智彦, 宮内雅人, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行 : 当施設における外傷治療戦略と成績 - 手術および IVR 症例の検討と今後の展望. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 27 回) (久留米), 2013. 5.
- 7) 高山泰広¹⁾, 小平祐造¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴, 直江康孝, 荒木 尚¹⁾ (花と森の東京病院救急科・脳神経外科) : 重症脳損傷に対する脳低温療法の適応と神経学的予後を予測する簡易なツールについて. 日本脳低温療法学会 (第 16 回) (名古屋), 2013. 7.
- 8) 畝本恭子¹⁾, 桑本健太郎¹⁾, 久野将宗¹⁾, 北橋章子¹⁾, 金子純也¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 谷 将星¹⁾, 折原恵美¹⁾, 緋田雅美¹⁾, 横田裕行¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : target temperature management を担う看護スタッフの労苦と課題. 日本脳低温療法学会 (第 16 回) (名古屋), 2013. 7.
- 9) 田上 隆, 横田裕行, 土佐亮一¹⁾ (会津中央病院救命救急センター) : Post cardiac arrest syndrome と急性肺傷害. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2013. 6.
- 10) 松本 学¹⁾, 太田好紀²⁾, 岩瀬史朗¹⁾, 井上潤一¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 布施 明, 横田裕行¹⁾ (山梨県立中央病院救命救急センター, ²⁾ 近畿大学医学部付属病院中央手術部) : 心停止後症候群に対する脳低温療法の予後予測因子. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2013. 6.
- 11) 増野智彦, 竹島 元, 五十嵐豊, 萩原 純, 石井浩統, 宮内雅人, 布施 明, 横田裕行 : 病院前救急診療における非観血的血中一酸化炭素濃度測定の有用性. 日本臨床高気圧酸素・潜水医学会学術集会・総会 (第 10 回), 日本高気圧酸素医療技術学会 (第 4 回) 合同学術集会 (東京), 2013. 7.
- 12) 恩田秀賢, 萩原 純, 鈴木 剛, 塚本剛志, 増野智彦, 宮内雅人, 金 史英, 辻井厚子, 布施 明, 川井 真, 横田裕行 : 当施設における高齢者医療の現状と問題点. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 13) 渥美生弘¹⁾, 坂本哲也²⁾, 森村尚登²⁾, 長尾 建²⁾, 浅井康文²⁾, 横田裕行²⁾, 田原良雄²⁾, 長谷 守²⁾, 奈良 理²⁾, 青木則明²⁾, 有吉孝一¹⁾ (神戶市立医療センター中央市民病院救命救急センター, ²⁾ SAVE-J study group) : ECPR の適応を考える : SAVE-J study 費用対効果の検討から. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 14) 金 史英, 竹島 元, 賀 亮, 萩原 純, 石井浩統, 片桐美和, 増野智彦, 宮内雅人, 新井正徳, 横田裕行 : 外傷診療における CT の位置づけ : CT を撮影しない勇気を. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 15) Yokobori S, Hosein K¹⁾, Gajavelli S¹⁾, Spurlock M¹⁾, Julio C¹⁾, Bidot C¹⁾, Bidot J²⁾, Jy W²⁾, Dietrich W¹⁾, Bullock R¹⁾, Yokota H¹⁾ (Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL, USA, ²⁾ Department of Hematology/Oncology, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL, USA) : Different Blood Coagulation Profiles in TBI Rat Models : A Study with Thromboelastography. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo), 2013. 10.
- 16) Unemoto K¹⁾, Yokota H, Kuno M¹⁾, Kuwamoto K¹⁾, Moroe Y¹⁾, Oyanagi M¹⁾, Takehara S¹⁾, Fukuda R¹⁾, Kaneko J¹⁾, Iwai Y¹⁾, Tani S¹⁾, Suzuki K¹⁾ (Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Tama-nagayama Hospital, Japan) : A Need for Connection to Neurological Specialist in the Tertiary Critical Care Medicine Center. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo), 2013. 10.
- 17) 齋藤伸行^{1, 2)}, 志馬伸朗²⁾, 杉山和宏²⁾, 石井賢造²⁾, 坂本和嘉子²⁾, 金村剛宗²⁾, 安田英人²⁾, 増田幸子²⁾, 平湯恒久²⁾, 吾妻ゆき子³⁾ (日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ VAP Clinical research Network

Japanese Critical Care Medical Center, ³⁾ 筑波大学医学医療系臨床試験・臨床疫学次世代医療研究開発・教育総合センター) : 救命救急センターICUにおける人工呼吸器関連肺炎に関する疫学研究. エンドトキシン血症救命治療研究会 (第18回) (東京), 2014. 1.

- 18) 田上 隆^{1, 2)} (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ SOS-KANTO 2012 study group) : SOS-KANTO Study 10年間の比較 : SOS-KANTO 2012 study 中間解析報告. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第16回) (東京), 2013. 7.
 - 19) 横堀将司, 藤木 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 : 重症頭部外傷における脳室内出血の臨床的意義 - 積極的治療抵抗因子の病態は何か. 日本脳神経外科救急学会総会・学術集会 (第19回) (富山), 2014. 1.
 - 20) 横堀将司, 藤木 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 : 高齢者頭部外傷の現状と今後の課題 - 日本外傷データベースからの検討. 日本脳神経外傷学会 (第37回) (東京), 2014. 3.
 - 21) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科) : 小児のスポーツ関連頭部外傷. 日本脳神経外科学会総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.
 - 22) 横田裕行^{1, 5)}, 松本 学¹⁾, 恩田秀賢¹⁾, 横堀将司¹⁾, 布施 明¹⁾, 高木 誠^{2, 5)}, 有賀 徹^{3, 5)}, 青木則明^{4, 5)} (1) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野 (高度救命救急センター), ²⁾ 東京都済生会中央病院, ³⁾ 昭和大学病院, ⁴⁾ テキサス大学, ⁵⁾ 東京都脳卒中医療連携協議会) : 急性期脳卒中における救急搬送システムと救急初療室の判断. 日本脳卒中学会総会 (第39回) (大阪), 2014. 3.
 - 23) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 横堀将司, 恩田秀賢, 鈴木 剛, 五十嵐豊, 山口昌紘, 新井正徳 : 重症急性硬膜下血腫を含む多発外傷患者への治療方針 : 死亡例からの検討. 日本脳神経外傷学会 (第37回) (東京), 2014. 3.
 - 24) 布施 明, 西川慈人, 五十嵐豊, 萩原 純, 石井浩統, 増野智彦, 荒木 尚, 金 史英, 宮内雅人, 横田裕行 : 災害医療におけるビッグデータの活用の可能性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第41回) (東京), 2013. 10.
 - 25) 田上 隆¹⁾, 土谷飛鳥¹⁾, 井上貴昭¹⁾, 田原良雄¹⁾, 長尾 建¹⁾, 矢口有乃¹⁾, 森村尚登¹⁾ (1) SOS-KANTO 2012 study group) : SOS-KANTO Study 10年間の比較 : SOS-KANTO 2012 study 中間解析報告. 日本救急医学会関東地方会 (第64回) (横浜), 2014. 2.
 - 26) 田中秀治¹⁾, 喜闘斗智也¹⁾, 島崎修次¹⁾, 横田裕行²⁾, 有賀 徹²⁾, 箕輪良行²⁾, 石松伸一²⁾, 黒川 彰²⁾, 佐藤章²⁾, 布施 明²⁾ (1) 国士舘大学大学院救急システム研究科, ²⁾ 救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会) : 病院前救護における終末期医療への対応の在り方. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
 - 27) 木下順弘¹⁾, 横田裕行, 有賀 徹²⁾, 石松伸一²⁾, 黒川 顕²⁾, 佐藤 章²⁾, 島崎修次²⁾, 田中秀治²⁾, 布施 明²⁾, 箕輪良行²⁾ (1) 熊本大学生命科学研究部侵襲制御医学, ²⁾ 救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会) : 救急医療における終末期症例のWEB登録の現状報告について. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
 - 28) 佐藤 章¹⁾, 横田裕行, 木下順弘²⁾, 石松伸一²⁾, 黒川 顕²⁾, 布施 明²⁾, 田中秀治²⁾, 箕輪良行²⁾, 島崎修次²⁾, 有賀 徹²⁾ (1) 埼玉医科大学国際医療センター地域救急医療研究部門, ²⁾ 救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会) : 急性期終末期医療に関する医学生講義の意義 : 救急医学会提言への理解を深めるために. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- (5) パネルディスカッション :
- 1) 田邊晴山¹⁾, 浦島充佳²⁾, 横田裕行, 松本 尚, 中川 隆³⁾, 郡山一明⁴⁾, 堂園俊彦⁵⁾, 野口 宏⁶⁾ (1) 救急振興財団救命救急東京研修所, ²⁾ 東京慈恵会医科大学分子疫学研究室, ³⁾ 愛知医科大学病院高度救命救急センター, ⁴⁾ 救命救急九州研修所, ⁵⁾ 静岡大学人文学部社会科学人間学コース, ⁶⁾ 愛知医科大学) : 救急救命士の処置範囲

拡大にかかわる実証研究について。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京），2013. 7.

- 2) 荒木 尚^{1,2)}，市川光太郎²⁾（¹⁾ 日本医科大学救急医学教室，²⁾ 日本小児救急医学会脳死問題検討委員会）：小児脳死判定セミナーの試みについて：参加者アンケート検討結果より。日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会（第26回）（東京），2013. 6.
 - 3) 芦刈淳太郎¹⁾，小中節子¹⁾，荒木 尚^{2,4)}，横田裕行^{3,4)}，野本亀久雄¹⁾（¹⁾ 公益社団法人日本臓器移植ネットワーク，²⁾ 公益社団法人日本臓器移植ネットワーク中央評価委員会，³⁾ 公益社団法人日本臓器移植ネットワーク臓器提供施設委員会，⁴⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：臓器提供施設における院内体制の整備と脳死下臓器提供事例の経験。日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会（第26回）（東京），2013. 6.
 - 4) 増野智彦，橋詰哲広，鈴木 剛，恩田秀賢，塚本剛志，金 史英，新井正徳，辻井厚子，松田範子¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部）：高圧酸素療法を行った医原性空気塞栓症の5例。日本臨床高気圧酸素・潜水医学会学術集会・総会（第10回），日本高気圧酸素医療技術学会（第4回）合同学術集会（東京），2013. 7.
 - 5) 宮内雅人，石井浩統，増野智彦，金 史英，横田裕行：当院における高齢者上部消化管出血の現状とその治療についての検討。日本救命医療学会総会・学術集会（第28回）（久留米），2013. 9.
 - 6) 増野智彦，新井正徳，宮内雅人，辻井厚子，畝本恭子，布施 明，松本 尚，松田 潔，川井 真，益子邦洋，横田裕行：救急科専門医の質向上にむけた複数基本領域専門医取得の必要性。日本救急医学会総会・学術集会（第41回）（東京），2013. 10.
 - 7) 鈴木健介¹⁾，安達勝哉²⁾，山本裕行²⁾，石ヶ森重之²⁾，久野将宗¹⁾，畝本恭子¹⁾，小峰達也³⁾，石室正輝³⁾，門馬治⁴⁾，石之神小織³⁾，松田 潔³⁾，黒川 顕³⁾，田中秀治⁵⁾，二宮宣文¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院看護部，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター，⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院看護部，⁵⁾ 国士舘大学大学院救急システム研究科）：医師・看護師・病院に所属する救急救命士によるドクターカーシステムの検証院内メディカルコントロール体制下でのPDCAサイクル。日本救急医学会関東地方会（第64回）（横浜），2014. 2.
 - 8) 横堀将司¹⁾，Ross B¹⁾，Shyam G¹⁾，Helen B¹⁾，Dalton D¹⁾，横田裕行（¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami FL USA）：重症頭部外傷モデルにおける血液凝固モニタリング：Goal Direct Therapyを指向した実験的検討。日本救急医学会総会・学術集会（第41回）（東京），2013. 10.
 - 9) 賀 亮，石井浩統，竹島 元，城戸教裕，萩原 純，片桐美和，増野智彦，金 史英，宮内雅人，新井正徳，辻井厚子，横田裕行：open abdomen 施行時における側腹部ストーマ11例の検討。日本 Acute Care Surgery 学会学術集会（第5回）（東京），2013. 11.
- (6) セミナー：
- 1) 荒木 尚：脳低温療法と全身管理。日本脳低温療法学会（第16回）（名古屋），2013. 7.
 - 2) 田上 隆：心停止後症候群患者に対する集中治療の重要性：The fifth linkは患者予後を改善するか？。日本脳低温療法学会（第16回）（名古屋），2013. 7.
 - 3) 横堀将司：重症頭部外傷における再生医療と急性期診療。日本脳神経外傷学会（第37回）（東京），2014. 3.
 - 4) 荒木 尚：小児脳死判定。救急医療における脳死患者の対応セミナー（神奈川），2013. 11.
 - 5) 横田裕行：家族を救うのはあなたです。家族が倒れた時，することは？。東京都脳卒中市民公開セミナー（第14回）（東京），2013. 11.
 - 6) 横田裕行：脳死判定の手技について ピットフォール。日本小児救急医学会学術集会（第27回）脳死判定セミナー（沖縄），2013. 6.
- (7) ワークショップ：
- 1) 高山泰広¹⁾，土佐亮一¹⁾，大村真理子¹⁾，山村英治¹⁾，秋山 豪¹⁾，横田裕行，直江康孝，佐藤秀貴²⁾（¹⁾ 会津中央病院救命救急センター，²⁾ 東京臨海病院救急科）：多発外傷に合併した局所脳損傷に対する穿頭術の活用につ

いて、日本外傷学会総会・学術集会（第27回）（久留米），2013. 5.

- 2) 横堀将司：日本外傷学会と本学会のジョイントセッション。日本脳神経外傷学会（第37回）（東京），2014. 3.
- 3) Araki T：Japanese Neuro Trauma Surgery. AANS/CNS Pediatric section (Toronto ON Canada)，2013. 12.

(8) ポスター：

- 1) 松本 学^{1, 2)}，岩瀬史明¹⁾，小林辰輔¹⁾，宮崎善史¹⁾，牧 真彦¹⁾，岩瀬弘明³⁾，加藤頼子¹⁾，萩原一樹¹⁾，滝口徹¹⁾，横田裕行²⁾（¹⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター，²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター，³⁾ 山梨県立中央病院整形外科）：手術修復を必要としなかった鈍的外力による胃損傷の1例。日本外傷学会総会・学術集会（第27回）（久留米），2013. 5.
- 2) 藤木 悠¹⁾，高山泰広¹⁾，秋山 豪¹⁾，山村英治¹⁾，大村真理子¹⁾，土佐亮一¹⁾，横田裕行（¹⁾ 会津中央病院救命救急センター）：頭部外傷に伴う神経原性肺水腫の増悪で救命し得なかった1例。日本外傷学会総会・学術集会（第27回）（久留米），2013. 5.
- 3) 橋詰哲広，山口昌紘，五十嵐豊，渡邊顕弘，鈴木 剛，恩田秀賢，布施 明，横田裕行：二次的な選択的塞栓術が奏効した外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻の1例。日本外傷学会総会・学術集会（第27回）（久留米），2013. 5.
- 4) 宮内雅人，戸田 翠，坂本和嘉子，石井浩統，田上 隆，増野智彦，新井正徳，金 史英，横田裕行：多発肋骨骨折後の遅発性血気胸においてMDCTの3次元画像が診断に有効とおもわれた1例。日本外傷学会総会・学術集会（第27回）（久留米），2013. 5.
- 5) 畝本恭子¹⁾，久保田稔¹⁾，鈴木健介¹⁾，苛原隆之¹⁾，福田令雄¹⁾，小柳正雄¹⁾，久野将宗¹⁾，諸江雄太¹⁾，二宮宣文¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター）：高齢者意識障害の原因診断における病院前情報の意義。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京），2013. 7.
- 6) 恩田秀賢，宮内雅人，増野智彦，布施 明，横田裕行：当院高度救命救急センターにおける高齢者医療の現状。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京），2013. 7.
- 7) 佐藤 慎¹⁾，桑本健太郎¹⁾，金子児太郎¹⁾，金子純也¹⁾，北橋章子¹⁾，久野将宗¹⁾，畝本恭子¹⁾，二宮宣文¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター）：重症頭部外傷急性期の凝固線容異常による止血困難を回避しえた一開頭例。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京），2013. 7.
- 8) 池田慎平，石井浩統，賀 亮，竹島 元，城戸裕裕，萩原 純，坂本和嘉子，片桐美和，新井正徳，増野智彦，金 史英，辻井厚子，横田裕行：プレート固定術を施行した多発肋骨骨折の2例。日本医科大学医学会総会（第81回）（東京），2013. 9.
- 9) 竹島 元，萩原 純，山口昌紘，入江康仁，鈴木 剛，小原良規，金 史英，新井正徳，布施 明，川井 真，横田裕行：特発性脾破裂に対し，経カテーテルの動脈塞栓術を施行した1例。日本医科大学医学会総会（第81回）（東京），2013. 9.
- 10) 佐藤颯城¹⁾，渡邊祐介²⁾，山内豪人³⁾，久保村憲⁴⁾，深井翔太⁴⁾，西牧美幸⁴⁾，古田勇樹⁴⁾，齋藤明香⁵⁾，鈴木健介，五十嵐豊，久野将宗，横田裕行，河嶋 譲⁶⁾，近藤久禎⁷⁾，小井土雄一⁷⁾（¹⁾ 日本医科大学医学部第2学年，²⁾ 日本医科大学医学部第4学年，³⁾ 日本医科大学医学部第5学年，⁴⁾ 日本医科大学医学部第6学年，⁵⁾ 国士舘大学大学院，⁶⁾ 厚生労働省精神・障害保健課，⁷⁾ 国立病院機構災害医療センター）：ラオス人民民主共和国におけるMass Casualty Incidentセミナーを開催して。日本医科大学医学会総会（第81回）（東京），2013. 9.
- 11) 賀 亮，石井浩統，竹島 元，萩原 純，片桐美和，増野智彦，金 史英，宮内雅人，新井正徳，辻井厚子，横田裕行：アルコール大量飲酒により腐食性食道炎をきたしたと考えられる1例。日本医科大学医学会総会（第81回）（東京），2013. 9.
- 12) 新井正徳，金 史英，石井浩統，増野智彦，萩原 純，片桐美和，竹島 元，賀 亮，辻井厚子，横田裕行：閉腹困難なopen abdomenにおいて非吸収性メッシュによる牽引および両側腹直筋鞘前葉反転法が有効であった2例。日本救急医学会総会・学術集会（第41回）（東京），2013. 10.
- 13) Fuse A, Igarashi Y, Hagiwara J, Ishii H, Masuno T, Araki T, Kim S, Miyauchi M, Yokota H：Big data

is effective for the management of medical relief activities in disaster. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo), 2013. 10.

- 14) 白石振一郎¹⁾, 塚本剛志, 小野真平, 宮内雅人, 大村真理子¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 根井貴仁²⁾, 野呂瀬嘉彦²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院感染制御部): 来院後に心肺停止に陥った市中型 MRSA による重症軟部組織感染症の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
 - 15) 水柿明日美, 新井正徳, 溝渕大騎¹⁾, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 白石振一郎²⁾, 片桐美和, 塚本剛志, 竹田晋浩³⁾, 横田裕行 (¹⁾ いわき市立総合磐城共立病院外科, ²⁾ 会津中央病院, ³⁾ 日本医科大学付属病院集中治療部): 硝酸の誤吸引により ARDS を発症した 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
 - 16) 久野将宗¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 福田令雄¹⁾, 金子純也¹⁾, 苛原隆之, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 肝損傷を来たした急性心筋梗塞による心肺停止症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
 - 17) 富永直樹, 石井浩統, 萩原 純, 片桐美和, 増野智彦, 新井正徳, 金 史英, 辻井厚子, 横田裕行: ハイブリッド戦略にて治療した上腸間膜動脈閉塞の 2 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
 - 18) 宮内雅人, 石井浩統, 増野智彦, 横田裕行: 救急・集中治療領域における極細径上部消化管内視鏡スコープ使用の経験と可能性. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
 - 19) Masuno T, Shigemura T, Yoshino M¹⁾, Ichimura M²⁾, Inamoto E³⁾, Igarashi Y, Hagiwara J, Ishii H, Fuse A, Matsui Y⁴⁾, Yokota H (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Human Interaction Research Center 21, Toyo University, ³⁾ Tamanagayama Hospital, Nippon Medical School, ⁴⁾ Division of Psychology, Tsukuba University): The Impact of Prehospital Care Operations on Psychological Conditions of Doctors and Nurses Dispatched to the Scene. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo), 2013. 10.
- (9) 一般講演:
- 1) 五十嵐豊, 恩田秀賢, 山口昌紘, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 布施 明, 横田裕行: 低血糖発作とけいれん発作に対するドクターカーによる病院前治療. 日本神経救急学会学術集会 (第 27 回) (東京), 2013. 6.
 - 2) 高山泰広¹⁾, 横田裕行, 直江康孝, 荒木 尚, 佐藤秀貴²⁾ (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター, ²⁾ 東京臨海病院救急科): 外傷性脳損傷における Talk and deteriorate の病態について. 日本神経救急学会学術集会 (第 27 回) (東京), 2013. 6.
 - 3) 藤木 悠¹⁾, 高山泰広¹⁾, 秋山 豪¹⁾, 山村英治¹⁾, 大村真理子¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター): 頭部外傷に伴う神経原性肺水腫の増悪で救命し得なかった 1 例. 日本神経救急学会学術集会 (第 27 回) (東京), 2013. 6.
 - 4) 平林篤志¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 重症鈍の外傷における活性型第 VII 因子 (rFVIIa) 製剤使用に関する検討. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 27 回) (久留米), 2013. 5.
 - 5) 塚本剛志, 戸田 翠, 林 励治, 小原良規, 川井 真, 横田裕行: 当センターにおける高齢者外傷の検討. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 27 回) (久留米), 2013. 5.
 - 6) 山村英治¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 高山泰広¹⁾, 大村真理子¹⁾, 秋山 豪¹⁾, 藤木 悠¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター): 多発肋骨骨折に対して金属プレートを使用して肋骨固定術を施行した 6 例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 27 回) (久留米), 2013. 5.
 - 7) 山村英治¹⁾, 高山泰広¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 大村真理子¹⁾, 秋山 豪¹⁾, 藤木 悠¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター): 当院で血管造影検査を施行した外傷症例の検討. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 27 回) (久留米), 2013. 5.
 - 8) 高山泰広¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴, 直江康孝, 荒木 尚 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター): 頭部

- 外傷急性期における穿頭術と開頭術の選択について. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 27 回) (久留米), 2013. 5.
- 9) 松本 学^{1, 2)}, 岩瀬史明¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 加藤頼子¹⁾, 岩瀬弘明^{1, 3)}, 萩原一樹¹⁾, 滝口徹¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 山梨県立中央病院救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 3) 山梨県立中央病院整形外科):びまん性脳損傷患者の意識回復. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 27 回) (久留米), 2013. 5.
 - 10) 石井浩統, 金 史英, 溝渕大騎, 吉田直人, 坂本和嘉子, 田上 隆, 白石振一郎, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行:尿瘻を伴うも腎温存し得た腎外傷の 1 例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 27 回) (久留米), 2013. 5.
 - 11) 高田治樹¹⁾, 市村美帆²⁾, 吉野美緒³⁾, 稲村絵里⁴⁾, 重村朋子, 増野智彦, 横田裕行 (1) 筑波大学大学院人間総合科学研究所, 2) 東洋大学, 3) 日本医科大学付属病院小児科, 4) 日本医科大学多摩永山病院):病院前診療活動に伴う心的外傷性ストレス反応と出場中に抱く感情の関連および医師と看護婦での違い. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 16 回) (東京), 2013. 7.
 - 12) 重村朋子, 吉野美緒¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院小児科):脳死下ドナー家族の臓器提供に関わる心理過程に関する研究. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2013. 6.
 - 13) 吉野美緒¹⁾, 重村朋子, 川尻泰樹³⁾, 小華和さやか¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院小児科, 2) 首都大学東京人文学科学部, 3) 日本医科大学付属病院小児科):移植コーディネーターの精神的健康度・心的ストレスに関する研究. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2013. 6.
 - 14) 中山拓也¹⁾, 佐々木拓也¹⁾, 志村亜由香¹⁾, 小磯那津美¹⁾, 橋本美紀¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 横田裕行, 竹田晋浩¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部):急性一酸化炭素中毒における高気圧酸素療法の有用性の検討. 日本臨床高気圧酸素・潜水医学会学術集会・総会 (第 10 回), 日本高気圧酸素医療技術学会 (第 4 回) 合同学術集会 (東京), 2013. 7.
 - 15) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 恩田秀賢, 鈴木 剛, 五十嵐豊, 山口昌紘, 新井正徳:重症頭部外傷を含む多発外傷患者における治療方針:死亡例からの検討. 日本救命医療学会総会・学術集会 (第 28 回) (久留米), 2013. 9.
 - 16) 吉田直人¹⁾, 小川理郎¹⁾, 辻井厚子, 新井正徳, 宮内雅人, 横田裕行, 平田清貴²⁾, 林田真喜子³⁾, 大野曜吉³⁾ (1) 足利赤十字病院, 2) 日本医科大学薬剤部, 3) 日本医科大学法医学教室):新病院開院後の当院救命センターにおける急性薬毒物中毒疾患の傾向. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
 - 17) 中江竜太¹⁾, 高山泰広, 北蘭雅敏¹⁾, 恩田秀賢, 桑本健太郎, 直江康孝¹⁾, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター):頭部外傷に伴う凝固・線溶系障害の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
 - 18) 高山泰広¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴, 直江康孝, 荒木 尚 (1) 花と森の東京病院救急科・脳神経外科):Talk and deteriorate 例の病態からみた初期診療のあり方について. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
 - 19) 荒木 尚^{1, 2)}, 川井 真^{1, 2)}, 林 励治^{1, 2)}, 増野智彦²⁾, 新井正徳²⁾, 布施 明²⁾, 小原俊彦¹⁾, 兵働英也¹⁾, 安武正弘¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター):JTAS からみた病院選定困難事例 (いわゆる東京ルール) の問題点. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
 - 20) 須崎 真¹⁾, 荒木 尚^{1, 2)}, 小原俊彦¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 林 励治^{1, 2)}, 増野智彦^{1, 2)}, 安武正弘¹⁾, 川井 真^{1, 2)}, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター):小児外傷診療における ER 対応の現状と課題. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.

- 21) 田邊晴山¹⁾, 横田裕行, 浦島充佳²⁾, 松本 尚, 中川 隆³⁾, 郡山一明⁴⁾, 野口 宏⁵⁾ (1) 救急救命東京研修所, 2) 東京慈恵会医科大学分子疫学研究室, 3) 愛知医科大学病院高度救命救急センター, 4) 救急救命九州研修所, 5) 愛知医科大学): 救急の現場における臨床研究でのインフォームド・コンセントの課題について. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 22) 橋詰哲広, 山口昌紘, 五十嵐豊, 鈴木 剛, 松本 学, 恩田秀賢, 荒木 尚, 布施 明, 横田裕行: 3次救急施設に搬送された発症目撃のない脳梗塞患者の特徴と転帰. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 23) 小原俊彦¹⁾, 兵働英也¹⁾, 川井 真^{1,2)}, 須崎 真¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 林 励治^{1,2)}, 荒木 尚^{1,2)}, 増野智彦^{1,2)}, 安武正弘¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): ERにおける重篤度, 背景の複雑性はトリアージレベルだけでは判断できない. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 24) 恩田秀賢, 布施 明, 藤本 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 鈴木 剛, 橋詰哲広, 横堀将司, 荒木 尚, 横田裕行: 重症頭部外傷経過中に外傷性脳動脈瘤破裂を合併した1例. 外傷症例検討会 (第 40 回) (東京), 2013. 11.
- 25) Liang H, Masuno T, Ishii H, Katagiri M, Kim S, Arai M, Tsujii A, Yokota H: A Case of "Black Esophagus": A Case Report of Acute Esophageal Necrosis due to Alcoholic Ketoacidosis. 43rd Critical Care Congress, the Society of Critical Care Medicine (San Francisco, California, USA), 2014. 1.
- 26) 山口昌紘, 恩田秀賢, 藤本 悠, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 横堀将司, 荒木 尚, 布施 明, 横田裕行: 外科的加療が奏効した硬膜動静脈瘻の2例. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (横浜), 2014. 2.
- 27) 鈴木祐之¹⁾, 安松比呂志¹⁾, 三木隆久¹⁾, 平林篤志¹⁾, 亀山大介¹⁾, 本村友一¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 益子一樹¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 林田和之¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 搬入まで1時間を要した予測外生存例. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (横浜), 2014. 2.
- 28) 服部 陽¹⁾, 安松比呂志¹⁾, 三木隆久¹⁾, 平林篤志¹⁾, 亀山大介¹⁾, 本村友一¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 益子一樹¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 林田和之¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): Damage Control Resuscitationにて救命し得た鈍的心的損傷の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (横浜), 2014. 2.
- 29) 塚本剛志, 小原良規, 萩原 純, 賀 亮, 金 史英, 山口昌紘, 富永直樹, 辻井厚子, 坂本和嘉子, 宮内雅人, 新井正徳, 増野智彦, 小川理郎, 川井 真, 横田裕行: 脛骨高原粉碎骨折にコンパートメント症候群を合併した1症例. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (横浜), 2014. 2.
- 30) 富永直樹, 金 史英, 池田慎平, 賀 亮, 朝日林太郎, 石井浩統, 片桐美和, 松居亮平, 橋詰哲広, 塚本剛志, 佐藤悦子, 小川理郎, 坂本和嘉子, 川井 真, 横田裕行: 保存的加療にて良好な転帰を得た門脈気腫症をみとめた上腸間膜動脈症候群の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (横浜), 2014. 2.
- 31) 池田慎平, 石井浩統, 藤本 悠, 朝日林太郎, 小原良規, 片桐美和, 恩田秀賢, 金 史英, 新井正徳, 松居亮平, 辻井厚子, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 腐食性胃炎による癒痕性狭窄に対して胃全摘術を行った1例. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (横浜), 2014. 2.
- 32) 五十嵐豊, 鶴和美穂¹⁾, 久保達彦²⁾, 富岡譲二³⁾, 山口昌紘, 萩原 純, 横堀将司, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 (1) 国立病院機構災害医療センター臨床研究部, 2) 産業医科大学公衆衛生学教室, 3) 米盛病院救急部): フィリピン共和国タクロバン市における台風ハイエンによる被災後急性期の疾病構造と変化. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (横浜), 2014. 2.
- 33) 賀 亮, 宮内雅人, 萩原 純, 石井浩統, 金 史英, 新井正徳, 横田裕行: 十二指腸潰瘍出血に対するIVR後に仮性動脈瘤を合併した1例. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 34) 萩原 純, 金 史英, 辻井厚子, 増野智彦, 新井正徳, 宮内雅人, 横田裕行: 当施設で行った最近2年間の重症

急性膵炎の治療法と転機. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.

- 35) Tagami T : Effect of a selective neutrophil elastase inhibitor, sivelestat, on pulmonary vascular permeability. 14th Joint Scientific Congress of JSICM and KSCCM, and the International Scientific Congress of Intensive Care and Critical Care Medicine (Kyoto, Japan), 2014. 2.
- 36) Tagami T : Change in extravascular lung water as a prognostic indicator in ARDS : PiCCO pulmonary Edema Study. 14th Joint Scientific Congress of JSICM and KSCCM, and the International Scientific Congress of Intensive Care and Critical Care Medicine (Kyoto, Japan), 2014. 2.
- 37) 横堀將司, Ross B¹⁾, 増野智彦, 宮内雅人, 恩田秀賢, 布施 明, 鈴木 剛, 山口昌紘, 藤木 悠, 橋詰哲広, 五十嵐豊, 高山泰広, 横田裕行 (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL, USA) : 重症頭部外傷における Thromboelastography を用いた血液凝固モニタリング : Goal Direct Therapy を指向した実験的検討. バイオメディカルフォーラム (第 24 回) (東京), 2013. 12.
- 38) Khadil H¹⁾, Shyam G¹⁾, Yokobori S¹⁾, Markus S¹⁾, Yoelvis H¹⁾, Lai Yee L²⁾, Frank T²⁾, Ross B¹⁾ (¹⁾ Miami Project to Cure Paralysis Department of Neurosurgery, University of Miami Miller school of Medicine, Miami, FL., ²⁾ Brain Trauma Neuroprotection and Neurorestoration, Center for Military Psychiatry and Neuroscience, Walter Reed Army Institute of Research, Silver Spr) : ENGRAFTMENT OF FETAL CELL TRANSPLANTS IN RAT MODEL OF PENETRATING BRAIN INJURY : A "PROOF OF CONCEPT" STUDY. National Neurotrauma Symposium 2013 (31st) (Tennessee, USA), 2013. 8.
- 39) Yokobori S, Araki T, Onda H, Matsumoto G, Takayama Y, Fuse A, Yokota H : Geriatric TBI in Japan - Lessons from the Country with Highest Longevity : Report from the Japan Neurotrauma Data Bank (JNT-DB) Project 1999-2009. National Neurotrauma Symposium 2013 (31st) (Tennessee), 2013. 8.
- 40) Yokobori S¹⁾, Khadil H¹⁾, Shyam G¹⁾, Markus S¹⁾, Julio S¹⁾, Emilio C¹⁾, Carlos B¹⁾, Carlos-Jr B¹⁾, Wenche J³⁾, Laiyee L²⁾, Frank-Tortella C²⁾, Helen B¹⁾, Dalton D¹⁾, Ross B¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller school of Medicine, Miami, FL, ²⁾ Department of Hematology/Oncology, University of Miami Miller school of Medicine, Miami, FL, ³⁾ Brain Trauma Neuroprotection and Neurorestoration, Center for Military Psychiatry and Neuroscience, Walter Reed Army Institute of Research, Silver Spr) : Different Blood Coagulation Profiles in Different TBI Rat Models - An Experimental Study with Thromboelastography (TEG). National Neurotrauma Symposium 2013 (31st) (Tennessee, USA), 2013. 8.
- 41) Markus S¹⁾, Alexandra W¹⁾, Julio D¹⁾, Yokobori S¹⁾, Shyam G¹⁾, Joseph L¹⁾, Laiyee L²⁾, Frank T²⁾, Ross B¹⁾ (¹⁾ Miami Project to Cure Paralysis Department of Neurosurgery, University of Miami Miller school of Medicine, Miami, FL., ²⁾ Brain Trauma Neuroprotection and Neurorestoration, Center for Military Psychiatry and Neuroscience, Walter Reed Army Institute of Research, Silver Spr) : Focal Neurodegeneration in rat following Penetrating Ballistic-like Brain Injury (PBBi) despite Acute Global Metabolic Pathophysiology. National Neurotrauma Society 2103 (31st) (Tennessee), 2013. 8.
- 42) Yokobori S, Araki T, Onda H, Matsumoto G, Takayama Y, Fuse A, Yokota H : Geriatric Traumatic Brain Injury in Japan : A Report From The Country With Highest Longevity. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo), 2013. 10.
- 43) 横堀將司, 荒木 尚, 恩田秀賢, 松本 学, 高山泰広, 布施 明, 横田裕行 : 高齢者重症頭部外傷に対する積極的治療 15 年の総括 - 日本頭部外傷データベース (JNTDB) 1998 - 2009 における検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 44) 金 史英, 石井浩統, 坂本和嘉子, 田上 隆, 増野智彦, 新井正徳, 横田裕行 : 重症腹部外傷の治療戦略 : Damage control surgery の早期適応判断. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 45) 荒木 尚, 横田裕行 : 小児の脳死判定基準—本邦と諸外国との比較—. 日本脳神経外科コンgres (第 33 回)

- (大阪), 2013. 5.
- 46) 荒木 尚, 横田裕行: 脳死下臓器提供の体制整備と死の教育について. 日本移植学会 (第 49 回) (大阪), 2013. 9.
 - 47) Araki T, Yokota H, Kitazono M, Takayama Y, Yokobori S, Onda H, Suzuki G, Nakae R, Watanabe A, Sato H, Fuse A: Decompressive craniectomy for refractory intracranial hypertension in severe traumatic brain injury in children. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo), 2013. 10.
 - 48) Araki T, Yokota H, Aruga T¹⁾, Kinoshita Y²⁾, Sakamoto T³⁾, Ashikari J⁴⁾ (¹⁾ Department of Emergency Medicine, Showa University, ²⁾ Department of Aggressology and Critical Care Medicine, Kumamoto University, ³⁾ Trauma and Resuscitation Center, Teikyo University, ⁴⁾ Japan Organ Transplant Network, Tokyo, Japan): Determination of brain death in Japan-an analysis of 102 cases. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo), 2013. 10.
 - 49) 山口昌紘¹⁾, 五十嵐豊¹⁾, 橋詰哲広^{1, 2)}, 鈴木 剛¹⁾, 恩田秀賢¹⁾, 横堀将司¹⁾, 草野輝男²⁾, 布施 明¹⁾, 岡本研²⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学, ²⁾ 日本医科大学生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)): 全脳虚血再灌流障害モデルマウスにおける酸化ストレスマーカーの検討. 日本脳卒中学会総会 (第 36 回) (大阪), 2014. 3.
 - 50) 松本 学¹⁾, 岩瀬史朗¹⁾, 井上潤一¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 加藤頼子¹⁾, 大嶽康介¹⁾, 池田督司¹⁾, 木下大輔¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター): 脳血管障害における超急性期急性症候性痙攣. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪), 2014. 3.
 - 51) 藤木 悠, 横堀将司, 恩田秀賢, 桑本健太郎¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 抗血小板療法中に発症した突発性頸髄硬膜外血腫. 日本脳神経外科救急学会総会・学術集会 (第 19 回) (富山), 2014. 1.
 - 52) Fuse A, Fuse R: Utilizing real-time big data for effective management of disaster medical relief activities. International preparedness & response to emergencies & disasters (3) (Tel-Aviv, Israel), 2014. 1.
 - 53) 布施 明, 賀 亮, 竹島 元, 五十嵐豊, 石井浩統, 萩原 純, 横堀将司, 増野智彦, 横田裕行: Tactical Emergency Medical System のための研修コースのあり方. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (19) (東京), 2014. 2.
 - 54) 布施 明: 全日本病院協会 災害時医療支援活動班 (AMAT) の立ち上げと概要. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (19) (東京), 2014. 2.
 - 55) 増野智彦, 石井浩統, 賀 亮, 竹島 元, 五十嵐豊, 萩原 純, 横堀将司, 布施 明, 横田裕行: 携帯型情報入力端末の活用した災害・救急診療記録作成の有用性. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 19 回) (東京), 2014. 2.
 - 56) 布施 明, 猪口正孝¹⁾, 加納繁照¹⁾, 山本保博¹⁾, 市原正行²⁾, 大西光雄²⁾, 勝見 敦²⁾, 北川喜己²⁾, 小林良三²⁾, 高橋 功²⁾, 中尾博之²⁾, 肥留川賢一²⁾, 眞瀬智彦²⁾, 山内 聡²⁾ (¹⁾ 全日本病院協会 救急・防災委員会, ²⁾ 全日本病院協会 救急・防災委員会 AMAT 研修ワーキンググループ): 全日本病院協会 災害時医療支援活動班 (AMAT) の立ち上げと概要. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 19 回) (東京), 2014. 2.
 - 57) 新井正徳, 金 史英, 増野智彦, 萩原 純, 石井浩統, 片桐美和, 坂本和嘉子, 城戸教裕, 竹島 元, 賀 亮, 横田裕行: 閉腹困難な open abdomen に対し, VAC および mesh traction の併用が有用であった 3 例. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 (第 5 回) (東京), 2013. 11.
 - 58) 竹島 元, 萩原 純: 特発性脾破裂に対し, 経カテーテル的動脈塞栓術を施行した 1 例. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 (第 5 回) (東京), 2013. 11.
 - 59) Igarashi Y, Yokobori S, Fujiki Y, Yamaguchi M, Hashizume A, Onda H, Araki T, Ogawa S, Fuse A, Yokota H: Cerebral extracellular chemistry and outcome of patients with acute subdural hematoma. Inter-

- national Neurotrauma Symposium (第11回) (Budapest, Hungary), 2014. 3.
- 60) Igarashi Y, Kido N, Hagiwara J, Omura M, Tagami T, Tosa R, Fuse A, Yokota H : Stay or leave? : Evacuation of Geriatric Patients with Chronic Diseases. World Conference on Disaster and Emergency Medicine (第18回), 2013. 5.
- 61) 賀 亮, 根井貴仁¹⁾, 城戸教裕, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 塚本剛志, 増野智彦, 金 史英, 宮内雅人, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 感染制御部 医師) : 肝膿瘍から心膜への直接浸潤による急性心外膜炎の1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 62) 五十嵐豊 : 救急医療最前線 事件現場医療派遣チーム「警視庁 IMAT」. Tokyo ER Meeting (第1回) (東京), 2013. 6.
- 63) Ishii H, Kim S, Sakamoto W, Tagami T, Arai M, Yokota H : The epidemiology of Harakiri : a retrospective study of penetrating abdominal trauma in Japanese patients who attempted suicide. International Surgical Week 2013 (フィンランド, ヘルシンキ), 2013. 8.
- 64) 石井浩統, 金 史英, 溝瀆大騎, 坂本和嘉子, 田上 隆, 白石振一郎, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行 : Open Abdomen 施行時のストーマサイトメイキング : 側腹部ストーマの可能性. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 65) 松本 学¹⁾, 太田好紀²⁾, 岩瀬史朗¹⁾, 井上潤一¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 加藤頼子¹⁾, 池田督司¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター, ²⁾ 兵庫医科大学病院内科学教室総合診療科) : 院外心肺停止患者に対する対外式心肺補助使用下脳低温療法における治療脱落の予測因子. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 66) Tagami T, Kuwamoto K¹⁾, Watanabe A, Unemoto K¹⁾, Yokobori S, Matsumoto G, Isotani E²⁾, Yokota H, Picco Sah³⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Tokyo Women's Medical University Medical Center East, ³⁾ SAH PiCCO study group) : Global End-diastolic Volume Predicts Delayed Cerebral Ischemia and Pulmonary Edema after Subarachnoid Hemorrhage. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo), 2013. 10.
- 67) Satoh E, Tagami T, Onda H, Masuno T, Miyauchi M, Fuse A, Yokota H : The Relationship between Metabolic Acidosis and Neurogenic Pulmonary Edema after Subarachnoid Hemorrhage. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo), 2013. 10.
- 68) 横堀将司 : 重症くも膜下出血における血清心房性ナトリウムペプチドの上昇機構. 日本脳神経外科学会第72回学術総会 (横浜), 2013. 10.
- 69) Masuno T, He L, Tominaga N, Yamaguchi M, Hagiwara J, Kim S, Miyauchi M, Arai M, Kawai M, Yokota H : Hepatic portal gas resulting from acute gastric dilatation caused by acute phlegmonous gastritis : A case report. 14th Joint Congress of JSICM and KSCCM (Kyoto), 2014. 2.
- 70) 須崎 真¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 林 励治¹⁾, 藤田和恵¹⁾, 増野智彦, 安武正弘¹⁾, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学総合診療センター) : 当院総合診療センターにおける小児外傷患者の特徴. 日本小児救急医学会学術集会 (第27回) (沖縄), 2013. 6.
- 71) 須崎 真¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 林 励治, 増野智彦, 安武正弘¹⁾, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学総合診療センター) : 当院における総合診療センターの現状と課題 初期・後期研修医の評価より. 日本病院総合診療医学会学術総会 (第7回) (広島), 2013. 8.
- (10) 公開講座 :
- 1) 横田裕行 : 熱中症を予防しよう. 日本医科大学医師会市民公開講座 (東京), 2013. 5.

- (11) 研修会：
- 1) 横田裕行：救急医療施設からみた脳死下臓器提供. 救急医療研修会（第6回）（滋賀），2013. 11.
- (12) パネルディスカッション枠関連：
- 1) 江口徹哉¹⁾，鎌田玄二郎¹⁾，渡邊顕弘，石井浩統，白石振一郎，恩田秀賢，増野智彦，宮内雅人，辻井厚子，横田裕行（¹⁾ 東京消防庁）：低血糖補正後も意識障害が遷延する低血糖傷病者の背景因子. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京），2013. 7.
 - 2) 鎌田玄二郎¹⁾，江口徹哉¹⁾，増野智彦，田上 隆，塚本剛志，金 史英，新井正徳，布施 明，川井 真，横田裕行（¹⁾ 東京消防庁）：救急現場における静脈路確保の客観的難易度評価を目的とした静脈路評価分類の活用（第3報）. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京），2013. 7.
- (13) フォーラム：
- 1) 高山泰広¹⁾，土佐亮一¹⁾，大村真理子¹⁾，山村英治¹⁾，秋山 豪¹⁾，横田裕行，直江康孝，佐藤秀貴²⁾（¹⁾ 会津中央病院救命救急センター，²⁾ 東京臨海病院救急科）：外傷専門医に必要な外傷性脳損傷に対する診療スキルについて：脳外科医の立場より. 日本外傷学会総会・学術集会（第27回）（久留米），2013. 5.
- (14) 移植関連学会ワーキンググループからの発表：
- 1) 田中秀治¹⁾，島崎修次¹⁾，横田裕行¹⁾，木下順弘¹⁾，田中 裕¹⁾，坂本哲也¹⁾，奥寺 敬¹⁾，甲斐達朗¹⁾，加藤庸子¹⁾，久志本成樹¹⁾（¹⁾ 通常の医療行為としての脳死判定に関わる診療報酬についてのWG）：通常医療行為としての脳死判定に関わる診療報酬の検討. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会（第26回）（東京），2013. 6.
- (15) 移植関連学会協議会ワーキンググループからの発表：
- 1) 横田裕行，荒木 尚，有賀 徹¹⁾，池田寿明²⁾，岡田真人³⁾，多田恵一⁴⁾，永廣信治⁵⁾（¹⁾ 昭和大学，²⁾ 東京医科大学，³⁾ 聖隷三方原病院，⁴⁾ 広島市民病院，⁵⁾ 徳島大学）：円滑な脳死下臓器提供に向けてのワーキンググループ（WG）からの提言. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会（第26回）（東京），2013. 6.
- (16) 講義：
- 1) 横田裕行：高齢者救急医療の諸問題－DNARを含んで－. 千駄木プレホスピタル研究会（第16回）（東京），2013. 6.
- (17) 講習会：
- 1) 横田裕行：医療から見た熱中症. 平成25年度熱中症対策に係る地方自治体等担当者向け講習会（東京），2013. 5.
- (18) 主題：
- 1) 賀 亮，竹島 元，城戸教裕，松居亮平，萩原 純，石井浩統，片桐美和，塚本剛志，増野智彦，金 史英，宮内雅人，新井正徳，辻井厚子，横田裕行：鼠径ヘルニア陥頓によるイレウスから門脈ガス血症を呈し，エンドトキシンショックとの鑑別に難渋した1例. エンドトキシン血症救命治療研究会（第18回）（東京），2014. 1.
 - 2) 城戸教裕，賀 亮，萩原 純，石井浩統，橋詰哲広，佐藤悦子，塚本剛志，増野智彦，金 史英，宮内雅人，新井正徳，辻井厚子，横田裕行：下部消化管穿孔・急性汎発性腹膜炎に対しPMXを含めた集学的治療とOpen Abdominal Managementを併施し良好な経過を得た1例. エンドトキシン血症救命治療研究会（第18回）（東京），2014. 1.
- (19) 症例検討：
- 1) 萩原 純：重症外傷. 日本集中治療医学会学術集会（第41回）（京都），2014. 2.
- (20) 動画セッション：
- 1) 安松比呂志¹⁾，益子一樹¹⁾，服部 陽¹⁾，三木隆久¹⁾，本村友一¹⁾，林田和之¹⁾，松本 尚¹⁾，益子邦洋¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター）：重症外傷による出血性ショックに対する初療室緊急手術体制. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会（第5回）（東京），2013. 11.

(21) 特別セミナー：

- 1) 横堀将司：Recent advances and future directions：suggestions from experimental studies. 日本脳神経外科学会第72回学術総会（横浜），2013. 10.

(22) 優秀演題：

- 1) 布施 明，五十嵐豊，萩原 純，石井浩統，横堀将司，増野智彦，横田裕行：災害急性期における医療支援で，災害医療コーディネーターは“ビッグデータ”を活用できるか. 日本集団災害医学会総会・学術集会（19）（東京），2014. 2.

(23) 要望演題：

- 1) 宮内雅人，石井浩統，増野智彦，新井正徳，金 史英，横田裕行：上部消化管出血（非静脈瘤性）におけるIVRを利用した治療戦略の重要性とピットフォール. 日本腹部救急医学会総会（第50回）（東京），2014. 3.

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 中江竜太¹⁾，恩田秀賢，高山泰広，荒木 尚，直江康孝¹⁾，布施 明，佐藤秀貴，吉田大蔵²⁾，横田裕行，寺本明²⁾（¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター，²⁾ 日本医科大学脳神経外科）：TCDによる脳血管攣縮の診断：mBFVの左右比を用いた検討. 脳血管攣縮 2013；28：33-36.

追加分症例報告：

- 1) 上野 孝¹⁾，横田裕行，川名誠司¹⁾（¹⁾ 日本医科大学大学院皮膚粘膜炎病態学講座）：日本医科大学付属病院における中毒性表皮壊死症の検討. 熱傷 2013；39（1）：52-59.

著書

追加分：

- 1) 荒木 尚：〔分担〕小児重症頭部外傷. 重症頭部外傷治療管理のガイドライン 第3版（日本脳神経外科学会・日本脳神経外傷学会），2013；pp123-149，医学書院.
- 2) 荒木 尚：〔翻訳〕第2章脳死の神経学 第6章臨床的問題16 無脳症と脳死 臨床的問題17 Shaken Baby Syndromeと脳死. 脳死 概念と診断，そして諸問題（有賀徹 横田裕行），2013；pp25-65，へるす出版.

学会発表

追加分パネルディスカッション：

- 1) Yokobori S, Bullock R¹⁾（¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL, USA）：EARLY HYPOTHERMIA FOR ACUTE SUBDURAL HEMATOMA：THE HOPEs TRIAL. 3rd Annual Therapeutic Hypothermia and Temperature Management：Current and Future（Miami FL, USA），2013. 3.

追加分招待講演：

- 1) 布施 明：中央区防災計画における医療従事者の役割とその実践. 日本橋医師会学術講演会（東京），2013. 1.
- 2) 布施 明：医療従事者のためのトリアージの実践と首都直下地震における医療活動. 江戸川区医師会講演会（東京），2013. 1.

[武蔵小杉病院救命救急センター]

研究概要

松田は、救急医学、救急医療に関する総説を雑誌、および共著刊行物として執筆した。また、救命救急センターの管理、救急医療システムに関する発表を行った。望月は、感染制御に関する著作、発表を行った。救急医学の領域を越えて病院全体の感染制御に関わる臨床、研究を行っている。石之神は、中枢神経領域を研究テーマとしているが、疼痛コントロールに関する総説を執筆した。菊池は、ドクターカー運用による病院外心肺停止の治療成績について発表した。当院でのドクターカー運用も2年目になり、1年目の活動を検証し今後の展開を考えなければならない。遠藤は、高齢化社会の中で高齢者介護施設における救急医の関わりについて発表した。高齢化問題は救急医学領域においても大きな問題になっている。心停止をきたした高齢者の蘇生については、死生観に関わる問題を生じる。Living willについて患者、家族、施設、救急隊、病院、社会で認識していく必要がある。小峰は、病院に勤務する救急救命士の立場で多職種連携について発表した。当院では救急救命士をドクターカー運用スタッフとして採用しているが、その立場は確立されていない。学問的な研究、発表を行っていくことも病院内での救急救命士の展望を明るくするためには必要となろう。この他に、各々が症例報告を数例行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 竹ノ下尚子¹⁾、田島廣¹⁾、金城忠志¹⁾、山本英世²⁾、松田 潔、市川太郎²⁾、菊池有史³⁾、佐藤直樹³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター、2) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科、3) 日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科)：救急診療におけるCT・MRIとIVR：急性肺血栓塞栓症と深部静脈血栓症。救急医学 2013；37 (10)：1329-1337.
- 2) Tajima H¹⁾、Onozawa S²⁾、Isshiki S³⁾、Takenoshita N¹⁾、Kaneshiro T¹⁾、Ichikawa T³⁾、Murata S²⁾、Matsuda K、Furukawa A⁴⁾ (1) Center for Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital, 3) Department of Radiology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 4) Department of Radiological Science, Tokyo Metropolitan University)：Angiography-assisted computed tomography for the detection and intervention of a subtle aneurysm of the omentum. Japanese Journal of Radiology 2014；Epub.

(2) 総説：

- 1) 松田 潔：診断的腹腔洗浄・腹部刺創の創管理。救急医学 2013；37 (8)：935-938.
- 2) 松田 潔：CO中毒。救急医学 2013；37 (6)：717-720.
- 3) 石之神小織、松田 潔：ERで遭遇する痛みの鑑別と対応法：ペンタゾシン中毒が疑われる患者への対応。救急医学 2014；38 (3)：1-4.
- 4) 望月 徹^{1,2)} (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター、2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：冬場はこれで乗り切る-パッと見てサッとわかる感染症の対応：2章 疾患別で完全網羅-感染症患者の対応「結核」。EMERGENCY CARE 2013；26 (12)：1212-1213.
- 5) 望月 徹^{1,2)} (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター、2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：冬場はこれで乗り切る-パッと見てサッとわかる感染症の対応：2章 疾患別で完全網羅-感染症患者の対応「感染性胃腸炎」。EMERGENCY CARE 2013；26 (12)：1198-1199.
- 6) 松田 潔：外傷：病院前救護ガイドライン。EMERGENCY CARE 2014；27 (1)：48-51.

著 書

- 1) 松田 潔：〔分担〕意識障害. 救急検査指針, 2013：pp19-22, へるす出版.
- 2) 松田 潔：〔分担〕頭痛・めまい. 救急検査指針, 2013；pp23-25, へるす出版.
- 3) 松田 潔：〔分担〕心停止. 養護教諭のためのフィジカルアセスメント 2, 2013；pp8-12, 日本医事出版社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 橘和聡文²⁾, 一色彩子²⁾, 山口香織²⁾, 清水康弘²⁾, 安藤 順²⁾, 市川太郎²⁾, 松田 潔 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科)：リピオドールを用いた塞栓術. 日本 IVR 学会総会 (第 42 回) (軽井沢), 2013. 5.

(2) ポスター：

- 1) 菊池広子, 遠藤広史, 松田 潔, 富永直樹¹⁾, 石丸直樹, 河野陽介, 石之神小織, 竹ノ下尚子, 望月 徹, 黒川 顕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：川崎市消防局と連携したドクターカー (DA) 運用による, 病院前心肺蘇生処置の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
- 2) 松田 潔, 望月 徹, 石之神小織, 菊池広子, 遠藤広史, 竹ノ下尚子, 河野陽介, 石丸直樹, 富永直樹¹⁾, 黒川 顕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：季節性インフルエンザ長期蔓延を防ぐことに成功した ICU 管理. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.

(3) 一般講演：

- 1) 松田 潔, 石之神小織, 菊池広子, 遠藤広史, 河野陽介, 竹ノ下尚子, 石室正輝, 小峰達也, 黒川 顕, 鈴木健介¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター)：病院雇用救急救命士の現状と課題. 日本臨床救急医学会総会 (第 16 回) (東京), 2013. 7.
- 2) 小峰達也, 石室正輝, 松田 潔, 石之神小織, 菊池広子, 遠藤広史, 河野陽介, 竹ノ下尚子, 望月 徹, 黒川 顕：多職種病院職員によるドクターカー運営における職種間連携. 日本臨床救急医学会総会 (第 16 回) (東京), 2013. 7.
- 3) 金城忠志, 田島廣之¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎²⁾, 安藤 順²⁾, 清水康弘²⁾, 一色彩子²⁾, 山口香織²⁾, 橘和聡文²⁾, 松田 潔 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科)：電撃傷が原因と思われる肩甲骨骨折の 1 例. 日本救急放射線研究会 (第 23 回) (名古屋), 2013. 10.
- 4) 望月 徹¹⁾, 松田 潔, 石之神小織, 菊池広子, 遠藤広史, 河野陽介, 池田慎平, 竹ノ下尚子²⁾, 黒川 顕 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：2012/2013 季節性インフルエンザの蔓延と救命救急センターにおける感染対策の検証. 日本救急医学会総会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 5) 遠藤広史, 松田 潔, 望月 徹¹⁾, 石之神小織, 菊池広子, 河野陽介, 竹ノ下尚子, 池田慎平, 黒川 顕 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：救急科専門医が老人施設管理に関わるべきである施設での看取り率が 10% から 80% に急上昇. 日本救急医学会総会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 6) 増野智彦¹⁾, 新井正徳¹⁾, 宮内雅人¹⁾, 辻井厚子¹⁾, 畝本恭子²⁾, 布施 明¹⁾, 松本 尚³⁾, 松田 潔, 川井 真¹⁾, 益子邦洋⁴⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学教室, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, ³⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：新しい専門医制度に対応する救急医学の教育プログラム：救急科専門医の質向上にむけた複数基本領域専門医取得の必要性. 日本救急医学会総会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.
- 7) 田熊清継¹⁾, 大城健一¹⁾, 箕輪良行²⁾, 和田崇文²⁾, 松田 潔, 黒川 顕, 阪田 歩³⁾ (¹⁾ 川崎市立川崎病院救命救急センター, ²⁾ 聖マリアンナ医科大学病院救命救急センター, ³⁾ 川崎市消防局)：セーフティネットとしての救急医療：救命救急型と ER 型とのコラボレーション：川崎市の救命救急センター 3 施設における「救急車ダイ

バージョン (diversion)」施行の報告. 日本救急医学会総会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.

- 8) 加藤頼子¹⁾, 岩瀬史明¹⁾, 井上潤一¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 松本 学¹⁾, 大嶽康介¹⁾, 池田督司¹⁾, 木下大輔¹⁾, 松田 潔 (1) 山梨県立中央病院救命救急センター): グリホサートカリウム塩中毒による重篤な高 K 血症から救命し得た 3 症例. 日本中毒学会総会 (第 35 回) (大阪), 2013. 7.
- 9) 遠藤広史, 松田 潔, 石之神小織, 菊池広子, 石丸直樹, 河野陽介, 竹ノ下尚子, 富永直樹¹⁾, 望月 徹, 黒川 顕 (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 病院間連携によって低侵襲な治療法を選択し得たりチウム中毒の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
- 10) 高木宏治¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 曾根教子¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 菊池有史¹⁾, 山本英世¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 松田 潔, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科): 胸骨圧迫により心破裂をきたした急性心筋梗塞の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
- 11) 岩瀬史明¹⁾, 松田 潔, 岡本優司²⁾, 宮崎善史¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 松本 学¹⁾, 加藤頼子¹⁾, 萩原一樹¹⁾, 瀧口 徹¹⁾ (1) 山梨県立中央病院救命救急センター, 2) 山梨県消防学校): 山梨県における JPTEC 普及の取り組み. 日本臨床救急医学会 (第 16 回) (東京), 2013. 7.
- 12) 松田 潔, 石之神小織, 菊池広子, 石丸直樹, 遠藤広史, 河野陽介, 竹ノ下尚子, 望月 徹, 黒川 顕: Abdominal Compartment Syndrome 予防法の一工夫. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 13) 河野陽介, 松田 潔, 竹ノ下尚子, 遠藤広史, 石丸直樹, 菊池広子, 石之神小織, 望月 徹, 黒川 顕: Damage control strategy により救命した ISS=57 の多発外傷の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 相馬一玄¹⁾, 今井 寛¹⁾, 猪口貞樹²⁾, 中川儀英²⁾, 杉山 貢³⁾, 荒田慎寿³⁾, 中澤暁雄⁴⁾, 新美 浩⁵⁾, 関 一平⁵⁾, 西巻 博⁵⁾, 佐々木純⁶⁾, 成原健太郎⁶⁾, 黒川 顕, 畝本恭子 (1) 北里大学病院, 2) 東海大学医学部付属病院, 3) 横浜市立大学附属市民総合医療センター, 4) 聖マリアンナ医科大学病院横浜市西部病院, 5) 聖マリアンナ医科大学病院, 6) 昭和大学藤が丘病院): シベレスタットを投与した ALI/ARDS 症例の臨床経過: 高分解能 CT および臨床的パラメータを用いた直接肺損傷と間接肺損傷の比較. 日本救急医学会雑誌 2013; 24 (1): 19-29.

[多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

当施設は多摩地区の 3 次救急医療施設として多発外傷, 頭部外傷, 整形外科外傷, 熱傷, 虚血性心疾患, 脳血管障害, 薬物中毒, 災害医療と多岐に渡る患者に対して, それぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に集中治療に当たるとともに, 併せて各分野での臨床研究をおこなっている. 重症患者における循環動態モニタリング, 頭部外傷に対する低体温療法, 脳梗塞急性期に対する t-PA の投与, 血栓溶解法, 多発性外傷に対するダメージコントロール, 心肺停止後の低体温療法などに取り組んでいる. また, 病院前から継続して行われる救急医療システムの改善についても救急救命士とともに検討している. 災害医療に関しても国内, 海外への派遣に積極的に参加している. その他, 東京消防庁等からの要請によりドクターアンビュランスによる救急現場出動や地域救急医療センターとして東京ルールに積極的に参加している.

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 榎本健太郎, 横田裕行：重症頭部外傷の低体温療法. へるす出版 2013；37 (5)：603-606.
- 2) 畝本恭子：頭蓋内圧 (ICP) モニタリングを用いた患者管理の実際. 日本医事新報 2013；別冊 (4669)：30-35.

著書

- 1) 畝本恭子：〔分担〕脳卒中の体温管理. 救急医学, 2013；pp1086-1090, へるす出版.
- 2) 二宮宣文：〔分担〕医療とIT ICT活用の最前線 ミニドクターカー NINO とITを活用した積極的救急医療. Asahi Medical, 2013；pp64-67, 朝日新聞社.
- 3) 畝本恭子：〔分担〕脳卒中ガイドライン 2009. Emergency Care 2014 年新春増刊 (340 号), 2014；pp169-175, メディカ出版.
- 4) 鈴木健介：〔分担〕養護教諭と「トリアージ」. こどもと健康 98 (子どもと健康), 2013；労働教育センター.
- 5) 鈴木健介：〔分担〕救急救命士が遭遇する事例集 Q&A (救急救命士が業務外で特定行為・救急救命処置を行った場合の法的問題について). 新解釈わかりやすい救急救命士法 (総合監修 早川忠孝 島崎修次), 2014；pp70-80, へるす出版.
- 6) 畝本恭子：〔共著〕脳低温療法・脳保護療法. 救急・集中治療医学レビュー (監修/島崎修次 前川剛志 編集/岡元和文 横田裕行), 2014；pp108-114, 総合医学社.
- 7) 畝本恭子：〔分担〕脳神経外科術後の集中治療, 合併症管理. 救急医学, 2013；pp1647-1651, へるす出版.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 畝本恭子：脳神経領域における看護 Update. 日本脳低温療法学会 (第 16 回) (キャッスルプラザ (名古屋市中村区)), 2013. 7.
- 2) Unemoto K, Yokota H, Kuno M, Kuwamoto K, Moroe Y, Oyanagi M, Kitahashi A, Fukuda R, Kaneko J, Iwai Y, Tani S, Suzuki K：A NEED FOR CONNECTION TO NEUROLOGICAL SPECIALIST IN THE TERTIARY CRITICAL CARE MEDICINE CENTER (Neurological). The 7th Asian Conference on Emergency Medicine (第 7 回) (Tokyo International Forum (東京国際フォーラム)), 2013. 10.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 榎本健太郎, 北橋章子, 金子純也, 佐藤 慎, 畝本恭子, 久野将宗, 諸江雄太, 佐藤秀貴¹⁾, 直江康孝²⁾ (1) 東京臨海病院救急科, ²⁾ 川口市立医療センター救命救急センター)：大腿筋膜を用いた前頭蓋底骨折の再建術. 日本外傷学会 (第 27 回) (福岡県久留米市), 2013. 5.
- 2) 鈴木健介, 二宮宣文, 畝本恭子, 久野将宗, 諸江雄太, 榎本健太郎, 小柳正雄, 福田令雄, 北橋章子, 金子純也：病院に所属する救急救命士は必要か？：救急救命士病院実習アンケートからの考察. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 16 回) (東京国際フォーラム (東京都千代田区丸の内)), 2013. 7.
- 3) 増野智彦, 新井政徳, 宮内雅人, 辻井厚子, 畝本恭子, 布施 明, 松本 尚, 松田 潔, 川井 真, 益子邦洋, 横田裕行：救急科専門医の質向上にむけた複数基本領域専門医取得の必要性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 41 回) (東京国際フォーラム), 2013. 10.
- 4) 鈴木健介, 安達勝哉¹⁾, 山本裕行¹⁾, 石ヶ森重之¹⁾, 久野将宗, 畝本恭子, 小峰達也, 石室正輝, 門馬 治²⁾, 石之神小織, 松田 潔, 黒川 顕, 田中秀治³⁾, 二宮宣文, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院 看護部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部, ³⁾ 国士舘大学大学院 救急システム研究科)：医師・看護師・病院に所属する救急救命士によるドクターカーシステムの検証院内メディカルコントロール体制下での PDCA サイクル.

日本救急医学会関東地方会（第64回）救急隊員学術研究会（第51回）（パシフィコ横浜（神奈川県）），2014. 2.

- 5) 久野将宗，東岡宏明¹⁾，高桑大介¹⁾，白倉透規¹⁾，吉岡留美子¹⁾，中野京子¹⁾（¹⁾日本集団災害医学会セミナー委員会）：災害医療の初学者向けコースである日本集団医学会セミナーにおけるトリアージ実技教育の実状と課題。日本集団災害医学会総会・学術集会（第19回）（東京国際フォーラム），2014. 2.

(3) ワークショップ：

- 1) 諸江雄太，畝本恭子，榎本健太郎，小柳正雄，福田令雄，金子純也，苛原隆之：受傷直後より重症頭部外傷を呈した多発外傷例の初期治療・専門外の治療を知る重要性。日本外傷学会（第27回）（福岡県東久留米市），2013. 5.

(4) 一般講演：

- 1) Suzuki K, Ninomiya N, Kuno M, Unemoto K, Takyu H¹⁾（¹⁾ Chubu Gakuin University）：Should Yogo teacher perform triage in schools?：The necessity of having Japanese Yogo teachers learn to perform triage. World Congress on Disaster&Emergency Medicine（18th）（Manchester,United Kingdom），2013. 5.
- 2) Ninomiya N：Disaster Medicine include not only search and rescue phase but also recovery and reconstruction phase at the case of East Japan Earthquake and Tsunami 2011. World Congress on Disaster&Emergency Medicine（18th）（Manchester,United Kingdom），2013. 5.
- 3) Kuno M, Higashioka H¹⁾，Takakuwa D²⁾，Yoshioka R³⁾，Shirakura Y⁴⁾，Nakano K⁵⁾（¹⁾ Kanto rosai Hospital, ²⁾ Japanese Red Cross Musashino Hospital, ³⁾ Ja-LP gas information Center, ⁴⁾ Tachikawa Medical Center, ⁵⁾ Normeca Asia）：The effects and future challenges of the triage education of Japanese Association for Disaster Medical Seminar Background. World Congress on Disaster&Emergency Medicine（18th）（Manchester,United Kingdom），2013. 5.
- 4) 苛原隆之，諸江雄太，福田令雄，溝渕大騎，金子純也，北橋章子，榎本健太郎，小柳正雄，畝本恭子，二宮宣文：当センターにおける大動脈閉鎖バルーン（IABO）の使用経験。日本外傷学会（第27回）（福岡県久留米市），2013. 5.
- 5) 金子純也，畝本恭子，佐藤 慎，金子児太郎¹⁾，磐井佑輔，福田令雄，武原章子，小柳正雄，榎本健太郎，諸江雄太（¹⁾東京医科大学病院歯科口腔外科）：心肺停止蘇生後患者における神経学的予後予測SEPの解析をとおして。日本脳死・蘇生学会総会・学術集会（第26回）（東京ドームホテル），2013. 6.
- 6) 北橋章子，榎本健太郎，金子純也，佐藤 慎，谷 将星，畝本恭子：再発を繰り返した突発性血小板減少性紫斑病に合併した慢性硬膜下血腫の1例。日本神経救急学会（第27回）（日本教育会館（東京都千代田区）），2013. 6.
- 7) 畝本恭子，久保田稔，鈴木健介，苛原隆之，福田令雄，小柳正雄，久野将宗，諸江雄太，二宮宣文，横田裕行：高齢者意識障害の原因診断における病院前情報の意義。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内）），2013. 7.
- 8) Ninomiya N, Kuno M, Suzuki K：Automatic Medical Question System for aging society. Asian Conference on Emergency Medicine（7th）（Tokyo International Forum（Tokyo/Japan）），2013. 10.
- 9) 諸江雄太，畝本恭子，久野将宗，榎本健太郎，小柳正雄，福田令雄，苛原隆之，金子純也，北橋章子，佐藤 慎：小児に特化しない当センターでの小児救急の現状と課題。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内）），2013. 7.
- 10) 諸江雄太，畝本恭子，久野将宗，榎本健太郎，小柳正雄，福田令雄，金子純也，北橋章子，苛原隆之，佐藤 慎：当センターに自傷行為で入院した患者の医療費未収の実態把握。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内）），2013. 7.
- 11) 畝本恭子：椎骨動脈解離の外来診断：2例の後頭部痛症例より。日本脳神経外科学会学術集会（第72回）（パシ

- フィコ横浜), 2013. 10.
- 12) 金子純也：出血源検索に苦慮した前交通動脈瘤によるくも膜下出血の1例. 日本脳神経外科学会学術集会(第72回)(パシフィコ横浜), 2013. 10.
 - 13) 畝本恭子, 谷 将星, 佐藤 慎, 磐井佑輔, 金子純也, 福田令雄, 北橋章子, 栗本健太郎, 諸江雄太, 小柳正雄, 久野将宗：高齢者3次救急における終末期医療判断の現状と課題. 日本救急医学会総会・学術集会(第41回)(東京国際フォーラム), 2013. 10.
 - 14) 鈴木健介, 畝本恭子, 久野将宗, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 金子純也, 福田令雄, 磐井佑輔, 二宮宣文：養護教諭はトリアージを実施できるべきか?. 日本救急医学会総会・学術集会(第41回)(東京国際フォーラム), 2013. 10.
 - 15) 久野将宗, 甲斐総一郎¹⁾, 二宮宣文, 夏川友輝¹⁾, 山下公子¹⁾, 苛原隆之, 武田多一¹⁾, 山口孝治¹⁾, 前川和彦¹⁾ (¹⁾ 認定NPO法人HuMA)：復旧期災害医療支援のあり方に関する考察. 日本救急医学会総会・学術集会(第41回)(東京国際フォーラム), 2013. 10.
 - 16) 中江竜太¹⁾, 高山康広, 北菌雅敏¹⁾, 恩田秀賢, 栗本健太郎, 直江康孝¹⁾, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行 (¹⁾ 川口市立医療センター)：頭部外傷に伴う凝固・線溶系障害の検討. 日本救急医学会総会・学術集会(第41回)(東京国際フォーラム), 2013. 10.
 - 17) 栗本健太郎, 久野将宗, 畝本恭子, 諸江雄太, 小柳正雄, 北橋章子, 金子純也, 福田令雄, 磐井佑輔, 佐藤 慎, 谷 将星：D-dimerを指標とした頭部外傷の治療戦略. 日本救急医学会総会・学術集会(第41回)(東京国際フォーラム), 2013. 10.
 - 18) 二宮宣文：スーダン共和国にドクターカーは必要か?. 日本国際保健医療学会学術大会(第28回)(沖縄市名護市(名桜大学)), 2013. 11.
 - 19) 諸江雄太, 畝本恭子, 久野将宗, 栗本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 金子純也, 福田令雄, 佐藤 慎, 谷 将星：手術症例から見た当院救命救急センター専従スタッフの労働状況. 日本救急医学会・学術誌集会(第41回)(東京国際フォーラム), 2013. 10.
 - 20) 二宮宣文, 久野将宗, 鈴木健介：高齢化社会における自動問診システムの導入. 日本救急医学会総会・学術集会(第41回)(東京国際フォーラム), 2013. 10.
 - 21) 金子純也, 谷 将星, 佐藤 慎, 磐井佑輔, 福田令雄, 北橋章子, 久野将宗, 栗本健太郎, 小柳正雄, 諸江雄太, 畝本恭子：自己完結型救命センターの現状とその利点について. 日本救急医学科総会・学術集会(第41回)(東京国際フォーラム), 2013. 10.
 - 22) 磐井佑輔, 諸江雄太, 福田令雄, 谷 将星, 佐藤 慎, 金子純也, 北橋章子, 栗本健太郎, 小柳正雄, 久野将宗, 畝本恭子：小児の鈍的外傷による頸部気管損傷の1例. 日本救急医学会総会・学術集会(第41回)(東京国際フォーラム), 2013. 10.
 - 23) Kuno M, Kai S¹⁾, Ninomiya N, Natukawa T¹⁾, Yamashita K¹⁾, Irahara T, Yamaguti K¹⁾, Maekawa K¹⁾ (¹⁾HuMA)：DISCUSSION ON MEANS OF RECONSTRUCTION PHASE DISASTER MEDICAL SUPPORT. The 7th Asian Conference on Emergency Medicine(第7回)(Tokyo International Forum(東京国際フォーラム)), 2013. 10.
 - 24) 金子純也, 中江竜太¹⁾, 直江康孝¹⁾, 横田裕行, 兵頭明夫²⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター, ²⁾ 獨協医科大学越谷病院脳神経外科)：バルーンアシスト, ステントアシストを併用してダブルカテーテルテクニクにて塞栓した脳底動脈本幹部動脈瘤の1例. NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会(第29回)(朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター), 2013. 11.
 - 25) 諸江雄太, 田中秀治¹⁾, 福田令雄, 栗本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 金子純也, 久野将宗, 畝本恭子 (¹⁾ 国士舘大学)：35%広範囲熱傷からのセラチア菌敗血症に伴う重症ARDSで救命し得なかった1例. エンドトキシン血症救命治療研究会(第18回)(日本橋三井ホール(東京)), 2014. 1.

- 26) 金子純也, 谷 将星, 磐井佑輔, 北橋章子, 久野将宗, 小柳正雄, 栗本健太郎, 諸江雄太, 畝本恭子: 来院時に異常高血糖を呈し, 集中治療により救命しえた若年初発糖尿病の1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回), 2014. 2.
- 27) 久野将宗, 諸江雄太, 畝本恭子, 福田令雄, 金子純也, 苜原隆之, 横田裕行: 肝損傷を来した急性心筋梗塞による心肺停止症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都 (京都府)), 2014. 2.
- 28) 鈴木健介, 畝本恭子, 久野将宗, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 金子純也, 福田令雄, 磐井佑輔, 北橋章子, 谷 将星, 二宮宣文: 学校における緊急時・災害時の対応: 養護教諭が行うトリアージ. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第19回) (東京国際フォーラム), 2014. 2.
- 29) 北橋章子, 谷 将星, 金子純也, 磐井佑輔, 福田令雄, 小柳正雄, 久野将宗, 栗本健太郎, 諸江雄太, 畝本恭子: 中枢性発熱により亜急性期に両側減圧開頭を要し, その後発作性交感神経嵐に移行した重症頭部外傷の1例. 日本脳神経外傷学会 (第37回) (学術総合センター (東京都)), 2014. 3.
- 30) 久野将宗, 二宮宣文, 苜原隆之¹⁾, 夏川知輝¹⁾, 山下公子¹⁾, 甲斐総一郎¹⁾, 武田多一¹⁾ (災害人道医療支援会): 災害人道医療支援会 HuMA の2012-2013 フィリピン台風ポーファ被災者医療支援活動について: 短期間の医療支援でも意味のあるものにするために. 日本国際保健医療学会学術大会 (第28回) (公立大学法人名桜大学 (沖縄県)), 2013. 11.
- 31) 谷 将星, 畝本恭子, 栗本健太郎, 北橋章子, 金子純也, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院脳神経外科): 重複椎骨動脈の解離によるクモ膜下出血の1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第122回) (大手町サンケイプラザ (東京都)), 2013. 12.

[千葉北総病院救命救急センター]

研究概要

当施設は千葉県北総地域の基幹救急医療施設として平成6年1月に開設した。その後、平成8年11月に千葉県の基幹災害医療センターに、また平成8年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された。平成11年4月には県内8施設目の救命救急センターに認定され、各種学会、研究会において活発な活動を行っている。平成13年10月からは、厚生労働省事業である千葉県ドクターヘリ事業の基地病院として、千葉県及び茨城県南部で発生した広範囲熱傷、薬物中毒、重症外傷、脳卒中、急性冠症候群、急性大動脈疾患など様々な重症患者に最適の初期治療を提供している。また更に平成22年6月からはラピッドカーも運行を開始し徐々に成果をあげている。教育活動としては、JATECなどの標準医療教育システムの指導者を擁し、医師、救急救命士、看護師、大学生、専門学校生などへのベーシックおよびアドバンスの高い救急医療教育を提供するとともに、フライトクルーを目指す医療者のドクターヘリ搭乗教育にも力を入れている。研究テーマは、救急医療システムの研究、特に外傷診療のあり方に関する研究、ヘリコプターを活用した救命救急医療のもたらす医学的効果についての研究、災害医療システムの研究、新たな小児重症救急医療システムの構築に関する研究、多発外傷や重症骨盤骨折の病態生理の解明に関する研究、外傷患者に対するDamage Controlの効果に関する研究、シュミレーションモデルを用いた救急医学教育の開発に関する研究、メディカルコントロールに関する研究、スマートフォンを使用した現場動画伝送システム等、多岐に渡っている。また、日本大学理工学部、工学部、と連携し、交通事故傷病者医療情報の調査も行っている。これらの研究成果を国内学会、専門誌ばかりでなく国際学会や英文雑誌で発表し、広く内外に情報発信している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 富永 茂¹⁾, 西本哲也²⁾, 菊池厚躬²⁾, 本村友一, 益子邦洋 (¹⁾ 日本大学理工学部, ²⁾ 日本大学工学部) : 事故実態調査に基づく前面衝突時におけるシートベルト着用の自動車乗員の胸腹部傷害の発生状況の分析. 自動車技術会論文集 2013 ; 44 (4) : 1073-1078.
- 2) 平林篤志, 飯田浩章, 上西蔵人, 原 義明, 川井 真¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学) : 髓内釘を使用した下肢開放骨折に対する LIPUS 照射の有用性の検討. 骨折 2013 ; 35 (2) : 452-455.
- 3) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 本村友一, 齋藤伸行, 林田和之, 益子一樹, 飯田浩章, 三木隆久, 安松比呂志, 亀山大介, 平林篤志 : 医学と工学が連携した救急救命体制. 自動車技術 2013 ; 67 (12) : 12-17.
- 4) Sakamoto Y¹⁾, Inoue S¹⁾, Yamashita T¹⁾, Nakashima A¹⁾, Koami H¹⁾, Imahase H¹⁾, Goto A¹⁾, Yamada Kc¹⁾, Mashiko K²⁾, Yokota H³⁾ : Studies on therapeutic effects and pathological features of an antithrombin preparation in septic disseminated intravascular coagulation patients. Yonsei Med J 2013 ; 54 : 686-689.
- 5) Gando S¹⁾, Saitoh D¹⁾, Ishikura H¹⁾, Otomo Y¹⁾, Ueyama M¹⁾, Oda S¹⁾, Kushimoto S¹⁾, Tanjoh K¹⁾, Mayumi T¹⁾, Ikeda T¹⁾, Iba T¹⁾, Eguchi Y¹⁾, Okamoto K¹⁾, Ogura H¹⁾, Mashiko K¹⁾, et al. : A randomized, controlled, multicenter trial of the effects of antithrombin on disseminated intravascular coagulation in patients with sepsis. Critical Care 2013 ; 17 : R297-R297.

(2) 総説：

- 1) 益子一樹, 松本 尚 : II 救急外来での外科的処置の実際 救急室開胸術. 救急医学 2013 ; 37 (8) : 914-918.
- 2) 八木貴典 : 外傷患者のトリアージと重症度評価. 小児外科 2013 ; 45 (9) : 916-923.
- 3) Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Yagi T : Realising the potential : challenges and opportunities for HEMS in Japan. Air Rescue 2013 ; 3 (2) : 124-126.

(3) 研究報告書：

- 1) 益子邦洋, 本村友一, 織田成人, 嶋村文彦, 庄古知久, 中西加寿也, 北村伸哉, 境田康二, 福本祐一, 葛西 猛, 糟谷美有紀, 吉田篤史, 岩永二郎, 岩瀬博太郎, 本村あゆみ : 平成 23 年交通事故死亡事例調査報告書. 2013 ; 1-48.

(4) 症例報告：

- 1) Uekusa K¹⁾, Hayasida M, Saito N, Mashiko K, Hara K, Waters B²⁾, Ohno Y : Methamphetamine and amphetamine concentrations in survivors of body-packer syndrome in Japan. Forensic Sci Int 2013 ; 227 : 45-47.

著書

- 1) 本村友一 : [分担] 心電図モニター, マジック・ベッド, マロリーワイス症候群, メディカルコントロール, 癒着性イレウス, 洋上救急, 腰椎, 腰椎椎間板ヘルニア, 腰痛, 腰部保護ベルト, 予測外死亡 (外傷患者の). 救急用語事典, 2013 ; ぱーそん書房.
- 2) 益子邦洋 : [分担] 4. 出血性疾患. 内科学書 (小川 聡), 2013 ; pp253-255, 株式会社中山書店.
- 3) 坂本哲也¹⁾, 畑中哲生²⁾, 松本 尚 (¹⁾ 帝京大学医学部救急医学講座, ²⁾ 救急救命九州研修所) : [共著] 救急活動コミュニケーションスキル何を聞く? 何を伝える?, 2013 ; pp1-167, 株式会社メディカルサイエンス.
- 4) 益子邦洋 : [分担] 肋骨骨折 (フレイルチェストを含む). 今日の治療指針 (山口徹・北原光夫), 2014 ; pp51-52, 医学書院.
- 5) 原 義明 : [分担] 頭部外傷合併例における骨折の治療戦略. OS NOW Instruction 整形外科手術の新標準イメージコントロール整形外科 (金谷文則), 2013 ; pp11-13, Medical View.

- 6) 原 義明：〔分担〕〔7〕合併症対策③消化管合併症. 熱傷治療マニュアル改訂2版(田中裕), 2013: pp139-145, 中外医学社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 益子邦洋：救急搬送体制のイノベーション：ヘリコプター救急の意義. 富山救急医療学会(第31回)(富山県砺波市), 2013. 8.
- 2) 益子邦洋：ドクターヘリから病院前救急医療へ. 広島県病院学会(第39回)(広島市), 2014. 2.

(2) 招待講演：

- 1) Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Yagi T: Trauma system to decrease the preventable trauma death: Japan experience. PAN-PACIFIC TRAUMA CONGRESS 2013 KOREA (1st) (Busan, Korea), 2013. 6.
- 2) Mashiko K: Present Status and Future Perspectives of Japanese HEMS (日本におけるドクターヘリ事業の現状と将来展望). 1st International Civil Air Medical Transportation Conference (Bangkok, Thailand), 2013. 7.
- 3) 益子邦洋：ドクターヘリの過去・現在・未来. 日本航空医療学会(第20回)(福島県福島市), 2013. 11.
- 4) Mashiko K: Present and Perspectives of Doctor Helicopter Japan. The progress of Emergency Medical Service (1st International Civil Air Medical Transportation Conference) (Bangkok, Thailand), 2013. 7.
- 5) Mashiko K: Setting Up a Trauma System Including HEMS-Chiba experience and Japanese Perspectives. Khon Kaen Trauma Meeting (1st International Civil Air Medical Transportation Conference) (Bangkok, Thailand), 2013. 7.
- 6) Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Yagi T, Motomura T: Challenges and Advancement of Helicopter Emergency Medical Service (HEMS) System in Japan. International HEMS Friendship Program and Advanced Care Air, Aquatic Ambulance Transport (ACAAAT) (Chiangmai, Thailand), 2014. 3.
- 7) 益子邦洋: Doctor Heli Japan. International HEMS Friendship Program Advanced Care Air, Aquatic, Ambulance Transport (ACAAAT) (Chiangmai University, Thailand), 2014. 3.

(3) 教育講演：

- 1) 益子邦洋：小児救急・災害医療のイノベーション：ドクターヘリの役割. 日本小児救急医学会(第27回)(沖縄県宜野湾市), 2013. 6.

(4) シンポジウム：

- 1) 益子一樹, 松本 尚, 林田和之, 平林篤志, 吉富有哉, 安松比呂志, 亀山大介, 三木隆久, 本村友一, 上西藏人, 飯田浩章, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 益子邦洋：体幹部大量出血に対する病院外救急医療の位置づけ. 日本外傷学会(第27回)(福岡県久留米市), 2013. 5.
- 2) 齋藤伸行, 八木貴典, 本村友一, 益子一樹, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋：出血性ショックに対する血行動態モニタリングの可能性. 日本外傷学会(第27回)(福岡県久留米市), 2013. 5.
- 3) 松本 尚, 原 義明, 本村友一, 益子邦洋, 小井土雄¹⁾ ¹⁾ 国立病院機構災害医療センター 臨床研究部：広域災害急性期におけるドクターヘリの位置づけと運用. 日本航空医療学会(第20回)(福島県福島市), 2013. 11.
- 4) Mashiko K, Matsumoto H, Motomura T, Ishikawa H¹⁾, Matsuda T¹⁾, Nishikawa W¹⁾, Iwasada R¹⁾, Shinoda N¹⁾, Kunimatsu T¹⁾ ¹⁾ NPO Emergency Medical Network of Helicopter and Hospital (HEM-Net)：Advanced Emergency Medical Support Intelligent Transport System Can Decrease Traffic Fatality in the Future. ITS World Congress (20th) (Tokyo), 2013. 10.
- 5) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典：ドクターヘリによる交通事故被害者救済. 日本交通医学工学研究会(第22回)(愛知県名古屋市), 2013. 9.

- 6) 御園恒一郎¹⁾, 坪井成美²⁾, 畑 典武³⁾, 齋藤伸行, 八木貴典, 松本 尚, 益子邦洋 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 ME 部 (血液浄化療法室), ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 集中治療室) : 当院における血液浄化療法の推移. 千葉急性血液浄化研究会 (第 13 回) (千葉県千葉市), 2013. 5.
 - 7) 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 重症胸部外傷患者に対する人工呼吸療法戦略. 日本臨床救急医学会 (第 16 回) (東京都千代田区), 2013. 7.
 - 8) 松本 尚, 益子一樹, 林田和之, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋 : 重症体幹部外傷に対する初療室緊急手術. 日本臨床救急医学会 (第 16 回) (東京都千代田区), 2013. 7.
 - 9) 益子一樹, 服部 陽, 近田祐介, 平林篤志, 亀山大介, 安松比呂志, 本村友一, 三木隆久, 飯田浩章, 齋藤伸行, 林田和之, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 千葉県ラピッドカー : 導入, 現在, 将来像. 日本病院前救急診療医学会 (第 8 回) (愛知県名古屋), 2013. 12.
 - 10) 益子邦洋 : 救急医療に求められる整形外科医の役割 : 救急医の立場から. 救急整形外傷シンポジウム (第 20 回 9 (石垣島), 2014. 2.
 - 11) Matsumoto H : How to set up the HEMS system for the trauma patients. 71 パネルディスカッション. 1st Pan-Pacific Trauma Congress (Busan, Korea), 2013. 6.
- (5) パネルディスカッション :
- 1) 本村友一, 松本 尚, 益子邦洋 : 救急医療における交通事故自動通報システム (ACN) の意義. 日本交通科学学会 (第 49 回) (東京, 帝京大学), 2013. 6.
 - 2) 齋藤伸行, 八木貴典, 本村友一, 益子一樹, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 高齢者外傷患者における既往症の転帰へ与える影響. 日本外傷学会 (第 27 回) (福岡県久留米市), 2013. 5.
 - 3) 益子一樹, 松本 尚, 安松比呂志, 三木隆久, 林田和之, 益子邦洋 : Acute Care Surgery には外傷専門施設が必要である. 日本臨床救急医学会 (第 16 回) (東京都千代田区), 2013. 7.
 - 4) 本村友一, 平林篤志, 安松比呂志, 益子一樹, 飯田浩章, 齋藤伸行, 林田和之, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 交通事故自動通報システムが起動するドクターヘリシステムの「時間短縮効果」と「新たな救命の可能性」. 日本救急医学会 (第 41 回) (東京都千代田区), 2013. 10.
 - 5) 益子邦洋 : 外傷センターが具備すべき要件. 東日本整形災害外科学会 (第 62 回) (長野県北佐久郡軽井町軽井沢), 2013. 9.
 - 6) Matsumoto H : Trauma surgeon, present, future. 4th Annual Meeting of Korean Society of Surgical Critical Care (Seoul, Korea), 2013. 4.
- (6) セミナー :
- 1) 益子邦洋 : 輸血検査技師に理解を求める, 救命救急医療の現状と緊急輸血時の検査供給体制について. 日本輸血・細胞治療学会 (第 61 回) (神奈川県横浜市), 2013. 5.
 - 2) 松本 尚 : 重症腹部外傷に対する救急室開腹, DCS と治療成績. 日本腹部救急医学会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- (7) ワークショップ :
- 1) 飯田浩章, 平林篤志, 齋藤伸行, 上西蔵人, 本村友一, 安松比呂志, 益子一樹, 林田和之, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 腹腔内臓機損傷を合併した不安定型骨盤骨折の治療戦略. 日本外傷学会 (第 27 回) (福岡県久留米市), 2013. 5.
 - 2) 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 林田和之, 齋藤伸行, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一, 益子一樹, 三木隆久, 安松比呂志, 平林篤志, 益子邦洋 : 重症体幹部外傷の診療成績からみた外傷センターの要件. 日本外傷学会 (第 27 回) (福岡県久留米市), 2013. 5.
 - 3) 齋藤伸行 : 外傷週周期戦略. 日本外傷学会 (第 27 回) (福岡県久留米市), 2013. 5.
 - 4) 齋藤伸行 : 集中治療 最新文献厳選 41 その他 (終末期医療, システム, 労働環境, 教育, MET など). 日本

集中医学会学術集会（第41回）（京都府），2014. 2.

(8) 一般講演：

- 1) 本村友一, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 本村あゆみ¹⁾, 岩瀬博太郎¹⁾ (1) 千葉大学 大学院 医学研究院 法医学教室)：司法解剖所見を活用した交通事故死亡症例の診断と死因の正確度についての検討. 日本外傷学会 (第27回) (福岡県久留米市), 2013. 5.
- 2) 三木隆久, 益子邦洋, 松本 尚, 林田和之, 本村友一, 益子一樹, 安松比呂志：外傷性胸部大動脈損傷に対する治療方法の検討：特に2a型損傷を中心に. 日本血管外科学会学術総会 (第41回) (大阪府), 2013. 5.
- 3) Yasumatsu H, Motomura T, Saito N, Matsumoto H, Mashiko K, Yokota H¹⁾ (1) Department of Critical Care Medicine Medical School, Japan)：COMPARISON OF LAPAROTOMY FOR CONTROLLING HEMORRHAGE AND ANGIOGRAPHY FOR ASSESSING BLEEDING POINTS AS INITIAL DECISION FOR PATIENTS WITH BLUNT LIVER INJURY. World Society of Emergency Surgery, 2nd World Congress (Bergamo, Italy), 2013. 7.
- 4) 平林篤志, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学)：重症鈍的外傷における活性型 VII 因子 (rFVIIa) 製剤使用に関する検討. 日本外傷学会 (第27回) (福岡県久留米市), 2013. 5.
- 5) 近田祐介：軟部組織管理に難渋した右下腿広範囲皮膚剥脱創・右脛骨開放骨折の8歳児の1例. 千葉県救急医療研究会 (第16回) (千葉県千葉市幕張), 2013. 4.
- 6) 益子一樹, 松本 尚, 安松比呂志, 三木隆久, 林田和之, 益子邦洋：外傷専門施設における Acute Care Surgery. 日本消化器外科学会 (第68回) (宮崎県宮崎市), 2013. 7.
- 7) 本村友一, 松本 尚, 益子邦洋：防ぎ得た外傷死を防ぎ得るために：平成23年千葉県交通事故調査委員会検証結果より. 日本救急医学会 (第41回) (東京都千代田区), 2013. 10.
- 8) 中島厚士¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 井上 聡¹⁾, 岩村高志¹⁾, 山下友子¹⁾, 西村洋一¹⁾, 本村友一, 小網博之¹⁾, 今長谷尚史¹⁾ (1) 佐賀大学医学部救急医学講座)：胸腹部損傷の安全基準策定のための動物衝撃実験. 日本救急医学会 (第41回) (東京都千代田区), 2013. 10.
- 9) Motomura T, Matsumoto H, Mashiko K, Motomura A¹⁾, Iwase H¹⁾, Oda S²⁾, Simamura F³⁾, Shoko T⁴⁾, Kitamura S⁵⁾, Sakaida K⁶⁾, Fukumoto Y⁷⁾, Kasuya M⁸⁾, Koyama T⁹⁾ (1) Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, 3) Chiba Emergency Medical Center, 4) Trauma and Critical Care center, Matsudo City Hospital, 5) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Kimitsu Chuo Hospital, 6) Funabashi Municipal Medical Center, 7) Juntendo University Urayasu Hospital, 8) Asahi General Hospital, 9) Department of Emergency Medicine, Tokyo Jikei university school of medicine)：For curbing preventable trauma deaths in Japan：Report from the traffic accident investigation committee, 2011. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo, Japan), 2013. 10.
- 10) Motomura T, Matsumoto H, Mashiko K, Motomura A¹⁾, Iwase H¹⁾, Oda S²⁾, Simamura F³⁾, Shoko T⁴⁾, Kitamura S⁵⁾, Sakaida K⁶⁾, Fukumoto Y⁷⁾, Kasuya M⁸⁾, Koyama T⁹⁾ (1) Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, 3) Chiba Emergency Medical Center, 4) Trauma and Critical Care center, Matsudo City Hospital, 5) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Kimitsu Chuo Hospital, 6) Funabashi Municipal Medical Center, 7) Juntendo University Urayasu Hospital, 8) Asahi General Hospital, 9) Department of Emergency Medicine, Tokyo Jikei university school of medicine)：Reduced time and improved casualty expected by using the automatic collision notification to activate doctor heli. Asian Conference on Emergency Medicine (7th) (Tokyo, Japan), 2013. 10.

- 11) 本村友一, 安松比呂志, 平林篤志, 亀山大介, 飯田浩章, 益子一樹, 齋藤伸行, 林田和之, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 豊永康裕¹⁾ (1) NTT ドコモ (株): 医師派遣現場からのスマートフォン動画伝送を用いた情報通信効果. 日本航空医療学会 (第 20 回) (福島), 2013. 11.
- 12) 三木隆久, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 林田和之, 齋藤伸行, 益子一樹, 飯田浩章, 本村友一, 亀山大介, 平林篤志, 安松比呂志, 近田祐介, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾, その他 5 名 (1) 日本医科大学救急医学: Stove in chest に対し, 肋骨外固定術を施行した 1 例. 過大侵襲研究会 (第 47 回) (東京都新宿区), 2013. 9.
- 13) 亀山大介, 益子一樹, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 北総ドクターヘリを補完する千葉県ラピットカー: 運用の現状. 日本航空医療学会 (第 20 回) (福島県福島市), 2013. 11.
- 14) 三木隆久: 重症胸部外傷により Clamshell thoracotomy を必要とした 2 例. 日本 Acute Care Surgery 学会 (東京都文京区), 2013. 11.
- 15) 益子一樹, 安松比呂志, 本村友一, 三木隆久, 林田和之, 松本 尚, 益子邦洋: Clamshell thoracotomy が有効であった穿通性左室損傷の 1 例. 日本 Acute Care Surgery 学会 (東京都文京区), 2013. 11.
- 16) 富永 茂¹⁾, 本村友一²⁾, 西本哲也³⁾, 菊池厚躬³⁾, 益子邦洋²⁾ (1) 日本大学理工学部機械工学科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ³⁾ 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室: 事故実態調査からみた腹部傷害の発生機序解析. 自動車技術会 (2013 年春季大会) (横浜), 2013. 5.
- 17) 望月康廣¹⁾, 本村友一²⁾, 西本哲也¹⁾, 宇治橋貞幸³⁾ (1) 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ³⁾ 東京工業大学工学部: 胸腹部圧迫を想定した動物実験モデルの開発. 日本機械学会 2013 年度年次大会 (岡山), 2013. 9.
- 18) 望月康廣¹⁾, 本村友一²⁾, 西本哲也¹⁾, 宇治橋貞幸³⁾ (1) 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ³⁾ 日本文理大学: 胸腹部圧迫動物実験による群集事故時の各種バイタルサインの計測. 日本機械学会スポーツ・アンド・ヒューマンダイナミクス 2013 (工学院大学), 2013. 11.
- 19) 鈴木基継¹⁾, 本村友一²⁾, 西本哲也¹⁾, 宇治橋貞幸³⁾ (1) 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ³⁾ 日本文理大学: 被験者を用いた胸腹部圧迫の呼吸変動に関する実験. 日本機械学会スポーツ・アンド・ヒューマンダイナミクス 2013 (工学院大学), 2013. 11.
- 20) 鈴木裕之, 安松比呂志, 三木隆久, 平林篤志, 亀山大介, 本村友一, 飯田浩章, 益子一樹, 齋藤伸行, 林田和之, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター: 搬入まで 1 時間を要した予測外生存例. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (神奈川県横浜市), 2014. 2.
- 21) 服部 陽, 安松比呂志, 三木隆久, 平林篤志, 亀山大介, 本村友一, 飯田浩章, 益子一樹, 齋藤伸行, 林田和之, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター: Damage Control Resuscitation にて救命し得た鈍的心損傷の 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (神奈川県横浜市), 2014. 2.
- 22) 後藤美咲, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 林田和之, 齋藤伸行, 益子一樹, 飯田浩章, 本村友一, 亀山大介, 平林篤志: 重症開放骨盤骨折に対し Damage Control Surgery として右片側骨盤切断術が奏功した救命し得た 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (神奈川県横浜市), 2014. 2.
- 23) Motomura T, Matsumoto H, Mashiko K: Doctor Heli, Japan. International HEMS Friendship Program Advanced Care Air, Aquatic, Ambulance Transport (ACAAAT) (1 st) (chiangmai University, Thailand), 2014. 3.
- 24) 齋藤伸行, 杉山和宏¹⁾, 真弓俊彦²⁾, 我妻ゆき子³⁾ (1) 東京都立墨東病院救命救急センター, ²⁾ 産業医科大学救急医学講座, ³⁾ 筑波大学臨床試験・臨床疫学研究室: グラム陰性桿菌感染症に起因する敗血症性ショックに対するエンドトキシン吸着療法の有効性. 日本集中医学会学術集会 (第 41 回) (京都府), 2014. 2.
- 25) 齋藤伸行, 讚井将満¹⁾ (1) 自治医科大学さいたま医療センター麻酔科・集中治療部: 人工呼吸療法に関する疫

学研究. 日本集中医学会学術集会 (第 41 回) (京都府), 2014. 2.

26) 服部 陽, 八木貴典, 安松比呂志, 三木隆久, 本村友一, 益子一樹, 林田和之, 松本 尚, 益子邦洋: Damage Control Resuscitation. 千葉県集中治療研究会 (第 28 回) (千葉市), 2014. 1.

27) Motomura T, Matsumoto H, Mashiko K: Advanced Automatic Collision Notification (AACN). National EMS Forum & Expo, Thailand (Bangkok, Thailand), 2014. 3.

(9) チーム医療企画:

1) 柴田あみ, 益子一樹, 服部 陽, 安松比呂志, 本村友一, 三木隆久, 林田和之, 松本 尚, 益子邦洋: ダメージコントロール手術にて救命し得た腹腔内出血の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 2.

(10) 教育セミナー:

1) 益子邦洋: Acute Care Surgery のこれから: 歴史的背景. 日本腹部救急医学会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.

(11) 動画セッション:

1) 安松比呂志, 益子一樹, 服部 陽, 三木隆久, 本村友一, 林田和之, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学): 重症外傷による出血性ショックに対する初療室緊急手術体制. 日本 Acute Care Surgery 学会 (東京都文京区), 2013. 11.

論文

[追加分]

追加分原著:

1) 益子一樹, 松本 尚, 安松比呂志, 三木隆久, 本村友一, 林田和之, 益子邦洋: 他臓器損傷を合併した十二指腸損傷の治療戦略. Japanese Journal of Acute Care Surgery 2013; 3: 37-42.

2) Matusumoto H, Mtotomura T, Hata Y¹⁾, Masuda Y²⁾, Mashiko K, Yokota H, Koido Y³⁾: Lessons Learned from the Aeromedical Disaster Relief Activities Following the Great East Japan Earthquake. Prehosp Disaster Med 2013; 28: 166-169.

追加分症例報告:

1) 益子一樹, 松本 尚, 安松比呂志, 三木隆久, 本村友一, 林田和之, 益子邦洋: ダメージコントロール戦略にて救命しえた重症胸部外傷の 1 例. Japanese Journal of Acute Care Surgery 2013; 3: 100-104.

追加分研究報告書:

1) 野口 宏¹⁾, 浦島克佳²⁾, 田邊晴山³⁾, 堂岡俊彦⁴⁾, 中川 隆⁵⁾, 松本 尚, 横田裕行⁶⁾, 有賀 徹⁷⁾, 有賀雄一郎⁸⁾, 岡本征仁⁹⁾, 尾形昌克¹⁰⁾, 織田 順, 小林一広, 田中秀治, 益子邦洋, その他 3 名 (1) 藤田保健衛生大学医学部救命救急医学講座, 2) 東京慈恵会医科大学分子疫学研究室, 3) 救急救命九州研修所, 4) 救急救命東京研修所, 5) 静岡大学人文学部社会学科, 6) 愛知医科大学病院・高度救命救急センター, 7) 日本救急医学会代表, 8) 東京消防庁救急部, 9) 札幌市消防局警防部救急課, 10) 広島市消防局警防部救急課救急救命士養成担当課): 救急救命士の処置範囲に係る研究. H24 年度厚生労働省科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業救急救命士の処置範囲に係る研究 (H23-医療-指定-007) 総括・分担研究報告書 2013; 1-205.

追加分報告:

1) 本村友一, 吉富有哉, 平林篤志, 松本 尚, 益子邦洋: 我が国の医工学が連携した交通事故ミクロ調査の在り方: 真実を掴まずして世界一の安全はなし. 日本交通科学協議会雑誌 2013; 12 (2): 36-43.

学会発表

追加分一般講演:

1) Matsumoto H: Damage control surgery from prehospital to emergency department or operating theater in Japan. Korea Traumatology Conference (Seoul, Korea), 2012. 4.

26. 形成外科学

[付属病院形成外科・美容外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Aoki M^{1,2)}, Miyake K¹⁾, Ogawa R²⁾, Dohi T^{1,2)}, Akaishi S²⁾, Hyakusoku H²⁾, Shimada T¹⁾ (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : siRNA Knockdown of Tissue Inhibitor of Metalloproteinase-1 in Keloid Fibroblasts Leads to Degradation of Collagen Type I. *Journal of Investigative Dermatology* 2014 ; 134 (3) : 818-826.
- 2) Huang C^{1,2)}, Miyazaki K³⁾, Akaishi S⁴⁾, Watanabe A⁵⁾, Hyakusoku H¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, China, 3) Department of Plastic surgery, Jichi Medical University, Shimotsuke, Tochigi Prefecture, Japan, 4) Division of Plastic and Reconstructive Surgery, Department of Surgery, Stanford University, Stanford, CA, USA, 5) Department of Molecular and Medical Genetics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Biological effects of cellular stretch on human dermal fibroblasts. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2013 ; 66 (12) : e351-e361.
- 3) Sano H^{1,2)}, Orbay H¹⁾, Terashi H³⁾, Hyakusoku H¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgical Science, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 3) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kobe University, Kobe, Japan) : Acellular adipose matrix as a natural scaffold for tissue engineering. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2014 ; 67 (1) : 99-106.
- 4) Tobita M¹⁾, Uysal C²⁾, Guo X²⁾, Hyakusoku H¹⁾, Mizuno H¹⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Juntendo University School of Medicine, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School) : Periodontal tissue regeneration by combined implantation of adipose tissue-derived stem cells and platelet-rich plasma in a canine model. *Cytherapy* 2013 ; 15 (12) : 1517-1526.
- 5) Chin T, Ono S, Hyakusoku H : Successful repair of flayed tissue in a degloving injury of the hand by arteriovenous anastomosis. *J Plast Surg Hand Surg* 2013.
- 6) Josh F^{1,2)}, Tobita M¹⁾, Tanaka R¹⁾, Orbay H³⁾, Ogata K⁴⁾, Suzuki K⁴⁾, Hyakusoku H³⁾, Mizuno H¹⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Juntendo University School of Medicine, 2) Department of Surgery, Hasanuddin University, 3) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, 4) R&D Central Research Laboratory, JMS Co. Ltd, Hiroshima) : Concentration of PDGF-AB, BB and TGF- β 1 as valuable human serum parameters in adipose-derived stem cell proliferation. *Journal of Nippon Medical School* 2013 ; 80 (2) : 140-147.
- 7) Wang Y¹⁾, Orbay H¹⁾, Huang C¹⁾, Tobita M²⁾, Hyakusoku H¹⁾, Miyamoto M³⁾, Tabata Y⁴⁾, Mizuno H²⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Juntendo University School of Medicine, 3) Division of Regenerative Medicine, Nippon Medical School, 4) Department of Biomaterials, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto University) : Preclinical Efficacy of Slow-Release bFGF in Ischemia-Reperfusion Injury in a Dorsal Island Skin Flap Model.

- J reconstr Microsurg 2013 ; 29 (5) : 341-346.
- 8) Huang C^{1, 2)}, Ogawa R¹⁾ (1) Nippon Medical School, Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, 2) Meitan General Hospital, Department of Plastic Surgery, Beijing) : Pharmacological treatment for keloids. Expert Opin Pharmacother 2013 ; 14 (15) : 2087-2100.
 - 9) Huang C^{1, 2)}, Holfeld J⁴⁾, Schaden W⁵⁾, Orgill D³⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, 3) Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, Boston, 4) Department of Cardiac Surgery, Innsbruck Medical University, Innsbruck, 5) AUVA Trauma Center Meidling, Vienna) : Mechanotherapy : revisiting physical therapy and recruiting mechanobiology for a new era in medicine. Trends in Molecular Medicine 2013 ; 19 (9) : 555-564.
 - 10) Ogawa R¹⁾, Hsu C²⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Dermatology, National Cheng-Kung University College of Medicine and Hospital, Tainan) : Mechanobiological dysregulation of the epidermis and dermis in skin disorders and in degeneration. J Cell Mol Med 2013 ; 17 (7) : 817-822.
 - 11) Huang C^{1, 2)}, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing) : Roles of lipid metabolism in keloid development. Lipids in Health and Disease 2013 ; 12 (60).
 - 12) Orgill D¹⁾, Ogawa R²⁾ (1) Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, 2) Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Current methods of burn reconstruction. Plast Reconstr Surg 2013 ; 131 (5) : 827e-836e.
 - 13) 伊吾田慎一^{1, 3)}, 土佐眞美子^{2, 3)}, 枝川聖子³⁾, 清水 一³⁾, 村上正洋²⁾, 百東比古⁴⁾, ガジザデモハマッド³⁾ (1) 東戸塚記念病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 3) 日本医科大学老人研究所病理部門, 4) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : ケロイド形成における Wnt シグナル伝達経路の発現解析. 癩痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2013 ; 7 (1) : 8-11.
 - 14) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 帝王切開術後早期からのソフトシリコンジェルシート固定による肥厚性癩痕予防効果の検討. 癩痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2013 ; 7 (1) : 18-20.
 - 15) 長嶋有紀, 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 小池幸子, 百東比古 : Nd : YAG レーザーを用いたケロイド・肥厚性癩痕の治療. 癩痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2013 ; 7 (1) : 21-25.
 - 16) 杉本貴子, 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 百東比古 : 耳垂ケロイド・肥厚性癩痕症例の治療法の検討. 癩痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2013 ; 7 (1) : 26-30.
 - 17) 飯村剛史¹⁾, 小川 令¹⁾, かづきれいこ^{1, 2)}, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科, 2) REIKO KAZKI) : 熱傷後癩痕患者におけるリハビリメイク®による外観および精神面の改善の検討. 癩痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2013 ; 7 (1) : 31-34.
 - 18) 小川 令, 赤石論史, 百東比古 : ケロイド・肥厚性癩痕の遺伝因子・全身因子・局所因子に関する文献的ならびに経験的考察. 癩痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2013 ; 7 (1) : 35-40.
 - 19) 有馬樹里, 小川 令, 東 秀子, 飯村剛史, 赤石論史, 百東比古 : ケロイドの重症化と高血圧との関連性の検討. 癩痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2013 ; 7 (1) : 41-44.
 - 20) 若林奈緒¹⁾, 小川 令¹⁾, 久保貴史²⁾, 赤石論史¹⁾, 岩寄徹治²⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科, 2) アルケア株式会社医工学研究所) : インピーダンス法を用いたケロイドの皮膚バリア機能測定. 癩痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2013 ; 7 (1) : 45-48.
 - 21) 小川 令, 百東比古 : 豊胸を目的とした脂肪注入の問題点. PEPARS 2013 ; 77 (1) : 79-83.

- 22) 佐藤和夫：A型ボツリヌス菌毒素製剤を使用した臨床検証：使用部位，適応，副作用と中和抗体の産生対策。PEPARS 2013；81（1）：50-65.
- 23) Ogawa R：High Blood Pressure (Hypertension) May Influence the Results of Clinical Trials for Scar and Keloid Treatments. Plastic & Reconstructive Surgery 2013；132（6）：1074e-1075e.
- 24) Kim S¹⁾, Choi T¹⁾, Liu W²⁾, Ogawa R³⁾, Suh J¹⁾, Mustoe T⁴⁾ (1) Dept of Plastic and Reconstructive Surgery and the Institute of Dermatological Science, College of Medicine, Seoul National University, 2) Dept of Plastic and Reconstructive Surgery, Shanghai 9th People's Hospital, Shanghai Jiao Tong University School of Medicine, 3) Dept of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 4) Division of Plastic Surgery, Dept of Plastic and Reconstructive Surgery, Northwestern University Feinberg School of Medicine)：Update on Scar Management：Guidelines for Treating Asian Patients. Plastic and Reconstructive Surgery 2013；132（6）：1580-1589.
- 25) Ogawa R¹⁾, Huang C¹⁾, Akaishi S¹⁾, Dohi T¹⁾, Sugimoto A¹⁾, Kuribayashi S²⁾, Miyashita T²⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Dept of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Dept of Radiation Oncology, Nippon Medical School)：Analysis of Surgical Treatments for Earlobe Keloids：Analysis of 174 Lesions in 145 Patients. Plastic and Reconstructive Surgery 2013；132（5）：818e-825e.
- 26) Huang C^{1, 2)}, Murphy G³⁾, Akaishi S^{1, 4)}, Ogawa R¹⁾ (1) Dept of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Dept of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, 3) Program in Dermatopathology, Dept of Pathology, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, 4) Division of Plastic and Reconstructive Surgery, Dept of Surgery, Stanford University)：Keloids and Hypertrophic Scars：Update and Future Directions. Plastic and Reconstructive Surgery - Global Open 2013；1（4）：e25.
- 27) Serizawa N, Oki K, Nomoto S, Nara S, Umezawa H, Matsumoto N, Mitsuwa H, Hyakusoku H：Experience with local injection of minocycline hydrochloride for refractory inguinal lymphorrhea. J Nippon Med Sch 2013；80（6）：486-488.
- 28) Umezawa H^{1, 2)}, Sakuraba M³⁾, Miyamoto S²⁾, Nagamatsu S³⁾, Kayano S²⁾, Taji M³⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital, 2) Division of Plastic and Reconstructive Surgery, National Cancer Center Hospital, 3) Division of Plastic and Reconstructive Surgery, National Cancer Center East Hospital)：Analysis of immediate vascular reconstruction for lower-limb salvage in patients with lower-limb bone and soft-tissue sarcoma. Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery 2013；66（5）：608-616.
- 29) Sano H^{1, 2)}, Shionoya K³⁾, Ogawa R²⁾ (1) Department of Surgical Science, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 3) Shionoya Orthopedic Clinic)：Finger nail configuration is influenced by mechanical forces on finger pads. J Dermatol 2013；40（12）：1056-1057.
- (2) 症例報告：
- 1) Ogawa R, Arima J, Ono S, Hyakusoku H：CASE REPORT Total Management of a Severe Case of Systemic Keloids Associated With High Blood Pressure (Hypertension)：Clinical Symptoms of Keloids May Be Aggravated by Hypertension. Eplasty [2013, 13：e25] 2013；13：e25.
- 2) Orgill D¹⁾, Ogawa R²⁾ (1) Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, 2) Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Discussion：the embrace device significantly decreases scarring following scar revision surgery in a randomized controlled trial. Plast Reconstr Surg 2014；133（2）：406-407.

著 書

- 1) 百束比古：〔分担〕13. 顔面における secondary vascularized flap の応用：遊離血管束移植による有毛部の再建。各種局所皮弁による顔面の再建：最近の進歩 改訂第2版（監修：波利井清紀 編著：田原真也），2013；pp127-134, 克誠堂出版。
- 2) 小川 令：〔分担〕縫合糸によるケロイド・肥厚性瘢痕形成のメカニズム, 第12節. 体内埋め込み医療材料の開発とその理想的な性能・デザインの要件, 2013；pp225-228, 株式会社 技術情報協会。
- 3) Ogawa R：〔分担〕Prevention of Scars, Chapter 6. Scars and Scarring：Causes, Types and Treatment Options (Yongsoo Lee), 2013；pp109-120, Nova Science Publishers.
- 4) Ogawa R：〔分担〕Radiation Therapy for Scars, Chapter 7. Scars and Scarring：Causes, Types and Treatment Options (Yongsoo Lee), 2013；pp123-130, Nova Science Publishers.
- 5) Ogawa R：〔分担〕Surgical Therapy for Scars, Chapter 8. Scars and Scarring：Causes, Types and Treatment Options (Yongsoo Lee), 2013；pp131-138, Nova Science Publishers.
- 6) Ogawa R：〔分担〕The Latest in Keloid and Hypertrophic Scar Pathophysiology and Treatment Strategies：Keloids Can Be Treated by Employing Up-to-Date Surgical Management. Plastic Surgery Pulse News, 2013；Quality Medical Publishing, Inc..

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Ogawa R：Clinical Approach to Achieve Optimal Outcome for Wound Closure in Cardiovascular Surgery. The Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (21st) (Kobe), 2013. 4.
- 2) Ogawa R：The Most Current Algorithms of Scar Management and Our Recent Trials. Annual Scientific Meeting of Indonesian Association of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgeons (The 17th) (Bandung), 2013. 4.
- 3) Ogawa R：Surgery and Radiation Therapy for Keloids. The Annual Scientific Meeting of Indonesian Association of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgeons (17th) (Bandung), 2013. 4.
- 4) Ogawa R：Mechanobiology of Cutaneous Wound Healing and Scarring. Human Skin Engineering and Reconstructive Surgery (Prague), 2013. 5.
- 5) Ogawa R：An Integrated Approach to Scar-Less Wound Healing and Scar Management. Plastic Surgery Conference, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School (Boston), 2013. 6.
- 6) Ogawa R：Anterior Chest Wall Reconstruction using Perforator Based Flaps. World Society for Reconstructive Microsurgery 2013 (Chicago), 2013. 7.
- 7) Ogawa R：Surgery and Radiation Therapy for Keloids. Asian Scar Forum 2013 (Bali), 2013. 8.
- 8) Ogawa R：The Asian Scar Treatment Guideline：Literature Review and Our Clinical Cases. Asian Scar Forum 2013 (Bali), 2013. 8.
- 9) 小川 令：メカノバイオロジーと毛髪再生. 日本抗加齢医学会総会（第13回）（横浜），2013. 6.
- 10) 小川 令：Scarless Wound Healing を目指して：理論，実践，その先に見えてくるもの. 岡山創傷治癒研究会（第6回）（岡山），2013. 7.
- 11) 小川 令：きず・きずあとの最新治療と理論. 足立皮膚科勉強会（第4回）（東京），2013. 10.
- 12) 小川 令：傷跡の少ない手術をめざして - 瘢痕・ケロイドの予防から治療まで - . 城南乳線研究会（第33回）（東京），2013. 10.
- 13) 小川 令：形成外科領域におけるダプトマイシンの使用経験. キュビシン発売2周年記念講演会（東京），2013. 10.

- 14) 小川 令：細胞はいかに力を感じているか？：物理的刺激を考慮した形成外科手術とメカノセラピー。信州形成外科学会例会（第 67 回）（伊那），2013. 12.
 - 15) Ogawa R：Mechanobiological Mechanisms of Extracorporeal Shock Wave Therapy and Importance of Mechanotherapy for Wound Healing and Tissue Regeneration. The ISMST Basic Research Meeting (3rd) (Frankfurt), 2014. 1.
 - 16) Ogawa R：Advances in Scar Management. Asian Scar Forum (3rd) (Dubai), 2014. 2.
 - 17) Ogawa R¹⁾, Choi T²⁾, Liu W³⁾, Mustoe T⁴⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery and the Institute of Dermatological Science, College of Medicine, Seoul National University, 3) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Shanghai 9th People's Hospital, Shanghai Jiao Tong University School of Medicine, 4) Division of Plastic Surgery, Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Northwestern University Feinberg School of Medicine)：Scar Management：Guidelines for Treating Asian Patients. Asian Scar Forum (3rd) (Dubai), 2014. 2.
 - 18) Ogawa R：Recent Advancement of Total Scar Management. Middle East Wounds and Scar Meeting (Dubai), 2014. 3.
 - 19) Ogawa R：Importance of Mechanical Force Reduction in Scar Management. Middle East Wounds and Scar Meeting (Dubai), 2014. 3.
 - 20) Ogawa R：Laser and Radiation Therapy for Scars and Keloids. Middle East Wounds and Scar Meeting (Dubai), 2014. 3.
 - 21) 小川 令：きずや傷あとの最新治療と理論：褥瘡からケロイドまで。葛飾皮膚科勉強会（第 12 回）（東京），2014. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 小川 令：熱傷瘢痕拘縮の再建。2013 年度日本形成外科学会春期学術講習会（新潟），2013. 11.
 - 2) 小川 令：外科的治療との併用。2013 年度日本臨床工学技士会高気圧酸素治療分野講習会（東京），2013. 11.
- (3) シンポジウム：
- 1) 百東比古，小野真平，かづきれいこ，小川 令：熱傷再建におけるわれわれのエステティックマインド。日本熱傷学会総会・学術集会（第 39 回）（沖縄），2013. 6.
 - 2) 赤石論史^{1, 2)}，小川 令¹⁾，菅 浩隆²⁾，Wang V²⁾，Gurtner G²⁾，百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科，2) スタンフォード大学形成外科)：異常瘢痕に対するレーザーの効果。日本熱傷学会総会・学術集会（第 39 回）（沖縄），2013. 6.
 - 3) 小川 令¹⁾，赤石論史¹⁾，小野真平²⁾，朝日林太郎²⁾，百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科，2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：創傷治癒における神経系の役割：熱傷の麻酔で創傷治癒は促進するか？遅延するか？。日本熱傷学会総会・学術集会（第 39 回）（沖縄），2013. 6.
 - 4) 小川 令，赤石論史，百東比古：ケロイド・肥厚性瘢痕治療の発展と未来。日本創傷外科学会総会・学術集会（第 5 回）（京都），2013. 7.
 - 5) 野本俊一¹⁾，小野真平¹⁾，若林奈緒¹⁾，百東比古¹⁾，石井暢明²⁾，長嶋有紀²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科，2) 日本医科大学千葉北総病院形成外科)：注射で入れたのに皮膚切開して摘出しなければならなくなった異物性肉芽腫症例の検討。日本美容外科学会総会（第 36 回）（東京），2013. 10.
 - 6) 石井暢明¹⁾，小野真平²⁾，桑原大彰³⁾，朝日林太郎⁴⁾，梅澤裕己⁵⁾，江浦重義⁵⁾，小川 令⁵⁾，百東比古⁵⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科，2) 浜松聖隷病院手外科，3) 会津中央病院形成外科，4) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター，5) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：有茎穿通枝皮弁の展開—穿通枝茎プロペラ皮弁，Keystone flap 変法など。再生再建外科研究会（第 2 回）（東京），2014. 2.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 小川 令, Huang C, 赤石論史, 佐野仁美, 百束比古：創傷治癒における物理的刺激の役割とその分子メカニズム. 日本創傷外科学会総会・学術集会（第5回）（京都），2013. 7.

(5) ランチョンセミナー：

- 1) 小川 令：形成外科が担う創傷治療・組織再生の未来を考える！. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 2) 小川 令：ケロイド・肥厚性瘢痕の“常識”は間違っていた！：全身・局所因子をゼロから考えなおす. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.

(6) ワークショップ：

- 1) 小川 令, 赤石論史, 百束比古：体質や全身的因子を考慮したケロイド・瘢痕治療. 日本創傷治癒学会（第43回）（大分），2013. 11.
- 2) 有馬樹里, 小川 令, 赤石論史, 百束比古：ケロイドの重症化と高血圧との関連性の検討. 日本創傷治癒学会（第43回）（大分），2013. 11.

(7) ポスター：

- 1) 桑原広輔¹⁾, 村上正洋¹⁾, 岩切 致¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：極めて稀な耳垂型先天性耳瘻孔の治療経験と、その発生学および解剖学的検討. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 2) 石井暢明, 百束比古：プラスチック樹脂とテープを用いた耳介変形の簡単な矯正. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 3) 杉本貴子, 小川 令, 飯村剛史, 有馬樹里, 大木更一郎, 百束比古：口唇皮膚悪性腫瘍切除後全層欠損に対する皮膚側と粘膜側の2重V-Y皮弁による再建. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 4) 青木宏信¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 長嶋有紀¹⁾, 奈良慎平¹⁾, 百束比古¹⁾, 早川 潤²⁾, 植田高弘²⁾, 前田美穂²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院小児科)：小児顔面の横紋筋肉腫の減量においてMohs軟膏が有効であった1例. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 5) 岩切 致¹⁾, 庄司真美¹⁾, 大木琴美¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 藪野雄大¹⁾, 桑原広輔¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：手術用手袋を用いた簡便なタイオーバー法. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 6) 朝日林太郎^{1, 2)}, 小野真平^{1, 2)}, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：植皮片の生着に難渋が予想される患者に対する剣山ドレナージ及び陰圧創傷治療システム併用の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 7) 江浦重義¹⁾, 小川 令¹⁾, Vq V²⁾, 王 春梅³⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科, 2) ベトナム国立熱傷研究所, 3) 東莞康華病院形成外科)：顔面熱傷瘢痕の超薄皮弁によるresurfacing. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 8) 渡邊真泉¹⁾, 百束比古²⁾ (1) あまみ皮膚科・形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：隆鼻術後に感染を来した統合失調症・ハンセン病患者の治療経験. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 9) 杉本貴子¹⁾, 石井暢明¹⁾, 高見佳宏¹⁾, 松本典子¹⁾, 渋谷偉織²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科・美容外科, 2) 北村山公立病院)：いわゆる「ラップ療法」にて増悪した慢性皮膚潰瘍の2例. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 10) 奈良慎平¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 青木宏信¹⁾, 中溝宗永²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院耳鼻科・頭頸部外科)：皮弁による再建を行った副咽頭間隙性腫瘍の1例. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.

- 11) 秋元正宇¹⁾, 香西達一¹⁾, 橋田絵里香¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : Propeller flap と square flap の瘢痕分断効果のシミュレーションによる検証. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2013. 4.
- 12) 大木琴美^{1, 2)}, 天海恵子²⁾, 村上正洋¹⁾, 百東比古³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 博慈会記念総合病院形成外科, 3) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 下肢壊死性筋膜炎 5 症例の経験～市中病院における形成外科の役割について. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2013. 4.
- 13) 藪野雄大¹⁾, 秋元正宇²⁾, 橋田絵里香²⁾, 香西達一²⁾, 江浦重義¹⁾, 百東比古³⁾ (1) 北村山公立病院形成外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 3) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 手指熱傷に対する植皮片のタイオーバー固定にポリウレタンフォームを用いた工夫. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 39 回) (沖縄), 2013. 6.
- 14) 石井暢明¹⁾, 江浦重義¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 村上正洋²⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属武蔵小杉病院形成外科) : プロペラ皮弁法による熱傷潰瘍・瘢痕拘縮再建の検討. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 39 回) (沖縄), 2013. 6.
- 15) 桑原広輔¹⁾, 岩切 致¹⁾, 飯村剛史²⁾, 大木琴美¹⁾, 土佐真美子¹⁾, 百東比古²⁾, 村上正洋¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : ガス壊疽に対する右下腿切断術後に中心静脈カテーテル穿刺部に再度ガス壊疽を発症した 1 例. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 5 回) (京都), 2013. 7.
- 16) 藪野雄大¹⁾, 村上正洋²⁾, 秋元正宇³⁾, 岩切 致²⁾, 橋田絵里香³⁾, 香西達一³⁾, 桑原広輔²⁾, 百東比古⁴⁾ (1) 北村山公立病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 4) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 皮膚トレパンを用いた埋め込み植皮に局所陰圧閉鎖療法を併用した褥瘡治療の経験. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 5 回) (京都), 2013. 7.
- 17) 青木宏信, 奈良慎平, 石井暢明, 若林奈緒, 小野真平, 百東比古 : 男性の異物注入による乳房皮膚潰瘍. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 5 回) (京都), 2013. 7.
- 18) 石井暢明, 渋谷偉織, 有馬樹里, 百東比古 : 閉鎖療法後に生じた仙骨部初期型ポケットに対し花卉状固定を施行した 1 例. 日本褥瘡学会学術集会 (第 15 回) (神戸), 2013. 7.
- 19) 松本典子, 小川 令, 百東比古 : 腋窩再建における術式選択の考察. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 20) 高見佳宏^{1, 3)}, 大澤幸代¹⁾, 中馬久美子¹⁾, 石井啓子²⁾, 百東比古³⁾ (1) 東京労災病院形成外科, 2) 千葉大学医学部形成外科, 3) 付属病院形成外科・美容外科) : アルデヒド処理ラット血管を用いた微小血管吻合のトレーニング. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 21) 飯村剛史¹⁾, 小川 令¹⁾, 福嶋善光²⁾, 汲田伸一郎²⁾, 百東比古¹⁾ (1) 形成外科, 2) 放射線科) : リンパ浮腫に対する術前後の 2 phase Dynamic Lymphoscintigraphy の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 22) 芹澤直隆, 大木更一郎, 野本俊一, 奈良慎平, 百東比古 : 難治性リンパ漏に対する ミノサイクリン局注療法の経験. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 23) 三羽英之¹⁾, 小川 令¹⁾, 小野真平¹⁾, 宮下次廣²⁾, 百東比古¹⁾ (1) 形成外科・美容外科, 2) 放射線科) : 手術および術後放射線治療が奏功したデュピイトラン拘縮の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 24) 青木宏信, 赤石論史, 石井暢明, 小野真平, 奈良慎平, 若林奈緒, 小川 令, 百東比古 : 男性の異物注入による乳房皮膚潰瘍. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 25) 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科) : 仙骨部軟組織にはたらく応力の有限要素解析と褥瘡発生原因に関する考察. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.

- 26) 江浦重義¹⁾, 小川 令¹⁾, 王 春梅²⁾, Vq V³⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科, 2) 東莞康華病院形成外科, 3) ベトナム国立熱傷研究所): 顔面熱傷瘢痕の超薄皮弁による resurfacing. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 27) 野一色千景, 小川 令, 渡邊真泉, 百束比古: 下腿潰瘍に対する植皮術の選択に関する考察. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 28) 渡邊真泉, 小川 令, 百束比古: 顔面の瘢痕修正における W 形成術と Z 形成術の考察. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 29) 外蘭 優, 江浦重義, 赤石論史, 青木宏信, 百束比古: 左腕神経叢より発生した神経鞘腫の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 30) 石井暢明¹⁾, 長嶋有紀¹⁾, 小川 令²⁾, 村上正洋³⁾, 秋元正字¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科, 3) 武蔵小杉病院形成外科): 皮膚脈温存プロペラ皮弁による術後の皮弁うっ血の回避. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 31) 櫻井 透, 小川 令, 奈良慎平, 長嶋有紀, 松本典子, 百束比古: 非固着性創傷被覆・保護材 (ウルゴチュール®) の使用経験. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 32) 梅澤裕己¹⁾, 江浦重義¹⁾, 百束比古¹⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 形成外科・美容外科, 2) 乳腺外科): 内胸静脈径に関する考察: 純粋な DIEP 皮弁を用いた乳房再建. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 33) 百束比古¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 江浦重義¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 小野真平¹⁾, 飯村剛史¹⁾, 小川 令¹⁾, 林 宏光²⁾, 汲田伸一郎²⁾ (1) 形成外科・美容外科, 2) 放射線科): 穿通枝を用いた誂え皮弁作成. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 34) 梅澤裕己¹⁾, 武井寛幸²⁾, 江浦重義¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺外科): 腹直筋を全く付着しない DIEP 皮弁による乳房再建例. 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (第 1 回) (福岡), 2013. 9.
- (8) 海外留学者講演:
- 1) 赤石論史: スタンフォード大学形成外科留学を終えて. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- (9) 一般講演:
- 1) 飯村剛史¹⁾, 小川 令¹⁾, 小野真平²⁾, 朝日林太郎¹⁾, 赤石論史¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 局所陰圧閉鎖療法における細菌汚染・感染の可能性と多剤耐性菌院内感染への対策. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2013. 4.
- 2) 松本典子, 小川 令, 櫻井 透, 百束比古: 胸骨骨髓炎を伴う胸部難治性潰瘍に対する Oblique 型上方茎腹直筋皮弁による再建. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2013. 4.
- 3) 村上正洋¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 着術と眼輪筋短縮術の組み合わせについて一. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2013. 4.
- 4) 長嶋有紀, 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 小池幸子, 百束比古: Nd:YAG レーザーを用いた瘢痕治療の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2013. 4.
- 5) 朝日林太郎^{1,2)}, 小野真平^{1,2)}, 江浦重義¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 四肢遠位部の皮膚軟部組織再建における穿通枝皮弁を用いた治療戦略. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2013. 4.
- 6) 松本典子, 小川 令, 百束比古: ケロイド・肥厚性瘢痕とその類似疾患の鑑別診断. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2013. 4.
- 7) 有馬樹里, 小川 令, 飯村剛史, 東 秀子, 赤石論史, 百束比古: ケロイドの重症化と高血圧との関連性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2013. 4.
- 8) 野一色千景¹⁾, 小川 令¹⁾, 赤石論史¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 栗林茂彦²⁾, 宮下次廣²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属

- 病院形成外科・美容外科,²⁾ 日本医科大学付属病院放射線治療科):ケロイドに対する放射線単独治療の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会(第56回)(東京), 2013. 4.
- 9) 若林奈緒¹⁾, 石井暢明¹⁾, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾, 小野真平²⁾, 朝日林太郎²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科,²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター):シリコン注入後免疫異常を惹起した症例の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会(第56回)(東京), 2013. 4.
- 10) かづきれいこ, 百東比古:顔面神経麻痺患者に対するリハビリメイク®の導入. 日本形成外科学会総会・学術集会(第56回)(東京), 2013. 4.
- 11) 朝日林太郎¹⁾, 小野真平²⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科,²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター):多剤耐性菌院内感染時の熱傷患者の扱い. 日本熱傷学会総会・学術集会(第39回)(沖縄), 2013. 6.
- 12) 朝日林太郎^{1,2)}, 小野真平^{1,2)}, 櫻井 透¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科,²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター):全身熱傷患者に対するハイドロサージェリーシステム「パーサジェット◇S」の使用経験. 日本熱傷学会総会・学術集会(第39回)(沖縄), 2013. 6.
- 13) 江浦重義¹⁾, 小野真平¹⁾, Vq V²⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科,²⁾ ベトナム国立熱傷研究所):広範囲顔面熱傷後瘢痕の双茎遊離超薄皮弁による resurfacing. 日本熱傷学会総会・学術集会(第39回)(沖縄), 2013. 6.
- 14) 櫻井 透¹⁾, 秋山 豪²⁾, 飯村剛史¹⁾, 長嶋有紀²⁾, 高見佳宏³⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科,²⁾ 日本医科大学付属北総病院形成外科,³⁾ 東京労災病院形成外科):重症感染性足部壊疽に対する治療のプロトコール化について. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第5回)(京都), 2013. 7.
- 15) 松本典子, 小川 令, 櫻井 透, 百東比古:胸部難治性潰瘍の再建における上方茎腹直筋皮弁のデザインの工夫. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第5回)(京都), 2013. 7.
- 16) 櫻井 透, 小川 令, 奈良慎平, 長嶋有紀, 百東比古:非固着性創傷被覆・保護材の使用経験. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第5回)(京都), 2013. 7.
- 17) 青木宏信¹⁾, 小野真平¹⁾, 朝日林太郎¹⁾, 角田 隆²⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科,²⁾ 日本医科大学付属病院整形外科):腋窩リンパ節転移で発見された原発不明悪性黒色腫の1例. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第5回)(京都), 2013. 7.
- 18) 朝日林太郎^{1,2)}, 小野真平²⁾, 小川 令²⁾, 百東比古²⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター,²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科):ワイヤーフレーム外固定変法(Modified External Wire Frame Fixation). 日本創傷外科学会総会・学術集会(第5回)(京都), 2013. 7.
- 19) 朝日林太郎^{1,2)}, 小野真平²⁾, 江浦重義²⁾, 赤石論史²⁾, 小川 令²⁾, 百東比古²⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター,²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科):下腿開放性骨折後の皮膚軟部組織再建における下行膝動脈穿通枝皮弁(D-GAP flap)の有用性. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第5回)(京都), 2013. 7.
- 20) 飯村剛史¹⁾, 小川 令¹⁾, 小野真平^{1,2)}, 朝日林太郎³⁾, 赤石論史¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科,²⁾ 聖隷浜松病院手外科・マイクロサージェリーセンター,³⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター):多剤耐性アシネトバクター院内感染の対策と局所陰圧閉鎖療法との関連性の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第5回)(京都), 2013. 7.
- 21) 江浦重義, 石井暢明, 小野真平, 小川 令, 大木更一郎, 百東比古:Free Flapと有茎皮弁の使い分け一両者の合体も含めて. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第5回)(京都), 2013. 7.
- 22) 松本典子, 小川 令, 杉本貴子, 百東比古:腋窩の瘢痕拘縮および慢性膿皮症に対する術式選択の考察. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第5回)(京都), 2013. 7.
- 23) 桑原大彰¹⁾, 久保一人¹⁾, 石井暢明²⁾, 大木更一郎²⁾, 百東比古²⁾ (1) 会津中央病院形成外科,²⁾ 日本医科大学付

- 属病院形成外科・美容外科)：深い坐骨部褥瘡の再建における第一選択…大腿二頭筋皮弁. 日本褥瘡学会学術集会 (第 15 回) (神戸), 2013. 7.
- 24) 芹澤直隆, 大木更一郎, 野本俊一, 奈良慎平, 百束比古：難治性リンパ漏に対するミノサイクリン局注療法の経験. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 25) 外薗 優, 江浦重義, 梅澤裕己, 百束比古：乳房異物摘出後, 遊離深下腹壁動脈穿通枝皮弁による両側乳房再建を行った 1 例. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 26) 青木宏信, 赤石論史, 小川 令, 石井暢明, 小野真平, 奈良慎平, 若林奈緒, 百束比古：男性の乳房異物注入後遺症の 3 例. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 27) 三羽英之, 小川 令, 小野真平, 奈良慎平, 櫻井 透, 百束比古：手術および術後放射線治療にて治療しえたデュプイトレン拘縮の 1 例. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 28) 櫻井 透, 小野真平, 朝日林太郎, 杉本貴子, 赤石論史, 百束比古：長母趾伸筋腱断裂に対し turnover 法を用いて再建した 1 例. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 29) 野一色千景, 小川 令, 渡邊真泉, 百束比古：下腿潰瘍に対する植皮術の選択に関する考察. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 30) 松本典子, 梅澤裕己, 三羽英之, 百束比古：るいそう患者における舌全摘, 亜全摘術後の再建の工夫：2 皮島腹直筋皮弁. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 31) 佐野仁美¹⁾, 小川 令¹⁾, 赤石論史¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 大学院形成再建再生医学)：爪形態における物理刺激の影響. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 32) 青木雅代¹⁾, 三宅弘一²⁾, 小川 令¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 赤石論史¹⁾, 百束比古¹⁾, 島田 隆²⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 生化学分子生物学 (分子遺伝学) 高度先端医療技術開発センター遺伝子治療研究部門)：ケロイドに対する TIMP-1 siRNA によるコラーゲン分解効果. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 33) 小川 令¹⁾, 赤石論史¹⁾, 佐野仁美¹⁾, 青木雅代¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 大学院形成再建再生医学)：メカノバイオロジーとメカノセラピー. 谷根千形成懇話会 (第 12 回) (東京), 2013. 8.
- 34) 松本典子¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 三羽英之¹⁾, 百束比古¹⁾, 大橋隆治²⁾, 石井英明²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 日本医科大学形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学病理部, 3) 日本医科大学統御機構病理学)：悪性度の高い salivary duct carcinoma との組織学的鑑別に注意を要した sclerosing polycystic adenosis の 1 例. 関東形成外科学会・東京地方会 (第 274 回) (東京), 2013. 7.
- 35) 天海恵子¹⁾, 大木琴美²⁾, 有馬樹里³⁾, 百束比古³⁾ (1) 博慈会記念総合病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 3) 日本医科大学形成外科)：急速に増大した右腋窩部の粘液線維肉腫 (Myxofibrosarcoma) の 1 例. 関東形成外科学会・東京地方会 (第 274 回) (東京), 2013. 7.
- 36) 朝日林太郎^{1,2)}, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾, 小野真平³⁾ (1) 形成外科・美容外科, 2) 高度救命救急センター, 3) 聖隷浜松病院手外科・マイクロサージャリーセンター)：改良型 3 次元ワイヤーフレーム外固定法による植皮術. 関東形成外科学会・東京地方会 (第 274 回) (東京), 2013. 7.
- 37) 奈良慎平, 梅澤裕己, 青木宏信, 百束比古：熱傷受傷後 80 年経過して生じた頭部に棘細胞癌の 1 例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 29 回) (山梨), 2013. 8.
- 38) 橘田絵里香¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 森田 孝²⁾, 二宮里紗²⁾, 香西達一^{1,3)}, 藪野雄大⁴⁾, 石井暢明¹⁾, 長嶋有紀¹⁾, 百束比古⁵⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 千葉北総病院皮膚科, 3) 小山記念病院形成外科, 4) 北村山公立病院形成外科, 5) 付属病院形成外科・美容外科)：顔面皮膚悪性腫瘍再建：有限要素法によるシミュレーション. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 29 回) (山梨), 2013. 8.
- 39) 藪野雄大^{1,2)}, 橘田絵里香²⁾, 森田 孝³⁾, 二宮里紗³⁾, 香西達一^{2,4)}, 石井暢明²⁾, 長嶋有紀²⁾, 秋元正宇²⁾, 百束比古⁵⁾ (1) 北村山公立病院形成外科, 2) 千葉北総病院形成外科, 3) 千葉北総病院皮膚科, 4) 小山記念病院形成外科, 5) 付属病院形成外科・美容外科)：超高齢者および認知症の顔面皮膚悪性腫瘍患者における手術治療の検討

- とその課題. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 29 回) (山梨), 2013. 8.
- 40) 梅澤裕己, 奈良慎平, 小川 令, 百東比古: 外鼻・鼻中隔に発生した皮膚癌の手術治療: 再建手術を中心に. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 29 回) (山梨), 2013. 8.
 - 41) 杉本貴子^{1, 2)}, 小川 令²⁾, 飯村剛史²⁾, 有馬樹里²⁾, 大木更一郎²⁾, 百東比古²⁾ (1) 東和病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科): 口唇皮膚悪性腫瘍切除後の全層欠損に対する皮膚側と粘膜側の 2 重 V-Y 皮弁による再建. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 29 回) (山梨), 2013. 8.
 - 42) 外菌 優, 江浦重義: 左腕神経叢より発生した神経鞘腫の 1 例. 関東形成外科学会・東京地方会 (第 275 回) (東京), 2013. 9.
 - 43) 小川 令, 赤石論史, 百東比古: ケロイド・肥厚性瘢痕の外科的治療: 手術は是か非か?. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第 8 回), 2013. 8.
 - 44) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学形成外科): 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科の肥厚性瘢痕・ケロイド治療研究史: Where are we going?. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第 8 回) (札幌), 2013. 8.
 - 45) 小川 令, 赤石論史, 百東比古: 我が教室の瘢痕・創傷治療研究史: Where are we going?. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第 8 回) (札幌), 2013. 8.
 - 46) 三羽英之, 小川 令, 小野真平, 宮下次廣¹⁾, 百東比古 (1) 付属病院放射線科): 手術および術後放射線治療が奏功したデュプイトラン拘縮の 1 例. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第 8 回) (札幌), 2013. 8.
 - 47) 赤石論史, 小川 令, 秋元正宇¹⁾, 百東比古 (1) 千葉北総病院形成外科): ケロイドを予防するための縫合法の最適化. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第 8 回) (札幌), 2013. 8.
 - 48) 杉本貴子^{1, 2)}, 小川 令¹⁾, 黄 晨晃¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科, 2) 東和病院形成外科・美容外科): 正方弁法による腋窩および指間の瘢痕拘縮再建術. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第 8 回) (札幌), 2013. 8.
 - 49) 青木宏信, 小川 令, 赤石論史, 百東比古: 皮膚線維腫と肥厚性瘢痕・ケロイドとの関連性の検討. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第 8 回) (札幌), 2013. 8.
 - 50) Hyakusoku H, Ono S, Ishii N, Kuwahara H, Ogawa R: Complication of Augmentation Mammoplasty Using Injection Method (Autologous fat, Hydrogel or Hyaluronan). The Sino-Japan Joint Congress on Plastic Surgery (22nd) (大連), 2013. 8.
 - 51) Kuwahara H¹⁾, Kubo K¹⁾, Ishii N²⁾, Hyakusoku H²⁾ (1) Dpt. Plast. Recondtr. Surg. Aizu Central Hospital, 2) Dpt. Plast. Recondtr. Surg. Nippon Medical School Hospital): The propeller flap for reconstructing skin ulcer in sacral region – especially propeller-packman method. The Sino-Japan Joint Congress on Plastic Surgery (22nd) (大連), 2013. 8.
 - 52) Mitsuwa H, Ono S, Asahi R, Hyakusoku H (1) Dpt of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery): Usefulness of Perforator-based Bi-pedicled Flap (modified keystone flap) for a Large Defect on Trunk. The Sino-Japan Joint Congress on Plastic Surgery (22nd) (大連), 2013. 8.
 - 53) Hyakusoku H¹⁾, Ono S¹⁾, Eura S¹⁾, Umezawa H¹⁾, Ogawa R¹⁾, Vu Q^{1, 2)} (1) Dpt. Plast. Recondtr. Surg. Nippon Medical School Hospital, 2) Vietnam National Institute of Burns): Bipedicled free superthin flaps using perforators. The Sino-Japan Joint Congress on Plastic Surgery (22nd) (大連), 2013. 8.
 - 54) 朝日林太郎^{1, 2)}, 小野真平³⁾, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 3) 聖隷浜松病院手外科・マイクロサージャリーセンター): 穿通枝双茎皮弁で巨大な背部皮膚軟部組織欠損を再建した 1 例. 日本マイクロサージャリー学会 40 周年記念学術集会 (盛岡), 2013. 9.
 - 55) 梅澤裕己¹⁾, 松谷 毅²⁾, 中溝宗永³⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大

- 学付属病院消化器外科・移植外科,³⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻科・頭頸部外科): 血管付加有茎上行結腸を用いた食道再建. 日本マイクロサージャリー学会 40 周年記念学術集会 (盛岡), 2013. 9.
- 56) 野一色千景, 小川 令, 百束比古: 多血小板血漿 (PRP) およびヒト塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) 注射による合併症の検討. 日本美容外科学会総会 (第 36 回) (東京), 2013. 10.
- 57) 杉本貴子^{1,2)}, 小川 令²⁾, 長嶋有紀^{2,3)}, 赤石諭史²⁾, 百束比古²⁾ (1) 東和病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 3) あまみ皮ふ科・形成外科): ケロイド・肥厚性癬痕に対するロングパルス Nd:YAG レーザー照射方法の検討. 日本美容外科学会総会 (第 36 回) (東京), 2013. 10.
- 58) かづきれいこ^{1,2)}, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) REIKO KAZKI): 美容外科治療後のメイクアップ療法の有用性について: 満足度調査から. 日本美容外科学会総会 (第 36 回) (東京), 2013. 10.
- 59) 青木宏信, 奈良慎平, 石井暢明, 若林奈緒, 小野真平, 赤石諭史, 百束比古: 男性の乳房異物注入後遺症の 3 例. 日本美容外科学会総会 (第 36 回) (東京), 2013. 10.
- 60) 杉本貴子¹⁾, 小川 令²⁾, 大木更一郎²⁾, 百束比古²⁾ (1) 東和病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 口唇全層欠損に対する 2 重 V-Y 皮弁による再建. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 31 回) (名古屋), 2013. 10.
- 61) 江浦重義¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 水野博司²⁾, 青木 律³⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科, 2) 順天堂大学形成外科, 3) グリーンウッドスキンクリニック立川): 乳房異物摘出後の血流付き自家組織による乳房再建: 20 年の経験から. 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (第 1 回) (福岡), 2013. 9.
- 62) 杉本貴子¹⁾, 小川 令²⁾, 百束比古²⁾ (1) 東和病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): V-Y 前進皮弁による上口唇髭髯部再建の 1 例. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 31 回) (名古屋), 2013. 10.
- 63) 村上正洋¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): Lower eyelid retractors を標的とする退行性下眼瞼内反症手術 - 4 種類の術式とそれらに対する考察. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 31 回) (名古屋), 2013. 10.
- 64) 渋谷偉織¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 太組一朗²⁾, 香西達一³⁾, 百束比古⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 小山記念病院形成外科, 4) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 内視鏡下に前頭部小切開と CCP により治療を行った前頭骨陥没骨折の治療経験. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 31 回) (名古屋), 2013. 10.
- 65) 香西達一¹⁾, 秋元正宇²⁾, 橘田絵里香²⁾, 藪野雄大³⁾, 大村朋子⁴⁾, 百束比古⁵⁾ (1) 小山記念病院皮膚科・形成外科, 2) 日本医大学千葉北総病院形成外科, 3) 北村山公立病院, 4) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, 5) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 耳瘻孔様外観を呈し, 眉毛外側から頭蓋骨内までに及んだ頬皮嚢腫の 1 例. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 31 回) (名古屋), 2013. 10.
- 66) 青木雅代¹⁾, 三宅弘一²⁾, 小川 令¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 百束比古¹⁾, 島田 隆²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学生化学・分子生物学 (分子遺伝学) 高度先端医療技術開発センター遺伝子治療研究部門): ケロイドに対する TIMP-1 siRNA によるコラーゲン分解効果. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 22 回) (新潟), 2013. 11.
- 67) 松本典子, 小川 令, 百束比古: 胸骨筋 (muscle sternalis) の解剖学的検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 22 回) (新潟), 2013. 11.
- 68) 佐野仁美, 小川 令, 赤石諭史, 秋元正宇, 百束比古: 爪形態における物理的刺激の影響の解析: コンピューターシミュレーションを含めて. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 22 回) (新潟), 2013. 11.
- 69) 秋元正宇¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): Z 形成術の三角弁が自然に入れ替わる条件と延長率とは ~ 有限要素法によるシミュレーションから. 日本形成外

科学会基礎学術集会（第22回）（新潟），2013. 11.

- 70) 小川 令¹⁾，小山太郎²⁾，小林一広²⁾，波間隆則³⁾，百束比古¹⁾（¹⁾ 日本医科大学形成外科，²⁾ 医療法人社団ウェルエイジング城西クリニック，³⁾ アンファー株式会社開発部）：伸展刺激が毛乳頭細胞に与える影響の解析—第2報—。日本形成外科学会基礎学術集会（第22回）（新潟），2013. 11.
- 71) 飯村剛史¹⁾，小川 令¹⁾，福嶋善光²⁾，汲田伸一郎²⁾，百束比古¹⁾（¹⁾ 日本医科大学形成外科，²⁾ 日本医科大学放射線科）：フチン酸を用いた2 phase Dynamic Lymphoscintigraphy の有用性。日本形成外科学会基礎学術集会（第22回）（新潟），2013. 11.
- 72) 小川 令：心・血管・循環系が創傷治癒・瘢痕形成に及ぼす影響：メカノバイオロジーの観点から。千駄木心・血管研究会（第1回）（東京），2013. 11.
- 73) 朝日林太郎^{1, 2)}，小野真平¹⁾，小川 令¹⁾，百束比古¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科，²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：皮膚組織欠損創に対する真皮欠損用グラフトインテグラ® 及びV.A.C.ATS® 治療システム併用の有用性。関東形成外科学会東京地方会（第276回）（東京），2013. 12.
- 74) 長嶋有紀¹⁾，野本俊一¹⁾，小川 令¹⁾，百束比古¹⁾，青木 律²⁾（¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科，²⁾ グリーンウッドスキンクリニック立川）：乳房注入異物の画像診断（ワセリンからヒアルロン酸まで）。日本美容外科学会学術集会（第119回）（東京），2014. 1.
- 75) 梅澤裕己¹⁾，Vu Q²⁾，長嶋有紀¹⁾，桑原広輔³⁾，百束比古¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科，²⁾ ベトナム国立熱傷研究所病院形成外科，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科）：ALT-DGAP combined superthin flap による熱傷後瘢痕拘縮の再建。日本熱傷学会関東地方会（第22回）（東京），2014. 2.
- 76) 小川 令，赤石諭史，百束比古：術後の経過を考慮した局所皮弁におけるデザインの工夫：島状にするか皮膚茎にするか？。日本形成外科手術手技学会（第19回）（名古屋），2014. 2.
- 77) 石井暢明¹⁾，秋元正宇¹⁾，大木更一郎²⁾，江浦重義²⁾，百束比古²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科，²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科）：穿通枝茎プロペラ皮弁に稀に生じる静脈還流障害と解決策。日本形成外科手術手技学会（第19回）（名古屋），2014. 2.
- 78) 芹澤直隆，梅澤裕己，櫻井 透，百束比古：カギ型広頸筋皮弁を用いて解除した頸部瘢痕拘縮の1例。関東形成外科学会・東京地方会（第277回）（東京），2014. 3.
- 79) Sugimoto A, Nagashima Y, Koike S, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R : Nd : YAG Laser Treatment of Keloids and Hypertrophic Scars. Conference on Laser Surgery and Medicine 2013 (Yokohama), 2013. 4.
- 80) Sugimoto A, Akaishi S, Koike S, Hyakusoku H, Ogawa R : Non-Contact Mode Nd : YAG Laser (Genesis®) Treatment for Keloids and Hypertrophic Scars. Conference on Laser Surgery and Medicine 2013 (Yokohama), 2013. 4.
- 81) Koyama T^{1, 2)}，Ogawa R³⁾，Kobayashi K^{1, 2)}，Hama T⁴⁾，Hyakusoku H³⁾（¹⁾ Josai Clinic, Tokyo, ²⁾ NPO Future Medical Laboratory, Tokyo, ³⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ⁴⁾ ANGFA Co., Ltd., Tokyo）：Effect of Stretching Force on Human Hair Dermal Papilla Cells : Possibility of Manipulating Mechanobiology to Induce Hair Regeneration. The World Congress for Hair Research (7th) (Edinburgh), 2013. 5.
- 82) Mitbauerova A¹⁾，Capek L¹⁾，Ogawa R²⁾（¹⁾ Department of Applied Mechanics, Technical University of Liberec, ²⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School）：A Method of Scar Evaluation Using Non-Contact 3D Scanner. Congres de la Societe de Biomecanique Marseille (38th) (Marseille-Luminy), 2013. 9.
- 83) 杉本貴子，小川 令，飯村剛史，有馬樹里，大木更一郎，百束比古：皮膚側と粘膜側の2重V-Y皮弁による口唇皮膚悪性腫瘍再建。日本皮膚外科学会（第28回）（淡路），2013. 7.
- 84) 杉本貴子，小川 令，松本典子，百束比古：腋窩の慢性膿皮症や瘢痕拘縮に対する局所皮弁の有効性の検討。日

- 本皮膚外科学会（第28回）（淡路），2013. 7.
- 85) 奥田貴久，早川秀幸¹⁾，塩谷清司²⁾，菊池和徳³⁾，小林智哉⁴⁾，大野曜吉⁵⁾（¹⁾ 筑波剖検センター，²⁾ 筑波メディカルセンター病院放射線科，³⁾ 筑波メディカルセンター病院病理部，⁴⁾ 筑波メディカルセンター病院放射線技術部，⁵⁾ 日本医科大学法医学）：急性大動脈解離後の心配蘇生術に伴う心嚢破裂の2例. 日本法医学会学術全国集会（第97次）（札幌），2013. 6.
- 86) 外菌 優，江浦重義，赤石論史，青木宏信，百東比古：左腕神経叢より発生した神経鞘腫の1例. 関東形成外科学会・東京地方会（第275回）（東京），2013. 9.
- 87) Watanabe M, Azuma H, Hyakusoku H, Ogawa R : The Effect of Shockwave Therapy in Striae Distensae. The ISMST Basic Research Meeting (3rd) (Frankfurt), 2014. 1.
- 88) Matsumoto N, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R : Algorithm of Treating Ear Keloids. Meddle East Wounds and Scar Meeting (Dubai), 2014. 3.
- 89) Noishiki C, Akaishi S, Dohi T, Aoki M, Hyakusoku H, Ogawa R : Importance of Flap Surgery for Keloid Reconstruction. Meddle East Wounds and Scar Meeting (Dubai), 2014. 3.
- 90) Watanabe M, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R : Surgery and Radiation Adjuvant Therapy for Keloids. Meddle East Wounds and Scar Meeting (Dubai), 2014. 3.
- 91) 小川 令^{1, 2)}，赤石論史^{1, 2)}，佐野仁美²⁾，秋元正宇³⁾，百東比古¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科，²⁾ 日本医科大学メカノバイオロジー・メカノセラピー研究室，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科）：メカノバイオロジーを考慮した形成外科手術. 再生再建外科研究会（第2回）（東京），2014. 2.
- 92) 飯村剛史¹⁾，小川 令¹⁾，福嶋善光²⁾，汲田伸一郎²⁾，百東比古¹⁾（¹⁾ 日本医科大学形成外科，²⁾ 日本医科大学放射線科）：Lymphoscintigraphy および SPECT-CT によるリンパ浮腫の客観的評価. 再生再建外科研究会（第2回）（東京），2014. 2.
- (10) インターナショナルパネル：
1) 野本俊一，奈良慎平，田嶋繭子，杉本貴子，芹澤直隆，百東比古：乳房固定術・縮小術における新しい皮切デザイン. 日本美容外科学会総会（第36回）（東京），2013. 10.
- (11) ジョイントシンポジウム：
1) 小川 令，黄 晨立，赤石論史，佐野仁美，百東比古：創傷治癒のメカニズムにおける物理的刺激の最新知見. 日本創傷治癒学会（第43回）（大分），2013. 11.
- (12) スキルアップセッション：
1) 小野真平：見せる論文から，魅せる論文へ Keynoteによるメディカルイラストレーション作成法. 日本形成外科学会基礎学術集会（第22回）（新潟），2013. 11.
- (13) ビデオシンポジウム：
1) 小川 令¹⁾，小野真平¹⁾，梅澤裕己¹⁾，Orgill D²⁾，百東比古¹⁾（¹⁾ 日本医科大学形成外科，²⁾ 米国ハーバード大学プリガムウィメンズ病院形成外科）：剥脱性損傷の治療戦略. 日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会（盛岡），2013. 9.
- (14) フィラー注入治療安全教育講習会：
1) 百東比古：フィラー注入後の合併症について. 平成25年度日本美容医療共済会総会（東京），2013. 5.
- (15) ミニシンポジウム：
1) 石井暢明，小野真平，小川 令，百東比古：脂肪注入による乳房増大術に関する私見—多数の後遺症患者を診察して. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
2) 百東比古¹⁾，小野真平^{1, 2)}，江浦重義¹⁾，大木更一郎¹⁾，小川 令¹⁾，石井暢明¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科，²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：穿通枝皮弁の新展開. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.

- 3) 土佐眞美子¹⁾, 山本 彰²⁾, 市川太郎²⁾, 村上正洋¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科) : 耳垂ケロイドに対する術後電子線治療の5年間フォローアップによる長期治療成績. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第56回) (東京), 2013. 4.
- 4) 小川 令¹⁾, 赤石論史¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 杉本貴子¹⁾, 栗林茂彦²⁾, 宮下次廣²⁾, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学病院形成外科・美容外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院放射線治療科) : 耳垂ケロイド・肥厚性瘢痕に対する手術および術後放射線治療の長期成績: 156症例193部位の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第56回) (東京), 2013. 4.
- (16) 学位取得記念講演 :
 - 1) 伊吾田慎一^{1,2)}, 土佐眞美子^{1,3)}, 村上正洋³⁾, 枝川聖子¹⁾, 清水 一¹⁾, 百東比古⁴⁾, ガジザデモハマッド¹⁾ (1) 日本医科大学老人病研究所病理部門, ²⁾ 東戸塚記念病院形成外科, ³⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ⁴⁾ 付属病院形成外科・美容外科) : Identification and Characterization of Wnt Signaling Pathway in Keloid Pathogenesis. 谷根千形成懇話会 (第12回) (東京), 2013. 8.
- (17) 研究奨励賞講演 :
 - 1) 青木雅代¹⁾, 三宅弘一²⁾, 小川 令¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 赤石論史¹⁾, 百東比古¹⁾, 島田 隆²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院遺伝診療科) : ケロイドにおける TIMP-1 および -2 siRNA の治療効果 - in vitro と ex vivo での検討. 日本創傷治療学会 (第43回) (大分), 2013. 11.
- (18) 主題ポスター :
 - 1) 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 力の可視化による創傷発生メカニズムの解明~DTIの発生と深部にはたらく力. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第5回) (京都), 2013. 7.
- (19) 主題演題 :
 - 1) 高見佳宏¹⁾, 小野真平²⁾, 百東比古²⁾ (1) 東京労災病院, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科) : 無細胞真皮マトリックスによる腱再生: 脂肪組織由来幹細胞とコラーゲン架橋による影響について. 日本創傷治療学会 (第43回) (大分), 2013. 11.
- (20) 展示 :
 - 1) 村上正洋¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百東比古³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ³⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 紡錘形皮膚欠損縫縮時に生じるドッグイヤーと剥離範囲の関係: 有限要素法による解析から. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第22回) (新潟), 2013. 11.
- (21) 留学者講演 :
 - 1) 赤石論史, 小川 令, 百東比古: 留学と瘢痕と私. 谷根千形成懇話会 (第12回) (東京), 2013. 8.

著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) Ogawa R, Hyakusoku H : [分担] Useful Tips for Skin Grafts, Chapter 6. Skin Grafts (Gore M), 2013 : InTech - Open Access Publisher.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H : Effectiveness of Super-thin Flaps in Burn Reconstructive Surgery. The International Confederation for Plastic Reconstructive & Aesthetic Surgery (17th) (Santiago), 2013. 2.
- 2) Ogawa R, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H : Surgery and Radiation Adjuvant Therapy for Keloids. The

- International Confederation for Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery (17th) (Santiago), 2013. 2.
- 3) Noishiki C, Akaishi S, Dohi T, Aoki M, Hyakusoku H, Ogawa R : Flap Surgery for Keloid Reconstruction. The International Confederation for Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery (17th) (Santiago), 2013. 2.
- 4) Matsumoto N, Akaishi S, Dohi T, Arima J, Hyakusoku H, Ogawa R : Strategy for Treating Ear Keloids. The International Confederation for Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery (17th) (Santiago), 2013. 2.
- 5) Ogawa R, Arima J, Ishii N, Ono S, Hyakusoku H : External Wire Frame Methods for Skin Grafting. The International Confederation for Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery (17th) (Santiago), 2013. 2.
- 6) 佐野仁美¹⁾, Orbay H¹⁾, 寺師浩人²⁾, 百東比古¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 形成外科, ²⁾ 神戸大学 形成外科) : 脱細胞化ヒト脂肪組織マトリックスの開発. 日本再生医療学会 (第12回) (横浜), 2013. 3.
- 7) 小川 令¹⁾, 小山太郎²⁾, 小林一広²⁾, 波間隆則³⁾, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学形成外科, ²⁾ 医療法人社団ウェルエイジング城西クリニック, ³⁾ アンファー株式会社開発部) : 伸展刺激が毛乳頭細胞に与える影響の解析 : 毛髪再生医療におけるメカノバイオロジーの可能性. 日本再生医療学会 (第12回) (横浜), 2013. 3.

[武蔵小杉病院形成外科]

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 土佐真美子, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科) : 帝王切開術後早期からソフトシリコンジェルシート固定による肥厚性瘢痕予防効果の検討. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2013 ; (7) : 18-20.
- 2) 伊吾田慎一^{1, 2)}, 土佐真美子, 枝川聖子²⁾, 清水 一²⁾, 村上正洋, 百東比古³⁾, ガジザデモハマッド²⁾ (¹⁾ 東戸塚記念病院形成外科, ²⁾ 老人研究所病理部門, ³⁾ 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイド形成における Wnt シグナル伝達経路の発現解析. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2013 ; (7) : 8-11.

(2) 総説 :

- 1) 村上正洋 : 眉毛下皮膚切除術. Radiosurgery 研究ジャーナル 2013 ; 11 (1) : 13-14.
- 2) 村上正洋 : 眉毛下皮膚切除術. 眼科グラフィック 2014 ; 13 (2) : 186-193.

(3) 症例報告 :

- 1) 若林奈緒¹⁾, 村上正洋, 小野真平¹⁾, 渋谷偉織²⁾, 石井暢明³⁾, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ あまみ皮膚科・形成外科, ³⁾ 千葉北総病院形成外科) : ポリアクリルアミド水ゲル注入による豊胸手術後無菌性膿瘍をきたした2例. 日本美容外科学会会報 2013 ; 35 (2) : 22-29.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 村上正洋 : 眉毛下皮膚切除術とその応用. 日本臨床眼科学会 (第67回) (横浜), 2013. 11.
- 2) 村上正洋 : 上眼瞼における眉毛下皮膚切除術. 日本臨床ラジオ波手術研究会 (横浜), 2013. 11.
- 3) 村上正洋 : 眼形成のススメ Ver.4 形成外科から見た眼科医による外眼治療. 日本臨床眼科学会 (第67回) (横浜), 2013. 11.

(2) シンポジウム :

- 1) 土佐真美子, 山本 彰¹⁾, 市川太郎¹⁾, 村上正洋 (¹⁾ 武蔵小杉病院 放射線科) : 耳垂ケロイドに対する術後電子線治療の5年間フォローアップによる長期治療成績 (耳垂ケロイドの長期治療成績). 日本形成外科学会総会・

学術集会（第56回）（東京），2013. 4.

- 2) 土佐眞美子, ガジザデモハマッド¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 村上正洋¹⁾ 老人病研究所 病理部門, ²⁾ 武蔵小杉病院 女性診療科・産科): 現在のケロイド・肥厚性瘢痕治療の課題克服に向けた取り組みとその成果について. 日本創傷外科学会総会・学術集会（第5回）（京都），2013. 7.

(3) パネルディスカッション:

- 1) 土佐眞美子, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科): 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科の肥厚性瘢痕・ケロイド治療研究誌: Where are we going?. 瘢痕・ケロイド治療研究会（第8回）（札幌），2013. 8.

(4) ワークショップ:

- 1) 土佐眞美子, ガジザデモハマッド¹⁾, 枝川聖子¹⁾, 村上正洋¹⁾ 老人病研究所 病理部門): ケロイドに対する早期診断・治療の実現に向けた新しい取り組み. 日本創傷治療学会（第43回）（別府），2013. 11.

(5) ポスター:

- 1) 桑原広輔, 岩切 致, 飯村剛史¹⁾, 大木琴美, 土佐眞美子, 百東比古¹⁾, 村上正洋¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): ガス壊疽に対する右下腿切断術後に中心静脈カテーテル穿刺部に再度ガス壊疽を発症した1例. 日本創傷外科学会総会・学術集会（第5回）（京都），2013. 7.
- 2) 藪野雄大¹⁾, 村上正洋, 秋元正宇²⁾, 岩切 致, 橋田絵里香²⁾, 香西達一²⁾, 桑原広輔, 百東比古³⁾ (¹⁾ 北村山公立病院 形成外科, ²⁾ 千葉北総病院 形成外科, ³⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 皮膚トレパンを用いた埋め込み植皮に局所陰圧閉鎖療法を併用した褥瘡治療の経験. 日本創傷外科学会総会・学術集会（第5回）（京都），2013. 7.
- 3) 清水 一¹⁾, 伊吾田慎一²⁾, 枝川聖子¹⁾, 土佐眞美子, ガジザデマハマッド¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所 病理部門, ²⁾ 東戸塚記念病院 形成外科): ケロイドにおける microRNA の発現とコラーゲン産生について. 日本皮膚外科学会総会（第26回）（滋賀），2013. 7.
- 4) 村上正洋, 庄司真美, 桑原広輔, 大木琴美, 岩切 致, 土佐眞美子: 退行性下眼瞼内反症手術における Lower eyelid retractors の利用方法. 日本医科大学医学会総会（第81回）（東京），2013. 9.
- 5) 庄司真美, 村上正洋, 桑原広輔, 大木琴美, 岩切 致, 土佐眞美子: 眼瞼下垂症を伴う皮膚弛緩症に対し眉毛下皮膚切除術と同時に小切開からのミュラー筋タッキングおよび眼瞼挙筋前転術を行った症例の検討. 日本医科大学医学会総会（第81回）（東京），2013. 9.
- 6) 石井暢明¹⁾, 長嶋有紀¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 小川 令²⁾, 百東比古²⁾, 村上正洋¹⁾ 千葉北総病院 形成外科, ²⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 皮静脈温存プロペラ皮弁による術後の皮弁うっ血の回避. 日本医科大学医学会総会（第81回）（東京），2013. 9.
- 7) 村上正洋, 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院 形成外科, ²⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 紡錘形皮膚欠損縫縮時に生じるドッグイヤーと剥離範囲の関係: 有限要素法による解析から. 日本形成外科学会基礎学術集会（第22回）（新潟），2013. 11.

(6) 一般講演:

- 1) 村上正洋, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 退行性下眼瞼内反症における術式の検討: 牽引筋縫着術と眼輪筋短縮術の組み合わせについて. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 2) 土佐眞美子, 渡邊 淳¹⁾, 村上正洋, ガジザデモハマッド²⁾ (¹⁾ 付属病院 ゲノム最端医療部, ²⁾ 老人病研究所 病理部門): ケロイド患者における IL-6 関連遺伝子多型パターンと臨床像との関連について. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.
- 3) 桑原広輔, 村上正洋, 岩切 致, 土佐眞美子, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 極めて稀な耳垂型先天性耳瘻孔の治療経験と, その発生的および解剖学的検討. 日本形成外科学会総会・学術集会（第56回）（東京），2013. 4.

- 4) 岩切 致, 庄司真美, 大木琴美, 土佐眞美子, 藪野雄大, 桑原広輔, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : 手術用手袋を用いた簡単なタイオーバー法. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第56回) (東京), 2013. 4.
 - 5) 大木琴美, 天海恵子¹⁾, 村上正洋, 百束比古²⁾ (1) 博慈会記念総合病院 形成外科, 2) 付属病院 形成外科・美容外科) : 下肢壊死性筋膜炎5症例の経験～市中病院における形成外科の役割について～. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第56回) (東京), 2013. 4.
 - 6) 石井暢明¹⁾, 江浦重義¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : プロペラ皮弁法による熱傷潰瘍・瘢痕拘縮再建の検討. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第39回) (沖縄), 2013. 6.
 - 7) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋, 枝川聖子¹⁾, ガジザデモハammad¹⁾ (1) 老人研究所 病理部門) : 多発ケロイド患者におけるヘルパー T細胞分布の検討. 日本サイトメトリー学会学術集会 (第23回) (東京), 2013. 6.
 - 8) 村上正洋, 秋元正宇¹⁾ (1) 千葉北総病院 形成外科) : 有限要素法による解析結果からみた眼輪筋短縮術. 日本眼形成外科学会 (第1回) (名古屋), 2013. 12.
 - 9) 永迫さゆり¹⁾, 村上正洋, 野村好美¹⁾, 西山絵美¹⁾, 若城由美子²⁾ (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院薬剤科) : 院内褥瘡発生における発生部位と深さの重み付け～褥瘡治療期間に注目して～. 日本褥瘡学会学術集会 (第15回) (神戸), 2013. 7.
 - 10) 舩谷寛子¹⁾, 土佐眞美子 (1) 武蔵小杉病院 看護部) : 帝王切開手術後の早期瘢痕ケアの管理の実際. 日本母性衛生学会総会 (第54回) (大宮), 2013. 10.
 - 11) Mohammad G¹⁾, Igota S²⁾, Egawa S¹⁾, Tosa M (1) Department of Molecular pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Higashi Totsuka Memorial Hospital) : Wnt5a/beta-catenin signaling pathway as a new molecular target for developing therapeutic strategies for keloid. International Conference on Functional and Comparative Genomics & Pharmacogenomics (Chicago), 2013. 11.
 - 12) ガジザデモハammad¹⁾, 土佐眞美子, 渡邊 淳²⁾ (1) 老人研究所 病理研究所, 2) 付属病院 ゲノム最端医療部) : A polymorphism in the IL-6 promoter region associated with keloid in the Japanese population. 日本創傷治療学会 (第43回) (別府), 2013. 11.
- (7) 一般演題 :
- 1) 土佐眞美子, 伊吾田慎一¹⁾, 村上正洋, 枝川聖子²⁾, モハammadガジザデ²⁾ (1) 東戸塚記念病院 形成外科, 2) 老人病研究所 病理部門) : ケロイドにおける古典的 Wnt/beta-Catenin 経路の機能解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第22回) (新潟), 2013. 11.

[千葉北総病院形成外科]

研究概要

コンピュータ・シミュレーションによる臨床上的さまざまな現象の解明をテーマに研究をおこなっている。ケロイドの進展機序に関するコンピューターシミュレーションの研究、頭蓋顔面外科領域とくに脳神経外科との境界領域における頭蓋再建術の研究に成果があった。皮膚手術シミュレーションの研究は、様々な皮膚形成術をモデル化し、手術シミュレーションを行うものである。皮膚形成術により発生する皮膚の進展、圧縮変形、応力、ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明した。本年は教室の橋田がZ形成術についての解析結果を学位論文にまとめた。皮弁形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった。これを客観的に示し誰にでもできるようにするために皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価した。褥瘡発生機序の研究は褥瘡モデルを作成し様々な力学的条件からその発生機序を解明するものである。これらの結果から褥瘡発生予防効果の高いシートの形状を考察した。本年は結果の一

部を日本創傷外科学会に発表し会長賞に顕彰された。今後褥瘡発生予防のための新しい器具の開発、褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発等が期待できる。ケロイドの進展機序に関する研究はケロイドをモデル化し応力集中の状況からその進展機序を解明しようとするものである。従来のモデルでは説明のできなかつた様々ケロイドの特性について構造的に解析した。さらにケロイドの進展予防のためのシリコンシートの作用機序について解明を試みた。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 秋元正宇, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：先天性耳垂裂の治療. 形成外科 2013；56：617-624.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Akimoto M：Computational model of skin flap. Human Skin Engineering and Reconstructive Surgery (Prague), 2013. 5.

(2) シンポジウム：

- 1) 秋元正宇：母斑の手術. 日本小児皮膚科学会 (第37回), 2013. 7.

(3) 一般講演：

- 1) 秋元正宇, 菅原康志¹⁾ (1) 自治医科大学 形成外科)：二大唇裂デザインの力学的特徴：有限要素法によるシミュレーションから. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第56回), 2013. 4.
- 2) 秋元正宇, 香西達一, 橋田絵里香, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：Propeller flap と square flap の瘻痕分断効果のシミュレーションによる検証. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第56回), 2013. 4.
- 3) 秋元正宇：演題：力の可視化による創傷発生メカニズム, DTI の発生と深部にはたらく力の解明. 日本創傷外科学会学術集会 (第5回), 2013. 7.
- 4) 渋谷偉織, 秋元正宇, 太組一郎¹⁾, 香西達一, 百東比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院 脳神経外科, 2) 付属病院 形成外科・美容外科)：内視鏡下に前頭部小切開とCCPにより治療を行った前頭骨陥没骨折の治療経験. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第31回), 2013. 10.
- 5) 香西達一, 秋元正宇, 橋田絵里香, 藪野雄大, 大村朋子¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 千葉北総病院 脳神経外科, 2) 付属病院 形成外科・美容外科)：眉毛外側から頭蓋骨内までに及ぶ類皮嚢腫の1例. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第31回), 2013. 10.
- 6) 秋元正宇, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：Z形成術の三角弁が自然に入れ替わる条件と延長率とは ～有限要素法によるシミュレーションから. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第22回), 2013. 11.
- 7) 秋元正宇, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：Z形成術の延長効果のシミュレーション. 日本シミュレーション外科学会 (第23回), 2013. 11.
- 8) 黒田周一¹⁾, 秋元正宇, 百東比古²⁾ (1) 大浜第一病院 形成外科, 2) 付属病院 形成外科・美容外科)：フリーソフトウェアによる褥瘡の有限要素解析. 日本シミュレーション外科学会 (第23回), 2013. 11.
- 9) 橋田絵里香, 秋元正宇, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：皮膚悪性腫瘍切除における局所皮弁による再建のシミュレーション：第2報. 日本シミュレーション外科学会 (第22回), 2013. 11.
- 10) 橋田絵里香, 秋元正宇, 森田 孝¹⁾, 二宮里沙¹⁾, 香西達一, 藪野雄大, 石井暢明, 長嶋有紀, 百東比古²⁾ (1) 千葉北総病院 皮膚科, 2) 付属病院 形成外科・美容外科)：皮膚悪性腫瘍切除における局所皮弁による再建のシミュレーション：第2報. 皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第29回), 2013. 11.
- 11) 藪野雄大, 橋田絵里香, 森田 孝¹⁾, 二宮里沙¹⁾, 香西達一, 石井暢明, 長嶋有紀, 秋元正宇, 百東比古²⁾ (1) 千

- 葉北総病院 皮膚科, ²⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 超高齢者および認知症の顔面皮膚悪性腫瘍患者における手術治療の検討とその課題. 皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 29 回), 2013. 11.
- 12) 石井暢明, 長嶋有紀, 秋元正宇, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾, 村上正洋²⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科, ²⁾ 武蔵小杉病院 形成外科): 皮静脈温存プロペラ皮弁による術後の皮弁うっ血の回避. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回), 2013. 9.
- 13) 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 仙骨部軟組織にはたらく応力の有限要素解析と褥瘡発生要因に関する考察. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回), 2013. 9.
- 14) 佐野仁美¹⁾, 小川 令¹⁾, 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 爪形態における物理的刺激の影響の解析: コンピュータ・シミュレーションを含めて. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 22 回), 2013. 11.
- 15) 村上正洋¹⁾, 秋元正宇, 百束比古²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院 形成外科, ²⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 紡錘形皮膚欠損縫縮時に生じるドッグイヤーと剥離範囲の関係: 有限要素法による解析から. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 22 回), 2013. 11.
- 16) 村上正洋¹⁾, 秋元正宇 (¹⁾ 武蔵小杉病院 形成外科): 有限要素法による解析結果からみた眼輪筋短縮術. 日本眼形成外科学会 (第 1 回), 2013. 12.
- 17) 長嶋有紀, 藪野雄大, 香西達一, 石井暢明, 橋田絵里香, 秋元正宇: 内視鏡下 CPP 注入により治療を行った前頭骨陥没骨折の治療経験. 谷根千形成外科懇話会 (第 12 回), 2013. 8.
- 18) 藪野雄大, 村上正洋¹⁾, 秋元正宇, 岩切 致¹⁾, 橋田絵里香, 香西達一, 桑原広輔¹⁾, 百束比古²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院 形成外科, ²⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 皮膚トレパンを用いた埋め込み植皮に局所陰圧閉鎖療法を併用した褥瘡治療の経験. 日本創傷外科学会学術集会 (第 5 回), 2013. 7.
- 19) 藪野雄大, 秋元正宇, 橋田絵里香, 香西達一, 江浦重義¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科): 手指熱傷に対する植皮片のタイオーバー固定にポリウレタンフォームを用いた工夫. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 39 回) (日本熱傷学会 (第 39 回)), 2013. 6.

論 文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Kitta E, Akimoto M: Biomechanics and Computer Simulation of the Z-Plasty. J Nippon Med Sch 2013; 80 (3) 2013; 80 (3): 218-223.

27. 付属病院付置施設等

[付属病院遺伝診療科]

研究概要

新しい時代の遺伝子医学に対応するため、遺伝子医療部門が大学病院を中心に全国的に立ち上がり、日本医科大学付属病院では平成15年5月から独立した遺伝診療科として遺伝診療・遺伝カウンセリング外来診療を行っている。対象疾患は先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症など多彩な分野にわたり、年々来談者数は増加し新患数は平成26年3月までのべ約750件となった。遺伝診療外来は臨床遺伝専門医、看護師、認定遺伝カウンセラーによるチームで担当している。個々の症例の診療方針や倫理的問題点は、外来担当者以外に基礎医学研究者、臨床医、臨床心理士などの各職種が参加する月1回定例の遺伝診療カンファレンスで検討している。遺伝子検査はハイテクリサーチセンターと共同で低ホスファターゼ症、血管型エーラスダンロス症候群などについて遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。高度の倫理的な検討が必要な出生前遺伝子診断、発症前診断は倫理委員会との連携をとり施行した。新たに、「無侵襲的出生前遺伝学的検査である母体血中 cell free DNA 胎児染色体検査 (NIPT) の遺伝カウンセリングに関する研究」に関する臨床研究実施施設として日本医学会の認定および登録を受け、平成25年10月より開始した。さらに、臨床遺伝教育に関しては、卒前（臨床遺伝コース）、卒後（臨床遺伝専門医制度認定施設）に力を入れ、学外からも高い評価を受けている。今後も我が国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医科大学を代表する診療科として発展させていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Watanabe A¹⁾, Satoh S²⁾, Fujita A¹⁾, Naing B¹⁾, Orimo H¹⁾, Shimada T¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 青森県立中央病院, 3.): Perinatal hypophosphatasia caused by uniparental isodisomy. Bone 2014; 60: 93-97.
- 2) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学): Ehlers-Danlos 症候群. 小児科臨牀 2013; 66 (増刊): 1363-1367.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部): 「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」の改正と留意点について. 平成25年度 臨床研究講習会 (日本医科大学) (東京), 2013. 7.
- 2) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部): 『ゲノム医療の現場では』 遺伝子の情報はどのように私たちのからだにかかわっているか. 文京アカデミア (東京), 2013. 12.
- 3) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部): 『DNA と私たちのからだ・病気』 遺伝子の情報はどのように私たちのからだにかかわっているか. 第8回「私たちのDNA」(東京), 2013. 9.
- 4) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部): ゲノム医療の現場では. 東京都高等学校生物研究会 (東京), 2013. 7.
- 5) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部): ファーマコゲノミクス

(PGx) 情報 (検査) を扱う時のキーポイント. 第 4 回遺伝カウンセリング研修会 (京都), 2013. 7.

(2) シンポジウム :

- 1) 渡邊 淳^{1, 2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : がんを対象にしたエクソーム解析の実用化と倫理的課題. 日本遺伝子診療学会 : 遺伝子診断・検査技術推進フォーラム公開シンポジウム 2013 (東京), 2013. 12.
- 2) 渡邊 淳^{1, 2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : 日本医科大学におけるオーダーメイド医療 研究成果を臨床現場へ. 日本医科大学 オーダーメイド医療 講演会 (東京), 2013. 5.
- 3) 渡邊 淳^{1, 2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : 「人々の暮らしを支えるケア」臨床遺伝専門医の立場から. 日本遺伝看護学会 第 13 回学術大会 (盛岡), 2013. 10.
- 4) 渡邊 淳¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : Ehlers-Danlos 症候群. 第 37 回日本小児皮膚科学会学術集会 (東京), 2013. 7.

(3) 一般講演 :

- 1) Naing B¹⁾, 藤田京志^{1, 2)}, 畠山未来, 松本健一³⁾, 島田 隆¹⁾, 渡邊 淳¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 横浜市立大学, ³⁾ 島根大学) : テネイシン X 欠損症 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例. 第 58 回日本人類遺伝学会学術集会 (仙台), 2013. 11.
- 2) 佐々木元子^{1, 2)}, 伊藤昌晴¹⁾, 矢内雅巨¹⁾, 滝澤公子²⁾, 室伏きみ子²⁾, 櫻井晃洋³⁾, 島田 隆⁴⁾, 渡邊 淳⁴⁾ (1) 田園調布学園, ²⁾ お茶の水女子大学 大学院, ³⁾ 札幌医科大学医学部 遺伝医学, ⁴⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : 新学習指導要領における中学校・高等学校の生物での遺伝教育変更と対応について : 1 事例を通して. 第 58 回日本人類遺伝学会学術集会 (仙台), 2013. 11.

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : 染色体異常症. 小児科学レクチャー 3 2013 ; 3 (2) : 519-523.

[付属病院心臓血管集中治療科]

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Kitamura M, Hata N, Takayama T, Hirayama T, Ogawa M, Yamashina A, Mera H, Yoshino H, Nakamura F, Seino Y (1) Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, Japan) : High-sensitivity cardiac troponin T for earlier diagnosis of acute myocardial infarction in patients with initially negative troponin T test-Comparison between cardiac markers. J Cardiol 2013 ; 62 (6) : 336-342.
- 2) Kitamura M, Kubota Y, Takano H, Takayama M (1) Department of Cardiology) : Alcohol septal ablation with septal myocardial isolation using the double-balloon method for refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy. Eur Heart J 2014 ; 35 (4) : 241-241.
- 3) Nei T, Fujisawa Y, Izumi Y, Tetsuka A, Arita Y, Murata H, Sawai K, Kitamura M, Miyachi H, Hosokawa Y, Akutsu K, Yamamoto T, Tanaka K, Shinoyama A (1) Division of Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital, Nippon Medical School) : Miliary tuberculosis with indeterminate

- interferon gamma release assay results. *Intern Med* 2013 ; 52 (22) : 2583-2585.
- 4) Fukuizumi A, Akutsu K, Tokita Y, Yamamoto T, Shimizu W, Mizuno K, Tanaka K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School) : Successful Surgical Thrombectomy for Floating Right Heart Thrombi in a Patient with Acute Type A Aortic Dissection Complicated with Pulmonary Embolism. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2014 ; [Epub ahead of print] ([Epub ahead of print]) : [Epub ahead of print] - [Epub ahead of print].
 - 5) Yamamoto T, Nakamura M, Kuroiwa M, Tanaka K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, ⁽²⁾ Department of Clinical Cardiovascular Research, Mie University of Graduate School of Medicine, ⁽³⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Kitasato University, School of Medicine) : Current prevention practice for venous thromboembolism in Japanese intensive care units. *J Anesth* 2013 ; 27 (6) : 931-934.
 - 6) Hosokawa Y, Yamamoto T, Kato K, Hayashi H, Ogawa S, Tanaka K, Mizuno K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Reversible stenosis of the saphenous vein graft compressed by giant coronary aneurysm in Kawasaki disease. *Journal of the American College of Cardiology* 2013 ; 62 (2) : e3.
 - 7) Ikeda T, Saito T, Takagi G, Sato S, Takano H, Hosokawa Y, Hayashi M, Asai K, Yasutake M, Mizuno K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Acute myocarditis associated with coxsackievirus B4 mimicking influenza myocarditis : electron microscopy detection of causal virus of myocarditis. *Circulation* 2013 ; 128 (25) : 2811-2812.
 - 8) 細川雄亮, 山本 剛, 立花栄三, 長尾 健, 高山守正 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ⁽²⁾ 東京都CCUネットワーク学術委員会「ショック・心停止」班) : 急性非代償性心不全による心原性ショックの特徴と短期予後の検討. *ICUとCCU* 2013 ; 37 : S66.
 - 9) 細川雄亮, 山本 剛, 池田 健, 川中秀和, 有田淑恵, 村田広茂, 北村光信, 宮地秀樹, 坏 宏一, 田中啓治, 水野杏一 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 椎弓形成術後に急性心筋梗塞を発症し治療方針の決定に苦慮した1例. *ICUとCCU* 2013 ; 37 : S125-S128.
 - 10) Ohashi R, Hosokawa Y, Kimura G, Kondo Y ⁽¹⁾ Department of Intensive and Cardioac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Acute renal failure as the presenting sign of disseminated intravascular coagulation in a patient with metastatic prostate cancer. *International Journal of Nephrology and Renovascular Disease* 2013 ; 6 : 47-51.
 - 11) Miyachi H, Yamamoto A, Otsuka T, Yoshikawa M, Kodani E, Endoh Y, Nakagomi A, Kusama . Y, Atarashi H H, Mizuno K ⁽¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital.) : Relationship between left ventricular dyssynchrony and systolic dysfunction is independent of impaired left ventricular myocardial perfusion in heart failure. *Intational Journal of Cardiology* 2013 ; 167 (3) : 930-935.
 - 12) 澤井啓介, 宮地秀樹, 野間さつき, 有田淑恵, 青景聡之, 鈴木浩臣, 洪井俊之, 細川雄亮, 坏 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 高野仁司, 小原俊彦 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 巨大右房内血栓を伴う亜広範性肺塞栓症に対して血栓溶解療法を選択し, 経時的な病態把握により救命された1例. *心臓* 2013 ; 44 (7) : 937-938.
 - 13) Miyachi H, Tanaka K, Mizuno K ⁽¹⁾ Intensive anc Cardiovascular care unit, Nippon Medical school hospital) : A rare case of left anterior chest bleeding in a female with Takayasu disease. *Ann Thorac Surg* 2013 ; 95 (3) : 1098.
 - 14) Miyachi H, Tanaka K, Mizuno K ⁽¹⁾ Intensive anc Cardiovascular care unit, Nippon Medical school hospital) : Catheter-induced Bilateral Coronary Ostium Dissection in a Patient with Long-term Steroid Therapy. *Journal of Invasie cardiology* 2013 ; 24 (11) : E305-E307.

15) 小林克也, 竹田晋浩 (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科) : 重症呼吸不全に対する ECMO 療法 : インフルエンザ ARDS を中心に. 麻酔 2013 ; 62 (5) : 557-562.

(2) 総説 :

- 1) 坏 宏一 (1) 心臓血管集中治療科) : 大動脈解離の病因 : 遺伝子変異も含めて ; 急性大動脈解離の最新の動向 : 病因, 診断, 治療. 心臓 2013 ; 45 (9) : 1079-1084.
- 2) 宮地秀樹, 田中啓治 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室) : 最近の知見に基づいたたこつば心筋症重症例の治療. ICU と CCU 2013 ; 37 (7) : 531-536.
- 3) Yamamoto T, Takeda S (1) Intensive and Cardic Care Unit) : Noninvasive ventilation in patients with acute cardiogenic pulmonary edema with acute coronary syndrome : is the debate still? : reply. Circ J 2013 ; 77 (7) : 1920-1920.
- 4) 山本 剛 (1) 心臓血管集中治療科) : ICU での静脈血栓塞栓症の予防. LiSA 2013 ; 20 (6) : 560-563.
- 5) 山本 剛, 時田祐吉, 野間さつき, 中澤 賢, 村田 智, 高野仁司, 水野杏一, 吾妻安良太, 田中啓治 (1) 集中治療室, 2) 循環器内科, 3) 放射線科, 4) 呼吸器内科) : 発症 3 ヶ月後に肺空洞病変を形成した肺塞栓症の 1 例. 心臓 2013 ; 45 (7) : 907-907.
- 6) 山本 剛, 村田 智, 田島廣之, 田中啓治 (1) 集中治療室, 2) 放射線科) : 急性肺塞栓症に対するカテーテル治療の現況. 心臓 2013 ; 45 (7) : 919-920.
- 7) 山本 剛 (1) 心臓血管集中治療科) : 非典型例の心筋梗塞を鑑別診断するにはそれなりに経過観察が必要であり, ペーパーバッグ法と心筋梗塞発症との間には因果関係は無い. 医療判例解説 2013 ; 46 (10) : 116-118.
- 8) 山本 剛, 古山景子 (1) 心臓血管集中治療科, 2) 看護部) : 虚血性心疾患患者 : CCU における治療から回復期までのアプローチ. 看護実践の科学 2014 ; 39 (1) : 42-45.
- 9) 山本 剛, 吉田伸子, 高山守正 (1) 心臓血管集中治療科, 2) 東京都 CCU ネットワーク事務局) : 東京都 CCU ネットワーク活動状況報告 2011. ICU と CCU 2013 ; 37 : S7-S9.
- 10) 竹田晋浩 : 呼吸不全の体外式膜型人工肺 (ECMO) 治療. 日本医事新報 2013 ; (4629) : 50-51.

著 書

- 1) 坏 宏一 (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科) : [分担] 救急・集中治療分野/周術期深部静脈血栓. 肺血栓塞栓症 (瀬尾憲正, 古家仁 編集), 2013 ; pp184-193, 克誠堂出版.
- 2) 坏 宏一 (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科) : [分担] 胸部大動脈瘤 (病因・病態生理). 別冊新しい診断と治療の ABC42 「大動脈瘤・大動脈解離 改定第 2 版」(鈴木亨, 永井良三 編集), 2013 ; pp51-57, 最新医学社.
- 3) 小林克也 (1) 日本医科大学心臓血管集中治療科) : [分担] 広がる ECMO 治療しくみと管理. 呼吸器ケア (竹田晋浩), 2013 ; pp81-87, メディカ出版.
- 4) 小林克也 (1) 日本医科大学心臓血管集中治療科) : [分担] ECMO 中の患者管理. 呼吸 ECMO マニュアル (監修 氏家良人 編集 市場晋吾・竹田晋浩), 2014 ; pp81-94, 克誠堂出版.
- 5) 山本 剛, 水野杏一 (1) 日本医科大学) : [分担] ショック. 内科学書改訂第 8 版 (小川 聡), 2013 ; pp88-90, 中山書店.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 山本 剛 (1) 心臓血管集中治療科) : 急性心筋梗塞の新定義 : 心筋トロポニンがもたらすインパクト. 第 33 回心筋梗塞研究会 (東京), 2013. 7.
- 2) 山本 剛 (1) 第 41 回日本集中治療医学会学術集会) : ICU ベッドサイドでのエコー検査の見方. 第 41 回日本集

中治療医学会学術集会（京都），2014. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) Akutsu K, Tanaka K, Koyama N, Tobaru T, Yoshino H, Nagao K, Yamamoto T, Takayama M ⁽¹⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, ⁽²⁾ ICU and CCU, Nippon Medical School Hospital) : The Outcome of Aortic Disease was Associated with Time between “Arrival Time to Patients” and “Arrival Time to Hospital”. 第78回日本循環器学会総会，2014. 3.
- 2) 小林克也 ⁽¹⁾ 日本医科大学心臓血管集中治療科) : 重症呼吸不全に対する ECMO システムをどう構築するか. 第41回日本集中治療医学会学術集会，2014. 3.
- 3) 竹田晋浩 : 術後再挿管を予測・予防できるか？. 第60回日本麻酔科学会学術集会（札幌），2013. 5.
- 4) 竹田晋浩 : ARDS の病態解明と治療戦略. 第60回日本麻酔科学会学術集会（札幌），2013. 5.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 村田広茂，宮内靖史，清水 渉 ⁽¹⁾ 日本医科大学 循環器内科) : 内科・外科の協力による今後の肥大型心筋症への積極的治療は？. 東京 HOCM フォーラム 2013（東京），2013. 10.

(4) 一般講演：

- 1) Kitamura M, Takayama M, Matsuda J, Komiyama H, Kubota Y, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W ⁽¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Feasibility of Alcohol Septal Ablation Using Nitroglycerin Tests for Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy with Labile Gradient. American Heart Association Scientific Session 2013 (Dallas, USA), 2013. 11.
- 2) Kitamura M, Takayama M, Matsuda J, Komiyama H, Kubota Y, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W ⁽¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Feasibility of Alcohol Septal Ablation Using Nitroglycerin Tests for Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy with Labile Gradient. 第78回日本循環器学会総会，2014. 3.
- 3) Murata H, Miyauchi Y, Katoh T, Ueno A, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Tanaka K, Shimizu W, Mizuno K ⁽¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ⁽²⁾ Division of Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo ; , ⁽³⁾ Division of Cardiology, Hachioji Hospital, Tokai University) : Clinical and Electrophysiological Characteristics of Electrical Storm of Monomorphic Ventricular Tachycardia Refractory to Intravenous Amiodarone. 欧州心臓病学会 (ESC) 2013 (アムステルダム), 2013. 9.
- 4) 村田広茂，宮内靖史，清水 渉 ⁽¹⁾ 日本医科大学 循環器内科) : 複雑な3次元リエントリーが推定された肥大型心筋症に伴う心室頻拍の1例. 東京 HOCM フォーラム 2013（東京），2013. 10.
- 5) 塩村玲子，坏 宏一，村田広茂，田中啓治，水野杏一 ⁽¹⁾ 日本医科大学 循環器内科・集中治療室) : 急性大動脈解離との鑑別に難渋した胸部大動脈周囲炎の1例. 第228回日本循環器学会関東甲信越地方会（東京），2013. 6.
- 6) 谷田篤史，村田広茂，細川雄亮，藤本雄飛，伊藤かな子，川中秀和，北村光信，宮地秀樹，小林克也，坏 宏一，山本 剛，竹田晋浩，田中啓治 ⁽¹⁾ 第22回日本集中治療学会関東甲信越地方会) : Electrical Storm を伴う心原性ショック，プロポフォール注入症候群に伴う横紋筋融解症，腎不全，肝不全を順次併発し長期 ECMO 管理を要した1例. 第22回日本集中治療学会関東甲信越地方会（東京），2013. 8.
- 7) 高橋健太，村田広茂，宮内靖史，細川雄亮，坏 宏一，山本 剛，田中啓治，岩崎雄樹，林 明聡，清水 渉，坂本俊一郎，新田 隆，切刀しのぶ ⁽¹⁾ 日本医科大学 集中治療室，⁽²⁾ 日本医科大学 循環器内科，⁽³⁾ 日本医科大学 心臓血管外科，⁽⁴⁾ 日本医科大学 病理部) : Electroanatomical mapping を用いた開胸下凍結凝固により，切除不能な心臓腫瘍に関連した心室頻拍を抑制しえた1例. 第230回日本循環器学会関東甲信越地方会（東京），2013. 12.

- 8) 林 洋史, 村田広茂, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 高橋健太, 植竹俊介, 坪井一平, 清水 渉, 新田 隆, 坂本俊一郎, 藤井正大, 切刀しのぶ⁽¹⁾ 日本医科大学 循環器内科,⁽²⁾ 日本医科大学 心臓血管外科,⁽³⁾ 日本医科大学付属病院 病理部) : 切除不能な心臓腫瘍に関連した心室頻拍を開胸下凍結凝固により抑制しえた Gorlin 症候群の 1 例 : 病理学的見地も踏まえて. 第 26 回臨床不整脈研究会 (東京), 2014. 1.
- 9) Murata H, Miyauchi Y, Nitta T, Takahashi K, Tsuboi I, Hayashi H, Uetake S, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Sakamoto S, Kunugi S, Tanaka K, Shimizu W⁽¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo,⁽²⁾ Division of Pathology, Nippon Medical School,⁽³⁾ Hospital, Nippon Medical School, Tokyo) : Electrophysiological and Pathological Characteristics of Monomorphic Ventricular Tachycardia associated with Primary Cardiac Tumor. 第 78 回日本循環器学会学術集会 (東京), 2014. 3.
- 10) 坏 宏一, 山本 剛, 川中秀和, 北村光信, 村田広茂, 宮地秀樹, 細川雄亮, 清水 渉, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科) : 限局した背部痛」は特異度の高い急性大動脈解離の予測マーカーである. 第 61 回日本心臓病学会学術集会, 2013. 9.
- 11) 坏 宏一, 山中博之, 片山雅彦, 佐藤直樹, 高山守正, 山本 剛, 清水 渉, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科) : 急性大動脈解離の診断における血清エラスチン値測定の意義. 第 54 回日本脈管学会総会, 2013. 10.
- 12) 坏 宏一, 池田 健, 川中秀和, 北村光信, 村田広茂, 宮地秀樹, 細川雄亮, 山本 剛, 清水 渉, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病 心臓血管集中治療科) : 手術を施行しなかった A 型解離の 3 症例. 第 41 回日本集中治療医学会学術集会, 2014. 2.
- 13) 細川雄亮, 山本 剛, 川中秀和, 北村光信, 村田広茂, 宮地秀樹, 宗像 亮, 時田祐吉, 坏 宏一, 田中啓治, 清水 渉⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 治療抵抗性の乏尿性心不全に対する持続血液濾過透析の治療成績. 第 61 回日本心臓病学会学術集会, 2013. 9.
- 14) 細川雄亮, 山本 剛, 澁谷淳介, 北村光信, 宮地秀樹, 小林克也, 坏 宏一⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 短期間に二度の回路交換を要した劇症型心筋炎の 1 例. 第 41 回日本集中治療医学会学術集会, 2014. 2.
- 15) Hosokawa Y, Yamamoto T, Kawanaka H, Kitamura M, Murata H, Miyachi K, Akutu K, Takeda S, Tanaka K, Shimizu W⁽¹⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : efficacy of continous renal replacement therapy for patients with acute decompensated heart failure. Acute Cardiovascular Care 2013 (Madrid Spain), 2013. 10.
- 16) Miyachi H, Yamamoto T, Tanida A, Ishii K, Arita Y, Aokage T, Kawanaka H, Kitamura M, Murata H, Hosokawa Y, Akutsu K, Takano H, Tanaka K, Mizuno K⁽¹⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : Therapeutic strategy for AMI with massive intracoronary thrombus : Is the adjunctive intracoronary thrombolytic therapy in primary PCI effective?. Cardiovascular intervention and therapeutics (CVIT), 2013. 7.
- 17) 宮地秀樹, 澤井啓介, 川中秀和, 北村光信, 村田広茂, 細川雄亮, 坏 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 清水 渉⁽¹⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : 繰り返すこつば様壁運動障害による左室流出路閉塞の原因を多枝冠攣縮と診断し, シベンゾリンが著効した 1 例. 第 61 回日本心臓病学会学術集会, 2013. 9.
- 18) Miyachi H, Yamamoto T, Takagi K, Tanida A, Ishii K, Arita Y, Kawanaka H, Kitamura M, Murata H, Hosokawa Y, Akutsu K, Takano H, Tanaka K, Mizuno K, Shimizu W⁽¹⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : Therapeutic strategy for AMI with massive intracoronary thrombus : Is the adjunctive intracoronary thrombolytic therapy in primary PCI effective?. Joint interventional meeting (JIM) (ローマ), 2014. 2.

- 19) 宮地秀樹, 山崎正雄, 高木 厚, 宮内克己, 吉川雅智, 佐地真育, 鈴木 誠, 山本 剛, 清水 渉, 長尾 健, 高山守正⁽¹⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : 東京都での ST 上昇型心筋梗塞における最初の救急隊への連絡から PCI までの時間の検討. 第 41 回日本集中治療医学会学術集会, 2014. 1.
- 20) 宮地秀樹, 高木 厚, 宮内克己, 山崎正雄, 田中博之, 吉川雅智, 佐地真育, 鈴木 誠, 山本 剛, 清水 渉, 長尾 健, 高山守正⁽¹⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : 東京 CCU ネットワークデータベースで見る東京都の ST 上昇型急性心筋梗塞と非 ST 上昇型急性心筋梗塞の最新の特徴と管理. 第 33 回東京 CCU 研究会, 2013. 12.
- 21) Miyachi H, Takagi A, Miyauchi K, Yamasaki M, Tanaka H, Yoshikawa M, Saji M, Suzuki M, Yamamoto T, Shimizu W, Nagao K, Takayama M⁽¹⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : The analysis of delay from first medical contact (FMC) to primary PCI for patients with ST elevation myocardial infarction in Tokyo. The 77th Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2014. 3.
- 22) Miyachi H, Takagi A, Miyauchi K, Yamasaki M, Tanaka H, Yoshikawa M, Saji M, Suzuki M, Yamamoto T, Shimizu W, Nagao K, Takayama M⁽¹⁾ Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : In-hospital outcome of myocardial infarction at hospitals with or without emergent cardiac surgery. The 77th Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2014. 3.
- 23) 山本 剛, 吉田伸子, 高山守正⁽¹⁾ 心臓血管集中治療科,⁽²⁾ 東京都 CCU ネットワーク事務局) : 東京都 CCU ネットワーク活動状況報告 2012. 第 41 回日本集中治療医学会学術集会, 2013. 12.
 - 1) 小林克也⁽¹⁾ 日本医科大学心臓血管集中治療科) : Cardiovascular Critical Care における補助循環の最近の動向. 第 22 回 CVIT, 2013. 7.
 - 2) 小林克也⁽¹⁾ 日本医科大学心臓血管集中治療科) : ワークショップ : 呼吸不全と補助循環システム. 日本医工学治療学会第 29 回学術集会, 2013. 4.

論 文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 塚 宏一⁽¹⁾ 心臓血管集中治療科) : 脈管専門医・血管診療技師・脳神経超音波検査士 認定試験対策ゼミナール. Vascular labo 2012 ; 10 (6) : 80-81.

追加分原著 :

- 1) Miyachi H, Onozawa S, Akutsu K, Shimizu W, Kumita S, Tanaka K, Murata S⁽¹⁾ Intensive and Cardiovascular care unit, Nippon Medical school hospital) : Treatment of visceral malperfusion in acute type B aortic dissection by percutaneous endovascular fenestration using a stent, with additional stenting of the true lumen. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 (5) : 340-345.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 細川雄亮, 長尾 健, 立花栄三, 山本 剛, 高山守正⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科,⁽²⁾ 東京都 CCU ネットワーク学術委員会「ショック・心停止」班) : 急性非代償性心不全による心原性ショックの特徴と予後. 第 33 回東京 CCU 研究会プログラム, 2012. 12.
- 2) 塩村玲子, 細川雄亮, 池田 健, 川中秀和, 國保成暁, 村田広茂, 北村光信, 宮地秀樹, 塚 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 清水 渉⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科) : 腹部大動脈瘤破裂による出血性ショック

に対し IABO を挿入し緊急手術を施行した 1 例. 第 33 回東京 CCU 研究会プログラム, 2012. 12.

追加分教育講演:

- 1) 竹田晋浩: ECMO の up to date. 第 40 回日本集中治療医学会学術集会 (松本), 2013. 2.

[付属病院病理部]

研究概要

現在病理部スタッフ, 病理専門医である専任病理医 3, 細胞検査士 9 名含む技師 11 名, 事務員 1 名に加え, 病理学講座と協力しながら日常診断業務 (病理組織診断, 細胞診, 剖検診断) を遂行している. 研究テーマは, 主に日常業務から見出されているが, 近年は他科と共同開催している乳腺, 甲状腺, 呼吸器, 婦人科および消化器カンファレンス等で臨床, 病理両側面からの症例検討を行うことにより得られた興味ある症例なども対象となってきた. 研究対象臓器は, 乳腺, 腎臓, 呼吸器, 脳など多岐に渡り, 各種学会において病理学講座の医師, 臨床医とが我々病理部と多の共同で発表を行っている. その他にも, 病理学会, 臨床細胞学会などで, 多くの発表と研究サポートを行った. 今後も, 継続して研究に取り組んでいきたいと考えている.

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) Tshuchiya S¹⁾, Yamaguchi R²⁾, Tsuchiya K³⁾, Ohashi R¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理部, 2) 久留米医科大学病理学教室, 3) 聖マリアンナ医科大学乳腺外科): Characteristics of the Japanese histological classification for breast cancer: correlations with imaging and cytology. Breast Cancer 2013.
- 2) 土屋真一, 山口 倫, 土屋きょう子, 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院病理部, 2) 久留米医科大学病理, 3) 聖マリアンナ医科大学乳腺外科): Characteristics of the Japanese histological classification for breast cancer: correlations with imaging and cytology. Breast cancer 2013.
- 3) 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院病理部): 移植腎: 診断に役立つ電顕所見. 腎と透析 2013; 75 (5): 651-656.
- 4) 土屋真一¹⁾, 大橋隆治¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理部): 病理診断におけるリスクマネージメント. 乳癌の臨床 2014; 29: 15-23.

(2) 症例報告:

- 1) 清家正博¹⁾, 久保田薫²⁾, 大橋隆治³⁾, 弦間昭彦¹⁾, et al. (1) 日本医科大学呼吸器内科, 2) 日本医科大学付属病院病理部, 3) 日本医科大学腫瘍内科): Metastatic mechanisms of spermatocytic cord tumor from stomach cancer. International Cancer Conference Journal 2013; 2 (4): 191-195.
- 2) 大橋隆治¹⁾, 原田 大¹⁾, 赤塚 純²⁾, 木村 剛²⁾, 土屋真一¹⁾, 近藤幸尋²⁾, et al. (1) 日本医科大学付属病院病理部, 2) 日本医科大学泌尿器科): Spermatocytic seminoma in a 92 year-old man: Report of a case in which SALL4, a potential novel marker for testicular germ cell tumors, was useful for the diagnosis. International Cancer Conference Journal 2013.
- 3) 橋本敦也¹⁾, 大橋隆治²⁾, その他 2 名 (1) 山梨医科大学小児科, 2) 日本医科大学付属病院病理部): ネフローゼ症候群を呈し, 非典型的な経過をたどった溶連菌感染後糸球体腎炎の 1 例. 日本小児腎臓学会誌 2013; 26 (2): 102-108.
- 4) 亦野文宏¹⁾, 大橋隆治²⁾, 森田明夫¹⁾, et al. (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院病理部): Microcystic Meningioma with Late-phase Accumulation on Thallium-201 single-photon emission computed tomography: Case Report. Neurologia medico-chirurgica 2013.

- 5) Hoshino A¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Suzuki H¹⁾, Minutani S¹⁾, Ishii H, Watanabe M¹⁾, Bou H¹⁾, Yoshino M¹⁾, Komine O¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : Adenocarcinoma of the minor duodenal papilla : report of a case. J.Nippon Med Sch. 2013 ; 80 (2) : 165-170.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 大橋隆治¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理部) : 逆流性腎症の病理. 第22回日本逆流性腎症フォーラム (東京), 2014. 1.

(2) 教育講演 :

- 1) 大橋隆治¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理部) : 急性腎障害を呈した慢性活動性EBウイルス感染症関連リンパ腫の1例. 第31回東京腎生検カンファレンス (東京), 2013. 7.
2) 松原美幸¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理部) : 乳腺の細胞診 : 正しい診断へ到達するために. 地域がん診療連携拠点病院講演会 (沖縄), 2013. 11.

(3) シンポジウム :

- 1) 村瀬幸宏 : 甲状腺疾患の臨床と病理 (甲状腺の細胞診). 日臨技首都圏支部 医学検査学会 (第2回) (東京), 2013. 10.

(4) 一般講演 :

- 1) 大橋隆治, 土屋眞一, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 原田 大, 赤塚 潤¹⁾, 寺崎美佳²⁾, 都築豊徳³⁾ (1) 付属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学解析人体病理, 3) 名古屋第二赤十字病院) : 超高齢発症の精母細胞性セミノーマの1例. 日本病理学会総会 (第102回) (札幌), 2013. 6.
2) 大橋隆治, 清水 章¹⁾ (1) 日本医科大学解析人体病理) : 管内増殖性糸球体腎炎様の組織像を呈した Crystal-storing histiocytosis の1例. 日本病理学会総会 (第102回) (札幌), 2013. 6.
3) 石井英昭, 土屋眞一, 大橋隆治, 山本陽一朗 : 腎原発の Primitive neuroectodermal tumor (PNET) の検討. 日本病理学会総会 (第102回) (札幌), 2013. 6.
4) 吉村久志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 土屋眞一 (1) 日本医科大学腫瘍病理) : 術前化学療法施行膀胱癌症例における病理学的変化の検討. 日本病理学会総会 (第102回) (札幌), 2013. 6.
5) 梶本雄介¹⁾, 清水 章¹⁾, 福田 悠¹⁾, 益田幸成¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学解析人体病理) : 菲薄基底膜病の臨床病理学的特徴. 日本病理学会総会 (第102回) (札幌), 2013. 6.
6) 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 福田 悠¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学解析人体病理) : 急性肝不全にともなう急性腎障害微小血管傷害. 日本病理学会総会 (第102回) (札幌), 2013. 6.
7) 吉村久志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 内田英二²⁾, 土屋眞一, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学 病理学, 2) 日本医科大学 外科学) : 術前化学療法施行膀胱癌症例における病理学的変化の検討. 日本病理学会総会 (102回) (札幌), 2013. 6.
8) 大橋隆治, 原田 大, 寺崎美佳¹⁾, 都築豊徳²⁾, 赤塚 純²⁾, 木村 剛²⁾, 土屋眞一, 近藤幸尋²⁾ (1) 日本医科大学解析人体病理, 2) 日本医科大学 泌尿器科) : 超高齢発症の精母細胞性セミノーマの1例. 日本病理学会総会 (102回) (札幌), 2013. 6.
9) 浅川一枝, 佐藤春明, 松原美幸, 川本雅司¹⁾, 池園哲郎²⁾, 中溝宗永²⁾, 大橋隆治 (1) 帝京大学医学部附属溝口病院臨床病理科, 2) 日本医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科) : 巨細胞性修復肉芽腫の1例. 日本臨床細胞学会関東連合会学術集会 (27回) (千葉市), 2013. 9.
10) 大橋隆治¹⁾, 清水 章²⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理部, 2) 日本医科大学解析人体病理学) : 播種性血管内凝固症候群における腎組織像. 第102回日本病理学会 (札幌), 2013. 6.
11) 大橋隆治¹⁾, 深澤隆治²⁾, 福田 悠³⁾, 小川俊一²⁾, 伊藤彦彦²⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理部, 2) 日本医科大学付属病院小児科, 3) 日本医科大学解析人体病理学) : 川崎病マウスモデルにおける etanercept の血管炎抑制効

果について、日本小児循環器学会（東京）、2013、7。

- 12) 松田陽子¹⁾、吉村久志¹⁾、内田英二²⁾、大橋隆治³⁾、内藤善哉¹⁾、石渡俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学統御機構病理学、²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科、³⁾ 日本医科大学付属病院病理部)：腭癌術前化学療法 of 病理組織学的評価に関する検討。第18回日本外科病理学会（東京）、2013、9。
- 13) 松田陽子¹⁾、石渡俊行¹⁾、内田英二²⁾、大橋隆治、内藤善哉¹⁾、石井英昭、その他5名 (¹⁾ 日本医科大学統御機構病理学、²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科)：腭体尾部の Mixed acinar-neuroendocrine-ductal carcinoma の1例。病理学会関東支部会（筑波）、2013、9。
- 14) 三枝英人¹⁾、山口 智¹⁾、大橋隆治²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科、²⁾ 日本医科大学付属病院病理部)：高齢男性に発症する輪状咽頭筋に局限したミオパチーによる嚥下障害：その臨床的特徴について。第31回日本神経治療学会（東京）、2013、11。

[付属病院中央検査部]

研究概要

高度医療の中で臨床検査は病気の早期発見、診断、治療方針の決定などにおいて欠かすことができない。そのため、チーム医療の一員として、正確で迅速な検査結果を提供するために、検体採取と管理、効率的な検査手法の確立、付加価値をつけた検査結果の提供、最新技術の習得と業務効率の改善などを常に考え業務を遂行している。また、臨床検査技師として価値ある業務の取組として、外来採血の導入、病棟に設置されている血糖測定機のメンテナンスラウンド、細菌検査部門に於いてはノカルジア属やレジオネラ属の菌の同定や、耐性菌の環境検査や ICT ラウンドに積極的に参画を行った。輸血関連においては、自己血採血の補助業務など新規業務拡充に向けた行動を開始した。学術活動としては、専門分野ごとに、診断に必要な検査項目の導入検討と評価、採血管の特性を生かした使用法の検討、検体攪拌など測定手技による検査値の影響評価と妥当性、検査データの早期診断活用、疾患と検査データの関連性と有用性、診断基準の検討、緊急輸血の実態と安全な輸血への取り組み、異型適合輸血後の検査値に及ぼす影響と対応、などについて広く学会を中心に配信した。今後も更なる努力を重ね業務拡充を図り、価値ある臨床検査の情報を発信する。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shotaro N¹⁾、Kosuke M¹⁾、Tomoya K¹⁾、Hiroyuki N²⁾、Yoko I³⁾、Saho K⁴⁾、Kazunari S⁵⁾、Noboru O¹⁾、Ryoichi S¹⁾ (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Graduate School of Health Care Sciences Tokyo Medical and Dental University、²⁾ Clinical Laboratory Department Surugadai Nihon University Hospital、³⁾ Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital、⁴⁾ Department of Infection Control and Prevention, The University Hospital、⁵⁾ Department of Clinical Laboratory, Nippon Medical School)：Antimicrobial susceptibility and mechanisms of high-level macrolide resistance in clinical isolates of *Moraxella nonliquefaciens*. Journal of Medical Microbiology 2013；(63)：242-247。

著書

- 1) 柴田泰史：〔分担〕敗血症の診断の現状、敗血症の診断/治療の実状と病態・メカニズムを踏まえた開発戦略、2013；pp177-183、技術情報協会。

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 福田高久, 園部晴代, 小川早恵子, 植田貴子, 亀山澄子, 橋本政子, 飯野幸永, 本間 博, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 輸血部)：超緊急 O 型赤血球輸血「ユニバーサル O」について. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 2) 植田貴子, 園部晴代, 小川早恵子, 亀山澄子, 福田高久, 橋本政子, 飯野幸永, 本間 博, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 輸血部)：緊急 O 型赤血球輸血後に同型血輸血を実施した 2 症例. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 3) 渡部明子, 篠山明宏, 園部一成, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博 (1) 日本医科大学付属病院 中央検査部)：当院における真菌血症の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 4) 佐々木香織, 岩崎由美¹⁾, 堤 章江, 橋本政子, 飯野幸永, 渡邊 淳¹⁾, 川本智章²⁾, 島田 隆²⁾, 本間 彰 (1) 付属病院 ゲノム先端医療部, 2) 附属病院 消化器・肝臓内科)：IL28B 遺伝子多型解析検査の中央検査部への試み. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 三橋 太, 山下純一, 影山憲貴, 佐藤美里, 飯野幸永, 本間 博：血液ガス分析装置 ABL800 FLEX によるクレアチニン測定の有用性. 日本医学検査学会 (第 62 回) (香川・高松), 2013. 5.
- 2) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 三橋 太, 山下純一, 影山憲貴, 鳴海武長, 飯野幸永：補助循環装置使用患者における高速凝固タイプ真空採血管の有用性. 日臨技首都圏支部医学検査学会 (第 2 回) (東京), 2013. 10.
- 3) 柴田泰史, 三橋 太, 山下純一, 影山憲貴, 鳴海武長, 佐藤美里, 飯野幸永, 本間 博：ナファモスタットメシル酸塩投与患者における凝固促進剤入り採血管の検討. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 60 回) (兵庫・神戸), 2013. 10.
- 4) 日ノ澤進一郎, 小林紘士, 間宮一夫, 村山智美, 三橋 太, 飯野幸永：UF1000i によるリサーチ項目の有効利用に関する一考察. 日臨技首都圏支部医学検査学会 (第 2 回) (東京), 2013. 10.
- 5) 日ノ澤進一郎, 村山智美, 小林紘士, 影山憲貴, 間宮一夫, 村本和子, 三橋 太, 本間 博：UF1000i による SRC (小円形上皮細胞) に相当する尿沈渣成分の検索. 日本医学検査学会 (第 62 回) (香川・高松), 2013. 5.
- 6) 鳴海武長, 三橋 太, 柴田泰史, 山下純一, 影山憲貴, 飯野幸永, 本間 博：腎障害における Cr.Cys-C.UA の相関性とその有用性. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 60 回) (兵庫・神戸), 2013. 11.
- 7) 鳴海武長, 杉本諒司, 影山憲貴, 山下純一, 柴田泰史, 三橋 太, 飯野幸永, 本間 博：FDP6 試薬による比較検討と急性期 DIC 診断基準の有用性. 日本医学検査学会 (第 62 回) (香川・高松), 2013. 5.
- 8) 常木美智子, 間宮一夫, 中山一隆¹⁾, 山口博樹¹⁾, 福田節子, 飯野幸永, 本間 博 (1) 日本医科大学付属病院 血液内科)：TMA 早期診断に向けた FCR (破碎赤血球比率) 活用の試み. 日本検査血液学会学術集会 (第 14 回) (東京), 2013. 7.
- 9) 影山憲貴, 柴田泰史, 飯野幸永, 本間 博：CLSI 標準法に基づいた血液ガス分析の検体攪拌における妥当性の検証. 日本臨床救急医学会総会学術集会 (第 16 回) (東京), 2013. 7.
- 10) 村山智美, 鳴海武長, 田代彩香, 山下純一, 小林紘士, 間宮一夫, 日ノ澤進一郎, 本間 博：金コロイド比色法によるシスタチン C 測定試薬「ネスコート GC シスタチン C (Nm) の基礎的検討. 日本医学検査学会 (第 62 回) (香川・高松), 2013. 5.
- 11) 谷岡 学, 三橋 太, 田島克美, 青砥泰二, 橋本政子, 飯野幸永, 本間 博：グリコヘモグロビン分析装置アークレイ HA-8181 の評価. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 12) 田代彩香, 村山智美, 鳴海武長, 山下純一, 日ノ澤進一郎, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博：血清シスタチン C 測定試薬の基礎性能および有用性. 第 62 回日本医学検査学会 (香川・高松), 2013. 5.
- 13) 田代彩香, 村山智美, 鳴海武長, 山下純一, 日ノ澤進一郎, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博：血清シスタチン C

測定試薬の基礎的検討および臨床の有用性. 平成 25 年度 私立医科大学臨床検査技師会学術研修会 (東京), 2013. 11.

- 14) 大川咲奈, 園部一成, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博: *Nocardia* 属分離における WYO α 寒天培地の検出感度の比較検討. 日臨技首都圏支部医学検査学会 (第 2 回) (東京), 2013. 10.
 - 15) 佐々木香織, 渡邊 淳¹⁾, 岩崎由美¹⁾, 堤 章江, 橋本政子, 飯野幸永, 島田 隆¹⁾, 本間 博 (1) 付属病院 ゲノム先進医療部): 遺伝子多型解析検査の検査部導入への試み: IL28B 遺伝子多型先進医療を通して. 日本臨床検査自動化学会 (第 45 回) (横浜), 2013. 10.
 - 16) 渡邊 淳¹⁾, 佐々木香織, 岩崎由美¹⁾, 橋本政子, 飯野幸永, 川本智章²⁾, 本間 博, 島田 隆¹⁾ (1) 付属病院 ゲノム先端医療部, 2) 付属病院 消化器・肝臓内科): PGx 検査を医療機関で浸透するための課題: IL28B 遺伝子多型検査を先進医療に申請する経験を通して. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 60 回) (兵庫・神戸), 2013. 11.
- (3) 学術研修会:
- 1) 三橋 太: 尿自動分析装置使用に関する基本的知識と運用例. 宮城県臨床検査技師会 学術部一般検査部門研修会 (宮城県), 2013. 6.

[付属病院薬剤部]

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 伊勢雄也¹⁾, 森田達也²⁾, 片山志郎¹⁾, 木澤義之³⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) 聖隷三方原病院緩和和支持治療科, 3) 神戸大学大学院医学研究科内科系講座先端緩和医療学分野): がん診療拠点病院の施設背景が緩和ケア診療加算件数に及ぼす影響. 日本緩和医療薬学雑誌 2013; 6 (4): 87-90.
- 2) Yajima R¹⁾, Ise Y¹⁾, Wako T¹⁾, Katayama S¹⁾, Kizu J²⁾ (1) Section of Pharmaceutical Services, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Practical Pharmacy, Keio University Faculty of Pharmacy): A retrospective review of the risk factors for infection in cancer patients receiving specialist palliative care. Journal of Nippon Medical School 2013; 80 (6): 481-485.
- 3) Ise Y^{1,2)}, Mori T²⁾, Katayama S¹⁾, Suzuki T²⁾, Tzu-Chueh W³⁾ (1) Section of Pharmaceutical Services, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Toxicology, Hoshi University, School of Pharmacy and Pharmaceutical Science, 3) Department of Pharmacy, Chia Nan University of Pharmacy and Science, Taiwan): Genetic Background Influences Nicotine-induced Conditioned Place Preference and Place Aversion in Mice. Journal of Nippon Medical School 2014; 81 (1): 53-56.

著書

- 1) 畝本賜男: [自著] 第 1 特集「徹底解説! 術前・術中・術後における薬学的アセスメント」(4) 術後合併症. Clinical Pharmacist, 2013; pp24-30, メディカ出版.
- 2) 畝本賜男, 片山志郎: [自著] 周術期医療で薬剤師が担うべきこと～医薬品の安全と薬学的管理～. Medical forum CHUGAI (株式会社 ライフ・サイエンス), 2014; pp43-48, 中外製薬株式会社.
- 3) 加藤あゆみ, 片山志郎: [共著] Patient-controlled analgesia ポンプを用いた呼吸困難感への対応. がんの痛みをとる! 第 12 巻.1 号, 2013; メディカルレビュー社.
- 4) 加藤あゆみ: [自著] 2 章 緩和薬物療法 A5 オピオイド鎮痛薬 6.PCA ポンプの使い方. 緩和医療薬学 (日本緩和医療薬学会), 2013; pp61-61, 南江堂.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 本城和義¹⁾, 脇 厚生²⁾ (1) 日本医科大学健診医療センター, 2) 放射線医学総合研究所) : 治験薬 GMP に準じた品質試験の実施～システム適合性試験方法の検討～. 日本核医学会学術総会 (第 53 回) (福岡), 2013. 11.
- 2) 宋 静香, 畝本賜男, 片山志郎, 矢島 領, 杉山未緒, 武田弘太郎, 長原新太郎, 五味麻子, 菅谷和也, 玉井理大 : 手術室における購入金額分析活用 (ABC 分析) による医薬品の適正配置. 関東ブロック第 43 回学術大会 (新潟), 2013. 8.
- 3) 長原新太郎, 畝本賜男, 片山志郎, 菅谷和也, 杉山未緒, 武田弘太郎, 宋 静香 : 手術担当薬剤師による薬品管理業務の 100% 実施を目指して. 第 81 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2013. 9.
- 4) 武田弘太郎 : 手術室における薬剤師業務 : 展望と課題. 第 2 回御茶ノ水エリア病院薬剤部勉強会 (東京), 2013. 9.
- 5) 畝本賜男, 宋 静香, 片山志郎, 長原新太郎, 武田弘太郎, 杉山未緒, 玉井理大, 菅谷和也 : 周術期医療で薬剤師が担うべきことを考える : リスクマネージメントの視点から. 第 23 回日本医療薬学会年会 セッション シンポジウム (仙台), 2013. 9.
- 6) 杉山未緒, 畝本賜男, 片山志郎, 岡田 慧, 小松友梨香, 鈴木 藍, 長原新太郎, 武田弘太郎 : 周術期チーム医療における薬剤師常駐による業務効率化の検討. 日本薬学会代 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 7) 森 洵子, 三浦義彦, 片山志郎 : ICT による新人職員を対象とした医療関連感染防止教育への取り組み : 職種間における手指衛生の評価と検討. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 (第 43 回) (新潟), 2013. 8.
- 8) 大坂奈央子, 萩原 研, 伊勢雄也, 片山志郎 : 付属病院薬品情報室における医薬品情報の収集と提供内容についての検討. 第 81 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2013. 9.
- 9) 加藤あゆみ : フィリピン共和国における台風被害に対する国際緊急援助隊医療チーム参加報告. 第 3 回日本災害医療薬剤師学会学術大会 (東京), 2014. 1.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Ise Y^{1,2)}, Mori T²⁾, Katayama S¹⁾, Nagase H³⁾, Suzuki T²⁾ (1) Section of Pharmaceutical Services, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Toxicology, Hoshi University, School of Pharmacy and Pharmaceutical Scienc, 3) Laboratory of Medical Chemistry, School of Pharmacy, Kitasato University) : Rewarding Effects of Ethanol Combined with Low Doses of Morphine through Dopamine D1 Receptors. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (1) : 34-41.
- 2) Ise Y¹⁾, Morita T²⁾, Katayama S¹⁾, Kizawa Y³⁾ (1) Department of Pharmaceutical Services, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Palliative and Supportive Care, Palliative Care Team and Seirei Hospice, Seirei Mikatahara General Hospital, 3) Department of Palliative Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine) : The activity of palliative care team pharmacists in designated cancer hospitals : a nationwide survey in Japan. The Journal of Pain and Symptom Management 2014 ; 47 (3) : 588-593.
- 3) Maezawa K¹⁾, Yajima R, Terajima T¹⁾, Kizu J¹⁾, Hori S²⁾ (1) Department of Practical Pharmacy, Keio University Faculty, 2) Department of Infectious Diseases and Infection Control, Jikei University School of Medicine) : Dissolution profile of 24 levofloxacin (100 mg) tablets. Journal of Infection and Chemotherapy 2013 ; 19 : 996-998.

著書

追加分：

- 1) 加藤あゆみ, 片山志郎⁽¹⁾ 福岡大学病院 薬剤部) : [共著] 緩和医療における服薬指導 Q & A. (片山 志郎), 2010; 医薬ジャーナル社.
- 2) 加藤あゆみ : [自著] 日本大震災災害レポート 津波災害における医療支援の特殊性と薬剤師に課せられた責務. 週刊薬事新報, 2011; 薬事新報社.
- 3) 高瀬久光¹⁾, 加藤あゆみ, 佐野元彦²⁾ (¹⁾ 福岡大学病院薬剤部, ²⁾ 埼玉医科大学総合医療センター薬剤部) : [共著] がん患者の心の扉を開くコミュニケーション術 (片山志郎・佐伯俊成・高瀬久光), 2008; 南江堂.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) 加藤あゆみ, 宮田広樹, 輪湖哲也, 須賀理絵, 片山志郎 : 緩和ケアチーム依頼までのスクリーニング：病棟担当薬剤師とのリンク強化について. 第4回日本緩和医療薬学会年会 (鹿児島), 2010. 9.
- 2) 加藤あゆみ : 当院緩和ケアチームでのトラマドールの使用状況調査と効果. 第5回橘桜緩和医療研究会 (東京), 2012. 6.
- 3) 加藤あゆみ, 片山志郎, 中西浩一 : Patient Controlled Analgesia ポンプを用いた呼吸困難感への対応. 第6回日本緩和医療薬学会年会 (神戸), 2012. 10.
- 4) 加藤あゆみ, 伊勢雄也, 林裕美子, 片山志郎, 中西浩一 : 院内緩和ケアチームにおけるトラマドール適正使用の評価. 第22回日本医療薬学会年会 (新潟県), 2012. 10.
- 5) 加藤あゆみ, 伊勢雄也, 片山志郎, 高橋晴美¹⁾ (¹⁾ 明治薬科大学薬剤学教室) : 医療用麻薬による嘔気・嘔吐への対応：第1選択薬, 第2選択薬としてのヒスタミン受容体拮抗薬の有用性. 日本緩和医療学会 (第16回) (札幌), 2011. 7.

[付属病院生理機能センター]

研究概要

当センターでは今年度は心臓リハビリテーション, 心臓超音波のような循環器系中心の研究をおこなってきた. 心臓リハビリテーションでは, 心筋梗塞患者と尿中アルブミンの関係, 心筋梗塞後患者における呼吸機能検査指標と VE/VCO₂ slope との関連など, 心臓超音波では, 2次元 speckle tracking 法を用いた慢性閉塞性肺疾患患者の右室機能の評価についてなどの研究に取り組んできた. 加えて, ループ式イベントレコーダー検査における患者の機器使用感の分析など日常の検査業務における基礎的研究にも地道に努力を重ねてきた. 大学病院に従事するのは診療・教育・研究という3つの責務を果たさなければならない, とよく言われる. 特に研究の面では学会等での発表数だけみれば減少傾向にはあるが, 内容は常にアカデミックな話題に富み, 独創性の高い研究成果をあげており, 質の上でも年々向上している. さらに研究活動を通して日々研鑽し優れた人材を育成することを目指してリーダーシップを発揮してきた. 来年度から中央検査部との合併により新しい組織としてスタートするわけであるが, このようなチャレンジ精神は今後も引き継がれていくであろう.

研究業績

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 大野忠明¹⁾, 本間 博, 黄 俊憲¹⁾, 吉永 綾¹⁾, 田中貴久¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 松崎つや子, 新田 隆¹⁾, 水野杏一¹⁾
(¹⁾ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 重症心不全症例に対する心臓再同期療法と僧帽弁形成術の

併用治療の可能性. 日本心エコー図学会学術集会 (第 24 回) (東京), 2013. 4.

(2) 一般講演:

- 1) 加藤政利¹⁾, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 会田智弘, 飯野幸永, 高圓雅博¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞患者における呼吸機能検査から見た心肺運動負荷試験 (CPX) 指標. 日本心臓病学会 (第 61 回) (熊本県熊本市), 2013. 9.
- 2) 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 高圓雅博¹⁾, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 清水 渉¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞後うつに対するガイドラインに基づいた系統的介入の問題点と対応. 日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (第 19 回) (宮城県仙台市), 2013. 7.
- 3) 会田智弘, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 高圓雅博¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心臓リハビリテーション施行中の心筋梗塞後患者における尿中アルブミン異常. 日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (第 19 回) (宮城県仙台市), 2013. 7.
- 4) 会田智弘, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 飯野幸永, 高圓雅博¹⁾, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞後患者に対する尿中アルブミン測定と経時の変化. 日本心臓病学会 (第 61 回) (熊本県熊本市), 2013. 9.
- 5) 加藤政利, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 会田智弘, 齋藤公一, 高圓雅博¹⁾, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞例における呼吸機能検査指標と VE/VCO₂ slope との関連. 日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (第 19 回) (宮城県仙台市), 2013. 7.
- 6) 松崎つや子, 関野玲子, 見友優子, 青柳和之, 吉永 綾¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 大野忠明¹⁾, 本間 博¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 軽度の慢性閉塞性肺疾患患者における右室機能の評価 (2 次元 speckle tracking 法を用いて). 日本超音波医学会関東甲信越地方会学術集会 (第 25 回) (東京都江東区), 2013. 10.
- 7) 吉田由紀子, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理¹⁾, 高圓雅博¹⁾, 加藤和代¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞後患者に対するうつ・不安・怒りのスクリーニング検査. 日本循環器心身医学会 (第 70 回) (東京), 2013. 11.
- 8) 佐藤淳子, 八島正明¹⁾, 加藤政利, 林 洋史¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 林 明聡¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 福間長知¹⁾, 本間 博¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 貸出期間 2 週間のループ式イベントレコーダー検査における患者の機器使用感の分析と使用説明の注意点. 日本心電学会 (第 30 回) (青森), 2013. 10.
- 9) Li Y¹⁾, Ohno T¹⁾, Matsuzaki T¹⁾, Matsuda J¹⁾, Matsuzaki G¹⁾, Honma H¹⁾, Mizuno K¹⁾, Azuma A²⁾: Can right ventricular dysfunction be detected during mild stage of chronic obstructive pulmonary disease by two-dimensional speckle tracking technology?. 24 annual scientific sessions, American Society of Echocardiography (Minneapolis USA), 2013. 7.
- 10) Li Y¹⁾, Ohno T¹⁾, Matsuzaki T, Matsuda J¹⁾, Matsuzaki G¹⁾, Honma H¹⁾, Mizuno K¹⁾, Azuma A²⁾: QRS duration and mechanical asynchrony correlations with right ventricular function in patients with early stage of chronic obstructive pulmonary disease by two-dimensional speckle tracking technology. 24 annual scientific sessions, American Society of Echocardiography (Minneapolis USA), 2013. 7.
- 11) 吉川雅智¹⁾, 本間 博, 松崎つや子, 吉永 綾¹⁾, 大野忠明¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 慢性閉塞性肺疾患における QRS 波の幅と右室機能障害 - 2 次元 speckle tracking 法による解析. 日本臨床生理学会総会 (第 50 回) (東京), 2013. 11.
- 12) 加藤政利¹⁾, 八島正明²⁾, 佐藤淳子¹⁾, 菅谷寿理¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博²⁾, 清水 渉²⁾ (1) 日本医科大学 生理機能センター, (2) 日本医科大学 内科学 循環器部門): インピーダンスグラフから見たループ式イベントレコーダー検査における機器装着時間の実態. 日本心電図学会 (第 30 回) (青森), 2013. 10.

[付属病院看護部]

研究概要

付属病院看護部では、所属担当部署や専門領域によって様々な研究や調査の取組が行われた。4病院で行われている研修「臨床における看護研究の取り組み」においては、「小児先天性心疾患手術を受けた患児の母親が手術室看護師に抱く思い」、「大学病院の病棟で行われている院支援・退院調整の実態」、「CPF値を指標とした人工呼吸器管理患者の再挿管予防への検討」、「術後補助療法として内分泌治療を受けている閉経前乳がん患者が「ほてり、発汗」によって体験する心身の変化と対処」、「慢性心不全の高齢患者が語る「病気と共に生きること」についての考察 病みの軌跡を管理する」の5演題が報告された。

研究業績

論文

(1) 解説：

- 1) 内藤明子：解説 看護師長に求められる役割と能力をどのように養うのか。師長主任業務実践 2013；18(388)：5-9.

(2) 看護師シリーズ：

- 1) 柿沼香里：脳血管障害患者の食事中のムセ・質性嘔声の要因：食事の援助によって誤嚥性肺炎の予防に至った8事例。日本科大学医学会雑誌 2014；10(1)：21-24.

著書

- 1) 原田恭子：〔分担〕補助循環カテーテル(PCPS)。重症集中ケアシリーズ4 ICUナースのカテーテル管理 根拠・経験知+Q&A(道又元裕監修)，2013；pp58-62，日総研グループ。
- 2) 内藤明子：〔分担〕第11章 看護ケアのマネジメント。ナーシング・グラフィカ基礎看護学1 看護学概論 第5版(志自岐康子，松尾ミヨ子，習田明裕編集)，2014；pp231-248，メディカ出版。
- 3) 古山景子：〔分担〕8. 不適切なインスリン自己調整を行っている患者(第3章ライフステージ別の事例で学ぶ糖尿病看護の実践)。ライフステージから理解する糖尿病看護(福井トシ子・瀬戸奈津子・森小律恵)，2013；pp162-165，中央法規出版。
- 4) 古山景子：〔分担〕お薬手帳。ライフステージから理解する糖尿病看護(福井トシ子・瀬戸奈津子・森小律恵)，2013；pp161-161，中央法規出版。
- 5) 柿沼香里：〔分担〕第1章エキスパートに聞く！なるほどQ&A 2. 治療 Q3長期にわたり気管挿管されていた患者さんへのアプローチはどのように行うのがよいでしょうか？。納得実践シリーズ Q&Aと症例でわかる！摂食・嚥下障害ケア(藤島一郎・谷口洋・藤森まり子・白坂誉子)，2013；pp60-63，羊土社。
- 6) 柿沼香里，杉山理恵：〔分担〕第2章実践力が身につく！症例編 2. 生活環境別1)重症集中治療室。納得実践シリーズ Q&Aと症例でわかる！摂食・嚥下障害ケア(藤島一郎・谷口洋・藤森まり子・白坂誉子)，2013；pp216-212，羊土社。
- 7) 瀬戸利昌，中村幸子：〔分担〕7. ECMOの看護。呼吸ECMOマニュアル(氏家良人・市場晋吾・竹田晋浩)，2014；pp95-124，克誠堂出版。

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 志村知子：重症化を回避する看護援助(急性期重症患者に対するスキンケア戦略)。日本集中治療医学会学術集会(第41回)(京都)，2014. 2.

(2) ランチョンセミナー：

- 1) 志村知子：クリティカルケア領域における予防的/治療的スキンケア：費用対効果と患者のQOL向上を目指して。日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌（静岡），2013. 5.

(3) ポスター：

- 1) Tomoko S, Nao T, Hiroshi F, Takeshi N, Sayaka N, Miyuki K, Miho K, Noriaki S：A survey on nutritional management in emergency medicine in JAPAN. Asian Conference on Emergency Medicine (The 7th) (Tokyo), 2013. 10.

(4) 一般講演：

- 1) 高橋聡子, 鎌田真理子, 島津美幸, 笠間秀一, 佐藤憲明：脳死下臓器摘出時の他職種との連携とコーディネーション：ユニット内手術室を利用した経験から。日本脳死・脳蘇生学会 総会・学術集会（第26回），2013. 6.
- 2) 佐々木健太郎, 田中 茜, 内海清乃, 佐藤憲明：当院における警視庁IMAT (Incident Medical Assistance Team) 看護師隊員育成プログラムの開発。日本災害看護学会年次大会（第15回）（札幌），2013. 8.
- 3) 久保紀子, 杉山理恵, 笠間秀一, 松井 愛, 飯島晶子, 牛島麻衣, 榊 由里, 佐藤憲明, 中川仁美：薬剤耐性菌によるマンシエット汚染に対する効果的な消毒方法の検討。日本救急医学会関東地方会（第64回）（横浜），2014. 2.
- 4) 桜井英美, 杉山理恵, 佐藤憲明：急性期脳血管障害患者の早期経口摂取への取り組み：誤嚥予防と嚥下評価に基づいた早期嚥下訓練を行った患者の一考察。日本救急医学会関東地方会（第64回）（横浜），2014. 2.
- 5) Junji S, Satoru T, Ikkou S, Yasuhiro H, Eisuke K, Noriko S：Present status and future prospects of VAP in our institution by VAP surveillance. Asian Conference on Emergency Medicine (The 7th) (Tokyo), 2013. 10.
- 6) Yuri S, Hiroko F, Kumi S, Akiko S, Fuko K, Yumi P, Kiyono U, Noriaki S：Care for patients'families who have decided on DNAR：Views of nurses searching for the needs of families. Asian Conference on Emergency Medicine (The 7th) (Tokyo), 2013. 10.
- 7) 鉾形忠光, 志村知子, 西畑 毅, 勝又美雪, 小林美穂, 河合清貴, 高橋幸憲, 三浦智子, 厚田雅子, 佐藤憲明：重症患者における医療用粘着テープによる皮膚障害発生要因の検討。日本クリティカルケア看護学会学術集会（第9回）（神戸），2013. 6.
- 8) Junichi H¹⁾, Emi K¹⁾, Ryoko M¹⁾（¹⁾ Health Sciences, Tohoku University Graduate School of Medicine）：Predictive Factors For Post-Thoracotomy Pain Syndrome. 2013 American Thoracic Society (Philadelphia, America), 2013. 5.
- 9) 佐野紀代, 森 伊代, 小谷愛子：手術室における機会だし業務の新人指導を始めたばかりの看護師が抱く心情。日本手術医学会総会（第35回）（神奈川），2013. 11.

(5) プレコンgres：

- 1) 鈴木由美¹⁾, 中込さと子^{1,2)}, 有森直子^{1,3)}（¹⁾ 日本遺伝看護学会 遺伝看護実践推進委員会, ²⁾ 山梨大学大学院, ³⁾ 聖路加看護大学看護実践研究開発センター）：最近の出生前診断をめぐる助産師の課題。日本助産学会（第27回）（金沢），2013. 4.

(6) 交流集会：

- 1) 古山景子^{1,2)}, 米田昭子^{1,2)}, 伊波早苗^{1,3)}, 東めぐみ^{1,3)}, 河口てる子^{1,3)}, 数間恵子^{1,2)}（¹⁾ 日本糖尿病教育・看護学会 日本慢性看護学会 糖尿病ケアプロトコル作成合同委員会, ²⁾ 日本糖尿病教育・看護学会, ³⁾ 日本慢性看護学会）：特定行為認証制度を視野に入れた「インスリン使用患者ケアプロトコル」の検討。日本糖尿病教育・看護学会学術集会（第18回）（横浜），2013. 9.
- 2) 佐藤憲明：JNTEC がもたらした臨床教育への波及効果。日本救急看護学会学術集会（第15回）（福岡），2013. 10.

(7) 示説：

- 1) 安部節美, 小栗智美：病棟看護師への退院支援プログラム実施における退院支援プロセスの変化について [第1報]：看護師の実践内容の変化に焦点を当てて. 日本看護学会・地域看護 (第44回) (福井), 2013. 11.
- 2) 小栗智美, 安部節美：病棟看護師への退院支援プログラム実施における退院支援プロセスの変化について [第2報]：プログラム内容の検討に焦点を当てて. 日本看護学会・地域看護 (第44回) (福井), 2013. 11.
- 3) 小栗智美, 浅岡裕美子：急性期病院における看護師の高齢者観のためのそつごけんを培う. 日本老年看護学会学術集会 (第18回) (大阪), 2013. 6.
- 4) 高坂幸子, 下地 圭, 板倉亜希子, 末松宏美, 鈴木久美子, 山下治峰, 瀬戸利昌, 背戸陽子：ECMOの知識獲得と看護技術の向上に向けた教育の取り組み. 日本集中治療医学会学術集会 (第41回) (京都), 2014. 2.
- 5) 黒澤香世, 篠田知美, 梅村欣子, 穂山真理, 腹子あき子, 菅野みどり, 島内ちゆき, 百瀬未来^{1,2)}, 輪湖哲也^{1,2)}, 岸田悦子^{1,2)}, 片山志郎¹⁾, 久保田馨²⁾, 峯岸裕司²⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院化学療法科)：外来化学療法室における看護師への患者満足度調査. 日本がん看護学会 (第28回) (新潟), 2014. 2.
- 6) 荻野恵理：慢性心不全患者への教育支援の改善とその効果. 日本看護学会学術集会成人看護II (第44回) (秋田), 2013. 10.
- 7) 寺田知子, 荻野恵理, 斉藤智子, 小野寺美香, 佐藤清香：循環器病棟における心電図モニターへの対応改善に対する取り組み. 日本循環器看護学会学術集会 (第10回) (東京), 2013. 9.
- 8) 大崎由香利, 福田恵莉香, 工藤美美, 横島一彦¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：発生が不可能な頭頸部癌術後患者に対するコミュニケーションツール作成の工夫. 日本癌治療学会学術集会 (第51回) (京都), 2013. 10.
- 9) 磯崎奈津子, 稲田浩美：A病院におけるオストメイトのQOLに影響を与える要因：ストーマ外来受診状況に焦点を当てて. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 (第22回) (静岡), 2013. 5.

学会発表

[追加分]

追加分示説：

- 1) 荻野恵理：心不全外来における看護相談の効果. 日本循環器学会各術集会 (第78回) (東京), 2013. 3.

[付属病院放射線科技師室]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 吉澤賢史¹⁾, 原科悟史¹⁾, 土橋俊男¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科技師室)：Phase sensitive inversion recovery 心臓遅延造影 MRI における高 Flip angle の有用性に関する検討. 日本放射線技術学会 2013；69 (4)：380-385.
- 2) 引地健生¹⁾, 中井敏晴²⁾, 土橋俊男, 木戸義照³⁾, 磯田治夫⁴⁾, 村田和子⁵⁾ (1) 栗原市立栗原中央病院, 2) 国立長寿医療研究センター, 3) 和歌山労災病院, 4) 名古屋大学大学院医学系研究科, 5) 高知医療センター)：震災時の地域医療を支える MR 検査の安全確保. 日本磁気共鳴医学会雑誌 2014；34 (1)：6-13.
- 3) 前谷津文雄¹⁾, 阿部喜弘²⁾, 菱沼 誠³⁾, 引地健生⁴⁾, 丹治 一⁵⁾, 清野真也⁶⁾, 安達廣司郎⁷⁾, 武蔵安徳⁸⁾, 土橋俊男, 町田好男⁹⁾, 山口さち子¹⁰⁾ (1) 宮城厚生協会泉病院, 2) 国立病院機構仙台医療センター, 3) 一般財団法人厚生会仙台南生病院, 4) 栗原私立栗原中央病院, 5) 仁泉会北福島医療センター, 6) 福島県立医科大学医学部附

属病院, 7) 森岡赤十字病院, 8) 岩手県立中央病院附属紫波地域医療センター, 9) 東北大学大学院医学系研究科, 10) 独立行政法人労働安全衛生総合研究所): 東日本大震災の被災地宮城県における MR 装置被害の実態調査報告. 日本放射線技術学会雑誌 2014; 70 (3): 235-241.

- 4) 小川匡史, 松村善雄, 土橋俊男: 心筋遅延造影 MRI における IR-GRE 法の至適 Flip Angle の検討. 日本放射線技術学会雑誌 2013; 69 (4): 419-425.

(2) 総説:

- 1) 土橋俊男: インプラント装着患者の画像診断の現状と課題. Rad Fan 2014; 12 (2): 54-58.
- 2) 土橋俊男: 地震等の災害時に備える MRI の機器管理対策: MRI 装置の被害状況から考察する機器管理対策と2次被害防止策. INNERVISION 2013; 28 (9): 54-56.

著書

- 1) 土橋俊男: [分担] MRI の安全管理. MRI 応用自在 第3版 (高原太郎・高橋光幸, 堀江朋彦, 中村理宣, 北川久), 2013; pp203-206, 株式会社メジカルビュー社.
- 2) 土橋俊男: [分担] 体内に医療器具, 装置を留置した被験者の取り扱い: (1) 強磁性体の影響と安全な検査. MRI 安全性の考え方 第2版, 2014; pp226-236, 学研メディカル秀潤社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 土橋俊男: 条件付き MRI 対応ペースメーカー: 患者の MRI 検査時の技術的注意点. 熊本県 MR 勉強会, 2013. 8.
- 2) 土橋俊男: k-space から見た pulse sequence と撮像技術. 大分県 MR Masters (30回), 2013. 10.
- 3) 土橋俊男: 条件付き MRI 対応デバイス: MRI 検査の現状と課題. 東芝 MRI Pianissimo 教室, 2014. 1.

(2) 教育講演:

- 1) 土橋俊男: 安全な MRI 検査を行うために: 変化する MRI の安全性. 放射線診療学術講演会 (14回), 2013. 6.
- 2) 土橋俊男: MRI 検査を安全に行うためには: 金属の持ち込みから条件付き MRI 対応ペーシングシステムの対応. 放射線診療フォーラム in kyushu, 2013. 7.

(3) セミナー:

- 1) 土橋俊男: MRI の安全管理. 東京都診療放射線技師会・MRI 集中講習会 (6回), 2014. 2.
- 2) 土橋俊男: 画像診断支援に必要な支適画像の ABC・MRI 編. 遠隔支援診断支援セミナー 2013, 2013. 12.
- 3) 土橋俊男: 植込み型デバイスの撮像条件下での MRI 検査の実際 (条件付き MRI 対応ペースメーカーの国内導入から1年を前にして). 日本磁気共鳴医学会 (第41回) (徳島), 2013. 9.

(4) ワークショップ:

- 1) 土橋俊男: MR 装置の緊急停止システムの仕様統一に関する提言 (MRI の震災対応について). 日本磁気共鳴医学会 (第41回) (徳島), 2013. 9.

(5) 一般講演:

- 1) 吉澤賢史¹⁾, 原科悟史¹⁾, 土橋俊男¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科技師室): 小麦パッドを用いた下肢末梢血管の描出能の向上の検討. 日本放射線技術学会 秋季学術大会 (第41回) (福岡), 2013. 10.
- 2) 土橋俊男, 中井敏晴¹⁾, 藤田 功²⁾, 前谷津文雄³⁾, 栗田幸喜⁴⁾, 山口さち子⁵⁾ (1) 国立長寿医療研究センター, 2) さいたま市立病院, 3) 宮城県厚生協会泉病院, 4) 埼玉県共済会栗橋病院, 5) 労働安全衛生総合研究所): 首都圏における大震災による MRI 装置の被害傾向. 日本放射線技術学会, 2013. 4.
- 3) 前谷津文雄¹⁾, 丹治 一²⁾, 清野真也³⁾, 安達廣司郎⁴⁾, 武蔵安徳⁵⁾, 土橋俊男, 中井敏晴⁶⁾ (1) 宮城県厚生協会泉病院, 2) 仁泉会北福島医療センター, 3) 福島県立医科大学病院, 4) 盛岡赤十字病院, 5) 岩手県立中央病院附属

- 柴波地域医療センター, ⁶⁾ 国立長寿医療研究センター) : 東日本大震災の被災地における MR 装置被害の実態調査報告. 日本放射線技術学会 (第 41 回), 2013. 4.
- 4) 引地健生¹⁾, 山口さち子²⁾, 中井敏晴³⁾, 土橋俊男, 前谷津文雄⁴⁾, 町田好男⁵⁾ (¹⁾ 栗原市立栗原中央病院, ²⁾ 労働安全衛生総合研究所, ³⁾ 国立長寿医療研究センター, ⁴⁾ 宮城厚生協会泉病院, ⁵⁾ 東北大学大学院医学系研究科) : 東日本大震災の地震動によるマグネット移動の要因分析: アンカー固定の有無と震度について. 日本磁気共鳴医学会 (第 41 回) (徳島), 2013. 9.
- 5) 磯田治夫¹⁾, 市川和茂¹⁾, 小山修司¹⁾, 中井敏晴²⁾, 町田好男³⁾, 土橋俊男, 山口さち子⁴⁾, 野口隆志⁵⁾ (¹⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科, ²⁾ 国立長寿医療研究センター, ³⁾ 東北大学大学院医学研究科, ⁴⁾ 労働安全衛生総合研究所, ⁵⁾ 独立行政法人物質・材料研究機構) : 東日本大震災における「MR 検査の患者の安全確保」と「MR 装置の安全確保」について. 日本磁気共鳴医学会 (第 41 回) (徳島), 2013. 9.
- 6) 石森文朗¹⁾, 土橋俊男, 藤田 功²⁾, 栗田幸喜³⁾, 榎田喜正⁴⁾, 松本浩史⁴⁾, 砂森秀昭⁵⁾, 中井敏晴⁶⁾ (¹⁾ 聖麗メモリアル病院, ²⁾ さいたま市立病院, ³⁾ 埼玉県共済会栗橋病院, ⁴⁾ 千葉大学医学部附属病院, ⁵⁾ 水戸済生会, ⁶⁾ 国立長寿医療研究センター) : 東日本大震災における MRI 装置の被害状況 (関東地区) : 今後の震災に備えた対策. 日本磁気共鳴医学会 (第 41 回) (徳島), 2013. 9.
- 7) 山口さち子¹⁾, 町田好男²⁾, 土橋俊男, 磯田治夫³⁾, 野口隆志⁴⁾, 中井敏晴⁵⁾ (¹⁾ 独立行政法人労働安全衛生総合研究所, ²⁾ 東北大学大学院医学系研究科, ³⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科, ⁴⁾ 独立行政法人物質・材料研究機構, ⁵⁾ 国立長寿医療研究センター) : 東日本大震災による MR 装置被災調査の背景要因に関する研究. 日本磁気共鳴医学会 (第 41 回) (徳島), 2013. 9.

[付属病院 ME 部]

研究業績

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部) : The management of the ECMO treatment in Nippon Medical School Hospital Through the training at Karolinska University ECMO center from ECMO project launched. 日本体外循環技術医学会東海地方会 (第 37 回) (静岡県), 2014. 1.

(2) シンポジウム :

- 1) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 大石沙織¹⁾, 黄川田弥生¹⁾, 内田千草¹⁾, 美野輪恵子¹⁾, 森嶋俊介¹⁾, 八重田知見¹⁾, 中山拓也¹⁾, 八木 瞳¹⁾, 小磯那津美¹⁾, 河原香織¹⁾, 庭山ゆう子, その他 10 名 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部) : ECPR の連携～日本医科大学病院の現状および問題点～. 日本体外循環技術医学会 (第 39 回) (熊本県), 2013. 4.

(3) セミナー :

- 1) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部) : ECMO 治療におけるエビデンスとは…ECMO 治療の報告データを基にした当院での治療方針. 日本体外循環技術医学会関東甲信越地方会 (第 20 回) (新潟県), 2013. 4.
- 2) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部) : The management of the ECMO treatment in Nippon Medical School Hospital. 北海道呼吸療法セミナー (第 4 回) (北海道), 2013. 9.
- 3) 鈴木健一¹⁾, 安野 誠²⁾, 黒光弘幸³⁾, 玉城 聡⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部, ²⁾ 群馬県心臓血管センター, ³⁾ 京都府立医科大学附属病院, ⁴⁾ 帝京大学医学部附属病院) : 成人補助循環回路の特徴: 特に回路内における発生圧力について. 日本体外循環技術医学会 (第 39 回) (熊本県), 2013. 11.
- 4) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩^{1, 2)}, 山本 剛²⁾, 小林克也²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部, ²⁾ 日本医科大学附属病

院 集中治療室)：補助循環に関する機器. 生命科学研究所 病態から理解する IABP・PCPS・ECMO 適応と管理 (東京都), 2013. 11.

(4) 一般講演：

- 1) 黄川田弥生, 鈴木健一, 美野輪恵子, 大石沙織, 森嶋俊介, 竹田晋浩, 小野澤志郎¹⁾, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾
(¹⁾ 日本医科大学附属病院 放射線科)：体外循環を用いた抗癌剤療法 (閉鎖循環下抗癌剤肝灌流療法). 日本臨床工学会 (第 23 回) (山形県), 2013. 5.
- 2) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 庭山ゆう子¹⁾, 大石沙織¹⁾, 黄川田弥生¹⁾, 内田千草¹⁾, 美野輪恵子¹⁾, 森嶋俊介¹⁾, 八重田知見¹⁾, 中山拓也¹⁾, 八木 瞳¹⁾, 小磯那津美¹⁾, 河原香織¹⁾, その他 9 名 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部)：The ECMO team at Nippon Medical School Hospital intensive care. 小児 ECLS 研究会 (熊本県), 2013. 11.
- 3) 庭山ゆう子¹⁾, 森嶋俊介¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩^{1, 2)} (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部, ²⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室)：ネーザルハイフローにおける加温加湿についての検討. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 35 回) (東京都新宿区西新宿 2-2-1 京王プラザホテル), 2013. 7.

学会発表

〔追加分〕

追加分ワークショップ：

- 1) 黄川田弥生, 田所秋宏¹⁾, 富澤かつ江²⁾, 松土理恵³⁾, 石原朋子⁴⁾, 伊与恭子⁵⁾ (¹⁾ 日本大学医学部附属板橋病院中央放射線部, ²⁾ 日本大学医学部附属板橋病院看護部, ³⁾ 日本大学医学部附属板橋病院リハビリテーション科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ⁵⁾ 日本医科大学付属病院看護部集中治療室)：理想の Heart Team：アンケート結果に見る「こんな〇〇は嫌われる」. 日本冠疾患学会学術集会 (第 26 回) (東京都), 2012. 12.

[ワクチン療法研究施設]

研究概要

当研究施設は, 1972 年 (昭和 47) に開設され, 故丸山千里名誉教授が開発した人型結核菌体抽出物質 (SSM：いわゆる丸山ワクチン) による悪性腫瘍の免疫療法を中心に研究を行っている. SSM の治験登録患者数は, 2013 年末日現在, 396,053 例を数え, 依然として多数の新規患者の紹介を受けている. これらの患者のほとんどが学外からの紹介患者であることと, その大半が進行期癌・終末期癌であることは, SSM が治験薬として供給されているにも拘らず, その使用実態は治療薬であることの反映といえる. これらの点を考慮し, SSM の投与方法は画一に限定せず, 主治医からの経過報告を基に患者ごとに個別に検討する体制をとっている. これらの研究の結果, 基本投与方法の SSM-A・SSM-B 交互隔日投与のほかに A 単独隔日・B 単独隔日・AB 交互連日投与等にするこで, 化学療法・放射線療法等の副作用, 特に白血球数減少の軽減, 一般状態 (QOL: Quality of Life) の改善につながる症例が報告されている. SSM 使用患者は大半が進行期・終末期癌であるにも拘らず, 良好な一般状態を維持しつつ, 当初の予想を超えた長期延命の報告がみられることは, SSM が癌治療において全身療法として重責を果たしている結果といえる. 現在, SSM の使用状況・成績についての検討とともに, SSM の本来の使用目的といえる BRM (Biological Response Modifiers) としての作用および癌免疫療法としての作用について, 特に進行期癌における QOL 向上と延命効果の立場からの検討, SSM と既存の治療法との併用時における効果的な投与方法の検討, 長期生存者については背景要因の解析, 延命効果におよぼす要因の影響の検討を行っている. また, SSM の投与経路ならびに癌予防への応用についても検討を重ねている.

研究業績

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 飯田和美：丸山ワクチンの現状. 工学院大学オープンカレッジ 「がんと向き合う」(東京), 2013. 7.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム：

- 1) 飯田和美：腎の解剖・生理・病理. 先端医療福祉開発研究会定例会 (第101回) (東京), 2013. 1.

[付属病院東洋医学科]

研究概要

これまで「体表面に存在し邪気の制御」を担う「衛気」則ち「defense-qi」が「自然免疫」のことを指す可能性について論じてきた (日本東洋医学会雑誌, 64 (1) : 1-9, 2013). この自然免疫システムは, 主として樹状細胞上の CD1 という脂質抗原提示分子群によって制御されていることが明らかとなってきた. 翻って考えてみると, 我々は経口的に摂取した飲食物をまずは咀嚼し唾液中のアミラーゼによって糖質を分解除去した後, 胃酸の存在する胃内に送り胃液中のペプシンにより蛋白質を分解除去する. さらに, 残留した飲食物由来の脂質に胆汁酸を加えアルカリ化した後, 脂質分解酵素であるリパーゼを加え生体に必要な脂質を産生し, 小腸の乳糜管に運搬しそこで吸収する. そして, 不要な脂質を腸内細菌群を介して排泄する. 従って, 小腸には様々な脂質によって活性化される NKT 細胞や $\gamma \delta$ 型 T 細胞などの自然免疫担当細胞群が配置されている. このような視点を「第 23 回日本医科大学公開シンポジウム」や「日本医師会生涯教育講座」での講演などで発表し文章として残した (日本医科大学医学会雑誌, 9 (4) : 208-213, 2013). また「衛気」に相当する皮膚や粘膜などの体表面に局在し, 「自然免疫」の司令塔とも言うべき樹状細胞亜群「ランゲルハンス細胞 (LC)」を, 末梢血単核球から誘導するために E-cadherin が必須であることを見だし (*Eur J Immunol.*, 43 (1) : 270-280, 2013), 今後の「衛気」研究の礎とした. さらに小腸粘膜組織に棲息する NKT 細胞こそが HIV 感染の主たる感染標的であり (*Biomed Res*, 35 (1) : 1-8, 2014), その制御の鍵を握るのが $V \gamma 1V \delta 1$ 型の $\gamma \delta$ 型 T 細胞であることを突き止めた (*Immunology*, 2014, in press).

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Mayumi N¹⁾, Watanabe E¹⁾, Norose Y¹⁾, Watari E¹⁾, Kawana S²⁾, Geijtenbeek T³⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Dermatology, Nippon Medical School, 3) Department of Experimental Immunology, Academic Medical Center, University of Amsterdam) : E-cadherin interactions are required for Langerhans cell differentiation. *Eur. J. Immunol* 2013 : 43 (1) : 270-280.
- 2) Takahashi H, Watanabe E¹⁾, Mayumi N¹⁾ (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Requirement of E-cadherin Interactions for Langerhans Cell Differentiation. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (2) : 88-89.
- 3) Takahashi M¹⁾, Wolf A²⁾, Watari E¹⁾, Norose Y¹⁾, Ohta S²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon medical School) : Increased mitochondrial functions in human

glioblastoma cells persistently infected with measles virus. *Antiviral Res* 2013 ; 99 (3) : 238-244.

- 4) Harimoto H¹⁾, Shimizu M¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Nakatsuka K²⁾, Wakabayashi A¹⁾, Sakamoto C³⁾, Takahashi H (¹⁾Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾Division of Hepatology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Inactivation of tumor-specific CD8⁺ CTLs by tumor-infiltrating tolerogenic dendritic cells. *Immunol. Cell Biol* 2013 ; 91 (11) : 545-555.
- 5) Takaku S, Osono E¹⁾, Kuribayashi H¹⁾, Takaku C, Hiramata N, Takahashi H (¹⁾Koshigaya ohbukuro clinic) : A case of migraine without aura that was successfully treated with an herbal medicine. *MedJ Altern. Complement* 2013 ; 19 (12) : 970-972.
- 6) Matsumura J¹⁾, Shimizu M¹⁾, Omi K, Nagata N²⁾, Shinya E¹⁾, Oka S³⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Gastroenterology and Hepatology National Center for Global Health and Medicine, ³⁾ AIDS Clinical Center, National Center for Global Health and Medicine) : A possible origin of emerged HIV-1 after interrupting anti-retroviral therapy. *Biomed. Res* 2014 ; 35 (1) : 1-8.
- 7) Omi K, Shimizu M¹⁾, Watanabe E¹⁾, Matsumura J¹⁾, Takaku C, Shinya E¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Inhibition of R5-tropic human immunodeficiency virus type-1 replication in CD4⁺ natural killer T cells by gamma-delta T lymphocytes. *Immunology* 2014 ; 141 (4) : 596-608.

(2) 総説 :

- 1) 高橋秀実 : 脂質制御医学としての東洋医学. *日本医科大学医学会雑誌* 2013 ; 9 (4) : 208-213.
- 2) 平馬直樹 : 江戸時代の漢方医学と現代中医学. *日本医科大学医学会雑誌* 2013 ; 9 (4) : 218-220.
- 3) 若林あや子¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾日本医科大学微生物免疫学) : CD8⁺CD103⁺ 樹状細胞の機能と DEC-205. *臨床免疫・アレルギー科* 2014 ; 61 (2) : 124-130.
- 4) 平馬直樹 : 基礎理論と方剤を結ぶ入門講座⑧ 心(小腸)の病証と治療. *日本中医学雑誌* 2013 ; 3 (2) : 2-8.
- 5) 若林あや子¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾日本医科大学微生物免疫学) : コレラトキシンによる樹状細胞における経口抗原のクロスプレゼンテーション増強効果. *臨床免疫・アレルギー科* 2014 ; 61 (3) : 322-330.
- 6) 高橋秀実 : HIV 感染症に伴う慢性炎症 : その裏に潜むもの. *Confronting HIV2013* 2013 ; 43 (1) : 1-3.

著 書

- 1) 高橋秀実 : [監訳] リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学 (第2版). *リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学 (第2版)* (矢田純一, 高橋秀実), 2013 ; pp1-373, 丸善出版.
- 2) 高久 俊 : [分担] 第12章 : 獲得免疫応答の制御. *リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学 (第2版)* (矢田純一, 高橋秀実), 2013 ; pp167-176, 丸善出版.
- 3) 平馬直樹, 浅川 要^{1,2)}, 辰巳 洋³⁾ (¹⁾東京中医鍼灸センター, ²⁾東京医療福祉専門学校, ³⁾本草薬膳学院) : [編集] 基本としくみがよくわかる 東洋医学の教科書. *基本としくみがよくわかる 東洋医学の教科書*, 2014 ; pp1-255, 株式会社ナツメ社.
- 4) 高橋秀実 : [分担] 第3章 : 感染に対するバリア. *リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学 (第2版)* (矢田純一, 高橋秀実 (監訳)), 2013 ; pp27-36, 丸善出版.
- 5) 高橋秀実 : [分担] 漢方薬の使い方. *すぐに使える高齢者総合診療ノート (大庭健三編)*, 2014 ; pp23-29, 日本医事新報社.
- 6) 高橋秀実 : [分担] 17章 適応免疫と免疫法 (ワクチン接種). *ブラック微生物学 (第3版)*. (神谷茂, 高橋秀実, 林英生, 俣野哲朗 (監訳)), 2014 ; pp460-495, 丸善出版.

- 7) 高橋秀実：〔監修〕ブラック微生物学（第3版）. ブラック微生物学（第3版）（神谷茂, 高橋秀実, 林英生, 俣野哲朗（監訳））, 2014；pp1-850, 丸善出版.
- 8) 高橋秀実：〔分担〕第11章：リンパ球の機能. リッピンコットシリーズ・イラストレイテッド免疫学（第2版）（矢田純一, 高橋秀実）, 2013；pp149-166, 丸善出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 平馬直樹：日本の中医学の現状. 日中医学協会交流シンポジウム（哈爾濱）, 2013. 8.
- 2) 平馬直樹：日本における中医学の現状. 兵庫医科大学中医薬孔子学院記念シンポジウム（神戸）, 2013. 5.
- 3) 平馬直樹：麦門冬湯解説, 下背部の違和感を発症したと考えられる1例. KAMPO Medical Conference（東京）, 2013. 4.
- 4) 高橋秀実：解表法による疾病制御の意義. KAMPO Medical Conference（東京）, 2013. 5.
- 5) 高橋秀実：解表法による疾病制御. KAMPO Medical Conference（東京）, 2013. 6.
- 6) 平馬直樹：『金匱要略』婦人妊娠病脈証并治第二十. KAMPO Medical Conference（東京）, 2013. 7.
- 7) 高橋秀実：東洋医学は脂質制御医学か？. KAMPO Medical Conference（東京）, 2013. 9.
- 8) 高橋秀実：アレルギー疾患に対する漢方治療. KAMPO Medical Conference（東京）, 2013. 12.
- 9) 平馬直樹：腎の概念と病証, 治療. KAMPO Medical Conference（東京）, 2013. 12.
- 10) 高橋秀実：成人型 STILL 病の再燃と温病方剤（清営湯加減法）の有用性. KAMPO Medical Conference（東京）, 2014. 2.
- 11) 平馬直樹：東洋医学から見た証と体質. KAMPO Medical Conference（東京）, 2014. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 平馬直樹：日本漢方医学的發展. 北京中医薬文化科普研究基地人文講壇第5期フォーラム（北京）, 2013. 6.
- 2) 高橋秀実：エイズ制圧に向けての新たな視点. 第63回日本アレルギー学会学術集会（東京）, 2013. 11.
- 3) 平馬直樹：中医基本処方解説その14. 仙台中医学研究会（宮城）, 2013. 4.
- 4) 菅沼 栄：温病学説 総論1. 東京中医学研究会（東京）, 2013. 4.
- 5) 平馬直樹：中医基本処方解説その17. 神奈川実践漢方勉強会（横浜）, 2013. 5.
- 6) 菅沼 栄：温病学説 総論2. 東京中医学研究会（東京）, 2013. 5.
- 7) 菅沼 栄：温熱病 衛分弁証. 東京中医学研究会（東京）, 2013. 6.
- 8) 平馬直樹：日常診療における漢方製剤の応用. 日本医師会生涯教育講座（東京）, 2013. 7.
- 9) 高橋秀実：脂質制御医学としての東洋医学. 日本医師会生涯教育講座（東京）, 2013. 7.
- 10) 平馬直樹：中医基本処方解説その15. 仙台中医学研究会（宮城）, 2013. 7.
- 11) 菅沼 栄：温熱病 気分弁証1. 東京中医学研究会（東京）, 2013. 7.
- 12) 菅沼 栄：気分弁証2. 東京中医学研究会（東京）, 2013. 9.
- 13) 平馬直樹：中医基本処方解説その16. 仙台中医学研究会（宮城）, 2013. 10.
- 14) 菅沼 栄：気分弁証3. 東京中医学研究会（東京）, 2013. 10.
- 15) 平馬直樹：弁証論治のすすめ方 消化器症状. 神奈川実践漢方勉強会（横浜）, 2013. 11.
- 16) 菅沼 栄：気分弁証4. 東京中医学研究会（東京）, 2013. 11.
- 17) 菅沼 栄：営分弁証1. 東京中医学研究会（東京）, 2014. 1.
- 18) 菅沼 栄：営分弁証2. 東京中医学研究会（東京）, 2014. 2.
- 19) 平馬直樹：気の病証と治療. 神奈川実践漢方勉強会（横浜）, 2014. 3.
- 20) 菅沼 栄：営分弁証3. 東京中医学研究会（東京）, 2014. 3.

(3) シンポジウム：

- 1) 高橋秀実：脂質制御医学としての東洋医学. 日本医科大学医学会第23回公開シンポジウム（東京），2013. 6.
- 2) 平馬直樹：江戸時代の漢方医学と現代中医学. 日本医科大学医学会第23回公開シンポジウム（東京），2013. 6.
- 3) 郷家明子：内科疾患に対する鍼灸経絡治療の有用性. 日本医科大学医学会第23回公開シンポジウム（東京），2013. 6.
- 4) 高橋秀実：アレルギー疾患に対する漢方治療. 第63回日本アレルギー学会学術集会（東京），2013. 11.
- 5) Takahashi H：Allergy and Innate Immunity (Introduction). 第63回日本アレルギー学会学術集会（東京），2013. 11.
- 6) Takahashi H：Control of allergic diseases by dendritic cell manipulation. 第63回日本アレルギー学会学術集会（東京），2013. 11.
- 7) 高橋秀実：腫瘍内樹状細胞と腫瘍免疫. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム（東京），2014. 2.

(4) 一般講演：

- 1) Takahashi H, Shimizu M¹, Norose Y¹, Takaku S, Takahashi M¹, Nakagawa Y¹ (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School)：Manipulation of rapid apoptosis for HIV-1 gp160-specific murine CD8⁺ CTLs by free antigenic peptide in vivo. 15th International Congress of Immunology (Milan, Italy), 2013. 8.
- 2) Shinya E¹, Shimizu M¹, Owaki A¹, Mori L², De Libero G², Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Experimental Immunology, Department of Biomedicine, Basel University Hospital)：HIV-1 Nef downregulates CD1a lipid-antigen presentation in dendritic cells via hemopoietic cell kinase (HCK) and p21 activated kinase 2 (PAK2). 15th International Congress of Immunology (Milan, Italy), 2013. 8.
- 3) Negishi Y¹, Wakabayashi A¹, Shimizu M¹, Matsuhashi T¹, Ichikawa T¹, Takeshita T², Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School)：Fetal loss induced by depletion of innate 33D1⁺ dendritic cell subset in mice. 15th International Congress of Immunology (Milan, Italy), 2013. 8.
- 4) Omi K, Shimizu M¹, Watanabe E¹, Owaki A¹, Takaku C, Shinya E¹, Takahashi H：Inhibition of human immunodeficiency virus type-1 replication in CD4⁺ NK T cells by γ δ T lymphocytes. 15th International Congress of Immunology (Milan, Italy), 2013. 8.
- 5) Azuma H¹, Mayumi N¹, Watanabe E¹, Norose Y¹, Watari E¹, Kawana S², Geijtenbeek T³, Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Department of Dermatology, Nippon Medical School, ³ Department of Experimental Immunology, Academic Medical Center, University of Amsterdam)：E-cadherin contribution for Langerhans cell differentiation. 15th International Congress of Immunology (Milan, Italy), 2013. 8.
- 6) Kogo H¹, Harimoto H¹, Shimizu M¹, Date T¹, Nakagawa Y¹, Nakatsuka, K², Wakabayashi A¹, Sakamoto C³, Uchida E⁴, Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Division of Hepatology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ³ Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ⁴ Division of Gastroenterology, Department of Surgery, Nippon Medical School)：Inactivation of tumor-specific CD8⁺ CTLs by tumor-infiltrating lymphocytes by tumor-infiltrating immunosuppressive tolerogenic dendritic cells. 15th International Congress of Immunology (Milan, Italy), 2013. 8.
- 7) Matsumura J¹, Shimizu M¹, Shinya E¹, Oka S², Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² AIDS Clinical Center, National Center for Global Health and Medicine)：

The origin of emerged HIV after terminating anti-retroviral therapy (ART). 15th International Congress of Immunology (Milan, Italy), 2013. 8.

- 8) Murakami R¹), Nakagawa Y¹), Wakabayashi A¹), Kumagai Y¹), Ohkubo K²), Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Department of Oto-Rhino-Laryngology, Nippon Medical School) : Effect of depletion of 33D1⁺ dendritic cells on allergic airway sensitization in mouse model. 15th International Congress of Immunology (Milan, Italy), 2013. 8.
- 9) 高久 俊, 高久千鶴乃, 大藪英一¹), 栗林秀樹¹), 廣田 薫, 近江恭子, 小野顕人, 平馬直樹, 高橋秀実 (¹ 越谷大袋クリニック) : 三黄瀉心湯が有効であった5症例の検討. 第64回日本東洋医学会学術総会 (鹿児島), 2013. 5.
- 10) 齋藤 均¹), 廣田 薫, 高久 俊, 高久千鶴乃, 平馬直樹, 高橋秀実 (¹ 東京都立広尾病院) : 抗 HIV 薬と漢方薬を併用した際の安全性と抗 HIV 薬の効果維持について. 第64回日本東洋医学会学術総会 (鹿児島), 2013. 5.
- 11) 小野顕人, 近江恭子, 廣田 薫, 高久千鶴乃, 高久 俊, 平馬直樹, 高橋秀実 : 湯液ならびに鍼灸治療の併用で食欲不振及び嚥下機能が改善した1例. 第64回日本東洋医学会学術総会 (鹿児島), 2013. 5.
- 12) 廣田 薫, 手塚弓紀子, 近江恭子, 小野顕人, 高久千鶴乃, 高久 俊, 平馬直樹, 高橋秀実 : 頸部ジストニアに対する東洋医学的アプローチ. 第64回日本東洋医学会学術総会 (鹿児島), 2013. 5.
- 13) 近江恭子, 小野顕人, 廣田 薫, 高久 俊, 高久千鶴乃, 平馬直樹, 高橋秀実 : 外傷性頸部症候群に対し漢方治療が奏功した1例. 第64回日本東洋医学会学術総会 (鹿児島), 2013. 5.
- 14) 高橋めぐみ¹), 渡理英二¹), 高橋秀実 (¹ 日本医科大学微生物学免疫学) : ミトコンドリア活性化剤による麻疹ウイルス持続感染細胞の制御. 第61回日本ウイルス学会学術集会 (神戸), 2013. 11.
- 15) 新谷英滋¹), 清水真澄¹), 大脇敦子¹), Mori L²), De Libero G²), 高橋秀実 (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Experimental Immunology, Department of Biomedicine, Basel University Hospital) : Involvement of hemopoietic cell kinase and p21-activated kinase in HIV-1 Nef down-regulation of CD1a-restricted lipid antigen presentation in dendritic cells. 第27回日本エイズ学会学術集会 (熊本), 2013. 11.
- 16) 松村次郎¹), 大脇敦子¹), 近江恭子, 清水真澄¹), 新谷英滋¹), 岡 慎一²), 高橋秀実 (¹ 日本医科大学微生物学免疫学, ² 国立国際医療研究センター・エイズ治療・研究開発センター) : ART 治療中断に伴うウイルス再燃へのNKT細胞の関与. 第27回日本エイズ学会学術集会 (熊本), 2013. 11.
- 17) 近江恭子, 清水真澄¹), 渡辺恵理¹), 松村次郎¹), 高久千鶴乃, 新谷英滋¹), 高橋秀実 (¹ 日本医科大学微生物学免疫学) : $\gamma\delta$ T細胞によるNKT細胞におけるR5型HIV-1の制御. 第27回日本エイズ学会学術集会 (熊本), 2013. 11.
- 18) 村上亮介¹), 中川洋子¹), 清水真澄¹), 根岸靖幸¹), 若林あや子¹), 大久保公裕²), 高橋秀実 (¹ 日本医科大学微生物学免疫学, ² 日本医科大学耳鼻咽喉科) : アレルギー性鼻炎マウスモデルにおける樹状細胞特異的33D1抗体投与の影響. 第63回日本アレルギー学会学術集会 (東京), 2013. 11.
- 19) 若林あや子¹), 中川洋子¹), 清水真澄¹), 野呂瀬嘉彦¹), 高橋秀実 (¹ 日本医科大学微生物学免疫学) : みょうばんとOVAの経口投与による消化管樹状細胞の活性化および特異的IgG・IgE産生の亢進. 第63回日本アレルギー学会学術集会一般講演 (東京), 2013. 11.
- 20) Takahashi H, Mayumi N¹), Koike E¹), Azuma H¹), Otsuka Y¹), Norose Y¹), Watari E¹), Kawana S²), Geijtenbeek T³) (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Department of Dermatology, Nippon Medical School, ³ Department of Experimental Immunology, Academic Medical Center, University of Amsterdam) : E-cadherin interactions promote Langerhans cell differentiation. 第42回日本免疫学会学術集会 (幕張), 2013. 12.

- 21) Negishi Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Matsuhashi T¹⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Protective role of IL-13 for the fetal loss induced with IL-12. 第42回日本免疫学会学術集会(幕張), 2013. 12.
- 22) Wakabayashi A¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Murakami R¹⁾, Date T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Enhancement of OVA-specific IgG and IgE production and expression of costimulatory molecules on dendritic cells in the mesenteric lymph nodes by oral administration of OVA plus potassium alum. 第42回日本免疫学会学術集会(幕張), 2013. 12.
- 23) Shinya E¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, Takahashi M¹⁾, Mori L²⁾, Delibero G²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Experimental Immunology, Department of Biomedicine, Basel University Hospital) : HIV-1 Nef down-regulation of CD1a-restricted lipid-antigen presentation in dendritic cells. 第42回日本免疫学会学術集会(幕張), 2013. 12.
- 24) Omi K, Shimizu M¹⁾, Watanabe E¹⁾, Matsumura J¹⁾, Takaku C, Shinya E¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Gamma-delta T lymphocytes suppress R5-tropic human immunodeficiency virus type-1 replication in CD4+ natural killer T cells. 第42回日本免疫学会学術集会(幕張), 2013. 12.
- 25) Kumagai Y¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Stoichiometric analysis of the interaction between HIV-1 gp120 and β -chemokine receptor by using multivalent V3 epitopes grafted at immunoglobulin hypervariable regions. 第42回日本免疫学会学術集会(幕張), 2013. 12.
- 26) Harimoto H¹⁾, Shimizu M¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Takaku S, Wakabayashi A¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Inactivation of tumor-specific CD8⁺ CTLs by tumor infiltrating tolerogenic dendritic cells expressing down-modulated costimulating molecules. 第42回日本免疫学会学術集会(幕張), 2013. 12.
- 27) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際(9)。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 4.
- 28) 今藤誠俊：ストレスが原因となり上背部の熱感, 下背部の違和感を発症したと考えられる1例。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 4.
- 29) 平馬直樹：玉屏風散解説。温知会(東京), 2013. 4.
- 30) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際(10)。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 5.
- 31) 高久 俊：三黄瀉心湯が有効であった5症例の検討。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 5.
- 32) 廣田 薫：頸部ジストニアに対する東洋医学的アプローチ。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 5.
- 33) 近江恭子：外傷性頸部症候群に対し漢方治療が奏功した1例。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 5.
- 34) 小野顕人：湯液ならびに鍼灸治療の併用で食欲不振及び嚥下機能が改善した1例。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 5.
- 35) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際(11)。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 6.
- 36) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際(12)。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 7.
- 37) 廣田 薫：咽頭不利の病態 胃食道逆流症の症例から。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 9.
- 38) 高久 俊：漢方頻用処方解説 防風通聖散。ラジオNIKKEI 漢方トゥデイ(東京), 2013. 10.
- 39) 高久 俊：漢方頻用処方解説 防風通聖散。ラジオNIKKEI 漢方トゥデイ(東京), 2013. 11.
- 40) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際(14)。KAMPO Medical Conference(東京), 2013. 12.
- 41) 平馬直樹：漢方頻用処方解説 炙甘草湯。ラジオNIKKEI 漢方トゥデイ(東京), 2013. 12.
- 42) 平馬直樹：漢方頻用処方解説 桃核承気湯。ラジオNIKKEI 漢方トゥデイ(東京), 2013. 9.

- 43) 廣田 薫：漢方類用処方解説 芍薬甘草等1. ラジオ NIKKEI 漢方トゥデイ (東京), 2014. 1.
- 44) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (15). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 1.
- 45) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (16). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 2.
- 46) 廣田 薫：漢方類用処方解説 芍薬甘草等1. ラジオ NIKKEI 漢方トゥデイ (東京), 2014. 2.
- 47) 平馬直樹：漢方類用処方解説 香蘇散. ラジオ NIKKEI 漢方トゥデイ (東京), 2014. 3.
- 48) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (17). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 高橋秀実：免疫と漢方：黄帝内経に啓示された古代人の智慧. 日本東洋医学会雑誌 2013；64 (1)：1-9.
- 2) 高橋秀実：丸山ワクチンの新展開. 遙か 2013；8 (1)：39-43.
- 3) 平馬直樹：基礎理論と方剤を結ぶ入門講座⑦ 腎(膀胱)の病証と治療. 日本中医学雑誌 2013；3 (1)：23-29.

追加分原著：

- 1) Nakagawa Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Norose Y¹⁾, Takahashi M¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Induction of rapid apoptosis for class I MHC molecule-restricted CD8+ HIV-1 gp160-specific murine activated CTLs by free antigenic peptide in vivo. *Int. Immunol* 2013；25 (1) : 11-24.
- 2) Tamura H¹⁾, Ishibashi M¹⁾, Tanosaki S¹⁾, Okuyama N¹⁾, Kondo A¹⁾, Hyodo H¹⁾, Shinya E²⁾, Takahashi H, Dong H³⁾, Tamada K, Chen L⁴⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Marrow stromal cells induce B7-H1 expression on myeloma cells, generating aggressive characteristics in multiple myeloma. *Leukemia* 2013；27 (2) : 464-472.
- 3) Takaku S, Nakagawa Y¹⁾, Owaki A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takahashi M¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Induction of apoptosis-resistant and TGF- β -insensitive murine CD8+ CTLs specific for HIV-1 gp160. *Cell. Immunol* 2013；280 (2) : 138-147.

学会発表

追加分ワークショップ：

- 1) Takahashi H : Suppression of virus replication within HIV-1-infected mucosal innate immuno-competent cells. Japan-US AIDS Panel Meeting. Workshop (Singapore), 2013. 3.
- 2) Takahashi H : In vivo inhibition of HIV-specific CTL apoptosis induced by brief exposure to viral epitope. Japan-US AIDS Panel Meeting. Workshop (Singapore), 2013. 3.

追加分一般講演：

- 1) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (6). KAMPO Medical Conference (東京), 2013. 1.
- 2) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (7). KAMPO Medical Conference (東京), 2013. 2.
- 3) 小野頭人：漢方治療にて気管支喘息が改善した1例. KAMPO Medical Conference (東京), 2013. 2.
- 4) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (8). KAMPO Medical Conference (東京), 2013. 3.

追加分教育講演：

- 1) 高橋秀実：丸山ワクチンの現状と展望. 第76回日本皮膚科学会東京都部会 (東京), 2013. 2.
- 2) 平馬直樹：中医基本処方解説その13. 仙台中医学研究会 (宮城), 2013. 1.
- 3) 菅沼 栄：婦人の産後病の脈・証・治1. 東京中医学研究会 (東京), 2013. 1.

- 4) 菅沼 栄：婦人の雑病の脈・証・治1. 東京中医学研究会（東京），2013. 2.
- 5) 菅沼 栄：婦人の雑病の脈・証・治2. 東京中医学研究会（東京），2013. 3.

追加分特別講演：

- 1) 平馬直樹：日本後世方派漢方. 2013年中医薬学術研討会（台北），2013. 3.
- 2) 平馬直樹：腎の概念と病証，治療. 日本東洋医学会東海支部指導者講習会（名古屋），2013. 2.
- 3) 平馬直樹：中国伝統医学の診断治療システム. 日本東洋医学会関東甲信越地区春期教育講演会（東京），2013. 3.
- 4) 高久千鶴乃：心に残る症例：不妊症の漢方治療から. KAMPO Medical Conference（東京），2013. 3.

[ゲノム先端医療部]

研究概要

ヒト遺伝子研究の成果は、遺伝子検査の対象が従来の単一遺伝子病から薬物感受性や疾患易罹患性へと幅が広がってきている。遺伝情報を個の医療に活用する、個人の疾患の早期診断さらに予防への応用、すなわちオーダーメイド医療（個別化医療）が現実のものになりつつある。今後、日常診療の場でオーダーメイド医療のための遺伝子情報を用いる機会が増えることが予想され、そのための病院内での体制作りが急がれる。日本医科大学付属病院では法人の全面的支援を受けて全国の医科大学に先駆け、平成20年4月にオーダーメイド遺伝子医療を実現するための「ゲノム先端医療部」を開設した。我々の部署では近年著しく増加してきた臨床の有用性が実証されつつある遺伝子情報を、倫理的課題にも配慮し医療現場に還元することを目的としている。全自動遺伝子解析装置を導入し、インターフェロンの感受性に関わるIL28B遺伝子多型解析については、2013年5月に先進医療実施施設として認定され、検査を中央検査部に移行した。イリノテカンの副作用に関連するUGT1A1遺伝子についても検討し、個別化医療とある遺伝子多型検査項目を増やしつつある。さらに、「個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト」の成果であるカルバマゼピン、ワルファリン関連の遺伝子多型検査を多施設前向き研究も武蔵小杉病院から開始した。さらなる検査項目の増加を目指し検討を進めている。これらのオーダーメイド医療が臨床の場で実現されていくには、倫理的・法的・社会的問題（Ethical, Legal and Social Issues）への対応を同時に検討することが求められる。ゲノム先端医療部は、これらの進歩に迅速に対応し、日本における先端医療の臨床応用への橋渡しを推進していく部署として発展していきたい。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) Watanabe A¹⁾, Naing B¹⁾, Shimada T¹⁾ (1) 生化学・分子生物学（分子遺伝学）：Systems-based approach to drug response. *Curr Genet Med Rep* 2013；1（3）：171-174.

著書

- 1) 渡邊 淳¹⁾ (1) 付属病院 ゲノム先端医療部）：[分担] テーラーメイド医療からみたSNP遺伝子多型の戦略. 産婦人科における臨床遺伝学—ゲノム医療の展開：各論 研修ノート No92（公益社団法人 日本産婦人科医会），2014；pp79-84，公益社団法人 日本産婦人科医会.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学（分子遺伝学），²⁾ 付属病院 遺伝診療科）：「ヒトゲノム・遺伝子解析研究

に関する倫理指針」の改正と留意点について. 平成 25 年度 臨床研究講習会 (日本医科大学) (東京), 2013. 7.

- 2) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 遺伝診療科: 『ゲノム医療の現場では』 遺伝子の情報はどのように私たちのからだにかかわっているか. 文京アカデミア (東京), 2013. 12.
- 3) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 遺伝診療科: 『DNA と私たちのからだ・病気』 遺伝子の情報はどのように私たちのからだにかかわっているか. 第 8 回「私たちの DNA」(東京), 2013. 9.
- 4) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 遺伝診療科: ファームコゲノミクス (PGx) 情報 (検査) を扱う時のキーポイント. 第 4 回遺伝カウンセリング研修会 (京都), 2013. 7.
- 5) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 遺伝診療科: 新しいゲノム解析指針. 第 1 回ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する講習会 (東京理科大学) (野田), 2013. 4.

(2) 招待講演:

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 遺伝診療科: ゲノム医療の現場では. 東京都高等学校生物研究会 (東京), 2013. 7.

(3) シンポジウム:

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 遺伝診療科: 日本医科大学におけるオーダーメイド医療 研究成果を臨床現場へ. 日本医科大学 オーダーメイド医療 講演会 (東京), 2013. 5.

(4) パネルディスカッション:

- 1) 渡邊 淳¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学): がんを対象にしたエクソーム解析の実用化と倫理的課題. 日本遺伝子診療学会: 遺伝子診断・検査技術推進フォーラム公開シンポジウム 2013 (東京), 2013. 12.

(5) 一般講演:

- 1) 土佐真美子¹⁾, 渡邊 淳²⁾, 村上正洋¹⁾, モハマッドガジザテ³⁾ (1) 武蔵小杉病院 形成外科, ²⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ³⁾ 老人病研究所 病理部門: ケロイド患者における IL-6 関連遺伝子多型パターンと臨床像との関連について. 第 56 回日本形成外科学会総会・学術集会 (東京), 2013. 4.
- 2) Watanabe A¹⁾, Ogawa R²⁾, Sasaki M, Fujita A, Naing B¹⁾, Akaishi S²⁾, Hyakusoku H²⁾, Shimada T¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 形成外科: A replication study for four keloid loci at 1q41, 3q22.3-23 and 15q21.3 in the Japanese population. European Society of Human Genetics (ESHG) Conference 2013 (Paris), 2013. 6.

[付属病院総合診療センター]

研究業績

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 小原俊彦, 須崎 真, 若栗大朗, 鈴木将大, 桐木園子, 小野寺直子, 荒木 尚, 兵働英也, 川井 真, 安武正弘: 総合診療医と救急医が協力したチームとしての初診・救急対応の試み: 患者背景から考える. 第 7 回日本病院総合診療医学会 (広島), 2013. 8.

(2) 一般講演:

- 1) 兵働英也¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 桐木園子¹⁾, 須崎 真¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行²⁾, 安武正弘¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, ²⁾ 高度救命救急センター: 当診療科外来初診患者における担癌患者の状況について. 日本内科学会総会 (第 110 回) (東京), 2013. 4.
- 2) 兵働英也¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 林 宏紀¹⁾, 須崎 真¹⁾, 安武正弘¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院総合診

療センター)：平成 24 年 11～12 月期に当科を受診した感染性胃腸炎患者の解析. 日本感染症学会学術講演会 (第 87 回) (横浜), 2013. 6.

- 3) 若栗大朗¹⁾, 須崎 真¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 鈴木康友²⁾, 兵働英也¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 近藤幸尋²⁾, 川井 真¹⁾, 安武正弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター, ²⁾ 泌尿器科)：後腹膜に発生した脱分極型脂肪肉腫により急速な両側性下肢浮腫の増悪を来した 1 例. 第 599 回内科学会関東地方会 (東京), 2013. 9.
- 4) 若栗大朗¹⁾, 中村俊一²⁾, 坂巻雅典³⁾, 内海甲一³⁾, 兵働英也¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 清水 渉²⁾, 川井 真¹⁾, 安武正弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター, ²⁾ 循環器内科, ³⁾ 神経・腎臓内科)：右視力低下と左上肢の痺れを主訴に来院したヘテロ型ファブリー病の 1 例. 第 601 回内科学会関東地方会 (東京), 2013. 11.
- 5) 須崎 真¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 林 励治¹⁾, 増野智彦^{1, 2)}, 安武正弘¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター, ²⁾ 高度救命救急センター)：大学病院総合診療センターにおける小児外傷患者の検討. 日本小児救急医学会学術集会 (第 27 回) (沖縄), 2013. 6.
- 6) 須崎 真¹⁾, 藤田和恵^{1, 2)}, 林 宏紀^{1, 2)}, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 斎藤好信²⁾, 弦間昭彦²⁾, 川井 真¹⁾, 安武正弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター, ²⁾ 呼吸器内科)：大学病院の総合診療センターを受診した感染症患者の臨床的検討. 日本感染症学会学術講演会 (第 87 回) (横浜), 2013. 6.
- 7) 須崎 真¹⁾, 荒木 尚^{1, 2)}, 小原俊彦¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 林 励治^{1, 2)}, 増野智彦^{1, 2)}, 川井 真¹⁾, 横田裕行²⁾, 安武正弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：小児外傷診療における ER 対応の現状と課題. 日本救急医学会総会学術集会 (第 41 回) (東京), 2013. 10.

28. 武蔵小杉病院付置施設等

[武蔵小杉病院消化器病センター]

研究概要

当科は消化器外科医・内科医, 内視鏡専門医で構成され消化器疾患全般の診断から治療まで幅広い診療・研究を行っている。以下に現在精力的に継続している臨床的, 基礎的研究テーマについて紹介する。【悪性疾患】1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究 2. 胃癌, 大腸癌における化学療法・分子標的治療に関する基礎的・臨床病理学的研究 3. 肝細胞癌, 膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究 4. 消化器癌の集学的治療, 抗癌剤感受性試験による胃癌, 大腸癌化学療法の確立 5. 進行膵・胆道癌に対する拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求 6. 肝臓癌に対する集学的治療 7. 消化器癌に対する鏡視下手術 8. 特殊内視鏡(拡大, 特殊光)による消化管早期癌診断 9. 早期癌に対する内視鏡治療 10. IVRを応用した消化管, 胆道, 血管内ステント治療 11. 閉塞性黄疸に対する減黄術(PTCD, 内視鏡的ステント) 12. 進行再発大腸癌に対する分子標的治療とバイオマーカーの研究 13. 直腸癌治療における肛門機能温存の追及 【緊急疾患】1. イレウスの保存的・外科的治療, 病態解析, 新しい診断と治療の開発 2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療, 臨床的研究 3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究 4. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求 【良性疾患】1. 胃十二指腸潰瘍における H. pylori の臨床的・基礎的研究 2. 胆道結石に対する内視鏡的治療・腹腔鏡手術 3. 鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術(TAPP)の標準化と臨床的有用性の研究 4. 創傷治癒, 外科侵襲に関する基礎研究 5. 小腸鏡・カプセル内視鏡による小腸疾患の早期診断・治療 6. 単孔式腹腔鏡下手術の標準化と臨床的有用性の研究 7. 炎症性腸疾患に対する分子生物学的治療の研究 8. イレウスに対する小腸鏡の診断・治療的有用性に関する研究

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 埜 秀暁^{1, 2)}, 江原一尚²⁾, 野田和雅²⁾, 菊地 功²⁾, 川島吉之²⁾, 田中洋一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 埼玉県立がんセンター 消化器外科): 完全腹腔鏡下幽門側胃切除術における口側胃切除線決定のための色素注入法. 日本内視鏡外科学会雑誌 2013; 18 (6): 745-749.
- 2) Nomura S¹⁾, Watanabe M¹⁾, Komine O²⁾, Shioya T³⁾, Toyoda T¹⁾, Bou H¹⁾, Shibuya T³⁾, Suzuki H¹⁾, Uchida E⁴⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 2) Department of Surgery, Saitama Citizens Medical Center, 3) Department of Surgery, Sayama Chuo Hospital, 4) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School Graduate School of Medicine): Serum total bilirubin elevation is a predictor of the clinicopathological severity of acute appendicitis. Surgery Today 2013; epub.
- 3) Bou H¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Suzuki H¹⁾, Murata N²⁾, Sugiyama Y²⁾, Fukuda N²⁾, Ishimaru M³⁾, Suzuki H³⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital, 2) Department of Surgery, University Hospital of Mizinokuchi, Teikyo University School of Medicine, 3) Department of Surgery, Kanto Rosai Hospital): Phase II Study of Irinotecan plus S-1 in Treatment of Advanced Gastric Cancer. Journal of Cancer Therapy 2013; 4 (2): 578-583.
- 4) Bou H¹⁾, Suzuki H¹⁾, Maejima K¹⁾, Hanawa H¹⁾, Watanabe M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi-kosugi Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School): Estimation of Physiologic Ability and Surgical Stress Scoring System Appraises Laparoscopy-Assisted and

Open Distal Gastrectomy in Treatment of Early Gastric Cancer. *Journal of Cancer Therapy* 2013 ; 4 (9A) : 1-5.

- 5) Komine O, Tanaka Y¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Sakamoto H¹⁾, Watanabe M, Suzuki H, Tokunaga A, Uchida E²⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterological Surgery, Saitama Cancer Center, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Short-term postoperative superiority and 5-year follow-up outcomes of video-assisted thoracoscopic esophagectomy for treatment of esophageal carcinoma : a historical comparison with conventional open esophagectomy under a single experienced surgeon. *Esophagus* 2014 ; 11 (1) : 54-63.

(2) 総説 :

- 1) 中田亮輔, 鈴木英之 : 消化器外科における腹腔鏡手術の現状と今後の展望. *光技術コンタクト* 2013 ; 51 (12) : 18-25.

(3) 症例報告 :

- 1) 塙 秀暁^{1, 2)}, 八岡利昌²⁾, 横山康行²⁾, 江原一尚²⁾, 網倉克己²⁾, 西村洋治²⁾, 坂本裕彦²⁾, 田中洋一²⁾, 大庭華子³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器外科, ³⁾ 埼玉県立がんセンター 病理診断科) : 根治手術後 17 年目に孤立大腸転移を来した卵巣癌の 1 例. *日本大腸肛門病学会雑誌* 2013 ; 66 (7) : 529-533.
- 2) 黒田誠司¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 和田由大¹⁾, 内間久隆²⁾, 島田裕司³⁾, 大石卓爾³⁾ (¹⁾ さいたま市民医療センター 外科, ²⁾ さいたま市民医療センター 病理診断科, ³⁾ さいたま市民医療センター 放射線科) : 成人特発性腸重積に小腸軸捻転を合併した 1 例. *日本外科系連合学会誌* 2013 ; 38 (5) : 1042-1046.
- 3) Mizutani S¹⁾, Aimoto T²⁾, Suzuki H¹⁾, Yamagishi S¹⁾, Watanabe M¹⁾, Uchida E²⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : The Frey procedure with the use of two types of ultrasonically activated scalpels for chronic pancreatitis (report of a case). *J NMS* 2013 ; 80 (4) : 312-317.
- 4) 松信哲朗, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科) : 肛門管癌の Pagetoid spread. *日本医科大学医学会雑誌* 2013 ; 9 (4) : 188-189.
- 5) 大山莉奈¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 村木 輝¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 山際 亮¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学消化器外科) : 肛門部 Bowen 癌の 1 例 : 自験例を含めた本邦報告 8 例の集計. *日本大腸肛門病学会雑誌* 2014 ; 67 (3) : 183-187.
- 6) Hoshino A, Nakamura Y¹⁾, Suzuki H, Mizutani S, Ishii H²⁾, Watanabe M, Bou H, Yoshino M, Komine O, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Adenocarcinoma of the Minor Duodenal Papilla : Report of a Case. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (2) : 165-170.
- 7) Hoshino A, Nakamura Y¹⁾, Suzuki H, Mizutani S, Chihara N, Matsunobu T, Maejima K, Miura K, Hanawa H, Nomura S, Toyoda T, Yamagishi S, Nakata N, Muraki A, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Gastrointestinal Surgery, Nippon Medical School) : Giant Epidermoid Cyst of the Spleen with Elevated CA 19-9 Production Managed Laparoscopically : Report of a Case. *Journal of Nippon Medical School* 2013 ; Vol.80 (No.6) : 470-474.
- 8) 村木 輝¹⁾, 山本康弘²⁾, 岡村幹郎²⁾, 重原健吾²⁾, 宮本正之²⁾, 鈴木和香子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 小林病院 外科) : 消化管外アニサキス症と推定され腹腔鏡下イレウス解除術を行った 1 例. *日本内視鏡外科学会雑誌* 2013 ; 18 (5) : 587-593.

(4) 特集 :

- 1) 中田亮輔, 千原直人, 鈴木英之, 野村 聡, 村木 輝, 山岸征嗣, 星野有哉, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医

科大学 外科)：鼠径部ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡を用いた治療戦略. 腹部救急医学会雑誌 2014；34 (1)：81-86.

- 2) 渡辺昌則, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：最新の週周期感染管理・大腸外科の手術. 消化器外科特集号 2013；36 (7月号)：1183-1190.

著書

- 1) 鈴木英之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター)：〔分担〕人工肛門と癒し. 癒しの環境 (癒しの環境研究会), 2013；pp12-18, 三友社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 渡辺昌則, 野村 聡, 小峯 修, 埴 秀暁, 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：En bloc なリンパ節郭清を目指した腹臥位胸腔鏡下食道切除術. 第26回日本小切開・鏡視外科学会総会 (東京), 2013. 11.

(2) ワークショップ：

- 1) 鈴木英之¹⁾, 勝俣範之²⁾, 渡辺昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小野寺恵子⁵⁾, 片岡博邦⁴⁾, 中塚雄久³⁾, 内田英二⁶⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 武蔵小杉病院腫瘍内科, 3) 武蔵小杉病院消化器内科, 4) 武蔵小杉病院薬剤部, 5) 武蔵小杉病院看護部, 6) 日本医科大学消化器外科)：癌治療におけるチーム医療としてのカンサーボードの役割と問題点. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.

- 2) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸²⁾, 山岸征嗣¹⁾, 八木亜記¹⁾, 村木 輝¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：細膵管径・soft pancreas にも対応する簡便かつ画一的な膵管空腸粘膜吻合手順. 第25回日本肝胆膵外科学会 (宇都宮), 2013. 6.

- 3) 中田亮輔, 鈴木英之, 千原直人, 渡辺昌則, 星野有哉, 野村 聡, 村木 輝, 山岸征嗣, 大山莉奈, 清水貴夫, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：de novo type のI型ヘルニアにおける腹膜鞘状突起の認識. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.

- 4) 中田亮輔, 鈴木英之, 千原直人, 渡辺昌則, 星野有哉, 野村 聡, 豊田哲鎬, 山岸征嗣, 大山莉奈, 清水貴夫, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：当科における閉鎖孔ヘルニアに対する治療戦略. 日本ヘルニア学会学術集会 (第11回) (仙台), 2013. 5.

- 5) 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 村木 輝¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：鼠径部, 閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡下手術の定型化 (救急医療における内視鏡外科の工夫). 日本内視鏡外科学会総会主要関連演題 (第26回) (福岡), 2013. 11.

- 6) 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：当科における単孔式 TAPP の変遷. 日本ヘルニア学会学術集会 (第11回) (宮城), 2013. 5.

(3) 一般講演：

- 1) 清水貴夫, 鈴木英之, 千原直人, 星野有哉, 松信哲朗, 三浦克洋, 中田亮輔, 大山莉奈, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：当科における閉鎖孔ヘルニア嵌頓の術式の変遷. 日本外科系連合学会学術集会 (第38回) (東京都), 2013. 6.

- 2) 清水貴夫, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 村木 輝, 山際 亮, 渡辺昌則)：直腸癌に対する DST・SST の実績と工夫. 神奈川消化器外科研究会 (第42回) (神奈川県), 2013. 6.

- 3) 清水貴夫, 鈴木英之, 千原直人, 山岸征嗣, 八木亜紀, 大山莉奈, 山際 亮, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 小腸内視鏡 (DBE) にて診断し腹腔鏡補助下小腸部分切除を施行した小腸腫瘍の経験. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎県), 2013. 7.
- 4) 吉野雅則, 鈴木英之, 松信哲朗, 豊田哲鎬, 村木 輝, 大山莉奈, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 進行再発大腸癌における血清 p53 抗体測定の意義. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 5) 吉野雅則, 鈴木英之, 松信哲朗, 大山莉奈, 清水貴夫, 村木 輝, 中田亮輔, 水谷 聡, 坊 英樹, 渡辺昌則, 松本智司¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科) : 当科における腹腔鏡下側方リンパ節郭清 : 簡便化と定型化を目指して. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 6) 八木亜記¹⁾, 山本康弘¹⁾, 古郡茉里子¹⁾, 重原健吾¹⁾, 岡村幹郎¹⁾ (1) 小林病院) : 経肛門のイレウス管が腹壁へ穿通を来たした 1 例. 日本臨床外科学会 北海道支部例会 (第 104 回) (札幌), 2013. 12.
- 7) 八木亜記¹⁾, 山本康弘¹⁾, 古郡茉里子¹⁾, 重原健吾¹⁾, 岡村幹郎¹⁾, 市来一彦²⁾, 生田克哉³⁾ (1) 小林病院 外科, ²⁾ 小林病院 内科, ³⁾ 旭川医科大学 内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野) : 慢性骨髄性白血病経過中に術後 9 年を経て胃癌再発が判明した 1 例. 日本消化器病学会 北海道支部例会 (第 114 回) (札幌), 2014. 3.
- 8) 豊田哲鎬, 鈴木英之, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 大山莉奈, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : 潰瘍性大腸炎に対する早期インフリキシマブ導入と問題点. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 9) 豊田哲鎬, 鈴木英之, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 村木 輝, 大山莉奈, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : 憩室炎による S 状結腸膀胱瘻に対して腹腔鏡下 S 状結腸切除術で治癒した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 10) 三島圭介¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 澁谷 肇¹⁾, 山田太郎¹⁾, 内間久隆²⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, ²⁾ さいたま市民医療センター 病理診断科) : 金属ステント挿入後に口側腸管が穿孔した S 状結腸癌イレウスの 1 例. 外科集団会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
- 11) 三島圭介¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 澁谷 肇¹⁾, 山田太郎¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科) : 腹腔鏡補助下手術で治療した腸石イレウスの 2 例. 日本内視鏡外科学会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 12) 塙 秀暁^{1, 2)}, 横山康行²⁾, 山田達也²⁾, 江原一尚²⁾, 福田 俊²⁾, 八岡利昌²⁾, 網倉克己²⁾, 川島吉之²⁾, 坂本裕彦²⁾, 田中洋一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器外科) : 腹腔鏡下結腸切除術の SSI 発生率に関する検討. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 13) 塙 秀暁¹⁾, 前島颯太郎¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 千原直人¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 野村聡¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学武 外科) : 早期胃癌に対する開腹手術と_腹腔鏡補助下手術の E-PASS スコアリングシステムを用いた比較. 胃外科・術後障害研究会 (第 43 回) (新潟), 2013. 11.
- 14) 塙 秀暁¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 前島颯太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 村木 輝¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内藤英二¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 外科) : 術前診断に苦しめた小腸憩室内翻の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 15) 塙 秀暁¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 前島颯太郎¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 外科) : 胃粘膜下腫瘍に対する単孔式腹腔鏡下胃部分切除の経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 16) 前島颯太郎, 鈴木英之, 渡辺昌則, 坊 英樹, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化

- 器外科)：切除不能・再発胃癌に対する S-1+CDDP 療法の有害事象対策と外来化学療法. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 17) 前島顕太郎, 坊 英樹, 塙 秀暁, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：E-PASS scoring system による胃癌手術における術後合併症発生リスクの検討. 日本癌治療学会総会 (第 51 回) (京都), 2013. 10.
 - 18) 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 塙 秀暁, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：E-PASS scoring system による胃癌手術における年齢別術後合併症発生リスクの検討. 胃外科・術後障害研究会 (第 43 回) (新潟), 2013. 11.
 - 19) 前島顕太郎, 坊 英樹, 塙 秀暁, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：当科における腹腔鏡下胃切除術の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
 - 20) 前島顕太郎, 坊 英樹, 塙 秀暁, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 水谷 聡, 松信哲朗, 野村 聡, 大山莉奈, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：切除不能進行再発胃癌に対する S-1+CDDP 療法の有害事象対策と外来化学療法. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (横浜), 2014. 3.
 - 21) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 村木 輝¹⁾, 菅 隼人²⁾, 渡辺正則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科)：進行再発大腸癌に対する XELOX 療法の評価. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
 - 22) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 渡辺正則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科)：進行再発大腸癌外来化学療法の経済的問題. 日本外科系連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.
 - 23) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 村木 輝¹⁾, 渡辺正則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科)：進行再発大腸癌に対する外来 CapeOX 療法の効果とコンプライアンス. 日本消化器関連学会週間 JDDW (第 21 回) (東京), 2013. 10.
 - 24) 三島圭介¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 小峯 修¹⁾, 澁谷 肇¹⁾, 山田太郎¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科)：急性虫垂炎を契機に発症した壊死性筋膜炎の 1 例. 埼玉県外科集団会 (第 31 回) (埼玉県), 2013. 11.
 - 25) 三島圭介¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 小峯 修¹⁾, 澁谷 肇¹⁾, 山田太郎¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科)：腹壁膿瘍を契機に発見された S 状結腸癌の 1 切除例. 埼玉県外科医会 (第 16 回) (埼玉県), 2013. 7.
 - 26) 三島圭介¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 小峯 修¹⁾, 澁谷 肇¹⁾, 山田太郎¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科)：腹壁膿瘍を契機に発見された S 状結腸癌の 1 切除例. 埼玉県外科医会 (第 16 回) (埼玉県), 2013. 7.
 - 27) 野村 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 千原直人¹⁾, 村木 輝¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：審査腹腔鏡が診断に有用であった被嚢性腹膜硬化症の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
 - 28) 野村 聡¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 務²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科)：巨大食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術の 1 例. 第 67 回 日本食道学会学術集会 (大阪), 2013. 6.
 - 29) 清水貴夫, 鈴木英之, 千原直人, 松信哲朗, 豊田哲鎬, 野村 聡, 村木 輝, 中田亮輔, 大山莉奈, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：腹膜透析中に鼠径ヘルニアを再発し TAPP にて治療し得た 1 例. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 11 回) (仙台), 2013. 5.
 - 30) 黒田誠司^{1, 4)}, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 小峯 修¹⁾, 澁谷 肇¹⁾, 三島圭介¹⁾, 山田太郎¹⁾, 内間

- 久隆²⁾, 島田裕司³⁾, 大石卓爾³⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, 2) さいたま市民医療センター 病理診断科, 3) さいたま市民医療センター 放射線科, 4) 東戸塚記念病院 外科): 完全内臓逆位を伴う胆嚢ポリープに対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を行った1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 31) 黒田誠司^{1,4)}, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渋谷 肇¹⁾, 三島圭介^{1,4)}, 山田太郎¹⁾, 内間久隆²⁾, 島田裕司³⁾, 大石卓爾³⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, 2) さいたま市民医療センター 病理診断科, 3) さいたま市民医療センター 放射線科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 術後病理標本で胆嚢管転移が発見された膵癌の1例. 日本外科病理学会学術集会 (第18回) (東京), 2013. 9.
- 32) 黒田誠司¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 和田由大¹⁾, 山田太郎¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科): 当センターにおける大腸癌化学療法の変遷 (若手医師のスムーズな化学療法導入への取り組み). 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 33) Mizutani S¹⁾, Suzuki H¹⁾, Aimoto T²⁾, Yamagishi S¹⁾, Muraki A¹⁾, Hoshino A¹⁾, Yoshino M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School): Pancreaticojejunostomy with duct-to-mucosa improves the incidence of over grade B pancreatic fistula in patients with soft pancreas compared with total diversion. 45th. European Pancreatic Club (Zurich), 2013. 6.
- 34) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉田 寛²⁾, 谷合信彦³⁾, 山岸征嗣¹⁾, 村木 輝¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学外科): 肝門部領域癌に対する術前ドレナージの工夫. 日本消化器外科学会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 35) 豊田哲鎬¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 横山康行¹⁾, 島田 竜¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川島吉之¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科): 直腸癌の同時性両側副腎転移の1切除例. 埼玉県外科集談会 (第31回) (埼玉), 2013. 11.
- 36) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本外科学会 (第113回) (福岡), 2013. 4.
- 37) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本消化器外科学会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 38) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科): 消化器癌手術における創感染のない最適な創治療をめざした閉創の工夫. 日本創傷治療学会 (第43回) (大分), 2013. 11.
- 39) 坊 英樹¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科): 進行・再発胃癌初回治療におけるCapecitabine+CDDP療法 (XP) 分割投与の安全性試験. 日本胃癌学会 (第86回) (横浜), 2014. 3.
- 40) 中田亮輔, 水谷 聡, 鈴木英之, 山岸征嗣, 村木 輝, 星野有哉, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 術前診断に難渋したIgG4関連硬化性胆管炎の1例. 日本外科病理学会学術集会 (第18回) (東京), 2013. 9.
- 41) 中田亮輔, 鈴木英之, 千原直人, 渡辺昌則, 星野有哉, 大山莉奈, 清水貴夫, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): Management of incarcerated inguinal hernias in the era of laparoscopy. Annual Hernia Repair (16th) (Las Vegas, NV.), 2014. 3.
- 42) 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 野村 聡¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 当科における単孔式 TAPP plus one puncture (POP) の手

- 技と位置付け. 日本内視鏡外科学会総会主要関連演題 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 43) Chihara N¹⁾, Suzuki H¹⁾, Watanabe M¹⁾, Nakata R¹⁾, Oyama R¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Pure single incision versus plus one punctured single incision for TAPP. Annual hernia repair (16th) (The Bellagio, Las Vegas), 2014. 3.
 - 44) 松信哲朗, 鈴木英之, 吉野雅則, 千原直人, 前島顕太郎, 三浦克洋, 塙 秀暁, 豊田哲鎬, 野村 聡, 村木 輝, 中田亮輔, 大山莉奈, 清水貴夫, 山際 亮, 星野有哉, その他 3 名 : 大腸悪性狭窄に対する Self-expanding metallic stent の安全性と有用性の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
 - 45) 和田由大¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科) : 胆嚢炎症性偽腫瘍の 1 例. 肝胆膵外科学会 (第 25 回) (宇都宮), 2013. 6.
 - 46) 和田由大¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 黒田誠司¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科) : 当院において外科的治療を要した小腸疾患の検討. 消化器外科学会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
 - 47) 和田由大¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 内山喜一郎¹⁾, 萩原英之¹⁾, 名取穰治¹⁾, 加納恒久¹⁾, 阿部 豊¹⁾, 宮前 拓¹⁾, 去川秀樹¹⁾, 鎌田順道¹⁾ (1) 海老名総合病院 外科) : 後腹膜原発の巨大 solitary fibrous tumor の 1 例. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
 - 48) 和田由大¹⁾, 萩原英之¹⁾, 鎌田順道¹⁾, 去川秀樹¹⁾, 宮前 拓¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 阿部 豊¹⁾, 加納恒久¹⁾, 名取穰治¹⁾, 内山喜一郎¹⁾ (1) 海老名総合病院外科) : 成人に発症した特発性腸重積症の 1 例. 神奈川県臨床外科医学会集談会 (第 135 回) (神奈川), 2013. 12.
 - 49) 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 野村 聡¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科) : 当科における腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術 (LVHR) の手技. 神奈川ヘルニア研究会 (第 5 回) (神奈川), 2013. 12.
 - 50) 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科) : 閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡下手術定型化の試み. 外科集談会 (第 829 回) (東京), 2013. 6.
 - 51) 渡辺昌則, 小峯 修, 野村 聡, 前島顕太郎, 坊 英樹, 村木 輝, 吉野雅則, 栗原雄司, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科) : En bloc resection を目指した腹臥位胸腔鏡下食道切除術. 第 67 回日本食道学会学術集会 (大阪), 2013. 6.
 - 52) 渡辺昌則, 野村 聡, 塙 秀暁, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科) : 結腸・直腸手術の SSI における NNIS Risk Index の性能評価. 日本外科感染症学会総会 (第 26 回) (神戸), 2013. 11.
 - 53) 渡辺昌則, 野村 聡, 小峯 修, 塙 秀暁, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科) : 大腸手術における手術時間の延長は本当に SSI を増加させるか?. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
 - 54) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春¹⁾, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : 低悪性度膵腫瘍に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術 5 例の検討. 日本外科系連合学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2013. 6.
 - 55) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春¹⁾, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : 腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した 5 例の検討. 神奈川県消化器外科研究会 (第 41 回) (横浜), 2013. 6.
 - 56) 星野有哉, 鈴木英之, 相本隆幸¹⁾, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : 腫瘍間質の高度線維化により非典型的画像所見を呈した非機能性膵内分泌癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 25 回) (宇都宮), 2013. 6.
 - 57) Hoshino A, Suzuki H, Aimoto T¹⁾, Mizutani S, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery Nippon Medical School) : Clinical behavior in 63 patients with branch duct type of intraductal papillary mucinous neoplasm. Annual Meeting of the European Pancreatic Club (第 45 回) (チューリッヒ), 2013. 6.

- 58) 星野有哉, 鈴木英之, 水谷 聡, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学医学部外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 分枝型 IPMN 長期経過と切除症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 59) 星野有哉, 鈴木英之, 坊 英樹, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科) : 胃癌術後腹壁転移に腫瘍摘出術, 肝転移にラジオ波焼灼術を施行した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 60) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春¹⁾, 水谷 聡, 南 史朗²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科, ²⁾ 老人病研究所) : 副腎腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘出術の検討. 内視鏡外科学会総会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 61) 大山莉奈¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 野村聡¹⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 山際 亮¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡部雅則¹⁾, 内田英二²⁾, その他 1 名 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 肛門部 Bowen 癌の 1 例. 大腸肛門病学会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 62) 大山莉奈¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 村木 輝¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 山際 亮¹⁾, 渡部昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 悪性大腸イレウスに対する Self-expanding metallic stent の有用性. 消化器外科 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 63) 大山莉奈¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 千原直人¹⁾, 渡部昌則¹⁾, 野村 聡¹⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 腹部手術歴のある TAPP の検討. 内視鏡外科学会 (第 26 回) (福岡), 2013. 11.
- 64) 大山莉奈¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 塙 英暁¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡部昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 当科における胃 SMT 手術症例の検討. 胃外科・術後障害研究会 (新潟), 2013. 11.
- 65) 大山莉奈¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡部昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 当科における胃 SMT 手術症例の検討. 胃癌学会 (第 86 回) (横浜), 2014. 3.
- 66) 山際 亮¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 千原直人¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 聡¹⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, その他 1 名 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : Pagetoid spread を呈した肛門管癌の 3 切除例. 大腸肛門病学会 (第 68 回) (東京), 2013. 11.
- 67) 山際 亮, 松信哲朗, 鈴木英之, 吉野雅則, 豊田哲鎬, 村木 輝, 大山莉奈, 清水貴夫, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : Adenoma-Carcinoma Sequence による機序が考えられる潰瘍性大腸炎に発症した 10 多発大腸癌の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 68 回) (宮崎), 2013. 7.
- 68) 山岸征嗣¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸²⁾, 村木 輝¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科) : 睪頭十二指腸切除における術前外瘻ドレナージの有用性の検討. 肝胆膵外科学会 (第 25 回) (宇都宮), 2013. 6.
- 69) Yamagishi S, Mizutani S, Suzuki H, Aimoto T¹⁾, Muraki A, Nakata R, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Continuous suction drainage to avoid severe pancreatic fistula in patients with soft pancreas after pancreaticoduodenectomy. Annual Meeting of the European Pancreatic Club (第 45 回) (Zurich), 2013. 6.
- 70) 村木 輝¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 山際 亮¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 外科) : 直腸癌同時性多発肝転移術後の乳糜腹水にオクトレオチドが著効した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 75 回) (名古屋), 2013. 11.
- 71) 村木 輝¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 千原直人¹⁾, 前島顕太

- 郎¹, 塙 秀暁¹, 野村 聡¹, 中田亮輔¹, 大山莉奈¹, 清水貴夫¹, 内田英二², その他1名¹ (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター, ² 日本医科大学 外科): 原発性肺癌と肺過誤腫を合併した直腸癌肺転移の1切除例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第68回) (東京 (新宿)), 2013. 11.
- 72) 村木 輝¹, 水谷 聡¹, 鈴木英之¹, 相本隆幸², 山岸征嗣¹, 藤原博通³, 星野有哉¹, 渡辺昌則¹, 内田英二² (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ² 日本医科大学 外科, ³ 日本医科大学武蔵小杉病院 泌尿器科): 臍頭十二指腸切除を施行した腎癌同時孤立性臍転移の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第25回) (栃木 (宇都宮)), 2013. 6.
- 73) Muraki A¹, Suzuki H¹, Mizutani S¹, Aimoto T², Yamagishi S¹, Hoshino A¹, Uchida E² (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi-kosugi Hospital, Kawasaki, Japan, ² Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Retrospective analysis of risk factors for postoperative pancreatic fistula after distal pancreatectomy. Annual Meeting of the European Pancreatic Club (第45回) (Switzerland (Zurich)), 2013. 6.
- 74) 小峯 修¹, 塩谷 猛¹, 三島圭介¹, 渋谷 肇¹, 渡邊善正¹, 南部弘太郎¹, 山田太郎¹, 渋谷哲男¹ (1) さいたま市民医療センター外科): en bloc リンパ郭清を目指した 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫. 埼玉県医学会総会 (第51回) (さいたま), 2014. 2.
- 75) 小峯 修¹, 塩谷 猛¹, 三島圭介¹, 渋谷 肇¹, 渡邊善正¹, 南部弘太郎¹, 山田太郎¹ (1) さいたま市民医療センター外科): 10mm flexible scope を用いた Mini Lap 併用単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 (TANKO+1 puncture). 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 76) 南部弘太郎¹, 塩谷 猛¹, 渡邊善正¹, 小峯 修¹, 渋谷 肇¹, 三島圭介¹, 山田太郎¹ (1) さいたま市民医療センター外科): 腹腔鏡補助下結腸切除術2年後に吻合部再発をきたした横行結腸早期癌の1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 77) 小峯 修, 渡辺昌則, 鈴木英之, 野村 聡, 吉野雅則, 水谷 聡, 前島颯太郎, 村木 輝, 内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における上縦隔リンパ節郭清の工夫と成績. 日本食道学会学術集会 (第67回) (大阪), 2013. 6.
- 78) 小峯 修, 鈴木英之, 渡辺昌則, 水谷 聡, 吉野雅則, 千原直人, 野村 聡, 山岸征嗣, 大山莉奈, 内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科): 針状把持鉗子 (Mini lap) を用いた単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 (TANKO) の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.
- 79) 渡邊善正¹, 塩谷 猛¹, 南部弘太郎¹, 小峯 修¹, 渋谷 肇¹, 三島圭介¹, 山田太郎¹, 内間久隆², 渋谷哲男³ (1) さいたま市民医療センター外科, ² さいたま市民医療センター病理診断科, ³ 狭山中央病院外科): 再発大腸癌に対して臍頭十二指腸切除術を行った2症例. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.
- 80) 南部弘太郎¹, 塩谷 猛¹, 渡邊善正¹, 小峯 修¹, 渋谷 肇¹, 三島圭介¹, 山田太郎¹, 内間久隆², 島田祐司³, 大石卓爾³ (1) さいたま市民医療センター外科, ² さいたま市民医療センター病理診断科, ³ さいたま市民医療センター放射線科): 癌性胸水で再発した胃癌術後胸膜転移の1例. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.
- 81) 渡邊善正¹, 塩谷 猛¹, 南部弘太郎¹, 小峯 修¹, 渋谷 肇¹, 三島圭介¹, 山田太郎¹, 内間久隆² (1) さいたま市民医療センター外科, ² さいたま市民医療センター病理診断科): ベバシズマブ投与により消化管穿孔を3回発症した1例. 埼玉大腸疾患研究会 (第40回) (さいたま), 2014. 1.
- 82) 渋谷 肇¹, 塩谷 猛¹, 小峯 修¹, 南部弘太郎¹, 渡邊善正¹, 三島圭介¹, 山田太郎¹, 島田祐司², 大石卓爾², 内間久隆³ (1) さいたま市民医療センター外科, ² さいたま市民医療センター放射線科, ³ さいたま市民医療センター病理診断科): 診断に難渋した肝内結石症の1切除例. 大宮医学会総会 (第48回) (さいたま), 2014. 3.

(4) 主要関連演題：

- 1) 鈴木英之¹⁾、渡辺正則¹⁾、吉野雅則¹⁾、水谷 聡¹⁾、千原直人¹⁾、松信哲朗¹⁾、埴 秀暁¹⁾、野村 聡¹⁾、山岸征嗣¹⁾、村木 輝¹⁾、中田亮輔¹⁾、清水貴夫¹⁾、大山莉奈¹⁾、山際 亮¹⁾、内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター、²⁾ 日本医科大学消化器外科)：若手外科医の腹腔鏡手術教育の現状と問題点. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.
- 2) 村木 輝¹⁾、鈴木英之¹⁾、松信哲朗¹⁾、渡辺昌則¹⁾、吉野雅則¹⁾、水谷 聡¹⁾、千原直人¹⁾、前島顕太郎¹⁾、野村聡¹⁾、山岸征嗣¹⁾、中田亮輔¹⁾、大山莉奈¹⁾、清水貴夫¹⁾、山際 亮¹⁾、内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター、²⁾ 日本医科大学 外科)：術者の技量、経済性に配慮した腹腔鏡下虫垂切除術 (LA) の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第26回) (福岡), 2013. 11.

(5) 要望ビデオ：

- 1) 千原直人¹⁾、鈴木英之¹⁾、渡辺昌則¹⁾、大山莉奈¹⁾、清水貴夫¹⁾、内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター、²⁾ 日本医科大学外科)：腹部手術歴のある成人鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の検討 (ヘルニアに対する至適手術). 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.

(6) 要望演題：

- 1) 鈴木英之¹⁾、佐々木慎²⁾、石丸正寛³⁾、関川浩司⁴⁾、壁島康郎⁵⁾、渡辺俊之²⁾、米山さとみ³⁾、中山幹大⁴⁾、掛札敏裕⁵⁾、岸 泰弘¹⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター、²⁾ 大森赤十字病院外科、³⁾ 関東労災病院外科、⁴⁾ 石心会川崎幸病院消化器病センター外科、⁵⁾ 川崎市立川崎病院外科)：高齢者における消化器外科術後譫妄の発症と抑肝散の効果 (多施設共同前向き臨床研究：中間検討). 日本消化器外科学会総会 (第68回) (宮崎), 2013. 7.

(7) 要望演題 (ビデオ)：

- 1) 中田亮輔、鈴木英之、千原直人、渡辺昌則、星野有哉、野村 聡、村木 輝、山岸征嗣、大山莉奈、清水貴夫、内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：膜構造を意識した外膀胱上窩ヘルニアに対する TAPP 法. 日本臨床外科学会総会 (第75回) (名古屋), 2013. 11.

論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) 黒田誠司¹⁾、塩谷 猛¹⁾、南部弘太郎¹⁾、渡邊善正¹⁾、和田由大¹⁾、山田太郎¹⁾、内間久隆²⁾、島田裕司³⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科、²⁾ さいたま市民医療センター 病理診断科、³⁾ さいたま市民医療センター 放射線科)：腹腔内異物の腸管内迷入による腸閉塞の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2013; 75 (1) : 82-86.

[武蔵小杉病院循環器内科，呼吸器内科，腎臓内科，神経内科，動脈硬化・糖尿病・内分泌内科，消化器内科，腫瘍内科]

研究概要

循環器内科：心筋虚血診断，冠動脈内皮機能に関する研究，心不全うっ血および新規マーカーに関する研究 (徳山医師：日本心臓病学会 Case Presentation Award 受賞)，心房細動に関する研究. 左室 dyssynchrony，心外膜脂肪量研究を施行. 呼吸器内科：主に慢性呼吸器疾患を対象に1) RST チームとの共同による呼吸ケアに関する研究，2) 慢性気道感染症 (NTM 症，CF 関連疾患) に関する臨床研究，3) 吸入指導を用いた今後の臨床研究に向けた地域の薬局との連携体制の確立を行った. また肺癌に関しては多施設臨床研究グループへの加入と臨床試験への登録・参加を積極的に行い，さらに当院での2次以降の化学療法の効果と副作用に関する研究を進行中である. 腎臓内科は2013年も例年以上に活発な学会活動と論文発表を行った. 学会発表：日本腎臓学会 (4 演題)，日本透析医学会 (8 演題)，日本腹膜透析医学会 (2 演題)，日本アフェレシス学会 (1 演題) にて計 15 演題を発表した. 論文：酒井が英文原著を1

報, 大塚が英文原著を1報, 日本語原著を1報, 総説を1報の計4報発表した。内分泌・糖尿病・動脈硬化内科では, 成長ホルモンやインスリン様成長因子に関する基礎研究を国内外で発表した。また臨床研究として, 糖尿病治療薬のGLP-1製剤(リラグルチド)の使用成績を解析し発表を行った。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Sato N, Kajimoto K¹, Keida T², Mizuno M³, Minami Y³, Yumino D³, Asai K⁴, Murai K⁴, Munakata R⁴, Aokage T⁴, Sakata Y⁵, Mizuno K⁴, Takano T⁴ (1) Department of Cardiology, Sensoji Hospital, (2) Department of Cardiology, Edogawa Hospital, (3) Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, (4) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, (5) Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine): Clinical Features and Outcome in Hospitalized Heart Failure in Japan (From the ATTEND Registry). *Circulation Journal* 2013; 77 (4): 944-951.
- 2) Sato N: The critical issue the cardiovascular field: Hospitalization for heart failure. *Journal of Cardiology* 2013; 62: 140-141.
- 3) Kamiya M¹, Sato N, Akiya M², Okazaki H², Takahashi Y², Mizuno K¹ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of internal Medicine, Fraternity Memorial Hospital): A Case of Marked Diuresis by Combined Dopamine and Atrial Natriuretic Peptide Administration Without Renal Injury in Acute Decompensated Heart Failure. Reprinted from *International Heart Journal* 2013; 54 (4): 243-245.
- 4) Sato N, Gheorghide M¹, Kajimoto K², Munakata R³, Minami Y⁴, Mizuno M⁴, Aokage T³, Asai K³, Sakata Y⁵, Yumino D⁴, Mizuno K³, Takano T³ (1) Center for Cardiovascular Innovation, Northwestern University Feinberg School of Medicine, (2) Division of Cardiology, Sensoji Hospital, (3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, (4) Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, (5) Department of Cardiology, Osaka University Graduate School of Medicine): Hyponatremia and In-Hospital Mortality in Patients Admitted for Heart Failure (from the ATTEND Registry). *The American Journal of Cardiology* 2013; 111 (7): 1019-1025.
- 5) Kajimoto K¹, Sato N, Sakata Y², Takano T³ (1) Division of Cardiology, Sensoji Hospital, (2) Department of Cardiology, Osaka University Graduate School of Medicine, (3) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Relationship between systolic blood pressure and preserved or reduced ejection fraction at admission in patients hospitalized for acute heart failure syndromes. *International Journal of Cardiology* 2013; 168 (5): 4790-4795.
- 6) Kajimoto K¹, Sato N, Keida T², Mizuno M³, Sakata Y⁴, Asai K⁵, Takano T⁵ (1) Division of Cardiology, Sensoji Hospital, (2) Department of Cardiovascular Medicine, Edogawa Hospital, (3) Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, (4) Department of Cardiology, Osaka University Graduate School of Medicine, (5) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Association between length of stay, frequency of in-hospital death, and causes of death in Japanese patients with acute heart failure syndromes. *International Journal of Cardiology* 2013; 168 (1): 554-556.
- 7) Mebazaa A¹, Sato N, Gayat E¹, Lassus J², Meas T³, Mueller C⁴, Maggioni A⁵, Peacock F⁶, Spinar J⁷, Harjola V⁸, Kimmenade R⁹, Pathak A¹⁰, Mueller T¹⁰, Tavazzi L¹⁰, Disomma S¹⁰, et al. (1) Department of Anesthesiology and Intensive Care, Lariboisière University Hospital, (2) Department of Medicine, Helsinki University Central Hospital, (3) Department of Endocrinology, Lariboisière University Hospital, (4)

Department of Internal Medicine, University Hospital, ⁵⁾ ANMCO Research Centre, ⁶⁾ Emergency Medicine Institute, The Cleveland Clinic, ⁷⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, University Hospital Brno, Faculty of Medicine, Masaryk University, ⁸⁾ Division of Emergency Care, Helsinki University Central Hospital, ⁹⁾ University Medical Center, Utrecht, Utrecht) : Association Between Elevated Blood Glucose and Outcome in Acute Heart Failure : Results From an International Observational Cohort. *Journal of the American College of Cardiology* 2013 ; 61 (8) : 820-829.

- 8) 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 佐藤直樹 : CAPD 患者に対する tolvaptan の有用性についての検討. *腎と透析* 2013 ; 75 : 219-220.
- 9) Otsuka T, Sakai Y, Ohno D, Murasawa T, Sato N, Tsuruoka S¹⁾ (¹⁾ Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : The effects of tolvaptan on patients with severe chronic kidney disease complicated by congestive heart failure. *Clinical and Experimental Nephrology* 2013 ; 17 (6) : 834-838.
- 10) Sakai Y, Suzuki A, Mugishima K, Sumi Y, Otsuka Y, Otsuka T, Ohno D, Mursawa T, Tsuruoka S¹⁾ (¹⁾ Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Comparison of once daily versus twice daily olmesartan in patients with chronic kidney disease. *International Journal of Nephrology and Renovascular Disease* 2013 ; 6 : 223-227.
- 11) Kajimoto K¹⁾, Sato N, Keida T²⁾, Sakata Y³⁾, Asai K⁴⁾, Mizuno M⁵⁾, Takano T⁵⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Sensoji Hospital, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Edogawa Hospital, ³⁾ Department of Cardiology, Osaka University Graduate School of Medicine, ⁴⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University) : Low admission heart rate is a marker rather than a mediator of increased in-hospital mortality for patients with acute heart failure syndromes in sinus rhythm. *International Journal of Cardiology* 2014 ; 171 (15) : 98-100.
- 12) An J¹⁾, Nakajima T, Shibata H¹⁾, Arimura T¹⁾, Yasunami M¹⁾, Kimura A¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Pathogenesis, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University) : A novel link of HLA locus to the regulation of immunity and infection : NFKBIL1 regulates alternative splicing of human immune-related genes and influenza virus M gene. *Journal of Autoimmunity* 2013 ; 47 : 25-33.
- 13) Nakayama EE¹⁾, Nakajima T, Kaur G²⁾, Miyama J³⁾, Terunuma, H⁴⁾, Mehra N, Kimura A⁵⁾, Shioda T¹⁾ (¹⁾ Department of Viral Infections, Research Institute for Microbial Disease, Osaka University, ²⁾ Department of Transplant Immunology and Immunogenetics, All India Institute of Medical Sciences, ³⁾ Division of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital, ⁴⁾ Biotherapy Institute of Japan, ⁵⁾ Department of Molecular Pathogenesis, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University) : A naturally occurring single amino acid substitution in human TRIM5a linker region affects its anti-HIV type 1 activity and susceptibility to HIV type 1 infection. *AIDS Research and Human Retroviruses* 2013 ; 29 (6) : 919.
- 14) Lassus J¹⁾, Gayat E²⁾, Mueller C³⁾, Peacock W⁴⁾, Spinar J⁵⁾, Harjola V¹⁾, Kimmenade R⁶⁾, Pathak A⁷⁾, Mueller T⁸⁾, Disomma S⁹⁾, Metra M¹⁰⁾, Pascual-Figal D¹⁰⁾, Laribi S¹⁰⁾, Logeart D¹⁰⁾, Sato N (¹⁾ Division of Emergency Care and Department of Medicine, Helsinki University Central Hospital, Finland, ²⁾ Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine—Mobile Care Unit, Lariboisière University Hospital, AP-HP, Paris, France, ³⁾ Department of Internal Medicine, University Hospital, Basel, Switzerland, ⁴⁾ Baylor College of Medicine, Houston, TX, USA, ⁵⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, University Hospital Brno, Brno, Czech Republic, ⁶⁾ Department of Cardiology, University Medical Centre Utrecht, Utrecht, the Netherlands, ⁷⁾ Department of Cardiology, Toulouse University Hospital, Toulouse, France, ⁸⁾ Department of Laboratory Medicine, Konventhospital Barmherzige Brueder, Linz, Austria, ⁹⁾ Emergency Department, Sant'An-

drea Hospital, University La Sapienza, Rome, Italy, ¹⁰ etcetera) : Incremental value of biomarkers to clinical variables for mortality prediction in acutely decompensated heart failure : The Multinational Observational Cohort on Acute Heart Failure (MOCA) study. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 168 (3) : 2186-2194.

- 15) Satomi Y¹), Sato N, Kajimoto K²), Sakata Y³), Mizuno M⁴), Minami Y⁴), Fujii K¹), Takano T⁵) (¹ Sakurabashi Watanabe Hospital, Cardiovascular Center, ² Sensoji Hospital, Division of Cardiology, ³ Osaka University Graduate School of Medicine, Department of Cardiovascular Medicine, ⁴ Tokyo Women's Medical University, Department of Cardiology, ⁵ Nippon Medical School, Department of Cardiovascular Medicine) : Impact of pulmonary artery catheter on outcome in patients with acute heart failure syndromes with hypotension or receiving inotropes : From the ATTEND Registry. *International Journal of Cardiology* 2014 : 172 (1) : 165-172.
- 16) Sakai Y, Suzuki A, Mugishima K, Yuichiro S, Otsuka Y, Otsuka T, Ohno D, Murasawa T, Tsuruoka S¹) (¹ Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine) : Effects of Alogliptin in Chronic Kidney Disease Patients with Type 2 Diabetes. *Internal Medicine* 2014 : 53 (3) : 195-203.
- 17) Ito K¹), Mori E²), Fukuyama H³), Ishii K⁴), Washimi Y⁵), Asada T⁶), Mori S⁷), Meguro K⁸), Kitamura S, Hanyu H⁹), Nakano S¹⁰), Matsuda H¹⁰), Kuwabara Y¹⁰), Hashikawa K¹⁰), Momose T, et al. (¹ Department of Clinical and Experimental Neuroimaging, Center for Development of Advanced Medicine for Dementia, National Center for Geriatrics and Ger, ² Department of Behavioral Neurology and Cognitive Neuroscience, Tohoku University, ³ Department of Behavioral Neurology and Cognitive Neuroscience, Tohoku University, ⁴ Human Brain Research Center, Kyoto University, ⁵ Department of Outpatient Services, National Center for Geriatrics and Gerontology, ⁶ Department of Neuropsychiatry, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, ⁷ School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture, ⁸ Department of Geriatric Behavioral Neurology, Tohoku University, ⁹ Department of Geriatric Medicine, Tokyo Medical University) : Prediction of outcomes in MCI with 123I-IMP-CBF SPECT : a multicenter prospective cohort study. *Annals of Nuclear Medicine* 2013 ; 27 (10) : 898-906.
- 18) 大塚智之, 酒井行直, 佐藤直樹 : 心腎関連とCKD. *Medical Practice* 2013 ; 30 (11) : 1923-1925.
- 19) 北村 伸, 中村 祐¹), 本間 昭²), 木村紀幸³), 浅見由美子³) (¹ 香川大学医学部精神神経医学講座, ² 認知症介護研究・研修東京センター, ³ 第一三共株式会社) : メマンチン塩酸塩 (メマリー®) の中等度および高度アルツハイマー型認知症に対する長期投与時の忍容性ならびに有効性の検討. *日本老年医学会雑誌* 2014 ; 51 (1) : 74-84.
- 20) Ishikawa M, Tachibana T¹), Hashimoto H²), Toyomuya J³), Ito T⁴), Tsuboi K⁵), Shibuya K⁶), Hirose T⁵), Minami S, Yoshino G⁵) (¹ Core Research Facilities, Jikei University School of Medicine, ² Department of Anatomy, Jikei University School of Medicine, ³ Department of Life Sciences, Faculty of Life Dentistry, Nippon Dental University, ⁴ Division of Breast and Endocrine Surgery, Toho University School of Medicine, ⁵ Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Toho University School of Medicine, ⁶ Department of Pathology, Toho University School of Medicine) : Functional analysis of three novel cell lines derived from human papillary thyroid carcinomas with three different clinical courses. *Human Cell* 2014 ; 27 (1).

(2) 総説 :

- 1) 村澤恒男, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 磯野友昭¹), 門松 豊¹) (¹ 武蔵小杉病院 ME 部) : 日本医科大学武蔵小杉病院における敗血症の血液浄化治療の現状と今後の変化予測. 敗血症の診断/治療の実情と病態・メカニズムをふまえた開発戦略 2013 ; 279-284.

- 2) 佐藤直樹：Impella への期待. 循環器内科 2013；74（3）：293-296.
- 3) 佐藤直樹：急性心不全のレジストリー研究. 循環器 2014；75-79.
- 4) 佐藤直樹：総論（Over View）. 医薬ジャーナル 2014；50（1）：96-101.
- 5) 北村 伸, 永山 寛¹⁾（¹⁾ 付属病院神経内科）：パーキンソン病と抑うつ. 精神神経学雑誌 2013；115（11）：1135-1141.
- 6) 白杵二郎：超硬合金肺. 呼吸器内科 2013；23（5）：480-486.
- 7) 白杵二郎：Young 症候群. 呼吸 2013；32（10）：944-947.

著 書

- 1) 佐藤直樹：〔分担〕 バンプレシン V2 受容体拮抗薬の有効性と使い方. Medical Practice, 2013；pp1363-1366, 文光堂.
- 2) 曾根教子, 佐藤直樹：〔分担〕 クリニカルシナリオ, Nohria/Stevenson 分類. KESRT nursing, 2013；pp28-29, メディカ出版.
- 3) 石川正也¹⁾, 佐藤直樹（¹⁾ 石川クリニック）：〔分担〕 救急外来での病態把握～超急性期の血圧の意義について（クリニカルシナリオを含む）. 心不全 Q & A プレホスピタルから慢性期まで一さ（佐藤直樹）, 2013；pp19-24, 総合医学社.
- 4) 本郷公英：〔分担〕 神経障害 neuropathy. がん診療 UP TO DATE, 2013；pp210-823, 日経 BP 社.
- 5) 月岡悦子¹⁾, 佐藤直樹（¹⁾ 武蔵小杉病院看護部）：〔分担〕 Do Not ポイントで理解する注射薬剤の安全管理と緊急処置. HEART nursing, 2014；pp8-13, メディカ出版.
- 6) 北村 伸：〔分担〕 画像検査・診断. 認知症予防専門士テキストブック（日本認知症予防学会監修 浦上克哉 川瀬康裕 児玉直樹）, 2013；pp112-119, メデョイアケアプラス.
- 7) 佐藤直樹：〔分担〕 クリニカルシナリオによる急性心不全治療って？. ゼットイ答えがみつかる心不全（佐藤幸人）, 2014；pp114-118, 日本医事新報社.
- 8) 佐藤直樹：〔分担〕 StageC：新たな介入点としての急性心不全治療. 内科, 2014；pp485-488, 南江堂.
- 9) 板倉潮人, 白杵二郎：〔分担〕 ピルフェニドンの治験. 特発性肺線維症（IPF）改訂版（杉山幸比古）, 2013；pp193-200, 医薬ジャーナル.

学会発表

(1) その他：

- 1) 北村 伸：認知症になっても安心して暮らせるまちづくり. 日本認知症予防学会学術集会（第3回）（新潟）, 2013. 9.

(2) 教育講演：

- 1) 山口朋禎：がん緩和治療. 日本呼吸器学会生涯教育講演会（第34回）（東京）, 2013. 4.
- 2) 北村 伸：神経所見のとり方と病的所見の画像を用いた解説. 日本老年精神医学会（第28回）（大阪）, 2013. 6.
- 3) 北村 伸：神経所見のとり方の実践講習. 日本老年精神医学会（大阪）, 2013. 6.
- 4) 北村 伸：目からウロコ 内科医への認知症診療アドバイス. 日本内科学会総会・講演会（第110回）（東京）, 2013. 4.

(3) シンポジウム：

- 1) Sato N：Lessons From the Jaoanese Hospitalized Heart Failure Registry -How can we Improve the Outcome of HHF?. Annual Scientifoc Meeting of the Korean Society of Cardiology (57th) (Seoul), 2013. 10.
- 2) Sato N：Treatment eith Tolvaptan in Heart Failure patients in Japan. Annual Scientifoc Meeting of the Ko-

rean Society of Cardiology (57th) (Seoul), 2013. 10.

- 3) 北村 伸：認知症 (AD, DLB) およびパーキンソン病における認知障害と抑うつ症状. 日本精神神経学会学術総会 (第 109 回) (福岡), 2013. 5.

(4) セミナー：

- 1) 北村 伸：問診と神経学的診察. 日本老年医学会 (第 55 回) (大阪), 2013. 6.
- 2) Sato N：Let's Think about "Diuresis" in Heart Failure!. IEEE ENBC 2013 (Osaka), 2013. 7.
- 3) 佐藤直樹：心不全における急性期の治療戦略：病態把握と治療の考え方. 日本心臓病学会教育セミナー (大阪), 2014. 2.
- 4) 北村 伸：精神科医のための認知症診療に必要な神経所見の取り方. 日本老年精神医学会総会 (大阪), 2013. 6.
- 5) 北村 伸：問診と神経学的診察. 日本老年医学会総会 (第 54 回) (大阪), 2013. 6.

(5) 一般講演：

- 1) 白杵二郎, 林 宏紀¹⁾, 松田久仁子¹⁾, 砂塚敏明²⁾, 大村 智²⁾, 吾妻安良太¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 付属病院呼吸器内科分野, ²⁾ 北里生命科学研究所)：マクロライド新規誘導体 EM900 のプレオマイシン肺線維症と線維芽細胞における YB-1 発現に対する効果. 日本呼吸器学会学術講演会 (53 回) (東京), 2013. 4.
- 2) 板倉潮人, 春原沙織, 木下賀央理, 本郷公英, 山口朋禎, 白杵二郎：当院における慢性下気道感染症に対する MAC 血清診断の有用性に関する検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (53 回) (東京), 2013. 4.
- 3) 石川真由美, Barclay J¹⁾, Brooks A¹⁾, 南 史朗, Waters M¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Cell Biology, Insutitute for Molecular Bioscience, University Queensland)：肝臓の IGF-I 産生におけるクッパー細胞の役割. 日本内分泌学会学術総会 (第 86 回) (仙台), 2013. 4.
- 4) 酒井行直, 鈴木安奈, 麦島康司, 住祐一郎, 大塚裕介, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男：CKD 患者への DPP-4 阻害薬 alogliptin の使用経験. 日本腎臓学会学術総会 (第 56 回) (東京), 2013. 5.
- 5) 大塚智之, 鈴木安奈, 麦島康司, 住祐一郎, 大塚裕介, 酒井行直, 大野 大, 村澤恒男：うっ血性心不全を合併した高度腎機能低下患者に対する tolvaptan の効果. 日本腎臓学会学術総会 (第 56 回) (東京), 2013. 5.
- 6) 大野 大, 鈴木安奈, 麦島康司, 住祐一郎, 大塚裕介, 酒井行直, 大塚智之, 村澤恒男：CKD 患者に対する allopurinol から febuxostat への切り替えの有用性. 日本腎臓学会学術総会 (第 56 回) (東京), 2013. 5.
- 7) 大場るり子, 福永ヒトミ¹⁾, 中島敏晶, 石川真由美, 八木 孝, 南 史朗 (¹⁾ 武蔵小杉病院看護部)：リラグルチドを 1 年以上使用した 2 型糖尿病患者における血糖値と体重の変化. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 8) 八木 孝, 中田亮輔¹⁾, 中島敏晶, 菊池有史, 南 史朗 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：胃悪性リンパ腫に対する化学療法によって改善したインスリン受容体異常症 (TypeB) の 1 例. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 9) 福永ヒトミ¹⁾, 望月瑠美¹⁾, 金子佳代¹⁾, 糸井博美²⁾, 八木 孝, 中島敏晶, 南 史朗 (¹⁾ 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉病院女性診療科)：新診断基準による妊婦糖尿病患者を対象とした療養指導外来の有用性. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 10) 望月瑠美¹⁾, 福永ヒトミ¹⁾, 金子佳代¹⁾, 吉田真貴子¹⁾, 八木 孝, 中島敏晶, 南 史朗 (¹⁾ 武蔵小杉病院看護部)：持続血統モニター (CGM) の血糖値変動の評価における SMBG ダイアリーの有用性の検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 11) 山口朋禎, 本郷公英, 板倉潮人, 木下賀央理, 春原沙織, 白杵二郎：胃 GIAT に合併した Birt-Hogg-Dube (BHD) 症候群の 1 例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第 204 回) (東京), 2013. 5.
- 12) Murasawa T, Ohtsuka T, Ohno D, Sakai Y, Sato N：INCREASES IN SIGNAL-AVERAGED ELECTROCARDIOGRAM AND QT DISPERSION INDUCE ARRHYTHMIAS DURING HAEMODIALYSIS IN ESKD

PATIENTS : ASSOCIATION WITH RA SYSTEM AND HOLTER ELECTROCARDIOGRAM. World Congress of Nephrology 2013 (Hong Kong), 2013. 5.

- 13) Ishikawa M, Morita T¹⁾, Minami S, Yoshino G (1) Department of Laboratory Medicine Toho University School of Medicine, 2) Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Toho University School of Medicine) : A-ger related changes in abundance of insulin/insulin-like growth factor-I hybrid receptors in rats. The Endocrine Society (San Francisco), 2013. 6.
- 14) 村澤恒男, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直 : 血液透析に伴う不整脈の発症機序 : 心筋脱分極・再分極過程は RA 系と関連する. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 58 回) (福岡), 2013. 6.
- 15) 大塚裕介, 住祐一郎, 鈴木安奈, 麦島康司, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 大木麻美¹⁾, 山下英彦¹⁾, 前田幸生¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 腹膜透析導入により, ESA 製剤の減量, もしくは中止が可能であった症例に対する検討. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 58 回) (福岡), 2013. 6.
- 16) 大野 大, 住祐一郎, 鈴木安奈, 麦島康司, 大塚智之, 大塚裕介, 酒井行直, 村澤恒男, 山下 : 悪性腎硬化症のため末期腎不全となった 24 歳男性. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 58 回) (福岡), 2013. 6.
- 17) 住祐一郎, 大塚裕介, 鈴木安奈, 麦島康司, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 大木麻美¹⁾, 山下英彦¹⁾, 前田幸生¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 腹膜透析患者におけるダルベポエチンアルファ (DA) の有用性~切り替え前後の Hb 濃度および鉄代謝推移の比較~. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 58 回) (福岡), 2013. 6.
- 18) 麦島康司, 大塚裕介, 鈴木安奈, 住祐一郎, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男 : 慢性腎不全保存期よりアログリプチンうい投与し, 維持血液透析導入となった 6 例. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 58 回) (福岡), 2013. 6.
- 19) 菱田まさみ, 大塚裕介, 鈴木安奈, 住祐一郎, 麦島康司, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男 : 脳梗塞治療中に後天性多嚢胞化萎縮腎の自然破裂をお越し, 出血性ショックを呈した 1 例. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 58 回) (福岡), 2013. 6.
- 20) 門松 豊¹⁾, 磯野友昭¹⁾, 尾崎 傑¹⁾, 加藤和久¹⁾, 伊東健介¹⁾, 高木 基¹⁾, 酒井行直, 村澤恒男 (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 各種透析液による透析前後の Ca イオンおよび酸塩基平衡の変動. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 58 回) (福岡), 2013. 6.
- 21) 高木 基¹⁾, 高柳佳津紗¹⁾, 尾崎 傑¹⁾, 吉田 健¹⁾, 伊東健介¹⁾, 門松 豊¹⁾, 酒井行直, 村澤恒男 (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : ATP (アデノシン三リン酸) 測定器を使用した血液浄化療法室の清掃状況の評価. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 58 回) (福岡), 2013. 6.
- 22) 赤羽日出男¹⁾, 岸 泰宏²⁾, 山口朋禎, 下地玉枝³⁾, 栗原香織³⁾, 二宮美香³⁾, 軽部みなど³⁾, 青山豊子³⁾, 若城由美子⁴⁾, 宮内秀典⁴⁾, 小泉嘉子⁴⁾ (1) 武蔵小杉病院麻酔科, 2) 武蔵小杉病院精神科, 3) 武蔵小杉病院看護部, 4) 武蔵小杉病院薬剤科) : 症状の進行したオピオイド持続注患者の在宅医療への移行についての検討. 日本緩和医療学会学術大会 (第 18 回) (横浜), 2013. 6.
- 23) 徳山榮男, 山本英世, 佐藤直樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : 急性心不全において血中コペプチン値上昇は何を反映しているか?. 日本心臓病学会学術集会 (第 61 回) (熊本), 2013. 9.
- 24) 徳山榮男, 山本英世, 佐藤直樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : 急性心不全において腎保護戦略という観点から急性腎傷害分類は適切か?. 日本心臓病学会学術集会 (第 61 回) (熊本), 2013. 9.
- 25) 酒井行直, 大塚裕介, 鈴木安奈, 住祐一郎, 大塚智之, 大野 大, 麦島康司, 村澤恒男, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 付属病院腎臓内科) : 腹膜透析患者におけるダルベポエチンアルファ (DA) の有用性. 日本腹膜透析医学会学術集会・総会 (第 19 回) (大阪), 2013. 9.
- 26) 大塚智之, 大塚裕介, 鈴木安奈, 住祐一郎, 酒井行直, 大野 大, 麦島康司, 村澤恒男, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 付属病院腎臓内科) : 腹空鏡で確認した pre-EPS の 1 例. 日本腹膜透析医学会学術集会・総会 (第 19 回) (大阪),

2013. 9.

- 27) 大塚智之, 大塚裕介, 鈴木安奈, 住祐一郎, 麦島康司, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 付属病院腎臓内科): 悪性末梢神経鞘腫瘍 (MPNST) に合併した FSGS の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 43 回) (東京), 2013. 10.
- 28) 小林和陽¹⁾, 板倉潮人, 月岡悦子²⁾, 山口貴子²⁾, 高木 聡²⁾, 加藤和久³⁾, 野口周作⁴⁾, 中村康一⁵⁾, 森本千秋¹⁾, 白杵二郎 (1) 武蔵小杉病院栄養科, 2) 武蔵小杉病院看護部, 3) 武蔵小杉病院 ME 部, 4) 武蔵小杉病院薬剤部, 5) 武蔵小杉病院理学療法室): 当院 RST における栄養士の参加について. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 23 回) (東京), 2013. 10.
- 29) 高木 聡¹⁾, 板倉潮人, 月岡悦子¹⁾, 山口貴子¹⁾, 白杵二郎, 加藤和久²⁾ (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院 ME 部): NPPV マスク圧迫に対する除圧シート使用の見直し. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 23 回) (東京), 2013. 10.
- 30) 高橋直人, 石川昌弘, 花岡大資, 菊池有史, 山本英世, 網谷賢一, 佐藤直樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科): 癆痕心筋を有さない高血圧患者におけるアデノシン負荷心拍応答と左室同期性の関連. 日本高血圧学会総会 (第 36 回) (大阪), 2013. 10.
- 31) 酒井行直, 大塚裕介, 鈴木安奈, 住祐一郎, 麦島康司, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 付属病院腎臓内科): 視神経脊髄炎に対して 2 重濾過血漿交換法が奏功した 1 例. 日本アフエレス学会学術大会 (第 34 回) (軽井沢), 2013. 11.
- 32) 板倉潮人, 佐藤純平, 木下賀央里, 春原沙織, 本郷公英, 山口朋禎, 白杵二郎, 岡本淳一¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾ (1) 武蔵小杉病院呼吸器外科): UFT による薬剤性肺胞出血が疑われた 1 例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第 207 回) (東京), 2013. 11.
- 33) Tokuyama H, Sato N, Nakama K, Omote T, Kikuchi A, Yamamoto E, Ishikawa M, Amitani K, Takahashi N, Shimizu IW (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School): What dose Copeptin Indicate in Acute Heart Failure. 日本心不全学会学術集会 (第 17 回) (大宮), 2013. 11.
- 34) 高木宏治, 鈴木啓士, 曾根教子, 徳山榮男, 菊池有史, 山本英世, 石川昌弘, 佐藤直樹, 松田 潔¹⁾, 清水 渉²⁾ (1) 武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 付属病院循環器内科): 胸骨圧迫により心破裂をきたした急性心筋梗塞の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
- 35) 曾根教子, 鈴木啓士, 高木宏治, 徳山榮男, 菊池有史, 山本英世, 石川昌弘, 佐藤直樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科): Wellens 症候群の重要性を痛感した 4 症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
- 36) 徳山榮男, 鈴木啓士, 高木宏治, 曾根教子, 菊池有史, 山本英世, 石川昌弘, 佐藤直樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科): 急性心不全におけるコペプチン測定意義の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
- 37) 菊池有史, 鈴木啓士, 高木宏治, 曾根教子, 徳山榮男, 山本英世, 石川昌弘, 佐藤直樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科): 非侵襲血行動態モニタリングデバイス Nexfin® と肺動脈カテーテルで測定した心拍出量の相関. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 2.
- 38) 北村 伸, 濱本 真, 山室 学, 神谷信雄, 高山洋平: Computer 支援診断システムを用いた IMP-SPECT によるアルツハイマー病 (AD) の検出感度. 日本神経学会学術大会 (第 54 回) (東京), 2013. 5.
- 39) Takahashi N, Ishikawa M, Kikuchi A, Yamamoto E, Amitani K, Uchida T, Sato N, Munakata K, Kunita S¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School, 2) Department of Cardiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): The variation of Left Ventricular Mechanical Dyssynchrony in Patients with Coronary Artery Disease. ICNC (International Conference of Nuclear Cardiology and cardiac CT) (Berlin), 2013. 5.

- 40) 横関知子¹⁾, 藤咲依里香²⁾, 西野律子²⁾, 八木 孝, 南 史朗 (¹⁾ アイビークリニック栄養科, ²⁾ アイビークリニック看護部) : 独自に開発した SMBG ダイアリーの糖尿病療養指導における有用性について. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 41) 大場るり子, 中島敏晶, 石川真由美, 南 史朗, 前川尚志¹⁾, 笹野公伸¹⁾ (¹⁾ 東北大学大学院医学系研究科 病理病態学講座 病理診断学分野) : 病理組織診断でアルドステロン過剰産生に寄与する径 2mm の微小腺腫が判明した原発性アルドステロン症の 1 例. 日本内分泌病理学会学術総会 (第 17 回) (横浜), 2013. 10.
- 42) 福永ヒトミ¹⁾, 望月瑠美¹⁾, 金子佳代¹⁾, 飯高洋子¹⁾, 八木 孝, 南 史朗 (¹⁾ 武蔵小杉病院看護部) : 妊娠糖尿病の療養指導外来有用性について: グリコアルブミンを指標とした指導を実施して. 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 (第 29 回) (岐阜), 2013. 11.
- 43) 石川真由美, Barclay J¹⁾, Brooks A¹⁾, 南 史朗, Waters M¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Cell Biology, Institute for Molecular Bioscience, University of Queensland) : 肝臓の IGF-I 産生におけるクッパ: 細胞の役割. 日本内分泌学会学術総会 (第 86 回) (仙台), 2013. 4.
- 44) Ishikawa M, Morita T¹⁾, Minami S, Yoshino G²⁾ (¹⁾ Department of Laboratory Medicine, Toho University, ²⁾ The Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Toho University) : Alternation in abundance of insulin/insulin-like growth factor-I hybrid receptor with aging. The Endocrine Society's 95th Annual Meeting 2013 (San Francisco), 2013. 6.
- 45) 八木 孝, 大場るり子, 中島敏昌, 石川真由美, 岡本芳久, 前川尚志¹⁾, 笹野公伸¹⁾, 南 史朗 (¹⁾ 東北大学大学院医学系研究科 病理病態学講座 病理診断学分野) : 病理診断で微小病変が原因と考えられた原発性アルドステロン症の 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 23 回) (名古屋), 2014. 1.
- 46) 福永ヒトミ¹⁾, 望月瑠美¹⁾, 金子佳代¹⁾, 島田博美²⁾, 八木 孝, 中島敏晶, 南 史朗 (¹⁾ 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉病院女性診療科) : 新診断基準による妊婦糖尿病患者を対象とした看護外来を実施して. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 47) 鈴木るり子, 酒井 瞳, 中島敏昌, 石川真由美, 勝俣範之, 許田典夫¹⁾, 北山康彦¹⁾, 南 史朗, 片山秀喜²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 帝京大学ちば総合医療センター 内科 臨床研究部) : 化学療法が奏功した原発巣不明 NEC による EAS の 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 23 回) (名古屋), 2014. 1.
- 48) Takahashi N, Ihikawa M, Hanaoka D, Kukuchi A, Yamamoto E, Amitani K, Sato N, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Relationship between Heart Rate Response to Adenosine and Left Ventricular Synchronicity in Hypertensive Patients without Myocardial Sca. 日本高血圧学会総会 (第 36 回), 2013. 10.
- 49) Sone M, Takahashi N, Ishikawa M, Sato N, Kumita S²⁾, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Relationship between Heart Rate Response To Adenosine and Left Ventricular Synchronicity in Non-ischemic Heart Disease. 日本心不全学会学術集会 (第 17 回) (大宮), 2013. 11.
- 50) 高木宏治, 嶋原祥太, 鈴木啓士, 曾根教子, 丹羽直哉, 松田淳也, 徳山榮男, 中摩健二, 表 俊也, 菊池有史, 山本英世, 石川昌弘, 網谷賢一, 高橋直人, 佐藤直樹 : チーム医療により加療した 3 枝冠動脈疾患に内径動脈狭窄症を合併した 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 230 回) (東京), 2013. 12.

論 文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 佐藤直樹 : 急性心不全登録研究 (ATTEND registry) から学ぶ—今後の課題も含めて. 医学のあゆみ 2013 ; 244 (13) : 1277-1282.

[武蔵小杉病院心臓血管外科, 呼吸器外科, 乳腺外科, 内分泌外科]

研究概要

1) 心臓血管外科領域：①近年、心臓血管外科領域において高齢者や他臓器疾患を有するハイリスク症例が増加しており、また複合手術が必要な症例も多く、高度な手術手技が要求される。高カリウムを中心とした心筋保護法は確立された方法であるが、最もすぐれた心筋保護法とは言い難い。当施設における持続逆行性心筋保護法の有用性について研究している。②冠動脈バイパス術において、高度脳血管疾患を有する患者が多く、周術期の脳血管合併症は依然大きな問題であるといえる。術前の脳血管の評価から、術中術後管理における脳合併症の予防に関して研究している。③冠動脈バイパス手術において、3次元CT検査を用いた静脈グラフトの術前評価を行い、その有用性を検討している。④大動脈外科におけるステントとグラフトの進歩は著しく、当施設においても血管内・低侵襲治療センターと連携してハイブリッドステントグラフト手術を行い、その有用性を検討している。2) 呼吸器外科領域：胸部3DCTの進歩により肺容積の定量が可能となった。この肺容積定量と術前呼吸機能検査をリンクさせることで、より精確な術後（肺切除後）予測肺機能の算定を行っている。特に慢性閉塞性肺疾患（COPD）や間質性肺炎（IP）などを併じた低肺機能（＝高リスク）肺癌症例においては、そのCT肺容積定量及び肺機能検査から得られるデータとの相関より、より厳密なリスク評価を行い、術式決定にフィードバックするという臨床研究を行っている。3) 乳腺外科領域：腫瘍内科と連携し、新薬治療などを行っている。また、補助治療の重要性を鑑みて、乳腺切除量から温存術の安全性について検討している。4) 内分泌外科領域：甲状腺・副甲状腺手術後前頸部創傷治癒の経時的評価、甲状腺切除量と術後補充療法の必要性の評価、甲状腺の切除標本を用いた分子生物学的特徴の検索。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 丸山雄二¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科)：川崎病冠動脈疾患に対する冠動脈バイパス術：小児期から成人期へ。日本冠疾患学会雑誌 2013；19 (2)：171-178.
- 2) Okamoto J, Mo M¹⁾, Chen Z²⁾, Hirata T³⁾, Mikami I³⁾, Bosco-Clement G²⁾, Li H²⁾, Zhou H⁴⁾, Jablons-M D²⁾, He B²⁾ (1) School of life Science, Tsinghua University, Beijing, China, 2) Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California, San Francisco, California, USA, 3) Department of Surgery, Division of Thoracic of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 4) Zhejiang Provincial Key Laboratory of Applied Enzymology, Yangtze Delta Region Institute of Tsinghua University, Jiaxing, China)：Down-Regulation of SIX3 is Associated with Clinical Outcome in Lung Adenocarcinoma. PLOS ONE 2013；8 (8)：1.

(2) 総説：

- 1) Maruyama Y¹⁾, Chambers JD²⁾, Ochi M¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, 2) Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute (King's College London), St Thomas Hospital)：Future perspective of cardioplegic protection in cardiac surgery. Journal of Nippon Medical School 2013；80 (5)：328-341.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 丸山雄二¹⁾, 落 雅美¹⁾, 網谷亮輔¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 神戸 将¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 藤井正大¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科)：Off-pump CABGにおける中枢側吻合デバイスの使用と早期発症脳梗塞の関連性。日本冠疾患学会学術集会（第27回）（和歌山），2013. 12.

(2) 一般講演：

- 1) 天神敏博, 保科淑子, 有田英二¹⁾, 遠藤権三郎¹⁾, 吉田 悟¹⁾, 福田 譲²⁾ (¹⁾ 神奈川県予防協会, ²⁾ 神奈川県生活習慣病管理指導協議会 乳癌部会) : 神奈川県における平成 24 年度乳癌集団検診の実施状況. 日本乳癌検診学会学術総会 (第 23 回), 2013. 11.
- 2) Maruyama Y¹⁾, Shibata M¹⁾, Ueda H¹⁾, Suzuki D¹⁾, Kurita J¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Ohmori H¹⁾, Fujii M¹⁾, Nitta T¹⁾, Ochi M¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Coronary artery bypass grafting for young adult patients associated with Kawasaki coronary disease. The 21st annual meeting of the asian society for cardiovascular and thoracic surgery (ASCVTS) (Kobe, Japan), 2013. 4.
- 3) 高木宏治¹⁾, 鴨原祥太¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 曾根教子¹⁾, 丹羽直哉¹⁾, 松田淳也¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 中摩健二¹⁾, 表 俊也¹⁾, 菊池有史¹⁾, 山本英世¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 井村 肇, 丸山雄二, 白川 真, その他 6 名 (¹⁾ 武蔵小杉病院 循環器内科) : チーム医療により加療した 3 枝冠動脈動脈疾患に内頸動脈狭窄症を合併した 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 230 回), 2013. 12.
- 4) 菱田まさみ¹⁾, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 本郷公英²⁾, 白杵二郎²⁾, 許田典男³⁾, 北山康彦³⁾, 白田実男⁴⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院 研修医, ²⁾ 武蔵小杉病院 呼吸器内科, ³⁾ 武蔵小杉病院 病理部, ⁴⁾ 付属病院 呼吸器外科) : 肺原発 Pleomorphic Malignant Fibrous Histiocytoma (MFH) の 1 症例. 日本肺癌学会関東支部会 (第 167 回), 2013. 6.
- 5) 岡本淳一, 窪倉浩俊, 白田実男¹⁾ (¹⁾ 付属病院 呼吸器外科) : 左上葉切除術後 12 年目に摘出後の死腔部に生じた, 気管支・死腔瘻を伴う肺アスペルギローマの 1 治療例. 日本呼吸器外科学会総会 (第 30 回), 2013. 5.

論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) Okamoto J, Kubokura H, Ishii H¹⁾, Usuda J²⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Mediastinal Neurofibroma Originating from the pulmonary Branch of the Right Vagus Nerve in a Patient without von Recklinghausen Disease. The Thoracic and Cardiovascular Surgeon Reports 2013 ; 2 (1) : 29-31.

[武蔵小杉病院中央検査室]

研究概要

平成 25 年度に於ける活動は, 現有測定機器の有効活用を目的に測定機の変更 (項目組み換え), 汎用試薬の現有機への適用などの試みが主体となった. この結果, HCG, プロカルシトニンの迅速化が可能となったほか, 既存試薬の発売中止により検査の存続自体が危ぶまれたアルベカシン, テイコプラニンなどの血中薬物濃度の測定が継続可能となった. また, 細菌検査分野に於いては, 小児科との連携によりマイコプラズマ抗原検出法の有用性について検討を継続中である. 学術活動に於いては, 前年度に於いて NT-proBNP, トロポニン T について測定法の再評価を行ったが, この際同時に検討した新開発試薬について, 第 62 回日本医学検査学会で報告を行った. 同学会ではそれまで毒素のみを検出することが主流であった *Clostridium difficile* 迅速検査において, 抗原, 毒素を同時検出することの有用性についても報告している. また, 第 81 回日本医科大学医学会総会においては, 一昨年度より開始した新生児 AABR について二年間に得た知見と, 尿ビリルビン陽性時の確認法の再評価について報告を行った.

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 吉岡美香, 成定昌昭, 末廣勇氣, 菅原 通, 森本 進, 勝部康弘：当院における糞便中 *Clostridium difficile* 抗原及び毒素の簡易迅速検出キットの運用方法の検討. 日本医学検査学会 (第 62 回) (高松), 2013. 5.
- 2) 因泥弘之, 高橋裕太, 田村祥子, 青木麻衣, 津金香代子, 高木 豊, 森本 進, 勝部康弘：NT-proBNP 分析装置, 試薬の性能評価 Sphere Light Wako 有用性の検討. 日本医学検査学会 (第 62 回) (高松), 2013. 5.
- 3) 高橋裕太, 因泥弘之, 田村祥子, 青木麻衣, 津金香代子, 高木 豊, 森本 進, 勝部康弘：高感度トロポニン T 分析装置及び試薬の性能評価 測定原理の異なる分析装置 3 機種と比較. 日本医学検査学会 (第 62 回) (高松), 2013. 5.
- 4) 坂倉剛志, 西島美輝子, 荒井誠一, 荒木久美, 井梅和美, 亀田美和, 中島由美子, 山賀節子, 篠崎麻衣, 小伊藤保雄, 森本 進, 勝部康弘, 松村好克¹⁾ (1) 武蔵小杉病院新生児内科)：当院における新生児聴力スクリーニング検査について. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.
- 5) 篠崎麻衣, 渡辺敬志, 因泥弘之, 中島由美子, 菅原 通, 森本 進, 勝部康弘：尿中ビリルビン確認試験の評価. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 9.

[武蔵小杉病院薬剤部]

研究概要

武蔵小杉病院薬剤部では平成 25 年度より薬剤部長が代わり, また新人が 4 名入職, さらに来年度は 3 名の新人とがん専門薬剤師 1 名, 中途採用者 1 名を加え劇的な変革の時を迎えています. 平成 25 年度に着手し達成できたのは下記のとおりです. 院内製剤の取り扱いルールと IRB での審査病棟定数薬の 70% 削減院外処方せんの薬剤部押印の廃止期限管理の徹底 平成 26 年度はこれまで十分行えていなかった病棟業務や TPN はもとより, 過去の良いところを踏襲し, 新体制の薬剤部としてさらなる飛躍を遂げたいと考えます. 現在医薬情報, 感染, がん, 緩和領域の専門, 認定資格を有する薬剤師がいることから, 今後も大学病院の根幹となる教育臨床研究を念頭におき, 患者本位の薬物療法を提供できるよう研鑽を積んでいきます.

研究業績

著書

- 1) 此松晶子, 小野寺恵子¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部)：〔共著〕9. 機能障害. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会編著), 2013；pp804-809, 日経メディカルブックス.
- 2) 此松晶子, 宮内秀典, 小野寺恵子¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部)：〔共著〕11. 血管外漏出. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会編著), 2013；pp824-830, 日経メディカルブックス.
- 3) 此松晶子, 宮内秀典：〔共著〕資料 2. 抗がん剤・略名一覧. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会編著), 2013；pp1219-1223, 日経メディカルブックス.
- 4) 宮内秀典, 笠原英城：〔分担〕新薬くろーずあっぷ 155 レゲテクト錠 333mg (アカンプロサートカルシウム錠). 調剤と情報 2014.2 (Vol.20 No.2), 2014；pp98-103, じほう.
- 5) 笠原英城：〔共著〕妊婦授乳婦への薬物療法と海外リスク分類. 今日の治療指針 2014 (監修：山口徹・北原光夫 総編集：福井次矢・高木誠・小室一成), 2014；pp1499-1527, 医学書院.
- 6) 笠原英城：〔分担〕服薬指導・薬剤情報. 今日の治療指針 2014 (総編集：福井次夫 高木誠 小室一成), 2014；pp297-298,1320, 医学書院.
- 7) 笠原英城：〔分担〕薬剤リスト編. 治療薬ハンドブック 2014 (高久 史磨), 2014；pp198-229, じほう.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 笠原英城：シンポジウム 4「DI 過誤を起こさないための医薬品情報検索」. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第 43 回）（新潟），2013. 8.

(2) 一般講演：

- 1) 竹内崇浩，宮内秀典，吉田奈央，東さやか，此松晶子，野口周作，笠原英城：当院における入院化学療法施行患者に対する薬剤師の関わり. かながわ薬剤師学術大会（第 12 回）（横浜），2014. 1.
- 2) 吉村 歩¹⁾，五十嵐文¹⁾，吉田奈央，野口周作，牧野淳子²⁾，岩崎弥生²⁾，永井 徹³⁾，白田 誠³⁾，原 弘士³⁾，内田裕之⁴⁾，五十嵐俊¹⁾（¹⁾ 横浜市立市民病院薬剤部，²⁾ 厚木市立病院薬剤管理指導室，³⁾ 横浜市立脳血管医療センター薬剤科，⁴⁾ 関東労災病院薬剤部）：神奈川県下 5 施設における抗菌薬適正使用と薬剤感受性の検討. 医療薬学フォーラム 2012 クリニカルファーマシーシンポジウム（第 21 回）（金沢），2013. 7.
- 3) 五十嵐俊¹⁾，吉村 歩¹⁾，五十嵐文¹⁾，吉田奈央，野口周作，牧野淳子²⁾，岩崎弥生²⁾，永井 徹³⁾，白田 誠³⁾，原 弘士³⁾，内田裕之⁴⁾（¹⁾ 横浜市立市民病院薬剤部，²⁾ 厚木市立病院薬剤管理指導室，³⁾ 横浜市立脳血管医療センター薬剤科，⁴⁾ 関東労災病院薬剤部）：神奈川県下 5 施設における Linezolid の使用状況. 医療薬学フォーラム 2012 クリニカルファーマシーシンポジウム（第 21 回）（金沢），2013. 7.
- 4) 原 弘士¹⁾，永井 徹¹⁾，白田 誠¹⁾，吉田奈央，野口周作，牧野淳子²⁾，岩崎弥生²⁾，内田裕之³⁾，吉村 歩⁴⁾，五十嵐文⁴⁾，五十嵐俊⁴⁾（¹⁾ 横浜市立脳血管医療センター薬剤科，²⁾ 厚木市立病院薬剤管理指導室，³⁾ 関東労災病院薬剤部，⁴⁾ 横浜市立市民病院薬剤部）：神奈川県下 5 施設における Metronidazole の使用状況. 医療薬学フォーラム 2012 クリニカルファーマシーシンポジウム（第 21 回）（金沢），2013. 7.
- 5) 吉田奈央，野口周作¹⁾，此松晶子，東さやか，宮内秀典，竹内崇浩，笠原英城（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部）：ICT 抗菌薬ラウンドの有用性調査. 日本医療薬学会年会（第 23 回）（仙台），2013. 9.
- 6) 若城由美子，山口朋禎¹⁾，岸 泰宏²⁾，二宮美香³⁾，片岡博邦（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器内科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院精神科，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院看護部）：治療が奏功しオピオイドを中止できた 1 例との関わり. 日本緩和医療学会学術大会（第 18 回）（横浜），2013. 6.
- 7) 永羽日出男^{1,2)}，岸 泰宏^{1,3)}，山口朋禎^{1,4)}，下地玉恵^{1,5)}，栗原香織^{1,5)}，二宮美香^{1,5)}，軽部みなと^{1,5)}，青山豊子^{1,5)}，若城由美子¹⁾，宮内秀典¹⁾，小泉嘉子^{1,6)}（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院緩和ケアチーム，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院精神科，⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器内科，⁵⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院看護部，⁶⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院医療連携室）：症状の進行したオピオイド持続性患者の在宅医療への移行についての検討. 日本緩和医療学会学術大会（第 18 回）（横浜），2013. 6.
- 8) 永迫さゆり¹⁾，村上正洋²⁾，野村好美¹⁾，西山絵美¹⁾，若城由美子（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院看護部，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科）：院内褥瘡発生における発生部位と深さの重み付け：褥瘡治療期間に注目して. 日本褥瘡学会学術集会（第 15 回）（神戸），2013. 7.

[武蔵小杉病院看護部]

研究概要

1) 卵巣がんの標準治療選択・Q&A 2) ICU・CCU・循環器病棟を対象とした注射薬剤のポイント 3) 当院の心臓リハビリテーション普及の仕方 4) NPPV で使用するマスクによる皮膚障害予防対策 5) 小児の血便時のトリアージ 6) 7) 化学療法・放射線療法時の性機能障害・血管外漏出のリスク・対処方法 8) 意思決定支援・化学療法管理の基準 9) 10) 投与スケジュール・適応疾患・副作用のまとめ 11) GDM 外来の療養指導と結果の報告 12) GDM 症例へ療養指導と結果の検証 13) 再発乳癌患者の抗癌剤治療開始への取組み 14) グルコアルブミン値を指標とした療養指導と結果 15) 特定看護師の教育体制の為の組織づくり 16) 特定看護師研修で得た事・今後の展望 17)

患者の動向の分析・昨今の地域高齢化への対応 18) 胸水貯留の患者の人工呼吸器を装着時の体位管理の検討・実践
19) 米国の急性期ケアにおける NP の活動評価 20) 呼吸器外科研修で得た事・今後の展望 21) 立会出産の満足度を高めるペアレンツクラスの内容 22) 退院介入シートを用いた患者の把握とシステムの構築 23) 死産した母親の退院後支援のニーズ調査 24) NPPV と肺炎発生要因の分析・口腔ケア方法の検討 25) 心臓リハビリテーションの心臓病教室の取り組み 26) 認定看護師の活動報告 27) 褥瘡発生部位・深さの分析と要因の推察 28) NPPV マスクの除圧シートの使用状況と問題点と対策 29) 母親の初回面会時の不安と妊娠背景の関連性のアンケート調査 30) 食物負荷試験時の食物アレルギー児と家族への看護師の関わり 31) 体重 200kg 以上の患者の褥瘡ケア報告 32) 認定看護師の活動・地域への貢献・今後の課題 33) 帝王切開後の肥厚性瘢痕とケロイド発生予防の報告と考察 34) がん化学療法薬曝露防止の研修会・指導の評価 35) がん患者と家族へのケアリングパートナーシップでのケア

研究業績

著書

- 1) 小野寺恵子, 此松晶子¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部) : [共著] 性機能障害. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会), 2013 ; pp804-809, 日経 BP 社.
- 2) 小野寺恵子, 此松晶子¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部) : [共著] 血管外漏出. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会), 2013 ; pp824-830, 日経 BP 社.
- 3) 小野寺恵子, 此松晶子¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部) : [共著] がん診療における看護介入. がん診療 UP TO DATE (がん診療 UP TO DATE 編集委員会), 2013 ; pp1154-1169, 日経 BP 社.
- 4) 小野寺恵子, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科) : [共著] 抗生物質 ドキソルビシン塩酸塩 リポソーム注射剤. プロフェッショナルがんナーシング, 2013 ; pp106-107, メディカ出版.
- 5) 小野寺恵子, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科) : [共著] 微小管阻害薬 パクリタクセルアルブミン混濁型. プロフェッショナルがんナーシング, 2013 ; pp144-145, メディカ出版.
- 6) 小野寺恵子, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科) : [共著] 卵巣がん化学療法の一問一答. プロフェッショナルがんナーシング, 2014 ; pp62-68, メディカ出版.
- 7) 月岡悦子, 佐藤直樹¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科) : [共著] 「DoNot」でやりがち・やるべきポイントをクリックマスター 循環器ナース必修注射剤これだけ 32. ハートナーシング 2014 Vol.27No.2, 2014 ; pp4-8, メディカ出版.
- 8) 石田洋子 : [共著] 「心臓リハビリテーション看護力アップセミナー」～心リハの重要性をどうすれば看護師に理解にもらえる?. 月刊 Heart, 2014 ; pp33-38, 医学出版.
- 9) 野村好美 : [自著] NPPV 管理下の患者の皮膚障害予防対策. 呼吸ケア 11 月号, 2013 ; pp106-110, メディカ出版.
- 10) 寒竹由香理 : [共著] 待ったなしの小児救急 Part1 こんな症状どのようにトリアージしますか 血便. 救急看護 & トリアージ (道又 元裕), 2013 ; pp61-66, 日総研出版.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 石田洋子 : 慣性心不全看護認定看護師の実践と課題. 日本循環器看護学会学術集会 (第 10 回) (京都府), 2013. 9.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 栗原香織, 鈴木仁美 : 認定看護師による看護教育. 日本医療情報学会看護学術大会 (第 14 回) (北海道札幌市), 2013. 7.

(3) 一般講演：

- 1) 福永ヒトミ, 望月瑠美, 島田博美¹⁾, 八木 孝²⁾, 中島敏晶³⁾, 南 史朗³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学大学院, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内科)：新診断基準による妊娠糖尿病患者を対象とした療養指導外来の有用性. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本県熊本市), 2013. 5.
- 2) 福永ヒトミ, 望月瑠美, 金子佳世, 吉田真貴子, 飯高洋子, 島田博美¹⁾, 八木 孝²⁾, 南 史朗³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学大学院, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内科)：Participation of NPs to the care of Gestational Diabetes Mellitus is Effective to prevent Perinatal Incidents. American Academy of Nurse Practitioners conference (アメリカ合衆国ラスベガス), 2013. 6.
- 3) 吉田房江, 望月瑠美, 福永ヒトミ, 酒井 瞳¹⁾, 原野謙一¹⁾, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科)：再発乳癌患者を対象とした抗癌剤治療開始へ向けての取り組み. CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2013IN 舞浜 (第 13 回) (東京都), 2013. 9.
- 4) 福永ヒトミ, 金子佳世, 望月瑠美, 島田博美¹⁾, 八木 孝²⁾, 石川真由美²⁾, 中島敏晶²⁾, 南 史朗²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内科)：妊娠糖尿病の療養指導外来の有用性について：グルコアルブミンを指標とした指導を実施して. 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 (第 29 回) (岐阜県岐阜市), 2013. 11.
- 5) 福永ヒトミ, 南 史朗¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科)：特定看護師の実習・研修のための教育体制構築のための院内づくり. 日本 NP 協議会研究会 (第 2 回) (東京都), 2013. 11.
- 6) 篠崎真弓, 福永ヒトミ, 岡本淳一¹⁾, 窪倉浩敏¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器外科)：手術室での新たな学びと今後の展望：特定行為に係る研修を通して. 日本 NP 協議会研究会 (東京都), 2013. 11.
- 7) 門馬 治：高齢者の心肺停止例における当院の役割. 日本脳死・脳蘇生学会 (第 26 回) (東京都), 2013. 6.
- 8) 門馬 治, 石井達也, 伊波早乃, 小見山かおり：胸水貯留中の人工呼吸器装着患者に行う体位管理の考察. 日本救急看護学会 (第 25 回) (東京都), 2013. 10.
- 9) 篠崎真弓：米国の急性期ケア領域におけるナースプラクティショナーの活動の評価に関わる研究の動向. 日本看護学会 - 成人看護 I - 学術集会 (第 44 回) (和歌山県), 2013. 10.
- 10) 篠崎真弓：手術室での新たな学びと今後の展望. 神奈川県呼吸器外科学会 (神奈川県横浜市), 2013. 11.
- 11) 秦江公子, 早川晃代：立会出産の満足度を高めるベアレンツクラスの内容と関係要因. 神奈川県母性衛生学会学術集会 (第 27 回) (神奈川県横浜市), 2014. 2.
- 12) 狭間由利, 駒形由未加：PFM (病床管理) WG の活動から退院支援システムの構築：退院支援介入シートに臨床的予測を加えて. 日本医療情報学会看護学術大会 (第 14 回) (北海道札幌市), 2013. 7.
- 13) 青柳千秋, 徳満亜矢：死産体験した母親に対する退院後の支援体制について：インタビューから具体的ニーズを探る. 日本母性衛生学会学術集会 (第 54 回) (埼玉県大宮市), 2013. 10.
- 14) 月岡悦子：カルテビューからみる NPPV と肺炎要因. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都府), 2014. 2.
- 15) 石田洋子：心疾患患者に対する心臓病教室の取り組み. 日本心不全学会学術集会 (第 17 回) (埼玉県大宮市), 2013. 11.
- 16) 永迫さゆり, 村上正洋¹⁾, 野村好美, 西山絵美, 岩城由美子²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部)：院内褥瘡発生における発生部位と深さの重み付け：褥瘡治療時間に注射して. 日本褥瘡学会学術集会 (第 15 回) (兵庫県神戸市), 2013. 7.
- 17) 高木 聡, 白杵二郎¹⁾, 板倉潮人¹⁾, 月岡悦子, 山口貴子, 加藤和久²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器内科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 ME 部)：NPPV マスク圧迫に対する除圧シート使用の見直し. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第 23 回) (東京都), 2013. 11.
- 18) 井上梨乃, 根本あずさ：NICU へ入院となった子どもをもつ母親への思いと背景の関連性. 日本看護学会 - 母性看護学 - (第 44 回) (岡山県岡山市), 2013. 9.

- 19) 渡辺美奈子：日帰り入院で食物負荷試験を受ける食物アレルギーをもつ幼児と家族への看護師のかかわり. 日本看護科学学会学術集会（第23回）（大阪府大阪市），2013. 12.
- 20) 笹森裕子：体重200kg以上の患者の症例報告. 川崎市看護協会 平成25年度看護研究活動報告会（神奈川県川崎市），2014. 2.
- 21) 舩谷寛子，朝倉啓文¹⁾，土佐眞美子²⁾（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科，²⁾日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科）：帝王切開手術後の早期癒痕ケアの管理の実際. 日本母性衛生学会（第54回）（埼玉県さいたま市），2013. 10.
- 22) 小野寺恵子：院内における安全な抗がん剤の取り扱いに向けての教育の効果とその課題. 日本がん看護学会学術集会（第28回）（新潟県新潟市），2014. 2.
- 23) 藤原佳美：Transforming Process of Family with a cancer Patient In Caring Partnership Based on Margaret-newman's Theory of Health As Expanding conscivnsness. International Family Nursing conference (11th)（アメリカ合衆国ミネソタ州），2013. 6.

[武蔵小杉病院認知症センター]

研究概要

日本医科大学武蔵小杉病院は川崎市から認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症に係わる鑑別診断と専門医療相談を行ない、認知症についての臨床的、社会医学的研究を行っている。街ぐるみ認知症相談センターにおいては認知症になっても安心して暮らせるように、一般市民、医療機関、介護機関、行政、企業などとネットワークを作る連携事業を行う研究をしている。1 街ぐるみ認知症相談センターで認知症の早期発見、また認知症の介護をしている方を支援をするための相談業務を行ない、高齢者本人へのインタビュー調査による健常高齢者における物忘れ/認知症ケアのニーズについて研究を実施した。2 相談者のもの忘れなどに関する情報をかかりつけ医へ提供し、かかりつけ医を中心とした認知症の診療システムを構築する試みを実施し、その効果について研究をしている。3 市民が認知症について理解を深めるような試みとして、川崎市と共催の市民公開講座の実施、地域催事への参加、勉強会への講師派遣などを行っている。4 認知症介護に携わる専門家と医療との連携を促進するための試みとして、専門職向けの公開講座を年に3回、地域のかかりつけ医とのミーティングを年に2回実施している。5 川崎市の認知症まちづくり対策委員会に参加し、地域ぐるみで認知症になっても暮らしやすいまちづくりを目指して活動している。平成25年度は新たな試みとして、子どもに認知症を理解してもらおう活動、若年性認知症の人と家族の方の集まりを行った。そして、もの忘れをめぐる高齢者とその家族の相互作用の問題についての研究を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 北村 伸¹⁾，中村 祐²⁾，本間 昭³⁾，木村紀幸⁴⁾，浅見由美子⁴⁾（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院内科，²⁾香川大学医学部精神神経医学講座，³⁾認知症介護研究・研修東京センター，⁴⁾第一三共株式会社）：メマンチン塩酸塩（メマリー）の中等度および高度アルツハイマー型認知症に対する長期投与時の忍容性ならびに有効性の検討. 日本老年医学会雑誌 2014；51（1）：74-84.
- 2) Kengo I¹⁾，Etsuro M²⁾，Hidenao F³⁾，Kazunari I⁴⁾，Yukihiko W⁵⁾，Takashi A⁶⁾，Satoru M⁷⁾，Kenichi M⁸⁾，Shin K⁹⁾，Haruo H¹⁰⁾，Seigo N，Hiroshi M，Yasuo K，Kazuo H，Toshimitsu M，et al.（¹⁾Department of Clinical and Experimental Neuroimaging, Center for Development of Advanced Medicine for Dementia, National Center for Geriatrics and Geriatrics, ²⁾Department of Behavioral Neurology and Cognitive Neuroscience, Tohoku University, Sendai, Japan, ³⁾Human Brain Research Center, Kyoto University, Kyoto, Japan, ⁴⁾De-

partment of Radiology, Kinki University, Osakasayama, Japan, ⁵⁾ Department of Outpatient Services, National Center for Geriatrics and Gerontology, Obu, Japan, ⁶⁾ Department of Neuropsychiatry, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan, ⁷⁾ School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture, Hikone, Japan, ⁸⁾ Department of Geriatric Behavioral Neurology, Tohoku University, Sendai, Japan, ⁹⁾ Department of Neurology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, Kawasaki, Japan, ¹⁰⁾ Department of Geriatric Medicine, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan) : Prediction of outcomes in MCI with 123I-IMP-CBF SPECT : a multicenter prospective cohort study. *Annals of Nuclear Medicine* 2013 ; 27 (10) : 898-906.

(2) 総説 :

- 1) 北村 伸¹⁾, 永山 寛²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 2) 日本医科大学 大学院医学研究科神経内科学) : パーキンソン病と抑うつ. *精神神経学雑誌* 2013 ; 115 (11) : 1135-1141.

著 書

- 1) 北村 伸 : [分担] アルツハイマー型認知症. 認知症予防専門士テキストブック (日本認知症予防学会監修), 2013 ; pp62-71, メディア・ケアプラス.
- 2) 北村 伸 : [分担] 画像検査・診断. 認知症予防専門士テキストブック (日本認知症予防学会監修), 2013 ; pp112-119, メディア・ケアプラス.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 北村 伸 : 目からウロコ 内科医への認知症診療アドバイス. 日本内科学会総会 (第 110 回) (東京), 2013. 4.
- 2) 北村 伸 : 精神科医のための認知症診療に必要な神経所見の取り方 簡易な神経所見の取り方実践講座. 日本老年精神医学会総会 (第 28 回) (大阪), 2013. 6.
- 3) 北村 伸 : 問診と神経学的診察 認知症診療の実践セミナー「認知症診療の実際」. 日本老年医学会総会 (第 54 回) (大阪), 2013. 6.

(2) シンポジウム :

- 1) 小海宏之¹⁾, 若松直樹²⁾, 加藤真弓³⁾, 齊藤徳仁⁴⁾, 森 亮⁵⁾, 川西智也 (1) 花園大学 社会福祉学部 臨床心理学科, 2) 新潟リハビリテーション大学) : 高齢者支援としての心理臨床の実践 - 第 7 講 - 家族支援について. 日本心理臨床学会 (第 32 回秋季大会) (横浜), 2013. 9.

(3) 一般講演 :

- 1) 根本留美, 川西智也, 稲垣千草, 並木香奈子, 野村俊明, 北村 伸 : 地域における連携促進を目指して : かかりつけ医を対象とした川崎認知症ケアミーティング開催. 日本認知症予防学会 (第 3 回) (新潟), 2013. 9.
- 2) 川西智也, 根本留美, 稲垣千草, 並木香奈子, 野村俊明, 北村 伸 : もの忘れをめぐる高齢者とその家族の相互作用の問題に対し, 双方の思いの代弁を通して関係調整を行なった事例. 日本認知症予防学会 (第 3 回) (新潟), 2013. 9.
- 3) 北村 伸, 濱本 真¹⁾, 山室 学¹⁾, 神谷信雄¹⁾, 高山洋平¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院神経内科) : Computer 支援診断システムを用いた IMP-SPECT によるアルツハイマー病 (AD) の検出感度. 日本神経学会学術大会 (第 54 回) (東京), 2013. 5.
- 4) 稲垣千草, 根本留美, 川西智也, 野村俊明, 北村 伸 : 健常高齢者における物忘れ/認知症ケアのニーズ : 高齢者本人へのインタビュー調査より. 日本認知症ケア学会学大会 (第 14 回) (福岡), 2013. 6.
- 5) 川西智也 : 期認知症者の家族介護者の語りにもみられる悲嘆の特徴 : 介護者家族会での参与観察事例からの考察. 日本認知症ケア学会学大会 (第 14 回) (福岡), 2013. 6.

29. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院病理部]

研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり, 研究部門もさらに充実してきた. 現在の主な研究テーマは以下の通りである. (1) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断 (外来・病棟・術中・剖検時) の確立. (2) 免疫細胞・組織化学 (サイトケラチン 7/20/34 β E12/35 β H11, MIB-1, Napsin A, Villin) を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立. (3) 乳腺腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立; 細胞転写法を用いて ER, PgR, HER2 蛋白質, MIB-1 指数の他, HER2 に関しては蛋白質の過剰発現と遺伝子増幅 (CISH) の両方を検討する. 2) 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格, 接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究; HER2 タンパク質と基底膜分解酵素について. (4) 骨軟部腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用) (5) 子宮癌 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用); とくにセルブロック法. (6) リンパ節病変 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ. 2) リンパ節病変の分子生物学的検索. 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学.

研究業績

論文

(1) 症例報告:

- 1) 下田朋宏¹⁾, 松谷 毅²⁾, 吉田 寛¹⁾, 細根 勝, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 外科): ネフローゼ症候群を契機に発見された全身性エリテマトーデス合併進行胃癌の1例. The Japanese Society of Gastroenterology 2013; 110 (10): 1797-1803.
- 2) 馬越通信¹⁾, 松谷 毅²⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃²⁾, 平方 敦¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 細根 勝, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 外科): 腹部症状をともない経過中に増大した胃異所性腺の1例. The Japanese Society of Gastroenterology 2013; 110 (9): 1619-1624.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 細根 勝: リンパ節・骨髄・縦隔. 細胞診断学セミナー (第38回) (東京), 2013. 8.
- 2) 細根 勝: リンパ節の病理と細胞診. 公益財団法人東京都保険医療公社東京都がん検診センター細胞検査士養成講座 (東京), 2013. 9.
- 3) Hosone M, Arai S, Katayama H, Maeda S, Naito Z¹⁾ (1) Nippon Medical School, Japan): Two different types of effusion-based lymphoma; primary effusion lymphoma (PEL) and HHV8-negative common effusion lymphoma. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopaheology (Chiang Mai, Thailand), 2014. 1.

(2) ワークショップ:

- 1) 片山博徳, 丹野正隆, 細根 勝, 平田知己¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科, 2) 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター, 3) 日本医科大学病理学講座統御機構腫瘍学): 胸膜中皮腫診断における体腔液細胞診の有用性と今後の問題点; 報告様式について. 日本臨床細胞学会 (第54回) (新高輪), 2013. 6.

(3) 一般講演:

- 1) 細根 勝: 消化管内視鏡生検材料から MALT リンパ腫をどのように診断するか? ; overdiagnosis を防ぐため

- に. SMS 臨床消化器病研究会 (第 16 回) (渋谷), 2013. 4.
- 2) 平田知己¹⁾, 吉野直之¹⁾, 細根 勝, 片山博徳, 白田実男²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, 2) 日本医科大学 呼吸器外科): RANKL 抗体により, 骨転移および肺転移巣が縮小した肺扁平上皮癌の 1 例. 日本肺癌学会 (第 54 回) (東京), 2013. 11.

論 文

〔追加分〕

追加分原著:

- 1) Matsutani T¹⁾, Matsuda A¹⁾, Yoshida H²⁾, Katayama H, Hosone M, Sasajima K¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital): Resection of skeletal muscle metastases from squamous cell carcinoma of the esophagus: case report and literature review. Esophagus 2013; 10 (1): 42-45.
- 2) 中野 哲¹⁾, 柴田明佳¹⁾, 尾形隆夫¹⁾, 東 敬子, 片山博徳, 横山宗伯²⁾, 高嶋眞理¹⁾, 高濱眞紀子¹⁾ (1) 新渡戸文化短期大学, 2) 日本医科大学 病理学 (統御機構・腫瘍学)): LED を用いた新しい蛍光顕微鏡 (Lumin キット) の評価. 新渡戸文化短期大学学術雑誌 2013; (3): 35-38.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 関 奈紀¹⁾, 横山 正¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 丹野正隆 (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科, 乳腺外科, 一般外科): 結核の既往なく, 診断に難渋した乳腺腫瘍を初発症状とした肺外結核の 1 例. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 2) 森本健介¹⁾, 東 直行¹⁾, 細根 勝, 川名誠司¹⁾ (1) 附属病院皮膚科): 陰茎基部に発生した硬化性脂肪肉芽腫の 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 76 回) (東京), 2013. 2.

〔多摩永山病院中央検査室〕

研究概要

当検査室における主な研究目的は, 臨床検査学の進歩のなかで, 新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し, 新検査法の実現を追っている. また, 日常の臨床検査全体の精度管理, 検査方法および迅速測定を実施し, 各種の検査における臨床との関連を見つつ, 質の向上と検査測定法の確立を目指している.

研究業績

学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 早坂佳奈子, 鈴木美子, 杉原秀人, 島崎麻衣, 井口輝彦, 池野廣幸, 平田知己: 感受性検査基準改定 (CLSI M100-S21) とカルバペネム系薬の薬剤感受性の変動. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京都), 2013. 9.
- 2) 山本 愛¹⁾, 丸山 弘²⁾, 田中 愛¹⁾, 鈴木美子, 磐井佑輔¹⁾ (1) 感染制御室, 2) 外科・感染制御室): MRSA 保菌高リスク患者の早期隔離効果の検討. 日本環境感染学会総会・学術集会 (第 29 回) (東京都), 2014. 2.

(2) セミナー:

- 1) 久保田稔: ABR/EEG (脳死判定セミナー). 小児救急医学会学術集会 (第 27 回) (沖縄県), 2013. 6.
- 2) 久保田稔: ABR・EEG (2013 年救急医療における脳死患者の対応セミナー). 日本臓器移植ネットワーク本部 (神奈川県), 2013. 11.

- 3) 久保田稔：脳死下臓器提供における役割（2013年救急医療における脳死患者の対応セミナー）、日本臓器移植ネットワーク本部（神奈川県）、2013. 11.
 - 4) 久保田稔：脳死下臓器提供法的脳死判定における脳波・ABRについて（第3回法的脳死判定における脳波測定研修会）、日本臓器移植ネットワーク東日本支部（東京都）、2013. 12.
 - 5) 久保田稔：法的脳死判定における脳波測定。岡山県臓器移植ワーキンググループ会議（第3回）（岡山県）、2014. 1.
 - 6) 松田一平：正しい知識と方法で。東京都臨床検査技師会 STI（性感染症）予防教室（東京都）、2013. 6.
 - 7) 井上 淳：精度管理の目的と精度管理図を良好にするには？。多摩地区生化学精度管理研究会（第1回）多摩地区公立病院技師長会生化学精度管理研究会（東京都）、2013. 11.
 - 8) 井上 淳：外部精度管理の利用法と精度管理が不良の場合。多摩地区生化学精度管理研究会（第2回）多摩地区公立病院技師長会生化学精度管理研究会（東京都）、2013. 12.
 - 9) 井上 淳：外部委託先の精度管理。多摩地区生化学精度管理研究会（第3回）多摩地区公立病院技師長会生化学精度管理研究会（東京都）、2014. 1.
 - 10) 井上 淳：検査機器の精度を維持するには。多摩地区生化学精度管理研究会（第4回）多摩地区公立病院技師長会生化学精度管理研究会（東京都）、2014. 2.
- (3) 一般講演：
- 1) 金子純也¹⁾、谷 将星¹⁾、金子児太郎¹⁾、佐藤 慎¹⁾、磐井佑輔¹⁾、福田令雄¹⁾、北橋章子¹⁾、久野将宗¹⁾、小柳正雄¹⁾、桑本健太郎¹⁾、諸江雄太¹⁾、畝本恭子¹⁾、鈴木健介¹⁾、久保田稔（¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター）：心肺停止蘇生後患者における神経学的予後予測～主に SSEP の解析から。日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会（第26回）（東京都）、2013. 6.
 - 2) 玉置智規¹⁾、野手洋治¹⁾、久保田稔、水成隆之¹⁾、森田明夫¹⁾（¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科）：CEA と癌。日本頸部脳血管治療学会（第12回）（東京都）、2013. 6.
 - 3) 畝本恭子¹⁾、久保田稔、鈴木健介¹⁾、苜原隆之¹⁾、福田令雄¹⁾、小柳正雄¹⁾、久野正宗¹⁾、諸江雄太¹⁾、二宮宣文¹⁾、横田裕行¹⁾（¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター）：高齢者意識障害の原因診断における病院前情報の意義。日本臨床救急医学会総会（第16回）（東京都）、2013. 7.
 - 4) Tamaki T¹⁾, Kubota M, Saigusa H¹⁾, Node Y¹⁾, Saito N¹⁾, Umeoka K¹⁾, Mizunari T¹⁾, Morita A¹⁾（¹⁾ Department of Neurosurgery）：Hoarseness after carotid endarterectomy：The technique for preventing vagus nerve injury. The Fourth International MASSIN Congress (Kobe, Japan), 2013. 9.
 - 5) Tamaki T¹⁾, Kubota M, Saigusa H¹⁾, Node Y¹⁾, Saito N¹⁾, Umeoka K¹⁾, Mizunari T¹⁾, Morita A¹⁾（¹⁾ Department of Neurosurgery）：Analysis of Perioperative Renal Function in Carotid Endarterectomy Patients. European Stroke Conference (22th) (London, UK), 2013. 5.
 - 6) Tamaki T¹⁾, Kubota M, Saigusa H¹⁾, Node Y¹⁾, Saito N¹⁾, Umeoka K¹⁾, Mizunari T¹⁾, Morita A¹⁾（¹⁾ Department of Neurosurgery）：Hoarseness after carotid endarterectomy. European Stroke Conference (22th) (London, UK), 2013. 5.
 - 7) 大堀昂平、成定朋美、作間俊介、井上 淳、池野廣幸、平田知己：イムノティクルス オート3 RPR（識別記号：2/PM）の基礎的検討。首都圏支部医学検査学会（第2回）（東京都）、2013. 10.
 - 8) 柿崎加南、菊地英子、下村由紀、藤木直美、久保田久子、野路佳子、池野廣幸、平田知己：新生児聴覚スクリーニング検査の有用性について。首都圏支部医学検査学会（第2回）（東京都）、2013. 10.
 - 9) 丸山 弘¹⁾、田中 愛²⁾、山本 愛²⁾、鈴木美子（¹⁾ 外科・感染制御室、²⁾ 感染制御室）：大腸手術における手術時手袋表面の汚染度調査。日本環境感染学会総会・学術集会（第29回）（東京都）、2014. 2.
 - 10) 井上 淳、作間俊介、大堀昂平、池野廣幸、平田知己：「脂質コントロール血清セット」の基礎的検討。日本医学検査学会（第62回）（香川県）、2013. 5.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Tamaki T¹, Kubota M, Saitou N¹, Umeoka K¹, Mizunari T¹, Node Y¹ (1) Department of Neurosurgery) : Vagus nerve neuromonitoring during carotid endarterectomy. Perspect Vasc Surg Endovasc Ther 2012 ; 24 (3) : 137-140.

学会発表

追加分シンポジウム：

- 1) 松田一平：Around30－若者よ いま思うこと そしてこれから。首都圏支部医学検査学会（第1回）関東甲信支部医学検査学会（第49回）（神奈川県），2012. 11.

[多摩永山病院薬剤部]

研究概要

当薬剤部では、今年度薬剤師を病棟専従として配置し、病棟における医療スタッフの負担軽減及び薬物療法の質的向上をめざし病棟薬剤業務実施を展開する。このことはチーム医療の一員として患者への薬物療法に対するの安全管理また薬物の適正使用に対し、薬剤師の職能を十分に発揮することが強く求められている。そのような状況の中、当薬剤部では臨床で問題となる化学療法について薬剤師の立場から研究しまとめ、発表した。また今後、病棟常駐することを踏まえ薬剤師の取り組みについて発表した。さらに地域での他病院との連携での成果をまとめ、発表した。今後、薬剤師病棟常駐を展開するにあたり、薬剤師としての職能を十分発揮し、医薬品の適正使用の向上、また薬物療法の安全管理に努力を積み重ねなければならないと考えている。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 吉田真人, 堀川佳津美, 高山喜光, 深尾彰平, 田杭直哉, 村田和也：日本医科大学多摩永山病院におけるデノスマブ投与における薬剤師の役割：低カルシウム血症の予防への取り組み。医療薬学フォーラム2013 クリニカルファーマシーシンポジウム（第21回）（石川県），2013. 7.
- 2) 長野楨彦, 近藤匡慶, 田杭直哉, 村田和也：救命救急センターにおける薬剤師の関わり：注射薬投与ルートの検討。日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第43回）（新潟県），2013. 8.
- 3) 深尾彰平, 村田和也, 高山喜光, 吉田真人, 近藤匡慶, 堀川佳津美：エルロチニブ服用患者におけるプロトンポンプ阻害薬及びH2拮抗薬の併用について。日本医療薬学会年会（第23回）（宮城県），2013. 9.
- 4) 近藤匡慶, 田杭直哉, 丸山 弘¹, 村田和也 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科)：当院におけるTDM対象抗菌薬適正使用のための薬剤部の取り組みと評価。第62回日本感染症学会 第60回日本化学療法学会 合同学会（東京都），2013. 11.
- 5) 濱谷陽子¹, 白井玲華¹, 浅田美子², 田中三広³, 高橋尚子⁴, 斎藤貴子⁵, 小松原和枝⁶, 星 一代¹, 亀山明美, 鈴木洋介⁷, 藤井仁美¹, 宮川高一⁸, 住友秀孝⁹, 関口芳弘¹⁰, その他8名 (1) 多摩センタークリニックみらい, 2) ウラン薬局, 3) 青梅市立総合病院薬剤部, 4) 東京電力株式会社福島第二原子力発電所健康管理室, 5) (株) フットケアジャパン フスフレーター, 6) イムス記念病院 看護部, 7) 東京電力病院 皮膚科, 8) クリニックみらい国立, 9) 立川相互病院 内分泌・代謝科, 10) 青梅市立総合病院 内分泌糖尿病内科)：「危険な皮膚と足を見つけよう」セミナーの有用性について：病変別療養指導のツボを学ぶ。日本糖尿病学会学術集会（第

56回) (熊本県), 2013. 5.

- 6) 小松原和枝¹⁾, 白井玲華²⁾, 星 一代²⁾, 濱谷陽子²⁾, 浅田美子³⁾, 田中三広⁴⁾, 高橋尚子⁵⁾, 齊藤貴子⁶⁾, 亀山明美, 鈴木洋介⁷⁾, 藤井仁美²⁾, 宮川高一⁸⁾, 住友秀孝⁹⁾, 関口芳弘¹⁰⁾, その他 8 名 (1) イムス記念病院 看護部, 2) 多摩センタークリニックみらい, 3) ウラン薬局, 4) 青梅市立総合病院薬剤部, 5) 東京電力株式会社福島第二原子力発電所健康管理室, 6) (株) フットケアジャパン フスフレーター, 7) 東京電力病院 皮膚科, 8) クリニックみらい国立, 9) 立川相互病院 内分泌・代謝科, 10) 青梅市立総合病院 内分泌糖尿病内科): 「危険な足と皮膚を見つけよう」セミナーについて: 皮膚科専門医とフスフレーターとともに, 日本糖尿病学会学術集会 (第 56 回) (熊本県), 2013. 5.
- 7) 下道友莉恵, 淡路健作, 加藤浩子, 菅谷量俊, 村田和也: 小児病棟薬剤業務の業務標準化に向けて: 「疾患別薬剤ケアマニュアル」作成による業務効率化について, 日本薬学会 (第 134 回) (熊本県), 2014. 3.
- 8) 福井倫男¹⁾, 深谷祥子²⁾, 布川かおる³⁾, 江川弘子⁴⁾, 萩原ゆり子⁵⁾, 加藤浩子, 柴田まり子⁶⁾, 井上美希⁷⁾, 山崎浩¹⁾, 渡邊祐子⁸⁾, 関口芳弘⁹⁾, 鈴木洋介¹⁰⁾, その他 11 名 (1) 永生病院薬剤科, 2) 東京医科大学八王子医療センター栄養管理科, 3) 伊藤内科クリニック, 4) 青梅市健康福祉部健康課母子保健係, 5) 多摩丘陵病院栄養科, 6) 日本医科大学多摩永山病院 看護部, 7) みなみの糖クリニック栄養科, 8) 多摩センタークリニックみらい内科, 9) 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, 10) 東京電力病院皮膚科): 多摩地域における「みんなで考えよう! わかっているけど使えないカーボカウント」ワークショップ 第 1 報 事前アンケート集計結果, 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本県), 2013. 5.
- 9) 布川かおる¹⁾, 井上美希²⁾, 深谷祥子³⁾, 江川弘子⁴⁾, 萩原ゆり子⁵⁾, 加藤浩子, 柴田まり子⁶⁾, 福井倫男⁷⁾, 山崎浩⁷⁾, 渡邊祐子⁸⁾, 関口芳弘⁹⁾, 鈴木洋介¹⁰⁾, その他 11 名 (1) 伊藤内科クリニック, 2) みなみの糖クリニック, 3) 東京医科大学八王子医療センター, 4) 青梅市健康福祉部健康課母子保健係, 5) 多摩丘陵病院, 6) 日本医科大学多摩永山病院 看護部, 7) 永生病院, 8) 多摩センタークリニックみらい内科, 9) 青梅市立総合病院, 10) 東京電力病院): 多摩地域における「みんなで考えよう! わかっているけど使えないカーボカウント」ワークショップ 第 2 報: ワークショップの実際, 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本県), 2013. 5.

[多摩永山病院看護部]

研究概要

今年度は 7 演題で日本環境感染学会, 日本緩和医療学会, 日本熱傷学会関東地方会, 日本がん看護学会等で発表が行われた。1. MRSA の伝搬状況を, MRSA 保菌高リスク患者で早期隔離していなかった 2009 年までと早期隔離を開始した 2010 年以降で調査。その結果, 早期隔離をしていない時期は 36% で, 隔離対策開始以降は一旦増加したがその後減少。また, 対策以降は, ほとんど新規 MRSA 保菌者はなくなった。2. がん関連認定看護師 7 名の認知と相談状況を把握するため, 看護師 259 名へアンケート調査した結果, がん関連認定看護師はそれ以外の認定看護師と比較し, 相談状況及び相談したい期待状況共に有意に高かった。3. 臀部植皮術後の圧迫や摩擦とずれの予防のため, 2 週間腹臥位管理を実施。その結果, 医師・看護師・認定看護師・理学療法士の連携により合併症の発生はなかった。4. 切迫早産患者 17 名に, 子宮収縮感と気圧の関係性を解明する目的で, 1 時間毎気圧測定と子宮収縮感の状況を記載して貰った結果, 34 週以降気圧が低いと子宮収縮感が増強していた。5. 看護師を対象に, 専門看護師・認定看護師・有資格看護師の活動前後の調査を実施。その結果, 活動後の調査で CN の認知状況・期待状況は有意に増加していた。6. 下肢潰瘍のある下肢関節拘縮患者に, 皮膚・排泄認定看護師がチームアプローチとして, 看護師と共に潰瘍部の圧迫の解除と体圧分散及びポジショニングを専門的な知識・技術にて実践した結果, 下肢潰瘍の悪化なく褥瘡発生予防できた。7. がん領域の専門・認定看護師・学会認定有資格看護師 5 名の活動前後の調査を看護師に実施し, 小児と外科病棟で活動後の相談経験が増加。また, がん領域看護師への期待状況は活動後に有意に増加していた。

研究業績

論文

(1) 解説：

- 1) 松村佳世子：【いざというとき、とまどわない！ストーマの緊急造設】：早期合併症発生時に迷わないストーマケア用品の選択と工夫. Expert Nurse 2013；29（7）：84-89.
- 2) 高仲雅子：【緩和ケア特集 フローチャートつき オピオイドローテーションのエビデンスとコツ】：モルヒネとオキシコドン. プロフェッショナルがんナーシング 2013；3（6）：640-650.
- 3) 石ヶ森重之：【救急外来だからこそ実践したい患者と家族のメンタルケア】：救急外来だからこそ実践したい患者と家族のメンタルケア Q&A 集：心肺停止（CPA）で来院された外来死亡患者の家族へのメンタルケア：CASE Q&A：帰宅途中で交通事故に遭った16歳の家族. 臨牀看護 2013；39（12）：1657-1660.
- 4) 石ヶ森重之：【救急外来だからこそ実践したい患者と家族のメンタルケア】：救急外来だからこそ実践したい患者と家族のメンタルケア Q&A 集：心肺停止（CPA）で来院された外来死亡患者の家族へのメンタルケア：CASE Q&A：学校での事故により突然死した、10歳、小学生患者の母親. 臨牀看護 2013；39（12）：1653-1656.
- 5) 前田省悟：【スタッフ教育：他部署からの看護師を救急ナースとして育成するには】：救急外来の指導内容編：医療処置と並行して実施すべき外来特有の看護ケア：熟達度に応じた異動者教育. 救急看護トリアージのスキル強化 2013；3（4）：60-63.
- 6) 前田省悟：【なぜその選択？ どういう効果？ 治療過程に沿ったクスリの話】：ケース別：薬剤の選択と効果：肝機能障害/肝不全患者. 重症集中ケア 2013；12（4）：72-77.
- 7) 前田省悟：【ここだけは知って！ こうしてレベルアップ！ 臨床ケア技術の決め手（2）】：状況をみて行う急変対応. Expert Nurse 2013；29（8）：6-20.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 山本裕之：救急診療現場における POCT 機器活用の現状 集中治療室における血液ガス分析. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第16回）（東京都），2013. 7.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 山本 愛，丸山 弘¹⁾，田中 愛，鈴木美子²⁾，磐井佑輔³⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・一般外科・乳腺外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院中央検査室，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター）：MRSA 保菌高リスク患者の早期隔離効果の検討. 日本環境感染学会総会・学術集会（第29回）（東京都），2014. 2.

(3) ポスター：

- 1) 佐々木由美子¹⁾，松村佳世子，白勢 彩，佐藤 文²⁾，溝上祐子²⁾（¹⁾ 国立病院機構村山医療センター，²⁾ 日本看護協会看護研修学校）：下肢関節拘縮患者のポジショニング援助：チーム医療を支える認定看護師の役割. 日本褥瘡・オストミー・失禁管理学会学術集会（第22回）（静岡県），2013. 5.

(4) 一般講演：

- 1) 増田智恵美，竹下千穂，萬家千尋，有馬 翠：切迫早産の子宮収縮感と気圧の関係性. 日本看護学会母性看護学術集会（第44回）（岡山県），2013. 9.
- 2) 高仲雅子，椿原久美子：がん領域認定看護師の活用期待. 日本がん看護学会学術集会（第28回）（新潟県），2014. 2.
- 3) 今井圭司，石ヶ森重之，山本裕之，上原みずき，前田省悟，山本 愛：臀部植皮術後における腹臥位管理に関する一考察. 日本熱傷学会関東地方会（第22回）（東京都），2014. 2.

(5) 示説：

- 1) 高仲雅子, 緋田雅美, 小谷英太郎¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科)：A 病院における専門看護師/認定看護師/有資格看護師の活用状況の把握と教育プログラムの再考. 日本看護学会看護管理学会 (第 44 回) (大阪府), 2013. 9.
- 2) 高仲雅子, 緋田雅美, 小谷英太郎¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科)：院内のがん関連認定看護師の認知と活用の現状. 日本緩和医療学会学術大会 (第 18 回) (神奈川県), 2013. 6.

論文

[追加分]

追加分解説：

- 1) 飯田美佐子：【手技・セルフケア指導のコツがわかる糖尿病フットケアのハテナを解決！ Q&A25】：ナースが行うフットケアのポイント：「歩き方をみる」ってどんな点から何がわかるの？. 糖尿病ケア 2013；10 (3)：246-247.
- 2) 飯田美佐子：【手技・セルフケア指導のコツがわかる糖尿病フットケアのハテナを解決！ Q&A25】：ナースが行うフットケアのポイント：ナースが行う検査にはどんなものがあるの？. 糖尿病ケア 2013；10 (3)：244-245.
- 3) 飯田美佐子：【手技・セルフケア指導のコツがわかる糖尿病フットケアのハテナを解決！ Q&A25】：ナースが行うフットケアのポイント：ナースが行うフットチェックでは何をみるの？. 糖尿病ケア 2013；10 (3)：242-243.

[多摩永山病院消化器科]

研究概要

当科は消化器全般の疾患を診療の対象とし、幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指すとともに、消化器疾患に関する臨床研究を行っている。研究活動としては、1) 日常診療で多く遭遇する消化管出血の現状や病態を、上部および下部消化管の内視鏡検査を用いて解析している。具体的には、*Helicobacter pylori* 感染や非ステロイド性消炎鎮痛薬と胃病変との関連性や *Helicobacter pylori* の 2 次除菌、3 次除菌における有効性の比較検討、透析患者における尿素呼吸試験を含めた *Helicobacter pylori* の存在診断法の検討、食道胃逆流症、機能的胃症、過敏性腸症候群などの消化管運動異常の解析、および、逆流性食道炎や胃潰瘍の発生機序に関して、基礎および臨床疫学的な研究を行っている。2) アルコール性脂肪肝や非アルコール性脂肪肝 (NASH) の病態を検討するとともに、C 型慢性肝炎に対するインターフェロン、リバビリン併用による治療効果と副作用の発現、について検討し症例を蓄積中である。3) 炎症性腸疾患の診断と治療について、とくに潰瘍性大腸炎に対する白血球 (顆粒球) 吸着療法、および抗 TNF 製剤による治療の症例を蓄積している。4) 中国、韓国、ベトナム、タイ、ネパール、ミャンマー、バングラデシュなど東南アジアの国々において *Helicobacter pylori* 感染・胃十二指腸疾患の現状と、背景胃粘膜や病態の相異について疫学調査を行っている。特に、平成 22 年度 4 月より大分大学との共同研究「アジア諸国における *Helicobacter pylori* 感染の実態と胃癌発症機序の解明」が始まっているほか、胆汁酸逆流が胃粘膜に及ぼす影響についても他施設との共同研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Miyake K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Ueki N¹⁾, Yamada A, Nagoya H, Kodaka Y, Shindo T¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Gudis K¹⁾, Futagami S¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine)：Classification of patients who experience a higher distress level to transoral esophagogastroduodenos-

copy than to transnasal esophagogastroduodenoscopy. *Dig Endosc* 2013 ; 25 (4) : 387-405.

- 2) Miyake K¹⁾, Akimoto T¹⁾, Kusakabe M, Sato W¹⁾, Yamada A¹⁾, Yamawaki H, Kodaka Y, Shinpuku M¹⁾, Nagoya H, Shindo T¹⁾, Ueki N¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Futagami S¹⁾, Tsukui T, et al. (1) Division of Gastroenterology, Dept. of Internal Medicine) : Water-soluble vitamin deficiencies in complicated peptic ulcer patients soon after ulcer onset in Japan. *J Nutr Sci Vitaminol* 2013 ; 59 (6) : 503-508.
- 3) 三井啓吾¹⁾, 小林 剛¹⁾, 鈴木 将大¹⁾, 小杉 友紀, 馬來 康太郎¹⁾, 遠坂 由紀子, 春日 裕介¹⁾, 玉木 祐希江¹⁾, 松浦 陽子¹⁾, 江原 彰仁¹⁾, 瀬尾 継彦¹⁾, 米澤 真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口 篤志¹⁾, 藤森 俊二¹⁾, その他1名 (1) 消化器内科学) : 【原因不明消化管出血の診断と治療】出血症状別によるダブルバルーン内視鏡による原因不明消化管出血の診断. *消化器内科* 2013 ; 56 (5) : 471-481.
- 4) 藤森俊二, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 馬來康太郎, 鈴木将大, 春日祐介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, その他1名 (1) 消化器内科) : 【カプセル内視鏡の現状と展望】カプセル内視鏡の現状と展望 原因不明消化管出血への臨床使用. *胃と腸* 2013 ; 48 (4) : 418-424.
- 5) Asaoka D, Nagahara A, Matsuhisa T, Takahashi S, Tokunaga K, Kawai T, Kawakami K, Suzuki H, Suzuki M, Nishizawa T, Kurihara N, Ito M, Sasaki H, Omata F, Mizuno S, et al. (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Trends of second-line eradication therapy for *Helicobacter pylori* in Japan : a multicenter study in the Tokyo metropolitan area. *Helicobacter* 2013 ; 18 (6) : 468-472.
- 6) Yamada S, Kato S, Matsuhisa T, Makonkawkeyoon L, Yoshida M, Chakrabandhu T, Lertprasertsuk N, Suttharat P, Chakrabandhu B, Nishiumi S, Chongraksut W, Azuma T : Predominant mucosal IL-8 mRNA expression in non-cagA *Thais* is risk for gastric cancer. *World J Gastroenterol* 2013 ; 19 (19) : 2941-2949.
- 7) Matsuhisa T, Arakawa T, Watanabe T, Tokutomi T, Sakurai K, Okamura S, Chono S, Kamada T, Sugiyama A, Fujimura Y, Matsuzawa K, Ito M, Yasuda M, Ota H, Haruma K : Relation between bile acid reflux into the stomach and the risk of atrophic gastritis and intestinal metaplasia : a multicenter study of 2283 cases. *Dig Endosc* 2013 ; 25 (5) : 518-525.

(2) 総説 :

- 1) 鈴木将大¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 小杉友紀, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子, 春日裕介¹⁾, 玉木祐希江¹⁾, 松浦陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院消化器肝臓内科) : 【小腸病変の診断と治療の進歩】ダブルバルーン内視鏡による小腸癌の診断. *消化器内科* 2013 ; 57 (6) : 671-674.
- 2) 藤森俊二¹⁾, 松浦陽子¹⁾, 松下陽子¹⁾, 檜原義之¹⁾, 秋元直彦¹⁾, 小杉友紀, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子, 春日裕介¹⁾, 玉木祐希江¹⁾, 福田 健¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, その他5名 (1) 消化器内科学) : 【門脈圧亢進症の病態を診る】症例から学ぶ門亢症へのアプローチ 小腸・結腸からみた門亢症 (PHE, PHC). *消化器内視鏡* 2013 ; 25 (11) : 1901-1907.
- 3) 松久威史, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院消化器肝臓内科) : 【*Helicobacter pylori* 感染症の臨床試験 - いま, 明らかにされるべきことは何か -】高齢者に対する *Helicobacter pylori* 除菌の意義についての検討. *Helicobacter Research* 2013 ; 17 (4) : 316-321.
- 4) 山脇博士, 二神生爾¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器肝臓内科) : 【胃食道逆流症・機能性ディスペプシア - 関連疾患のすべて -】《機能性ディスペプシア FD》FDの病態生理学 胃運動から見たFD. *Modern Physician* 2013 ; 33 (7) : 894-898.
- 5) 松久威史, 岡本明彦¹⁾ (1) 岡本腎内科クリニック) : 【胃炎除菌時代の内視鏡診断】透析患者におけるピロリ菌除菌治療. *消化器内視鏡* 2013 ; 25 (12) : 2026-2027.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 山脇博士, 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科)：機能性ディスぺプシア 診断と治療の現況を巡って 質問表を用いた FD 患者における睡眠障害の実態調査および胃排出能との相関関係の解析 nizatidine による cross-over 試験の試み. 日本消化器病学会大会 (第 55 回), 2013. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 江原彰仁¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 小林 剛¹⁾, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 松浦陽子, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 (¹⁾ 消化器肝臓内科)：疾患・病態に応じた適切な小腸診断・治療戦略 原因不明の消化管出血における小腸内視鏡診断不能例への対応. 日本消化器内視鏡学会関東地方会例会 (第 97 回), 2013. 12.
- 2) 新福 摩弓, 二神 生爾, 山脇博士, 小高康裕, 名見耶浩幸, 河越哲郎, 岩切勝彦, 坂本長逸 (¹⁾ 消化器肝臓内科)：FD 患者における GN β -3 および Ghrelin の遺伝子多型と胃排出能との相関関係の解析. 日本臨床生理学会 (), 2013. 10.
- 3) 山脇博士, 二神生爾¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 小高康裕, 丸木雄太, 名見耶浩幸, 河越哲郎¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器内科)：LPS 前投与 urocortin 1 脳槽内投与ラットにおける胃排出能および小腸通過時間の比較検討. 日本臨床生理学会雑誌 (第 50 回) (東京), 2013. 11.
- 4) 二神生爾¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 山脇博士, 小高康裕, 楠 正典¹⁾, 名見耶浩幸, 丸木雄太, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器内科)：質問表を用いた FD 患者における睡眠障害の実態調査および胃排出能との相関関係の解析. 日本臨床生理学会 (第 50 回) (東京), 2013. 11.
- 5) 丸木雄太, 河越哲郎¹⁾, 名見耶浩幸, 小杉友紀, 植木信江, 小林 剛, 山田岳史, 進士誠一, 辰口篤志, 小泉岐博, 菅 隼人, 二神生爾, 藤森俊二, 坂本長逸 (¹⁾ 消化器肝臓内科)：再発例を除く進行切除不能大腸癌の治療成績の検討. 日本消化器病学会大会 (第 55 回), 2013. 9.
- 6) 小高康裕, 二神生爾¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 若林大雅¹⁾, 山脇博士, 名見耶浩幸, 新福摩弓, 進藤智隆, 楠 正典, 植木信江, 河越哲郎, 三宅一昌, 坂本長逸 (¹⁾ 消化器内科)：H.pylori 陽性胃炎患者における COX-2 の SNP を用いた除菌後ハイリスク群の絞り込み. 日本消化器病学会大会 (第 55 回), 2013. 9.
- 7) 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 山田章善, 山脇博士, 小高康裕, 新福摩弓, 名見耶浩幸, 進藤 智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 坂本長逸 (¹⁾ 消化器肝臓内科)：内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) 時の弾性ストッキング (IPC) による深部静脈血栓症 (DVT) の予防効果. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 86 回), 2013. 10.
- 8) 新井泰央¹⁾, 三井啓吾, 鈴木将大, 小杉友紀, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, その他 2 名 (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科学)：バルーン内視鏡で診断した小腸 GIST の特徴. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- 9) 植木信江¹⁾, 山田章善, 山脇博士, 小高康裕, 名見耶浩幸, 進藤智隆, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科学)：脳心血管疾患を併存する患者の胃腫瘍に対する ESD 後出血における抗血栓薬の影響. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- 10) 高橋陽子, 藤森俊二, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日祐介, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学附属病院消化器内科)：多発性小腸狭窄による腸閉塞で発症し診断のために小腸内視鏡検査を施行した原発性小腸癌の 2 症例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- 11) 佐藤 航, 三井啓吾, 鈴木将大, 小杉友紀, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, その他 2 名 (¹⁾ 日本医科大学消化器内科学)：術後再建腸管症例におけるバルーン内視鏡による ERCP 関連手技の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回), 2013. 5.

- 12) 大森 順, 三井 啓吾¹⁾, 鈴木 将大¹⁾, 小杉 将大, 馬來 康太郎, 遠坂 由紀子, 春日 裕介, 玉木 祐希江, 高橋 陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, その他 2 名⁽¹⁾ 日本医科大学消化器内科学) : 小腸悪性リンパ腫診断におけるバルーン内視鏡の有用性. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
 - 13) 鈴木将大¹⁾, 三井啓吾, 小杉友紀, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 松浦陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, その他 1 名⁽¹⁾ 日本医科大学消化器内科学) : カプセル & バルーン内視鏡の各施設の工夫 カプセル内視鏡とバルーン内視鏡による小腸診断の現況. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 96 回) (東京), 2013. 6.
 - 14) 新井泰央, 三井啓吾, 鈴木将大, 小杉友紀, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, その他 2 名⁽¹⁾ 日本医科大学消化器内科学) : バルーン内視鏡で診断した小腸 GIST の特徴. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- (3) 症例報告 :
- 1) 眞鍋恵理子, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 若林秀幸, 三井啓吾, 藤森俊二, 丸木雄太, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野浩浩之, 坂本長逸, 内田英二⁽¹⁾ 消化器外科,²⁾ 消化器肝臓内科) : カプセル内視鏡およびバルーン内視鏡で確定診断後, 腹腔鏡手術を行った小腸 GIST の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会例会 (第 97 回), 2013. 12.
 - 2) 秋元直彦¹⁾, 辰口篤志, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 高橋陽子, 江原彰仁, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸⁽¹⁾ 日本医科大学消化器内科学) : 急速な発育を認めた上行結腸癌の 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
 - 3) 丸木雄太, 津久井拓, 山田章善, 山脇博士, 小杉友紀, 春日裕介, 名児耶浩幸, 安積貴年, 松久威史, 細根 勝¹⁾ (多摩永山病院消化器科病理部) : 高 Ca 血症を伴った PTHrP 陽性肉腫様肝細胞癌と考えられた 1 例. 日本内科学会関東地方会例会 (第 604 回) (東京), 2014. 3.

論 文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 松久威史 : 日本ヘリコバクター学会認定医制度の今後の展望 : 日本ヘリコバクター学会認定医と日本消化器病学会専門医との関連, 相違も含めて. *Helicobacter Research* 2012 ; 16 (3) : 235-240.
- 2) 松久威史 : アジア人の *Helicobacter pylori* 感染と胃炎. *日本ヘリコバクター学会誌* 2013 ; 14 (2) : 85-94.
- 3) 三宅一昌¹⁾, 小高康裕¹⁾, 名児耶浩幸, 新福摩弓¹⁾, 植木信江¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 楠 正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科) : 長期低用量アスピリン服用者における出血性消化管病変の検討. *潰瘍* 2012 ; 39 (1) : 31-37.
- 4) 三宅一昌¹⁾, 小高康裕, 名児耶浩幸, 新福摩弓¹⁾, 植木信江¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 楠 正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : 抗血栓療法による消化管粘膜傷害 - 最前線 : 低用量アスピリン長期服用における出血性消化性潰瘍の発生状況. *消化器の臨床* 2012 ; 15 (2) : 141-146.
- 5) 三井啓吾¹⁾, 小林 剛¹⁾, 遠坂由紀子, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 春日裕介¹⁾, 玉木祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, その他 1 名⁽¹⁾ 日本医科大学消化器内科) : バルーン内視鏡のすべて : 小腸疾患へのアプローチ : 小腸出血. *消化器内視鏡* 2012 ; 24 (6) : 1003-1010.
- 6) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 梅澤まり子, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科) : わが国の GERD における諸問題 : わが国の GERD における診断法のスタンダードは?. *The GI Forefront* 2012 ; 8 (1) : 20-22.

- 7) 二神生爾¹⁾, 山脇博士¹⁾, 若林大雅¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 中川 愛¹⁾, 小高康裕, 名見耶浩幸, 進藤智隆¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器内科) : 患者さんの病態から考える上腹部不定愁訴への薬物治療. 東京内科医会誌 2012 ; 28 (2) : 119-123.
- 8) 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 名見耶浩幸, 小高康裕, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器内科) : Expert に学ぶ画像診断 画像強調観察 FICE (上部) (解説). 臨床外科 2011 ; 66 (9) : 1230-1235.
- 9) 藤森俊二¹⁾, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 春日祐介¹⁾, 玉木祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, その他1名 (¹⁾ 消化器内科) : 【薬剤性消化器障害とその対策】 NSAIDs による下部消化管障害の現状と対策 (除低用量アスピリン). 成人病と生活習慣病 2013 ; 43 (3) : 343-347.

追加分原著 :

- 1) Matsuhisa T, Hafeza A¹⁾ (¹⁾ Dhaka Medical College, Department of Gastroenterology and Liver Diseases) : Observation of upper gastrointestinal diseases and gastric mucosa in Bangladeshi population : comparison with Japanese. Bangladesh Journal of Medicine 23 2012 ; 16 (3) : 26-34.
- 2) Matsuhisa T, Tsukui T : Relation between reflux of bile acids into the stomach and gastric mucosal atrophy, intestinal metaplasia in biopsy specimens. J Clin Biochem Nutr 2012 ; 50 (3) : 217-222.
- 3) Takeshi M, Hafeza A¹⁾ (¹⁾ Dhaka Medical College, Department of Gastroenterology and Liver Diseases) : Observatin of gastric mucosa in Bangladesh, the country with the lowest incidence of gastric cancer, and Japan, the country with the highest incidence. Helicobacter 2012 ; 17 (5) : 396-401.
- 4) 永原章仁^{1,2)}, 水野滋章^{1,3)}, 松久威史¹⁾, 徳永健吾¹⁾, 伊藤慎芳^{1,4)}, 鈴木雅之^{1,5)}, 浅岡大介^{1,2)}, 鈴木秀和^{1,6)}, 西澤俊宏^{1,7)}, 栗原直人^{1,8)}, 加藤俊二¹⁾, 竹内義明^{1,9)}, 鳥居 明^{1,10)}, 大草敏史¹⁾, 峯 徹哉¹⁾, その他3名 (¹⁾ 東京 Hp 研究会, ²⁾ 順天堂大学消化器内科, ³⁾ 日本大学肝臓消化器内科, ⁴⁾ 四谷メディカルキューブ, ⁵⁾ 国立病院機構東京医療センター消化器科, ⁶⁾ 慶應義塾大学消化器内科, ⁷⁾ 国立病院機構東京医療センター消化器科, ⁸⁾ 練馬総合病院外科, ⁹⁾ 昭和大学消化器内科, ¹⁰⁾ 鳥居内科クリニック) : *H. pylori* 除菌後胃癌について 除菌後10年以上経過後に診断された胃癌症例の検討 : 東京都内多施設協同調査. 日本ヘリコバクター学会誌 2012 ; 14 (1) : 2-6.
- 5) 永原章仁¹⁾, 上山浩也¹⁾, 松本健史¹⁾, 水野滋章²⁾, 松久威史, 村上 敬¹⁾, 森本 崇¹⁾, 佐々木仁¹⁾, 浅岡大介¹⁾, 北條麻理子¹⁾, 八尾隆史³⁾, 渡辺純夫¹⁾ (¹⁾ 順天堂大学消化器内科, ²⁾ 日本大学肝臓消化器内科, ³⁾ 順天堂大学人体病理病態学) : *Helicobacter pylori* 除菌後10年以上を経過後発生した胃癌症例. 胃と腸 2012 ; 47 (11) : 1700-1707.
- 6) Matsuhisa T¹⁾, Arakawa T^{1,2)}, Watanabe T^{3,4)}, Tokutomi T^{5,6)}, Sakurai K⁷⁾, Okamura S⁹⁾, Chono S^{5,8)}, Kamada T^{5,9)}, Sugiyama A¹⁰⁾, Fujimura Y⁵⁾, Matsuzawa K⁵⁾, Ito M¹⁾, Yasuda M¹⁾, Ota H, Haruma K^{5,9)} (¹⁾ Department of Gastroenterology, ²⁾ Osaka City University Graduate School of Medicine, ³⁾ Department of Gastroenterological Surgery, ⁴⁾ Watanabe Hospital, ⁵⁾ Department of Internal Medicine, ⁶⁾ Tokutomi Clinic, ⁷⁾ Department of Gastroenterology and Hepatology, ⁸⁾ Machida Gastrointestinal Hospita, ⁹⁾ Division of Gastroenterology, ¹⁰⁾ Department of Surgery) : Relation between bile acid reflux into the stomach and the risk of atrophic gastritis, intestinal metaplasia : a multi-center study of 2283 cases. Digestive Endoscopy 2013 ; 25 (5) : 519-525.
- 7) Miyake K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Ueki N¹⁾, Nagoya H, Kodaka Y, Shindo T¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Gudis K¹⁾, Futagami S¹⁾, Tsukui T, Nakamura H¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Implication of antithrombotic agents on potential bleeding from endoscopically determined peptic ulcers, incidentally detected as surrogate markers for nsaid-associated ulcers complication. Dig Endosc

2013 ; 25 (1) : 25-31.

- 8) 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 小高康裕, 名兎耶浩幸, 新福摩弓¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科) : 高齢が長期 NSAID 服用に関連する消化性潰瘍のリスクに与える影響. 日本高齢消化器病学会誌 2012 ; 14 (2) : 82-87.

追加分症例報告 :

- 1) 森澤太一郎¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 洪井俊之¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新博次¹⁾, 梅澤まり子, 津久井拓 (1) 内科・循環器内科) : 潰瘍性大腸炎に合併した静脈血栓症に対し, 抗凝固療法, 血栓溶解療法にて合併症なく治療し得た 2 例. 心臓 2013 ; 45 (1) : 79-86.
- 2) 東 直行¹⁾, 狩野律子¹⁾, 松下 晃²⁾, 松谷 毅²⁾, 笹島耕二²⁾, 津久井拓 (1) 皮膚科, 2) 外科) : 痒疹反応 : 臨床例 : 多形慢性痒疹 近傍に無菌性膿瘍を伴った carcinoma polyarthritidis も随伴した食道癌症例. 皮膚病診療 2011 ; 33 (12) : 1231-1234.

学会発表

追加分症例報告 :

- 1) 安積貴年, 山田章善, 橋本知実, 小高康裕, 遠坂由紀子, 名兎耶浩幸, 松久威史, 津久井拓, 丹野正隆¹⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 日本医科大学附属病院消化器内科) : 心臓に転移が認められた胆嚢癌の 1 剖検例. 日本内科学会関東地方会 (第 595 回) (東京), 2013. 3.
- 2) 鮑本哲兵¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 遠坂由紀子, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 春日裕介, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科) : 急速に発育した上行結腸癌の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 95 回) (東京), 2012. 12.
- 3) 馬來康太郎¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学附属病院消化器内科) : 適切な原因不明の消化管出血 (OGIB) への対応 顕性出血と潜在性出血におけるカプセル内視鏡検査所見の比較検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 95 回) (東京), 2012. 12.
- 4) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美, 松下洋子¹⁾, 福田 健²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 岩切勝彦²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学附属病院消化器内科) : C 型肝硬変合併進行肝細胞癌に対する Sorafenib, IFN 少量投与併用療法を施行した 1 例. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 5) 大森 順¹⁾, 福田 健¹⁾, 橋本知実, 糸川典夫²⁾, 桥 卓史¹⁾, 近藤千紗²⁾, 張本滉智¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 厚川正則²⁾, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科, 2) 千葉北総病院 消化器内科) : JAK2 遺伝子変異による真性多血症が原因と考えられた Budd-Chiari 症候群の 1 例. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 6) 高橋陽子¹⁾, 山門 進¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 遠坂由紀子, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林剛¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科) : 様々な治療法で軽快した腸管気腫性嚢胞症の 3 症例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
- 7) 安良岡高志¹⁾, 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 佐藤 航, 橋本知美, 桥 卓史¹⁾, 近藤千紗²⁾, 福田 健¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 厚川正則²⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科, 2) 千葉北総病院 消化器内科) : 肝動脈門脈短絡を合併した肝硬変の 2 症例. 日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
- 8) 中川 愛¹⁾, 二神生爾¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 山脇博士¹⁾, 小高康裕, 名兎耶浩幸, 新福摩弓¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 楠 正典¹⁾, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科) : 骨髄浸潤を認めた H.pylori 陰性 CD5 陽性胃 Maltoma の 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
- 9) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美, 松下洋子¹⁾, 福田 健²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾,

金沢秀典²⁾, 岩切勝彦²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学附属病院消化器内科) : C型肝硬変合併併進行肝細胞癌に対する Sorafenib, IFN 少量投与併用療法を施行した1例. 日本肝臓学会東部会(第39回)(東京), 2012. 12.

追加分一般講演 :

- 1) 松久威史, Hafeza A¹⁾ (1) Dhaka Medical College, Department of Gastroenterology and Liver Diseases) : *Helicobacter pylori* 感染別にみたバングラデシュ人の背景胃粘膜. 日本消化器病学会総会(第98回)(東京), 2012. 4.
- 2) 松久威史, Sirikan Y¹⁾ (1) Chiang Mai University, Department of Surgery) : 性差からみたタイ人の背景胃粘膜(日本人との比較を含めて). 日本消化器内視鏡学会総会(第83回)(東京), 2012. 5.
- 3) 松久威史, Hafeza A¹⁾, Sharma KS²⁾ (1) Dhaka Medical College, Department of Gastroenterology and Liver Diseases, 2) Kathmandu Medical College, Department of Surgery) : 南アジア人(バングラデシュ人, ネパール人)の胃粘膜. 日本ヘリコバクター学会学術集会(第18回)(岡山), 2012. 6.
- 4) 松久威史, 津久井拓 : 高齢者の *Helicobacter pylori* 次除菌療法. 日本ヘリコバクター学会学術集会(第18回)(岡山), 2012. 6.
- 5) 水野滋章^{1,2)}, 永原章仁^{1,3)}, 浅岡大介^{1,3)}, 川上浩平^{1,4)}, 河合 隆^{1,5)}, 鈴木秀和^{1,6)}, 伊藤慎芳^{1,7)}, 大草敏史^{1,8)}, 小俣富美雄^{1,9)}, 松久威史^{1,10)}, 徳永健吾^{1,10)}, 高橋信一^{1,10)}, 西澤俊宏¹⁾, 鈴木雅之¹⁾, 栗原直人¹⁾, その他4名 (1) 東京 Hp 研究会, 2) 日本大学肝臓消化器内科, 3) 順天堂大学消化器内科, 4) 東京医科大学消化器内科, 5) 東京医科大学内視鏡センター, 6) 慶應義塾大学消化器内科, 7) 四谷メディカルキューブ, 8) 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, 9) 聖路加国際病院内視鏡内科, 10) 杏林大学第三内科) : PAC3 剤療法による *Helicobacter pylori* 次除菌率の経年的推移(東京都多施設協同調査). 日本ヘリコバクター学会学術集会(第18回)(岡山), 2012. 6.
- 6) 浅岡大介^{1,2)}, 永原章仁^{1,2)}, 伊藤慎芳^{1,3)}, 水野滋章^{1,4)}, 川上浩平^{1,5)}, 河合 隆^{1,6)}, 徳永健吾^{1,7)}, 高橋信一^{1,7)}, 西澤俊宏^{1,8)}, 鈴木雅之^{1,8)}, 鈴木秀和^{1,9)}, 榎 信廣^{1,10)}, 大草敏史¹⁾, 栗原直人¹⁾, 松久威史¹⁾, その他4名 (1) 東京 Hp 研究会, 2) 順天堂大学消化器内科, 3) 四谷メディカルキューブ, 4) 日本大学肝臓消化器内科, 5) 東京医科大学消化器内科, 6) 東京医科大学内視鏡センター, 7) 杏林大学第三内科, 8) 国立病院機構東京医療センター消化器科, 9) 慶應義塾大学消化器内科, 10) 早期胃癌検診協会) : 東京都内多施設共同調査による *Helicobacter pylori* 次除菌成績の検討. 日本ヘリコバクター学会学術集会(第18回)(岡山), 2012. 6.
- 7) 松久威史, Hafeza A¹⁾, Sharma KS²⁾ (1) Dhaka Medical College, Department of Gastroenterology and Liver Diseases, 2) Kathmandu Medical College, Department of Surgery) : 南アジア人(バングラデシュ人, ネパール人)における胃粘膜の観察. 日本消化器内視鏡学会総会(第84回)(神戸), 2012. 10.
- 8) 松久威史, 山田宣孝, Sang LK¹⁾, Hafeza A²⁾ (1) Trung Vuong Emergency Hospital, Department of Gastroenterology, 2) Dhaka Medical College, Department of Gastroenterology and Liver Diseases) : ベトナム人(東南アジア), バングラデシュ人(南アジア)における胃粘膜の比較観察. 日本消化器病学会総会(第99回)(鹿児島), 2013. 3.
- 9) Matsuhisa T, Tsukui T : Study of the relationship between refluxed trypsin into the stomach and gastric mucosal atrophy. UEGW2012(オランダ, アムステルダム), 2012. 10.
- 10) Miyake K¹⁾, Ueki N¹⁾, Sato W, Nagoya H, Kodaka Y, Shindo T¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Futagami S¹⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Classification of patients by using factors predictive of intolerance to transoral esophagogastroduodenoscopy (EGD) and identification of patients for whom transnasal EGD may be of particular value. Digestive Disease Week and the 112th Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (San Diego), 2012. 5.

- 11) Kawami N¹⁾, Iwakiri K¹⁾, Sano H¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Umezawa M, Hoshihara Y¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : The effect of aging on esophageal motility. Digestive Disease Week and the 113th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (San Diego), 2012. 5.
- 12) Sato W, Miyake K¹⁾, Nagoya H, Kodaka Y, Shindo T¹⁾, Ueki N¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Futagami S¹⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Some water-soluble vitamins are likely to be deficient at the time of peptic ulcer development : Time-course changes in blood concentrations of water-soluble vitamins. Digestive Disease Week and the 113th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (San Diego), 2012. 5.
- 13) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則¹⁾, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美, 松下洋子²⁾, 福田 健²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学消化器内科) : 1型高ウイルス量, IL28B minor genotype のC型慢性肝炎に対するIFN β 2分割: Ribavirin 併用先行投与の成績. 日本肝臓学会大会 (第16回) (神戸), 2012. 10.
- 14) 安良岡高志¹⁾, 厚川正則²⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗²⁾, 橋本知美, 福田 健¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科, 2) 千葉北総病院 消化器内科) : 1型高ウイルス量のC型肝硬変に対するVitaminD 併用 (PEG-IFN/Ribavirin 療法の検討). 日本肝臓学会大会 (第16回) (神戸), 2012. 10.
- 15) 近藤千紗¹⁾, 厚川正則¹⁾, 坪田昭人¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 橋本知美, 福田 健²⁾, 松下洋子²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学附属病院消化器内科) : 血小板低値のC型慢性肝炎に対するPSE先行: PEG-IFN/Ribavirin/Telaprevir 併用療法の成績. 日本肝臓学会大会 (第16回) (神戸), 2012. 10.
- 16) 馬來康太郎¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, その他1名 (1) 日本医科大学附属病院消化器内科) : 原因不明消化管出血における顕性出血と潜在性出血の所見の比較検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第84回) (神戸), 2012. 10.
- 17) 河越哲郎¹⁾, 川見典之¹⁾, 梅澤まり子, 二神生爾¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 松谷 毅²⁾, 野村 務²⁾, 宮下正夫²⁾, 宮下次廣²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科, 2) 日本医科大学消化器外科) : Stage IV B食道がんにおける集学的治療の検討. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野), 2012. 6.
- 18) 遠坂由紀子, 藤森俊二¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 春日祐介, 高橋陽子¹⁾, 玉木祐希江¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周, 辰口篤志¹⁾, その他1名 (1) 日本医科大学附属病院消化器内科) : アミノサリチル酸製剤服用中の炎症性腸疾患患者における血清葉酸濃度の検討. 日本消化器病学会大会 (第54回) (神戸市), 2012. 10.
- 19) 橋本知美, 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 糸川典夫²⁾, 近藤千紗²⁾, 福田 健¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 厚川正則²⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科, 2) 千葉北総病院 消化器内科) : 1型肝腎症候群に対するノルアドレナリンの治療経験. 日本消化器病学会大会 (第54回) (神戸), 2012. 10.
- 20) 福田 健¹⁾, 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 橋本知美, 糸川典夫²⁾, 近藤千紗²⁾, 松下洋子¹⁾, 張本滉智¹⁾, 城所秀子¹⁾, 厚川正則²⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科, 2) 千葉北総病院 消化器内科) : 難治性腹水の全身血行動態の特徴. 日本肝臓学会大会 (第16回) (神戸), 2012. 10.
- 21) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 橋本知美, 福田 健²⁾, 松下洋子²⁾, 城所秀子²⁾, 小林玲樹²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久¹⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学附属病院消化器内科) : 高齢C型慢性肝炎患者に対するVitamin D 併用PEG-IFN/Ribavirin 併用療法における早期HCV-RNA減衰についての検討. 日本肝臓学会大会 (第16回) (神戸), 2012. 10.

- 22) 松下洋子¹⁾, 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 橋本知実, 糸川典夫²⁾, 近藤千紗²⁾, 福田 健¹⁾, 城所秀子¹⁾, 厚川正則²⁾, 中塚雄久¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科, 2) 千葉北総病院 消化器内科): 門脈圧亢進症例における小腸粘膜所見の TIPS による変化. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
- 23) 福田 健¹⁾, 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 橋本知実, 糸川典夫²⁾, 近藤千紗²⁾, 松下洋子¹⁾, 張本滉智¹⁾, 城所秀子¹⁾, 厚川正則²⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科, 2) 千葉北総病院 消化器内科): 適応を厳格化した難治性腹水に対する TIPS の治療成績. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
- 24) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 橋本知美, 松下洋子²⁾, 福田 健²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学附属病院消化器内科): 肝線維化進行例に対する IFN 治療における当科の工夫. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
- 25) 橋本知実, 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 福田 健¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 糸川典夫²⁾, 近藤千紗²⁾, 厚川正則²⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科, 2) 千葉北総病院 消化器内科): ノルアドレナリンが有腹水肝硬変の全身および肝, 腎血行動態へ及ぼす影響. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
- 26) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): 一過性 LES 弛緩終了後に出現する蠕動波, LES は強収縮を有する. 日本平滑筋学会総会 (第 54 回) (東京), 2012. 8.
- 27) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美, 糸川典夫¹⁾, 松下洋子²⁾, 福田 健²⁾, 城所秀子²⁾, 小林玲樹²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学附属病院消化器内科): C 型肝炎臨床 1 型高ウイルス量の C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN/ribavirin 療法における fluvastatin 併用がウイルス再燃を抑制する. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 6.
- 28) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美, 糸川典夫¹⁾, 松下洋子²⁾, 福田 健²⁾, 城所秀子²⁾, 小林玲樹²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学附属病院消化器内科): C 型肝炎臨床 高齢 C 型慢性肝炎に対する Vitamin D 併用 PEG-IFN, Rivavirin 併用療法についての検討. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 6.
- 29) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 梅澤まり子, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): High resolution manometry を用いた高齢者食道運動機能の検討. 日本消化器病学会総会 (第 98 回) (東京), 2012. 4.
- 30) 植木信江¹⁾, 山脇博士¹⁾, 小高康裕, 名見耶浩幸, 進藤智隆¹⁾, 楠 正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): 胃腫瘍に対する ESD 後の後出血症例の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
- 31) 二神生爾¹⁾, 山脇博士¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 小高康裕, 名見耶浩幸, 河越哲郎¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): 機能性ディスペプシア患者における空腹感スコアと GHRL 遺伝子多型との相関関係の解析. 日本臨床生理学会総会 (第 49 回) (長崎市), 2012. 10.
- 32) 河越哲郎¹⁾, 小林 剛¹⁾, 川見典之¹⁾, 小高康裕, 小杉友紀¹⁾, 名見耶浩幸, 新福摩弓¹⁾, 植木信江¹⁾, 楠 正典¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): 切除不能胃癌症例における予後スケール作成の試み. 日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
- 33) 山脇博士¹⁾, 二神生爾¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 小高康裕, 名見耶浩幸, 新福摩弓¹⁾, 堀江 茜¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 楠 正典¹⁾, 植木信江¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): CD44 陽性胃癌幹細胞の COX-2 発現の解析. 日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
- 34) 小高康裕, 二神生爾¹⁾, 山脇博士¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 名見耶浩幸, 泉 日輝¹⁾, 大石典子¹⁾, 堀江 茜¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 楠 正典¹⁾, 植木信江¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): COX-2 の

SNPを用いた *H.pylori* 胃炎患者のハイリスク群の絞込みの検討. 日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.

- 35) 河越哲郎¹⁾, 川見典之¹⁾, 梅澤まり子, 小杉友紀¹⁾, 名見耶浩幸, 江原彰仁¹⁾, 植木信江¹⁾, 小林 剛¹⁾, 楠 正典¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): 当科における stageIVB 食道がん治療の検討. 日本消化器病学会総会 (第 98 回) (東京), 2012. 4.
- 36) 佐藤 航, 三宅一昌¹⁾, 小高康裕, 新福摩弓¹⁾, 名見耶浩幸, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): 活動性消化性潰瘍における血中水溶性ビタミン濃度の経時的変化. 日本消化器病学会総会 (第 98 回) (東京), 2012. 4.
- 37) 三井啓吾¹⁾, 小林 剛¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子, 春日祐介, 玉木祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): 小腸内視鏡の現況と展望 カプセル内視鏡・ダブルバルーン内視鏡の併施と, ダブルバルーン内視鏡単独の診断能比較. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 94 回) (東京), 2012. 6.
- 38) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 橋本知美, 福田 健²⁾, 松下洋子²⁾, 城所秀子²⁾, 小林玲樹²⁾, 植原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 千葉北総病院 消化器内科, 2) 日本医科大学附属病院消化器内科): 高齢者肝疾患診療の新展開 高齢 C 型慢性肝炎患者に対する VitaminD 併用 PEG-IFN + Ribavirin 療法における治療早期のウイルス減衰についての検討. 日本高齢消化器病学会 (第 15 回) (青森), 2012. 6.
- 39) 名見耶浩幸, 二神生爾¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 山脇博士¹⁾, 小高康裕, 新福摩弓¹⁾, 堀江 茜¹⁾, 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫²⁾, 土屋真一³⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科, 2) 日本医科大学附属病院消化器外科, 3) 日本医科大学附属病院病理部): ROS 刺激下流の新規分子マーカー, Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) を用いた 食道癌進展および化学療法感受性の解析. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 40) 竹之内菜菜¹⁾, 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 小高康裕, 名見耶浩幸, 新福摩弓¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科): 生検で診断がつかず, 難治性胃潰瘍として長期経過観察した胃悪性リンパ腫の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 94 回) (東京), 2012. 6.
- 41) 名見耶浩幸, 二神生爾¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 山脇博士¹⁾, 小高康裕, 新福摩弓¹⁾, 堀江 茜¹⁾, 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫²⁾, 土屋真一³⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 附属病院消化器内科, 2) 附属病院消化器外科, 3) 附属病院病理部): ROS 刺激下流の新規分子マーカー, apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) を用いた食道癌進展および化学療法感受性の解析. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 42) 二神生爾¹⁾, 山脇博士, 新福摩弓¹⁾, 名見耶浩幸, 小高康裕, 進藤智隆, 楠 正典, 植木信江, 河越哲郎, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 消化器内科): 機能性ディスペプシア患者における空腹感スコアと GHRL 遺伝子多型との相関関係の検討. 日本消化器病学会総会 (第 99 回), 2013. 3.

追加分症例報告 (2012 年度):

- 1) 安良岡高志¹⁾, 植原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 橋本知美, 糸川典夫²⁾, 近藤千紗²⁾, 福田 健¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 厚川正則²⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器内科, 2) 千葉北総病院 消化器内科): 肝動脈門脈短絡に対して塞栓術と TIPS の併用療法を行った肝硬変の 2 例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.

追加分特別講演:

- 1) 松久威史: *H. pylori* 除菌の諸問題: 感染診断と除菌判定のピットフォール. GI Forum 2013 (ザルツブルク), 2013. 7.
- 2) 松久威史, 津久井拓: *Helicobacter pylori* 1 次, 2 次除菌率の経年的変化と 3 次除菌の検討. 日本消化管学会総会

学術集会（第9回）（東京），2013. 1.

- 3) 名見耶浩幸，二神生爾¹⁾，坂本長逸¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器内科）：消化器癌と酸化ストレス 食道癌組織において ROS 刺激下に誘導される Apurinic/apyrimidinic endonuclease-1（APE-1）および COX-2 発現意義の解析. 日本消化器病学会大会（第54回）（神戸），2012. 10.

30. 千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院集中治療室]

研究概要

開設以来、重症循環器疾患を主体に集中管理を要する内科疾患についての病態、診断、治療に係る研究を継続し、症例報告を含め年間10編以上の欧文誌上発表を行った。急性冠症候群については、診断ならびに予後推定に係る検査マーカーの評価についての研究を継続している。心筋梗塞の早期診断に寄与すると期待される冠動脈粥腫破綻に関与する因子（sLOX-1ならびにMMP-9）の有用性についての研究を継続している。また急性冠症候群の標準的早期診断マーカーである高感度トロポニンTについての多施設共同研究では、中核施設として解析をすすめ誌上発表した。急性大動脈瘤解離については、大動脈解離にともなう呼吸障害についての研究に加え、大動脈解離に伴う急性腎障害についての研究を誌上発表した。うっ血性心不全に関する多施設共同研究（ATTEND registry）では、全国屈指の症例登録数であった。また心不全患者の急性腎障害が予後に及ぼす影響については、短期予後に加え長期予後との関係についての研究成果を国内外で発表しており、International Heart Journalにおいては、平成24年度最優秀論文賞を受賞した。さらに、急性心不全の予後に関し、急性期重症度、発症時刻、発症季節および肥満との関係についての研究を重ね学会ならびに誌上発表を行った。急性肺血栓塞栓症については、旅行者血栓症を含めた研究を続けている。心停止後に入院した症例の神経学的保護を目的とした低体温療法の有用性、ならびに最新の体表冷却装置の特長について誌上発表した。その他、急性膵炎、敗血症、全身性炎症反応症候群、急性肺障害、急性腎不全などについて、薬物療法ならびに急性血液浄化療法を中心に研究を継続している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kobayashi N, Takano M¹⁾, Hata N, Kume N²⁾, Yamamoto M¹⁾, Yokoyama S, Shinada T, Tomita K, Shirakabe A, Otsuka T³⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K⁴⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Division of Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kobe Gakuin University, (3) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, (4) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Soluble lectin-like oxidized LDL receptor-1 (sLOX-1) as a valuable diagnostic marker for rupture of thin-cap fibroatheroma : Verification by optical coherence tomography. *Int J Cardiol* 2013 ; 168 (4) : 3217-3223.
- 2) Hata N, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Shirakabe A, Tsurumi M, Matsushita M, Shimura T : Clinical significance of acute kidney injury in non-surgical Type-B acute aortic dissection. *Gazzetta Medica Italiana* 2013 ; 172 (7-8) : 553-560.
- 3) Kobayashi N, Hata N, Kume N¹⁾, Shinada T, Tomita K, Shirakabe A, Inami T²⁾, Seino Y²⁾, Mizuno K³⁾ (1) Division of Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kobe Gakuin University, (2) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (3) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Detection of acute aortic dissection by extremely soluble lectin-like oxidized LDL receptor-1 (sLOX-1) and low troponin T levels in blood. *Int J Cardiol* 2013 ; 165 (3) : 557-559.
- 4) Shinada T, Hata N, Kobayashi N, Tomita K, Shirakabe A, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Yokoyama S : Efficacy of therapeutic hypothermia for neurological salvage in patients with cardiogenic sudden cardiac arrest : The importance of pre-hospital return of spontaneous circulation. *J Nippon*

Med Sch 2013 ; 80 (4) : 287-295.

- 5) Kobayashi N, Takano M¹⁾, Bessho R²⁾, Nishina D²⁾, Ishii Y²⁾, Kawase Y²⁾, Hata N, Mizuno K³⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Rapid progression of acute aortic dissection demonstrated by short-term serial computed tomography. JACC 2013 ; 61 (15) : e161-e161.
 - 6) Shirakabe A, Nozaki A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Asai K¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Predictive score for survival after percutaneous cardiopulmonary support in cardiovascular disease patients. Evaluation of pre-procedural information. Circ J 2013 ; 77 (8) : 2064-2072.
 - 7) Kitamura M, Hata N, Takayama T¹⁾, Hirayama A¹⁾, Ogawa M²⁾, Yamashina A²⁾, Mera H³⁾, Yoshino H³⁾, Nakamura F⁴⁾, Seino Y⁵⁾ (1) Division of Cardiology, Dept of Medicine, Nihon Univ School of Medicine, 2) Department of Cardiology, Tokyo Medical University, 3) Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, 4) Third Department of Internal Medicine, Teikyo University Chiba Medical Center, 5) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : High-sensitivity cardiac troponin T for earlier diagnosis of acute myocardial infarction in patients with initially negative troponin T test - Comparison between cardiac markers. J Cardiology 2013 ; 62 (6) : 336-342.
 - 8) Tomita K, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Shirakabe A : Predicting the occurrence of oxygenation impairment in patients with type-B acute aortic dissection. International J Angiology 2014 ; 23 (1) : 53-60.
 - 9) Shirakabe A, Hata N, Yamamoto M, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Yokoyama S, Asai K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Immediate Administration of Tolvaptan Prevents the Exacerbation of Acute Kidney Injury and Improves the Mid-Term Prognosis in Patients with Severely Decompensated Acute Heart Failure. Circ J 2014 ; 78 (4) : 911-921.
- (2) 症例報告 :
- 1) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Abe J¹⁾, Tomita K, Shirakabe A, Kobayashi N, Shinada T, Hata N, Mizuno K²⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Untreated obstructive sleep apnea as a differential diagnosis in young woman with aortic dissection. Int J Cardiol 2013 ; 165 (1) : e1-e2.
 - 2) Tsurumi M, Hata N, Inami T¹⁾, Ozaki K, Shirakabe A, Tomita K, Kobayashi N, Shinada T, Mizuno K²⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Airway pressure release ventilation as a therapeutic approach in a patient with severe obesity hypoventilation syndrome and restrictive lung impairment. Int J Cardiol 2013 ; 168 (1) : e6-e8.
 - 3) Inami T¹⁾, Shirakabe A, Hata N, Seino Y¹⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Unique case of latent left ventricular obstruction in Takayasu arteritis. BMJ case report 2013 ; 1-2.
 - 4) Yamada T¹⁾, Ohba T¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Munakata R¹⁾, Murakami D¹⁾, Maruyama M¹⁾, Takano M¹⁾, Ibuki C¹⁾, Hata N, Seino Y¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : a 17-year-old girl with Klippel-Weber syndrome complicated with a pulmonary thromboembolism and RV thrombus. Internal Medicine 2013 ; 52 (12) : 1337-1340.

著 書

- 1) 白壁章宏：〔分担〕III 救急外来から入院. 2. 薬物療法 ノルアドレナリン. 徹底ガイド 心不全 Q & A プレホスピタルから慢性期まで 第2版 (佐藤直樹 編著), 2013; pp135-143, 総合医学社 東京.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 山本真功：経皮の大動脈弁置換術に関する報告（フランス臨床留学を終えて）. 日本医科大学医学会総会（第81回）（東京）, 2013. 9.
- 2) 畑 典武：急性心不全治療のレビュー. 横浜ハンブフォーラム（第3回）（横浜）, 2013. 9.

(2) 一般講演：

- 1) Matsushita M, Shirakabe A, Hata N, Yamamoto Y, Okazaki H, Tsurumi M, Tomita K, Kobayashi N, Shinada T, Yokoyama S, Mizuno K¹⁾ (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Association between obesity and clinical characteristics in patients with acute heart failure. ESC Heart Failure 2013 (Lisbon), 2013. 5.
- 2) Yamamoto Y, Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Mizuno K¹⁾ (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Seasonal variation in patients with acute heart failure : Prognostic impact of admission in the summer. ESC Heart Failure 2013 (Lisbon), 2013. 5.
- 3) Shirakabe A, Hata N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Kobayashi N, Asai K¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Immediate administration of Tolvaptan prevent the exacerbation of acute kidney injury in patients with acute heart failure. ESC Heart Failure 2013 (Lisbon), 2013. 5.
- 4) 御園恒一郎¹⁾, 坪井成美²⁾, 畑 典武, 齋藤伸行³⁾, 八木貴典³⁾, 松本 尚³⁾, 益子邦洋³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 ME部, 2) 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター) : 当院における血液浄化療法の推移. 千葉急性血液浄化研究会 (第13回) (千葉), 2013. 5.
- 5) 水口滋仁, 白壁章宏, 岡崎大武, 鶴見昌史, 山本真功, 富田和憲, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武 : 重症敗血症及び多臓器不全を併発し集学的治療を要した若年者重症肺炎の1例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第22回) (つくば), 2013. 8.
- 6) 岡崎大武, 白壁章宏, 鶴見昌史, 山本真功, 富田和憲, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学 循環器内科) : 急性心不全における APACHE II スコアの有用性. 日本心臓病学会学術集会 (第61回) (熊本), 2013. 9.
- 7) 合田浩紀, 山本真功, 岡崎大武, 鶴見昌史, 白壁章宏, 富田和憲, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武, 内山沙央里¹⁾, 宗像 亮¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器センター) : 治療に難渋した若年発症感染性心内膜炎の1例. 千葉県重症患者管理研究会 (第27回) (千葉), 2013. 9.
- 8) Munakata R¹⁾, Yamamoto T²⁾, Shirakabe A, Inami T¹⁾, Hosokawa Y²⁾, Akutsu K²⁾, Sato N²⁾, Hata N, Seino Y¹⁾, Tanaka K²⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Division of Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital, Nippon Medical School) : Troponin T as a predictor for the responsiveness to the conventional therapy during a short-term prognostic factor in acute decompensated heart failure patients associated with severe aortic stenosis. ESC acute cardiac care conference 2013 (Madrid), 2013. 10.
- 9) 岡崎大武, 山本真功, 塩村玲子, 鶴見昌史, 白壁章宏, 富田和憲, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学 循環器内科) : 重症肝硬変を合併していたため PCI の適応とその時期の判断に苦慮した ACS

の1例. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会(第43回)(東京), 2013. 10.

- 10) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Yamamoto M, Yokoyama S, Asai K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Efficacy of the urinary heart-type fatty acid-binding protein (HFABP) excretion to predict the acute kidney injury in patients with acute heart failure : An evaluation of acute kidney injury following five days. AHA Scientific Session 2013 (Dallas), 2013. 11.
- 11) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Yamamoto M, Yokoyama S, Asai K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : The serum heart-type acid-binding protein (HFABP) level for patients who admitted to cardiovascular intensive unit. AHA Scientific Session 2013 (Dallas), 2013. 11.
- 12) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Yamamoto M, Yokoyama S, Asai K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : The serum heart-type acid-binding protein (HFABP) level can be used to detect acute kidney injury on admission and predict an adverse outcome in patients with acute heart failure. AHA Scientific Session 2013 (Dallas), 2013. 11.
- 13) Shirakabe A, Hata N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Yamamoto M, Okazaki H, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : The serum HFABP level can detect acute kidney injury on admission and predict an adverse outcome for acute heart failure. 日本心不全学会学術集会(第17回)(さいたま), 2013. 11.
- 14) 白壁章宏, 畑 典武, 品田卓郎, 小林宣明, 富田和憲, 山本真功, 鶴見昌史, 岡崎大武, 松下誠人, 山本良也, 清水 渉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 循環器内科) : 急性心不全急性期からのトルバプタン投与は急性腎紹介(AKI)増悪を抑制し, 中期予後を改善する. 日本臨床薬理学会各術総会(第34回)(東京), 2013. 12.
- 15) 鶴見昌史, 畑 典武, 横山真也, 品田卓郎, 富田和憲, 白壁章宏, 山本真功, 岡崎大武, 塩村玲子, 清水 渉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 循環器内科) : 光干渉断層法(OCT)で観察しえた冠動脈自然解離(SCAD)の2例. 日本集中治療医学会(第41回)(京都), 2014. 2.
- 16) Okazaki H, Shirakabe A, Tsurumi M, Yamamoto M, Tomita K, Shinada T, Yokoyama S, Hata N, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : The new scoring system to predict the adverse outcomes in patients with acute heart failure ; Evaluation of APACHE2 scoring. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (78th) (Tokyo), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Matsushita M, Shirakabe A, Hata N, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Tsurumi M, Shimura T, Okazaki H, Yamamoto Y, Yokoyama S, Asai K¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Association between the visiting time and the clinical findings on admission in patients with acute heart failure. J Cardiology 2013 ; 61 (3) : 210-215.

[千葉北総病院病理部]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Soma H¹⁾, Murai N²⁾, Tanaka K²⁾, Oguro T, Kokuba H³⁾, Fujita K³⁾, Mineo S³⁾ (1) Gynecology Saitama Medical Univ., Saitama, JPN, 2) Saitama Medical Univ., Saitama, JPN, 3) Tokyo Medical Univ., Tokyo, JPN) : Angiogenesis in villous chorangiomas observed by ultrastructural studies. *Med Mol Morphol* 2013 ; 46 (2) : 77-85.
- 2) Endo M¹⁾, Oikawa T¹⁾, Hoshino A¹⁾, Hatori T, Matsumoto T³⁾, Hanawa T^{1, 2)} (1) Department of Clinical Research, Oriental Medicine Research Center, Kitasato University, 2) Department of Oriental Medicine, Doctoral Program of Medical Science, Kitasato University, Graduate School, 3) Department of Pharmacy, Faculty of Pharmacy, Iwaki Meisei University) : The 13C-Butyrate Breath Test : a New Non-Invasive Method for Assessing Colitis in a Murine Model. *Journal of Pharmacological Sciences* 2013 ; 123 (2) : 176-184.

(2) 研究報告書：

- 1) 山本陽一郎¹⁾, 小黒辰夫, 三枝順子, 大橋隆治¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理部) : In situ Search for Breast Cancer Stem Cells and Their Niche : The Film Sheet Epoxy Resin Embedding Method and Breast Cancer Stem Cells. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (3) : 240-241.

著書

- 1) 土屋眞一¹⁾, 北村隆司²⁾, 松原美幸¹⁾, 松井成明³⁾, 清水秀樹, 森下明博⁵⁾, 大塚重則⁶⁾, 三宅真司⁷⁾, 河原明彦⁸⁾, 小島朋子²⁾, 狩野充治⁹⁾, 大金直樹¹⁰⁾, 岸本浩次⁹⁾, 津田祥子⁴⁾, その他 8 名 (1) 日本医科大学付属病院 病理部, 2) 昭和大学横浜市北部病院 臨床病理検査部, 3) 東海大学医学部付属大磯病院 病理検査科, 4) 昭和大学病院 臨床病理検査部, 5) 茅ヶ崎市立病院 病理検査科, 6) 藤和会藤間病院 病理検査, 7) 東京医科大学病院 病理診断部, 8) 久留米大学病院 病理部, 9) 昭和大学藤が丘病院 臨床病理検査部, 10) 神奈川県立がんセンター 医療技術部検査科) : [分担] IX 脳腫瘍. ポケット細胞診アトラス (監修: 土屋眞一 編集: 北村隆司, 松原美幸, 松井成明), 2013 ; pp242-251, 株式会社 医療科学社.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 清水秀樹, 羽鳥 努 : 臨床に役立つ脳腫瘍の細胞診. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第 54 回) (東京), 2013. 6.
- 2) 清水秀樹 : 病理技師の取り巻く環境への対応策について : 有機溶剤に関する法規制. 平成 25 年度東北臨床検査技師会病理検査部門研修会 (第 20 回) (秋田県), 2013. 6.

(2) 一般講演：

- 1) 三枝順子, 島津絢美, 京本晃典, 小黒辰夫, 羽鳥 努, 山本陽一郎¹⁾, 飯塚幸夫²⁾, 浅野伍朗²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理部, 2) 博慈会記念病院病理部, 3) 日本医科大学病理学 (統御機構・腫瘍学)) : Triple negative 乳癌細胞と癌組織を取り巻く周辺環境の電顕的, 免疫組織学的検討. 日本臨床分子形態学会総会・学術集会 (第 45 回) (福岡), 2013. 9.
- 2) 島津絢美, 京本晃典, 三枝順子, 小黒辰夫, 羽鳥 努, 米山剛一¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 臍部に再発した STUMP の 1 例. 日本臨床分子形態学会総会・学術集会 (第 45 回) (福岡), 2013. 9.

- 3) 角田陽平¹⁾, 山田 隆¹⁾, 池田真利子¹⁾, 尾崎景子¹⁾, 森 瑛子¹⁾, 中田真理世¹⁾, 村川裕子¹⁾, 山本晃人¹⁾, 永野玲子¹⁾, 石川温子¹⁾, 渡邊美千明¹⁾, 羽鳥 努, 鴨井青龍¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科): 卵管発生と考えられた成熟嚢胞性奇形腫の1例. 千葉県産婦人科医学会平成25年度冬季学術講演会(千葉県), 2014. 2.
- 4) 大久保知美¹⁾, 厚川正則¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 中川 愛¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 藤田直人²⁾, 羽鳥 努, 西野隆義³⁾, 坂本長逸⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 国立がん研究センター東病院肝胆膵外科, 3) 東京女子医科大学八千代医療センター消化器内科, 4) 日本医科大学付属病院消化器内科): 病理学的にMicroadenomatosisを共存しMEN1が疑われた非機能性膵内内分泌腫瘍の1例. 日本消化器病学会関東支部例会(第325回)(東京都), 2013. 7.
- 5) 米山剛一¹⁾, 山田 隆¹⁾, 山本晃人¹⁾, 島津絢美, 笹谷昌司, 京本晃典, 三枝順子, 清水秀樹, 小黑辰夫, 羽鳥努 (1) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科): 腫瘍捺印細胞診にて肉腫が疑われた膵部再発子宮腫瘍の1例. 日本臨床細胞学会総会 春期大会(第54回)(東京都), 2013. 6.
- 6) 山本晃人¹⁾, 山田 隆¹⁾, 米山剛一¹⁾, 島津絢美, 笹谷昌司, 京本晃典, 三枝順子, 清水秀樹, 小黑辰夫, 羽鳥努 (1) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科): 卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 日本臨床細胞学会総会 春期大会(第54回)(東京都), 2013. 6.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 澁谷 誠^{1,4)}, 中村達也²⁾, 深見真二郎³⁾, 小黑辰夫²⁾, 三木 保 (1) 東京医科大学茨城医療センター 病理診断部, 2) 東京医科大学茨城医療センター 脳神経外科, 3) 東京医科大学八王子医療センター 脳神経外科, 4) 東京医科大学八王子医療センター 中央検査部): 高度なspherical amyloid沈着を呈したprolactin producing adenomaの1例. 日本間脳下垂体腫瘍学会(第23回)(鹿児島), 2013. 3.

[千葉北総病院中央検査室]

研究概要

本年度も日常業務の変遷の中で、多岐に渡る膨大な検査対応は職員の結束した意識と各々の責任ある活動により、支障が無く今日を迎えている。本年度の主な成果は1) 微生物検査分野では Storeptococcus Pyogenes による敗血症ショック例の検討, Procalcitonin の対応や院内外の ICT 活動, 2) 輸血検査室では継続課題である血液製剤使用動向のチェック, 廃血の防止と削減への慎重な対応を厳守, 不規則性抗体の同定困難な症例への対応, 検査方法選択による検出可能抗体の差異についての検討, 3) 生理検査分野では睡眠時無呼吸症候群への積極的な取組み, 心原性脳梗塞と心房細動の係わり, 腹部超音波による脂質異常や脂肪肝などに係わる症例検索, 4) 安全管理を目的とした臨床検査の危機管理ガイドラインの見直しや対策の工夫, 5) 管理部門では収支改善と検査における質的向上意識について, 東京都医師会における精度管理委員会活動, 臨床検査技師養成への尽力, 新旧の検査項目に対する日常の見直し, 6) その他では ICT 関連の院内清浄度チェックへの協力, NST や褥瘡対策活動, 更には成田国際空港クリニックへの支援体制等, 様々な継続課題を含めて積極的な活動を行った。なお本年度の特徴として DVT 検査の導入があげられ関連分野への協力や PR も重視し, 地区医師会の研究会や研修会においても当検査室にて貴重な役割を担っている。また当業績記録は例年通り, 筆頭者が中央検査室所属である者のみを掲載した。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 野本剛史¹⁾, 岡本直人¹⁾, 町田幸雄¹⁾, 石渡統夫¹⁾, 亀山雅弥¹⁾, 若松孝嘉²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室, 2) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室 BML) : 外来迅速検体検査加算実施の試み. 日本医学検査学会 (第 62 回) (香川県高松市), 2013. 5.
- 2) 岩瀬和真¹⁾, 野本剛史¹⁾, 清野精彦¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室) : 肝機能障害の精査として腹部超音波を実施した 282 例における脂質異常症および脂肪肝の傾向. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京都), 2013. 9.
- 3) 松本望里¹⁾, 野本剛史¹⁾, 清野精彦¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室) : 心原性脳梗塞患者における心房細動の割合と左房径の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京都), 2013. 9.
- 4) 永井敬子¹⁾, 稲川美実¹⁾, 野本剛史¹⁾, 清野精彦¹⁾ : 不規則抗体同定が困難であった患者の T & S から学ぶ交差血提出の意義. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京都), 2013. 9.
- 5) 岡本直人¹⁾, 海老沢有介¹⁾, 稲川美実¹⁾, 笹原よし子¹⁾, 石渡統夫¹⁾, 野本剛史¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院) : カラム法にて不適合を検出し得なかった抗 E 抗体保有の 1 症例. 日本医学検査学会 (第 62 回) (香川県高松市), 2013. 5.
- 6) 木村裕子¹⁾, 岡本直人¹⁾, 柳下照子¹⁾, 海老沢有介¹⁾, 永井敬子¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室) : *Streptococcus pyogenes* による敗血症性ショックの 1 例. 日臨技首都圏支部医学検査学会 (第 2 回) (東京都), 2013. 10.
- 7) 岡本直人¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室) : NST における臨床検査技師のニーズに関する検討. 日臨技首都圏支部医学検査学会 (第 2 回) (東京都), 2013. 10.
- 8) 海老沢有介¹⁾, 永井敬子¹⁾, 木村裕子¹⁾, 岡本直人¹⁾, 野本剛史¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室) : 当院におけるプロカルシトニン測定試薬の使用状況. 日本医科大学医学会総会 (第 81 回) (東京都), 2013. 9.
- 9) 木富奈穂子¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室) : Stage A / B における睡眠時無呼吸の評価とその重要性. 日本心不全学会学術集会 (第 17 回) (埼玉県), 2013. 11.
- 10) 西村とき子¹⁾, 永井佑一¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室) : 成人病検診・頸動脈エコー導入のための実技講習について (1). 千葉県我孫子市医師会セミナー (千葉県我孫子市), 2013. 5.
- 11) 永井佑一¹⁾, 西村とき子¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室) : 成人病検診・頸動脈エコー導入のための実技講習について (2). 千葉県我孫子市医師会セミナー (千葉県我孫子市), 2013. 5.
- 12) 岡本直人¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室) : 日当直の緊急検査について考えてみよう! (輸血検査について). 千葉県臨床検査技師会臨床化学検査研究班研修会 (第 12 回) (千葉県市川市), 2013. 11.

[千葉北総病院薬剤部]

研究概要

平成 25 年度は 24 年度の保険改正で病棟薬剤業務実施加算の算定が認められたことにより北総病院開設以来大幅な人員増が認められた年になった。そのため新人教育に多くの時間を割いたこと、また各病棟への業務拡大を行ってきたため学会発表は日本循環器学会のみの発表に終わった。しかし院内院外での研究会等において今まで着実にやってきた業務実績を様々な領域にわたり発表することができた。救急災害時の薬剤師の役割、整形外科領域における抗血小板薬の使用状況、抗菌薬の適正使用、北総病院での持参薬のかかわりなど多くの機会を得ている。吸入指導における地域薬剤師会との連携で共有マニュアルの作成も試みた。院内の多くの場所で薬剤師の存在が着実に育っていると感じている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 浜田康次：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア：アナストロゾール．調剤と情報 2013；19（7）：13-13.
- 2) Hoshi K¹⁾，Kawakami J¹⁾，Aoki S¹⁾，Sato K¹⁾，Hamada K²⁾（¹⁾ 東北薬科大学医薬情報科学研究室，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院）：Real-time wireless compliance monitoring system using calendar-type pill organizer. Rehabilitation & Assistive Technology 2013；21（6）：3-6.

(2) 総説：

- 1) 浜田康次：この薬，どうやって服用する？剤形再発見：医薬品の新しい剤形．月刊ナーシング 2013；33（4）：12-13.
- 2) 浜田康次：ひと目でわかる！お薬カード：抗凝固薬．調剤と情報 2013；19（4）.
- 3) 浜田康次：ひと目でわかる！お薬カード：片頭痛治療剤（トリプタン系薬）．調剤と情報 2013；19（5）.
- 4) 浜田康次：Nursing View 名前も効能も違うのに，同じ薬？実は同じです．：同一成分で商品名が異なる医薬品．月刊ナーシング 2013；33（8）：10-11.
- 5) 浜田康次：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア：アナストロゾール．薬事 2013；55（7）：13-13.
- 6) 浜田康次：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア：アムロジピンベシル酸塩．薬事 2013；55（7）：29-29.
- 7) 浜田康次：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア：アムロジピンベシル酸塩．調剤と情報 2013；19（7）：29-29.
- 8) 浜田康次：異見異聞，PTP シートの変遷，薬剤師会による報奨制度を．薬事日報 2013；（11314）：8-8.
- 9) 浜田康次：Nursing View 化学式や効能が同じなのに，違う薬？僕たち双子です：光学異性体．月刊ナーシング 2013；33（11）：8-9.
- 10) 浜田康次：異見異聞，医薬品ロスに抜本的対策を，食品業界に学ぶことは多い．薬事日報 2013；（11360）：4-4.
- 11) 浜田康次：Nursing View 薬は「1日3回毎食後」じゃないの？：週1月1製剤も登場～薬の服用回数．月刊ナーシング 2014；34（1）：4-5.
- 12) 浜田康次：DPP4 阻害薬の登場がSU薬の処方数に与えた影響は？！．薬局 2014；65（1）：7-8.
- 13) 浜田康次：DPP4 阻害薬の登場がSU薬の処方数に与えた影響は？！．治療 2014；96（1）：7-8.
- 14) 浜田康次：小児科の抗アレルギー薬処方には特徴がある？！．薬局 2014；65（3）：7-8.
- 15) 浜田康次：小児科の抗アレルギー薬処方には特徴がある？！．治療 2014；96（3）：207-208.

著書

- 1) 浜田康次¹⁾（¹⁾ 日本医大千葉北総病院薬剤部）：〔分担〕写真付／服薬指導 CD-ROM2013年9月版（患者向け医薬品情報 CD 化編集委員会），2013；じほう.
- 2) 浜田康次¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤部）：〔分担〕写真付／服薬指導 CD-ROM2014年3月版，2014；じほう.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 西脇龍広¹⁾，宗像 亮²⁾，福田恵子¹⁾，清野精彦²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科）：急性非代償性心不全症例における Tolvaptan の臨床効果と β -blocker 療法導入への寄

- 与：単施設後ろ向き観察研究. 日本循環器学会（第78回）（東京），2014. 3.
- 2) 下川陽子¹⁾，西脇龍広¹⁾，田中千尋¹⁾，渡邊暁洋¹⁾，福田恵子¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院薬剤部）：当院における持参薬管理業務拡大への取り組み. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第43回）（新潟），2013. 8.

〔千葉北総病院放射線センター〕

研究概要

当部門では診療用画像検査全般を取り扱うことから、それぞれの画像検査についての研究を進めている一般撮影部門ではCRの画像処理パラメータの条件に関する研究およびトモシンセシスにおける画質の向上について各診療科との連携において行っている。MRI検査部門では3TMRIやArterial Spin Labeling法における基礎的検討および臨床応用。Angio検査部門ではOCT画像における検討。RI検査部門ではSPECTにおける循環器系および脳神経系について行っている。放射線治療部門では治療計画の精度について検討を行っている。CT検査部門では信頼性の向上についての検討を継続して進めている。

研究業績

著書

- 1) 丸山智之：〔分担〕最新，救命救急 放射線領域テクニック・四肢その他の救命救急放射線技術. 映像情報 Medical Vol.45 No12, 2013；pp996-1002. 産業開発機構.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 加藤丈司：非造影3D ASL Perfusionの臨床応用. 千葉MRIセミナー（第28回）（千葉），2013. 6.
- 2) 加藤丈司：頸動脈プラークイメージングの現状について. 千葉MRIセミナー（第29回）（千葉），2013. 11.
- 3) 加藤丈司：転移性脳腫瘍MRIにおけるT1緩和時間と造影効果. 千葉北総神経放射線研究会（第79回）（千葉），2014. 3.
- 4) 丸山智之：救急単純撮影技術とその画像処理. 葛飾フレッシュマンズフォーラム（第6回）（東京），2013. 5.

(2) シンポジウム：

- 1) 丸山智之：撮影法の解析と画像診断4：運動学からの撮影法. 日本放射線技術学会東京部会フォーラム（第176回）（東京），2013. 10.
- 2) 阿部雅志：撮影法の解析と画像診断④ MRI編. 日本放射線技術学会 東京部会フォーラム（第184回）（東京），2013. 10.

(3) セミナー：

- 1) 丸山智之：上肢の撮影技術と画像診断. 日本放射線技術学会東京部会（第79回）（東京），2013. 6.
- 2) 丸山智之：救急撮影の基礎実習. 救急撮影技師認定機構主催 救急撮影セミナー（横浜），2014. 2.
- 3) 阿部雅志：上肢の撮影技術と画像診断 撮影法解説（MRI）. 放射線技術学会 東京部会セミナー（第83回）（東京），2013. 6.
- 4) 水野正之：依頼情報から考える心臓血管所見. FSフォーラム，2013. 8.
- 5) 池亀 敏：施設別の上肢撮影の紹介（手関節ルーチン撮影の分析）. 日本放射線技術学会東京部会セミナー（第83回）（東京），2013. 6.

(4) 一般講演：

- 1) 加藤丈司，富田尚樹，池亀 敏，永井淳史，阿部雅志，河原崎昇，岡田 進¹⁾，小林士郎²⁾（¹⁾北総病院 放射線科，²⁾北総病院 脳神経外科）：多発性硬化症の頭部3T MRI：脱髄斑の信号変化とコントラスト. 日本放射

- 線技術学会（第69回）（東京），2013. 4.
- 2) 加藤丈司，富田尚樹，池亀 敏，永井淳史，阿部雅志，河原崎昇，岡田 進¹⁾，小林士郎²⁾（¹⁾北総病院 放射線科，²⁾北総病院 脳神経外科）：転移性脳腫瘍 MRIにおける造影効果のシミュレーション：造影剤副作用リスクを抑えるために．日本脳ドック学会総会（第22回）（東京），2013. 6.
 - 3) 加藤丈司，富田尚樹，池亀 敏，永井淳史，阿部雅志，河原崎昇，岡田 進¹⁾，小林士郎²⁾（¹⁾北総病院 放射線科，²⁾北総病院 脳神経外科）：3TMRIにおける T1 強調型 FLAIR の造影効果：脳腫瘍の信号変化について．日本磁気共鳴医学会（第41回）（徳島），2013. 9.
 - 4) 加藤丈司，池亀 敏，永井淳史，阿部雅志，河原崎昇，岡田 進¹⁾，小林士郎²⁾（¹⁾北総病院 放射線科，²⁾北総病院 脳神経外科）：3TMRIにおける T1 FLAIR の造影効果：脳腫瘍の信号変化とコントラスト．日本脳神経外科学会学術総会（第72回）（横浜），2013. 10.
 - 5) 丸山智之：低線量 Myelo-Tomosynthesis (MTS) 動態撮影の検討．日本放射線技術学会秋季学術学会（第41回）（福岡），2013. 10.
 - 6) Tomoyuki M：An Attempt for Low-dose Myelo-Tomosynthesis System with Dynamic Imaging. European Congress of Radiology (Vienna, Austria), 2014. 3.
 - 7) 阿部雅志，池亀 敏，加藤丈司，河原崎昇，嶺 貴彦¹⁾，進藤恵美²⁾（¹⁾付属病院 放射線科，²⁾北総病院 放射線科）：Arterial Spin Labeling MRIの足部灌流評価への応用．日本放射線技術学会 秋期学術大会（第41回）（福岡），2013. 10.
 - 8) 阿部雅志，池亀 敏，富田尚樹，阿部晃大，河原崎昇，小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾，森田明夫²⁾（¹⁾北総病院 脳神経外科，²⁾付属病院 脳神経外科）：トモシンセシスを用いた頸動脈ステント内腔描出能に関する基礎的検．日本脳神経血管内治療学会学術総会（第27回），2013. 11.
 - 9) 水野正之，高野雅充¹⁾，河原崎昇，清野精彦¹⁾（¹⁾北総病院 循環器内科）：3D-OCTでのSTENT性状とその描出．日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2013学術集会（第22回），2013. 7.
 - 10) 水野正之，上田 司，高野雅充¹⁾，河原崎昇，清野精彦¹⁾（¹⁾北総病院 循環器内科）：FD-OCTにおける画像表示特性．日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会（第43回），2013. 10.
 - 11) 水野正之，上田 司，高野雅充¹⁾，河原崎昇，清野精彦¹⁾（¹⁾北総病院 循環器内科）：OCT (ILUMIEN POTIS)における3D表示の信頼性．日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会（第42回），2013. 5.
 - 12) 阿部晃大，河原崎昇，渡辺典男，丸山智之，阿部雅志，池亀 敏，上田 司，富田尚樹：当院における肩関節撮影．葛飾フレッシュマンズフォーラム（第6回）（東京），2013. 5.
 - 13) 阿部晃大，河原崎昇，丸山智之，阿部雅志，水野正之：Tomosynthesisによる頸動脈ステント留置術後のステント内の描出能の検討．日本放射線技術学会秋季学術学会（第41回）（福岡），2013. 10.
 - 14) 池亀 敏，永井淳史，阿部雅志，富田尚樹，加藤丈司，進藤恵美¹⁾（¹⁾北総病院 放射線科）：InHance 3D Velocityを用いた足部非造影 MR Angiographyの検討．日本放射線技術学会秋季学術大会（第41回）（福岡），2013. 10.
 - 15) 池亀 敏，阿部雅志，富田尚樹，加藤丈司，鈴木雅規¹⁾，小林士郎¹⁾（¹⁾北総病院 脳神経外科）：脳動脈解離における Arterial Spin Labeling の有用性について．日本脳神経血管内治療学会学術総会（第29回）（千葉），2013. 11.
 - 16) 上田 司，水野正之：当院における冠動脈ステント留置患者を対象とした冠動脈CTの現状．日本心血管3学会関東甲信越地方会（43回），2013. 10.
 - 17) 富田尚樹，阿部雅志，池亀 敏，加藤丈司，河原崎昇：PROPELLER法による頸動脈ステント留置術後経過観察法の検討．葛飾フレッシュマンズフォーラム（第6回）（東京），2013. 5.
 - 18) 富田尚樹，阿部雅志，池亀 敏，阿部晃大，加藤丈司，小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾（¹⁾北総病院 脳神経外科）：椎骨脳底動脈領域描出のための variable refocus flip angle 3D fast spin echo (CUBE) の検討．日本脳神経血管内

[千葉北総病院歯科]

研究概要

当科では、歯科治療における炭酸ガスレーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究および臨床的効果についての研究。全身疾患と歯科治療の関係において、Ⅱ型糖尿病と歯周病との関係についての研究。交通外傷におけるインプラント治療への長期応用における臨床的効果についての研究。有病者における口腔衛生管理に対する臨床的効果についての研究などを行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kamoi H¹⁾, Kojima T²⁾, Kanesaka Y³⁾, Kubota H⁴⁾, Sato S⁵⁾ (1) Dental Clinic, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Kojima Dental clinic, 3) Sanponmathu Dental clinic, 4) Kubota Dental clinic, 5) Department of Periodontology, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Niigata) : Assignment of dentistry on the Nutrition Support Team. Life Care Journal 2013 ; 4 : 1-6.
- 2) Kamoi H¹⁾, Ogura K¹⁾, Sato S²⁾ (1) Dental Clinic, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Periodontology, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Niigata) : Application of CO2 Lasers to Periodontal Therapy. The Journal of International College of Dentists JAPAN Section 2013 : 41 : 70-74.
- 3) 吉峰正彌¹⁾, 小倉喜一郎¹⁾, 大木亜悠子¹⁾, 藤川瑞穂¹⁾, 鴨井久博¹⁾, 和崎佳子²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 歯科, 2) 和崎歯科医院) : 光触媒を内蔵した太陽電池付音波振動歯ブラシの臨床効果. ライフケアジャーナル 2013 ; 4 : 7-15.

著書

- 1) 鴨井久博¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科) : [分担] 全身疾患を修飾する口腔疾患. 口腔プロバイオティクス アンチバイオティクス (鴨井久一), 2013 ; pp11-17, 永末書店.
- 2) 鴨井久博¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科) : [分担] 第1章 歯肉・歯周組織に現れる病変・異常 色素沈着. 口腔内の病変. 異常に気づく観察の眼を養おう, 2013 ; pp16-19, デンタルダイヤモンド社.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 大木亜悠子¹⁾, 藤田譲治¹⁾, 藤川瑞穂¹⁾, 野口瑞巴¹⁾, 吉峰正彌¹⁾, 小倉喜一郎¹⁾, 鴨井久博¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科) : 周術期における口腔機能管理状態についての評価. 第56回春季歯周病学会学術大会 (東京), 2013. 6.
- 2) 吉峰正彌¹⁾, 小倉喜一郎¹⁾, 大木亜悠子¹⁾, 藤田譲治¹⁾, 藤川瑞穂¹⁾, 鴨井久博¹⁾ (1) 日本医科大学) : 太陽電池付光触媒内臓音波振動歯ブラシの臨床効果. 日本歯科保存学会2012年度春季学会 (福岡), 2013. 6.
- 3) 藤川瑞穂¹⁾, 村田侑加¹⁾, 石川広樹¹⁾, 大木亜悠子¹⁾, 吉峰正彌¹⁾, 小倉喜一郎¹⁾, 鴨井久博¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科) : 病院歯科における周術期口腔機能管理に対する現状と今後の課題. 2013年度ライフケア学会学術大会 (新潟), 2013. 12.

[千葉北総病院看護部]

研究概要

本年度の院内の研究発表は、8演題であった。脳神経センターは、患者の口腔内環境の改善を図るために定期的に研究に取り組み、院内外の学会発表に繋げている。また他の病棟は、日々の看護実践の場で、安全・安楽を患者へ提供するための研究内容であった。その内容は、手術に必要なパンフレットの見直しやDVDの導入、転倒防止用具などの使用の検討であった。テーマ7と8は、四病院看護継続教育において一年間受講し、その成果として四病院と院内で看護研究発表を行った。これらの研究は、来年度の学会発表や論文提出などへの準備を勧めている。

<テーマ>

1. 梅干刺激による口腔内湿度上昇に対する試み
 2. 患者の理解度を高める為の術前パンフレットの見直し：分からないという言葉が減らすための工夫
 3. 日帰り白内障患者への手術オリエンテーションにDVDを導入して：術前から次回受診までの不安の軽減を図る
 4. プレホスピタルにおける看護活動の実態と教育プログラムの検討
 5. センサーベッド使用に際しての指導効果と看護師の行動変容
 6. 出生後1日目までの母子異室における自律授乳ケアが母乳栄養確立に与える影響
 7. A病院救急領域に勤務する看護師の嚙下訓練に関する認識とアセスメント：脳神経外科領域に勤務する看護師との比較
 8. 高齢者のストーマ装具交換のセルフケア指導：記憶過程の符号化へのはたらきかけ
- 院外発表は11演題が行われた。毎年取り組んでいる看護研究を、それぞれの専門分野で学会発表した。

研究業績

著書

- 1) 那須愛美, 柏村めぐみ：〔共著〕入院診療：入院中の患者さんとのトラブルにはどのようなことがありますか。痛み、しびれがづらい患者さんへの看護：チームで取り組む脳神経外科、整形外科の実践（井須豊彦, 金景成），2013；pp81-83, 照林社。
- 2) 岡田知弥子, 太田杏奈¹⁾, 大和田陽代¹⁾, 佐々木優子（¹⁾日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科臨床心理士）：〔共著〕脳卒中：うつ状態に対する看護の視点とケア。看護技術（小倉啓史），2014；pp39-41, メヂカルフレンド社。
- 3) 有泉楽子：〔共著〕脳卒中リハビリテーション看護認定看護師のための JOURNAL in JOURNAL 脳卒中リハ看護+（プラス）。BRAIN NURSING（長谷川素美），2013；pp50-53, メディカ出版。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 田染雄一, 菊地真由美, 山下直子, 藤岡久恵：CAG・PCIクリニカルパス改定に向けた検討 第2報：患者教育に向けたセルフチェックシートの活用。千葉県看護研究学会（第32回）（千葉県 千葉市），2014. 2.
- 2) 平野知子：当院における緩和ケアの認知度と質の向上を目指して：緩和ケアチームの積極的な回診への取り組み。日本緩和医療学会学術大会（第18回）（神奈川県 横浜市），2013. 6.
- 3) 柳沼理香, 坂巻雅美, 伊藤頼子, 渡辺光子, 松本智司¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 外科）：ポケットを形成した人工肛門閉鎖創に対し陰圧閉鎖（VAC）療法を導入した1例。東関東ストーマ・排泄リハビリテーション研究会（第16回）（茨城県 つくば市），2013. 11.
- 4) 柏村めぐみ, 岩井智美, 那須愛美, 岩下 哲¹⁾, 橋口 宏¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 整形外科）：鏡視下腱板修復術例の斜角筋ブロックの除痛効果と合併症の検討。肩の運動機能研究会（第10回）（京都府 京都市），

2013. 9.

- 5) 細谷靖子, 伴 美幸, 佐々木優子, 土肥いずみ, 水成隆之¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター 脳神経外科): 梅干刺激による口腔内湿度上昇に対する試み. 日本意識障害学会 (第 22 回) (秋田県 秋田市), 2013. 7.
- 6) 有泉楽子, 佐々木優子, 土肥いずみ, 伴 美幸, 若林ひとみ, 今野夏実, 秋元麻衣, 山田佳子, 水成隆之¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター 脳神経外科): 当脳神経センターにおける脳卒中患者早期離床への取り組み. 日本脳卒中学会総会 (第 39 回) (大阪府 大阪市), 2014. 3.
- 7) 加瀬寛恵, 飯村紫陽花: 人工呼吸器関連肺炎と診断された外傷患者の口腔内の実態調査. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都府 京都市), 2014. 2.
- 8) 堀越明美: ICU における DVD 教材を用いた急性冠症候群患者への患者指導導入を試みて: 超急性期における DVD 教材の効果. 日本集中治療医学会学術集会 (第 41 回) (京都府 京都市), 2014. 2.
- 9) 星島洋子: フライトナースが予想を超える場面に遭遇した要因と状況判断ナラティブによる事例検討会を用いた分析. 日本救急看護学会学術集会 (第 15 回) (福岡県 福岡市), 2013. 10.
- 10) 水野憲宏, 二俣美鶴, 増渕美恵子: プレホスピタルにおける看護活動の実態と教育プログラムの検討. 日本航空医療学会総会 (第 20 回) (福島県 福島市), 2013. 11.
- 11) 本庄貴志: 災害時におけるフライトナースの役割: 東日本大震災での教訓と課題. 千葉看護学会学術集会 (第 19 回) (千葉県 千葉市), 2013. 9.

〔4〕付置研究施設

1. 老人病研究所

[病理部門]

研究概要

病理部門では、1) ケロイド発生機序の研究と2) 血管の形成メカニズムに関する研究を行っている。1) ケロイド発生機序の研究武蔵小杉病院形成外科との共同研究で無瘢痕創傷を目的に肥厚性瘢痕とケロイド発生機序にかかわる原因の解析を行っている。これまでに、ケロイド発生に関与する遺伝子解析で発現上昇を認めた遺伝子の中に、IL-6 および c-Abl 遺伝子を見だし、IL-6 シグナルの関与を明らかにした。ケロイドでは TGF-beta や PDGF が過剰発現しており、TGF-beta と PDGF シグナル伝達を同時に抑制する小分子標的治療薬 STI571 のケロイド線維芽細胞への投与によりプロコラーゲン産生とタイプ I コラーゲン mRNA の発現の低下を目的に新薬の可能性の解析を進めている。IL-6 プロモーター領域の塩基多型の研究では、rs1800796 (-572G/C) に遺伝子多型の高い頻度をケロイドで新規に検出し、第43回日本創傷治癒学会にて報告し、現在論文投稿を準備している。また、本学知的財産推進センターにて特許をガジザデが申請している。2) 血管の形成メカニズムに関する研究血管には多様な形態が存在する。病的な形態においては蛇行した血管が知られている。しかしながら、この形態がどのようにして生じるのか、その形態形成メカニズムは明らかになっていない。病理部門では、この血管の蛇行を規定する機構を明らかにすることを目的に研究を行っている。これまでに、アフリカツメガエルのオタマジャクシにおいて、軽度に蛇行した血管から螺旋状に蛇行した血管まで様々な状態の血管を見出している。第21回日本血管生物医学会では、細胞死によって生じた環境変化が螺旋状に蛇行した血管の形成に重要なシグナルとなっていることを報告した。このデータを基に、現在、アポトーシス関連因子による、より直接的な方法での解析を行う準備を行っている。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Fujiwara M¹⁾, Ishizuya-Oka A²⁾, Ghazizadeh M¹⁾ (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Kawasaki, 2) Department of Biology, Nippon Medical School, Kawasaki) : Apoptosis of endothelial cells during the formation of tortuous blood vessels in the metamorphic *Xenopus laevis* tail. 日本血管生物医学会 (第21回) (大阪), 2013. 9.
- 2) 清水 一, 伊吾田慎一¹⁾, 枝川聖子, 土佐眞美子²⁾, ガジザデモハammad (1) 東戸塚記念病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科) : ケロイドにおける microRNA の発現とコラーゲン産生について. 第26回日本皮膚外科学会総会 (滋賀), 2013. 7.
- 3) Ghazizadeh M : Wnt5a/beta-catenin signaling pathway as a new molecular target for developing therapeutic strategies for keloid. International Conference on Functional and Comparative Genomics & Pharmacogenomics (Chicago, Illinois, USA), 2013. 11.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) Tosa M¹⁾, Watanabe A²⁾ (1) Department of Plastic Surgery, Musashi-kosugi Hospital, 2) Division of Personalized Genetic Medicine) : A polymorphism in the IL-6 promoter region associated with keloid in the Japanese population. 第43回日本創傷治癒学会 (別府), 201. 11.

[生化学部門]

研究概要

大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野（老人病研究所生化学部門）では、細胞内小器官のミトコンドリアがエネルギー産生だけでなく多くの病気や老化現象に関わっていることを明らかにし、その機能を重視しながら様々な疾患への関与を探っている。「科学は実用されて光り輝く」を基本とし、研究が社会に寄与するための基盤となる基礎研究を進めている。ミトコンドリアから発せられる活性酸素が、ほとんどの生活習慣病や老化の原因となることは今や広く知られている。水素分子が効果的な抗酸化作用を示すことを明らかにし、2007年にNature Medicineに論文を発表した後は、他の研究室からの報告が相次ぎ、原著論文は300報以上の報告にいたっている。本年度は、心肺停止蘇生モデル動物を用い、水素ガスの吸入効果を明らかにした。臨床試験では、水素水の飲用がパーキンソン病患者を臨床的に改善することを明らかにした。ミトコンドリア病に対しては、タウリン治療が希少疾患の治験段階に入った。今年度は、第4回分子状水素医学シンポジウムを世話人として開催し、水素医学基礎研究と臨床応用への進歩に貢献することができた。今年度は海外でも水素の臨床応用に関心が高まり、アメリカ、中国、台湾などでの水素研究発表の講演が多くなった。教授は学会活動においては、Medical Gas Researchの副編集長をしており、また、分子状水素医学シンポジウム、日本Cell Death学会の理事長も引き続き務めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Lee H, Ohno M¹⁾, Ohta S, Mikami T²⁾ (1) Grad. Sch. Health and Sport Sci., Nippon Sport Sci. Univ., 2) Dept. Health and Sports Sci.) : Regular Moderate or Intense Exercise Prevents Depression-Like Behavior without Change of Hippocampal Tryptophan Content in Chronically Tryptophan-Deficient and Stressed Mice. PLoS One 2013 ; 8 (7) : 1-8.
- 2) Wolf AM, Nishimaki K, Kamimura N, Ohta S : Real-Time Monitoring of Oxidative Stress in Live Mouse Skin. J Invest Dermatol. 2014 ; 134 (6) : 1701-1709.
- 3) Takahashi M¹⁾, Wolf AM, Watari E¹⁾, Norose Y¹⁾, Ohta S, Takahashi H¹⁾ (1) Dept. Microbiol. Immunol.) : Increased mitochondrial functions in human glioblastoma cells persistently infected with measles virus. Antiviral Res. 2013 ; 99 (3) : 238-244.
- 4) Yoritaka A^{1,2)}, Takanashi M¹⁾, Hirayama M³⁾, Nakahara T¹⁾, Ohta S, Hattori N¹⁾ (1) Dept. Neurol., Juntendo Univ. Sch. Med., 2) Dept. Neurol., Juntendo Koshigaya Hosp., 3) Dept. Pathophysiological Lab. Sci., Nagoya Univ. Grad. Scho. Med.) : Pilot study of H₂ therapy in Parkinson's disease : A randomized double-blind placebo-controlled trial. Mov Disord. 2013 ; 28 (6) : 836-839.
- 5) Nojima A¹⁾, Yamashita M²⁾, Yoshida Y¹⁾, Shimizu I¹⁾, Ichimiya H, Kamimura N, Kobayashi Y¹⁾, Ohta S, Ishii N³⁾, Minamino T^{4,5)} (1) Dep. Cardiovascular Med., Chiba Univ. Grad. Sch. Med., 2) Kazusa DNA Research Inst., 3) Dept. Mol. Life Sci., Basic Med. Sci. Mol. Med., Tokai Univ. Sch. Med., 4) Dept. Cardiovascular Biol. Med., Niigata Univ. Grad. Sch. Med. Dental Sci., 5) PRESTO, Japan Sci. Technol. Agency) : Haploinsufficiency of akt1 prolongs the lifespan of mice. PLoS One 2013 ; 8 (7) : 1-10.

著書

- 1) 太田成男：〔自著〕水素水とサビない身体。水素水とサビない身体（広瀬直人），2013；pp1-187，小学館。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 太田成男：ミトコンドリア最新データにみる老化との関係. 抗加齢医学会 (大阪), 2013. 4.
- 2) 太田成男：ミトコンドリア機能と老化・疾患制御. 抗加齢医学会総会 (第13回) (横浜), 2013. 6.
- 3) 太田成男：細胞は若返る：人体の不思議をミトコンドリアが解き明かす. JASIS2013 (分析展2013 (第51回)/科学機器展2013 (第36回)) (千葉幕張メッセ), 2013. 9.
- 4) 太田成男：水素医学の展開：基礎医学から臨床実施へ. 日本救急医学会総会 (第41回) (東京), 2013. 10.
- 5) Ohta S: Molecular Hydrogen has Potential for Preventive and Therapeutic Applications for Neurological Diseases. International Drug Discovery Science & Technology, Therapy and EXPO Hainan International Convention and Exhibition Center, MolMed Part of WGC (China), 2013. 11.
- 6) 太田成男：ミトコンドリアの基礎と臨床 老化と若返りにミトコンドリアはどこまで関与しているか?. キレーションセミナー (第9回) (東京), 2013. 11.
- 7) 太田成男：ミトコンドリアと生物活性物質との相互作用. 京都-NPO 法人国際医科学研究会フォーラム (第7回) (京都), 2013. 12.
- 8) 太田成男：医療への水素利用. 水素エネルギー協会大会 (第33回) (東京), 2013. 12.
- 9) 太田成男：水素医学研究 update：2013. 分子状水素医学シンポジウム (第4回) (東京), 2014. 2.

(2) 招待講演：

- 1) Ohta S: Multi functional molecular hydrogen acting as an anti oxidant, anti inflammation and energy metabolism-Stimulator. The International Conference and Exhibition on Biochemical & Molecular Engineering (Texas USA), 2013. 10.
- 2) Ohta S: Molecular Hydrogen is an Efficient Antioxidant Accompanied with Anti-inflammatory and Energy Metabolism-enhancing Roles. International Drug Discovery Science & Technology, Therapy and EXPO Hainan International Convention and Exhibition Center, IDDST Part of WGC (China), 2013. 11.
- 3) 太田成男：水素療法の神経系疾患に対する効果：基礎医学から治療および予防への臨床適用へ向かって. 日本神経治療学会総会 (第31回) (東京), 2013. 11.
- 4) 太田成男：生活習慣病とミトコンドリア：酸化ストレスの抑制. ハートリスク研究会 (千葉), 2014. 2.
- 5) 太田成男：Molecular hydrogen as a preventive and therapeutic medical gas: Initiation, development and potential of hydrogen medicine. The first academic exchange and inaugural meeting on Hydrogen Molecule Biomedicine of the Hydrogen Molecule Biomedicine Professional Committee of Chinese Healthcare International Exchange Promotion Association.(Chinese Beijing), 2014. 3.

(3) 一般講演：

- 1) 横田 隆, 上村尚美, 五十嵐勉¹⁾, 高橋 浩¹⁾, 小原澤英彰¹⁾, 太田成男 (¹⁾ 眼科学)：水素分子による網膜保護効果：ラット ex vivo 網膜培養系での解析. 分子状水素医学シンポジウム (第4回) (東京), 2014. 2.
- 2) 井内勝哉, 西楨貴代美, 井本明美, 一宮治美, イヒョンジン, 上村尚美, 太田成男：低濃度の分子状水素による連鎖的脂質過酸化の抑制効果. 分子状水素医学シンポジウム (第4回) (東京), 2014. 2.
- 3) 太田成男：抗酸化予防・治療としての水素の働き：基礎医学から臨床へ. キレーションセミナー (第9回) (東京), 2013. 11.
- 4) 太田成男：ミトコンドリアと新しい話題. HOKKAIDO ANTI AGING CLUB2014 (北海道), 2014. 3.
- 5) Wolf AM, Nakashima Y, Kamimura N, Nishimaki K, Ohta S：紫外線による皮膚の生体内酸化ストレスイメー징. 日本化粧品学会 (東京), 2013. 6.
- 6) Wolf AM, 中嶋裕也, 上村尚美, 西楨貴代美, 太田成男：紫外線による皮膚の生体内酸化ストレスイメー징. 日本美容皮膚学会総会・学術大会 (第31回) (神戸), 2013. 8.

- 7) 中嶋裕也, Wolf MA, 上村尚美, 西楨貴代美, 太田成男: Redox-sensitive GFP (roGFP) 皮膚発現マウスを用いた抗酸化物質の酸化ストレス抑制効果の検討. 日本美容皮膚学会総会・学術大会 (第 31 回) (神戸), 2013. 8.
- 8) 太田成男: 一般社団法人を選択した小規模学会の現状. 日本学術会議 (東京), 2013. 10.
- 9) 上村尚美, 金丸拓也, 横田 隆, 井内勝哉, 西楨貴代美, 高見新也¹⁾, 赤芝洋紀¹⁾, 志鷹義嗣¹⁾, 桂研一郎²⁾, 片山泰朗²⁾, 太田成男 (¹⁾ アステラス製薬 (株), ²⁾ 大学院医学研究科神経内科学): Double transgenic mutants carrying a mutant gene of amyloid precursor protein and dominant-negative gene of mitochondrial aldehyde dehydrogenase 2 accelerates Alzheimer-like phenotypes in transgenic mice. International Symposium on Mitochondria 2013 (第 13 回) (東京), 2013. 11.
- 10) 一宮治美, 上村尚美, 太田成男: Hepatic mitochondria-related genes are up-regulated by oral administration of molecular hydrogen in typeII diabetes mellitus model mice (db/db). International Symposium on Mitochondria 2013 (第 13 回) (東京), 2013. 11.
- 11) 上村尚美, 金丸拓也, 横田 隆, 井内勝哉, 西楨貴代美, 高見新也¹⁾, 赤芝洋紀¹⁾, 志鷹義嗣¹⁾, 片山泰朗²⁾, 太田成男 (¹⁾ アステラス製薬 (株), ²⁾ 大学院医学研究科神経内科学): Effect of Intravenous Transplantation of Bone Marrow-Derived Mononuclear Cells in the Prevention and Treatment of Transgenic Mouse Models of Alzheimer's Disease. 日本分子生物学会 (第 36 回) (神戸), 2013. 12.
- 12) Wolf AM, 中嶋裕也, 太田成男: Oxidative stress in hairless mouse epidermis in response to visible and ultraviolet light. 日本分子生物学会 (第 36 回) (神戸), 2013. 12.
- 13) 一宮治美, 上村尚美, 太田成男: DNA microarray analysis of hepatic gene expression induced by molecular hydrogen in typeII diabetes mellitus model mice (db/db). 日本分子生物学会 (第 36 回) (神戸), 2013. 12.
- 14) 天羽 拓¹⁾, 宮本哲也, 上村尚美, 麻生貞光, 太田成男 (¹⁾ 防衛大学校応用化学科): A somatic of Mitochondrial DNA confers resistance against an Anti-cancer drug. International Symposium on Mitochondria 2013 (第 13 回) (東京), 2013. 11.
- 15) Wolf AM, 中嶋裕也, 太田成男: Oxidative stress in hairless mouse epidermis in response to visible and ultraviolet light. Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International (17th) (京都), 2014. 3.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Lee H, Kiuchi T, Muto J, Ohta S, Mikami T: Intense exercise enhances the hippocampal proliferation of progenitor cells via activating the Flk1 signaling cascade in mice. GAZZETA MEDICA ITALIANA ARCHIVIO PER LE SCIENZE MEDICHE A J Internal Med. and Pharmacol. 2014; 173: 329-3240.

学会発表

追加分特別講演:

- 1) 太田成男: 水素医学の発展と健康への貢献. 日本薬理学会年会 (第 86 回) (福岡), 2013. 3.

[免疫部門]

研究概要

発癌は炎症を引きがねとして発生するが, 我々の研究から, 炎症性サイトカインがグルコース代謝を亢進させること, 炎症部位では Toll 様受容体シグナルによって p53-p21 経路の作用が抑制されており, その結果として p53 の監視

機構が働かなくなり、癌化が起こると推測している。実際、炎症誘発大腸癌モデル実験で、p21 欠損マウスは変異原投与のみで炎症を起こさなくても腫瘍が発生した。この炎症による癌化の誘発機構を、「p53 経路の抑制」と「代謝の変化による癌化」の2つの面から解明するため、モデルマウスの作成と分子レベルの解析を行った。更に、これまで hedgehog シグナルが転写因子 Gli1 を介して Mdm2 を活性化し、p53 の機能を抑制することを報告したが、Gli1 の制御機構を解析する過程で、Gli1 が MEP50/PRMT5 メチル化酵素複合体によって活性化する事、MEP50 が STAT3 によって誘導されて Gli1 を活性化することを見いだした。特に、肺癌では EGFR-STAT3 の経路で MEP50 依存性に Gli1 の活性化が見られること、肺癌細胞では、癌細胞の増殖と癌幹細胞の維持に MEP50-Gli1 の経路が重要であることを見だし、論文投稿準備中である。また、EGFR 変異のある肺癌は Gefitinib 等の分子標的薬が効果的であるが、耐性例も多い。我々は、いくつかの Gefitinib 感受性肺癌細胞株が治療によって転写因子 HIF-1 が抑制されること、外来性に HIF-1 を発現させると Gefitinib 抵抗性を獲得すること、この効果は転写因子 FoxO3-Bim の発現によるアポトーシスの誘導が重要であることを見いだした。そこで、この経路を解析することで、抵抗株の治療が可能になるかの検討を行っている。また、前年度に書いた糖代謝を標的とした新規抗炎症治療法については、現在論文の追加実験を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yamauchi S¹⁾, Hou Y¹⁾, Guo A^{1,2)}, Hirata H¹⁾, Nakajima W³⁾, Yip A⁴⁾, Yu C¹⁾, Harada I⁵⁾, Chiam K^{1,4)}, Sawada Y³⁾, Tanaka N¹⁾, Kawauchi K (1) Mechanobiology Institute, Level 10, T-Lab, National University of Singapore, 2) Department of Biological Sciences, National University of Singapore, 3) Department of Molecular Oncology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, 4) A*STAR Bioinformatics Institute, #07-01 Matrix, Singapore, 5) Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology) : p53-mediated activation of the mitochondrial protease HtrA2/Omi prevents cell invasion. *J Cell Biol* 2014 : 204 (7) : 1191-1207.
- 2) Guo A¹⁾, Hou Y²⁾, Hirata H²⁾, Yamauchi S²⁾, Yip A³⁾, Chiam K^{2,3)}, Tanaka N⁴⁾, Sawada Y^{1,2)}, Kawauchi K²⁾ (1) Department of Biological Sciences, National University of Singapore, 2) Mechanobiology Institute, National University of Singapore, 3) A*STAR Bioinformatics Institute, Singapore, 4) Department of Molecular Oncology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School) : Loss of p53 Enhances NF- κ B-Dependent Lamellipodia Formation. *J Cell Physiol* 2014 : 229 (6) : 696-704.
- 3) Wataru N^{1,2)}, Hicks M¹⁾, Nobuyuki T²⁾, Krystal G³⁾, Hisashi H¹⁾ (1) Department of Oral and Craniofacial Molecular Biology, School of Dentistry, Massey Cancer Center, Virginia Commonwealth University, 2) Department of Molecular Oncology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, 3) Department of Internal Medicine, Virginia Commonwealth University, McGuire Veterans Affairs Medical Center) : Noxa determines localization and stability of MCL-1 and consequently ABT-737 sensitivity in small cell lung cancer. *Cell Death Dis* 2014 : 5.

[疫学部門]

研究概要

(1) 成長ホルモンの新たな生理作用を検討。小胞体ストレスの中核的分子 XBP1 との関係、カルシウム依存性脱リン酸化酵素 calcineurin の活性を調節する Rcan1-4 との関係を検討してきた。成長ホルモンは、肝における Rcan1-4 を増加することを見出した。

(2) 栄養状態に変化に対する代謝反応を検討。低タンパク食給餌によって、肝におけるインスリンシグナルの増強や血中アディポネクチンの増加を見出し、その機序の解明を行った。単離肝細胞でもインスリンシグナルの増強が維持されること、アディポネクチンの合成ではなく、分泌亢進あるいは分解抑制で血中濃度が上昇することがわかった。

(3) 肥満における成長ホルモンの意義を検討。成長ホルモンは、内臓脂肪における酸化ストレスと慢性炎症を軽減し、アディポネクチン産生能および耐糖能を改善することを報告した。

(4) 甲状腺細胞においてアダプター分子 PI3KAP がインスリン様成長因子の活性を増強する。PI3KAP 欠損マウスを作製し、表現型解析を進めた。その結果、甲状腺の腫大、血清サイロキシン値の低下、TSH 値の増加が観察されることを発見した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kaneko M¹⁾, Hakuno F¹⁾, Kamei H¹⁾, Yamanaka D, Chida K¹⁾, Minami S, Coe RI²⁾, Takahashi S¹⁾ (1) Departments of Animal Sciences and Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agriculture and Life Sciences, The University of Tokyo, 2) Faculty of Science, Ryerson University) : Steroid hormones are novel nucleoside transport inhibitors by competition with nucleosides for their transporters. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2014 ; 443 (2) : 505-510.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 中田朋子, 勝又晴美, 時田玲子, 南 史朗：ラット肝臓において Regulator of calcineurin 1 (Rcan1) の発現は成長ホルモンによって促進される。分子生物学会（第 36 回）（神戸），2013. 12.
- 2) 石川真由美^{2, 3)}, Barclay J³⁾, Brooks A³⁾, 南 史朗¹⁾, Waters M³⁾ (1) 日本医科大学 老人病研究所 疫学部門, 2) 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 3) Division of Molecular Cell Biology, Institute for Molecular Bioscience, University of Queensland) : 肝臓の IGF-I 産生におけるクッパー細胞の役割。日本内分泌学会学術総（第 86 回）（仙台），2013. 4.
- 3) 大場るり子²⁾, 福永ヒトミ³⁾, 中島敏昌²⁾, 石川真由美²⁾, 八木 孝²⁾, 南 史朗¹⁾ (1) 日本医科大学 老人病研究所 疫学部門, 2) 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科 武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 3) 日本医科大学 武蔵小杉病院 看護部) : リラグルチドを 1 年以上使用した 2 型糖尿病患者における血糖値と体重の変化。日本糖尿病学会年次学術集会（第 56 回）（熊本），2013. 5.
- 4) Ishikawa M¹⁾, Morita T²⁾, Minami S¹⁾, Yoshino G³⁾ (1) Center of Endocrinology, Diabetes, and Arteriosclerosis, Musashikosugi Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Laboratory Medicine, Toho University, 3) Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Toho University) : Alternation in abundance of insulin/insulin-like growth factor-I hybrid receptor with aging. The Endocrine Society's Annual Meeting (95th) (San Francisco), 2013. 6.
- 5) 八木 孝¹⁾, 大場るり子¹⁾, 中島敏昌¹⁾, 石川真由美¹⁾, 岡本芳久²⁾, 前川尚志³⁾, 笹野公伸³⁾, 南 史朗²⁾ (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 2) 日本医科大学 老人病研究所 疫学部門, 3) 東北大学大学院 医学系研究科医化学専攻 病理病態学講座病理診断分野) : 病理診断で微小病変が原因と考えられた原発性アルドステロン症の 1 例。臨床内分泌代謝 Update (第 23 回) (名古屋), 2014. 1.
- 6) 鈴木るり子¹⁾, 中島敏昌¹⁾, 石川真由美¹⁾, 南 史朗²⁾, 酒井 瞳³⁾, 勝又範之³⁾, 許田典夫⁴⁾, 北山康彦⁴⁾, 片上秀喜⁵⁾ (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 2) 日本医科大学 老人病研究所 疫学部門, 3) 日本医科大学 武蔵小杉病院 腫瘍内科, 4) 日本医科大学 武蔵小杉病院 病理部, 5) 帝京大学

ば総合医療センター 内科 臨床研究部)：化学療法が奏功した原発巣不明 NEC による EAS の 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 23 回) (名古屋), 2014. 1.

- 7) 岡本芳久^{1,2)}, 福島 誠¹⁾, 勝又晴美¹⁾, 石川真由美²⁾, 南 史朗^{1,2)} (1) 日本医科大学 生体機能制御学, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科)：成長ホルモンによる食餌性肥満マウスの耐糖能改善と内臓脂肪組織内炎症・酸化ストレスの軽減. 日本肥満学会 (第 34 回) (東京), 2013. 10.
- 8) Fukushima M¹⁾, Okamoto Y^{1,2)}, Ishii S¹⁾, Katsumata H¹⁾, Okamoto M¹⁾, Shiro M^{1,2)} (1) Department of Bioregulation, Nippon Medical School, 2) Division of Endocrinology, Diabetology and Atherosclerosis Medicine, Nippon Medical School Musashi-kosugi Hospital)：Growth hormone ameliorates the impaired glucose tolerance in diet-induced obese mice by regulating visceral fat mass and condition. The Endocrine Society's Annual Meeting and Expo (95th) (San Francisco, California, U.S.A.), 2013. 6.
- 9) 田口雄亮¹⁾, 豊島由香¹⁾, 時田玲子¹⁾, 加藤久典²⁾, 高橋伸一郎³⁾, 南 史朗¹⁾ (1) 日医大・老研・生体機能制御学分野, 2) 東大・総括・食と生命, 3) 東大院・農生科・応動科)：低タンパク質食給餌ラットから調製した単離肝細胞におけるインスリンシグナル. 第 67 回日本栄養・食糧学会大会 (名古屋), 2013. 5.
- 10) 豊島由香¹⁾, 時田玲子¹⁾, 田口雄亮¹⁾, 高橋伸一郎²⁾, 加藤久典³⁾, 南 史朗¹⁾ (1) 日医大・老研・生体機能制御学分野, 2) 東大院・農生科・応動科, 3) 東大・総括・食と生命)：低タンパク質栄養による血中アディポネクチン増加機構の解析. 第 7 回日本アミノ酸学会学術大会 (熊本), 2013. 11.
- 11) 森 友美¹⁾, 亀井宏泰¹⁾, 赤西成美¹⁾, 尾添淳文¹⁾, 伯野史彦¹⁾, 千田和広¹⁾, 加藤久典²⁾, 豊島由香³⁾, 竹中麻子⁴⁾, 高橋伸一郎¹⁾ (1) 東大院・農生科・応動科, 2) 東大・総括・食と生命, 3) 日医大・老研・生体機能制御学分野, 4) 明大・農・農芸化学)：アミノ酸欠乏培地で培養した肝細胞ではインスリン受容体基質 (IRS) -2 量が増加し脂肪蓄積が起こる. 日本農芸化学学会大会 2014 年度 (東京), 2014. 3.
- 12) 望月瑠美, 福永ヒトミ, 吉田真貴子, 金子佳世, 八木 孝, 中島敏晶, 南 史朗：持続血糖モニター (CGM) の血糖値変動のひょいいうかにおける SMBG ダイアリーの有用性の検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 56 回) (熊本), 2013. 5.
- 13) 横関知子, 藤咲依里香, 西野律子, 八木 孝, 南 史朗：独自に開発した SMBG ダイアリーの糖尿病療養指導における有用性について. 第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会 (熊本), 2013. 5.
- 14) 福永ヒトミ, 望月瑠美, 金子佳世, 糸井博美, 八木 孝, 中島敏晶, 南 史朗：新診断基準による妊娠糖尿病を対象とした療養指導外来の有用性. 第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会 (熊本), 2013. 5.
- 15) 八木 孝, 中田亮輔, 菊池有史, 中島敏晶, 南 史朗：胃悪性リンパ腫に対する化学療法によって改善したインスリン受容体異常症 (type B) の 1 例. 第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会 (熊本), 2013. 5.
- 16) 福永ヒトミ, 望月瑠美, 金子佳世, 飯高洋子, 八木 孝, 南 史朗：妊娠糖尿病の療養指導外来の有用性について：グリコアルブミンを指標とした指導を実施して. 第 29 回糖尿病・妊娠学会 (岐阜), 2013. 11.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Yamanaka D, Akama T²⁾, Fukushima T¹⁾, Nedachi T¹⁾, Kawasaki C¹⁾, Chida K¹⁾, Minami S, Suzuki K²⁾, Hakuno F¹⁾, Shin-Ichiro T¹⁾ (1) Department of Animal Sciences, Graduate School of Agriculture and Life Science, The University of Tokyo, 2) Leprosy Research Center, National Institute of Infectious Diseases)：Phosphatidylinositol 3-kinase-binding protein, PI3KAP/XB130, is required for cAMP-induced amplification of IGF Mitogenic activity in FRTL-5 thyroid cells. *Molecular Endocrinology* 2012 ; 26 (6) : 1043-1055.
- 2) Fukushima T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Yamanaka D, Shibano T¹⁾, Chida K¹⁾, Minami S, Asano T²⁾, Hakuno F¹⁾, Takahashi S¹⁾ (1) Departments of Animal Sciences and Applied Biological Chemistry, Graduate School of

Agriculture and Life Sciences, The University of Tokyo, ²⁾ Laboratory of Biomedical Chemistry, Basic Life Sciences, Institute of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University) : Phosphatidylinositol 3-kinase (PI3K) Activity Bound to Insulin-like Growth Factor-I (IGF-I) Receptor, which Is Continuously Sustained by IGF-I Stimulation, Is Required for IGF-I-induced Cell Proliferation. *Journal of Biological Chemistry* 2012 : 287 (35) : 29713-29721.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 中田朋子, 勝又晴美, 時田玲子, 南 史朗 : ラット肝臓において Xbp1 mRNA の発現は成長ホルモンによって調節される. 日本分子生物学会 (第 35 回) (福岡), 2012. 12.
- 2) 石川真由美²⁾, 大場るり子²⁾, 中島俊昌²⁾, 南 史朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 老人病研究所 疫学部門, ²⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科) : 口腔内カンジダ症を契機に発症した非ケトン性高浸透圧性昏睡の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 594 回) (東京), 2013. 2.
- 3) 石川真由美²⁾, 立山尚子³⁾, 望月 徹⁴⁾, 大場るり子²⁾, 中島俊昌²⁾, 南 史朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 老人病研究所 疫学部門, ²⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, ³⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 女性診療科・産科, ⁴⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 感染制御部) : エルシニア感染症を伴った糖尿病合併妊娠の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 595 回) (東京), 2013. 3.
- 4) 田口雄亮¹⁾, 豊島由香¹⁾, 時田玲子¹⁾, 大谷りら²⁾, 竹中麻子³⁾, 加藤久典²⁾, 高橋伸一郎⁴⁾, 南 史朗¹⁾ (¹⁾ 日医大・老研・生体機能制御学分野, ²⁾ 東大・総括・食と生命, ³⁾ 明大・農・農芸化学, ⁴⁾ 東大院・農生科・応動科) : 低タンパク質食給餌によるインスリン様成長因子の動態, 肝臓のインスリンシグナルと蓄積脂肪量の変化 : 成長期と成熟ラットの比較. 第 66 回日本栄養・食糧学会大会 (仙台), 2012. 5.
- 5) 豊島由香¹⁾, 時田玲子¹⁾, 田口雄亮¹⁾, 伯野史彦²⁾, 竹中麻子³⁾, 加藤久典⁴⁾, 南 史朗¹⁾, 高橋伸一郎²⁾ (¹⁾ 日医大・老研・生体機能制御学分野, ²⁾ 東大院・農生科・応動科, ³⁾ 明大・農・農芸化学, ⁴⁾ 東大・総括・食と生命) : 十分なタンパク質量を含む食餌の再給餌が低タンパク質食給餌に应答して起こった肝臓の脂質蓄積に与える影響. 第 66 回日本栄養・食糧学会大会 (仙台), 2012. 5.
- 6) Ozaki Y¹⁾, Takeda T¹⁾, Akanishi N¹⁾, Toyoshima Y²⁾, Hakuno F³⁾, Takahashi S³⁾, Takenaka A¹⁾ (¹⁾ 明大・農・農芸化学, ²⁾ 日医大・老研・生体機能制御学分野, ³⁾ 東大院・農生科・応動科) : Effect of short-term treatment with insulin on decreased IGF-I expression and increased liver triglycerides during protein deprivation. The 6th International Congress of the GRS and IGF (Munich, Germany), 2012. 10.

2.呼吸ケアクリニック

研究概要

閉塞性疾患（COPD、気管支喘息）と睡眠時無呼吸症候群、在宅医療（酸素療法、人工呼吸療法、CPAP治療）に重点を置いている。臨床研究ではCOPDの研究や病態について循環器疾患との臓器相関、線維化を伴うCOPDなどの特殊病態、さらに東京大学工学部との共同研究として効率的診療理論の研究を進め、同学部大学院修士論文の指導を行ってきた（茂木）。睡眠時無呼吸症候群の病態について研究した。看護研究としてCOPD患者の教育の在り方につき研究を進めた。基礎研究では、COPDの遺伝子研究を東京医科歯科大学、東京都健康長寿医療センターと共同研究として進めた。サーファクタント蛋白SP-Dが肺気腫だけでなく間質性肺炎、肺癌とも関与する事を見出した。理化学研究所糖鎖生物学研究グループとの共同研究により、ノックアウトマウスが肺気腫を形成する糖鎖関連蛋白FUT8がCOPD増悪や病態進行のバイオマーカーになりうることを報告、同蛋白によりシグナル情報伝達が修飾を受けるTGF- β 経路とCOPDの重症度との関連を見出した。さらに、同共同研究グループにより、糖鎖関連蛋白siglec14の遺伝子型がCOPD増悪と関連siglec14蛋白が増悪感受性のバイオマーカーになることを見出し、論文報告するとともに、特許出願を行った。COPDの治療薬の開発を理化学研究所糖鎖センターとの共同研究として進め2件の特許を出願中である。東日本大震災で被災したCOPD患者の状況を調査し将来に向けた対策を講じるための多施設共同研究を厚労科研費により実施している（班長、木田）。現在、医師3人が文科省の科研費を得て研究に従事しており、理化学研究所との共同研究は独立行政法人医薬基盤研究所からの委託研究としての研究費に拠っている。木田は新聞、ラジオ、TV、市民公開講座などを通じ啓発活動を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kobayashi S¹⁾, Fujinawa R¹⁾, Ota F¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Angata T²⁾, Ueno M³⁾, Maeno T³⁾, Kitazume S¹⁾, Yoshida K¹⁾, Ishii T, Gao C¹⁾, Outsubo K¹⁾, Yamaguchi Y^{4,5)}, Betsuyaku T⁶⁾, Kida K, et al. ⁽¹⁾ Disease Glycomics Team, RIKEN Advanced Science Institute, ⁽²⁾ Glycan Recognition Team, Systems Glycobiology Group, RIKEN Advanced Science Institute, ⁽³⁾ Department of Medicine and Biological Science, Gunma University Graduate School of Medicine, ⁽⁴⁾ Structural Glycobiology Team, Systems Glycobiology Group, RIKEN Advanced Science Institute, ⁽⁵⁾ RIKEN-Max Planck Institute Joint Research Center, ⁽⁶⁾ Division of Pulmonary Medicine, Keio University School of Medicine Read More : <http://www.atsjournals.org/doi/full/10.1165/rcmb.2013-00740C> : A single dose of lipopolysaccharide into mice with emphysema mimics human chronic obstructive pulmonary disease exacerbation as assessed by micro-computed tomography. *Am J Respir Cell Mol Biol* 2013 ; 49 (6) : 971-977.
- 2) Motegi T, Jones CR¹⁾, Ishii T, Hattori K, Kusunoki Y, Furutate R, Yamada K, Gemma A²⁾, Kida K ⁽¹⁾ Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, ⁽²⁾ Divisions of Pulmonary Medicine, Infectious Disease, and Oncology, Department of Internal Medicine) : A comparison of three multidimensional indices of COPD severity as predictors of future exacerbations. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2013 ; 8 : 259-271.
- 3) Angata T^{1,2)}, Ishii T, Motegi T, Oka R¹⁾, Taylor RE^{3,4)}, Soto PC^{3,4)}, Chang YC^{3,5)}, Secundino I^{3,5)}, Gao CX¹⁾, Ohtsubo K¹⁾, Kitazume S¹⁾, Nizet V^{3,5)}, Varki A^{3,4)}, Gemma A⁶⁾, Kida K, et al. ⁽¹⁾ Systems Glycobiology Research Group, and RIKEN-Max Planck Joint Research Center, RIKEN Advanced Science Institute, ⁽²⁾ Graduate School of Medicine, Osaka University, ⁽³⁾ Glycobiology Research and Training Center, Uni-

versity of California at San Diego, ⁴⁾ Department of Medicine, University of California at San Diego, ⁵⁾ Department of Pediatrics, University of California at San Diego, ⁶⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Loss of Siglec-14 reduces the risk of chronic obstructive pulmonary disease exacerbation. *Cell Mol Life Sci* 2013 ; 70 (17) : 3199-3210.

4) Kamio K¹⁾, Ishii T, Motegi T, Hattori K, Kusunoki Y, Azuma A¹⁾, Gemma A¹⁾, Kida K (¹⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine) : Decreased serum transforming growth factor- β 1 concentration with aging is associated with the severity of emphysema in chronic obstructive pulmonary disease. *Geriatr Gerontol Int* 2013 ; 13 (4) : 1069-1075.

(2) 総説 :

1) Ishii T, Kida K : Predictors of chronic obstructive pulmonary disease exacerbations. *Curr Opin Pulm Med* 2014 ; 20 (2) : 138-145.

2) Kida K, Motegi T, Ishii T, Hattori K : Long-term oxygen therapy in Japan : history, present status, and current problems. *Pneumonol Alergol Pol* 2013 ; 81 (5) : 468-478.

3) 茂木 孝, 木田厚瑞 : 大きく改善した COPD の治療効果 : 8. 在宅酸素療法の導入のコツ. *Modern Physician* 2013 ; 33 (11) : 1421-1425.

4) 服部久弥子, 木田厚瑞 : 呼吸器疾患 : 在宅呼吸ケア. *medicina* 2013 ; 50 (11 増刊号) : 146-151.

5) 石井健男 : 「理解 ! なっとく ! 高齢患者の呼吸ケア 速習ポイント 12」5. COPD. 呼吸器ケア 2013 ; 20 (2) : 113-115.

6) 石井健男 : 「理解 ! なっとく ! 高齢患者の呼吸ケア 速習ポイント 12」8. 急性増悪のサイン. 呼吸器ケア 2013 ; 20 (2) : 120-121.

7) 石井健男 : 「理解 ! なっとく ! 高齢患者の呼吸ケア 速習ポイント 12」12. 服薬指導. 呼吸器ケア 2013 ; 20 (2) : 129-131.

学会発表

(1) 一般講演 :

1) Motegi T, Ishii T, Hattori K, Kusunoki Y, Furutate R, Gemma A¹⁾, Kida K (¹⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Disease, and Oncology, Department of Internal Medicine) : Importance of the initial behaviour of patients in avoiding late recovery from COPD exacerbations. *ERS Annual Congress 2013 (Barcelona)*, 2013. 9.

2) Wakabayashi R¹⁾, Kutsuzawa T¹⁾, Hattori K, Ishii T, Kusunoki Y, Yamada K, Gemma A²⁾, Kida K (¹⁾ Department of Nursing, School of Health Sciences, Tokai University, ²⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Long-term evaluation of seasonal out-of-pocket medical costs in patients with chronic respiratory disease based on a survey. *ERS Annual Congress 2013 (Barcelona)*, 2013. 9.

3) Furutate R, Ishii T, Yamada K, Motegi T, Hattori K, Kusunoki Y, Gemma A¹⁾, Kida K (¹⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Association Between Exercise Intolerance And Nutritional Status Assessed By The Mini Nutritional Assessment® Questionnaire In Chronic Obstructive Pulmonary Disease : Body Composition And Beyond. *ATS International Conference 2013 (Pennsylvania, Philadelphia)*, 2013. 5.

4) Ishii T, Kida K, Gemma A¹⁾ (¹⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : The effect of senescence on COPD pathogenesis : involvement of telomere and an antiaging molecule fibroblast growth factor 23. *ATS International Conference*

- 2013 (Pennsylvania, Philadelphia), 2013. 5.
- 5) 田鎮幸江, 瀬川佳余, 伊藤亜紀, 南 好江, 茂木 孝, 石井健男, 服部久弥子, 木田厚瑞: 在宅酸素療法実施中の COPD 患者における LINQ 点数と QOL の関係. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 23 回) (東京), 2013. 10.
 - 6) 古館隆子, 石井健男, 茂木 孝, 服部久弥子, 楠 裕司, 山田浩一, 木田厚瑞: COPD 患者における新 GOLD 分類と栄養状態の関係に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 23 回) (東京), 2013. 10.
 - 7) 茂木 孝, 堀江健夫¹⁾, 桂 秀樹²⁾, 土橋邦生³⁾, 木田厚瑞 (¹⁾ 前橋赤十字病院呼吸器科, ²⁾ 東京女子医科大学八千代医療センター呼吸器科, ³⁾ 群馬大学大学院保健学研究科): COPD 増悪入院治療の多施設間比較: PCPAS によるベンチマーキング解析. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 23 回) (東京), 2013. 10.
 - 8) 石井健男, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞 (¹⁾ 日本医科大学医学部内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門): ニコチン受容体群の遺伝子多型と肺気腫との関連. 日本内科学会講演会 (第 110 回) (東京), 2013. 4.
 - 9) 茂木 孝, 楠 裕司, 服部久弥子, 石井健男, 山田浩一, 木田厚瑞: GOLD2011 の新たな患者管理分類は新たな COPD 多次元評価になり得るのか?. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 53 回) (東京), 2013. 4.
 - 10) 石井健男, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞 (¹⁾ 日本医科大学医学部内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門): COPD におよぼす加齢の影響: テロメア及び抗加齢因子 fibroblast growth factor 23 の関与. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 53 回) (東京), 2013. 4.
 - 11) Ishii T^{1, 2)}, Abboud RT³⁾, Wallace AM^{1, 6)}, English JC⁴⁾, Coxson HO^{1, 5)}, Finley RJ⁶⁾, Shumansky K¹⁾, Paré PD^{1, 7)}, Sandford AJ^{1, 7)} (¹⁾ UBC James Hogg Research Centre, Institute for Heart & Lung Health, St. Paul's Hospital, ²⁾ Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Respiratory Medicine, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁴⁾ Department of Pathology, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁵⁾ Department of Radiology, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁶⁾ Department of Surgery, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁷⁾ Department of Medicine, Division of Respiratory Medicine, St. Paul's Hospital, University of British Columbia): Secretion of MMPs, cathepsins, and their inhibitors by alveolar macrophages and their association with emphysema. ATS International Conference 2013 (Pennsylvania, Philadelphia), 2013. 5.
 - 12) 服部久弥子: 高齢者の肺炎予防: 肺炎球菌ワクチンの重要性和有効性. 日本旅行医学会大会 (第 12 回) (東京), 2013. 4.

論 文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Ishii T^{1, 2)}, Abboud RT³⁾, Wallace AM^{1, 4)}, English JC⁵⁾, Coxson OH^{1, 6)}, Finley RJ⁴⁾, Shumansky K¹⁾, Paré PD^{1, 7)}, Sandford AJ^{1, 7)} (¹⁾ UBC James Hogg Research Centre, Institute for Heart and Lung Health, St. Paul's Hospital, ²⁾ Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Respiratory Medicine, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁴⁾ Department of Pathology, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁵⁾ Department of Radiology, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁶⁾ Department of Surgery, Vancouver General Hospital, University of British Columbia, ⁷⁾ Department of Medicine, Division of Respiratory Medicine, St. Paul's Hospital, University of British Columbia): Alveolar macrophage proteinase/antiproteinase expression in lung function and emphysema. Eur Respir J 2013; 43 (1): 82-91.

3. 健診医療センター

研究概要

健診医療センターでは、 ^{13}N -アンモニアを利用した心筋血流 PET 検査を開始し、心筋組織単位重量当たりの血流量を算出している。症例数はまだ少ないが、心筋バイアビリティの評価に有用であるという結果が提示されている。従来行われていた 2D 収集装置とは異なる新しい 3D 収集装置での試みであり、検査結果における画像の劣化要因とその影響度を検討中である。また、心サルコイドーシスの PET 検査が保険適応になり、FDG-PET 検査数が増加傾向を示しているが、検査の精度向上と被検者の負担軽減の両者を充足する前処置の検討も継続して行われており、非常に有用な結果を得ている。精神医学教室、薬理学教室とともに、アミロイドイメージングや精神疾患の治療薬に関する治験を実施し、成果を上げている。また、同様に PET ならびに f-MRI を利用した臨床研究も並行して行われており、診断能・再現性等の向上についても検討がなされている。技術系の検討では、放射性薬剤投与後の放射能のモニタリングにより適切な投与が行われていることの確認や、汚染拡大防止措置の方策について検討がなされ、安全な検査施行のためのエビデンスを蓄積している。放射性薬剤投与直後から連続して行う頭部撮像に関して、体幹部からの散乱成分が影響していることが知られている。その影響を検討し、頭部-頸部間に設置した遮蔽板により画質改善への効果が検討され、臨床治験に応用されている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 小林靖宏¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 福嶋善光¹⁾, 石原圭一⁰⁾, 須田匡也⁰⁾ (1) 日本医科大学 放射線医学) : Significant suppression of myocardial (18) F-fluorodeoxyglucose uptake using 24-h carbohydrate restriction and a low-carbohydrate, high-fat diet. Japanese College of Cardiology 2013 ; 62 (5) : 314-319.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 櫻井 実 : 心臓核医学の現状：基礎からマルチモダリティへ。茨城県 RI 研究会 (第 125 回) (茨城県水戸市), 2014. 1.

(2) シンポジウム：

- 1) 須田匡也 : 臨床における PET の最新技術の有用性と問題点 TOF と PSF 再構成. 日本放射線技術学会総会学術大会 (第 69 回) (横浜), 2013. 4.

(3) 一般講演：

- 1) 須田匡也, 金谷浩司, 櫻井 実, 長谷康二, 武井めぐみ, 富山 毅¹⁾, 土橋俊男²⁾ (1) 日本医科大学 放射線医学, 2) 日本医科大学 放射線科) : ^{13}N NH₃ 心筋 PET における定量解析の再現性評価. 日本放射線技術学会秋季学術大会 (第 41 回) (福岡), 2013. 10.
- 2) 富山 毅¹⁾, 石原圭一, 須田匡也 (1) 日本医科大学 放射線医学) : 悪性病変の SUV_{max} における Time - of - Flight 効果に関する検討. 日本核医学会学術総会 (第 53 回) (福岡), 2013. 11.
- 3) 佐藤英尊¹⁾, 館野 周²⁾, 石原圭一, 須田匡也 (1) 日本医科大学 放射線医学, 2) 日本医科大学 精神医学) : Florbetapir アミロイドイメージングにおける全脳灰白質/白質集積比を用いた診断法. 日本核医学会学術総会 (第 53 回) (博多), 2013. 11.
- 4) 小林靖宏¹⁾, 石原圭一¹⁾, 福嶋善光¹⁾, 秋山一義¹⁾, 佐藤英尊¹⁾, 須田匡也 (1) 日本医科大学 放射線医学) : FDG-

PETにおける生理的心筋集積とケトン体の関係：長時間糖質制限食負荷による抑制処置の経験から，日本核医学会学術総会（第53回）（福岡），2013. 11.

- 5) 佐藤英尊¹⁾，石原圭一，須田匡也：Whole brain gray matter and white matter contrast analysis of 18F-florbetapir (AV-45) for diagnosis Alzheimer's disease. European association of nuclear medicine (Lyon, France), 2013. 10.

[5] そ の 他

1. 教育推進室

研究業績

論文

(1) その他：

- 1) 藤倉輝道¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 高柳和江¹⁾, 吉村明修²⁾, 阿曾亮子¹⁾, 井上千鹿子³⁾ (1) 日本医科大学教育推進室, 2) 東京医科大学病院臨床腫瘍科, 3) 愛知医科大学大学院医学研究科) : 日本医科大学模擬患者養成の10年. 医学教育 2013 ; 44 (5) : 365-367.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 阿曾亮子, 大西弘高¹⁾, 藤倉輝道, 井上千鹿子, 伊東泰夫²⁾, 吾妻安良太³⁾ (1) 東京大学医学教育国際研究センター, 2) 日本医科大学 SP, 3) 呼吸器内科) : 共用試験 OSCE 医療面接における SP 満足度に及ぼす影響要因. 日本医学教育学会 (第45回) (千葉), 2013. 7.
- 2) 阿曾亮子, 藤倉輝道, 野村 務¹⁾, 吉田大蔵²⁾, 小野真史³⁾, 野呂林太郎⁴⁾, 吉村明修⁵⁾ (1) 外科, 2) 脳外科, 3) 眼科, 4) 内科, 5) 東京医大臨床腫瘍科・外来化学療法センター部) : 日本医科大学の臨床実習におけるクリニカル・シミュレーション・ラボの活用. 日本医療シミュレーション教育学会 (第1回) (新潟), 2013. 7.
- 3) 藤倉輝道¹⁾, 三宅弘一²⁾, 明楽重夫²⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学教育推進室, 2) 日本医科大学 SG 実行委員会) : 日本医科大学における TBL 第2報. 日本医学教育学会 (第45回) (千葉県千葉市), 2013. 7.
- 4) 三宅弘一¹⁾, 藤倉輝道²⁾, 渡辺 淳¹⁾, 平井幸彦¹⁾, 飯島 修¹⁾, 山崎吉之¹⁾, 三宅紀子¹⁾, 山本基子¹⁾, 竹下俊行³⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学医学部生化学・分子生物学, 2) 日本医科大学教育推進室, 3) 日本医科大学医学部産婦人科学) : PBL チュートリアル型基礎医学学生実習の導入, 第2報. 日本医学教育学会 (第45回) (千葉県千葉市), 2013. 7.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Yoshimura A, Kosaihiira S¹⁾, Morimoto T²⁾, Kim C¹⁾, Tsueshita T³⁾, Adachi K, Aso R, Shimura T, Nakano H⁴⁾, Gemma A¹⁾ (1) Working Committee of Clinical Simulation Laboratory, 2) Dept Intern Med, 3) Dept Anesthesiology, 4) Training Center for Medical Interns) : An Effective Training Program for Chest Tube Drainage for Medical Interns in a Clinical Simulation Laboratory. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 403-408.
- 2) Adachi K¹⁾, Yoshimura A, Aso R, Miyashita T²⁾, Yoshida D¹⁾, Teramoto A¹⁾, Shimura T (1) Dept Neurosurgery, 2) Dept Radiology) : Clinical Clerkship Course for Medical Students on Lumbar Puncture Using Simulators. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 430-437.

2. 学生部

[学生相談室]

研究概要

学生相談室は、学生が直面する諸問題、例えば、人間関係や生活上の困りごと、家族や自分自身についての問題や悩みごと、情緒不安などについて、学生一人ひとりに応じた相談およびカウンセリング等を主としているが、臨床心理学、各種心理療法、メンタルヘルス等についての研究も折に触れて取り組んでいる。今年度は以下の通りであった。

1. 昨年度に引き続き、本大学の心理学教室及び東京成徳大学との協働で、心理教育的介入プログラムに関わる研究を行った。2. カウンセリングに導入されることも多いコラージュ（芸術療法及び表現療法の一技法）に関する研究を、孤独感をテーマに制作された作品の印象評定（SD法）と表現特徴から行った成果を2本発表した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 鋤柄のぞみ：コラージュによる孤独感の表現特徴：「ドライ」と「ウェット」からの検討。日本医科大学基礎科学紀要 2013；42：13-35.
- 2) 鋤柄のぞみ：コラージュに表現された孤独感についての「ドライ」「ウェット」からの検討：印象評定（SD法）を用いて。臨床心理学研究（東京国際大学大学院臨床心理学研究科紀要）2013；11：161-173.

学会発表

(1) ポスター：

- 1) 石村郁夫¹⁾、羽鳥健司²⁾、山口正寛¹⁾、野村俊明³⁾、鋤柄のぞみ³⁾（¹⁾ 東京成徳大学、²⁾ 埼玉学園大学、³⁾ 日本医科大学）：自己への思いやりの態度育成が自動思考や心配に及ぼす影響の検討。日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会（第15回）（東京）、2013. 7.
- 2) 石村郁夫¹⁾、羽鳥健司²⁾、山口正寛¹⁾、野村俊明³⁾、鋤柄のぞみ³⁾（¹⁾ 東京成徳大学、²⁾ 埼玉学園大学、³⁾ 日本医科大学）：自己への思いやりを支える個人特性に関する探索的検討：恥感情、完璧主義、5因子性格特性との関連から。日本心理学会（第77回）（北海道）、2013. 9.
- 3) 山口正寛¹⁾、石村郁夫¹⁾、鋤柄のぞみ²⁾、野村俊明²⁾（¹⁾ 東京成徳大学、²⁾ 日本医科大学）：ネガティブ感情の受容困難さと反芻および抑うつとの関連。日本心理学会（第77回）（北海道）、2013. 9.
- 4) 石村郁夫¹⁾、羽鳥健司²⁾、浅野憲一³⁾、山口正寛¹⁾、野村俊明⁴⁾、鋤柄のぞみ⁴⁾（¹⁾ 東京成徳大学、²⁾ 埼玉学園大学、³⁾ 千葉大学大学院、⁴⁾ 日本医科大学）：Effects of the Self-Affirmative Task for Self-Compassion on Automatic Thoughts, Perfectionism Cognition and Worry. Asian Cognitive Behavior Therapy (CBT) Conference (the 4th)（東京）、2013. 8.

付 表

1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1) 平成 25 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金） 交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
新学術領域研究 (研究領域提案型)	小林 克典	薬理学・講師	2,800	精神疾患のプレシナプスエンドフェ ノタイプとその発現機構の解析
基盤研究 (B)	太田 成男	細胞生物学・大学院教授	4,300	※新規水素発生素材の経口投与による 水素分子の老年病と生活習慣病の予 防効果
〃	大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	3,600	※アミロイド分子イメージングによる 中高年うつ病のアルツハイマー病前 駆病変の検出
〃	村田 智	放射線医学・准教授	2,600	※難治性膵がんに対する革新的膵灌流 療法の開発と臨床応用に関する研究
基盤研究 (B) (一部基金)	瀧澤 俊広	分子解剖学・大学院教授	3,400	※妊娠高血圧症候群の分子病態におけ るマイクロ RNA の役割解明と新規 予知因子の開発
基盤研究 (C)	平田紀美子	衛生学・公衆衛生学・テクニ カル・スタッフ	500	※女性、特に妊産婦に対する POCT を 用いたインパクトのある継続的な禁 煙支援法の構築
〃	木山 裕子	生理学(システム生理学)・講 師	500	※脳の性的二型形成におけるエストロ ゲン制御シグナル伝達経路の解明
〃	李 卿	衛生学・公衆衛生学・准教授	800	※カーバメイト系農薬による免疫毒性 及びその機序
特別研究員奨励費	吉村 久志	病理学(統御機構・腫瘍学)・ 特別研究員 PD	1,200	癌特異的 Tenascin-C isoform を標的 とする癌治療に向けた研究

2) 平成 25 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金） 研究分担の交付決定一覧

※は前年度から継続

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 清水 渉 循環器内科学	新学術領域研究	中沢 一雄 国立循環器病研究センター	※多階層データに基づく心臓電気現象の統合的機能シミュレーション
2 森田 明夫 脳神経外科学	基盤研究 (S)	光石 衛 東京大学	※超微細手術のための汎用プラットフォーム開発とそれを交える超精密テクノロジーの追求
3 宮下 次廣 放射線医学	基盤研究 (B)	宮川 成雄 早稲田大学	※臨床法医学教育の課題と法科大学院教育の再検討
4 野村 俊明 新丸子校舎 心理学 教室	〃	青木紀久代 お茶の水女子大学	※学校における心の健康と発達支援～学校力と地域・分化資源の活用
5 岡 敦子 新丸子校舎 生物学 教室	〃	井筒 ゆみ 新潟大学	※自己抗原タンパク質を介して組織リモデリングに働く獲得免疫システム
6 清水 章 解析人体病理学	〃	山田 和彦 鹿児島大学	※GvHR によるドナーキメラ増強作用に基づく大動物小腸移植での革新的免疫寛容誘導法
7 瀧澤 俊広 分子解剖学	〃	齋藤 滋 富山大学	※免疫寛容という立場から正常妊娠、異常妊娠を再考する
8 櫻村 正美 新丸子校舎 医療心理学 教室	基盤研究 (B) (一部基金)	堀越 勝 国立精神・神経医療研究センター	※心的外傷後ストレス障害に対する認知処理療法の効果検証と治療メカニズムの解明
9 根井 貴仁 付属病院 感染制御部	〃	中田 光 新潟大学	※次世代シーケンサーを用いた GM-CSF 自己抗体産生機序の解明
10 三品 雅洋 内科学(神経内科学)	〃	石渡 喜一 東京都健康長寿医療センター	※代謝型グルタミン酸受容体 1 型の分子イメージング：ファーストインヒューマン研究
補助金直接経費合計額			3,150,000 円

3) 平成 25 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
基盤研究（C）	上村 尚美	老人病研究所（生化学部門） ・准教授	1,200	※生体内酸化ストレスの定量的評価システムを用いた水素分子による糖尿病改善効果の解析
〃	中村 哲子	新丸子校舎 外国語教室・准教授	500	※19世紀アイルランド小説のアイリッシュネスの発展と拡散に関する研究
〃	中澤 秀夫	新丸子校舎 数学教室・教授	1,000	※外部領域におけるヘルムホルツ方程式のリゾルベント評価とその散乱問題への応用
〃	菊地 浩人	新丸子校舎 物理学教室・准教授	700	※キサンチン酸化還元酵素における阻害剤の作用の研究―「鍵と鍵穴」のドグマを超えて
〃	折笠千登世	生理学（システム生理学）・講師	1,000	※組み換えアデノウイルスベクターを用いた脳の性差形成機構の解明
〃	内藤 善哉	統御機構病理学・大学院教授	1,300	※膵臓癌幹細胞の同定と新たな治療への試み
〃	高橋 謙治	整形外科学・准教授	1,200	※ラジオ波温熱刺激を用いた変形性関節症の疼痛抑制効果に関する研究
〃	林田眞喜子	法医学・准教授	500	※QTOF 質量分析装置を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の新展開
〃	坂本 長逸	消化器内科学・大学院教授代行	700	※慢性胃炎進展とシクロオキシゲナーゼ 2 遺伝子単塩基変異の役割
〃	吾妻安良太	内科学（呼吸器内科学）・教授	1,200	※線維化病態における骨髄前駆細胞の役割と新規治療薬の効果判定に関する研究
〃	功刀しのぶ	病理学（解析人体病理学）・講師	500	※間質性肺炎における血管新生関連因子の機能解析と臨床応用
〃	鶴岡 秀一	腎臓内科学・大学院教授	800	※アニオン型尿毒症性物質群を除去するハイブリッド型人工腎臓の開発
〃	三品 雅洋	内科学（神経内科学）・講師	900	※PET を用いたアデノシン受容体とパーキンソン病の不随意運動の関係についての研究
〃	三宅 弘一	生化学・分子生物学（分子遺伝学）・准教授	1,200	※ダイヤモンド・ブラックファン貧血の新規分子病態の解明と治療法の開発
〃	深澤 隆治	小児科学・准教授	600	※川崎病発症機構の解明
〃	小川 俊一	小児科学・教授	1,200	※血管炎の急性期における血管平滑筋細胞の形質転換に伴う細胞機能・応答機構の解明
〃	勝部 康弘	小児科学・准教授	1,100	※Na/Ca 交換輸送が胎児・新生児の動脈管と末梢肺動脈の血管緊張度にはたす役割
〃	村上 隆介	放射線医学・講師	500	※デュアルエネルギーサブトラクション法によるマンモグラフィに関する研究
〃	松谷 毅	外科学（消化器外科学）・講師	1,300	※外科的侵襲時の脂肪細胞の役割と塩酸ピオグリタゾン投与の有効性

〃	石井 永一	病理学(解析人体病理学)・特別研究生	1,400	※ラット肝臓移植モデルにおける免疫寛容獲得の機序と抗炎症作用を用いた治療応用
〃	内田 英二	消化器外科学・大学院教授	1,100	※In vivo イメージングシステムを用いた腫瘍治療実験
〃	五十嵐健人	外科学(内分泌外科学)・講師	900	※バセドウ病患者における個別化医療実現のための基礎的研究
〃	新田 隆	外科学(心臓血管外科学)・教授	900	※ダブル・ポテンシャル・マッピング法：伝導ブロックの新しい検証法の開発
〃	三枝 英人	耳鼻咽喉科学・講師	600	※慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究
〃	亀谷 修平	眼科学・准教授	800	※ α 1-Syntrophin 欠損マウスを用いた視神経脊髄炎の病態解析
〃	堀 純子	眼科学・准教授	700	※眼内微小環境の恒常性維持の分子機構の解析と眼組織移植への応用
〃	高見 佳宏	付属病院 形成外科・非常勤講師	900	※幹細胞とコラーゲン架橋を導入した無細胞真皮マトリックスによる結合組織の再生
〃	大泉 旭	付属病院 高度救命救急センター・助教	1,200	※出血性ショック後臓器障害発生における軟部組織損傷の役割に関する研究
〃	洲鎌 秀永	生理学(生体統御学)・講師	1,300	※ノルアドレナリンによるミクログリア活性化と退行性神経変性病態のメカニズム
〃	横田 隆	老人病研究所(分子生物学部門)・テクニカル・スタッフ	1,400	※水素水の網膜神経保護効果と酸化ストレスの定量的評価システムによる解析
〃	野村 務	外科学(消化器外科学)・准教授	700	※医学生に対する内視鏡外科トレーニングの教育効果の検討
〃	高久 俊	微生物学・免疫学・助教	1,100	※漢方薬が免疫制御系細胞群に与える影響～腫瘍ワクチン効果の増強を目指して
〃	鋤柄のぞみ	学生相談室・助教	1,400	※自己への思いやりの態度を育成強化させる心理教育的介入法の開発
〃	岡 敦子	新丸子校舎 生物学教室・教授	900	※消化管上皮の脱分化を制御する幹細胞ニッチ形成機構の解析
〃	高市 眞一	新丸子校舎 生物学教室・准教授	1,800	※藻類におけるカロテノイドを用いた化学分類と系統分類
〃	永原 則之	衛生学・公衆衛生学・准教授	1,200	※硫化水素産生不全を伴う硫黄転移酵素ノックアウトマウスに関する網羅的研究
〃	岡本 研	生化学・分子生物学(代謝・栄養学)・准教授	1,600	※XOR 変異マウスを用いたスーパーオキシドが個体に及ぼす長期的、全身的影響の検証
〃	水口 義昭	付属病院 消化器外科・助教	1,100	※HBV 由来低分子 RNA の機能解析と肝癌発癌メカニズムの解明
〃	工藤 光洋	病理学(統御機構・腫瘍学)・講師	1,300	※服薬コンプライアンスを改善する、患者に応じて見せる糖尿病シミュレーションモデル

〃	川田 智之	衛生学公衆衛生学・大学院教授	1,400	※職場勤務者のメタボリック症候群関連指標とメンタルヘルスに関する総合的研究
〃	李 英姫	衛生学・公衆衛生学・講師	1,200	※ディーゼル排気粒子によるマウス肺線維症病態への増悪作用の分子メカニズムの解明
〃	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学・准教授	100	※メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職域疫学研究
〃	二神 生爾	内科学(消化器内科学)・講師	1,400	※胃癌腹膜播種における間葉系幹細胞のホーミング分子機構と ips gene 発現の解析
〃	高木 元	内科学(循環器内科学)・講師	1,200	※薬剤送達システム徐放化多血小板血漿による血管再生治療
〃	丸山 光紀	千葉北総病院 内科・助教	500	※膜電位・細胞内カルシウム同時マッピングによる除細動後心室細動再発の機序解明
〃	清野 精彦	内科学(循環器内科学)・教授	1,400	※心血管バイオマーカー・リンケージ解析と心血管疾患予防のための包括的治療戦略の構築
〃	石井 健男	内科学(呼吸器内科学)・講師	1,200	※オートファジーによる慢性閉塞性肺疾患の増悪メカニズムの検討
〃	清家 正博	内科学(呼吸器内科学)・准教授	1,000	※肺癌の特異的血清およびエクソソーム由来マイクロRNAの同定および個別化治療の応用
〃	清水 章	解析人体病理学・大学院教授	1,200	※ANCA 関連腎炎の発症進展に関わる免疫ネットワークの解明とその制御
〃	山口 博樹	内科学(血液内科学)・講師	900	※CAP1 遺伝子変異による急性骨髄性白血病の発症や再発機序の解明
〃	浅野 健	小児科学・准教授	1,100	※小児急性脳症において新規に発見したバイオマーカーの機能・神経病理学的探索
〃	三宅 紀子	生化学・分子生物学(分子遺伝学)・テクニカル・スタッフ	1,300	※脳神経病変を標的としたリソゾーム病の新規治療法(遺伝子治療)の開発
〃	長田 真一	多摩永山病院 皮膚科・助教	1,600	※細胞極性制御因子による皮膚幹細胞の維持機構
〃	上田 諭	精神医学・講師	1,200	※ドバミントランスポーターイメージングによるレビー小体型認知症バイオマーカーの研究
〃	汲田伸一郎	臨床放射線医学・大学院教授	1,200	※MDCT/PET を用いた非侵襲的な冠動脈不安定プラーク検出に関する研究
〃	横田 裕行	救急医学・大学院教授	1,200	※臓器提供に関する本人、家族意思を反映し得る脳死判定補助検査に関する研究
〃	松田 明久	千葉北総病院 外科・助教	1,200	※MFG-E8 をターゲットとした手術侵襲後炎症性生体反応の制御
〃	川野 陽一	付属病院 消化器外科・助教	900	※小児生体肝移植後グラフト肝加齢変化のテロメア長とテロメラーゼ活性による解明

〃	井村 肇	外科学(心臓血管外科学)・准教授	1,700	※人工心肺中低頻度人工呼吸の肺保護効果の研究：臨床応用と未熟肺への基礎的アプローチ
〃	臼田 実男	呼吸器外科学・大学院教授	1,200	※末梢小型肺腺癌に対する次世代型気管支鏡治療の開発
〃	石角 太郎	付属病院 呼吸器外科・助教	1,300	※中枢型肺がんに対する凍結融解療法を用いた新規内視鏡治療の開発
〃	桂 研一郎	内科学(神経内科学)・准教授	1,200	※2型糖尿病合併脳梗塞における虚血性細胞障害増悪のメカニズムの追求と新規治療の試み
〃	森田 明夫	脳神経外科学・大学院教授	800	※医工学を用いた微小外科手術技術評価と効果的トレーニング法の開発
〃	坂本 篤裕	疼痛制御麻酔科学・大学院教授	1,400	※体内遺伝子発現変動からみた全身麻酔の機序解明
〃	市川 雅男	産婦人科学・講師	900	※胎児免疫寛容における胎児抗原特異的CTLの挙動と胎盤のバリア機構の解明
〃	桑原 慶充	産婦人科学・講師	1,600	※子宮頸管リモデリング制御におけるプロゲステロンシグナリングの作用分子機構
〃	明楽 重夫	産婦人科学・教授	900	※Urocortin2の子宮内膜症における発現と病態への関与の解析
〃	Ruby Pawankar	小児科学・特任教授	1,200	※鼻副鼻腔炎を伴う鼻茸の発症機序と再発に関与するT細胞特にTreg細胞の新たな役割
〃	吉武 洋	解剖学(分子解剖学)・講師	800	※癌・精巣抗原TEX101を分子標的とした頭頸部癌ミサイル療法の開発
〃	藤本 千明	付属病院 眼科・研究生	1,300	※高浸透圧と自然免疫がドライアイに及ぼす影響と、それに基づく新たな予防・治療戦略
〃	M GHAZIZA-DEH	老人病研究所(病理部門)・准教授	1,500	※ケロイド発生におけるWnt5aシグナル伝達機構の解明と分子標的治療への応用
〃	土佐眞美子	形成外科学・講師	900	※ケロイド発生に関与するIL-6プロモーター領域一塩基多型の同定とその機能解析
〃	原 義明	千葉北総病院 救命救急センター・助教	1,300	※血漿マイクロRNA発現による骨折治癒遅延の新しい分子治療の解明
〃	塚本 剛志	付属病院 高度救命救急センター・助教	1,300	※骨軟部組織損傷後の臓器傷害発生メカニズムの検討
〃	若林あや子	微生物学・免疫学・助教	1,100	※放射線照射による消化管樹状細胞の活性化と卵白アルブミン特異的アレルギー反応の誘導
〃	野村 俊明	新丸子校舎 心理学教室・教授	1,500	※ケア学への提言―街ぐるみ認知症相談センターの実践から
〃	原 行弘	リハビリテーション学・大学院教授	2,000	脳機能画像をもとにした二元的脳機能賦活戦略
〃	大林 茂	千葉北総病院 リハビリテーション科・助教	1,900	脳卒中後高次脳機能障害の皮質・皮質下相互作用による脳活動ガイド下介入治療

〃	三上 俊夫	新丸子校舎 室・准教授	スポーツ科学教	700	グルココルチコイドは高強度運動による海馬での神経新生の増加を引き起こす要因か否か
〃	西楨貴代美	老人病研究所（生化学部門）・マネジメントサポート・スタッフ		1,300	水素分子による酸化ストレス防御機構と脳内レドックス動態の解析
〃	長谷部 孝	新丸子校舎 生物学教室・准教授		1,600	消化管上皮幹細胞の起源と幹細胞制御における Notch シグナル経路の役割
〃	石井 寛高	解剖学（生体構造学）・講師		1,400	多重プロモーターと選択的スプライシングによるエストロゲン受容体発現調節機構の解明
〃	濱田 知宏	生理学（システム生理学）・助教		1,100	心の性を司る視索前野性的二型核および分界条床核の性差形成機構
〃	柿沼 由彦	生体統御科学・大学院教授		1,500	心筋細胞 Ach 産生系制御による代謝リモデリング介入効果についての基盤的研究
〃	鈴木 秀典	薬理学・大学院教授		1,600	発達障害治療を指向した脳部位特異的マイクログリアにおける microRNA 機能解析
〃	平井 幸彦	生化学・分子生物学（分子遺伝学）・講師		1,500	適正製造規範に適合する簡易精製が可能な次世代 AAV ベクターの開発
〃	岩堀 徹	病理学（解析人体病理学）・研究員		1,400	多重染色 FACS を用いた腎組織病理診断に替わる糸球体腎炎の診断・病態解析法の確立
〃	阿曾 亮子	教育推進室・助教		1,100	医療面接実習において学生が行動変容を来たす模擬患者のフィードバック手法の特定
〃	茂木 孝	呼吸ケアクリニック・助教		800	患者状態適応型パスを用いた COPD の診療・連携パスの質評価に関する研究
〃	長谷場 健	法医学・准教授		1,100	高 KmADH3 の慢性 Alc 摂取下での Alc 代謝と Alc 性障害発症における役割
〃	石渡 俊行	病理学（統御機構・腫瘍学）・准教授		1,200	microRNA による nestin 制御：膀胱治療の臨床応用を目指した検討
〃	高野 仁司	内科学（循環器内科学）・准教授		800	PET による冠動脈ステント留置部位の炎症反応の非侵襲的評価
〃	稲見 茂信	付属病院 循環器内科・助教		1,200	冠動脈プラーク破綻発症機序の解明：コレステロール結晶の重要性
〃	弦間 昭彦	呼吸器内科学・大学院教授		1,500	ドライバー遺伝子変異依存肺癌に対する finishing blow 治療に関する研究
〃	峯岸 裕司	内科学（呼吸器内科学）・講師		1,900	特発性間質性肺炎合併肺癌の化学療法関連急増悪予測バイオマーカーの探索的研究
〃	木田 厚瑞	内科学（呼吸器内科学）・特任教授		1,500	Marfan 型 COPD の遺伝子レベルから見た ECM の動態と革新的治療に向けた研究
〃	寺崎 泰弘	病理学（解析人体病理学）・准教授		1,600	ヒト病変および新規動物モデルを用いたリンパ球浸潤性の肺線維化病変の病態解明

〃	飯島 修	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)・助教	1,000	低フォスファターゼ症マウスを用いた先天性代謝異常症の再生医療・細胞治療法の開発
〃	高橋 秀実	微生物学・免疫学・大学院教授	1,600	ランゲルハンス細胞活性化による新たな免疫療法の開発
〃	安齋 真一	皮膚科学・准教授	1,500	ケラトアカントーマは良性腫瘍か：プロテオミクスを用いた不均質性の解明
〃	舘野 周	精神医学・准教授	2,100	ドパミントランスポーター PET による妄想の病態解明と客観的評価法の開発研究
〃	眞野あすか	生理学 (生体統御学)・講師	2,000	神経性食欲不振症の病態進行機序における視床下部 CRF の役割の解明
〃	田島 廣之	放射線医学・教授	1,800	新規システムを用いた致死性静脈血栓塞栓症に対するハイブリッド IVR に関する研究
〃	平方 敦史	多摩永山病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科・助教	1,500	ミニブタ脳死ドナー/臓器への一酸化炭素投与の移植臓器生着延長効果と臓器間の相違
〃	松田 陽子	病理学 (統御機構・腫瘍学)・講師	1,200	膀胱癌における Nestin のリン酸化制御による抗腫瘍効果の検討
〃	坂本俊一郎	外科学 (心臓血管外科学)・講師	2,000	心房細動治療における心房間導調整の研究
〃	吉田 大蔵	脳神経外科学・准教授	1,400	下垂体腺腫における Gremlin の発現と細胞内シグナルの解析に関する研究
〃	高井 信朗	整形外科学・大学院教授	1,200	関節鏡視下色彩色差計測による関節軟骨評価法の開発
〃	坂井 敦	薬理学・助教	1,100	神経障害性疼痛特異的 microRNA クラスターの多角的解析
〃	竹下 俊行	女性生殖発達病態学・大学院教授	1,500	原因不明不育症における新規自己抗体とその標的抗原の同定
〃	松本 尚	救急医学・准教授	2,200	体幹部外傷時の大量出血に対する超分子ゲルを用いた一時的止血効果に関する基礎的実験
〃	布施 明	救急医学・准教授	2,000	マイクロウェーブ照射による新しい脳損傷モデルの病態解析
〃	新井 正徳	付属病院 高度救命救急センター・助教	800	マウス腎虚血再灌流障害モデルにおける Egr-1 の役割
〃	金 史英	付属病院 高度救命救急センター・助教	1,200	急性腸間膜虚血の早期診断および救命率向上に向けた治療戦略の構築
〃	増野 智彦	救急医学・講師	1,400	ショック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する組織損傷の影響
挑戦的萌芽研究	江本 直也	内科学 (内分泌代謝内科学)・准教授	500	※神経経済学的観点に基づく糖尿病患者の行動経済学的分析
〃	米山 剛一	産婦人科学・講師	500	※剖検肺組織標本のマイクロ RNA 網羅的発現解析による羊水塞栓症発症機序解明への挑戦
〃	小野 眞史	眼科学・准教授	900	※ヒトの創造過程における気づきの作用点と効果

〃	太田 成男	細胞生物学・大学院教授	1,600	※放射線内部被曝による遺伝子損傷を水素が軽減する.
〃	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	1,500	※炎症性サイトカイン受容体の糖鎖修飾を標的とした新規抗炎症治療法の開発
〃	岩崎 俊雄	生化学・分子生物学（代謝・栄養学）・講師	1,100	※細胞増殖に関わる細菌型 mitoNEET システムの網羅的解析
〃	角田 隆	付属病院 整形外科・助教	1,400	※アクリジンオレンジ光線力学療法による耐性菌感染の制御
〃	石川 源	産婦人科学・講師	500	※栄養膜におけるクロマチン転写制御機構に着目した胎盤絨毛形成・妊娠維持機構の解明
〃	富山 僚子	付属病院 女性診療科・産科・アシスタント・スタッフ	1,500	※分裂期 FISH による新たな着床前診断法の開発
〃	石井 浩統	成田国際空港クリニック・助教	600	※トヨタ生産方式による外科・救急手技のオンザジョブトレーニングの確立に向けて
〃	勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学・助教	1,200	サリン事件被害者の長期的な健康不安の解析
〃	平川 慶子	法医学・助教	3,000	NMR 技術を用いた死体髄液からの頭蓋内傷病変の診断法の新規開発
〃	村田 智	放射線医学・准教授	1,900	高温温熱灌流療法の開発に対する研究
〃	山口 文雄	脳神経外科学・講師	600	悪性脳腫瘍に対する音響化学療法によるブレイクスルー
若手研究 (B)	石野 孔祐	病理学(統御機構・腫瘍学)・助教	800	※ナノ粒子により生成される DNA 損傷と変異誘発メカニズムの解析
〃	櫻村 正美	新丸子校舎 医療心理学教室・講師	600	※感情育成(情育)のための心理教育的介入パッケージの開発
〃	根井 貴仁	付属病院 感染制御部・助教	500	※間質性肺疾患の末梢血中線維細胞に関する研究
〃	三井亜希子	付属病院 腎臓内科・助教	1,100	※造血幹細胞移植後の血栓性微小血管症の発症機序の解明
〃	藤田恵美子	付属病院 腎臓内科・助教	1,000	※腎疾患における抗炎症性マクロファージの誘導と治療応用
〃	根本 崇宏	生理学(生体統御学)・准教授	800	※出生時低体重児にみられるストレスに対する脆弱性への非翻訳 RNA 発現異常の関与
〃	山口 智	武蔵小杉病院 耳鼻咽喉科・助教	900	※咽頭蠕動波は咽頭期嚥下の絶対的な基準となり得るか?
〃	五十嵐 勉	眼科学・講師	1,100	※siRNA 技術を用いた遺伝子治療研究
〃	Wolf Alexander	老人病研究所(生化学部門)・助教	1,800	※ミトコンドリア特異的一重項酸素の消去による光老化の予防
〃	岩田 衣世	解剖学(生体構造学)・助教	1,000	※多嚢胞性卵巣症候群発症メカニズム解明への神経学的アプローチ
〃	肥後 心平	解剖学(生体構造学)・助教	1,000	※ストレス応答の性差を作るエピジェノミクスー視床下部 CRF ニューロンに着目してー

〃	可知 悠子	衛生学・公衆衛生学・助教	800	※非正規雇用の増加は健康と医療の格差を拡大したのか—20年間の経時的分析から
〃	小野 真平	付属病院 高度救命救急センター・特別研究生	500	※腕神経叢麻痺の再建法選択における決定分析と費用効用分析
〃	小塩 篤史	医療管理学・助教	1,400	※社会シミュレーション手法を用いた超高齢社会における保健医療計画・評価に関する研究
〃	山本陽一朗	付属病院 病理部・助教	800	※超広視野ナノレベル構造観測による乳癌幹細胞 in situ 同定法の開発
〃	山口 晃志	法医学・助教	900	※催眠薬代謝物の合成, 分析及び催眠薬代謝に対する法医学的アプローチ
〃	佐藤 寛栄	薬理学・助教	1,000	※ADHD 病態におけるシナプス機能異常の電気生理学的検討および治療薬の探索
〃	池田裕美子	薬理学・助教	1,000	※アルコール依存症治療薬の可能性としてのNK1 受容体拮抗薬が報酬機能に及ぼす効果
〃	赤城 一郎	付属病院 消化器外科・助教	1,300	※食道癌における PIK3CA/Akt とマイクロ RNA に関する分子生物学的解析
〃	進士 誠一	付属病院 消化器外科・助教	1,100	※消化管神経内分泌腫瘍における lumican の機能解明と新規治療薬の開発
〃	彭 為霞	病理学(統御機構・腫瘍学)・助教	1,100	※子宮内膜癌における FGFR2IIIc の役割の解明及び新たな治療戦略の検討
〃	高橋 永幸	千葉北総病院 眼科・助教	1,300	※POMGnT1 欠損マウス網膜の増殖性変化におけるサイトカインの関与
〃	松本 学	付属病院 高度救命救急センター・助教	1,000	※重症脳損傷における脳低温療法後の免疫機能
〃	荻野 拓也	千葉北総病院 リハビリテーション科・研究員	2,200	脳機能評価を用いた新しい転倒予防戦略の構築
〃	鈴木 由香	老人病研究所 疫学部門・助教	900	低タンパク質栄養によるアディポネクチン増加機構の解明とその生理的意義
〃	長尾 元嗣	付属病院内分泌糖尿病代謝内科・助教	1,800	新規モデルマウスを用いた高脂肪食誘導性耐糖能異常における疾患感受性規定因子の解明
〃	林 宏紀	付属病院 呼吸器内科・助教	1,200	クラスター分析による慢性閉塞性肺疾患のフェノタイプと特異バイオマーカーの同定
〃	永坂 真也	病理学(解析人体病理学)・助教	1,900	プロスタグランジン E2—腎局在樹状細胞による糸球体腎炎発症・進展制御機構の解明
〃	近藤 麻加	付属病院 血液内科・助教	1,200	骨髄異形成症候群 (MDS) における IL-2 受容体 α 鎖を標的とした新規治療の検討
〃	嶺 貴彦	付属病院 放射線科・助教	800	リピオドールの粘度調整法の確立と低粘度油性造影剤の開発
〃	小野澤志郎	付属病院 放射線科・助教	2,100	肝臓がんに対する門脈逆流式閉鎖循環下肝灌流療法の開発

〃	栗田 二郎	付属病院 心臓血管外科・助教	2,300	徐放化多血小板血漿による血管新生療法の開発
〃	岩城 隼	解剖学 (分子解剖学)・助教	1,300	先端糖鎖解析による胎盤由来エクソソームの周産期医療への応用を指向した研究
〃	間瀬 有里	武蔵小杉病院 女性診療科・産科・助教	1,100	exosomal microRNA をもとにした周産期予後マーカーの新規開発
〃	本村 友一	千葉北総病院 救命救急センター・助教	2,700	スマートフォンの動画・音声伝送システムを用いた一般市民による救急通報に関する研究
〃	阿部 芳憲	老人病研究所 (免疫部門)・助教	900	慢性炎症誘発性発癌に関わる新しい Sonic hedgehog 遺伝子誘導機構の解明

4) 平成 25 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 研究分担の交付決定一覧

※は前年度から継続

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 藤崎 弘士 新丸子校舎 物理学 教室	基盤研究 (C)	高見 利也 九州大学	※身近な非線形現象に対するマルチスケールの手法の確立と応用
2 片山 映 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)	〃	奥寺 康司 横浜市立大学	※異型性の分子基盤の追求(がん遺伝子 KRAS 下流分子のプロテオーム解析から)
3 永原 則之 衛生学・公衆衛生学	〃	奥寺 康司 横浜市立大学	※異型性の分子基盤の追求(がん遺伝子 KRAS 下流分子のプロテオーム解析から)
4 江本 直也 千葉北総病院 内科	〃	小谷野 肇 順天堂大学	※糖尿病地域医療連携コーディネーター養成プログラムの開発研究
5 岸 泰宏 精神医学	〃	八田耕太郎 順天堂大学	※せん妄の治療, 予防, 医療安全に関する実証研究
6 平川 慶子 法医学	〃	鈴木 崇生 京都大学	※核磁気共鳴法を応用した敗血症重症化早期診断の確立と新規治療ターゲットの開拓
7 鴨井 久博 千葉北総病院 歯科	〃	川村 浩樹 日本歯科大学	※唾液メタボローム解析による歯周病検出技術の確立
8 可知 悠子 衛生学・公衆衛生学	〃	錦谷まりこ 福岡女子大学	※非正規雇用により生じる社会経済格差が家族の健康に及ぼす影響
9 中澤 秀夫 新丸子校舎 数学教室	〃	門脇 光輝 愛媛大学	ある特異性を持つ波動伝播のグリーン関数の漸近挙動とその散乱理論への応用
10 小川 令 形成外科学	〃	西良 浩一 徳島大学	腰部脊椎管狭窄症における黄色靭帯肥厚メカニズムの解明
11 松田 明久 千葉北総病院 外科	〃	角 由佳 順天堂大学	ATP/adenosine balance からみた SIRS 病態の解明
12 鈴木 英紀 形態解析共同研究施設	〃	萩沢 康介 防衛医科大学校	衝撃波に起因するびまん性肺出血の病態解明と止血制御対策
13 大久保善朗 精神・行動医学	〃	荻部 洋行 日本歯科大学	非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価
14 舘野 周 精神医学	〃	荻部 洋行 日本歯科大学	非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価
15 森田 明夫 脳神経外科学	挑戦的萌芽研究	光石 衛 東京大学	※非侵襲脳動脈瘤治療への道を開く外部磁場駆動型医療マイクロ構造体の実現
16 林田真喜子 法医学	〃	工藤 恵子 九州大学	※薬毒物スクリーニング時, 同時定量法の開発
17 大久保善朗 精神・行動医学	〃	松田 哲也 玉川大学	※リアルタイム fMRI を用いたバイオフィードバックによる社会認知機能改善プログラム
18 藤崎 弘士 新丸子校舎 物理学 教室	〃	戸田 幹人 奈良女子大学	非平衡非定常現象への統計科学の展開と生体分子の機能発現機構に対するその応用
19 平川 慶子 法医学	〃	大鶴 繁 京都大学	核磁気共鳴データを用いたパターン認識による解析を応用した身体的加齢評価法の開発
20 平川 慶子 法医学	〃	小池 薫 京都大学	質量分析を用いた小児急性脳症の早期鑑別診断法の開発

補助金直接経費合計額 6,840,000 円

5) 平成 25 年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
野村俊明	人文科学・社会科学・医学 心理学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケア学への提言	野村俊明	
野村俊明	人文科学・社会科学・医学 心理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	自己への思いやりに関する研究	鋤柄のぞみ	日本医科大学学生相談 室
野村俊明	人文科学・社会科学・医学 心理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	学校メンタルヘルスに関する研究	青木紀久代	お茶の水女子大学
樫村正美	人文科学・社会科学・医学 心理学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	感情育成 (情育) のための心理教育的介入パッケージの開発	樫村正美	
樫村正美	人文科学・社会科学・医学 心理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	心的外傷ストレス障害に対する認知処理療法の効果検証と治療メカニズムの解明	堀越 勝	国立精神・神経医療研 究センター病院
中澤秀夫	自然科学・数学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	外部領域におけるヘルムホルツ方程式のリゾルベント評価とその散乱問題への応用	中澤秀夫	
中澤秀夫	自然科学・数学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ある特異性を持つ波動伝播のグリーン関数の漸近挙動とその散乱理論への応用	門脇光輝	愛媛大学大学院理工学 研究所
菊地浩人	自然科学・物理学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	キサンチン酸化還元酵素における阻害剤の作用の研究―「鍵と鍵穴」のドクマを超えて	菊地浩人	日本医科大学
藤崎弘士	自然科学・物理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	キサンチン酸化還元酵素における阻害剤の作用の研究―「鍵と鍵穴」のドクマを超えて	菊地浩人	日本医科大学
藤崎弘士	自然科学・物理学	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	非平衡非定常現象への統計科学の展開と生体分子の機能発現機構に対するその応用	戸田幹人	奈良女子大学
高市真一	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	藻類におけるカロテノイドを用いた化学分類と系統分類	高市真一	日本医科大学
長谷部孝	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	消化管上皮幹細胞の起源と幹細胞制御におけるNotchシグナル経路の役割	長谷部孝	日本医科大学
岡 敦子	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	消化管上皮の脱分化を制御する幹細胞ニッチ形成機構の解析	岡 敦子	日本医科大学
岡 敦子	自然科学・生物学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	自己抗原タンパク質を介して組織リモデリングに働く獲得免疫システム	井筒ゆみ	新潟大
	外国語・英語	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	19世紀アイランド小説のアイリッシュニューネスの発展と拡散に関する研究	中村哲子	
	外国語・英語	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	Oxford & Cambridge Unions の討論に見る英語の論述表現	崎村耕二	日本医科大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
武藤三千代	スポーツ科学	分担	(財)簡易保険加入者協会	市町村ラジオ体操連盟およびラジオ体操会の実態調査	波部謙二	神奈川県立保健福祉大学
武藤三千代	スポーツ科学	分担	一般財団法人簡易保険加入者協会	ラジオ体操の効果についての調査研究	波部謙二	神奈川県立保健福祉大学
田淵圭章, 瀧澤俊広	解剖学 (分子解剖学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	免疫寛容という立場から正常妊娠, 異常妊娠を再考する	齋藤 滋	富山大学 大学院医学薬学研究部 (医学) 教授
竹下俊行, 大口昭英, 菊池邦生	解剖学 (分子解剖学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	妊娠高血圧症候群の分子病態におけるマイクロRNAの役割解明と新規予知因子の開発	瀧澤俊広	日本医科大学 大学院医学研究科 教授
荒木慶彦, 横井秀格	解剖学 (分子解剖学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	痛・精巢抗原 TEX101 を分子標的とした頭頸部癌メサイラル療法の開発	吉武 洋	日本医科大学 医学部 講師
	解剖学 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	先端糖鎖解析による胎盤由来エクソソームの周産期医療への応用を指向した研究	岩城 隼	日本医科大学 医学部 助教
	解剖学 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	多嚢胞性卵巣症候群発症メカニズム解明への神経学的アプローチ	岩田衣世	解剖学 (生体構造学)
	解剖学 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ストレス応答の性差を作るエピジェノミクス: 視床下部CRFニューロンに着目して	肥後心平	解剖学 (生体構造学)
	解剖学 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	多重プロモーターと選択的スプライシングによるエラストロテン受容体発現調節機構の解明	石井寛高	解剖学 (生体構造学)
	生理学 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳の性的二型形成におけるエストロゲン制御シグナル伝達経路の解明	木山裕子	
	生理学 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心の性を司る視索前野性的二型核および分界条床核の性差形成機構	濱田知宏	
真野あすか	生理学 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	神経性食欲不振症の病態進行機序における視床下部CRFの役割の解明	真野あすか	日本医科大学 生体統御科学
根本崇宏	生理学 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	出生時低体重児にみられるストレスに対する脆弱性への非翻訳RNA発現異常の関与	根本崇宏	日本医科大学 生体統御科学
根本崇宏	生理学 (生体統御学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	Urocortin2の子宮内膜症における発現と病態への関与の解明	明楽重夫	日本医科大学 女性診療科・産科

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
根本崇宏, 児島将康, 正木孝幸, 中尾一和, 久保千春, 中里雅光, 尾崎紀夫, 鈴木真理, 堀川玲子, 遠藤由香	生理学 (生体統御学)	分担	厚生労働省科研費補助金	中枢性摂食異常症に關する調査研究	小川佳宏	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子内分泌代謝学分野
根本崇宏, 芝崎 保	生理学 (生体統御学)	代表	喫煙科学研究財団助成金	妊娠前に母ラットあるいは父ラットへのニコチン投与により生じる出生時低体重の解析	根本崇宏	日本医科大学大学生理学 (生体統御科学)
根本崇宏, 芝崎 保	生理学 (生体統御学)	代表	成長科学協会研究助成金	低出生体重ラット仔にみられるGH受容体発現量低下へのGH受容体プロモーター領域のエピジェネティック修飾の解析	根本崇宏	日本医科大学大学生理学 (生体統御科学)
柿沼由彦, 有川幹彦, 佐藤隆幸	生理学 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心筋細胞ACh産生系制御による代謝調節の研究	柿沼由彦	日本医科大学大学院生体統御科学
柿沼由彦, 野口達也, 降幡睦夫, 佐藤隆幸	生理学 (生体統御学)	代表	喫煙科学研究財団 平成25年度助成	ニコチンによる虚血性・廃用性筋萎縮抑制効果についての基盤的研究	柿沼由彦	日本医科大学大学院生体統御科学
洲鎌秀永	生理学 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ノルアドレナリンによるミミクログリア活性化と退行性神経変性病態のメカニズム	洲鎌秀永	日本医科大学大学院生体統御科学
三宅弘一	生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)	代表	JSPS-NSF 国際化学 研究協力事業 (ICC プロジェクト) 科学研究費補助金 萌芽研究	好熱菌モデル酵素の金属クラスター電子構造に強く影響する周辺骨格領域の可視化	岩崎俊雄	
三宅弘一	生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	細胞増殖に關わる細菌型mitoNEETシステムの網羅的解析	岩崎俊雄	
三宅弘一	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	低フォスファターゼ症マウスを用いた先天性代謝異常常症の再生医療・細胞治療法の開発	飯島 修	
三宅弘一	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ダイヤモンド・ブラックファン症の新規分子病態の解明と治療法の開発	三宅弘一	
三宅弘一	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳神経変を標的としたリソソーム病の新規治療法 (遺伝子治療) の開発	三宅紀子	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
三宅弘一	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヒト病変および新規動物モデルを用いたリンパ球浸潤性の肺線維化病変の病態解明	寺崎泰弘	病理学 (解析人体病理学)
島田 隆	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	分担	独立行政法人成人教育医薬品等審査迅速化事業費補助金委託事業	革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業	小野寺雅史	
島田 隆	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	分担	厚生労働省科研費補助金	ライソゾーム病 (ファブリ病含む) に関する調査研究	衛藤義勝	
齋藤文仁, 永野昌俊, 坂井 敦	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	代表	科学研究費補助金	適正製造規範に適合する簡易精製が可能な次世代AAVベクターの開発	平井幸彦	
	薬理学	代表	科学研究費補助金	発達障害治療を指向した脳部位特異的ミクログリアにおけるmicroRNA機能解析	鈴木秀典	
	薬理学	代表	科学研究費補助金	神経障害性疼痛特異的microRNAクワスターの多角的解析	坂井 敦	
	薬理学	代表	科学研究費補助金	精神疾患のブレシナプスエフェノタイプとその発現機構の解析	小林克典	
	薬理学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	アルコロール依存症治療の可能性としてのNK1受容体拮抗薬が報酬機能に及ぼす効果	池田裕美子	
	薬理学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ADHD病態におけるシナプス機能異常の電気生理学的検討および治療薬の探索	佐藤寛栄	
永野昌俊	薬理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	硫化水素産生不全を伴う硫黄転移酵素ノックアウトマウスに関する網羅的研究	永原則之	基礎医学放射線同位元素研究室
永野昌俊	薬理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マイクロウェーブ照射による新しい脳損傷モデルの病態解析	布施 明	救急医学
鈴木秀典	薬理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	アミロイド分子イメーシングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出	大久保善朗	精神・行動医学
小林克典	薬理学	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業CREST	精神疾患の中間表現型「非成熟脳」の発生機序の解明と制御法の探索	宮川 剛	藤田保健衛生大学
鈴木秀典	薬理学	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業CREST	精神の表出系としての行動異常の総合的研究	内匠 透	理化学研究所
	薬理学	代表	ブレインサイエンス 振興財団	抗うつ作用を担う海馬神経可塑性の解析	小林克典	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	薬理学	代表	薬力学研究会	神経障害性疼痛に対する新規治療薬の探索	坂井 敦	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	間質性肺炎にあげる血管新生関連因子の機能解析と臨床応用	切刀しのぶ	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラット肝臓移植モデルにおける免疫寛容獲得の機序と抗炎症作用を用いた臨床応用	石井永一	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ANCA 関連腎炎の発症進展に関わる免疫ネットワークの解明とその制御	清水 章	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	多重染色 FACS を用いた腎組織病理診断に替わる糸球体腎炎の診断・病態解析法の確立	岩堀 徹	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヒト病変および新規動物モデルを用いたリンパ球浸潤性の肺線維化病変の病態解明	寺崎泰弘	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	プロスタグランドイン E2-腎局在樹状細胞による糸球体腎炎発症・進展制御機構の解明	永坂真也	
寺崎泰弘	病理学 (解析人体病理学)	分担	厚生労働省科学研究費補助金	びまん性肺疾患に関する調査研究	杉山幸比古	自治医科大学呼吸器内科
	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ナノ粒子により生成される DNA 損傷と変異誘発メカニズムの解析	石野孔祐	
	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	降膜癌幹細胞の同定と新たな治療への試み	内藤善哉	
	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	服薬コンプライアンスを改善する、患者に応じて見せる糖尿病シミュレーションモデル	工藤光洋	
内藤善哉, 工藤光洋, 安齋真一	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケラトアcantomas は良性腫瘍か：プロテオミクスを用いた不均質性の解明	安齋真一	武蔵小杉病院皮膚科
	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	平成25年度第9回香川大学医学部同窓会讃樹會研究助成金	幹細胞マーカー nestin のリン酸化制御の解明	松田陽子	
	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	降膜癌における Nestin のリン酸化制御による抗腫瘍効果の検討	松田陽子	
	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	microRNA による nestin 制御：降膜治療の臨床応用を目指した検討	石渡俊行	
	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	平成25年度金沢大学がん進展制御研究所共同研究	Nestin の制御による、降膜幹細胞および腫瘍新生血管に対する新たな治療戦略	松田陽子	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
田中信之, 工藤光洋, 彭 為霞, 古川文夫	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	子宮内膜癌における FGFR2IIc の 役割の解明及び新たな治療戦略の検 討	彭 為霞	
	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	特別研究員奨励費	特異的 Tenascin-C isoform を標的 とする癌治療に向けた研究	吉村久志	
	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表 分担	平成 25 年度喫煙科 学財団研究助成	タバコ抽出物によるびまん性肺胞傷 害における 2-deoxy-D-glucose の抑 制効果について	内藤善哉	統御機構病理学分野
	微生物学・免疫学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ランゲルハンス細胞活性化による新 たな免疫療法の開発	高橋秀実	日本医科大学
	微生物学・免疫学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	放射線照射による消化管樹状細胞の 活性化と卵白アルブミン特異的ア ルギー反応の誘導	若林あや子	日本医科大学
高橋秀実	微生物学・免疫学	分担	厚生労働省省科研費補 助金	HIV 感染症における免疫応答の解 析とその臨床応用に関する研究	岩本愛吉	東京大学
高橋秀実	微生物学・免疫学	分担	厚生労働省省科研費補 助金	日米医学協力を基軸とした HIV/ AIDS の研究とアジアとの連携	岩本愛吉	東京大学
高橋秀実	微生物学・免疫学	分担	平成 25-29 年度：私 立大学戦略的研究基 盤形成支援事業	再発癌における樹状細胞の解析とそ の活性化	弦間昭彦	日本医科大学
大塚俊昭, 稲垣弘文, 若山葉子, 勝又聖夫	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	職場勤務者のメタボリック症候群関 連指標とメメントアルヘルスに関する総 合的研究	川田智之	
稲垣弘文, 大塚俊昭, 勝又聖夫	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	喫煙科学研究財団	血管炎症指標、インスリン抵抗性、 抗動脈硬化指標と喫煙・勤務状況の 相互関係	川田智之	
川田智之	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	カーバメイト系農薬による免疫毒性 及びその機序	李 卿	千葉大学
李 卿	衛生学・公衆衛生学	分担	公益財団法人車両競 技公益資金記念財団	森林浴による健康増進等に関する調 査研究	宮崎良文	
川田智之	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 萌芽研究	サリン事件被害者の長期的な健康不 安の解析	勝又聖夫	
西山康裕, 稲垣弘文, 川田智之	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	メチルアルギニン誘導体とメタボ リック症候群発症リスクに関する職 域疫学研究	大塚俊昭	
川田智之, 稲垣弘文, 勝又聖夫	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	女性、特に妊産婦に対する POCT を 用いたインバクトのある継続的な禁 煙支援法の構築	平田紀美子	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
川田智之, 良 吾妻安, 弘 太, 稲垣弘 文, 平田幸 代	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ディーゼル排気粒子によるマウス肺 線維症病態への増悪作用の分子メカ ニズムの解明	李 英姫	東京理科大学
李 英姫	衛生学・公衆衛生学	分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	環境と次世代健康科学-疾患原因解 明と予防に向けた先進的研究	武田 健	東京理科大学
	衛生学・公衆衛生学	代表	医療経済研究機構研 究助成	低所得者への医療供給体制のあり方 に関する研究—受診抑制と治療中断 の改善に向けて—	可知悠子	
	衛生学・公衆衛生学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	非正規雇用の増加は健康と医療の格 差を拡大したのか—20年間の経時 的分析から	可知悠子	
山口晃志, 植草協子	法医学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	QTOF 質量分析装置を用いたベン ソジアゼピン系薬物分析法の新展開	林田真喜子	九州大学医学系研究科
林田真喜子	法医学	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	薬毒物スクリーニング時, 同時定量 法の開発	工藤恵子	九州大学医学系研究科
	法医学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	催眠薬代謝物の合成, 分析及び催眠 代謝に対する法医学的アプローチ	山口晃志	
平川慶子	法医学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	核磁気共鳴法を応用した敗血症重症 化早期診断の確立と新規治療ター ゲットの開拓	鈴木崇生	京都大学医学系研究科
	法医学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	高 KmADH3 の慢性 Alc 摂取下での Alc 代謝と Alc 性障害発症における 役割	長谷場健	
	法医学	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	NMR 技術を用いた死体髄液からの 頭蓋内傷病変の診断法の新規開発	平川慶子	
平川慶子	法医学	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	核磁気共鳴データを用いたパターンの 認識による解析を応用した身体的加 齢評価法の開発	大鶴 繁	京都大学医学系研究科
平川慶子	法医学	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	質量分析を用いた小児急性脳炎症の 早期鑑別診断法の開発	小池 薫	京都大学医学系研究科
大野曜吉, 平川慶子	法医学	分担	A-Step	高性能微量薬液注入装置の開発	浅野 健	千葉北総病院 小児科
	法医学	代表	アサヒグループホー ルアイイングス株式会 社 共同研究	飲酒量がアルコール代謝動態ならび にアルコール生理的変動の性差に及 ぼす影響 -ALDH2<SUP>* </ SUP>1/[*]>2 型 遺伝 子多型の場合	長谷場健	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
池田康夫, 武岡真司, 木下学, 丸山徹, 鈴木英紀, 鎌田徹治	医療管理学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	社会シミュレーション手法を用いた超高齢社会における保健医療計画・評価に関する研究	小塩篤史	
木下学, 佐藤俊一, 鈴木英紀, 武岡真司, 斎藤大蔵, 半田誠	基礎医学共同研究利用施設・形態解析共同研究施設	分担	厚生労働省科研費補助金	人工血小板/HL2 (ADP) リポソーム: 臨床研究への移行を目的とした品質管理と薬物試験	半田誠	慶應義塾大学医学部輸血・細胞療法センター
木下学, 佐藤俊一, 鈴木英紀, 武岡真司, 斎藤大蔵, 半田誠	基礎医学共同研究利用施設・形態解析共同研究施設	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	衝撃波に起因するびまん性肺出血の病態解明と止血制御対策	萩沢康介	防衛医科大学校医学教育部医学科専門課程
永野昌俊, 伊藤隆明	基礎医学共同研究利用施設・基礎医学放射線同位元素研究室	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	硫化水素産生不全を伴う硫黄転移酵素ノックアウトマウスに関する網羅的研究	永原則之	日本医科大学・基礎RI研究室
	内科学 (循環器内科学)・千葉北総病院循環器内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心血管バイオオマーカー・リンケージ解析と心血管疾患予防のための包括的治療戦略の構築	清野精彦	
	内科学 (循環器内科学)・千葉北総病院循環器内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	膜電位・細胞内カルシウム同時マッピングによる除細動後心室細動再発の機序解明	丸山光紀	
	内科学 (神経内科学)・付属病院神経内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	PETを用いたアデノシン受容体とパーキンソン病の不随意運動の関係について	三品雅洋	日本医科大学大学院医学分野
	内科学 (神経内科学)・付属病院神経内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	2型糖尿病合併症脳梗塞における虚血性細胞障害増悪のメカニズムの追求と新規治療の試み	桂研一郎	日本医科大学大学院医学分野
鶴岡秀一	内科学 (腎臓内科学)・付属病院腎臓内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	アニオン型尿毒症性物質群を除去するハイブリッド型人工腎臓の開発	鶴岡秀一	
鶴岡秀一	内科学 (腎臓内科学)・付属病院腎臓内科	分担	厚生労働省科研費補助金	慢性腎臓病の進行を促進する薬剤等による腎障害の早期診断法と治療法の開発	成田一衛	新潟大学腎臓内科
藤田恵美子	内科学 (腎臓内科学)・付属病院腎臓内科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	腎疾患における抗炎症性マクロファージの誘導と治療応用	藤田恵美子	
三井亜希子	内科学 (腎臓内科学)・付属病院腎臓内科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	造血幹細胞移植後の血栓性微小血管症の発症機序の解明	三井亜希子	
山口博樹	内科学 (血液内科学)・付属病院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助金	稀少小児遺伝性血液疾患の迅速な原因究明及び診断・治療法の開発に関する研究	小島勢二	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
山口博樹	内科学(血液内科学)・付属病院血液内科	分担	がん研究開発費	成人難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植療法の治療成績向上につながる基盤整備のための多施設共同研究	福田隆浩	
山口博樹	内科学(血液内科学)・付属病院血液内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	CAP1遺伝子変異による急性骨髄性白血病の発症や再発機序の解明	山口博樹	
坂本長逸	内科学(血液内科学)・付属病院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助金	血液免疫系細胞分化障害による疾患の診断と治療に関する調査研究	野々山恵章	日本医科大学 消化器内科学
坂本長逸	内科学(消化器内科学)・付属病院消化器・肝臓内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	慢性胃炎進展とシクロオキシゲナーゼ2遺伝子単塩基変異の役割	坂本長逸	日本医科大学 消化器内科学
坂本長逸	内科学(消化器内科学)・付属病院消化器・肝臓内科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	胃癌腹膜播種における間葉系幹細胞のホーミング分子機構とips gene発現の解析	二神生爾	日本医科大学 消化器内科学
長尾元嗣	内科学(内分泌代謝内科学)・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	新規モデルマウスを用いた高脂肪食誘導性耐糖能異常における疾患感受性規定因子の解明	長尾元嗣	
及川真一	内科学(内分泌代謝内科学)・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究(IDCS)	曾根博仁	新潟大学医学部・大学院医歯学総合研究科血液・内分泌・代謝内科学分野
及川真一	内科学(内分泌代謝内科学)・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	原発性高脂血症に関する調査研究	石橋 俊	自治医科大学内科学講座内分泌代謝学部門
江本直也	内科学(内分泌代謝内科学)・千葉北総病院内分泌内科	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	神経経済学的観点に基づく糖尿病患者の行動経済学的分析	江本直也	
江本直也	内科学(内分泌代謝内科学)・千葉北総病院内分泌内科	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	糖尿病地域医療連携コーディネーター養成プログラムの開発研究	小谷野肇	順天堂大学医学部
石井健男, 木田厚端, 弦間昭彦, 吾妻安良太	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表分担	日本医科大学若手研究者奨励費	変異MUC5Bの異常蓄積を介したオートファジーによる間質性肺炎の病態と治療可能性	國保成暁	附属病院呼吸器内科
石井健男	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	肺癌の特異的血清およびエクソソーム由来マイクロRNAの同定および個別化治療の応用	清家正博	
石井健男	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	オートファジーによる慢性閉塞性肺疾患の増悪メカニズムの検討	石井健男	
石井健男	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	Marfan型 COPD の遺伝子レベルから見たECMの動態と革新的治療に向けた研究	木田厚端	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
茂木 孝	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	災害時及び災害に備えた慢性閉塞性肺疾患等の生活習慣病患者の災害脆弱性に関する研究	木田厚瑞	
木田厚瑞	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	保険医療分野における基礎研究推進事業(独立行政法人医薬基盤研究所)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の増悪に対するグリコサミノグリカンをを用いた新規治療法の開発	谷口直之	独立行政法人 理化学研究所
勝俣範之	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	日本医科大学平成25年度若手研究奨励費	次世代シネンサーを用いた胸部悪性腫瘍の創薬バイオマーカー探索	宮永晃彦	付属病院呼吸器内科
勝俣範之	内科学(呼吸器内科学)・武蔵小杉病院腫瘍内科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	支持療法の開発と標準化のための研究	久保田馨	
勝俣範之	内科学(呼吸器内科学)・武蔵小杉病院腫瘍内科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	高感受性悪性腫瘍に対する標準治療確立のための他施設共同研究	飛内賢正	
岸 泰宏	内科学(呼吸器内科学)・武蔵小杉病院腫瘍内科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	充実したがんサバイバーシップの実現に資する多角的支援モデルの開発に関する研究	高橋 都	
鈴木秀典, 館野 周	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	トバミントランスポーターPETによる妄想の病態解明と客観的評価法の開発研究	館野 周	順天堂大学練馬病院
館野 周, 須原哲也, 樋口真人, 加藤元一, 高橋英彦	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	せん妄の治療, 予防, 医療安全に関する実証研究	八田耕太郎	
館野 周, 須原哲也, 樋口真人, 加藤元一, 高橋英彦	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	アミロイド分分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の放出	大久保善朗	
館野 周, 須原哲也, 樋口真人, 加藤元一, 高橋英彦	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	高齢者うつ病の病態診断と治療評価のためのイメージングバイオマーカーの開発と実用化 (H25-精神-実用化(精神)-一般-001)	大久保善朗	
鈴木秀典	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	日本アナンチドーピング機構	運動競技能力向上に向け知性薬が及ぼす影響に関するPETイメージング研究	大久保善朗	
鈴木秀典	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院産期・小児医療センター(小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	小児急性脳症において新規に発見したバイオマーカーの機能・神経病理学的探索	浅野 健	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科、小児外科、新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表		NMRを用いたうつ病と抗うつ薬の脳内代謝	浅野 健	
	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科、小児外科、新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表		平成24年独立行政法人科学技術振興機構第2回「研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）探索タイプ」高性能微量薬液注入装置の開発	浅野 健	
	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科、小児外科、新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表		自閉症モデルマウスに対する新規生理活性物質VFG peptideの脳内局在、発現変化と治療効果に関する検討	浅野 健	
	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科、小児外科、新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表		小児急性脳症患児髄液のNMR、MS解析	浅野 健	
早川 潤、植田高弘、前田美穂	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科、小児外科、新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表分担	公益財団法人がんの子どもを守る会治療研究助成	小児終末期医療における方針決定過程に関する研究	吉野美緒	
吉野美緒、重村朋子、松井 豊、高田治樹、榎本絵里、横田裕行	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科、小児外科、新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	明治安田こころの健康財団	病院前救急診療に伴う心的外傷ストレス軽減を目的とした事前教育の効果	増野智彦	日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野
村田 智	放射線医学・付属病院放射線科、放射線治療科	代表	科学研究費挑戦的萌芽研究	高温温熱灌流療法の開発に対する研究	村田 智	
村田 智	放射線医学・付属病院放射線科、放射線治療科	代表	科学研究費補助金基盤研究（B）	難治性癌がんに対する革新的灌流療法の開発と臨床応用に関する研究	村田 智	
小野澤志郎	放射線医学・付属病院放射線科、放射線治療科	代表	科学研究費補助金若手研究（B）	肝臓がんに対する門脈逆流式閉鎖循環下肝灌流療法の開発	小野澤志郎	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	細胞極性制御因子による皮膚幹細胞の維持機構	長田真一	
	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケラトアクトモミクスを用いた不均質性の解明	安齋真一	
	皮膚科学・武蔵小杉病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケラトアクトモミクスを用いた不均質性の解明	安齋真一	
吉田 寛	外科学(消化器外科)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	分担	厚生労働省科研費補助金	門脈血行異常症に関する調査研究	森安史典	東京医科大学
平方敦史	外科学(消化器外科)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	ミニブタ脳死ドナー臓器への一酸化炭素投与の移植臓器生着延長効果と臓器間の相違	平方敦史	日本医科大学医学部
五十嵐健人, 別所竜蔵	外科学(内分泌外科)・付属病院内分泌外科	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	ハセドウイルス患者における個別化医療実現のための基礎的研究	五十嵐健人	日本医科大内分泌科
渡邊嘉之, 廣本敦之	外科学(心臓血管外科)・付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	徐放化血小板血漿による血管新生療法の開発	栗田二郎	心臓血管外科
	外科学(心臓血管外科)・付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心房細動治療における心房間伝導調整の研究	坂本俊一郎	
	外科学(心臓血管外科)・武蔵小杉病院心臓血管外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	人工心肺中低頻度人工呼吸の肺保護効果の研究: 臨床応用と未熟肺への基礎的アプローチ	井村 肇	
	外科学(心臓血管外科)・武蔵小杉病院心臓血管外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	人工心肺中低頻度人工呼吸の肺保護効果の研究: 臨床応用と未熟肺への基礎的アプローチ (平成 24 年度)	井村 肇	
白田実男	外科学(呼吸器外科)・付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	中枢型肺がんに対する凍結融解療法を用いた新規内視鏡治療の開発	石角太一郎	日本医科大学 呼吸器外科
白田実男	外科学(呼吸器外科)・付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科	代表分担	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団	末梢小型肺癌に対する径気管支鏡下 Photodynamic Therapy を用いた新規内視鏡治療法の開発	石角太一郎	日本医科大学 呼吸器外科
石角太一郎	外科学(呼吸器外科)・付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科	代表分担	科学研究費補助金・基盤研究 C	末梢小型肺癌に対する次世代型気管支鏡治療の開発	白田実男	日本医科大学 呼吸器外科
田原重志	脳神経外科・付属病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	大磯ユタカ	名古屋大学大学院医学系研究科糖尿病・内分泌内科学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	医工学を用いた微小外科手術技術評価と効果的トレーニング法の開発	森田明夫	脳神経外科学
	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	下垂体腺腫におけるGremlinの発現と細胞内シグナルの解析に関する研究	吉田大蔵	脳神経外科学
太組一朗	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	悪性脳腫瘍に対する音響化学療法によるブレークスルー	山口文雄	脳神経外科学
喜多村孝幸	脳神経外科科学・武蔵小杉病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	水澤英洋	東京医科歯科大学神経内科
望月祐輔	脳神経外科科学・武蔵小杉病院整形外科学科・武蔵小杉病院整形外科学科・多摩永山病院整形外科学科・千葉北総病院整形外科学科	分担	厚生労働省科研費補助金	脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究	嘉山孝正	山形大学医学部脳神経外科
中井章人, 関口敦子, 日本産婦人科医学会 中井章人	整形外科学・付属病院整形外科学科・武蔵小杉病院整形外科学科・多摩永山病院整形外科学科・産科	代表	整形形災害外科学研究補助金	AADC5を用いたCol2a1のSox9結合部位に対するCRISPR/Cas9システムでのTarget CHIP法	望月祐輔	
	産婦人科学・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助金	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「人工妊娠中絶の地域格差に関する研究」	池田智明	3重大学医学部産婦人科 3重大学マザーホスピタル事業部
	産婦人科学・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助金	地域医療基盤開発推進研究事業「地域における産科医、小児科医の実態把握に関する研究」	海野信也	北里大学医学部産婦人科
	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	咽頭嚙動波は咽頭期嚙下の絶対的な基準となり得るか？	山口 智	日本医科大学武蔵小杉病院耳鼻咽喉科
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科	主任	厚生労働省科研費補助金	アレルギー疾患におけるダニ抗原標準化の研究	大久保公裕	日本医科大学医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野
	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	免疫療法による花粉症予防と免疫療法のガイドライン作成に向けた研究	岡本美孝	千葉大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科 頭頸部腫瘍科
五十嵐勉	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	siRNA技術を用いた遺伝子治療研究	五十嵐勉	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
堀 純子	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	眼内微小環境の恒常性維持の分子機構の解析と眼組織移植への応用	堀 純子	
白木喜尚	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表 分担	科学研究費補助金 萌芽研究	ヒトの創造過程における気づきの作用点と効果	小野眞史	
高橋永幸, 古, 鈴木友子	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	高浸透圧と自然免疫がドライアイに及ぼす影響と、それに基づく新たな予防・治療戦略	藤本千明	
高橋永幸, 古, 鈴木友子	眼科学・千葉北総病院眼科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	a 1-Syntrophin 欠損マウスを用いた視神経脊髄炎の病態解析	亀谷修平	
坂本篤裕	麻酔科学・付属病院麻酔科・ペインクリニック	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	体内遺伝子発現変動からみた全身麻酔の機序解明	坂本篤裕	日本医科大学大学院
竹田晋浩	麻酔科学・付属病院麻酔科・ペインクリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	厚生労働省新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態解析・診断・治療に関する研究	森島恒雄	岡山大学小児科
竹田晋浩	麻酔科学・付属病院麻酔科・ペインクリニック	主任	厚生労働省科研費補助金	厚生労働省科学特別研究事業新型インフルエンザ等を起因とするARDSに対するECMO療法の治療成績向上のためのシステム構築	竹田晋浩	日本医科大学麻酔科
	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	代表		平成25年度日本医科大学若手研究者奨励費	田上 隆	
	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	主任	厚生労働省科研費補助金	脳卒中や心筋梗塞に関する医療連携構築に関する研究	横田裕行	
横田裕行	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	効果的な熱中症予防のための医学的情報等の収集・評価体制構築に関する研究	三宅康史	昭和大学医学部

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
横田裕行	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究	坂本哲也	帝京大学医学部
横田裕行	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	救急医療体制の推進に関する研究	山本保博	東京臨海病院
横田裕行	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	改正法後の脳死下臓器提供におけるコーディネイネートに関する研究	小中節子	日本臓器移植ネットワーク
横田裕行	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	救急救命士の処置範囲に係る研究	野口 宏	藤田保健衛生大学医学部
増野智彦	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	新型コロナウイルス等を起因とする急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) に対する体外式膜型人工肺 (ECMO) 療法の治療成績向上の為にシステム構築	竹田晋浩	日本医科大学麻酔科学講座
	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究	トヨタ生産方式による外科・救急手術のオンゼンジョブトレーニングの確立に向けて	石井浩統	
	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	重症脳損傷における脳低温療法後の免疫機能	松本 学	
増野智彦, 塚本剛志, 横田裕行	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マウス腎虚血再灌流障害モデルにおける Egr-1 の役割	新井正徳	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
片山 映, 松田陽子, 横田裕行, 永野昌俊	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マイクロウェーブ照射による新しい脳損傷モデルの病態解析	布施 明	
増野智彦, 横田裕行	救急医学・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	急性腸間膜虚血の早期診断および救命率向上に向けた治療戦略の構築	金 史 英	
	救急医学・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	臓器提供に関する本人、家族意思を反映し得る脳死判定補助検査に関する研究	横田裕行	
増野智彦, 大泉 旭, 横田裕行	救急医学・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	骨軟部組織損傷後の臓器傷害発生メカニズムの検討	塚本剛志	
増野智彦, 塚本剛志, 新井正徳	救急医学・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	出血性ショック後臓器障害発生における軟部組織損傷の役割に関する研究	大泉 旭	
塚本剛志, 横田裕行, 新井正徳	救急医学・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ショック後腸管リンパ液生体活性および臓器障害に対する組織損傷の影響	増野智彦	
	救急医学・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	第44回(平成25年度)三菱財団社会福祉事業・研究助成	日本における「事件現場医療派遣チーム」の運用システムの確立、及び、啓発・普及に関する研究	布施 明	
	救急医学・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	平成25年度 日本救急医療財団 研究助成	病院前臨床診断におけるベイジアンネットワークの活用	布施 明	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
横田裕行, 松井 豊, 重村朋子, 吉野美緒, 市村美帆, 稲本絵里, 高田治樹, 川尻泰樹	救急医学・付属病院救命救急センター・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表 分担	明治安田ころの健康財団	病院前救急診療に伴う心的外傷ストレス軽減を目的とした事前教育の効果	増野智彦	
横堀将司	救急医学・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表 分担	(社)日本損害保健協会 交通事故医療特定課題研究助成	高齢者重症頭部外傷における進行性神経変性に対する抗加齢治療戦略の確立：血管内冷却法を用いた超早期導入脳低温療法の有効性と細胞外ハイオモナーカーによる高齢者に特化した治療値の検討	横田裕行	
本村友一	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	スマートフォンでの動画・音声伝送システムを用いた一般市民による救急通報に関する研究	本村友一	日本医科大学千葉北総病院救命救急センター
松本 尚, 本村友一	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	東日本大震災における疾病構造と死因に関する研究/ドクターヘリ運航動態監視システムに関する研究	松本 尚	日本医科大学千葉北総病院救命救急センター
松本 尚, 本村友一	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	自然災害による広域災害時における効果的な初期医療の確保及び改善に関する研究	松本 尚	日本医科大学千葉北総病院救命救急センター
八木貴典, 益子一樹, 安松比呂, 志原田浩, 明, 山口, 靖, 橋爪章, 仁, 高島義徳	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	体幹部外傷時の大量出血に対する超分子ゲルを用いた一時的止血効果に関する基礎的実験	松本 尚	日本医科大学千葉北総病院救命救急センター
大林 茂	リハビリテーション学・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳卒中後高次脳機能障害の皮質・皮質下相互作用による脳活動ガイド下介入治療	大林 茂	日本医科大学
原 行弘	リハビリテーション学・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳機能画像をもとにした二元的脳機能賦活戦略	原 行弘	日本医科大学医学研究科
	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院認知症センター 老人病研究所・病理部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケア学への提言一街ぐるみ認知症相談センターの実践から	野村俊明	日本医科大学 医療心理学教室
		代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケロイド発生における Wnt5a シグナル伝達機構の解明と分子標的治療への応用	ガジザデモ ハマッド	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
太田成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	新規水素発生素材の経口投与による水素分子の老年病と生活習慣病の予防効果	太田成男	大学院医学研究科
太田成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	放射線内部被曝による遺伝子損傷を水素が軽減する	太田成男	大学院医学研究科
上村尚美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	生体内酸化ストレスの定量的評価システムを用いた水素分子による糖尿病改善効果の解析	上村尚美	老人病研究所生化学部門
西楨貴代美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	水素分子による酸化ストレス防御機構と脳内レドックス動態の解析	西楨貴代美	老人病研究所生化学部門
横田 隆	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	水素水の網膜神経保護効果と酸化ストレスの定量的評価システムによる解析	横田 隆	老人病研究所分子生物学
Wolf A	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ミトコンドリア特異的1重項酸素消去による光老化の予防	Wolf A	老人病研究所生化学部門
太田成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省科研費補助金	ミトコンドリア脳筋症 MELAS 脳卒中様発作に対するタウリン療法の開発	砂田芳秀	川崎医科大学
太田成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省科研費補助金	ミトコンドリア病の診断と治療に関する調査研究	後藤雄一	国立精神・神経医療研究センター
太田成男	老人病研究所・生化学部門	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	グルココルチコイドは高強度運動による海馬での神経新生の増加を引き起こす要因か否か	三上俊夫	スポーツ科学
太田成男	老人病研究所・生化学部門	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	生体内酸化ストレスの定量的評価システムを用いた水素分子による糖尿病改善効果の解析	上村尚美	老人病研究所生化学部門
太田成男	老人病研究所・生化学部門	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	水素水の網膜神経保護効果と酸化ストレスの定量的評価システムによる解析	横田 隆	老人病研究所分子生物学
鈴木(豊高)由香	老人病研究所・疫学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	低タンパク質栄養によるアディポネクチン増加機構の解明とその生理的意義	鈴木由香	老人病研究所 疫学部門
	老人病研究所・疫学部門	分担	農林水産業・食品産業 科学技術研究推進 事業【シーズ創出 テーマJ】	アミノ酸シグナルを利用した高品質食資源の開発技術の確立	高橋伸一郎	東京大学大学院能楽生命科学研究科
石井健男	呼吸ケアクリニック	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	オートファジーによる慢性閉塞性肺疾患の増悪メカニズムの検討	石井健男	
石井健男	呼吸ケアクリニック	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	Marfan 型 COPD の遺伝子レベルから見た ECM の動態と革新的治療に向けた研究	木田厚瑞	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
木田厚瑞	呼吸ケアクリニック	分担	保険医療分野における基盤研究推進事業(独立行政法人 医薬基盤研究所)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の増悪に対するグリコサミノグリカンをを用いた新規治療法の開発	谷口直之	独立行政法人 理化学研究所
茂木 孝	呼吸ケアクリニック	主任分担	厚生労働省科研費補助金	災害時及び災害に備えた慢性閉塞性肺疾患等の生活習慣病患者の災害脆弱性に関する研究	木田厚瑞	
藤倉輝道	教育推進室	代表分担	科学研究費補助金(C)	医療面接実習において学生が行動変容を来たす模擬患者のフィードバック手法の特定	阿曾亮子	教育推進室
	学生部・学生相談室	代表	科学研究費補助金(C)	自己への思いやりの態度を育成強化させる心理教育的介入法の開発	鋤柄のぞみ	

6) 平成 25 年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
Gocho Y ¹⁾	(¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School)・薬理学	個人	Hiroshi and Aya Iri-sawa Memorial Award for Excellent Papers in the Journal of Physiological Sciences	Electrophysiological and pharmacological properties of GABAergic cells in the dorsal raphe nucleus	日本生理学会	2014	3
大塚俊昭	衛生学・公衆衛生学	個人	日本循環器病予防学会 Young Investigator's Award (優秀賞)	睡眠時間および睡眠による体感とメタボリックシンドローム発症リスク：職域男性コホートにおける検討	日本循環器病予防学会 (第 49 回)	2013	6
大塚俊昭	衛生学・公衆衛生学	個人	日本医科大学医学会 奨学賞	循環器疾患および生活習慣病予防医学におけるバイオマーカーアプローチ	日本医科大学医学会	2013	9
加藤活人	衛生学・公衆衛生学	個人	財団法人博慈会老人病研究所 先端推奨論文賞 臨床部門	Two-hour post-load plasma glucose levels are associated with carotid intima-media thickness in subjects with normal glucose tolerance. Diabet Med 2014; 31: 76-83	財団法人博慈会老人病研究所	2014	2
中村慶春 ¹⁾	(¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)・外科学(消化器外科学)・付属病院消化器外科, 一般外科, 移植外科	個人	第 25 回 肝胆脾外科学会：会長賞	Laparoscopic pancreaticoduodenectomy: our reliable techniques as a standardized operation		2013	6
Yamashita K	外科学(乳腺外科学)・付属病院乳腺科	個人	BSI Prize	Video-assisted breast surgery (VABS) brings better long-term results on early breast cancer patients	Breast Surgery International	2013	8
杉谷 巖	外科学(内分泌外科学)・付属病院内分泌外科	個人	日本内分泌外科学会賞		日本内分泌外科学会	2012	6
村井保夫	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	個人	第 22 回日本脳卒中の外科学会賞(鈴木賞)	撓胃動脈グラフトの基本	日本脳卒中の外科学会	2014	3
服部裕次郎	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	個人	トラベルアワード		第 40 回日本神経内分泌学会	2013	10
五十嵐勉	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	個人	日本医科大学医学会奨学賞	緑内障に対する神経保護因子を用いた遺伝子治療	日本医科大学医学会	2013	9

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
Suzuki H	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	個人	第67回日本臨床眼科学会学術展示優秀賞	網膜色素変性症例における色調変化時の羞明および前頭葉賦活化	公益財団法人日本眼科学会	2013	11
	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	個人	31st Film Festival Awards	A temperature in anterior chamber during phacoemulsification	AMERICAN SOCIETY OF CATARACT AND REFRACTIVE SURGERY	2013	4
亀谷修平, 後町清子, 菊地佐知子, 加部東武徳, 篠田啓, 溝田淳, 山木邦比古, 高橋浩	眼科学・千葉北総病院眼科	グループ	優秀発表賞	OPA1 遺伝子変異を持つ常染色体優性視神経萎縮6例(4家系)の補償光学眼底カメラによる解析	日本臨床視覚電気生理学会	2013	10
森 啓介 ¹⁾ , 松尾いずみ ¹⁾ , 飯島典夫 ²⁾ , 肥後心平 ²⁾ , 坂本篤裕 ¹⁾ , 小澤一史 ²⁾	(1)日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生物学分野, (2)日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生物学分野・麻酔科学・付属病院麻酔科・ペインクリニック	個人	優秀演題	セボフルレンによるマウス視交又上核の時計遺伝子mPer2発現抑制に関するエビジェネティクク解析	日本麻酔科学会(日本麻酔科学会第60回学術集会)	2013	5
岸川洋昭 ¹⁾ , 坂本篤裕 ²⁾	(1)日本医科大学麻酔科学教室, (2)日本医科大学大学院疼痛制御麻酔科学分野)・麻酔科学・付属病院麻酔科・ペインクリニック	個人	優秀演題	一酸化窒素による尿路感染症起因菌に対する抗菌効果およびバイオフィルム形成抑制効果の検討	日本麻酔科学会(日本麻酔科学会第60回学術集会)	2013	5
恩田秀賢	救急医学・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	個人	第三管区海上保安庁賞	感謝状	海上保安庁	2013	7
恩田秀賢	救急医学・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	個人	海上保安長官賞	感謝状	海上保安庁	2013	7

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
恩田秀賢	救急医学・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	個人	銀色有政表彰	銀色有政表彰	日本水難救済会	2013	6
新井正徳	救急医学・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	個人		感謝状	海上保安庁	2014	1
増野智彦	救急医学・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	個人		感謝状	海上保安庁	2014	1
萩原 純	救急医学・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	個人		感謝状	海上保安庁	2014	1
秋元正宇	形成外科学・千葉北総病院形成外科	個人	会長賞（最優秀ボスター）	力の可視化による創傷発生メカニズム、DTIの発生と深部にはたらく力の解明	日本創傷外科学会	2013	5
加藤あゆみ	付属病院付置施設等・付属病院薬剤部	個人	優秀学会賞	緩和ケアチームにおける薬剤師の役割：チームの特長を活かした薬物療法支援のためのステップアップ	日本緩和医療薬学会	2009	10
北村 伸 ^{1,2)} 、野村俊明 ^{3,2)} 、根本智美 ²⁾ 、稲垣千草 ²⁾ 、川西智也 ²⁾ 、佐藤貞夫 ²⁾ 、千代勝彦 ²⁾ 、本田啓二郎 ²⁾ 、湧口泰昌 ²⁾ 、井上志津子 ²⁾ 、長久美江子 ²⁾ 、並木香奈子 ²⁾	(1)日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター、 ²⁾ 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター、 ³⁾ 日本医科大学医療心理学)・武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院認知症センター	グループ	第9回日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞 奨励賞受賞	研究名はなし（認知症の早期発見、および認知症ケアの連携が講えられ、街ぐるみ認知症相談センターが団体として賞を受賞）	一般社団法人日本認知症ケア学会	2013	6

7) 平成 25 年度知的財産一覽 (特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
平川 慶子, 有福 和紀, 藤原 正子	法医学	NMR データの処理装置及び方法	特願 2011-95717 (2011/4/22)	特開 2011-141298 (2011/7/21)	特許第 5415476 号 (2013/11/22)	株式会社 JEOL RESONANCE, 学校法人日本医科大学
小池 薫, 平川 慶子, 大野 曜吉, 浅野 健, 森山 剛, 森川 秀行, 村木 秀樹	法医学	混合物試料の属性を識別する方法及び装置	特願 2012-157593 (2012/7/13)	特開 2014-020831 (2014/2/3)		京都大学, 日本医科大学, 東京工芸大学, 株式会社ユニフローズ
和田 啓男, 神野 清勝, 齋戸 美弘, 大野 曜吉, 林田 眞喜子	法医学	薬物の簡易分析方法	特願 2005-71452 (2005/3/14)	特開 2005-71452 (2005/9/21)	特許第 4669921 号 (2011/1/28)	信和化工株式会社, 国立大学法人豊橋技術科学大学, 学校法人日本医科大学
WADA HIROO (JP), JINNO KIYOKATSU (JP), SAITO YOSHIHIRO (JP), MAKIKO HAYASHIDA (JP)	法医学	METHOD OF SIMPLY ANALYZING A DRUG	国際出願番号 PCT/JP2006/305036 EP067290700 (2006/3/14)	EPI860435 (2007/11/28)	EP1860435 (2010/10/6)	SHINWA KAKO KK (JP), NAT UNIV CORP TOYOHASHI UNIV T (JP), NIP-PON MEDICAL SCHOOL FOUNDATION (JP)
WADA HIROO (JP), JINNO KIYOKATSU (JP), SAITO YOSHIHIRO (JP), MAKIKO HAYASHIDA (JP)	法医学	METHOD OF SIMPLY ANALYZING A DRUG	国際出願番号 PCT/JP2006/305036 AU2006223918 (2006/3/14)	AU2006223918 (2011/6/16)	AU2006223918 (2011/6/16)	SHINWA KAKO KK (JP), NAT UNIV CORP TOYOHASHI UNIV T (JP), NIP-PON MEDICAL SCHOOL FOUNDATION (JP)
WADA HIROO (JP), JINNO KIYOKATSU (JP), SAITO YOSHIHIRO (JP), MAKIKO HAYASHIDA (JP)	法医学	METHOD OF SIMPLY ANALYZING A DRUG	国際出願番号 PCT/JP2006/305036 NZ561372 (2006/3/14)	NZ561372	NZ561372 (2011/6/16)	SHINWA KAKO KK (JP), NAT UNIV CORP TOYOHASHI UNIV T (JP), NIP-PON MEDICAL SCHOOL FOUNDATION (JP)
猪口 孝一	内科学 (血液内科学)・付属病院血液内科	ヒト MLL/AF4 融合遺伝子導入トランスジェニック非ヒト動物	特願 2008-319606 (2008/12/16)	特開 2010-142130 (2010/7/1)	特許第 5403536 号 (2013/11/8)	猪口 孝一
安形 高志, 谷口 直之, 石井 健男, 木田 厚瑞	内科学 (呼吸器内科)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	慢性閉塞性肺疾患の増悪指標の検出方法	特願 2012-148787 (2012/7/2)	特開 2014-10117 (2014/1/20)		独立行政法人理化学研究所, 学校法人日本医科大学

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
小池 薫, 平川 慶子, 大野 曜吉, 浅野 健, 森山 剛, 森川 秀行, 村木 秀樹	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター (小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	混合物試料の属性を識別する方法及び装置	2012-157593 平成 24 年 7 月 13 日 (2012/7/13)			
海津聖彦, 水野雅子	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター (小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	発明の名称: ベッドの柵に装着するための保護カバー装置	特願 2010-292898 (2010/7/28)	特開 2012-139298 (2012/7/26)	特許第 5354550 号 (0025/09/06)	特許権者: 学校法人日本医科大学発明者: 海津聖彦, 水野雅子
原 行弘, 村岡慶裕, 山崎文敬, 日高芳智	リハビリテーション学・千葉北総病院リハビリテーション科	装着型電気刺激装置	特願 2009-155029 (2009/6/30)	特開 2011-010698 (2011/1/20)	特許第 5447802 号 (2014/1/10)	学校法人日本医科大学
安形 高志, 谷口 直之, 石井 健男, 木田 厚瑞	呼吸ケアクリニック	慢性閉塞性肺疾患の増悪指標の検出方法	特願 2012-148787 (2012/7/2)	特開 2014-10117 (2014/1/20)		独立行政法人理化学研究所, 学校法人日本医科大学

2. 動物実験実施状況

1) 平成25年度教室別動物実験実施予定者数および実験計画書(課題)数(平成25年4月～平成26年3月)

教室名	予定者数	受講者数	課題数	報告書数	科名	予定者数	受講者数	課題数	報告書数	科・部門・教室名	予定者数	受講者数	課題数	報告書数
[基礎部門]														
分子解剖学	12	11	4	4	循環器内科学	6	8	1	0	[武蔵小杉病院]	0	1	4	4
解剖学・神経生物学	18	16	18	15	神経内科学	10	9	10	10	内分泌科	3	3	1	1
感覚情報科学	12	12	5	5	血液内科学	0	6	0	0	血管内・ 低侵襲治療センター	2	0	1	0
生体統御科学	7	10	10	7	消化器内科学	0	4	1	1	呼吸器外科	1	0	0	0
代謝・栄養学	14	13	3	0	内分泌糖尿病	9	9	2	1	眼科	1	1	0	0
分子遺伝医学	22	18	2	0	代謝内科学	13	8	7	1	小児科	7	5	6	5
薬理学	21	18	7	7	呼吸器内科学	5	4	2	1	小計	0	1	1	1
解析人体病理学	12	12	11	8	小児・思春期医学	8	8	0	0	[多摩永山病院]	5	2	0	0
統御機構病理学	9	8	9	7	皮膚粘膜病態学	13	14	4	4	小児科	2	1	0	0
微生物学・免疫学	18	18	12	7	疼痛制御麻酔科学	7	7	3	3	救命救命センター	1	1	1	1
衛生学公衆衛生学	9	9	2	2	臨床放射線医学	5	8	0	0	眼科	8	5	2	2
法医学	12	9	11	10	消化器外科学	11	5	2	1	耳鼻科	2	1	1	1
形態解析共同研究施設	0	3	0	0	心臓血管外科学	11	11	2	0	小計	4	6	1	1
実験動物管理室	15	15	5	5	脳神経外科学	18	6	4	4	[千葉北総病院]	4	3	1	1
基礎RI研究室	2	1	1	0	眼科学	7	1	0	0	循環器内科	0	3	1	1
小計	183	173	100	77	頭頸部・感覚器科学	5	6	0	0	救命救命センター	6	10	3	2
					女性生殖発達病態学	0	0	0	0	脳神経外科	7	3	1	1
					リウマチ科	4	9	7	7	小計	14	13	10	10
					形成再生再生医学	2	2	1	1	[老人病研究所]	12	11	9	8
					整形外科学	11	11	6	4	病理学	8	8	5	4
					救命医学	0	1	0	0	生化学	3	3	3	3
					ワクチン療法	2	3	0	0	免疫学	3	3	3	0
					生命科学研究センター	147	140	52	38	疫学	6	6	6	3
					小計	398	374	194	150	小計	41	35	25	23
実験予定者の合計	398	374	194	150						[武蔵境(新丸子)校舎]	3	3	3	3
講習会受講者数の合計	374	374	194	150						生物学	3	3	3	3
課題数の合計	194	194	194	150						スポーツ科学	3	3	3	0
報告書数の合計	150	150	150	150						小計	6	6	6	3

使用動物数

動物種別	マウス	ラット	ウサギ	モルモット	ハムスター	イヌ	ブタ	カエル	ウマ	サル	魚
使用数	20,962	7,157	45	14	108	4	3	895	0	0	0

2) 平成 25 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率（ケージ数を基に算出（％））

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	41.0	41.0	51.3	44.8	52.6	57.4	58.1	55.2	54.8	64.5	66.8	72.3	55.0
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	58.3	57.5	59.2	61.7	67.5	70.8	74.2	75.0	70.0	59.2	60.0	61.7	64.6
	P1A クリーン動物飼育室	27.2	27.8	30.0	30.6	28.4	30.9	32.5	32.6	28.9	27.2	28.1	24.1	29.0
	SPF 動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
モルモット ウサギ イヌ・ブタ 魚	P1A クリーン動物飼育室	50.0	55.4	55.4	48.6	41.9	33.1	34.5	35.1	39.9	34.5	34.5	35.8	41.6
	クリーン動物飼育室	0.0	0.0	0.0	41.7	25.0	20.8	20.8	20.8	20.8	0.0	0.0	0.0	12.5
	0.0	6.7	6.7	10.0	6.7	10.0	10.0	10.0	30.0	36.7	10.0	10.0	10.0	12.2
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	86.3	86.3	91.1	86.5	81.7	82.7	80.5	75.8	75.8	74.0	72.9	71.7	80.4
	P3A 感染動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	68.1	61.9	68.6	81.0	76.2	84.3	83.8	80.0	80.0	76.2	69.5	68.1	74.8
	P1A クリーン動物飼育室	81.4	71.0	78.1	78.6	84.3	82.4	75.2	84.8	83.3	79.5	81.0	81.9	80.1
ラット	SPF 動物飼育室	87.3	81.3	88.7	78.0	88.7	86.7	74.7	84.0	77.3	86.0	98.7	78.7	84.2
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	P1A クリーン動物飼育室	23.6	27.8	20.0	20.3	26.7	27.5	26.9	25.0	22.8	24.4	23.1	20.8	24.1
ウサギ・モルモット	P1A クリーン動物飼育室	1.7	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8

3) 平成 25 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	189	82	100	160	252	142	178	144	131	137	145	107	1,767
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	23	22	36	49	31	24	27	5	14	10	8	249
	P1A クリーン動物飼育室	191	261	226	374	280	209	297	239	216	234	260	375	3,162
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	187	125	116	206	75	77	119	142	65	130	109	89	1,440
モルモット		0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
ウサギ		3	1	2	4	2	0	8	11	3	1	0	0	35
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3
ブタ		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	547	550	462	436	455	448	487	336	278	507	371	325	5,202
	P3A 感染動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	94	164	98	83	135	98	89	79	71	45	69	48	1,073
	P1A クリーン動物飼育室	293	161	195	207	151	325	313	187	146	177	179	229	2,563
ラット	SPF 動物飼育室	88	46	98	157	95	70	86	84	116	110	110	68	1,128
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	76	57	60	126	132	60	101	55	91	85	76	118	1,037
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	1	14	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
モルモット		1	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

4) 平成 25 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	93	46	134	134	135	201	128	172	59	67	53	103	1,325
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	14	2	14	79	22	22	17	15	52	22	12	18	289
	P1A クリーン動物飼育室	142	262	186	320	252	313	324	306	271	241	322	204	3,143
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	127	121	134	197	135	73	144	94	113	147	73	103	1,461
モルモット		0	0	0	4	1	0	0	0	1	4	0	0	10
ウサギ		1	1	1	4	2	0	2	9	9	3	0	0	32
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
ブタ		0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	545	456	422	507	413	467	564	373	364	518	480	367	5,476
	P3A 感染動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	105	114	68	20	107	83	91	125	76	83	67	148	1,087
	P1A クリーン動物飼育室	222	205	171	207	218	184	244	176	168	217	198	167	2,377
ラット	SPF 動物飼育室	105	58	132	132	99	87	86	98	106	69	158	58	1,188
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	84	76	76	64	97	102	119	107	57	83	84	103	1,052
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	1	15	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	30
モルモット		1	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8

5) 平成 25 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	9,396	11,661	10,698	11,320	13,471	13,606	14,117	13,873	12,327	20,515	18,303	20,110	169,397
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	5,171	5,634	5,692	6,370	7,067	7,059	7,735	7,643	5,776	7,650	5,584	6,287	77,668
	P1A クリーン動物飼育室	19,559	24,311	19,474	21,503	22,773	29,665	2,017	20,962	16,272	24,888	15,957	21,744	239,125
	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ラット	P1A クリーン動物飼育室	4,311	5,255	4,893	4,265	3,630	3,012	3,523	3,311	2,453	2,750	2,245	2,948	42,596
モルモット	ウサギ	0	0	200	252	163	150	155	150	118	64	0	0	1,252
	イス	13	66	83	91	90	90	150	306	267	120	84	93	1,453
	ブタ	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	4
	魚	0	0	0	11	1	0	0	0	0	0	0	0	12

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
マウス	SPF 動物飼育室	45,731	48,543	48,113	49,279	48,499	46,276	48,151	43,130	35,516	49,705	31,504	37,915	532,362	
	P3A 感染動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	8,381	8,927	10,202	11,160	11,292	11,626	12,388	11,156	11,156	8,229	12,121	8,637	8,431	122,550
	P1A クリーン動物飼育室	14,370	12,445	12,620	14,355	15,699	15,757	16,061	17,475	14,170	14,170	19,737	14,465	15,585	182,739
ラット	SPF 動物飼育室	11,111	11,101	10,067	10,021	10,083	9,894	8,937	9,224	7,418	12,056	9,172	9,628	118,712	
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	P1A クリーン動物飼育室	5,877	5,382	4,673	4,719	7,213	6,834	6,212	5,304	4,516	6,548	4,653	5,168	67,099	
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	36	580	78	6	0	0	0	0	0	0	0	0	700	
	モルモット	6	24	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	37	

あ と が き

日本における医学・医療研究はここに来て大きな過渡期を迎えているように思います。もともと日本の研究レベルは世界的に見ても高い訳ですが、それをより臨床に役立てるべく、またより世界への発信力を増すべく、国を挙げて取り組む姿勢が見えてきました。日本版NIHとも言われる日本医療研究開発機構の発足はその代表的事象でしょう。厚生労働、経済産業、文部科学などの垣根を越えた事業の先行きはまだ見えませんが、これからの医学・医療研究に及ぼす影響は極めて大きいものがあると予想されます。また、病院レベルに目を向ければ、具体的な予算集中方針の現れである臨床研究中核病院整備事業もそういった流れに沿ったものと言えましょう。いずれにしろ、世界での競争に打ち勝つために、より具体的な成果が求められる時代が来たということでしょう。では同時に、研究者は積極的に自由にどんどん研究しなさいという雰囲気も作られたかといえば決してそうではありません。むしろ、研究者に求められるコンプライアンスの要件は厳しくなる一方です。規定に反する研究費の使用は論外ですが、些細なルール違反でも厳しく目をつけられるようになることは間違いのないようです。本学の研究者にお願いしたいことは、研究を大いにやって頂きたい、ただし研究費に関してルール上不明瞭な点は研究推進部に常に確認して頂きたいということになりましょうか。

さて、2013年度の業績は、論文数、科研費取得件数などいずれも2012年度をやや下回ったもの。ここ数年の漸増傾向を変えるほどではないというところです。科研費に関する若手向けのアカデミックアドバイスの希望者も大いに増えており、本学の研究マインドは決して衰えていません。新しい大学院教授も増え、千駄木地区の研究環境整備もこれから進むことと思います。今後も研究者諸氏の大きいなるご活躍を期待致します。

平成 26 年 11 月

研究部委員会・研究部長 高橋 浩

平成27年 1 月 15 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学
研 究 部 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL 03 (3822) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10

TEL 03 (3910) 4 3 1 1-5